

吹田市・摂津市

吹田操車場遺跡 10・明和池遺跡 3

北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業 埋蔵文化財発掘調査報告書

〔本文編〕

序 文

吹田操車場遺跡・明和池遺跡は、大阪府北部、淀川北岸の吹田市・摂津市に所在します。JR京都線吹田駅から岸辺・千里丘駅間にかけて、かつて「東洋一の操車場」と称された、大正12年に操業を開始し昭和59年にその役割を終えた旧国鉄吹田操車場を中心に広がる遺跡になります。

私たち大阪府文化財センターは、平成10年より両遺跡の調査を担って参りました。これまでに9冊に上る報告書を刊行し、重要な成果を蓄積しております。

このたびの報告書は、北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業に伴って、平成21年度から平成24年度まで行われた発掘調査の成果になります。収載した内容をご覧いただければ、我々が日常の生活を送る足下に、どれほど豊かな歴史が埋もれているのか、ご理解いただけるのではないのでしょうか。

吹田市・摂津市は操車場跡地の北西側に「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点の創出」を目指したまちづくり計画の策定を進めているところであり、向後街の様子も大きく変わることでしょう。しかし、この地に刻まれた歴史は変わることはありません。これまでの調査成果を、吹田市・摂津市のみならず多くの地域で活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査及び整理作業の実施にあたり、独立行政法人都市再生機構西日本支社北大阪都市再生事務所、大阪府教育委員会、吹田市教育委員会、摂津市教育委員会をはじめとする関係各位の多大なご協力を賜りました。衷心より感謝いたします。

今後とも、埋蔵文化財調査へのご理解とご協力、またご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年7月

公益財団法人 大阪府文化財センター
理事長 田邊 征夫

例 言

1. 本書は、大阪府吹田市芝田町に所在する吹田操車場遺跡ならびに大阪府摂津市千里丘4丁目・7丁目
に所在する明和池遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査は、北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業に伴い、独立行政法人都市再生機構
西日本支社より委託を受け、大阪府教育委員会の指導の下、公益財団法人大阪府文化財センターが実施し
た。現地調査は、平成21年度～平成24年度にかけて、年度ごとに委託契約を締結し行った。整理作業は、
一部現地調査と並行して平成23年度～平成25年度に行い、平成26年7月31日に本書刊行を以って完了
した。

3. 調査および整理に関する受託名称・調査名称・受託期間・調査体制は、以下の通りである。

[平成21年度]

受託名称：平成21年度北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査

調査名称：吹田操車場遺跡09-3

受託期間：平成21年10月1日～平成22年3月31日

調査体制：調査部長兼調査課長 福田英人、調整グループ長 金光正裕、調査グループ長 寺川史郎、
主査（中部総括） 秋山浩三、技師 鹿野 壘

[平成22年度]

受託名称：吹田操車場跡地地区 平成22年度埋蔵文化財発掘調査

調査名称：吹田操車場遺跡10-2・明和池遺跡10-1

受託期間：平成22年6月1日～平成23年3月31日

調査体制：調査部長兼調査課長 福田英人、調整グループ長 江浦 洋、調整グループ主幹 岡本茂史、
調査グループ長 岡戸哲紀、主査（中部総括） 秋山浩三、技師 橋本 哲・鹿野 壘、
専門調査員 櫻田小百合（平成22年7月1日～10月31日まで）

[平成23年度]

受託名称：吹田操車場跡地地区 平成23年度埋蔵文化財発掘調査

調査名称：吹田操車場遺跡11-1・明和池遺跡11-1

受託期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

調査体制：調査課長 江浦 洋、調整グループ長 岡本茂史、調査グループ長 岡戸哲紀、
主査（中部総括） 秋山浩三、主査 陣内暢子、副主査 後川恵太郎（平成23年7月31日ま
で）・奥村茂輝（平成23年8月1日～12月31日まで）、技師 鹿野 壘・奈良拓弥・笹栗 拓
（平成23年6月30日まで）

[平成24年度]

受託名称：吹田操車場跡地地区 平成24年度埋蔵文化財発掘調査（その1）

調査名称：吹田操車場遺跡12-1・明和池遺跡12-1

受託期間：平成24年4月2日～平成24年4月30日

調査体制：調査部長 江浦 洋、調整課長 岡本茂史、調査課長 岡戸哲紀、主査（中部総括） 秋山浩三、
主査 陣内暢子・後藤信義、技師 鹿野 壘

受託名称：吹田操車場跡地地区 平成24年度埋蔵文化財発掘調査（その2）

調査名称：吹田操車場遺跡12-1・明和池遺跡12-1

受託期間：平成24年4月9日～平成25年3月29日

調査体制：調査部長 江浦 洋、調整課長 岡本茂史、調査課長 岡戸哲紀、
主査（中部総括） 秋山浩三、主査 陣内暢子・後藤信義、副主査 三宮昌弘（平成25年2月
1日～）・廣瀬時習（平成25年1月1日～1月31日まで）、技師 鹿野 壘・新海正博（平成
24年11月1日～12月31日まで）、専門調査員 松本吉弘（平成24年8月1日～）

〔平成 25 年度〕

受託名称：吹田操車場跡地地区 平成 25 年度埋蔵文化財遺物整理業務

受託期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

調査体制：事務局次長 江浦 洋、調整課長 岡本茂史、調査課長 岡戸哲紀、調査第二課長補佐 市本芳三、主査 陣内暢子・後藤信義（平成 25 年 6 月まで）、副主査 鹿野 壘、写真室専門調査員 片山彰一、保存室専門調査員 山口誠治

なお、平成 21 年度の調査においては吹田市教育委員会賀納章雄氏、平成 22～24 年度の調査においては摂津市教育委員会西川麻野氏の参加・協力を得た。

4. 現地調査の写真撮影は調査担当者が、遺物写真撮影は写真室が、木製品の樹種同定・骨の鑑定・種実同定・石材鑑定は保存室が行った。

5. 発掘調査および整理事業の過程で、以下の方々ならびに諸機関にご指導・ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい（敬称略）。

岡本敏行・竹原伸次・山上 弘（大阪府教育委員会）、賀納章雄・西本安秀・堀口健二・増田真木（吹田市教育委員会）、伊部貴雄・西川麻野（摂津市教育委員会）、趙哲済（大阪文化財研究所）、森村健一（堺市立泉北すえむら資料館）、大野 薫、独立行政法人都市再生機構西日本支社北大阪都市再生事務所、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構国鉄清算事業団西日本支社吹田事務所、日本貨物鉄道株式会社吹田信号場駅

6. 発掘調査・整理事業において、以下の機関に分析を委託した。

平成 22 年度 花粉・珪藻・植物珪酸体分析：株式会社古環境研究所、平成 23 年度 花粉・珪藻分析：文化財調査コンサルタント株式会社、平成 25 年度 金属学的分析：株式会社パレオ・ラボ、平成 25 年度 胎土分析：パリノ・サーヴェイ株式会社

7. 本書の作成に当たっては、非常勤職員及び陣内・後藤・鹿野が担当し、第 1～4 章・第 6・7・9 章は陣内の協力の下に鹿野が、第 5 章は後藤が、掲載遺物一覧表は陣内がそれぞれ執筆し、編集は鹿野が行った。また、第 8 章の第 2 節は株式会社古環境研究所、第 3 節は文化財調査コンサルタント株式会社、第 4 節は株式会社パレオ・ラボ、第 5 節はパリノ・サーヴェイ株式会社が執筆した。なお、吹田操車場遺跡については西地区と東地区に任意に分けて報告する。また、「第 1 章 第 2 節 歴史的環境」については、これまでの調査と変わるものではないため、当センター発行の吹田操車場遺跡・明和池遺跡に関する既刊の発掘調査報告書から引用し、一部加筆修正したものである。

8. 本書に関わる吹田操車場遺跡についての写真・実測図などの記録類・出土遺物は吹田市教育委員会、また、明和池遺跡についての写真・実測図などの記録類・出土遺物は摂津市教育委員会において保管している。広く活用されることを希望する。

凡 例

1. 遺構図及び断面図に示した標高は、東京湾平均海面（T.P.）を使用している。図中の標高は、すべて東京湾平均海面（T.P.）からのプラス値であり、T.P.+は省略した。
2. 座標値は世界測地系（測地成果 2000）による平面直角座標系第Ⅵ系に基づき表示し、単位はすべてmである。
3. 全体図及び遺構実測図の方位は、いずれも国土座標軸第Ⅵ系の座標北を示す。
4. 現地調査及び遺物整理に際しては、当センターの『遺跡調査基本マニュアル』2010 に準拠した。
5. 土層断面図の土色は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2006 年度版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。土質については、調査時のものをそのまま使用した。調査担当者によって表記の仕方が異なっていたが、あえて統一はしていない。
6. 遺構番号は、調査年度によって遺跡ごとに付した。遺構番号－遺構名とし、複数の遺構の集合体である竪穴建物や掘立柱建物は、それとは別に遺構番号を付した。整理作業では、基本的に調査時の遺構番号をそのまま使用することとしたが、結果的に4ヵ年度に亘る調査となったため、一部重複する遺構番号が生じる事態となった。そのため、遺構番号にアルファベットを付すことで、その問題に対処したものがあつた。その具体及び遺構番号の整理については、第3章に詳述した。
(例：「10001 溝」、「B2006 井戸」、「竪穴建物 1」、「掘立柱建物 1」)
7. 遺構図における断面位置は、図面上に「ㄥ→」によって示した。なお、遺構が密集している箇所では図面が煩雑になるため、「ㄥ→」は示さず、断面図に方位を記入している。
8. 遺物実測図の縮尺は、4分の1を基本とするが、土製品3分の1に、瓦6分の1に、石製品3分の2・2分の1・3分の1に、金属製品2分の1・3分の1に、木製品3分の1・6分の1・8分の1・10分の1・15分の1としたものがある。各図面にはスケールを付しているので参照されたい。また、写真図版の遺物の縮尺は任意である。石製品・金属製品・木製品については写真図版に縮尺を示した。
9. 遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りで表現し、その他を白抜きとした。口縁（又は底部）が6分の1未満残存のものは、口縁（又は底部）の線を切って表現した。
10. 土器表面に付着した赤色顔料・炭化・灰釉はアミフセ10%で、緑釉陶器の釉の濃淡はアミフセ10%と20%で、墨書・墨画は鉛筆トレースで、漆器は朱色アミフセ10%・黒色アミフセ20%で表現している。図の横にそれぞれ何を表すかを文字で示した。図上復元できない土器の小片は「内面 - 断面 - 外面」と配置した。打製石器の新欠部分は黒塗りとした。
11. 遺物番号の横に緑釉陶器は緑釉、灰釉陶器は灰釉、黒色土器A類・B類はそれぞれ黒A・黒B、瓦器は瓦器、瓦質土器は瓦質、瓦は瓦、土製品は土、磁器の白磁・青磁はそれぞれ白磁・青磁、陶器は陶、埴輪は埴、製塩土器は製塩、埴は埴、石製品は石、金属製品は金、木製品は木と記した。

12. 掲載遺物は、遺跡ごとに通し番号を付し、本文・挿図・写真図版・一覧表ともに一致する。

吹田操車場遺跡の遺物：1～712・明和池遺跡の遺物：1～1513

13. 本書を作成するにあたり、以下のものを引用および参照した。

(縄文時代)

泉 拓良 1989「近畿地方の縄文土器」『第7回近畿地方埋蔵文化財研究会資料』(財)大阪文化財センター

(弥生時代)

寺沢 薫・森岡秀人編 1990『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅱ』木耳社

(財)大阪府文化財センター 2003『古墳出現期の土師器と実年代 シンポジウム資料』

(財)大阪府文化財センター 2006『古式土師器の年代学』

なお、今回の報告では庄内式期を弥生時代後期後半に含めた。

(古墳時代)

中村 浩編 1978「和泉陶邑出土遺物の時期編年」『陶邑Ⅲ』大阪府教育委員会

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

大阪府立近つ飛鳥博物館 2006『年代のものさし—陶邑の須恵器—』

辻 美紀 1999「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室

中野 咲 2010「古墳時代中・後期における奈良盆地の土師器編年とその特質」榎原考古学研究所紀要『考古学論考』第33冊

川西宏幸 1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号

東影 悠 2008「古墳時代中期から後期における円筒埴輪の規格とその変質—円筒埴輪の4条突帯5段構成化—」『待兼山遺跡Ⅳ』大阪大学埋蔵文化財調査委員会

(古代)

古代の土器研究会編 1992『古代の土器1 都城の土器集成』

古代の土器研究会編 1993『古代の土器2 都城の土器集成Ⅱ』

古代の土器研究会編 1994『古代の土器3 都城の土器集成Ⅲ』

積山 洋 1993「律令制期の製塩土器と塩の流通 - 摂河泉出土資料を中心に - 」『ヒストリア』第141号 大阪歴史学会

奈良国立文化財研究所 1993『平城京発掘調査報告書XⅣ』

(財)古代学協会・古代学研究所編 1994『平安京提要』角川書店

(中世)

中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

縄文土器の一部は大野 薫氏、陶磁器は一部を除き森村健一氏(堺市立泉北すえむら資料館)にご教示いただいた。

本文目次

〔本文編〕

序文

例言

凡例

本文目次

挿図目次

表目次

写真目次

第1章 遺跡の位置・環境

- 第1節 位置・地理的環境 1
- 第2節 歴史的環境 1

第2章 調査に至る経緯・経過 7

第3章 調査・整理の方法

- 第1節 発掘調査 10
- 第2節 整理作業 16

第4章 既往調査区の成果 19

第5章 吹田操車場遺跡 西地区の調査成果

- 第1節 基本層序 26
- 第2節 古代以前の遺構・遺物 38
 - 1. 12-1:16-1区 2. 12-1:16-2区 3. 12-1:16-3区 4. 12-1:17区
- 第3節 中世以降の遺構・遺物 50
 - 1. 12-1:16-1区 2. 12-1:16-3区 3. 12-1:16区包含層出土遺物 4. 12-1:20区
 - 5. 12-1:19区 6. 12-1:15区 7. 12-1:17区
- 第4節 小結 72

第6章 吹田操車場遺跡 東地区の調査成果

- 第1節 基本層序 74
- 第2節 弥生時代以前の遺構・遺物 87
 - 1. 溝 2. 落込み 3. 流路 4. 谷 5. 包含層その他出土遺物
- 第3節 古墳時代の遺構・遺物 97
 - 1. 群集土坑 2. 溝 3. 落込み 4. 包含層その他出土遺物
- 第4節 古代の遺構・遺物 145
 - 1. 掘立柱建物 2. 井戸 3. 土坑 4. ピット 5. 溝 6. 落込み 7. 畦畔
 - 8. 包含層その他出土遺物
- 第5節 中世以降の遺構・遺物 202
 - 1. 掘立柱建物 2. 土坑 3. 溝 4. 池 5. 鋤溝 6. 包含層その他出土遺物
- 第6節 小結 206

| | |
|---|-----|
| 第7章 明和池遺跡の調査成果 | |
| 第1節 基本層序 | 208 |
| 第2節 弥生時代以前の遺構・遺物 | 216 |
| 第1項 縄文時代の遺物 | |
| 第2項 弥生時代の遺構・遺物 | |
| 1. 竪穴建物 2. 掘立柱建物 3. 土坑 4. 溝 5. 落込み 6. 流路 | |
| 7. その他遺構 8. 包含層その他出土遺物 | |
| 第3節 古墳時代の遺構・遺物 | 301 |
| 1. 掘立柱建物 2. 井戸 3. 土坑 4. ピット 5. 溝 6. 落込み 7. 流路 | |
| 8. その他遺構 9. 包含層その他出土遺物 | |
| 第4節 古代の遺構・遺物 | 348 |
| 1. 掘立柱建物 2. 井戸 3. 土坑 4. ピット 5. 溝 6. 流路 | |
| 7. 包含層その他出土遺物 | |
| 第5節 中世以降の遺構・遺物 | 385 |
| 1. 掘立柱建物 2. 井戸 3. 土坑 4. ピット 5. 溝 6. 落込み 7. 流路 8. 鋤溝 | |
| 9. 包含層その他出土遺物 | |
| 第6節 小結 | 403 |
| 第8章 自然科学分析報告 | |
| 第1節 分析の目的と概要 | 405 |
| 第2節 吹田操車場遺跡 10-2:2-1-2 区における植物珪酸体・花粉・珪藻分析 | 406 |
| 第3節 吹田操車場遺跡 11-1 調査における花粉・珪藻分析 | 416 |
| 第4節 明和池遺跡 11-1:8-2 区出土埴埴付着物の成分分析 | 430 |
| 第5節 吹田操車場遺跡検出群集土坑周辺粘土と明和池遺跡出土須恵器の胎土分析 | 432 |
| 第9章 総括 | 450 |

付表 掲載遺物観察表（吹田操車場遺跡（1）～（19）・明和池遺跡（1）～（47））

〔写真図版編〕

写真図版目次

原色写真図版 1～10

写真図版 1～191

挿図目次

- 図1 調査位置（1）
- 図2 調査位置（2）
- 図3 周辺地質図
- 図4 遺跡分布図
- 図5 調査区配置図
- 図6 地区割図
- 図7 吹田操車場遺跡 西地区 地区割図
- 図8 吹田操車場遺跡 東地区 地区割図
- 図9 明和池遺跡 地区割図
- 図10 吹田操車場遺跡 既往調査区位置（西地区周辺）
- 図11 吹田操車場遺跡 既往調査区位置（東地区周辺）
- 図12 明和池遺跡 既往調査区位置
- 図13 吹田操車場遺跡 西地区 調査区位置図
- 図14 吹田操車場遺跡 西地区 柱状断面模式図
- 図15 12-1:16-2区 北壁断面図
- 図16 12-1:16-3区 北壁断面図
- 図17 12-1:20区 西壁断面図
- 図18 12-1:15区 壁断面図
- 図19 12-1:17区 東・南壁断面図
- 図20 12-1:16-1区 平面図（古代）
- 図21 12-1:16-2区 地山上面 平面図（古代）
- 図22 12-1:16-2区 掘立柱建物1・2 平面図・断面図・出土遺物
- 図23 12-1:16-2区 遺構平面図・断面図
- 図24 12-1:16-2区 地山上面 遺構出土遺物
- 図25 12-1:16-3区 地山上面 平面図（古代）
- 図26 12-1:16-3区 掘立柱建物3 平面図・断面図
- 図27 12-1:16-3区 地山上面 遺構平面図・断面図・出土遺物
- 図28 12-1:17区 地山上面 平面図（古代）
- 図29 12-1:17区 地山上面 遺構平面図・断面図・出土遺物
- 図30 12-1:16-1区 平面図（中世）
- 図31 12-1:16-1区 16002・16023 井戸 平面図・断面図
- 図32 12-1:16-1区 16023 井戸 出土遺物（1）
- 図33 12-1:16-1区 16023 井戸 出土遺物（2）
- 図34 12-1:16-1区 地山上面 遺構出土遺物
- 図35 12-1:16-1区 遺構平面図・断面図
- 図36 12-1:16-3区 平面図（中世）
- 図37 12-1:16-3区 遺構平面図・断面図
- 図38 12-1:16-3区 遺構断面図
- 図39 12-1:16-3区 16215 落込み 平面図・断面図
- 図40 12-1:16-3区 16219・16374 落込み 平面図・断面図
- 図41 12-1:16-3区 第2層下面 遺構出土遺物
- 図42 12-1:16-2・16-3区 第2・3層出土遺物
- 図43 12-1:20区 遺構平面図・断面図
- 図44 12-1:20区 地山上面 遺構出土遺物
- 図45 12-1:15区 地山上面 平面図
- 図46 12-1:15区 遺構断面図・15002 溝 出土遺物
- 図47 12-1:17区 地山上面 平面図（中世）
- 図48 12-1:17区 17004 井戸 平面図・断面図
- 図49 12-1:17区 地山上面 遺構平面図・断面図
- 図50 12-1:17区 遺構断面図・出土遺物
- 図51 吹田操車場遺跡 東地区 調査区位置図
- 図52 吹田操車場遺跡 東地区 柱状断面模式図（1）
- 図53 吹田操車場遺跡 東地区 柱状断面模式図（2）
- 図54 吹田操車場遺跡 東地区 柱状断面模式図（3）
- 図55 09-3:1-2区 北東—南西断面図
- 図56 11-1:1-1区、12-1:1-2区 南壁断面図
- 図57 10-2:2-1-2区 南壁断面図
- 図58 11-1:10-1・10-2区 北壁断面図
- 図59 09-3:1-2区 北西—南東断面図
- 図60 13008・10011・10012 溝 平面図
- 図61 13008・10011・10012 溝 断面図
- 図62 A0013 落込み 平面図
- 図63 遺構出土遺物
- 図64 流路 平面図・断面図
- 図65 10022 谷 平面図・断面図
- 図66 包含層その他出土遺物（1）
- 図67 包含層その他出土遺物（2）
- 図68 サヌカイト出土位置
- 図69 群集土坑 全体図
- 図70 群集土坑 平面図（1）（11-1:9-1区・9-2区）

- 図 71 群集土坑 平面図 (2) (09-3:1-2 区、11-1:11-1 区) (11-1:11-2 区、12-1:14-2 区・14-3 区、09-3:2-1 区、
- 図 72 群集土坑 平面図 (3) (09-3:1-1 区・1-2 区・1-3 区) 10-2:2-2 区)
- 図 73 群集土坑 平面図 (4) (10-2:2-1-2 区、11-1:13 区)
- 図 74 群集土坑 平面図 (5) (11-1:2-1 区、12-1:2-2 区・
2-3 区)
- 図 75 群集土坑 埋土分類模式図
- 図 76 群集土坑 断面図 (1) (埋土 A タイプ)
- 図 77 群集土坑 断面図 (2) (埋土 A タイプ)
- 図 78 群集土坑 断面図 (3) (埋土 A タイプ)
- 図 79 群集土坑 断面図 (4) (埋土 A タイプ)
- 図 80 群集土坑 断面図 (5) (埋土 B タイプ)
- 図 81 群集土坑 断面図 (6) (埋土 B タイプ)
- 図 82 群集土坑 断面図 (7) (埋土 B タイプ)
- 図 83 群集土坑 断面図 (8) (埋土 B・C タイプ)
- 図 84 群集土坑 断面図 (9) (埋土 C タイプ)
- 図 85 群集土坑 断面図 (10) (埋土 C タイプ)
- 図 86 群集土坑 断面図 (11) (埋土 C タイプ)
- 図 87 群集土坑 埋土分類平面図 (1)
- 図 88 群集土坑 埋土分類平面図 (2)
- 図 89 群集土坑 面積・容積散布図
- 図 90 群集土坑 遺物出土状況 平面図・断面図 (1)
- 図 91 群集土坑 遺物出土状況 平面図・断面図 (2)
- 図 92 群集土坑 遺物出土状況 平面図・断面図 (3)
- 図 93 群集土坑 出土遺物 (1)
- 図 94 群集土坑 出土遺物 (2)
- 図 95 群集土坑 出土遺物 (3)
- 図 96 群集土坑 出土遺物 (4)
- 図 97 群集土坑 出土遺物 (5)
- 図 98 群集土坑 遺物出土土坑 分布図 (1)
- 図 99 群集土坑 遺物出土土坑 分布図 (2)
- 図 100 C0086・10017 溝、10006・10007 落込み 平面図・
断面図・出土遺物
- 図 101 A0012 溝 平面図・断面図
- 図 102 A0012 溝 遺物出土状況・出土遺物
- 図 103 溝 平面図・断面図
- 図 104 包含層その他出土遺物
- 図 105 古代の遺構群 平面図 (1)
(11-1:1-1 区、12-1:1-2 区)
- 図 106 古代の遺構群 平面図 (2)
- 図 107 古代の遺構群 平面図 (3)
(09-3:2-2 区、12-1:14-1 区)
- 図 108 掘立柱建物・井戸 配置図
- 図 109 掘立柱建物 4・5 平面図・断面図・出土遺物
- 図 110 掘立柱建物 6・7 平面図・断面図・出土遺物
- 図 111 掘立柱建物 8・9 平面図・断面図・出土遺物
- 図 112 掘立柱建物 10 平面図・断面図・出土遺物
- 図 113 掘立柱建物 11 平面図・断面図・出土遺物
- 図 114 掘立柱建物 12 平面図・断面図・出土遺物
- 図 115 掘立柱建物 13 平面図・断面図・出土遺物
- 図 116 掘立柱建物 14 平面図・断面図・出土遺物
- 図 117 1012 井戸 平面図・断面図
- 図 118 1012 井戸 出土遺物 (1)
- 図 119 1012 井戸 出土遺物 (2)
- 図 120 1012 井戸 井戸枠関連木製品
- 図 121 1012 井戸 井戸枠 1 段目
- 図 122 1012 井戸 井戸枠 2 段目
- 図 123 1012 井戸 井戸枠 3 段目
- 図 124 1012 井戸 井戸枠 4 段目
- 図 125 1012 井戸 井戸枠 5 段目
- 図 126 1012 井戸 井戸枠 6 段目
- 図 127 B2024 井戸 平面図・断面図・出土遺物
- 図 128 土坑 平面図・断面図
- 図 129 土坑 出土遺物
- 図 130 ピット 平面図・断面図
- 図 131 ピット 出土遺物
- 図 132 溝 断面図
- 図 133 溝 出土遺物
- 図 134 10019 溝 平面図・断面図
- 図 135 11019 溝 出土遺物
- 図 136 14001・14005 溝 平面図・断面図
- 図 137 14001 溝 出土遺物
- 図 138 14005 溝 出土遺物
- 図 139 B2003 溝 平面図・断面図・出土遺物 (1)
- 図 140 B2003 溝 出土遺物 (2)
- 図 141 B2003 溝 出土遺物 (3)
- 図 142 2001 溝・2024 溝 平面図・断面図・出土遺物

- 図 143 落込み 断面図
- 図 144 1013 落込み 出土遺物
- 図 145 1011 落込み 出土遺物
- 図 146 A0011 落込み 平面図・断面図・出土遺物
- 図 147 落込み 出土遺物
- 図 148 第 5・6 層上面 平面図
- 図 149 包含層その他出土遺物 (1)
- 図 150 包含層その他出土遺物 (2)
- 図 151 包含層その他出土遺物 (3)
- 図 152 包含層その他出土遺物 (4)
- 図 153 掘立柱建物 15・16 平面図・断面図・出土遺物
- 図 154 1003 土坑、1002 溝 平面図・断面図・出土遺物
- 図 155 A0005 池 平面図
- 図 156 鋤溝 平面図
- 図 157 包含層その他出土遺物
- 図 158 明和池遺跡 調査区位置図
- 図 159 柱状断面模式図 (1)
- 図 160 柱状断面模式図 (2)
- 図 161 11-1:7 区 北西壁断面図
- 図 162 11-1:8-2 区 南西壁断面図
- 図 163 12-1:4-2 区 南東壁断面図
- 図 164 11-1:5-2 区 南東壁断面図
- 図 165 縄文土器
- 図 166 弥生時代主要遺構配置図
- 図 167 10-1:4-4 区、11-1:7 区 遺構平面図
- 図 168 竪穴建物 1 平面図・断面図
- 図 169 竪穴建物 2・3・4 平面図・断面図
- 図 170 竪穴建物 2 平面図・断面図
- 図 171 竪穴建物 3 平面図・断面図
- 図 172 竪穴建物 4 平面図・断面図
- 図 173 竪穴建物 5・7 平面図・断面図
- 図 174 竪穴建物 5・7 断面図
- 図 175 竪穴建物 1・2・3・4・7 出土遺物
- 図 176 竪穴建物 7 加工面及び竪穴建物 6 平面図
- 図 177 竪穴建物 8 平面図・断面図
- 図 178 竪穴建物 9 平面図・断面図
- 図 179 竪穴建物 9 付随遺構 平面図・断面図
- 図 180 竪穴建物 9 及び付随遺構 出土遺物
- 図 181 竪穴建物 10・11・12 平面図
- 図 182 竪穴建物 10 平面図・断面図
- 図 183 竪穴建物 11・12 平面図・断面図
- 図 184 竪穴建物 11・12 断面図
- 図 185 竪穴建物 10・12 出土遺物
- 図 186 竪穴建物 13 平面図・断面図
- 図 187 竪穴建物 13 断面図
- 図 188 竪穴建物 13 及び付随遺構 出土遺物
- 図 189 竪穴建物 14 平面図・断面図
- 図 190 竪穴建物 15 平面図・断面図
- 図 191 竪穴建物 13～15 付随遺構ほか 平面図・断面図
- 図 192 竪穴建物 14、竪穴建物 15 付随遺構、掘立柱建物 3 出土遺物
- 図 193 掘立柱建物 1 平面図・断面図
- 図 194 掘立柱建物 2 平面図・断面図
- 図 195 掘立柱建物 3・4・5 平面図・断面図
- 図 196 掘立柱建物 6・7 平面図・断面図
- 図 197 掘立柱建物 8 平面図・断面図
- 図 198 土坑 平面図・断面図
- 図 199 土坑 出土遺物
- 図 200 4164・4166 土坑、4163 溝 遺物出土状況平面図・断面図
- 図 201 4164・4166 土坑 出土遺物
- 図 202 4008・5016 土坑 遺物出土状況平面図・断面図
- 図 203 4008・5016・5672 土坑 出土遺物
- 図 204 6040 溝 平面図・断面図
- 図 205 3191 溝 平面図・断面図
- 図 206 溝 出土遺物
- 図 207 5627 溝 遺物出土状況平面図・断面図
- 図 208 5627 溝 出土遺物 (1)
- 図 209 5627 溝 出土遺物 (2)
- 図 210 5627 溝 出土遺物 (3)
- 図 211 5644 溝 平面図・断面図
- 図 212 5636・5644 溝、3001 落込み 出土遺物
- 図 213 溝・落込み 平面図・断面図
- 図 214 D0158 流路 平面図・遺物出土状況
- 図 215 D0158 流路 断面図
- 図 216 D0158 流路 土器群 1 土器出土状況
- 図 217 D0158 流路 土器群 2 土器出土状況
- 図 218 D0158 流路 土器群 3 土器出土状況

- 図 219 D0158 流路 土器出土状況立面図
- 図 220 D0158 流路 出土遺物 (1)
- 図 221 D0158 流路 出土遺物 (2)
- 図 222 D0158 流路 出土遺物 (3)
- 図 223 D0158 流路 出土遺物 (4)
- 図 224 D0158 流路 出土遺物 (5)
- 図 225 D0158 流路 出土遺物 (6)
- 図 226 D0158 流路 出土遺物 (7)
- 図 227 8055 流路ほか 平面図
- 図 228 8055 流路 断面図
- 図 229 8055 流路 土器溜まりほか 遺物出土状況
- 図 230 8055 流路 出土遺物 (1)
- 図 231 8055 流路 出土遺物 (2)
- 図 232 7066 流路出土弥生土器 (1)
- 図 233 7066 流路出土弥生土器 (2)・3077 流路出土弥生土器
- 図 234 5916 流路ほか 11-1:5-1・5-3 区 地山上面 平面図
- 図 235 5916 流路 断面図
- 図 236 5916 流路 出土遺物 (1)
- 図 237 5916 流路 出土遺物 (2)
- 図 238 5916 流路 出土遺物 (3)
- 図 239 D0311・D0099 流路 平面図・断面図
- 図 240 5952 流路 平面図・断面図
- 図 241 5017 土器、包含層その他出土遺物 (1)
- 図 242 包含層その他出土遺物 (2)
- 図 243 古墳時代主要遺構配置図
- 図 244 11-1:7 区 古墳時代遺構平面図
- 図 245 掘立柱建物 9 平面図・断面図
- 図 246 3147・7061・5616 井戸 平面図・断面図
- 図 247 3147・7061 井戸 出土遺物
- 図 248 5616 井戸 出土遺物
- 図 249 7046 土坑 平面図・断面図
- 図 250 7046 土坑 出土遺物 (1)
- 図 251 7046 土坑 出土遺物 (2)・7057 土坑 出土遺物
- 図 252 土坑 平面図・断面図
- 図 253 土坑・ピット 平面図・断面図
- 図 254 土坑・ピット 出土遺物
- 図 255 溝・落込み 断面図
- 図 256 溝・落込み 出土遺物
- 図 257 7066 流路ほか 平面図
- 図 258 7066 流路 断面
- 図 259 7066 流路 出土遺物 (1)
- 図 260 7066 流路 出土遺物 (2)
- 図 261 7066 流路 出土遺物 (3)
- 図 262 7066 流路 出土遺物 (4)
- 図 263 7066 流路 出土遺物 (5)
- 図 264 7066 流路 出土遺物 (6)
- 図 265 7066 流路 出土遺物 (7)
- 図 266 7066 流路 出土遺物 (8)
- 図 267 7066 流路 出土遺物 (9)
- 図 268 7066 流路 出土遺物 (10)
- 図 269 7066 流路 出土遺物 (11)
- 図 270 7066 流路 出土遺物 (12)
- 図 271 7066 流路 出土遺物 (13)
- 図 272 7066 流路 出土遺物 (14)
- 図 273 7066 流路 出土遺物 (15)
- 図 274 7066 流路 出土遺物 (16)
- 図 275 7066 流路 出土遺物 (17)
- 図 276 7066 流路 出土遺物 (18)
- 図 277 7066 流路 出土遺物 (19)
- 図 278 7066 流路 出土遺物 (20)
- 図 279 7066 流路 出土遺物 (21)
- 図 280 7066 流路 出土遺物 (22)
- 図 281 7066 流路 出土遺物 (23)
- 図 282 7066 流路 出土遺物 (24)
- 図 283 3094 土器出土状況・出土遺物
- 図 284 包含層その他出土遺物 (1)
- 図 285 包含層その他出土遺物 (2)
- 図 286 包含層その他出土遺物 (3)
- 図 287 古代主要遺構配置図
- 図 288 11-1:5-1・5-3 区 第 4-1 層除去面 平面図
- 図 289 11-1:5-2 区 古代遺構平面図
- 図 290 掘立柱建物 10 平面図・断面図
- 図 291 掘立柱建物 11 平面図・断面図
- 図 292 掘立柱建物 12 平面図・断面図
- 図 293 掘立柱建物 13 平面図・断面図
- 図 294 掘立柱建物 14 平面図・断面図

- 図 295 掘立柱建物 14・16 出土遺物
- 図 296 掘立柱建物 15 平面図・断面図
- 図 297 掘立柱建物 16 平面図・断面図
- 図 298 5367・5217 井戸 平面図・断面図
- 図 299 5368・5614 井戸 平面図・断面図
- 図 300 井戸 出土遺物
- 図 301 土坑・ピット 断面図
- 図 302 5761・5303 土坑 出土遺物
- 図 303 ピット 出土遺物
- 図 304 3125・3126・3127・3128 溝 平面図・断面図
- 図 305 8008・8048 溝ほか 平面図・断面図
- 図 306 8048 溝 遺物出土状況
- 図 307 4007 溝 平面図・断面図
- 図 308 溝 出土遺物
- 図 309 5546 溝 断面図
- 図 310 5756・5546 溝 出土遺物
- 図 311 5546 溝 出土遺物
- 図 312 3077 流路 平面図
- 図 313 3077 流路 断面図
- 図 314 3077 流路 最終埋没層遺物出土状況
- 図 315 3077 流路 出土遺物 (1)
- 図 316 3077 流路 出土遺物 (2)
- 図 317 3077 流路 出土遺物 (3)
- 図 318 3077 流路 出土遺物 (4)
- 図 319 3077 流路 出土遺物 (5)
- 図 320 3077 流路 出土遺物 (6)
- 図 321 3077 流路 出土遺物 (7)
- 図 322 3077 流路 出土遺物 (8)
- 図 323 包含層その他出土遺物 (1)
- 図 324 包含層その他出土遺物 (2)
- 図 325 中世主要遺構配置図
- 図 326 11-1:5-2 区 第2層除去面 平面図
- 図 327 掘立柱建物 17 平面図・断面図
- 図 328 掘立柱建物 17 5075 柱穴 出土遺物
- 図 329 掘立柱建物 18 平面図・断面図
- 図 330 掘立柱建物 19 平面図・断面図
- 図 331 5236 井戸 平面図・断面図
- 図 332 5236 井戸 出土遺物
- 図 333 土坑 平面図・断面図
- 図 334 土坑 出土遺物
- 図 335 ピット 平面図・断面図
- 図 336 ピット 出土遺物
- 図 337 東西坪境溝群 平面図・断面図
- 図 338 5056・5132・D0112・D0113 溝 断面図
- 図 339 5132・5059 溝 出土遺物
- 図 340 11-1:5-3 区 第3層除去面 平面図
- 図 341 5746 落込み 出土遺物
- 図 342 5746 落込み 断面図
- 図 343 5708 流路 断面図
- 図 344 8005 流路 平面図・断面図
- 図 345 8005・5708 流路 出土遺物
- 図 346 鋤溝 平面図
- 図 347 包含層その他出土遺物
- 図 348 植物珪酸体分析結果
- 図 349 花粉ダイアグラム
- 図 350 珪藻ダイアグラム
- 図 351 11-1:10-2 区アゼ②の花粉ダイアグラム
- 図 352 11-1:11-1 区 11013 土坑①・11017 土坑⑤の花粉ダイアグラム
- 図 353 11-1:10-2 区アゼ②の珪藻ダイアグラム
- 図 354 11-1:10-2 区アゼ②の珪藻総合ダイアグラム
- 図 355 11-1:11-1 区 11013 土坑①・11017 土坑⑤の珪藻ダイアグラム
- 図 356 11-1:11-1 区 11013 土坑①・11017 土坑⑤の珪藻総合ダイアグラム
- 図 357 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (1)
- 図 358 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (2)
- 図 359 砂の粒径組成
- 図 360 砂の粒径組成散布図
- 図 361 碎屑物・気質・孔隙の割合
- 図 362 吹田操車場遺跡・明和池遺跡 柱状断面模式図
- 図 363 吹田操車場遺跡 西地区周辺 既往調査区合成図 (1)
- 図 364 吹田操車場遺跡 西地区周辺 既往調査区合成図 (2)
- 図 365 吹田操車場遺跡 東地区 既往調査区合成図
- 図 366 明和池遺跡 復元条里型地割合成図

表目次

| | | | |
|-----|--------------------|------|------------|
| 表 1 | 調査一覧 | 表 9 | 微化石概査結果 |
| 表 2 | 吹田操車場遺跡 調査一覧 | 表 10 | 花粉化石組成表 |
| 表 3 | 明和池遺跡 調査一覧 | 表 11 | 珪藻化石組成表 |
| 表 4 | 吹田操車場遺跡 東地区 群集土坑一覧 | 表 12 | 半定量分析結果 |
| 表 5 | 群集土坑出土遺物一覧 | 表 13 | 試料一覧 |
| 表 6 | 植物珪酸体分析結果 | 表 14 | 薄片観察結果 (1) |
| 表 7 | 花粉分析結果 | 表 15 | 薄片観察結果 (2) |
| 表 8 | 珪藻分析結果 | 表 16 | 薄片観察結果 (3) |

写真目次

| | | | |
|------|---------------|-------|------------|
| 写真 1 | 現地公開資料と現地公開風景 | 写真 8 | 胎土薄片 (2) |
| 写真 2 | 現場作業風景 | 写真 9 | 胎土薄片 (3) |
| 写真 3 | 整理作業風景 | 写真 10 | 胎土薄片 (4) |
| 写真 4 | 花粉の顕微鏡写真 | 写真 11 | 胎土分析試料 (1) |
| 写真 5 | 珪藻の顕微鏡写真 | 写真 12 | 胎土分析試料 (2) |
| 写真 6 | 坩堝付着物の成分分析 | 写真 13 | 胎土分析試料 (3) |
| 写真 7 | 胎土薄片 (1) | | |

第1章 遺跡の位置・環境

第1節 位置・地理的環境

吹田操車場遺跡・明和池遺跡は、大阪府北部、淀川北岸の吹田市・摂津市所在の遺跡である（図1）。吹田操車場遺跡は吹田市片山町・芝田町・岸部中町地内に、明和池遺跡は摂津市千里丘4丁目・7丁目に、それぞれ位置する。JR京都線吹田駅から岸辺・千里丘駅間にかけて、かつて「東洋一の操車場」と称され大正12（1923）年に操業を開始し、昭和59（1984）年にその役割を終えた旧国鉄吹田操車場（現：JR貨物吹田信号場駅）を中心に広がる遺跡である（図2）。旧吹田操車場内を南東に流下する正雀川が市境にあたり、吹田市側が吹田操車場遺跡、摂津市側が明和池遺跡である。

当地は、千里丘陵と安威川・淀川に挟まれた平野部にあたる。千里丘陵は、第三紀末鮮新世～第四紀更新世中期に形成された「大阪層群」とよばれる地層の模式地となった丘陵として名高い。歴史的には、後述するように、古墳時代後期に千里古窯址群が形成されたことで有名である。また淀川は、大阪平野を北東から南西へ流れ、大阪湾へと注ぐ一級河川であり、様々な歴史の舞台として登場する。

吹田市域の大半は、上述の大阪層群の隆起によって形成されたとされる千里丘陵で占められており、吹田市南部及び摂津市域、そして遺跡が立地する場所は沖積層に分類される地質にあたる（図3）。千里丘陵の周辺地域には、大阪層群を不整合に覆って、高位・中位・低位段丘堆積層が分布している箇所が見られるが、吹田市岸部付近にも土地条件図によれば、中位段丘の形成が認められる。

両市域には、正雀川や山田川などの千里丘陵に源を発し、安威川や神崎川に注ぐ河川が存在するが、いずれも短流で水量が豊富でなかったこともあり、特に吹田市側では古くから水を確保するための溜池が地形に即して築かれている。これまでの吹田操車場遺跡の調査においても、溜池状遺構を確認しておりこれを首肯させる。

両市の立地する場所は水運が利用し易く交通が利便であること等から、どの時代をみても重要な遺跡が形成されている。以下に、周辺の主要遺跡を時代順に概観しておく。

第2節 歴史的環境

（1）旧石器時代

摂津市域では未確認であるが、吹田市域では千里丘陵末端に位置する吉志部遺跡や吉志部瓦窯下層遺跡で石器製作址や礫群が確認されている。出土遺物にはサヌカイト製のナイフ形石器・搔器・削器・彫器、チャート製ナイフ形石器等がみられる。石材としてサヌカイトが一般的に用いられる近畿地方にお

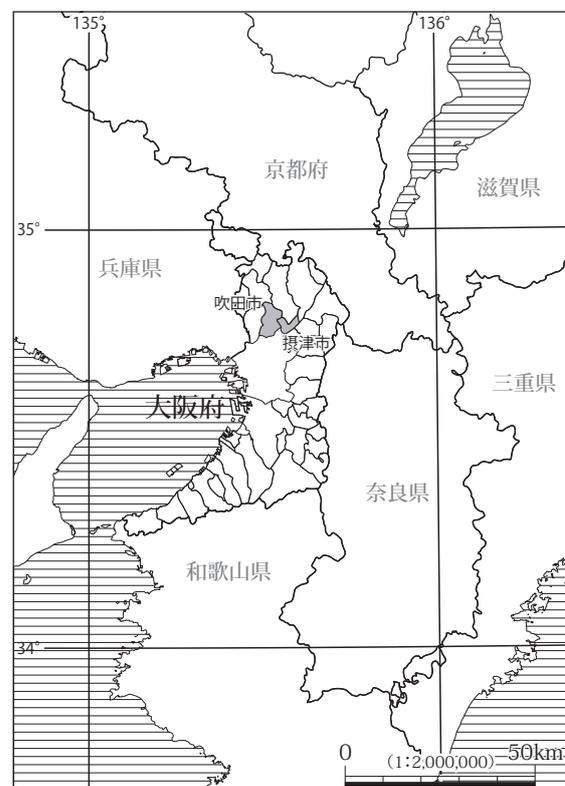


図1 調査位置（1）

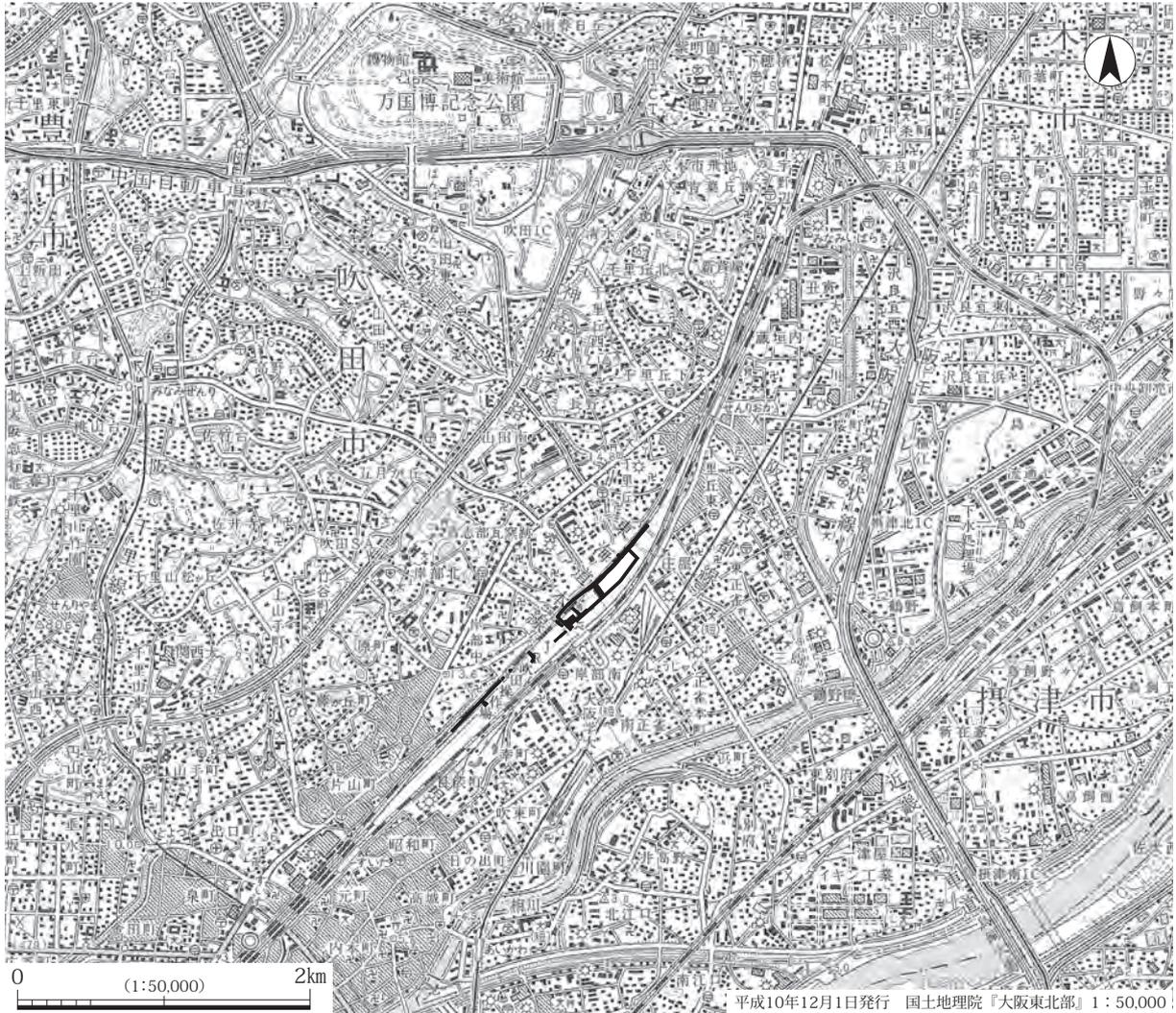


図2 調査位置(2)

いて、チャート製石器の存在は珍しく、箕面市所在の粟生間谷遺跡の旧石器資料とともに、サヌカイト原産地から遠く離れた遺跡の様相として注目される。また、生活痕跡は確認されていないが、沖積地に位置する目俵遺跡や高城遺跡でもナイフ形石器が出土している(図4)。

(2) 縄文時代

吹田市域では、中ノ坪遺跡で草創期の所産と見られるチャート製有舌尖頭器が、吉志部遺跡ではサヌカイト製有舌尖頭器が、高浜遺跡で中期前半の船元式土器が、七尾瓦窯下層遺跡で晩期後半の船橋式土器が、目俵遺跡では長原式土器が確認されている。

摂津市域では、200点近いサヌカイト製石器・剥片が集積された状態で出土した千里丘遺跡がある。これら石器・剥片には土器が伴っておらず帰属時期が明確になっていないが、周辺での火山灰分析や石器属性分析から縄文時代早期に遡る可能性が指摘されているものである。この他に、鳥飼西地区の淀川河床で縄文時代後期～晩期の土器が採集されている。

総合的に縄文時代の遺構・遺物の発見例は他の時代に比して少ない。今後の調査に期待したい部分である。なお、先述した吉志部遺跡では有舌尖頭器を含めて8点の尖頭器が集中的に出土しており、全国的にも稀有な例といえる(図4)。

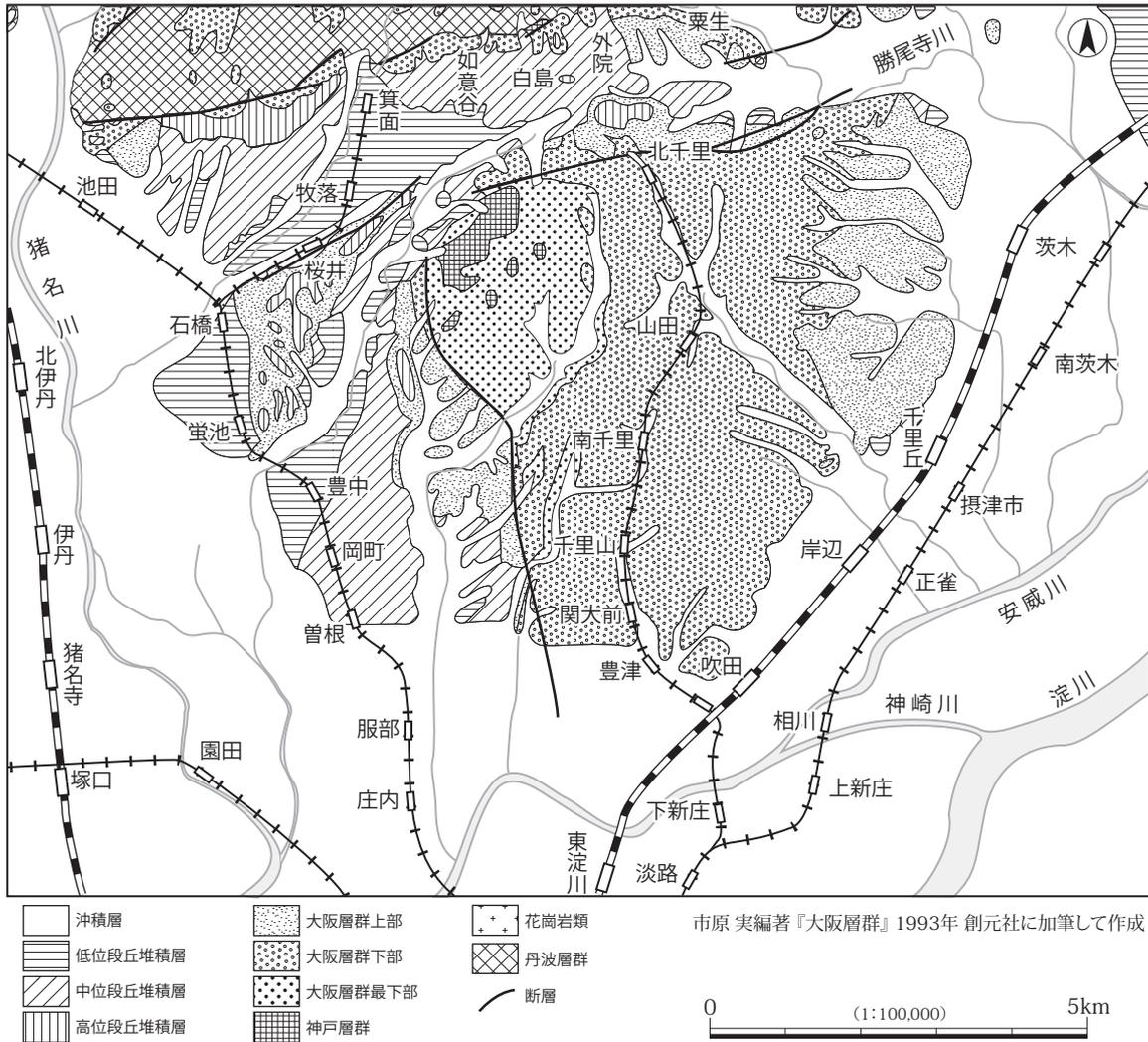


図3 周辺地質図

(3) 弥生時代

吹田市域では、弥生時代に入ると大幅に遺構・遺物の検出は増加する。五反島遺跡では前期の土器(甕・壺・鉢・高杯等)が出土している。丘陵上に位置する垂水遺跡では中期～後期の集落跡が確認されている。特に後期に栄えたようで、竪穴建物や掘立柱建物が検出された。出土遺物には、近江や東海、四国、山陰といった外来の土器も多くみられ、他地域との交流が盛んであったことが窺える。また、垂水遺跡直下の低地に位置する垂水南遺跡でも弥生時代の土器が多量に出土していることから、両者の関係が注目される。七尾東遺跡では中期の竪穴建物や掘立柱建物が検出されている。竪穴建物内からは土器のほか、石包丁や石鎌等も出土している。これら以外にも近年、目俵遺跡・中ノ坪遺跡・榎坂遺跡でも後期を中心とした資料が出土している。また、西の庄東遺跡が立地する吹田砂堆上に位置する都呂須遺跡や高浜遺跡でも弥生時代の遺物が確認されており、次第に様相が明らかになるものと思われる。

摂津市域では調査事例が僅少であることから、明和池遺跡以外に遺構が検出された明確な遺跡は知られていない。しかし、鳥飼西地区の淀川河床では弥生時代前期の土器が採集されていることから、摂津市域の淀川流域に弥生前期集落が営まれていた可能性が想定される(図4)。

(4) 古墳時代

吹田市域では、古墳時代には垂水南遺跡の微高地上で竪穴建物や掘立柱建物が検出され、その集落周辺では水田や灌漑水路が確認されている。出土遺物も多岐にわたり、多量の須恵器や土師器のほかに韓式系土器や製塩土器、木製農具、木鏃、勾玉や管玉などが見られる。出土土器の中には、瀬戸内西部から南関東地域のものがあり、広範な地域との交流を窺わせている。さらに、鍛冶関連遺物（羽口・鉄滓・砥石）や遺構も確認されており、鉄器生産を行っていたことが判明している。初期須恵器や韓式系土器は垂水遺跡や五反島遺跡でも出土しており、渡来系の人々の存在が注目される。また垂水遺跡では、溶解途中の仿製鏡（方格規矩鏡）が出土しており、鑄造関連の施設があったと想定される。この資料は古墳時代の鑄造技術復元に重要な示唆を与えてくれるものである。

吹田市域で知られる古墳は10基ほどで、周辺地域と比べると少ない。これは、各地で古墳が多数築造される時期に、市内にある千里丘陵が大規模な須恵器生産地として利用されていたため、古墳を築造し難い環境にあったことが一因と見られる。また、高度成長期における千里丘陵一帯の大規模開発による破壊も見逃せない要因であろう。

吉志部神社境内の吉志部1号墳は7世紀初めに築造されたもので、市内唯一の現存する石室である。石室内から、須恵器の蓋杯・長頸壺・ガラス玉・刀子・鏃などが出土している。新芦屋古墳は宅地造成中に発見されたため古墳の外形は既に失っていたが、組合式石棺を納めた木室墳であることが明らかになっている。木室内からは須恵器の高杯・杯・器台・土師器・鉄地金銅張りの馬具一式が、石棺内からは人骨とともに玉・耳環・直刀が出土している。なお、本古墳は石棺を納めた木室墳としては全国唯一の存在である。また、片山公園遺跡では大量の埴輪片が見つかり、操車場を造成する際に削られた丘陵の尾根上に古墳群が形成されていた可能性がある。片山荒池遺跡でも古墳時代中期中葉の円筒埴輪が出土しており、吹田操車場遺跡直近にも古墳が築造されていたと推定される。

千里丘陵一帯では、須恵器窯跡が数多く発見されている。その中で最古のものは吹田32号窯跡(ST32)である。窯内部から鋸歯文や斜格子文などの文様が施された須恵器が出土しており、5世紀前半の初期段階の須恵器窯であることが明らかとなった。その後、須恵器窯は6世紀中頃に最盛期を迎え、8世紀前半には完全に生産を停止している。なお、片山荒池遺跡では6世紀～7世紀代に掘削された粘土採掘用の群集土坑がみられ、千里窯跡群との関係が示唆されている。

摂津市域の古墳時代の遺跡には、明和池遺跡、蜂前寺跡、東正雀遺跡等が挙げられるが、詳細は不明である（図4）。

(5) 古代・中世

吹田市域では、最盛期は過ぎたものの前代に引き続き千里丘陵一帯で窯業が行われていた。8世紀初頭には七尾瓦窯跡が操業され、後期難波宮で葺かれた瓦が焼かれている。また、8世紀末操業の吉志部瓦窯跡では平安京へ供給する瓦の生産が行われたが、短期間のうちに操業を終え、操業の場は西賀茂瓦窯跡・角社瓦窯跡へと移されている。

文献によると平安時代には、春日領や東寺領の荘園が営まれるようになり、鎌倉時代にかけて一層進展する。垂水南遺跡では、東寺領垂水庄との関係が指摘される「垂庄」や「中庄」と書かれた墨書土器が出土している。また、蔵人遺跡は垂水庄蔵人村との関連が指摘されており、掘立柱建物や鍛冶工房、水田や畑などが見つかっている。

吹田砂堆上に位置する高城B遺跡や高城遺跡、高畑遺跡等では短期間に営まれた平安時代の集落が確



平成12年国土地理院発行1/50,000「大阪東北部」をベースに、大阪府地図情報提供システムの埋蔵文化財に基づき作成

- | | | | | |
|---------------|-------------|---------------|----------------|-----------------|
| 1. 吹田操車場遺跡 | 13. 浜の堂遺跡 | 25. 昭和町遺跡B地点 | 37. 岸部東遺跡 | 49. 千里丘東3丁目所在遺跡 |
| 2. 明和池遺跡 | 14. 都呂須遺跡 | 26. 片山遺跡 | 38. 吉志部瓦窯跡 | 50. 千里丘東4丁目遺跡 |
| 3. 吹田操車場遺跡B地点 | 15. 東正雀第2地点 | 27. 片山荒池遺跡 | 39. 吉志部1号墳 | 51. 庄屋1丁目所在遺跡 |
| 4. 吹田操車場遺跡C地点 | 16. 宮之前遺跡 | 28. 目俵遺跡 | 40. 七尾瓦窯跡 | 52. 庄屋2丁目所在遺跡 |
| 5. 吹田須恵器窯跡群 | 17. 高浜遺跡 | 29. 円塚古墳 | 41. 七尾東遺跡 | 53. 東正雀所在遺跡 |
| 6. 東奈良遺跡 | 18. 神境町遺跡 | 30. 片山芝田遺跡 | 42. 似禪寺山遺跡 | 54. 千里丘東4丁目所在遺跡 |
| 7. 片山前遺跡 | 19. 朝日町遺跡 | 31. 天道遺跡 | 43. 西の庄東遺跡 | 55. 千里丘7丁目所在遺跡 |
| 8. 常楽寺跡 | 20. 昭和町遺跡 | 32. 片山芝田遺跡B地点 | 44. 蜂前寺跡 | 56. 千里丘6丁目所在遺跡 |
| 9. 三宅城跡 | 21. 高城B遺跡 | 33. 中ノ坪遺跡 | 45. 千里丘遺跡 | 57. 千里丘東1丁目遺跡 |
| 10. 正雀1丁目遺跡 | 22. 吹田城跡推定地 | 34. 原東遺跡 | 46. 千里丘2丁目所在遺跡 | |
| 11. 東正雀遺跡 | 23. 高城遺跡 | 35. 吉志部遺跡 | 47. 千里丘3丁目所在遺跡 | |
| 12. 元町遺跡 | 24. 高畑遺跡 | 36. 岸部中遺跡 | 48. 千里丘東2丁目遺跡 | |

図4 遺跡分布図

認められ、さらに高城B遺跡では14世紀前半代に掘削されたと見られる群集土坑が見つまっている。また、高城町辺りや西の庄町のアサヒビール吹田工場付近は14～16世紀に営まれた吹田城跡推定地とされているが、現在のところ城跡と断定出来る資料は確認されていない。

摂津市域では古代の遺跡についての調査例が無いため、不明な点が多い。しかし、文献史料では鳥飼牧の設置や平安時代の離宮である鳥飼院の存在、一津屋と別府付近を繋ぐ運河の開削等が知られており、今後の調査に期待される部分である。中世に入ると14～15世紀の溝が検出された蜂前寺遺跡や15世紀前半頃の遺構が見られる千里丘東遺跡が知られる(図4)。

(6) 近世以降

両市ともに近世以降の報告例は少ないが、垂水遺跡で明石焼陶製土鍋、明石焼或いは堺焼播鉢、土人形などの出土が報告されており、片山荒池遺跡では溜池が検出されている。

明治に入ると明治7(1874)年大阪・神戸間に鉄道が敷設され、明治22(1889)年までに大阪・敦賀間が官営鉄道として順次開通した。その後、関西圏の鉄道網が整備され、貨物輸送も発展していく。その中で、貨物輸送の向上と円滑化を図るため、「東洋一の操車場」と謳われた吹田操車場の造成が大正12(1923)年から開始された。また、吹田市では明治23(1890)年に建築が開始された煉瓦造りの大阪麦酒吹田村醸造所(現アサヒビール吹田工場)の存在が近代化への大きな転換となっている。

なお、これまでの旧吹田操車場内における発掘調査において、陶磁器、汽車土瓶(蓋や猪口も含む)、牛乳瓶、ビール瓶、木製弁当箱の蓋、ダニエル電池素焼き容器、荷札木簡、煉瓦等の多種多様な近代資料が採取されている。こうした資料は、鉄道関連施設や大阪麦酒吹田村醸造所で使用されたものと思われる、現在各地で脚光を浴びる近代遺産に関する資料として貴重なものといえる(図4)。

参考・引用文献

市原 実 編著 1993 『大阪層群』 創元社

大阪府教育委員会 2010 『大阪府埋蔵文化財調査報告 2009-13 千里丘遺跡Ⅱ 都市計画道路千里丘三島線道路改良事業に伴う調査』

太田陽子・成瀬敏郎・田中眞吾・岡田篤正編 2004 『日本の地形6 近畿・中国・四国』 東京大学出版会

小野田滋 2004 『景観学研究叢書 鉄道と煉瓦 その歴史とデザイン』 鹿島出版会

(財) 建築研究会 1990 『アサヒビール株式会社吹田工場創業時のビール醸造工場建物に関する学術調査報告書』

(社) 工学会 1925 『明治工業史 化学工業篇』

吹田市教育委員会 1998 『吹田の石器時代』

吹田市教育委員会 1999 『目依遺跡』

吹田市史編さん委員会編 1981 『吹田市史』 第1巻 吹田市役所

吹田市史編さん委員会編 1990 『吹田市史』 第8巻 吹田市役所

吹田市立博物館 1996 『平成8年度特別展 鉄道沿線物語—鉄道の発達と吹田—』

吹田市立博物館 2007 『吹田市文化財ニュース』 No. 27

吹田市立博物館 2008 『平成20年度(2008年度) 秋季特別展 ビールが村にやってきた!』

吹田市立博物館 2009 『わかりやすい吹田の歴史 本文編』

吹田市都市整備部・吹田市教育委員会 1993 『高城B遺跡』

吹田市都市整備部・吹田市教育委員会 2004 『吹田操車場遺跡—市営岸部中住宅建替工事に伴う発掘調査報告書—』

摂津市史編さん委員会編 1977 『摂津市史』 摂津市役所

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 吹田市教育委員会 2008 『吹田操車場遺跡確認調査報告書—吹田操車場跡地地区(仮称)の整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査—』

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 摂津市教育委員会 2009 『明和池遺跡確認調査報告書—吹田操車場跡地地区(仮称)の整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査—』

第2章 調査に至る経緯・経過

本調査は、北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業に伴うものである。

昭和59(1984)年にその役割を終えた旧国鉄吹田操車場跡地に、平成10(1998)年、当時の日本国有鉄道清算事業団近畿支社により、JR梅田貨物駅の機能の一部を吹田操車場跡地へ移管する計画が持ち上がった。同社は、大阪府教育委員会と協議の後、移転用地内全域を対象として遺跡の確認調査を行った。その結果、操車場造成時に分厚い盛土が施されていたことにより、調査トレンチの大半で多様な遺構が存在することが明らかとなった。出土遺物や検出した遺構の検討から、旧石器時代から中世に至る広範囲複合遺跡であることが判明し、遺跡範囲が操車場跡地のほぼ全域に拡大した。その後、吹田信号場駅基盤整備工事の計画に伴い、大阪府教育委員会と日本鉄道建設公団(当時)との協議が行われ、平成12(2000)年から駅舎・倉庫・調整池他の計画地について継続的に発掘調査が実施されている。

一方、貨物ヤードに使用される以外の操車場跡地について、吹田市は操車場跡地の北西側約15ha、摂津市は操車場跡地の北西側約7.1haにおいて「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点の創出」を目指したまちづくり計画の策定を進めている。整備計画を進める上で、埋蔵文化財の状況を把握するため、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(以下、「鉄道運輸機構」と略す)と吹田市・摂津市が協議し、吹田市域59箇所・摂津市域33箇所での操車場跡地内のまちづくり用地の遺跡確認調査が平成19・20(2007・2008)年に実施された。

平成21(2009)年4月に、まちづくり用地の土地区画整理事業の事業計画及び施行規程の認可が告示され、本格的な区画整理事業が始まった。それに伴い、当センターが独立行政法人都市再生機構西日本支社より委託を受け、平成21(2009)年10月～平成25(2013)年3月の期間、吹田市教育委員会・摂津市教育委員会の協力を得ながら、発掘調査を実施することとなった。また、それら調査に関わる遺物整理・報告書作成業務は、一部発掘調査と並行し平成24(2012)年1月から平成26(2014)年3月まで行った。

発掘調査の対象となったのは、岸辺駅前広場及び防火水槽・区画街路等に当たる箇所である。発掘調査については平成21(2009)年度、平成22(2010)年度、平成23(2011)年度、平成24(2012)年度の年度ごとの契約事業であり、各年度の調査位置は表1・図5の通りである。なお、調査中は事業者や他工事との調整を行いながらも設計通りに調査が進まないこともあり、また複数年度にまたがって調査が行われたことで、調査区名が煩雑になってしまった。しかし、整理段階で調査区名を振り直すことはせず、調査時の名称そのままを使用することとした。その際、調査名称の数字を頭につけ、調査区名をそのあとに続けて呼称することで、調査区位置を判別するようにした(例:09-3:1-2区)。

調査時には、大阪府教育委員会文化財保護課の確認・指導を受けた。また、調査が完了した時点においては、すべての調査区で大阪府教育委員会文化財保護課の立会を受け、最終確認を得た後、各調査区を引き渡した。

〔平成21年度〕調査名称は、「吹田操車場遺跡09-3」であり、吹田市域の岸辺駅前広場と防火水槽、区画街路部分の調査を実施した。

〔平成22年度〕調査名称は、吹田市域「吹田操車場遺跡10-2」、摂津市域「明和池遺跡10-1」である。共に区画街路部分の調査を実施した。

現地調査中の平成 22 年 11 月 20 日には、摂津市域の明和池遺跡 10-1:4-4 区において、弥生時代後期の良好な竪穴建物や流路を検出した地山上面で遺跡を公開し、説明会を開催した（写真 1）。併せて、流路から出土した弥生土器等を展示し、往時の生活の一端を見学いただいた。現地公開には、245 名の参加者があった。

〔平成 23 年度〕調査名称は、吹田市域「吹田操車場遺跡 1 1-1」、摂津市域「明和池遺跡 1 1-1」である。共に区画街路部分の調査を実施した。現地調査中の平成 23 年 10 月 29 日には、摂津市域の明和池遺跡 11-1:7 区において、弥生時代後期の掘立柱建物や古墳時代後期の流路を検出した地山上面で遺跡を公開し、説明会を開催した（写真 1）。その際、流路から出土した古墳時代後期の須恵器を展示し、実際の出土品を持って重さを体験していただくコーナーも設け地元歴史に親しんでいただいた。現地公開には、158 名の参加者があった。現地調査中の平成 23 年 11 月 8 日には地元小学校の生徒による見学及び発掘調査体験も行った。

また、摂津市内の施設や大阪府立近つ飛鳥博物館で開催された平成 23 年度冬季特別展「歴史発掘おおさか 2011」において明和池遺跡出土品の展示を行った。

〔平成 24 年度〕調査名称は、吹田市域「吹田操車場遺跡 1 2-1」、摂津市域「明和池遺跡 1 2-1」である。共に区画街路部分の調査を実施した。吹田操車場遺跡の調査に関しては、今回の報告において西地区とした部分の調査を実施した。

調査中には、摂津市役所や摂津市立コミュニティプラザ等において、また大阪府立近つ飛鳥博物館で開催された平成 24 年度冬季特別展「歴史発掘おおさか 2012」において明和池遺跡出土品の展示を行った。

調査と並行して、当センター中部調査事務所において整理作業を行った。

〔平成 25 年度〕当センター中部調査事務所において、本格的な整理作業を実施した。併せて、自然科学的な分析作業を委託して実施した。

平成 26 年 7 月 31 日、本書の刊行をもって一連の事業を終了した。

表 1 調査一覧

| 調査名称：吹田操車場遺跡 | | |
|--------------|-----------|---|
| 調査区名 | 調査期間 | 担当 |
| 09 | 1-1 区 | 2009.11～2010.1 鹿野 |
| | 1-2 区 | 2009.12～2010.3 鹿野 |
| 1 | 1-3 区 | 2010.3 鹿野 |
| 3 | 2-1 区 | 2010.2～3 鹿野 |
| | 2-2 区 | 2010.1～3 寺川・鹿野 |
| 10 | 2-2 区 | 2011.1～2 栢本・鹿野 |
| 2 | 2-1-2 区 | 2010.11～2011.3 栢本・鹿野 |
| | 1 0-1 区 | 2011.4～6 鹿野 |
| | 9-1 区 | 2011.6～7 鹿野 |
| 11 | 1 1-1 区 | 2011.9～10 鹿野 |
| | 1-1 区 | 2011.10～11 鹿野 |
| 1 | 9-2 区 | 2011.10～11 鹿野 |
| 1 | 1 0-2 区 | 2011.11～12 鹿野 |
| | 1 3 区 | 2011.12～2012.1 鹿野 |
| | 1 1-2 区 | 2012.1 鹿野 |
| | 2-1 区 | 2012.1～2012.2 鹿野 |
| | 1-2 区 | 2013.2～3 後藤 |
| | 2-2 区 | 2012.6 新海 |
| | 2-3 区 | 2012.11～12 新海 |
| | 1 2-1 区 | 2012.7～8 鹿野 |
| | 1 2-2 区 | 2012.9 鹿野 |
| | 1 3-2 区 | 2012.11 新海 |
| 12 | 1 4-1 区 | 2013.2～3 三宮 |
| | 1 4-3 区 | 2013.1 廣瀬 |
| 1 | 1 4-2 区 | 2012.11～12 新海 |
| 1 | 1 5 区 | 2012.11 後藤・松本 |
| | 1 6-1 区 | 2012.8～9 後藤・松本 |
| | 1 6-2 区 | 2012.9～10 後藤・松本 |
| | 1 6-3 区 | 2012.9～11 後藤・松本 |
| | 1 9 区 | 2012.11 後藤・松本 |
| | 2 0 区 | 2012.11～12 後藤・松本 |
| | 1 7-1 区 | 2012.7～8 後藤 |
| | 1 7-2・3 区 | 2013.1～2 後藤・松本 |
| | 09-3 | 3334 m ² 17 コンテナ |
| | 10-2 | 600 m ² 6 コンテナ |
| | 11-1 | 3298 m ² 39 コンテナ |
| | 12-1 | 4274 m ² 53 コンテナ |
| 吹田操車場遺跡 | | 調査面積合計 11506 m ² 出土遺物合計 115 コンテナ |

| 調査名称：明和池遺跡 | | |
|------------|---------|---|
| 調査区名 | 調査期間 | 担当 |
| 10 | 4-1・2 区 | 2010.8 栢本・鹿野・櫻田 |
| 1 | 4-3 区 | 2010.7～9 栢本・鹿野・櫻田 |
| 1 | 4-4 区 | 2010.9～11 栢本・鹿野・櫻田 |
| | 3-1 区 | 2011.4 奈良 |
| | 3-2 区 | 2011.4～5 奈良 |
| | 4-1 区 | 2011.4～5 笹栗 |
| | 3-3 区 | 2011.5～6 奈良・笹栗 |
| | 3-4 区 | 2011.6～7 後川 |
| | 7 区 | 2011.6～10 奈良 |
| 11 | 3-5 区 | 2011.7～10 奥村 |
| | 5-1 区 | 2011.8～9 奥村 |
| 1 | 8-1 区 | 2011.9～12 奈良 |
| 1 | 3-6 区 | 2011.10～11 奥村 |
| | 3-7 区 | 2011.11～1 奥村 |
| | 5-2 区 | 2011.12～2012.3 奈良 |
| | 8-2 区 | 2011.12～2012.3 鹿野 |
| | 3-8 区 | 2012.1～3 鹿野 |
| | 6-1 区 | 2012.2～4 鹿野 |
| | 5-3 区 | 2012.3～6 後藤・鹿野 |
| 12 | 4-2 区 | 2012.4～7 後藤・鹿野 |
| | 3-9 区 | 2012.5～8 鹿野 |
| 1 | 6-2 区 | 2012.7～8 鹿野 |
| 1 | 6-3 区 | 2012.9 鹿野 |
| | 10-1 | 2464 m ² 60 コンテナ |
| | 11-1 | 6619 m ² 225 コンテナ |
| | 12-1 | 2528 m ² 75 コンテナ |
| 明和池遺跡 | | 調査面積合計 11611 m ² 出土遺物合計 360 コンテナ |

明和池遺跡 現地公開資料

平成22年11月20日（土）
主要な調査委員 大原野教育委員会（株）大原野文化センター

今回の現地公開は、平成22年10月29日（土）から11月20日（土）までの期間、明和池遺跡の発掘現場を会場として、市民や観光客の皆さまにご覧いただけます。

今回の現地公開は、発掘現場の様子を見学していただくだけでなく、発掘現場の歴史や文化の背景についてもご説明いたします。また、発掘現場の様子を写真や映像で紹介し、当時の生活の様子をお伝えいたします。また、発掘現場の様子を写真や映像で紹介し、当時の生活の様子をお伝えいたします。

発掘現場の様子を写真や映像で紹介し、当時の生活の様子をお伝えいたします。

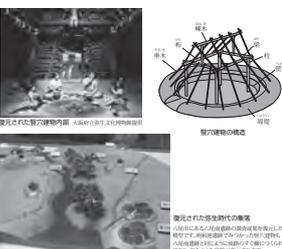


調査地図

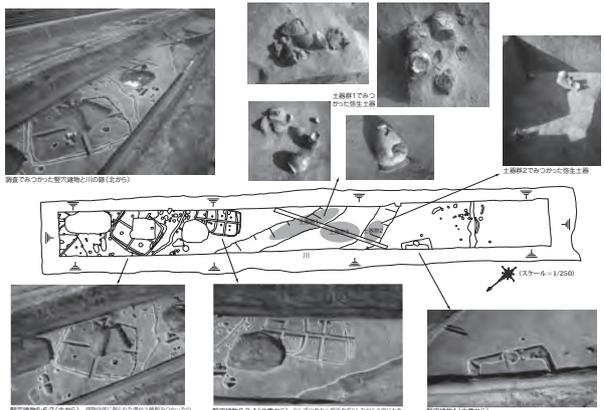
調査の経過

発掘調査は、土の断面を観察して、土の構成状況を確認しながら掘り進めていきます。通常は、深く掘れば深く掘れば、時代の層がみつかります。今回の調査では、土の断面からみる、明和池遺跡が形成された時期は、発掘現場の調査から明らかになりました。また、発掘現場の調査から明らかになりました。また、発掘現場の調査から明らかになりました。

発掘現場の様子を写真や映像で紹介し、当時の生活の様子をお伝えいたします。



調査の経過

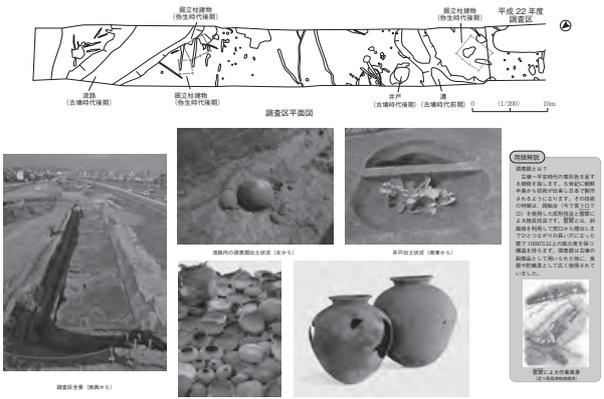


調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

現地公開資料（平成22年（2010）11月20日（土）開催）



調査範囲平面図

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

明和池遺跡 現地公開資料

平成23年10月29日（土）
主要な調査委員 大原野教育委員会 委託経理法人大原野文化センター

調査の経過

発掘調査は、土の断面を観察して、土の構成状況を確認しながら掘り進めていきます。通常は、深く掘れば深く掘れば、時代の層がみつかります。今回の調査では、土の断面からみる、明和池遺跡が形成された時期は、発掘現場の調査から明らかになりました。また、発掘現場の調査から明らかになりました。また、発掘現場の調査から明らかになりました。

発掘現場の様子を写真や映像で紹介し、当時の生活の様子をお伝えいたします。

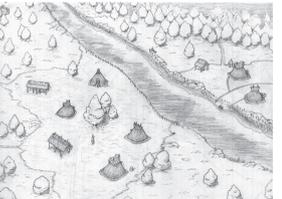


調査地図

調査の経過

発掘調査は、土の断面を観察して、土の構成状況を確認しながら掘り進めていきます。通常は、深く掘れば深く掘れば、時代の層がみつかります。今回の調査では、土の断面からみる、明和池遺跡が形成された時期は、発掘現場の調査から明らかになりました。また、発掘現場の調査から明らかになりました。また、発掘現場の調査から明らかになりました。

発掘現場の様子を写真や映像で紹介し、当時の生活の様子をお伝えいたします。



調査の経過

現地公開資料（平成23年（2011）10月29日（土）開催）



調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）



調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

調査範囲（約200m×100m）

写真1 現地公開資料と現地公開風景

第3章 調査・整理の方法

第1節 発掘調査

〔調査区〕調査を円滑に行うため、当初設計の調査区名を使用することとした。各調査区に枝番を付しているものがほとんどであるが、様々な要因により調査区を細分するような事態が生じたため、基本的に各調査区の調査順に枝番を付したためである。また、4ヵ年度分をまとめて報告することとなったため、調査区名が重複するものがある。第2章でも記したが、調査名の数字を頭に冠することで、この問題は解決できると考え（例：09-3:1-1区と11-1:1-1区、09-3:2-2区と12-1:2-2区等）、整理作業においては、新たに調査区の名称を振りなおすことなく調査時のものを踏襲した。

〔現地調査〕調査地では、旧吹田操車場造成時のものと考えられる厚さ約1mの盛土が全面に亘って確認された。調査ではまずこの盛土を機械掘削で除去した。また様々な攪乱についても、機械により除去した。その後、旧吹田操車場が造成される直前の旧表土の作土層も機械により掘削し、続いてスコップ・鋤簾等を使った人力による遺物包含層の掘削、遺構面の精査によって遺構を検出し、遺構面・遺構の確認及び遺物の回収に努めた。遺物の取り上げ、遺構図面の作成、写真撮影等の作業については、当センター作成マニュアル『遺跡調査基本マニュアル』2010に準拠して行った（写真2）。

〔地区割・遺物取り上げ〕地区割については、世界測地系に則った平面直角座標系第VI系を基準とし、I～Vの大小5段階の区画を設定した（図6）。これは大阪府内全域に共通する地区割である。第I区画は大阪府の南西部を通るX=-192,000、Y=-88,000を起点に、府域を南北15（A～O）、東西9（0～8）区画に分割したもので、一区画は南北6km、東西8kmとなる。第II区画は第I区画を東西、南北各4分割の、計16区画（1～16）に分けたもので、一区画は縦1.5km、横2.0kmとなる。第III区画は第II区画を東西20分割（1～20）、南北15分割（A～O）する一辺100mの区画である。第IV区画は第III区画をさらに東西、南北ともに10分割（東西1～10、南北a～j）した一辺10mの区画である。第V区画は第IV区画をさらに「田」の字状に4分割したもので、一辺5mの区画である。

上記の方法で区画した場合、吹田操車場遺跡で使用する第I・II区画は、「J5（第I区画）-7（第II区画）」及び「J5-8」、明和池遺跡で使用する第I・II区画は、「J5（第I区画）-8（第II区画）」及び「J5-12」となる。

遺物の取り上げ作業は、この地区割を用い、基本的に第IV区画の10m区画ごとに行ったが、必要に応じて更に細分した第V区画を用いた。遺物取り上げ用ラベルへの記入は、煩雑となるため第I・II区画は省略し、第III区画以降を記入した。

〔写真撮影〕遺構の写真撮影は、6×7カメラ、35mmカメラを使用し、それぞれ黑白フィルム、リバーサルフィルムを用いた。また、写真台帳作成用にデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区の全景を撮影するような場合には、作業ヤードに制約されず機動性の良さを考慮した、高所作業車を利用して高位置からの写真撮影を行った（写真2）。

〔遺構図作成〕遺構全体の平面測量は、吹田操車場遺跡09-3・明和池遺跡10-1の調査ではヘリコプターによる空中写真測量を行い、それ以外の調査ではクレーンによる空中写真測量を行い、50分の1の平面図とそれを縮小編纂した100分の1の遺構全体図を作成した。それとは別に、平板やエスロンテ

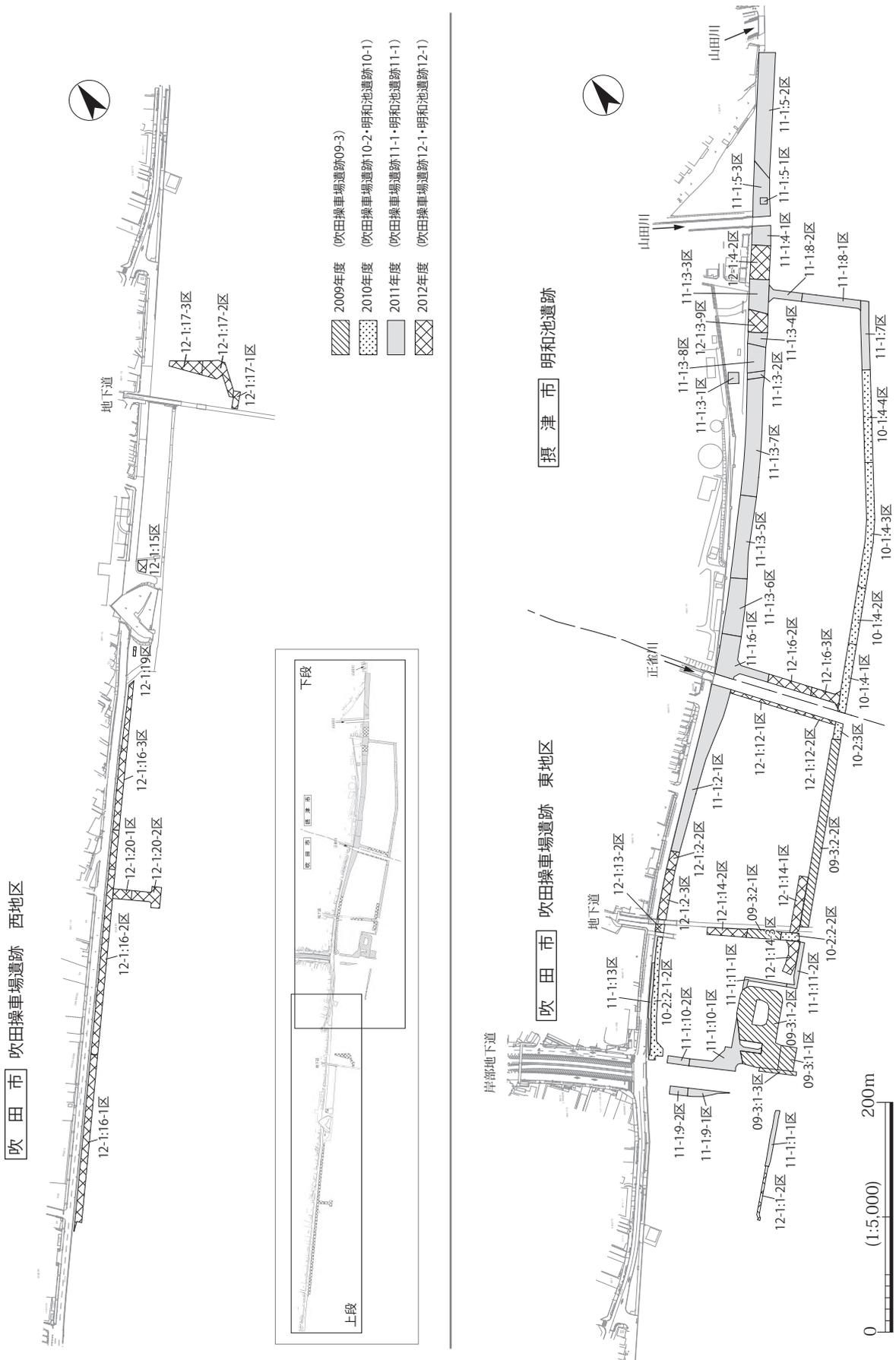


図5 調査区配置図

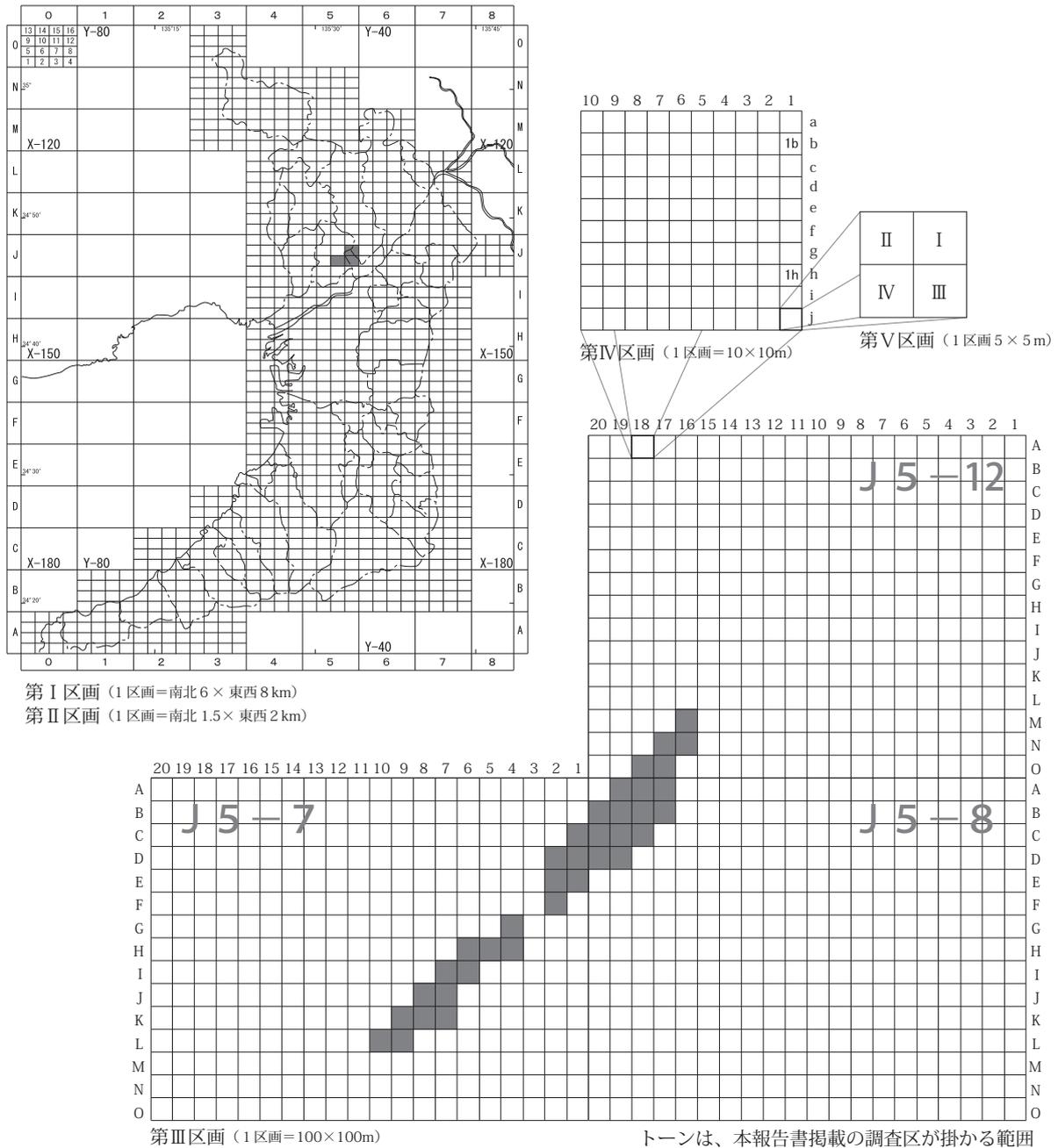


図6 地区割図

ープ、メジャーを使用した図面作成を適宜行った。遺物出土状況等各遺構の詳細図面や、土の堆積状況を示す断面図等については、必要に応じ20分の1・10分の1の図面を作成した。これらの遺構図面はすべて世界測地系に準拠して作成している。方位は座標北を使用し、水準はすべて東京湾平均海面(T.P.)を用いた(写真2)。

〔遺構番号〕平成21(2009)年度調査では、1区と2区の調査区ごとに遺構の種類にかかわらず、1～通しで振り、遺構の種類は遺構番号の後ろに付した。「1溝」、「2土坑」、「3ピット」という具合である。その際、2区で検出した遺構を判別しやすくするため、2001～の番号を与えた。平成22(2010)年度調査では、吹田操車場遺跡10-2調査区で1～、明和池遺跡10-1調査区で1～の番号を与えた。平成23(2011)年度調査・平成24(2012)年度調査では、調査区ごとに3桁の通し番号を付し、その番

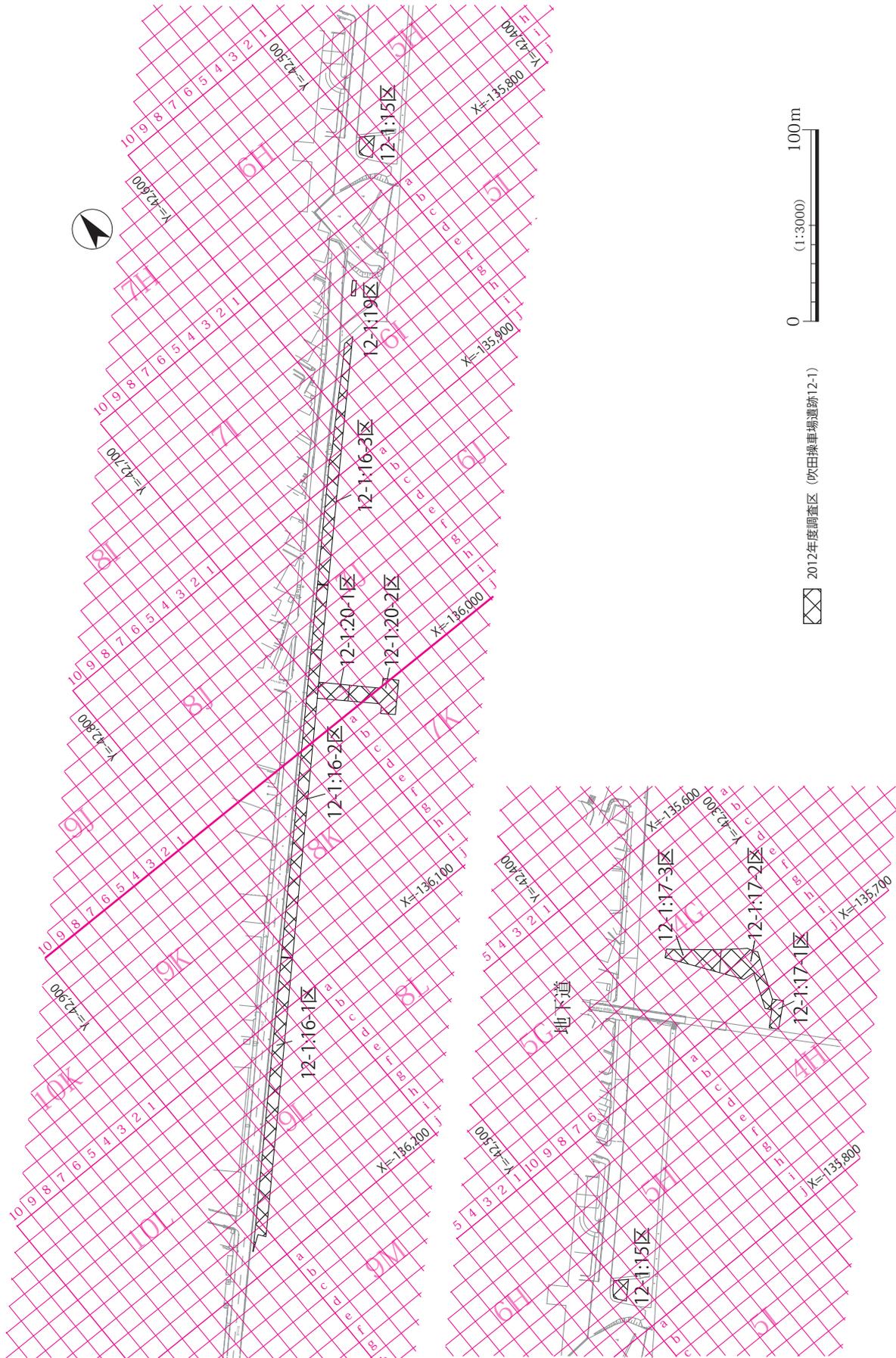


図7 吹田操車場遺跡 西地区 地区割図

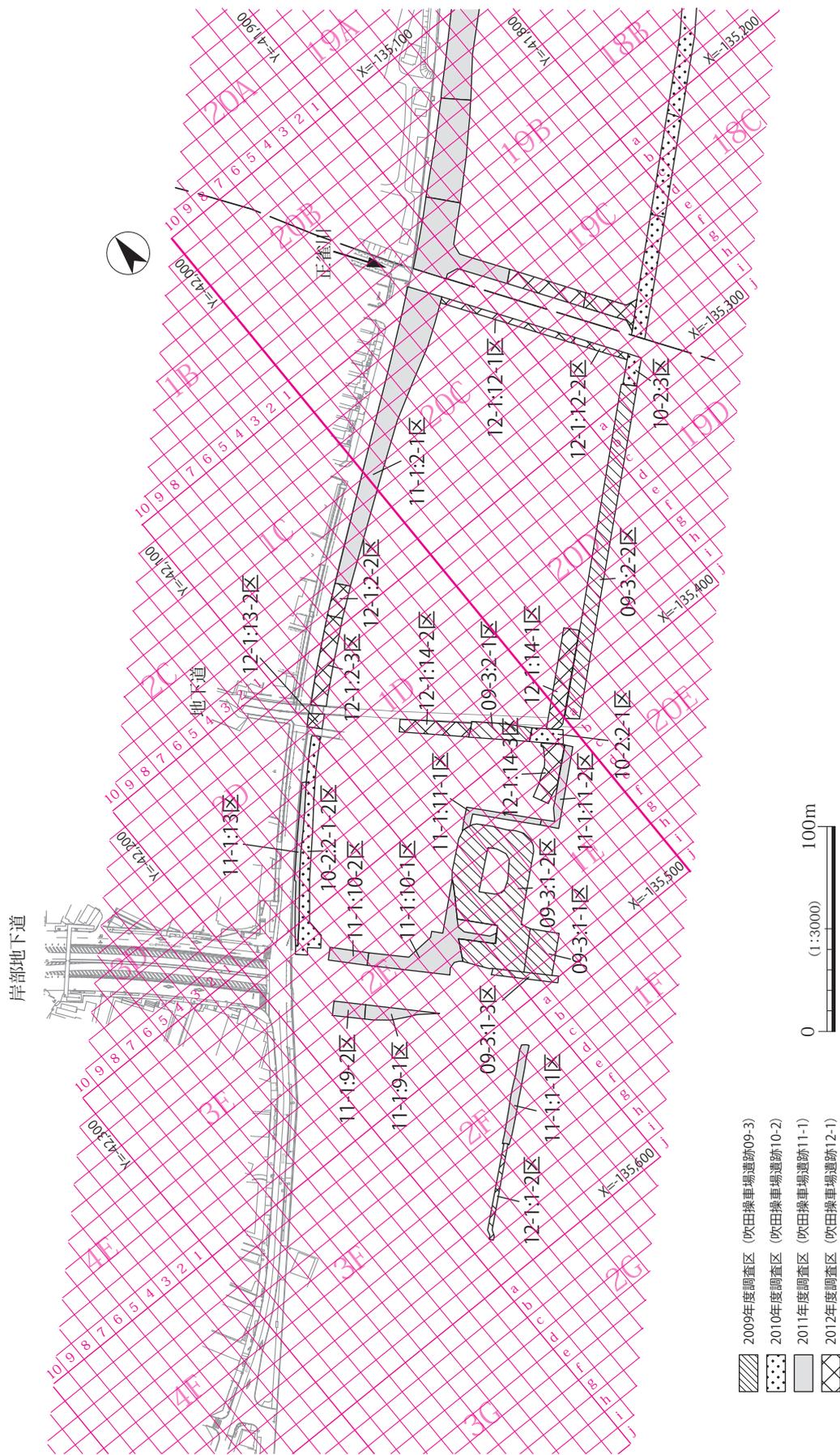


図8 吹田操車場遺跡 東地区 地区割図

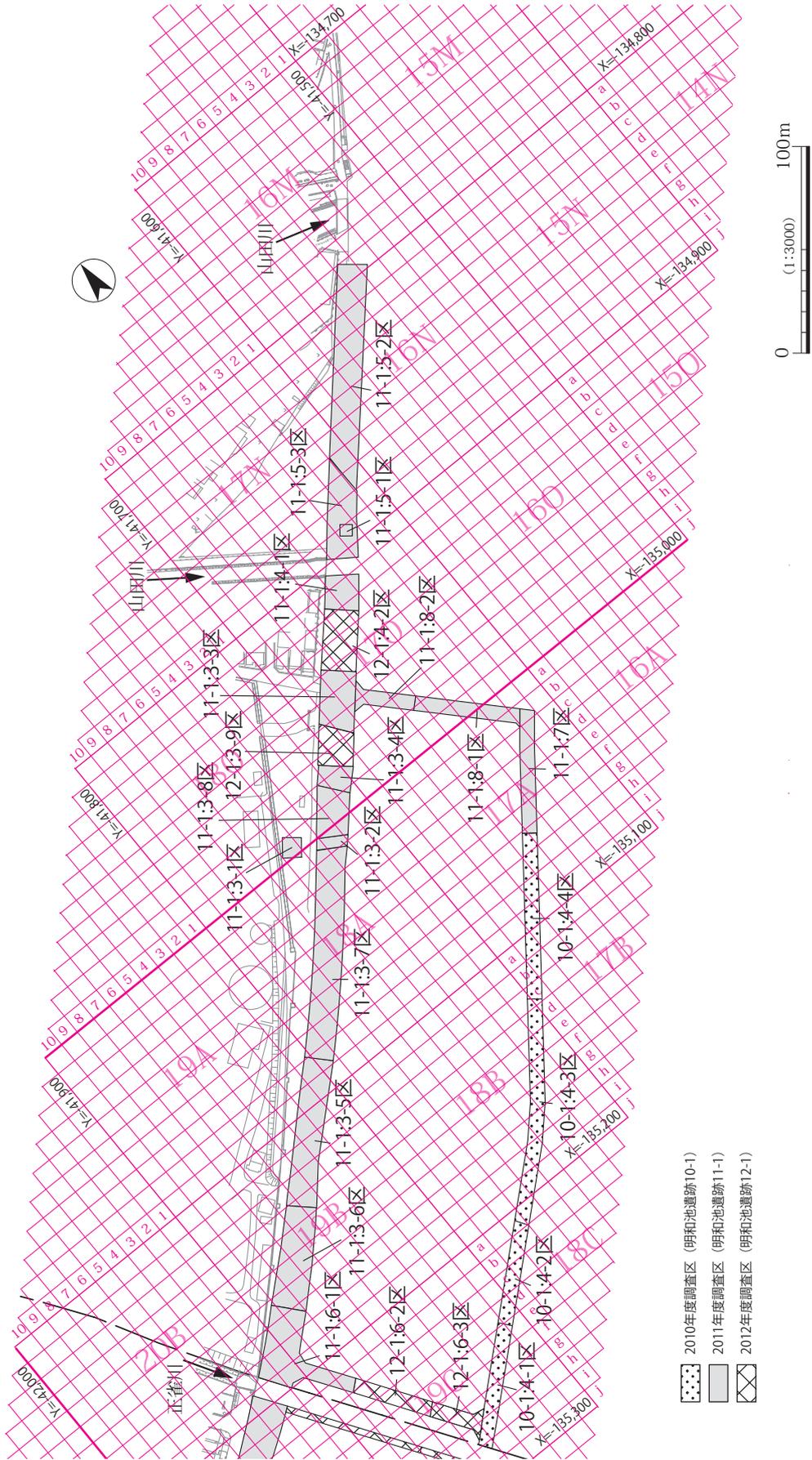


図9 明和池遺跡 地区割図

号の頭に調査区名の数字を付すようにした。すなわち、1区で検出した遺構の場合は1001～、2区で検出した遺構の場合は2001～、10区で検出した遺構の場合は10001～、11区で検出した遺構の場合は11001～、という具合である。ただし複数の遺構の集合体である竪穴建物や掘立柱建物などについては、「竪穴建物1」のように前に遺構種類を標記し、後ろに番号を付している。なお、調査の際にはすべての遺構に遺構番号を付していなかったため、整理作業の段階で新たに振り足したものがある。

ところが、整理作業において4ヵ年分をまとめて報告することになったため、重複する遺構番号が生じる事態となった。そこで、平成21(2009)年度調査の1区検出遺構には頭にAを付しA0001～の遺構番号とし、平成21(2009)年度調査の2区検出遺構には頭にBを付しB2001～の遺構番号とし、平成22(2010)年度調査の吹田操車場遺跡10-2検出遺構には頭にCを付しC0001～の遺構番号とし、平成22(2010)年度調査の明和池遺跡10-1検出遺構には頭にDを付しD0001～の遺構番号とすることで、重複する遺構番号をなくし、本報告書においては唯一の遺構番号として報告することとした。

第2節 整理作業

整理作業の対象となった遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、灰釉陶器、緑釉陶器、陶磁器類、製塩土器、瓦、木製品、石製品、土製品、金属製品等である。これらの整理作業も、上述の当センターマニュアルに準拠して行った。

遺物は洗浄し、遺物登録台帳と照合できるように注記作業を行った。遺物への注記は、吹田操車場遺跡出土品は「スイタソウシャ 09-1-□」「スイタソウシャ 10-2-□」「スイタソウシャ 11-1-□」「スイタソウシャ 12-1-□」(□は遺物登録番号)とし、明和池遺跡出土品は「メイワイケ 10-1-□」「メイワイケ 11-1-□」「メイワイケ 12-1-□」(□は遺物登録番号)として各遺物に記入した。破片が小さく記入できない場合や木製品等は、登録番号がわかるよう袋にまとめ、ラベルとともに封入した。

出土遺物は登録番号ごとにデジタルカメラで撮影し、台帳に登録した。その後、遺構ごと、また包含層出土遺物については、近隣の地区とも確認しながら接合作業を行い、必要に応じて石膏を用いた遺物復元作業を行った。同時に実測可能な遺物をピックアップし、ピックアップしたものは順次実測作業を行い、瓦等については拓本をとった。

上記の手順で作成した遺物実測図は、吹田操車場遺跡出土品については、スキャナーで原図を取り込み、Adobe社製IllustratorCS2を用いてトレースし、必要に応じてデジタル化した拓本などのデータを貼り込み、挿図を作成した。明和池遺跡出土品については、版下を作成し製図ペンのロットリングを使用してトレースを行った。

遺構図のうち平面図については、空中写真測量によって全体図が既にデジタル化されていたため、必要な箇所を拡大・加工し、遺構平面図を作成した。主要遺構については、現地で作成した実測図を編集し、遺物同様の手順でデジタルトレースし、挿図を作成した。

現地で撮影した遺構面及び個別遺構の写真に関しては、報告書に掲載するものを選別し、現像・焼付け作業を行った。また、出土遺物については、報告書に掲載するものを選別し実測作業の後、写真撮影を行い、現像・焼付け作業に入った。遺物写真については、中部調査事務所の写真室において撮影を行った。以上の作業と併行して報告文を作成し、編集作業を行った。また、編集作業と併行して出土遺物は報告書掲載遺物と未掲載遺物に分類し、収納作業を行った。併せて、現地にて作成した遺構図面や撮影した遺構写真の整理・収納を行い、これらも台帳に登録し、整理作業を完了した(写真3)。



写真2 現場作業風景

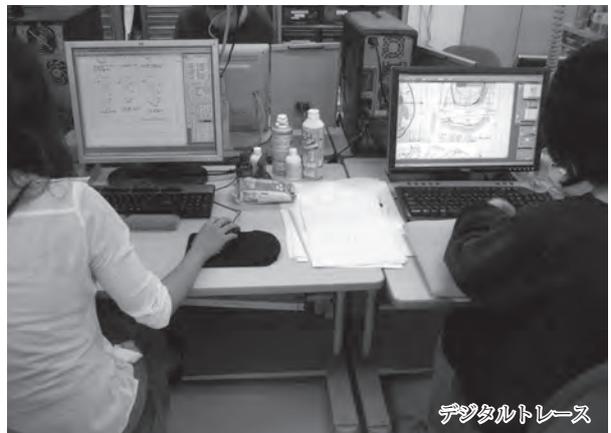


写真3 整理作業風景

第4章 既往調査区の成果

〔吹田操車場遺跡〕（図10・11、表2）

吹田操車場遺跡は、昭和42（1967）年の吹田操車場における改良工事により確認された。その際は、現在の岸部中1丁目付近を中心に展開する遺跡として認識され、遺跡の年代も13世紀前半～14世紀代の中世を主体としていた（吹田市史編さん委員会編1981）。

平成10（1998）年、当時の日本国有鉄道清算事業団近畿支社によって、JR梅田貨物駅の機能の半分を吹田操車場跡地へ移転する計画が持ち上がった。同社は大阪府教育委員会と協議の後、移転用地内全域を対象として確認調査を実施することとなった。調査は当センター（当時は（財）大阪府文化財調査研究センター）に委託され、遺跡の範囲、遺構の有無、遺構面の数、遺構の種類等を確認するため、61箇所及ぶトレンチ調査が実施された。この調査の結果、操車場建設時の盛土によって保護される形で遺構がほぼ全域に残っていることがわかり、旧石器から近世に至る幅広い時代の複合遺跡であることが判明した（大文セ1999）。

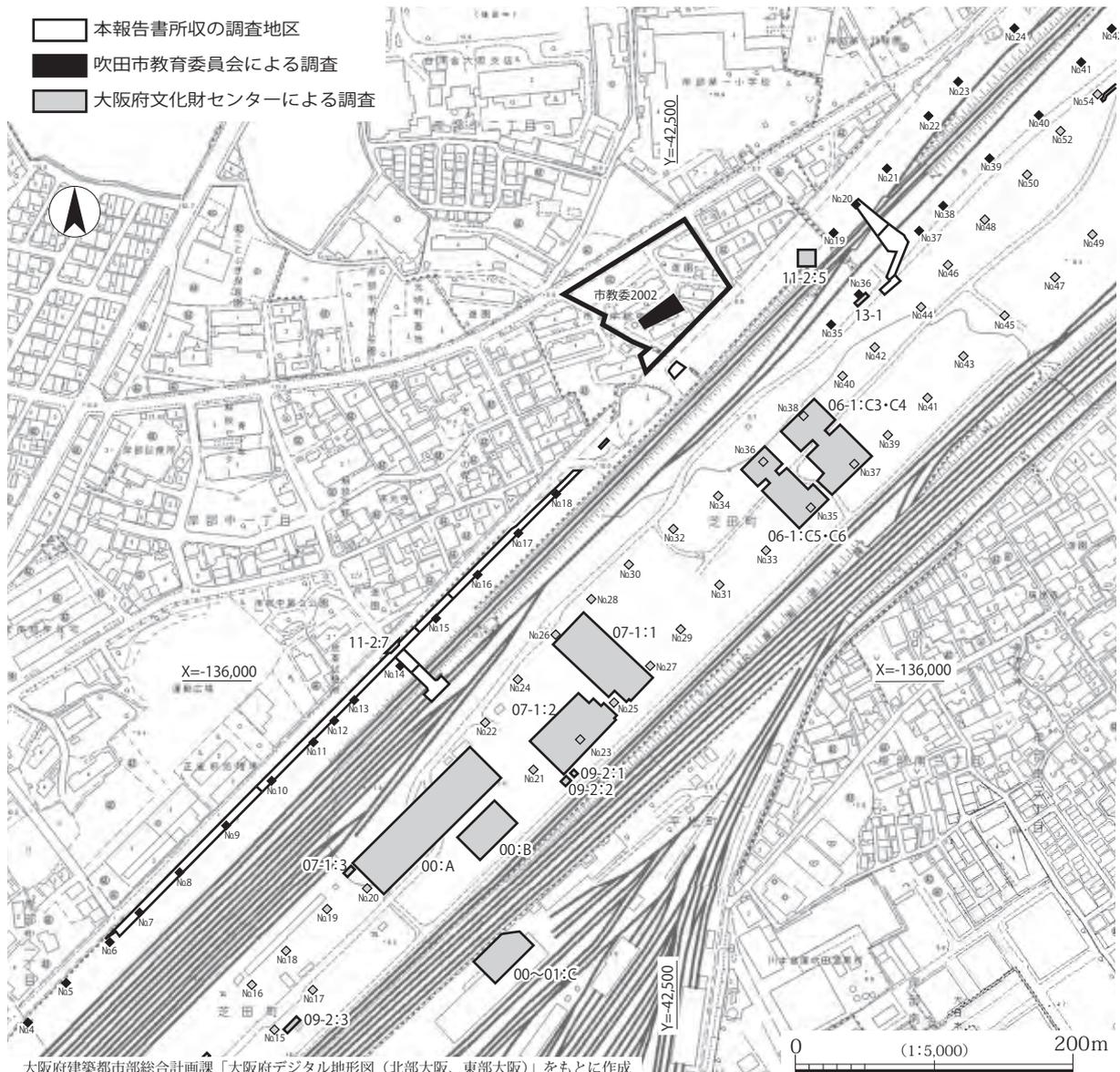
その後、平成12（2000）年に日本鉄道建設公団国鉄清算事業本部西日本支社は、吹田信号場駅基盤整備工事による貨物駅舎及び倉庫等の建設に際して、上記の調査結果をふまえ、大阪府教育委員会と協議を行い、開発予定地の発掘調査を当センターが実施することとなった。A地区では古墳時代前期の大溝、平安時代後期の掘立柱建物や条里型水田が検出されている。B地区では古代末から中世にかけての複数の遺構面を検出し、畦畔等が確認され耕作地であったことが明らかとなった（大文セ2001）。

この調査と併行し、吹田操車場の南側に位置する貨車区の改良工事を行うこととなり、建替えの対象となった貨車庫の確認調査を大阪府教育委員会文化財保護課が実施した。その結果、新たな遺跡の発見となり、吹田操車場遺跡B地点として当センターが発掘調査を実施した。吹田操車場遺跡B地点では谷地形を検出し、埋土最下層から鬼界アカホヤ火山灰が検出された。このことから谷の形成が7300年前以前であることが判明している（大文セ2001）。

平成13（2001）年には吹田市教育委員会によって、吹田市岸部中住宅建替工事に伴う事前調査が実施され、8箇所の試掘調査がなされた。平成14（2002）年には拡大調査が行われ、北西から東南方向の谷状地形や流路群が検出されている。主な出土遺物には中世遺物と弥生土器等があり、特に東海系の弥生土器が比較的多く出土していることは注目される（吹田市2004）。

平成18・19（2006・2007）年には吹田信号場駅基盤整備工事に伴い、調整池が造成されるC1・C2地区、C3・C4地区、C5・C6地区の調査を当センターが実施した。その結果、C1・C2地区からは古墳時代後期から飛鳥・奈良時代にかけての群集土坑、飛鳥・奈良時代及び平安時代の掘立柱建物が検出されている。主な出土遺物に、土坑出土の円面硯、包含層出土の墨書土器、緑釉・灰釉陶器等がある。C3・C4地区、C5・C6地区では、古墳時代に流路であった場所が、古代には湿地状になり、古代末に新たな流路と落込みが形成され、その後盛土が施され平坦化するという土地の利用変遷を考える上で重要な成果があった。なお、古墳時代の流路からは山陰系の土師器がまとまって出土しており、地域交流を考える上で重要な資料として注目される（大文セ2008）。さらに付言すれば、この流路は前述の吹田市教育委員会による調査で検出されたものと同じの流路である可能性が高いものであろう。

平成19・20（2007・2008）年には吹田信号場駅基盤整備工事に伴い、調整池造成箇所4箇所（C7～



大阪府建築都市部総合計画課「大阪府デジタル地形図（北部大阪、東部大阪）」をもとに作成

吹田市教育委員会による調査の番号は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 吹田市教育委員会 2008『吹田操車場遺跡確認調査報告書』による。市教委 2002 は吹田市都市整備部・吹田市教育委員会 2004『吹田操車場遺跡』による。

大阪府文化財センターによる調査の番号は、大阪府文化財調査研究センター 1999『吹田操車場遺跡』（調査報告書第 42 集）による。それ以外は大阪府文化財センターが管理する調査番号-調査区とし、調査番号 00 は大阪府文化財調査研究センター 2001『吹田操車場遺跡・吹田操車場遺跡 B 地点』（調査報告書第 66 集）、06-1 は大阪府文化財センター 2008『吹田操車場遺跡Ⅲ』（調査報告書第 180 集）、07-1 は大阪府文化財センター 2010『吹田操車場遺跡Ⅳ』（調査報告書第 201 集）、09-2 は大阪府文化財センター 2010『吹田操車場遺跡Ⅳ』（調査報告書第 201 集）及び大阪府文化財センター 2011『吹田操車場遺跡Ⅴ』（調査報告書第 216 集）、11-2 は大阪府文化財センター 2012『明和池遺跡 1・吹田操車場遺跡 8・西の庄東遺跡』（調査報告書第 232 集）、13-1 は大阪府文化財センター 2013『吹田操車場遺跡 9』（調査報告書第 240 集）による。

図 10 吹田操車場遺跡 既往調査区位置（西地区周辺）

C10)・防火水槽 4 箇所 (B3～B7)・導水路部分を、平成 21・22 (2009・2010) 年にかけて J R 第二・第三職員通路部付け替えや南北自由通路、岸辺駐車場部分の調査を当センターが実施した。平成 19・20 (2007・2008) 年の調査では弥生時代の土坑、古墳時代の溝や井戸、平安時代の集落を確認し、掘立柱建物や溝、井戸などが検出された。また、中世になると広範に耕地が広がるようになった。主な出土遺物には七尾瓦窯・吉志部瓦窯産の軒丸瓦、陶棺、越州窯青磁碗、緑釉・灰釉陶器などがある。特に越州窯青磁は、大阪府下でも出土遺跡数・出土点数ともに極めて少ない注目すべき資料である (大文セ 2010)。

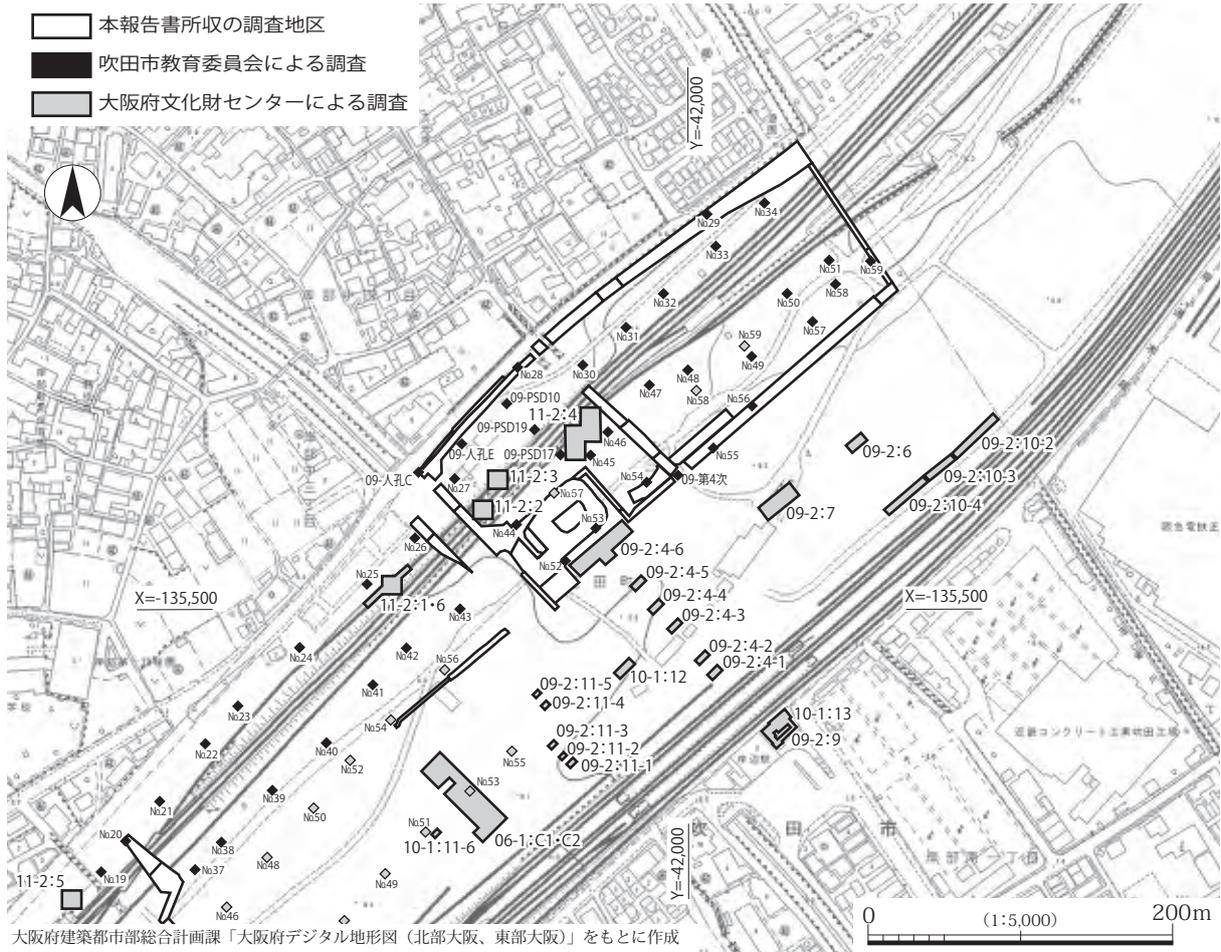
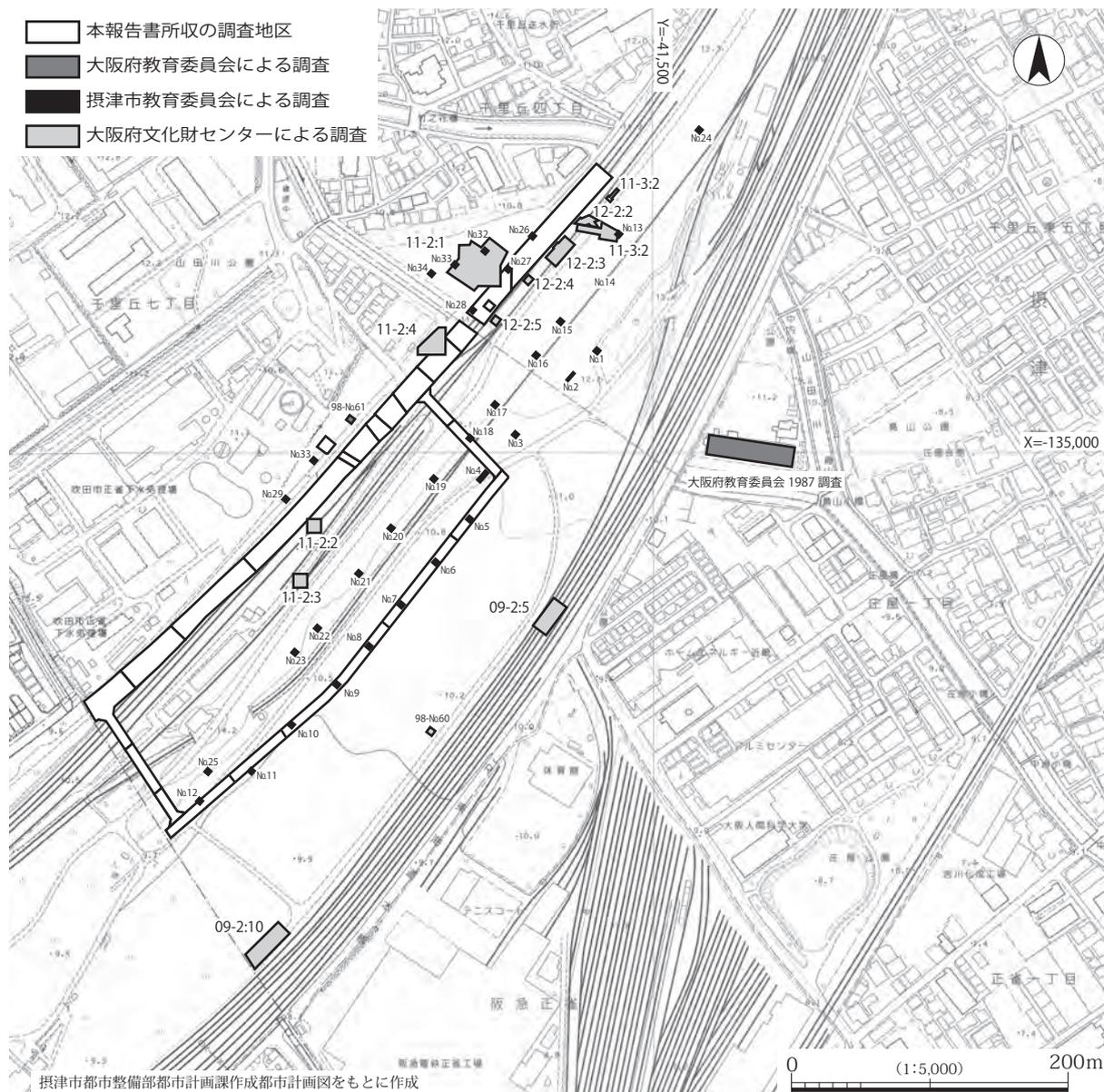


図 11 吹田操車場遺跡 既往調査区位置（東地区周辺）

平成 19（2007）年には吹田市教育委員会により、操車場跡地内のまちづくり用地の確認調査が 59 箇所のトレンチを設けて行われた。その結果、谷状地形のほか、中世以前の可能性がある農耕関連溝や、飛鳥時代の建物跡、平安時代のピット、古墳時代後期の大型土坑のまとまり等が検出された。遺物では国府型ナイフ形石器、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての焼成不良須恵器や飛鳥時代の陶硯片等が出土している（吹田市教育委員会 2008）。

平成 21（2009）年～平成 23（2011）年にかけては、吹田信号場駅基盤整備工事に伴う調査に関して JR 第二・三職員通路部の付け替え・南北自由通路部分・連絡地下道改築・保線検修庫部分・モーターカー検修庫部分・通信ケーブル防護管発信立坑部分・導水路到達立坑部分・岸辺駅駐車場部分（吹田操車場遺跡 C 地点として新たに遺跡発見となった）の調査を当センターが実施した。これらの調査では、弥生時代に属する井戸等が検出されており、付近に当該期の集落が存在する可能性を示す成果があった。また、これまでの調査で多数確認されている群集土坑も検出されており、その範囲がさらに拡がることが確認された。古代においては掘立柱建物が検出され集落の存在が確認された。また吹田操車場遺跡 C



摂津市都市整備部都市計画課作成都市計画図をもとに作成

摂津市教育委員会による調査の番号は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 摂津市教育委員会 2009『明和池遺跡確認調査報告書』による。大阪府文化財センターによる調査の番号は、大阪府文化財センターが管理する調査番号-調査区とし、調査番号 98 は大阪府文化財調査研究センター 1999『吹田操車場遺跡』(調査報告書第 42 集)、09-2 は大阪府文化財センター 2011『吹田操車場遺跡 V』(調査報告書第 216 集)、11-2 は大阪府文化財センター 2012『明和池遺跡 1・吹田操車場遺跡 8・西の庄東遺跡』(調査報告書第 232 集)、11-3・12-2 は大阪府文化財センター 2012『明和池遺跡 2』(調査報告書第 226 集)による。

図 12 明和池遺跡 既往調査区位置

地点では、中世の土坑墓を検出しており、完形の白磁碗等が出土している(大文セ 2011a)。

更に同年、吹田操車場遺跡の西端において、吹田信号場駅基盤整備工事(貨物専用道路)に伴う発掘調査を当センターが実施している。その結果、弥生時代に属する土坑を複数検出し、当該期の土器も出土していることから周辺に弥生時代の集落が存在する可能性を示す成果があった。また、古墳時代には 6 世紀に属すると考えられる直線的な溝が検出されている。当地における条里型水田の施工方位と異なるものであることから、古代における開発を考える上で重要な成果があった(大文セ 2011b・c)。

吹田操車場遺跡は広範な遺跡であり、旧石器時代から中近世に至るまで連綿と成されてきた人類の活動の記録が大地に累々と刻まれていることを、これまでの調査で明らかにしている。

〔明和池遺跡〕（図12、表3）

明和池遺跡は、昭和8（1933）年に庄屋1丁目にあった明和池の底から古墳時代の須恵器が発見されたことにより周知されるようになった。その際出土した須恵器は、窯で焼かれた不良品の可能性が指摘されている（摂津市史編さん委員会編1977）。

昭和62（1987）年、千里丘東5丁目においてマンション建設に先立ち、摂津市教育委員会と大阪府教育委員会による調査が実施されている。地表下2.5～3.0mの盛土の下で、およそ1.5mの堆積層の中に弥生時代～戦国時代に至る7時期の遺構・遺物が確認されている。最も古いものでは弥生時代中期に属する土器が出土しているが、当該期の遺構は検出されていない。その後の時期では、弥生時代末～古墳時代前期に属する小河川が2条検出され、古墳時代後期に属する集落も見つかっている。また、平安時代～室町時代にかけての遺構が検出されており、当該期の所産と考えられる石製の丸軋が出土していることから、当地に拠点を置く有力者の存在が推定されている。戦国時代に属する条里型地割の坪境と考えられる大溝も検出されている（広報せつつ第357号1988）。

平成10（1998）年の当センターによる確認調査61トレンチのうち、2箇所が明和池遺跡に位置しており、うち1箇所でも弥生時代後期～中世にかけての遺構・遺物を確認している（大文セ1999）。

平成19・20（2007・2008）年には、摂津市教育委員会によって操車場跡地内のまちづくり用地の確認調査が33箇所のトレンチを設けて実施されている。その結果、建物は検出されていないが古墳時代～近代の井戸や土坑、落込み等の遺構が検出された。遺物では、弥生時代後期～古墳時代前期の土師器や古墳時代～古代の須恵器、7世紀の所産になると考えられる土馬等、弥生時代～近世の遺物が確認されている。主に山田川に近い東半部において遺構・遺物が多く確認されている傾向が看取される（摂津市教育委員会2009）。

平成23（2011）年には吹田信号場駅基盤整備工事に伴い、汚染土ほか撤去に伴う調査を当センターが実施した。その結果、1区において自然流路が検出され、弥生時代前期の所産になる土器が少量ではあるが出土したことから、北方に当該期の集落の存在が予想されている。また、同じ流路では弥生時代後期～古墳時代前期の所産になる土器が多量に出土しており、北方もしくは東方において当該期の集落が展開する可能性が示された。その他、古代に属する井戸や中世後半に属する井戸・土坑等が検出されている。なかでも中世後半においては、北摂地域では類例のない円筒形の瓦質土器を井戸枠として用いた井戸が検出されている。また、中世後半に属する多くの土坑やピット、多量に出土した瓦類から瓦葺建物の存在が指摘されている。前述の井戸中から「定継法師」と線刻された丸瓦が出土していることから、寺院の敷地や有力者の邸宅であった可能性が示されている（大文セ2012b）。

平成24（2012）年には防災公園街区整備事業に伴う調査を当センターが実施した。その結果、弥生時代末に属する竪穴建物やそれに伴う遺構群が検出された。古墳時代では井戸や土坑が検出されている。特に古墳時代中期の所産になる須恵器がまとまって出土した土坑は、これまで見つからない時期の遺構であり注目される。その他、平安時代に属する総柱の掘立柱建物が検出されており、周辺における建物群の存在が推定される成果があった（大文セ2012a）。

明和池遺跡の調査は、吹田操車場遺跡の調査に比べれば、まだ緒に就いたところではあるが、山田川流域の微高地に、弥生時代以降、連綿と人々が生活を営んでいた状況がこれまでの調査で明らかになってきている。

表2 吹田操車場遺跡 調査一覧

| 調査原因 | 所在地 | 調査機関（大文セ調査名） | 調査期間 | 主な成果 | 備考 | 文献 |
|---|-------------|----------------------------------|---------------------|--|---|----------|
| 吹田操車場における改良工事 | 岸部中1丁目付近 | | 1967 | | | 吹田市1981 |
| JR 梅田貨物駅の機能の移転 | 吹田市芝田町 | 財団法人大阪府文化財調査研究センター | 1998.10～12 | | 61箇所のトレンチ調査 | 大文セ1999 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 吹田市芝田町 | 財団法人大阪府文化財調査研究センター（吹田操車場遺跡（その2）） | 2000.3～9 | 古墳時代から古代にかけての直線をなす溝を検出、平安時代の掘立柱建物と条里型水田を検出 | 倉庫部分をA地区、駅舎部分をB地区として調査 | 大文セ2001 |
| 吹田地区貨車区改良工事 | 吹田市平松町 | 財団法人大阪府文化財調査研究センター（吹田操車場遺跡（その3）） | 2000.9～2001.3 | 谷状地形内から鬼界アカホヤ火山灰を検出 | 旧貨車庫3号部分をC地区として調査。新規発見の遺跡として周知→吹田操車場遺跡B地点 | 大文セ2001 |
| 市営住宅の建替工事 | 吹田市岸部中1丁目地内 | 吹田市教育委員会 | 2001.6 2002.9～11 | 谷状地形と流路群の検出、中世土器と弥生土器を検出、弥生土器は中期後半～後期にかけて、東海系の土器が一定量含まれる | 第1次調査 | 吹田市2004 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 吹田市芝田町他地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（06-1）） | 2006.8～2007.6 | 群集土坑約300基と付随する建物を検出、後期難波宮所用瓦の出土、自然流路から外来系の古式土師器出土 | 6箇所の調整池とそれを結ぶ導水管部分の調査 | 大文セ2008 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 吹田市芝田町他地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（07-1）） | 2007.5～2008.11 | 古代以前の直線的な溝（道路側溝？）、平安時代の掘立柱建物、柵列などを検出し当該時期の集落を検出 | 調整池4箇所、防火水槽4箇所、導水路部分を調査 | 大文セ2010 |
| 吹田操車場跡地地区（仮称）の整備事業（操車場跡地内のまちづくり用地にかかわる調査） | 吹田市芝田町他 | 吹田市教育委員会 | 2007.12～2008.7 | №54・55トレンチ陶硯片出土 | 第2次調査 59箇所のトレンチ調査 | 吹田市2008 |
| 個人住宅 | 吹田市天道町 | 吹田市教育委員会 | 2009.1 | | | 吹田市2010a |
| 下水道設置工事の立坑・污水枡設置 | 吹田市芝田町他 | 吹田市教育委員会 | 2009.1 2009.4～6 | PSD19トレンチ陶硯片出土（第2次調査時のものと接合） | 第3次調査 | 吹田市2010b |
| 吹田信号場駅基盤整備工事（貨物専用道路） | 吹田市片山町1丁目地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（09-1）） | 2009.4～2010.7 | 平安時代の木棺墓あり | | 大文セ2011b |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 吹田市芝田町他地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（09-2）） | 2009.5～7 | 中世の掘立柱建物を検出 | JR第2・第3職員通路部付け替え（ポンプ施設部含む）部分の調査 | 大文セ2010 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 吹田市芝田町他地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（09-2）） | 2009.7～2010.3 | 群集土坑を検出、平安時代の掘立柱建物検出、弥生時代の遺構あり | 南北自由通路部分ほか各施設部分を調査 | 大文セ2011a |
| 下水道設置工事の立坑 | 吹田市芝田町他 | 吹田市教育委員会 | 2009.9～10 | | 第4次調査 約90㎡ | 吹田市2010 |
| 吹田操車場跡地土地区画整理事業 | 吹田市芝田町地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（09-3）） | 2009.10～2010.3 | | | 本報告書 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 吹田市芝田町他地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（10-1）） | 2010.4～8 | 溝から弥生時代後期の土器がまとまって出土 | 職員通路ほか部分の調査 | 大文セ2011a |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 吹田市岸部南1丁目 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（10-1）） | 2010.4～8 | 平安時代の土坑墓検出・白磁完形品あり、7世紀代の土坑、溝あり | 新規発見の遺跡として周知→吹田操車場遺跡C地点 | 大文セ2011a |
| 吹田操車場跡地土地区画整理事業 | 吹田市芝田町地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（10-2）） | 2010.6～2011.3 | | | 本報告書 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事（貨物専用道路） | 吹田市片山町1丁目地内 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（10-3）） | 2010.8～2011.2 | 6世紀代の直線的な区画溝あり | | 大文セ2011c |
| 個人住宅 | 吹田市片山町 | 吹田市教育委員会 | 2010.11 | | | 吹田市2011 |
| 吹田操車場跡地土地区画整理事業 | 吹田市芝田町地内 | 公益財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（11-1）） | 2011.4～2012.3 | | | 本報告書 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事（貨物専用道路） | 吹田市芝田町地内 | 公益財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（11-2）） | 2011.7～9 | 群集土坑、7世紀後半の区画溝 包含層から風字硯？出土 | 汚染土撤去に伴う調査（7箇所のトレンチ） | 大文セ2012 |
| 吹田操車場跡地土地区画整理事業 | 吹田市芝田町地内 | 公益財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（12-1）） | 2012.4～2013.3 | | | 本報告書 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事（墓地造成工事） | 吹田市芝田町地内 | 公益財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（13-1）） | 2013.5 | | | 大文セ2013 |

表3 明和池遺跡 調査一覧

| 調査原因 | 所在地 | 調査機関（大文セ調査名） | 調査期間 | 主な成果 | 備考 | 文献 |
|---|----------|-------------------------------|----------------|--|----------------------------------|----------|
| マンション建設 | 千里丘東5丁目 | 摂津市教育委員会 大阪府教育委員会 | 1987 | 弥生時代から戦国時代にいたる7時期確認、石製丸軋出土 | | 広報せつつ |
| JR梅田貨物駅の機能の移転 | 摂津市7丁目 | 財団法人大阪府文化財調査研究センター | 1998.10～12 | | 61箇所のトレンチ調査のうち2箇所が摂津市域（No.60・61） | 大文セ1999 |
| 吹田操車場跡地地区（仮称）の整備事業（操車場跡地内のまちづくり用地にかかわる調査） | 千里丘7丁目地先 | 摂津市教育委員会 | 2007.12～2008.6 | 弥生土器、古式土師器、土馬ほか出土 | 計33箇所のトレンチ調査 | 摂津市2009 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事 | 千里丘7丁目 | 財団法人大阪府文化財センター（吹田操車場遺跡（09-2）） | 2009.7～2010.3 | 大量の汽車土瓶、石炭 | マルチイ検修庫部分 | 大文セ2011 |
| 吹田操車場跡地土地区画整理事業 | 千里丘7丁目 | 財団法人大阪府文化財センター（明和池遺跡（10-1）） | 2010.6～2011.3 | | | 本報告書 |
| 吹田操車場跡地土地区画整理事業 | 千里丘7丁目 | 公益財団法人大阪府文化財センター（明和池遺跡（11-1）） | 2011.4～2012.3 | | | 本報告書 |
| 吹田信号場駅基盤整備工事（貨物専用道路） | 千里丘7丁目 | 公益財団法人大阪府文化財センター（明和池遺跡（11-2）） | 2011.4～6 | 15～16世紀の井戸（定継？法師の線刻あり）、8世紀中～後期の木枠井戸、弥生時代後期～庄内式期流路、弥生時代前期土器少量出土 | 汚染土撤去に伴う調査（4箇所のトレンチ） | 大文セ2012b |
| 防災公園街区整備事業 | 千里丘7丁目 | 公益財団法人大阪府文化財センター（明和池遺跡（11-3）） | 2012.1～2 | 9～10世紀初頭の総柱掘立柱建物、弥生時代終末の竪穴建物、古墳時代中期の遺構・遺物あり | | 大文セ2012a |
| 吹田操車場跡地土地区画整理事業 | 千里丘7丁目 | 公益財団法人大阪府文化財センター（明和池遺跡（12-1）） | 2012.4～2013.3 | | | 本報告書 |
| 防災公園街区整備事業 | 千里丘7丁目 | 公益財団法人大阪府文化財センター（明和池遺跡（12-2）） | 2012.8～9 | 8世紀代の井戸、5世紀後半の土坑 | | 大文セ2012a |

※当センター発行の報告書は大文セと略した。

吹田操車場遺跡 文献

吹田市史編さん委員会編 1981『吹田市史 第8巻』

吹田市都市整備部・吹田市教育委員会 2004『吹田操車場遺跡―市営岸部中住宅建替工事に伴う発掘調査報告書―』

吹田市教育委員会 2008『吹田操車場遺跡確認調査報告書―吹田操車場跡地地区（仮称）の整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査―』

吹田市教育委員会 2010a『平成21（2009）年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』

吹田市教育委員会 2010b『吹田市埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』

吹田市教育委員会 2011『平成22（2010）年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』

財団法人大阪府文化財調査研究センター 1999『吹田操車場遺跡―吹田（信）基盤整備工事に伴う吹田操車場遺跡発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第42集

財団法人大阪府文化財調査研究センター 2001『吹田操車場遺跡・吹田操車場遺跡B地点―吹田信号場駅基盤整備工事・吹田地区貨車区改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第66集

財団法人大阪府文化財センター 2008『吹田操車場遺跡Ⅲ―吹田信号場駅基盤整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財センター調査報告書 第180集

財団法人大阪府文化財センター 2010『吹田操車場遺跡Ⅳ―吹田（信）基盤整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財センター調査報告書 第201集

財団法人大阪府文化財センター 2011a『吹田操車場遺跡Ⅴ―吹田（信）基盤整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財センター調査報告書 第216集

財団法人大阪府文化財センター 2011b『吹田操車場遺跡Ⅵ―吹田（信）基盤整備工事（貨物専用道路）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財センター調査報告書 第217集

公益財団法人大阪府文化財センター 2011c『吹田操車場遺跡Ⅶ―吹田（信）基盤整備工事（貨物専用道路）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（公財）大阪府文化財センター調査報告書 第220集

公益財団法人大阪府文化財センター 2012『明和池遺跡1・吹田操車場遺跡8・西の庄東遺跡―吹田（信）基盤整備工事（貨物専用道路）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（公財）大阪府文化財センター調査報告書 第232集

公益財団法人大阪府文化財センター 2013『吹田操車場遺跡9―吹田（信）基盤整備工事（墓地造成工事）に伴う吹田操車場遺跡発掘調査報告書―』（公財）大阪府文化財センター調査報告書 第240集

明和池遺跡 文献

摂津市『広報せつつ』第357号 1988

摂津市教育委員会 2009『明和池遺跡確認調査報告書―吹田操車場跡地地区（仮称）の整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査―』

財団法人大阪府文化財調査研究センター 1999『吹田操車場遺跡―吹田（信）基盤整備工事に伴う吹田操車場遺跡発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第42集

財団法人大阪府文化財センター 2011『吹田操車場遺跡Ⅴ―吹田（信）基盤整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（財）大阪府文化財センター調査報告書 第216集

公益財団法人大阪府文化財センター 2012a『明和池遺跡2―防災公園街区整備事業 摂津市千里丘四丁目地区埋蔵文化財発掘調査報告書―』（公財）大阪府文化財センター調査報告書 第226集

公益財団法人大阪府文化財センター 2012b『明和池遺跡1・吹田操車場遺跡8・西の庄東遺跡―吹田（信）基盤整備工事（貨物専用道路）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（公財）大阪府文化財センター調査報告書 第232集

第5章 吹田操車場遺跡 西地区の調査成果

例言でも述べたが、吹田操車場遺跡内で行った発掘調査のうち、今回の調査において、西半部にあたる 12-1:15 区、12-1:16 区、12-1:17 区、12-1:19 区、12-1:20 区を吹田操車場遺跡西地区とした。それぞれの調査区は、遺跡の北辺部を南西から北東方向に向かって 12-1:16 区、12-1:19 区、12-1:15 区と続く。さらに 12-1:16 区の南辺に接して 12-1:20 区が、12-1:15 区の北東約 170 m の地点に 12-1:17 区が位置する。また、工事ならびに調査工程の関係上 12-1:16・17 区は 3 分割、12-1:20 区は 2 分割で調査を行なった。12-1:16 区は全長約 500 m と長大であったため 3 分割のまま報告するが、12-1:17・20 区についてはまとめて報告する。

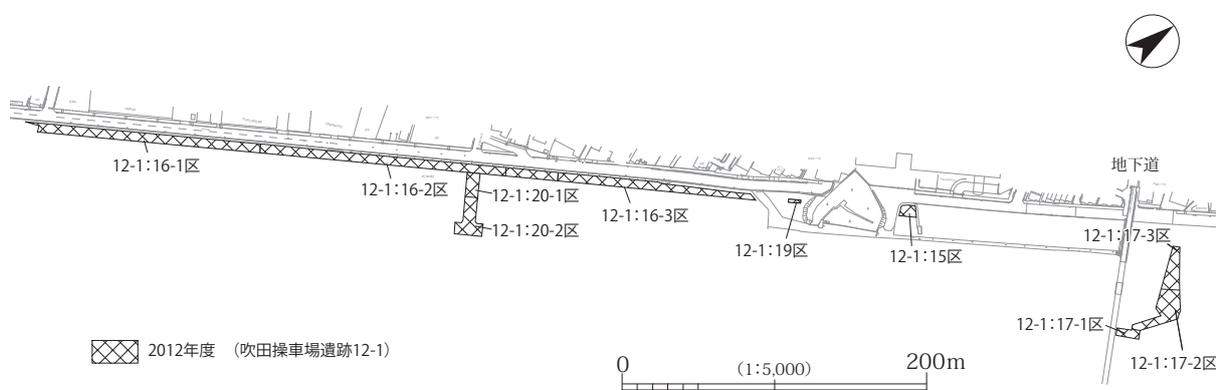


図 13 吹田操車場遺跡 西地区 調査区位置図

第1節 基本層序

まず、吹田操車場遺跡西地区の旧地形であるが、12-1:16-1 区は後述するように操車場に伴う盛土が地山上面にまで及んでいたため、検出した地山上面の標高は 7.6～7.7 m とほぼ平坦であった。但し、X=-136, 135、Y=-42, 850 地点では北西-南東方向にはしる開析谷（最深部の標高 5.4 m）を検出した。12-1:16-2 区は東に向かって傾斜する。X=-135, 992 ライン以东には長さ 40 m、幅 17 m 以上にも及ぶ攪乱があるため推測の域を出ないが 12-1:20 区との間に谷があったと考えられ、攪乱の西側における地山上面の標高は 6.2 m と低くなる。ちなみにこの攪乱の南に隣接する 12-1:20 区は北東から南西方向に下がっており、地山上面の標高は 5.9～6.4 m を測る。12-1:16-2 区の東端部に当たる攪乱の東側では標高は 6.6 m を測る。隣接する 12-1:16-3 区は 12-1:19 区と 12-1:15 区の間には存在する墓地が立地する高まり（標高 11.0 m）がある北東方向に向かって高くなる。特に調査区の東半部では傾斜が急になっており、近世以降の耕作土層を観察した結果、棚田状に田面が広がっていたことが看取できた。調査区東端部における標高は 10.0 m を測る。12-1:19 区に関しては、墓地の高まりの西側斜面に位置すること

から、地山上面の標高が高かったと推察できるが、現地盤からの深さが4.6 mにもおよぶ攪乱のため確認できなかった。12-1:15区は墓地の高まりの北東に位置する。調査区内における地山上面の標高は7.0 mでほぼ平坦であった。地山上面には近・現代の耕作土層が堆積していたことから、耕地化に伴って削平を受けた結果であると考えられる。12-1:15区の北側で吹田市教育委員会が行った調査において北西-南東方向にはしる谷状地形(6.2 m)と流路が検出されており、従来は高まりから東に向かって傾斜していたものと推測できる。12-1:17区は12-1:15区の北東約170 mに位置する。12-1:17区の地山上面はほぼ平坦で標高は7.0 m前後を測る。

次に、調査区毎の基本層序について述べる。

12-1:16-1区(図14)

調査区のほぼ全域で操車場に伴う盛土により従来の地山層が削平されていた。そのため、旧表土および包含層の堆積は認められなかった。調査区北壁部分における現地盤の標高は8.9~8.4 mと南西から北東方向に向かって下がる。しかし、調査区内の地山上面の標高は調査区西端部で7.6 m、東端部で7.7 mを測り、概ね平坦であった。なお、調査区の東端部にあたる12-1:16-2区との調査区境付近では部分的に近・現代の旧表土(10YR2/1 黒色細砂混じりシルト 直径2~3 mmの礫を含む)の堆積が確認できた。0.1 mの厚さで残されていた。前述したがX=-136,135、Y=-42,850地点をはしる開析谷(16033谷)は極粗砂や粗砂を中心とした流水堆積が認められたが、土層のしまり具合や遺物の出土が見られなかったことなどから、かなり古い段階に埋没した開析谷であったと考えられる。

地山層は2.5GY7/1 明オリーブ灰色~2.5Y7/8 黄色シルトである。

12-1:16-2区(図14・15、写真図版1-1~1-3)

調査区の西端部分は12-1:16-1区からの続きで攪乱が地山層にまで達しているが、X=-136,070ライン付近から東側は旧表土層(第1層)および中・近世耕作土層(第2層)や中世耕作土層(第3層)の堆積が認められるようになる。調査区内における地山上面の標高は緩やかに傾斜してX=-135,992ライン以東にある攪乱に向かって下がっており、特にX=-136,000ライン以東にある谷部(16051谷)では土層の堆積が厚く、古墳時代の包含層(第4層)の堆積が認められた。一方、攪乱より東側は層厚約1 mの盛土層の下に旧表土層(第1層)が堆積する。第1層の下は中・近世耕作土層(第2層)が堆積する。この第2層の直下で地山層を検出した。地山上面の標高は6.5~6.7 mである。

第1層は層厚0.3~0.8 mの盛土直下で検出した。一部、削平を受けるものの畝立てや畦畔などが良好な状態で遺存していたことが断面から観察できる。

第2層は中・近世の耕作土層で2枚に大別できる。上層は2.5Y6/3にぶい黄色中砂・シルト混じり極細砂で、下層には上層よりやや締まりの良い2.5Y5/3 黄褐色粗砂・極細砂混じりシルトが堆積する。但し、土層の堆積が厚くなる16051谷内では、最下層に10YR7/6 明黄褐色中砂~極細砂混じりシルトが堆積する。

第3層は中世の耕作土層である。10YR6/1 褐灰色極細砂混じりシルト層で、層厚は0.1~0.15 mである。また16051谷内では、下層(第3-2層)に2.5Y6/1 黄灰色中砂~極細砂混じりシルトが堆積する。

第4層は16078 落込みのあるX=-136,054、Y=-42,769付近と、16051谷内にのみ堆積が確認できた。16078 落込みの周辺は地形が北から南へ下がっているため調査区の南半部にのみ堆積が認められた。10YR6/2 灰黄褐色中砂・シルト混じり細砂層と10YR6/4にぶい黄橙色細砂混じりシルト層の2層が堆積

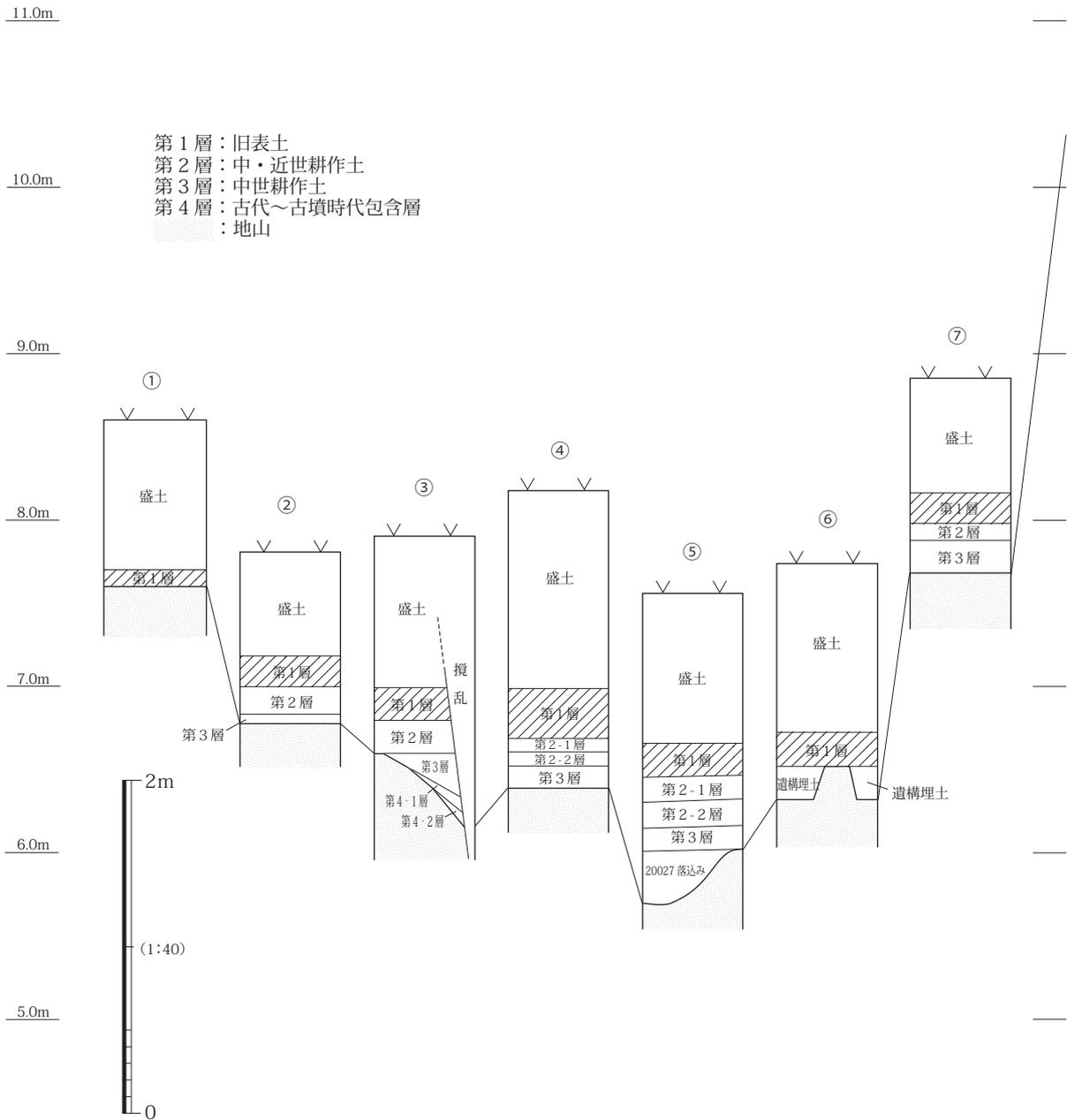
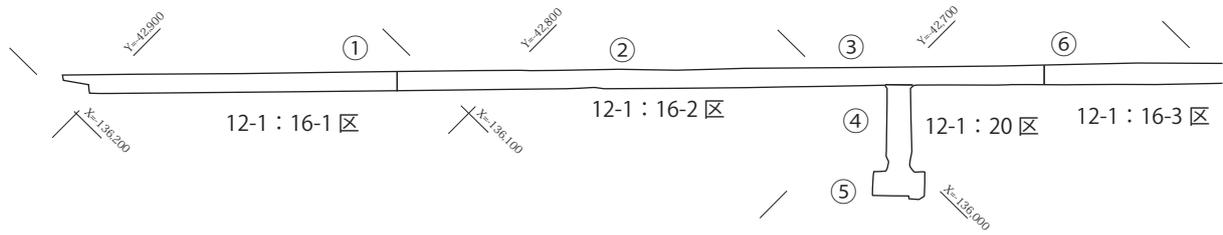
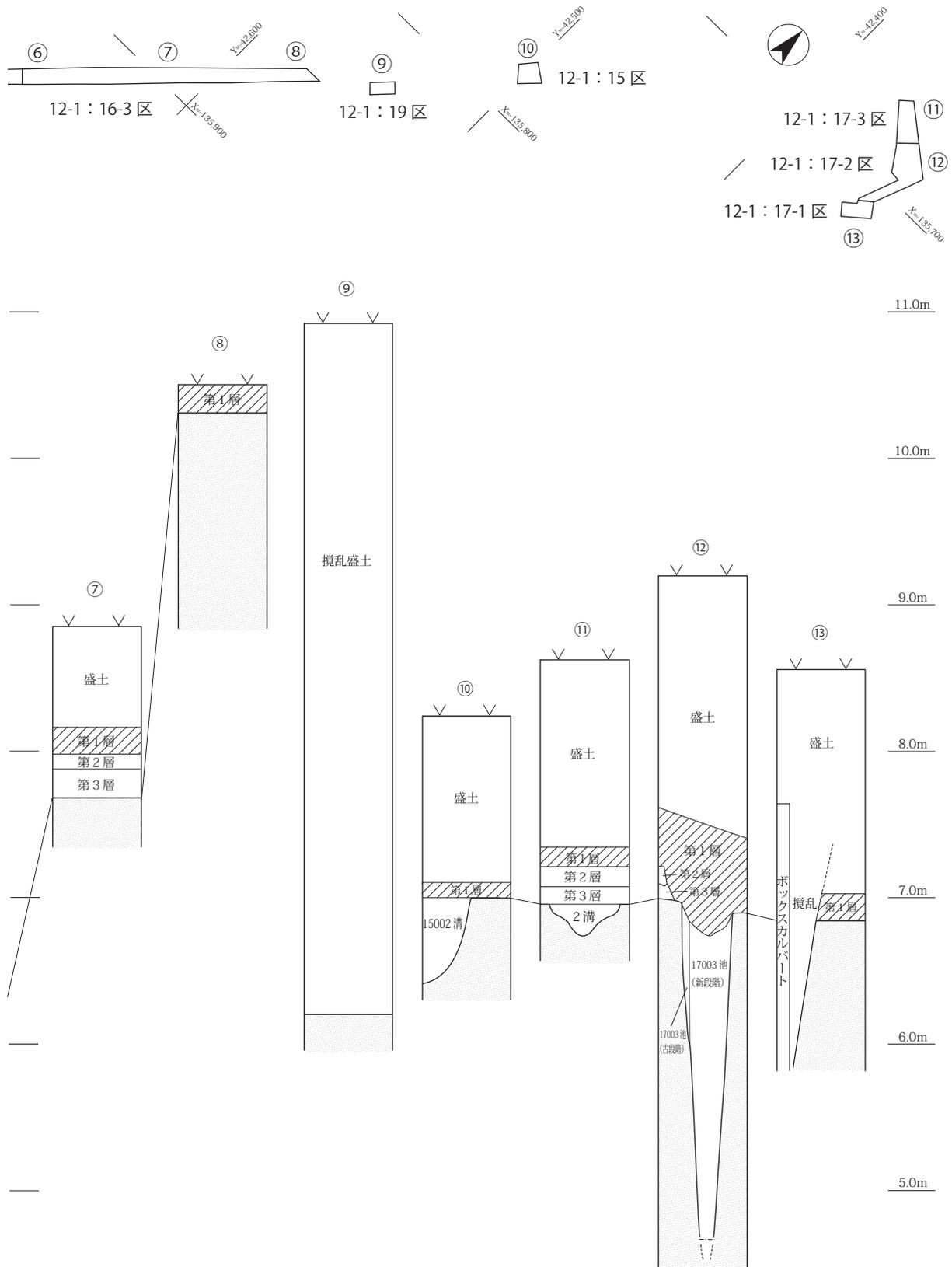
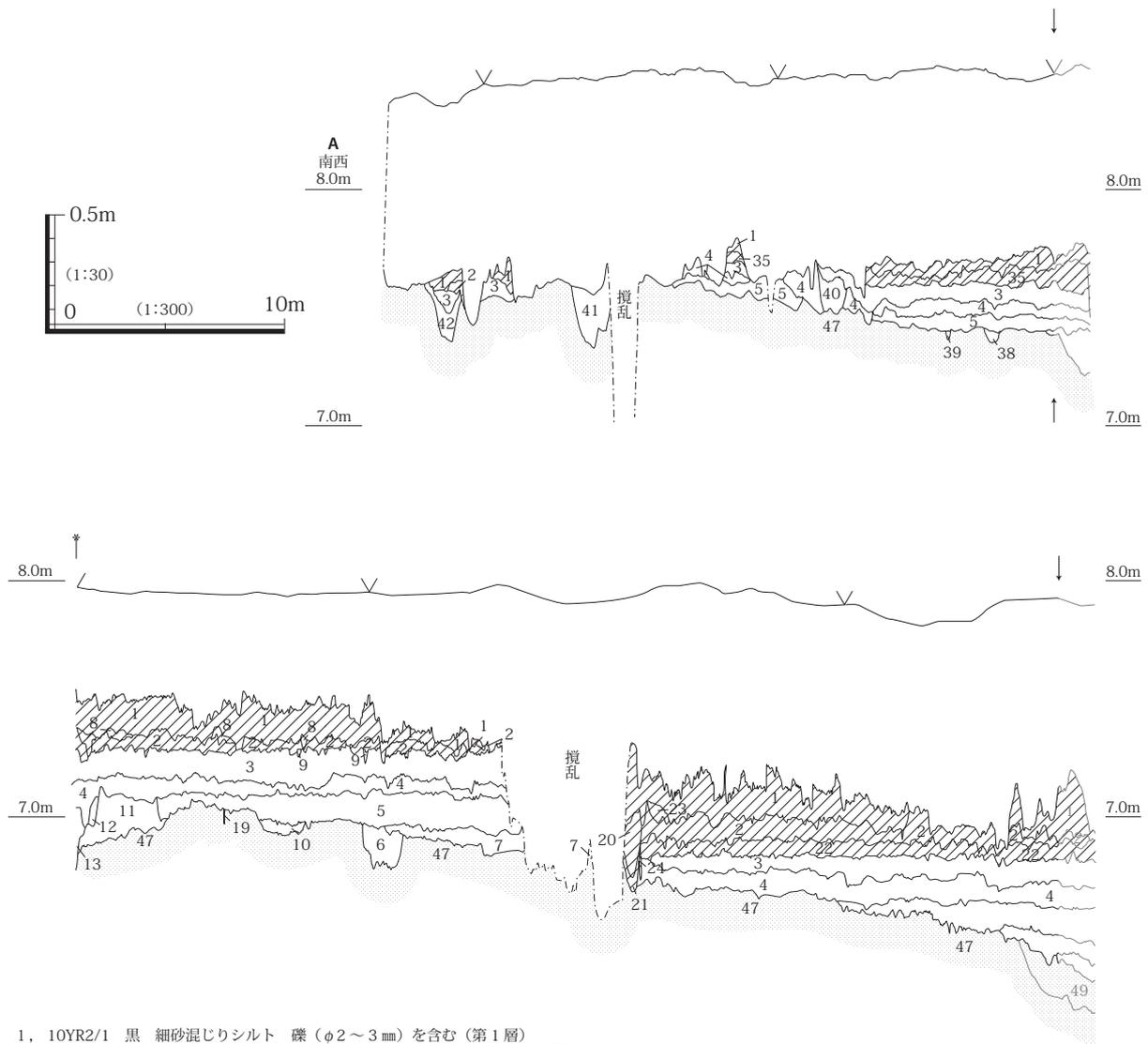


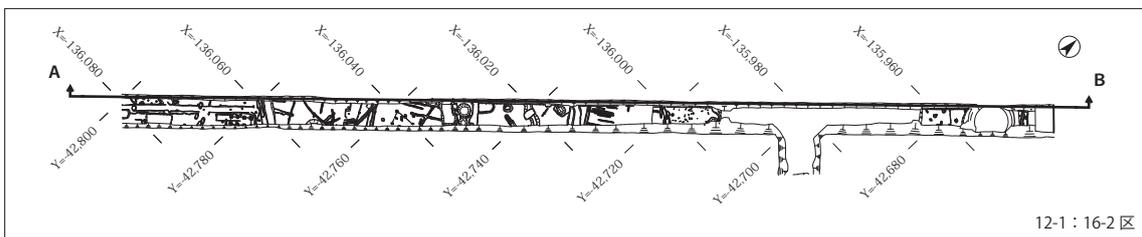
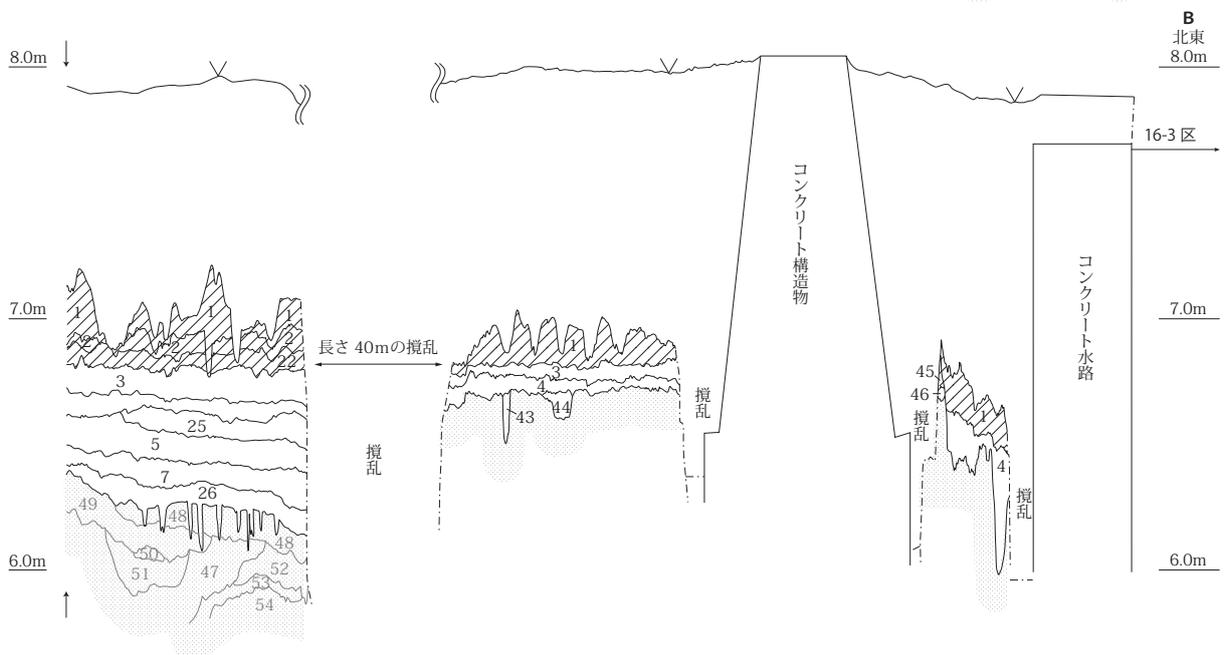
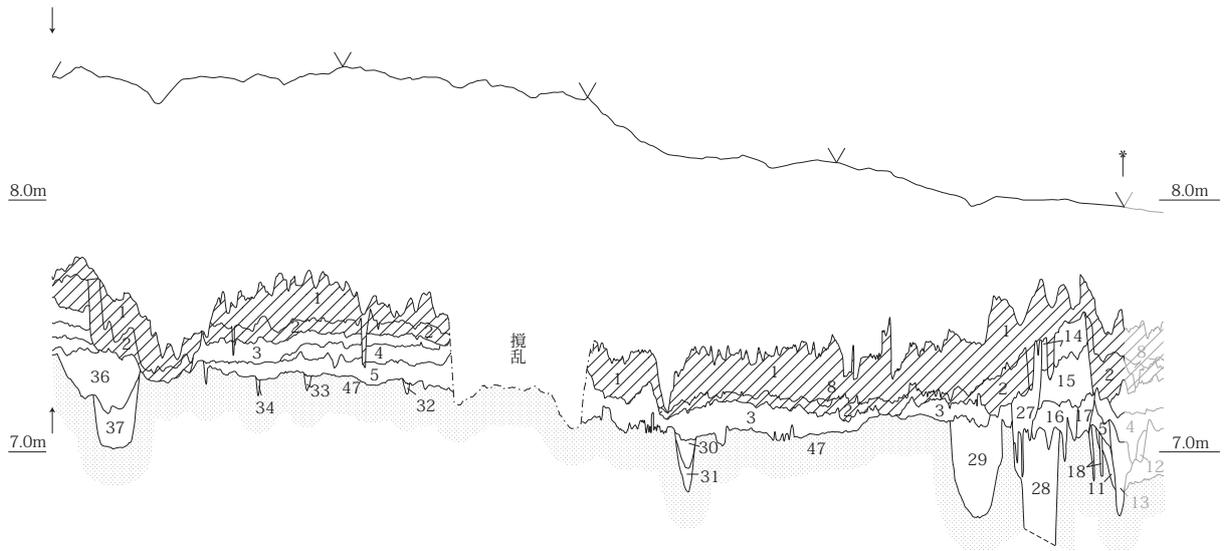
图 14 吹田操車場遺跡 西地区 柱状断面模式图





- | | |
|---|--|
| <p>1. 10YR2/1 黒 細砂混じりシルト 礫(φ2~3mm)を含む(第1層)</p> <p>2. 10YR7/2 にぶい黄橙 細砂混じりシルト 礫(φ1~2mm)を含む(第1層)</p> <p>3. 2.5Y6/3 にぶい黄 中砂・シルト混じり極細砂(第2-1層)</p> <p>4. 2.5Y5/3 黄褐 粗砂・極細砂混じりシルト(第2-2層)</p> <p>5. 10YR6/1 褐灰 極細砂混じりシルト マンガン多く沈着(第3-1層)</p> <p>6. 10YR8/6 褐灰 シルト混じり粗・中砂 マンガン沈着と</p> <p>10YR7/1 灰白 シルト混じり中・細砂の互層</p> <p>7. 2.5Y6/1 黄灰 中砂・極細砂混じりシルト(第3-2層)</p> <p>8. 10YR4/1 褐灰 極細砂混じりシルト 鉄分沈着(第1層)</p> <p>9. 10YR5/6 黄褐 極細砂混じりシルト 中砂・鉄分含む</p> <p>10. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂混じりシルト(16037土坑)</p> <p>11. 10YR7/6 明黄褐 細砂混じりシルト マンガン沈着(16039土坑)</p> <p>12. 10YR6/2 灰黄褐 極細砂・粗砂混じりシルト(16040溝)</p> <p>13. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂混じりシルトと</p> <p>10YR8/2 灰白 極細砂混じりシルト 鉄分沈着の互層(16040溝)</p> <p>14. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂混じりシルト 礫(φ5~10mm)を含む(井戸の掘方)</p> <p>15. 10YR5/3 にぶい黄褐 極細砂~中砂混じりシルト 礫(φ5~10mm)を含む(井戸の掘方)</p> <p>16. 10YR5/1 褐灰 極細砂混じりシルト 2.5Y8/3 淡黄 シルトブロック(地山由来)を少量含む 炭化物含む(井戸の掘方)</p> <p>17. 10YR8/2 灰白 中砂混じり粗砂 鉄分・マンガン沈着(井戸の掘方)</p> <p>18. 10YR8/2 灰白 極細砂~中砂混じりシルト 鉄分・マンガン沈着</p> <p>19. 2.5Y6/1 黄灰 極細砂混じりシルト</p> <p>20. 10YR4/1 褐灰 極細砂混じりシルト 植物質・炭化物を含む 鉄分沈着</p> <p>10YR8/3 浅黄橙 細砂・中砂ブロックを含む</p> <p>21. 2.5Y6/1 黄灰 極細砂混じりシルト 鉄分沈着</p> <p>22. 2.5Y5/2 暗黄褐 極細砂混じりシルト</p> <p>23. 10YR6/1 褐灰 中砂・シルト混じり細砂</p> <p>24. 10YR6/1 褐灰 極細砂混じりシルト 礫(φ5mm)を含む</p> <p>25. 10YR7/6 明黄褐 極細砂~中砂混じりシルト(第2-3層)</p> <p>26. 10YR5/1 褐灰 細砂・極細砂混じりシルト(第4層)(16051谷)</p> <p>27. N6/0 灰 極粗砂混じりシルト</p> <p>28. 16057 井戸埋土</p> <p>29. 2.5Y6/1 黄灰 極細砂~中砂混じりシルト シルトブロック(地山由来)を含む</p> | <p>30. 10YR5/2 灰黄褐 細砂混じりシルト 鉄分沈着(16071溝)</p> <p>31. 2.5Y7/1 灰白 極細砂混じりシルト(16071溝)</p> <p>32. 2.5Y6/2 灰黄 中砂・極細砂混じり細砂</p> <p>10YR7/6 明黄褐 シルトブロック(φ3~5cm地山由来)を含む(16076溝)</p> <p>33. 10YR6/1 褐灰 中砂・シルト混じり細砂(16077溝)</p> <p>34. 2.5Y6/2 灰黄 中砂・極細砂混じり細砂</p> <p>10YR7/6 明黄褐 シルトブロック(φ3~5cm地山由来)を含む(16081溝)</p> <p>35. 2.5Y5/2 暗黄褐 極粗砂・シルト混じり中砂(第1層)</p> <p>36. 10YR6/2 灰黄褐 細砂・シルト混じり中砂(16083溝)</p> <p>37. 10YR5/2 灰黄褐 粗砂・中砂混じりシルト(16083溝)</p> <p>38. 10YR5/3 にぶい黄褐 粗砂混じりシルト(16095土坑)</p> <p>39. 10YR7/2 にぶい黄橙 粗砂混じりシルト(16096ピット)</p> <p>40. 2.5Y5/1 黄灰 粗砂・シルト混じり中砂</p> <p>41. 10YR5/2 灰黄褐 中砂・極粗砂混じり粗砂(16110溝)</p> <p>42. 2.5Y5/1 黄灰 極粗砂・シルト混じり中砂</p> <p>43. 10YR7/2 にぶい黄橙 極細砂~中砂混じりシルト</p> <p>10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルトブロック(φ1~2cm地山由来)を含む(16050土坑)</p> <p>44. 10YR6/1 褐灰 極細砂・細砂混じりシルト</p> <p>10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルトブロック(φ1~2cm地山由来)を含む(16044土坑)</p> <p>45. 10YR5/2 灰黄褐 極細砂混じりシルト 鉄分沈着(第1層)</p> <p>46. 10YR5/2 灰黄褐 極細砂混じりシルト 鉄分沈着(第2層)</p> <p>47. 2.5Y7/8 黄 シルト(地山)</p> <p>48. 10YR7/1 灰白 中砂・シルト混じり粗砂(地山)</p> <p>49. 2.5Y8/1 灰白 シルト混じり極細砂(地山)</p> <p>50. 10YR6/1 褐灰 極粗砂(地山)</p> <p>51. 2.5Y7/6 明黄褐 細砂混じりシルト(地山)</p> <p>52. 2.5Y8/1 灰白 細砂混じり中砂(地山)</p> <p>53. 2.5Y7/1 灰白 極粗砂~中砂(地山)</p> <p>54. 10YR6/8 明黄褐 シルト(地山)</p> |
|---|--|

図 15 12-1:16-2 区 北壁断面図



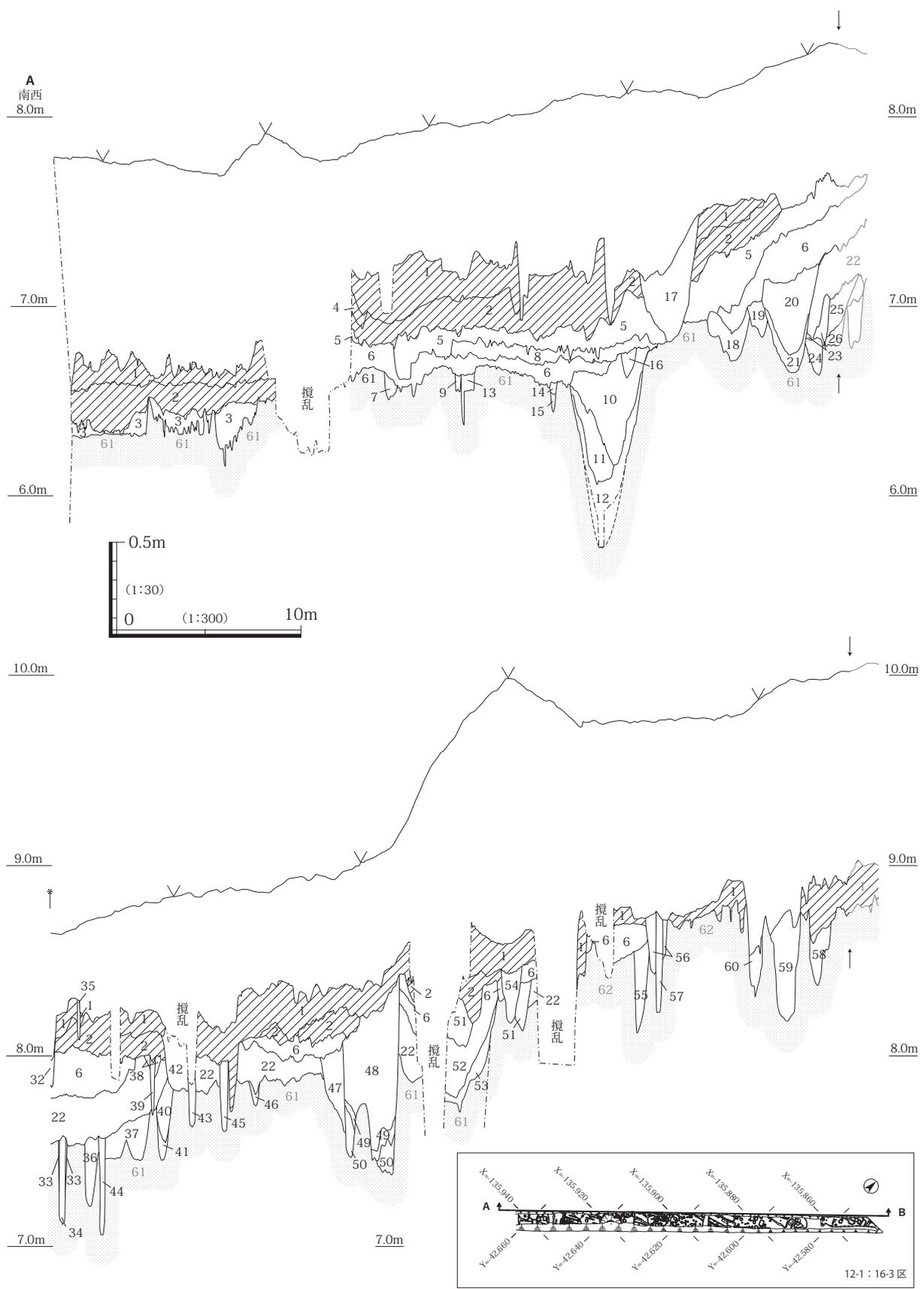
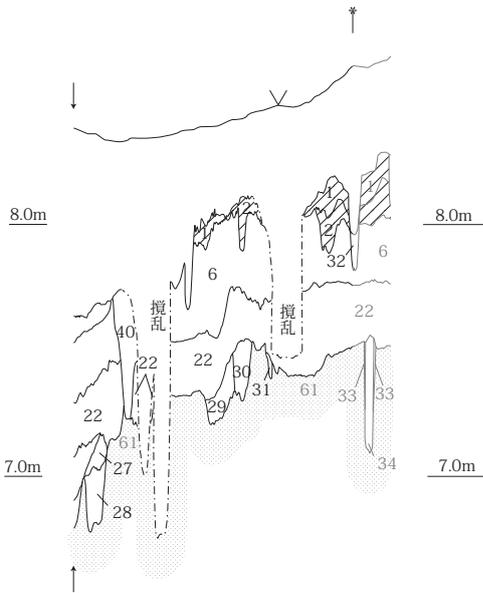
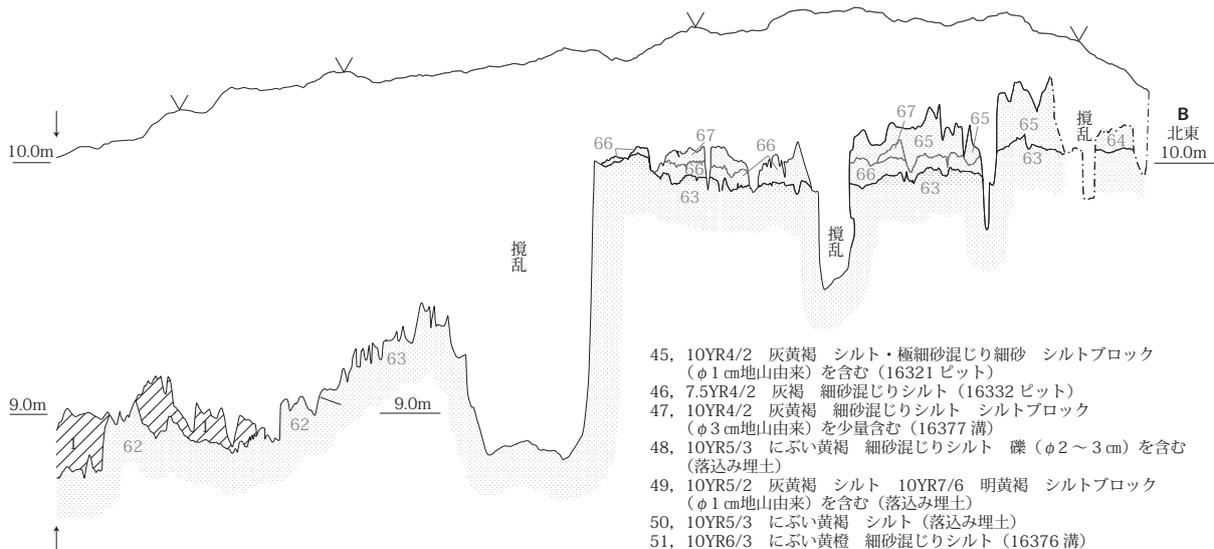


图 16 12-1:16-3 区 北壁断面图



- 1, 10YR3/1 黒褐 極細砂混じりシルト 鉄分沈着 (第1層)
- 2, 10YR6/1 褐灰 細砂混じりシルト 鉄分沈着 (第1層)
- 3, 10YR4/1 褐灰 細砂混じりシルト 鉄分沈着 (第1層)
- 4, 10YR5/1 褐灰 シルト 礫 (φ1~2cm) を含む (第1層)
- 5, 10YR4/1 褐灰 シルト (第1層)
- 6, 10YR6/6 明黄褐 中砂混じりシルト 礫 (φ1~2cm) を含む (第2層)
- 7, 10YR6/1 褐灰 細砂・中砂混じりシルト (16242 土坑)
- 8, 2.5YR7/2 灰黄 細砂混じりシルト (第2層)
- 9, 10YR5/2 灰黄褐 極細砂混じりシルト 10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルトブロック (地山由来) を含む (遺構埋土)
- 10, 10YR6/6 明黄褐 細砂混じりシルト (16219 落込み)
- 11, 10YR7/8 黄橙 細砂混じりシルト (16219 落込み)
- 12, 2.5Y6/1 黄灰 粗砂混じりシルト (16219 落込み)
- 13, 10YR4/1 褐灰 極細砂混じりシルト (16225 土坑)
- 14, 10YR6/1 褐灰 シルト、10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルトブロック (地山由来) を含む (16221 ピット)
- 15, 10YR4/1 褐灰 シルト (16221 ピット)
- 16, 10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルト 炭化物を含む (16219 落込み)
- 17, 2.5Y6/1 黄灰 中砂混じり細砂 礫 (φ2~3cm) を含む (旧操車場造成に伴う落込み)
- 18, 10YR4/2 灰黄褐 細砂・中砂混じりシルト (16394 溝)
- 19, 7.5YR4/4 褐 細砂混じりシルト (16251 溝)
- 20, 10YR5/2 灰黄褐 シルト 礫 (φ2~3cm) を含む マンガン沈着
- 21, 7.5YR4/1 褐灰 シルト 10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルトブロック (φ2~3cm地山由来) を極少量含む
- 22, 10YR6/3 にぶい黄橙 極細砂混じりシルト マンガン多く沈着 (第3層)
- 23, 10YR5/2 灰黄褐 細砂混じりシルト マンガン含む
- 24, 10YR3/2 黒褐 極細砂混じりシルト 10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルトブロック (φ2~3cm地山由来) を極少量含む
- 25, 10YR3/2 黒褐 極細砂・細砂混じりシルト (16251 溝)
- 26, 10YR6/2 灰黄褐 細砂混じりシルト シルトブロック (φ4~5cm地山由来) を含む (16251 溝)
- 27, 10YR8/6 黄橙 中砂・粗砂混じりシルト (16395 溝)
- 28, 10YR8/4 浅黄橙 細砂・中砂混じりシルト 炭化物を含む (16395 溝)
- 29, 10YR5/2 灰黄褐 極細砂混じりシルト マンガン多く沈着 (16389 落込み)
- 30, 10YR6/2 灰黄褐 極細砂混じりシルト マンガン多く沈着 (溝埋土)
- 31, 10YR6/2 灰黄褐 細砂混じりシルト マンガン沈着 (遺構埋土)



- 32, 10YR5/2 灰黄褐 シルト混じり細砂 炭化物を含む (第1層)
- 33, 10YR6/2 灰黄褐 シルト・極細砂混じり細砂 (16273 ピット)
- 34, 10YR6/1 褐灰 極細砂混じりシルト シルトブロック (φ1~2cm地山由来) を含む (16273 ピット)
- 35, 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト混じり細砂 礫 (φ1~3cm) を含む 10YR7/6 明黄褐 シルトブロック (φ1cm地山由来) を含む (第1層上面遺構)
- 36, 10YR5/2 灰黄褐 細砂・中砂混じりシルト シルトブロック (φ1cm) を含む (16252 溝)
- 37, 10YR5/1 褐灰 細砂混じりシルト シルトブロック (φ1cm地山由来) を含む (16253 溝)
- 38, 10YR7/4 にぶい黄橙 細砂混じりシルト 礫 (φ1~2cm) を含む (第1層上面)
- 39, 10YR7/2 にぶい黄橙 極細砂混じりシルト 鉄分沈着 (第1層下面)
- 40, 10YR6/2 灰黄褐 細砂混じりシルト 炭化物を含む マンガン沈着 (16314 土坑)
- 41, 7.5YR5/6 明褐 シルト マンガン沈着 (16314 土坑)
- 42, 10YR4/1 褐灰 極細砂混じりシルト (第1層上面遺構)
- 43, 10YR5/3 にぶい黄褐 粗砂混じりシルト 礫 (φ3cm) を少量含む (第1層上面)
- 44, 10YR5/2 灰黄褐 細砂・中砂混じりシルト シルトブロック (φ0.5~1cm地山由来) を含む (16286 ピット)
- 45, 10YR4/2 灰黄褐 シルト・極細砂混じり細砂 シルトブロック (φ1cm地山由来) を含む (16321 ピット)
- 46, 7.5YR4/2 褐 細砂混じりシルト (16332 ピット)
- 47, 10YR4/2 灰黄褐 細砂混じりシルト シルトブロック (φ3cm地山由来) を少量含む (16377 溝)
- 48, 10YR5/3 にぶい黄褐 細砂混じりシルト 礫 (φ2~3cm) を含む (落込み埋土)
- 49, 10YR5/2 灰黄褐 シルト 10YR7/6 明黄褐 シルトブロック (φ1cm地山由来) を含む (落込み埋土)
- 50, 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト (落込み埋土)
- 51, 10YR6/3 にぶい黄橙 細砂混じりシルト (16376 溝)
- 52, 10YR4/2 灰黄褐 細砂・中砂混じりシルト (16376 溝)
- 53, 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂混じりシルト (16376 溝)
- 54, 10YR5/3 にぶい黄褐 細砂混じりシルト シルトブロック (φ1~5cm地山由来) を含む (第1層下面遺構)
- 55, 10YR5/3 にぶい黄褐 粗砂混じりシルト 礫 (φ1~3cm) を含む (16166 土坑)
- 56, 10YR5/2 灰黄褐 シルト 10YR7/6 明黄褐 シルトブロック (φ0.5~1cm地山由来) を含む 下方に炭化物が集中する (遺構埋土)
- 57, 10YR5/6 黄褐 シルト混じり細砂 10YR4/1 褐灰 シルト混じり細砂ブロックを含む 炭化物を含む (16165 土坑)
- 58, 10YR5/1 褐灰 シルト 極細砂混じり細砂 (16153 土坑)
- 59, 10YR4/1 褐灰 細砂・中砂混じりシルト 礫 (φ1~2cm) を含む シルトブロック (地山由来) を含む (16249 土坑)
- 60, 10YR4/1 褐灰 細砂・中砂混じりシルト 礫 (φ1~2cm) を含む シルトブロック (地山由来) を含む (遺構埋土)
- 61, 10YR7/6 明黄褐 極細砂混じりシルト (地山)
- 62, 7.5YR7/6 橙 シルト・中砂混じり粗砂 (地山)
- 63, 7.5YR7/6 橙 シルト・細砂混じり中砂 礫 (φ0.5cm) を含む (地山)
- 64, 10YR7/6 明黄褐 シルト (地山)
- 65, 7.5YR7/6 橙 細砂混じり中砂 礫 (φ1~2cm) を含む (地山)
- 66, 10YR6/6 明黄褐 極細砂混じりシルト (地山)
- 67, 7.5YR6/4 にぶい橙 細砂混じり中砂 (地山)

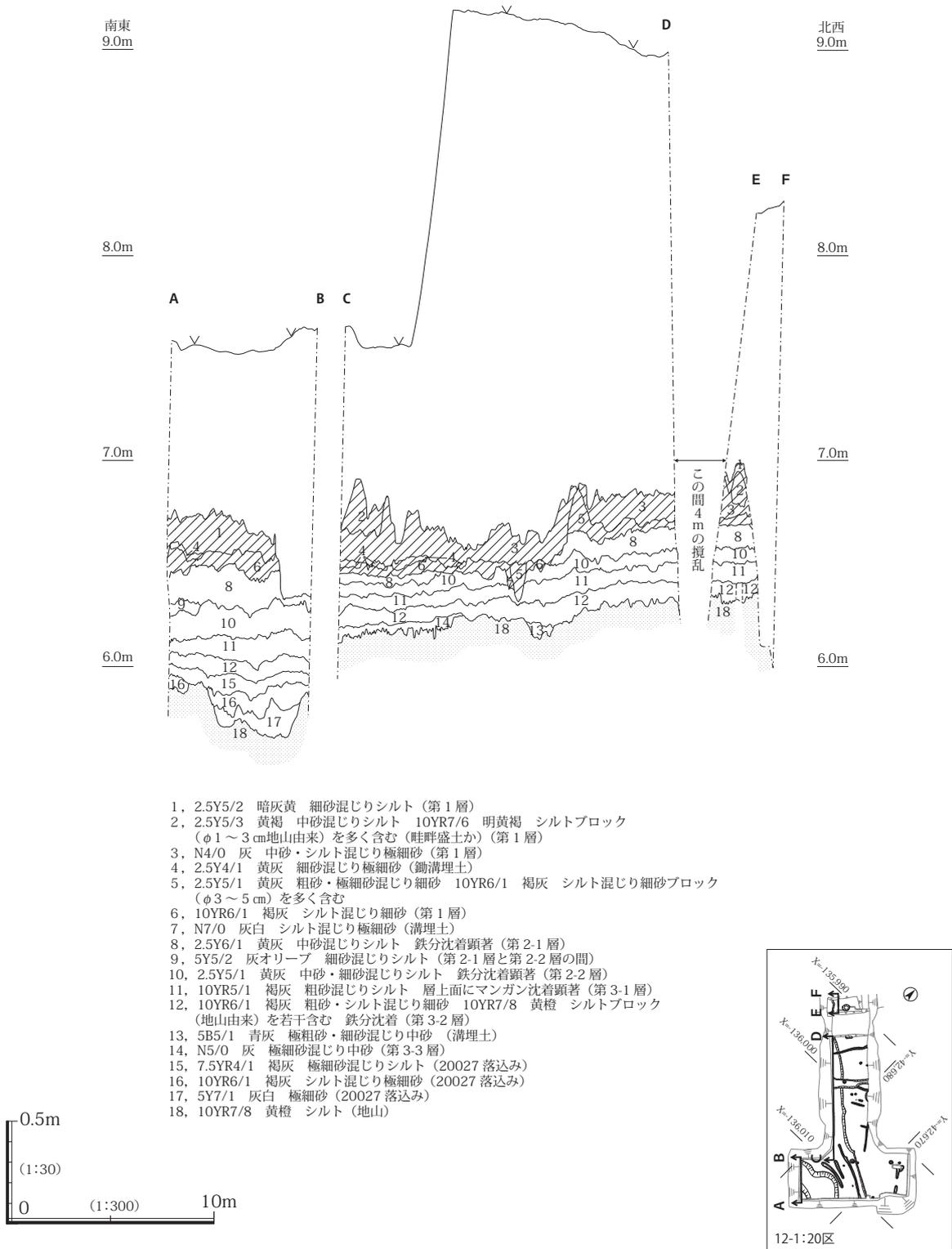


図 17 12-1:20 区 西壁断面図

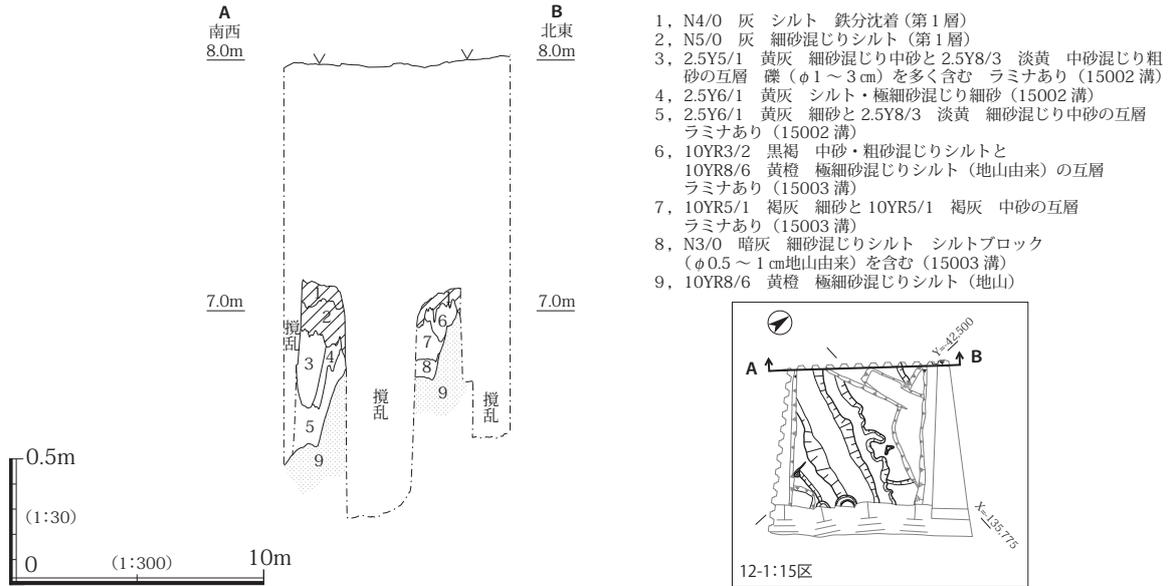


図 18 12-1:15 区 壁断面図

する。この層の上面で古代に属する 16078 落込みを検出した。一方、16051 谷内では 10YR5/1 褐灰色細砂・極細砂混じりシルト層が堆積しており、古墳時代の遺物が出土した。さらに、16051 谷は第 4 層を除去した地山上面で偶蹄目 (ウシ) の足跡を検出したが、埋土に第 4 層が入っていたことから、古墳時代の足跡と考えられる。

12-1:16-3 区 (図 16、写真図版 1-4 ~ 1-6)

12-1:16-3 区は 12-1:16-2 区の東端部をはしるコンクリート製のボックスカルバート水路より東に位置する。現地盤の標高は高まりのある北東方向に向かって上がっており、特に調査区東端部においては傾斜が急である。調査区の西半部は旧表土層 (第 1 層) 直下で地山面を検出した。また、高まりに近い東半部については操車場に伴う盛土層直下で地山面を検出した。一方、調査区中央部においては第 2 層 (中・近世土壌層) や第 3 層 (中世土壌層) の堆積が認められた。これは近・現代において傾斜地を棚田状に耕作地として開発した際、削平を逃れた部分に包含層が残されたのではないかと考えられる。

第 1 層 (旧表土層) は一部操車場操業以降の開発によって削平を受けていたものの、調査区のほぼ全域で確認できた。なお、調査区中央部から東半部の範囲においては第 1 層下面で近世末~近代の土坑を多数検出した。この土坑は形状や規模から墓穴と考えられ、斜面地が墓域として利用されていたことが判明した。なお、土坑内には瓦等が多量に廃棄されていた。土坑内に木棺や人骨、さらに副葬品が残っていなかったことなどから、調査区の東にある墓地に移転されたものと推察される。

第 2 層は調査区中央部を中心に X=-135, 931 ラインから X=-135, 884 ライン間の範囲に堆積する。10YR6/6 明黄褐色中砂混じりシルト層で、層厚は 0.05 ~ 0.4 m を測り、瓦器や土師器など遺物が多く含まれる。また、一部 X=-135, 927 ラインから X=-135, 919 ライン間に、2.5Y7/2 灰黄色細砂混じりシルト層が上記の層の上に堆積する。層厚は 0.1 m を測る。

第 3 層は、第 2 層と同様調査区中央部の X=-135, 913 ラインから X=-135, 888 ライン間に堆積が認められた。10YR6/3 にぶい黄橙色極細砂混じりシルト層で、マンガンの沈着が顕著である。層厚は 0.1 ~ 0.35 m を測るが、南西側に向かって厚く堆積する。第 3 層からは、白磁や瓦器などの遺物と共にいわ



A 北西 9.0m

B 南東

8.0m

C 北東

D 南西 8.0m

長さ15mの攪乱

0.5m

10m

(1:30)

0

(1:300)

- 1, N4/O 灰 中砂・シルト混じり細砂 (第1-1層)
- 2, 2.5Y5/2 暗灰褐 粗砂〜細砂 5Y4/1 灰 シルト・粗砂混じり極細砂ブロック (φ1〜5cm) を含む (17010 溝埋土)
- 3, 5B5/1 青灰 極細砂混じりシルト (17010 溝埋土)
- 4, 5B5/1 青灰 粗砂・シルト混じり極粗砂 (17010 溝埋土)
- 5, N3/O 暗灰 粗砂混じりシルト (17010 溝埋土)
- 6, 5Y4/1 灰 シルト・粗砂混じり極細砂 礫 (φ3〜5cm) を含む (17010 溝埋土)
- 7, 10YR5/2 灰黄褐 シルト混じり細砂 (第1-2層)
- 8, 2.5Y4/1 黄灰 細砂混じりシルト (析砂)
- 9, 10G6/1 緑灰 粗砂・シルト混じり極細砂 シルトブロック (φ1〜3cm地山由来) を含む (土坑埋土)
- 10, 10G6/1 緑灰 粗砂・シルト混じり極細砂 シルトブロック (φ1〜3cm地山由来) を含む (土坑埋土)
- 11, 5Y5/1 灰 細砂混じりシルト 植物遺体を多く含む (17003 池埋土)
- 12, 10Y5/1 灰 粗砂・シルト混じりシルト 植物遺体を多く含む (17003 池埋土)
- 13, 10G6/1 緑灰 粗砂・シルト混じりシルト (17005 土坑埋土)
- 14, 7.5Y6/1 灰 小礫・粗砂混じりシルト (17004 井戸埋土)
- 15, N7/O 灰白 シルト混じり細砂 (17004 井戸埋土)
- 16, 10YR7/1 灰白 小礫・シルト混じり粗砂 (17004 井戸埋土)
- 17, 5Y6/4 オリーブ黄 粗砂・シルト混じり中砂 (第2層)
- 18, 10YR6/4 に近い黄褐色 粗砂・シルト混じり中砂 (第3層)
- 19, 10YR6/2 灰黄褐 極粗砂混じりシルト (17011 土坑埋土)
- 20, 2.5GY7/1 明オリーブ灰 極細砂混じりシルト (地山)

図19 12-1:17区 東・南壁断面図

ゆる摂津C型羽釜や飛鳥時代の須恵器なども出土した。

12-1:20区（図17、写真図版1-7・1-8）

12-1:20区は「T」字形の平面形を呈する調査区である。調査区の北辺は12-1:16-2区で検出した攪乱に接しており、調査区北辺から約11mは攪乱が及んでおり遺構面は失われていた。また、攪乱の南辺部から南約2mの地点でも幅約4mの現代水路によって遺構面が失われていた。当該調査区における現地盤高は7.5～9.2mを測る。層厚約0.8～2.6mの盛土層が堆積する。この盛土層直下には旧表土層である第1層が堆積する。この第1層上面の標高は調査区北端部で7.0m、他では概ね平坦で6.5～6.7mを測る。第1層は2層に細分可能で、上層はN4/0灰色中砂・シルト混じり極細砂、下層は10YR6/1褐灰色シルト混じり細砂が堆積する。第2層は中・近世の耕作土層である。第2層は部分的に3層確認できた。上層は2.5Y6/1黄灰色中砂混じりシルトで、層厚は0.1～0.2mを測る。下層は2.5Y5/1黄灰色中砂・細砂混じりシルトで層厚は0.1～0.2mを測る。いずれの層も鉄分の沈着が顕著であった。中層は調査区の南半部で部分的な広がり確認できた。5Y5/2灰オリーブ色細砂混じりシルトで、層厚は0.1m以下である。第3層は中世の耕作土層で2層に分層できた。上層は10YR5/1褐灰色粗砂混じりシルトで、層の上面にはマンガンの沈着が顕著である。層厚は0.2m以下。下層は地山直上に堆積する10YR6/1褐灰色粗砂・シルト混じり細砂で、鉄分の沈着が認められる。また、層中に地山ブロックを少量含んでいるが、これは耕作を行った際、地山層を巻き上げたものと考えられる。層厚は0.1m前後である。なお、調査区南西隅では地山上面で古墳時代に属する20027落込みを検出した。

12-1:19区

12-1:16-3区の北東に位置し、墓地が立地する高まりの西側斜面部に当たる。現地盤高は10.2～10.9mであった。上述したが当調査は全域にわたって深さ4.6mの攪乱がおよんでおり、遺構面は失われていた。

12-1:15区（図18、写真図版2-1）

墓地のある高まりの北東側に位置する。現地盤高は8.0mを測る。深さ約0.9mの攪乱盛土が堆積する。この攪乱盛土直下で近・現代に属するN4/0灰色シルトとN5/0灰色細砂混じりシルトの2層の旧表土層である第1層が堆積する。そして、この第1層の下は、地山層である10YR8/6黄橙色極細砂混じりシルトが堆積する。地山上面で中世の溝を検出した。

12-1:17区（図19、写真図版2-2～2-4）

12-1:17区は北西から南東方向に延び、南方向へ屈曲する「く」字状を呈する。現地盤高は調査区北端部では9.1mと高くなるが、概ね8.4m前後を測る。1.1～1.5mの厚さで操車場に伴う盛土が堆積する。盛土の下は近・現代に属する2層の旧表土層（第1層）が堆積する。この第1層の層厚は0.4mであるが、17003池を検出した南東部は0.6mと厚くなる。調査区の大部分はこの第1層である旧表土層直下で地山層を検出した。但し、調査区北端部（12-1:17-3区）および南西部（17-2区南端部）では第3層である10YR6/4にぶい黄橙色粗砂・シルト混じり中砂が0.15mの厚さで堆積する。

なお、地山層は2.5GY7/1明オリーブ灰色極細砂混じりシルトである。

第2節 古代以前の遺構・遺物

1. 12-1:16-1区 (図20)

12-1:16-2区の南西に隣接する12-1:16-1区では、中世以降の遺構は確認できたが、明確に古代以前に属する遺構は検出されなかった。ただ、調査区の中央部にあたる $X=-136, 135$ 、 $Y=-42, 850$ 地点で検出した16033谷については、埋土の状況などから古代以前の開析谷であると推測できるが、遺物の出土はなく時期については不明である。谷の規模は幅8m、検出面からの深さ2.2mを測り、北西-南東方向にはしる。谷は何度かの洪水によって埋没していることが、断面観察の結果確認できた。

2. 12-1:16-2区 (図21～24)

12-1:16-2区は、全長約480m、幅3.5～5.0mの12-1:16区を3分割して調査を行ったうちの中央部の調査区である。調査区の大きさは長さ230m、幅3.5～5.0mを測る。なお、調査区の中央部 $X=-135, 960$ 、 $Y=-42, 680$ から $X=-135, 995$ 、 $Y=-42, 710$ 間は攪乱によって遺構面は失われていた。さらに、12-1:16-3調査区との調査区境付近の $X=-135, 955$ 、 $Y=-42, 670$ 地点では径9.6m、高さ2m以上のコンクリート基礎が地山層にまで達していた。基本層序でも述べたが、盛土層の直下に第1層の旧表土層が堆積し、その下層に堆積する第2層(中・近世耕作土層)を除去して地山上面を検出した。地山上面はほぼ平坦である。地山上面で検出した主な遺構は掘立柱建物、土坑、ピット、溝、谷などである。掘立柱建物は2棟検出した。

掘立柱建物1 (図21・22、写真図版4-1) 掘立柱建物1は調査区西部にあたる $X=-136, 040$ 、 $Y=-42, 755$ 地点で検出した。建物は2間(4.0m)×1間(2.7m)以上で、建物の南半部は調査区外に延びる。建物の主軸は $N-7^{\circ}-W$ と、ほぼ正方位を指す。柱穴は不整形円でその規模は径0.35～0.5m、深さ0.3～0.6mを測る。柱穴から遺物の出土はなかったが、周辺のピットや溝から飛鳥時代や平安時代の遺物が出土していることなどから古代の建物と判断した。

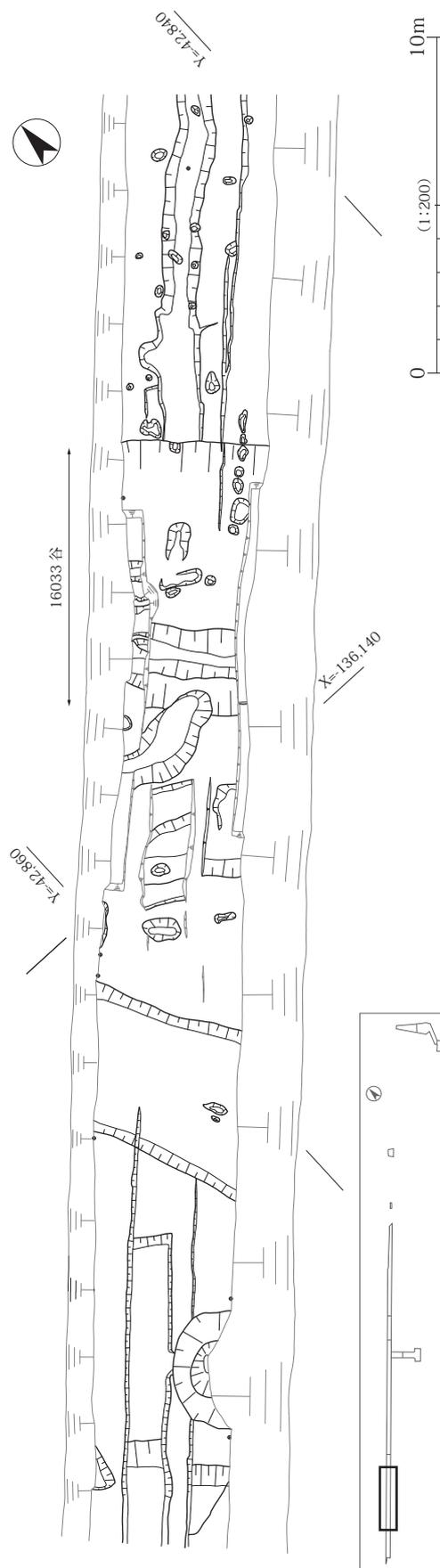


図20 12-1:16-1区 平面図(古代)

掘立柱建物 2 (図 21・22、写真図版 4-2・5-1～5-3・127) 掘立柱建物 2 は調査区西部の X=-136,065、Y=-42,780 地点で検出した。建物は方形の掘方をもつ 3 間 (4.2 m) × 1 間 (1.4 m) 以上の総柱建物で、建物の南半部は調査区外に延びる。建物の周囲には 16085・16093 溝が巡っており、雨落ち溝ないしは区画溝と考えられる。柱間の距離は 1.35～1.4 m を測り、建物の主軸は N-42°-W である。柱穴は一辺 0.5～0.7 m のほぼ正方形で、深さは 0.3～0.6 m である。検出した柱穴のうち北東隅柱に当たる 16122 柱穴は、他の柱穴に比して大きく、一辺 0.7 m、深さ 0.6 m を測る。また、16090・16123 柱穴を除いた柱穴には柱痕が残り、その径 0.2～0.25 m を測る。柱穴はいずれも掘方掘削後、0.2 m ほど埋め戻した後に柱を立てる様子が、断面観察の結果確認できた。遺物は 16122 柱穴から須恵器壺体部 (1) や杯片が、16088 柱穴から須恵器甕片、16092 柱穴から須恵器壺体部片が出土した。1 は須恵器壺体部である。口頸部と体部の 1/2 は欠損していたため、甕の可能性も残る。

16085・16093 溝 (図 22、写真図版 5-4・127) 16085・16093 溝ともに掘立柱建物 2 の周囲を巡る溝である。規模は幅 0.4 m、深さ 0.05 m 前後を測る。16093 溝から須恵器杯 (2) が出土した。2 は杯 G である。口径 9.4 cm、器高 3.75 cm を測る。飛鳥Ⅱに比定される。

16037 土坑 (図 21・23・24、写真図版 3-5・3-6) X=-136,024、Y=-42,743 地点で検出した。一部を側溝で失う。平面は楕円形を、断面は浅い皿状を呈する。規模は長径 1.9 m、短径 1.7 m、深さ 0.2 m を測る。埋土は 2 層で、下層の灰黄褐シルトから須恵器壺 (5) や土師器片が出土した。5 は須恵器壺底体部である。底部は平底で外面はヘラケズリ調整を施す。体部径は 15.6 cm を測る。

16086 ピット (図 21・23・24) X=-136,061、Y=-42,780 地点で検出した。不整形である。規模は長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.2 m を測る。埋土は単層で土師器皿 (4) や黒色土器碗底部片が出土した。4 は口径 10.9 cm、器高 1.7 cm である。口縁部は一段ナデで、外に開く。11 世紀前半に比定される。

16111 ピット (図 21・23・24) X=-136,065、Y=-42,783 地点で検出した。規模は径 0.2 m、深さ 0.1 m である。埋土は単層で、黒色土器片 (3) が出土した。3 は黒色土器 A 類である。10 世紀後半に比定される。

16117 ピット (図 21・23・24、写真図版 128) X=-136,060、Y=-42,778 地点で検出した。規模は径 0.2 m、深さ 0.2 m を測る。土師器羽釜 (7) が出土した。7 はいわゆる摂津 C 型羽釜の口縁部である。口縁部は真っ直ぐ上方に立ち上がり、端部はやや内傾させる。口縁端部やや下方に断面台形の鏝を貼り付ける。内面には板ナデ調整を行った際の工具痕が残る。

16078 落込み (図 21・23・24、写真図版 5-5・127) X=-136,054、Y=-42,769 地点で検出した。遺構は南に向かって開口するが調査区外に拡がる。規模は幅 4.6 m、深さ 0.5 m を測る。第 4 層上面で検出した。中層 (2 層) と最下層 (5 層) にはシルトブロックを含む層の堆積が認められた。最上層 (1 層) と中層 (3 層) を中心に遺物が出土した。最上層には瓦質土器片が含まれていたが、中層以下には古代の土師器 (8～16) や須恵器片などが出土した。8～13 は小皿である。8～10 はいわゆる「て」字状口縁を有する。14～16 は杯である。14 は二段ナデ、15・16 は一段ナデを施す。11 世紀の所産である。

16071 溝 (図 21・23・24、写真図版 5-6) Y=-42,763 ライン付近を南北方向にはしる。幅 0.5～0.8 m、深さ 0.2～0.3 m を測る。須恵器杯 (6) や甕体部片が出土した。6 は杯身である。復原口径 10.4 cm、器高 3.0 cm を測る。飛鳥Ⅱに比定される。

16051 谷 (図 21、写真図版 5-7・5-8) X=-136,000 ライン以東に位置する。北東方向に向かって下がるが、X=-135,992 ライン以東にある攪乱によって削平を受けており、谷の全容は不明である。谷は第 2

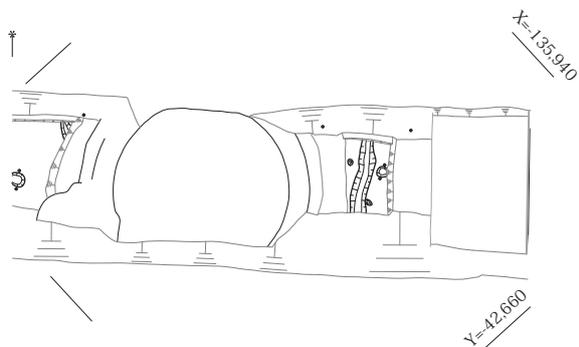
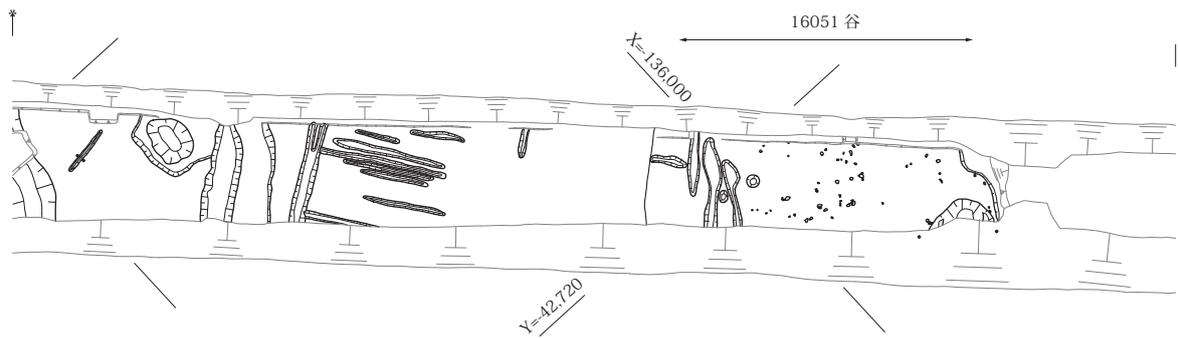
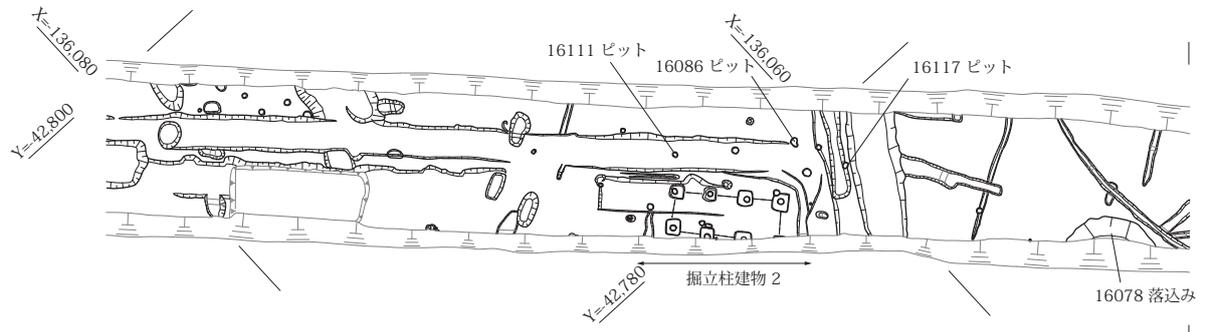
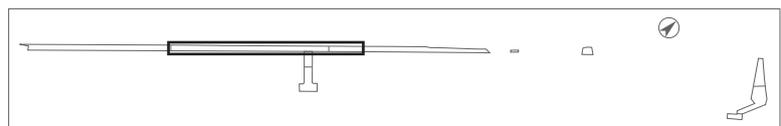
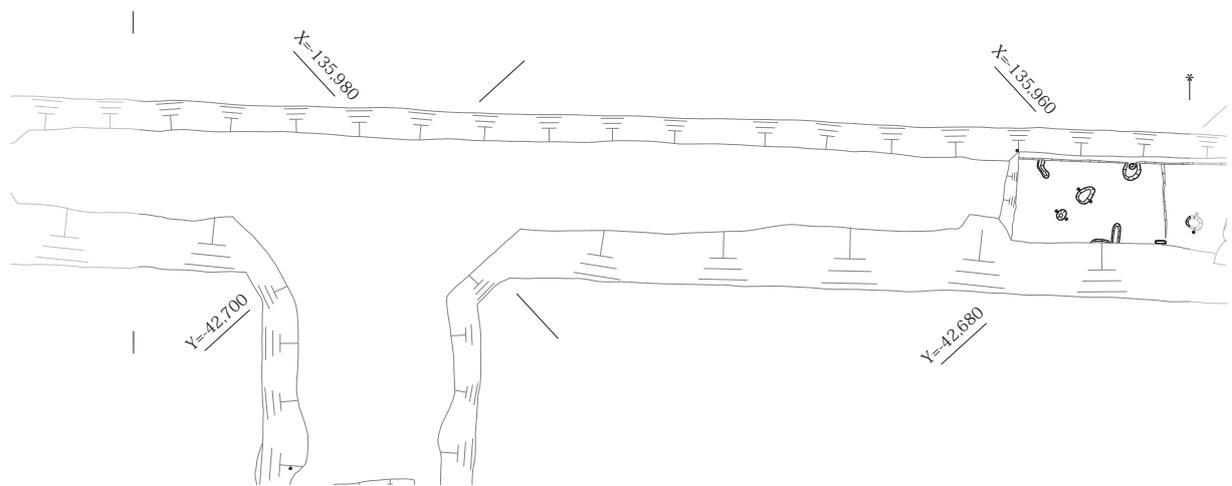
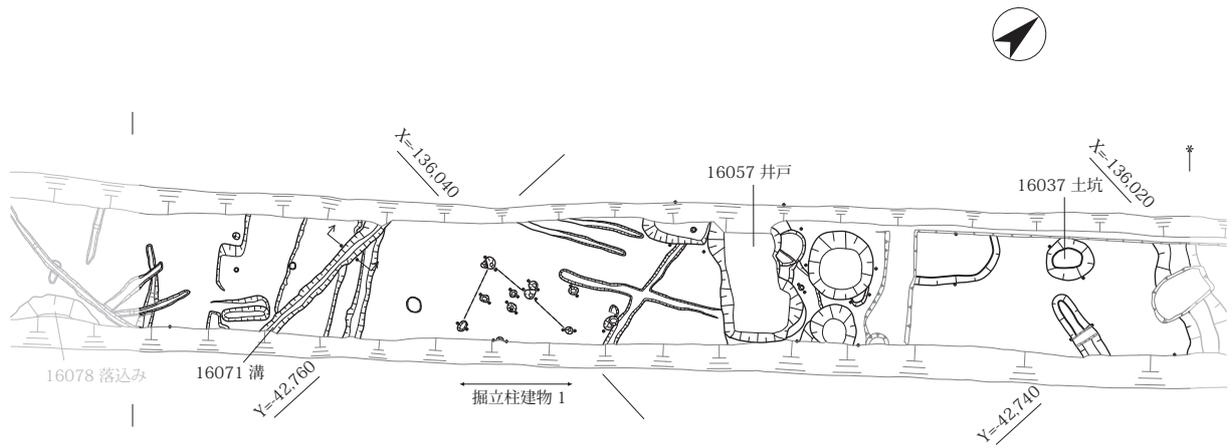


図21 12-1:16-2区 地山上面 平面図 (古代)



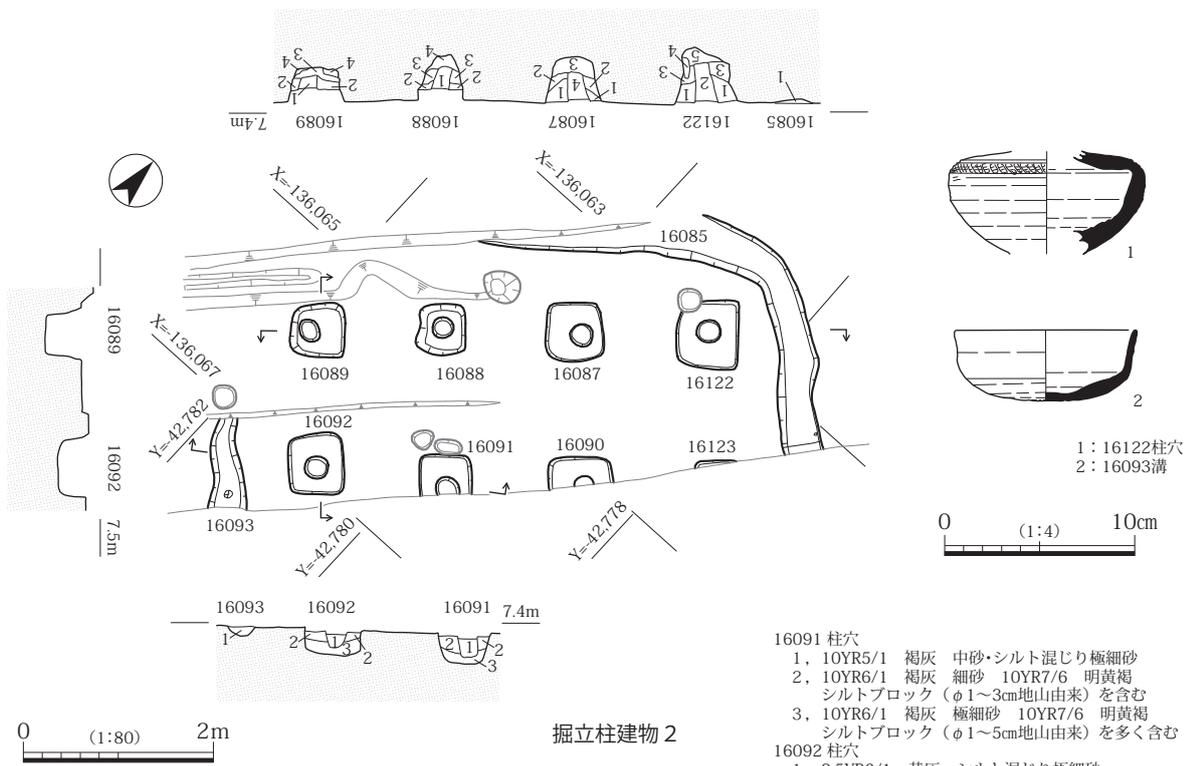
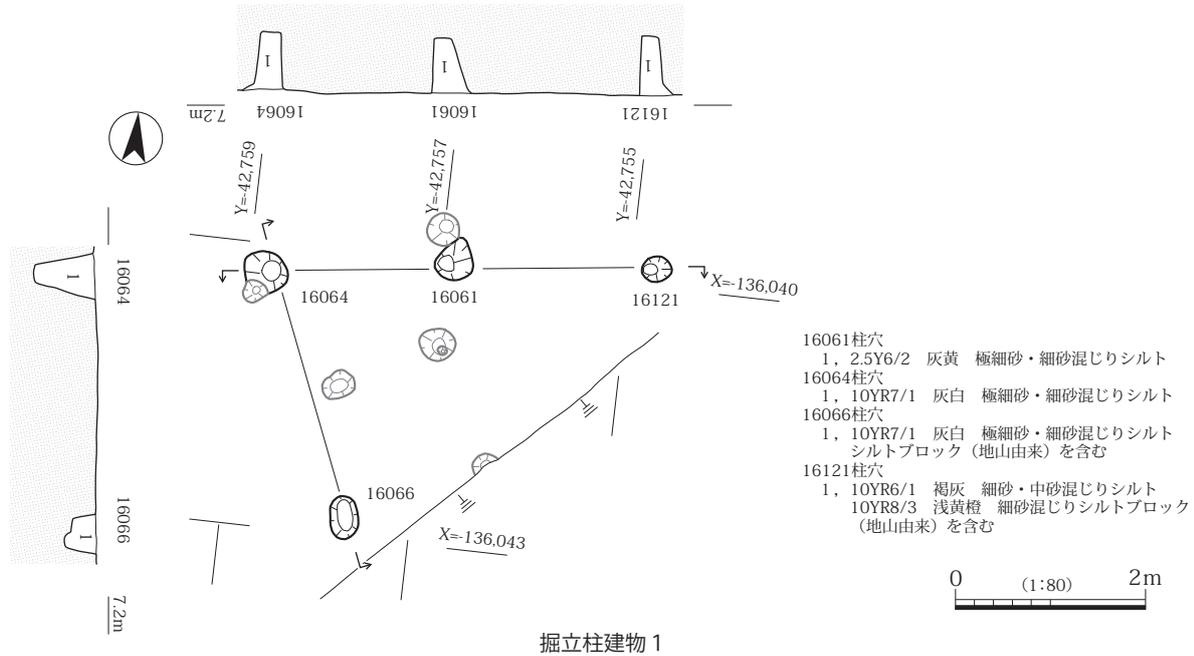


図 22 12-1:16-2 区 掘立柱建物 1・2 平面図・断面図・出土遺物

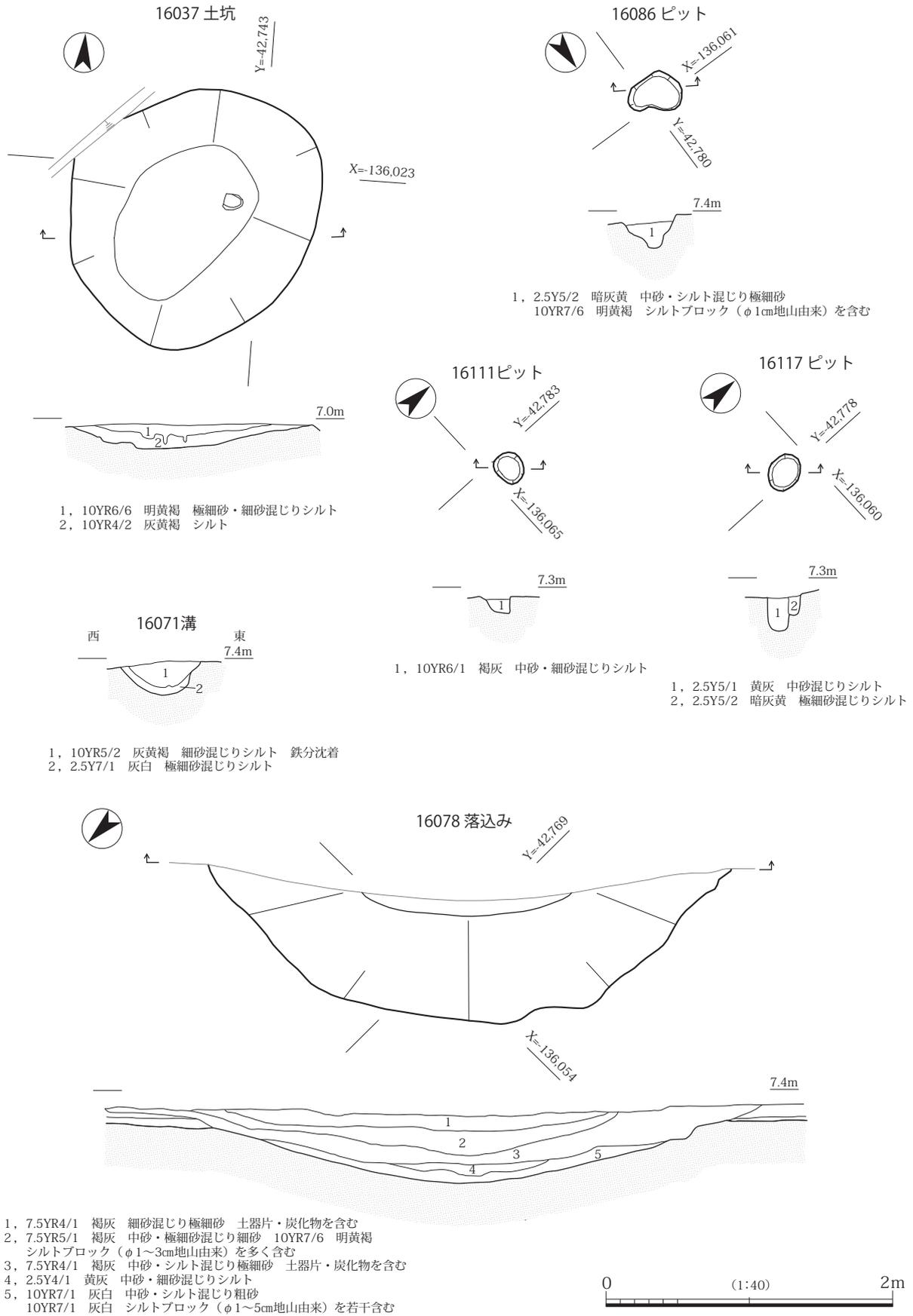


図 23 12-1:16-2 区 遺構平面図・断面図

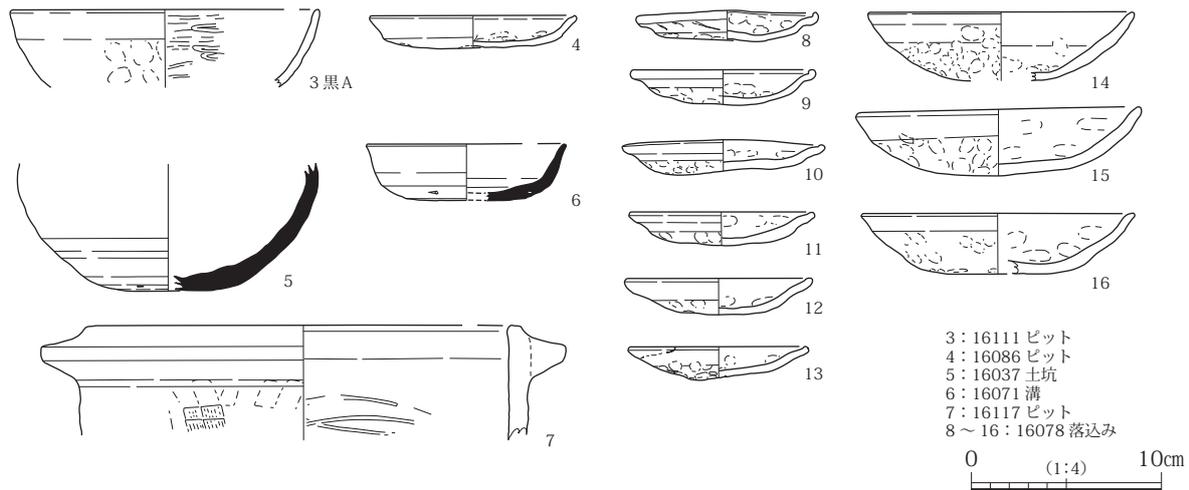


図 24 12-1:16-2 区 地山上面 遺構出土遺物

層で完全に埋没してしまうが、谷内には第 2-3 層、第 3-2 層、第 4 層の堆積が確認できた。地山上面での標高は 6.1 m で、比高は 0.4 m を測る。

第 4 層からは古墳時代の須恵器片が出土した。また、地山上面には第 4 層が充填する偶蹄目類の足跡が多数認められた。大阪文化財研究所の趙哲済氏から、足跡は古墳時代のウシで、さらに断面観察の結果、水田であった可能性が高いとのご指摘を受けた。但し、耕作土層が重層しているため畦畔等を平面で検出することはできなかった。

3. 12-1:16-3 区 (図 25 ~ 27、写真図版 6・7)

12-1:16-2 区の北東に隣接する。古代の遺構は調査区の中央部より南西側で検出された。調査区の東側は高まりに向かって地形が上がっており、旧表土層である第 1 層直下で地山上面を検出したが、中・近世以降の遺構のみが遺存していた。検出した主な古代の遺構は、掘立柱建物、土坑、ピット、溝などである。

掘立柱建物 3 (図 25・26、写真図版 7-1 ~ 7-3) 掘立柱建物 3 は X=-135, 925、Y=-42, 649 地点で検出した。建物は 1 間 (3.3 m) 以上×2 間 (3.1 m) 以上で、建物の北半部は調査区外に延びる。建物の主軸は正方方位を指す。柱穴は 16225 柱穴が一辺 0.75 m の隅丸正方形で深さ 0.2 m であった。16222 柱穴と 16223 柱穴は隅丸長方形を呈する。規模は 16222 柱穴が長辺 0.8 m、短辺 0.5 m、深さ 0.45 m で、16223 柱穴は長辺 1.0 m、短辺 0.65 m、深さ 0.45 m を測る。柱穴は底部に柱当りと考えられる径 0.3 m 程の窪みが残るものの、断面観察で柱痕は見つからなかった。遺物は 16222 柱穴から土師器もしくは弥生土器の細片が、16225 柱穴からは同じく土師器もしくは弥生土器の細片の他に、図示できなかったが畿内第 IV 様式の壺口縁部片が出土した。出土した遺物がいずれも細片だったことから、弥生時代の建物である可能性を述べるにとどめておきたい。

16392 土坑 (図 25・27、写真図版 128) X=-135, 914、Y=-42, 638 地点で検出した。第 3 層を除去した地山上面で検出した。北半部は調査区外に広がるが方形の土坑と考えられる。埋土は 2 層で、上層は礫を含むシルト層が堆積する。下層にはシルトブロックを少量含むシルト層が堆積するが、これは土坑掘削時の残土と考えられる。遺物は土師器 (18・19)、須恵器が出土した。18 は甕口縁部である。外反しな

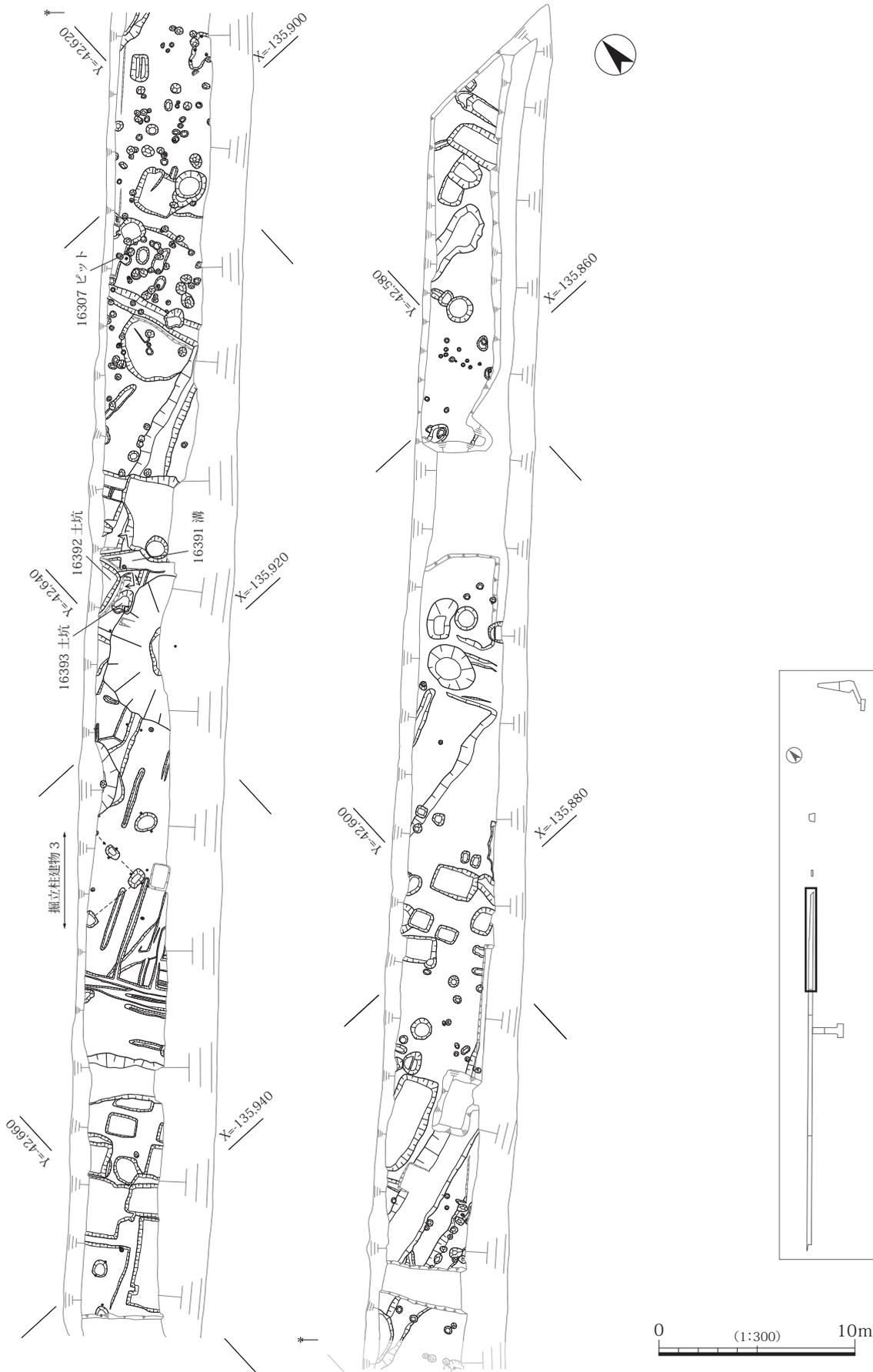


図25 12-1:16-3区 地山上面 平面図(古代)

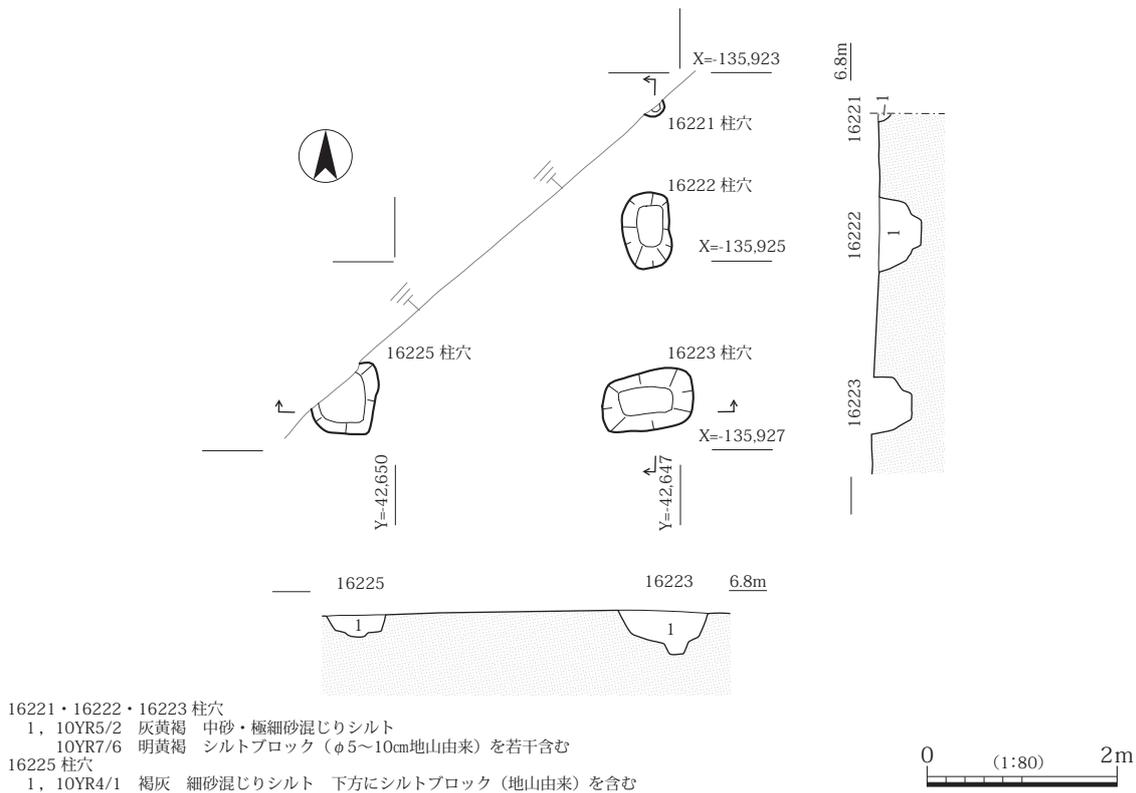


図 26 12-1:16-3 区 掘立柱建物 3 平面図・断面図

がら大きく開く。19はいわゆる摂津C型羽釜である。10～11世紀に比定される。

16393 土坑 (図 25・27、写真図版 7-4・127) 16392 土坑の南、X=-135,915.5、Y=-42,638 地点で検出した。平面形は不整楕円形で、規模は長径 1.4 m、短径 0.95 m、深さ 0.4 mを測る。遺物は土師器杯(17)、甕、皿、須恵器杯、甕 (24)、壺などが出土した。17は杯である。内面に正放射状暗文を施す。飛鳥Ⅱに比定される。24は甕である。瓦質に近い焼成である。

16307 ピット (図 25・27、写真図版 127) 16392 土坑の北東約 16 m、X=-135,902.5、Y=-42,625.5 地点で検出した。径 0.35～0.4 mの円形で、深さ 0.3 mを測る。遺物は土師器羽釜、杯、須恵器杯蓋 (20)、土師器すり鉢 (21) が出土した。20は杯蓋である。天井部にヘラ記号を施す。飛鳥Ⅰに比定される。21はすり鉢である。

16391 溝 (図 25・27、写真図版 7-5) 16392 土坑の東をはしり、16392 土坑に切られる。溝の規模は幅 1.0 m、深さ 0.2 mを測り、溝の方向はN-47°-Wである。遺物は土師器杯、甕、土師質移動式竈片、須恵器杯蓋 (22) 壺 (23)、甕、弥生土器底部などが出土した。22は宝珠つまみをもつ杯蓋である。23は壺体部である。肩部に稜をもつ。いずれも奈良・平安時代の遺物である。

4. 12-1:17 区 (図 28・29)

12-1:15 区の南東約 170 mに位置し、平面「く」字状を呈する調査区である。前述したが調査は工事の工程上3分割で行った。12-1:17 区は調査区の北西端部 (12-1:17-3 区) は第1層 (旧表土) の下に第2層 (中・近世耕作土層) が、中央部 (12-1:17-2 区北半部) は第1層直下で地山上面を検出した。また、調査区南半部 (12-1:17-2 区南半部) については一部第3層が残っており、第3層を除去した地

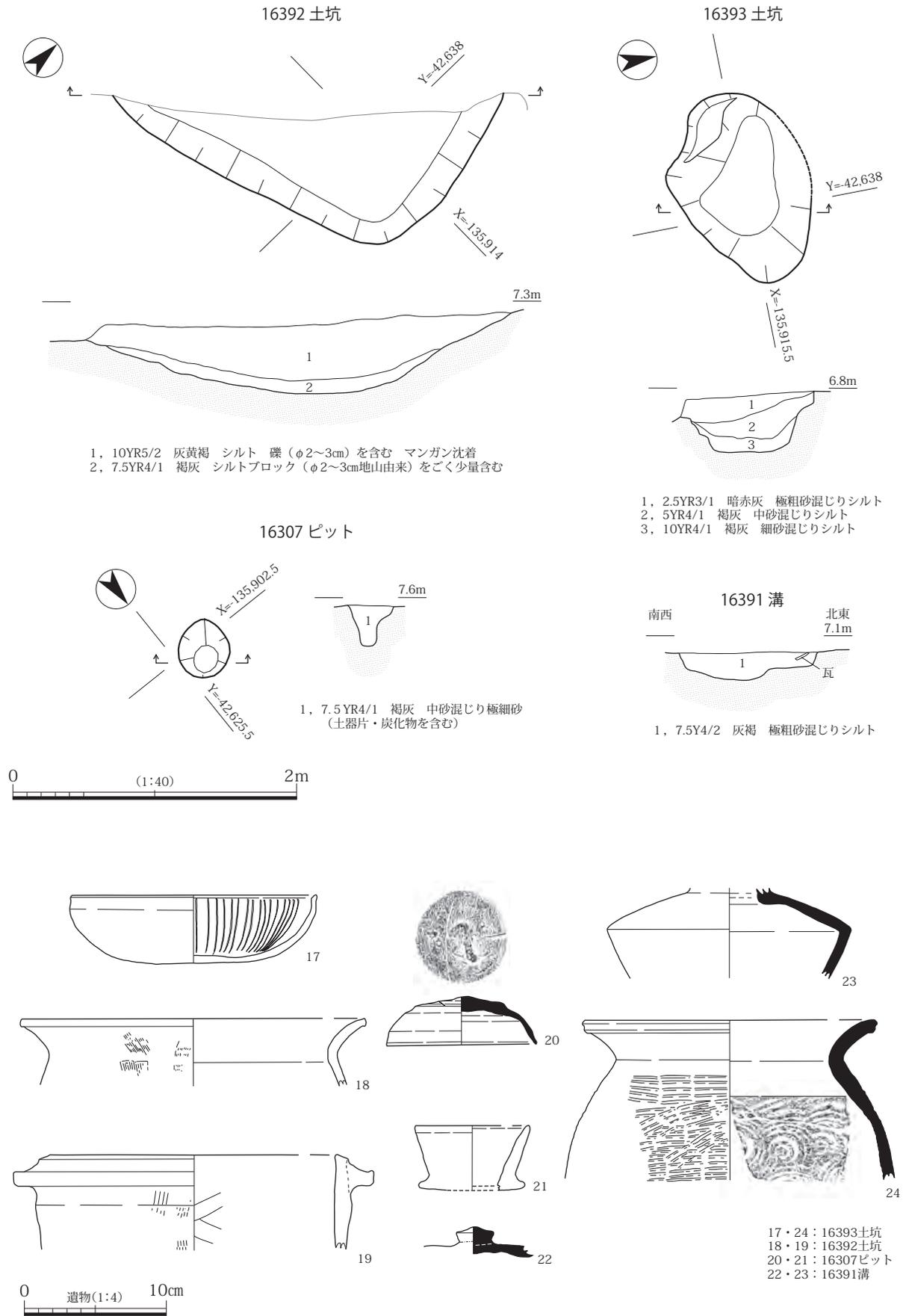


図27 12-1:16-3区 地山上面 遺構平面図・断面図・出土遺物

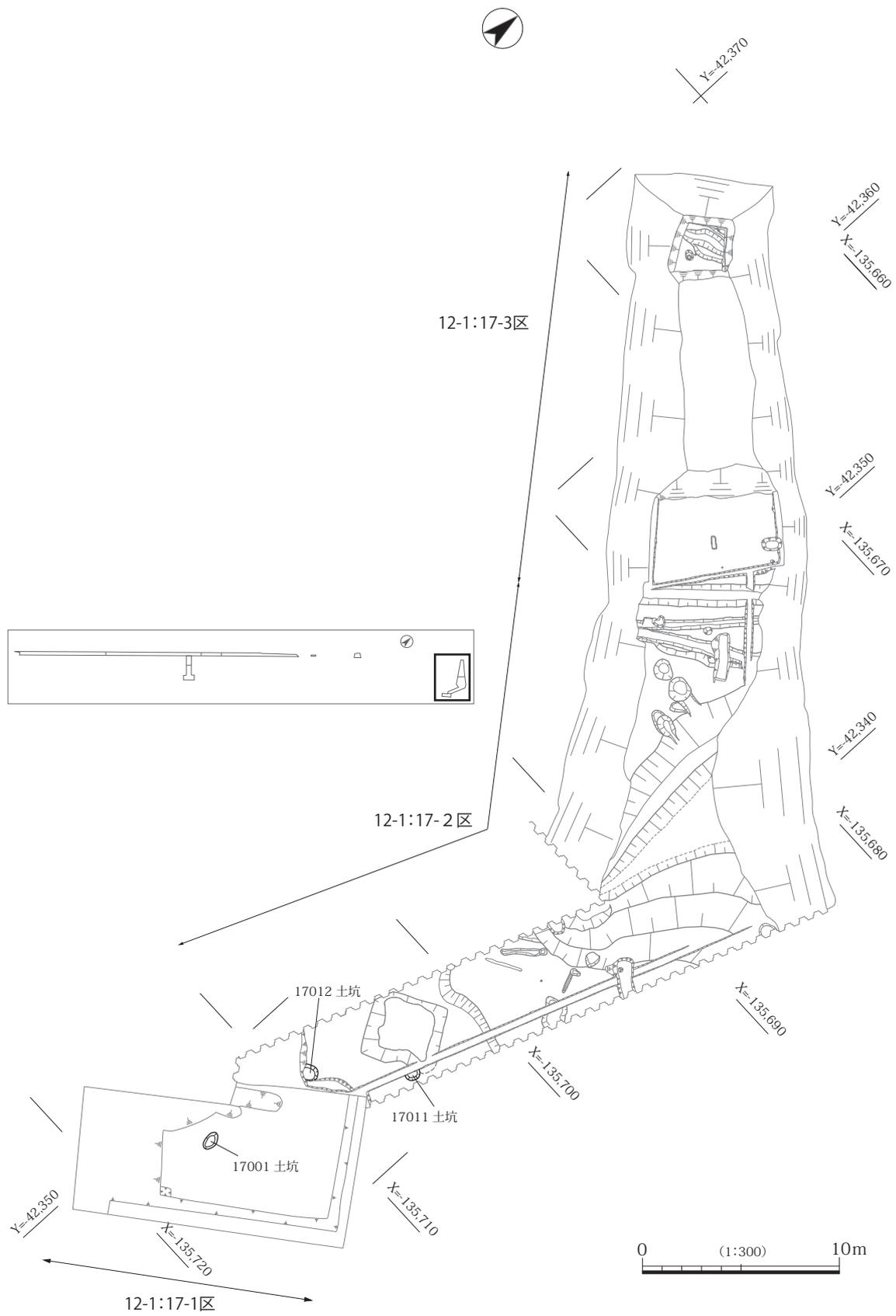


图 28 12-1:17 区 地山上面 平面图 (古代)

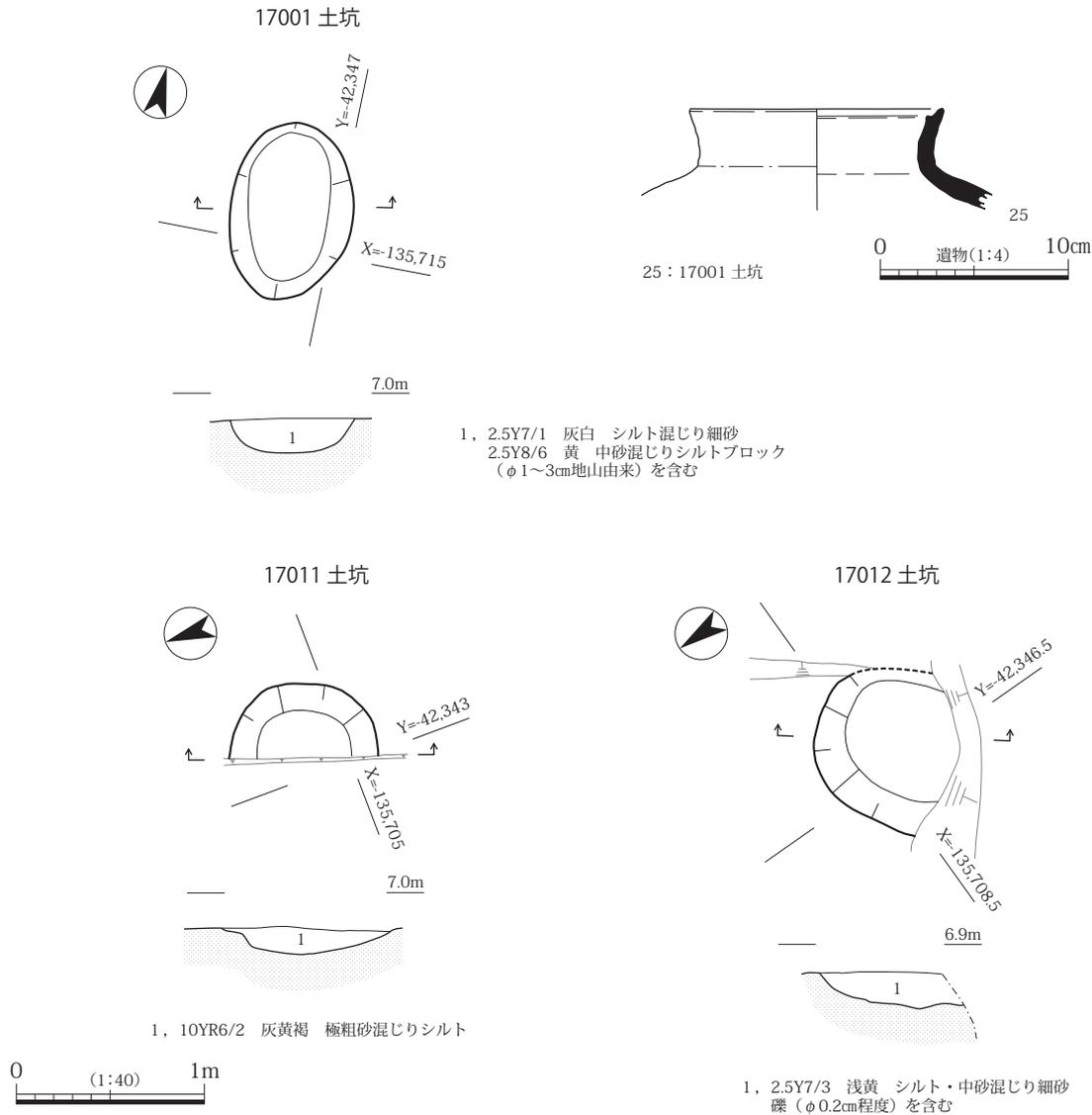


図29 12-1:17区 地山上面 遺構平面図・断面図・出土遺物

山上面で土坑を検出した。さらに調査区南端部(12-1:17-1区)では第1層直下で地山上面を検出した。検出した主な遺構は土坑3基である。土坑はいずれも調査区の南半・南端部で検出した。

17001 土坑(図28・29、写真図版9-3・128) 17001土坑は12-1:17-1区で検出した。平面楕円形で長径0.9m、短径0.65m、深さ0.2mを測る。埋土は単層で2.5Y7/1灰白色シルト混じり細砂に径1~3cm大のシルトブロックを含むものであった。中から奈良時代に属する須恵器甕口縁部(25)が1点出土した。25は直口甕で、内傾する口縁端部をもつ。

17011・17012 土坑(図28・29、写真図版9-4) 17011・17012土坑は12-1:17-2区で第3層を除去して検出した。17011土坑は径0.8m、深さ0.1mの土坑であるが西半部を側溝で失う。埋土は10YR6/2灰黄褐色極粗砂混じりシルトの単層である。17012土坑は遺構の南半部が攪乱によって削平を受ける。規模は長さ0.9m、幅0.8m以上、深さ0.2mを測る。埋土は2.5Y7/3浅黄色シルト・中砂混じり細砂の単層である。

なお、17011・17012土坑とも遺物の出土はなかったが、第3層除去後の地山上面で検出したことと、

17001 土坑と形状や規模が似ていることなどから、古代の遺構として報告を行った。

第3節 中世以降の遺構・遺物

1. 12-1:16-1 区 (図 30～35)

遺構面は操車場に伴う盛土を除去した地山上面で検出した。検出した主な遺構は井戸、土坑、ピット、溝などである。

16002 井戸 (図 30・31、写真図版 12-1) 調査区の東半部にあたる $X=-136,095$ 、 $Y=-42,810$ 地点で検出した。遺構の南半部は調査区外に広がる。また、東端部は攪乱を受ける。規模は径 5 m 以上、深さ 1.4 m 以上を測る。すり鉢状の断面をもつ。土層断面を観察した結果、一度の掘り直しが確認できた。遺物は瓦質土器、土師器、黒色土器の細片が出土した。

16023 井戸 (図 30～33、写真図版 12-2・12-3・128・129) 調査区の西半部、 $X=-136,151$ 、 $Y=-42,867$ 地点で検出した。遺構の南半部は調査区外に広がる。規模は径 3.6 m 以上、深さ 2 m 以上を測る。中層

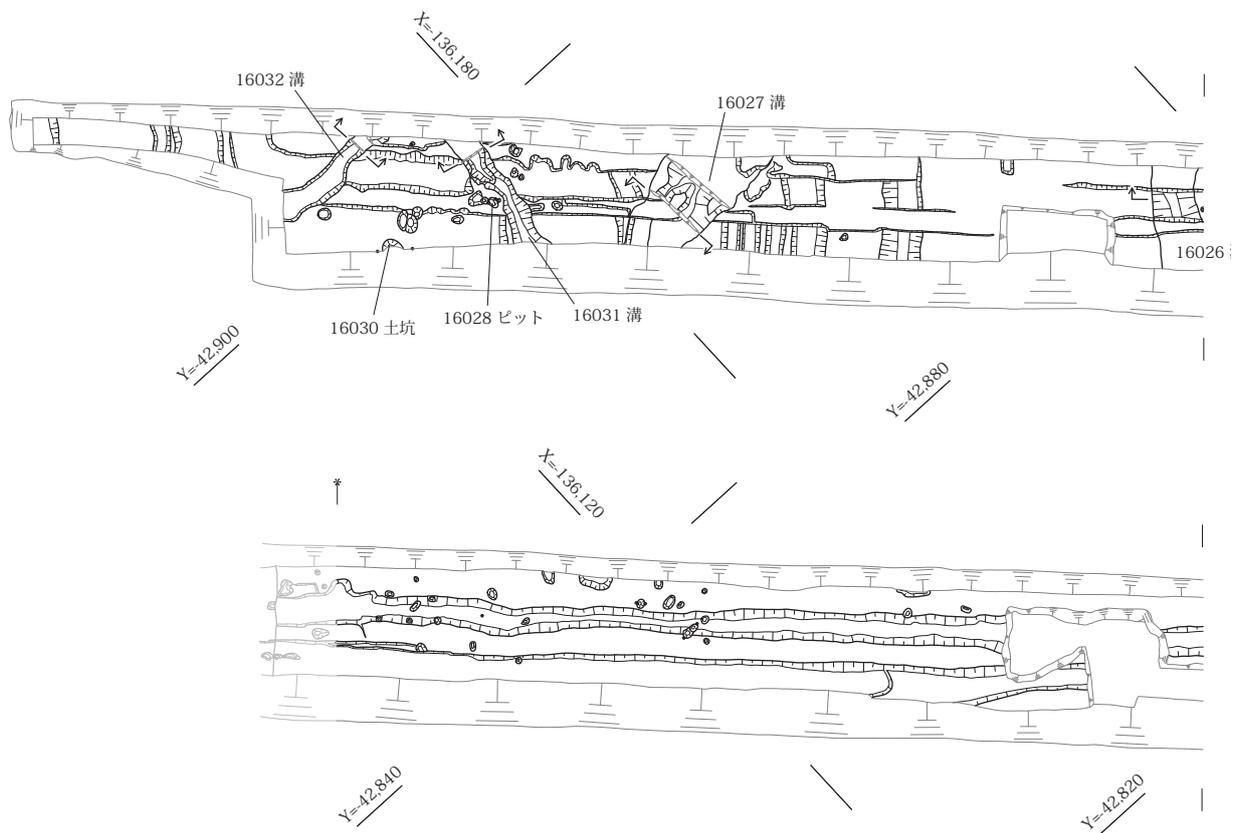
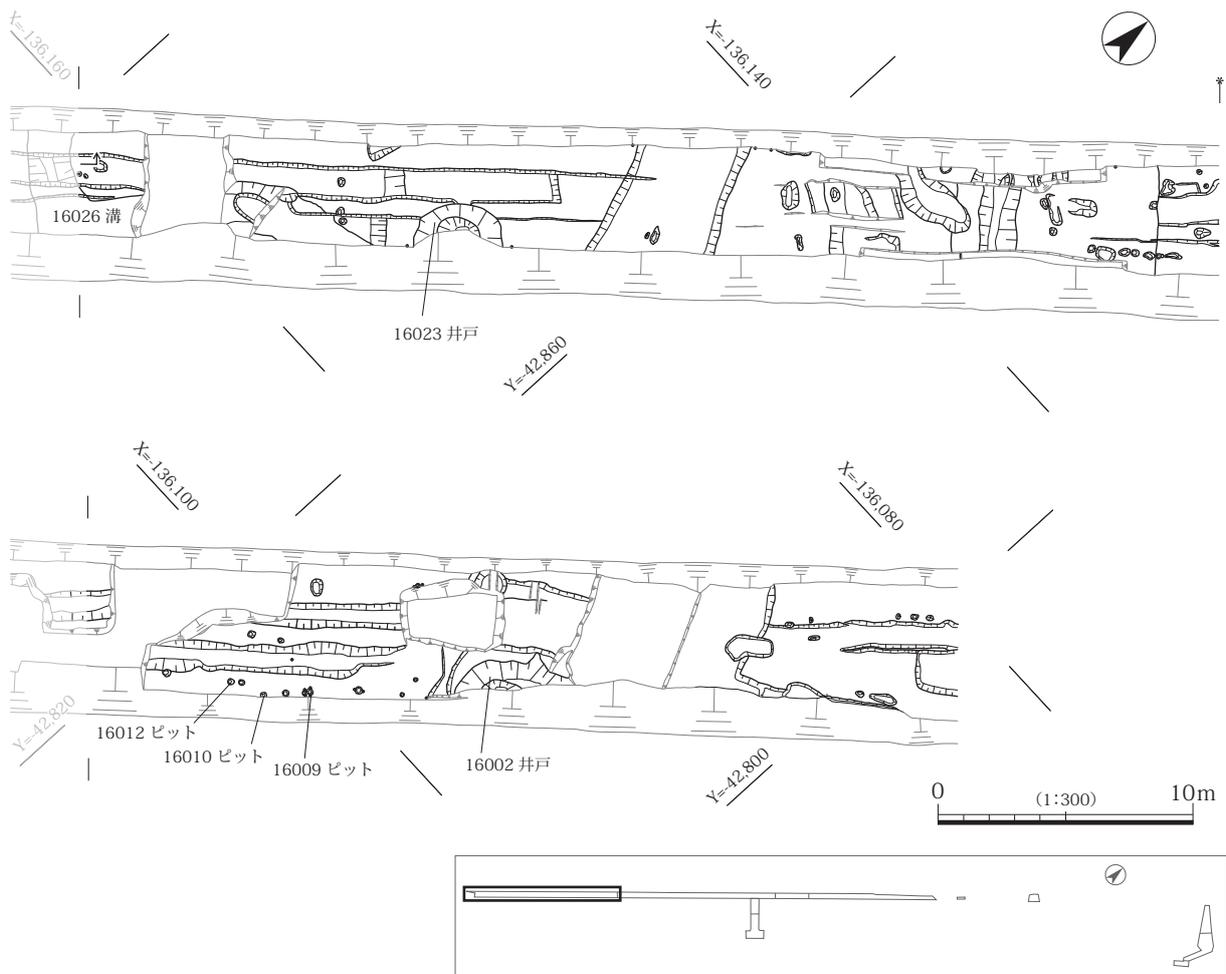
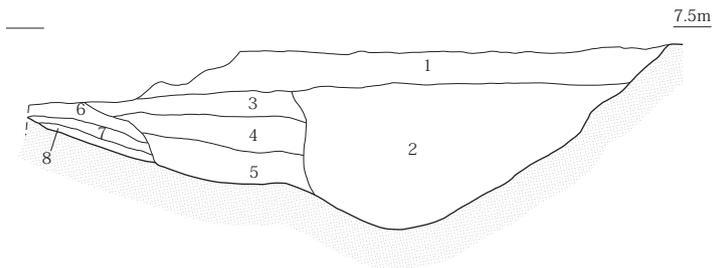
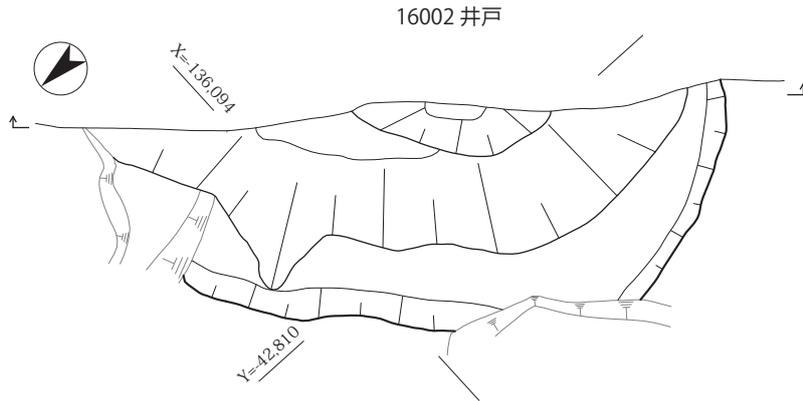


図 30 12-1:16-1 区 平面図 (中世)

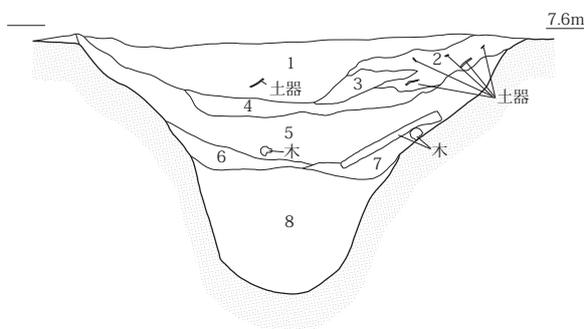
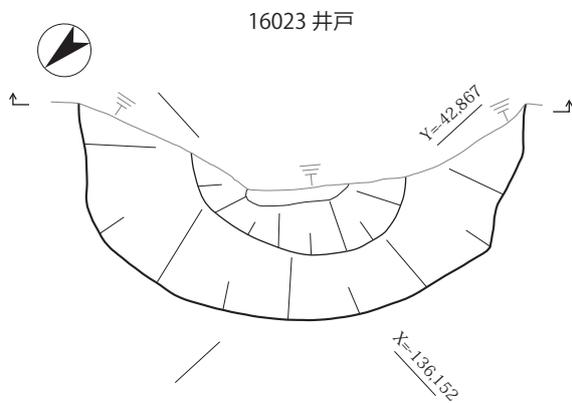
には井戸枠と考えられる材が断面に引っ掛かったが、組まれた状態で調査区外に展開することから詳細は不明である。埋土上層から多量の瓦器碗や土師器小皿をはじめ鍋や羽釜、さらに須恵器すり鉢などの土器の他に横櫛や砥石といった多彩な遺物（26～95）が出土した。これらの遺物は井戸の廃絶後に廃棄されたものである。また、土器や装身具など生活雑器が多く廃棄されていたことから、近くに集落域が展開すると考えられ、16023井戸から南東約150mに位置する平成21年度の調査で13世紀の集落域を検出しており、関連性が示唆される。

26～49は瓦器である。26～29は皿である。29は見込み部に5条の平行線状暗文を施す。30～49は碗である。30～47は和泉型瓦器碗で、46は見込み部に斜格子状暗文を施すが、それ以外の見込み部が残っているものに関しては平行線状暗文が認められる。48・49は樟葉型瓦器碗である。49は丁寧なヘラミガキを施す。50～90は土師器である。50～85は皿である。80・81のようにいわゆる「て」字状口縁をもつものも含まれるが、他は12世紀後半～13世紀の所産である。91・92は東播系須恵器すり鉢である。93は杯底部である。外面に糸切り痕が残る。94は横櫛である。櫛歯は欠損する。肩部はやや丸みを帯び、棟部は緩やかな弧状を呈する。歯は鋸で挽き出し、棟部を平滑に研磨する。材質はツ





- 1, 10YR6/1 褐灰 極細砂混じり中砂と
2.5Y7/6 明黄褐 シルトブロック (地山由来) の互層
- 2, 2.5Y6/1 黄灰 シルト混じり中砂と
10YR7/6 明黄褐 シルトブロック (地山由来) の互層
- 3, 5Y6/1 灰 極細砂混じり細砂 炭化物を含む
- 4, 10YR7/1 灰白 中砂混じりシルト
- 5, 10YR6/1 褐灰 粗砂・シルト混じり中砂
- 6, 2.5Y7/1 灰白 極粗砂～中砂
- 7, 10YR7/2 にぶい黄橙 シルト混じり極細砂
- 8, N6/0 灰 極細砂混じり中砂



- 1, 10YR5/1 褐灰 極細砂混じりシルト
2.5Y8/2 灰白 シルトブロック (地山由来) を含む
- 2, 2.5Y3/1 黒褐 極細砂・細砂混じりシルト
7.5Y8/2 灰白 シルトブロック (地山由来) を含む
瓦器椀・土師器など遺物を大量に含む
- 3, 10YR4/1 褐灰 シルト
2.5GY8/1 灰白 シルトブロック (地山由来) を含む
炭化物を含む
- 4, 10YR5/2 灰黄褐 シルト・細砂混じり中砂
2.5Y7/2 灰黄 シルトブロック (地山由来) を含む
礫 (φ2~3mm)・炭化物を含む
- 5, 10YR4/1 褐灰 極細砂・細砂混じりシルト
5Y7/2 灰白 極細砂混じりシルトブロック (地山由来) を含む
炭化物を含む
- 6, 10YR7/1 灰白 シルトと2.5Y8/4 淡黄 極細砂の互層
- 7, 2.5Y8/4 淡黄 極細砂混じりシルト (木の周辺) と
10YR5/1 褐灰 極細砂混じりシルト
- 8, 2.5Y5/1 黄灰 細砂混じりシルト
5Y6/1 灰 シルト・細砂混じり中砂ブロックを含む

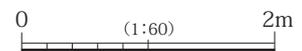


図 31 12-1:16-1 区 16002・16023 井戸 平面図・断面図

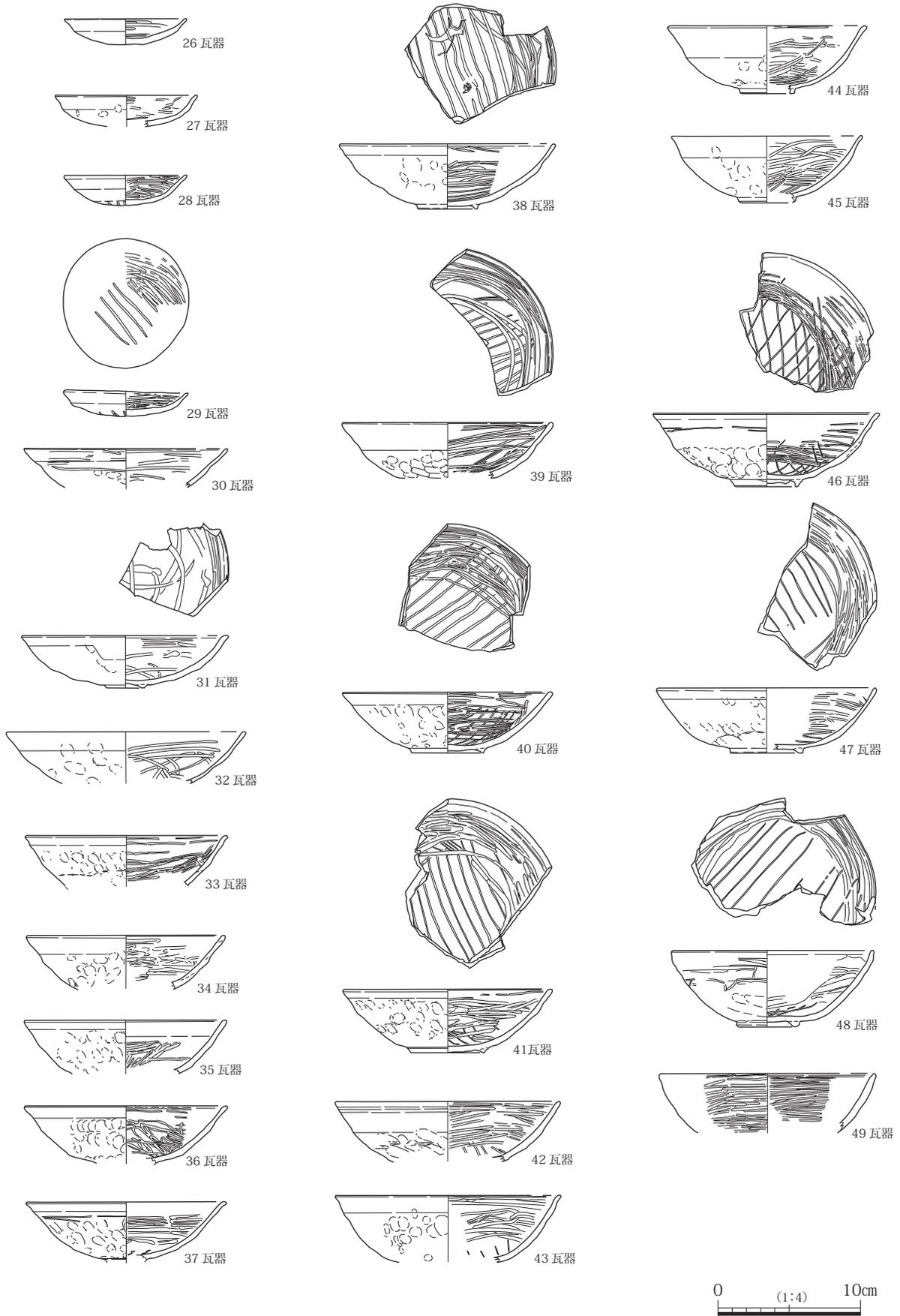


図32 12-1:16-1区 16023井戸 出土遺物(1)

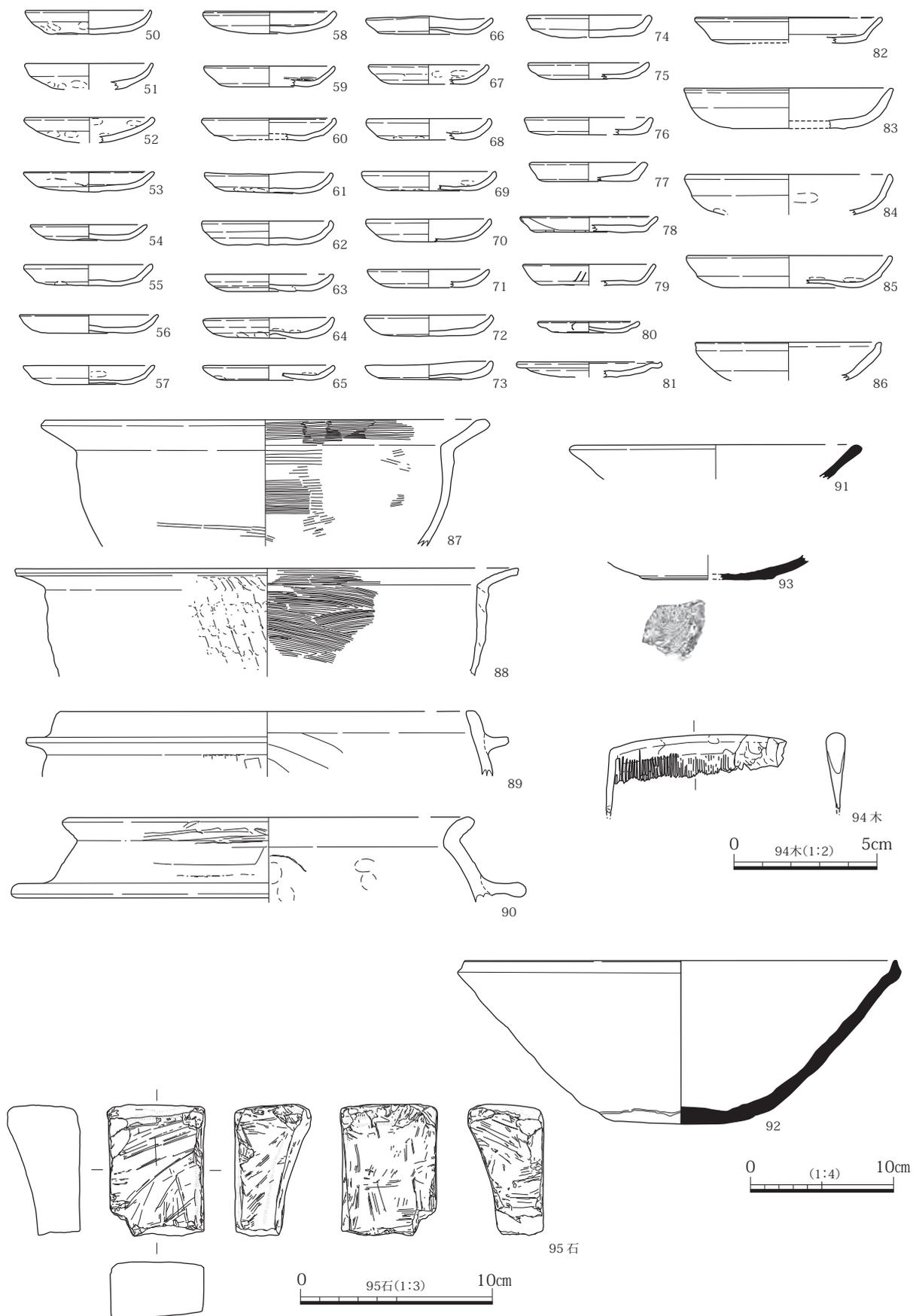


图 33 12-1:16-1 区 16023 井戸 出土遺物 (2)

ゲである。95は凝灰岩質泥岩製砥石である。下半部を欠損する。また、被熱しており、一部ススが附着する。

16030 土坑 (図30・34・35、写真図版11-3・130) 調査区の西端部、X=-136, 185.5、Y=-42, 899 地点で検出した。円形の土坑と考えられ、遺構の南半部は調査区外に広がる。規模は径1m以上、深さ1m以上を測る。埋土は3層確認できたが、上層は人為的に埋められた土であり、中から瓦器碗(98・99)、須恵器すり鉢(102)、土師器細片などが出土した。98・99は瓦器碗底部である。98は見込み部に不規則な暗文を施す。99は断面逆台形状の高台を貼り付ける。102は東播系須恵器捏ね鉢もしくはすり鉢の体部である。いずれも13世紀の所産と考えられる。

16009 ピット (図30・34・35) 調査区東半部で16002井戸の西約5m、X=-136, 101、Y=-42, 814.5 地点で検出した。規模は径0.25m、深さ0.2mである。埋土は単層で、土師器皿(100)や甕体部片が出土した。100は土師器皿である。13世紀の所産である。

16010 ピット (図30・34・35) 16009ピットの南西約1m、X=-136, 101.8、Y=-42, 815 地点で検出した。規模は径0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は単層で、瓦器(96)や土師器片が出土した。96は和泉型瓦器碗口縁部である。

16012 ピット (図30・34・35) 16009ピットの南西約2m、X=-136, 103、Y=-42, 817 地点で検出した。規模は径0.25m、深さ0.2mである。埋土は単層で、瓦器(101)や土師器の細片が出土した。101は瓦器碗底部である。

16028 ピット (図30・34・35) 調査区西端部で16030土坑の北東約4m、X=-136, 182.4、Y=-42, 897.4 地点で検出した。埋土は単層で、瓦器碗(97)や皿の細片が出土した。97は樟葉型瓦器碗である。口縁部下方内面に沈線状の暗文を1条施す。

16026 溝 (図30・35、写真図版11-4) 調査区西半部、X=-136, 160 ライン付近で検出した。溝は調査区北辺で北西から南東方向にはしり、その後「S」字状に屈曲しながら東へ延び、16023井戸の南をはしると考えられる。溝の規模は幅1.2~2.0m、深さ0.6mを測る。埋土は単層で極粗砂~中砂が入り、ラミナが認められる。遺物の出土はなかった。

16027 溝 (図30・35、写真図版11-5) 調査区の西端部、Y=-42, 892 ライン付近を南北方向にはしる。溝の規模は幅2.5~3.4m、深さ0.6~0.8mを測る。溝は部分的に二股に分かれながら北から南に流れる。埋土は底部でシルトブロックの混じる細礫層が確認できたが、大半はラミナの見える粗砂~極細砂層で埋まる。遺物の出土はなかった。

16031 溝 (図30・35、写真図版11-6) 調査区の西端部で16027溝の南側、X=-136, 182 ライン付近を東

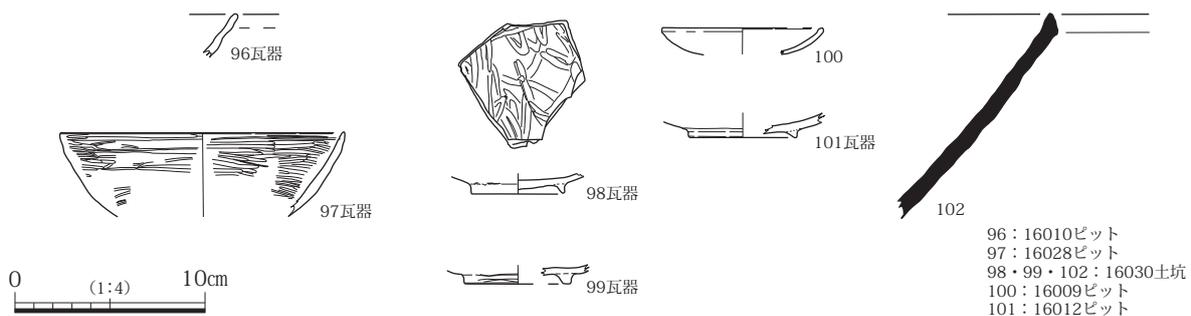


図34 12-1:16-1区 地山上面 遺構出土遺物

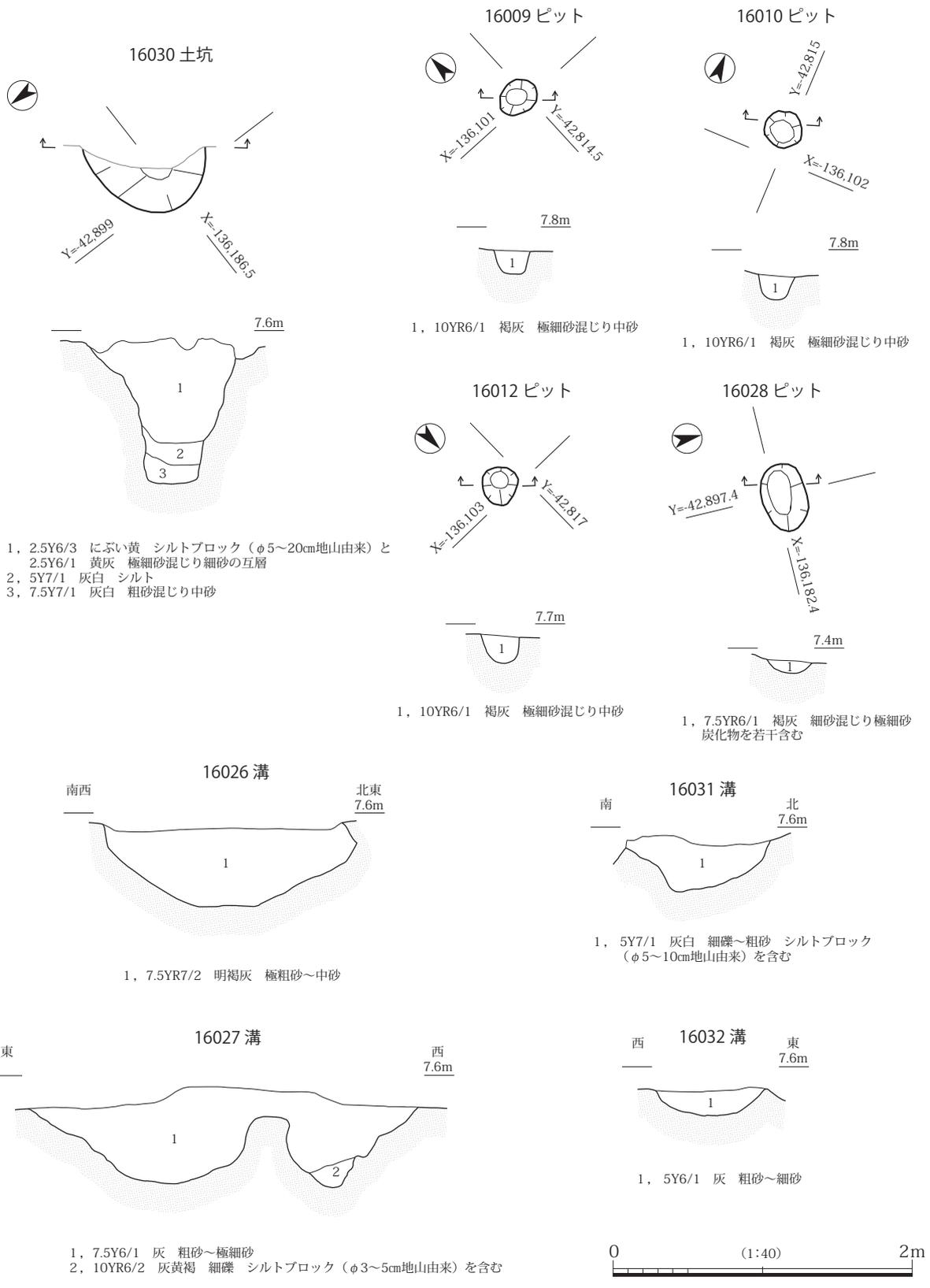


図 35 12-1:16-1 区 遺構平面図・断面図

西方向にはしる。溝の規模は幅 0.9 m、深さ 0.4 m 前後を測る。埋土は単層で細礫～粗砂が入り、ラミナが見える。埋土内にはシルトブロックが含まれるが、これは溝が埋まる際に地山が削り取られたものと考えられる。遺物の出土はなかった。

16032 溝 (図 30・35) 調査区の西端部、16027 溝の西約 10 m の地点を 16027 溝にほぼ平行して南北方向にはしる。溝の規模は幅 0.7～1.0 m、深さ 0.2 m 前後を測る。埋土は単層で粗砂～細砂が入り、ラミナが見える。遺物の出土はなかった。

以上、16026 溝、16027 溝、16031 溝、16032 溝の 4 条の溝は、ほぼ正方位に則ってはしっていた。井戸の溝からも遺物の出土がなかったため断言することはできないが、条里型地割施工後に何らかの区画溝として機能していた可能性が考えられる。

2. 12-1:16-3 区 (図 36～41)

調査区の東半部は操車場に伴う盛土層を除去した段階で、また、調査区西半部は旧表土の第 1 層を除去して地山面を検出した。一方、調査区中央部では第 1 層の直下に堆積する第 2 層を除去した第 2 層下面で中世の遺構面を検出した。検出した主な遺構は、土坑、ピット、落込み、溝などである。遺構は調査区の中央部に集中して検出された。これは、調査区の東・西半部が削平を受けていたことによるものと考えられる。

検出された溝は全て条里型地割の方向に則ってはしっていた。さらに、16251 溝と 16377 溝にはさまれた幅 10 m の間にピットが集中していることが看取できた。残念ながら、建物を復元することはできなかったが周辺の調査が進めば建物が見つかる可能性は否定できない。したがって、検出された溝は水田耕作に伴うものではなく、区画溝の性格が強いと考えられる。ただし、16377 溝とその北側を平行してはしる 16376 溝は、条里型地割に伴う坪境溝である可能性が高い。

16285 土坑 (図 36・37・41) $X=-135,906.5$ 、 $Y=-42,626.5$ 地点で検出した。規模は長辺 1.15 m、短辺 0.8 m、深さ 0.5 m を測る不整形な土坑で、16252 溝と前後関係にある。埋土は 5 層に分かれるが、上層の 10YR5/1 褐灰

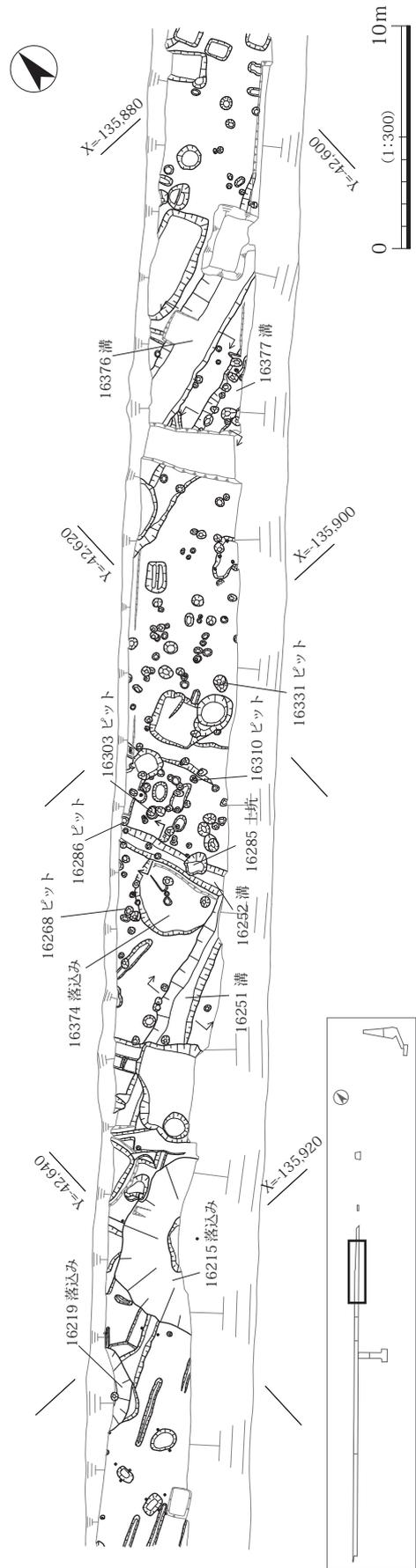


図 36 12-1:16-3 区 平面図 (中世)

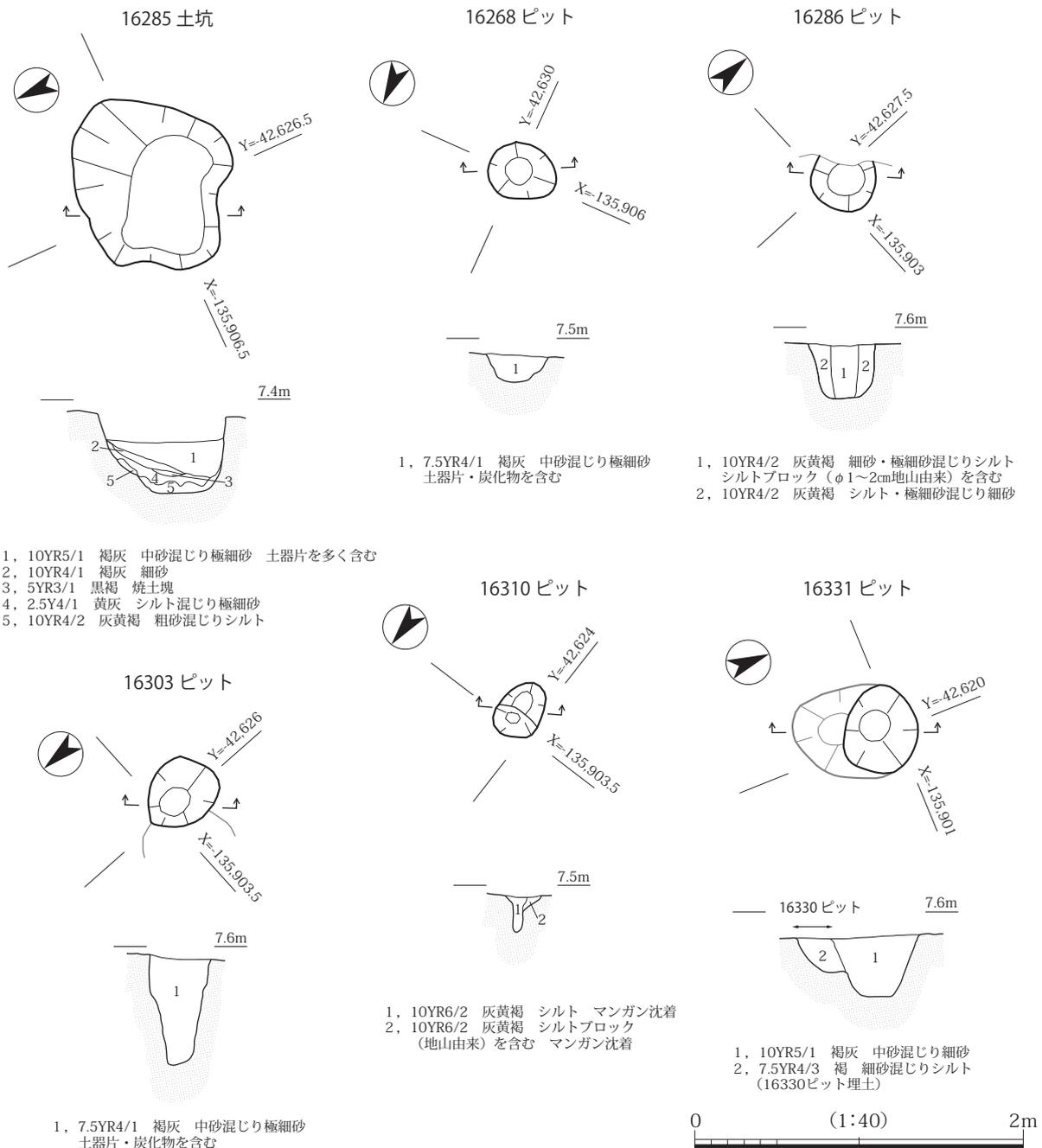


図 37 12-1:16-3 区 遺構平面図・断面図

色中砂混じり極細砂から瓦器、土師器 (108・109)、須恵器、弥生土器などの遺物が出土した。108は土師器小皿である。口縁部は大きく外反する。13世紀の所産である。109は古代の杯で、混入と考えられる。

16268 ピット (図 36・37・41、写真図版 129) 16374 落込みの西、X=-135,906、Y=-42,630 地点で検出した。規模は径 0.4 m、深さ 0.2 m を測る。埋土は 7.5YR4/1 褐灰色中砂混じり極細砂の単層で、瓦器(105)や土師器片が出土した。105 は和泉型瓦器碗である。12 世紀の所産である。

16286 ピット (図 36・37・41、写真図版 130) 16252 溝の東、X=-135,903、Y=-42,627.5 地点に位置す

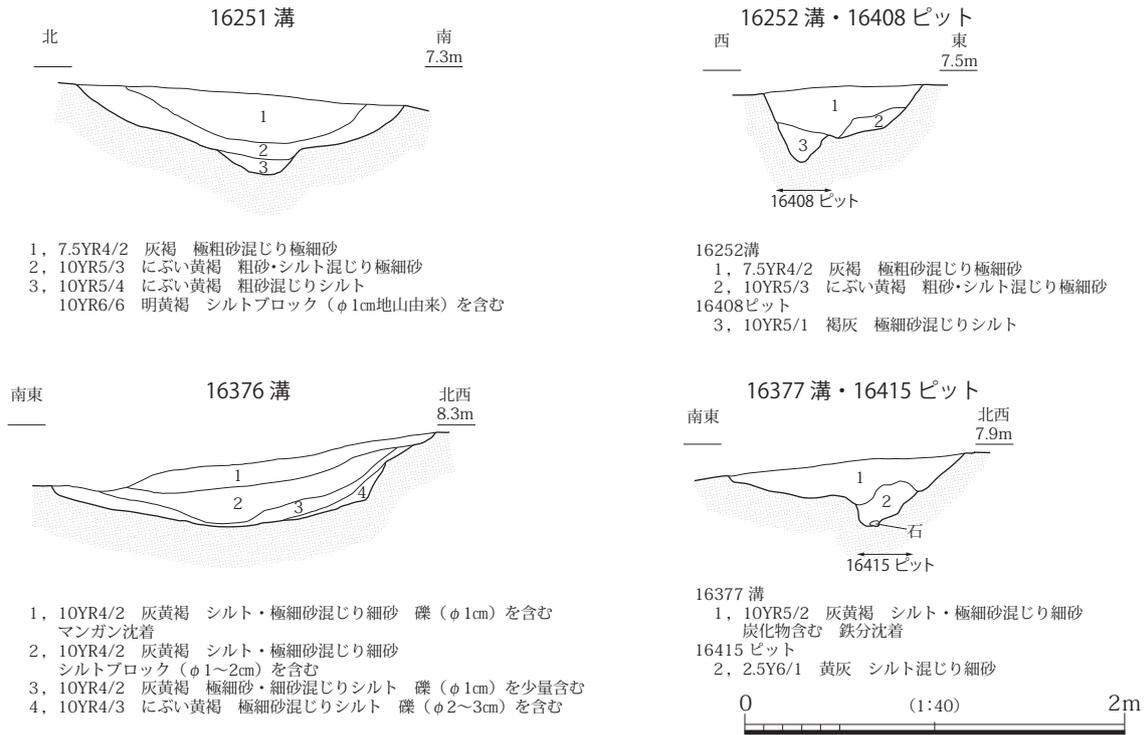


図 38 12-1:16-3 区 遺構断面図

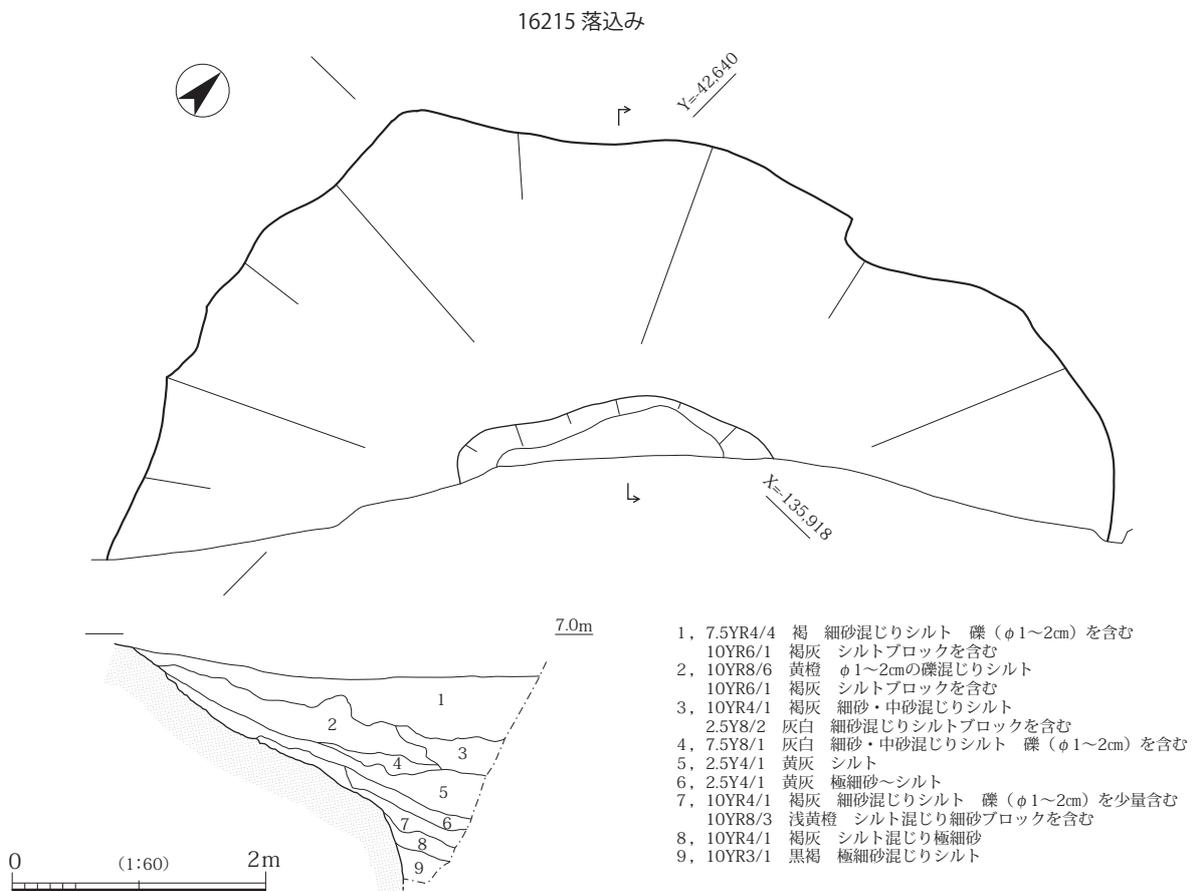


図 39 12-1:16-3 区 16215 落込み 平面図・断面図

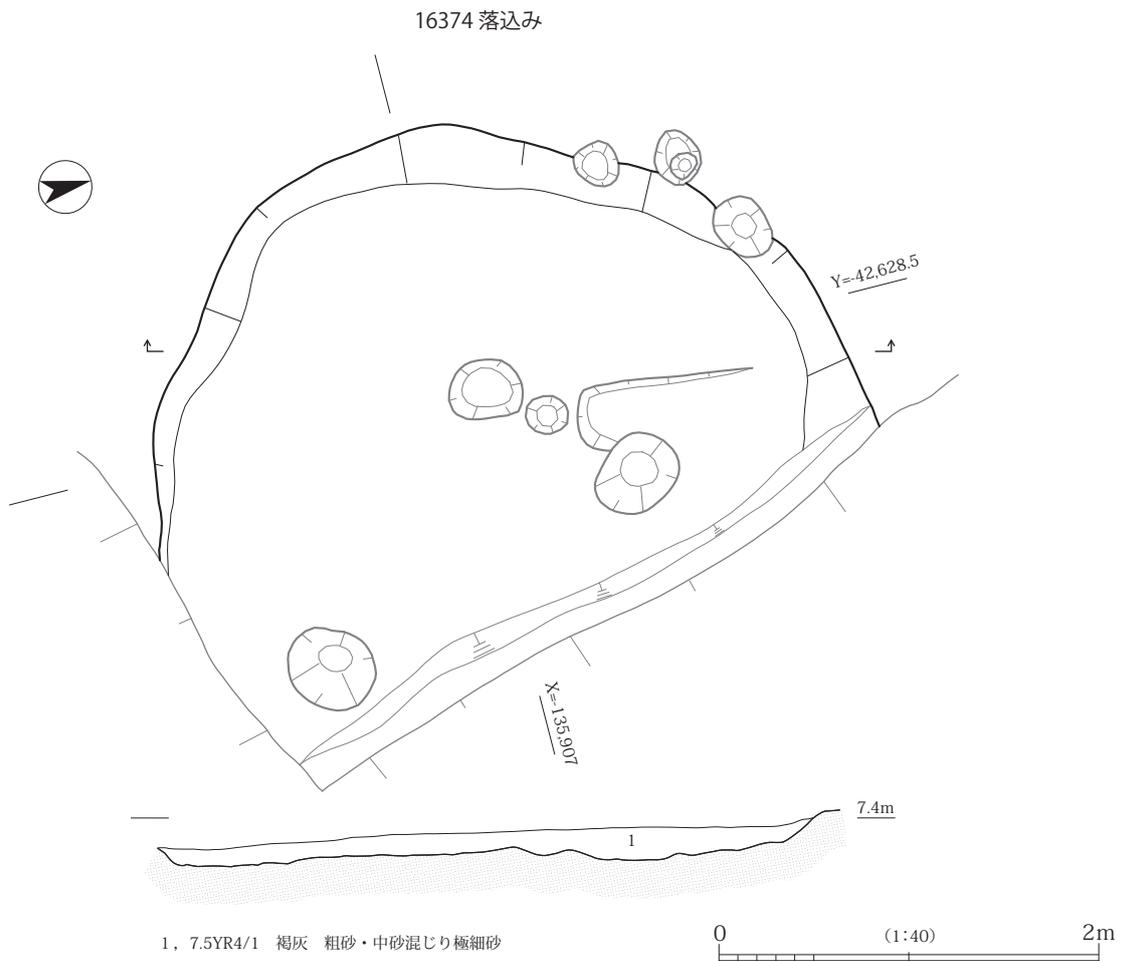
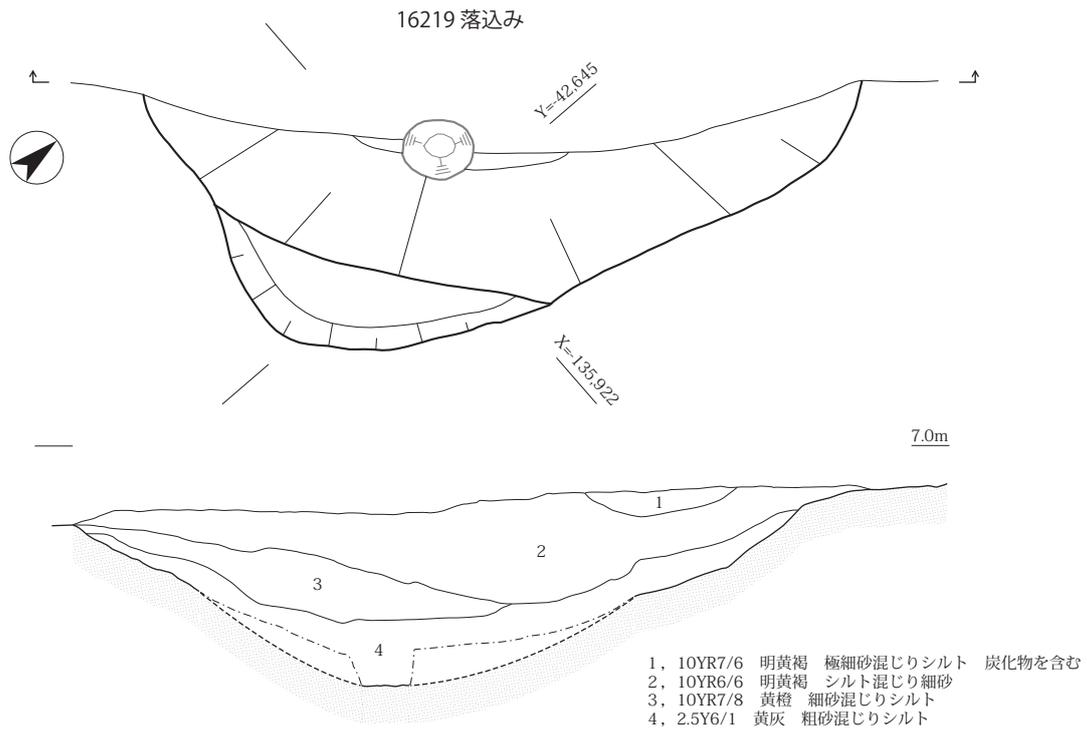


図 40 12-1:16-3 区 16219・16374 落込み 平面図・断面図

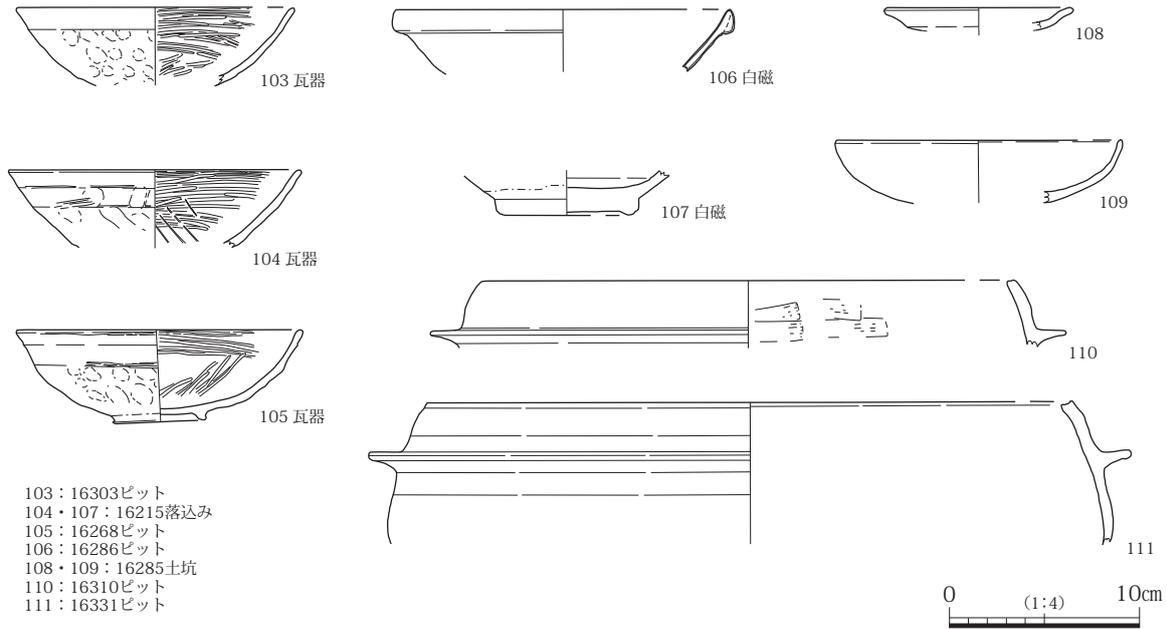


図41 12-1:16-3区 第2層下面 遺構出土遺物

る。規模は径0.4m、深さ0.3mを測る。径0.15mの柱痕が残る。白磁碗(106)が出土した。106は白磁碗の口縁部である。口縁端部は断面三角形の玉縁状を呈する。13世紀第1四半期の所産である。

16303ピット(図36・37・41) X=-135,903.5、Y=-42,626地点で検出した。規模は径0.4m、深さ0.7mを測る。埋土は7.5YR4/1褐灰色中砂混じり極細砂の単層で、瓦器(103)や土師器が出土した。103は和泉型瓦器碗である。

16310ピット(図36・37・41) X=-135,903.5、Y=-42,624地点で検出した。規模は径0.3~0.35m、深さ0.2mを測る。遺物は土師器片(110)や須恵器片が出土した。110は土師器の羽釜である。口縁部は内傾しながら立ち上がり、端部に面をもつ。断面三角形の鑿がつく。

16331ピット(図36・37・41、写真図版130) X=-135,901、Y=-42,620地点で検出した。規模は長径0.8m、短径0.6m、深さ0.35mを測る。ピットの南側は二段落ちであった。遺物は土師器羽釜(111)が出土した。111は口縁部が内傾しながら立ち上がり、端部に面をもつ。復元される胴部最大径は38cmを測る。

16215落込み(図36・39・41、写真図版14-1・130) X=-135,918、Y=-42,640地点で検出した。遺構の南半部は調査区外に広がる。規模は幅7.9m以上、深さ2m以上を測る。すり鉢状に掘り込まれており、井戸の可能性も残る。遺物は瓦器(104)、土師器、白磁(107)が出土した。104は和泉型瓦器碗である。見込み部には平行する4条の暗文が施される。107は白磁碗底部である。体部下半部と底部外面は露胎である。断面台形状の削出し高台をもつ。

16219落込み(図36・40、写真図版14-2) 16215落込みの東約2m、X=-135,922、Y=-42,645地点で検出した。遺構の北半部は調査区外に広がる。規模は幅4.2m以上、深さ1m以上を測る。断面すり鉢状を呈する。遺物は土師器と須恵器の細片が出土した。

16374落込み(図36・40) 16252溝の西、X=-135,907、Y=-42,628.5地点で検出した。遺構の南端部が16251溝に、東端部を16252溝に切られる。規模は径3.7m以上、深さ0.2mを測る。落込みの底部

は平らで浅い皿状を呈する。埋土は 7.5YR4/1 褐灰色粗砂・中砂混じり極細砂の単層である。遺物は図示し得なかったが、瓦器、土師器、須恵器片が出土した。

16251 溝 (図 36・38、写真図版 13-1) 調査区の中央部を東西方向にはしる溝である。溝の規模は幅 1.1～1.6 m、深さは最深部で 0.5 m を測る。溝の主軸方向は N-112°-W である。溝は調査区南東端部で直交する 16252 溝に接続する。遺物は瓦質土器、瓦器、土師器、須恵器の細片が出土した。

16252 溝 (図 36・38) 16251 溝に直交して南北方向にはしる溝である。溝の規模は幅 0.9～1.1 m、深さは最深部で 0.5 m を測る。溝の主軸方向は N-22°-W である。遺物は土師器羽釜や須恵器の細片などが出土した。

16376 溝 (図 36・38、写真図版 13-3・14-3) 16377 溝の約 1 m 北側を 16377 溝に平行して東西方向にはしる。溝の規模は幅 2.1 m、深さ 0.6 m を測る。溝の主軸方向は N-107°-W である。遺物は土師器のほかに弥生土器の細片が出土した。16377 溝とともに坪境をはしる溝の可能性が考えられる。

16377 溝 (図 36・38、写真図版 13-2・13-3) 16251 溝の北約 10 m の地点を東西方向にはしる。溝の規模は幅 1.3 m、深さ 0.2 m を測る。溝の主軸方向は N-107°-W である。遺物は土師器の細片が出土した。

3. 12-1:16 区包含層出土遺物

12-1:16-2 区および 12-1:16-3 区の包含層出土遺物について述べる。

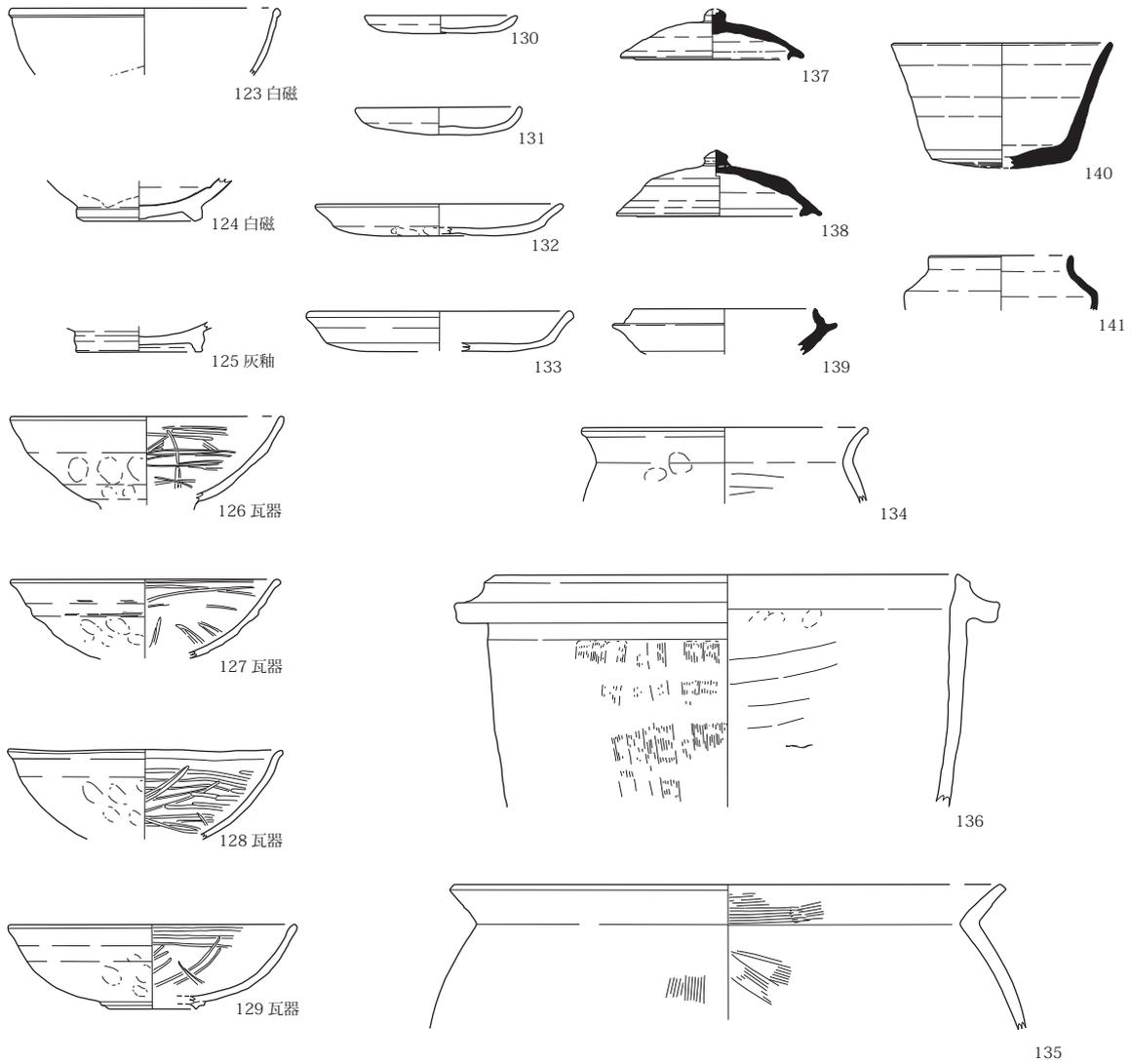
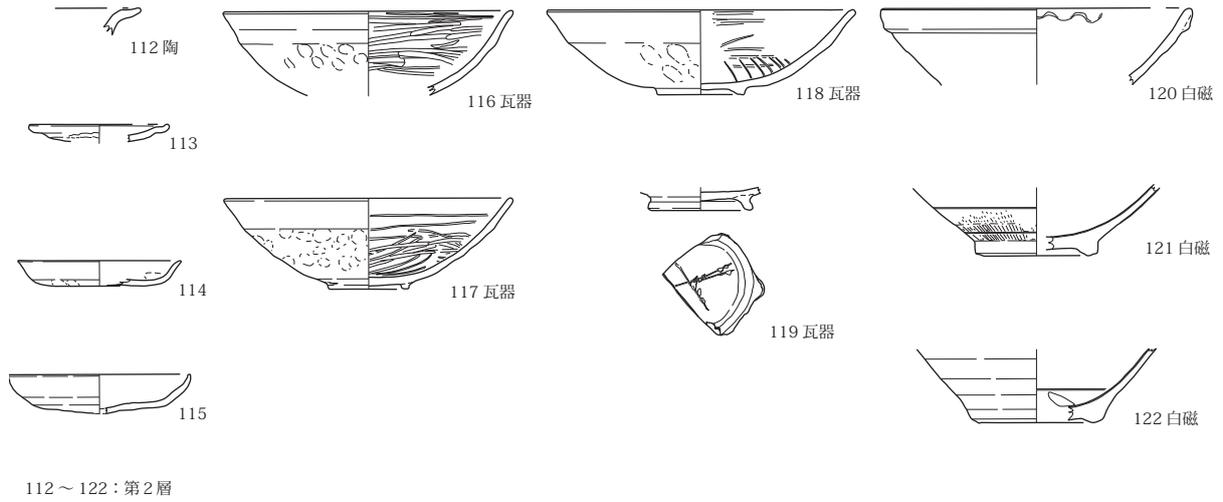
第 2 層出土遺物 (図 42、写真図版 130・131) 中・近世耕作土層から出土した遺物である。112 は唐津焼の皿口縁部である。15 世紀末～16 世紀初頭の所産である。113～115 は土師器である。113 はいわゆる「て」字状口縁をもつ小皿である。114 は皿である。114 は上方へ開きながら立ち上がり、口縁端部をやや外反させる。115 は皿である。内湾気味に立ち上がる口縁をもつ。116～119 は和泉型瓦器碗である。116 は内面に比較的密に暗文を施す。117 は復元口径 15.1 cm、器高 4.8 cm を測る。118 は内湾しながら大きく開く体部をもつ。内面体部の暗文は粗である。見込み部に平行線状暗文を施す。119 は底部である。外面に「十」字形の線刻を焼成後に施す。120～122 は白磁碗である。120 は口縁部で、復元口径は 16.2 cm を測る。121 は碗底部である。体部外面下半部と底部は露胎である。また、外面に 2 条の沈線が巡る。いずれも 13 世紀第 1 四半期に属する。122 は碗底部である。見込み部と体部の境に片切彫状の段がつく。外面および底部は露胎である。12 世紀の所産か。

第 3 層出土遺物 (図 42、写真図版 131) 中世包含層から出土した遺物である。123・124 は白磁碗である。125 は灰釉陶器の底部である。126～129 は和泉型瓦器碗である。130～136 は土師器である。130・131 は小皿である。132・133 は皿である。134・135 は甕である。136 はいわゆる摂津 C 型羽釜である。137～141 は須恵器である。137・138 は飛鳥時代の杯蓋である。139 は飛鳥時代の杯身である。140 は杯である。141 は壺である。

4. 12-1:20 区 (図 43・44)

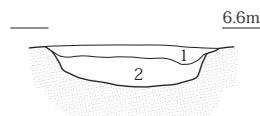
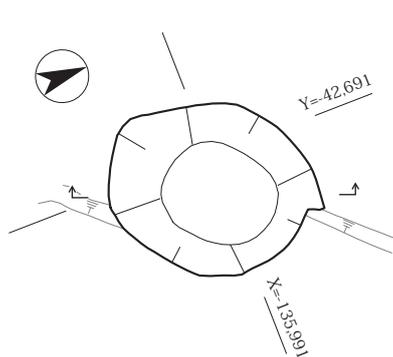
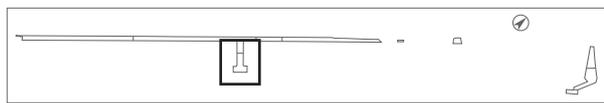
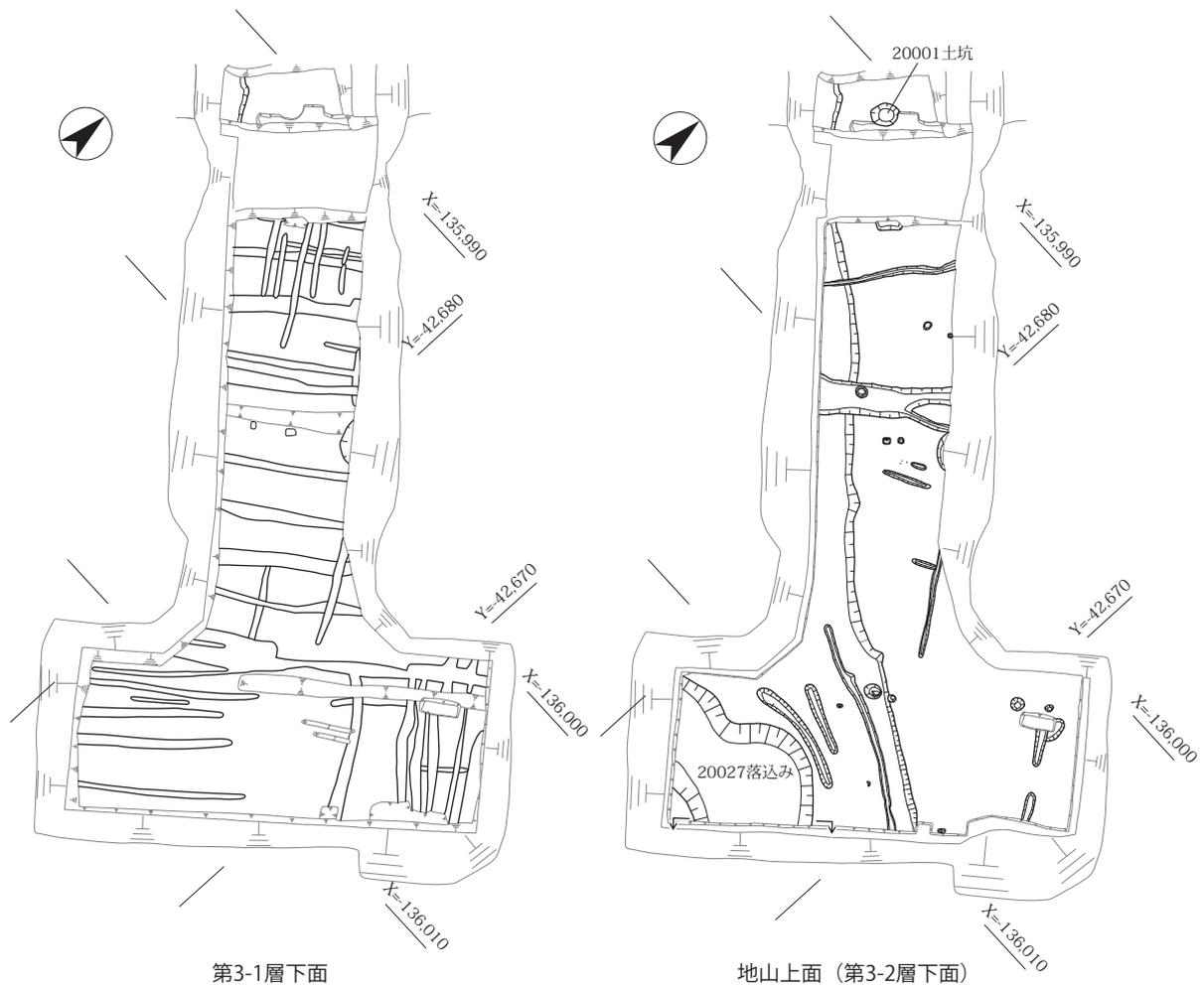
12-1:20 区は X=-135,980、Y=-42,700 地点で 12-1:16-2 区の南辺に隣接する調査区で、調査区の平面形は逆「T」字形を呈する。中世に属する遺構面は 2 面あった。

第 3-1 層下面 (図 43) 中世耕作土層である第 3-1 層を除去して検出した。鋤溝を検出した。鋤溝は N-50°-E 方向にはしるものとそれに直行するものを検出した。遺構面の標高は北西から南東方向に低くなり 6.4～6.2 m を測る。ちなみに中世末に属する第 2 層下面でも同様の方向に鋤溝がはしっている

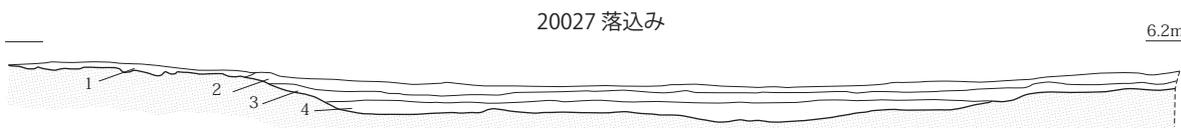


0 (1:4) 10cm

図42 12-1:16-2・16-3区 第2・3層出土遺物



- 1, 10YR4/1 褐灰 中砂混じりシルト (最下層に炭化物を含む)
- 2, 10YR6/1 褐灰 粗砂混じりシルト
- 10YR7/6 明黄褐 シルトブロック (φ1~3cm) を含む



- 1, N5/0 灰 極細砂混じり中砂
- 2, 7.5YR4/1 褐灰 極細砂混じりシルト
- 3, 10YR6/1 褐灰 シルト混じり極細砂
- 4, 5Y7/1 灰白 極細砂

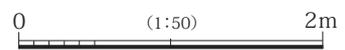


図43 12-1:20区 遺構平面図・断面図

ことが土層断面観察の結果から判明しており、少なくとも第3-2層下面に見られる耕作の方向が中世末までは継続することが認められた。

地山上面（第3-2層下面）（図43） 第3-2層を除去して検出した。遺構面は北西から南東方向へ緩やかに傾斜しており、遺構面の標高は6.4～6.2mを測る。遺構は調査区北西端部で20001土坑を、調査区の南東辺に沿って水田の段差を、そして調査区南隅部で20027落込みを検出した。

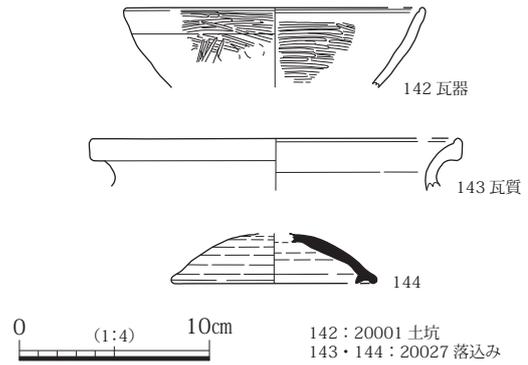


図44 12-1:20区 地山上面 遺構出土遺物

20001土坑（図43・44、写真図版15-2） 調査区北

西端部で検出した。遺構は楕円形を呈し、その規模は長径1.15m、短径0.9m、深さ0.25mを測る。瓦器片（142）や土師器片などが出土した。142は樟葉型瓦器碗口縁部で、内面に沈線状の凹みを施す。なお、図示できなかったが、13世紀の瓦器碗片が出土しており、それをもって遺構の時期と判断した。

20027落込み（図43・44） 20027落込みは東西方向に溝状に窪む落込みで幅3.5～5.0m、深さ0.3mを測る。埋土は3層に分かれ、上層は7.5YR4/1褐灰色極細砂混じりシルト、中層は10YR6/1褐灰色シルト混じり極細砂、下層は5Y7/1灰白色極細砂である。平面形状や埋土の状況から流路の可能性も捨て切れない。遺物は瓦器、瓦質土器（143）、瓦などの他に飛鳥時代の須恵器（144）や弥生土器片などが出土した。143は瓦質土器の甕口縁部である。頸部から外反しながら大きく開く。端部は肥大し、面をもち真っ直ぐ立ち上がる。13世紀の所産と考えられる。144は飛鳥時代の杯蓋で混入と考えられる。

5. 12-1:19区

12-1:16-3区の北東に位置する。基本層序でも述べたが、当調査区の立地は調査区の北東にある墓地の高まり（標高11.0m）の南端部にあたる。表土層を重機で掘削した結果、調査区全体に攪乱がおよんでいることが判明した。調査区の一部を重機で掘削して深さを確かめたところ、GL -4.6mにまでおよんでいた。12-1:16-3区における地山面の標高が10.0mであることや、調査区東側にある高まりの標高が11.0mであることなどから考えて、遺構面は完全に削平を受けていると判断し調査を終了した。

6. 12-1:15区（図45）

12-1:15区は12-1:19区の北東約70mに位置する。調査区の西側で12-1:19区との間に当たる位置に墓地の高まり（標高11.0m）がある。基本層序でも述べたが、12-1:15区の北側で行われた調査成果から、12-1:15区の東側には谷状地形がはしっていることが明らかになっており、旧地形は南西から北東方向へ傾斜していたと推測される。しかし、耕作地として利用した際に削平されたと考えられ、検出した地山上面はほぼ平坦であった。

調査区は一辺8×8～9mの台形状を呈する。調査区の南東部はボックスカルバートとその掘方によって攪乱を受ける。さらに、北東端部付近においても現代水路の掘形によって攪乱を受けていた。

地山上面 基本層序でも述べたが、地表下には厚さ1.1mの操車場に伴う盛土があり、その直下に旧表土層が堆積する。これらの層を重機で除去したところ、包含層の堆積は確認できず地山上面を検出した。

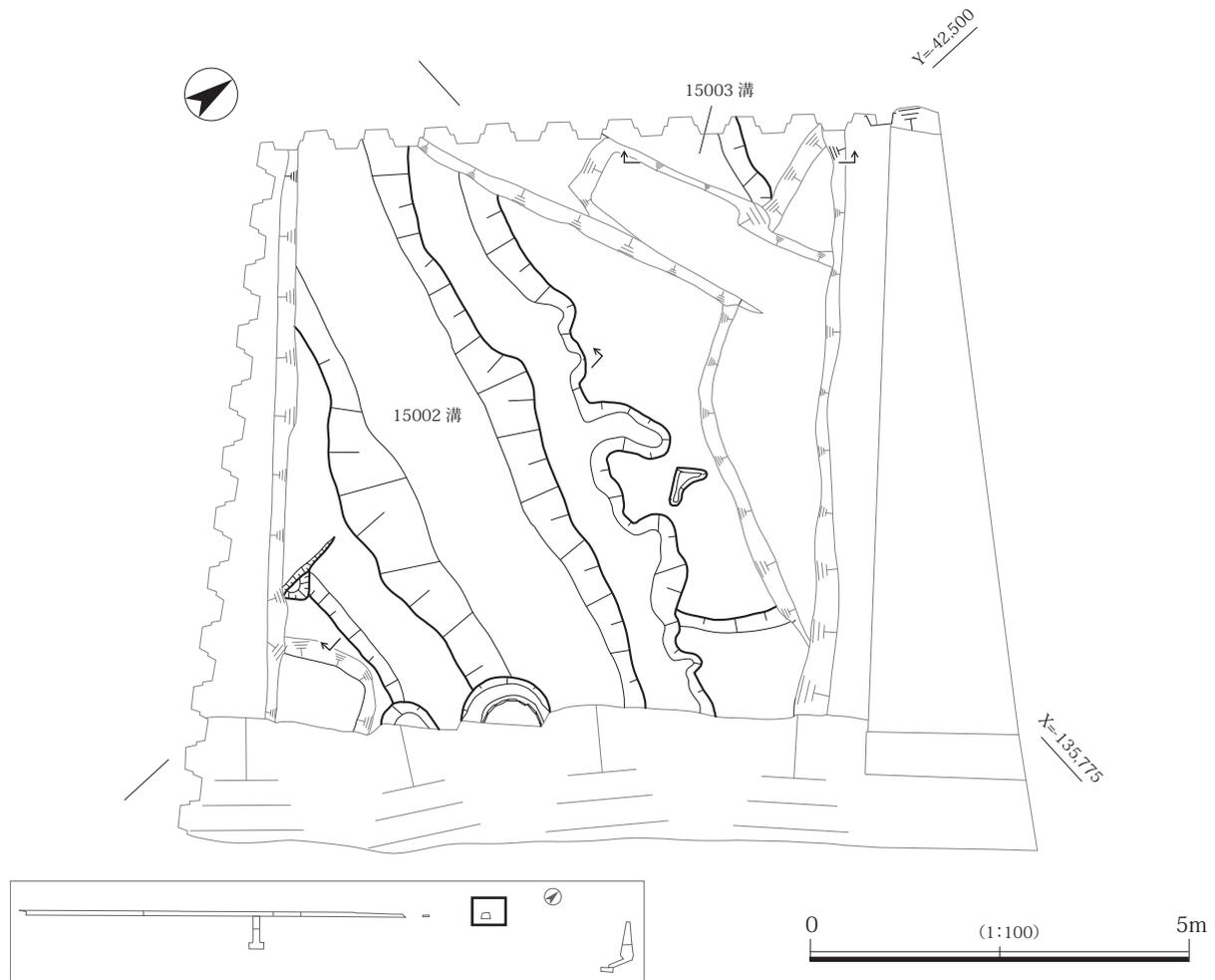


図 45 12-1:15 区 地山上面 平面図

遺構面の標高は 7.0 m を測る。当該面では 2 条の溝と近世以降の井戸を 1 基検出した。

15002 溝 (図 45・46、写真図版 16-2・130) 15002 溝は調査区の中央部を $N-74^{\circ}-W$ を軸にほぼ東西方向にはしり、溝の両端は調査区外に延びる。溝の規模は幅 4.4 m、深さ 0.6 m を測り、2 段の掘り込みが確認できた。溝内から白磁、瓦器、瓦質土器、土師器、須恵器、弥生土器などが出土した。

145 は白磁碗底部である。高台は削出し高台で、断面台形状を呈する。内面は見込み部に沈線が 1 条巡る。146～149 は瓦器である。146～148 は小皿である。146 は口縁部に段をもち、屈曲して大きく外反する。外面底部は指頭圧痕が残る。147・148 はともに大きく外に開く口縁をもつ。149 は和泉型の椀である。150～152 は土師器小皿である。いずれも口縁部に一段ナデを施す。153～155 は土師器羽釜である。口縁部はいずれも鏝部から内湾しながら立ち上がる。いずれも 12 世紀後半から 13 世紀の所産である。

15003 溝 (図 45・46、写真図版 16-3) 15003 溝は調査区の北東端部で検出した。15002 溝の東 3 m に位置し、15002 溝とほぼ平行してはしりと考えられるが、攪乱によって失われていた。残存する規模は幅 1 m 以上、深さ 0.3 m を測る。遺物の出土はなかったため、溝の時期は不明である。

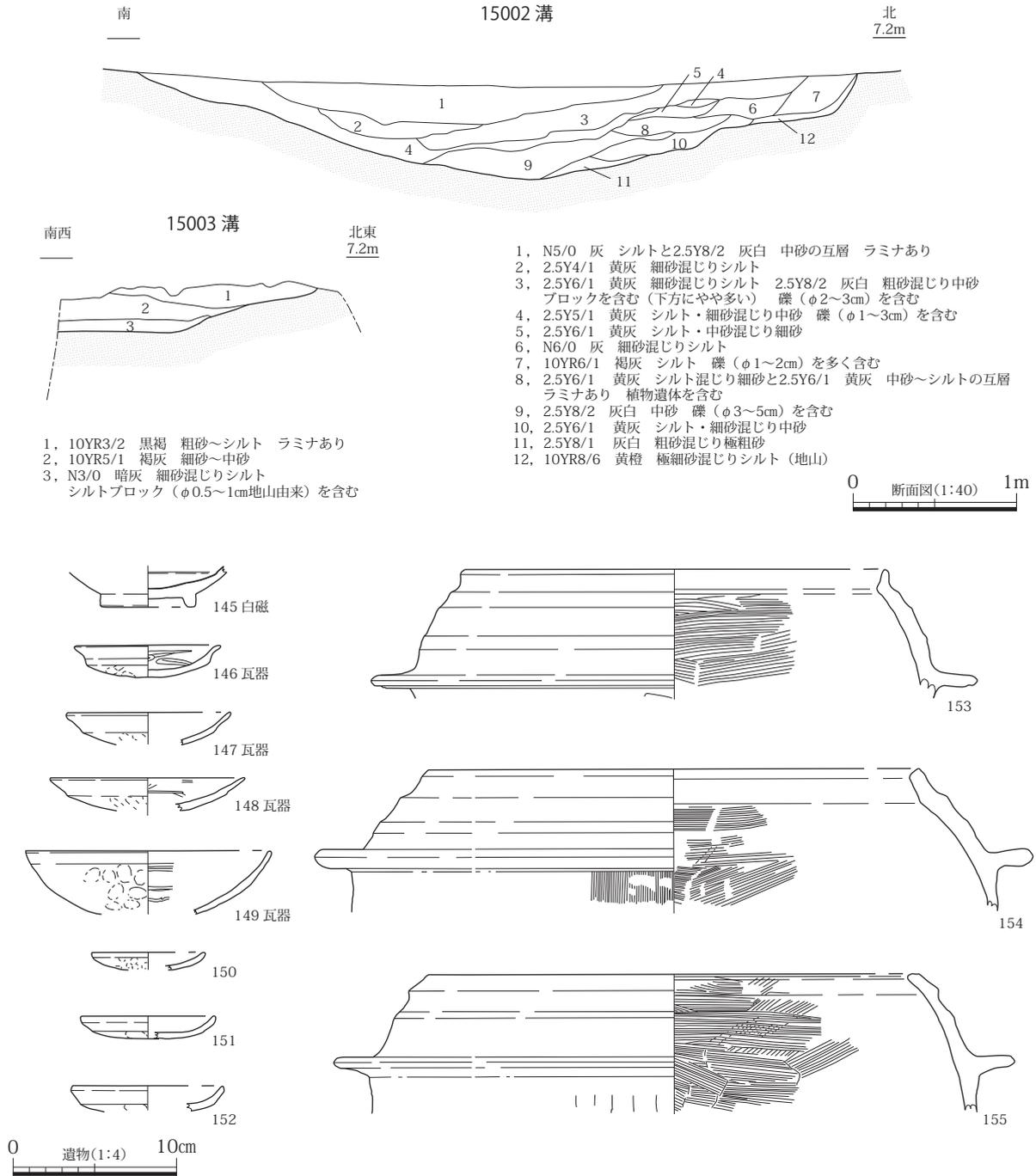


図46 12-1:15区 遺構断面図・15002溝 出土遺物

7. 12-1:17区

中世の遺構面は、第2・3層を除去して検出したが、調査区中央部(12-1:17-2区中央部)と南西端部(12-1:17-1区)では旧表土層を除去した段階で地山上面を検出した。検出した遺構は井戸、土坑、溝、池である。遺構面はほぼ平坦である。なお、調査区北半部に東西方向にはしる溝を3条検出したが、いずれも中・近世以降の溝で、うち1本は中世に掘削された17003池の北辺と前後関係が認められ、池の掘削時期を解明する手掛かりとなった。

17004 井戸 (図47・48・50、写真図版18-1~18-3) 調査区の南端部 X=-135, 703、Y=-42, 345の地点で、

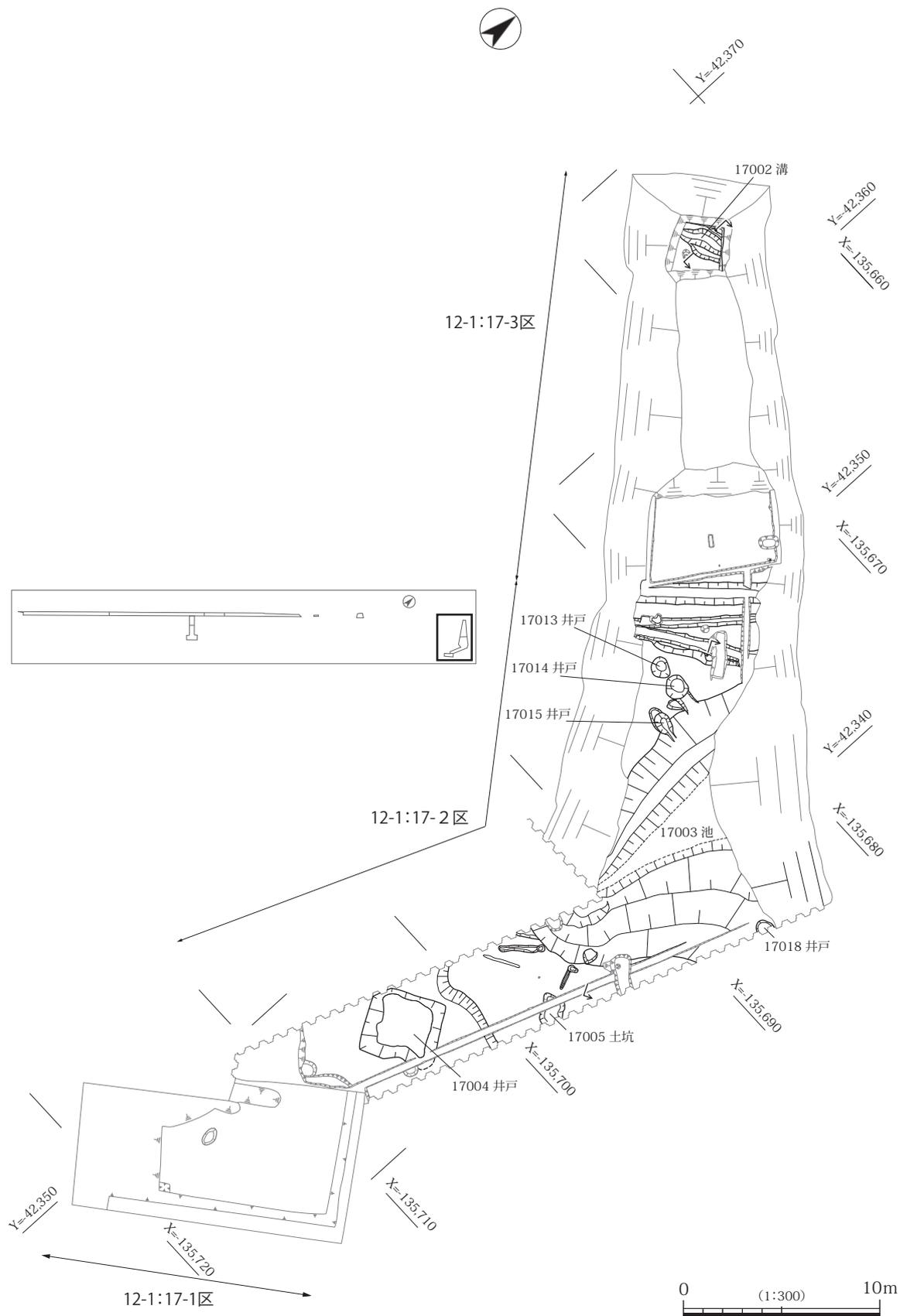


图 47 12-1:17 区 地山上面 平面图 (中世)

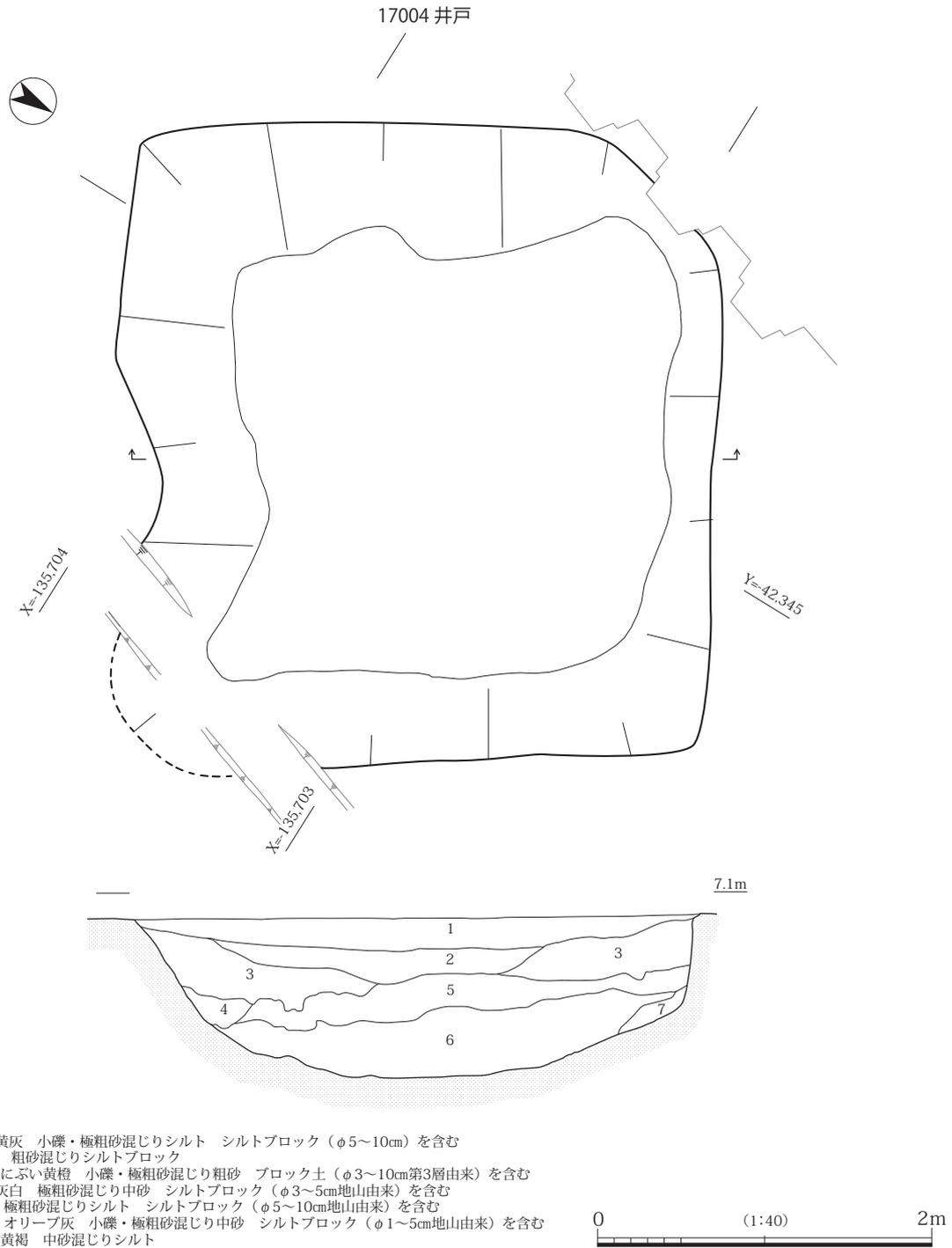


図48 12-1:17区 17004 井戸 平面図・断面図

第2層下面で検出した。平面形はN-33°-Wに主軸をもつ一辺3.4×3.7mの方形である。断面は逆台形状を呈するが、中央部が浅く窪む。深さは1.0mを測る。断面観察の結果、井戸は掘削後程なく人為的に埋められたと考えられ、シルトブロックを含む層が入る。遺物は土師器(156)、須恵器甕頸部が出土した。156は土師器小皿で「て」字状口縁をもつ。遺物は平安時代の所産であるが、検出面等から検討した結果、混入遺物と考えられる。なお、須恵器は小片であったため図示できなかった。遺構の主軸方向が条里型地割の方向に則っていることなどから、耕作に伴う井戸であると考えられる。

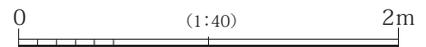
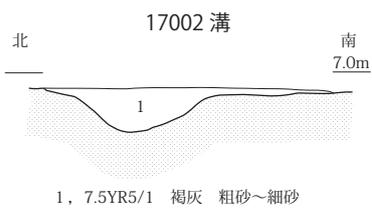
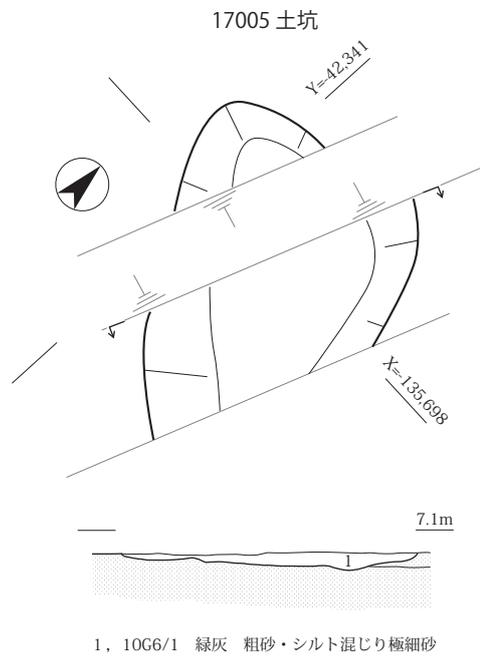
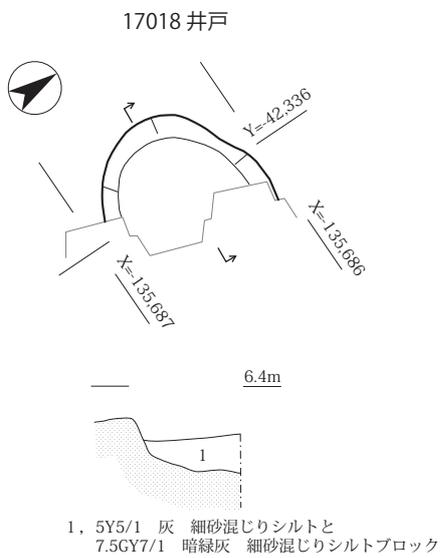
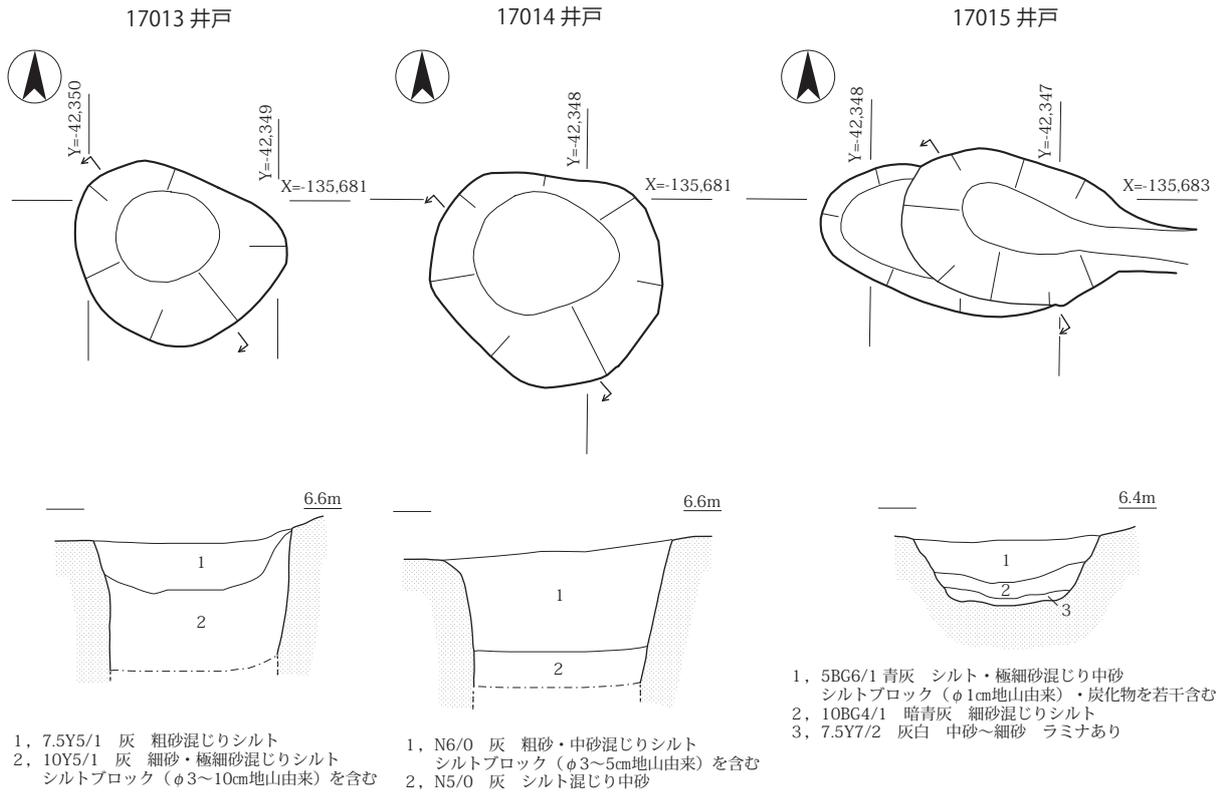


図 49 12-1:17 区 地山上面 遺構平面図・断面図

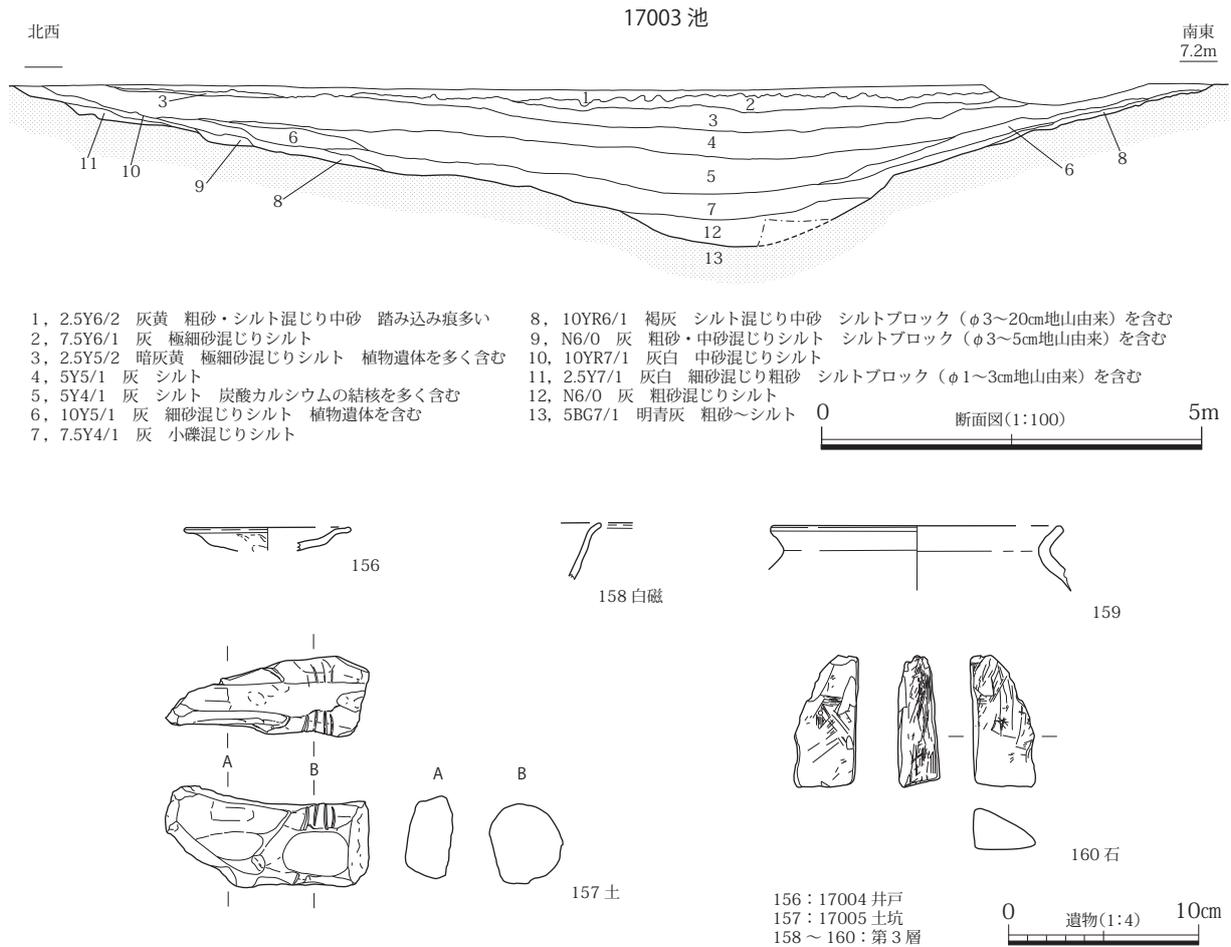


図 50 12-1:17 区 遺構断面図・出土遺物

17013 井戸 (図 47・49) 17013 井戸は 17014・17015 井戸と共に 17003 池の北辺緩斜面に位置し、池の埋土を除去した地山上面で検出した。平面形は不整円形で、円筒形に掘り込まれる。規模は長径 1.0 m、短径 0.85 m、深さ 1 m 以上を測る。工事の関係上、底まで掘り下げることはできなかったが、埋土は 2 層確認でき、上層には 7.5Y5/1 灰色粗砂混じりシルトが、下層にはシルトブロックを含んだ 10Y5/1 灰色細砂・極細砂混じりシルトが堆積する。遺物は出土しなかった。

17014 井戸 (図 47・49) 17013 井戸の東に位置する。平面形は不整円形で、円筒形に掘り込まれる。規模は長径 1.2 m、短径 0.9 m、深さ 0.9 m 以上を測る。井戸の東に溝が取り付け、17003 池の方向に開口する。工事の関係上、底まで掘り下げることはできなかったが、埋土は 2 層確認でき、上層にはシルトブロックを含んだ N6/0 灰色粗砂・中砂混じりシルトが、下層には N5/0 灰色シルト混じり中砂が堆積する。遺物は出土しなかった。

17015 井戸 (図 47・49) 17014 井戸の南東約 2 m に位置する。平面形は東西方向に長軸をもつ楕円形を成し、断面は逆台形状を呈する。規模は長径 1.6 m、短径 0.9 m、深さ 0.4 m を測る。17014 井戸と同様、井戸の東側に 17003 池に開放する溝が取り付く。埋土は 3 層で下層は中砂〜細砂でラミナが認められるが、上層はシルトブロックを含んだシルト・極細砂混じり中砂である。遺物は出土しなかった。

17018 井戸 (図 47・49) 調査区の南東隅部、17003 池の南辺緩斜面に位置する。平面形は円形だが、遺構の東半部は調査区外に広がる。断面観察用壁面を取り外して検出されたため、池との前後関係は不

明である。規模は径 0.9 m、深さ 0.3 mを測る。埋土は単層で、シルトブロックを含む 5Y5/1 灰色細砂混じりシルトである。遺物は出土しなかった。

17005 土坑 (図 47・49・50、写真図版 129) X=-135,698、Y=-42,340 の地点に位置する。遺構は第 3 層上面で検出した。側溝によって削平してしまっていたが、平面形は不整形を呈し、東半部は調査区外に広がる。規模は長辺 1.7 m 以上、短辺 1.3 m、深さ 0.1 m を測る。埋土はシルトブロックを含んだ 10G6/1 緑灰色粗砂・シルト混じり極細砂の単層である。遺物は土馬 (157) と考えられる土製品が 1 点出土した。157 は土師質で、首部から体部の一部が出土した。残存長 10.7 cm、残存体高 5.3 cm、残存幅 4.2 cm を測る。体部の断面は丸みを帯びた方形を呈する。体部の両側面をへら状工具で削り取ることによって体部から延びる首を表現する。また、体部上方には体部に直交する数条の刻み目が残るが、これは貼り付けられていた靱が剥離した痕跡と考えられる。さらに、体部下方には前脚部が取り付けいたらしい剥離痕が残る。色調は外面左側面が 10YR5/4 にぶい黄褐色で、右側面は 2.5Y7/6 明黄褐色である。内面は 2.5Y8/1 灰白色を呈する。土師質としたが、焼成不良の須恵器の可能性も残る。奈良～平安時代の所産と考えられるが、遺構は中世包含層の上面で検出しており、混入したものと考えられる。

17002 溝 (図 47・49) 調査区北端部 X=-135,665、Y=-42,365 の地点に位置する。溝は中・近世耕作土層の第 2 層を除去した地山上面で検出した。溝は N-68°-E の方向にはしり、規模は幅 1.6 m、深さ 0.2 m を測る。埋土は単層で 7.5YR5/1 褐灰色粗砂～細砂である。遺物の出土はなかった。

17003 池 (図 47・50、写真図版 18-4・18-5) 調査区中央部で、旧表土層の第 1 層を除去して地山上面で検出した。遺構は条里型地割の坪境溝と考えられる東西方向にはしる溝群の南側に位置する。池の形状は、南西角と北西角の一部を検出したことから方形と考えられるが、池の東辺部と西辺部の一部が調査区外に広がるため明言は避けたい。規模は南北 16 m、東西 12 m 以上、深さ約 2 m を測る。底部は南から北に向かって「ハ」字状に広がる。池の主軸は北辺で N-123°-W となり条里型地割の方向とも一致する。埋土を観察した結果、止水堆積層が累積しており、徐々に埋没していったものと考えられる。遺物は図示できなかったが、下層から瓦器や瓦質土器それに古代の須恵器片などが出土した。なお、上層は染付を含む陶磁器や寛永通宝などが出土しており、近世前半に完全に埋没した後、水田として利用されるようになったと考えられる。

包含層出土遺物 (図 50、写真図版 131) 12-1:17-3 区で検出した第 3 層から以下の遺物が出土した。158 は白磁碗口縁部である。端部が大きく外反する。12 世紀の所産と考えられる。159 は土師器甕口頸部である。口縁端部は丸みを帯びた面をもつ。160 は流紋岩質泥岩製砥石である。一部欠損するが、三角錐形を呈する。小口部を除く 3 面に使用痕が確認できた。

第 4 節 小結

吹田操車場遺跡西地区の調査成果について概要をまとめる。調査区域は北東-南西方向に約 800 m と長大であった。特に 12-1:16 区は遺跡の北辺部を東西方向に約 500 m と長くトレンチを開けた形となり、多大な成果を得ることができた。地形は全体として北西方向から南西方向に低くなる。また、12-1:15 区と 12-1:16 区の間にある高まりを中心に南西方向と北東方向に低くなるのが看取できた。

今回の調査では弥生時代から平安時代、さらに鎌倉時代の遺構を検出した。また、12-1:16 区西端部は中世の集落域の一角を捉えることができた。

12-1:16-3区で方形の掘方をもつ掘立柱建物を検出したが、畿内第IV様式に属する弥生土器片が出土していることから、弥生時代の集落域が展開していた可能性が高いが、確実に弥生時代の遺構と呼べるものはなく、評価については今後の資料の蓄積を待ちたい。

12-1:16-2区の16051谷で、古墳時代の遺構面上で偶蹄目類（ウシ）の足跡群を検出した。残念ながら明確に畦畔等の遺構は検出できなかったが、古墳時代に耕作が行われていた可能性が高い。

12-1:16-2区で検出した建物は2棟のうち1棟が飛鳥時代の総柱建物であった。建物周辺にある16078落込みや包含層からも飛鳥時代の土器が出土しており、飛鳥時代の集落域が展開していたものと考えられる。また、16051谷を挟んだ12-1:16-3区の16393土坑からも飛鳥時代の遺物が出土しており、谷を挟んで飛鳥時代の遺構が散在する様子がわかった。

確実に奈良時代の遺構と判断できたものは、12-1:16-3区の16391溝と吹田操車場遺跡西地区の東端部にあたる12-1:17-1区の17001土坑のみであった。

平安時代の遺構は12-1:16-2区、12-1:16-3区、12-1:20区で検出された。検出した遺構は井戸、土坑、ピット、落込みなどである。12-1:16-2区の南東約100mに位置する2000年度の調査で平安時代の掘立柱建物群を検出しており、その集落域の北辺部に当たると考えられる。

鎌倉時代の遺構は12-1:16-2区と19区を除く吹田操車場西地区のほぼ全域で検出できた。12-1:16-1区では多量の土器が廃棄された16023井戸や、16030土坑をはじめ、ピットや溝などを検出した。12-1:16-1区の南西約150mの地点の調査で集落域が確認されており、その関連が示唆される。また、12-1:16-3区においても土坑、ピット、落込み、溝といった遺構が検出された。中でも建物は建たなかったが、16251溝と16377溝に挟まれた幅約10mの間にピットが集中して検出されたことは特筆に値する。それ以外にも、12-1:15区では条里型地割に則って掘られた15002溝と15003溝を、12-1:17区では17003池を検出した。さらに12-1:20区では水田耕作に伴う偶蹄目類（ウシ）の足跡列を検出し、より詳細に耕作地として利用されていた範囲が明らかとなった。

その後、中世から近・現代にかけては調査区全域で耕作地として利用されていたが、12-1:16-3区北東部の高まりに向かう斜面地の一画では、近世以降墓域として利用されていたことを裏付ける攪乱が検出された。

このように、今回の調査では弥生時代以降、人々が連綿と活動してきた痕跡を追うことができた。

第6章 吹田操車場遺跡 東地区の調査成果

例言でも述べたが、今回報告を行う吹田操車場遺跡における調査について、その東半部を吹田操車場遺跡東地区とした。吹田操車場遺跡東地区における調査は、平成21(2009)年度に09-3:1-1～1-3区、09-3:2-1・2-2区、平成22(2010)年度に10-2:2-1-2区、10-2:2-2区、10-2:3区、平成23(2011)年度に11-1:1-1区、11-1:2-1区、11-1:9-1・9-2区、11-1:10-1・10-2区、11-1:11-1・11-2区、11-1:13区、平成24(2012)年度に12-1:1-2区、12-1:2-2・2-3区、12-1:12-1・12-2区、12-1:13-2区、12-1:14-1～14-3区の調査を実施した。

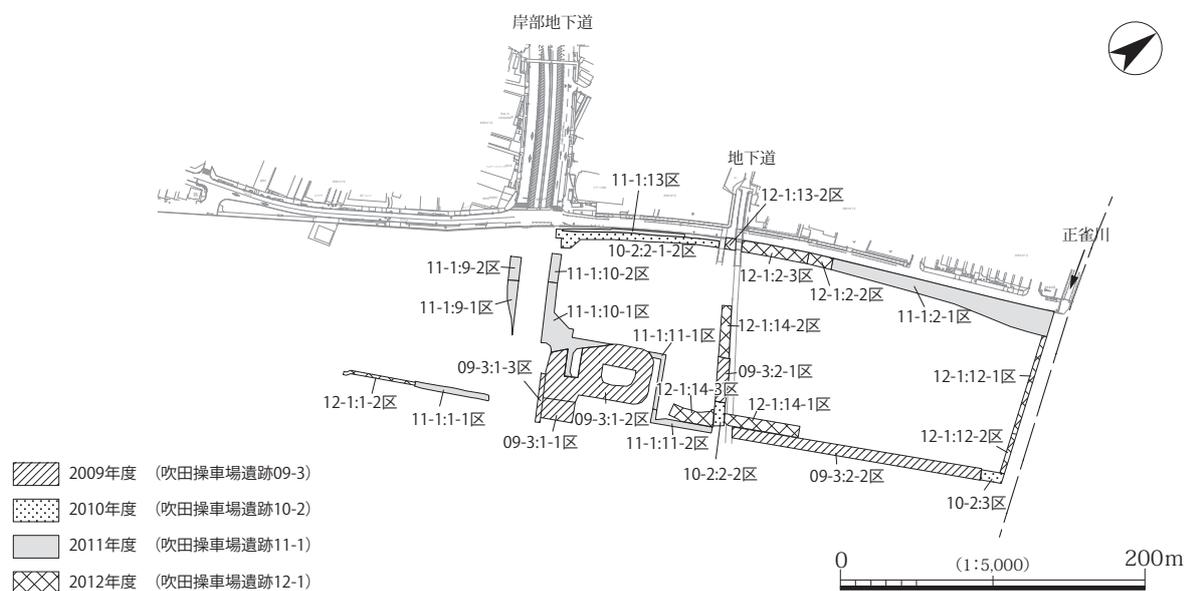


図51 吹田操車場遺跡 東地区 調査区位置図

第1節 基本層序

今回の調査は、北東—南西方向におよそ500m×150mの範囲に細長い調査区を設けて行ったものである。4年間に亘る調査で、なるべく統一した層序を付すよう心がけたが、細切れの調査となったため、また調査員の認識による差もあり、東地区全体において統一した層序を設定するのが極めて難しい状況であった。そのため、各調査区における層序を検討し、整理作業において統一した層序を提示することとした。なお、攪乱等のために堆積層が分断される箇所が多々あり、また北西側と南東側の調査区とでは距離が離れていることから、調査区全域において同一層であるかどうかの検証はできていない。あくまでも今回の報告における暫定的な層序として提示しているものと認識願いたい(図52～59)。

盛土：大正時代の旧吹田操車場造営に伴う盛土層である。層厚1.0～1.5m前後。黄橙色シルト～極細砂ブロック土及び褐灰色細砂質シルトブロック土を主体とする。ブロックは大きいもので0.5m前後あるものも見られる。最上層には鉄道敷設に伴うバラスト層が見られる箇所もある。

第1層：旧吹田操車場造営前の旧表土である。灰色粗砂混じり細砂質シルトを主体とする。層厚は0.2 m前後。旧吹田操車場が造営される直前まで行われていた耕作に伴う畝立ての様子がそのままにパックされていた。この状況から、操車場の造営については整地等が成されず、耕作地をそのまま埋め立てたことがわかる。なお、本層下部には、部分的に淘汰の良くない粗砂～細砂が見られる箇所がある。これらは河川の氾濫堆積物と考えられるが、付近にこれらの砂を供給するだけの河川は存在しないことから、その供給先として淀川が想定される。この想定が首肯されるものであれば、近代における淀川氾濫に伴う堆積物かと推量する。

第2層：にぶい黄色中砂～細砂質シルトを主体とする。層厚は0.1～0.3 m前後。当層は場所により2～4層に細分される。調査区全域で見られる層であるが、特に09-3:1-2区や調査区中央部においては厚い傾向が見られる。当層を除去した面では部分的に条里型水田の地割に伴う鋤溝等が検出されているが、目立った遺構はない。なお、調査区の北東半においては当層を除去した段階で地山が露出する。中世以降の作土層と考えられる。

第3層：灰褐色極細砂質シルトを主体とする。層厚0.15 m前後。調査区の南西半を中心に堆積する層である。第4-1層を母材として形成されている部分と、地山上に形成されている部分とあり、若干様相が異なるが、層順から同一層と判断した。また、現岸部地下道により分断されているため、その北西側に位置する調査区と北東側に位置する調査区の当層が同一であるかどうかの検証はできていない。出

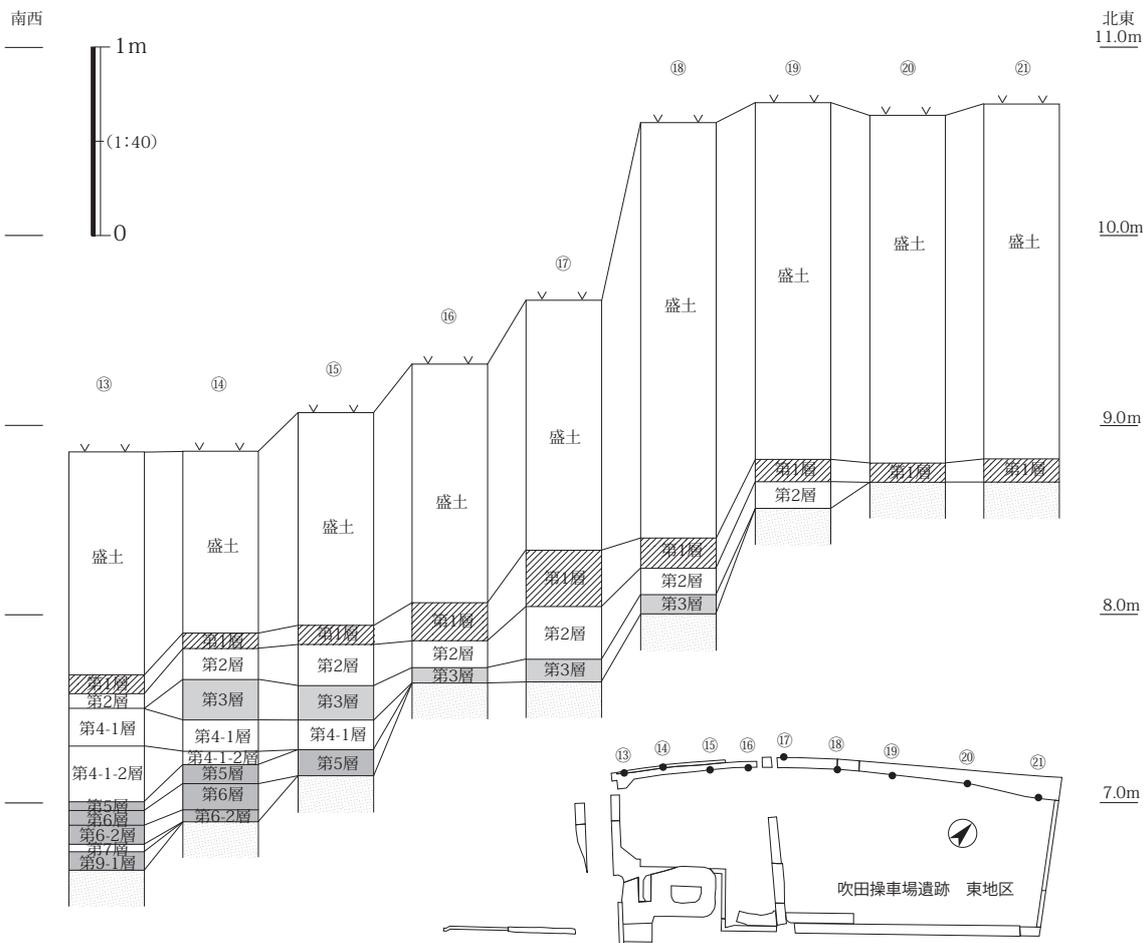
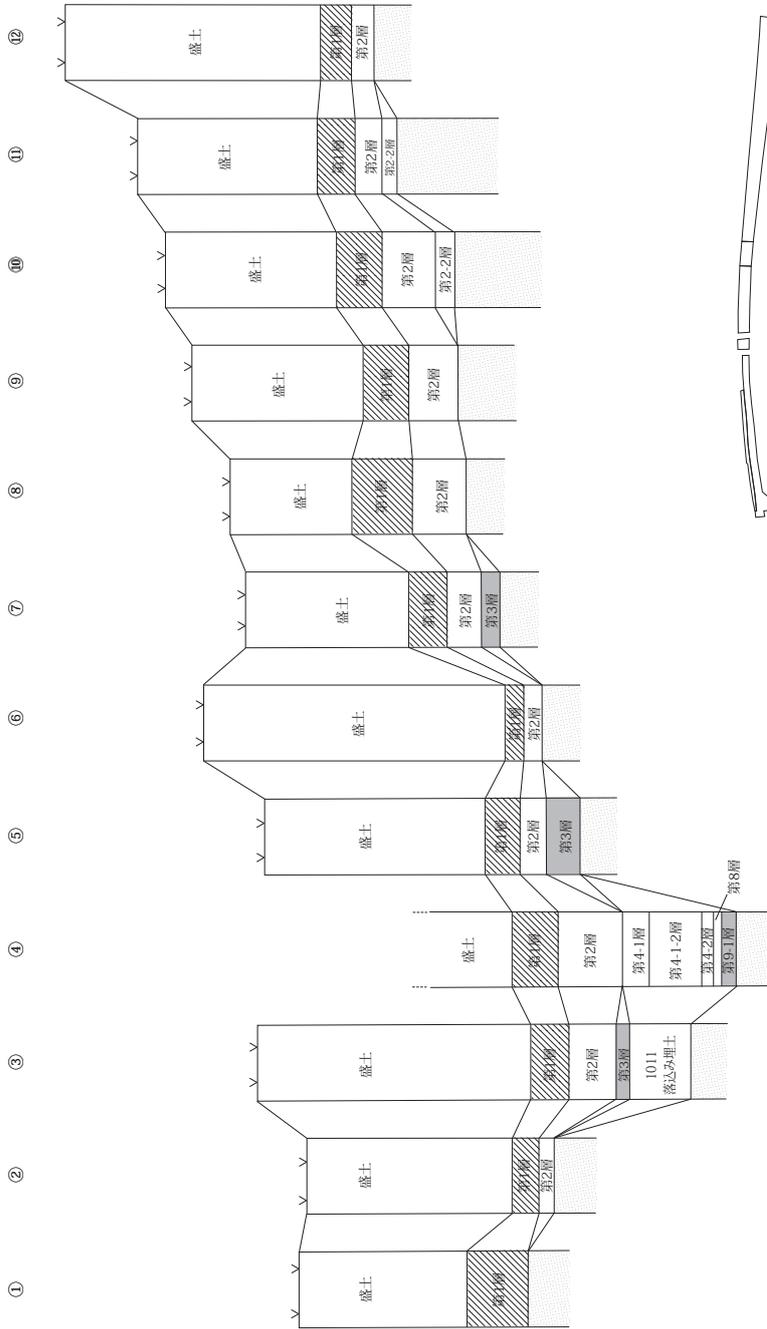


図 52 吹田操車場遺跡 東地区 柱状断面模式図 (1)

北東
10.0m

南西

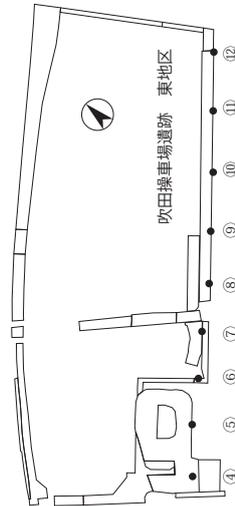


9.0m

8.0m

7.0m

6.0m



盛土：旧吹田操車場建設時の盛土
 第1層：旧表土（近代作土層）
 第2層：中～近世 作土層
 第3層：古代～中世 作土層・遺物包含層
 第4層以下：古代以前 作土層・遺物包含層

1 m
 (1:40)
 0

図 53 吹田操車場遺跡 東地区 柱状断面模式図 (2)

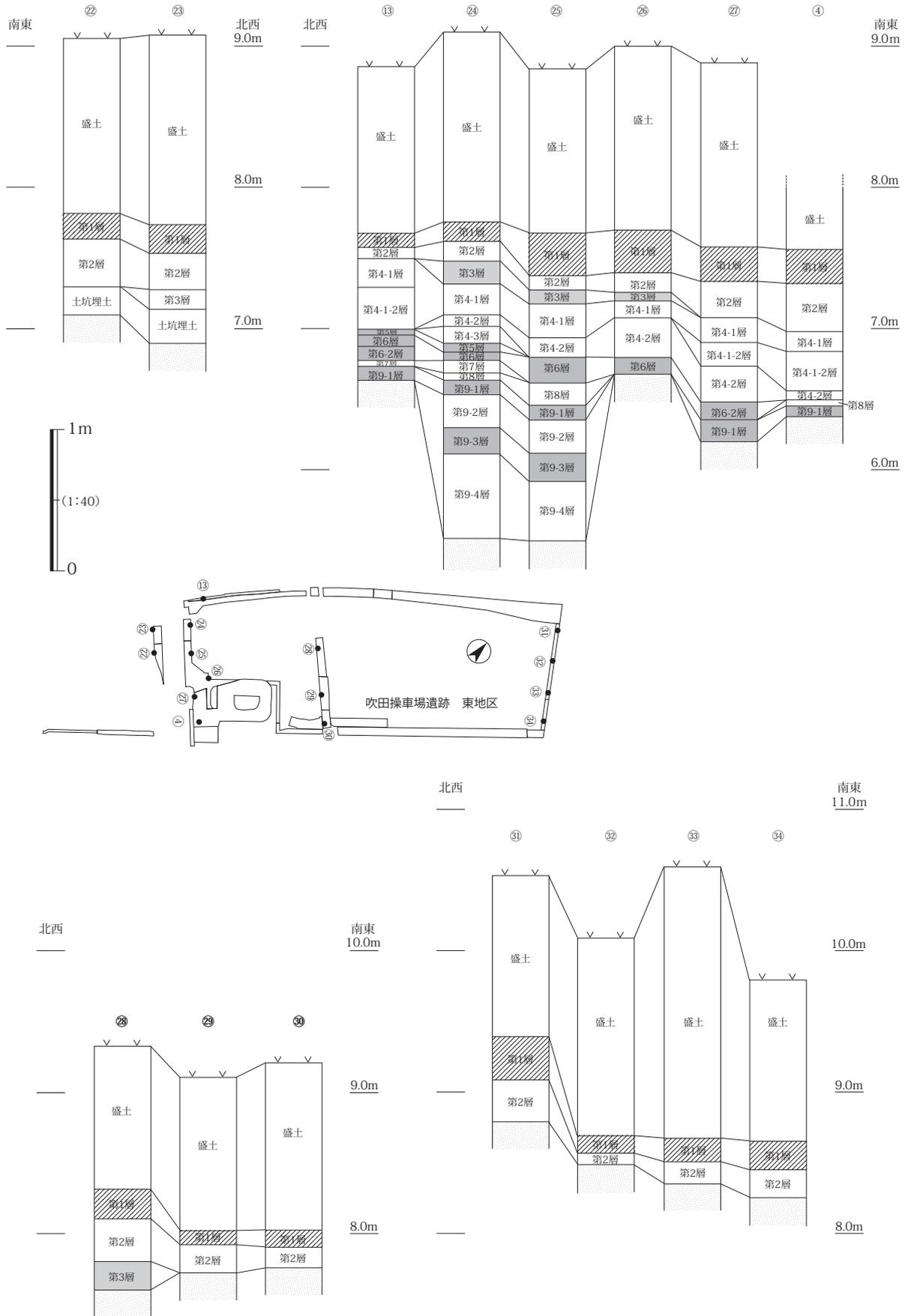


図54 吹田操車場遺跡 東地区 柱状断面模式図(3)

土遺物から中世以降の作土層と考えられる。

第4-1層：灰白色・浅黄色粗砂～シルトを主体とする。層厚は0.1～0.5 m前後。調査区西半部中央にのみ見られる。ラミナが顕著に認められる自然堆積層である。後述する10022谷の名残を埋めるように堆積している。地形的には当層の堆積によりある程度平坦化したことがわかる。これらは河川による氾濫堆積物と考えられるが、現岸部地下道部分の状況がもはやわからないので何とも言えないが、付近にこれらの砂を供給するだけの河川は存在しないと考えられるため、その供給先として淀川や安威川を想定しておきたい。淀川もしくは安威川が氾濫した際に、谷地形を縫うように供給された堆積物の可能性があるか。

なお、当層の堆積時期は出土遺物が僅少であるため判断し難いが、最上層から龍泉窯系の青磁碗の口縁部片(707)が1点出土している。それ以外には古墳時代～古代の遺物の細片が出土しているのみである。そのため、707の青磁碗を重視すれば、13世紀初頭には堆積していたものと想定されるが、今後の調査における成果を待って判断したい。

第4-2・4-3層：灰黄色中砂～細砂質シルトを主体とする。層厚は0.2～0.3 m前後。11-1:10-1・10-2区を中心に認められた。第4-1層に似るがラミナが認められず弱く土壌化している。限定的な部分でしか検出していないため、判然としないが第4-2・4-3層は淘汰のあまり良くない古代～中世に属する作土層の可能性が高い。

第5層：褐灰色極細砂混じり粘質シルトを主体とする。層厚は0.06～0.1 m前後。10-2:2-1-2区、11-1:13区、11-1:10-1・10-2区において認められた。10-2:2-1-2区・11-1:13区においては当層の上面において当地域の条里型水田に伴う地割とは異なる方位の畦畔が検出された。それらは第4-1層の自然堆積層によりパックされていた。古代に属する作土層と考えられる。

第6層：灰色細砂混じり粘質シルト。層厚は0.12～0.18 m前後。09-3:1-2区、10-2:2-1-2区、11-1:13区、11-1:10-1・10-2区において認められた。古代に属する作土層と考えられる。なお、当層に関連して10-2:2-1-2区において第3～6層を対象として植物珪酸体・花粉・珪藻分析を行った。その成果については、第8章第2節を参照いただきたい。

第7層：灰白色極粗砂～粗砂を主体とする。層厚は0.04～0.08 m前後。10-2:2-1-2区、11-1:13区、11-1:10-1・10-2区において認められた。後述の10022谷を埋積していく過程での堆積層の1つである。当層はC0093溝から供給された水成堆積物と考えられる。

第8層：灰白色シルト質粘土。層厚は0.06 m前後。11-1:10-1・10-2区を中心に認められた。当層の由来や供給先については判然としないが、10022谷部分においてのみ確認される。

第9層：層厚は0.1～1.1 m前後。09-3:1-2区、10-2:2-1-2区、11-1:13区、11-1:10-1・10-2区において認められた。第9層は、第9-1層～第9-4層に細分される。第9-1層はオリーブ黒色粘質シルトを主体とする。第9-2層は灰色シルト質粘土を主体とする。第9-3層は黒褐色粘質シルトを主体とする。第9-4層は褐灰色・黄灰色極細砂シルト～粘質シルト及び灰白色粗砂～細砂を主体とする。いずれも10022谷の埋土である。土壌層とそうでない層が交互に認められた。

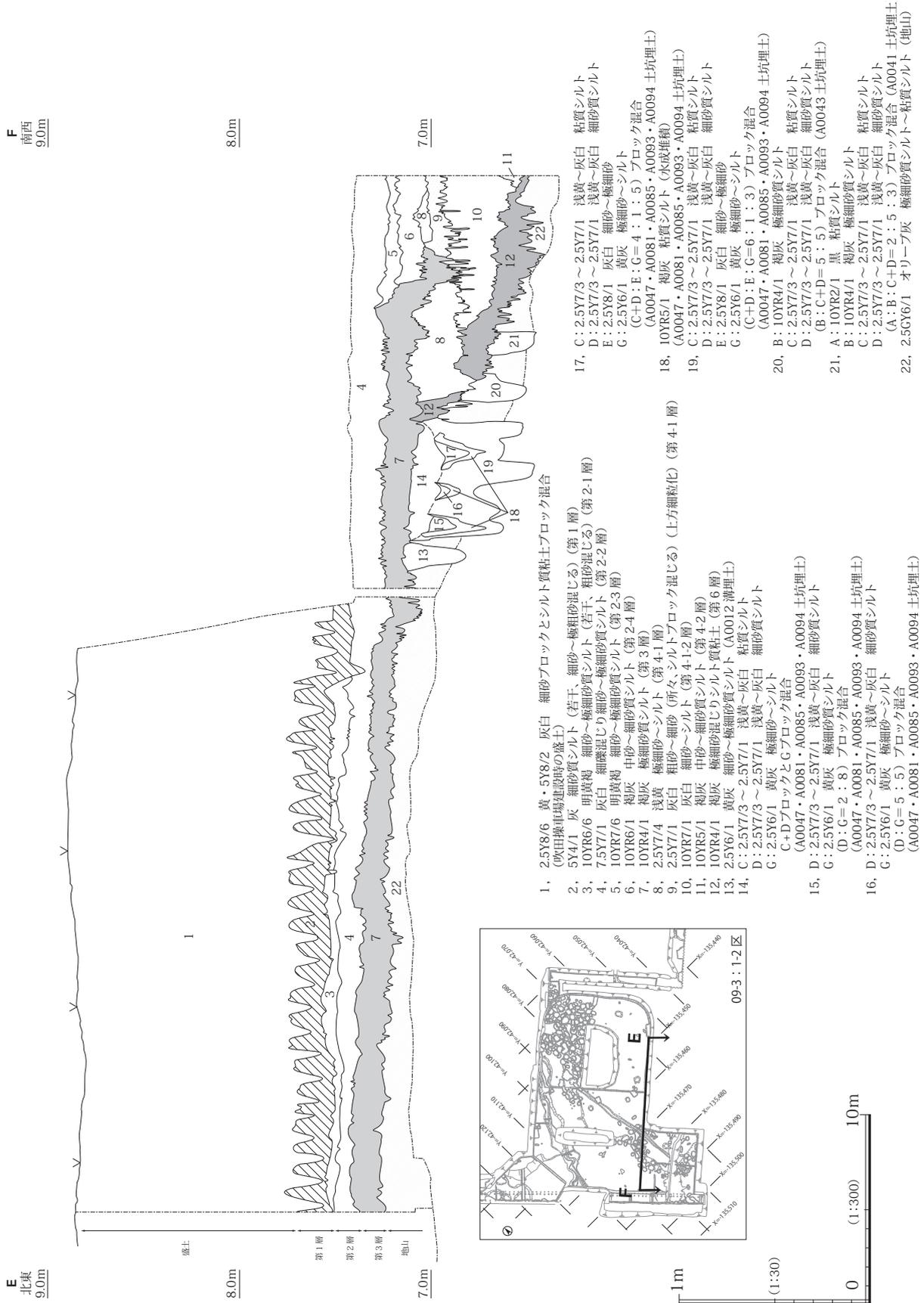
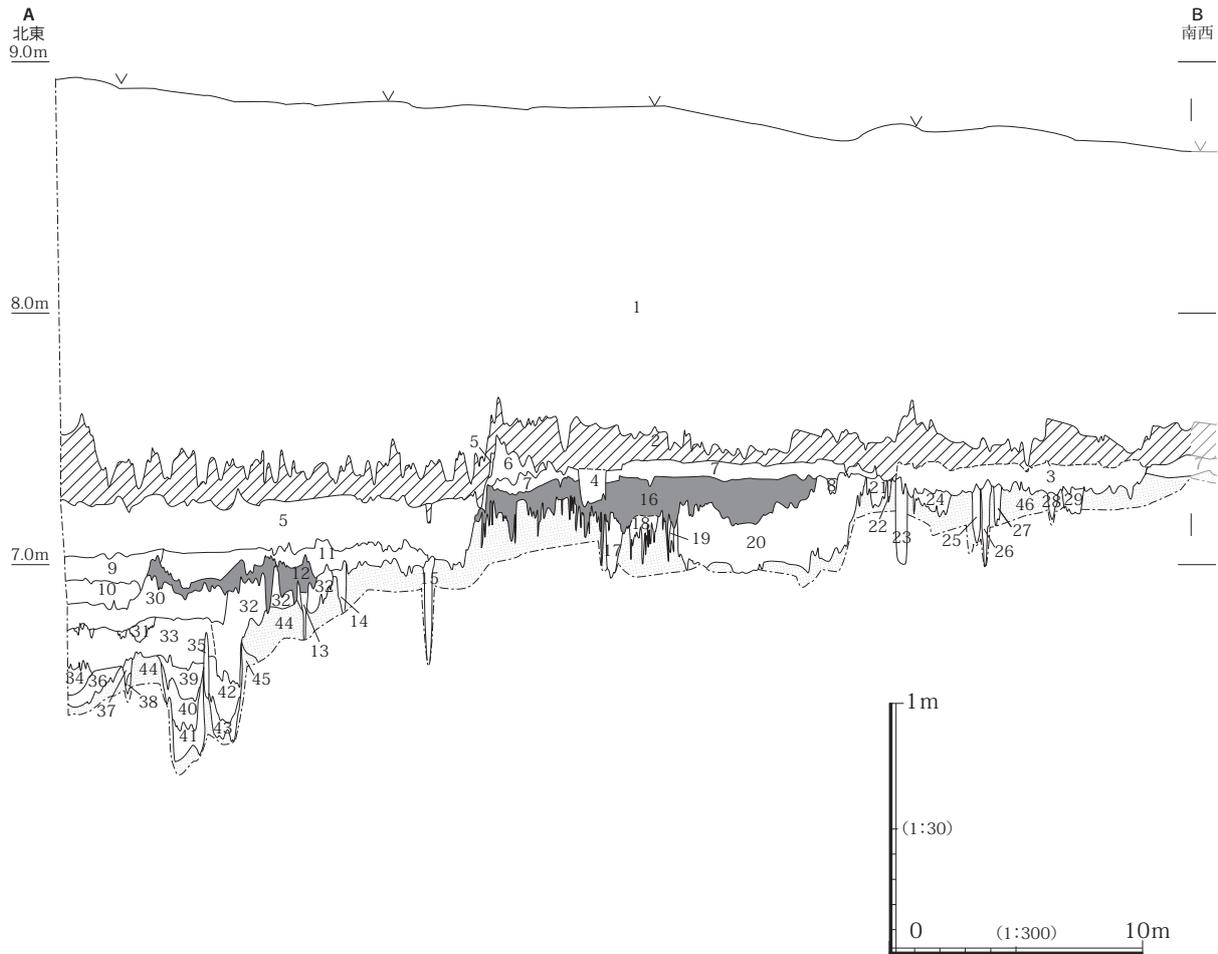
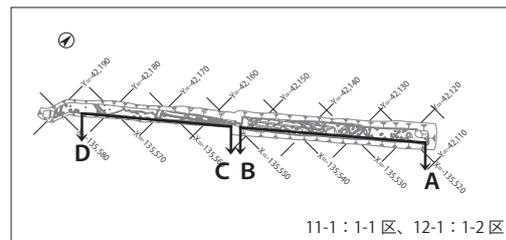
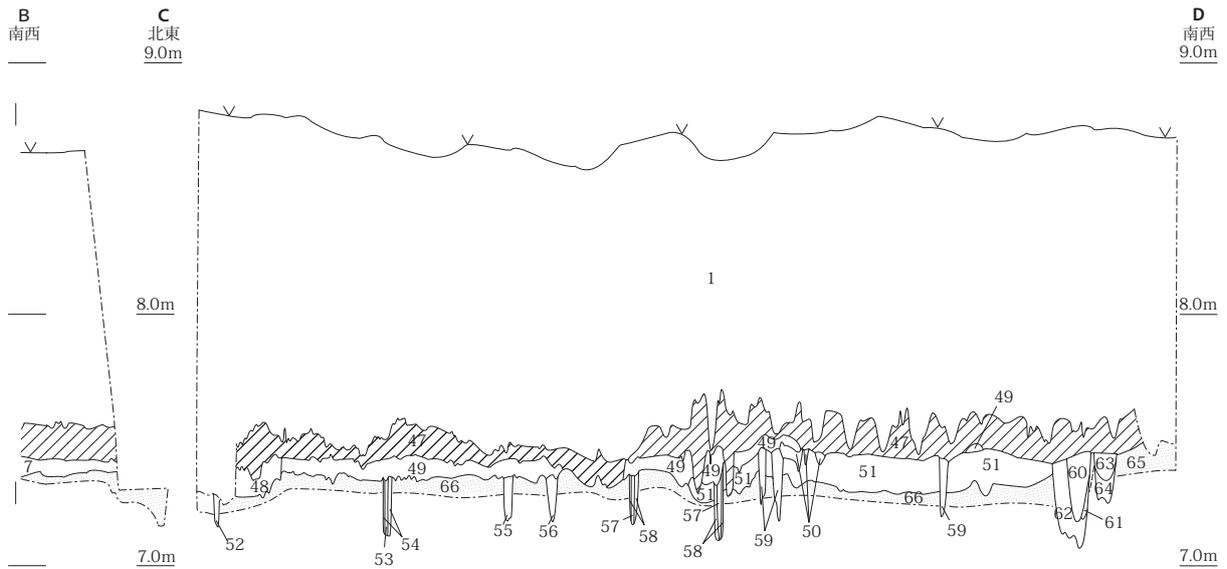


図 55 09-3:1-2 区 北東一南西断面図



- 1, 7.5Y4/1 灰 極細砂質シルトブロック・5G7/1 明緑灰 粘質シルトブロック・中礫～大礫他 混合土 (旧吹田操車場に伴う盛土)
- 2, N3/0 暗灰 細礫混じり細砂質シルト (第1層)
- 3, 2.5Y6/1 黄灰 細砂質シルトに2.5Y6/2 灰黄 細砂質シルトブロック混じる (第1層下面溝埋土)
- 4, 2.5Y4/1 黄灰 中砂～細砂質シルト (第1層下面溝埋土)
- 5, 2.5Y5/1 黄灰 細礫～極粗砂混じり細砂質シルト (第2-1層)
- 6, 2.5Y6/2 灰黄 粗砂～中砂混じりシルト質細砂 (第2-1層)
- 7, 2.5Y7/3 浅黄 細砂質シルト (第2-2層)
- 8, 2.5Y6/1 黄灰 細砂～極細砂質シルト (第2-1層下面遺構埋土)
- 9, 2.5Y6/2 灰黄 極粗砂混じり中砂～細砂質シルト (第2-1層下面落込み埋土)
- 10, 2.5Y6/1 黄灰 中砂～細砂質シルト (鉄分沈着) (第2-1層下面落込み埋土)
- 11, 5Y6/2 灰オリーブ 細砂質シルト (第2-2層)
- 12, 2.5Y4/1 黄灰 極細砂質シルト (マンガン斑頭著) (土器多く包含) (第3層)
- 13, 5Y6/1 灰 細砂質シルト (第3層下面検出1005溝埋土)
- 14, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトブロック・10Y8/1 灰白 シルト質細砂ブロック混合 (ピット埋土)
- 15, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトブロック・2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック混合 (1115ピット埋土)
- 16, 10YR3/1 黒褐 細砂～極細砂質シルト (遺物多く含む) (第3層)
- 17, 7.5Y6/1 灰 極細砂質シルトブロック・10YR3/1 黒褐 細砂～極細砂質シルトブロック・7.5Y8/1 灰白 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック混合 (1015溝埋土)
- 18, 10YR3/1 黒褐 細砂～極細砂質シルトに7.5Y8/1 灰白 極細砂質シルトブロックが若干混じる (1012井戸埋土)
- 19, 10YR6/1 褐灰 極細砂質シルトに7.5Y8/1 灰白 極細砂質シルトブロックが若干混じる
- 20, 2.5Y6/1 黄灰 シルト質中砂～細砂 (1013落込み埋土)
- 21, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルト
- 22, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルト (ピット埋土)
- 23, D: 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトブロック
C: 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック混合 (D:C=5:5) (1028ピット埋土)
- 24, E: 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルトブロックに
C: 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロックが少量混じる (遺構埋土)
- 25, A: 10YR3/1 黒褐 極細砂質シルトブロック
C: 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック混合 (A:C=5:5) (1069ピット埋土)
- 26, A: 10YR3/1 黒褐 極細砂質シルトブロックに
C: 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロックが少量混じる (1149ピット埋土)
- 27, 10YR3/1 黒褐 極細砂質シルト (1070ピット埋土)
- 28, E: 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルトブロック
C: 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック混合 (E:C=7:3) (1154ピット (土坑?) 埋土)
- 29, E: 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルトブロック
C: 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック混合 (E:C=6:4) (1078土坑埋土)
- 30, 5Y6/1 灰 中砂～細砂質シルト (1011落込み埋土)
- 31, 5Y8/1 灰白 細砂 (1011落込み埋土)
- 32, 5Y8/1 灰白 粗砂混じりシルト質細砂 (1011落込み埋土)
- 33, 10YR5/1 褐灰 細砂質シルト (鉄分沈着) (やや暗色化) (1011落込み埋土)
- 34, 5Y7/2 灰白 極細砂混じりシルト質粘土 (1011落込み埋土)
- 35, 10YR5/1 褐灰 シルト質細砂ブロック・7.5Y8/1 灰白 粘質シルト
- 36, 10YR4/1 褐灰 シルト質細砂～極細砂
- 37, 7.5YR4/1 褐灰 細砂質シルト (ピット埋土)
- 38, 2.5Y6/1 黄灰 細砂質シルト (ピット埋土)
- 39, B: 10YR5/1 褐灰 シルト質細砂ブロック
C: 7.5Y8/1 灰白 粘質シルトブロック混合 (B:C=7:3)
- 40, 2.5Y6/1 黄灰 極細砂質シルト
- 41, A: 10YR2/1 黒 細砂質シルトブロック
B: 10YR5/1 褐灰 シルト質細砂ブロック
C: 7.5Y8/1 灰白 シルト質粘土ブロック混合 (A:B:C=3:4:3)
- 42, B: 10YR5/1 褐灰 シルト質細砂ブロック
C: 7.5Y8/1 灰白 シルト質粘土ブロック
D: 2.5Y6/1 黄灰 極細砂質シルトブロック混合 (B:C:D=3:2:5) (1142土坑埋土)
- 43, B: 10YR5/1 褐灰 シルト質細砂ブロック
C: 7.5Y8/1 灰白 シルト質粘土ブロック混合 (B:C=2:8) (1142土坑埋土)

図 56 11-1:1-1 区、12-1:1-2 区 南壁断面図



- 44, 7.5Y8/1 灰白 細砂～極細砂 (部分的に粗砂～中砂) (地山)
- 45, 7.5Y8/1 灰白 シルト質粘土 (地山)
- 46, 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト 西端付近は粗砂～中砂混じり (地山)
- 47, N4/0 灰 シルト・中砂質極細砂 (第1-1層)
- 48, N6/0 灰 シルト・中砂質極細砂 (φ5～10cmの礫を含む)
(第1層下面遺構埋土)
- 49, 5GY6/1 オリーブ灰 細砂質シルト (第1-2層)
- 50, 2.5Y3/1 黒褐 極細砂質シルト (炭、焼土塊を多く含む)
- 51, 5Y5/2 灰オリーブ 粗砂質シルト (第4層)
- 52, 7.5YR5/1 褐灰 粗砂質極細砂 (炭を含む) (1160ピット埋土)
- 53, 7.5YR5/1 褐灰 粗砂質細砂 (炭、焼土塊を含む) (1166ピット埋土)
- 54, 7.5YR5/2 灰褐 粗砂・極細砂質中砂 (1166ピット埋土)
- 55, 10YR6/1 褐灰 粗砂・シルト質中砂 (1173ピット埋土)
- 56, 10YR6/1 褐灰 粗砂・シルト質中砂 (1172ピット埋土)
- 57, 10YR6/1 褐灰 粗砂質シルト
- 58, 10YR5/2 灰黄褐 粗砂・細砂質中砂
- 59, 5Y4/1 灰 粗砂・シルト質極細砂
- 60, 7.5YR5/1 褐灰 中砂質シルト (土器・瓦片を含む) (1199溝埋土)
- 61, 7.5YR6/1 褐灰 シルト質極細砂 (1199溝埋土)
- 62, 10YR6/4 にぶい黄橙 細砂質シルト (1199溝埋土)
- 63, 5Y4/1 灰 極細砂質細砂 (1200土坑埋土)
- 64, N4/0 灰 極粗砂・シルト質細砂 (炭を含む) (1200土坑埋土)
- 65, 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト・極粗砂質粗砂 (地山)
- 66, 7.5Y5/3 灰オリーブ 粗砂質シルト (地山)



図 57 10-2:2-1-2区 南壁断面図

G-H-1 土色

- 1, 10YR7/4 にぶい黄褐色 極細砂～シルトブロック土と10YR5/1 褐灰 細砂質シルトブロック土ほか
(旧吹田操車場に伴う盛土)
- 2, 5Y2/1 黒 細礫混じり中砂質シルト (第1層)
- 3, 2.5Y/1 黄灰 粗砂～中砂混じり細砂質シルト (第2層)
- 4, 2.5Y/1 黄灰 粗砂混じり中砂～細砂質シルト (鉄分沈着顕著) (第2層)
- 5, 5Y6/1 灰 極細砂質シルト (第3層)
- 6, 10YR7/1 灰白 細砂～極細砂質シルト (第4-1層)
- 7, 10YR7/1 灰白 極細砂質シルト (第4-1層)
- 8, 5Y7/3 浅黄 極細砂～シルト (第4-1層)
- 9, 5Y6/1 灰 中砂～極細砂 (所々ラミナあり) (第4-1層)
- 10, 2.5Y6/4 にぶい黄 中砂～細砂質シルト (第4-1-2層)
- 11, 5Y6/1 灰 中砂～極細砂 (所々ラミナあり) (第4-1層)
- 12, 10YR6/1 褐灰 極細砂混じり粘質シルト (鉄分沈着 酸化顕著) (第5層)
- 13, 5Y4/1 灰 細砂混じり粘質シルト (第6層)
- 14, A: 5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルトブロック
B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y7/3～7.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(A: B: D+E=4: 4: 2) ブロック混合 (C0053 土坑埋土)
- 15, A: 5Y6/1 灰 シルト質粘土 (水成堆積) (腐植物の薄層あり) (C0053 土坑埋土)
- 16, A: 5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルトブロック
B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y7/3～7.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(A: B: D+E=3: 3: 4) ブロック混合 (C0057 土坑埋土)
- 17, A: 5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y7/3～7.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(B: D+E=7: 3) ブロック混合 (C0049 土坑埋土)
- 18, N6/0 灰 シルト質粘土 (水成堆積) (C0049 土坑埋土)
- 19, 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルト (C0049 土坑埋土)
- 20, A: 5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルトブロック
B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y7/3～7.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(A: B: D+E=4: 4: 2) ブロック混合 (C0050 土坑埋土)
- 21, A: 5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルトブロック
B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y7/3～7.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(A: B: D+E=4: 4: 2) ブロック混合 (C0045 土坑埋土)
- 22, 5Y6/1 灰 極細砂混じり粘質シルトブロック
B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y7/3～7.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(A: B: D+E=3: 3: 4) ブロック混合 (C0038・C0039 土坑埋土)

- 24, A: 5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルトブロック
B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y8/3～2.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(A: B: D+E=4: 4: 2) ブロック混合 (C0028 土坑埋土)
- 25, B: 7.5Y5/1 灰 中砂～細砂質シルトブロック
D: 2.5Y7/3～7.5Y7/2 浅黄～灰白 粘質シルトブロック
E: 7.5Y7/2 灰白 細砂質シルトブロック
(B: D+E=5: 5) ブロック混合 (C0011 土坑埋土)
- 26, 5Y4/1 灰 細砂混じり粘質シルトブロック
2.5Y7/2 浅黄 シルト質粘土ブロックのブロック混合 (C0009 落込み埋土)
- 27, 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト (地山)
- 28, 10YR7/6 明黄褐 極細砂混じり粘質シルト (地山)
- 29, N3/0 暗灰 極細砂質シルト (第1層)
- 30, 29と33のブロック混合土 (第1層に伴う遺構埋土)
- 31, 10YR6/2 灰黄褐 細砂質シルト (若干細礫混じる) (第1層)
- 32, 10YR6/1 褐灰 細砂質シルト (第1層)
- 33, 7.5Y5/2 灰オリーブ 細礫～粗砂混じり極細砂質シルト (第2層)
- 34, 7.5Y5/1 灰 細砂質シルト (若干極細砂混じる) (鉄分沈着顕著) (第2層)
- 35, 5Y6/2 灰オリーブ 極粗砂～粗砂混じり細砂質シルト (第3層)
- 36, 2.5Y8/1 灰白 中砂～細砂 (第3層)
- 37, 7.5Y6/1 灰 極細砂質シルト (第3層)
- 38, 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂～シルト (第4-1層)
- 39, 5Y6/2 灰オリーブ 中砂～細砂、シルト (第4-1層)
- 40, 7.5Y8/1 灰白 細礫～中砂 (部分的にラミナあり)
- 41, 7.5Y8/1 灰白 細礫～中砂 (上部に細礫～極粗砂多く見られる) (第4-1層)
- 42, 2.5Y7/1 灰白 細礫～細砂 (第4-1層)
- 43, 10YR7/6 明黄褐 極細砂～シルト (部分的に中砂ブロックあり) (鉄分沈着顕著) (第4-1-2層)
- 44, 2.5Y7/1 灰白 極細砂混じり粘質シルト (第5層)
- 45, 5Y5/1 灰 粘質シルト (第6層)
- 46, 5Y4/1 灰 粘質シルト (47.51.52.60の細かいブロック混じる) (第6-2層)
- 47, 2.5Y7/1 灰白 粗砂～中砂 (上方細粒化) (C0086 溝埋土)
- 48, 10YR8/1 灰白 細砂 (ラミナ明瞭) (最下部に細礫～極粗砂あり) (C0086 溝埋土)
- 49, 2.5Y7/1 灰白 中砂～細砂 (ラミナ明瞭) (最下部に細礫～極粗砂あり) (C0086 溝埋土)
- 50, 2.5Y8/1 灰白 細砂～極細砂と2.5Y6/1 黄灰 シルトの互層 (腐植物の薄層あり) (ラミナ明瞭) (C0093 溝埋土)
- 51, 5Y6/1 灰 細砂～極細砂、シルト (C0093 溝埋土) (第7層)
- 52, 2.5Y4/1 黄灰 シルト質粘土 (腐植物の薄層あり) (13008 溝埋土) (第9-1層)
- 53, 5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルト (13区において弥生土器出土) (13008 溝埋土)
- 54, 5Y5/1 灰 粗砂～中砂 (13008 溝埋土)
- 55, 10Y5/1 灰 極細砂混じりシルト質粘土 (13008 溝埋土)
- 56, 5Y3/1 オリーブ黒 極細砂混じり粘質シルト (13008 溝埋土)
- 57, 5Y5/1 灰 極細砂質シルト (13008 溝埋土)
- 58, 7.5Y6/1 灰 極細砂質シルトに61のブロック (1～3cm大) が混じる (13008 溝埋土)
- 59, 5Y3/1 オリーブ黒 粘質シルト (若干細かい地山ブロック混じる)
- 60, 2.5Y7/1 明オリーブ灰 極細砂質シルト (植物根痕多く見られる) (地山)
- 61, 10Y7/1 灰白 細砂～極細砂質シルト (地山)



图 58 11-1:10-1·10-2 区 北壁断面图

J-K-L-M土色

- 1, 10YR7/4 にぶい、黄褐色 シルト～極細砂質ブロックと
- 10YR5/1 褐灰 細砂質シルトブロック混合 最上部付近はバラスト (旧吹田操車場に伴う盛土)
- 2, 2.5Y3/1 黒褐 極粗砂混じり粗～中砂質シルト (第1層)
- 3, 7.5Y5/1 灰 粗砂混じり中砂質シルト (第1層下面溝埋土)
- 4, 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂質シルト (若干粗砂混じる) (第1層)
- 5, 2.5Y6/4 にぶい、黄 中砂～細砂質シルト (若干粗砂混じる) (第2層)
- 6, N5/0 灰 中砂～細砂質シルト (第3層)
- 7, 5Y7/1 灰白 中砂～細砂 (上方細粒化) (第4-1層)
- 8, 2.5Y6/2 灰黄 中砂～細砂質シルト (第4-2層)
- 9, 2.5Y5/2 暗灰黄 粗砂混じり中砂質シルト 8. に似るがより砂質 (第4-2層)
- 10, 2.5Y6/2 灰黄 細砂質シルト (第5層)
- 11, 10YR6/1 褐灰 シルトブロックと10YR7/1 灰白 極細砂 (10005土坑埋土)
- 12, 2.5Y8/2 灰白 粗砂 (ラミナ顕著) (10005土坑埋土)
- 13, 10YR8/2 灰白 中砂～細砂 (ラミナ顕著) (10005土坑埋土)
- 14, 2.5Y8/1 灰白 粗砂～中砂
- 15, 10YR8/2 灰白 粗砂
- 16, 2.5Y4/1 黄灰 極粗砂混じりシルト質粘土 (第6層)
- 17, 2.5Y8/2 灰白 極粗砂～中砂 (第7層)
- 18, 7.5GY7/1 明緑灰 シルト質粘土 (第8層)
- 19, N3/0 暗灰 粘質シルト (第9-1層)
- 20, 5Y7/1 灰白 極細砂～シルト (第9-2層)
- 21, 7.5Y6/1 灰 シルト質粘土 (第9-2層)
- 22, 10YR8/2 灰白 粗砂～中砂
- 23, 2.5Y3/1 黒褐 粘質シルト (第9-3層)
- 24, 7.5YR5/1 褐灰 極細砂質シルト (第9-4層)
- 25, 2.5Y5/1 黄灰 粘質シルト (黒色腐植物混じる) (第9-4層)
- 26, 10YR8/1 灰白 極細砂～シルト (落込み埋土)
- 27, 10YR8/1 灰白 極細砂 (落込み埋土)
- 28, 7.5Y8/2 灰白 粗砂～中砂
- 29, 2.5Y6/1 黄灰 極細砂質シルト
- 30, 5Y6/3 オリーブ黄 極細砂～シルト (地山)
- 31, 2.5Y8/1 灰白 極細砂～シルト (第1-1層)
- 32, N2/0 黒 細砂混じり中～細砂質シルト (第1-1層)
- 33, N2/0 黒 中～細砂質シルトに2.5Y7/4 浅黄 中砂～シルトブロック混じる (第1層下面遺構埋土)
- 34, 2.5Y5/1 黄灰 細砂混じり中～細砂質シルト (Fe 顕著) (第1-2層)

N-O土色

- 1, 10YR7/4 にぶい、黄褐色 シルト～極細砂質ブロックと
- 10YR5/1 褐灰 細砂質シルトブロック混合 (旧吹田操車場に伴う盛土)
- 2, 5Y4/1 灰 細砂～極粗砂混じり細砂質シルト (第1層)
- 3, 2.5Y5/1 黄灰 シルトブロック、細砂質シルトブロック混合 (第1層下面溝埋土)
- 4, 5B6/1 青灰 中砂～細砂質シルトブロック混合 (第1層下面溝埋土)
- 5, 7.5Y6/6 橙 中砂～細砂質シルト (鉄分顕著) (第1層下面溝埋土)
- 6, 2.5Y5/1 黄灰 シルトブロック混じり粗砂 (第1層下面溝埋土)
- 7, N5/0 灰 細砂混じり細砂質シルト (第1層下面溝埋土)
- 8, 7.5Y7/1 灰白 細砂～極細砂 (部分的にラミナあり) (第1層下面溝埋土)
- 9, 10YR6/6 明黄褐 極細砂質シルト (若干粗砂混じる) (第2-1層)
- 10, 7.5Y7/1 灰 細砂混じり粗砂～極細砂質シルト (第2-2層)
- 11, 10YR7/6 明黄褐 細砂～極細砂質シルト (第2-3層)
- 12, N5/0 灰 細砂質シルト (第2-4層)
- 13, 10G6/1 青灰 細砂～極細砂質シルト (第2層)
- 14, 5Y6/1 オリーブ灰 極細砂質シルトブロック混じり中砂～細砂 (A0005 池埋土)
- 15, 5Y4/1 暗オリーブ灰 細砂質シルト混じり細砂質シルト (A0005 池埋土)
- 16, 5Y4/1 暗オリーブ灰 粗砂質シルト混じり細砂質シルト (A0005 池埋土)
- 17, 5G5/1 緑灰 粗砂質シルト混じり細砂質シルト (A0005 池埋土)
- 18, 2.5Y7/4 浅黄 極細砂～シルト (第4-1層)
- 19, 2.5Y7/1 灰白 粗砂～細砂 (所々シルトブロック混じる、上方細粒化) (第4-1層)
- 20, 10YR7/1 灰白 中砂～細砂質シルト (第4-1-2層)
- 21, 10YR6/1 褐灰 細砂質シルト (第4-2層)
- 22, 10YR5/1 褐灰 細砂質シルト (第4-2層)
- 23, 10YR8/2 灰白 粗砂～中砂 (部分的にシルト薄層あり、ラミナ残る部分あり)
- 24, 2.5Y7/1 灰白 シルト質粘土・7.5Y6/1 灰白 シルト質粘土・10Y4/1 灰
シルト質粘土ブロック混合 (第8層)
- 25, 5B6/1 青灰 シルト質粘土 (第8層)
- 26, 10Y3/1 オリーブ黒 粘質シルト (下部に5Y7/1 灰白 粘質シルトの細かいなブロック
あり) (第9-1層)
- 27, N7/0 灰白 シルトブロック混じりシルト質粗砂～細砂 (A0011 落込み埋土)
- 28, 7.5Y2/1 黒 極細砂混じりシルト質粘土 (水成堆積) (A0032土坑埋土)
- 29, N6/0 灰 細砂とシルト質粘土の互層 (水成堆積) (A0032土坑埋土)
- 30, 2.5Y5/1 灰 シルト質粘土 (落込み埋土が)
- 31, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂混じりシルト質粘土 (腐植物含む) (10012 溝埋土)
- 32, 2.5Y4/1 黄灰 細砂質シルト (腐植物含む) (10012 溝埋土)
- 33, 2.5Y4/1 黄灰 極細砂混じりシルト質粘土 (腐植物含む) (10012 溝埋土)
- 34, 2.5Y4/1 黄灰 細砂質シルト (10012 溝埋土)
- 35, 10Y7/1 明緑灰 中砂～細砂質シルト (地山)
- 36, 7.5Y6/1 灰 極細砂質シルト (地山)
- 37, 2.5Y6/1 黄灰 細砂混じり細砂質シルト (第2層)
- 38, 2.5Y6/1 オリーブ灰 粘質シルト (第3層)
- 39, 2.5Y7/6 明黄褐 中砂～シルト (上方細粒化) (第4-1層)
- 40, 10YR7/6 明黄褐 中砂～シルト (上方細粒化) (第4-1層)
- 41, 2.5Y8/2 灰白 中砂～細砂
- 42, 10YR6/4 にぶい、黄褐色 中砂～細砂質シルト (しまりがよくない、鉄分顕著) (第4-2層)
- 43, 2.5Y8/2 灰白 粗砂～中砂
- 44, 10YR5/3 にぶい、黄褐色 中砂～細砂質シルト (所々に中砂ブロックあり、鉄分顕著) (第4-3層)
- 45, 5Y8/2 灰白 粗砂～中砂
- 46, 10YR5/1 褐灰 細砂混じり粘質シルト (第5層)
- 47, N4/0 灰 シルト質粘土 (第6層)
- 48, 7.5Y7/1 灰白 極粗砂～粗砂 極細砂 (第7層)
- 49, 5Y8/1 灰白 細砂～極細砂 (溝埋土)
- 50, 7.5Y8/1 灰白 シルト質粘土 (第8層)
- 51, 5Y3/1 オリーブ黒 粘質シルト (第9-1層)
- 52, 2.5Y5/1 黄灰 シルト質粘土 (溝埋土)
- 53, 5GY7/1 明オリーブ灰 シルト質粘土 (溝埋土)
- 54, 10YR3/1 黒褐 極細砂混じりシルト質粘土 (溝埋土)
- 55, 7.5Y8/1 灰白 粗砂～中砂 (溝埋土)
- 56, 7.5Y8/1 灰白 極粗砂～粗砂 (溝埋土)
- 57, 7.5Y4/1 灰 極細砂質シルト (第9-2層)
- 58, 5Y6/1 オリーブ灰 粘質シルト (第9-2層)
- 59, 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルト (第9-3層)
- 60, 5Y8/1 灰白 極粗砂～粗砂
- 61, 2.5Y5/1 黄灰 細砂～極細砂質シルト (第9-4層)
- 62, 2.5GY7/1 明オリーブ灰 細砂～極細砂質シルト (第9-4層)
- 63, 10YR4/1 褐灰 極細砂～シルト
- 64, 5Y3/1 オリーブ黒 極細砂質シルト (第9-4層)
- 65, 7.5Y8/1 灰白 粗砂～細砂 (上方細粒化) (第9-4層)
- 66, 7.5GY7/1 明緑灰 粗砂
- 67, 2.5Y8/2 灰白 粗砂～中砂
- 68, 5Y3/1 オリーブ黒 細砂～極細砂質シルト
- 69, 2.5Y8/2 灰白 中砂～細砂
- 70, 10YR4/1 褐灰 細砂～シルト
- 71, 5Y6/1 灰 中砂～シルト
- 72, 2.5Y3/1 黒褐 極細砂～シルト
- 73, 10Y7/1 灰白 粗砂～中砂 (若干細砂～極粗砂あり、よくしまる)

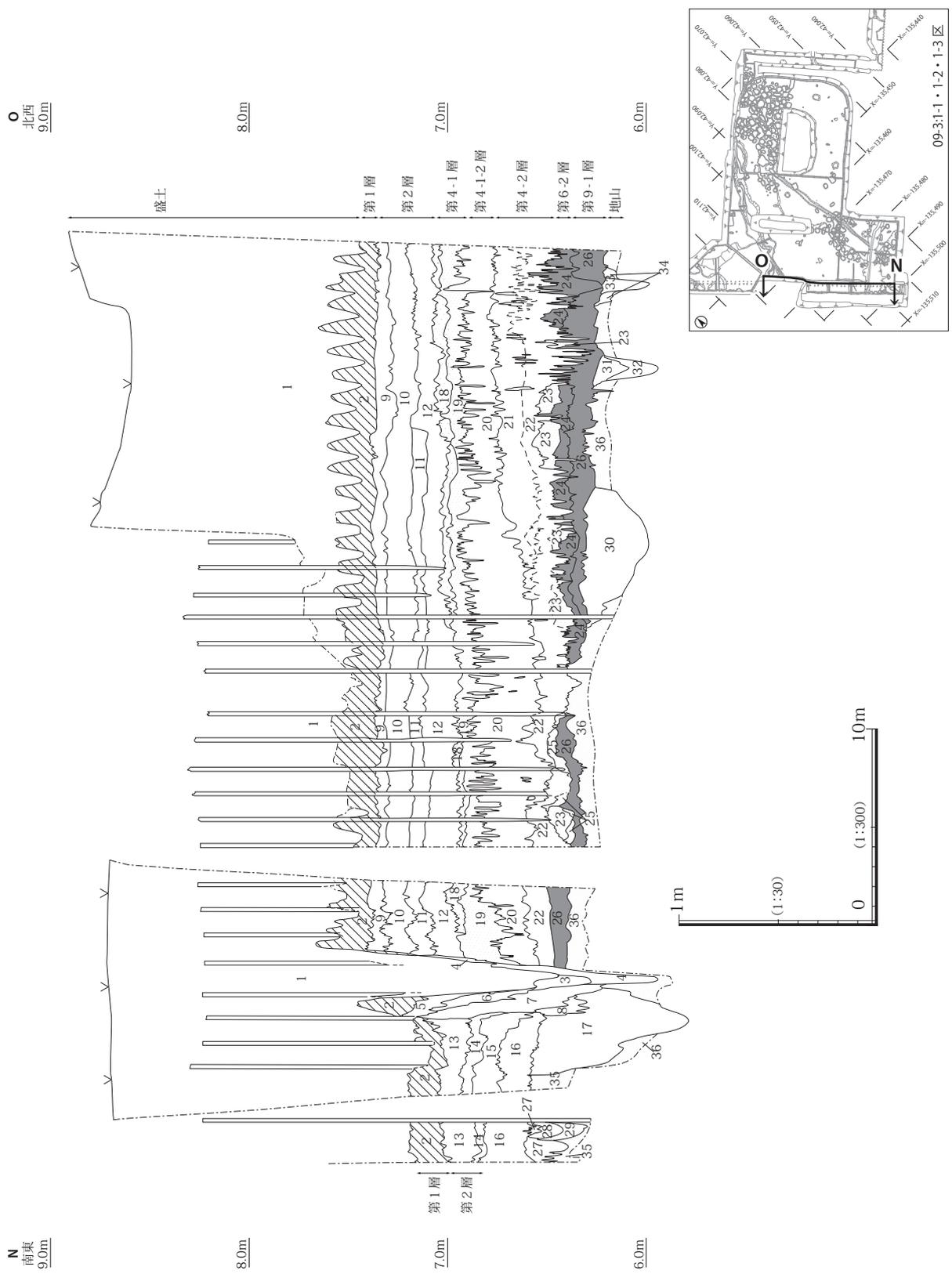


图 59 09-3:1-2 区 北西—南東断面图

第2節 弥生時代以前の遺構・遺物

弥生時代以前に属する遺構として、溝・落込み・流路・谷が挙げられる。地山上面で検出したものと第9-1層除去面で検出したものがある。基本的には、遺構から遺物が出土し、時期比定が可能なものについて報告するが、遺物の出土がなくても、帰属面や周辺状況から弥生時代以前に属する可能性があるものについても言及しておく。

遺構は、東地区の中央西寄りの調査区を中心に、09-3:1-1・09-3:1-2・11-1:10-1・11-1:10-2・10-2:2-1-2・11-1:13区を中心とした場所で検出した。今回の調査で検出した遺構は、縄文時代晩期～弥生時代後期に属するものである。建物や井戸等、集落に関わる遺構は検出されなかったが、谷やそこに流れる溝等を検出した。当該期には、現在の地形からは想像がつかないような大きな起伏に富んだ地形であったことが明らかとなった。また、溝からは少数ではあるが縄文土器・弥生土器が出土している。特に弥生土器は、不確定要素を残すものの前期・中期・後期の各期の所産になるものが出土しており、当地において継続した活動が行われていたことを示す成果があった。

なお、包含層からは旧石器と考えられるサヌカイト製石器が出土しており、当遺跡における既往調査成果同様、旧石器時代にも当地において人々の活動があったことを窺い知ることができる。

1. 溝

13008 溝 (図 60・61・63、写真図版 27-1・27-2・132) 10-2:2-1-2区・11-1:13区の南西端において、地山上面で検出した。北西-南東方向を指向する。幅 4.0～3.1 m、深さ 0.8 mを測り、検出長約 5 mである。断面形は逆凸形である。溝の中位で幅約 1.5 mになる。埋土は灰色シルト～粘土を主体とし、間に黒色シルト層や粗砂～中砂層が見られる。第9-1層により覆われる。

北西壁際において、断面埋土7層(図 61)から弥生土器が出土した(166～168)。166は壺の口縁部。端部は丸くおさめる。167は壺の体部。内面にヘラミガキを施す。168は壺の体部。体部上方に一条の沈線を施し、その直下に突起物を貼り付ける。これらは同一層内でまとまって出土したことから、同一時期の所産の可能性が高い。弥生時代前期の所産と考えられる。

10011 溝 (図 60・61、写真図版 27-3) 11-1:10-1・10-2区において、第9-1層除去面で検出した。北西-南東方向を指向するが、X=-135, 446、Y=-42, 139地点で方向を南西へ変える。幅 1.4～0.9 m、深さ 0.5～0.2 mを測り、検出長約 30 mである。断面形は逆台形である。埋土は底部に粗砂～中砂層があり、上部は灰～黒色のシルト質粘土を主体とする。溝底の標高が北西端では 5.83 m、南東端では 5.57 mであり、周辺地形を鑑みても南東側への流水が考えられる。後述する 10022 谷が埋積していく過程において、ある段階で形成されたものである。低まりを水が流れることにより、浸食を受け、自然に溝状になったものか、人為的に掘削されたものかは定かではない。第9-1層により覆われる。遺物の出土はなく、帰属時期は不明であるが、第9-1層下面での検出及び埋土の相似から、前述の 13008 溝と同一の溝と考えられる。

10012 溝 (図 60・61・63、写真図版 25・26-1・26-2・132・141) 09-3:1-2区・11-1:10-1区において、地山上面で検出した。北東-南西方向を指向する。幅 6.3～3.1 m、深さ 1.0～0.5 mを測り、検出長約 45 mである。断面形はV字形である。埋土はシルト～シルト質粘土を主体とする。所々に有機物の薄層が見られた。溝底の標高が北東端では 6.26 m、南西端では 6.06 mであり、周辺地形を鑑みても南

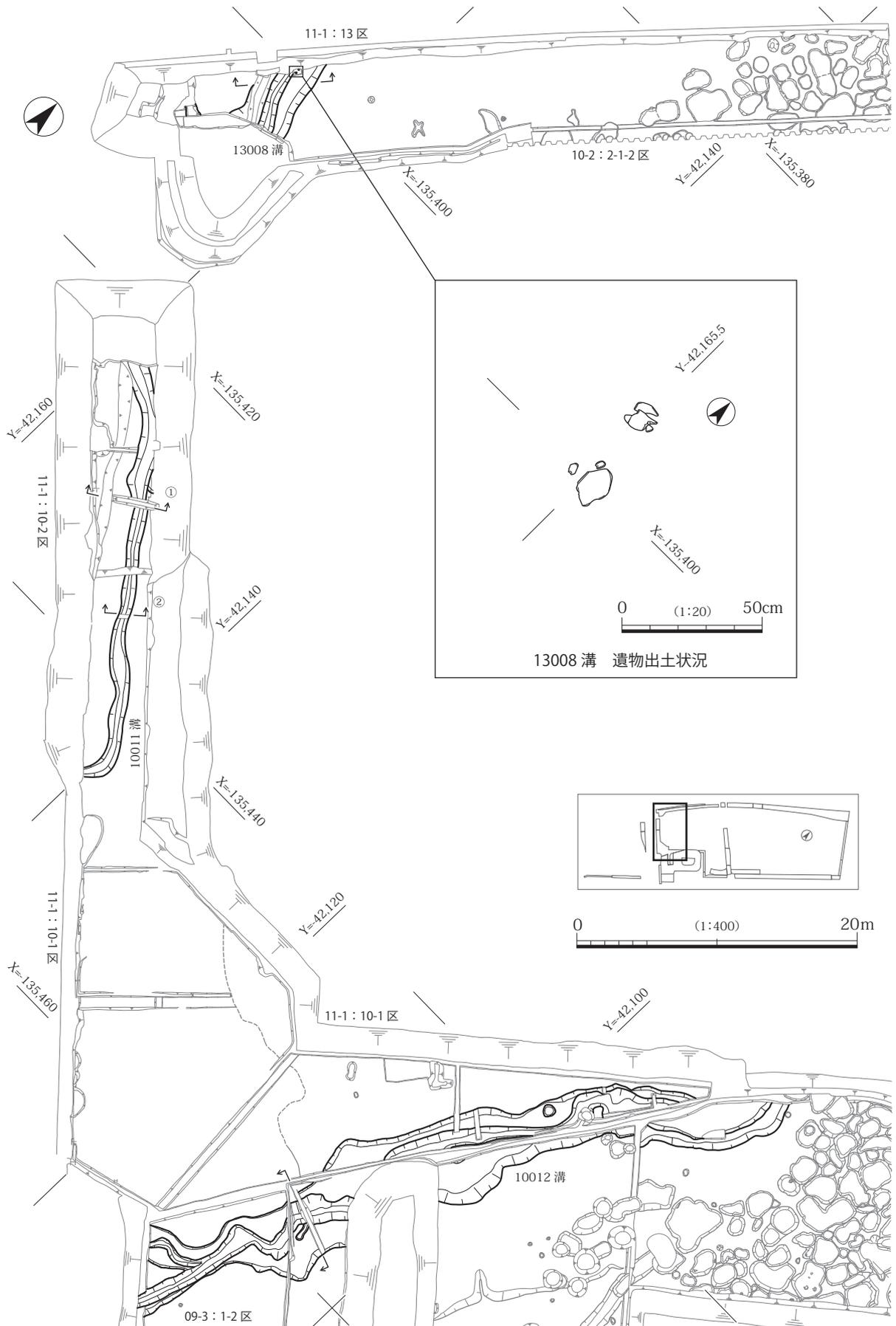
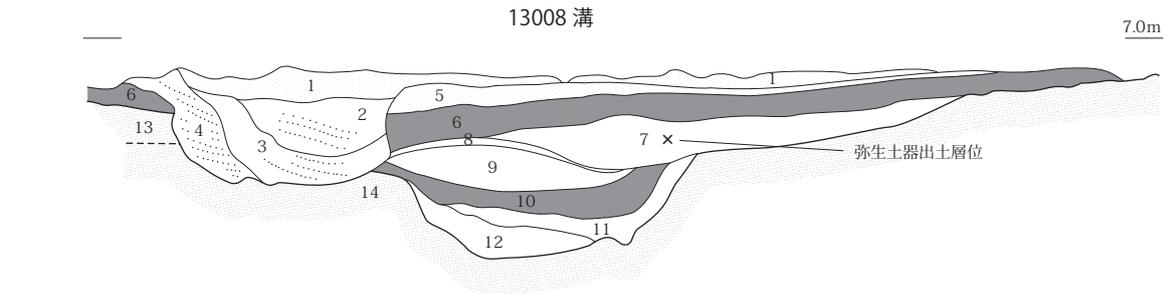
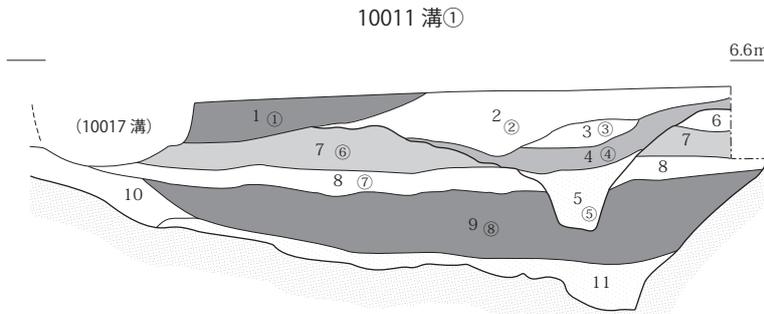


图60 13008・10011・10012 溝 平面图

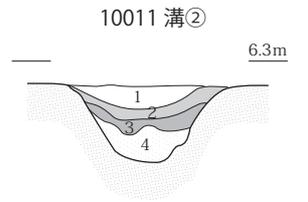


- 1, 2.5Y7/1 灰白 粗砂～中砂 (上方細粒化) (C0086 溝埋土)
- 2, 10YR8/1 灰白 細砂 (ラミナ明瞭) (最下部に細礫～極粗砂あり) (C0086 溝埋土)
- 3, 2.5Y7/1 灰白 中砂～細砂 (ラミナ明瞭) (最下部に細礫～極粗砂あり) (C0086 溝埋土)
- 4, 2.5Y8/1 灰白 細砂～極細砂と 2.5Y6/1 黄灰 シルトの互層 (腐植物の薄層あり) (ラミナ明瞭) (C0093 溝埋土)
- 5, 5Y6/1 灰 細砂～極細砂、シルト (C0093 溝埋土) (第7層)
- 6, 2.5Y4/1 黄灰 シルト質粘土 (腐植物の薄層あり) (13008 溝埋土) (第9-1層)
- 7, 5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルト (11-1:13 区において弥生土器出土) (13008 溝埋土)
- 8, 5Y5/1 灰 粗砂～中砂 (13008 溝埋土)
- 9, 10Y5/1 灰 極細砂混じりシルト質粘土 (13008 溝埋土)
- 10, 5Y3/1 オリーブ黒 極細砂混じり粘質シルト (13008 溝埋土)
- 11, 5Y5/1 灰 極細砂質シルト (13008 溝埋土)
- 12, 7.5Y6/1 灰 極細砂質シルトに 10Y7/1 灰白 細砂～極細砂質シルトのブロック (1～3cm大) 混じる (13008 溝埋土)
- 13, 2.5GY7/1 明オリーブ灰 極細砂質シルト (植物根痕多く見られる) (地山)
- 14, 10Y7/1 灰白 細砂～極細砂質シルト (地山)

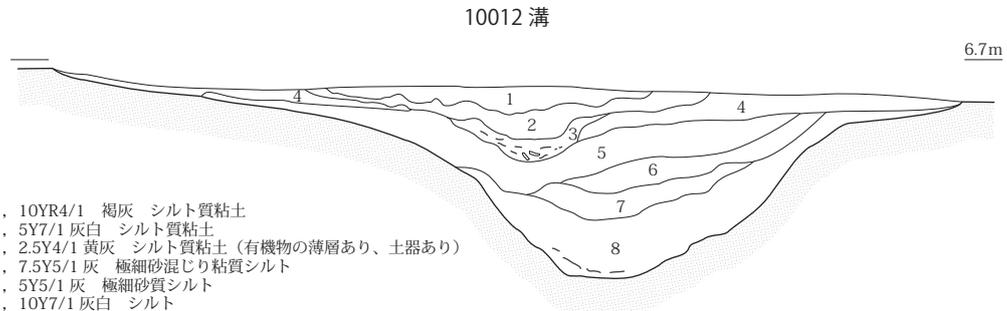


- 1, 2.5Y3/1 黒褐 細砂～シルト (黒色腐植物の薄層あり) (第9-1層)
- 2, 2.5Y5/1 黄灰 シルト質粘土
- 3, 5GY7/1 明オリーブ灰 シルト質粘土 (10011 溝埋土)
- 4, 10YR3/1 黒褐 極細砂混じりシルト質粘土 (10011 溝埋土)
- 5, 7.5Y8/1 灰白 粗砂～中砂 (10011 溝埋土)
- 6, 5GY6/1 オリーブ灰 粘質シルト (第9-2層)
- 7, 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルト (10022 谷埋土)
- 8, 2.5GY7/1 明オリーブ灰 極細砂～極細砂質シルト (10022 谷埋土)
- 9, 5Y3/1 オリーブ黒 極細砂質シルト (水成堆積) (10022 谷埋土)
- 10, 7.5Y7/1 灰白 極細砂 (10022 谷埋土)
- 11, 7.5Y8/1 灰白 粗砂～細砂 (上方細粒化) (10022 谷埋土)

※○付数字は第8章第3節で報告するアゼ②地点とした分析用サンプリング位置を示す



- 1, 7.5Y5/1 灰 粘質シルト
- 2, 7.5Y3/1 オリーブ黒 細砂質シルト
- 3, 7.5Y3/1 オリーブ黒 細砂質シルト (黒色腐植物の薄層あり)
- 4, 2.5GY5/1 オリーブ灰 粗砂～中砂とシルトの互層



- 1, 10YR4/1 褐灰 シルト質粘土
- 2, 5Y7/1 灰白 シルト質粘土
- 3, 2.5Y4/1 黄灰 シルト質粘土 (有機物の薄層あり、土器あり)
- 4, 7.5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルト
- 5, 5Y5/1 灰 極細砂質シルト
- 6, 10Y7/1 灰白 シルト
- 7, 2.5Y4/1 黄灰 極細砂質シルト
- 8, 5Y5/1 灰 細砂質シルト (炭化物あり)

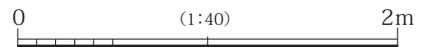


図 61 13008・10011・10012 溝 断面図

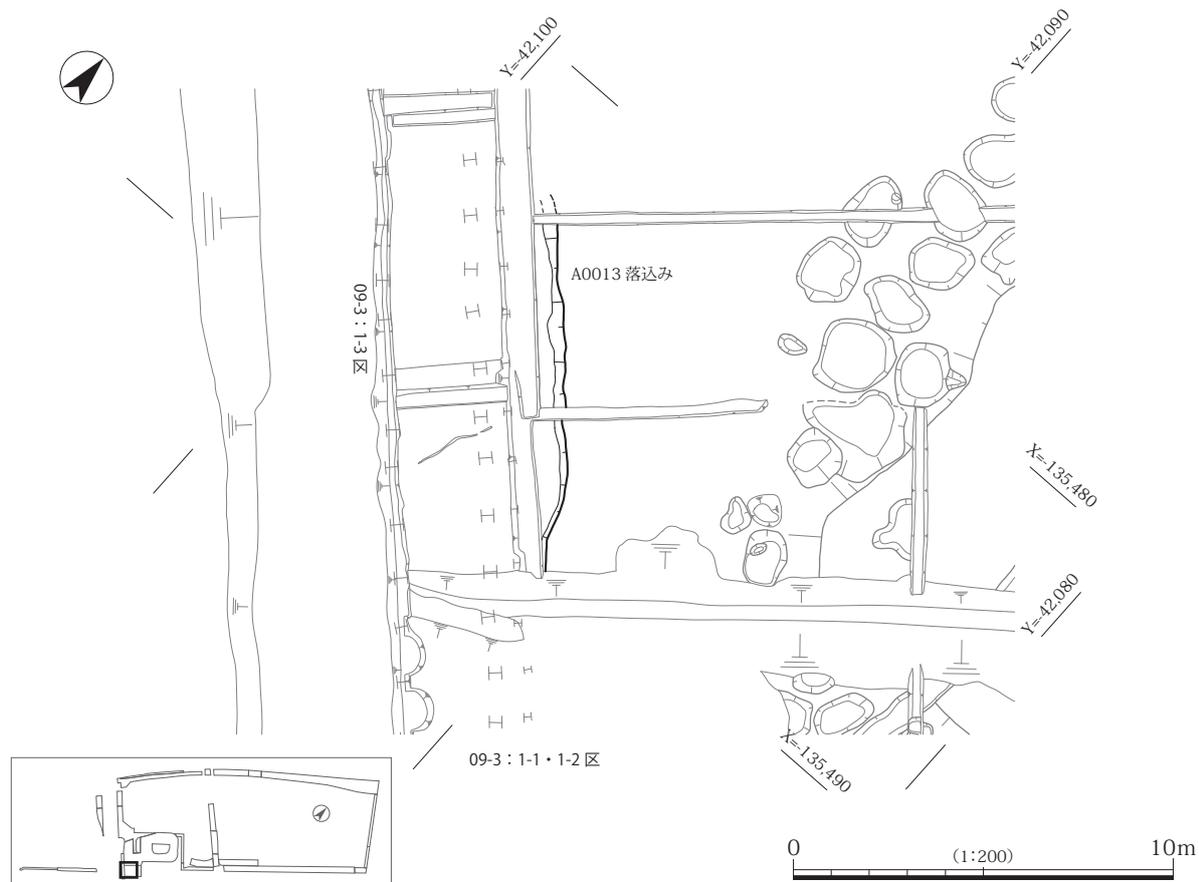


図 62 A0013 落込み 平面図

西側への流水が考えられる。

埋土中から、縄文土器・弥生土器・石製品が出土した（161～165）。161・163～165は、溝の南西部、09-3:1-2区において溝上部から出土したもの、162は11-1:10-1区において埋土3層（図61）から出土したものである。161は縄文土器深鉢。外面には凸凹した突帯が付く。胎土は角閃石を含みチョコレート色をした、いわゆる生駒西麓産のものである。縄文時代晩期の所産。162は弥生土器底部。生駒西麓産の胎土である。弥生時代中期の所産か。163～165はサヌカイト製石鏃。いずれも凹基式に分類されるものである。163は尖頭部と基部の境で屈曲し五角形を呈する。縄文時代～弥生時代の所産。

2. 落込み

A0013 落込み（図62・63） 09-3:1-1・1-2・1-3区において、地山上面で検出した。X=-135,485、Y=-42,095地点に位置する。検出長およそ10mを測る。北西側は側溝による攪乱で判然とせず、南東側も攪乱により明らかでない。埋土は黒色系シルトを主体とする。

埋土から、弥生土器（169）が出土した。169は壺もしくは甕の底部であり、外面中央がやや凹む。弥生時代後期前半の所産。

3. 流路

B2060 流路（図64） 09-3:2-2区・12-1:14-1区において、地山上面で検出した。X=-135,385、Y=-41,975

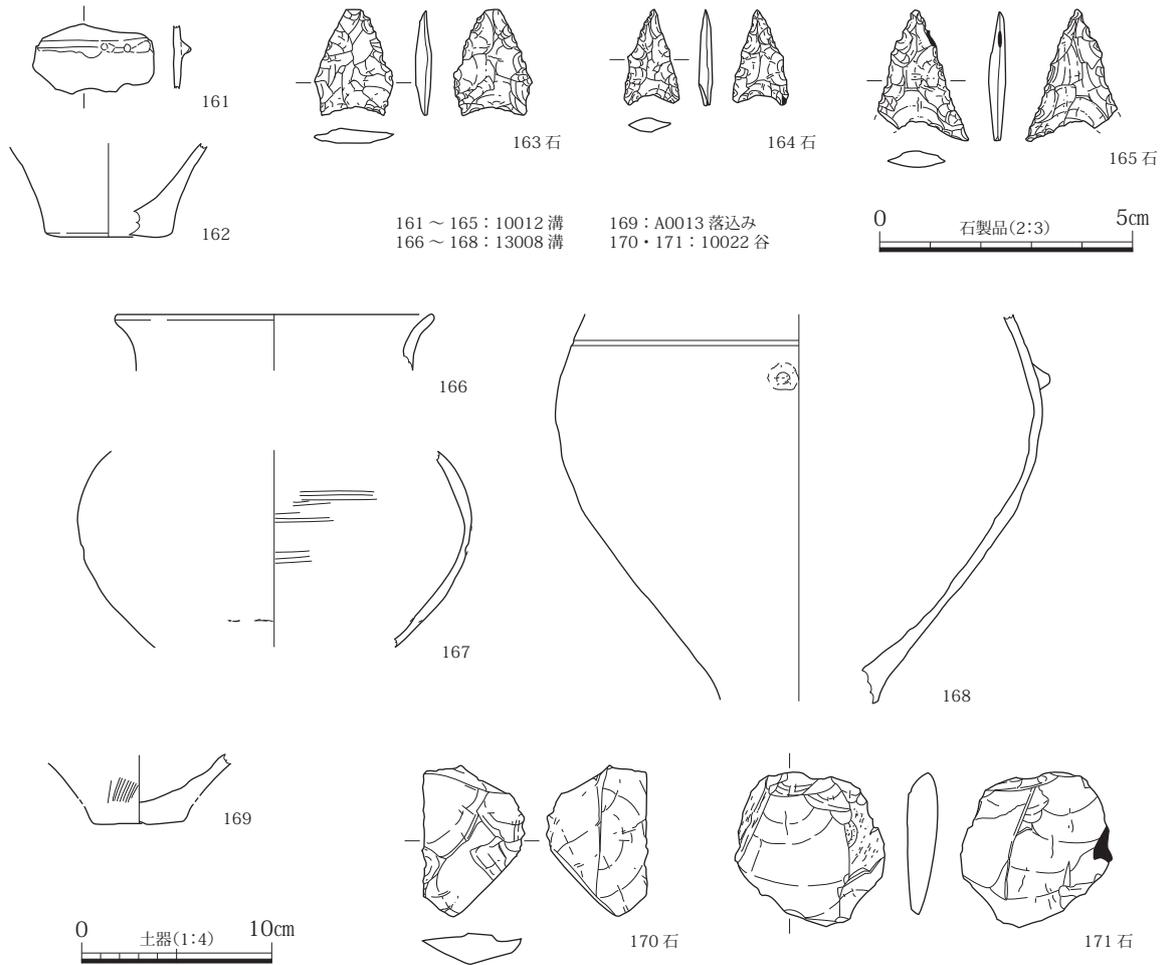


図63 遺構出土遺物

地点に位置する。北西—南東方向を指向し、幅7.7～7.0mを測る。調査の安全上、すべてを掘削することはできなかったが、一部底を確認した地点では深さ2.4mを測る。その地点の標高は5.4mであった。検出長は約13mである。埋土は細礫～極細砂を主体とし、ラミナが明瞭である。断面位置においては、基盤層と思われる地層が流路内に垂れ下がって見られたことから、流路の側壁をかなり抉ったものと考えられる。また、その基盤層の最上部は側方へ続かず途切れてしまうことから、後世に周辺がかなり削平を受けたようである。周辺地形を勘案すれば、北西から南西への流水であったと考えられる。遺物の出土はないため帰属時期は不明である。

2150 流路 (図64) 11-1:2-1区において、地山上面で検出した。X=-135,235、Y=-41,975地点に位置する。北西—南東方向を指向し、幅7.6～6.4mを測る。調査の安全上、すべてを掘削することはできなかったが、一部底を確認した地点では深さ3.3mを測る。その地点の標高は5.4mであった。検出長約10mである。埋土は細礫～極細砂を主体とし、ラミナが明瞭である。周辺地形を勘案すれば、北西から南西への流水であったと考えられる。遺物の出土はないため帰属時期は不明である。

これら二つの流路は、約150m離れた地点で検出されたものであるが、他に同様の流路が検出されていないことや流水方向、地形を勘案すれば同一の流路である可能性が高い。出土遺物はないが、検出状況から弥生時代以前に属すると考えられる。

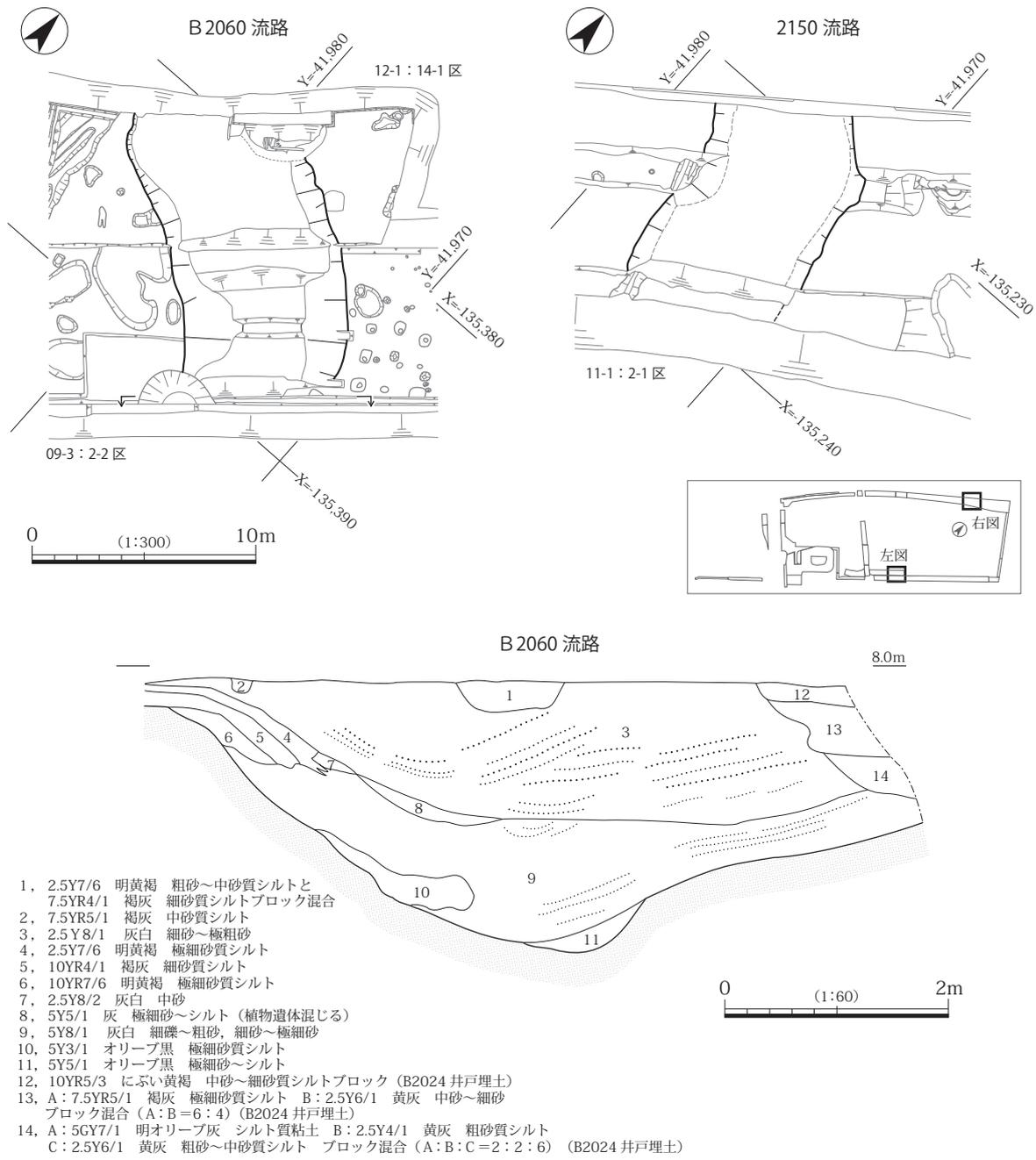


図 64 流路 平面図・断面図

4. 谷

10022 谷 (図 63・65、写真図版 24・141) 11-1:10-1・10-2 区において、地山上面で検出した。北西—南東方向を指向する。谷の西肩口が明らかになっておらず、谷の一部を調査したに留まるため、全体の規模は不明である。また、谷がどこまで入り込んでいるのか、どれほど広がっているのかも不明であるが、現在の岸部地下道が通る箇所が谷の最深部に相当するものと考えられる。

明瞭な谷の肩口として認識したのは、11-1:10-1 区で検出したものであり、東肩口としうるものである。この肩口は、概ね第 6 層を除去した段階で捉えることができた。東肩口から今回検出したもっとも深い地点までの深さは、約 1.3 m を測る。埋土は黒色系や白色系のシルト～粘土を主体とした堆積層が

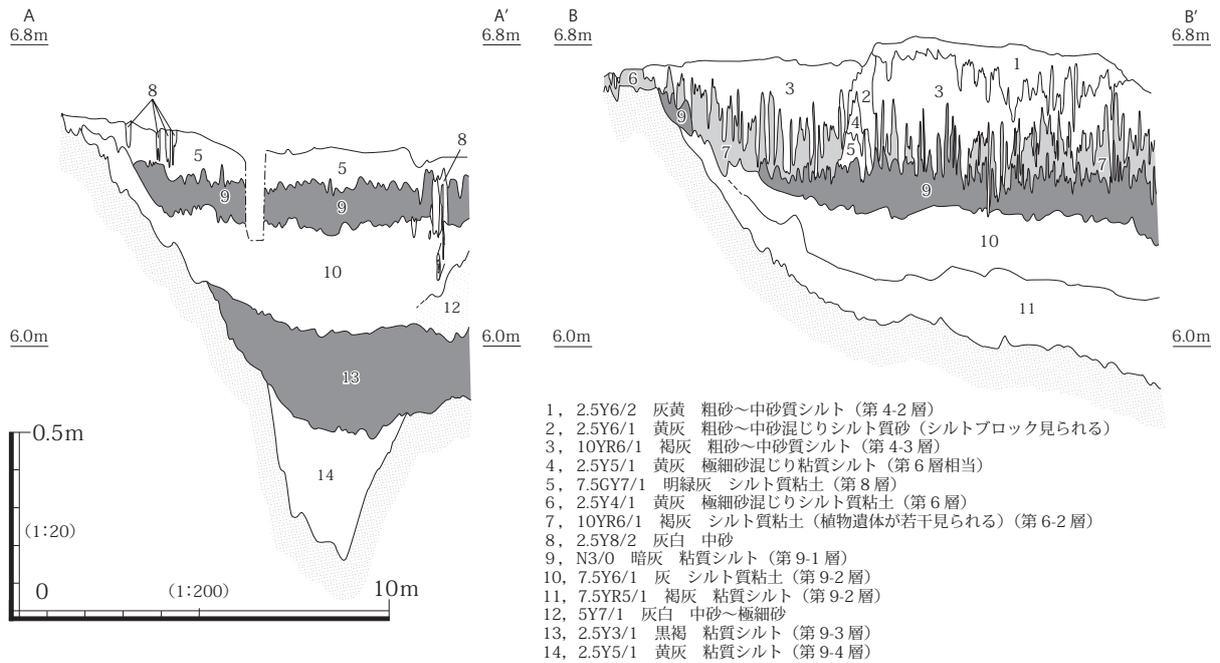
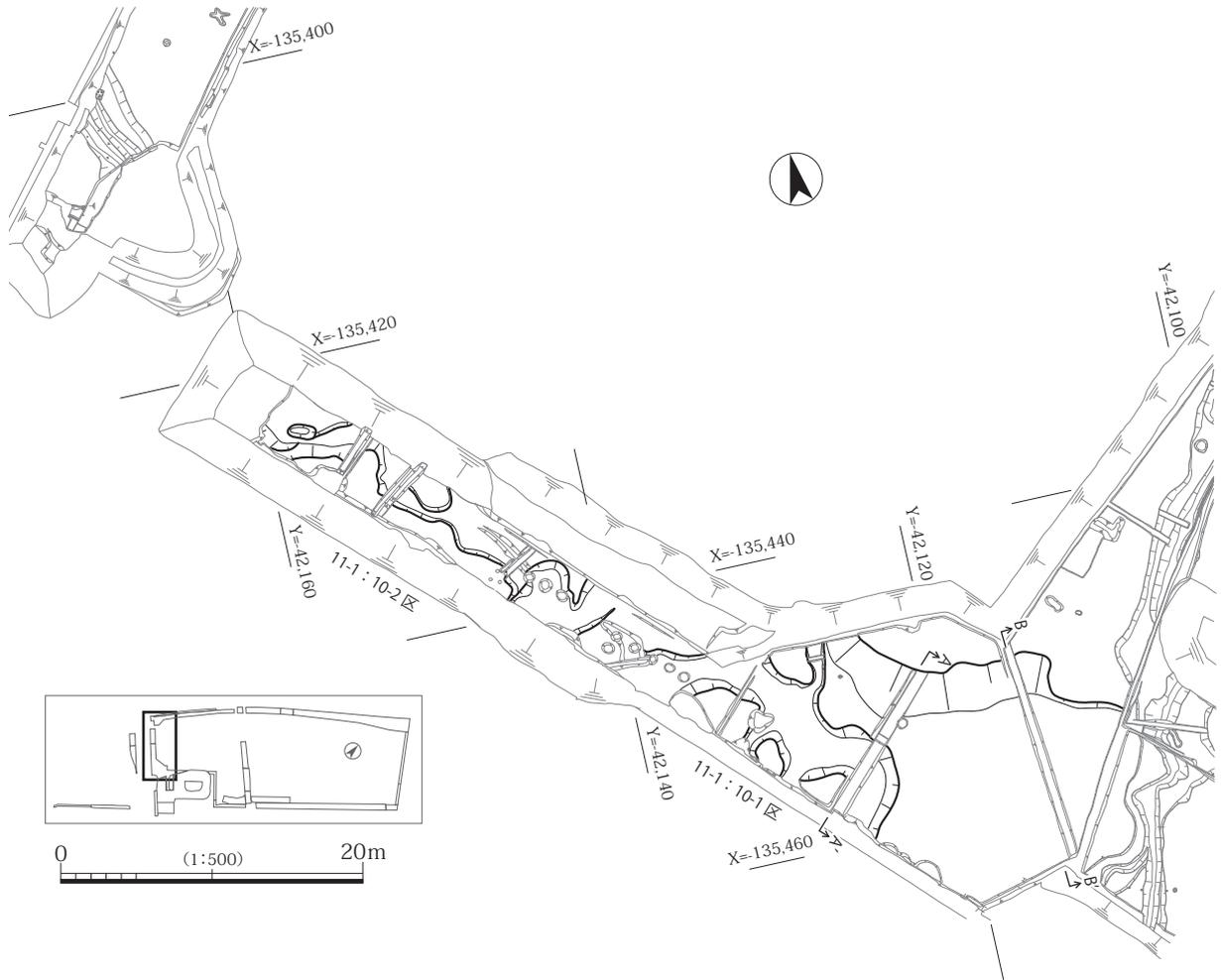


図 65 10022 谷 平面図・断面図

認められた。調査時には、谷の埋土としては捉えず、基本層序として捉えていたので、ここでの説明も基本層序名を使用することとした。

上述したように、第6層を除去した段階で明確な落ち際を検出し、肩口と認識した。しかし、上層の第4-1層が自然堆積層であり、谷部分にのみ認められることから、第4-1層堆積時においてもまだ周辺よりも低い地形であったことは明らかである。この第4-1層の堆積により、概ね平坦化していることから、最終的に谷地形が克服されるのは、その時であるとも言えよう。第1項の基本層序で報告した通り、第4層からの出土遺物は僅少であるが、鎌倉時代初期の青磁碗が出土していることから少なくともその頃までは、まだ地形的には谷地形であったということか。

第9-1層除去面で検出した溝から弥生時代前期に属すと考えられる土器が出土しており、年代の定点を置くことが可能と考える。そこで、ここでは第9-2層以下から出土した遺物について、谷の出土遺物として報告する。石製品(170・171)が出土した。いずれもサヌカイト製の剥片である。170は第9-2層から、171は第9-3層から出土した。

5. 包含層その他出土遺物(図66・67、写真図版141)

包含層や後世の遺構から出土した当該期の遺物をまとめて報告する。なお、遺物出土状況の特徴などから当該期の遺跡の様子を抽出できるかと考え、図化し得た遺物について掲載し、土器については調査区ごとに西から順に報告する。また、石製品については出土状況をまとめたので、種別で報告する。

172は12-1:1-2区出土の弥生土器底部。古代に属する1213土坑から出土した。壺又は甕の底部と考えられる。底部外面が凹む。弥生時代後期の所産か。

173～175は09-3:1-1・1-2区出土の弥生土器底部。第9-1層及び中世以降に属するA0005池から出土した。173・174は壺又は甕の底部と考えられる。175は甕の底部。いずれも弥生時代後期の所産。

176～179は09-3:2-2区出土の弥生土器底部。第2層及び古代に属するB2003溝から出土した。176・177は壺又は甕の底部と考えられる。底部外面が凹む。178・179は甕の底部。いずれも弥生時代後期の所産。

180～185はサヌカイト製石鏃。180～184は凹基式、185は凸基Ⅱ式に分類されるものである。180は尖頭部と基部の境で屈曲し五角形を呈する。縄文時代～弥生時代の所産。

186はサヌカイト製ナイフ形石器。上部を欠損するが、瀬戸内技法による製作で、国府型ナイフ形石器と考えられる。風化が著しい。旧石器時代の所産。

187～202はサヌカイト製剥片。192・196・197・202は一部に自然面を残す。187・188・193・194は風化が著しく、旧石器の可能性はある。

203は11-1:1-1区出土の石庖丁。古代に属する1013落込みから出土した。半分強を欠損するが、紐を通す穴が1箇所ある。平面形は楕円型に相当するか。紐孔は、両側からの穿孔である。Ⅲ類。表面は細かい研磨痕があるが、一部凹む部分は、磨き残しがある。材質は粘板岩である。

サヌカイト製の石製品が、吹田操車場東地区において計28点出土した。遺構出土のものを含めると石鏃9点、ナイフ形石器1点、剥片18点である。その分布状況を図68に示しておく。これらサヌカイト製石製品が出土した場所は、10022谷の周囲に集中していることが看取できる。特に石鏃は1点を除き、すべて谷の周囲で出土していることから、この谷が狩猟の場であった可能性があろう。

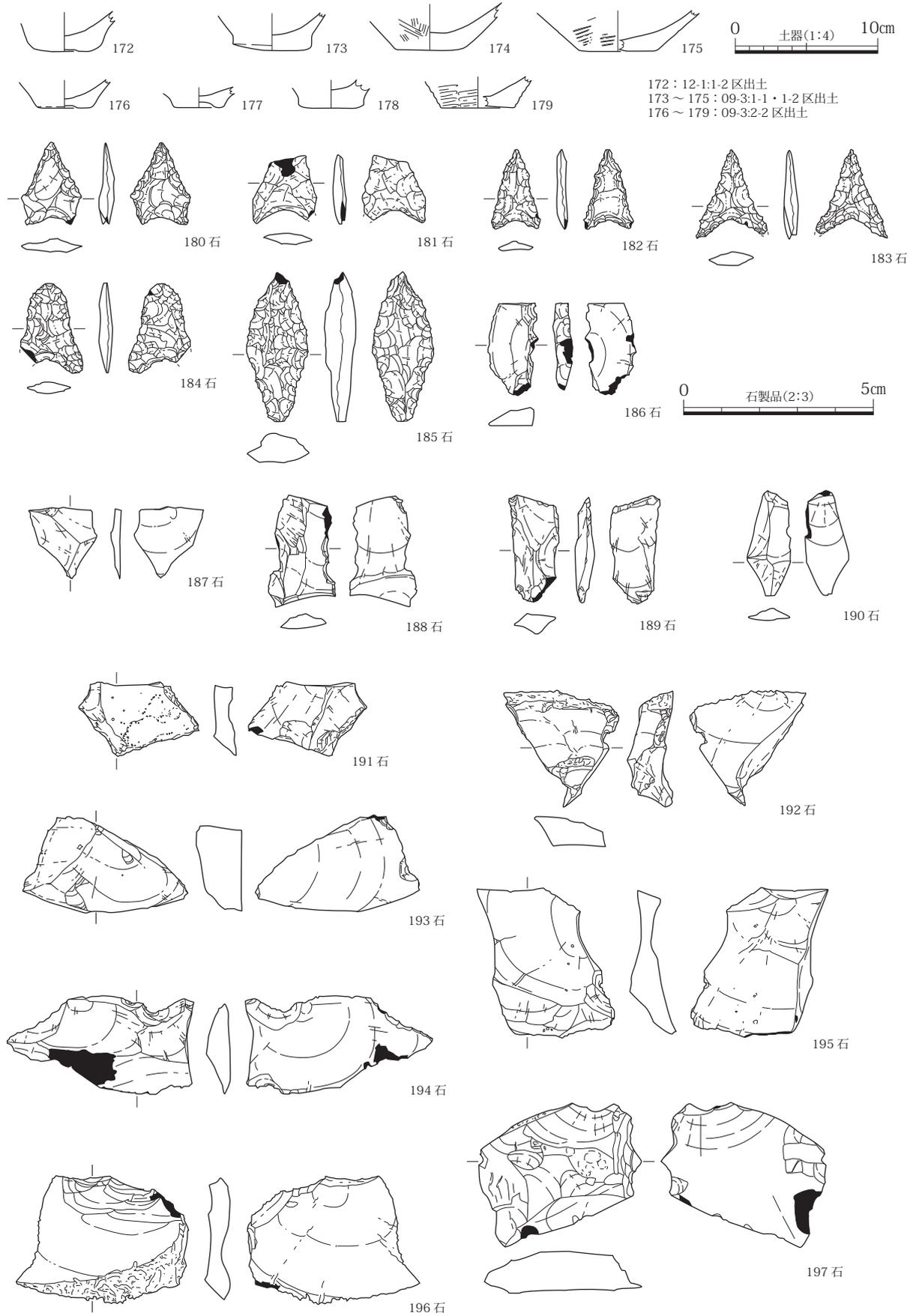


図66 包含層その他出土遺物(1)

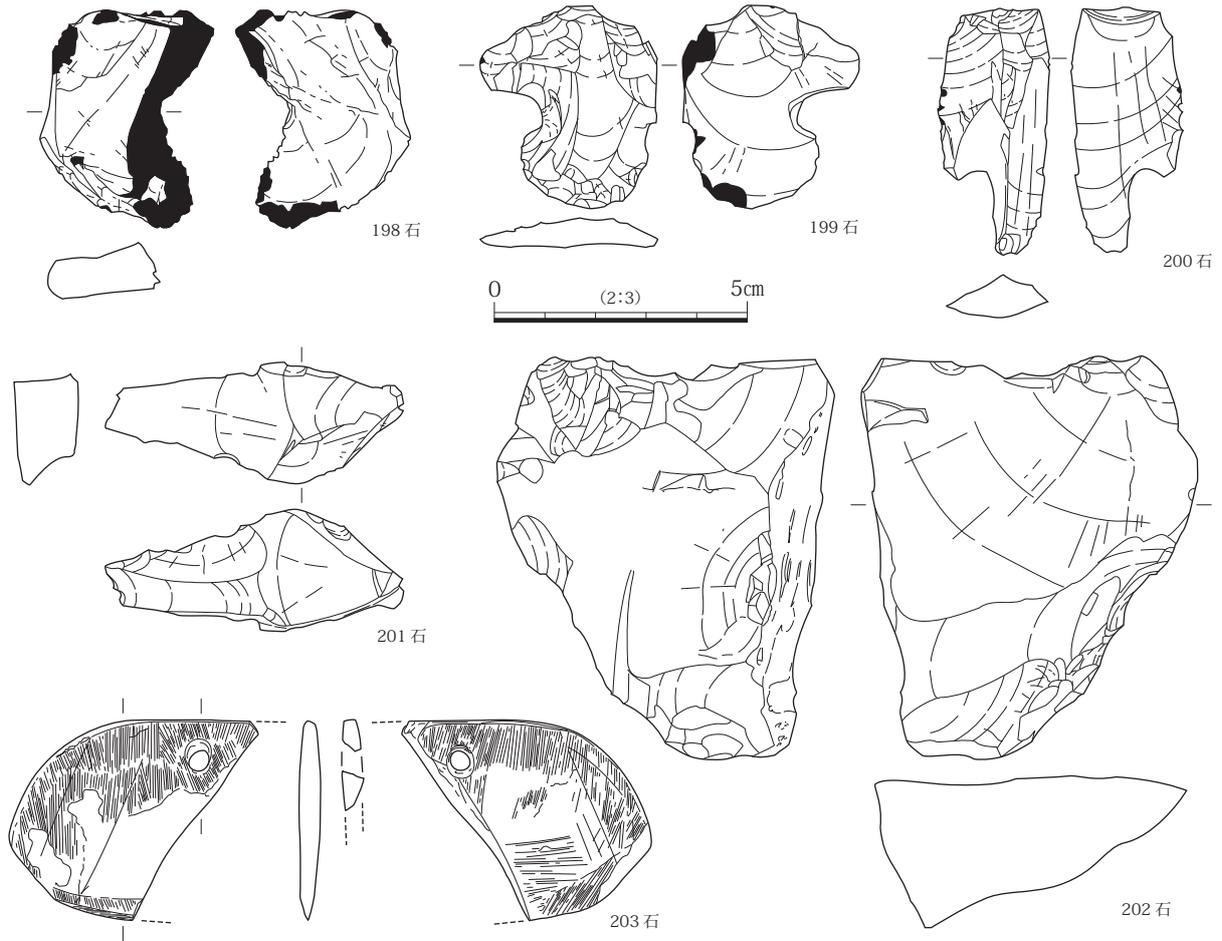


図 67 包含層その他出土遺物（2）

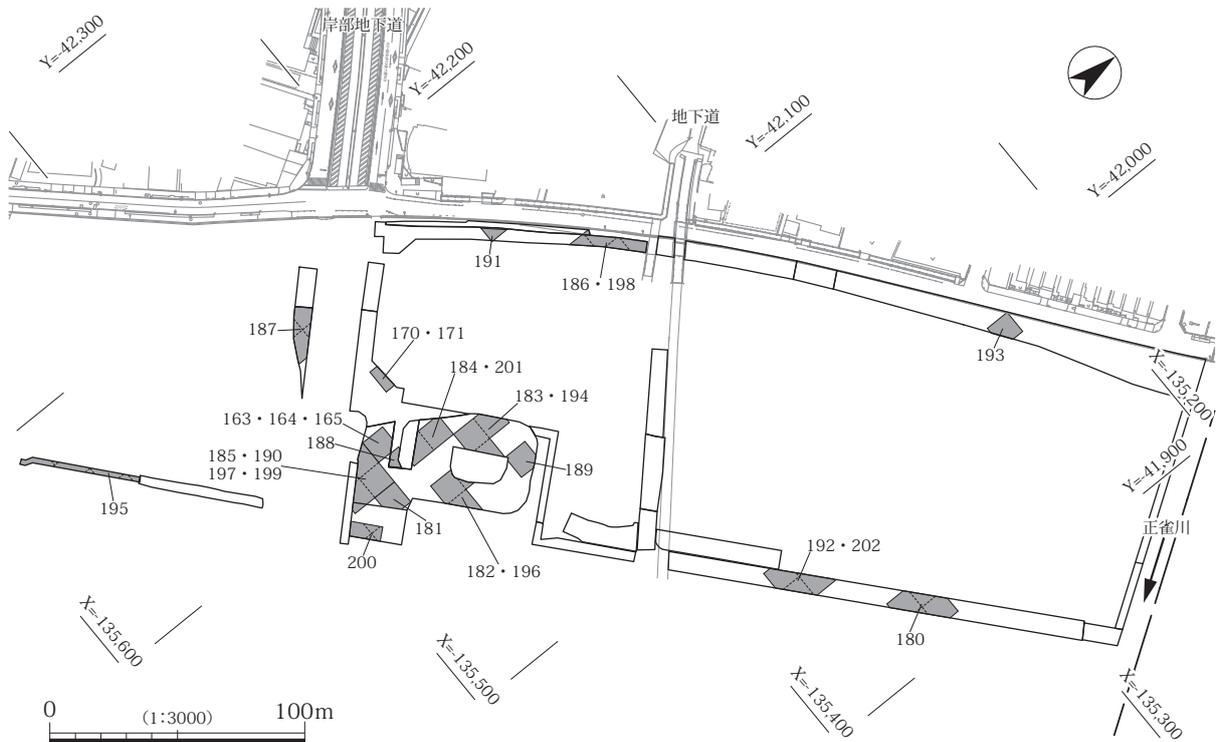


図 68 サヌカイト出土位置

第3節 古墳時代の遺構・遺物

古墳時代に属する遺構は、群集土坑、溝、落込みが挙げられる。地山上面で検出したものと第7層及び第8層上面で検出したものがある。基本的には、遺構から遺物が出土し、時期比定が可能なものについて報告するが、遺物の出土がなくても、帰属面や周辺の状況から古墳時代に属する可能性があるものについても言及しておく。

第2節で報告した10022谷は当該時期においても埋まりきることはなく、比高を持った谷として存在している。その谷の西側に位置する11-1:9-1・11-1:9-2区において、また東側に位置する09-3:1-1・09-3:1-2・09-3:1-3・11-1:10-1・11-1:10-2・11-1:11-1区、10-2:2-1-2・11-1:13区、11-1:2-1・12-1:2-2・12-1:2-3区、09-3:2-2区において、当該時期の遺構を検出している。

東地区においては、中央から西寄りに位置する調査区で遺構を検出している傾向が看取できる。今回の調査で検出した遺構の時期は、いずれも古墳時代後期に属するものである。包含層出土遺物を観察しても、古墳時代前期の所産になる遺物は出土しておらず、中期所産と思われる遺物がわずかに出土しているのみで、古墳時代後期の遺物が主体となる。出土遺物の状況から考えても、当地区においては古墳時代後期以降に人々の営みが活発になる様相を示しているものと理解する。

なお、以下に報告する群集土坑の中には、一部古代まで時期が下るものを含む可能性がある。

1. 群集土坑 (図69～99、表4・5、写真図版28～57・132・133)

(群集土坑検出概要)

吹田操車場遺跡東地区の中央からやや西寄りにかけて、11-1:9-1・9-2区、09-3:1-1・1-2・1-3区、11-1:11-1区、10-2:2-1-2区、11-1:13区、11-1:2-1区、12-1:2-2・2-3区において、総数472基の土坑を検出した。いずれも、地山上面で検出した。

群集土坑の検出状況を概観すると、場所によってある程度のまとまりが看取できる。そこで、群集土坑を、そのある程度のまとまりに則って、便宜的に①・②・③・④・⑤の5つのエリアに分けておく(図69)。エリア①は11-1:9-1・9-2区で検出したもの、エリア②は09-3:1-2区・11-1:11-1区で検出したもの、エリア③は09-3:1-1・1-2・1-3区で検出したもの、エリア④は10-2:2-1-2区・11-1:13区で検出したもの、エリア⑤は11-1:2-1区・12-1:2-2区・12-1:2-3区で検出したものである。以下、調査区名とエリア名を必要に応じて使用し報告する。

エリア①とした11-1:9-1・9-2区で検出した群集土坑は、第2節で報告した10022谷の南西側に位置するものである。29基の土坑を検出した。エリア①の土坑は、攪乱により全容を検出できたものはないが、規模の平均値は概ね長径(辺)1.5m、短径(辺)0.9mを測る円形もしくは円形に近い不定形の土坑である。検出時は、各々の土坑の輪郭が明瞭ではなく、ブロック土(偽礫)が広く認められる大きな土坑状の遺構として検出した。それを徐々に掘り下げ、底面に近い高さで漸くそれぞれの土坑の輪郭が露になったものである。そのため、各土坑は切り合い関係にあるのではなく、いくつかの土坑があまり時間をおかず掘削され、ほぼ同時期に埋め戻されている状況と理解できる。

なお、9025土坑は、もっとも規模の大きい土坑であるが、いくつかの土坑が合わさったものの可能性が高い。しかし、底面において輪郭がはっきりしなかったため、一つの土坑としたものである。

面積は11.69㎡～0.16㎡、土坑の深さは深いもので0.36m、浅いもので0.11mを測る。また、土

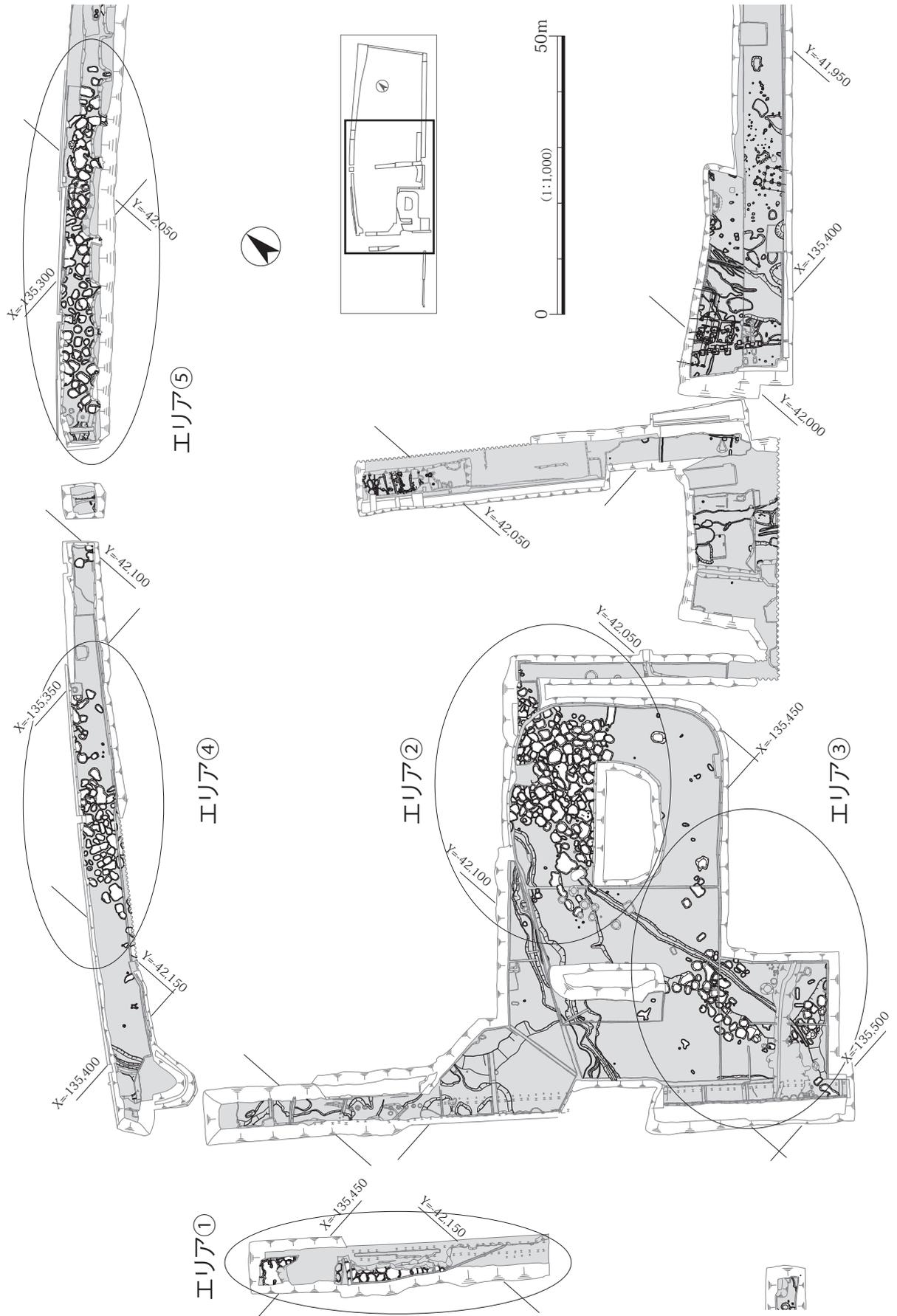


図 69 群集土坑 全体図

坑底の標高は高い所で7.01 m、低い所で6.59 mを測る。土坑埋土は、いずれもよく似たブロック土を主体とした埋土であることから、ほぼ同時期に形成された可能性が高い。また、土坑は底面の砂質分が強くなるところで掘削を停止する傾向が見られた。土坑の断面形は、皿状・逆台形状・方形を呈する。

なお、調査区東南辺は「岸部地下道」建設時に攪乱され、11-1:9-2区の中央部は巨大なコンクリート構造物により攪乱されていたが、検出状況から考えて、群集土坑はこの調査区の四方に広がっていたと思われる(図70、写真図版28-1・2)。

エリア②とした09-3:1-2区・11-1:11-1区で検出した群集土坑は、第2節で報告した10022谷の東側で、10012溝の東側に位置するものである。187基の土坑を検出した。検出面の標高は、高い所で7.30 m、低い所で6.60 mを測り、群集土坑は東から西へ緩やかに傾斜する場所に形成されている。地形的にもっとも標高が高くなる平坦地には、群集土坑は広がっていない。後世の削平等を考慮しても、もともとなかった可能性が高い。なお、群集土坑が形成された時期には、10012溝は埋没していたものと思われる。

エリア②の土坑は、検出時には輪郭が明瞭なものが多かったが、エリア①同様、大きな土坑状の遺構として検出したものもあり、やや掘り下げた段階で各土坑の輪郭が露になったものもある。その際は、やはり検出時において土坑の切り合いを認めうるものがなく、いくつか重複した土坑は、切り合いの結果形成されたものではなく、並存するものとする。平面形状は、円形・隅丸方形・円形または方形に近い不定形を呈する。土坑規模の平均値は概ね長径(辺)

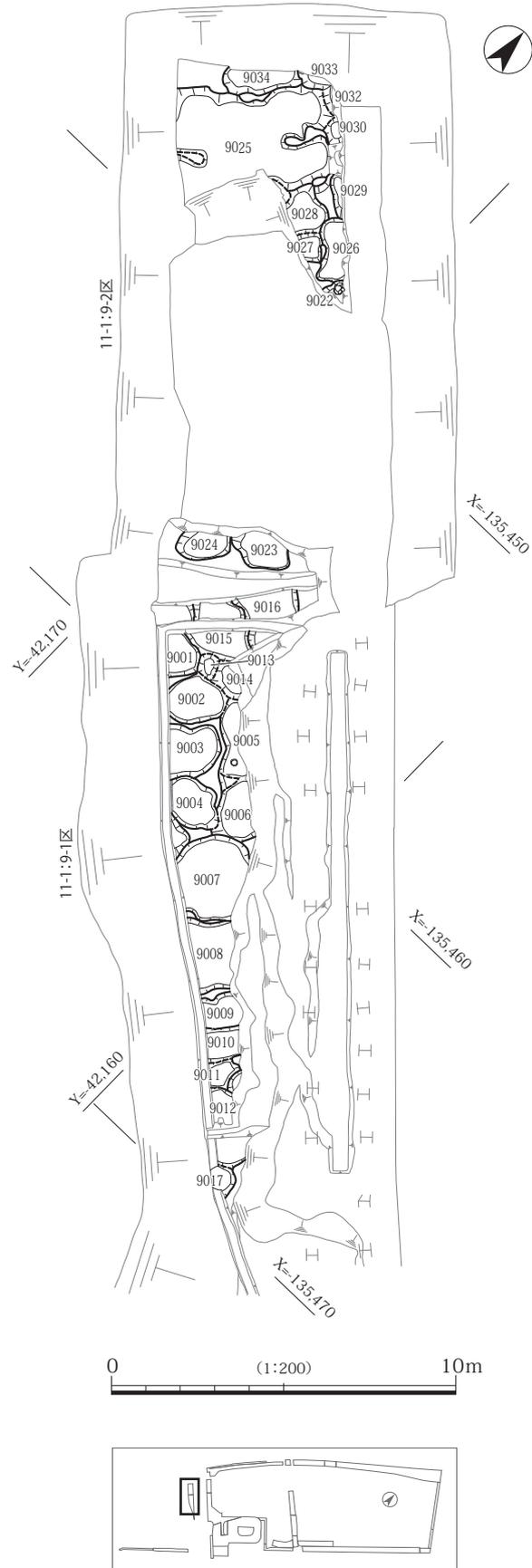


図70 群集土坑 平面図(1) (11-1:9-1区・9-2区)



図 71 群集土坑 平面図 (2) (09-3:1-2区、11-1:11-1区)

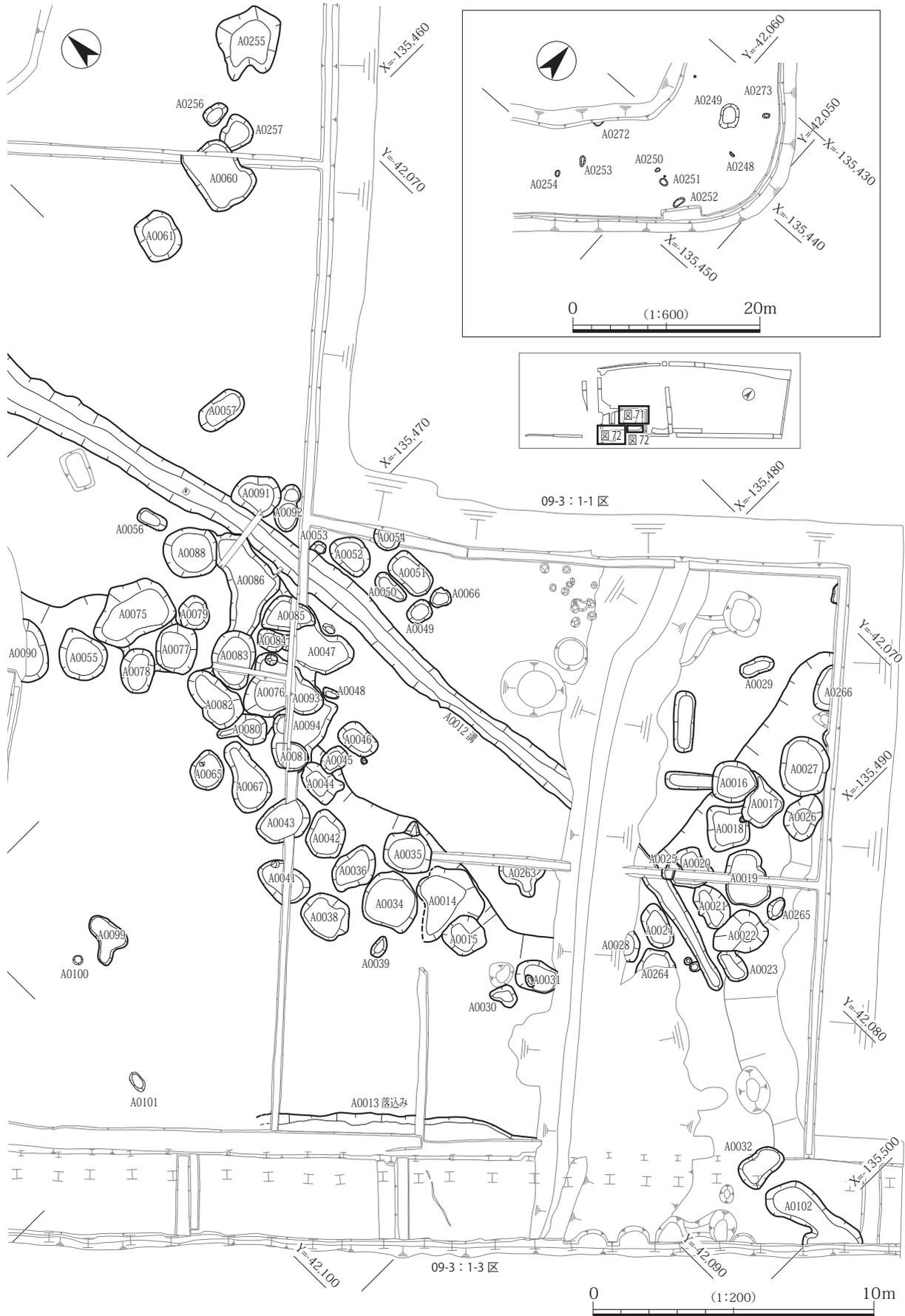


図72 群集土坑 平面図(3) (09-3:1-1区・1-2区・1-3区)

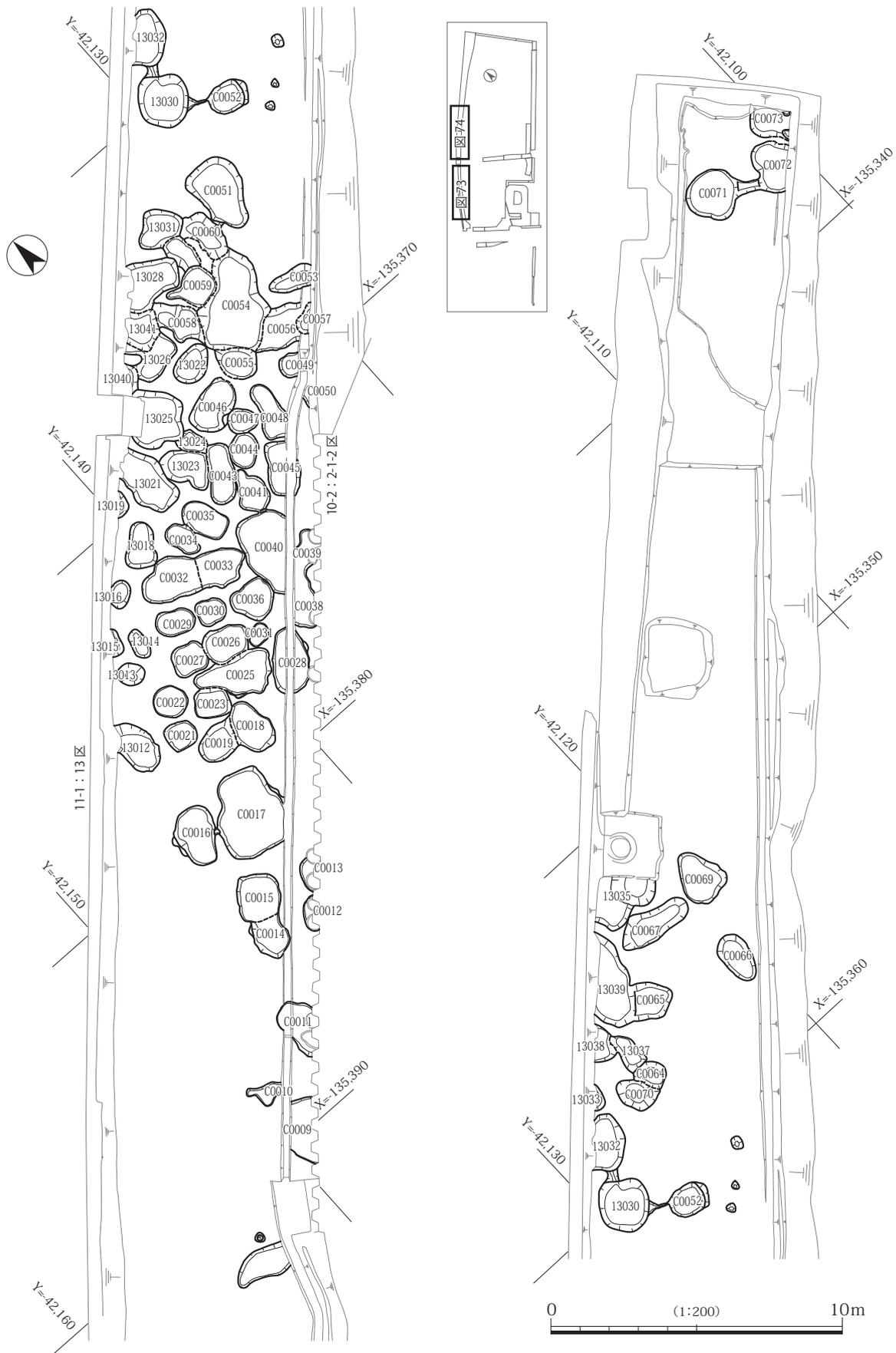


图 73 群集土坑 平面图 (4) (10-2:2-1-2 区、11-1:13 区)

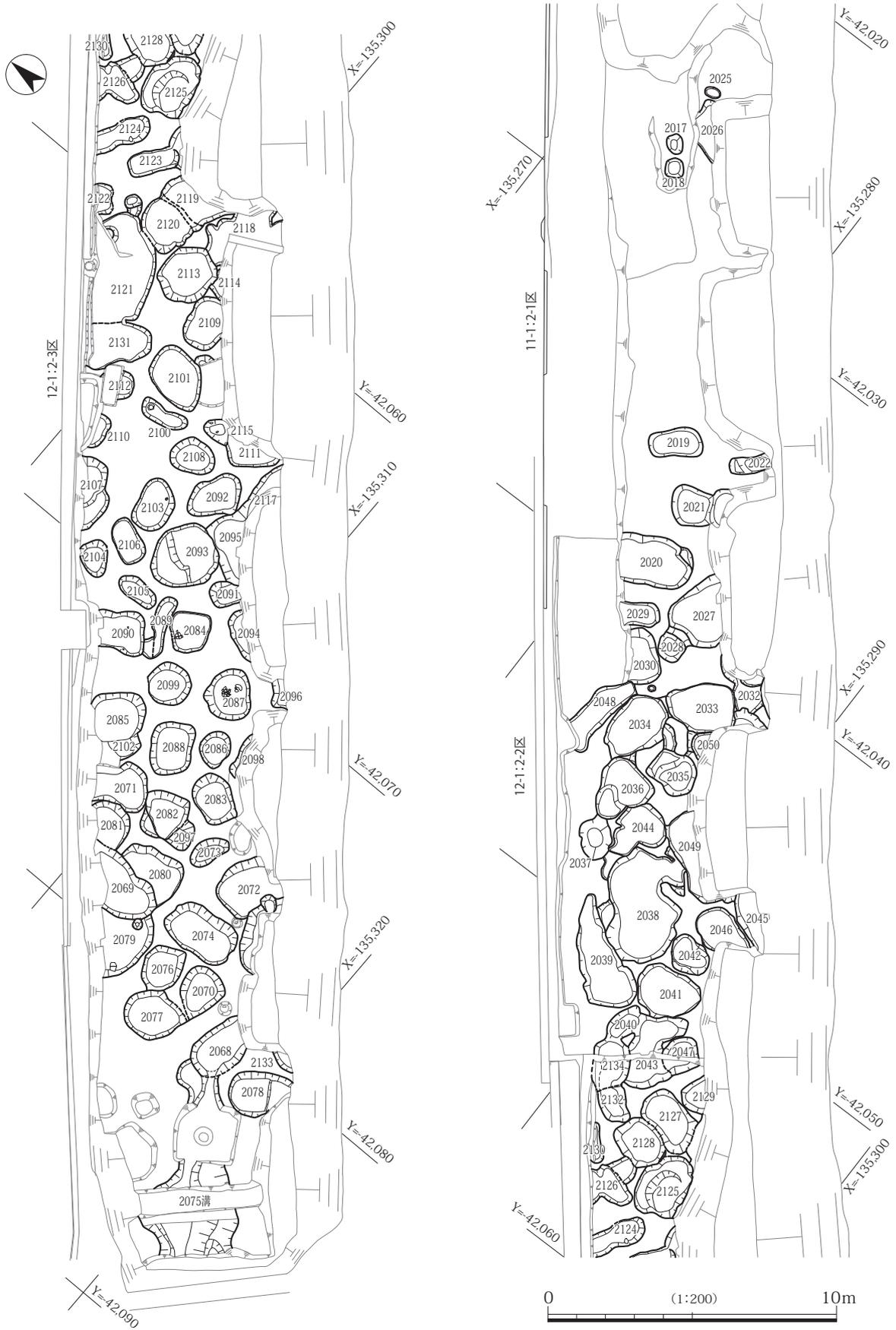


図74 群集土坑 平面図(5) (11-1:2-1区、12-1:2-2区・2-3区)

1.60 m、短径（辺）1.04 mを測る。面積は10.09 m²～0.03 m²、土坑の深さは深いもので0.80 m、浅いもので0.04 mを測る。また、土坑底の標高は高い所で7.23 m、低い所で6.21 mを測る。土坑埋土は、いずれもよく似たブロック土（偽礫）を主体とした埋土であることから、ほぼ同時期に形成された可能性が高い。また、底面の砂質分が強くなるところで掘削を停止する傾向が見られた。土坑の断面形は、皿状・逆台形状・方形状・袋状を呈する。なお、検出状況から考えて、群集土坑はこの調査区の北側にも広がっている可能性が高い（図71、写真図版29-2・29-3・30-1）。

エリア③とした09-3:1-1・1-2・1-3区で検出した群集土坑は、10022谷の東側に位置するものである。78基の土坑を検出した。検出面の標高は、高い所で7.20 m、低い所で6.50 mを測り、群集土坑は東から西・南へ緩やかに傾斜する傾斜変換点付近に形成されている。地形的にもっとも標高が高くなる平坦地、後述するA0012溝の周囲にも土坑は一部拡がりを見せるが、緩やかな傾斜地に沿って帯状に分布する状況が看取される。

平面形状は、円形・隅丸方形・円形または方形に近い不定形を呈する。土坑規模の平均値は概ね長径（辺）1.57 m、短径（辺）1.09 mを測る。面積は4.85 m²～0.04 m²、土坑の深さは深いもので0.57 m、浅いもので0.05 mを測る。また、土坑底の標高は高い所で7.01 m、低い所で6.12 mを測る。土坑埋土は、いずれもよく似たブロック土（偽礫）を主体とした埋土であることから、ほぼ同時期に形成された可能性が高い。また、底面の砂質分が強くなるところで掘削を停止する傾向が見られた。土坑の断面形は、皿状・逆台形状・方形状・袋状を呈する。土坑の分布状況は、エリア②に比べると密度が薄く、各土坑は近接するがあまり重複しない傾向がある。また、A0049とA0066、A0050とA0051などのように、規則的に配置され、同時に掘削されたのではないかと考えられる土坑も存在する。

検出された土坑は、後述するA0012溝との関係においては、A0086土坑を参考にすれば溝が埋没した後土坑が掘削されたものと判断できる。また、エリア③南端の土坑埋土は、後述のA0011落込み埋土により覆われている。エリア③の群集土坑は、上述の前後関係を考慮に入れば、A0012溝埋没後、A0011落込み埋没時までの期間に形成された可能性が高い。なお、検出状況から考えて、群集土坑はこの調査区の南方にも広がっている可能性が高い（図72、写真図版28-3・29-1）。

エリア④とした10-2:2-1-2区・11-1:13区で検出した群集土坑は、10022谷の東側に位置するものである。81基の土坑を検出した。検出面の標高は、高い所で7.60 m、低い所で6.90 mを測り、群集土坑は東から西へ緩やかに傾斜する場所に形成され、帯状に分布する状況が看取される。地形的にもっとも標高が高くなる平坦地には、群集土坑は広がっていない。後世の削平等を考慮しても、もともとなかった可能性が高い。

平面形状は、円形・隅丸方形・円形または方形に近い不定形を呈する。土坑規模の平均値は概ね長径（辺）1.58 m、短径（辺）1.01 mを測る。面積は10.04 m²～0.11 m²、土坑の深さは深いもので0.52 m、浅いもので0.01 mを測る。また、土坑底の標高は高い所で7.41 m、低い所で6.38 mを測る。土坑埋土は、いずれもよく似たブロック土（偽礫）を主体とした埋土であることから、ほぼ同時期に形成された可能性が高い。また、底面の砂質分が強くなるところで掘削を停止する傾向が見られた。土坑の断面形は、皿状・逆台形状・方形状を呈する。また、C0032とC0033、C0029とC0030とC0036、C0027とC0026とC0031などのように、規則的に配置され、同時に掘削されたのではないかと考えられる土坑も存在する。なお、検出状況から考えて、群集土坑はこの調査区の北方及び南方にも広がっている可能性が高い（図73、写真図版30-2・30-3・31-1）。

エリア⑤とした11-1:2-1区・12-1:2-2区・12-1:2-3区で検出した群集土坑は、10022谷の東側に位置するものである。97基の土坑を検出した。検出面の標高は、高い所で8.30m、低い所で7.10mを測り、群集土坑は東から西へ緩やかに傾斜する場所に形成され、面的に分布する状況が看取される。調査範囲が狭いため、面的に分布するように見えるが、巨視的には、他エリア同様に帯状に分布する可能性が高いものとする。地形的にもっとも標高が高くなる平坦地は、後世の攪乱が著しく状況は不明瞭ではあるが、群集土坑は拡がっていない可能性が高い。

平面形状は、円形・隅丸方形・円形または方形に近い不定形を呈する。土坑規模の平均値は概ね長径(辺)1.77m、短径(辺)1.10mを測る。面積は8.24㎡～0.16㎡、土坑の深さは深いもので0.76m、浅いもので0.05mを測る。また、土坑底の標高は高い所で8.36m、低い所で6.75mを測る。土坑埋土は、いずれもよく似たブロック土(偽礫)を主体とした埋土であることから、ほぼ同時期に形成された可能性が高い。また、底面の砂質分が強くなる場所で掘削を停止する傾向が見られた。土坑の断面形状は、皿状・逆台形状・方形状・袋状を呈する。なお、エリア⑤の土坑埋土は、エリア②の土坑埋土に近似する。土坑の分布状況は、エリア②に比べ、近接するがあまり重複しないように見える。検出された土坑は、12-1:2-3区西端部で検出した2075溝との関係においては、溝の東端を土坑が切ることから、土坑群は溝より後出するものである。しかし、2075溝からは遺物が出土していないため時期比定はできない。検出状況から考えて、群集土坑はこの調査区の北方及び南方にも拡がっている可能性が高い(図74、写真図版31-3)。

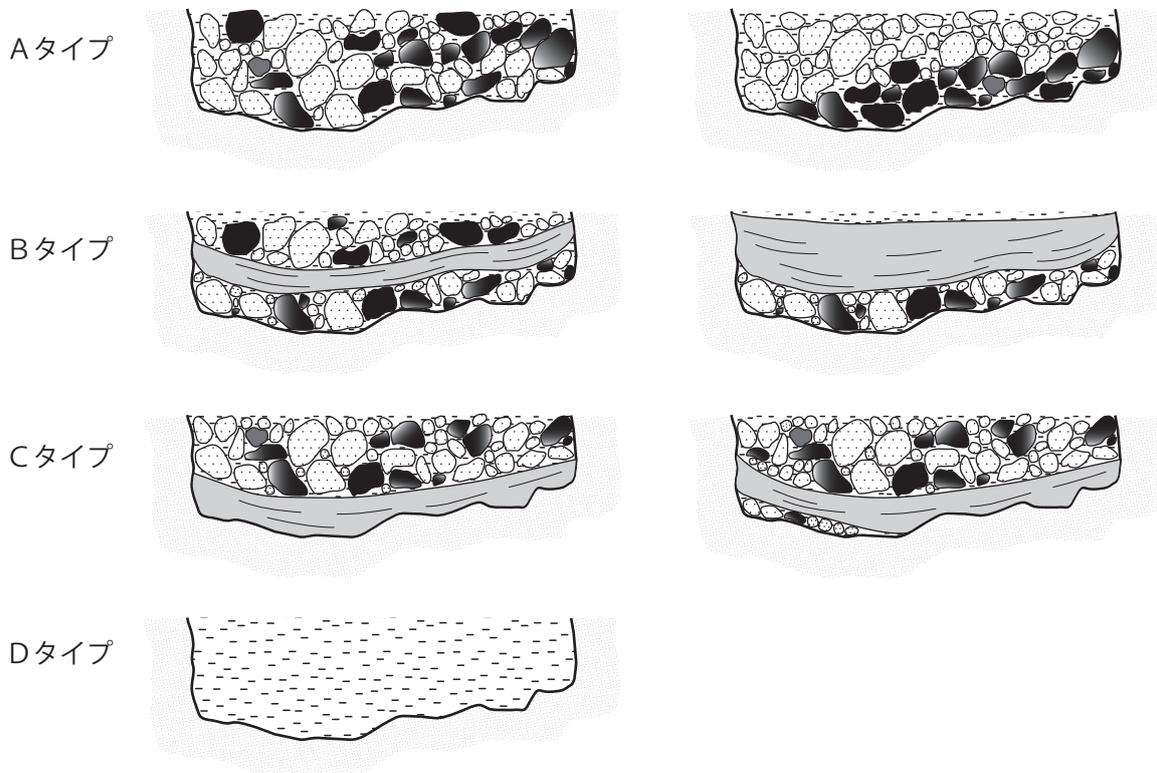


図75 群集土坑 埋土分類模式図

(群集土坑埋土)

各エリアの群集土坑埋土は、いずれもよく似た様相であった。そこで今回検出した群集土坑を理解するために、便宜的に分類・整理を試みた。埋土は、Aタイプ・Bタイプ・Cタイプ・Dタイプの大きく4つに分類した(図75)。

Aタイプ：黒色系ブロック土と黄褐色系ブロック土が充填しているもの。ブロック土は大きいもので20～30cm前後ある。このタイプには、黒色系ブロック土が底部付近にまとまって見られる場合があり、これを特にAAタイプとした(図76～79、写真図版39～50)。

Bタイプ：黒色系ブロック土と黄褐色系ブロック土を主体とするが、中間もしくは上部に水成堆積と思われる自然堆積層が見られるもの(図80～83、写真図版51～54)。

Cタイプ：黒色系ブロック土と黄褐色系ブロック土を主体とするが、底部に水成堆積と思われる自然堆積層が見られるもの(図83～86、写真図版55～57)。

Dタイプ：明瞭なブロック土が見られない埋土。A・B・Cタイプとは全く異なる。

なお、BタイプとCタイプは、断面観察位置によってはBタイプがCタイプになる、またその逆も想定されるため、あくまでも断面観察位置によって知り得た情報の便宜的な区分である。

埋土タイプが判明したもののうち、埋土Aタイプは全体の52%、埋土Bタイプは全体の16%、埋土Cタイプは全体の13%、埋土Dタイプは全体の3%を占め、他は埋土A・B・Cのいずれかに分類されるべきものであるが、不明なものである。

埋土の主体となるブロック土について、調査所見を記しておきたい。黄褐色系ブロック土は地山起源のブロック土と考えられ、粘質なものと砂質なもの2種類が観察できた。しかし、その差異は明瞭なものではなく、中間的な質のものも見られた。また、黄褐色系ブロック土は、黒色系ブロック土に比べて1つ1つのブロックがやや小さいという印象がある。

黒色系ブロック土は、黒色のものとやや灰色がかかった褐灰色のもの大きく2種類が見られた。また、黒色ブロック土の中には、ブロックの中で漸移的に黒色を減じて褐灰色になるもの、さらに褐灰色から黄褐色になるものが見られた(原色写真図版6)。このことから、黒色系ブロック土は、これら群集土坑が掘削された時点の、地山上に形成されていた旧表土層の古土壌である可能性が高いものであろう。なお、黒色系ブロック土について、一部ではあるが、花粉・珪藻分析を行っており、その堆積環境及び由来についての知見を得ることができた(第8章第3節参照)。

これらのことを考慮に入れると、Aタイプの土坑埋土は、土坑を掘削してからすぐに人為的に埋め戻されたもの、Bタイプの土坑埋土は、土坑掘削後、人為的にある程度埋め戻されたが、一時放置され、その間に自然堆積が進み、しばらくしてから再び埋め戻されたもの、Cタイプの土坑埋土は、掘削後一時放置され、その間に自然堆積が進み、しばらく後に人為的に埋め戻されたもの、という埋没過程が想定できようか。

エリアごとの土坑埋土の状況についても概要をまとめておく。エリア①の土坑埋土は、他のエリアに比べて、黒色系ブロック土がやや灰色がかかった褐灰色のものであった。埋土タイプが判明したもののうち、埋土Aタイプは全体の41%、埋土Bタイプは全体の21%、埋土Cタイプは全体の7%を占め、他は埋土A・B・Cのいずれかである(図88)。

エリア②の土坑埋土は、埋土タイプが判明したもののうち、埋土Aタイプは全体の58%、埋土Bタイプは全体の13%、埋土Cタイプは全体の3%、埋土Dタイプは全体の6%を占め、他は埋土A・B・

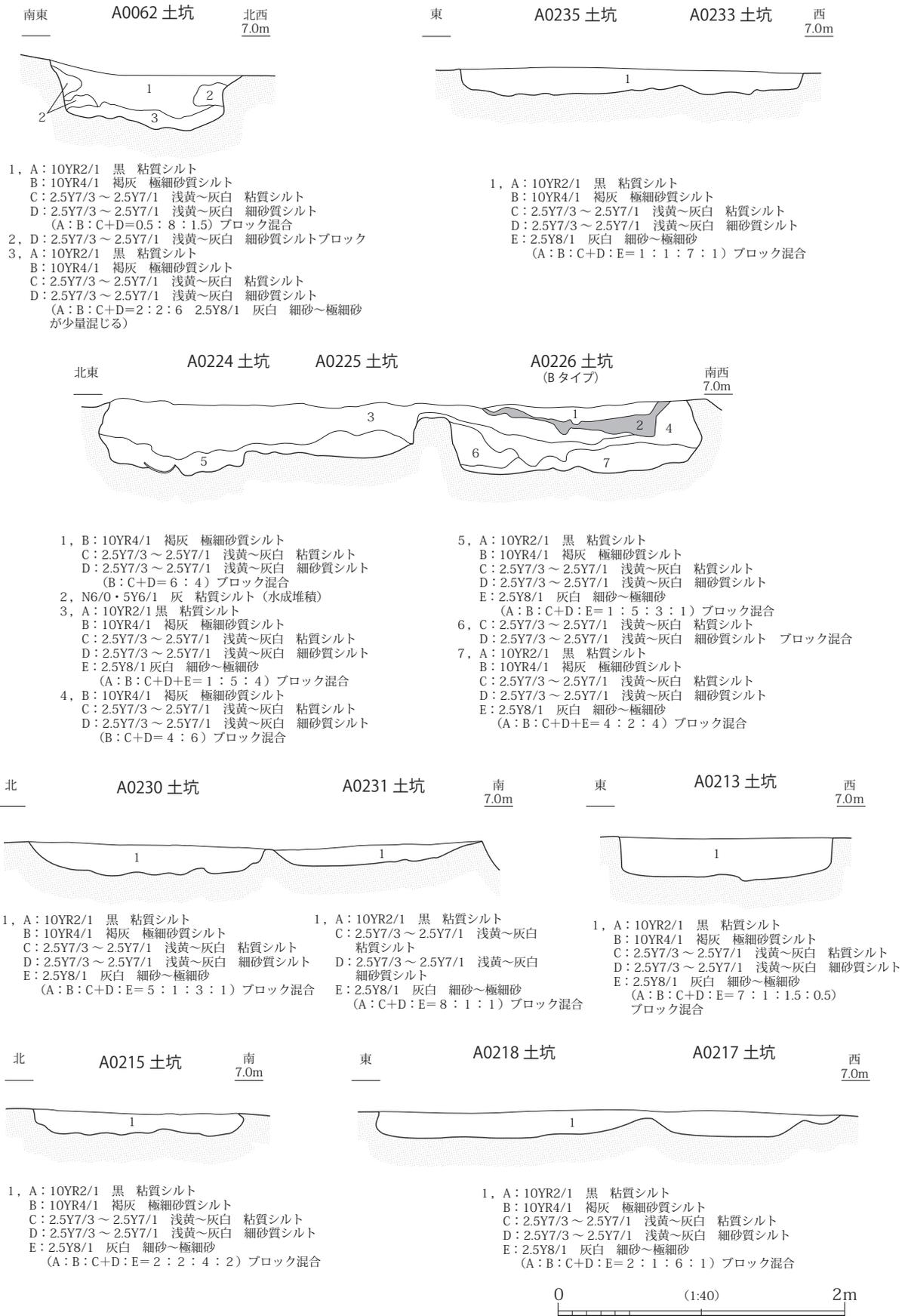


図 76 群集土坑 断面図 (1) (埋土Aタイプ)

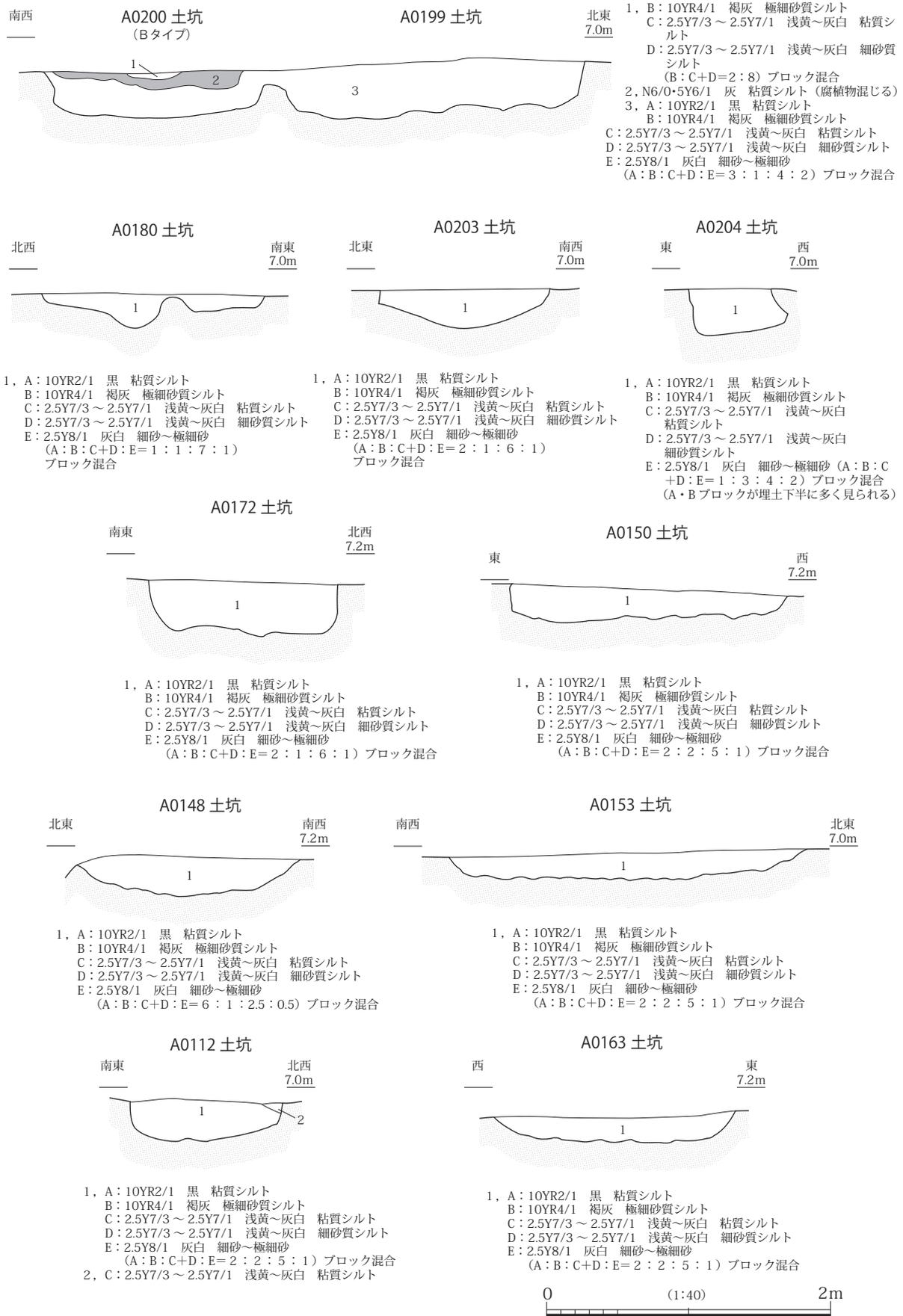


図 77 群集土坑 断面図 (2) (埋土 A タイプ)

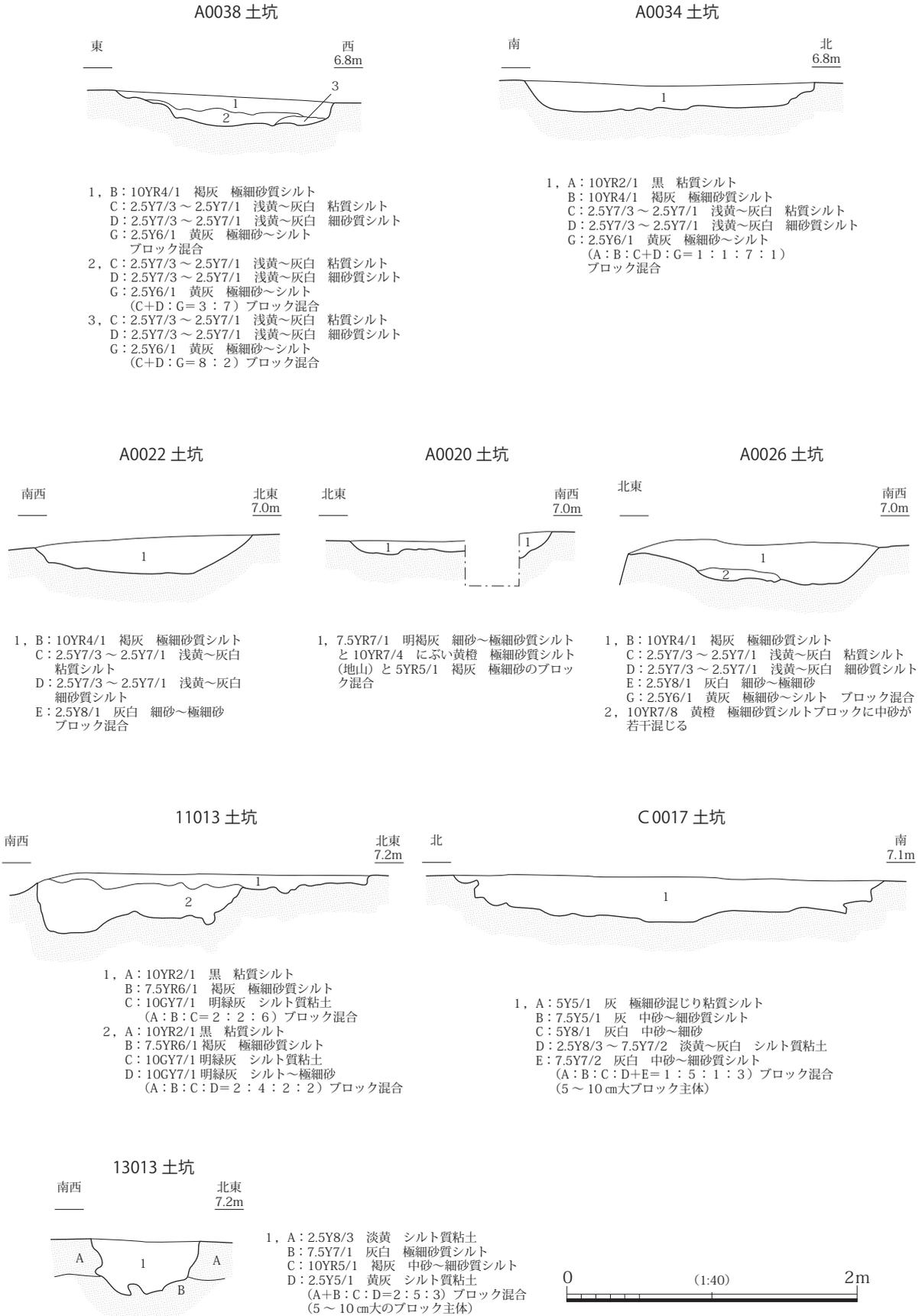


図 78 群集土坑 断面図 (3) (埋土Aタイプ)

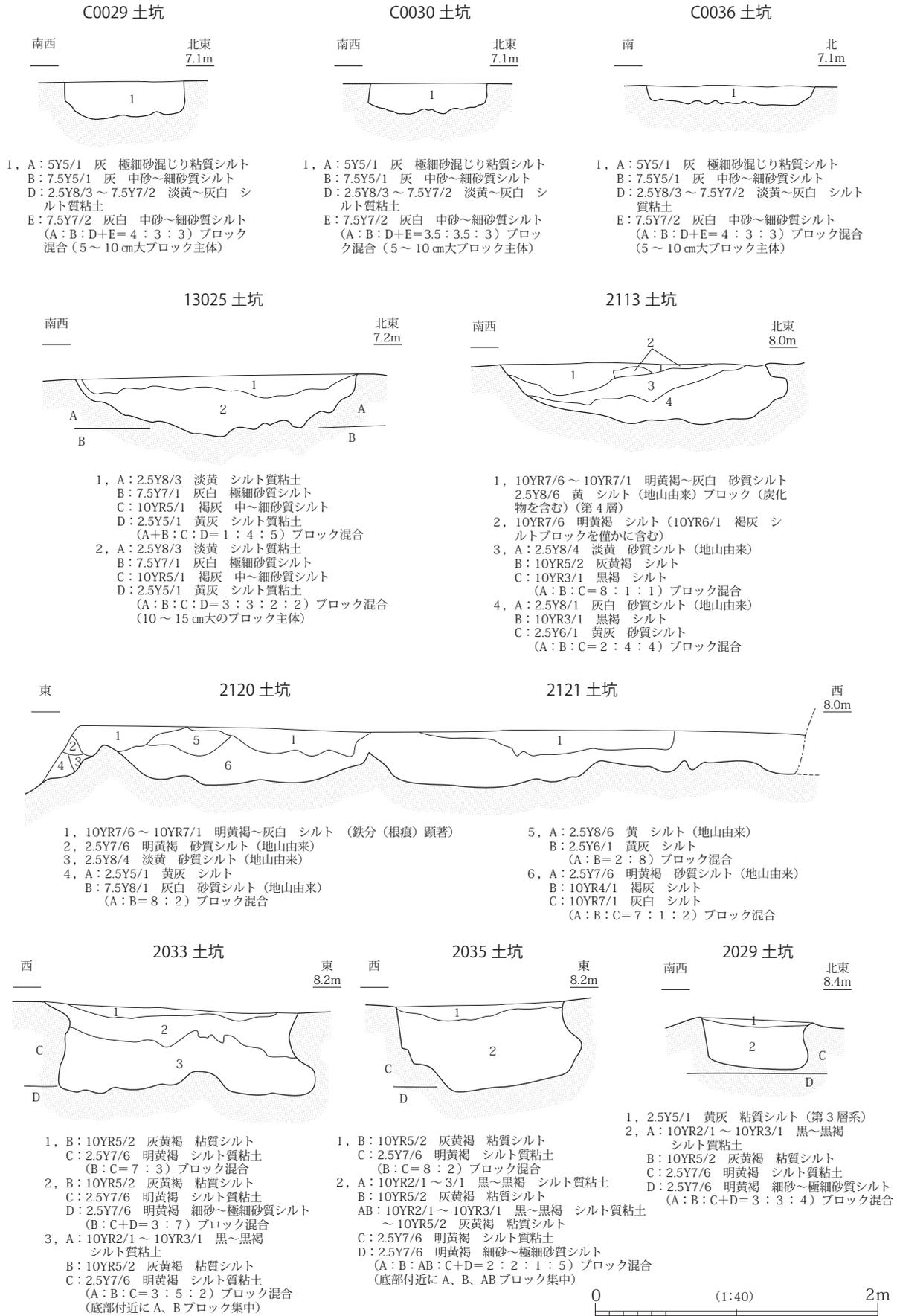


図 79 群集土坑 断面図 (4) (埋土 A タイプ)

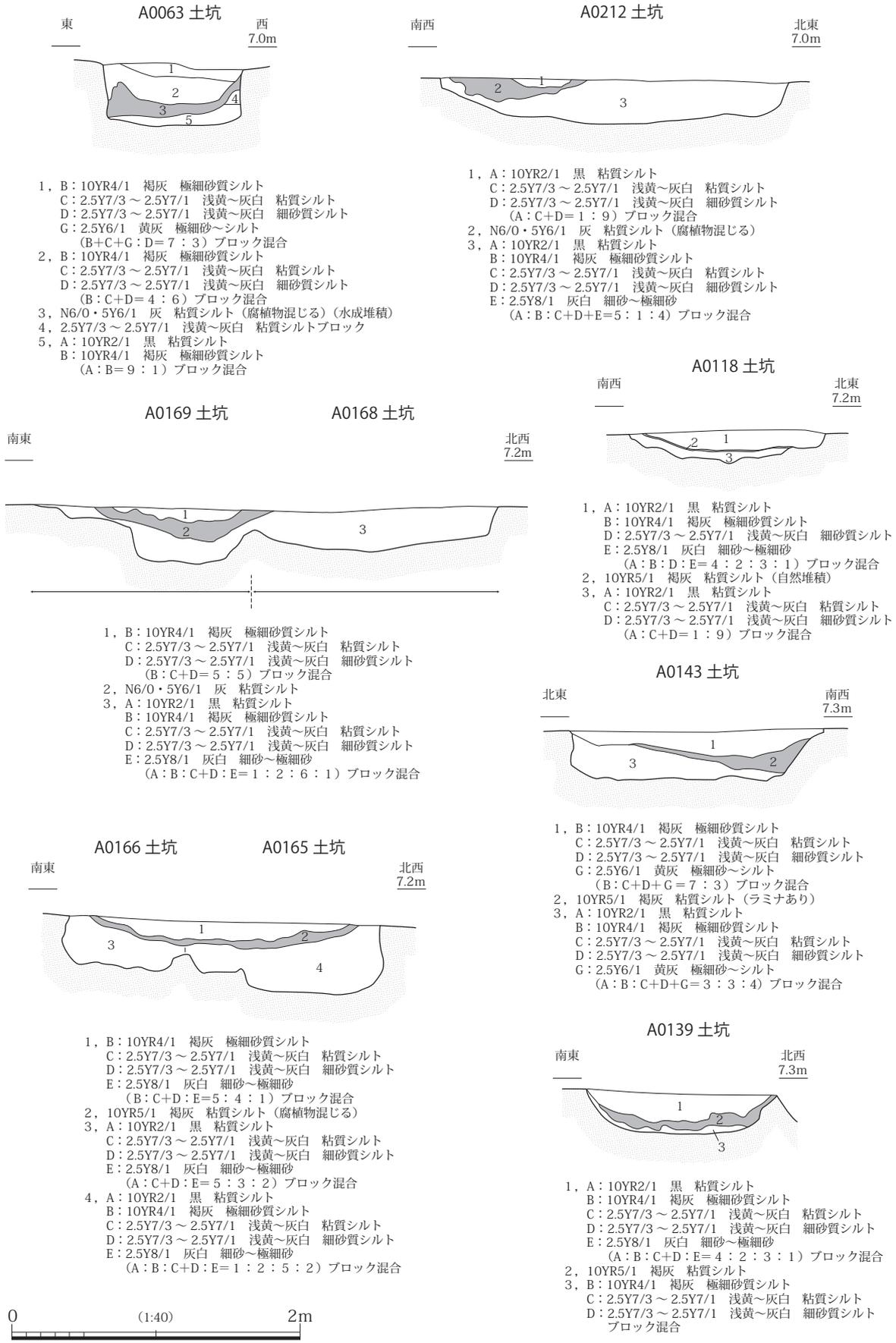


図 80 群集土坑 断面図 (5) (埋土Bタイプ)

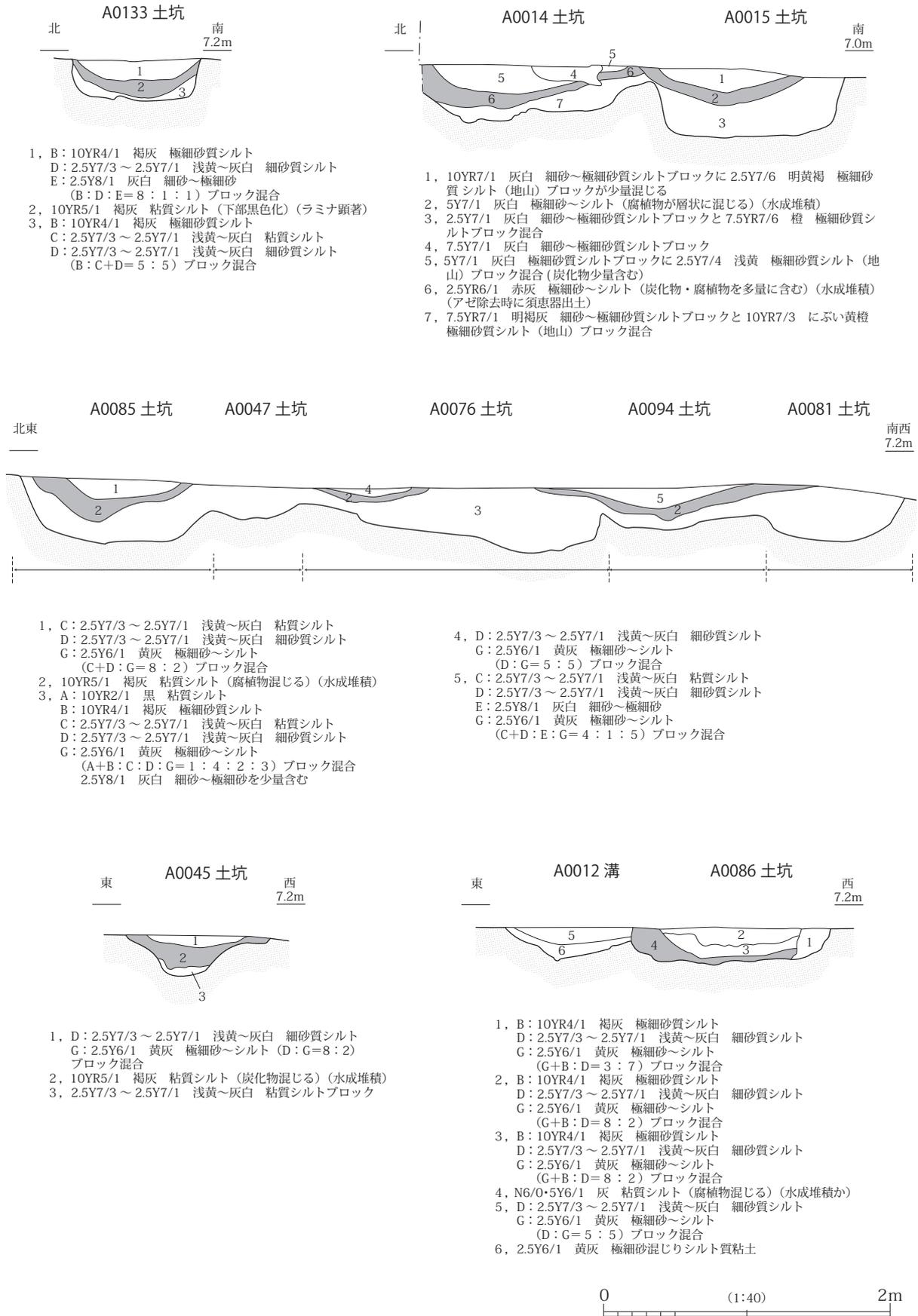


図 81 群集土坑 断面図 (6) (埋土Bタイプ)

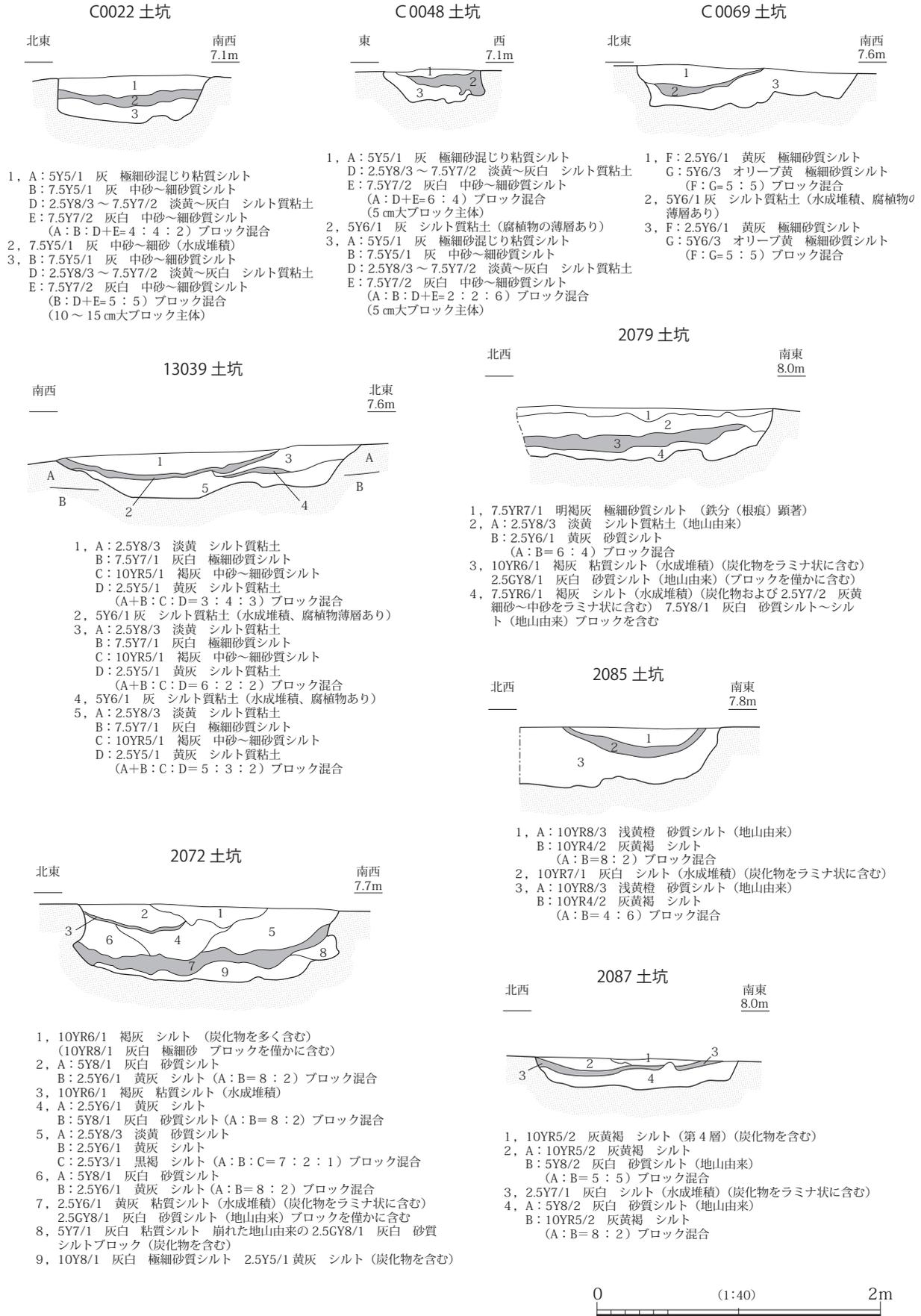


図 82 群集土坑 断面図 (7) (埋土Bタイプ)

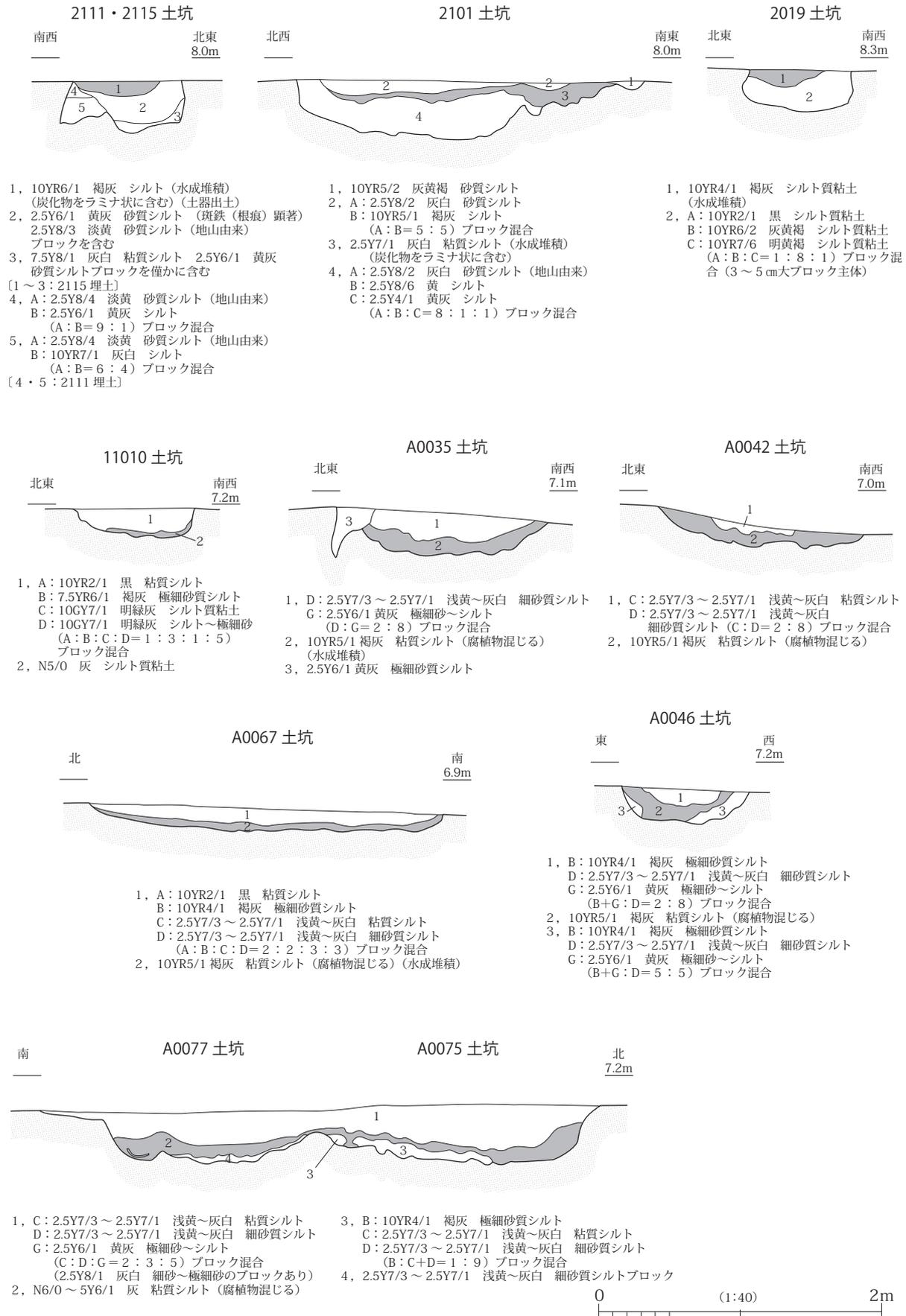


図 83 群集土坑 断面図 (8) (埋土 B・C タイプ)

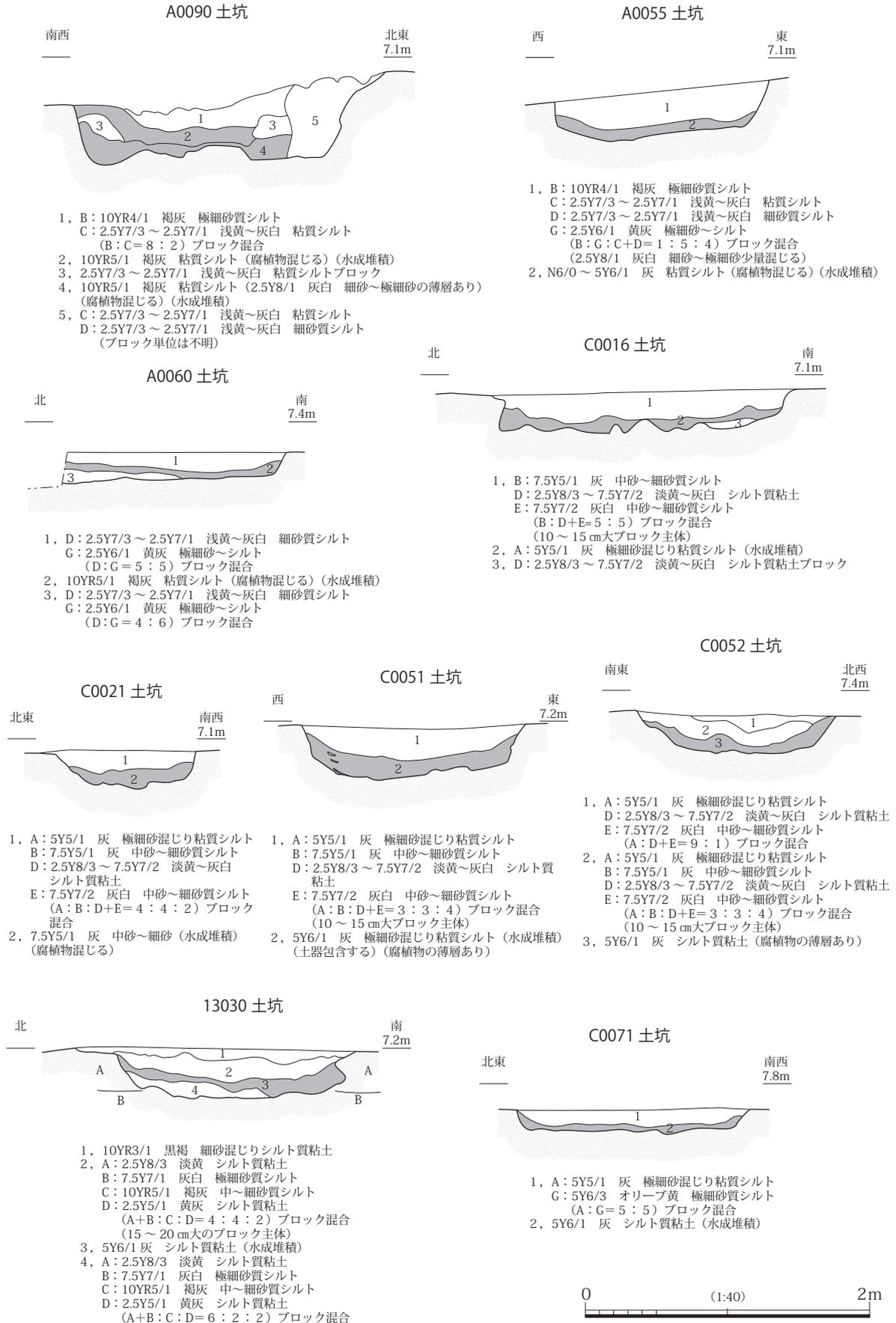


図 84 群集土坑 断面図 (9) (埋土Cタイプ)

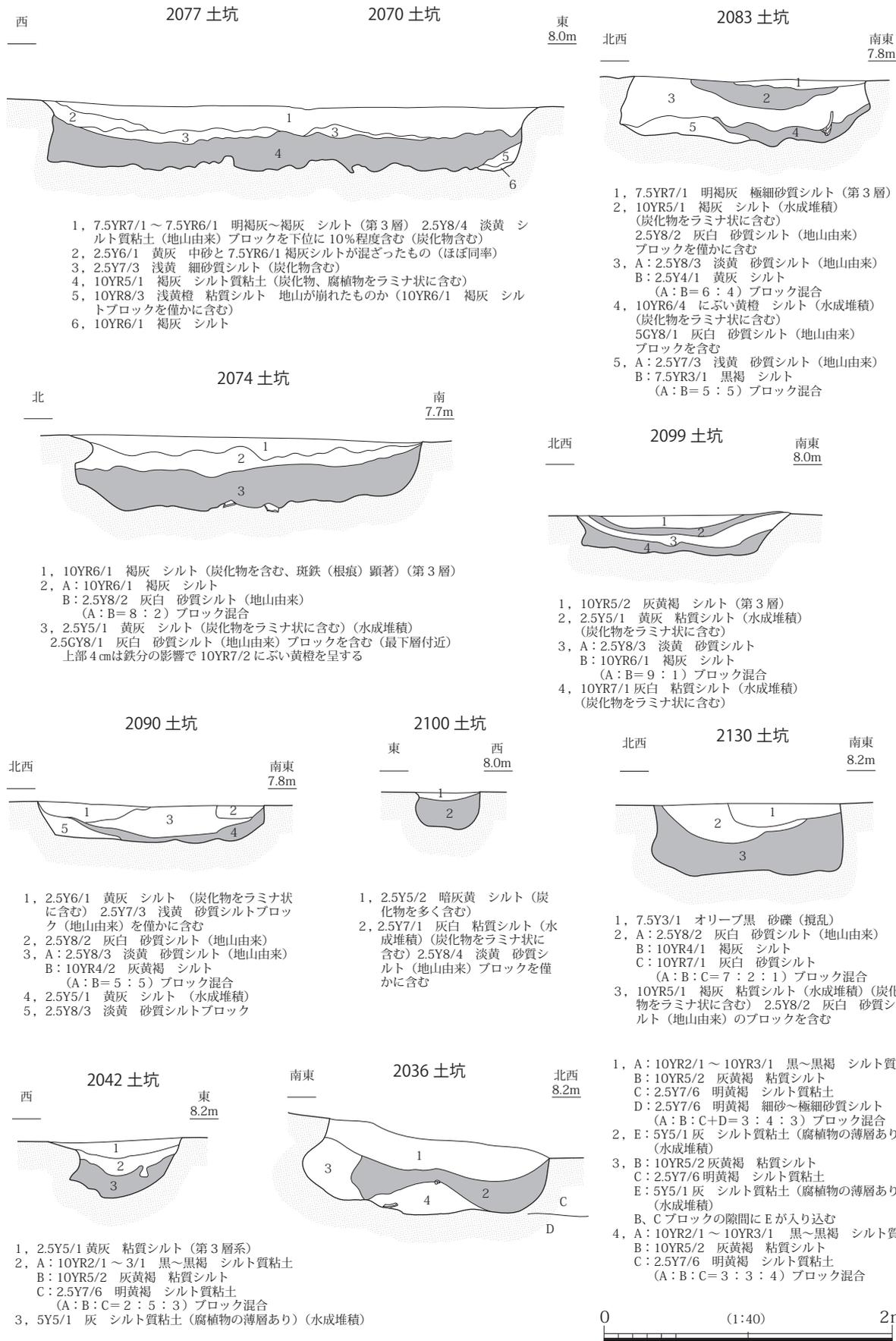


図 85 群集土坑 断面図 (10) (埋土Cタイプ)

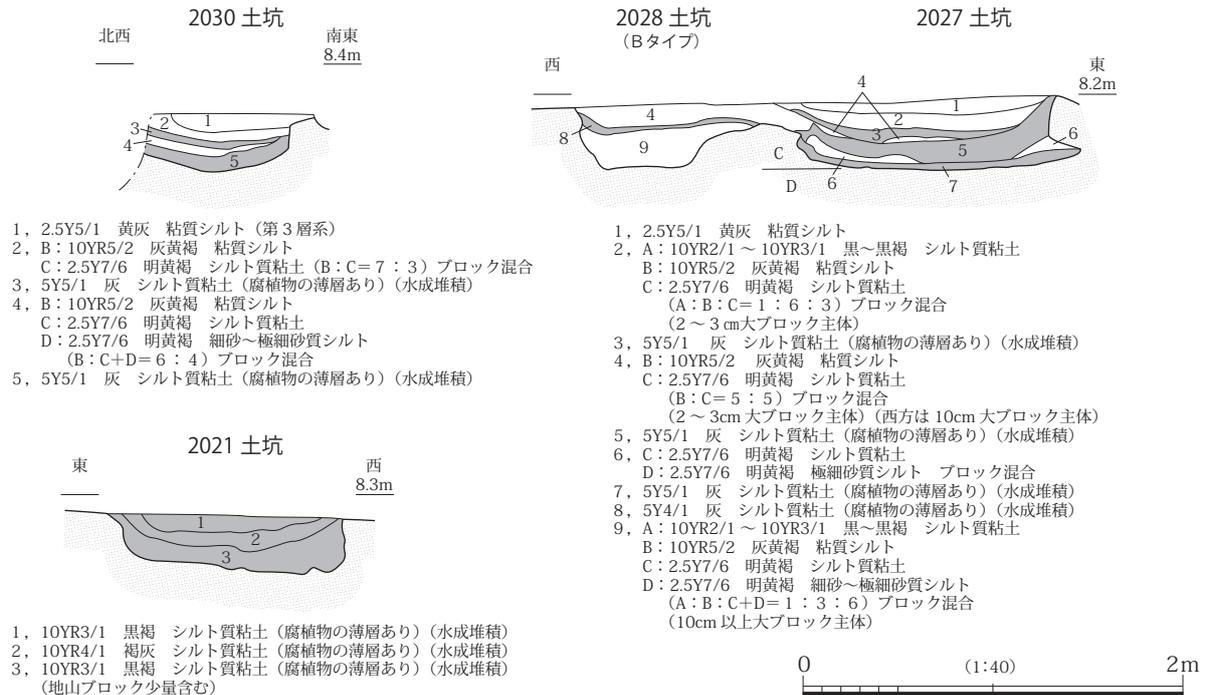


図86 群集土坑 断面図 (11) (埋土Cタイプ)

Cのいずれかである (図87)。

エリア③の土坑埋土は、エリア②・⑤に比べて黒色系ブロック土がやや灰色がかった褐灰色のものであった。埋土タイプが判明したもののうち、埋土Aタイプは全体の29%、埋土Bタイプは全体の21%、埋土Cタイプは全体の24%、埋土Dタイプは全体の3%を占め、他は埋土A・B・Cのいずれかである (図87)。

エリア④の土坑埋土は、エリア②・⑤に比べて黒色系ブロック土がやや灰色がかった褐灰色のものであった。埋土タイプが判明したもののうち、埋土Aタイプは全体の67%、埋土Bタイプは全体の12%、埋土Cタイプは全体の14%を占め、他は埋土A・B・Cのいずれかである (図88)。

エリア⑤の土坑埋土は、埋土タイプが判明したもののうち、埋土Aタイプは全体の47%、埋土Bタイプは全体の18%、埋土Cタイプは全体の24%、埋土Dタイプは全体の3%を占め、他は埋土A・B・Cのいずれかである。 (図88)。

黒色系ブロック土は、各エリア内では近似した色合い・質であるが、エリアごとに微妙な差異が見られた。しかし、エリア②とエリア⑤の黒色系ブロック土に関しては、極めてよく似たものであった。黄褐色系ブロック土については、どのエリアについても似た状況であった。黒色系ブロック土の差異が、旧表土層の違いに起因するものであるのか、土坑が掘削された時期の差を反映しているのか、別の要因があるのか、判然とせず、今後の課題である。

(各土坑の内容)

検出した土坑については、長径 (辺)、短径 (辺)、検出面からの深さ、面積、推定土量、底面高、検出調査区名、地区割り位置、土坑埋土、遺物出土、関連挿図番号、掲載写真図版番号について一覧表を作成した (表4)。検出状況によっては測定不能の項目もあるが、可能な限り記載した。面積については、縮尺50分の1平面図をもとに、すべての土坑を対象に、小泉測器製作所製デジタルプランメーター

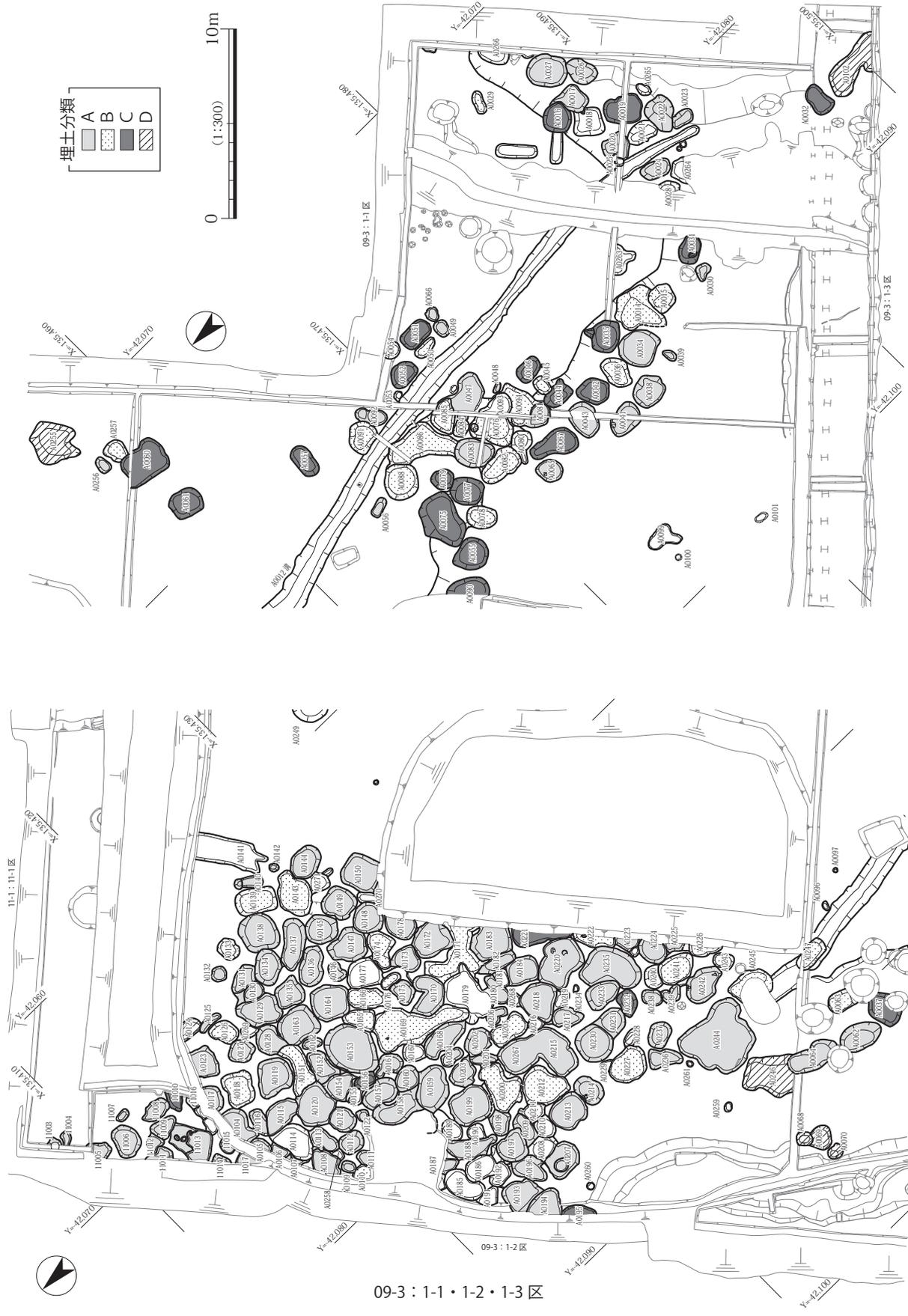


图 87 群集土坑 埋土分類平面图 (1)

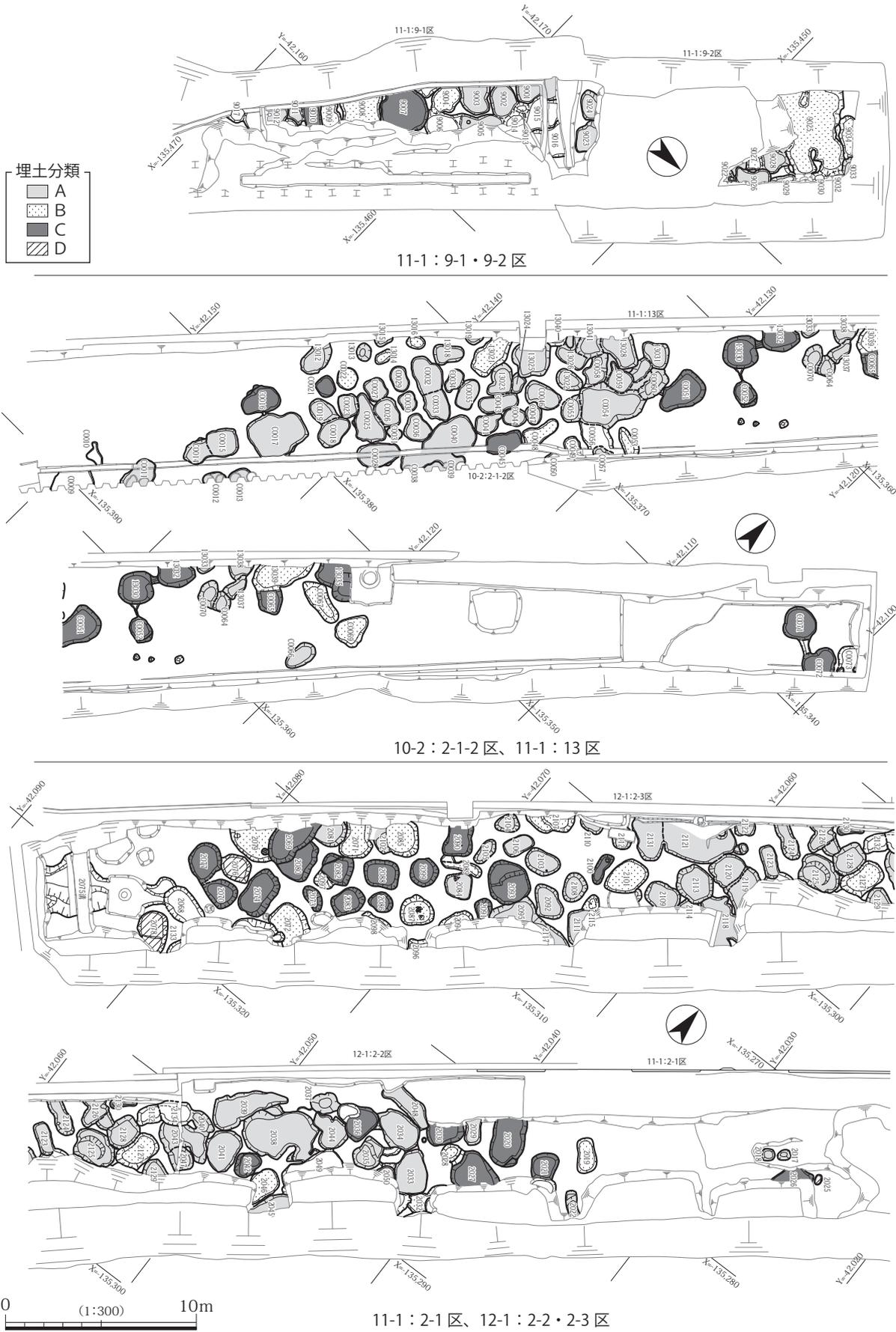


図 88 群集土坑 埋土分類平面図 (2)

表4 吹田操車場遺跡

| 土坑番号 | 法量 (m) 長径 短径 深さ (m) | 面積 (m ²) | 土量 (m ³) | 底面高 (T.P.m) | 調査区 | 地区別 | 土坑埋土 | 遺物出土 | 挿図 | 写真図版 | |
|-------|------------------------|----------------------|----------------------|-------------|-------------|----------|----------|------|-------|-------|------|
| 9001 | (2.09)(0.88)0.23 | 1.84 | 0.42 | 6.85 | 11-19-1,9-2 | 2E-7f | A | ○ | 70 | | |
| 9002 | (1.72)(1.30)0.22 | 1.88 | 0.41 | 7.01 | 11-19-1 | 2E-7f | A | ○ | 70 | 45-4 | |
| 9003 | (1.49)1.42 | 0.25 | 1.94 | 6.93 | 11-19-1 | 2E-7g,7f | A | ○ | 70 | 45-5 | |
| 9004 | (1.40)1.37 | 0.31 | 1.74 | 6.90 | 11-19-1 | 2E-7g | B | ○ | 70 | 53-6 | |
| 9005 | (2.31)(0.33)0.17 | 1.20 | 0.20 | 6.98 | 11-19-1 | 2E-7f | A | ○ | 70/90 | | |
| 9006 | (1.75)(0.99)0.18 | 1.55 | 0.28 | 6.97 | 11-19-1 | 2E-7g | - | ○ | 70 | | |
| 9007 | (2.57)2.17 | 0.24 | 4.08 | 6.96 | 11-19-1 | 2E-7g | C | ○ | 70 | 56-2 | |
| 9008 | (2.26)(1.05)0.23 | 2.26 | 0.52 | 6.94 | 11-19-1 | 2E-6g,7g | B | 70 | 53-7 | | |
| 9009 | (1.09)(0.84)0.23 | 0.94 | 0.22 | 6.91 | 11-19-1 | 2E-6g | B | 70 | 70 | | |
| 9010 | (0.98)(0.89)0.23 | 0.85 | 0.20 | 6.86 | 11-19-1 | 2E-6g | C | 70 | 70 | | |
| 9011 | (0.91)(0.75)0.23 | 0.55 | 0.13 | 6.88 | 11-19-1 | 2E-6g | A | 70 | 70 | | |
| 9012 | (1.00)(0.53)0.23 | 0.55 | 0.13 | 6.92 | 11-19-1 | 2E-6g | A | ○ | 70 | | |
| 9013 | (0.70)0.57 | 0.27 | 0.34 | 0.09 | 6.92 | 11-19-1 | 2E-7f | - | 70 | | |
| 9014 | (0.88)(0.66)0.32 | 0.55 | 0.18 | 6.87 | 11-19-1 | 2E-7f | - | 70 | 70 | | |
| 9015 | (1.81)(1.71)0.25 | 2.41 | 0.60 | 6.79 | 11-19-1,9-2 | 2E-7f | - | 70 | 70 | | |
| 9016 | (1.90)(1.26)0.26 | 1.88 | 0.49 | 6.78 | 11-19-1,9-2 | 2E-7f | - | 70 | 70 | | |
| 9017 | (1.00)(0.68)0.23 | 0.45 | 0.10 | 6.82 | 11-19-1 | 2E-6g | - | 70 | 70 | | |
| 9022 | (0.66)(0.13)0.11 | 0.18 | 0.02 | 6.93 | 11-19-2 | 2E-8e | A | ○ | 70/90 | 32-1 | |
| 9023 | (1.82)(0.97)0.17 | 1.31 | 0.22 | 6.59 | 11-19-2 | 2E-7f | A | 70 | 70 | | |
| 9024 | (1.54)(0.84)0.12 | 1.08 | 0.13 | 6.69 | 11-19-2 | 2E-7f | A | 70 | 70 | | |
| 9025 | 4.41 | 2.55 | 0.32 | 11.69 | 3.74 | 2E-8e | B | ○ | 70 | 53-5 | |
| 9026 | (1.78)(0.63)0.15 | 1.18 | 0.18 | 6.61 | 11-19-2 | 2E-8e | A | 70 | 70 | | |
| 9027 | (0.83)(0.56)0.20 | 0.46 | 0.09 | 6.77 | 11-19-2 | 2E-8e | B | 70 | 70 | | |
| 9028 | (1.50)(0.99)0.27 | 1.24 | 0.33 | 6.71 | 11-19-2 | 2E-8e | A | 70 | 70 | 45-3 | |
| 9029 | (1.24)(0.22)0.11 | 0.31 | 0.03 | 6.74 | 11-19-2 | 2E-8e | - | 70 | 70 | | |
| 9030 | (0.74)(0.40)0.24 | 0.28 | 0.07 | 6.71 | 11-19-2 | 2E-8e | - | 70 | 70 | | |
| 9032 | (0.89)(0.25)0.33 | 0.16 | 0.05 | 6.62 | 11-19-2 | 2E-8e | - | 70 | 70 | | |
| 9033 | (1.05)(0.38)0.36 | 0.31 | 0.11 | 6.59 | 11-19-2 | 2E-8e | A | 70 | 70 | | |
| 9034 | (2.20)(0.74)0.32 | 1.34 | 0.43 | 6.61 | 11-19-2 | 2E-8e | B | 70 | 70 | | |
| A0014 | 2.96 | 2.43 | 0.41 | 4.13 | 1.69 | 6.39 | 09-3-1-1 | B | ○ | 72/81 | 51-1 |
| A0015 | 1.36 | 1.30 | 0.49 | 1.60 | 0.78 | 6.34 | 09-3-1-1 | B | ○ | 72/81 | 51-1 |
| A0016 | 1.60 | 1.49 | 0.19 | 1.83 | 0.35 | 6.76 | 09-3-1-1 | C | 72 | 72 | |
| A0017 | 1.48 | 1.18 | 0.13 | 1.66 | 0.22 | 6.75 | 09-3-1-1 | A | 72 | 72 | |
| A0018 | 1.47 | 1.46 | 0.08 | 1.99 | 0.16 | 6.83 | 09-3-1-1 | - | 72 | 72 | |
| A0019 | 1.98 | 1.66 | 0.13 | 2.51 | 0.33 | 6.77 | 09-3-1-1 | C | 72 | 72 | |
| A0020 | 1.42 | 1.04 | 0.16 | 1.38 | 0.22 | 6.70 | 09-3-1-1 | A | ○ | 72/78 | |
| A0021 | 1.63 | 1.08 | 0.25 | 1.41 | 0.35 | 6.59 | 09-3-1-1 | - | 72 | 72 | |
| A0022 | 1.92 | 1.68 | 0.26 | 2.11 | 0.55 | 6.49 | 09-3-1-1 | A | ○ | 72/78 | |
| A0023 | 1.27 | 0.68 | 0.18 | 0.78 | 0.14 | 6.61 | 09-3-1-1 | A | 72 | 72 | |
| A0024 | 1.63 | 0.90 | 0.25 | 1.26 | 0.32 | 6.61 | 09-3-1-1 | A | 72 | 72 | |
| A0025 | (0.59)(0.23)0.16 | 0.10 | 0.02 | 6.67 | 09-3-1-1 | 1E-9i | - | 72 | 72 | | |
| A0026 | 1.66 | 1.15 | 0.30 | 1.55 | 0.47 | 6.50 | 09-3-1-1 | A | ○ | 72/78 | 39-1 |
| A0027 | 2.12 | 1.80 | 0.57 | 2.95 | 1.68 | 6.29 | 09-3-1-1 | A | 72 | 72 | |

東地区 群集土坑一覽

| 土坑番号 | 法量 (m) 長径 短径 深さ (m) | 面積 (m ²) | 土量 (m ³) | 底面高 (T.P.m) | 調査区 | 地区別 | 土坑埋土 | 遺物出土 | 挿図 | 写真図版 | |
|-------|------------------------|----------------------|----------------------|-------------|----------|--------|--------------|------|-------|-------|------|
| A0028 | (1.09)(0.53)0.22 | 0.48 | 0.10 | 6.60 | 09-3-1-1 | 1E-9i | B | | 72 | | |
| A0029 | 1.26 | 0.54 | 0.10 | 0.60 | 6.82 | 1E-8i | B | | 72 | | |
| A0030 | 1.00 | 0.65 | 0.26 | 0.51 | 0.13 | 6.35 | 09-3-1-1 | A | 72 | | |
| A0031 | (1.47)(1.09)0.55 | 1.34 | 0.74 | 6.17 | 09-3-1-1 | 1E-9i | C | | 72 | | |
| A0032 | 1.67 | 0.93 | 0.21 | 1.50 | 0.32 | 6.31 | 09-3-1-1,1-3 | C | ○ | 72 | |
| A0034 | 2.00 | 1.90 | 0.20 | 3.20 | 0.64 | 6.47 | 09-3-1-1 | A | ○ | 72/78 | |
| A0035 | 1.83 | 1.69 | 0.32 | 2.21 | 0.71 | 6.61 | 09-3-1-2 | C | ○ | 72/83 | 55-1 |
| A0036 | 1.91 | 1.38 | 0.24 | 1.81 | 0.44 | 6.42 | 09-3-1-2 | B | 72 | 51-2 | |
| A0037 | (1.79)(0.87)0.17 | 1.65 | 0.28 | 6.48 | 09-3-1-2 | 1E-10e | C | ○ | 71 | | |
| A0038 | 1.82 | 1.48 | 0.21 | 2.16 | 0.45 | 6.39 | 09-3-1-2 | A | ○ | 72/78 | |
| A0039 | 0.77 | 0.47 | 0.20 | 0.31 | 0.06 | 6.37 | 09-3-1-2 | A | 72 | | |
| A0041 | 1.83 | 1.28 | 0.18 | 1.99 | 0.36 | 6.44 | 09-3-1-2 | A | ○ | 72/92 | 37-1 |
| A0042 | 1.78 | 1.44 | 0.15 | 1.49 | 0.22 | 6.54 | 09-3-1-2 | C | ○ | 72/83 | 55-2 |
| A0043 | 1.90 | 1.47 | 0.23 | 2.11 | 0.49 | 6.49 | 09-3-1-2 | A | 72 | | |
| A0044 | 1.54 | 1.03 | 0.38 | 1.30 | 0.49 | 6.96 | 09-3-1-2 | C | 72 | 55-3 | |
| A0045 | 1.00 | 0.78 | 0.28 | 0.66 | 0.19 | 6.71 | 09-3-1-2 | B | ○ | 72/81 | |
| A0046 | 1.40 | 0.94 | 0.22 | 1.15 | 0.25 | 6.76 | 09-3-1-2 | C | ○ | 72/83 | |
| A0047 | 2.52 | 1.43 | 0.34 | 2.90 | 0.99 | 6.62 | 09-3-1-2 | A | 72/81 | 51-6 | |
| A0048 | 0.57 | 0.32 | 0.10 | 0.14 | 0.01 | 6.86 | 09-3-1-2 | A | 72 | | |
| A0049 | 0.92 | 0.73 | 0.10 | 0.58 | 0.06 | 6.88 | 09-3-1-2 | A | 72 | | |
| A0050 | 1.21 | 0.64 | 0.22 | 0.69 | 0.15 | 6.76 | 09-3-1-2 | B | 72 | 51-9 | |
| A0051 | 1.74 | 1.02 | 0.16 | 1.60 | 0.26 | 6.85 | 09-3-1-2 | C | 72 | 55-7 | |
| A0052 | 1.55 | 1.17 | 0.26 | 1.41 | 0.37 | 6.73 | 09-3-1-2 | C | 72 | 55-8 | |
| A0053 | 0.50 | 0.41 | 0.31 | 0.18 | 0.05 | 6.74 | 09-3-1-2 | - | 72 | | |
| A0054 | (0.94)(0.70)0.26 | 0.55 | 0.14 | 6.77 | 09-3-1-2 | 1E-8h | - | 72 | 72 | | |
| A0055 | 1.97 | 1.68 | 0.33 | 2.36 | 0.78 | 6.52 | 09-3-1-2 | C | ○ | 72/84 | 55-4 |
| A0056 | 1.09 | 0.50 | 0.14 | 0.54 | 0.08 | 6.93 | 09-3-1-2 | A | 72 | | |
| A0057 | 1.82 | 0.96 | 0.25 | 1.58 | 0.39 | 6.82 | 09-3-1-2 | C | 72 | 55-9 | |
| A0060 | 2.41 | 1.75 | 0.22 | 4.14 | 0.91 | 6.94 | 09-3-1-2 | C | ○ | 72/84 | |
| A0061 | 1.69 | 1.43 | 0.37 | 2.14 | 0.79 | 6.86 | 09-3-1-2 | C | 72 | 55-10 | |
| A0062 | 2.32 | 1.40 | 0.38 | 2.39 | 0.91 | 6.31 | 09-3-1-2 | A | ○ | 71/76 | 39-3 |
| A0063 | 1.29 | 1.02 | 0.44 | 1.19 | 0.52 | 6.43 | 09-3-1-2 | B | ○ | 71/80 | 52-1 |
| A0064 | 2.82 | 1.12 | 0.39 | 2.66 | 1.04 | 6.42 | 09-3-1-2 | A | ○ | 71/90 | 32-2 |
| A0065 | 1.28 | 1.20 | 0.10 | 1.29 | 0.13 | 1.20 | 09-3-1-2 | A | ○ | 72/92 | 37-2 |
| A0066 | 0.74 | 0.70 | 0.12 | 0.40 | 0.05 | 6.89 | 09-3-1-1 | A | 72 | | |
| A0067 | 2.58 | 1.43 | 0.20 | 2.55 | 0.51 | 6.49 | 09-3-1-2 | C | ○ | 72/83 | |
| A0068 | 0.96 | 0.72 | 0.12 | 0.53 | 0.06 | 6.40 | 09-3-1-2 | D | 71 | 71 | |
| A0069 | 1.86 | 1.22 | 0.07 | 1.11 | 0.08 | 6.49 | 09-3-1-2 | D | 71 | 71 | |
| A0070 | 0.86 | 0.70 | 0.09 | 0.48 | 0.04 | 6.46 | 09-3-1-2 | D | 71 | 71 | |
| A0072 | 0.29 | 0.24 | 0.17 | 0.05 | 0.01 | 6.70 | 09-3-1-2 | - | | | |
| A0073 | 0.26 | 0.21 | 0.05 | 0.04 | 0.00 | 6.82 | 09-3-1-2 | - | | | |
| A0074 | 0.38 | 0.34 | 0.05 | 0.10 | 0.01 | 6.84 | 09-3-1-2 | - | | | |
| A0075 | 3.00 | 2.01 | 0.43 | 4.75 | 2.04 | 6.55 | 09-3-1-2 | C | ○ | 72/83 | 55-5 |

| 土坑 番号 | 法量 (m) | | 面積 (m ²) | 土量 (m ³) | 底面高 (T.P.+m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 挿図 | 写真図版 |
|----------|--------|--------|----------------------|----------------------|--------------|----------|-------------------|----------|----------|----|--------------|
| | 長さ | 短径 | | | | | | | | | |
| A0126 | 1.55 | 1.08 | 0.15 | 1.35 | 0.20 | 09-3:1-2 | 1E-7b | B | 71 | | 43-10 |
| A0127 | 1.22 | 1.22 | 0.14 | 1.28 | 0.18 | 09-3:1-2 | 1E-7b | A | 71 | | 43-9 |
| A0128 | 1.55 | 1.51 | 0.22 | 1.78 | 0.39 | 09-3:1-2 | 1E-7b, 8b, 7c, 8c | A | 71 | | 44-1 |
| A0129 | 2.24 | 1.44 | 0.51 | 2.90 | 1.48 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0130 | 1.12 | 0.90 | 0.19 | 0.81 | 0.15 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0131 | 1.62 | 1.00 | 0.13 | 1.31 | 0.17 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0132 | 0.86 | 0.84 | 0.16 | 0.51 | 0.08 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0133 | 1.18 | 0.94 | 0.28 | 0.96 | 0.27 | 09-3:1-2 | 1E-7c | B | 71/81 | | 原色 5-4 |
| A0134 | 1.96 | 1.42 | 0.22 | 2.13 | 0.47 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0135 | 1.88 | 1.60 | 0.15 | 1.86 | 0.28 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0136 | 2.17 | 1.32 | 0.17 | 2.15 | 0.37 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0137 | 2.79 | 1.12 | 0.20 | 2.70 | 0.54 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0138 | 2.32 | 2.11 | 0.23 | 3.39 | 0.78 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71/92 | | 44-6/36-2,3 |
| A0139 | 2.18 | 1.33 | 0.27 | 2.71 | 0.73 | 09-3:1-2 | 1E-7c | B | 71/80 | | 53-4 |
| A0140 | 1.53 | 0.58 | 0.06 | 0.79 | 0.05 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0141 | (3.79) | (1.45) | 0.05 | 4.75 | 0.24 | 09-3:1-2 | 1E-7c | - | 71 | | |
| A0142 | 0.52 | 0.45 | 0.17 | 0.18 | 0.03 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0143 | 2.57 | 1.82 | 0.36 | 3.19 | 1.15 | 09-3:1-2 | 1E-7c | B | 71/80 | | 53-2,3 |
| A0144 | 1.92 | 1.86 | 0.35 | 2.11 | 0.74 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | |
| A0145 | 1.78 | 1.56 | 0.32 | 2.11 | 0.68 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A(AA) | 71 | | 44-7 |
| A0146 | 1.05 | 0.70 | 0.20 | 0.71 | 0.14 | 09-3:1-2 | 1E-7c, 8c | A | 71 | | 43-5 |
| A0147 | 2.04 | 1.82 | 0.18 | 2.78 | 0.50 | 09-3:1-2 | 1E-7c, 8c | A | 71 | | 43-2 |
| A0148 | 1.64 | 1.56 | 0.28 | 2.03 | 0.57 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71/77 | | 43-1 |
| A0149 | 1.62 | 1.58 | 0.38 | 2.40 | 0.91 | 09-3:1-2 | 1E-7c | A | 71 | | 43-4 |
| A0150 | 1.96 | 1.80 | 0.26 | 3.13 | 0.81 | 09-3:1-2 | 1E-7c, 7d | A | 71/77 | | 43-3 |
| A0151 | 2.37 | 0.76 | 0.16 | 2.44 | 0.39 | 09-3:1-2 | 1E-8b, 8c | B | 71 | | 53-1 |
| A0152 | 1.34 | 1.28 | 0.10 | 1.73 | 0.17 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 42-8 |
| A0153 | 3.18 | 2.94 | 0.19 | 5.64 | 1.07 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71/77 | | 42-9 |
| A0154 | 1.64 | 1.46 | 0.25 | 1.70 | 0.43 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 42-7 |
| A0155 | 0.92 | 0.62 | 0.26 | 0.51 | 0.13 | 09-3:1-2 | 1E-8c | - | 71 | | |
| A0156 | 1.26 | 0.70 | 0.30 | 0.68 | 0.20 | 09-3:1-2 | 1E-8c | C | 71 | | 42-7 |
| A0157 | 2.02 | 1.35 | 0.18 | 2.01 | 0.36 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 42-4 |
| A0158 | (2.32) | (1.07) | 0.38 | 2.88 | 1.09 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 42-1 |
| A0159 | 2.40 | 1.72 | 0.39 | 3.63 | 1.41 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 42-1,2 |
| A0160 | 1.29 | 1.20 | 0.37 | 1.30 | 0.48 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 42-2 |
| A0161 | 1.61 | 1.18 | 0.16 | 1.23 | 0.20 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 35-3 |
| A0162 | 1.04 | 0.54 | 0.08 | 0.48 | 0.04 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | |
| A0163 | 2.08 | 1.60 | 0.17 | 3.28 | 0.56 | 09-3:1-2 | 1E-7c, 8c | A | 71/77 | | 43-8 |
| A0164 | 1.95 | 1.94 | 0.35 | 3.21 | 1.12 | 09-3:1-2 | 1E-7c, 8c | A | 71 | | 原色 5-2/42-10 |
| A0165 | 1.76 | 0.98 | 0.49 | 1.46 | 0.72 | 09-3:1-2 | 1E-8c | B | 71/80 | | 原色 6-4/52-9 |
| A0166 | 2.02 | 1.01 | 0.34 | 1.89 | 0.64 | 09-3:1-2 | 1E-8c | B | 71/80 | | 原色 6-3/52-9 |
| A0167 | 1.17 | 0.93 | 0.22 | 0.95 | 0.21 | 09-3:1-2 | 1E-8c | - | 71 | | |
| A0168 | 2.72 | 1.26 | 0.29 | 2.59 | 0.75 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71/80 | | |
| A0169 | 5.08 | 1.35 | 0.43 | 6.93 | 2.98 | 09-3:1-2 | 1E-8c | B | 71/80 | | 原色 6-1/35-2 |
| A0170 | 2.17 | 1.18 | 0.10 | 2.78 | 0.28 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | |

| 土坑 番号 | 法量 (m) | | 面積 (m ²) | 土量 (m ³) | 底面高 (T.P.+m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 挿図 | 写真図版 |
|----------|--------|--------|----------------------|----------------------|--------------|----------|-------------|----------|----------|----|--------|
| | 長さ | 短径 | | | | | | | | | |
| A0076 | 2.22 | 1.56 | 0.31 | 3.10 | 0.96 | 09-3:1-2 | 1E-9h | B | 72/81 | | 51-5,6 |
| A0077 | 1.77 | 1.44 | 0.38 | 2.11 | 0.80 | 09-3:1-2 | 1E-9g | C | 72/83 | | 55-6 |
| A0078 | 1.58 | 1.21 | 0.26 | 1.51 | 0.39 | 09-3:1-2 | 1E-9g | B | 72 | | 51-3 |
| A0079 | 1.21 | 1.04 | 0.26 | 0.99 | 0.26 | 09-3:1-2 | 1E-9g | C | 72 | | |
| A0080 | 1.80 | 1.07 | 0.19 | 1.24 | 0.32 | 09-3:1-2 | 1E-9h | - | 72/92 | | 37-3 |
| A0081 | 1.30 | 0.99 | 0.19 | 1.16 | 0.22 | 09-3:1-2 | 1E-9h | A | 72/81 | | 51-5 |
| A0082 | 2.31 | 1.15 | 0.18 | 2.59 | 0.47 | 09-3:1-2 | 1E-9h | B | 72 | | 51-4 |
| A0083 | 2.08 | 1.54 | 0.41 | 2.54 | 1.04 | 09-3:1-2 | 1E-9h | A(AA) | 72 | | 39-2 |
| A0084 | 1.00 | 0.70 | 0.35 | 0.61 | 0.21 | 09-3:1-2 | 1E-9h | - | 72 | | |
| A0085 | 1.73 | 1.21 | 0.46 | 1.64 | 0.75 | 09-3:1-2 | 1E-9h | B | 72/81 | | 51-6 |
| A0086 | 3.72 | 1.87 | 0.35 | 4.85 | 1.70 | 09-3:1-2 | 1E-9g | B | 72/81 | | 51-8 |
| A0088 | 2.01 | 1.82 | 0.31 | 2.88 | 0.89 | 09-3:1-2 | 1E-9g | B | 72 | | 51-7 |
| A0090 | 2.24 | 0.75 | 0.56 | 1.40 | 0.78 | 09-3:1-2 | 1E-10h | C | 72/84 | | |
| A0091 | 1.58 | 1.43 | 0.23 | 1.93 | 0.44 | 09-3:1-2 | 1E-9g | B | 72 | | 51-10 |
| A0092 | 1.71 | 0.60 | 0.14 | 1.13 | 0.16 | 09-3:1-2 | 1E-9g | A | 72 | | |
| A0093 | 1.27 | 1.10 | 0.50 | 1.03 | 0.51 | 09-3:1-2 | 1E-9h | - | 72 | | |
| A0094 | (1.98) | (1.75) | 0.15 | 2.33 | 0.35 | 09-3:1-2 | 1E-9h | B | 72/81 | | 51-5 |
| A0096 | 0.52 | 0.30 | 0.05 | 0.13 | 0.01 | 09-3:1-2 | 1E-9e | - | 71 | | |
| A0097 | 0.26 | 0.25 | 0.05 | 0.05 | 0.00 | 09-3:1-2 | 1E-9e | - | 71 | | |
| A0099 | 1.82 | 1.00 | 0.08 | 1.34 | 0.11 | 09-3:1-2 | 1E-10h | - | 72 | | |
| A0100 | 0.35 | 0.34 | 0.14 | 0.08 | 0.01 | 09-3:1-2 | 1E-10h | - | 72 | | |
| A0101 | 0.75 | 0.40 | 0.12 | 0.25 | 0.03 | 09-3:1-2 | 1E-10h | - | 72 | | |
| A0102 | 3.07 | 0.91 | 0.33 | 3.88 | 1.28 | 09-3:1-3 | 1E-9g/1E-9a | D | 72 | | |
| A0104 | (2.07) | (0.72) | 0.25 | 1.71 | 0.43 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0105 | (1.17) | (0.43) | 0.16 | 0.40 | 0.06 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0106 | (0.86) | (0.44) | 0.16 | 0.44 | 0.07 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0107 | (0.67) | (0.22) | 0.19 | 0.21 | 0.04 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0108 | (1.32) | (1.18) | 0.13 | 1.48 | 0.19 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0109 | 0.77 | 0.58 | 0.13 | 0.38 | 0.05 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0110 | (0.94) | (0.78) | 0.15 | 0.59 | 0.09 | 09-3:1-2 | 1E-8b | B | 71 | | |
| A0111 | (1.76) | (1.70) | 0.13 | 0.46 | 0.06 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0112 | 1.35 | 1.06 | 0.30 | 1.19 | 0.36 | 09-3:1-2 | 1E-8b, 8c | A | 71/77 | | 原色 5-1 |
| A0113 | 1.80 | 0.74 | 0.20 | 1.31 | 0.26 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | 43-6 |
| A0114 | 2.13 | 1.46 | 0.37 | 2.78 | 1.03 | 09-3:1-2 | 1E-8b | - | 71 | | |
| A0115 | 1.92 | 1.30 | 0.25 | 2.15 | 0.54 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | |
| A0116 | 1.56 | 0.77 | 0.15 | 0.94 | 0.14 | 09-3:1-2 | 1E-8b | A | 71 | | 43-7 |
| A0117 | (1.49) | (0.69) | 0.24 | 0.84 | 0.20 | 09-3:1-2 | 1E-7b, 8b | A | 71 | | 44-8 |
| A0118 | 1.84 | 1.32 | 0.24 | 2.50 | 0.60 | 09-3:1-2 | 1E-7b, 8b | B | 71/80 | | |
| A0119 | 2.28 | 1.95 | 0.16 | 3.00 | 0.48 | 09-3:1-2 | 1E-8b, 8c | A | 71 | | |
| A0120 | 2.96 | 2.02 | 0.23 | 3.49 | 0.80 | 09-3:1-2 | 1E-8b, 8c | (A) | 71 | | |
| A0121 | 1.46 | 1.24 | 0.23 | 1.44 | 0.33 | 09-3:1-2 | 1E-8b, 8c | A | 71 | | |
| A0122 | (0.59) | (0.58) | 0.28 | 0.30 | 0.08 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | 71 | | 42-6 |
| A0123 | (1.59) | (1.17) | 0.20 | 1.78 | 0.36 | 09-3:1-2 | 1E-7b | A | 71 | | |
| A0124 | (1.07) | (0.84) | 0.10 | 0.74 | 0.07 | 09-3:1-2 | 1E-7b | D | 71 | | |
| A0125 | 1.38 | 0.46 | 0.11 | 0.53 | 0.06 | 09-3:1-2 | 1E-7b | A | 71 | | |

| 土坑 番号 | 法量 (m) | | 面積 (㎡) | 土量 (m ³) | 底面高 (T.P. m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 挿図 | 写真図版 |
|----------|--------|------|-----------|-------------------------|-----------------|----------|-----------|----------|----------|-------|-------------|
| | 長さ | 短径 | | | | | | | | | |
| A0216 | 0.77 | 0.66 | 0.18 | 0.45 | 0.08 | 09-3:1-2 | 1E-8d | - | ○ | 71 | |
| A0217 | 1.68 | 1.04 | 0.18 | 1.34 | 0.24 | 09-3:1-2 | 1E-8d,9d | A | | 71/76 | 40-10 |
| A0218 | 2.30 | 2.04 | 0.19 | 3.04 | 0.58 | 09-3:1-2 | 1E-8d | A | | 71/76 | 41-1 |
| A0219 | 1.04 | 0.58 | - | 0.56 | - | 09-3:1-2 | 1E-8d | - | ○ | 71 | |
| A0220 | 2.74 | 1.62 | 0.23 | 4.55 | 1.05 | 09-3:1-2 | 1E-8d | A(A) | ○ | 71/91 | 34-2/41-2 |
| A0221 | 3.20 | 0.50 | 0.49 | 1.51 | 0.74 | 09-3:1-2 | 1E-8d | C | | 71 | |
| A0222 | 2.20 | 0.59 | 0.32 | 1.05 | 0.34 | 09-3:1-2 | 1E-8d | B | ○ | 71/91 | 34-1 |
| A0223 | 1.30 | 0.63 | 0.41 | 0.56 | 0.23 | 09-3:1-2 | 1E-8d | A | | 71 | |
| A0224 | 1.60 | 1.08 | 0.50 | 1.38 | 0.69 | 09-3:1-2 | 1E-8d,9d | A | ○ | 71/76 | 33-3 |
| A0225 | 1.10 | 0.41 | 0.38 | 0.39 | 0.15 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | | 71/76 | |
| A0226 | 1.75 | 0.48 | 0.48 | 0.66 | 0.32 | 09-3:1-2 | 1E-9d,9e | B | | 71/76 | |
| A0227 | 2.18 | 1.63 | 0.25 | 2.85 | 0.71 | 09-3:1-2 | 1E-9d | B | | 71 | 52-3 |
| A0228 | 0.96 | 0.57 | 0.09 | 0.48 | 0.04 | 09-3:1-2 | 1E-9d | D | | 71 | |
| A0229 | 0.60 | 0.54 | 0.10 | 0.26 | 0.03 | 09-3:1-2 | 1E-9d | - | | 71 | |
| A0230 | 1.97 | 1.82 | 0.22 | 2.94 | 0.65 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | | 71/76 | 39-10 |
| A0231 | 1.40 | 1.33 | 0.13 | 1.64 | 0.21 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | | 71/76 | 40-1 |
| A0232 | 1.50 | 1.05 | 0.20 | 1.11 | 0.22 | 09-3:1-2 | 1E-9d | C | | 71 | 56-1 |
| A0233 | 1.90 | 1.30 | 0.17 | 1.93 | 0.33 | 09-3:1-2 | 1E-8d,9d | A | | 71/76 | 40-2 |
| A0234 | 0.43 | 0.28 | 0.80 | 0.08 | 0.06 | 09-3:1-2 | 1E-8d | - | ○ | 71 | |
| A0235 | 3.28 | 1.78 | 0.20 | 5.15 | 1.03 | 09-3:1-2 | 1E-8d,9d | A | | 71/76 | 40-3 |
| A0236 | 1.80 | 0.18 | 0.09 | 1.36 | 0.12 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | | 71 | 39-7 |
| A0237 | 1.44 | 1.10 | 0.15 | 1.31 | 0.20 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | | 71 | 39-8 |
| A0238 | 1.10 | 0.69 | 0.22 | 0.74 | 0.16 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | | 71 | 39-9 |
| A0239 | 1.02 | 0.59 | 0.19 | 0.71 | 0.14 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | ○ | 71 | |
| A0240 | 1.43 | 0.83 | 0.30 | 0.91 | 0.27 | 09-3:1-2 | 1E-9d | - | | 71 | |
| A0241 | 2.12 | 1.46 | 0.45 | 2.30 | 1.04 | 09-3:1-2 | 1E-9d | B | | 71 | 39-5 |
| A0242 | 2.26 | 1.52 | 0.33 | 2.53 | 0.83 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | ○ | 71/90 | 32-3/39-5,6 |
| A0243 | 1.09 | 0.74 | 0.21 | 0.76 | 0.16 | 09-3:1-2 | 1E-9d,9e | B | | 71 | 52-2 |
| A0244 | 3.31 | 3.17 | 0.27 | 10.09 | 2.72 | 09-3:1-2 | 1E-9d | A | ○ | 71 | 39-4 |
| A0245 | 2.07 | 0.43 | 0.55 | 1.46 | 0.80 | 09-3:1-2 | 1E-9d,9e | B | | 71 | |
| A0246 | 2.60 | 1.71 | 0.11 | 4.60 | 0.51 | 09-3:1-2 | 1E-9d,10d | D | | 71 | |
| A0247 | 1.90 | 0.88 | 0.44 | 1.51 | 0.67 | 09-3:1-2 | 1E-9e | B | | 71 | |
| A0248 | 0.67 | 0.29 | 0.06 | 0.16 | 0.01 | 09-3:1-2 | 1E-6d | - | | 72 | |
| A0249 | 2.66 | 1.98 | 0.28 | 4.38 | 1.23 | 09-3:1-2 | 1E-6d | - | | 72 | |
| A0250 | 0.57 | 0.40 | 0.07 | 0.16 | 0.01 | 09-3:1-2 | 1E-7e | - | | 72 | |
| A0251 | 0.94 | 0.70 | 0.08 | 0.53 | 0.04 | 09-3:1-2 | 1E-6e | D | | 72 | |
| A0252 | 1.84 | 0.62 | 0.19 | 0.76 | 0.14 | 09-3:1-2 | 1E-6e | D | | 72 | |
| A0253 | 1.19 | 0.58 | 0.11 | 0.56 | 0.06 | 09-3:1-2 | 1E-7e | D | | 72 | |
| A0254 | 0.72 | 0.50 | 0.10 | 0.28 | 0.03 | 09-3:1-2 | 1E-7f | D | | 72 | |
| A0255 | 2.50 | 2.41 | 0.32 | 4.11 | 1.32 | 09-3:1-2 | 1E-7f,8f | D | ○ | 72 | |
| A0256 | 0.90 | 0.63 | 0.11 | 0.49 | 0.05 | 09-3:1-2 | 1E-8f | A | | 72 | |
| A0257 | 1.21 | 1.20 | 0.28 | 1.03 | 0.29 | 09-3:1-2 | 1E-8f | B | | 72 | |
| A0258 | 0.60 | 0.40 | 0.08 | 0.25 | 0.02 | 09-3:1-2 | 1E-8b | - | | 71 | |
| A0259 | 0.53 | 0.42 | 0.07 | 0.16 | 0.01 | 09-3:1-2 | 1E-9d | - | | 71 | |
| A0260 | 0.40 | 0.40 | 0.06 | 0.15 | 0.01 | 09-3:1-2 | 1E-9c | D | | 71 | |

| 土坑 番号 | 法量 (m) | | 面積 (㎡) | 土量 (m ³) | 底面高 (T.P. m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 挿図 | 写真図版 |
|----------|--------|------|-----------|-------------------------|-----------------|----------|-------------|----------|----------|-------|---------------|
| | 長さ | 短径 | | | | | | | | | |
| A0171 | 1.95 | 0.89 | 0.32 | 4.63 | 1.48 | 09-3:1-2 | 1E-8c,8d | B | | 71 | 52-8 |
| A0172 | 2.04 | 1.68 | 0.38 | 2.95 | 1.12 | 09-3:1-2 | 1E-8c,8d | A | | 71/77 | 42-3 |
| A0173 | 1.53 | 1.40 | 0.37 | 1.53 | 0.56 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | | 71 | 原色6-2/52-10 |
| A0174 | 2.07 | 0.84 | 0.45 | 1.94 | 0.87 | 09-3:1-2 | 1E-7c,8c | B | | 71 | 52-10 |
| A0175 | 1.36 | 1.14 | 0.38 | 1.15 | 0.44 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | | 71 | 42-5 |
| A0176 | 1.15 | 0.50 | 0.30 | 0.58 | 0.17 | 09-3:1-2 | 1E-8c | B | | 71 | 42-5 |
| A0177 | 1.82 | 1.55 | 0.35 | 2.35 | 0.82 | 09-3:1-2 | 1E-8c | - | | 71 | |
| A0178 | 1.58 | 1.03 | 0.24 | 1.49 | 0.36 | 09-3:1-2 | 1E-7c,8c,8d | A | | 71 | |
| A0179 | 2.72 | 1.32 | 0.39 | 4.40 | 1.72 | 09-3:1-2 | 1E-8c,8d | - | ○ | 71 | |
| A0180 | 1.74 | 0.56 | 0.24 | 1.11 | 0.27 | 09-3:1-2 | 1E-8d | A | ○ | 71/77 | |
| A0181 | 0.96 | 0.69 | - | 0.58 | - | 09-3:1-2 | 1E-8d | - | | 71 | |
| A0182 | 2.21 | 0.74 | 0.31 | 1.29 | 0.40 | 09-3:1-2 | 1E-8d | A | | 71 | |
| A0183 | 2.25 | 1.67 | 0.28 | 3.04 | 0.85 | 09-3:1-2 | 1E-8d | A | | 71 | |
| A0184 | 1.64 | 1.38 | 0.16 | 2.10 | 0.34 | 09-3:1-2 | 1E-8d | A | ○ | 71/91 | 34-3/41-3 |
| A0185 | 2.18 | 1.05 | 0.28 | 2.30 | 0.64 | 09-3:1-2 | 1E-9c | - | | 71 | |
| A0186 | 1.75 | 1.26 | 0.11 | 0.94 | 0.10 | 09-3:1-2 | 1E-9c | - | | 71 | |
| A0187 | 0.83 | 0.59 | 0.20 | 0.43 | 0.09 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | |
| A0188 | 2.64 | 1.05 | 0.24 | 2.14 | 0.51 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | |
| A0189 | 1.25 | 0.92 | 0.28 | 0.90 | 0.25 | 09-3:1-2 | 1E-8c,9c | - | | 71 | |
| A0190 | 0.92 | 0.86 | 0.20 | 0.65 | 0.19 | 09-3:1-2 | 1E-9c | - | | 71 | |
| A0191 | 1.13 | 0.90 | 0.20 | 0.80 | 0.16 | 09-3:1-2 | 1E-9c | - | | 71 | |
| A0192 | 1.33 | 0.61 | 0.32 | 0.90 | 0.29 | 09-3:1-2 | 1E-9c | - | | 71 | |
| A0193 | 1.86 | 1.68 | 0.47 | 2.41 | 1.13 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | 40-4 |
| A0194 | 1.85 | 1.42 | 0.40 | 1.84 | 0.74 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | |
| A0195 | 1.81 | 0.50 | 0.40 | 0.65 | 0.26 | 09-3:1-2 | 1E-9c | C | | 71 | |
| A0196 | 2.00 | 1.30 | 0.28 | 1.75 | 0.49 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | 40-6 |
| A0197 | 1.87 | 1.70 | 0.37 | 2.11 | 0.78 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | 40-6 |
| A0198 | 1.25 | 1.10 | 0.26 | 1.13 | 0.29 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | 52-6 |
| A0199 | 2.14 | 1.90 | 0.39 | 3.58 | 1.39 | 09-3:1-2 | 1E-8c,9c | A | ○ | 71/77 | 35-1/41-4,5,6 |
| A0200 | 2.70 | 1.54 | 0.34 | 3.59 | 1.22 | 09-3:1-2 | 1E-9c | B | ○ | 71/77 | 41-7/52-5,6 |
| A0201 | 1.44 | 0.52 | 0.18 | 0.64 | 0.11 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | | 71 | 41-7 |
| A0202 | 1.46 | 1.36 | 0.29 | 1.50 | 0.44 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | | 71 | 41-9 |
| A0203 | 1.43 | 1.31 | 0.27 | 1.53 | 0.41 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A | | 71/77 | 41-8 |
| A0204 | 1.28 | 0.61 | 0.33 | 0.75 | 0.25 | 09-3:1-2 | 1E-8c | A(A) | | 71/77 | 41-10 |
| A0205 | 2.02 | 0.90 | 0.24 | 2.08 | 0.50 | 09-3:1-2 | 1E-8c,8d | B | | 71 | 52-7 |
| A0206 | 1.22 | 0.58 | 0.21 | 0.68 | 0.14 | 09-3:1-2 | 1E-8c,8d | (A?) | ○ | 71/92 | 36-1 |
| A0207 | 1.90 | 1.52 | 0.26 | 2.39 | 0.62 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | 40-5 |
| A0208 | 1.44 | 1.12 | 0.41 | 1.34 | 0.55 | 09-3:1-2 | 1E-9c | - | | 71 | |
| A0209 | 1.44 | 0.74 | 0.26 | 1.18 | 0.31 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71 | 52-4 |
| A0210 | 1.16 | 1.01 | 0.35 | 0.96 | 0.34 | 09-3:1-2 | 1E-9c | - | | 71 | |
| A0211 | 1.16 | 0.97 | 0.28 | 0.93 | 0.26 | 09-3:1-2 | 1E-9c | B | | 71 | 52-4 |
| A0212 | 2.48 | 2.00 | 0.31 | 3.65 | 1.13 | 09-3:1-2 | 1E-9c | B | | 71/80 | 52-5 |
| A0213 | 2.00 | 1.55 | 0.31 | 2.79 | 0.86 | 09-3:1-2 | 1E-9c | A | | 71/76 | 40-8 |
| A0214 | 1.66 | 1.05 | 0.22 | 1.63 | 0.36 | 09-3:1-2 | 1E-9c,9d | A | ○ | 71/90 | 33-1,2/40-7 |
| A0215 | 2.80 | 1.67 | 0.21 | 4.23 | 0.89 | 09-3:1-2 | 1E-8d,9c,9d | A | | 71/76 | 40-9 |

| 土坑 番号 | 法量 (m) | | 面積 土量 (m ³) | 底面高 (T.P. +m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 掘回 | 写真図版 | |
|----------|--------|------|----------------------------|------------------|------|------|------------|---------------|----|-------|-------------------|
| | 長径 | 短径 | | | | | | | | | |
| A0261 | 0.38 | 0.31 | 0.11 | 0.09 | 0.01 | 6.61 | 09-3:1-2 | 1E-9d | - | 71 | |
| A0262 | 0.22 | 0.20 | 0.07 | 0.03 | 0.00 | 7.15 | 09-3:1-2 | 1E-6e | - | | |
| A0263 | 1.64 | 1.00 | 0.09 | 1.03 | 0.09 | 6.86 | 09-3:1-1 | 1E-9i | - | 72 | |
| A0264 | 1.37 | 0.65 | 0.32 | 0.68 | 0.22 | 6.63 | 09-3:1-1 | 1E-9j | - | 72 | |
| A0265 | 0.85 | 0.54 | 0.09 | 0.33 | 0.03 | 6.72 | 09-3:1-1 | 1E-8j | - | 72 | |
| A0266 | 1.64 | 0.56 | 0.33 | 0.78 | 0.26 | 6.53 | 09-3:1-1 | 1E-8i | - | 72 | |
| A0267 | 1.74 | 1.69 | 0.15 | 2.69 | 0.40 | 6.53 | 09-3:1-2 | 1E-8c, 8d, 9c | A | 71 | |
| A0268 | 0.74 | 0.58 | 0.05 | 0.40 | 0.02 | 6.72 | 09-3:1-2 | 1E-8d | - | 71 | |
| A0269 | 0.86 | 0.68 | 0.13 | 0.48 | 0.06 | 6.89 | 09-3:1-2 | 1E-7b | - | 71 | |
| A0270 | 1.07 | 0.50 | 0.14 | 0.50 | 0.07 | 6.94 | 09-3:1-2 | 1E-7c | - | 71 | |
| A0271 | 1.07 | 1.06 | 0.26 | 0.98 | 0.25 | 6.89 | 09-3:1-2 | 1E-7c | - | 71 | |
| A0272 | 1.12 | 1.08 | 0.36 | 0.29 | 0.10 | 6.86 | 09-3:1-2 | 1E-7e | - | 72 | |
| A0273 | 0.76 | 0.53 | 0.09 | 0.33 | 0.03 | 7.18 | 09-3:1-2 | 1E-6d | - | 72 | |
| 11003 | 0.72 | 0.30 | 0.24 | 0.16 | 0.04 | 7.02 | 11-1:11-1 | 1E-7a | A | 71 | |
| 11004 | 0.76 | 0.55 | 0.11 | 0.33 | 0.04 | 7.08 | 11-1:11-1 | 1E-7a | A | 71 | |
| 11005 | 0.98 | 0.86 | 0.08 | 0.16 | 0.01 | 6.96 | 11-1:11-1 | 1E-7a, 7b | A | 71 | |
| 11006 | 1.77 | 1.33 | 0.11 | 2.20 | 0.02 | 6.96 | 11-1:11-1 | 1E-7b | A | 71 | |
| 11007 | 0.75 | 0.44 | 0.04 | 0.30 | 0.01 | 6.99 | 11-1:11-1 | 1E-7b | A | 71 | |
| 11008 | 1.62 | 0.89 | 0.12 | 1.14 | 0.14 | 6.96 | 11-1:11-1 | 1E-7b | A | 71 | |
| 11009 | 1.45 | 0.81 | 0.08 | 1.06 | 0.09 | 6.92 | 11-1:11-1 | 1E-7b | A | 71 | |
| 11010 | 0.85 | 0.77 | 0.21 | 0.59 | 0.12 | 6.98 | 11-1:11-1 | 1E-7b | C | 71/83 | |
| 11011 | 1.22 | 0.51 | 0.22 | 0.48 | 0.10 | 6.87 | 11-1:11-1 | 1E-8b | A | 71 | |
| 11012 | 0.97 | 0.89 | 0.08 | 0.59 | 0.05 | 7.05 | 11-1:11-1 | 1E-7b | A | 71 | |
| 11013 | 2.27 | 1.62 | 0.41 | 3.14 | 1.29 | 6.63 | 11-1:11-1 | 1E-8b | A | 71/78 | 藍色53/44-9/10/45-1 |
| 11014 | 1.01 | 0.28 | 0.26 | 0.26 | 0.07 | 6.84 | 11-1:11-1 | 1E-8b | A | 71 | |
| 11015 | 0.76 | 0.66 | 0.08 | 0.50 | 0.04 | 6.92 | 11-1:11-1 | 1E-8b | A | 71 | 45-2 |
| 11016 | 1.48 | 0.37 | 0.23 | 0.46 | 0.11 | 6.94 | 11-1:11-1 | 1E-7b, 8b | - | 71 | |
| 11017 | 1.25 | 0.42 | 0.21 | 0.43 | 0.09 | 7.03 | 11-1:11-1 | 1E-8b | A | 71 | |
| C0009 | 2.25 | 0.68 | 0.10 | 1.63 | 0.16 | 6.81 | 10-2:2-1-2 | 20-5i, 5j | - | 73 | |
| C0010 | 1.22 | 0.70 | 0.08 | 0.53 | 0.04 | 6.83 | 10-2:2-1-2 | 20-5i | - | 73 | |
| C0011 | 1.70 | 1.44 | 0.45 | 1.29 | 0.58 | 6.47 | 10-2:2-1-2 | 20-5i | A | 73 | 45-6 |
| C0012 | 1.24 | 0.55 | 0.17 | 0.13 | 0.02 | 6.90 | 10-2:2-1-2 | 20-5i | A | 73 | |
| C0013 | 0.98 | 0.70 | 0.21 | 0.28 | 0.06 | 6.82 | 10-2:2-1-2 | 20-5i | A | 73 | 45-8 |
| C0014 | 1.42 | 1.05 | 0.18 | 1.40 | 0.25 | 6.64 | 10-2:2-1-2 | 20-5i | A | 73 | 45-7 |
| C0015 | 1.66 | 1.50 | 0.14 | 2.08 | 0.29 | 6.69 | 10-2:2-1-2 | 20-5i | A | 73 | 45-7 |
| C0016 | 2.05 | 1.42 | 0.29 | 2.28 | 0.66 | 6.71 | 10-2:2-1-2 | 20-5h, 5i | C | 73/84 | 56-3 |
| C0017 | 3.88 | 2.50 | 0.32 | 5.69 | 1.82 | 6.70 | 10-2:2-1-2 | 20-5h, 6i | A | 73/78 | 45-9 |
| C0018 | 1.88 | 1.18 | 0.20 | 1.88 | 0.38 | 6.81 | 10-2:2-1-2 | 20-5h | A | 73 | 46-1 |
| C0019 | 1.38 | 1.14 | 0.23 | 1.35 | 0.31 | 6.80 | 10-2:2-1-2 | 20-5h | A | 73 | 46-1 |
| C0021 | 1.05 | 0.95 | 0.27 | 0.86 | 0.23 | 6.78 | 10-2:2-1-2 | 20-5h | C | 73/84 | 56-4 |
| C0022 | 1.18 | 1.08 | 0.34 | 0.99 | 0.34 | 6.70 | 10-2:2-1-2 | 20-5h | B | 73/82 | 53-8 |
| C0023 | 1.19 | 1.02 | 0.18 | 1.09 | 0.20 | 6.82 | 10-2:2-1-2 | 20-5h | A | 73 | |
| C0025 | 2.68 | 1.34 | 0.29 | 2.80 | 0.81 | 6.69 | 10-2:2-1-2 | 20-4h, 5h | A | 73 | 46-5 |
| C0026 | 1.12 | 1.10 | 0.19 | 1.54 | 0.29 | 6.76 | 10-2:2-1-2 | 20-4h, 5h | A | 73 | 46-5 |
| C0027 | 1.16 | 1.02 | 0.16 | 1.11 | 0.18 | 6.83 | 10-2:2-1-2 | 20-5h | A | 73 | 46-4 |

| 土坑 番号 | 法量 (m) | | 面積 土量 (m ³) | 底面高 (T.P. +m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 掘回 | 写真図版 | |
|----------|--------|------|----------------------------|------------------|------|------|------------|--------------|----|-------|-------|
| | 長径 | 短径 | | | | | | | | | |
| C0028 | 2.27 | 1.26 | 0.16 | 2.25 | 0.36 | 6.85 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 46-7 |
| C0029 | 1.37 | 0.83 | 0.27 | 0.96 | 0.26 | 6.77 | 10-2:2-1-2 | 20-5h | A | 73/79 | 46-8 |
| C0030 | 1.02 | 0.84 | 0.22 | 0.74 | 0.16 | 6.79 | 10-2:2-1-2 | 20-4h, 5h | A | 73/79 | 46-9 |
| C0031 | 0.82 | 0.56 | 0.19 | 0.39 | 0.07 | 6.80 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 46-6 |
| C0032 | 3.04 | 1.47 | 0.20 | 2.55 | 0.51 | 6.79 | 10-2:2-1-2 | 20-4h, 5h | A | 73 | 47-1 |
| C0033 | 1.33 | 1.16 | 0.23 | 1.75 | 0.40 | 6.81 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-1 |
| C0034 | 1.31 | 0.84 | 0.18 | 0.83 | 0.15 | 6.84 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | |
| C0035 | 1.66 | 1.00 | 0.18 | 1.41 | 0.25 | 6.81 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-3 |
| C0036 | 1.40 | 1.25 | 0.14 | 1.55 | 0.22 | 6.84 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73/79 | 46-10 |
| C0038 | 1.34 | 0.62 | 0.17 | 0.79 | 0.13 | 6.80 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-4 |
| C0039 | 1.14 | 0.52 | 0.12 | 0.74 | 0.09 | 6.88 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-4 |
| C0040 | 2.13 | 1.86 | 0.24 | 3.36 | 0.81 | 6.83 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-5 |
| C0041 | 1.57 | 0.95 | 0.18 | 1.16 | 0.21 | 6.83 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-9 |
| C0043 | 2.11 | 0.86 | 0.14 | 1.60 | 0.22 | 6.83 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-8 |
| C0044 | 1.20 | 1.00 | 0.22 | 0.95 | 0.21 | 6.83 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | A | 73 | 47-10 |
| C0045 | 1.88 | 1.10 | 0.33 | 1.89 | 0.62 | 6.77 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | C | 73 | 56-5 |
| C0046 | 1.94 | 1.38 | 0.33 | 2.04 | 0.67 | 6.74 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | A | 73 | 48-3 |
| C0047 | 1.03 | 0.82 | 0.18 | 0.69 | 0.12 | 6.90 | 10-2:2-1-2 | 20-4g, 4h | A | 73 | |
| C0048 | 2.00 | 0.72 | 0.24 | 1.40 | 0.34 | 6.87 | 10-2:2-1-2 | 20-4g, 4h | B | 73/82 | 54-1 |
| C0049 | 0.85 | 0.67 | 0.23 | 0.45 | 0.10 | 6.92 | 10-2:2-1-2 | 20-4g, 4h | B | 73 | 54-2 |
| C0050 | 0.78 | 0.23 | 0.14 | 0.11 | 0.02 | 6.95 | 10-2:2-1-2 | 20-4h | - | 73 | |
| C0051 | 2.57 | 1.60 | 0.37 | 3.33 | 1.23 | 6.76 | 10-2:2-1-2 | 20-3g, 4g | C | 73/84 | 56-6 |
| C0052 | 1.42 | 1.04 | 0.28 | 1.23 | 0.34 | 6.94 | 10-2:2-1-2 | 20-3g | C | 73/84 | 56-9 |
| C0053 | 1.47 | 0.75 | 0.20 | 0.91 | 0.18 | 6.96 | 10-2:2-1-2 | 20-3g, 4g | B | 73 | 54-3 |
| C0054 | 3.24 | 2.16 | 0.29 | 10.04 | 2.91 | 6.74 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | A | 73 | |
| C0055 | 1.26 | 1.06 | 0.22 | 1.21 | 0.27 | 6.74 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | A | 73 | |
| C0056 | 1.24 | 1.12 | 0.26 | 1.76 | 0.46 | 6.88 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | - | 73 | |
| C0057 | 1.08 | 0.35 | 0.23 | 0.31 | 0.07 | 6.88 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | A | 73 | |
| C0058 | 1.85 | 0.90 | 0.46 | 1.38 | 0.63 | 6.67 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | A | 73 | 48-5 |
| C0059 | 1.28 | 1.15 | 0.01 | 1.40 | 0.01 | 6.73 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | A | 73 | |
| C0060 | 1.77 | 0.87 | 0.03 | 1.38 | 0.04 | 6.71 | 10-2:2-1-2 | 20-4g | A | 73 | |
| C0064 | 1.00 | 0.84 | 0.15 | 0.83 | 0.12 | 7.02 | 10-2:2-1-2 | 20-3f | A | 73 | |
| C0065 | 1.36 | 1.27 | 0.25 | 1.40 | 0.35 | 7.14 | 10-2:2-1-2 | 20-3f | C | 73 | 56-10 |
| C0066 | 1.76 | 0.97 | 0.19 | 1.39 | 0.26 | 7.32 | 10-2:2-1-2 | 20-3f | A | 73 | 48-9 |
| C0067 | 2.70 | 0.98 | 0.20 | 2.29 | 0.46 | 7.18 | 10-2:2-1-2 | 20-3f | B | 73 | 54-5 |
| C0069 | 1.74 | 1.55 | 0.30 | 2.03 | 0.61 | 7.28 | 10-2:2-1-2 | 20-2f, 3f | B | 73/82 | 54-6 |
| C0070 | 1.54 | 0.97 | 0.16 | 1.06 | 0.17 | 7.02 | 10-2:2-1-2 | 20-3f | A | 73 | |
| C0071 | 1.70 | 1.67 | 0.18 | 2.40 | 0.43 | 7.41 | 10-2:2-1-2 | 20-1d | C | 73/84 | |
| C0072 | 1.74 | 1.12 | 0.20 | 1.74 | 0.35 | 7.31 | 10-2:2-1-2 | 20-1d | C | 73 | |
| C0073 | 1.36 | 0.75 | 0.32 | 1.18 | 0.38 | 7.30 | 10-2:2-1-2 | 20-1d/10-10d | - | 73 | |
| 13012 | 2.40 | 1.10 | 0.25 | 1.69 | 0.42 | 6.69 | 11-1:13 | 20-5h | A | 73 | 45-10 |
| 13013 | 0.92 | 0.75 | 0.37 | 0.55 | 0.20 | 6.61 | 11-1:13 | 20-5h | A | 73/78 | 46-2 |
| 13014 | 1.04 | 0.57 | 0.23 | 0.46 | 0.11 | 6.75 | 11-1:13 | 20-5h | B | 73 | |
| 13015 | 0.93 | 0.19 | 0.29 | 0.21 | 0.06 | 6.75 | 11-1:13 | 20-5h | A | 73 | 46-3 |
| 13016 | 0.97 | 0.65 | 0.26 | 0.49 | 0.13 | 6.74 | 11-1:13 | 20-5h | B | 73 | 53-9 |

| 土坑 番号 | 法量 (m) 長径 短径 深さ | 面積 (㎡) (㎡) | 底面高 (T.P. +m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 挿図 | 写真図版 | |
|----------|---------------------------|---------------|------------------|----------|-----------|-------------------|----------|-------|-------|------|
| 2046 | (1.24) (1.23) 0.46 | 1.76 0.81 | 7.58 | 12-1-2-2 | 1C-5j | B | | 74 | 54-9 | |
| 2047 | (1.27) (0.69) 0.42 | 0.65 0.27 | 7.48 | 12-1-2-2 | 1C-6j | A? | | 74 | | |
| 2048 | (2.59) (0.92) 0.15 | 2.25 0.34 | 7.57 | 12-1-2-2 | 1C-5i | A | | 74 | | |
| 2049 | (3.20) (0.73) (0.58) 2.10 | (1.22) 7.49 | 12-1-2-2 | 1C-5i | | - | | 74 | | |
| 2050 | (1.05) (0.51) (0.35) 0.35 | (0.12) 7.52 | 12-1-2-2 | 1C-5i | | - | | 74 | | |
| 2068 | (1.93) 1.46 | - 2.39 | - 7.07 | 12-1-2-3 | 10-8b, 9b | - | | 74 | | |
| 2069 | (1.78) 1.56 | 0.75 3.25 | 2.44 6.75 | 12-1-2-3 | 10-8b | C | ○ | 74 | | |
| 2070 | 1.63 1.52 | 0.45 1.94 | 0.87 7.03 | 12-1-2-3 | 10-8b, 9b | C | ○ | 74/85 | 57-2 | |
| 2071 | (1.77) 1.73 | 0.23 2.43 | 0.56 7.33 | 12-1-2-3 | 10-8a, 8b | B | ○ | 74 | | |
| 2072 | (2.27) 2.00 | 0.54 2.86 | 1.54 7.04 | 12-1-2-3 | 10-8b | B | ○ | 74/82 | 54-7 | |
| 2073 | 1.47 | 0.73 0.37 | 0.83 0.31 | 7.23 | 12-1-2-3 | 10-8b | C | ○ | 74 | |
| 2074 | 2.42 | 1.50 0.51 | 3.49 1.78 | 7.04 | 12-1-2-3 | 10-8b | C | ○ | 74/85 | 57-3 |
| 2076 | 1.75 | 1.42 0.41 | 1.80 0.74 | 7.12 | 12-1-2-3 | 10-7b, 8b | D | | | |
| 2077 | 1.84 | 1.61 0.45 | 2.59 1.16 | 7.20 | 12-1-2-3 | 10-9b | C | | 74/85 | 57-2 |
| 2078 | 1.49 | (2.14) 0.36 | 1.89 0.68 | 6.81 | 12-1-2-3 | 10-8b, 8c, 9b, 9c | D | | 74 | |
| 2079 | (2.13) (1.84) 0.36 | 2.99 1.08 | 7.14 | 12-1-2-3 | 10-8b, 9b | B | ○ | 74/82 | | |
| 2080 | 2.30 | (1.28) 0.32 | 2.50 0.80 | 7.16 | 12-1-2-3 | 10-8b | C | | 74 | |
| 2081 | (1.62) (1.10) 0.36 | 1.52 0.55 | 7.18 | 12-1-2-3 | 10-8a, 8b | A | | 74 | | |
| 2082 | 1.61 | 1.38 0.42 | 2.14 0.90 | 7.18 | 12-1-2-3 | 10-8b | C | ○ | 74 | |
| 2083 | 1.76 | 1.22 0.47 | 1.96 0.92 | 7.14 | 12-1-2-3 | 10-8b | C | ○ | 74/85 | 57-5 |
| 2084 | 1.66 | 1.49 0.09 | 1.68 0.15 | 7.67 | 12-1-2-3 | 10-7a, 8a | A | ○ | 74 | 38-2 |
| 2085 | (2.30) 1.84 | 0.43 2.64 | 1.14 7.22 | 12-1-2-3 | 10-8a | B | ○ | 74/82 | | |
| 2086 | 1.29 | 1.05 0.41 | 1.03 0.42 | 7.25 | 12-1-2-3 | 10-8b | C | | 74 | 57-6 |
| 2087 | 1.79 | 1.65 0.21 | 2.30 0.48 | 7.31 | 12-1-2-3 | 10-7a, 7b, 8a, 8b | B | ○ | 74/82 | 38-1 |
| 2088 | 1.82 | 1.37 0.25 | 2.40 0.60 | 7.36 | 12-1-2-3 | 10-8a, 8b | C | | 74 | |
| 2089 | 2.18 | 0.53 0.14 | 0.91 0.13 | 7.39 | 12-1-2-3 | 10-7a, 8a | B | | 74 | |
| 2090 | (1.56) 1.23 | 0.36 2.06 | 0.74 7.38 | 12-1-2-3 | 10-8a | C | ○ | 74/85 | | |
| 2091 | (0.90) 0.86 | 0.21 0.74 | 0.16 7.37 | 12-1-2-3 | 10-7a | C | | 74 | | |
| 2092 | 2.08 | 1.26 0.25 | 2.11 0.53 | 7.39 | 12-1-2-3 | 10-7a | A | | 74 | |
| 2093 | 2.33 | 2.12 0.37 | 2.06 0.76 | 7.34 | 12-1-2-3 | 10-7a | C | ○ | 74 | |
| 2094 | 1.82 | (0.50) 0.31 | 0.74 0.23 | 7.47 | 12-1-2-3 | 10-7a | B | | 74 | |
| 2095 | 2.85 | (1.29) 0.52 | 2.11 1.10 | 7.24 | 12-1-2-3 | 10-7a | A | | 74 | |
| 2096 | (0.98) (0.68) 0.34 | 4.03 1.37 | 7.26 | 12-1-2-3 | 10-8b, 9b | B | | 74 | | |
| 2097 | 1.30 | (0.88) 0.34 | 0.68 0.23 | 7.30 | 12-1-2-3 | 10-8b | B | | 74 | |
| 2098 | (1.62) (0.30) | - 0.31 | - 7.15 | 12-1-2-3 | 10-8b | - | ○ | 74 | | |
| 2099 | 1.52 | (1.47) 0.29 | 1.78 0.51 | 7.34 | 12-1-2-3 | 10-8a | C | ○ | 74/85 | |
| 2100 | 1.16 | 0.57 0.25 | 0.98 0.24 | 7.51 | 12-1-2-3 | 10-7a | C | ○ | 74/85 | 38-3 |
| 2101 | 2.42 | 1.59 0.42 | 2.71 1.14 | 7.41 | 12-1-2-3 | 10-7a | B | ○ | 74/83 | |
| 2102 | (1.12) (0.73) 0.40 | 0.53 0.21 | 7.36 | 12-1-2-3 | 10-8a | A | | 74 | | |
| 2103 | 1.86 | 1.22 0.28 | 1.90 0.53 | 7.41 | 12-1-2-3 | 10-7a | A | ○ | 74 | 49-4 |
| 2104 | 1.30 | (0.88) 0.27 | 1.09 0.29 | 7.40 | 12-1-2-3 | 10-7a, 8a | A | | 74 | 49-2 |
| 2105 | 1.50 | 0.66 0.41 | 0.92 0.38 | 7.26 | 12-1-2-3 | 10-7a, 8a | A | | 74 | 49-1 |
| 2106 | 1.08 | 0.90 0.17 | 1.28 0.22 | 7.49 | 12-1-2-3 | 10-7a | A | | 74 | 49-3 |
| 2107 | 2.59 | (0.87) 0.46 | 1.64 0.75 | 7.29 | 12-1-2-3 | 10-7a | B | | 74 | |
| 2108 | 1.57 | 1.22 0.37 | 1.58 0.58 | 7.41 | 12-1-2-3 | 10-7a | A | | 74 | 49-5 |

| 土坑 番号 | 法量 (m) 長径 短径 深さ | 面積 (㎡) (㎡) | 底面高 (T.P. +m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 挿図 | 写真図版 | |
|----------|--------------------|---------------|------------------|------------|-----------|-----------|----------|-------|-------|-------|
| 13018 | 1.59 0.87 | 0.22 1.29 | 0.28 6.68 | 11-1-1-3 | 20-4h, 5h | A | ○ | 73 | 47-2 | |
| 13019 | (0.93) (0.29) 0.38 | 0.18 0.07 | 6.75 | 11-1-1-3 | 20-4g | A | | 73 | | |
| 13021 | (2.23) 1.35 | 0.30 2.26 | 6.66 | 11-1-1-3 | 20-4g, 4h | B | ○ | 73 | 53-10 | |
| 13022 | 1.50 | 1.02 0.28 | 1.06 0.30 | 7.03 | 20-4g | A | | 73 | 48-4 | |
| 13023 | 1.79 | 0.88 0.23 | 1.64 0.38 | 6.74 | 20-4g, 4h | A | | 73 | 47-6 | |
| 13024 | 1.03 | 0.69 0.28 | 0.66 0.19 | 6.71 | 20-4g | A | | 73 | 47-7 | |
| 13025 | (1.93) 1.30 | 0.44 2.53 | 1.11 6.56 | 11-1-1-3 | 20-4g | A | | 73/79 | 48-2 | |
| 13026 | (1.72) (0.75) 0.50 | 1.45 0.73 | 6.72 | 11-1-1-3 | 20-4g | A | ○ | 73 | | |
| 13028 | (1.57) (1.31) 0.25 | 2.29 0.57 | 6.63 | 11-1-1-3 | 20-4g | A | | 73 | 48-6 | |
| 13030 | 1.74 | 1.69 0.35 | 2.65 0.93 | 6.81 | 20-3f, 3g | C | ○ | 73/84 | 56-7 | |
| 13031 | 1.32 | 1.32 0.16 | 1.51 0.24 | 6.78 | 20-4g | A | | 73 | 48-7 | |
| 13032 | (1.91) (1.12) 0.35 | 1.69 0.59 | 6.83 | 11-1-1-3 | 20-3f | C | | 73 | 56-8 | |
| 13033 | (0.90) (0.33) 0.29 | 0.19 0.05 | 6.38 | 11-1-1-3 | 20-3f | A | | 73 | 48-8 | |
| 13035 | (2.01) (1.51) 0.30 | 2.70 0.81 | 7.26 | 11-1-1-3 | 20-3f | C | ○ | 73 | 57-1 | |
| 13037 | 1.26 | 0.63 0.29 | 0.79 0.23 | 7.01 | 11-1-1-3 | 20-3f | A | ○ | 73 | |
| 13038 | (1.24) (0.53) 0.17 | 0.59 0.10 | 7.02 | 11-1-1-3 | 20-3f | A | | 73 | | |
| 13039 | (2.48) (1.33) 0.32 | 3.04 0.97 | 6.97 | 11-1-1-3 | 20-3f | B | ○ | 73/82 | 54-4 | |
| 13040 | (1.05) (0.22) 0.52 | 0.23 0.12 | 6.47 | 11-1-1-3 | 20-4g | - | | 73 | | |
| 13041 | (1.44) (1.27) 0.17 | 1.31 0.22 | 6.44 | 11-1-1-3 | 20-4g | A | | 73 | | |
| 2017 | 0.70 | 0.53 0.10 | 0.30 0.03 | 7.78 | 11-1-2-1 | 1C-3h | A | | 74 | |
| 2018 | 0.68 | 0.61 0.06 | 0.34 0.02 | 7.91 | 11-1-2-1 | 1C-3h | A | | 74 | |
| 2019 | 1.83 | 0.90 0.29 | 1.66 0.48 | 7.85 | 11-1-2-1 | 1C-4h, 4i | B | | 74/83 | 54-10 |
| 2020 | (2.57) (1.73) 0.49 | 4.00 1.96 | 7.73 | 11-1-2-1-2 | 1C-4i | C | | 74 | 57-9 | |
| 2021 | 1.80 | 1.19 0.30 | 1.63 0.49 | 7.88 | 11-1-2-1 | 1C-4i | C | | 74/86 | 57-10 |
| 2022 | (1.89) 0.60 | 0.35 0.95 | 0.33 7.73 | 11-1-2-1 | 1C-4i | A | | 74 | 48-10 | |
| 2025 | 0.54 | 0.37 0.05 | 0.16 0.01 | 8.36 | 11-1-2-1 | 1C-3h | D | | 74 | |
| 2026 | (2.21) (0.50) 0.24 | 0.95 0.23 | 7.95 | 11-1-2-1 | 1C-3h | C | | 74 | | |
| 2027 | (2.50) (1.84) 0.38 | 3.16 1.20 | 7.69 | 12-1-2-2 | 1C-4i | C | | 74/86 | 57-8 | |
| 2028 | 0.94 | 0.87 0.33 | 0.68 0.22 | 7.80 | 12-1-2-2 | 1C-5i | B | | 74/86 | |
| 2029 | (1.30) (0.77) 0.35 | 1.00 0.35 | 7.89 | 12-1-2-2 | 1C-4i, 5i | A | | 74/79 | 50-10 | |
| 2030 | (1.92) (0.85) 0.31 | 1.64 0.51 | 7.84 | 12-1-2-2 | 1C-5i | C | | 74/86 | | |
| 2032 | (1.23) (0.75) 0.76 | 0.65 0.49 | 7.86 | 12-1-2-2 | 1C-5i | B | | 74 | | |
| 2033 | 2.30 | 1.79 0.62 | 3.23 2.00 | 7.32 | 12-1-2-2 | 1C-5i | A(AA) | | 74/79 | 50-9 |
| 2034 | 2.52 | 1.73 0.60 | 3.33 2.00 | 7.49 | 12-1-2-2 | 1C-5i | A | | 74 | |
| 2035 | 1.64 | 1.36 0.61 | 1.90 1.16 | 7.47 | 12-1-2-2 | 1C-5i | A(AA) | | 74/79 | 50-8 |
| 2036 | 2.04 | 1.66 0.56 | 2.83 1.58 | 7.18 | 12-1-2-2 | 1C-5i | C | ○ | 74/85 | 57-7 |
| 2037 | 1.40 | 1.01 0.41 | 1.26 0.52 | 7.26 | 12-1-2-2 | 1C-5i | A | | 74 | 50-6 |
| 2038 | 3.68 | 2.32 0.75 | 8.24 6.18 | 7.25 | 12-1-2-2 | 1C-5i | A | ○ | 74 | 50-5 |
| 2039 | 3.98 | 1.27 0.55 | 4.78 2.63 | 7.26 | 12-1-2-2 | 1C-5i, 6i | A | ○ | 74 | 50-4 |
| 2040 | 1.42 | 0.83 0.47 | 1.03 0.48 | 7.31 | 12-1-2-2 | 1C-6j | A | ○ | 74 | |
| 2041 | 2.22 | 1.77 0.46 | 3.05 1.40 | 7.65 | 12-1-2-2 | 1C-5j | A | ○ | 74 | 50-3 |
| 2042 | 1.33 | 1.13 0.49 | 1.39 0.68 | 7.54 | 12-1-2-2 | 1C-5j, 6j | C | ○ | 74/85 | |
| 2043 | (1.65) (0.59) 0.53 | 0.63 0.33 | 7.37 | 12-1-2-2 | 1C-6j | A? | ○ | 74 | | |
| 2044 | 2.08 | 0.83 0.32 | 2.33 0.74 | 7.67 | 12-1-2-2 | 1C-5i | A | | 74 | 50-7 |
| 2045 | (2.17) (0.77) 0.67 | 1.43 0.95 | 7.34 | 12-1-2-2 | 1C-5j | A | | 74 | | |

| 土坑 番号 | 法量 (m) | | 面積 (m ²) | 土量 (t・P・m) | 底面高 (T.P. m) | 調査区 | 地区割 | 土坑 埋土 | 遺物 出土 | 挿図 | 写真図版 |
|----------|--------|--------|-------------------------|---------------|-----------------|------|-------------|----------|----------|-------|-------|
| | 長径 | 短径 | | | | | | | | | |
| 2109 | (1.84) | (1.27) | 0.34 | 1.99 | 0.68 | 7.47 | 10-7a | A | | 74 | 49-8 |
| 2110 | 1.23 | (0.38) | 0.31 | 0.38 | 0.12 | 7.59 | 10-7a | A | | 74 | 49-7 |
| 2111 | 1.80 | (0.74) | 0.41 | 1.17 | 0.48 | 7.38 | 10-7a | A | ○ | 74/83 | 49-6 |
| 2112 | 1.03 | (0.45) | 0.21 | 0.33 | 0.07 | 7.59 | 10-7a | A | | 74 | |
| 2113 | 2.07 | 1.93 | 0.43 | 3.05 | 1.31 | 7.39 | 10-7a | A | | 74/79 | 49-9 |
| 2114 | 1.22 | (0.48) | 0.31 | 0.26 | 0.08 | 7.84 | 10-6a,7a | A | | 74 | |
| 2115 | 0.82 | (0.77) | 0.37 | 0.54 | 0.20 | 7.45 | 10-7a | B | ○ | 74/83 | |
| 2117 | (2.28) | (0.75) | 0.36 | 0.70 | 0.25 | 7.49 | 10-7a | A | | 74 | |
| 2118 | (2.70) | (1.06) | 0.24 | 3.03 | 0.73 | 7.56 | 10-6j/10-6a | A | | 74 | |
| 2119 | 2.03 | (0.74) | 0.28 | 1.73 | 0.48 | 7.46 | 10-7a | A | | 74 | |
| 2120 | 1.78 | (1.50) | 0.41 | 2.33 | 0.95 | 7.43 | 10-6j,7j | A | | 74/79 | |
| 2121 | (3.03) | (1.14) | 0.40 | 7.29 | 2.92 | 7.42 | 10-6j,7j | A | ○ | 74/79 | |
| 2122 | 1.05 | (0.49) | 0.38 | 0.63 | 0.24 | 7.49 | 10-7j | A(AA) | | 74 | 49-10 |
| 2123 | (1.79) | 0.75 | 0.26 | 1.57 | 0.41 | 7.65 | 10-6j | A | | 74 | 50-1 |
| 2124 | (1.94) | 0.69 | 0.38 | 1.46 | 0.56 | 7.57 | 10-6j | A | ○ | 74 | 50-2 |
| 2125 | (2.10) | (1.79) | 0.52 | 3.19 | 1.66 | 7.44 | 10-6j | A | | 74 | |
| 2126 | (1.57) | (1.50) | 0.16 | 1.89 | 0.30 | 7.80 | 10-6j | A | | 74 | |
| 2127 | (2.16) | (1.22) | 0.65 | 2.64 | 1.71 | 7.35 | 10-6j | B | | 74 | 54-8 |
| 2128 | 1.79 | (1.42) | 0.36 | 2.16 | 0.78 | 7.61 | 10-6j | A | | 74 | |
| 2129 | 1.36 | (0.76) | 0.21 | 0.78 | 0.16 | 7.77 | 10-6j | A | | 74 | |
| 2130 | (1.42) | (0.28) | 0.50 | 0.33 | 0.17 | 7.73 | 10-6j | C | | 74/85 | |
| 2131 | (2.01) | 1.33 | 0.42 | 1.38 | 0.58 | 7.49 | 10-7j/10-7a | A | | 74 | |
| 2132 | (1.20) | (0.90) | - | 1.45 | - | 7.47 | 10-6j | - | | 74 | |
| 2133 | (1.00) | (0.43) | - | 0.30 | - | 7.14 | 10-8b,8c | - | | 74 | |
| 2134 | 1.60 | (1.42) | - | 1.86 | - | 7.36 | 10-6j,7j | - | | 74 | |

(備考)

- ・ - は測定不能なもの、判別不能なもの
- ・ 面積値はプランメーターを使用し、1/50 スケールの空中測量平面図を計測したものである。
- ・ 土量値は、面積に深さをかけて算出したものである。
- ・ 法量における () 書き数値は、調査区外や攪乱等のために土坑の全容が明らかでないものの計測値である。

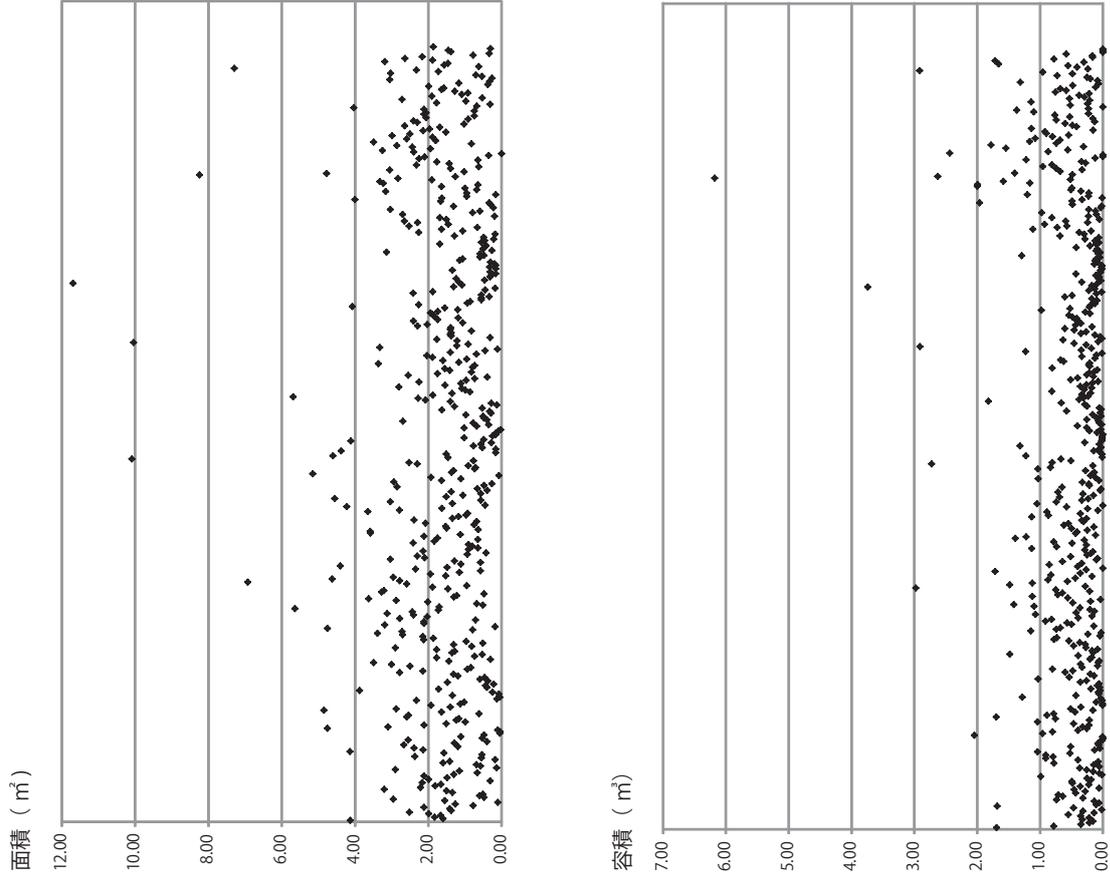


図 89 群集土坑 面積・容積散布図

PLACOM KP-90N という面積測定機械を使用し計測した。土量は、計測した面積 (m²) × 深さ (m) として算出した。全容が明らかでない土坑についても、検出した部分の面積を測定し、深さが判明したものは土量を算出した。付言しておくが、算出土量はあくまでもおおよその数値であり参考値である。以下、遺物の出土状況が明らかな土坑を中心に報告する。

9005 土坑 (図 90・93) エリア①とした 11-1:9-1 区で検出した。南東部分が攪乱されており、全容は明らかでない不定形の土坑である。隣接する 9006 土坑とほぼ同時に掘削されたと考えられ、上部は重複する。埋土は A タイプである。土坑南方のブロック土中から、底面からやや浮いた状態で、口縁部と体部の一部を欠損する須恵器壺 (207) が出土した。

9022 土坑 (図 90・93、写真図版 32-1) エリア①とした 11-1:9-2 区で検出した。そのほとんどが攪乱されており、全容は明らかでない。検出した部分の埋土は A タイプである。かろうじて遺存した西肩部分から上半部を欠損する須恵器甕 (208) が出土した。

A0064 土坑 (図 90・94、写真図版 32-2) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。一部攪乱されるが、楕円形の土坑であり、北端部分を A0246 土坑に切られる。埋土は A タイプである。土坑底から上半部を欠損する須恵器甕 (217) が出土した。

A0214 土坑 (図 90・93、写真図版 33-1・33-2・132) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。円形の土坑であり、北辺の一部は A0213 土坑と重複する。埋土は A タイプである。北辺の土坑壁面から底に沿うように口縁部を下にして、須恵器壺 (213) が出土した。体部を一部欠損する。

A0242 土坑 (図 90・94、写真図版 32-3・133) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。不定形の土坑で、埋土は A タイプである。土坑の北方と南方の 2 箇所遺物が出土した。北方では壁面に沿うように須恵器の壺又は甕の体部片が出土した。南方では底面に接するように上半部を欠損する須恵器甕 (218) が出土した。これらは接合関係にはなく、別個体と思われる。

A0216 土坑 (図 91) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。円形の小規模な土坑で、北側を A0205 土坑と、西側を A0215 土坑と、南辺を A0218 土坑と重複する。壁面に沿うように、須恵器の壺もしくは甕の体部片が出土した。

A0219 土坑 (図 91) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。不定形の小規模な土坑で、東辺を A0218 土坑と西辺を A0217 と重複する。須恵器の壺もしくは甕の体部片が出土した。

A0234 土坑 (図 91・95) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。他とは重複しない円形の小規模な土坑である。須恵器の壺もしくは甕の体部片が出土した。なお、出土遺物は整理作業の過程で A0199 土坑 (写真図版 35-1)、A0180 土坑、A0220 土坑 (写真図版 34-2) 出土遺物と接合し、須恵器甕 (223) の一部であることが判明した。

A0220 土坑 (図 91・95、写真図版 34-2) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。不定形の土坑で、北辺を A0218 土坑と、南辺を A0221 土坑と重複する。埋土は A A タイプである。遺物がいずれも土坑底からやや浮いた状態で出土した。土坑南半で口縁部と体部の半分を欠損する須恵器横瓶 (225・226) が 2 点出土した。土坑北半では須恵器の壺もしくは甕の体部片が出土した。このうち、須恵器横瓶 (226) は約 3 m 北方に位置する A0180 土坑・A0206 土坑 (写真図版 36-1)、約 7 m 北方の A0200 土坑から出土した須恵器と接合関係にあることがわかった。また、上述したように、A0180 土坑・A0199 土坑・A0234 土坑出土の須恵器と接合関係にあった甕の体部片がある (223)。

A0222 土坑 (図 91・94、写真図版 34-1) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。南東部分が調査区

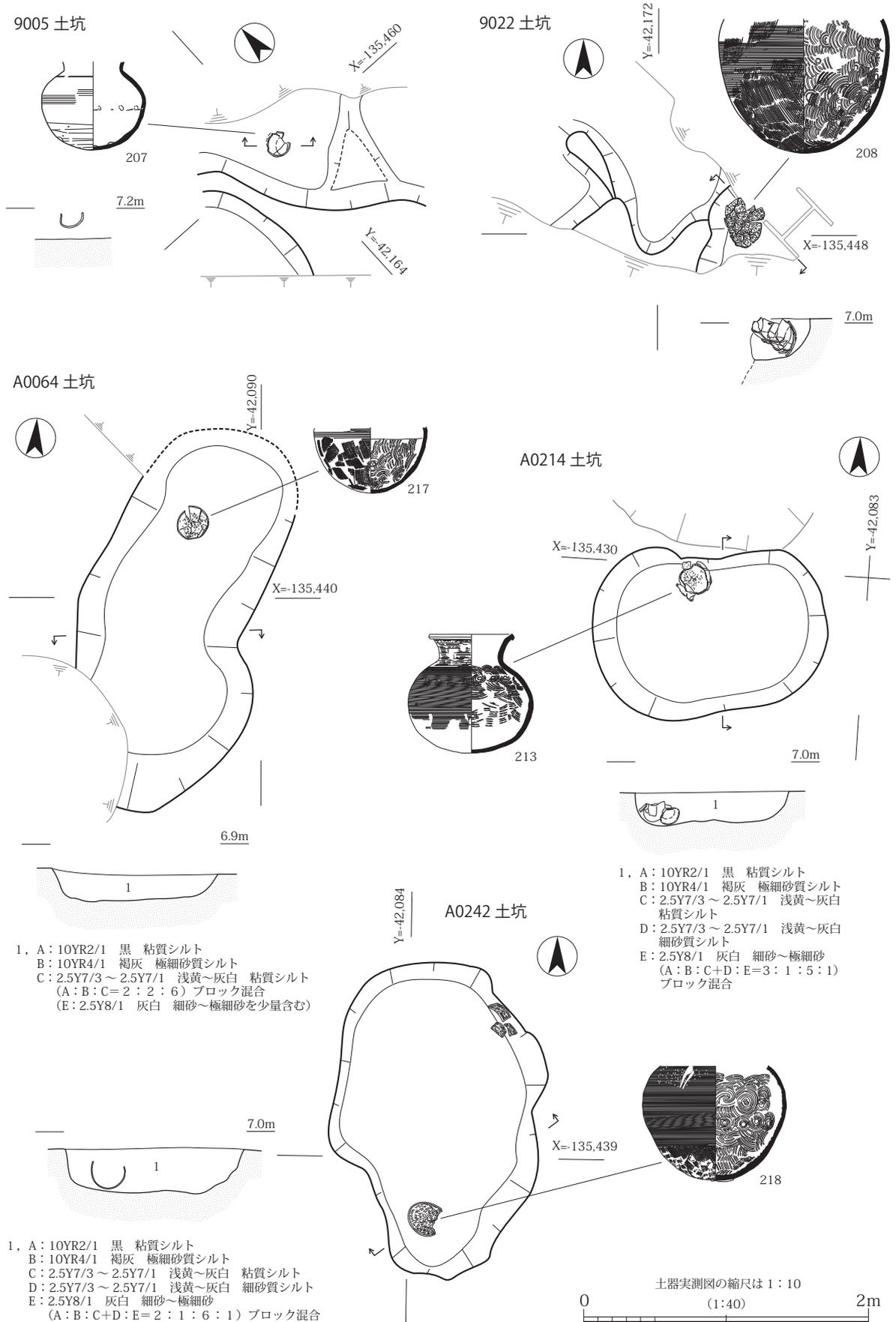
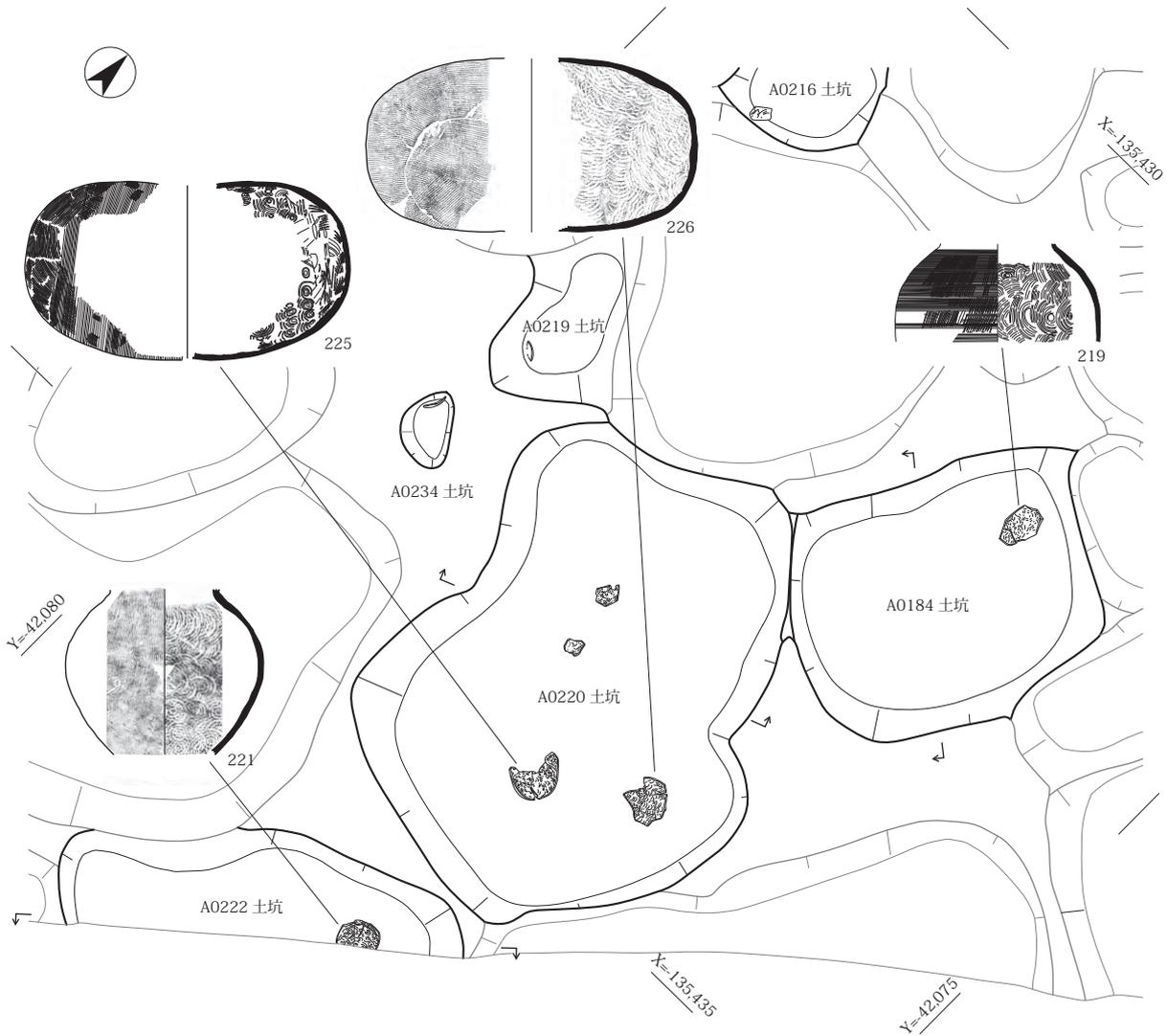
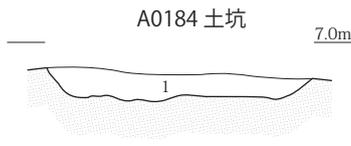


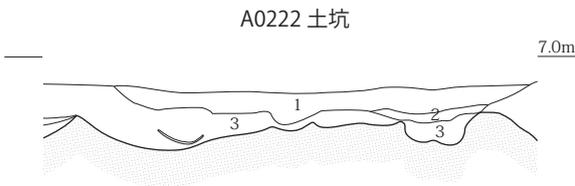
図90 群集土坑 遺物出土状況 平面図・断面図(1)



- 1, A: 10YR2/1 黒 粘質シルト
- B: 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルト
- C: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 粘質シルト
- D: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 細砂質シルト
- E: 2.5Y8/1 灰白 細砂~極細砂
- (A : B : C+D : E = 1 : 1 : 7 : 1) ブロック混合



- 1, A: 10YR2/1 黒 粘質シルト
- B: 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルト
- C: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 粘質シルト
- D: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 細砂質シルト
- E: 2.5Y8/1 灰白 細砂~極細砂
- (A : B : C+D : E = 3 : 1 : 4 : 2) ブロック混合



- 1, B: 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルト
- C: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 粘質シルト
- D: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 細砂質シルト
- (B : C+D = 7 : 3) ブロック混合
- 2, N6/0 ~ 5Y6/1 灰 粘質シルト
- 3, A: 10YR2/1 黒 粘質シルト
- B: 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルト
- C: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 粘質シルト
- D: 2.5Y7/3 ~ 2.5Y7/1 浅黄~灰白 細砂質シルト
- E: 2.5Y8/1 灰白 細砂~極細砂
- (A : B : C+D : E = 4 : 1 : 4 : 1) ブロック混合

土器実測図の縮尺は 1 : 10

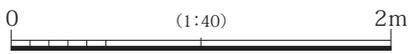


図 91 群集土坑 遺物出土状況 平面図・断面図 (2)

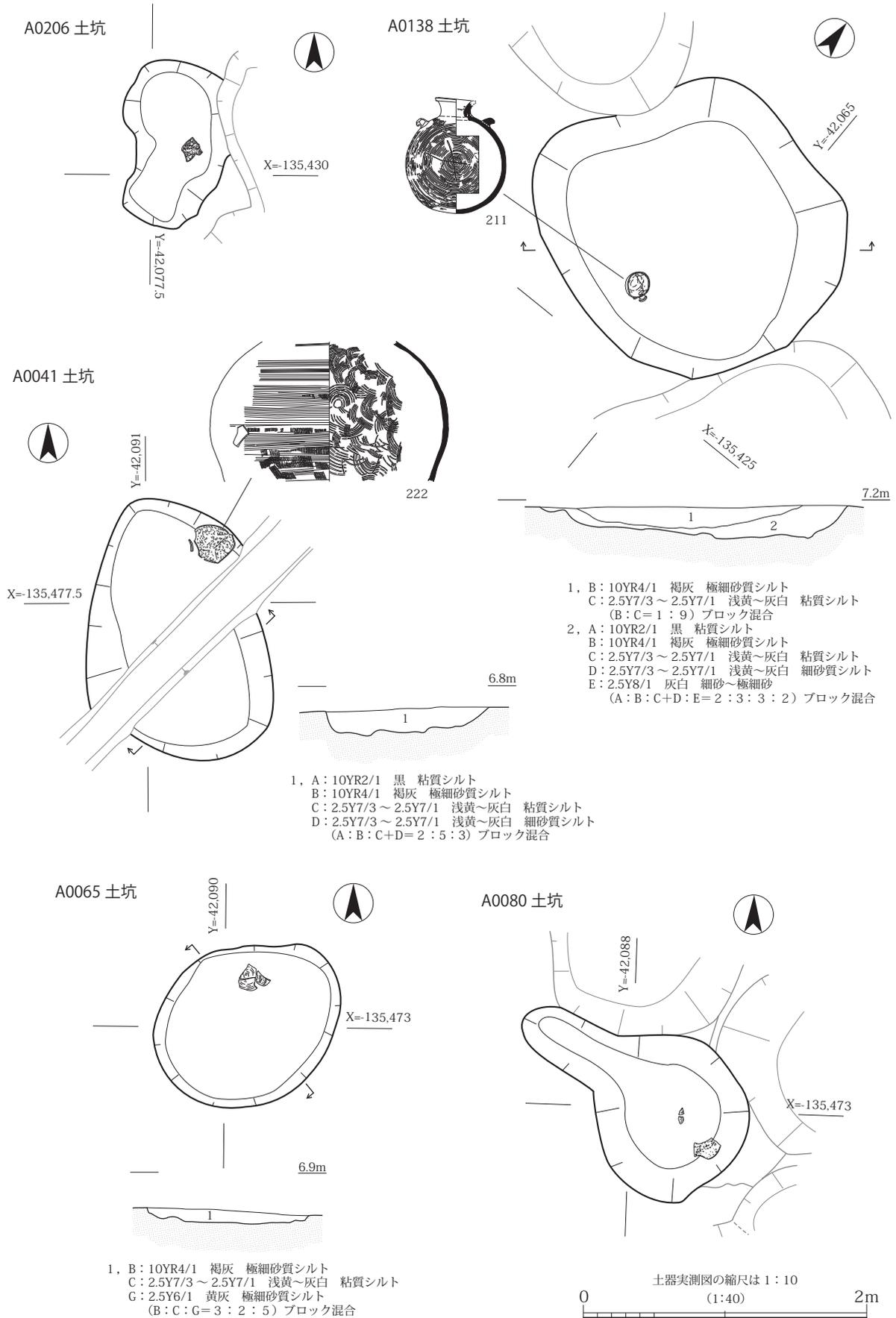


図92 群集土坑 遺物出土状況 平面図・断面図(3)

外になるため、全容は明らかでない不定形の土坑である。北西側を A0235 土坑と、西側を A0223 土坑と重複する。埋土は B タイプである。土坑底からやや浮いた状態で須恵器甕の体部片 (221) が出土した。

A0184 土坑 (図 91・94、写真図版 34-3) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。隅丸方形の土坑で、北東側を A0181・A0182 土坑と、南西側を A0220 土坑と重複する。埋土は A タイプである。底面からやや浮いた状態で須恵器甕の体部片 (219) が出土した。

A0206 土坑 (図 92・95、写真図版 36-1) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。不定形の土坑で、東側を A0179 土坑と重複する。埋土は A タイプである。土坑底からやや浮いた状態で須恵器横瓶の体部片が出土した。上述したように、A0180 土坑・A0200 土坑・A0220 土坑出土の須恵器横瓶片と接合した (226)。

A0138 土坑 (図 92・93、写真図版 36-2・36-3・44-6・132) エリア②とした 09-3:1-2 区で検出した。円形の土坑で、北西側を A0134 土坑と、南東側を A0139 土坑と接する。埋土は A タイプである。底面からやや浮いた状態で、体部を半分欠損する須恵器提瓶 (211) が出土した。

A0041 土坑 (図 92・94、写真図版 37-1) エリア③とした 09-3:1-2 区で検出した。楕円形の土坑で A0038 土坑と隣接する。埋土は A タイプである。北側の壁面に接して須恵器甕の体部片 (222) が出土した。

A0065 土坑 (図 92・94、写真図版 37-2) エリア③とした 09-3:1-2 区で検出した。円形の土坑で A0067 土坑と隣接する。浅い土坑で、埋土は A タイプである。底面からやや浮いた状態で須恵器甕の体部片及び口縁部片が出土した。接合関係にはないが、胎土や焼成具合から同一個体の可能性が高い。なお、口縁部片 (216) は、隣接する A0067 土坑出土須恵器及び第 8 層出土須恵器と接合した。

A0080 土坑 (図 92・写真図版 37-3) エリア③とした 09-3:1-2 区で検出した。不定形の土坑で北側を A0082 土坑と、東側を A0076 土坑と重複する。南東側の壁面に接して須恵器の壺もしくは甕の体部片が出土した。

今回の調査で検出した群集土坑のうち、遺物が出土した土坑は 108 基ある (表 5)。これは全体の 22% にあたる。種類としては、土師器・須恵器・石製品がある。群集土坑出土遺物のうちもっとも多いのは須恵器である。須恵器の中でも、壺・甕に分類される器種が圧倒的に多い。また、一つの土坑からは大量に遺物が出土することはなく、通例数点出土する程度である。しかも、出土遺物については完形になるものではなく、全体が復元できないほどに割れた破片が多い。ある程度形を残すものも、やはりどこかしら欠損している。

また、一部上述したが、土坑間で遺物が接合した例が見られる。既述したもの以外に、隣接する 2040 土坑と 2043 土坑から出土した須恵器が接合した例 (図 97-241)、隣り合う 2072 土坑・2073 土坑・2083 土坑から出土した須恵器が接合した例 (図 96-240)、およそ 5 m 程度の範囲内に点在する 2093 土坑・2100 土坑・2103 土坑・2115 土坑から出土した須恵器が接合した例 (図 96-233)、約 1 m 離れた 13018 土坑と 13021 土坑から出土した須恵器が接合した例 (図 96-227) がある。これらは、異なる土坑から出土した土器が接合したわけであるが、それによって完形になるということではなく、接合しても破片のままという状況であった。

(群集土坑出土遺物) (図 93～97、写真図版 132・133)

群集土坑の埋土中から、土師器・須恵器・石製品が出土した。土師器には、高杯・把手他がある。須恵器には、蓋杯・高杯・壺・甕・横瓶・提瓶他がある。石製品は、いずれもサヌカイト製の石鏃・剥片

であり、弥生時代以前に属する遺物として第2節でまとめて報告している。

204～208は、11-1:9-1・9-2区検出の群集土坑から出土した須恵器である。204は杯蓋で、外面にヘラ記号がある。205は杯蓋もしくは高杯の蓋。206は杯身。207は壺。口縁部の形態は明らかでないが、肩部に一条の浅い沈線が巡り、底部外面をケズリにより調整する。208は甕。タタキ成形のちカキメを施す。いずれも6世紀の所産と思われるが、204は6世紀前半、他は6世紀後半になろうか。また、208は口縁部形態が不明であり、7世紀に下る可能性もある。

209～226は、09-3:1-1・1-2区検出の群集土坑から出土した須恵器である。209は杯蓋。210は杯身。211は提瓶。鍵状の把手が付き、体部にヘラ記号が見られる。212～215は壺。212・213は内面に当て具痕が残る。214・215は体部にカキメ、底部にケズリを施す。形状は、やや肩が張るものと球形のものとの差異がある。213は焼成不良で白色軟質である。216～223は甕。いずれも肩がやや張る形状で、タタキ成形のちカキメを施す。カキメの施し方にやや粗密が見られる。なお、218は底部に円形の溶着痕があり、杯の痕跡かと思われる。224～226は横瓶。224は外面カキメ、内面ナデを施すが、225・226は外面にタタキの痕跡が、内面には当て具の痕跡が明瞭に残る。224には被蓋部の継ぎ目が残る。いずれも6世紀～7世紀の所産と考えられる。

227～229は、11-1:13区検出の群集土坑から出土した須恵器である。227・228は杯蓋。口縁部と天井部を分ける稜は見られず、口縁端部内側に弱い段が辛うじて見られる。229は壺の頸部から肩部。肩部に沈線と斜めに列点文を施す文様が見られる。227・228は6世紀後半の所産と思われるが、229はやや古く5世紀代の所産になろうか。

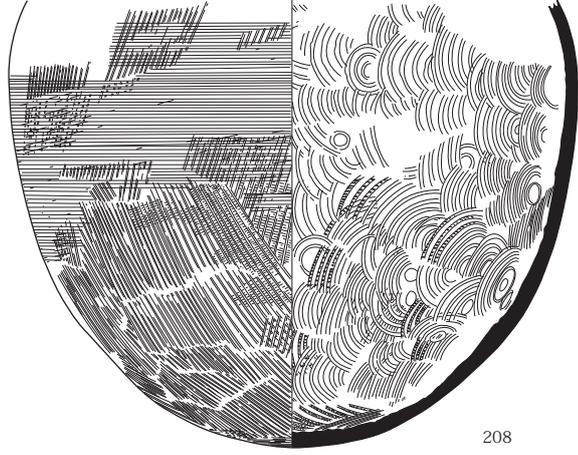
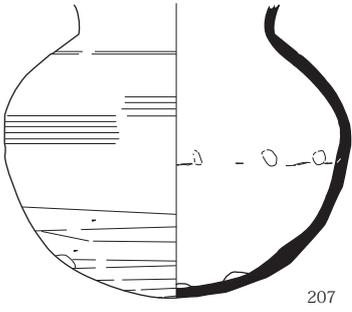
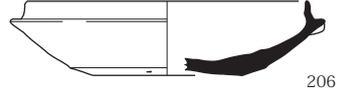
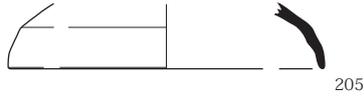
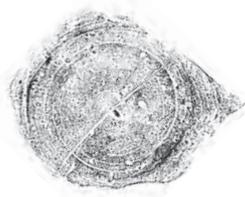
230～243は、12-1:2-2・2-3区検出の群集土坑から出土した須恵器である。230は杯蓋。口縁部と天井部を分ける稜があり、口縁端部に段が見られる。231・232は壺。231の頸部には円形の文様が2つ並ぶ。232は底部にケズリを施す。233は提瓶である。肩部の痕跡から鍵状の把手が付くものと推定される。234は横瓶の肩部である。内面に当て具痕が残る。235～243は甕である。235～238は頸部から口縁部で、口縁端部は丸くおさめるものである。頸部の高さは3～4cm程度である。断面観察から、端部を折り返して肥厚させ丸くおさめているものと推定される。240は他と比べて口径が小さく、口縁端部に面を持ち、やや凹ませる。頸部高も2cm程度とやや低く、ほかの甕とは様相を異にする。241の甕は、体部外面にカキメを施さない点で、他のものと異なる。甕は、どれも内面に当て具痕を明瞭に残す。いずれも、6世紀代の所産と考えられる。243は口縁部形態が不明であり、7世紀に下る可能性もある。

以上、群集土坑から出土した遺物は、概ね6世紀代を中心とするものと考えられる。しかし、甕の体部や図示できなかった破片の中には、7世紀に下る可能性がある遺物も含まれる。

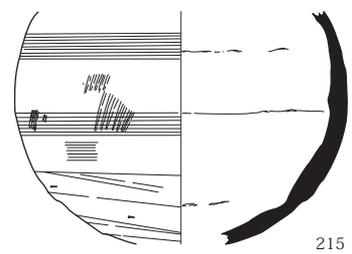
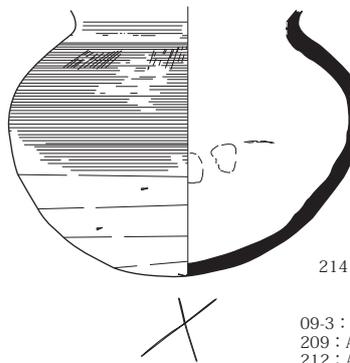
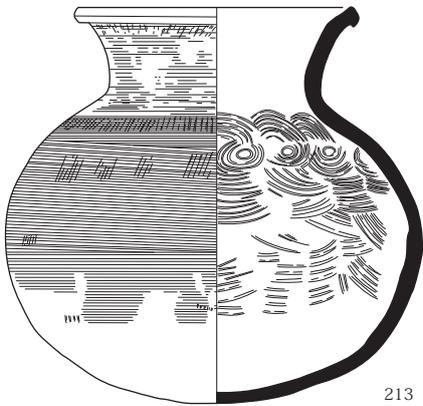
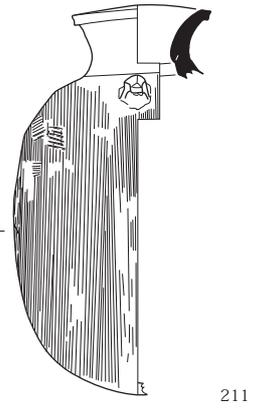
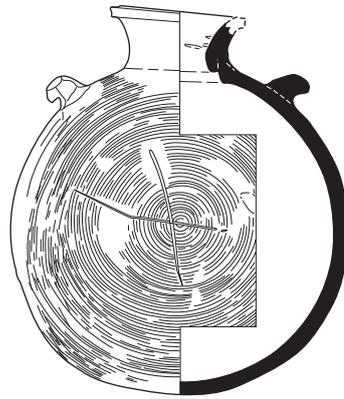
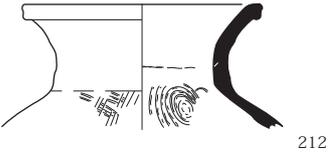
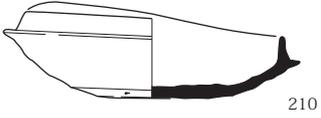
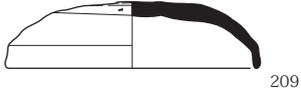
(群集土坑小結)

個々の土坑についての成果は作成した一覧表(表4)を参照いただきたい。ここでは群集土坑の成果について整理し、総論的にまとめておきたい。

群集土坑の分布状況の特徴として、いずれも緩やかな傾斜面に沿うように帯状に検出されたことが挙げられる。その緩やかな傾斜面は、どれも弥生時代以前に形成された谷に向かって傾斜している。その谷も、古墳時代には、堆積作用の進行により一定程度埋まってはいるが、まだ周囲よりも低い地形であった。弥生時代以前の成果及び花粉珪藻分析の成果をもとにすれば、弥生時代の谷部は湿原的な環境であったようで、土層観察からすると古墳時代もさほど変わらない環境であったものと推定される。群集



11-1: 9-1区・9-2区出土遺物
 204: 9001 土坑 205: 9002 土坑 206: 9007 土坑
 207: 9005 土坑 208: 9022 土坑



09-3: 1-1区・1-2区出土遺物
 209: A0037 土坑 210: A0161 土坑 211: A0138 土坑
 212: A0169 土坑 213: A0214 土坑 214: A0014 土坑
 215: A0063 土坑

0 (1:4) 10cm

图 93 群集土坑 出土遺物 (1)

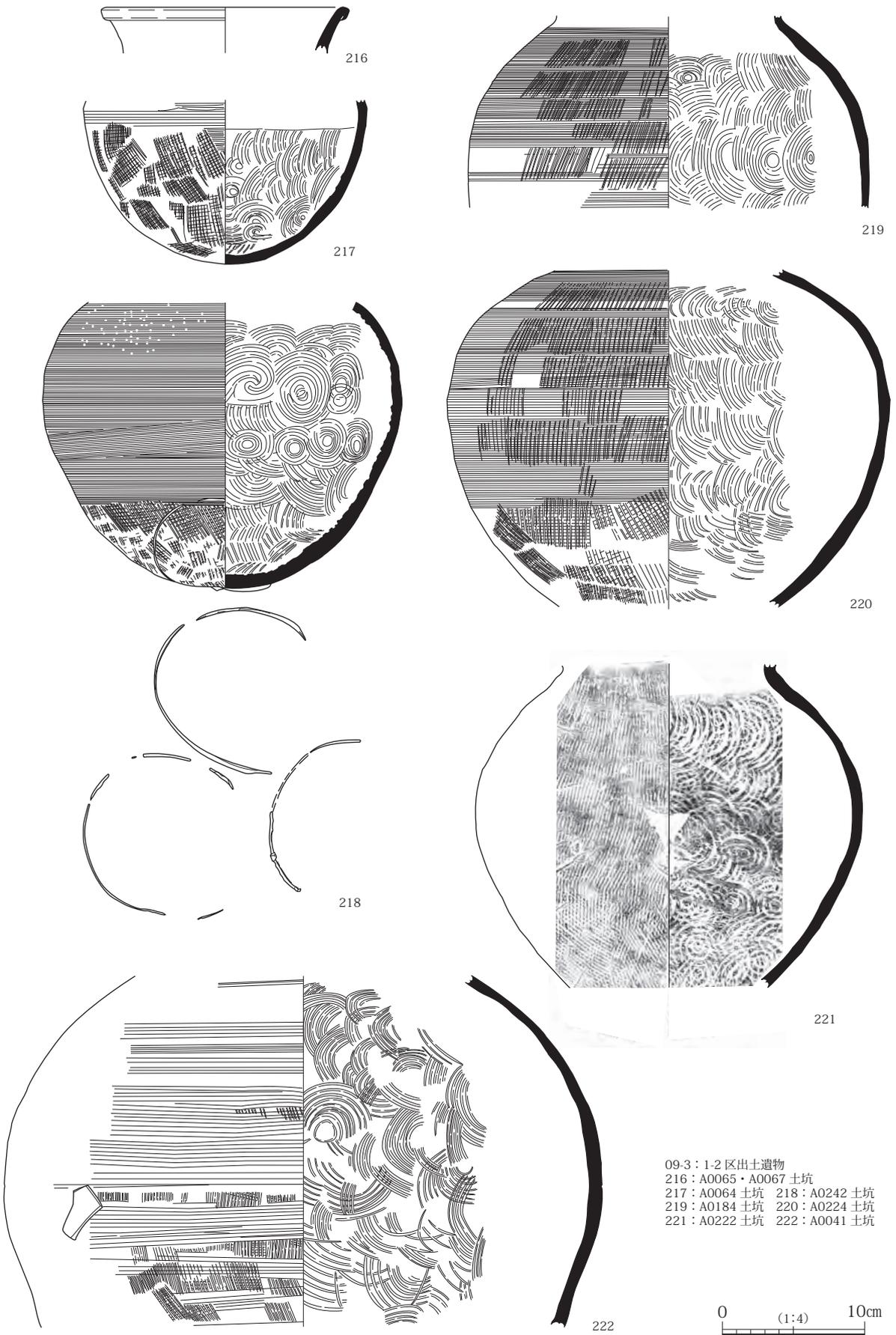
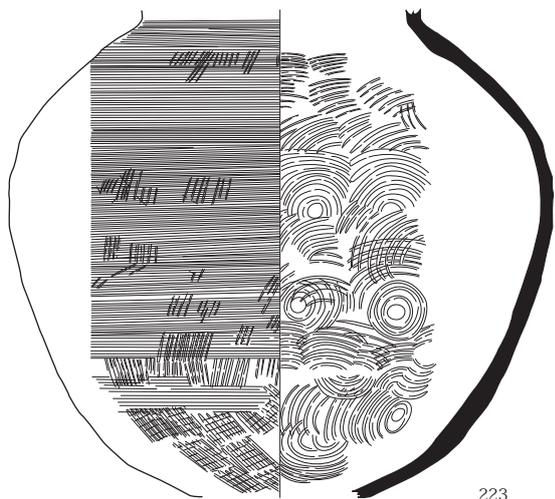
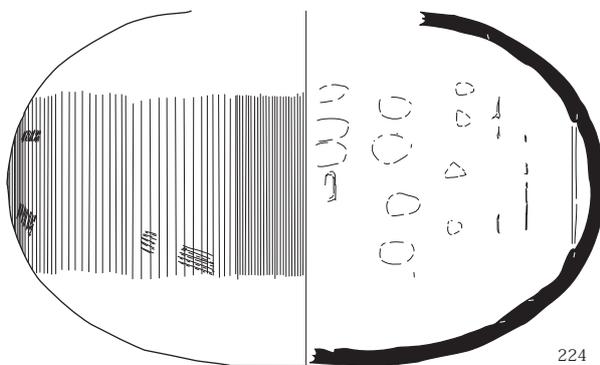


図94 群集土坑 出土遺物(2)

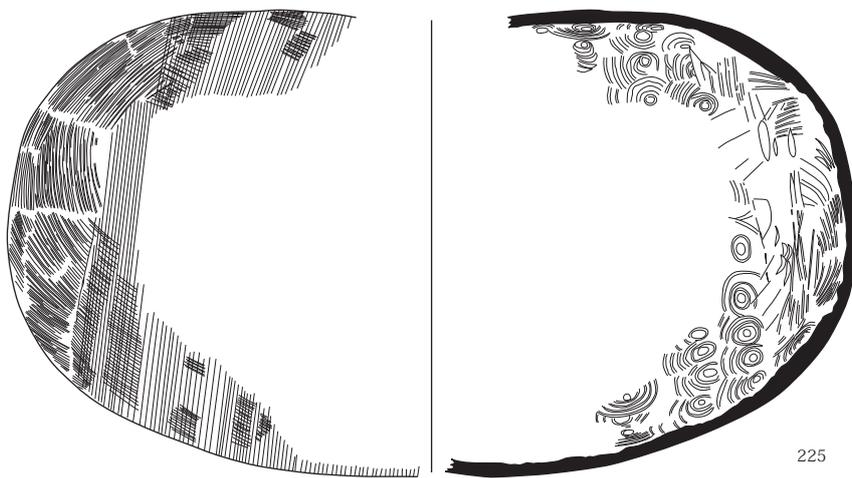


223

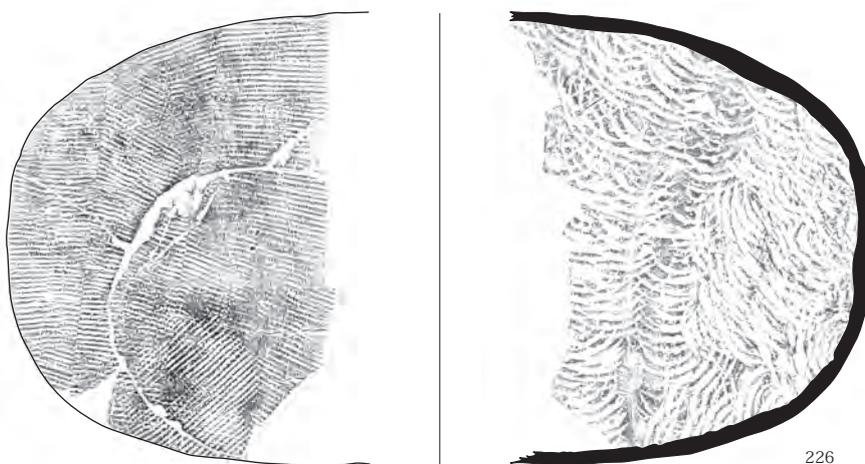
09-3: 1-2 区出土遺物
 223: A0180・A0199・A0220・A0234 土坑 224: A0077 土坑
 225: A0220 土坑 226: A0180・A0200・A0206・A0220 土坑



224



225



226

0 (1:4) 10cm

图 95 群集土坑 出土遺物 (3)

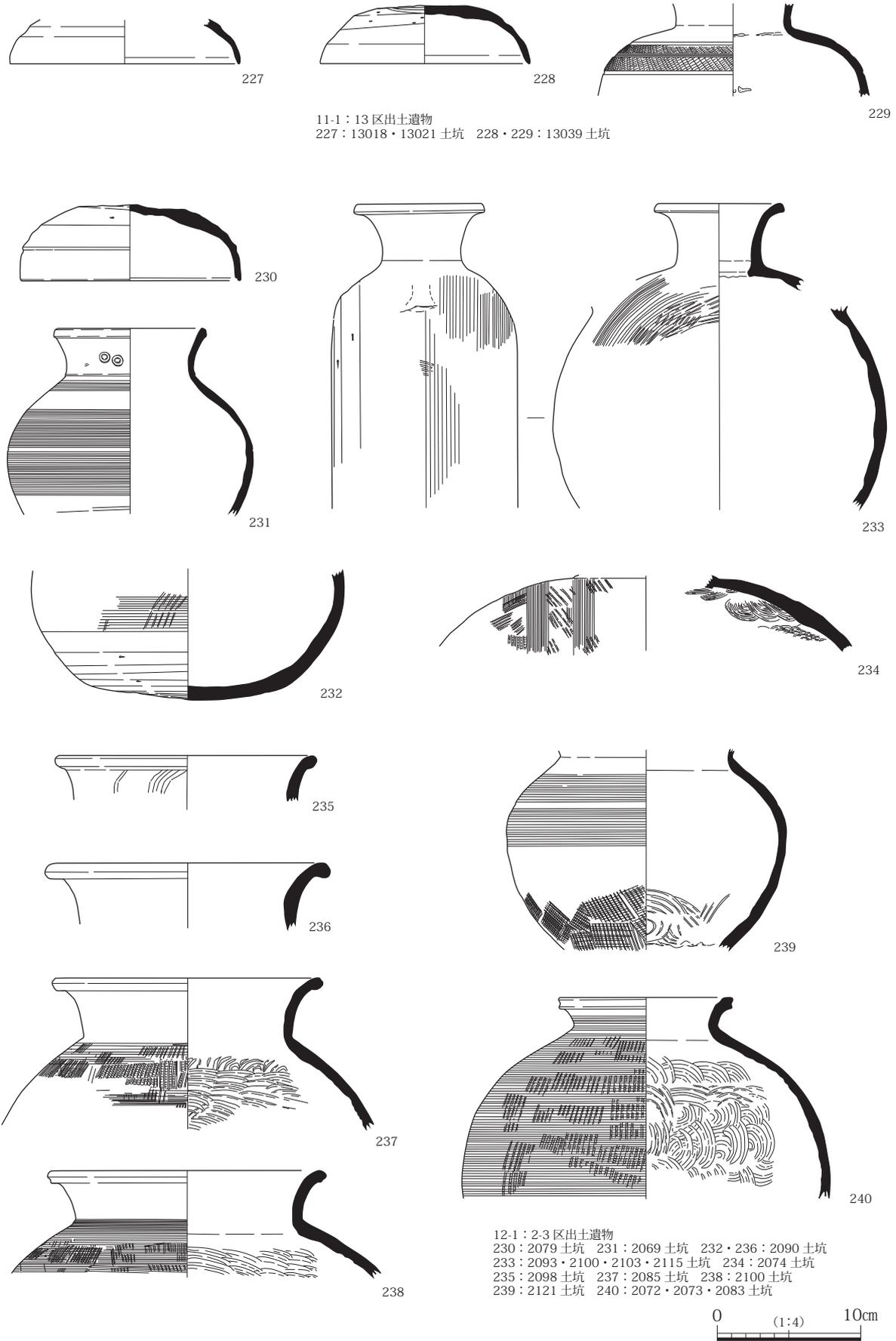
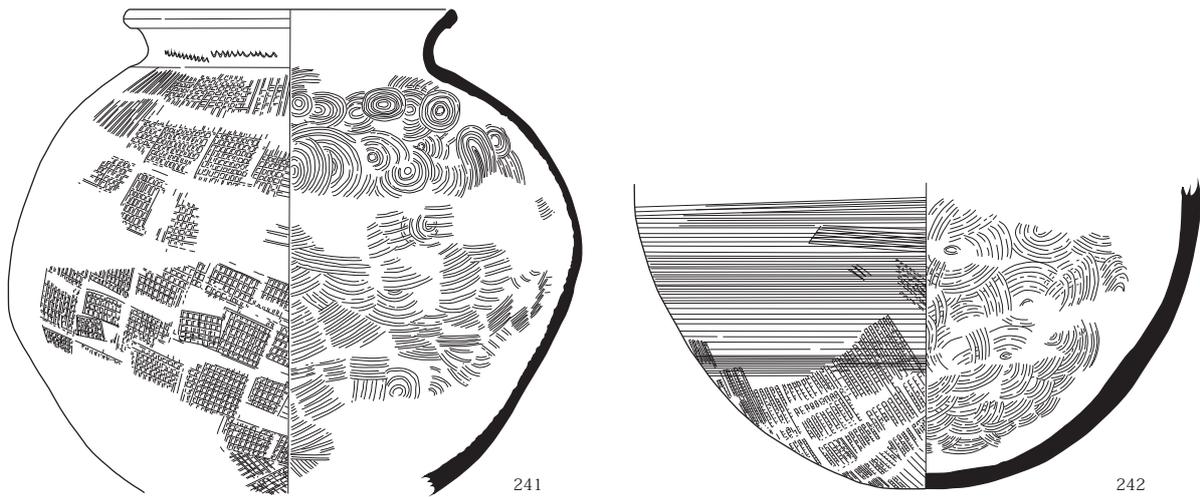


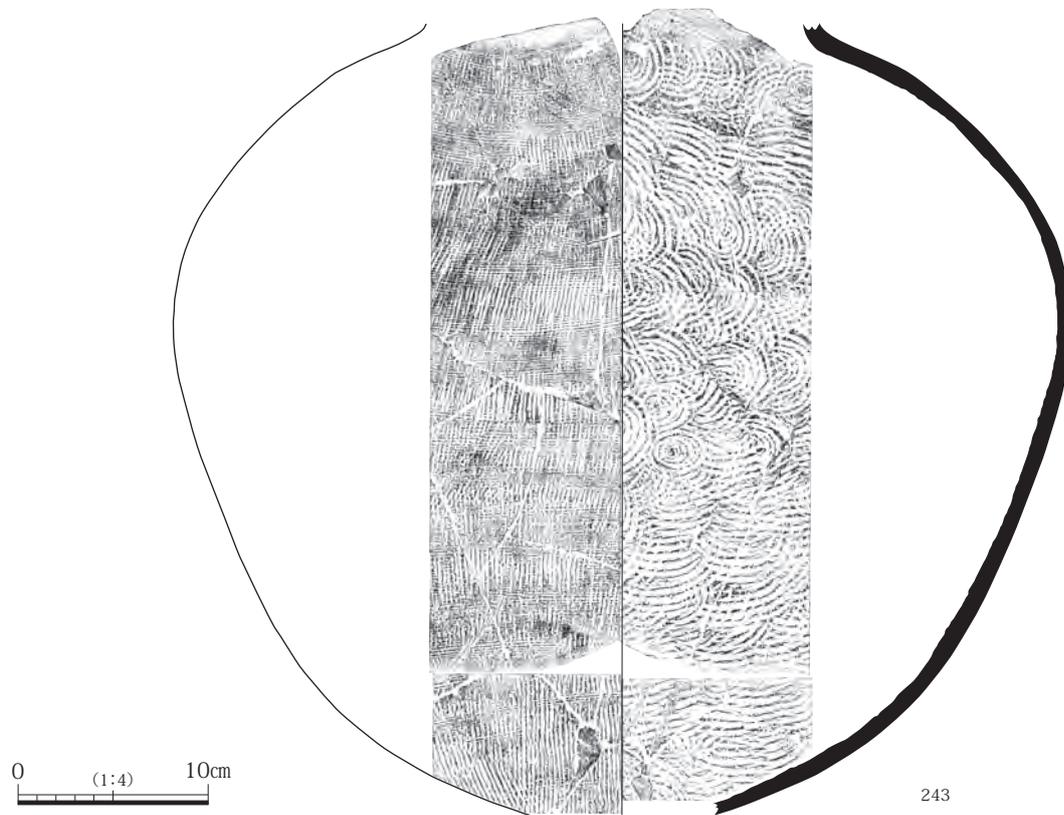
図 96 群集土坑 出土遺物 (4)



241

242

12-1 : 2-2・2-3区出土遺物
 241 : 2040・2043土坑 242 : 2087土坑 243 : 2084土坑



243

図97 群集土坑 出土遺物（5）

土坑が当地で多く検出される理由には、この谷地形が大きく関係している可能性が高い。いずれの群集土坑もこの谷部の地形に沿って多く認められるからである。後述するが、この群集土坑は当地に堆積した粘土を採掘した痕跡である蓋然性が高い。谷地形では水際において表土層が洗われ基盤層が露頭しているような状況が想定されるため、比較的容易に粘土層を認識できたのではないかと推測する。

群集土坑埋土について、A～Dの大きく4つに分類したが、A～Cは明瞭なブロック土により、人為的に埋め戻されるという共通した特徴がある。人為的に埋め戻された過程についても、埋土観察から得



図98 群集土坑 遺物出土土坑 分布図(1)

られた情報をもとに想定しておきたい。A Aタイプの埋土は、旧表土層と思われる黒色系ブロック土が土坑底の最下部にまとまって認められることから、土坑を掘削した排出土を仮置して再び同じ土坑に戻して埋めたという行動は想定し難い。表土から掘削して隣接するすでに口の開いた土坑に放り込むという行動によって形成されたものの可能性が考えられよう。また、Cタイプ埋土のように、掘削後しばらく埋め戻されない期間が存在する土坑も一定程度存在する。これらを考慮すれば、土坑の掘削は、埋め

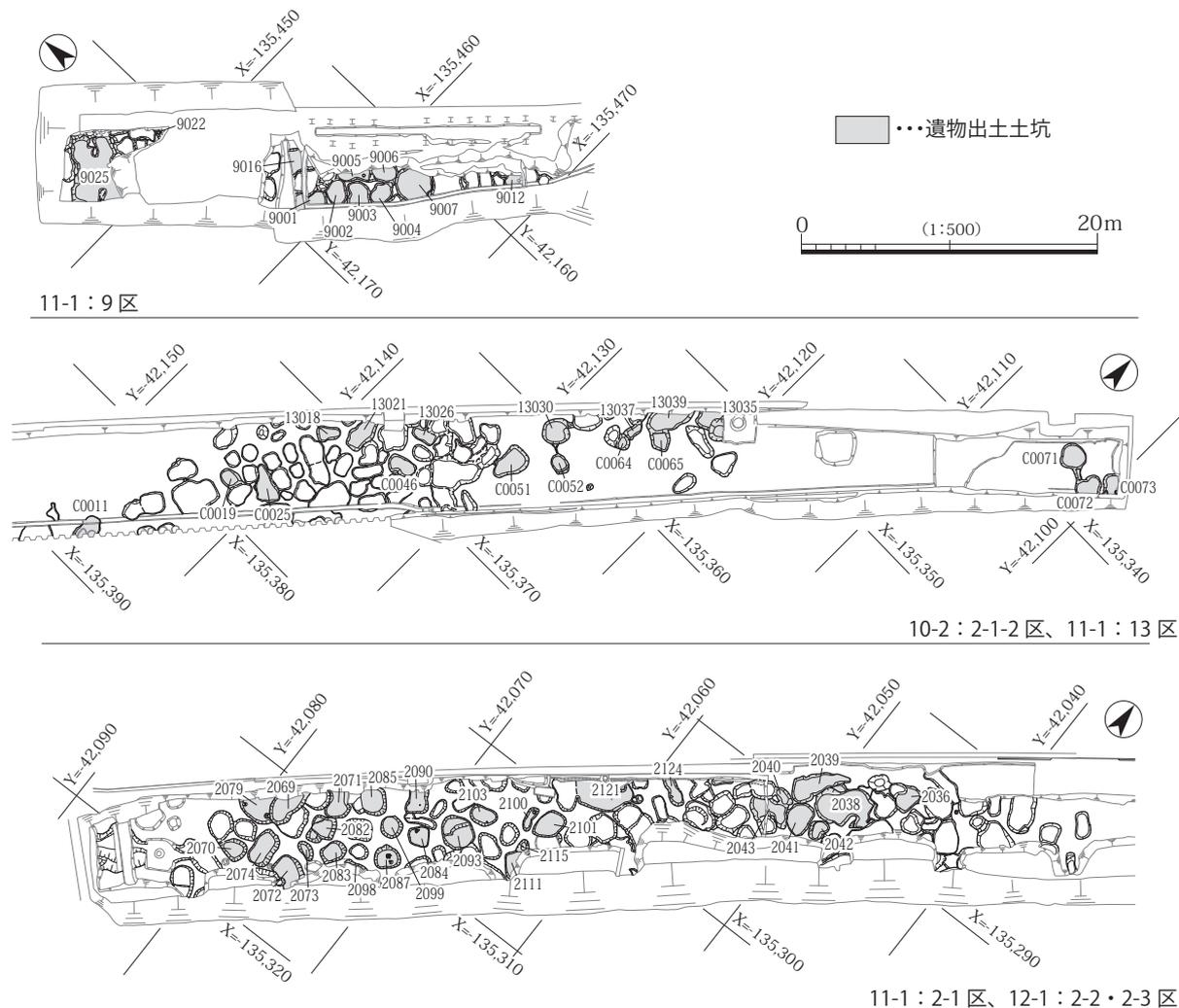


図99 群集土坑 遺物出土土坑 分布図(2)

戻すことを前提としない掘削であった可能性が高い。また、土坑は底面の砂質が強くなる場所で掘削を停止する傾向が見られ、確実に地山層上部の粘質土を掘削していることから、吹田操車場遺跡の過去の調査で指摘されているように、群集土坑は粘土採掘坑である可能性が高いものと判断する。周辺環境として、千里丘陵一帯に築かれた窯跡群のうち吹田市域に属するものが、北西約1kmの地点に点在していることも、この想定を補強する状況証拠となろう。

2. 溝

C0086 溝 (図100、写真図版26-3) 10-2:2-1-2区・11-1:13区の南西端において、第9-1層上面で検出した。北西-南東方向を指向する。幅1.3~0.8m、深さ0.6mを測り、検出長約4mである。断面形は逆台形である。埋土は明瞭なラミナが見られる中砂~細砂を主体とした自然堆積層である。北側は調査区外へと延び、南側は攪乱される。第2節で報告した13008溝とほぼ同じ箇所を通ることから、10022谷が埋積していく過程の最深部を通る溝であろう。

平面調査時には気付かなかったが、断面観察の結果、この溝に先行する一段階古いC0093溝の存在が明らかとなった(図61の13008溝断面図参照)。C0093溝もラミナが明瞭な自然堆積層で埋没する。なお、

表5 群集土坑出土遺物一覧

| 土坑番号 | 須恵器 | | | | | | 土師器 | | | 焼成不良 | 調査区 | 備考 | |
|-------|-----|----------|--------|--------|----|---------|-----|---------|-----|------|-----|--------------|-----------------------------|
| | 蓋杯 | 高杯 or 高杯 | 壺 or 甕 | 甕 or 甕 | 横瓶 | その他 | 不明 | 高杯 | その他 | | | | 不明 |
| 9001 | 3 | | | | | | | | | | | 11-1:9-1,9-2 | 6Cか天井部へラ記号あり |
| 9002 | 1 | | | | | | | | | | | 11-1:9-1 | TK209 |
| 9003 | | | 1 | | | | | 把手 1 | | | | 11-1:9-1 | |
| 9004 | 1 | | | | | | | | 1 | | | 11-1:9-1 | |
| 9005 | | | 1 | | | | | | | | | 11-1:9-1 | 6C後半か |
| 9006 | 2 | | | | | | | | | | | 11-1:9-1 | |
| 9007 | | 杯1 | | | | | | | | | | 11-1:9-1 | TK209 |
| 9012 | | | 1 | | | | | | | | | 11-1:9-1 | |
| 9016 | | | | | | | | | | 1 | | 11-1:9-1,9-2 | |
| 9022 | | | | 1 | | | | | | | | 11-1:9-2 | 6～8Cか |
| 9025 | | | | | 1 | | | | | | ○ | 11-1:9-2 | |
| A0014 | | | 1 | | | | | | | | | 09-3:1-1 | 6C中～後半かへラ記号 |
| A0015 | | | | 1 | | | | | | | ○ | 09-3:1-1 | |
| A0020 | | | | | | | | | | 3 | | 09-3:1-1 | |
| A0022 | | | | | | | | | | 2 | | 09-3:1-1 | |
| A0023 | | | | | | | | | | 1 | | 09-3:1-1 | 弥生? |
| A0026 | | 1 | | | | | | | | 1 | | 09-3:1-1 | |
| A0032 | | | | 2 | | | | | | | | 09-3:1-1 | |
| A0034 | | | | | | | | | | 3 | | 09-3:1-1 | |
| A0035 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-1 | |
| A0037 | 1 | | | | | | | | | | | 09-3:1-2 | 7Cか |
| A0038 | | | 1 | 1 | | | | | | | ○ | 09-3:1-1 | |
| A0041 | | | 1 | | | | | | | | | 09-3:1-2 | 7Cか |
| A0042 | 2 | | | | | | | | | | | 09-3:1-1 | |
| A0045 | | | | | | | | | | 3 | | 09-3:1-1 | |
| A0046 | | 1 | | | | | | | 1 | | | 09-3:1-1 | |
| A0055 | | | | | | 1 | | | | | | 09-3:1-2 | ひずみ有 |
| A0060 | | | | | | | | | | 1 | | 09-3:1-2 | |
| A0062 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | |
| A0063 | | | 1 | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | 6C後半か |
| A0064 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | 7Cか |
| A0065 | | | | 2 | | | | | | | ○ | 09-3:1-2 | A0067と接合 |
| A0067 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | 6C後半か A0065と接合 |
| A0075 | | | | | | | 1 | | | | | 09-3:1-2 | ひずみ有 |
| A0076 | | 2 | | | | | | | | | 1 | 09-3:1-2 | 凹基式、サヌカイト石鏝 |
| A0077 | | | | | 1 | | | | | | | 09-3:1-2 | 7Cか |
| A0080 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | |
| A0081 | | | | 2 | | 1 | | | | | | 09-3:1-2 | |
| A0102 | | | | 2 | | | | | | | | 09-3:1-3 | |
| A0138 | | | | | | 提瓶 1 | | | | | | 09-3:1-2 | 6C後半へラ記号 |
| A0153 | | | | | 1 | | | | | | ○ | 09-3:1-2 | |
| A0161 | | 杯1 | | | | | | | | | | 09-3:1-2 | 6C後半か |
| A0169 | | | 1 | 1 | | | | | | | ○ | 09-3:1-2 | 6C後半か |
| A0179 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | |
| A0180 | | | | | 3 | | | | | | | | |
| A0184 | | | 1 | | | 2 | | | | | | 09-3:1-2 | 6Cか |
| A0199 | | | 1 | | | 1 | | | | | | 09-3:1-2 | 6～7C A0180, A0220, A0234と接合 |
| A0200 | | | | 1 | | | | | | 1 | | 09-3:1-2 | 凹基式、サヌカイト石鏝 |
| A0206 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| A0214 | | | 1 | | | | | | | | | 09-3:1-2 | 6C後半か |
| A0216 | | | | 2 | | | | | | | ○ | 09-3:1-2 | |
| A0219 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | |
| A0220 | | | | | 7 | 2 | | | | | ○ | 09-3:1-2 | A0180, A0200, A0206土坑と接合 |
| A0222 | | | | 1 | | | | | | | | 09-3:1-2 | 6～7C |
| A0224 | | | | 1 | | | | | | | ○ | 09-3:1-2 | 6～7C |
| A0234 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| A0239 | | | | | 2 | | | | | | ○ | 09-3:1-2 | |
| A0242 | | | 1 | 2 | | | | | | | | 09-3:1-2 | 6C |
| A0244 | | | | 1 | | | | | | | ○ | 09-3:1-2 | |

| 土坑番号 | 須恵器 | | | | | | 土師器 | | | 焼成不良 | 調査区 | 備考 | | |
|-------|-----|----------|--------|--------|----|-----|---------|---------|---------|------|-----|------------|--------------------------|-----|
| | 蓋杯 | 高杯 or 高杯 | 壺 or 甕 | 甕 or 甕 | 横瓶 | その他 | 不明 | 高杯 | その他 | | | | 不明 | 石製品 |
| A0255 | | | | | | | | | | | 1 | 09-3:1-2 | サヌカイト剥片 | |
| C0011 | | | | | | | | | | 1 | | 10-2:2-1-2 | | |
| C0019 | | | | | | | | | | | 1 | 10-2:2-1-2 | サヌカイト剥片 | |
| C0025 | | | | | | | | | 1 | | | 10-2:2-1-2 | | |
| C0046 | | | | | | 1 | | | | | | 10-2:2-1-2 | | |
| C0051 | | | | | 1 | | | | | 1 | ○ | 10-2:2-1-2 | | |
| C0052 | 1 | 1 | | | | | | | | | | 10-2:2-1-2 | (蓋杯) TK43～209 | |
| C0064 | | | | 1 | | | | | | | | 10-2:2-1-2 | | |
| C0065 | | | | 1 | | | | | | | | 10-2:2-1-2 | | |
| C0071 | | | | | 1 | | | | 1 | | ○ | 10-2:2-1-2 | | |
| C0072 | | | | 1 | 1 | | | | | | ○ | 10-2:2-1-2 | | |
| C0073 | | | | | | | | | 把手 1 | | | 10-2:2-1-2 | 古代か | |
| 13018 | 1 | | | | | | | | | | | 11-1:13 | TK43か 13021土坑と接合 | |
| 13021 | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 13026 | | | | | 1 | | | | | | ○ | 11-1:13 | | |
| 13030 | | 1 | | | | | | | | | | 11-1:13 | 6C代 | |
| 13035 | 3 | | | | | | | 1 | | | | 11-1:13 | | |
| 13037 | | | | | 1 | | | | | | | 11-1:13 | | |
| 13039 | 1 | | | 1 | | | | | | | | 11-1:13 | TK43か | |
| 2036 | | | | | 1 | | | | | | ○ | 12-1:2-2 | | |
| 2038 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-2 | | |
| 2039 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-2 | | |
| 2040 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-2 | TK43か 2043土坑と接合 | |
| 2041 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-2 | | |
| 2042 | | | | | | 1 | | | | | | 12-1:2-2 | | |
| 2043 | | | | | | 3 | | | | | | | | |
| 2069 | | | | 1 | | 2 | | | | | | 12-1:2-3 | 6C 外面頸部に竹管による記号文 | |
| 2070 | | | 1 | | | | | | | | | 12-1:2-3 | | |
| 2071 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-3 | | |
| 2072 | | | | | 1 | | | | | | | | | |
| 2073 | | | | | 1 | | | | | | | | | |
| 2074 | | | | | | 2 | | | | | | 12-1:2-3 | 6C | |
| 2079 | 1 | | | | | 2 | | | | | | 12-1:2-3 | TK10 | |
| 2082 | | | | | | 1 | | | | | | 12-1:2-3 | | |
| 2083 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-3 | 6Cか 2072, 2073土坑と接合 | |
| 2084 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-3 | 7Cか | |
| 2085 | | | | | 1 | 1 | | | | | | 12-1:2-3 | 6C後半か | |
| 2087 | | | | 1 | 2 | | | | | | ○ | 12-1:2-3 | 6C～ | |
| 2090 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-3 | TK43か | |
| 2093 | | | | | | | | 提瓶 1 | | | | | | |
| 2098 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-3 | TK43か | |
| 2099 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-3 | | |
| 2100 | | | | | 1 | | 1 | | | | | 12-1:2-3 | TK43か | |
| 2101 | | | | | 1 | | | | | | | 12-1:2-3 | | |
| 2103 | | | | | | | 提瓶 1 | | | | | | | |
| 2111 | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 2115 | | | | | | | | 提瓶 1 | | | | 12-1:2-3 | 6C 2093, 2100, 2103土坑と接合 | |
| 2121 | | | | 1 | | | | | | | | 12-1:2-3 | 6Cか | |
| 2124 | | | | | 1 | | | | | | ○ | 12-1:2-3 | | |

谷地形部分の調査の進展に伴い、当初基本層序で第7層とした砂層は、このC0093溝の埋土の最上層に相当すると考えられるに至ったが、第7層の名称はそのまま使用することとした。そのため、C0086溝は、C0093溝埋土でもある第7層を切って形成されていることとなる。ほぼ同じ箇所には2条の溝があるが、人による掘り直しの結果であるのか、自然の営力によるものなのか明らかでない。どちらの溝も地形を考慮すると北西から南東への流水が考えられる。遺物の出土はない。

10017 溝 (図 100) 11-1:10-2 区において第9-1層上面で検出した。北西-南東方向を指向する。幅 1.2～0.8 m、深さ 0.3 m を測り、検出長約 14 m である。断面形は逆台形である。埋土は粗砂～細砂を主体とした自然堆積層である。断面観察の結果、第7層とする細砂～極細砂を切って形成されていることが明らかとなった。そのため、溝の本来の深さは 0.6 m 程度あったと考えられる。第2節で報告した 10011 溝とほぼ同じ箇所を通ることから、10022 谷が埋積していく過程の最深部を通る溝であろう。地形を考慮すると北西から南東へ水が流れていたと考えられる。なお、大規模な攪乱により分断されるが、溝の位置と埋土の類似を考慮すれば、前述の C0086 溝と一連の溝である可能性が高い。遺物の出土はなかった。

A0012 溝 (図 101・102、写真図版 58・59・133) 09-3:1-1・1-2 区において地山上面で検出した。北-南方向を指向する。幅 1.6～0.7 m、深さ 0.2 m を測り、検出長約 50 m である。断面形は椀形・逆台形を呈する。埋土は下部に機能時と考えられる水成堆積が見られ、上部はブロック土を主体とする。溝底の標高は、群集土坑が見られない溝断面 D 付近が最も高く、北と南へそれぞれ若干低くなっている。群集土坑との関係においては、A0086 土坑が溝埋土を切って形成されていることから、A0086 土坑が後出するという前後関係は見出せる。また、他の土坑は、溝を避けて形成されているようにも見受けられる。群集土坑に先んじて、すでにこの溝が存在していた可能性が高い。しかも、溝と群集土坑は隔たった年代に形成されたものではなく、ほぼ同時期であることは、後述する出土遺物の時期から見ても首肯される。溝と群集土坑は密接に関連あるものとして捉えておくべきであろう。

埋土中の機能時堆積層の上面から、須恵器杯蓋 (245)、須恵器杯身 (246)、須恵器壺 (247) が出土した。245 は天井部と口縁部の境は屈曲し、口縁端部内側に沈線をもつ。246 は口縁端部を丸くおさめる。247 の口縁端部は緩く面を持つようにおさめたもので、体部上半にカキメ、下半にケズリを施す。焼成不良で灰白色軟質である。出土遺物は 6 世紀中葉～後葉の所産と位置づけられ、当遺構は古墳時代後期に属すると考えられる。

B2016 溝 (図 103、写真図版 60-2) 09-3:2-2 区において地山上面で検出した。北西-南東方向を指向する。幅 1.8 m、深さ 0.7 m を測り、検出長約 8 m である。断面形は逆台形である。埋土は下部に流水を示す堆積があり、上部はシルト質粘土を主体とする。地形を考慮すれば、北西から南東へ流水していた可能性が高い。埋土中から、須恵器甕の体部片が出土したが図示し得なかった。群集土坑から出土した甕と類似するが、カキメの施し方が粗雑である。やや時期が下る可能性もある。

B2023 溝 (図 103、写真図版 60-1) 09-3:2-2 区において地山上面で検出した。北-南方向を指向する。幅 1.4 m、深さ 0.5 m を測り、検出長約 9 m である。断面形は V 字形であり、埋土はシルトを主体とする。遺物の出土はなかった。弥生時代以前に属する可能性もある。

B2025 溝 (図 103) 09-3:2-2 区において地山上面で検出した。北-南方向を指向する。幅 0.8 m、深さ 0.4 m を測り、検出長約 5 m である。断面形は逆台形で、埋土はシルトを主体とする。遺物の出土はなかった。弥生時代以前もしくは古代に属する可能性もある。

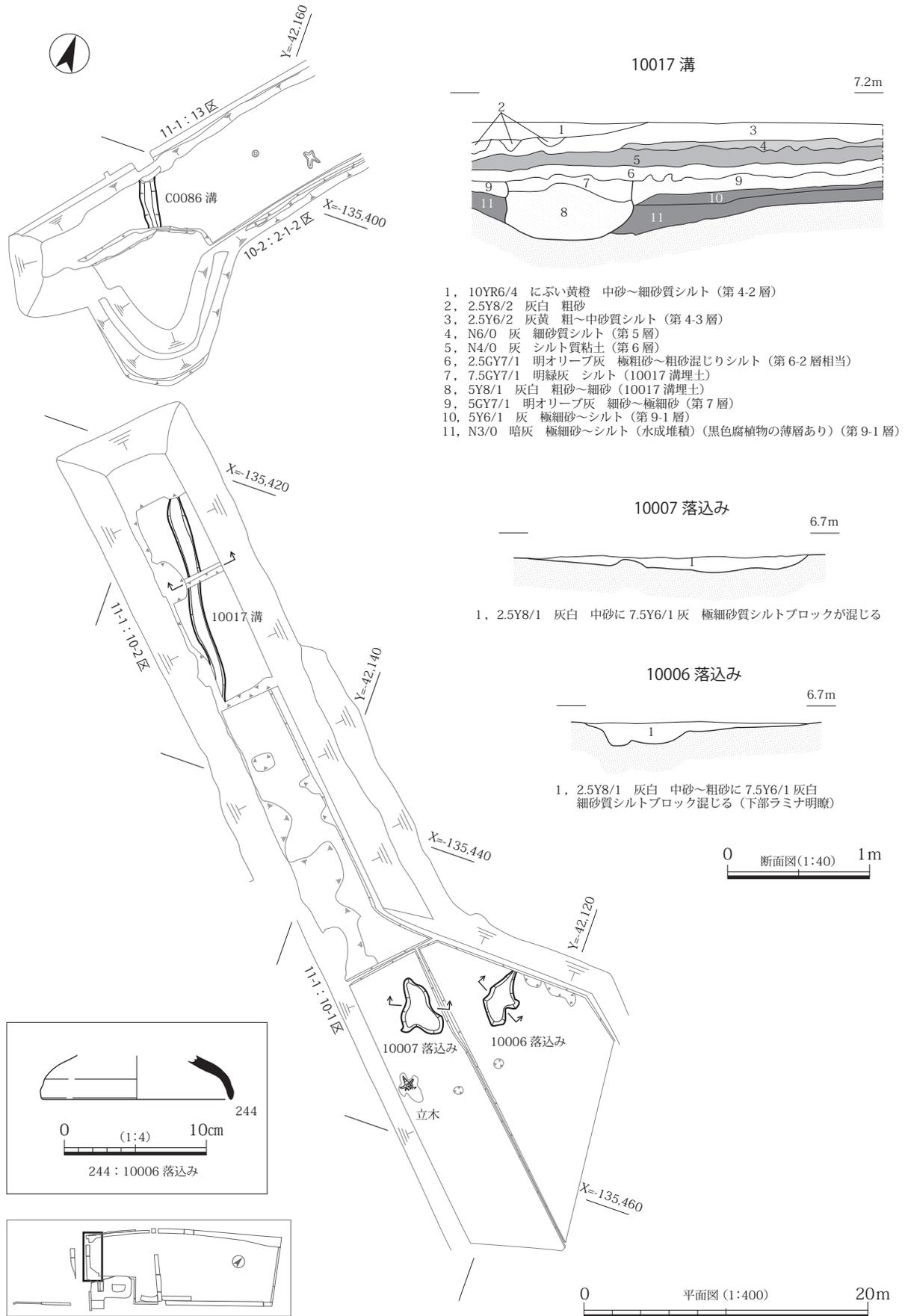
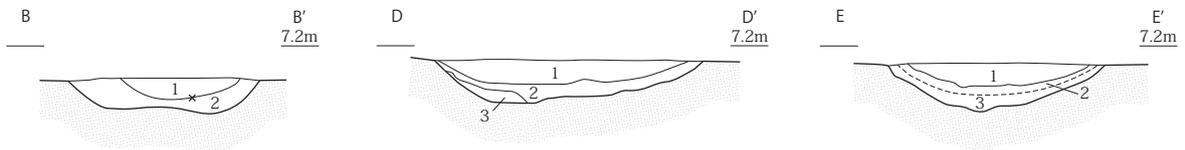
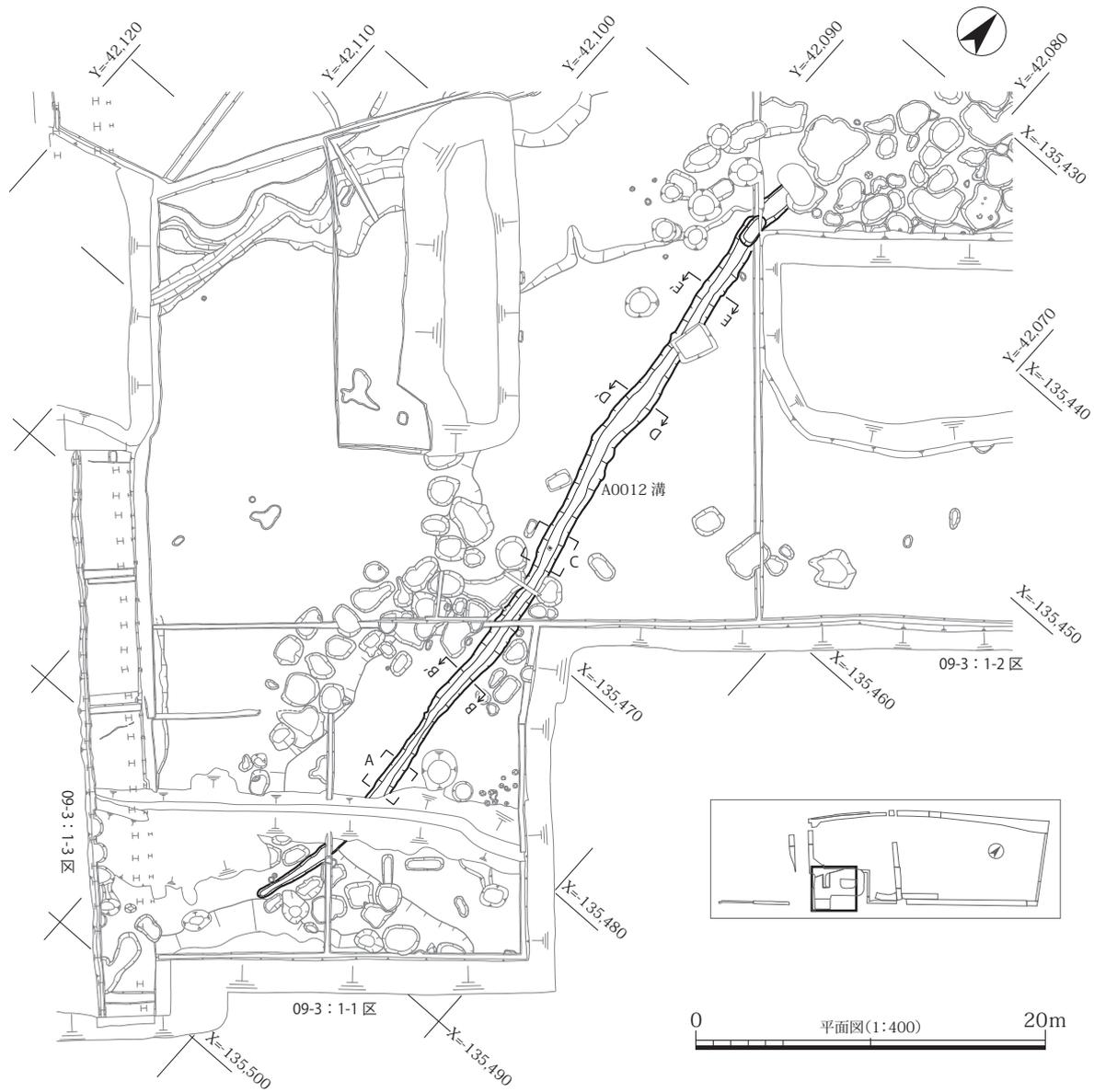


図100 C0086・10017 溝、10006・10007 落込み 平面図・断面図・出土遺物



- 1, 2.5Y6/1 黄灰 細砂混じり極細砂～シルトと2.5Y7/3～2.5Y7/1 浅黄～灰白 細砂質シルトのブロック混合
- 2, 2.5Y6/1 黄灰 細砂～極細砂質シルト (×印箇所から須恵器杯蓋 (245) 出土)

- 1, 2.5Y6/1 黄灰 極細砂～シルトと2.5Y7/3～2.5Y7/1 浅黄～灰白 細砂質シルトと2.5Y7/3～2.5Y7/1 浅黄～灰白 粘質シルトのブロック混合
- 2, 10YR5/1 褐灰 粘質シルト (炭化物を含む) (水成堆積)
- 3, 2.5Y7/3～2.5Y7/1 浅黄～灰白 細砂質シルトブロック

- 1, 2.5Y6/1 黄灰 極細砂～シルトと2.5Y7/3～2.5Y7/1 浅黄～灰白 粘質シルトのブロック混合
- 2, 10YR5/1 褐灰 粘質シルト (炭化物を含む) (水成堆積)
- 3, 7.5Y6/1 灰 シルト質粘土

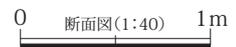


図 101 A0012 溝 平面図・断面図

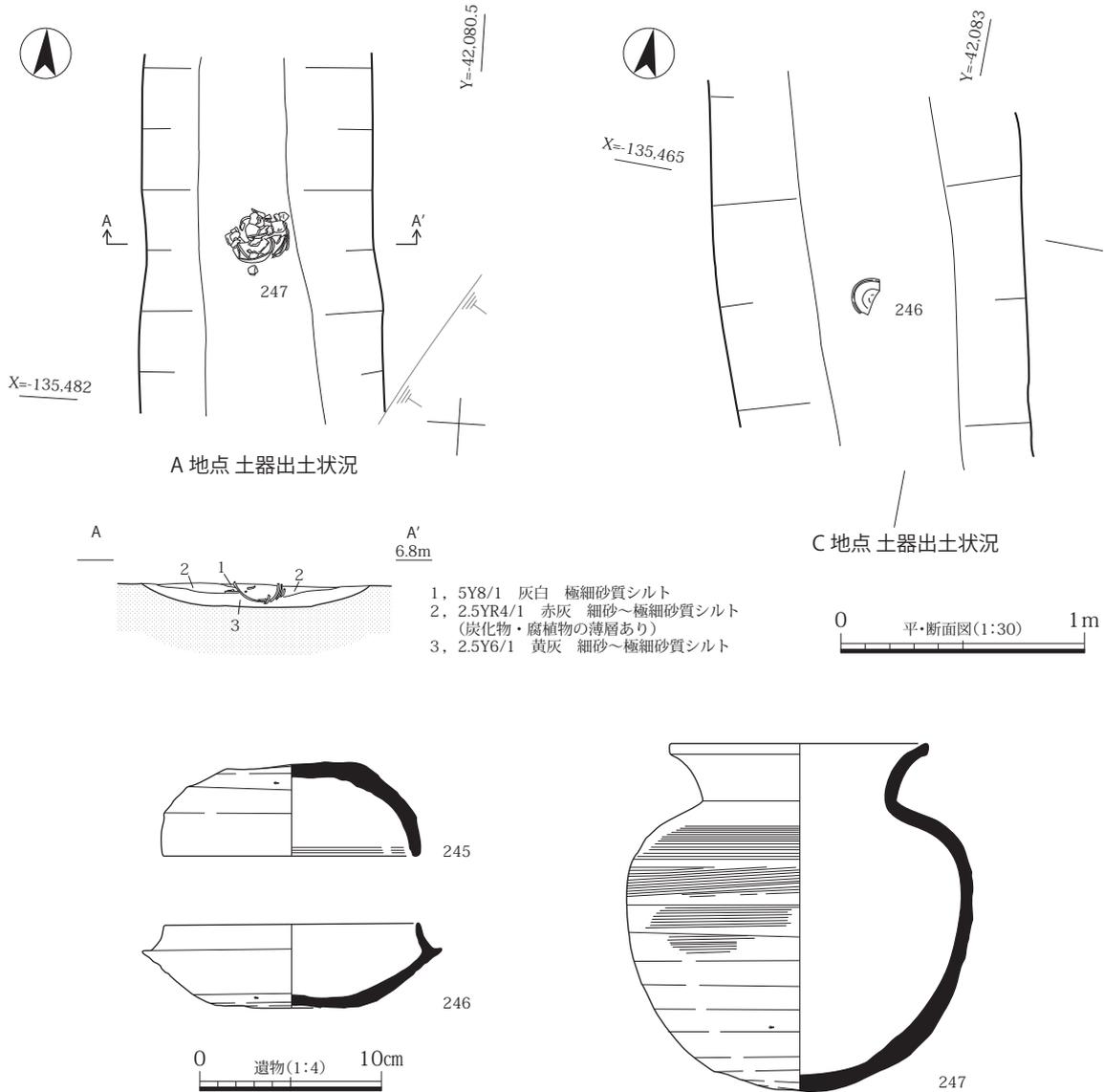


図 102 A0012 溝 遺物出土状況・出土遺物

3. 落込み

10006 落込み (図 100) 11-1:10-1 区において第 8 層上面で検出した。X=-135,448、Y=-42,125 地点で検出した平面不定形の落込みである。長辺 4.2 m、短辺 2.2 m、深さ 0.3 m を測る。断面形は皿状を呈する。埋土は粗砂～中砂を主体とするもので、第 7 層系埋土と考えられる。

埋土中から、須恵器杯蓋 (244) が出土した。244 は、天井部と口縁部の境の稜は認められず、口縁端部を丸くおさめるものであり、6 世紀末の所産と位置づけられる。

10007 落込み (図 100、写真図版 60-3) 11-1:10-1 区において、第 8 層上面で検出した。X=-135,452、Y=-42,130 地点で検出した平面不定形の落込みである。長辺 4.5 m、短辺 2.2 m、深さ 0.2 m を測る。断面形は皿状を呈する。埋土は中砂を主体とするもので、第 7 層系埋土と考えられる。遺物の出土はないが、10006 落込みと同一面での検出であることから、古墳時代後期に属すると考えられる。

なお、同一面において、落込みの 4 m 南側の位置で立木を検出した。樹種同定により、アカガシ亜属

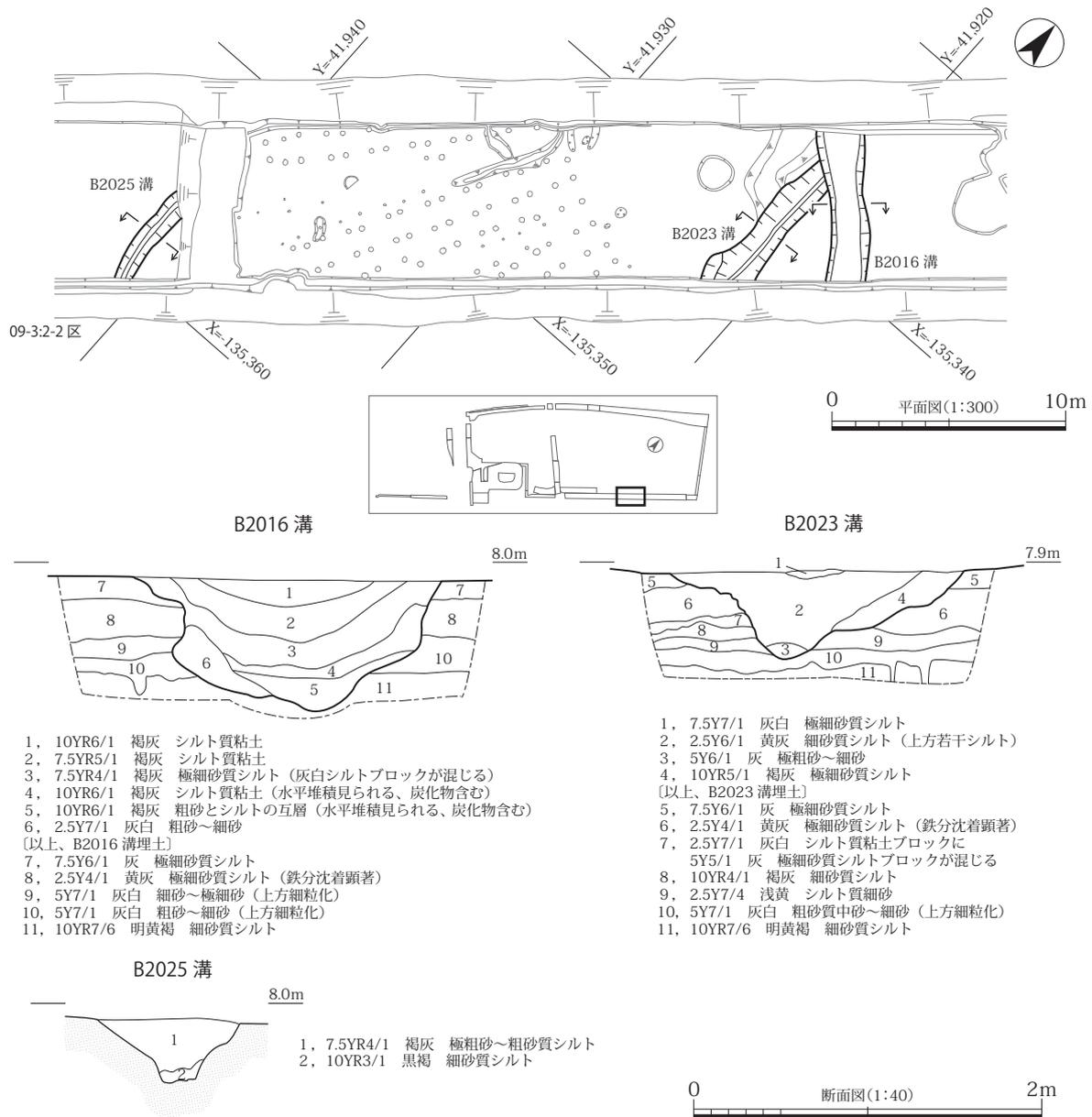


図 103 溝 平面図・断面図

であることが判明した。

4. 包含層その他出土遺物 (図 104、写真図版 133)

包含層や後世の遺構から出土した当該期の遺物をまとめて報告する。なお、遺物出土状況の特徴などから当該期の遺跡の様子を抽出できるかと考え、図化し得た遺物について掲載し、西から順に調査区ごとに報告する。

248・249 は 09-3:1-2 区出土の須恵器杯身である。第 3 層から出土した。口縁端部内側に面を持つものと口縁端部を丸くおさめるものである。

250 は 11-1:10-1 区出土の須恵器すり鉢である。第 2 層から出土した。

251・252 は 10-2:2-1-2 区出土の須恵器である。第 3 層から出土した。251 は杯身。口縁端部は丸く

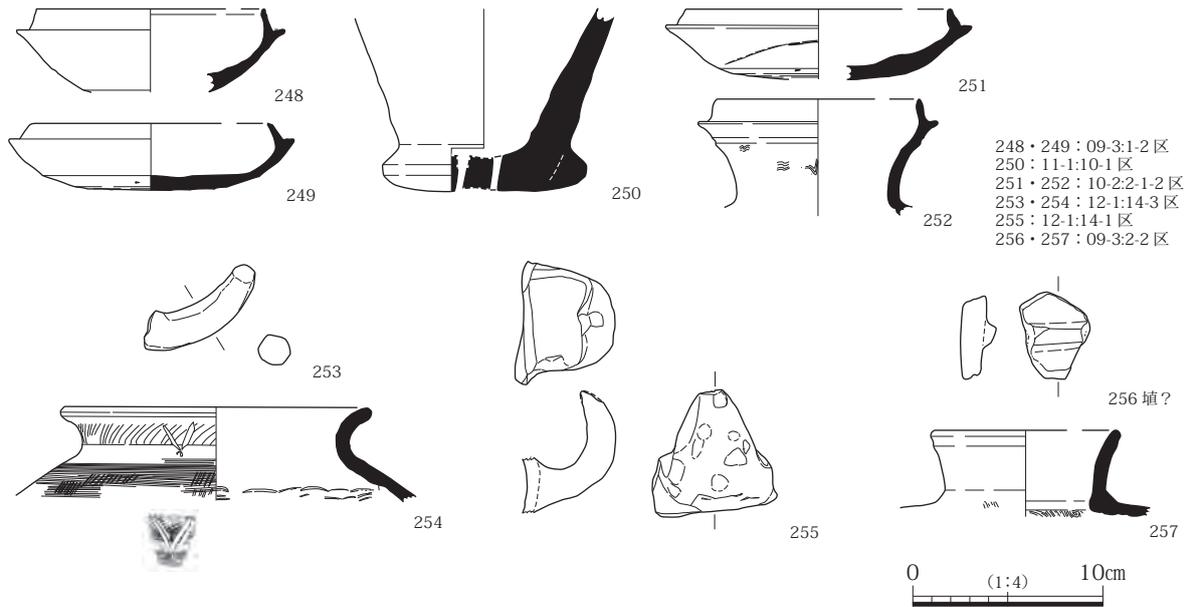


図 104 包含層その他出土遺物

おさめる。体部上部に自然釉がかかり、底部にはそれがない。その境目が明瞭に残る。252 は壺の頸部から口縁部。蓋が付くタイプの壺である。

253・254 は 12-1:14-3 区出土の遺物である。第 2 層及び第 3 層から出土した。253 は土師器把手。254 は須恵器甕の頸部から口縁部で、口縁端部は丸くおさめるものである。頸部に V 字のヘラ記号がある。

255 は 12-1:14-1 区出土の土師器把手である。第 3 層から出土した。甕もしくは鍋の把手。

256・257 は 09-3:2-2 区出土の遺物である。第 2 層から出土した。256 は埴輪か。257 は須恵器壺の頸部から口縁部。直立する頸部で、口縁端部は丸くおさめる。

第 4 節 古代の遺構・遺物

古代に属する遺構として、掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・溝・落込み・畦畔が挙げられる。地山上面で検出したものと第 5 層上面で検出したものがある。基本的には、遺構から遺物が出土し、時期比定が可能なものについて報告するが、遺物の出土がなくても、帰属面や周辺の状況から古代に属する可能性があるものについても一部言及する。

遺構は、11-1:1-1 区・12-1:1-2 区 (図 105)、11-1:11-2 区・12-1:14-3 区・10-2:2-2 区・12-1:14-2 区・09-3:2-2 区・12-1:14-1 区 (図 106・107) の、大きく 2 つのエリアにおいて密度濃く検出された。上述のエリアは、弥生時代以前以来の谷地形の西側及び東側の両縁辺部に当たる。その場所で掘立柱建物や井戸が見つかったことから、当該期には集落が営まれていたことが明らかとなった。今回の調査で検出した遺構は、主に飛鳥時代、奈良時代、平安時代前期の時期を中心とするものである。

1. 掘立柱建物

当該期の掘立柱建物は、弥生時代以前以来の谷地形の西側と東側で集中的に検出された (図 105 ~

108)。谷西側のエリア（図 105・108 上図）では、調査区が狭小であったため、建物の全容を知ることができなかったが、出来得る限り復元に努めた結果、6 棟分の建物が想定された（掘立柱建物 4～9）。いずれも正方位かそれに近い軸を持つ。掘立柱建物の周辺からは、多くのピットが検出されており、他に建物を復元するには至っていないが、複数時期に亘る建替えがあったものと推定される。建物の柱穴から出土した遺物は細片が多く、図示できたものは少ないが、建物の時期を直接判断できる資料としてはこれらの土器のみであり、不確定要素を多分に残すが、いずれの建物も概ね奈良時代～平安時代初頭に属するものと判断される。

また、谷東側のエリア（図 106・107・108 下図）では、5 棟の建物を復元するに至った（掘立柱建物 10～14）。正方位の軸を持つものはなく、柱穴も大型のものがあり谷西側の建物群とは様相が異なる。掘立柱建物 10・11・12 は、出土遺物から飛鳥時代に属する可能性が高い。なかでも、掘立柱建物 10 について、軸はややずれるが掘立柱建物 11 の梁行と掘立柱建物 10 の辺が概ね揃い、掘立柱建物 12 とは軸が概ね揃うことが指摘でき、どちらかと併存していた可能性がある。掘立柱建物 13 は、出土遺物から平安時代前期に属する可能性が高い。掘立柱建物 14 は、時期を推定できる遺物が出土していないが、掘立柱建物 13 と軸を一にしており、構造的にも廂を有する点で共通することから、同時期に造営された可能性がある。

掘立柱建物は、谷西側のエリアでは奈良時代～平安時代初頭、谷東側のエリアでは飛鳥時代と平安時代前期に属するものと捉えておきたい。

掘立柱建物 4（図 108・109、写真図版 65-1・66-2） 12-1:1-2 区において地山上面で検出した。X=-135, 565、Y=-42, 172 地点に位置する。掘立柱建物 4 は後述する掘立柱建物 5 の南西約 10 m に位置し、掘立柱建物 5 と同様にほぼ正方位に軸を持つ。

構造は、調査区が狭小なため 1 間×1 間分しか検出できず、全容を確認できなかったが、1188・1189・1190 柱穴で構成される掘立柱建物になると考えた。規模は南北 1.5 m 以上、東西 1.7 m 以上を測る。主軸の方向は不明であるが、1189 柱穴と 1190 柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね N-10°-E である。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径 0.6 m、深さ 0.1～0.2 m を測る。隅柱になると考えられる 1189 柱穴が、他の柱穴に比べやや深い。柱穴の埋土は単層のものと柱痕跡が残るものが観察された。柱間寸法は、柱痕跡及び柱当たりから、南北方向の 1189・1190 柱穴間が約 1.9 m、東西方向の 1188・1189 柱穴間が約 2.1 m を測る。柱間に広狭の差がある。

1188 柱穴から須恵器杯 B 底部（258）の他に土師器杯や甕の細片などが出土した。258 は高台部分を打ち欠く。8 世紀末～9 世紀初頭頃の所産と考えられる。他に、1189 柱穴から須恵器や土師器の細片が出土したが、図示し得なかった。当建物は、不確定要素を多分に残すが、奈良時代～平安時代初頭に属するものと判断する。

掘立柱建物 5（図 108・109、写真図版 65-1・66-3） 12-1:1-2 区において、地山上面で検出した。X=-135, 558、Y=-42, 164 地点に位置する。掘立柱建物 5 はほぼ正方位に軸を持つ。

構造は、調査区が狭小なため 1 間×1 間分しか検出できず、全容を確認できなかったが、1170・1171・1172 柱穴で構成される掘立柱建物になると考えた。規模は南北 1.8 m、東西 2.2 m を測る。主軸の方向は不明であるが、1171 柱穴と 1172 柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね N-2°-W である。

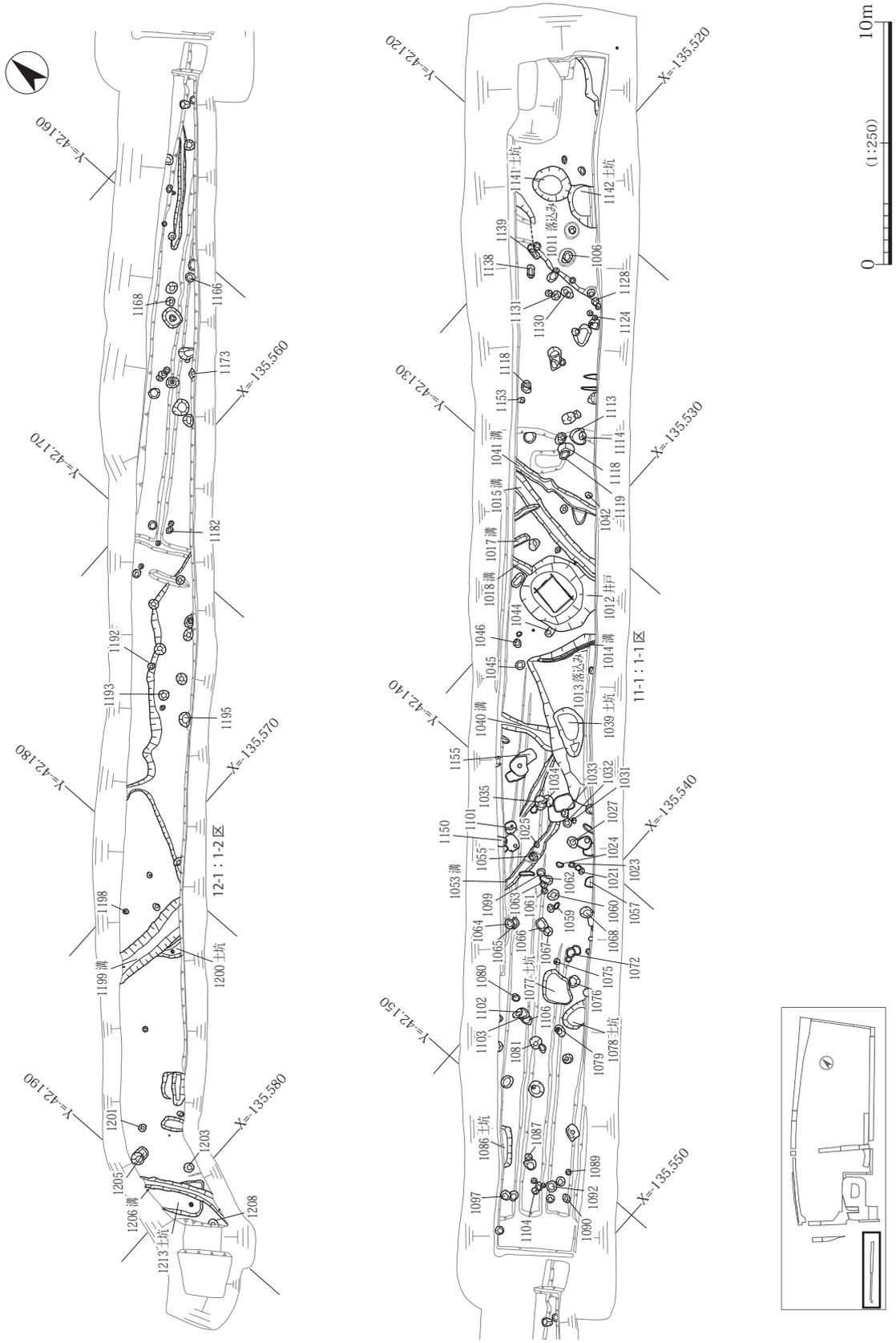


図 105 古代の遺構群 平面図 (1) (11-1:1-1 区、12-1:1-2 区)

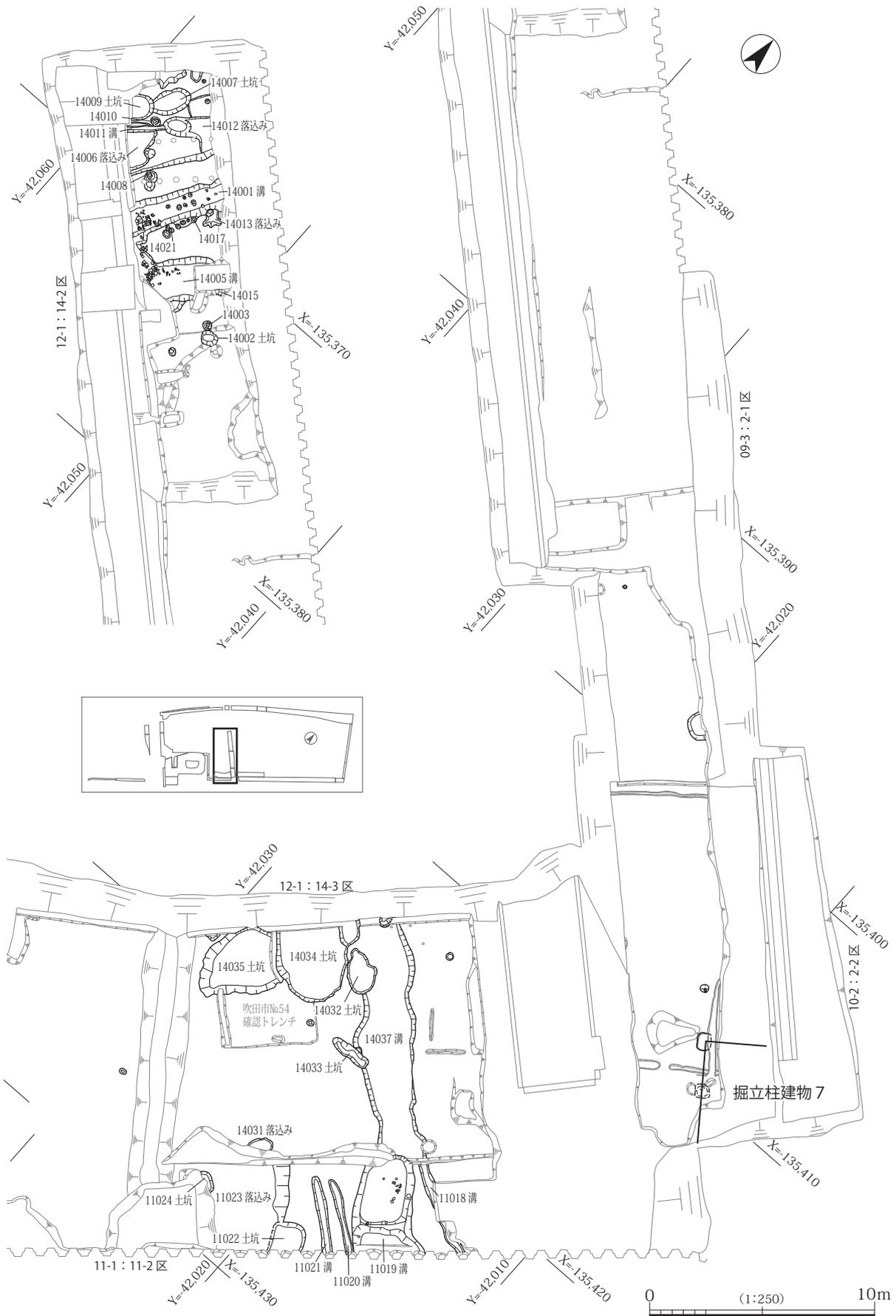


図 106 古代の遺構群 平面図 (2) (11-1:11-2区、12-1:14-2区・14-3区、09-3:2-1区、10-2:2-2区)

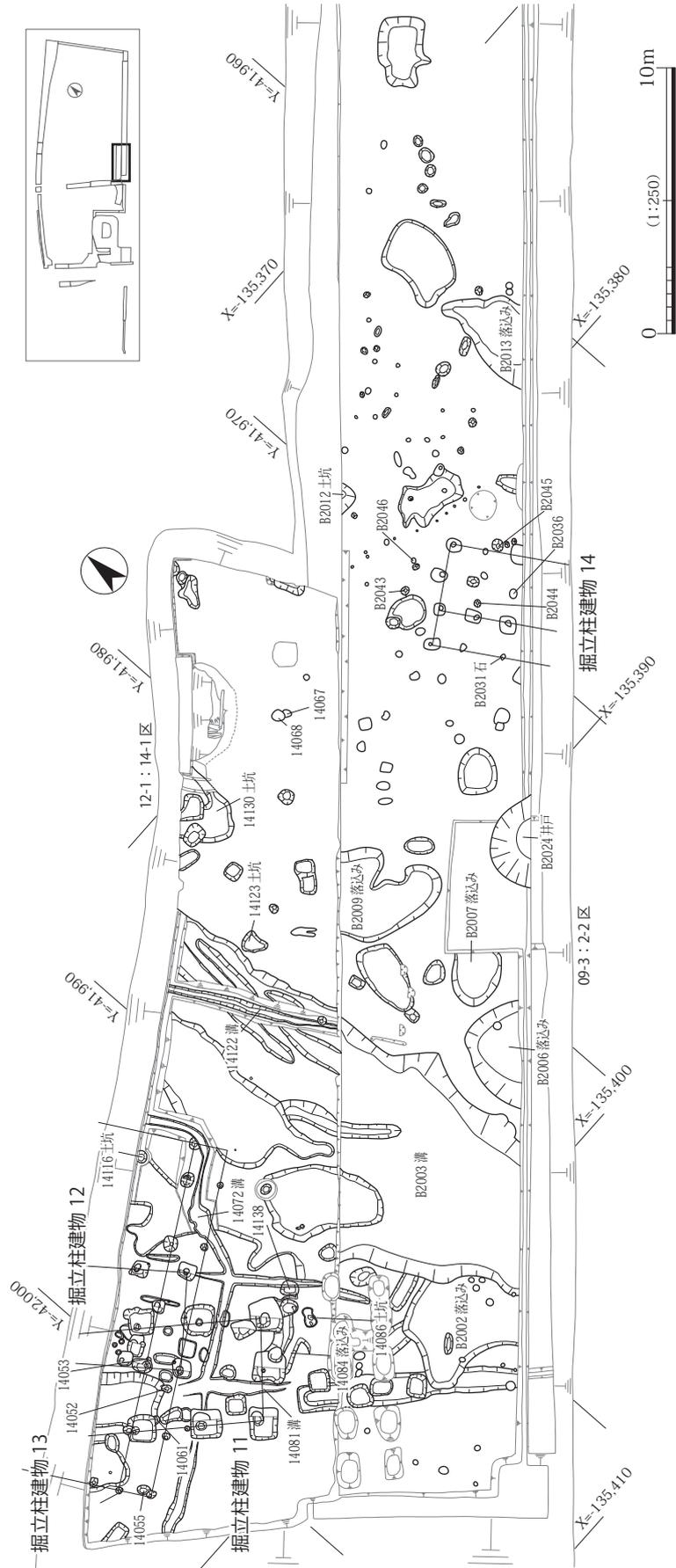


図 107 古代の遺構群 平面図 (3) (09-3:2-2 区、12-1:14-1 区)

柱穴の掘方の平面形は円形か不整形円形であり、径 0.5～0.6 m、深さ 0.2～0.35 mを測る。埋土はいずれも柱痕跡があり、2層に分かれる。柱間寸法は、柱痕跡から南北方向の 1171・1172 柱穴間が約 2.2 m、東西方向の 1170・1171 柱穴間が約 2.7 mを測る。柱間に広狭の差がある。1170 柱穴から須恵器杯の細片が出土したが図示し得なかった。

掘立柱建物 6（図 108・110、写真図版 65-2・66-1） 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。X=-135, 545、Y=-42, 148 地点に位置する。前述の掘立柱建物 5 の北東方約 21 mにある。

構造は、南東部が調査区外になるため、全容を確認できないが、1083・1084・1085 柱穴で構成される建物になると考えられる。主軸の方向は不明だが、1084 柱穴と 1085 柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね N-8°-E である。柱間寸法は、柱痕跡から、東西方向の 1083・1084 柱穴間が 1.8 m、南北方向の 1084・1085 柱穴間が 2.5 mを測る。柱間に広狭の差がある。

柱穴の掘方の平面形は円形及び不整形円形であり、径 0.4～0.6 m、深さ 0.3～0.4 mを測る。埋土は、灰色極細砂質シルトを基調としてベースである地山層のブロックを含む。なお、柱の抜き取り痕跡はなく、直径 0.12 m前後の柱痕跡を確認した。それらのほとんどは、木質が腐朽し周囲の土質より均質で粘性を帯びた土層に置換されていることにより識別された。柱穴からの遺物の出土はないため、帰属時期は明確でない。しかし、本建物を構成する柱穴埋土は黒色系のブロック土を含まない点において、11-1:1-1 区・12-1:1-2 区で検出した他の建物の柱穴埋土とは異なっている。当建物は周辺で検出された建物群とは時期を異にする可能性がある。

掘立柱建物 7（図 108・110、写真図版 65-2） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135, 538、Y=-42, 140 地点に位置する。前述の掘立柱建物 6 の北東方約 12 mにあり、掘立柱建物 8 と重複する。

構造は、南東部が調査区外になるため、全容を確認できないが、1038 柱穴と 1056 柱穴もしくは 1028 柱穴で構成される建物になると考えられる。主軸の方向は不明であるが、柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね N-23°-E である。柱間寸法は、柱痕跡のある 1056 柱穴と 1038 柱穴の中心間では約 1.8 m、柱根及び柱痕跡が認められなかった 1028 柱穴と 1038 柱穴の中心間の距離においては約 2.2 mを測る。

柱穴の掘方の平面形は方形及び不整形方形であり、径 0.5～0.7 m、深さ 0.2～0.3 mを測る。埋土は、黒色系砂質シルトブロック土と地山層ブロック土の混合である。

各柱穴からは少量の遺物が出土した。そのうち、1038 柱穴から出土した須恵器を図示し得た（259）。259 は杯 A の底部である。外面にはヘラ切り痕があり、「=」状のヘラ記号を付す。9 世紀代の所産かと考えられる。1038 柱穴からは他に黒色土器の細片が出土している。1056 柱穴からは土師器・須恵器の細片が出土したが、帰属時期は不詳。1028 柱穴からは土師器・黒色土器の細片が出土したが詳細な時期の特定には至っていない。

出土遺物から、不確定要素を多分に残すが、平安時代前期に属する遺構と判断する。

なお、1038 柱穴は後述の掘立柱建物 8 を構成する 1100 柱穴埋土を切って形成されていることから、掘立柱建物 7 は掘立柱建物 8 よりも後出する。また、1038 柱穴は 1013 落込みと接しているが、切り合い関係は判然としない。

掘立柱建物 8（図 108・111、写真図版 65-2・142） 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。X=-135, 535、Y=-42, 140 地点に位置する。前述の掘立柱建物 7 の北西にあり、隅柱が重複する。

構造は、北西部が調査区外になるため、全容を確認できないが、1048・1100・1051 柱穴で構成され

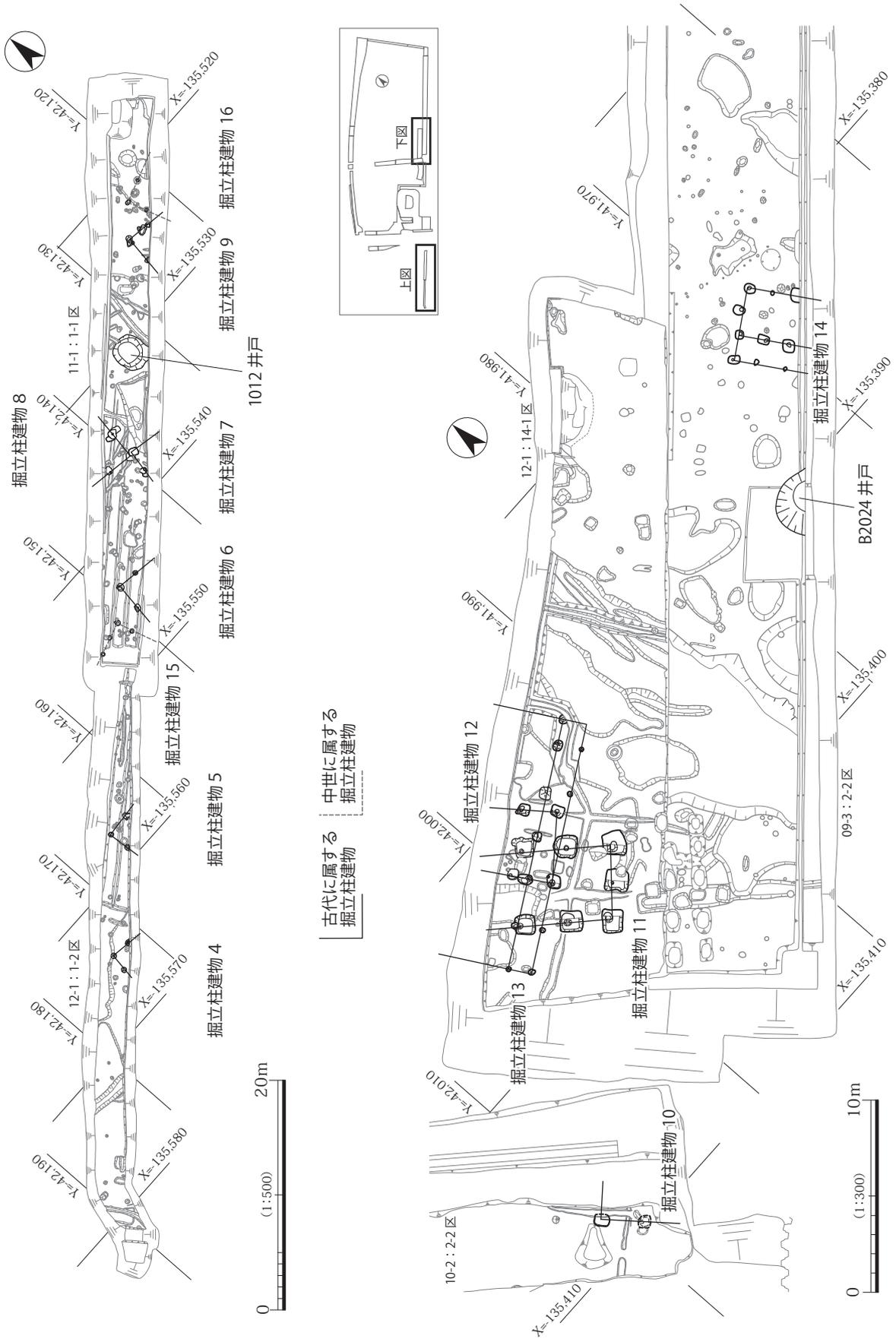
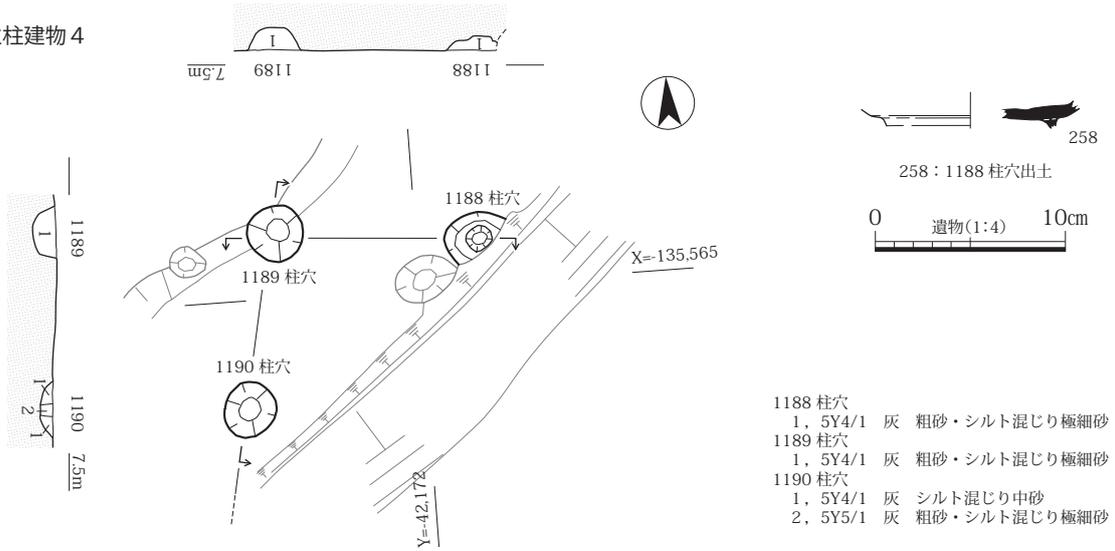


図108 掘立柱建物・井戸 配置図

掘立柱建物 4



掘立柱建物 5

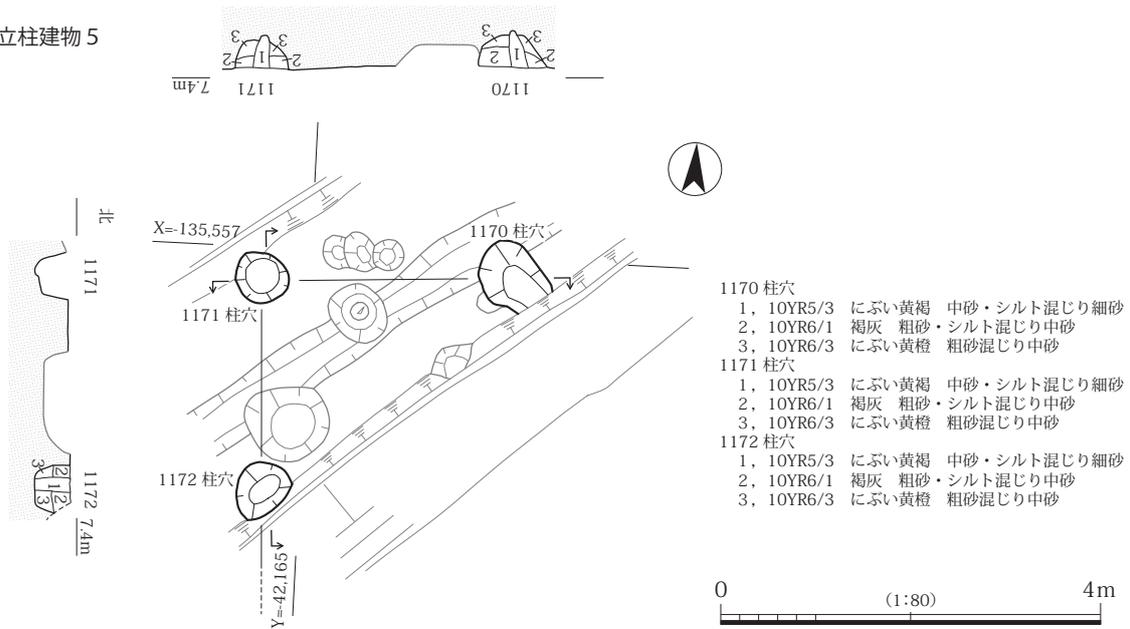


図 109 掘立柱建物 4・5 平面図・断面図・出土遺物

る建物になると考えられる。主軸の方向は不明であるが、1048 柱穴と 1100 柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね $N - 10^\circ - E$ である。柱間寸法は、柱痕跡及び柱当たりから、東西方向の 1100・1051 柱穴間が 2.2 m、南北方向の 1100・1048 柱穴間が 2.5 m を測る。柱間に広狭の差がある。

柱穴の掘方の平面形は方形及び不整形であり、径 0.6 m、深さ 0.3 ~ 0.4 m を測る。埋土は、黒色系砂質シルトブロック土と地山層ブロック土の混合である。

各柱穴からは少量の遺物が出土した。そのうち 1051・1100 柱穴から出土した遺物を図示し得た (260 ~ 262)。260 は、土師器甕 C。口縁端部は上方に肥厚し面を持つ。8 世紀後半の所産か。261 は、須恵器杯 A。底部外面にヘラ切り痕がある。9 世紀代の所産か。262 は砥石。砂岩製。1051 柱穴からは他に

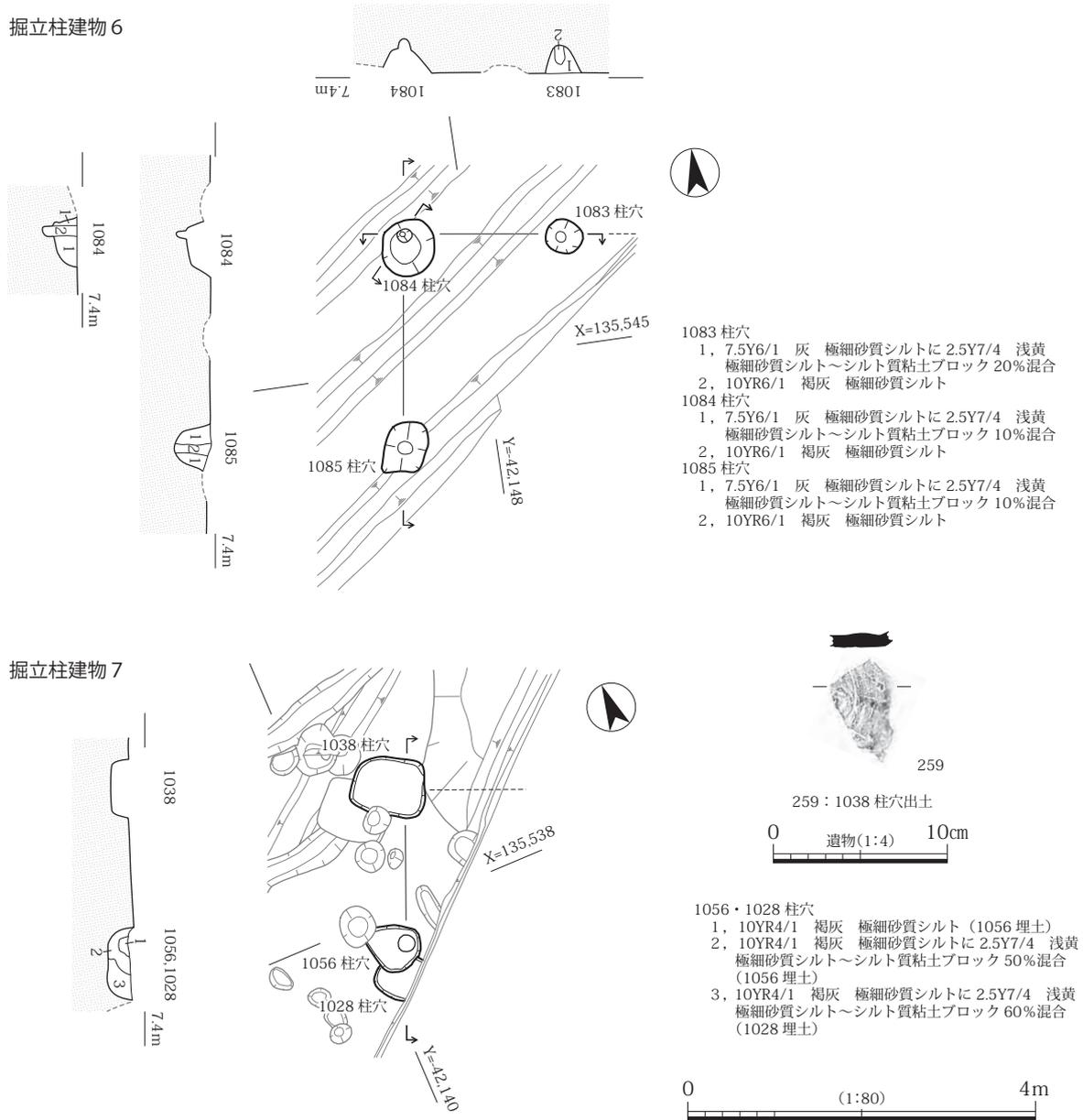


図 110 掘立柱建物 6・7 平面図・断面図・出土遺物

須恵器・瓦・製塩土器の細片が出土した。また、1048 柱穴からも土師器・須恵器の細片が出土しているが、帰属時期は不詳。

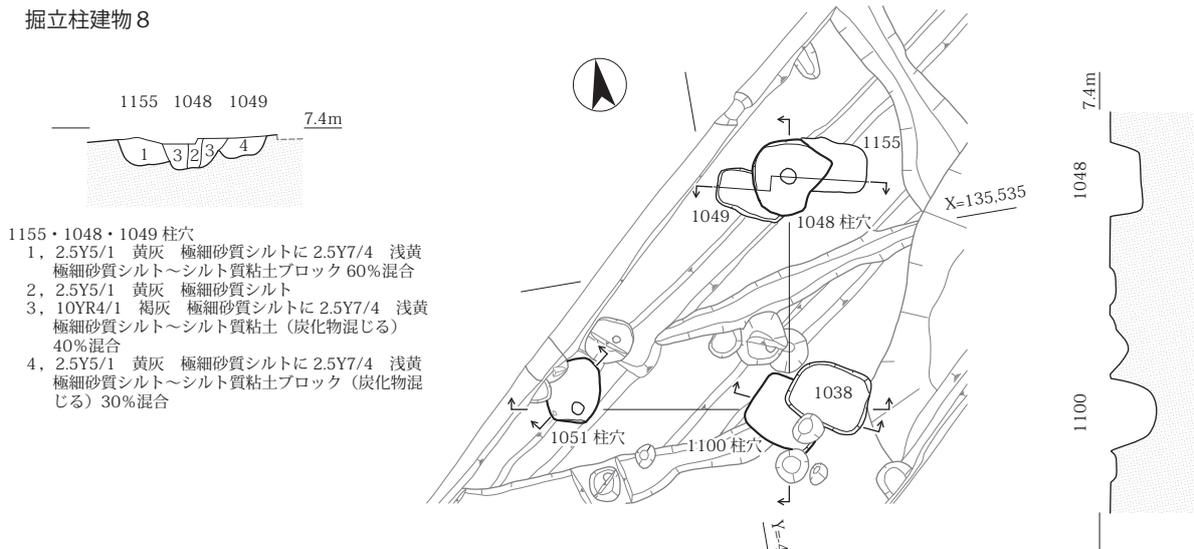
出土遺物から、不確定要素を多分に残すが、平安時代前期に属する遺構と判断する。

なお、前述したように 1100 柱穴は掘立柱建物 7 を構成する 1038 柱穴に切られることから、掘立柱建物 8 は掘立柱建物 7 に先行する。

掘立柱建物 9 (図 108・111、写真図版 65-3) 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135, 525、Y=-42, 125 地点に位置する。後世の土地改変によると考えられる段の下で検出した。前述の掘立柱建物 7・8 の北東方約 18 m にある。

構造は、南東部が調査区外になるため、全容を確認できないが、1115・1120・1125 柱穴で構成される建物になると考えられる。主軸の方向は不明であるが、1120 柱穴と 1115 柱穴の通りを軸線とすると、

掘立柱建物 8



1155・1048・1049 柱穴

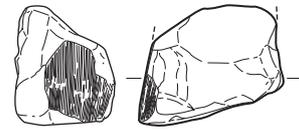
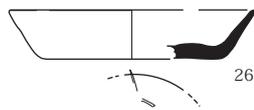
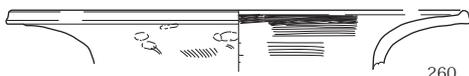
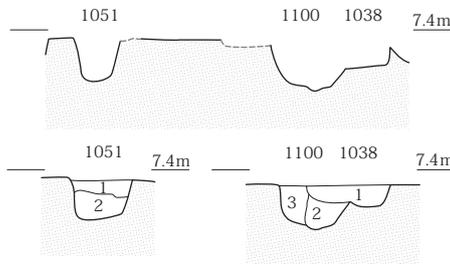
- 1, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック 60%混合
- 2, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルト
- 3, 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土 (炭化物混じる) 40%混合
- 4, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック (炭化物混じる) 30%混合

1051 柱穴

- 1, 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土 70%混合
- 2, 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土 (炭化物混じる) 20%混合

1100・1038 柱穴

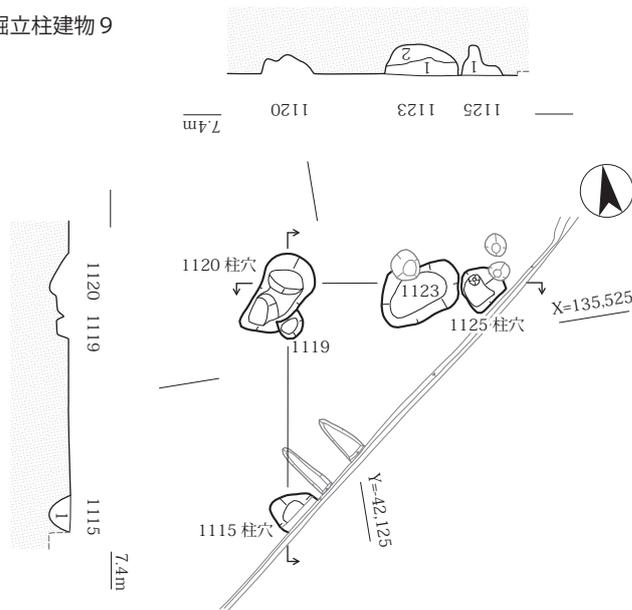
- 1, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土 (1038 埋土) 30%混合
- 2, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土 (1100 埋土) 50%混合
- 3, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土 (1100 埋土) 60%混合



260・262 : 1051 柱穴出土
261 : 1100 柱穴出土

262 石

掘立柱建物 9



1123 柱穴

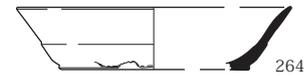
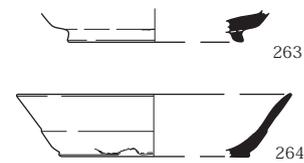
- 1, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック 60%混合
- 2, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルト

1125 柱穴

- 1, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック 50%混合

1115 柱穴

- 1, 2.5Y5/1 黄灰 極細砂質シルトに 2.5Y7/4 浅黄 極細砂質シルト～シルト質粘土ブロック 50%混合



263・264 : 1120 柱穴出土

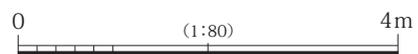


図 111 掘立柱建物 8・9 平面図・断面図・出土遺物

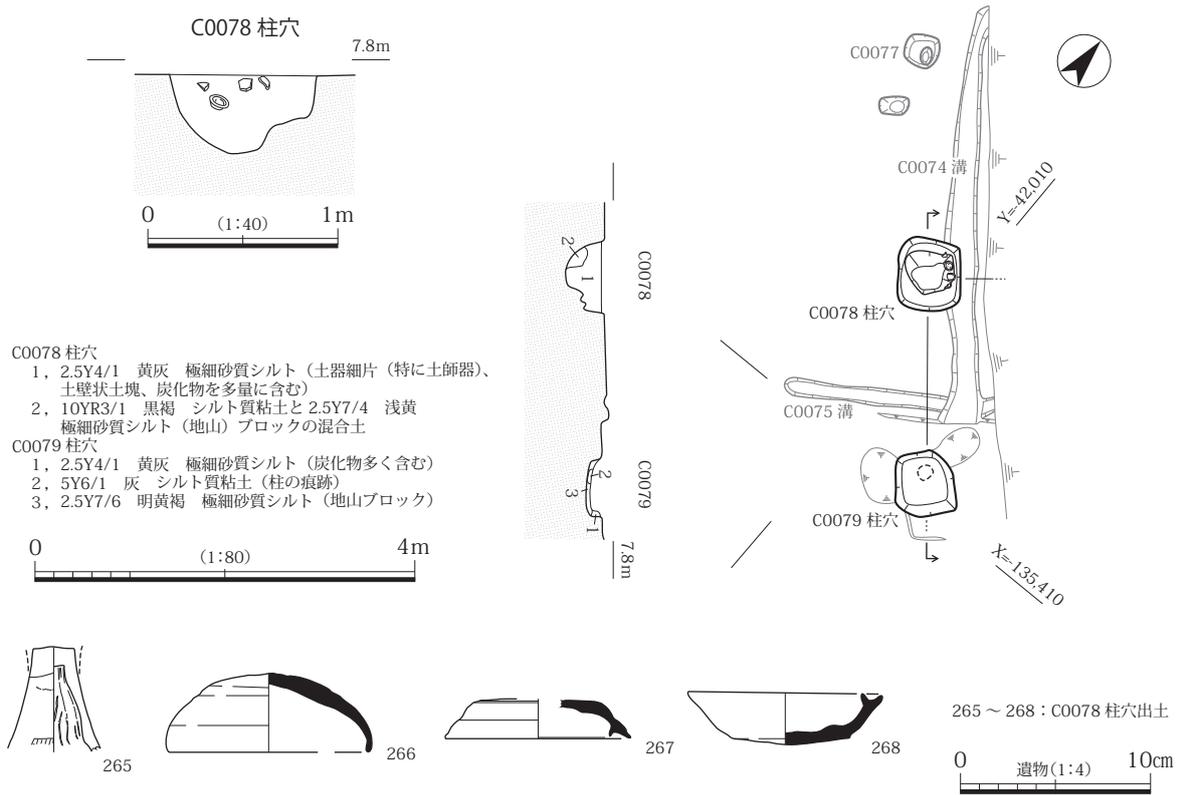


図 112 掘立柱建物 10 平面図・断面図・出土遺物

建物の軸は概ねN-9°-Eである。柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、東西方向の1125・1120柱穴間が2m、南北方向の1115・1120柱穴間が2.5mを測る。柱間に広狭の差がある。

柱穴の掘方の平面形は不整形であり、径0.5～0.75m、深さ0.2～0.35mを測る。埋土は、黒色系砂質シルトブロック土と地山層ブロック土の混合である。

柱穴からは遺物が少量出土した。そのうち、1120柱穴から出土した須恵器を図示し得た(263・264)。263は杯Bの底部片。8世紀前半の所産。264は杯A。9世紀代の所産。1115・1125柱穴からも土師器・須恵器の細片が出土しているが、帰属時期は不詳。

出土遺物から、不確定要素を多分に残すが、平安時代前期に属する遺構と判断する。

掘立柱建物 10 (図 108・112、写真図版 63・133) 10-2:2-2区において、地山上面で検出した。X=-135,405、Y=-42,010地点に位置する。

構造は、北東部が攪乱のため全容を確認できないが、C0078柱穴とC0079柱穴で構成される建物になると考えられる。主軸の方向は不明であるが、柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ねN-40°-Wである。柱間寸法は、柱当たりのあるC0079柱穴とC0078柱穴の中心間では2.0mを測る。

柱穴の掘方の平面形は方形であり、一辺0.35～0.7m、深さ0.15～0.4mを測る。なお、C0078柱穴は柱根及び柱痕跡は認められず、抜き取り後に埋め戻されたものと考えられる。また、C0079柱穴は柱痕跡と考えられる円形の色調が異なる土質が底部で認められたものの、埋土がほとんど残存せず、状況は判然としない。本建物が検出された調査区の南東側を吹田市教育委員会が2009年度に調査を行っているが、同様の柱穴は検出されていない。

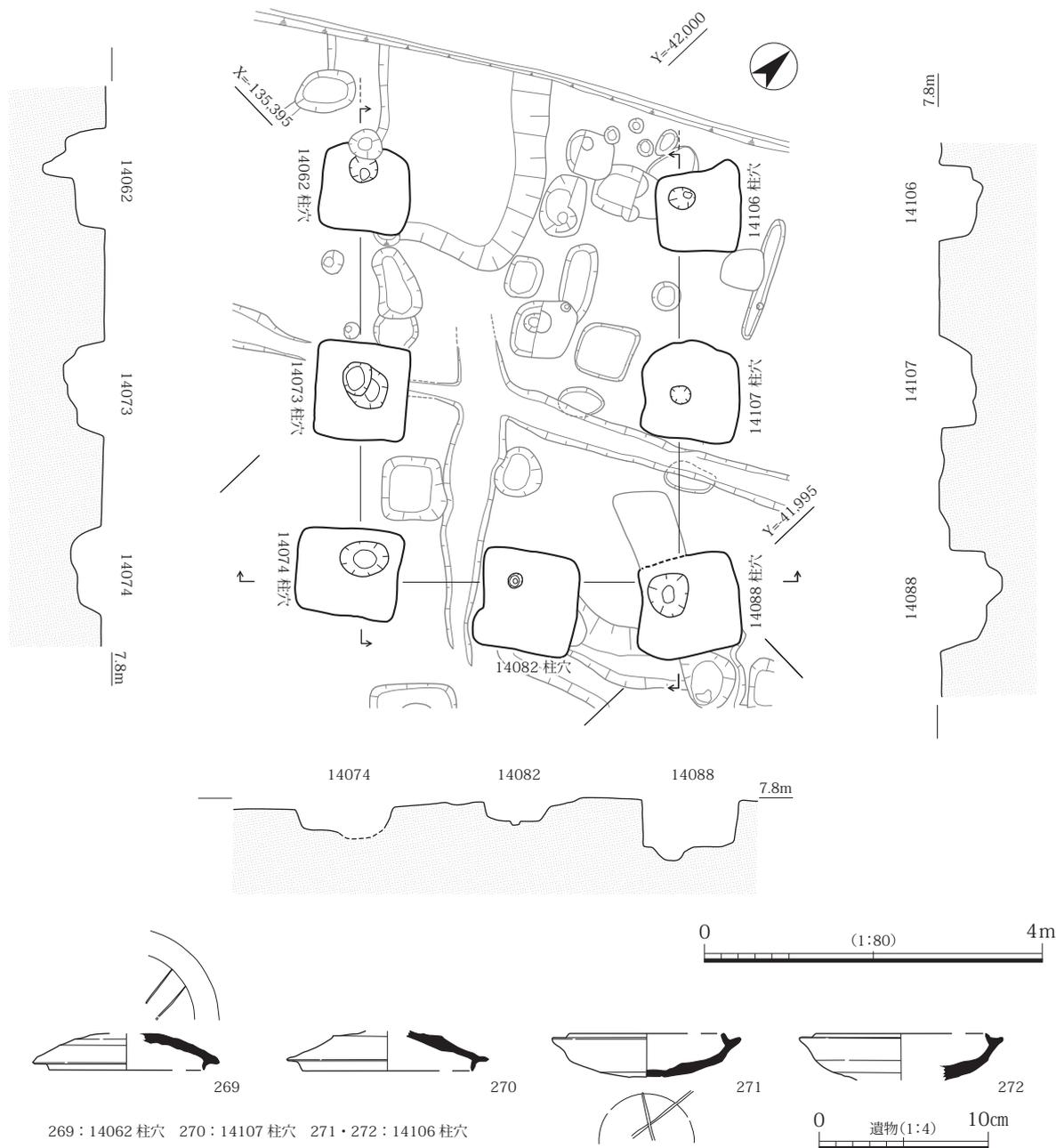


図 113 掘立柱建物 11 平面図・断面図・出土遺物

C0078 柱穴から遺物が出土した(265～268)。265は土師器である。高杯の脚部で内面に絞り目が残る。266～268は須恵器である。266は杯H蓋。267は杯G蓋。口縁内側にかえりをもつ。ツマミを欠損する。268は杯H。底部外面はヘラ切り未調整である。いずれも7世紀前半の所産。

出土遺物から、飛鳥時代に属する遺構と判断する。

掘立柱建物 11 (図 108・113、写真図版 64・133) 12-1:14-1 区において、地山上面で検出した。X=-135,395、Y=-42,000 地点に位置する。掘立柱建物 12・13 と同じ場所で検出した。

構造は、北西部が調査区外になるため、全容を確認できないが、14062・14073・14074・14082・14088・14107・14106 柱穴で構成される桁行 3 間以上、梁行 2 間の柱配置をとる長方形の建物である。長軸を N-46°-W におく。建物規模は長辺 6 m 以上、短辺 3.6 m を測る。柱間寸法は、梁行側が 1.8

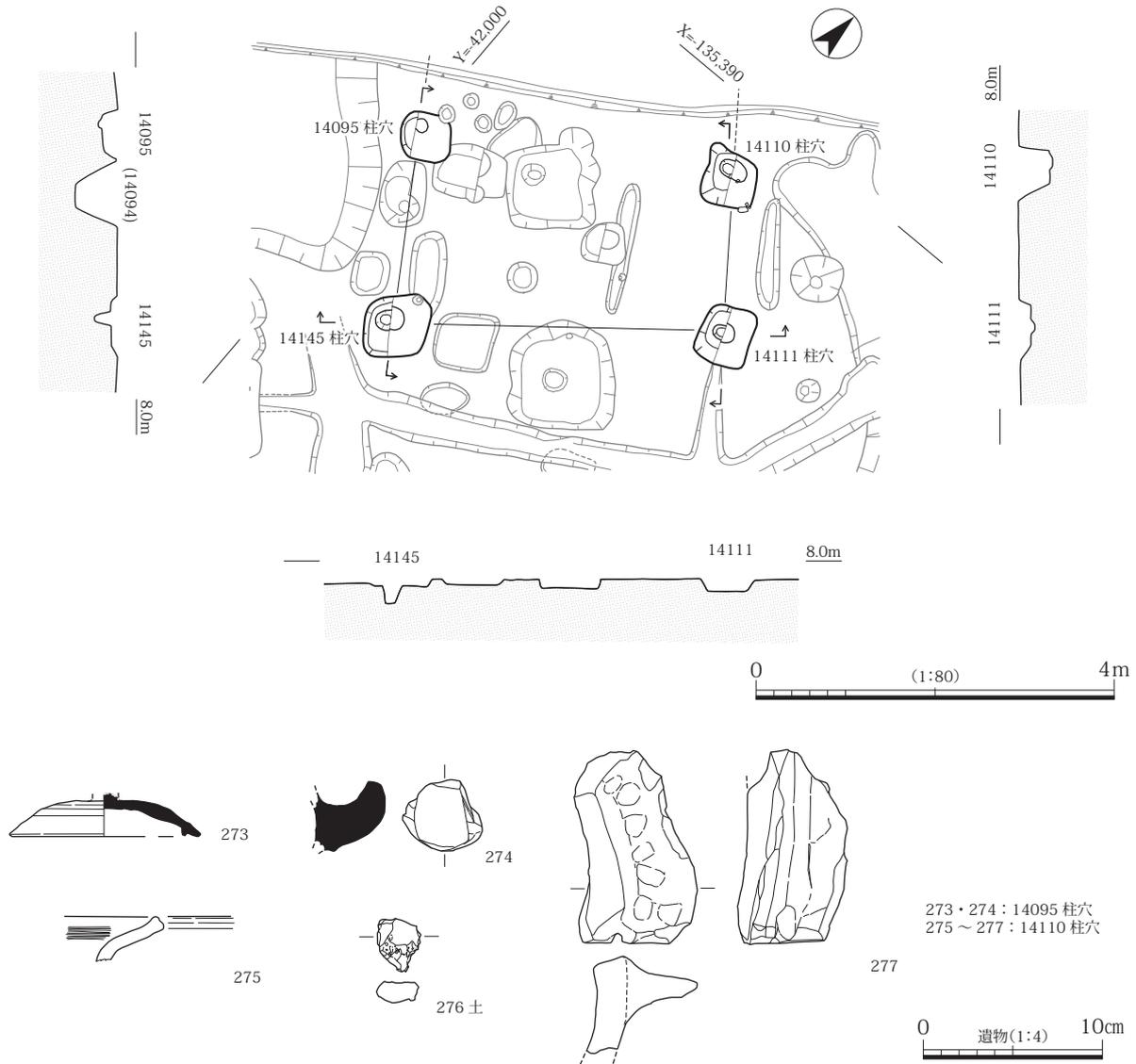


図 114 掘立柱建物 12 平面図・断面図・出土遺物

m、桁行側が 2.2 ～ 2.4 m を測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に方形であり、一辺 1.0 ～ 1.2 m、深さは 0.2 ～ 0.7 m を測る。なお、柱の抜き取り痕跡はなく、ほとんどの柱穴から柱痕跡もしくは柱当たりを確認している。

後述の掘立柱建物 12 と重複するが、柱穴の直接的な切り合い関係がないため、遺構の検出状況から前後関係は判断できない。

柱穴からは遺物が少量出土した。そのうち、14062・14107・14106 柱穴から出土した須恵器を図示し得た (269 ～ 272)。269・270 は杯 G 蓋。口縁内側に口縁端部よりも下方に突出するかえりをもつ。ツマミは欠損する。269 は外面に「=」状のヘラ記号を持つ。271・272 は杯 H。たちあがりは受け部からわずかに出る程度で短い。底部外面にヘラ切り痕が残る。271 は底部外面に「×」状のヘラ記号を持つ。また受け部に溶着痕がある。いずれも 7 世紀前葉～中葉の所産。

出土遺物から、飛鳥時代に属する遺構と判断する。

掘立柱建物 12 (図 108・114、写真図版 67-1・133) 12-1:14-1 区において、地山上面で検出した。

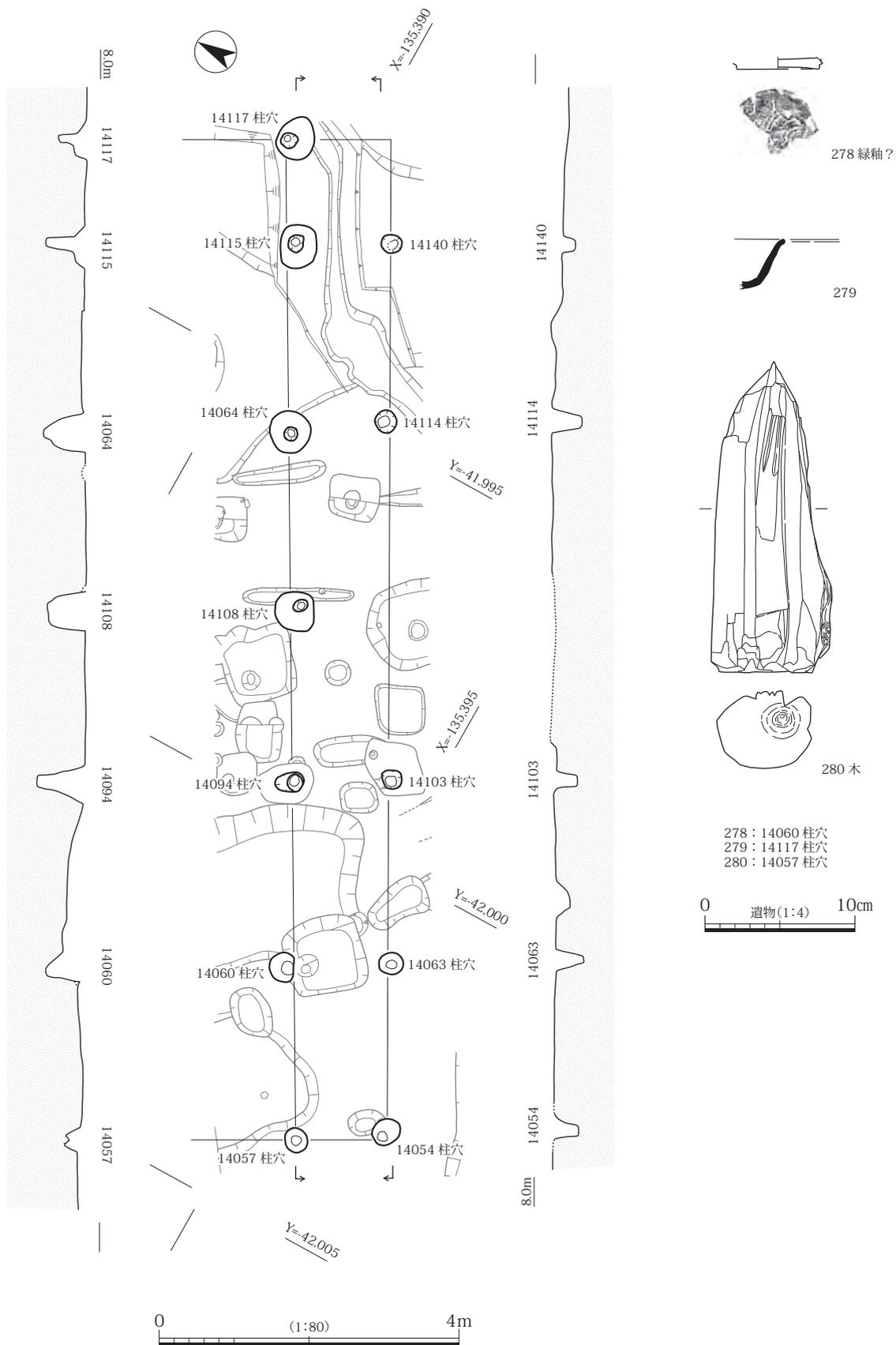


图 115 掘立柱建物 13 平面図・断面図・出土遺物

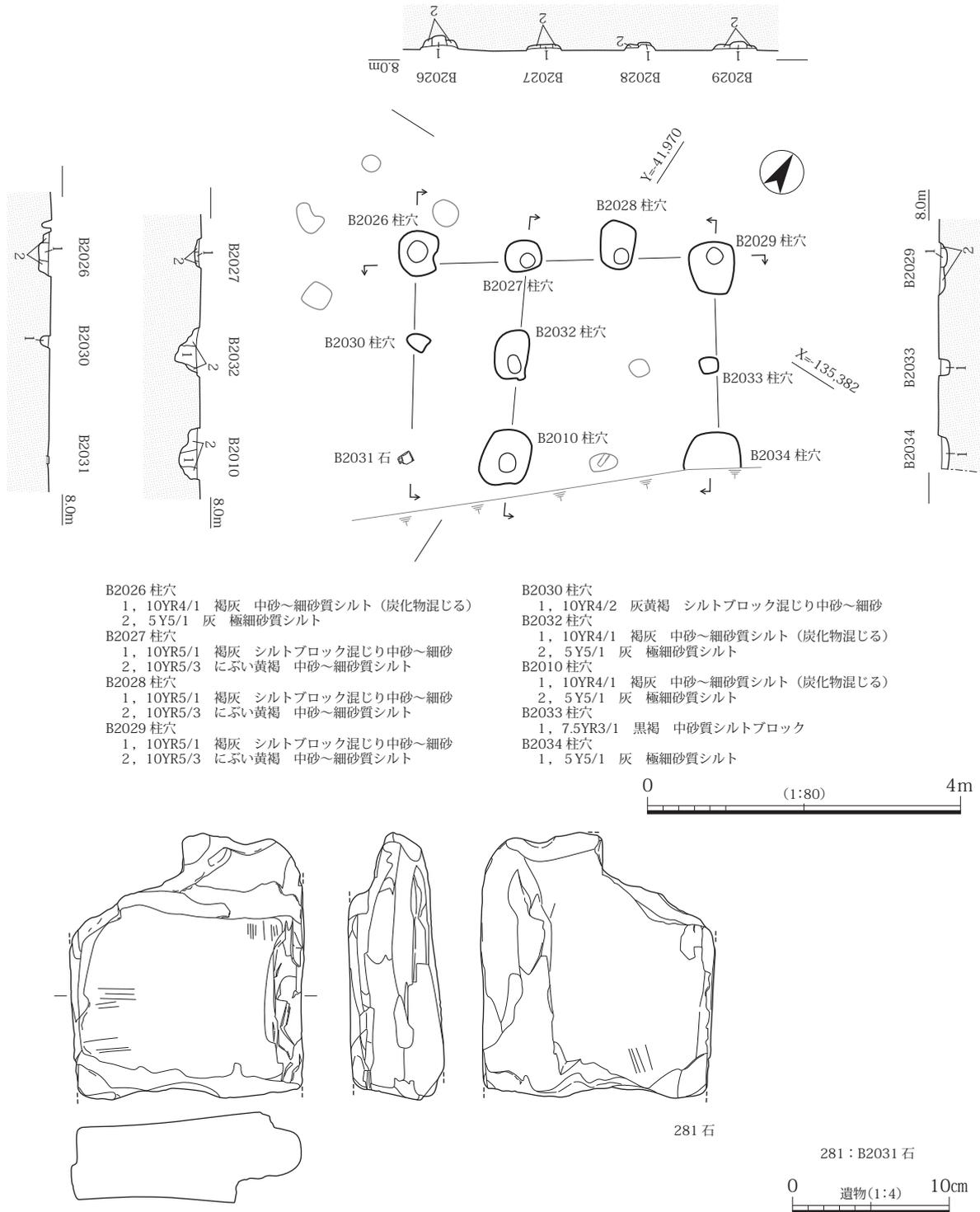


図 116 掘立柱建物 14 平面図・断面図・出土遺物

X=-135,392、Y=-41,998 地点に位置する。掘立柱建物 11・13 と同じ場所で検出した。

構造は、北西部が調査区外になるため、全容を確認できないが、14095・14145・14111・14110 柱穴で構成される桁行 2 間以上、梁行 1 間の柱配置をとる長方形の建物になると考えられる。長軸を N-32°-W におく。柱間寸法は、梁行側が 3.7 m、桁行側が 1.9 m と 2.2 m を測る。桁行の柱間寸法に差が見られる。

柱穴の掘方の平面形は基本的に方形であり、一辺 1.2～1.4 m、深さ 0.2～0.4 mを測る。なお、柱の抜き取り痕跡はなく、ほとんどの柱穴から柱痕跡もしくは柱当たりを確認している。

前述したように、掘立柱建物 11 と重複するが前後関係は判然としない。

柱穴からは遺物が少量出土した。そのうち、14095・14110 柱穴から出土した遺物を図示し得た (273～277)。273 は、須恵器杯 G 蓋。口縁内側にかえりをもつ。ツマミは欠損する。7 世紀前半の所産。274 は須恵質の把手。275 は土師器甕の口縁部。端部に面をもちやや凹ませる。7 世紀の所産か。276 は鞆羽口。277 は土師器竈。正面向かって右側の焚口下部に相当し、庇を有する。帰属時期は不詳。

出土遺物から、飛鳥時代に属する遺構と判断する。

掘立柱建物 13 (図 108・115、写真図版 67-2・133・143) 12-1:14-1 区において、地山上面で検出した。X=-135,395、Y=-42,000 地点に位置する。掘立柱建物 11・12 と同じ場所で検出した。構造は、北西部が調査区外になるため、全容を確認できないが、14117・14115・14064・14108・14094・14060・14057 で構成される身舎に 14140・14114・14103・14063・14054 柱穴で構成される廂が付く 6 間 1 面の建物になると考えられる。ただし、建物全体を検出していないので、廂の面数は増える可能性がある。長軸を N-61°-E におく。建物規模は桁行 13.4 mを測る。柱間寸法は、桁行側で 1.4～2.5 mを測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、直径 0.25～0.55 m、深さ 0.2～0.6 mを測る。なお、柱の抜き取り痕跡はなく、ほとんどの柱穴から柱痕跡もしくは柱当たりを確認している。なお、14057 柱穴では柱根が遺存しており、樹種同定の結果、スギであることが判明している (280)。

掘立柱建物 13 を構成する柱穴のうち、14060 柱穴は、掘立柱建物 11 を構成する 14062 柱穴を切って形成され、14103 柱穴は、掘立柱建物 12 を構成する 14145 柱穴を切って形成されている。以上のことから、掘立柱建物 13 は掘立柱建物 11・12 よりも後出することが検出状況から確認された。

柱穴からは遺物が少量出土した。そのうち、14060・14117 柱穴から出土した遺物を図示し得た (278・279)。278 は 14060 柱穴から出土した。底部外面に糸切り痕が残る。緑釉陶器皿と考えられる。9 世紀代の所産か。279 は 14117 柱穴から出土した。須恵器杯。9 世紀代の所産か。

出土遺物から、平安時代前期に属する遺構と判断する。

掘立柱建物 14 (図 108・116、写真図版 67-3・142) 09-3:2-2 区において、地山上面で検出した。X=-135,382、Y=-41,970 地点に位置する。掘立柱建物 11・12・13 の東方 30 mにある。

構造は、南東部が調査区外になるため、全容を確認できないが、B2010・B2032・B2027・B2028・B2029・B2033・B2034 柱穴で構成される身舎に B2026・B2030 柱穴と B2031 石で構成される廂が付く 3 間以上 1 面の長方形の建物になると考えられる。ただし、建物全体を検出していないので、廂の面数は増える可能性がある。長軸を N-57°-E におく。建物規模は、桁行 3 m以上、梁行 2.4 m、廂を含めた梁行は 3.8 mを測る。柱間寸法は、梁行側が 1.2～1.4 m、桁行側が 1.2～1.3 mを測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に方形を指向しており、一辺 0.4～0.6 m、深さ 0.1～0.25 mを測る。なお、柱穴埋土の残存状況は良くなかったが、ほとんどの柱穴から柱痕跡もしくは柱当たりを確認した。なお、B2031 石 (281) は砂岩製の砥石を転用して礎板の代わりとしたものの可能性が高いと判断したものであり、柱穴と見做すのが適当と考える。遺構検出段階ですでに石材が露出し始めたことから、本来の柱穴掘込み面は、これに根入れの長さを加えた部分に存在していたと考えられ、根入れの長さに相当する分は後世に削平された可能性が高いものと推察する。

柱穴からは時期の判明する出土遺物がないため、帰属時期は不明であるが、建物軸がほぼ揃い、廂を

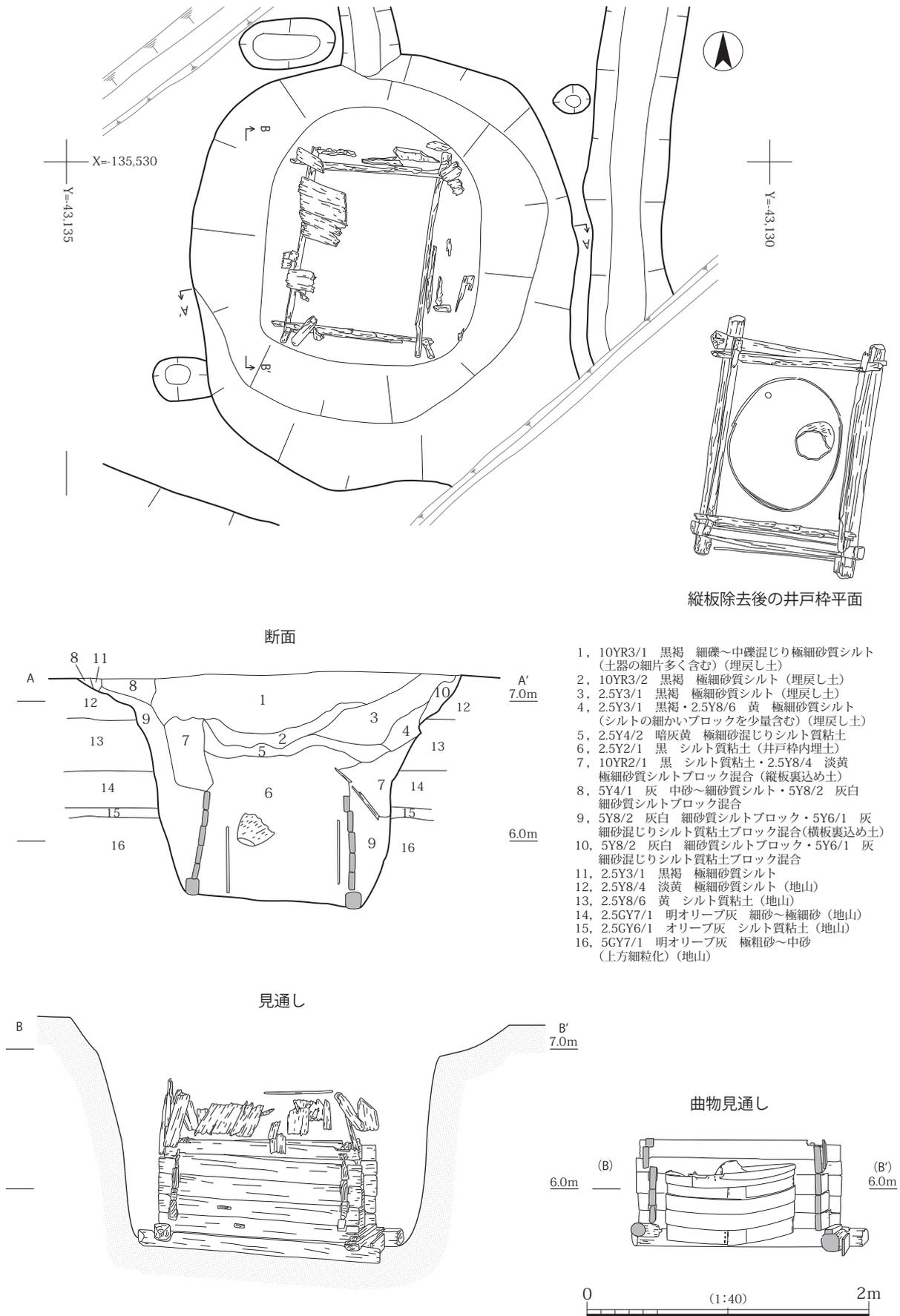


図 117 1012 井戸 平面図・断面図

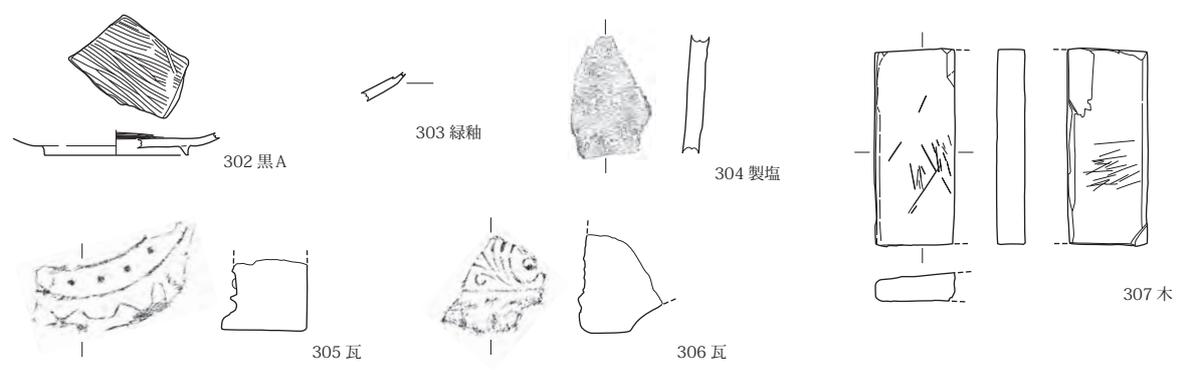
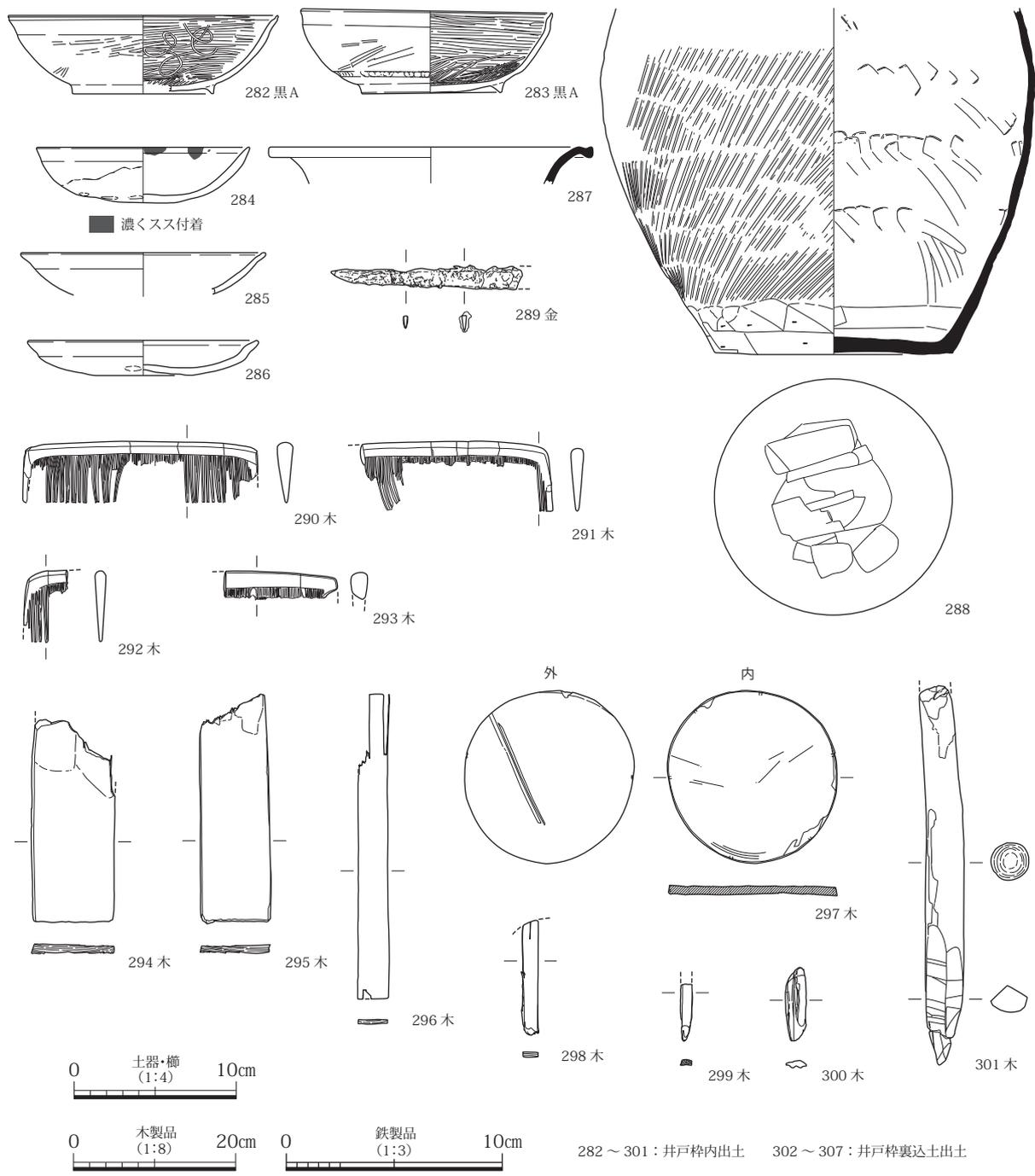


図 118 1012 井戸 出土遺物 (1)

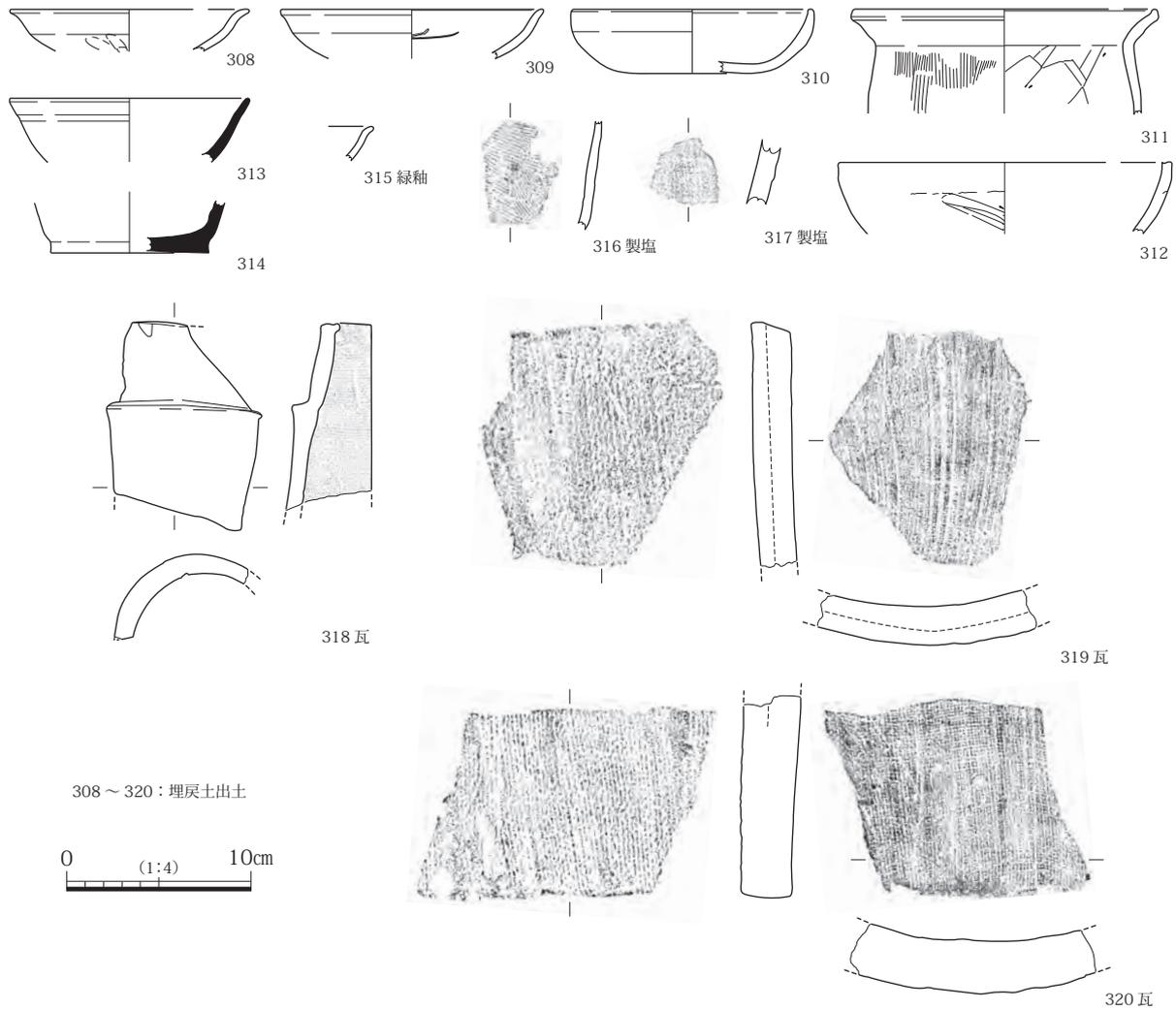


図 119 1012 井戸 出土遺物 (2)

有する点で掘立柱建物 13 との共通性が見出され、同時期に造営された建物である可能性が高い。

2. 井戸

当該期の井戸は、前述した掘立柱建物の一群の中で検出された。弥生時代以前以来の谷地形の西側のエリアで1基、東側のエリアで1基見つかった。どちらの井戸も、建物と概ね時期を同じくすることから、集落の形成に伴うものと判断される。

1012 井戸 (図 105・117～126、写真図版 68-2・68-3・69・134・139・143～151) 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。掘立柱建物 7・8 と掘立柱建物 9 の中間にあり、X=-135, 530、Y=-43, 133 地点に位置する。

掘方の平面形は円形に近い隅丸方形で、規模は長径 3.1 m、短径 2.7 m を測り、南北方向にやや長い。南東側に舌状の張り出しが見られるが、緩やかに落込むことから、井戸掘削や井戸枠設置の足掛かりなどの作業用に設けられたものと考えられる。検出面からの深さは 1.7 m を測る。底は極粗砂～中砂層を掘り抜いており、この層が湧水層であったと判断される。事実、調査中にも一定量の湧水が認められた。断面形は隅丸の逆台形である。

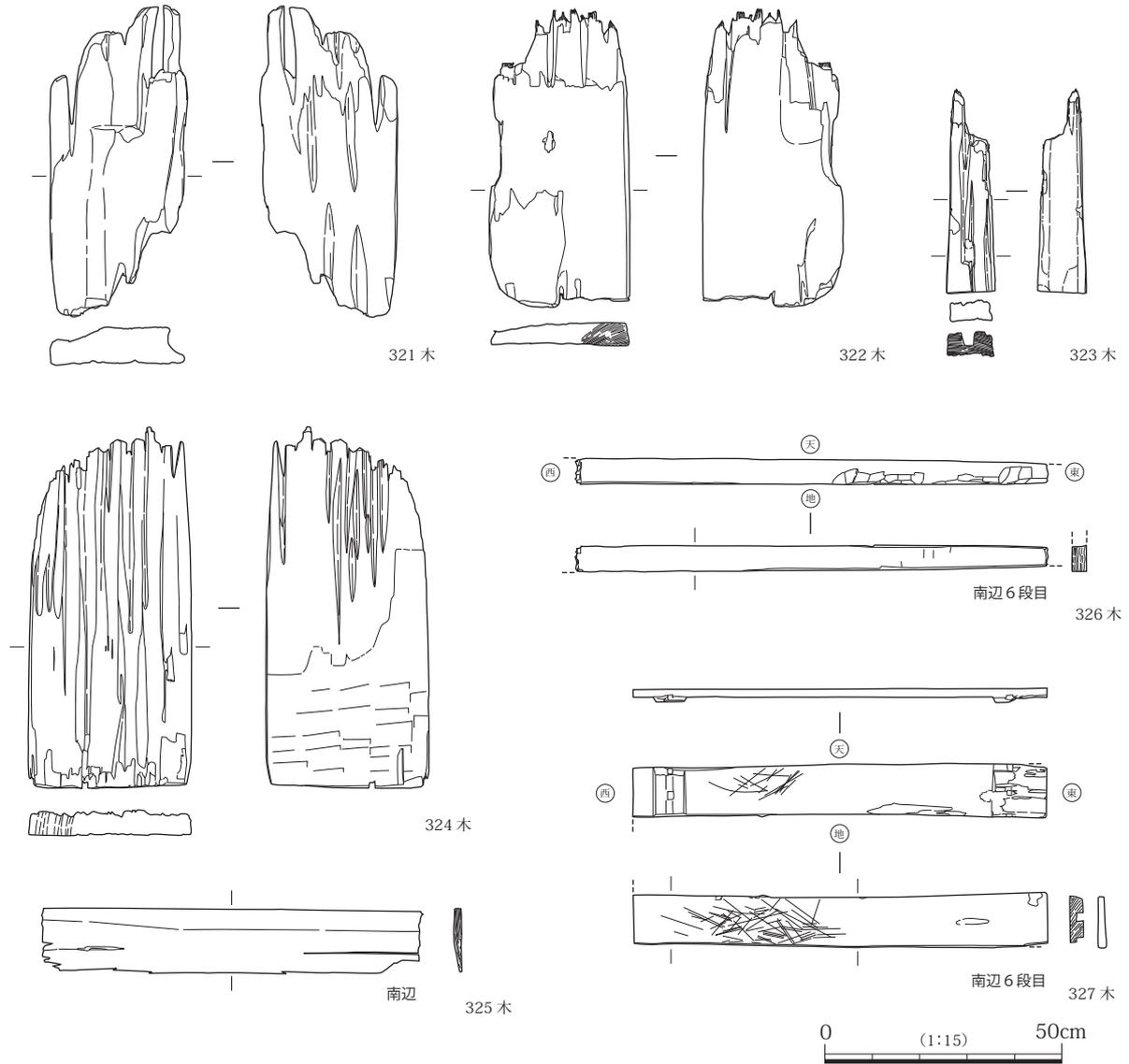


図 120 1012 井戸 井戸枠関連木製品

掘方内で、木製の井戸枠を検出した。南北方向に長い長方形の井戸枠である。構造は、最下部に丸太材を加工して組んだ基礎を造り、その上に横板を井籠組みに5段積み重ね、最上部に縦板を長方形に立て並べたものである。さらに、井戸枠内からは円形の曲物が検出され、二重の井戸枠とも言うべき構造を成していた。横板の組み方について記しておく。最下部の基礎となる6段目は、マツ材を面取りしただけのまだ表皮の残る丸太材を使用したもので、南北方向の長辺の材の上に東西方向の短辺の材を載せて、合欠きにより材を組む。その基礎の上に、5段目となる長辺の材を載せる。その際、基礎と5段目の板材の間に隙間が生じないように、短辺側の基礎に削り込みを入れることで対応している。そのため、基礎となる6段目の短辺材の両端には上下2箇所削り込みが見られる。基礎側に削り込みを入れたことで、基礎との密着が可能となったためか、5段目の長辺材には、その上に載る5段目の短辺材のための合欠きしか見られない。以後は長辺材と短辺材を交互に載せて組み上げている。

埋土は、井戸枠の裏込土（図 117 の埋土 7・9）、井戸枠内の堆積土（埋土 6）、井戸の廃絶に伴う埋戻土（埋土 1～5）の大きく3つに分けられる。井戸枠の裏込土は、横板組み部分のものと縦板組み部

分のものでは色調や質が大きく異なることから、それぞれ横板組みに伴う裏込土（埋土9）、縦板組みに伴う裏込土（埋土7）と分けて考えておきたい。横板組みに伴う裏込土は、掘方東側では上部までであるのに対し、掘方西側においては中位までしかなく、遊離した最上部に同一埋土と考えられる層（埋土10）が見られた。そのため、本来は横板組みに伴う埋土が最上部まであり、井戸枠も最上部まで存在した可能性が高い。しかし、今回検出した井戸枠は、掘方中位までしかなく、縦板とそれに伴う異なる裏込土が検出された。これらを考え合わせると、何らかの事由により元来の上半部の井戸枠が失われ、それを補修するため、後から縦板が組まれた可能性も指摘できる。そうであれば、横板組みに伴う裏込土と縦板組みに伴う裏込土の違いについても、整合性がとれようか。ただし、調査時に裏込土として一括で遺物を取り上げてしまったため、遺物の時期からの検証はできない。

遺物は、井戸枠内出土遺物、井戸枠裏込土出土遺物、埋戻土出土遺物、井戸枠材に分けて報告する。

282～301は井戸枠内出土遺物である。井戸枠内の埋土はすべて洗浄し遺物の回収に努めた。282・283は黒色土器A類の椀。282は内面に暗文を加飾する。284～286は土師器の杯・皿。284は口縁部にススが付着する。灯明器として使用されたか。287・288は須恵器。287は壺Qの口縁部。288は甕の胴～底部。平底の底部を持ち、体部外面は平行タタキが斜めに明瞭に残る。体部と底部の境を横方向にケズリを施す。289は鉄製刀子。290～301は木製品である。290～293は横櫛。290は唯一全容がわかるもので、幅14.5cmを測る。1cm幅におよそ10本の歯を削り出す。291は1cm幅におよそ9本の歯を削り出す。292は1cm幅におよそ9本の歯を削り出す。293は1cm幅におよそ9本の歯を削り出す。294～296は板材。297・298は曲物底板。299・300は火付け棒。301は杭。横板組みの井戸枠内で検出した曲物内から出土。曲物を固定するために打ち込まれた杭の可能性があろう。

ほかに、埋土をすべて洗浄したことで微細な遺物も検出することができた。小動物骨(カエル(小型)、ハタネズミ亜科、ドブ又はクマネズミ、タイ科ほか魚類)、甲虫類(ゴミムシ類頭部、コガネムシ科上翅片ほか)、種実類(炭化米108点、ウメ核5点、モモ核2点、マクワウリの仲間21点、サンショウ属2点、シソ属4点、ナス属7点、ブドウ属4点、ヒユ属48点、カナムグラ6点)が出土している。

井戸枠内からは、概ね9～10世紀前半の所産になる遺物が出土している。

302～307は井戸枠裏込土出土遺物である。302は黒色土器A類の椀底部。303は緑釉陶器片。304は製塩土器片。厚手で内面に布目痕が残る。305は軒丸瓦片。306は軒平瓦片。307は板材。

井戸枠裏込土からは、概ね8～10世紀前半の所産になる遺物が出土している。

308～320は埋戻土出土遺物である。308～312は土師器。308・309は杯。310は椀か。311は甕。312は鉢。313・314は須恵器。314は壺又は鉢の底部。315は緑釉陶器。316・317は製塩土器。317は厚手で内面に布目痕が残る。318は丸瓦。凹面に布目痕が残る。一般的な丸瓦に比べ小振りで薄手の造りであり、焼成が堅緻で須恵器に近い。道具瓦の可能性もあろう。319・320は平瓦。凹面に布目痕、凸面に縄目タタキの痕跡が残る。

埋戻土からは概ね8～9世紀の所産になる遺物が出土している。

321～351は井戸枠材及び井戸枠に関連する木製品である。321～324は縦板組みの井戸枠に使用された材である。321・322・324は縦板材。それぞれスギ・コウヤマキ・ヒノキである。323は方形の割り込みがある板材。建築部材の転用か。ヒノキ。325～327は横板組みの井戸枠の外側に沿うように出土した板材である。いずれもヒノキ。328～331は横板組み1段目の材である。331のシノキを除き、いずれもスギ。332～335は横板組み2段目の材である。いずれもスギ。336～339は横板組み3段目

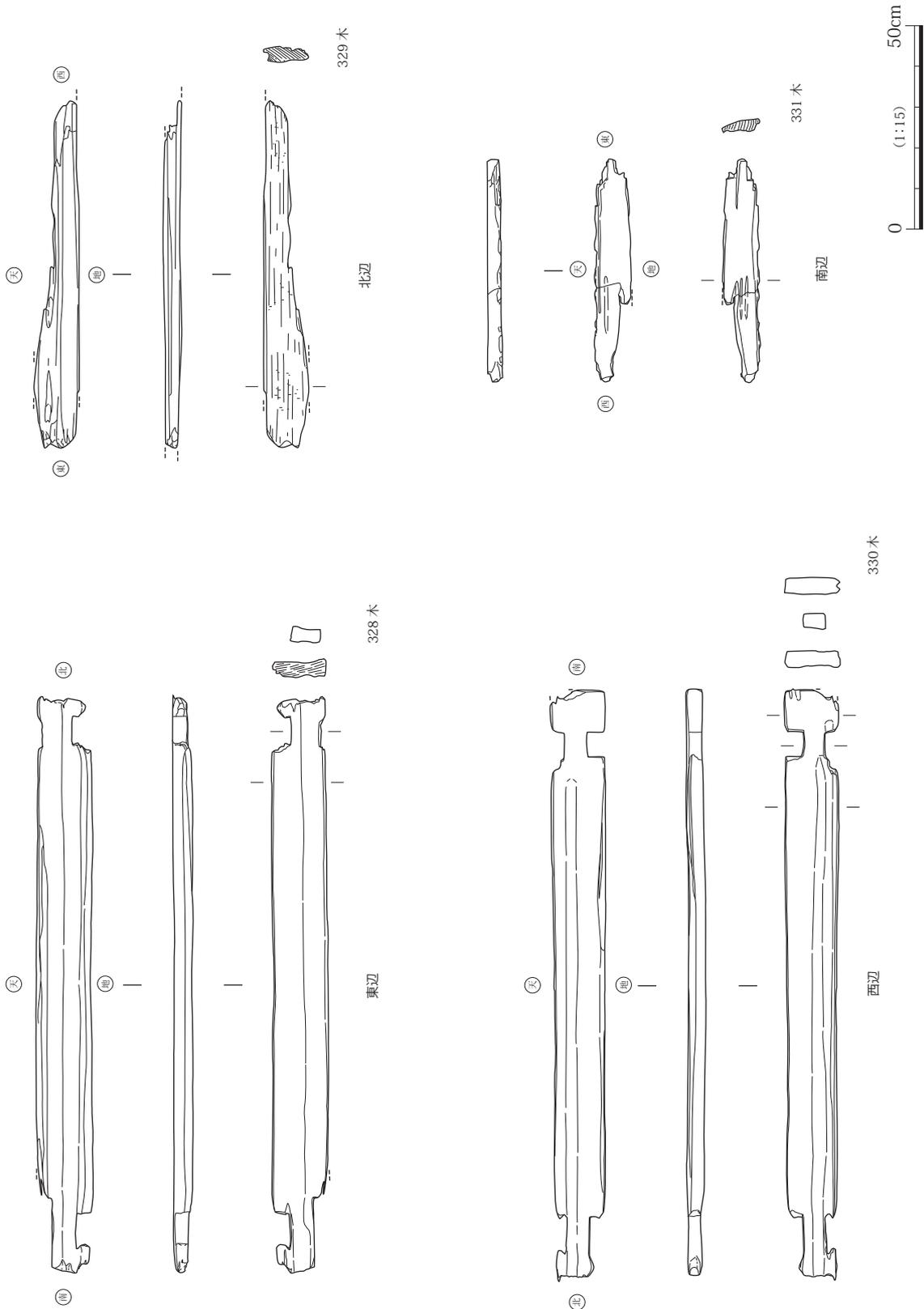


图 121 1012 井戸 井戸枠 1 段目

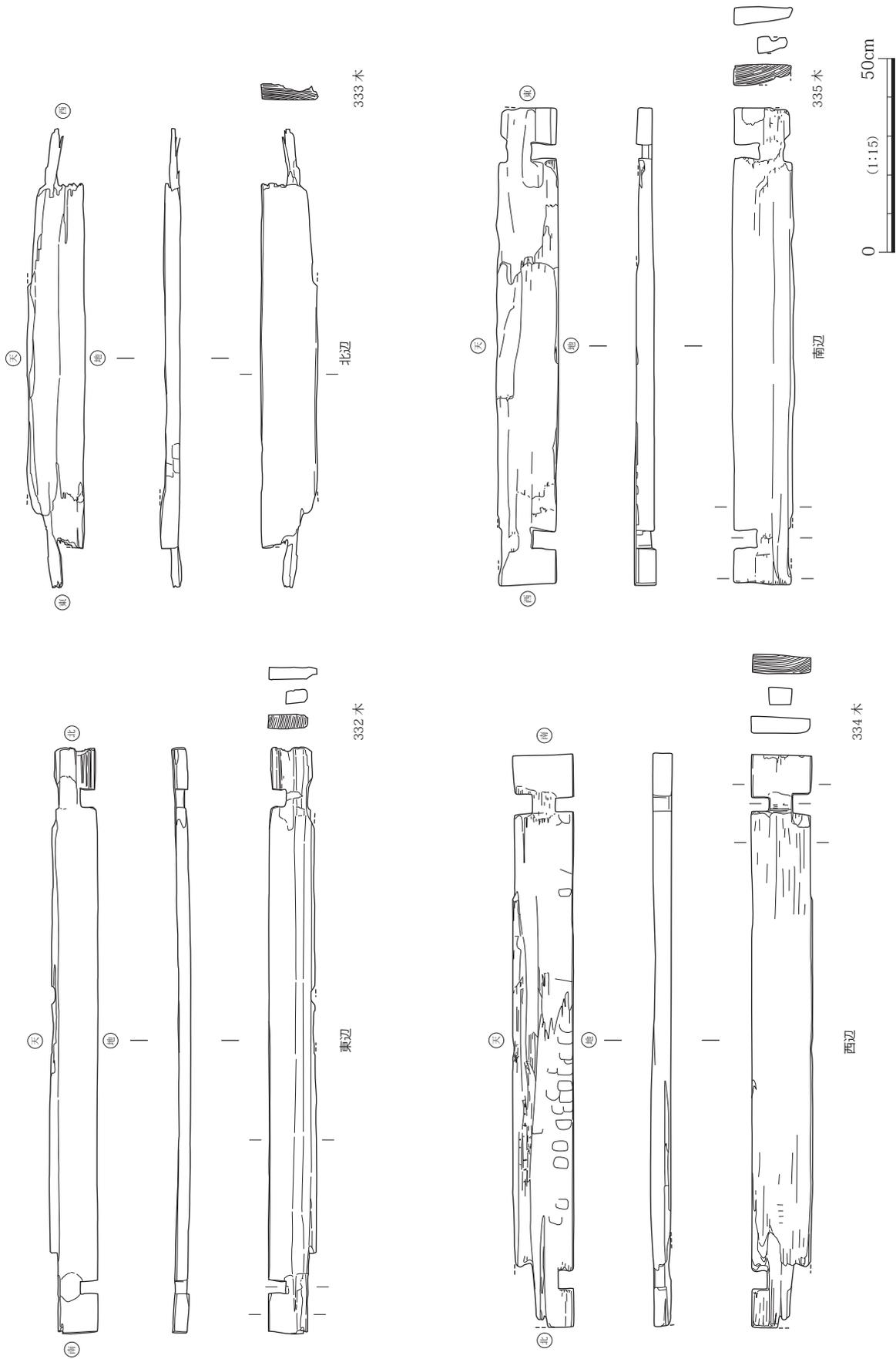


図 122 1012 井戸 井戸枠 2 段目

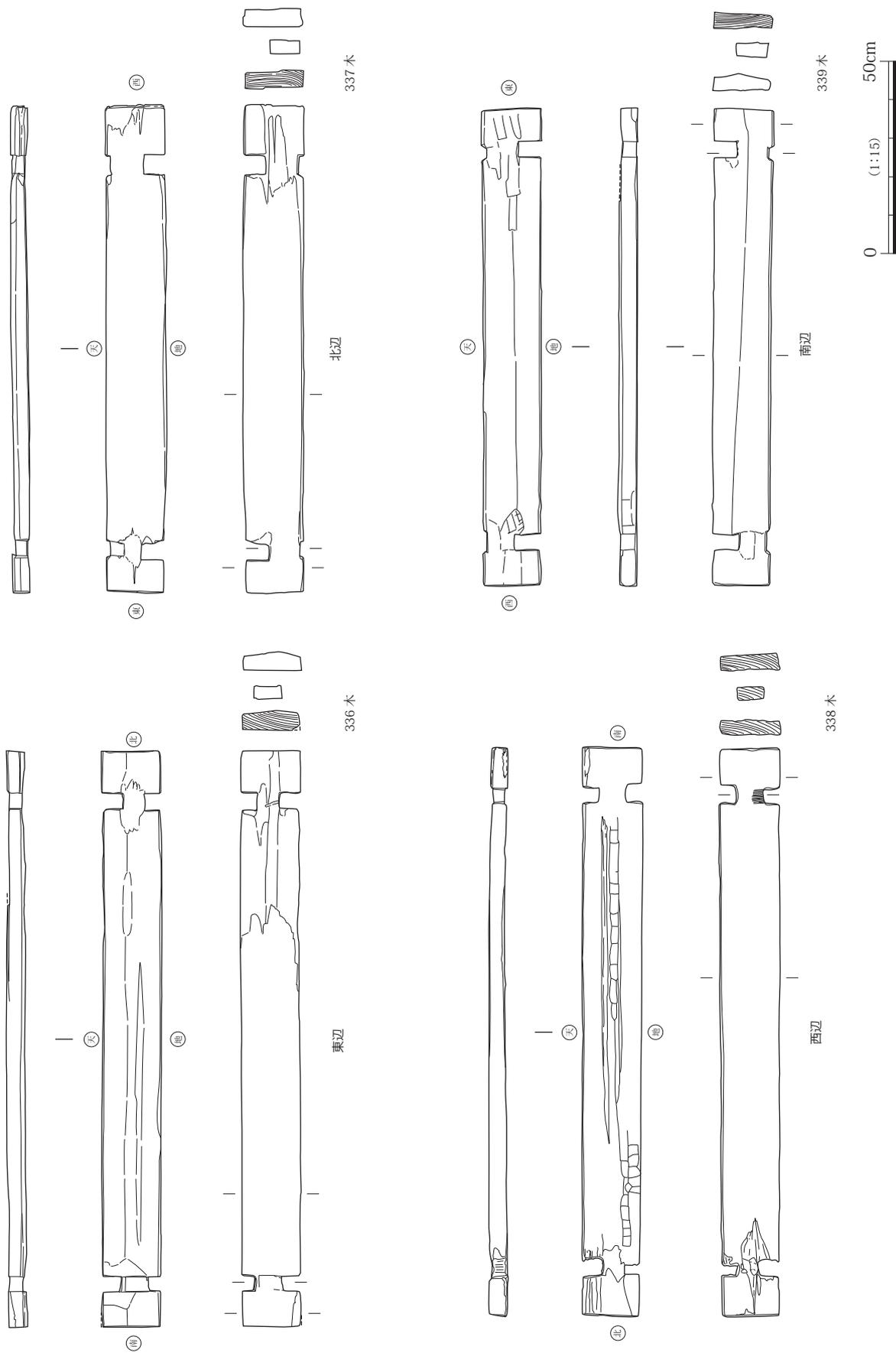


图 123 1012 井戸 井戸柱 3 段目

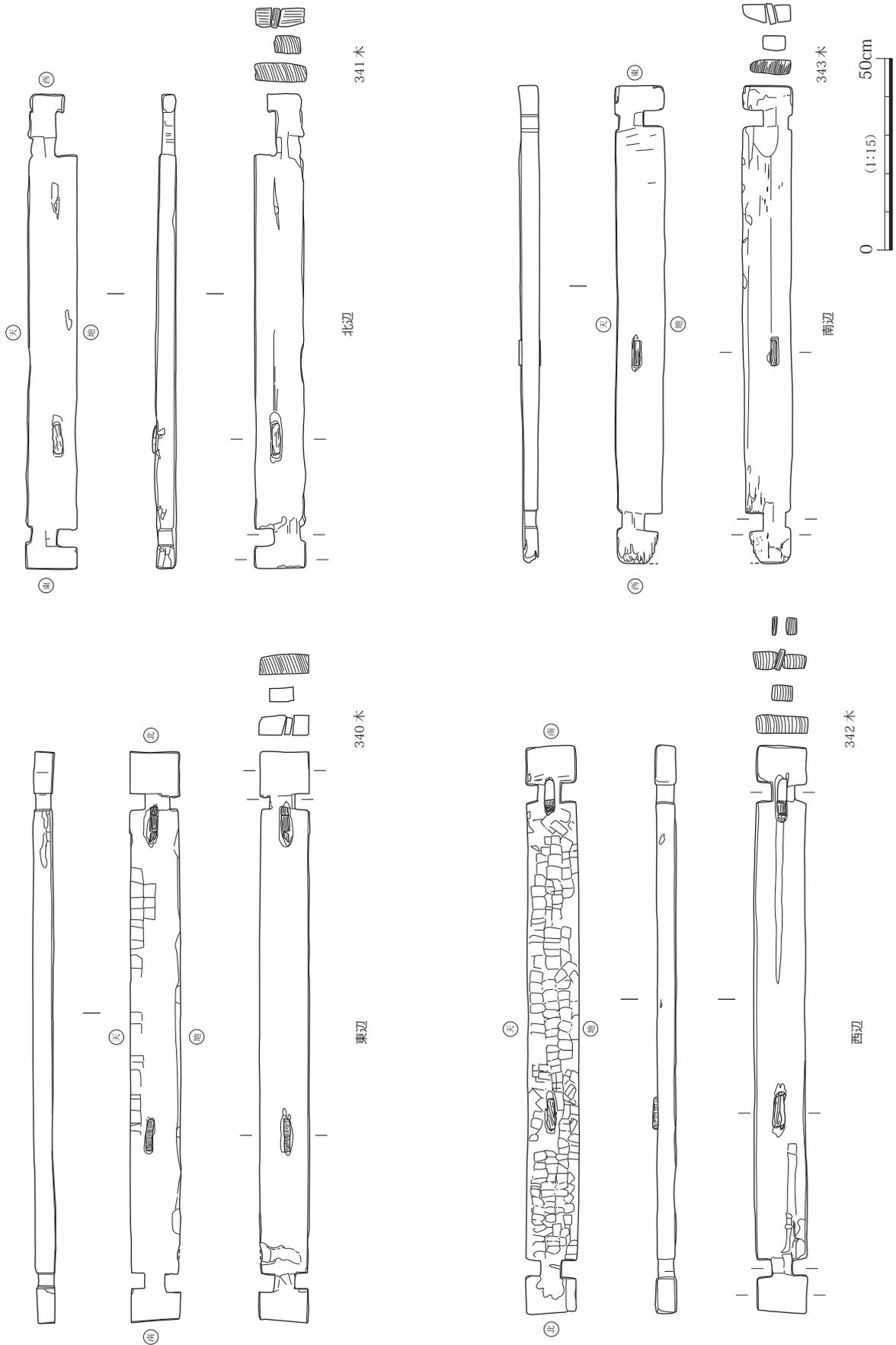


図 124 1012 井戸 井戸枠 4 段目

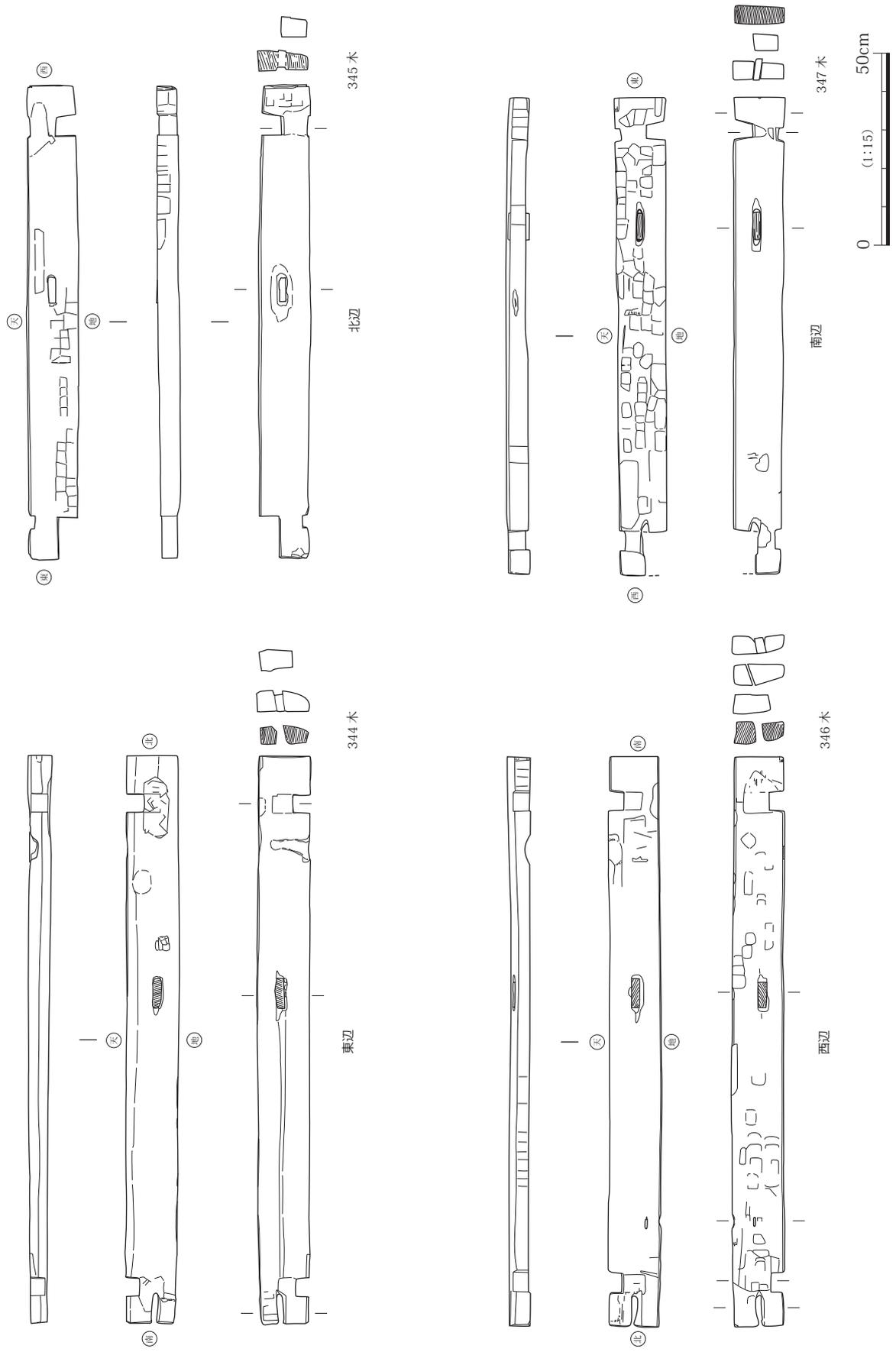


图 125 1012 井戸 井戸梓 5 段目

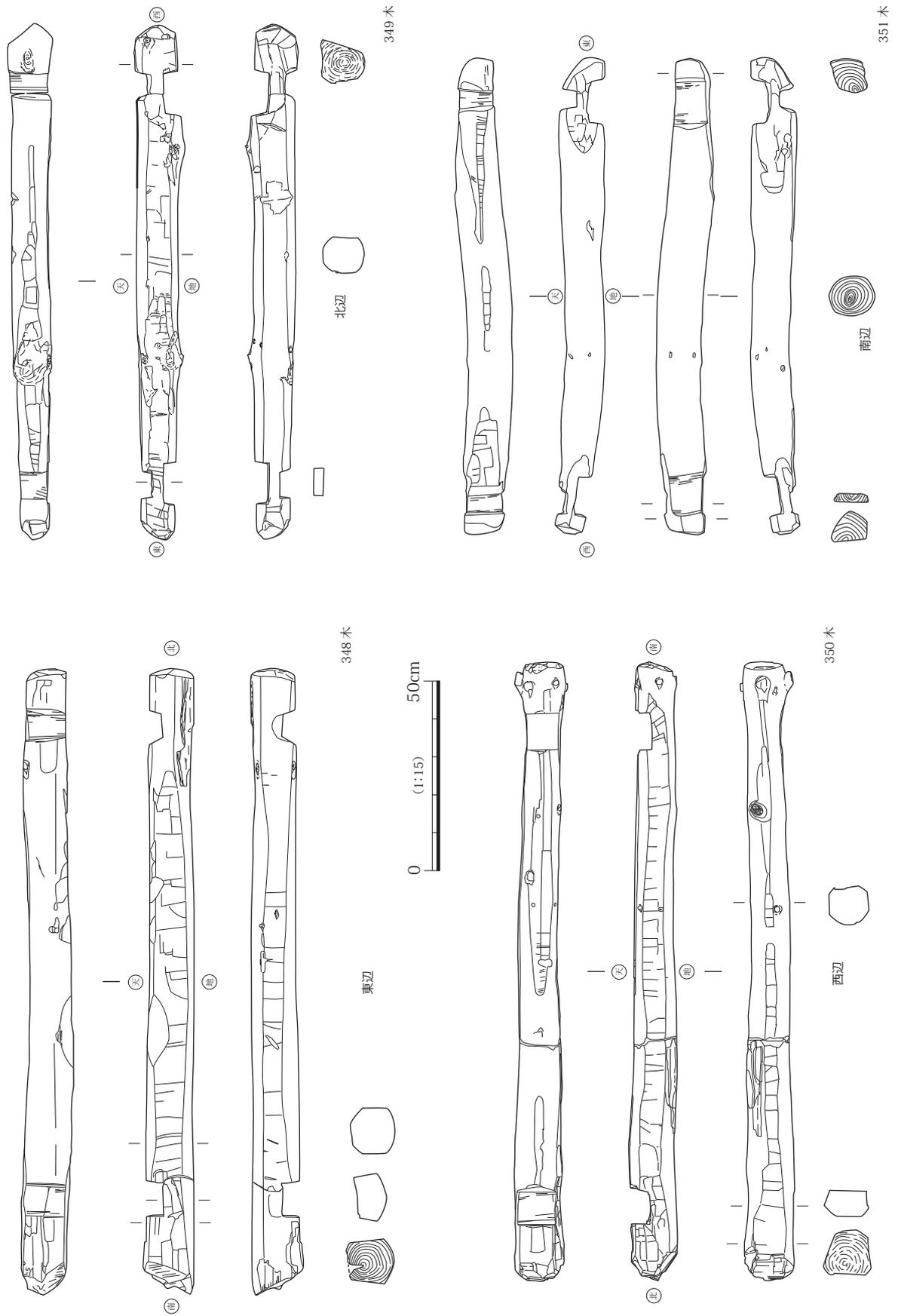
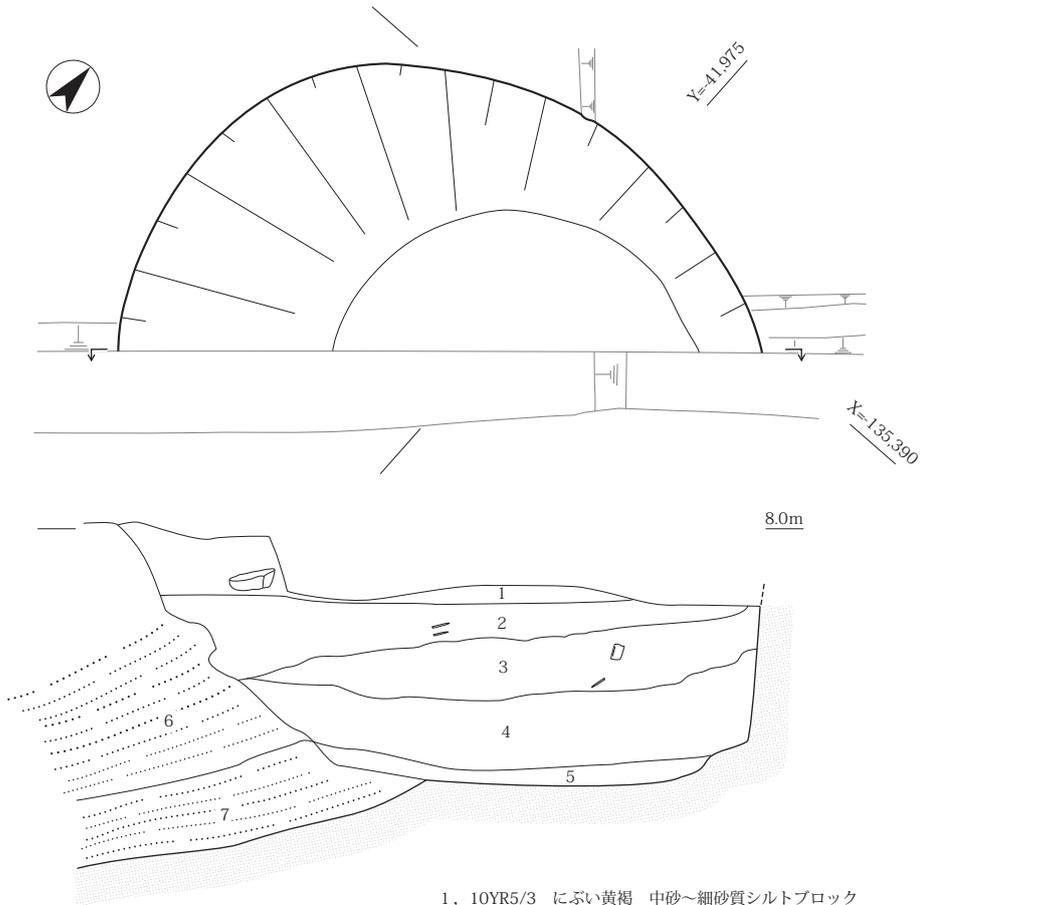
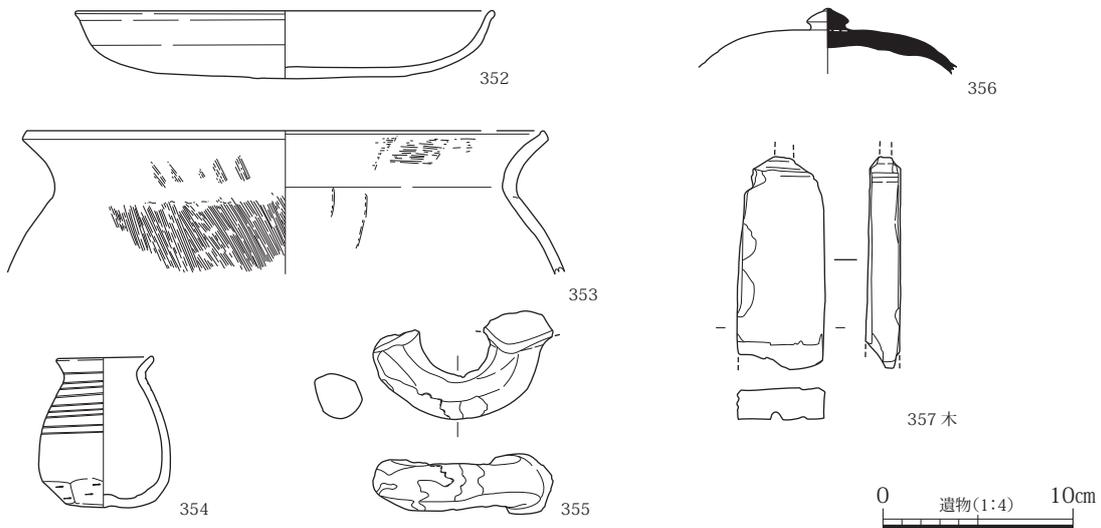


図 126 1012 井戸 井戸樫6段目



- 1, 10YR5/3 にぶい黄褐 中砂～細砂質シルトブロック
- 2, A: 7.5YR5/1 褐灰 極細砂質シルト B: 2.5Y6/1 黄灰 中砂～細砂 ブロック混合 (A:B=6:4)
- 3, A: 5Y7/1 灰白 粗砂～中砂 B: 7.5Y5/1 灰 シルト ブロック混合 (腐植物混じる) (A:B=7:3)
- 4, A: 5GY7/1 明オリーブ灰 シルト質粘土 B: 2.5Y4/1 黄灰 粗砂質シルト C: 2.5Y6/1 黄灰 粗砂～中砂質シルト ブロック混合 (A:B:C=2:2:6)
- 5, 5G7/1 明緑灰 極粗砂～中砂
- 6, 5Y8/1 灰白 極粗砂～細砂 (ラミナ顕著) (B2060 流路埋土)
- 7, 7.5Y7/1 灰白 シルト、粗砂が互層状に堆積 (ラミナ顕著) (B2060 流路埋土)

0 (1:40) 2m



0 遺物(1:4) 10cm

図 127 B2024 井戸 平面図・断面図・出土遺物

の材である。いずれもスギ。340～343は横板組み4段目の材である。いずれもスギ。1～2箇所の孔があり、木片でその孔を塞いでいる。孔の間隔は、孔の端から端で約90cmを測りすべて同一規格である。344～347は横板組み5段目の材である。いずれもスギ。1～2箇所の長方形の孔があり、木片でその孔を塞いでいる。孔の間隔は、孔の端から端で約90cmを測りすべて同一規格である。348～351は横板組み6段目の基礎部分の材である。いずれもマツ。横板組みの井戸枠に使用された材は、一点を除きすべてスギであった。規格的な孔が穿たれていたことから、転用材と考えられる。なお、横板組みの井戸枠内から検出された曲物については、取り上げ時に崩壊したため図化できなかった。

以上のことから、10世紀前半に廃絶した井戸と考えられるが、掘削の時期については不詳である。

B2024 井戸 (図107・127、写真図版68-1・134・135・143) 09-3:2-2区において地山上面で検出した。掘立柱建物14の南西方約7mにあり、X=-135,390、Y=-41,975地点に位置する。南東部が調査区外になるため、全容は明らかでないが、素掘り井戸であったと考えられる。検出した部分の規模及び平面形は最大径3.4mを測る円形である。断面形は逆台形で、深さ1.4mを測る。

埋土は、機能時と考えられる堆積層が見られず、埋戻土と考えられるブロック土を主体としたものであることから、この井戸が一定期間機能していたかどうかは定かではない。掘削後すぐに埋め戻された可能性も考えられる。掘方の北東側は第2節で報告したB2060流路の埋土を切って形成されていることから、湧水を期待して掘削された遺構と考え、当遺構を井戸と判断した。

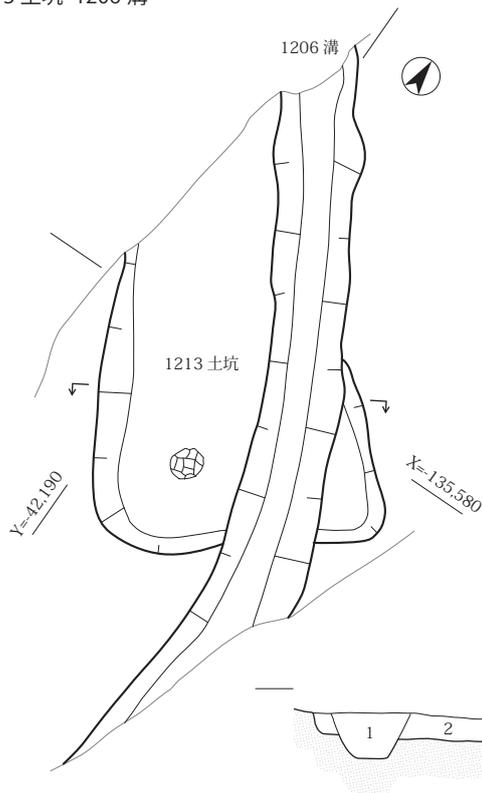
埋土中から、土師器・須恵器・木製品が出土した(352～357)。352～355は土師器である。352は皿。平城宮IV期前後の所産か。353は甕。7世紀後半の所産か。354は小壺。下膨れの体部に短い口縁部を成し、体部上半に螺旋状沈線を施す。底部と体部の境目をケズリ調整する。類例がなく、時期不詳である。355は把手。356は須恵器である。天井部にツマミがつく蓋。357は木製品。加工痕が残る板材である。樹種はアカガシ亜属。

なお、当井戸は吹田市教育委員会による確認調査(吹田市教育委員会2008)のNo.55調査区で検出された55-1土坑と同一のものである。吹田市教育委員会による調査では、湧水のため完掘していないが、井戸の可能性が指摘されており、円面硯など飛鳥時代の遺物が出土している。今回の調査結果から判断すれば、確認調査時に出土した遺物は、埋土の最上層から出土したものとなる。調査成果を考え合わせると、352の土師器を除き、すべて飛鳥時代所産の土器が出土していることとなる。思い返せば、当井戸は確認調査時の埋戻土が深く入り込み、それらを除きながらの調査であったため、別の遺構が重複しているかどうかの確認ができていない。そのため混入品が生じる可能性もあったわけである。もはや、その当否は確認することができないが、遺物の時期のまとまりを重視し352の土器を混入と見做せば、飛鳥時代に属する遺構となり、352の土器を重視すれば、奈良時代中頃に属する遺構となる。今回の調査及び確認調査の結果のみで判断すれば、飛鳥時代に属する遺構としたほうが、検出された建物の時期との整合性は取れる。

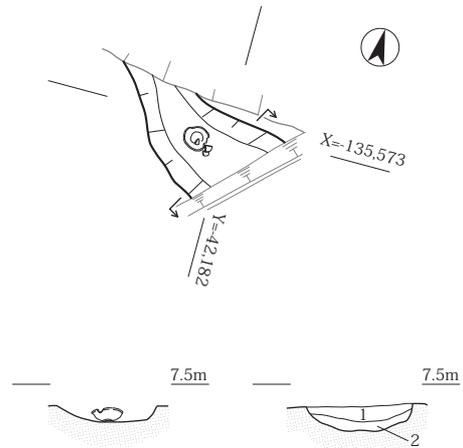
3. 土坑

1213 土坑 (図105・128) 12-1:1-2区において、地山上面で検出した。調査区の西端、X=-135,580、Y=-42,190地点に位置し、1206溝に切られる。北西部が調査区外になるため、全容は明らかでないが、検出した部分の規模及び平面形は長辺1.9m以上、短辺1.5mを測る長方形である。断面形は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土は黄褐色系砂質シルトを主体とする。埋土中から、弥生土器甕底部片(図66

1213 土坑・1206 溝



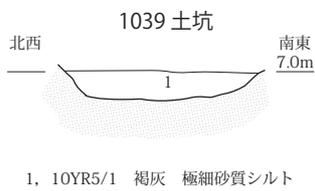
1200 土坑



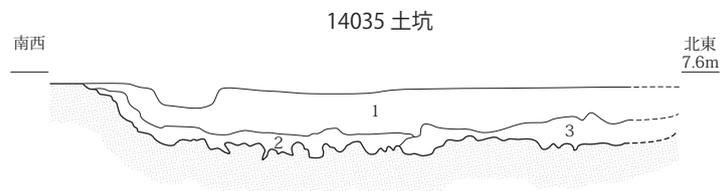
- 1, 5Y4/1 灰 極細砂混じり細砂 (黒色土器包含)
- 2, N4/0 灰 極細砂・シルト質細砂 シルトブロック(φ1~3cm 地山由来)を若干含む

1206溝

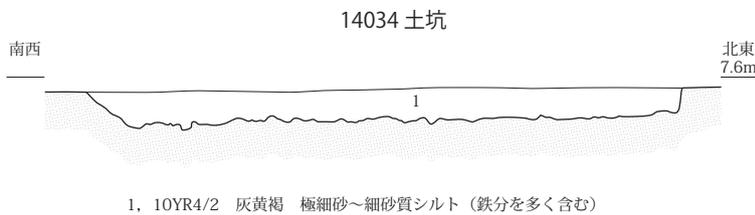
- 1, 5Y4/2 灰オリーブ 中砂質シルト
- 1213土坑
- 2, 10YR6/6 明黄褐 極細砂質シルト



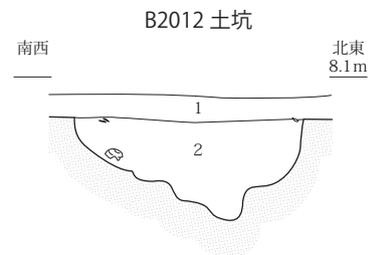
- 1, 10YR5/1 褐灰 極細砂質シルト



- 1, 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂~細砂混じり粘質シルトに10YR8/4 浅黄橙粘質シルトブロックが混じる
- 2, 7.5YR5/1 褐灰 粘土~シルト(粗砂~中砂を少量含む)に10YR8/2 灰白粘土~シルトブロックが混じる
- 3, 7.5YR4/2 灰褐 極細砂質粘土~シルト(鉄分を含む)



- 1, 10YR4/2 灰黄褐 極細砂~細砂質シルト(鉄分を多く含む)



- 1, 2.5Y6/4 にぶい黄 中砂~細砂質シルト(第2層)
- 2, 10YR3/1 黒褐 中砂~細砂質シルトブロック(地山ブロック含む)(土器細片、炭化物多く含む)

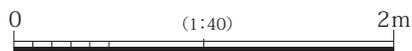


図 128 土坑 平面図・断面図

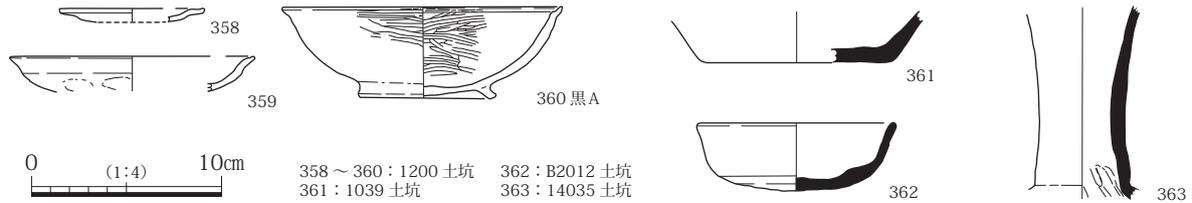


図129 土坑 出土遺物

ー172) が1点出土したが、かなり浮いた状態で出土したことで、周辺における古代の遺物を包含する遺構埋土との類似から、混入と考え第2節で報告した。他に遺物は出土していない。

1200 土坑 (図105・128・129、写真図版70-3・134) 12-1:1-2区において、地山上面で検出した。X=-135,573、Y=-42,182地点に位置し、1199溝に切られる。南東部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長さ1m以上、幅0.7m、深さ0.15mを測る。埋土は2層に分層でき、上層から遺物が出土した(358～360)。358は土師器皿。いわゆる「て」字状口縁の皿である。359は土師器皿。口縁部はヨコナデにより外反する。360は黒色土器A類椀。口縁端部内側に段を持つ。他に須恵器片も出土した。遺物は概ね10～11世紀の所産と考えられ平安時代中期に属する遺構と判断する。

1141 土坑 (図105・143) 11-1:1-1区において、地山上面で検出した。X=-135,519、Y=-42,120地点に位置し、1011落込み埋土の除去後に1142土坑と接して検出した。規模及び平面形は、長径1.6m、短径1.4mを測る円形である。断面形は逆台形で深さ0.5mを測る。土師器・須恵器片が出土したが、時期の特定には至っていない。

1142 土坑 (図105・143) 11-1:1-1区において、地山上面で検出した。X=-135,521、Y=-42,120地点に位置し、1011落込み埋土の除去後に1141土坑と接して検出した。南東部が調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は、長軸2.0m、短軸1.4mを測る円形になると思われる。断面形は逆台形で、深さ0.35mを測る。土師器・須恵器片が出土したが、時期の特定には至っていない。

1039 土坑 (図105・128・129) 11-1:1-1区において、地山上面で検出した1013落込みの底部で検出した土坑である。X=-135,535、Y=-42,137地点に位置する。規模及び平面形は長径2.1m、短径1.1mを測る楕円形である。断面形は皿形で、深さ0.16mを測る。埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。埋土中から、須恵器杯Aが出土した(361)。当土坑は、1013落込み埋土を掘削後に検出したものである。検出状況から1013落込みと一連のもの可能性が高いが、埋土が異なることから別遺構とした。

10005 土坑 (図148) 11-1:10-1区において、第4層除去面で検出した。X=-135,448、Y=-42,120地点に位置する。北部が調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長辺3.5m、短辺2.0m、深さ0.75mを測る不定形である。埋土はラミナが明瞭な砂を主体とする。埋土中から遺物は出土していない。

14034 土坑 (図106・128、写真図版70-2) 12-1:14-3区において、地山上面で検出した。X=-135,417、Y=-42,026地点に位置し、後述の14035土坑を切る。北西部が調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長径3.2m以上、短径3.1mを測る楕円形である。断面形は皿形で、深さ0.2mを測る。埋土は褐色系の砂質シルトを主体とする。埋土中から、土師器・須恵器が出土したがいずれも細片で、図示し得ない。後述の14035土坑との関係から奈良時代以降に属する。

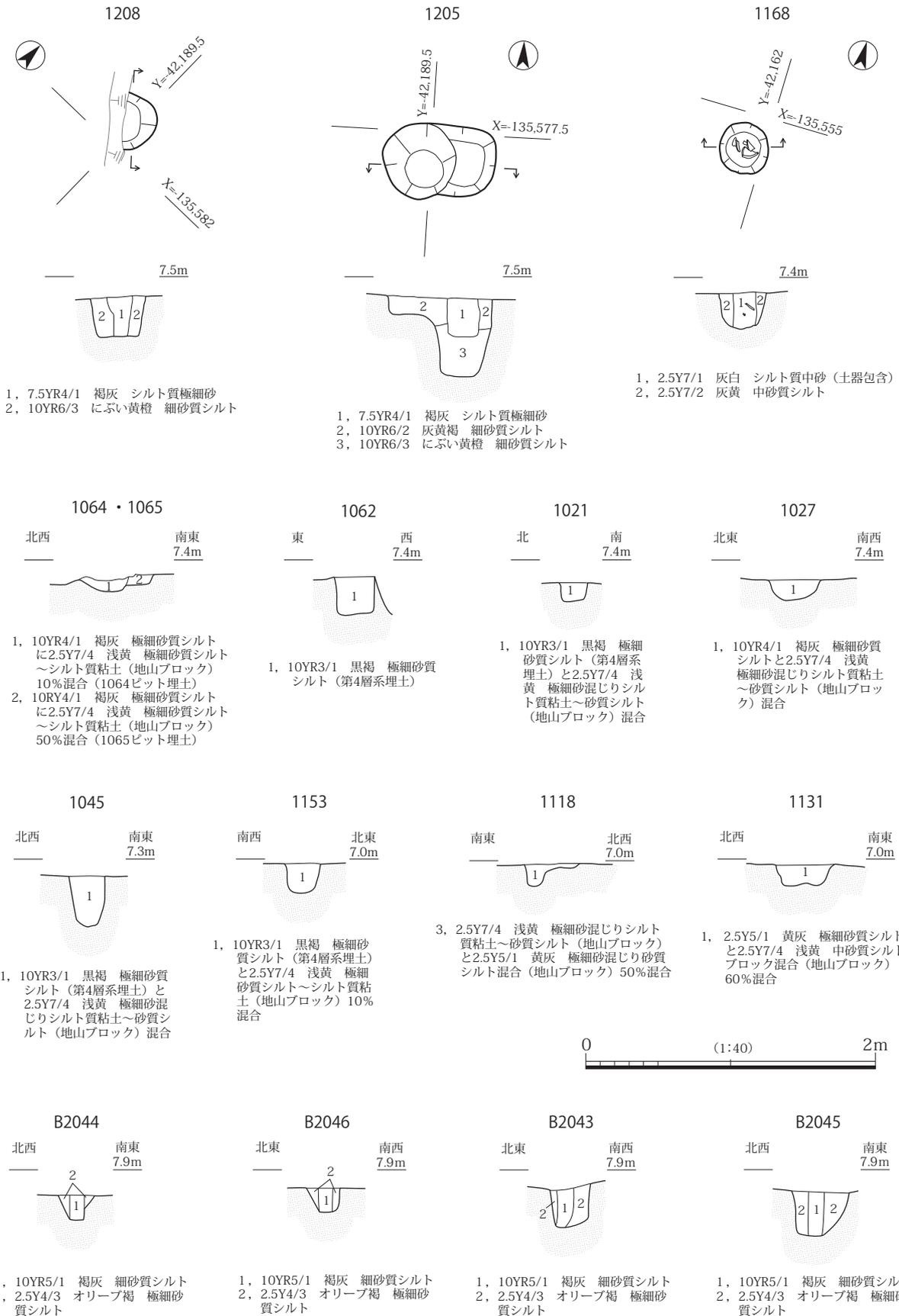


図 130 ピット 平面図・断面図

14035 土坑（図 106・128・129、写真図版 70-2） 12-1:14-3 区において、地山上面で検出した。X=-135,420、Y=-42,028 地点に位置する。北東部が 14034 土坑と重複し切られる。検出した部分の規模及び平面形は長辺 3.6 m、短辺 3.0 m を測る隅丸の三角形である。断面形は逆台形で、深さ 0.4 m を測る。埋土は褐色系のシルト～粘土を主体とする。埋土中から、須恵器長頸壺の頸部（363）が出土した。8 世紀代の所産か。他に土師器細片・須恵器甕片が出土したが、いずれも時期不詳。奈良時代に属する遺構と考えられる。

なお、14034・14035 土坑を検出した地点は、吹田市教育委員会による確認調査の No. 54 調査区に当たり、確認調査において、土坑 54-8・土坑 54-9 として検出されていたものと同一の遺構と判断される。

B2012 土坑（図 107・128・129、写真図版 70-1） 09-3:2-2 区において、地山上面で検出した。X=-135,377、Y=-41,970 地点に位置する。北西部が調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長径 1.2 m を測る半円形である。断面形は逆凸形で、深さ 0.5 m を測る。埋土は黒色系の砂質シルトブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器杯 G（362）が出土した。7 世紀中葉の所産。飛鳥時代に属する遺構と考えられる。

4. ピット

1208 ピット（図 105・130） 12-1:1-2 区において地山上面で検出した。X=-135,582、Y=-42,189.5 地点に位置する。調査区西端部で検出したが、遺構の半分は攪乱により失われる。検出した部分の規模は、径 0.4 m、深さ 0.3 m を測る。柱痕跡が確認された。平安時代の所産と考えられる土師器杯が出土したが図示し得なかった。

1205 ピット（図 105・130） 12-1:1-2 区において地山上面で検出した。X=-135,577.5、Y=-42,189.5 地点に位置する。平面形は隅丸方形で長辺 0.8 m、短辺 0.5 m、深さ 0.5 m を測る。ピットの西側は 2 段に掘り込まれる。土師器の杯や甕の細片の他に須恵器製の円面硯と考えられる破片も出土したが図示し得なかった。

1168 ピット（図 105・130、写真図版 70-4） 12-1:1-2 区において地山上面で検出した。X=-135,555、Y=-42,162 地点に位置する。平面円形で、径 0.35 m、深さ 0.3 m を測る。柱痕内から土師器片や須恵器片が出土したが図示し得なかった。

1064・1065 ピット（図 105・130・131、写真図版 135） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,538、Y=-42,144 地点に位置する。1064 ピットが 1065 ピットを切る。1064 ピットは平面円形で、径 0.34 m、深さ 0.1 m を測る。埋土はどちらもブロック土を主体とする。1065 ピットの埋土中から、土錘（373）が出土した。

1062 ピット（図 105・130・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,538、Y=-42,142 地点に位置する。平面隅丸台形で、長径 0.5 m、深さ 0.25 m を測る。埋土は黒色系砂質シルトを主体とする。埋土中から、黒色土器 A 類碗の口縁部（364）が出土した。

1021 ピット（図 105・130・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,539、Y=-42,141 地点に位置する。平面円形で、径 0.2 m、深さ 0.1 m を測る。埋土はブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器壺 C の体部（370）が出土した。

1027 ピット（図 105・130・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,538、Y=-42,140 地点に位置する。平面円形で、径 0.4 m、深さ 0.1 m を測る。埋土はブロック土を主体とする。埋土中

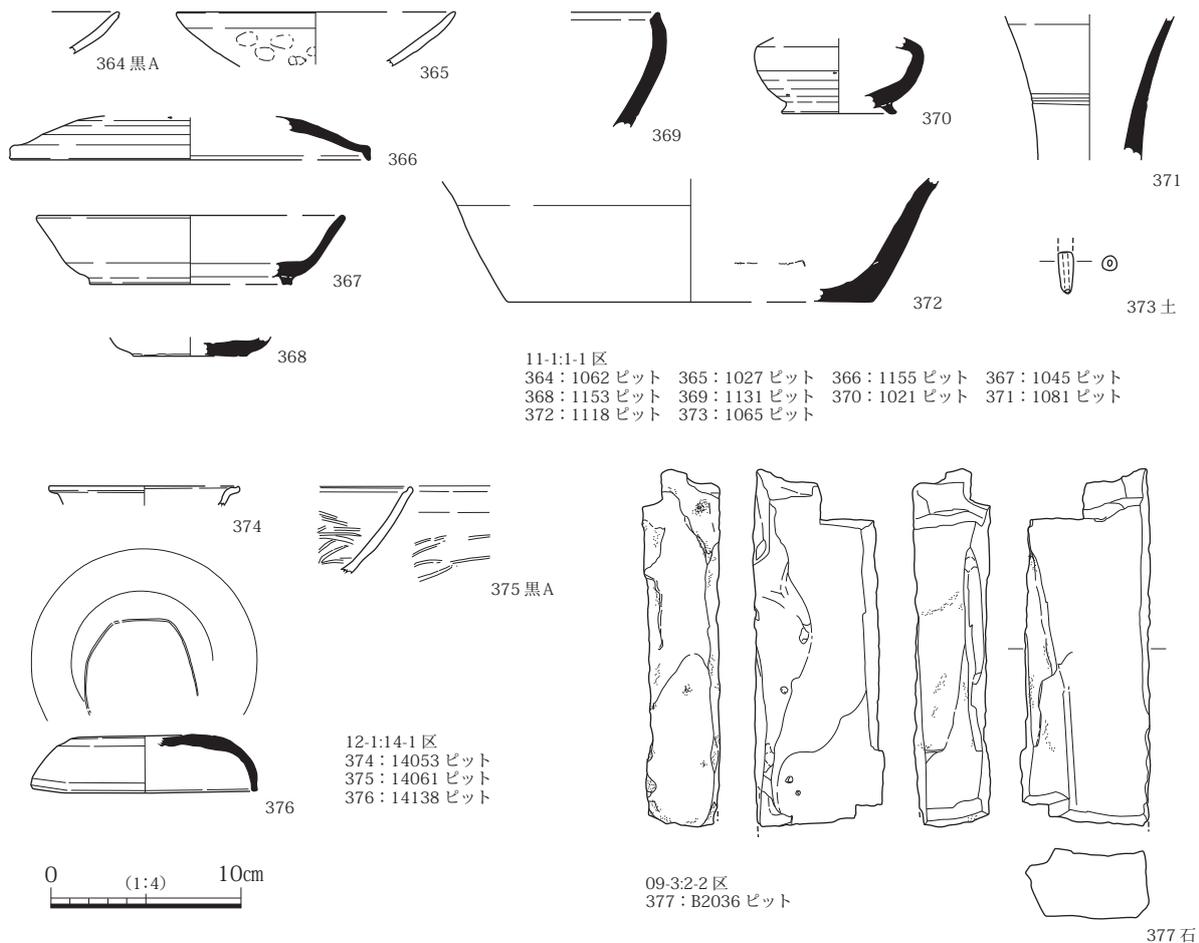


図 131 ピット 出土遺物

から、土師器碗（365）が出土した。

1045 ピット（図 105・130・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,531.5、Y=-42,136 地点に位置する。平面円形で、径 0.4 m、深さ 0.35 m を測る。埋土はブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器杯 B（367）が出土した。

1153 ピット（図 105・130・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,524、Y=-42,127.5 地点に位置する。平面円形で、径 0.25 m、深さ 0.2 m を測る。埋土はブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器杯 G の底部か（368）が出土した。

1118 ピット（図 105・130・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,524、Y=-42,127 地点に位置する。平面楕円形で、長径 0.5 m、深さ 0.15 m を測る。埋土はブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器鉢又は盤（372）が出土した。

1131 ピット（図 105・130・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,522.5、Y=-42,123.5 地点に位置する。平面円形で、径 0.4 m、深さ 0.15 m を測る。埋土はブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器鉢の口縁部（369）が出土した。

1155 ピット（図 105・111・131） 11-1:1-1 区において地山上面で検出した。X=-135,534、Y=-42,138.5 地点に位置する。平面隅丸台形で、長径 0.65 m、短径 0.6 m、深さ 0.3 m を測る。断面形は碗形である。埋土はブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器杯 B 蓋（366）が出土した。なお、当ピット

は掘立柱建物8を構成する1048柱穴に切られる。

1081ピット (図105・131) 11-1:1-1区において地山上面で検出した。X=-135,542.5、Y=-42,148地点に位置する。平面隅丸台形で、径0.5m、深さ0.5mを測る。断面形は逆台形である。埋土はブロック土を主体とする。埋土中から、須恵器壺の頸部(371)が出土した。

14053ピット (図107・131) 12-1:14-1区において地山上面で検出した。X=-135,393.5、Y=-41,999.5地点に位置する。平面隅丸台形で、径0.35m、深さ0.15mを測る。埋土中から、土師器皿(374)が出土した。

14061ピット (図107・131) 12-1:14-1区において地山上面で検出した。X=-135,395.5、Y=-42,001地点に位置する。平面隅丸台形で、径0.3m、深さ0.25mを測る。埋土中から、黒色土器A類の椀の口縁部(375)が出土した。

14138ピット (図107・131、写真図版134) 12-1:14-1区において地山上面で検出した。X=-135,395、Y=-41,994地点に位置する。平面隅丸台形で、長径0.7m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土中から、須恵器杯蓋(376)が出土した。

B2044ピット (図107・130) 09-3:2-2区において地山上面で検出した。X=-135,384、Y=-41,970地点に位置する。平面円形で、径0.3m、深さ0.2mを測る。柱痕跡を確認した。埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。埋土中から遺物は出土していない。

B2046ピット (図107・130) 09-3:2-2区において地山上面で検出した。X=-135,381、Y=-41,970地点に位置する。平面円形で、径0.25m、深さ0.2mを測る。柱痕跡を確認した。埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。埋土中から遺物は出土していない。

B2043ピット (図107・130) 09-3:2-2区において地山上面で検出した。X=-135,381.5、Y=-41,971地点に位置する。平面円形で、径0.3m、深さ0.3mを測る。柱痕跡を確認した。埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。埋土中から遺物は出土していない。

B2045ピット (図107・130) 09-3:2-2区において地山上面で検出した。X=-135,383、Y=-41,967.5地

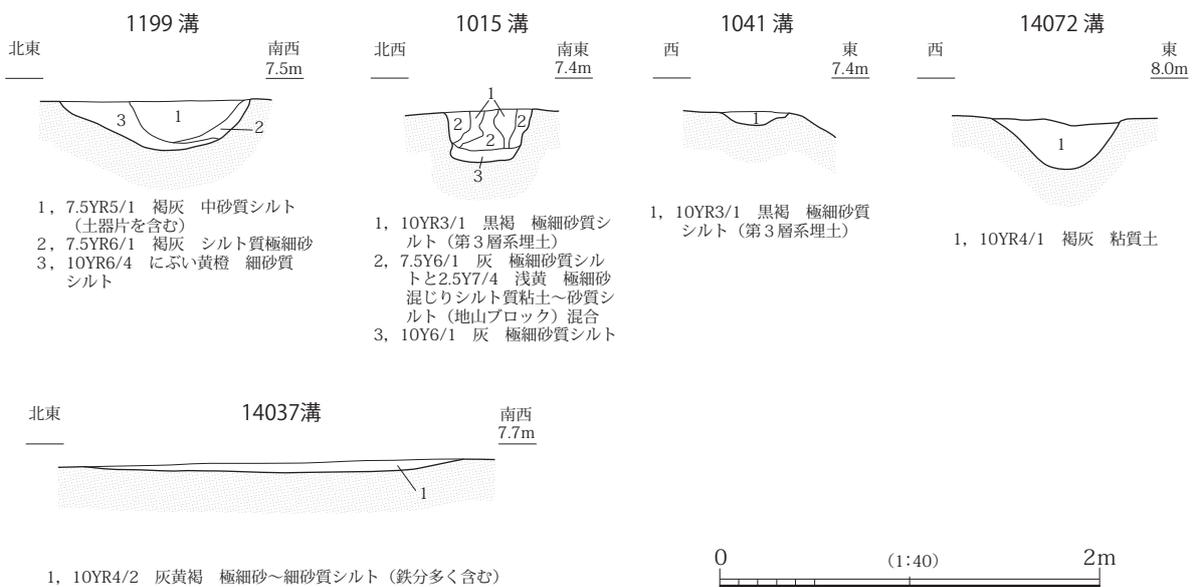


図132 溝 断面図

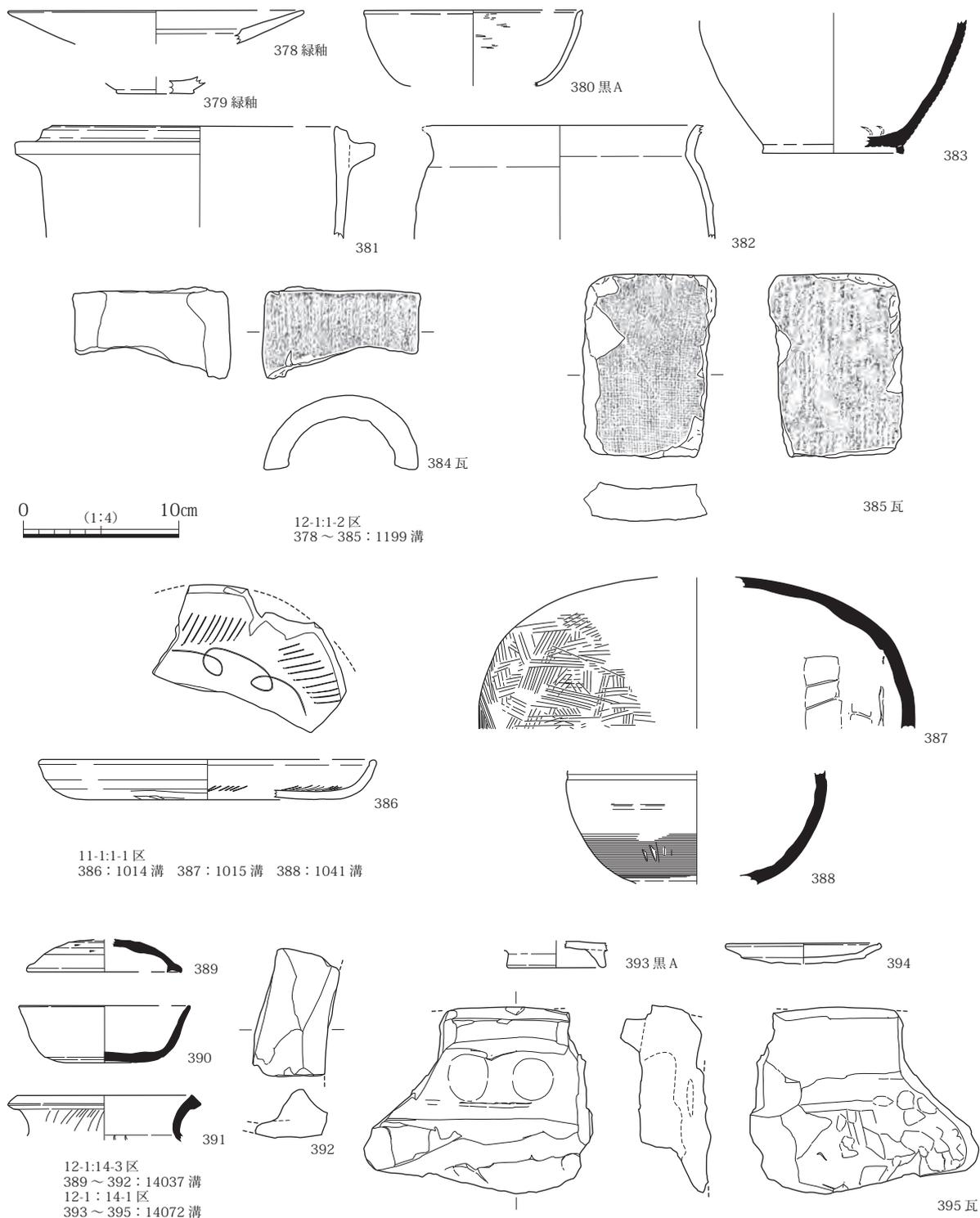


図 133 溝 出土遺物

点に位置する。平面円形で、径 0.4 m、深さ 0.3 m を測る。柱痕跡を確認した。埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。埋土中から遺物は出土していない。

B2036 ピット (図 107・131、写真図版 142) 09-3:2-2 区において地山上面で検出した。X=-135, 384.5、Y=-41, 969 地点に位置する。平面楕円形で、長径 0.4 m、短径 0.25 m、深さ 0.15 m を測る。断面形は腕形である。埋土はシルトブロックが混じる細砂を主体とする。埋土中から、板石 (377) が出土した。

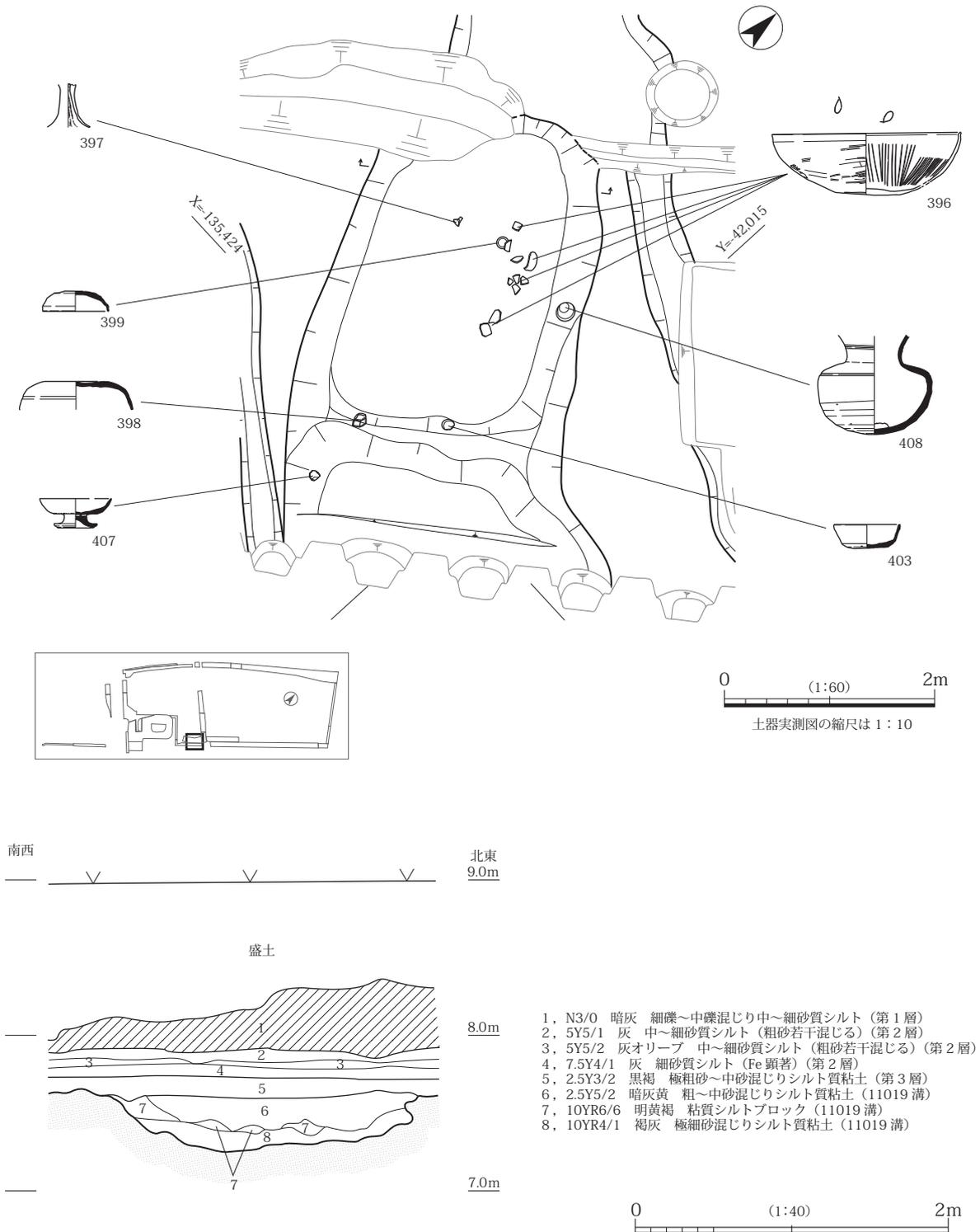


図 134 11019 溝 平面図・断面図

材質は砂岩。

5. 溝

1199 溝 (図 105・132・133、写真図版 74-4・135・139) 12-1:1-2 区において地山上面で検出した。1200 土坑の東に位置する。両端が調査区外になるため全容は明らかでないが、東-西方向を指向する。検出した部分の規模は幅 1.2 m、深さ 0.3 m を測り、検出長約 3 m である。埋土は 3 層に分層でき、断

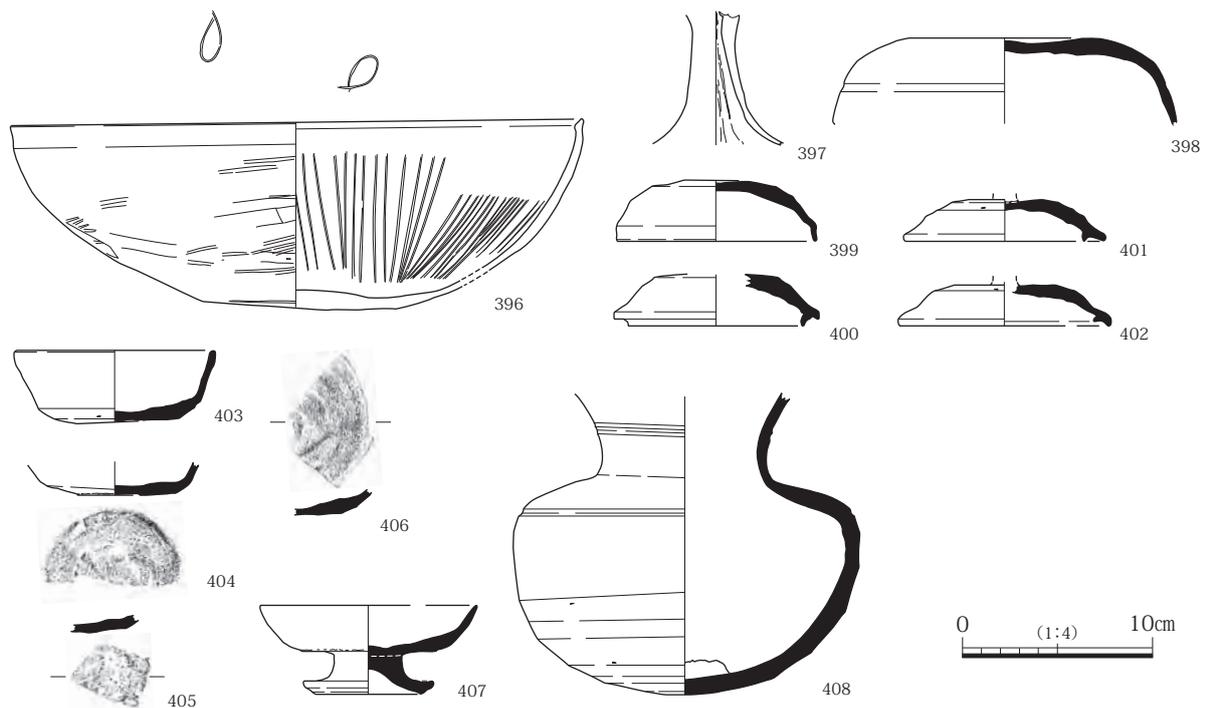


図 135 11019 溝 出土遺物

面観察の結果、最低 1 回の掘り直しが確認できた。

埋土中から、緑釉陶器段皿・椀 (378・379)、黒色土器 A 類椀 (380)、土師器羽釜・甕 (381・382)、須恵器壺 (383)、丸瓦 (384)、平瓦 (385) 等が出土した。図示し得なかったが、青磁皿も出土している。掘立柱建物 4・5 とほぼ軸を同じくすることから、建物群の区画溝となる可能性がある。出土遺物から 10 世紀前半には埋没していたものと判断される。

1206 溝 (図 105・128) 12-1:1-2 区において、地山上面で検出した。調査区の西端部に位置する。両端が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向し、調査区の南端 X=-135, 582、Y=-42, 189 地点で方向を南に変える。検出した部分の規模は、幅 0.4～0.5 m、深さ 0.2 m を測り、検出長約 4 m である。断面形は隅丸逆台形で、埋土はオリーブ色系の砂質シルトを主体とする。奈良時代～平安時代の所産と考えられる須恵器長頸壺の頸部片が出土したが、図示し得なかった。

1014 溝 (図 105・133) 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。後述の 1013 落込み埋土の上に形成されていることから、1013 落込みより後出するものである。検出した部分の規模は、幅 0.15 m、深さ 0.05 m を測り、検出長約 2.5 m である。断面形は椀形で、埋土は黒褐色砂質シルトを主体とする。埋土中から、土師器皿 (386) が出土した。

1015 溝 (図 105・132・133) 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。先述の 1012 井戸のすぐ東に位置する。両端が調査区外になるため全容は明らかでないが、北-南方向を指向する。検出した部分の規模は、幅 0.5～0.65 m、深さ 0.3 m を測り、検出長約 5 m である。断面形は逆台形で、埋土は機能時堆積層とブロック土による埋戻土が認められた。検出部分において、1012 井戸掘方及び後述の 1041 溝と接するが、切り合い関係は認められなかった。埋土中から、須恵器横瓶片 (387) が出土したが時期不詳である。

当溝は、もっとも近くにある掘立柱建物8・9と軸が概ね揃うことから、建物群の区画溝となる可能性がある。

1041 溝 (図 105・132・133) 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。前述の 1015 溝のすぐ東方に位置する。両端が調査区外になるため、全容は明らかでない。北-南方向を指向する。検出した部分の規模は、幅 0.3～0.5 m、深さ 0.1 m を測り、検出長約 4 m である。断面形は椀形で、埋土は黒色系砂質シルトで第 3 層系の土層を主体とする。埋土中から、須恵器脚付壺の体部片 (388) 等が出土した。なお、出土遺物は古相を示すが、埋土から判断すれば 1015 溝に後出するものである。さらに付言すれば、第 5 節で報告する掘立柱建物 16 と軸をほぼ同じくすることから、中世に属する区画溝の可能性も考えられる。

11019 溝 (図 106・134・135、写真図版 72・135) 11-1:11-2 区において、地山上面で検出した。南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は、幅 2.1～3.1 m、深さ 0.34 m を測り、検出長約 4 m である。断面形は隅丸逆台形で、埋土は褐色系シルト質粘土を主体とする。南東部で堤状に地山を掘り残したのが見られた。連続する大きな土坑が溝状に連なったものという印象を受けたが、実態は不明である。

埋土中から、土師器 (396・397)・須恵器 (398～408) 等が出土した。396 は鉢、397 は高杯脚部。398・399 は杯蓋、400～402 は杯 G 蓋、403～406 は杯 G、407 は高杯、408 は壺。このうち 398・408 が 5・6 世紀の古墳時代の所産と考えられるが、他のものは概ね 7 世紀前葉～中葉に位置づけられよう。飛鳥時代に属する遺構と考えておきたい。

なお、当溝は北西端で急激に底面が上がり、後述の 14037 溝と重複するが、二つの溝は深さが全く異なる溝である。運悪くその重複地点が調査区境となってしまったため、それぞれの様相の把握が困難となった。そのため、別の遺構として扱っておく。

14037 溝 (図 106・132・133、写真図版 136) 12-1:14-3 区において、地山上面で検出した。北西部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。前述したように 11019 溝と同じ溝に見えるが、深さが全く異なるものであり、別の遺構として扱った。検出した部分の規模は、幅 1.7～2.7 m、深さ 0.09 m を測り、検出長約 10 m である。断面形は皿形で、埋土は褐色系砂質シルトを主体とする。

埋土中から、須恵器 (389～391)・土師質竈片 (392) 等が出土した。389 は杯 G 蓋。390 は杯 G。391 は甕の口縁部。392 は焚口部分の破片と考えられる。391 は 6 世紀代の所産になるかと考えられるが、他は概ね 7 世紀中葉～後葉の所産と考えられる。出土遺物から見ると、上述の 11019 溝とほぼ同じ時期に属すると考えられ、一連の溝であった可能性もあろう。

11019 溝・14037 溝は、飛鳥時代に属する掘立柱建物と概ね軸を揃えることや、この溝の南西側では建物群を検出していない状況を考え合わせると、建物群に伴う区画溝の可能性があろう。

14001 溝 (図 106・136・137、写真図版 73-1・73-2・135) 12-1:14-2 区において、地山上面で検出した。両端が攪乱のため全容は明らかでないが、北東-南西方向を指向する。X=-135,372、Y=-42,055 地点で後述の 14005 溝と重複するが、攪乱際であり、切り合い関係や前後関係は不明である。検出した部分の規模は、幅 1.3～1.9 m、深さ 0.28 m を測り、検出長約 4 m である。断面形は逆凸形で、埋土は褐色系砂質シルトを主体とする。

埋土中から、土師器 (409)・須恵器 (410～415) 等が出土した。409 は鉢 B。410 は杯 H。411 は杯 G。

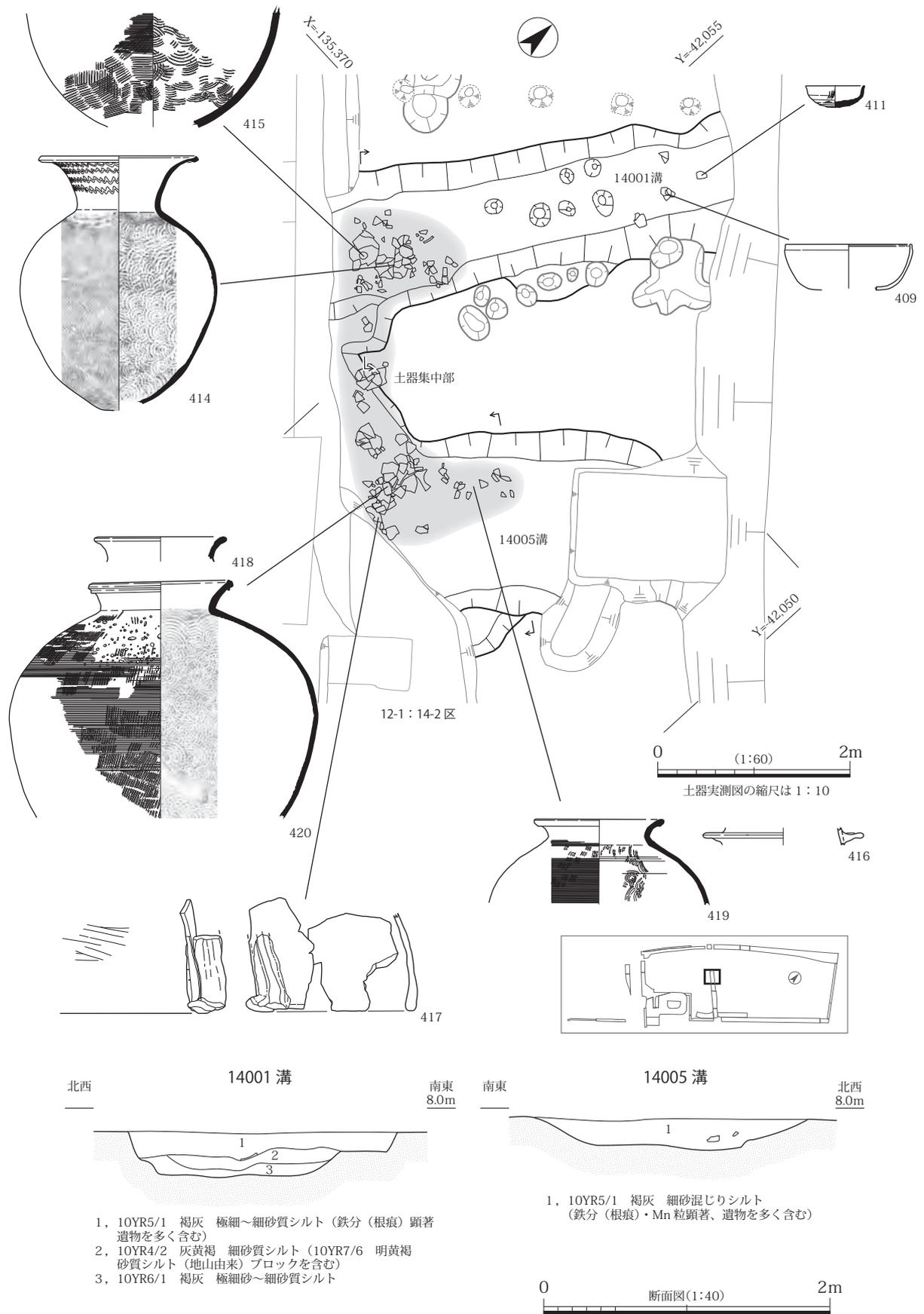


図 136 14001・14005 溝 平面図・断面図

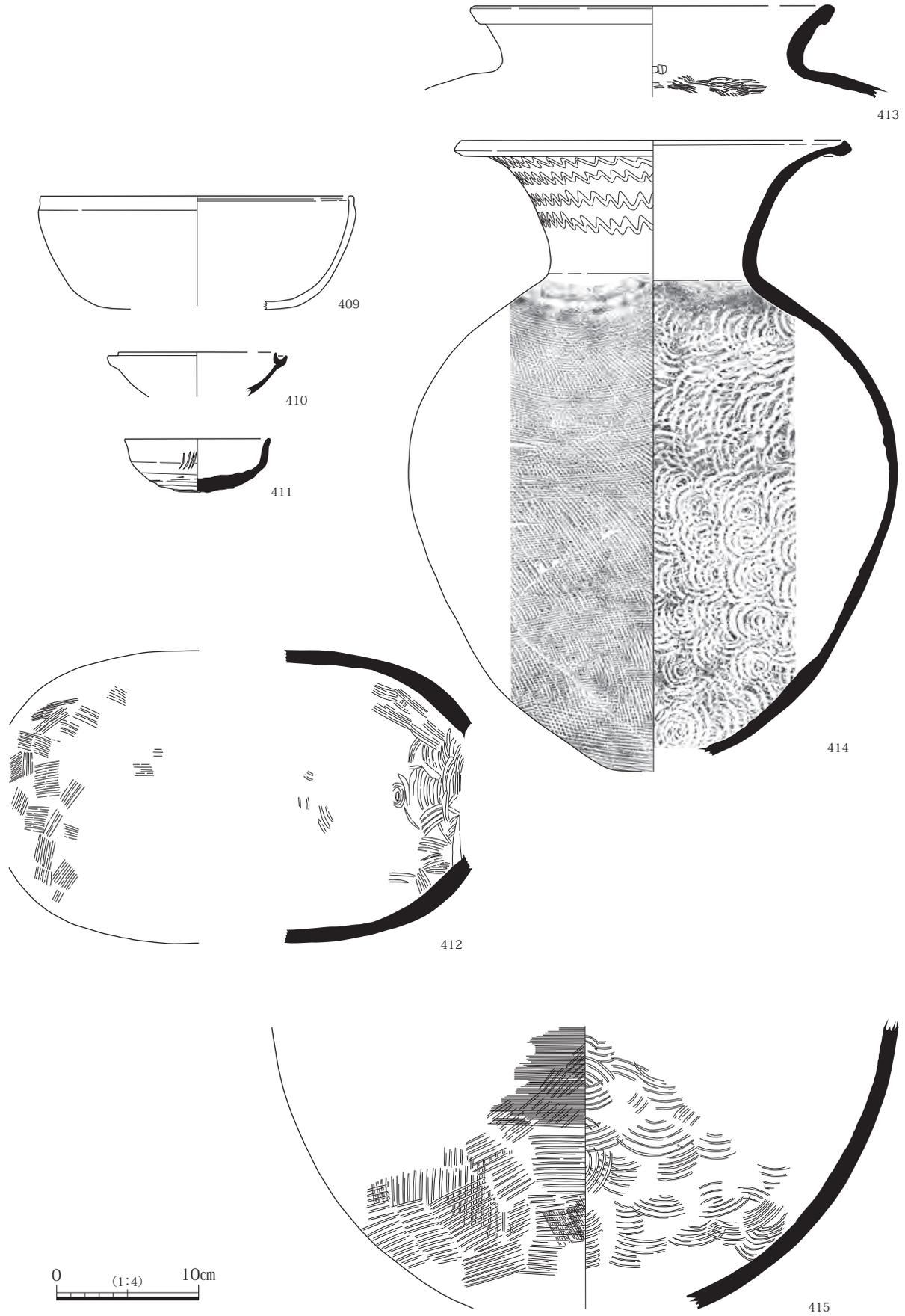


図 137 14001 溝 出土遺物

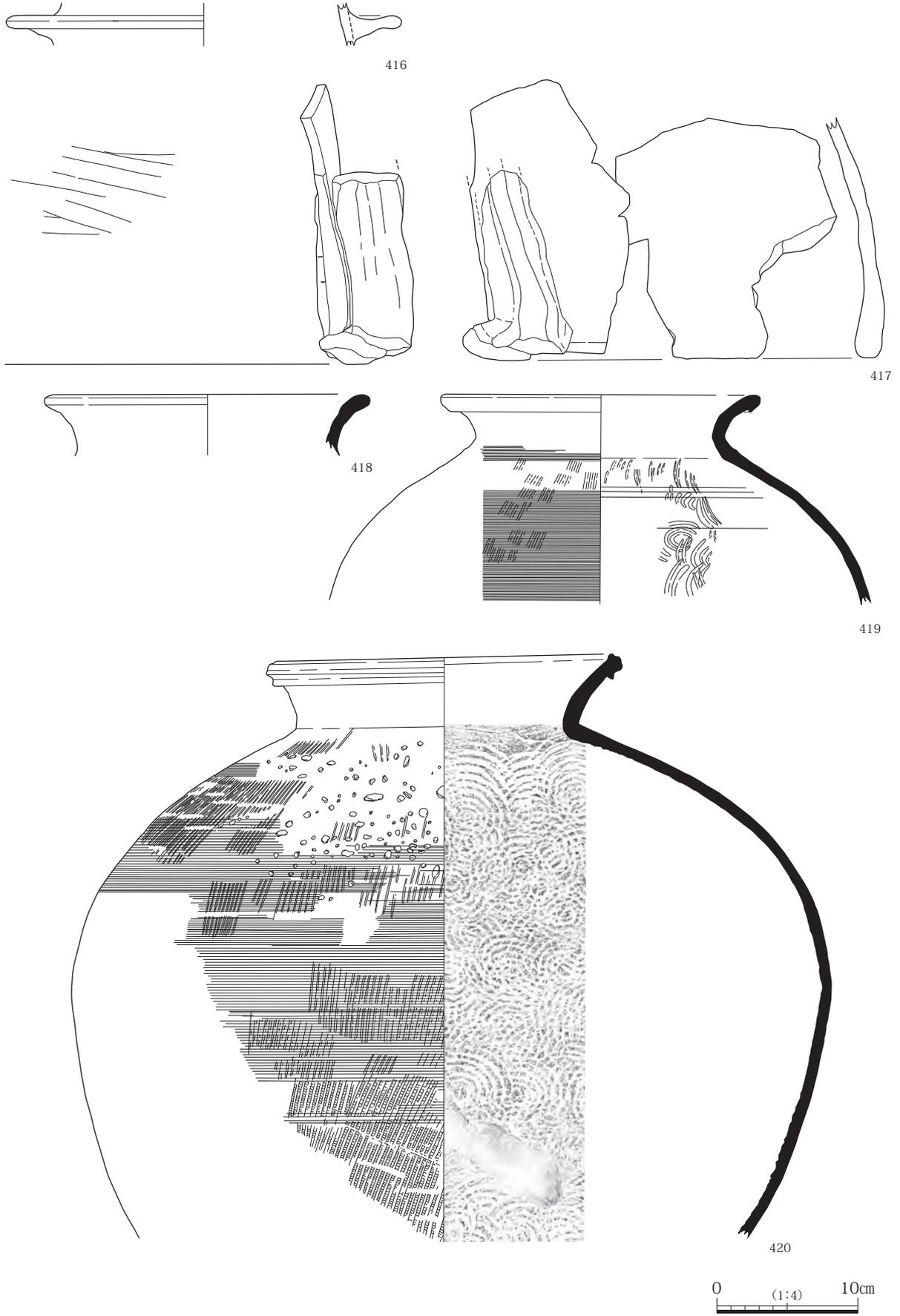


图 138 14005 沟 出土遗物

412は横瓶。413～415は甕。409～411は7世紀～8世紀初頭の所産と考えられるが、須恵器の甕は6世紀後半の所産と考えられ、若干の時期差が認められる。出土遺物から8世紀初頭には埋没していた可能性が高いが、開削の時期については判然としない。概ね飛鳥時代に属する溝と考えておきたい。

なお、当溝の指向する方向が、上述の11019・14037溝に対して直交するものであることは注意を要する。北西側の区画溝になる可能性もあろう。

14005 溝 (図106・136・138、写真図版73-1・73-3・135・136) 12-1:14-2区において、地山上面で検出した。両端が攪乱のため、全容は明らかでないが、北東-南西方向を指向する。南西端で方向を西へ変え、14001溝と交わるようであるが前後関係ははっきりしない。検出した部分の規模は、幅1.84～1.9m、深さ0.37mを測り、検出長約3mである。断面形は皿形で、埋土は褐色系砂質シルトを主体とする。

埋土中から、土師器羽釜(416)・土師質竈(417)・須恵器甕(418～420)等が出土した。須恵器甕は6世紀前半所産のものを含み、古相を示すが、7世紀代所産の土器も見られるため、埋没は7世紀代にならうか。概ね飛鳥時代に属する溝と考えておきたい。

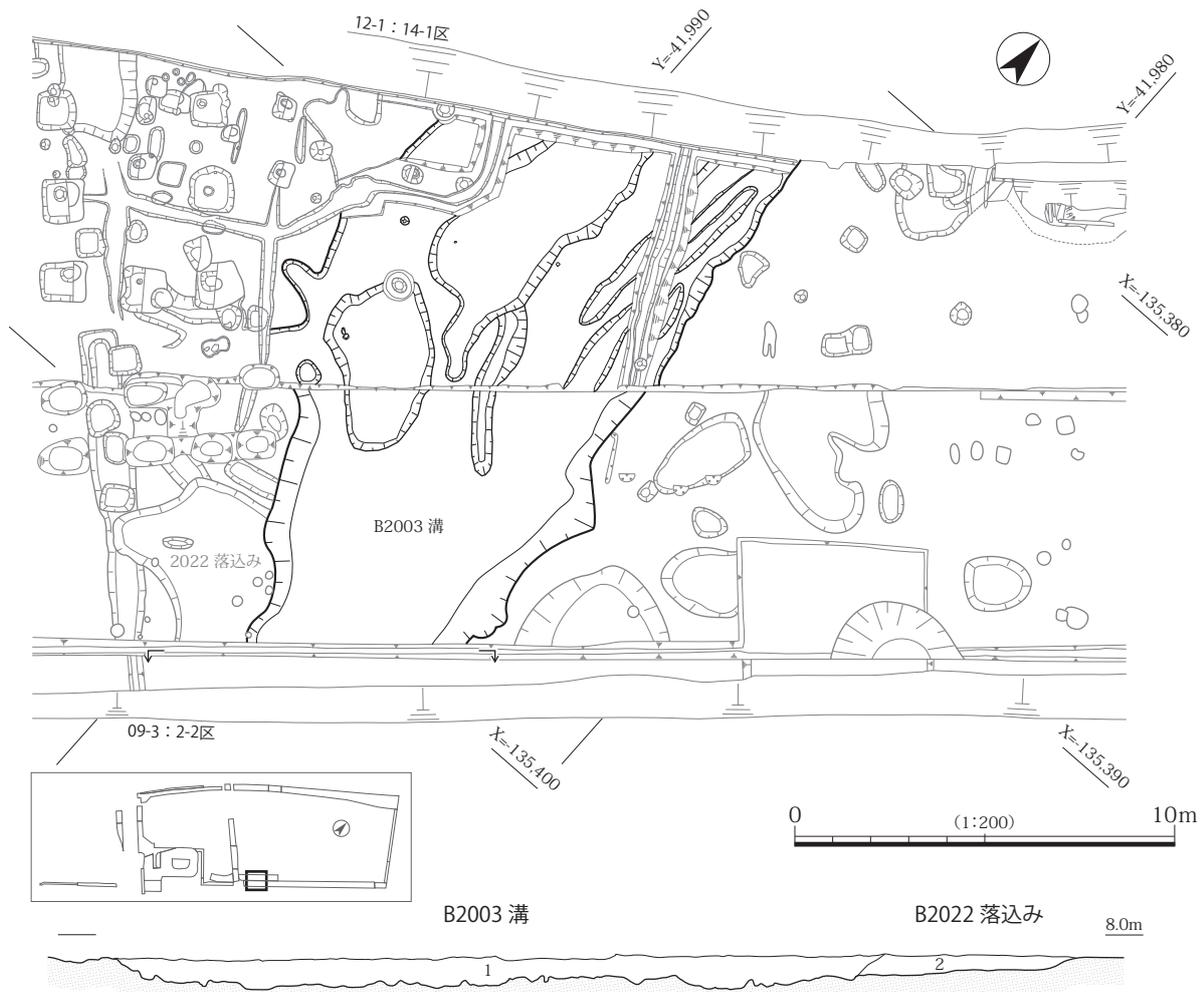
なお、14001溝との関係は出土遺物から見れば、若干の時期差を認め得るが、検出状況が判然としないため、その前後関係については不明である。

14072 溝 (図107・132・133・141、写真図版140) 12-1:14-1区において、地山上面で検出した。両端が調査区外になるため全容は明らかでないが、北東-南西方向を指向し、X=-135,390、Y=-41,993地点で方向を北東へ変える。後述のB2003溝埋土の上に形成されている。検出した部分の規模は、幅0.24～0.6m、深さ0.07mを測り、検出長約17mである。

埋土中から、黒色土器A類椀(393)・土師器皿(394)・瓦片(395)等が出土した。393・394は概ね10世紀末～11世紀初頭の所産と考えられる。なお、395の瓦片は、粘土の積み上げ方や珠点の剥離痕等から、初唐式の鴟尾の頂部の破片と考えられるものである。奈良時代～平安時代の所産とならうか。当溝は、平安時代中期に属すると考えられる。

B2003 溝 (図107・139～141、写真図版71・136・137) 09-3:2-2・12-1:14-1区において、地山上面で検出した。両端が調査区外になるため全容は明らかでないが、北-南方向を指向する。検出した部分の規模は、幅5.18～8.36m、深さ0.15mを測り、検出長約15mである。断面形は皿形で、埋土は中砂～粗砂を主体とするが、ラミナは認められない。流路とするには浅いが、底面が浸食を受け、埋土は砂を主体とすることから、低地を流水したものが溝状に認められたものであろうか。なお、当溝付近の包含層中には、耕作等により当溝から巻き上がったと考えられる遺物が多く認められた。

埋土中から、土師器(421～431)・須恵器(432～489)・土製品(490～495)・石製品(496)・金属製品(497)等、多量の遺物が出土した。421・422は杯。423・424は高杯の杯部及び脚部。425は甕の口縁部。426・427は脚付皿の脚部。428は鍋の底部か。429～431は把手。432～434は杯H蓋。435～440は杯H。441～446は杯G蓋。447～461は杯G。462・463は杯A。464～467は杯B。468・469は鉢。470は鉢又は壺の底部。471は皿C。472は横瓶の口頸部。473・474は甕の口縁部。475は壺。476は高杯。477～479はすり鉢の底部。480～486は平瓶。口頸部の破片が多く見られた。487～489は長頸壺の頸部及び体部。490は須恵質の不明土製品。491～494は土師質の竈片。495は不明土製品。円筒埴輪に似るが、外面のハケ目が細かく、器壁が薄いことから土師質の土製品と考えられる。496は円礫。敲き石か。497は方形の不明鉄製品。折損品と考えられる。



- 1, 7.5YR5/1 褐灰 シルト質粗砂～中砂 (B2003 溝埋土)
 2, 7.5YR4/1 褐灰 細砂～極細砂質シルト (極粗砂～細礫多く混じる) (B2022 落込み埋土)

0 断面図(1:60) 2m

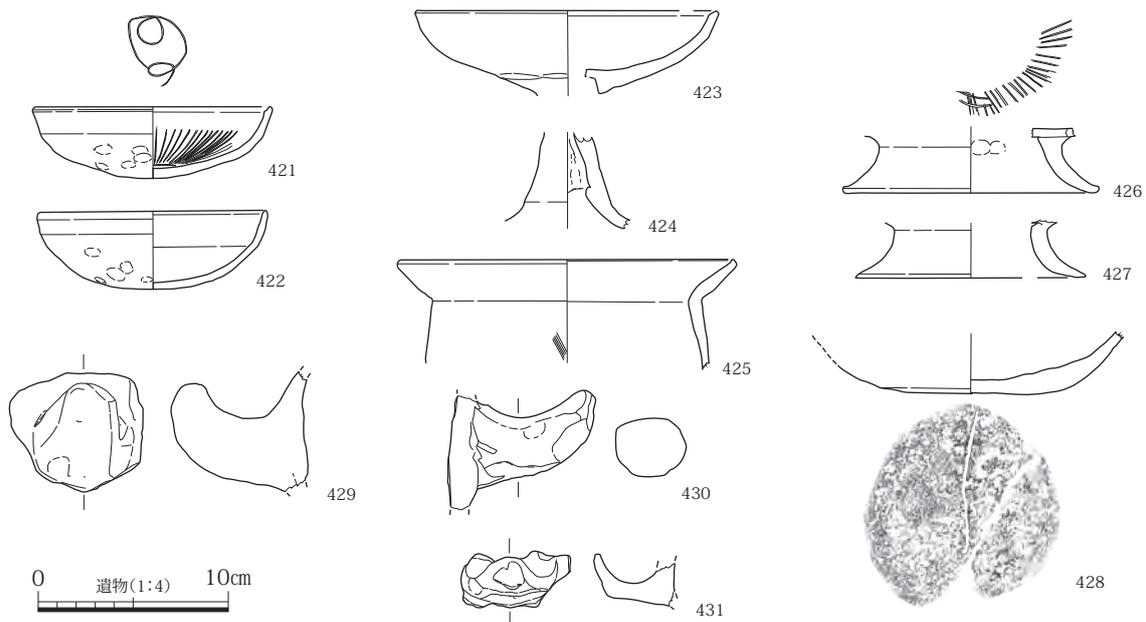


図 139 B2003 溝 平面図・断面図・出土遺物 (1)

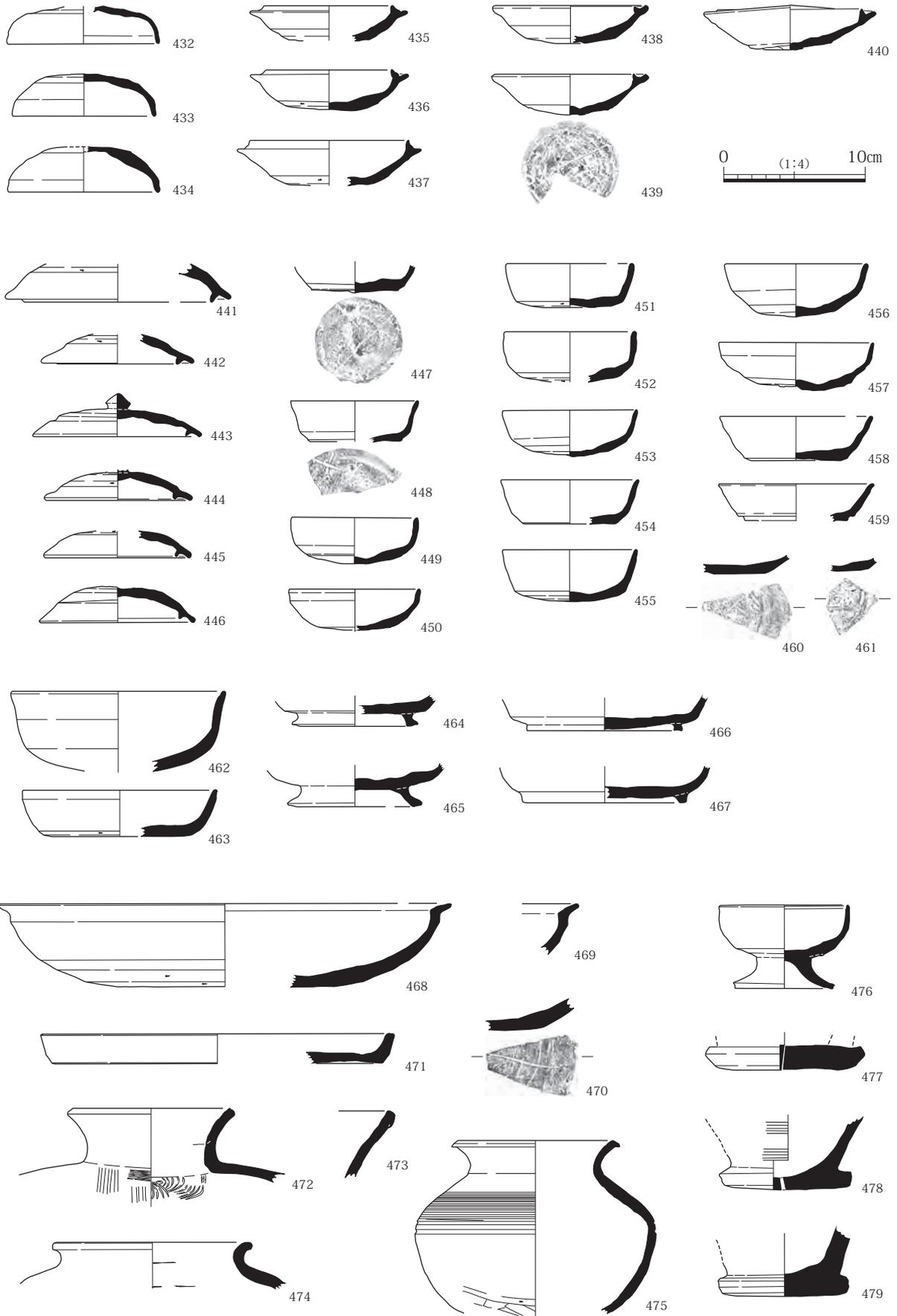


図 140 B2003 溝 出土遺物 (2)

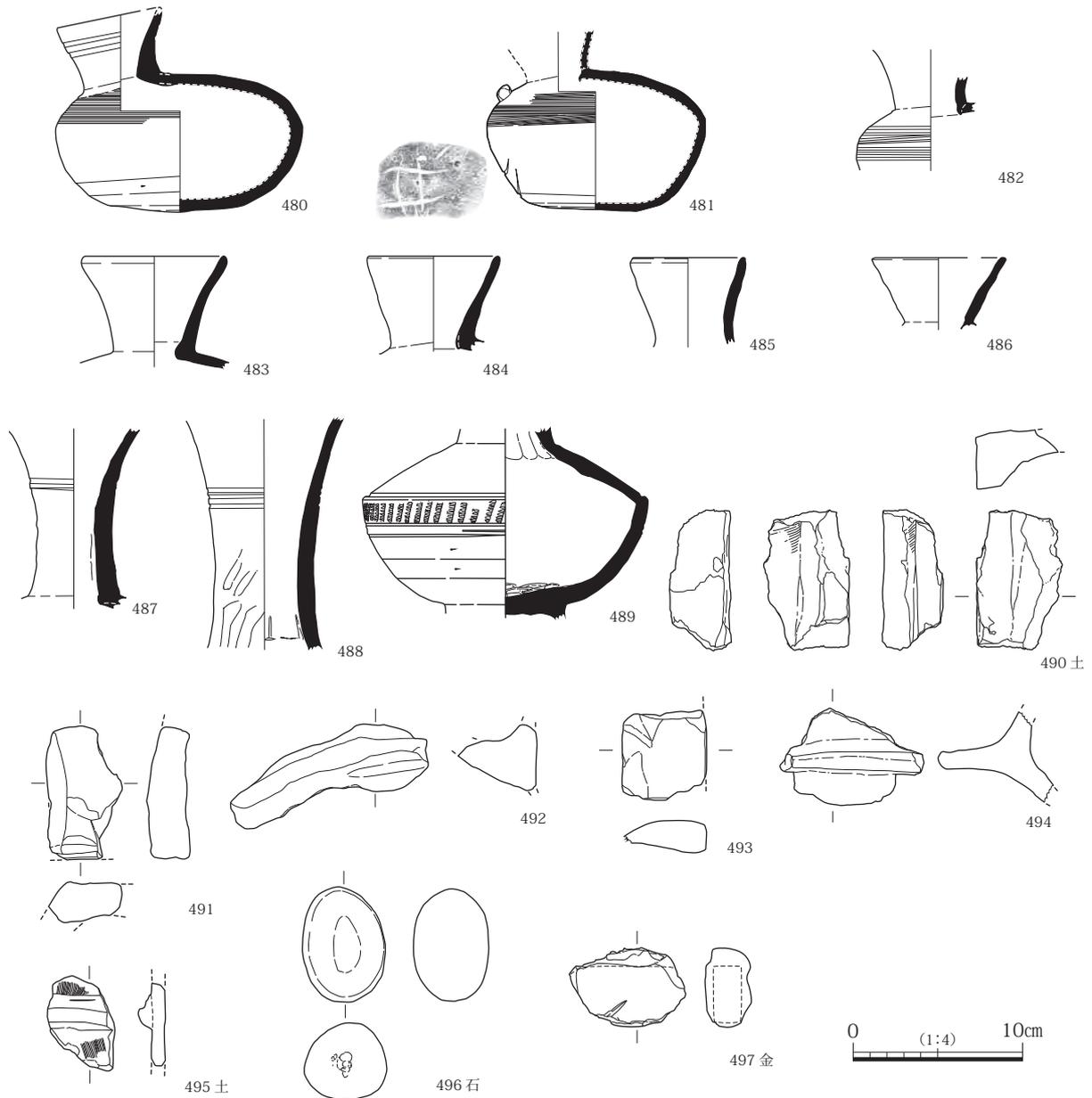


図 141 B2003 溝 出土遺物 (3)

出土遺物は、須恵器の割合が高く、7世紀代の所産と考えられる遺物が大半を占め、中でも7世紀中葉に位置づけられる土器が多い傾向にある。しかし、少量であるが8世紀前半代の所産となる須恵器が含まれる。出土遺物の取り上げは、埋土がほぼ1層であったことから一括で行った。そのため、8世紀前半代所産の遺物が埋土上部から出土したのか、下部から出土したのかの厳密な判定ができない。また、時期の異なる遺構を見逃していた可能性もある。今回の調査においては、当溝が奈良時代前半期まで形状を保っていた可能性を考慮し、飛鳥時代～奈良時代前半に属する遺構としておきたい。なお、出土遺物の時期から掘立柱建物 11・12 と併存していた可能性があるが、極めて近い位置にあり、溝の性格は不明である。

2001 溝 (図 142、写真図版 74-1・74-2・135) 11-1:2-1 区において、地山上面で検出した。両端が攪乱のため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は、幅 1.15～1.46 m、

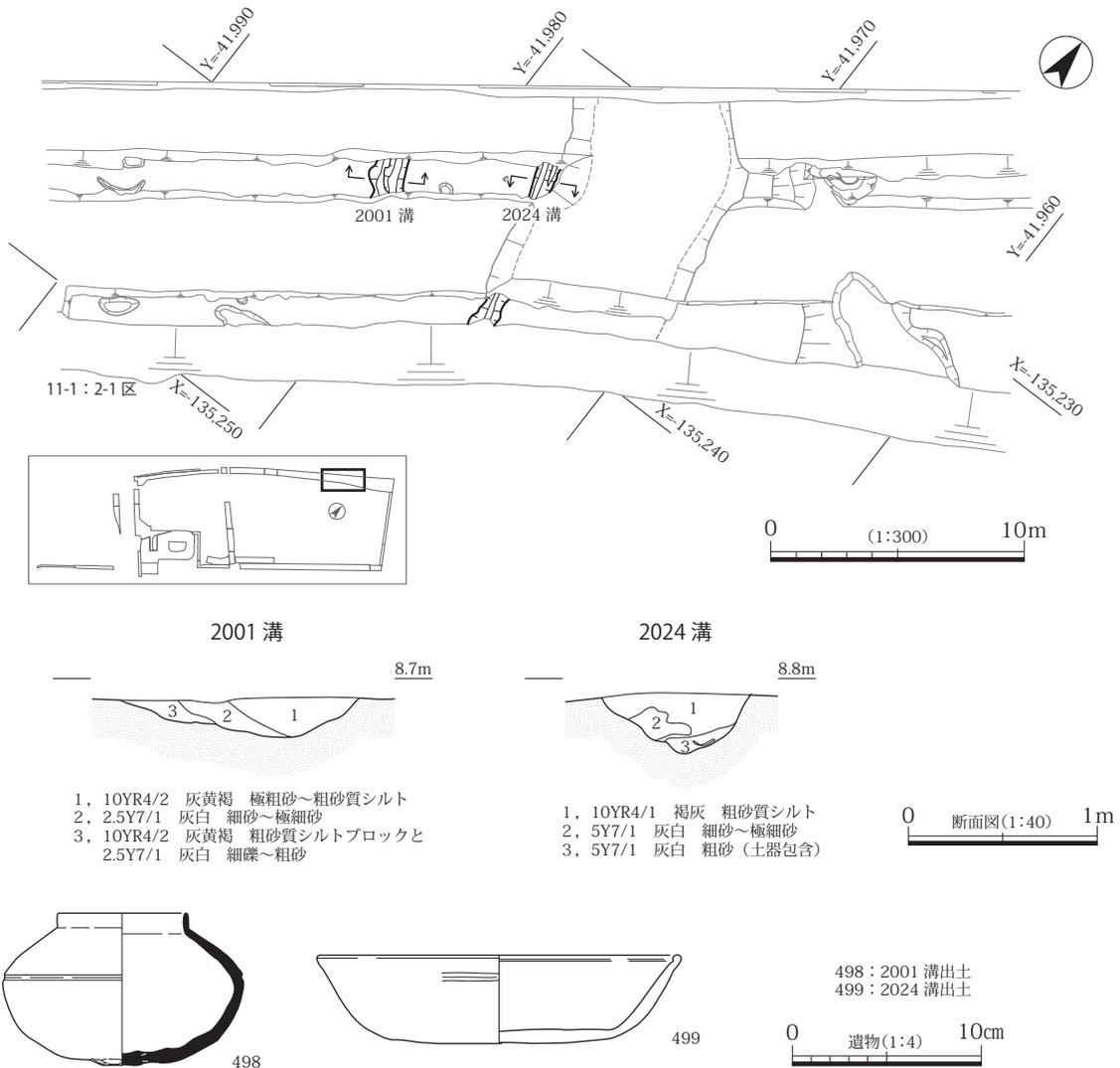


図 142 2001 溝・2024 溝 平面図・断面図・出土遺物

深さ 0.3 m を測り、検出長約 1.5 m である。断面形は皿形で、埋土は機能時の堆積層と考えられる白色系砂及び褐色系砂質シルトを主体とする。

埋土中から、須恵器短頸壺 (498) 等が出土した。7 世紀代の所産となる土師器の細片も出土している。飛鳥時代に属する遺構と考えられる。

2024 溝 (図 142、写真図版 74-1・74-3) 11-1:2-1 区において、地山上面で検出した。両端が調査区外になり、間に攪乱を挟むため全容は明らかでないが、北-南方向を指向する。検出した部分の規模は、幅 0.74 ~ 1.0 m、深さ 0.4 m を測り、検出長約 7 m である。断面形は椀形で、埋土は機能時の堆積層と考えられる白色系砂及び褐色系砂質シルトを主体とする。

埋土中から、土師器杯 (499) が出土した。奈良時代後半に属する遺構と考えられる。

上述した以外に、12-1:12-1・12-2 区において、数条の溝を検出した。調査区が狭小なため、全容は明らかでないが、幅 0.35 ~ 1.55 m、深さ 0.04 ~ 0.54 m の規模で、南北方向を指向する溝が多い。遺物は出土していないが、埋土の様相から古代以前に属するものとして、ここで報告しておく。

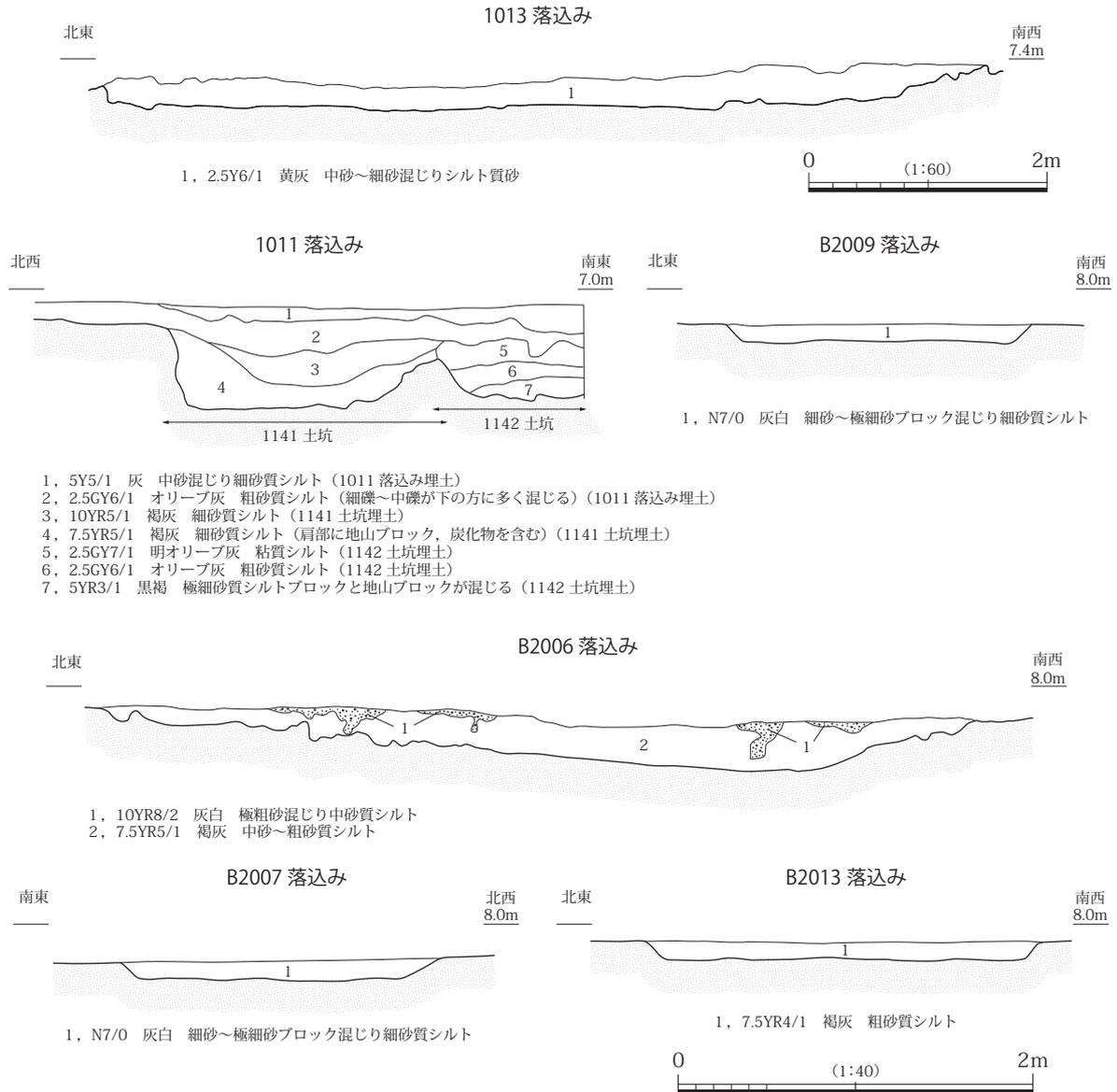


図 143 落込み 断面図

6. 落込み

1013 落込み (図 105・143・144、写真図版 137・142) 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。X=-135, 535、Y=-42, 137 地点に位置する。南東部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長辺 6.5 m、短辺 2.9 m を測る隅丸方形である。断面形は皿形で、深さ 0.25 m を測る。埋土は灰色系シルト質砂を主体とする。

埋土中から、土師器 (500～511)・須恵器 (512～518)・石製品 (519) 等多くの遺物が出土した。土師器の割合が高く、他の遺構とは異なる特徴を見せる。500～504 は杯。505 は鉢 B。506 は高杯。507 は皿。508 は皿底部か。509・510 は甕。511 は製塩土器。512・513 は杯 A。514～516 は杯 B。517 は円面硯。518 は不明品。519 は砥石。凝灰岩製。

出土遺物から、平安時代初頭に属する遺構と考えられる。

1011 落込み (図 105・143・145、写真図版 137・140・142) 11-1:1-1 区において、地山上面で検出した。

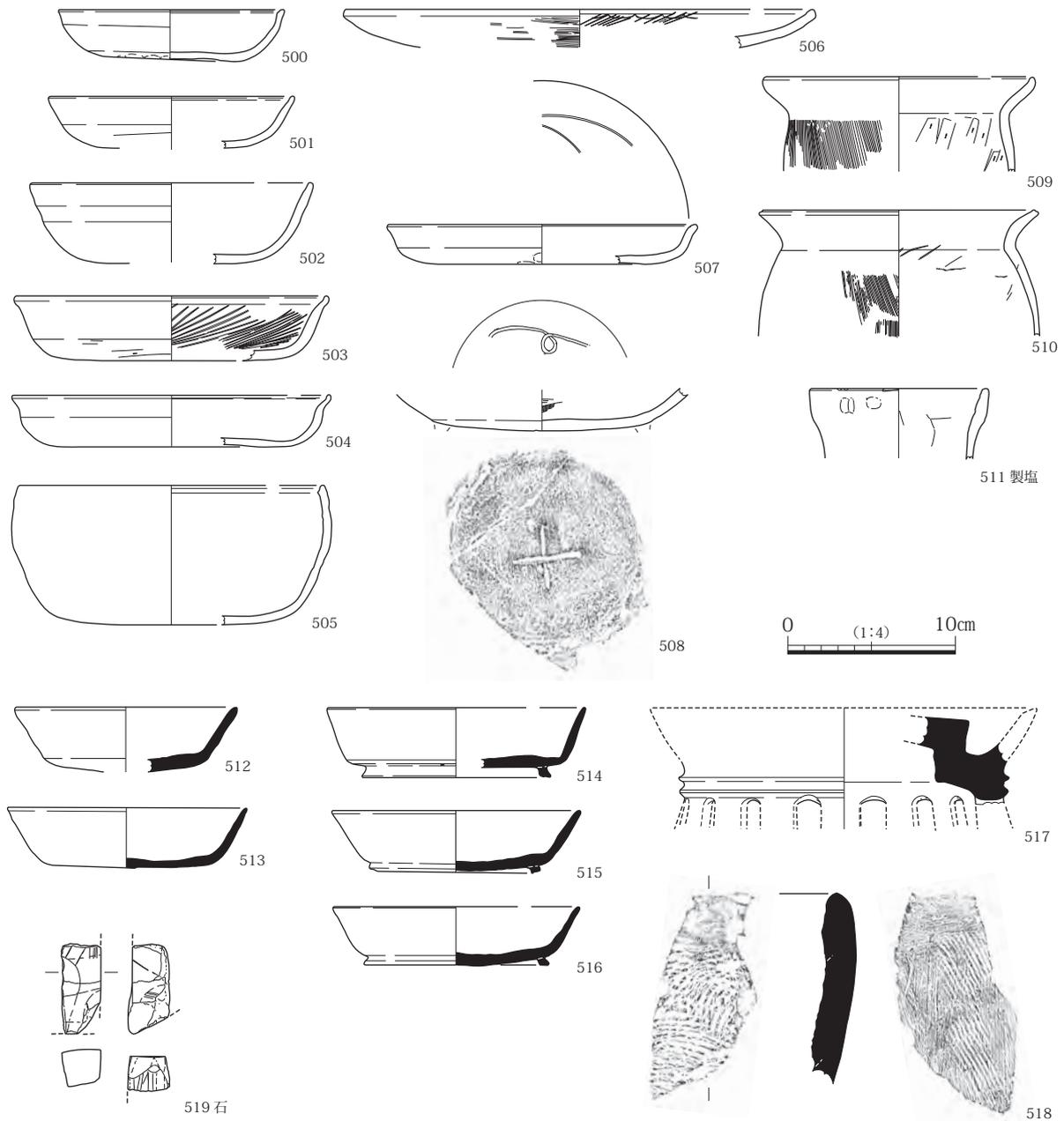


図 144 1013 落込み 出土遺物

X=-135, 520、Y=-42, 120 地点に位置する。全容は明らかでないが、西から東へ落込む。もっとも深いところで、深さ 0.4 m を測る。埋土は灰色系砂質シルトを主体とする。

埋土中から、土師器 (520・521)・須恵器 (522～525)・瓦 (526・527)・石製品 (528) 等が出土した。520 は杯。521 は皿。522・523 は杯 B。524 は壺。525 は不明品。526 は平瓦。527 は丸瓦。528 は砥石か。砂岩製。出土遺物から奈良時代後期に属する遺構と考えられる。

A0011 落込み (図 146) 09-3:1-1 区において、地山上面で検出した。X=-135, 495、Y=-42, 080 地点に位置する。南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、南東へ落込む。最も深いところで、深さ 0.25 m を測る。埋土は灰色系砂とシルトブロックを主体とする。当落込みは、第 3 節で報告した群集土坑の埋土をすべて覆っており、群集土坑より後出する。

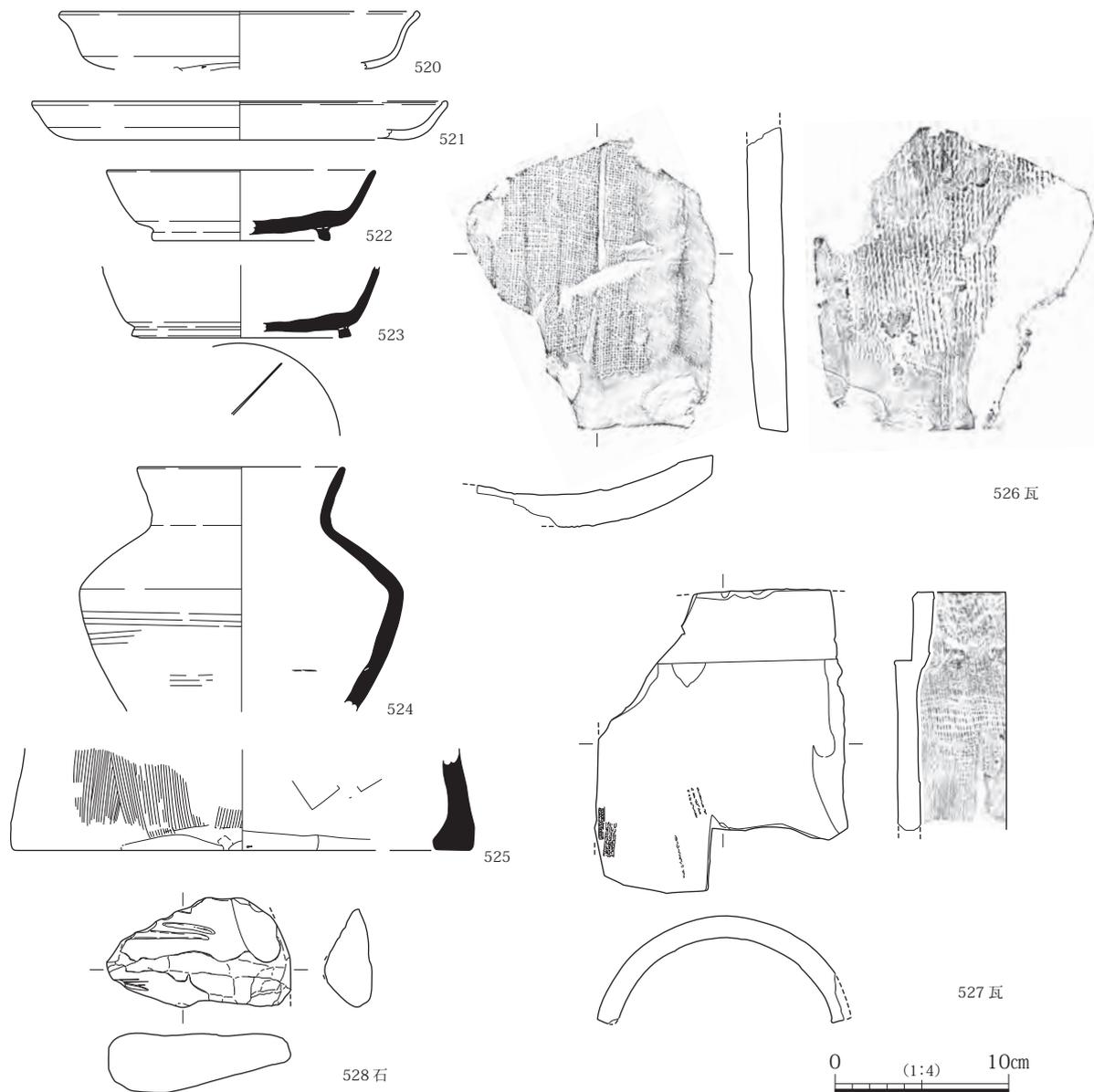


図 145 1011 落込み 出土遺物

埋土中から、須恵器杯蓋 (529)・須恵器杯 B 蓋 (530)・須恵器杯 B (531) 等が出土したことから、概ね奈良時代前半に属する遺構と考えられる。

14084 落込み (図 107・147) 12-1:14-1 区において、地山上面で検出した。X=-135,407、Y=-41,995 地点に位置する。様々な遺構が重複しており、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長軸 3.5 m、短軸 2.1 m を測る不定形である。断面形は皿形で、深さ 0.05 m を測る。埋土中から須恵器杯 H 蓋 (532・533) 等が出土した。

B2006 落込み (図 107・143・147) 09-3:2-2 区において、地山上面で検出した。X=-135,396、Y=-41,981 地点に位置する。東南部が調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長軸 4.1 m、短軸 2.0 m を測る半円形である。断面形は皿形で、深さ 0.26 m を測る。埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。埋土中から、須恵器杯 G (534) 等が出土した。

B2007 落込み (図 107・143・147) 09-3:2-2 区において、地山上面で検出した。X=-135,393、

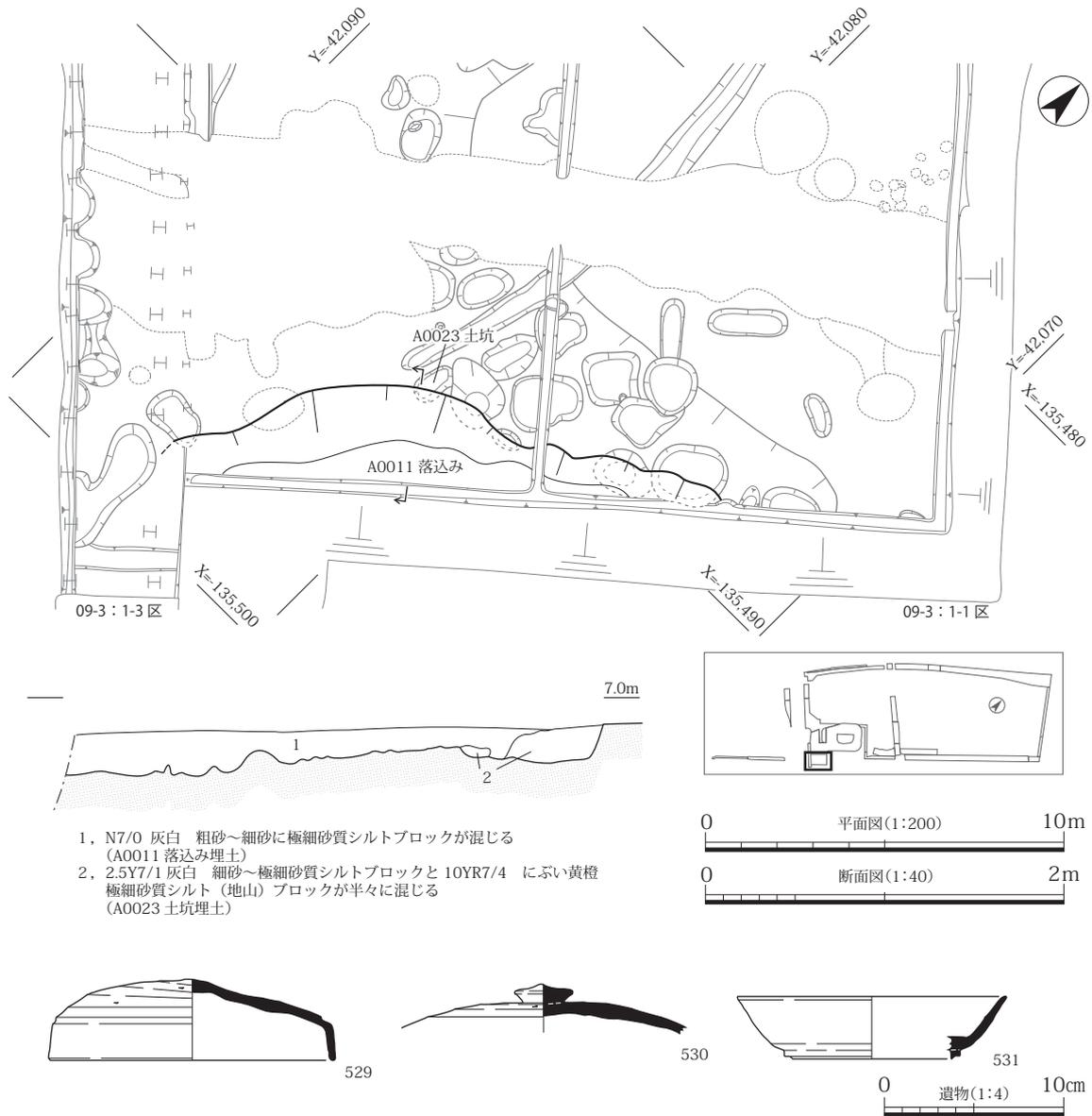


図 146 A0011 落込み 平面図・断面図・出土遺物

Y=-41,980 地点に位置する。一部攪乱があるが、規模及び平面形は長径 2 m、短径 1.8 mを測る楕円形である。断面形は皿形で、深さ 0.1 mを測る。埋土は灰色系砂質シルトを主体とする。埋土中から、須恵器杯 G 蓋 (535 ~ 537) 等が出土した。

B2009 落込み (図 107・143・147) 09-3:2-2 区において、地山上面で検出した。X=-135,386、Y=-41,980 地点に位置する。規模及び平面形は長軸 3.7 m、短軸 1.6 mを測る不定形である。断面形は皿形で、深さ 0.08 mを測る。埋土は灰色系砂質シルトを主体とする。埋土中から、須恵器杯 H (538)・須恵器溶着片 (539) 等が出土した。

B2013 落込み (図 107・143) 09-3:2-2 区において、地山上面で検出した。X=-135,378、Y=-41,962 地点に位置する。南部が調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長軸 2.3 m、短軸 1.7 mを測る不定形である。断面形は皿形で、深さ 0.08 mを測る。埋土は褐色系砂質シルトを主体とする。須恵器の細片が出土したが、時期の特定には至っていない。

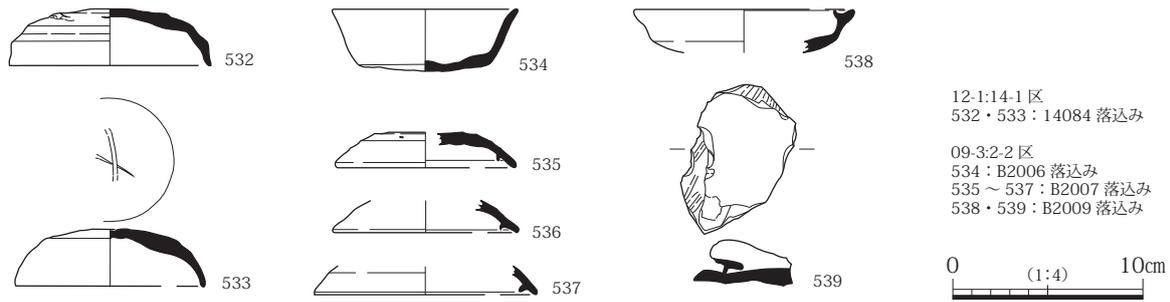


図 147 落込み 出土遺物

7. 畦畔

10-2:2-1-2区・11-1:13区においては、第4-1層の自然堆積層により被覆されており明瞭に検出した。検出面は第5層及び第6層上面で北東から南西へ緩やかに低くなる。軸をN-72°-Wにおく一群(13001・13003・13004・13011 畦畔)と軸をN-18°-Eにおく13002 畦畔がある(図148、写真図版75)。概ね直交する軸を持つことから、方形又は長方形の区画を持つ水田であったと考えられる。調査区が狭小なため、それぞれの関係は不明であるが、唯一13001 畦畔と13002 畦畔が交わることを確認した。なお、その部分は誤って掘り過ぎたが、土の色調の違いにより痕跡として認識できた。いずれも調査区外へ続いている。

また、11-1:10-2区において、10015 畦畔を検出した。攪乱際ではあるが、13002 畦畔と同様の軸をもつ畦畔と考えられる。なお、同じ箇所において10016 段を検出したが、上述の畦畔とは軸を異にし、南西側の巨大な攪乱と軸を揃えることから、攪乱に引っ張られて形成されたものの可能性がある。

11-1:10-1区においては、10003・10004 擬似畦畔を検出した。この擬似畦畔は第4-2層に伴うものの可能性が高いと考えられる。軸をN-20°-Wにおくものと軸をN-70°-Eにおくもので、上述の畦畔とは軸が異なり、それぞれは直交する軸を持つ。厳密には、帰属する面が異なるため、異なる時期の畦畔である可能性が高い。

なお、当地域における条里型水田は、N-33°-Wに振れた地割で施工されている。いわゆる斜行条里である。ところが今回検出した畦畔は、それとはいずれも軸が異なる。特に13001・13003・13004・13011 畦畔と13002 畦畔で構成される一群は大きく異なっており、弥生時代以前以来の谷地形に沿うように畦畔が敷設されたようにも見える。これらの畦畔の時期は不明であり、それを被覆する砂の埋積時期との関係で見れば、群集土坑が形成された後から13世紀初頭までの間という程度にしか時期は限定できない。今回検出した畦畔が当地域における条里型水田の施工以前のものであるのか、条里型水田施工以後、地形に即して部分的に異なる地割で施工されたものであるのか、答えを導き出すための材料は得られなかった。

8. 包含層その他出土遺物(図149～152・写真図版133・137～140・142)

包含層や後世の遺構から出土した当該期の遺物をまとめて報告する。遺物出土状況の特徴などから当該期の遺跡の様子を抽出できるかと考え、図化し得た遺物について掲載し、西から順に調査区ごとに報告する。

540～575は11-1:1-1区出土遺物。灰釉陶器皿(540・541)、緑釉陶器段皿(542)、黒色土器A類椀(543

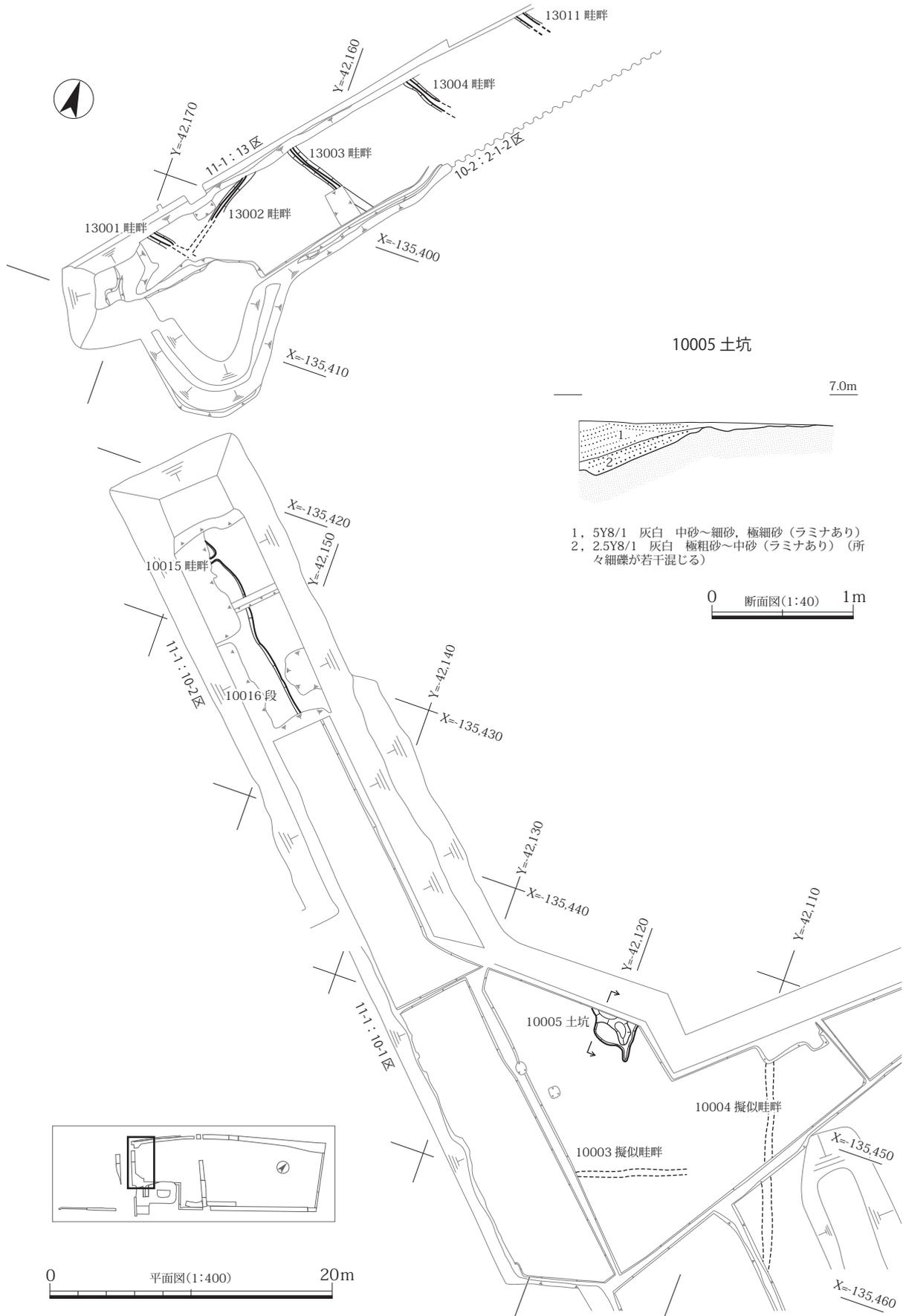


図 148 第5・6層上面 平面図

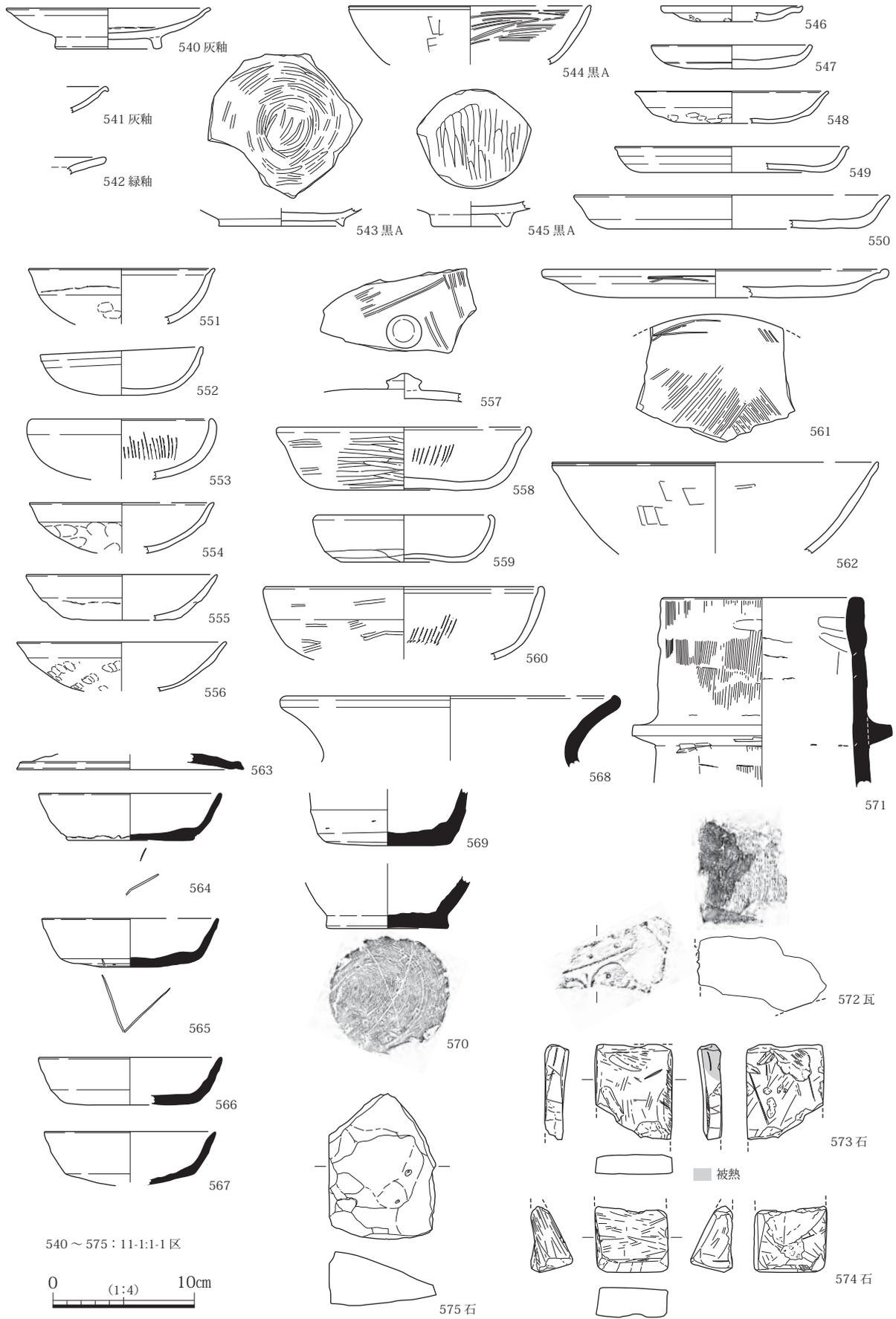


図 149 包含層その他出土遺物 (1)

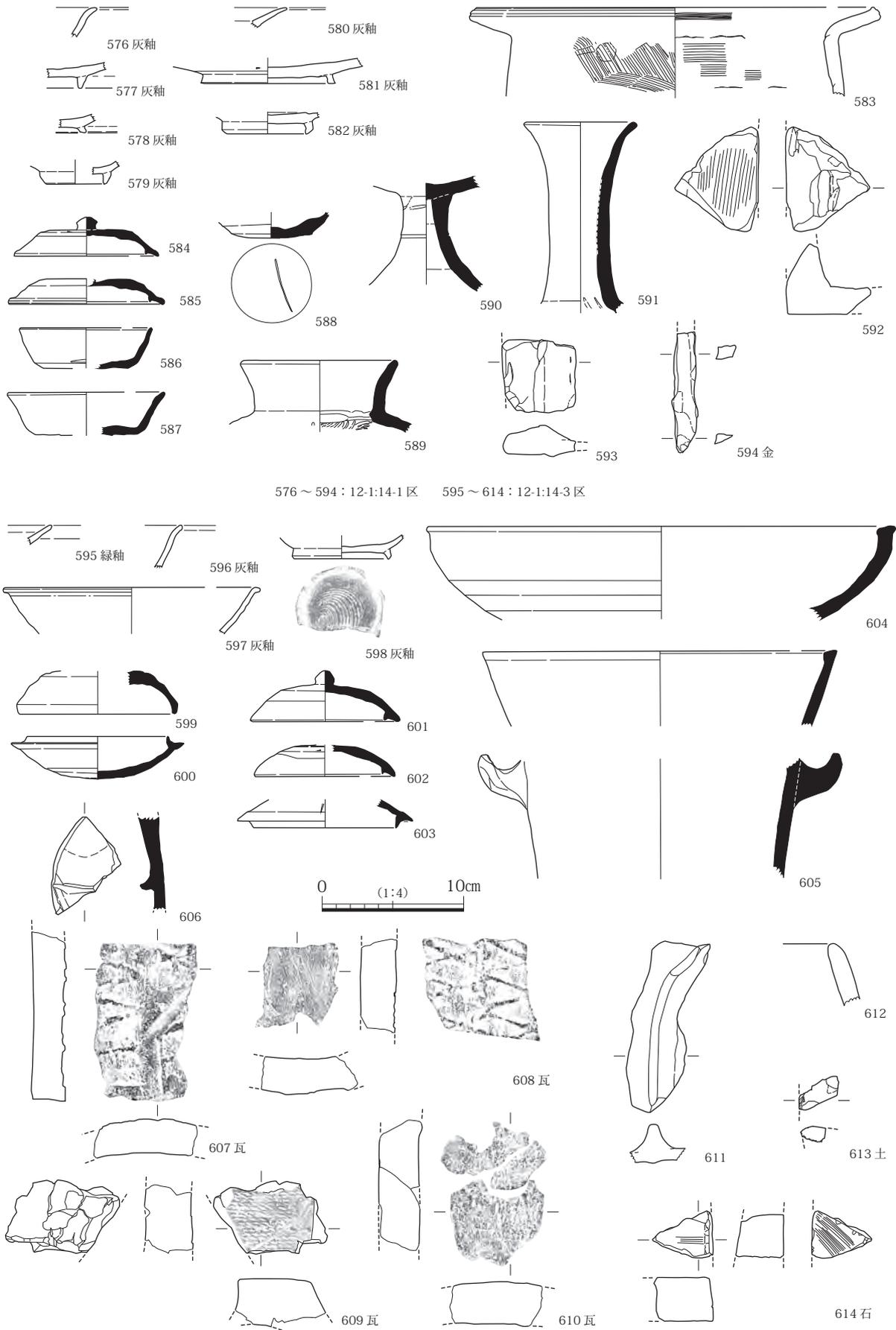


図 150 包含層その他出土遺物 (2)

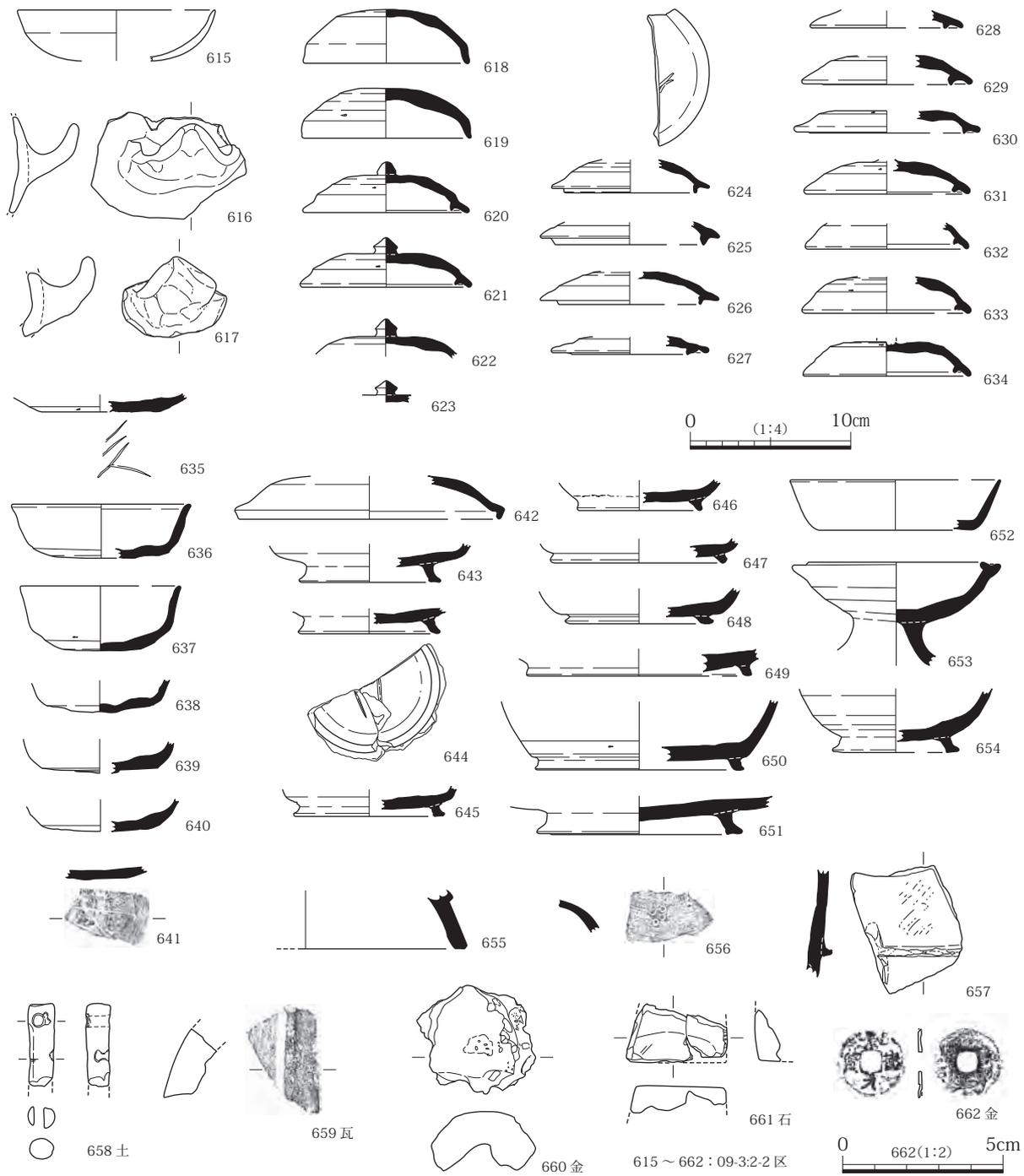


図 151 包含層その他出土遺物 (3)

～ 545)、土師器皿 (546～ 550)、土師器椀 (551～ 556)、土師器杯 B 蓋 (557)、土師器杯 (558～ 560)、土師器高杯 (561)、土師器鉢 (562)、須恵器杯 B 蓋 (563)、須恵器杯 A (564～ 567)、須恵器甕 (568)、須恵器壺底部 (569・570)、須恵質土管の口縁部片 (571)、軒平瓦片 (572)、砥石 (573～ 575) 等が出土しており、概ね検出した遺構の時期と合致する。また、当調査区で出土した遺物は、古代全般に亘っており、人々の継続した営みがあったものと考えられる。

576～ 594 は 12-1:14-1 区出土遺物。灰釉陶器椀 (576～ 579)、灰釉陶器段皿 (580)、灰釉陶器皿 (581・582)、土師器甕 (583)、須恵器杯 G 蓋 (584・585)、須恵器杯 (586～ 588)、須恵器壺 (589)、須恵器

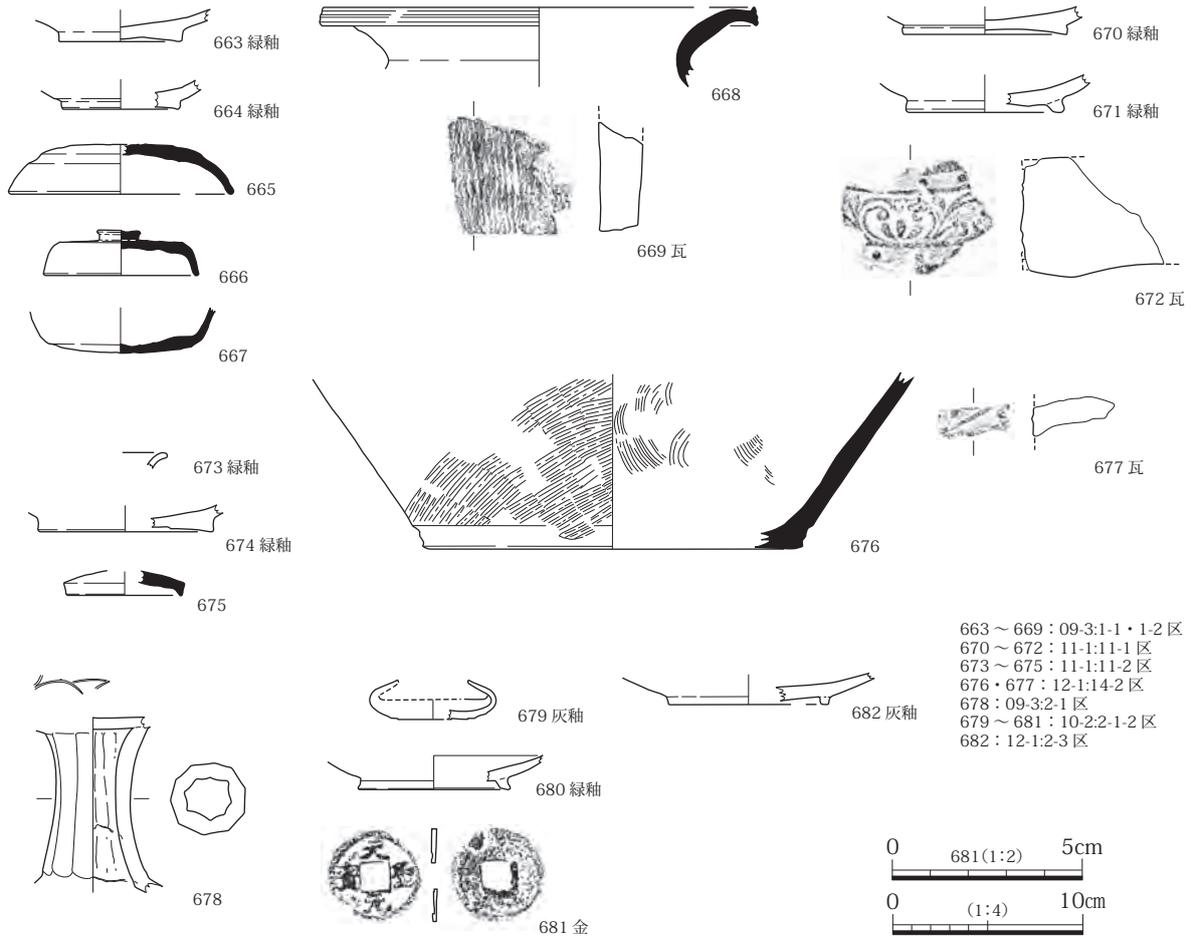


図 152 包含層その他出土遺物（4）

高杯（590）、須恵器長頸壺（591）、須恵質かと考えられる土製品（592）、土師質竈（593）、不明鉄製品（594）等が出土している。7世紀代と9世紀代の所産になる遺物の割合が高い。また、他の地区に比して灰釉陶器が多く出土している。

595～614は12-1:14-3区出土遺物。緑釉陶器皿（595）、灰釉陶器椀（596・597）、灰釉陶器皿（598）、須恵器杯H蓋（599）、須恵器杯H（600）、須恵器杯G蓋（601～603）、須恵器盤（604）、須恵器甌（605）、須恵質陶硯（606）、平瓦（607・608・610）、不明瓦（609）、土師質竈片（611・612）、鞆羽口片（613）、砥石（614）等が出土している。7世紀代と9世紀代の所産になる遺物の割合が高い。また、瓦が比較的多く認められる。

615～662は09-3:2-2区出土遺物。土師器杯（615）、土師器把手（616・617）、須恵器杯H蓋（618・619）、須恵器杯G蓋（620～634）、須恵器杯G（635～641）、須恵器杯B蓋（642）、須恵器杯B（643～650）、須恵器盤Bか（651）、須恵器杯A（652）、須恵器高杯（653）、須恵器壺底部（654）、須恵器円面硯脚部か（655）、須恵器壺肩部か（656）、須恵器不明器種（657）、土錘（658）、丸瓦（659）、鉾滓（660）、砥石（661）、銭貨（662）等が出土している。調査区の西半において7世紀～8世紀の所産になる遺物の割合が高い。

663～669は09-3:1-1・1-2区出土遺物。緑釉陶器椀の底部（663・664）、須恵器杯H蓋（665）、須恵器壺蓋（666）、須恵器杯G底部（667）、須恵器甕口縁部（668）、平瓦（669）等が出土している。

670～672は11-1:11-1区出土遺物。緑釉陶器碗の底部(670・671)、軒平瓦(672)等が出土している。
673～675は11-1:11-2区出土遺物。緑釉陶器碗(673・674)、須恵器壺蓋(675)等が出土している。
上記09-3:1-1・1-2区、11-1:11-1・11-2区においては、緑釉陶器が多く認められる。

676・677は12-1:14-2区出土遺物。須恵器甕の底部(676)、軒平瓦片(677)等が出土している。

678は09-3:2-1区出土遺物。土師器高杯脚部(678)等が出土している。

679～681は10-2:2-1-2区出土遺物。灰釉陶器耳皿(679)、緑釉陶器碗(680)、錢貨(681)等が出土している。

682は12-1:2-3区出土遺物。灰釉陶器皿(682)等が出土している。

第5節 中世以降の遺構・遺物

中世以降に属する遺構として、掘立柱建物・土坑・溝・溜池・鋤溝が挙げられる。地山上面で検出したものと第2層及び第3層を除去した面で検出したものがある。基本的には、遺構から遺物が出土し、時期比定が可能なものについて報告するが、遺物の出土がなくても、帰属面や周辺の状態から中世以降に属する可能性があるものについても一部言及する。

1. 掘立柱建物

掘立柱建物 15 (図153、写真図版66-1) 11-1:1-1区において、地山上面で検出した。X=-135,546、Y=-42,152地点に位置する。前節で報告した掘立柱建物6の南西方約3mにある。構造は、南西部が調査区外及び攪乱になるため、全容を確認できないが、1088・1091・1096・1098柱穴で構成される建物になると考えられる。主軸の方向は不明であるが、1098柱穴と1088柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ねN-107°-Eである。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、東西方向の1098・1088柱穴間が1.5m、南北方向の1091・1088柱穴間が1.4mを測る。

柱穴の掘方の平面形は円形及び不整円形であり、径0.34～0.5m、深さ0.15～0.34mを測る。埋土は、褐色系砂質シルトを基調としてベース土である地山層を含むものがある。いずれの柱穴にも柱根及び柱痕跡は認められず、抜き取り後に埋め戻されたものと考えられる。

各柱穴からは遺物が少量出土したが、いずれも土師器の細片であり、帰属時期は不詳。後述の掘立柱建物16と軸が概ね揃うことから、同時期に造営された可能性が高いものと判断する。

掘立柱建物 16 (図153、写真図版65-3・138) 11-1:1-1区において、地山上面及び1011落込み埋土上面で検出した。X=-135,522、Y=-42,122地点に位置する。調査区北東端にあり、前述の掘立柱建物15の北東方約36mにある。構造は、南西部が調査区外になるため、全容を確認できないが、1007・1008・1009柱穴で構成される建物になると考えられる。なお、1007・1009柱穴を結ぶ延長上の調査区南東壁面において、ピット断面を確認しており、当建物を構成する柱穴になるものと考えられる。主軸の方向は不明であるが、1007柱穴と1009柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ねN-109°-Eである。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、東西方向の1007・1009柱穴間が2.1m、南北方向の1007・1008柱穴間が1.7mを測る。柱間

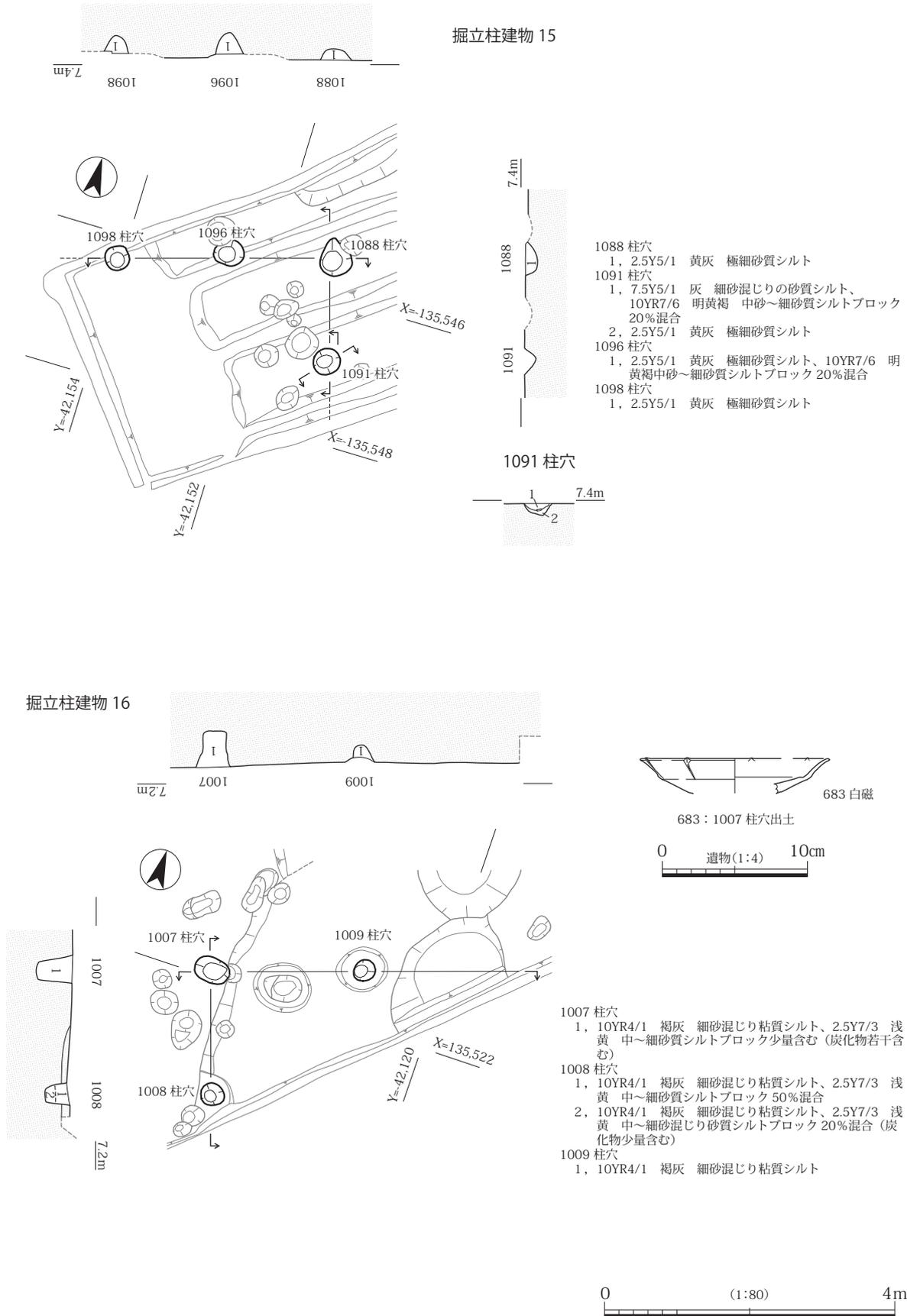


図 153 掘立柱建物 15・16 平面図・断面図・出土遺物

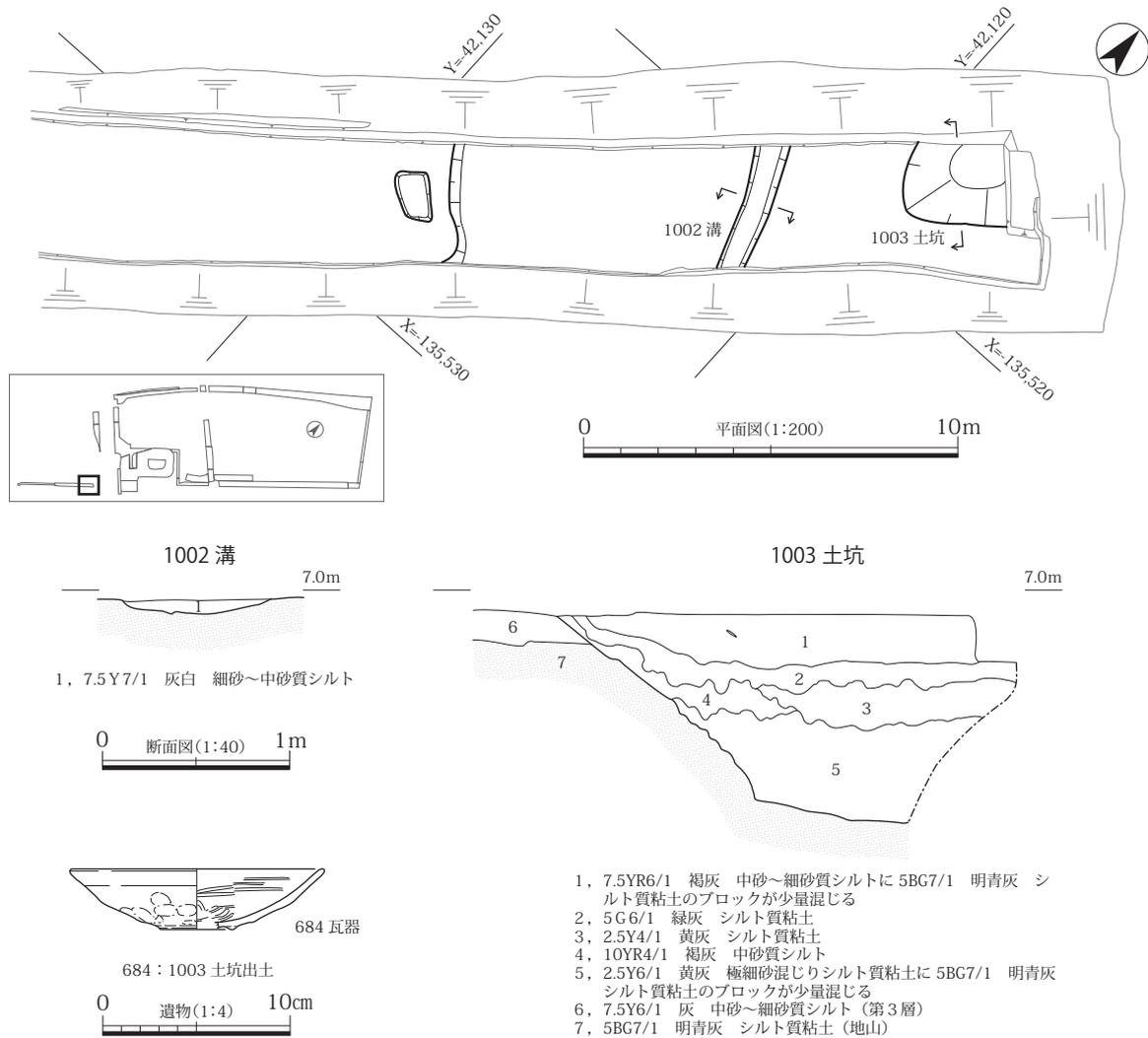


図 154 1003 土坑、1002 溝 平面図・断面図・出土遺物

に広狭の差がある。

柱穴の掘方の平面形は円形及び楕円形であり、径 0.3～0.6 m、深さ 0.17～0.5 mを測る。埋土は、褐色系砂質シルトを基調としてベース土である地山層を含むものがある。いずれの柱穴にも柱根及び柱痕跡は認められず、抜き取り後に埋め戻されたものと考えられる。

柱穴からは遺物が少量出土した。そのうち、1007 柱穴から出土した白磁皿を図示し得た (683)。景德鎮窯系の稜花皿である。1008・1009 柱穴からも土師器・須恵器・黒色土器の細片が出土しているが、帰属時期は不詳。出土遺物から 12 世紀後半に属する建物と考えられる。

2. 土坑

1003 土坑 (図 154、写真図版 76-1・76-2) 11-1:1-1 区において、第 2 層除去面で検出した。X=-135,517、Y=-42,118 地点に位置する。北部が調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長軸 2.7 m、短軸 2.1 mを測る不定形である。断面形は逆台形で、深さ 1.1 mを測る。埋土は褐色系シルト質粘土を主体とする。埋土中から、瓦器碗 (684) が出土した。出土遺物から 13 世紀前半に属する遺構と考えられる。

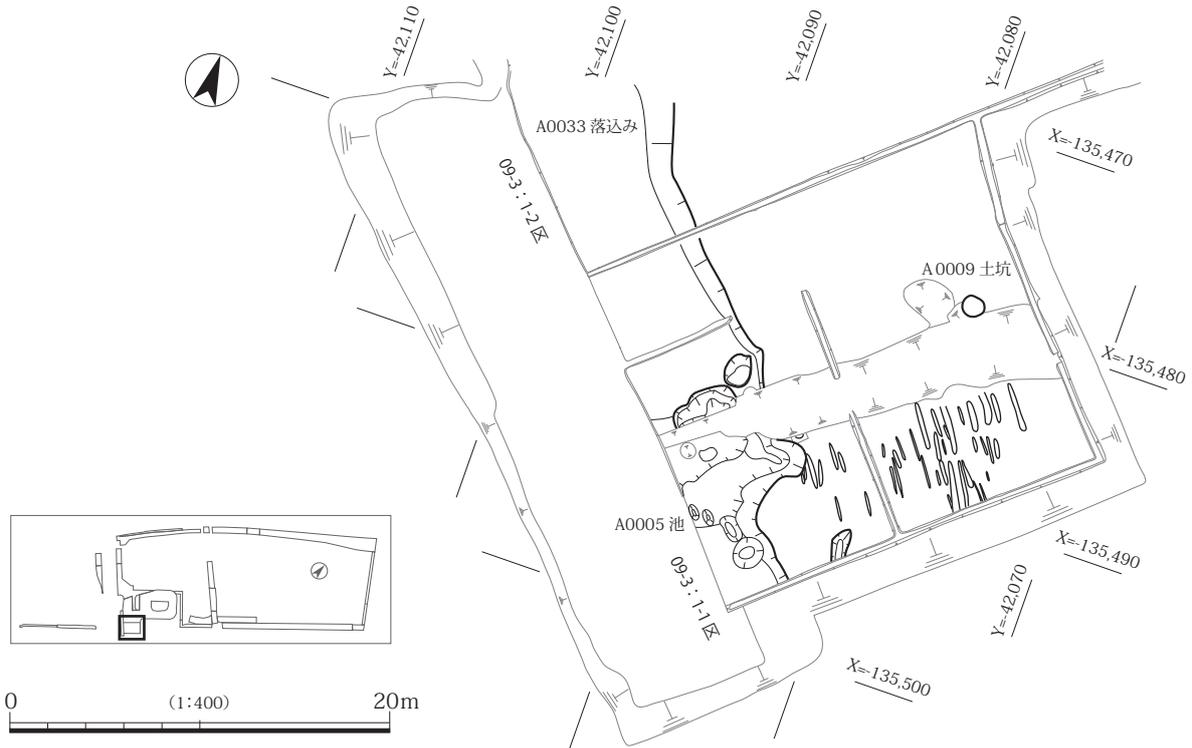


図 155 A0005 池 平面図

3. 溝

1002 溝 (図 154) 11-1:1-1 区において、第 2 層除去面で検出した。両端が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西－南東方向を指向する。検出した部分の規模は、幅 0.7～0.9 m、深さ 0.1 m を測り、検出長約 3.5 m である。断面形は皿形で、埋土は灰白色系砂質シルトを主体とする。埋土中から、土師器・須恵器・瓦等が出土したが、細片のため帰属時期は不明である。

4. 池

A0005 池 (図 155) 09-3:1-1 区において、第 2 層除去面で検出した。X=-135, 495、Y=-42, 087 地点に位置する。南西部が攪乱及び調査区外になるため、全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長軸 11 m を測る不定形である。断面形は楕形で、深さ約 1 m を測る。埋土は細砂と砂質シルトを主体とする。埋土中から、弥生土器・土師器・須恵器が出土したが、当遺構の時期を直接示すものではなく、帰属時期は不明である。

5. 鋤溝

09-3:1-1・1-2 区、10-2:2-1-2 区、12-1:14-3 区、09-3:2-2 区等において、第 2 層を除去した面で小溝を多数検出した。いずれも N-33°-W 前後及びこれに直交する軸を持つものであり、当地域の条里型水田に伴う地割に沿うものであることから、耕作に伴う小溝と判断する (図 156、写真図版 76-3・76-4)。検出状況に粗密があり、地形的に高くなる東北半部においては、遺存状況があまり良くない傾向にあった。

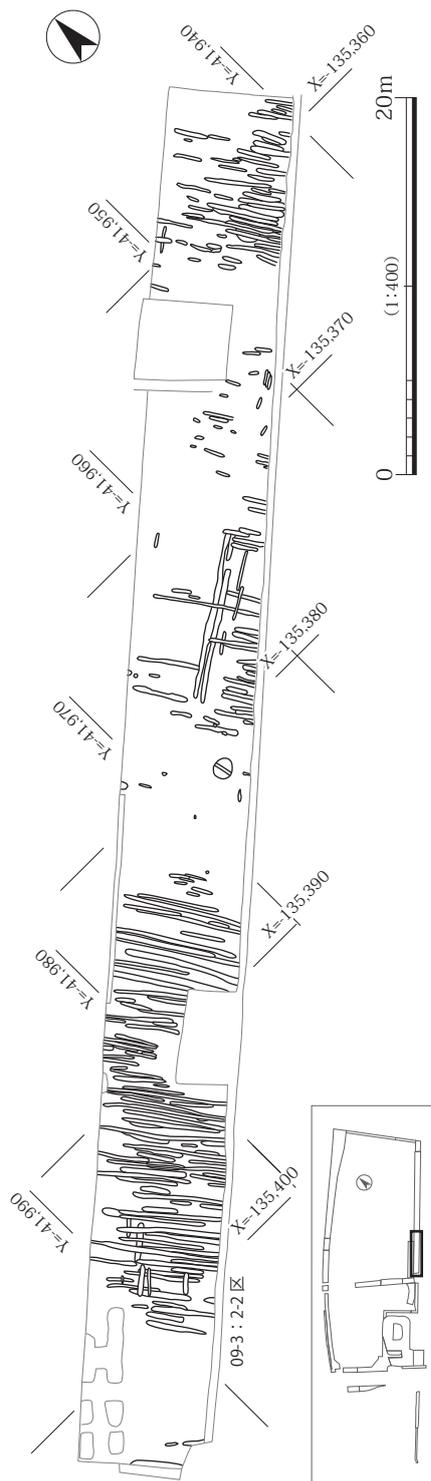


図 156 鋤溝 平面図

6. 包含層その他出土遺物 (図 157、写真図版 138・143)

包含層その他から出土した当該期の遺物をまとめて報告する。なお、遺物出土状況の特徴などから当該期の遺跡の様子を抽出できるかと考え、図化し得た遺物について掲載し、西から順に調査区ごとに報告する。

685～693は09-3:1-1・1-2区出土遺物。白磁碗(685・686)、白磁皿(687)、青磁碗(688)、陶器皿(689)、瓦器椀(690・691)、不明鉄製品(692)、銭貨(693)等が出土している。当該期の出土遺物は細片が多く、厳密な判断はできないが、13世紀代と15世紀代の所産になる遺物の割合が高い。

694は11-1:10-1区出土遺物。白磁碗(694)等が出土している。

695・696は09-3:2-1区出土遺物。瓦器椀(695・696)等が出土している。

697～699は12-1:14-3区出土遺物。白磁碗(697～699)等が出土している。

700～703は12-1:14-1区出土遺物。白磁碗(700・701)、青磁碗(702)、瓦器椀(703)等が出土している。

704～706は09-3:2-2区出土遺物。白磁碗(704)、瓦器椀(705・706)等が出土している。

707は10-2:2-1-2区出土遺物。青磁碗(707)等が出土している。

708・709は12-1:2-3区出土遺物。土師器小皿(708)、白磁碗(709)、開元通寶(712)等が出土している。

710・711は12-1:12-1区出土遺物。不明鉄製品(710・711)等が出土している。

図化し得た遺物は、09-3:1-1・1-2区出土遺物を除けば、概ね13世紀代の所産と考えられるものであり、なかでも輸入陶磁器類が目を引く。

第6節 小結

最後に、吹田操車場遺跡東地区における成果を簡潔にまとめておきたい。西地区も含めた吹田操車場遺跡全体についての成果は第9章にて後述する。

〔弥生時代以前〕サヌカイト製の旧石器が出土していることから、早くも旧石器時代に当地における人々の活動を認め得る。また、現在の地形からは想像もつかないが、岸部地下道に沿うようにのびる谷状地形があり、縄文時代以降に人々が活発に活動している状況を明らかにすることができた。谷に繋が

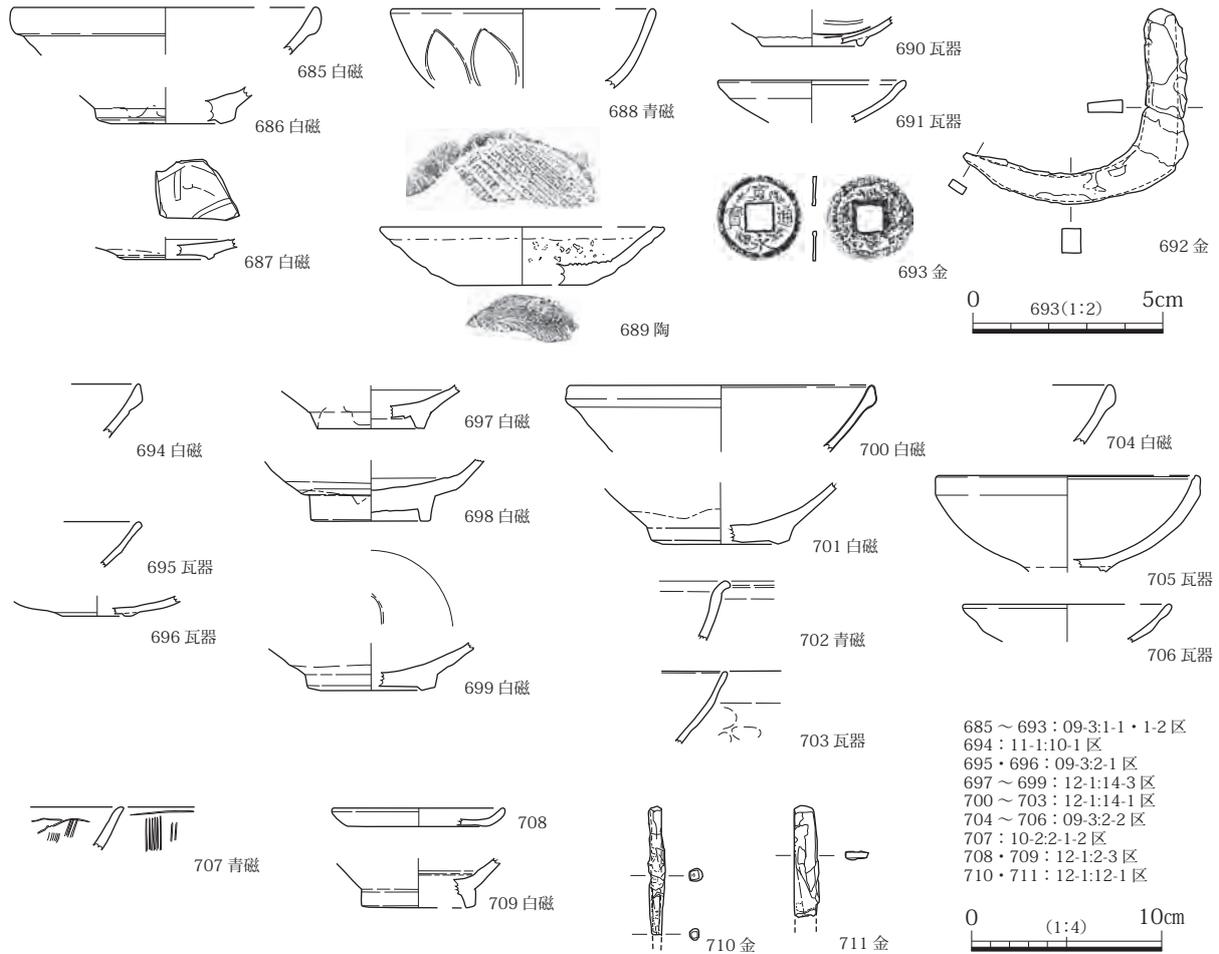


図 157 包含層その他出土遺物

る溝や谷の最下部で検出した溝からは、縄文時代晩期の土器・石鏃や弥生時代前期～後期の土器が出土している。当該期における人々の活動の一端を示す成果があった。

〔古墳時代〕 前述の谷状地形の両側において群集土坑が多数検出された。これらは粘土採掘坑と考えられ、いずれも古墳時代後期以降に属するものと判断されることから、千里古窯址群における活発な生産活動と密接に関連したものと考えられる。古墳時代の様相としては、前期・中期については不詳であるが、後期には粘土採掘場として利用されていたことが明らかとなった。

〔飛鳥時代〕 前述の谷状地形の両側において掘立柱建物、井戸、土坑、溝等が検出され、特に谷の東縁辺部において集落が営まれていたことが明らかとなった。

〔奈良時代〕 確実に当該期に属する建物は検出されなかったが、11-1:1-1区ではピットや落込みから当該期所産の土器が一定量出土しており、付近に集落が存在する可能性を示す成果があった。また、09-3:2-2区においても、飛鳥時代の土器を多量に含む溝から当該期の土器が出土しており、飛鳥時代から継続して集落が営まれていた可能性が示唆される。

〔平安時代〕 弥生時代以来の谷の西縁辺部にあたる11-1:1-1区・12-1:1-2区、東縁辺部にあたる09-3:2-2区・12-1:14-1区において、併せて8棟の掘立柱建物が検出された。いずれも平安時代前期に属すると考えられ、谷の両縁辺部において集落が営まれている状況が明らかとなった。

これ以後、吹田操車場遺跡東地区は耕作地として利用されていたものと考えられる。

第7章 明和池遺跡の調査成果

明和池遺跡における調査は平成22(2010)年度に10-1:4-1～4-4区、平成23(2011)年度に11-1:3-1～3-8区、11-1:4-1区、11-1:5-1～5-3区、11-1:6-1区、11-1:7区、11-1:8-1・8-2区、平成24(2012)年度に12-1:3-9区、12-1:4-2区、12-1:6-2・6-3区の調査を実施した。

上述した調査の結果、北東—南西方向を指向する細長い調査区が2本と、北西—南東方向を指向する細長い調査区が2本、それぞれが切れ目なくおよそ600mに亘って「b」字状に繋がる調査区となった。調査成果の報告を行うに際し、細かい調査位置を示すために、基本的には調査区名を使用した。記述の仕方によっては極めて煩雑になる場合があった。そこで北東—南西方向を指向する細長い調査区のうち北西側を北トレンチ、南東側を南トレンチ、北西—南東方向を指向する細長い調査区のうち北東側を東トレンチ、南西側を西トレンチという呼称を本報告では用いることとし、適宜、調査区名とともに併用することとした。図158を参照いただきたい。

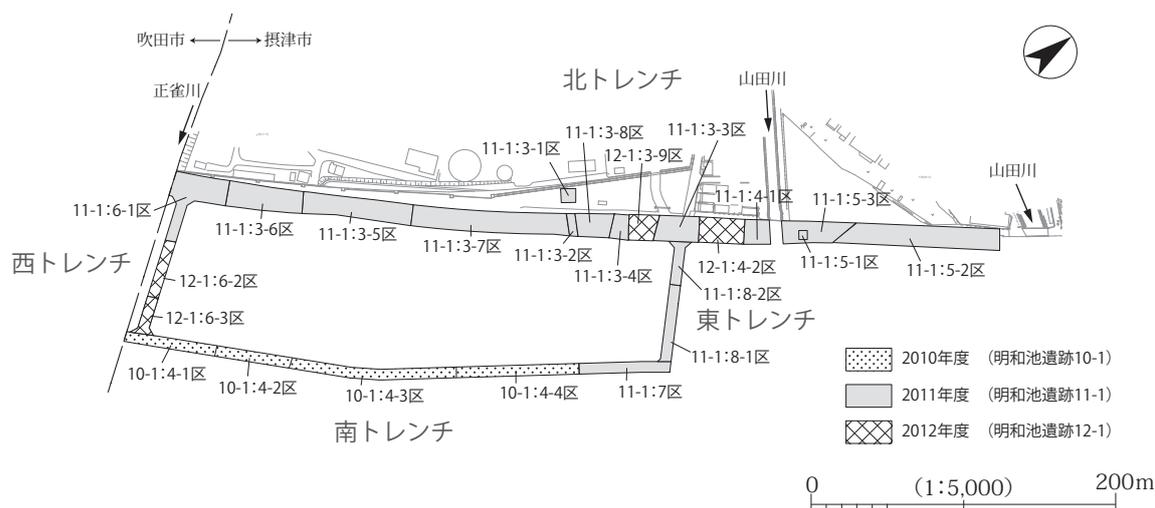


図158 明和池遺跡 調査区位置図

第1節 基本層序

今回の調査は、北東—南西方向におよそ500m×150mの範囲に細長い調査区を設けて行ったものである。4年間に亘る調査で、なるべく統一した層序を付すよう心がけたが、細切れの調査となったため、また調査員の認識による差もあり、調査区全体において統一した層序を設定するのが極めて難しい状況であった。そのため、各調査区における層序を検討し、整理作業において統一した層序を提示することとした。なお、攪乱や流路のために堆積層が分断される箇所が多々あり、また北西側と南東側の調査区とでは距離が離れており直接的な層序の対比ができていないことから、調査区全域において同一層であるかどうかの検証はできていない。あくまでも今回の報告における暫定的な層序として提示しているものと認識願いたい(図159～164)。

盛土：大正時代の旧吹田操車場造営に伴う盛土層である。層厚0.8～1.9 m前後。黄橙色シルト～極細砂ブロック土及び褐灰色細砂質シルトブロック土を主体とする。ブロックは大きいもので0.5 m前後あるものも見られる。最上層には鉄道敷設に伴うバラスト層が見られる箇所もある。

第1層：旧吹田操車場造営前の旧表土である。褐灰色粗砂混じり細砂質シルトを主体とする。層厚は0.1～0.2 m前後。旧吹田操車場が造営される直前まで行われていた耕作に伴う畝立ての様子がそのままにパックされていた。この状況から、操車場の造営については整地等が成されず、耕作地をそのまま埋め立てたことがわかる。なお、本層下部には、部分的に淘汰の良くない粗砂～細砂が見られる箇所がある。これらは河川の氾濫堆積物と考えられるが、その供給先として直近の山田川が想定される。以下の各層にも礫から粗砂を多く含む層があり、当地では幾度かの河川の氾濫に伴う土砂の供給がなされていたものと想定される。

第2層：灰黄色細礫～極粗砂混じり中砂質シルトを主体とする。層厚は0.08～0.38 m前後。当層は場所により2～4層に細分される。調査区全域で見られる層であるが、特に今回の調査で明らかとなった山田川の前身と見られる河川周辺においては堆積が厚い傾向が見られる。当層を除去した面では部分的に条里型水田の地割に伴う鋤溝等が検出されている。なお、調査区の南西端部においては当層を除去した段階で地山が露出する。中世以降の作土層と考えられる。

第3層：浅黄色細砂質シルトを主体とする。層厚0.1～0.4 m前後。当層は場所により2～4層に細分される。調査区の南西端部を除く各調査区において認められるが、特に今回の調査で明らかとなった山田川の前身と見られる河川周辺の11-1:7区においては堆積が厚い傾向が見られる。なお、11-1:8-2区において層序から第3層とした堆積層は、他の地区の第3層に比べて土壌化が進んでおり若干黒褐色を呈しているが、現代の流路により分断されているために本来的に同一層になるかどうかの検証はできていない。また、11-1:5-2区では同層の上面で建物群やピットを多数検出していることから、一時期集落域として機能していたことが判明している。それ以外の調査区では概ね中世以降に属する作土層と考えられる。第2層に比べると礫はほとんど混じらない。

第4層：黄灰色極粗砂～粗砂混じり細砂質シルトから黒褐色細礫～粗砂混じり細砂質シルトを主体とする。層厚は0.1～0.4 m前後。主に調査区東半において認められる。当層は場所により2～3層に細分される。なお、現代流路及び各期の流路のために堆積層が分断され、また北トレンチと南トレンチの調査区とでは距離が離れていることから、直接的な層序の対比ができていない。

7066・3077流路により分断されるが、その南西側においては細分される箇所はほとんどない。それを第4層とした。なお、11-1:7区においては第4層相当層の堆積が厚く3層に細分されるが、隣接の10-1:4-4区との境が不明瞭でそのつながりは判然としない。層序から判断すれば、第4-1層につながる可能性が高い。当層からは図化し得なかったが、瓦器が出土している調査区もあることから、弥生時代以降中世にかけての形成になるものと判断される。整地層もしくは作土層と考えられる。

7066・3077流路により分断されるが、その北東側においては2層に細分される。それを第4-1・4-2層とした。第4-1層については11-1:5-3区において白磁碗が出土していることから、弥生時代以降中世にかけての形成になる可能性がある。また、第4-2層については11-1:5-2区において古代末に属する遺物が出土していることから、弥生時代以降古代にかけての形成になる可能性がある。なお、11-1:5-2区においては、各層の除去面において建物群が検出されていることから、連綿と続く集落域であった可能性が高く、当層は整地層になるものと考えられる。



图 159 柱状断面模式图 (1)

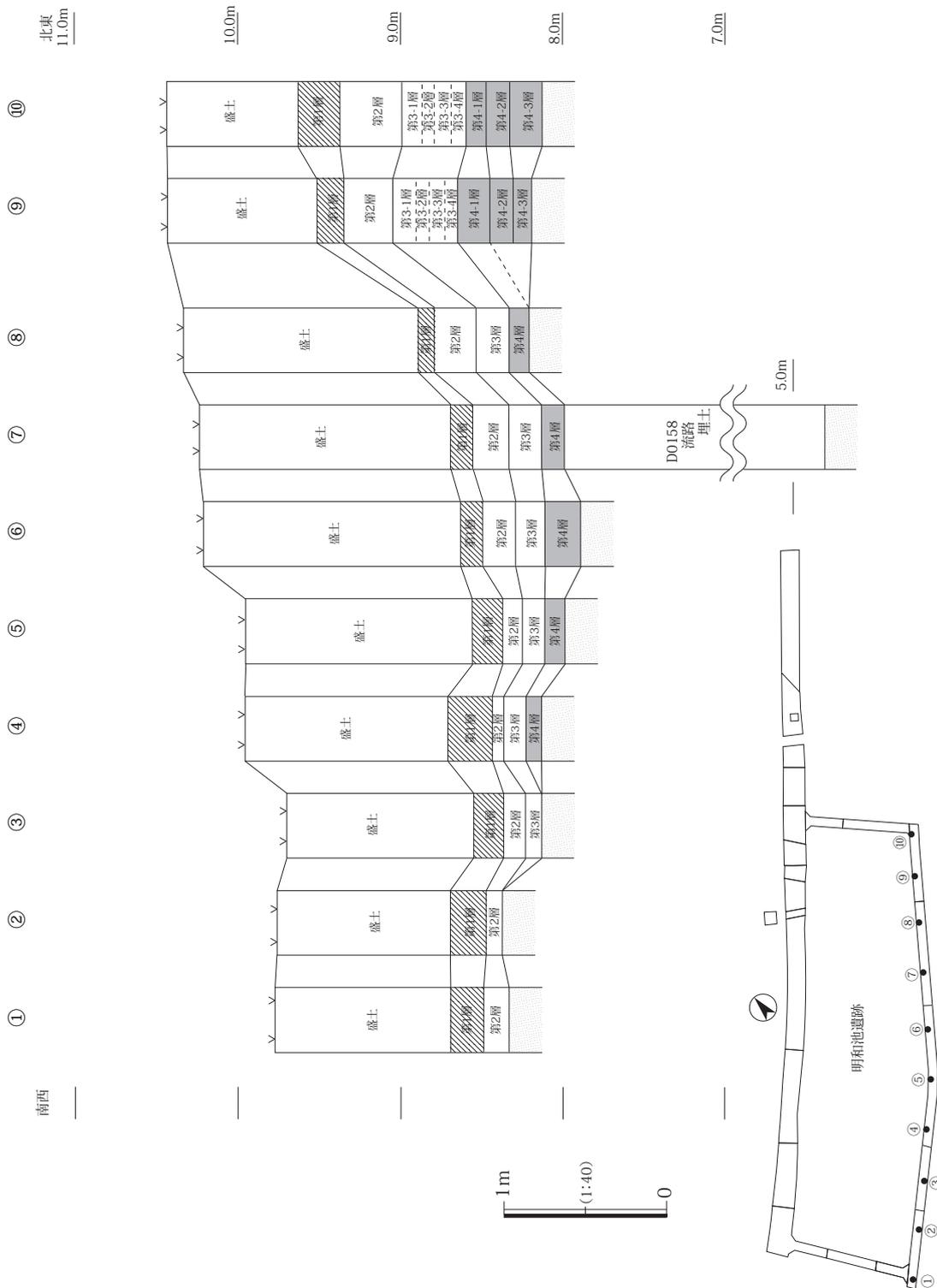


図160 柱状断面模式図 (2)



- 1, 5B5/1 青灰 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 2, 2.5GY7/1 明オリーブ灰 中砂～細砂混じり砂質シルト
 3, 5Y7/3 浅黄 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 4, 2.5Y7/4 浅黄 小礫～細砂混じり砂質シルト
 5, 2.5Y8/4 浅黄 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 6, 7.5Y6/1 灰 小礫～細砂混じり砂質シルト
 7, 2.5Y7/3 浅黄 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 8, 5C6/1 緑灰 中砂～細砂混じり砂質シルト
 9, 2.5Y7/6 明黄褐 粗砂混じり砂質シルト
 10, 5C6/1 緑灰 中砂～細砂混じり砂質シルト (上面に鉄分が沈着し層境が認められる)
 11, 2.5Y7/6 明黄褐 粗砂混じり砂質シルト
 12, 5C6/1 緑灰 中砂～細砂混じり砂質シルト
 13, 2.5C7/1 明オリーブ灰 中砂～細砂混じり砂質シルト
 14, 5GY5/1 オリーブ灰 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 15, 5Y7/2 灰白 小礫～細砂混じり砂質シルト
 16, 10G7/1 明緑灰 小礫～細砂混じり砂質シルト
 17, 2.5Y7/6 明黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 18, 2.5Y5/2 暗黄 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 19, 2.5Y6/2 灰黄 中砂～細砂混じり砂質シルト
 20, 2.5GY5/1 オリーブ灰 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 21, 2.5Y5/1 黄灰 粗砂～細砂混じりシルト質砂 (粗砂の割合多い)
 22, 10RC7/1 明青灰 粗砂～細砂混じりシルト質砂
 23, 10YR6/1 褐灰 中砂～細砂混じり粘質シルト
 24, 10YR5/1 褐灰 粗砂～細砂混じり粘質シルト
 25, 10YR4/1 褐灰 粗砂～細砂混じり粘質シルト
 26, 7.5YR6/1 褐灰 粗砂～細砂混じり粘質シルト
 27, 10YR3/1 黒褐 粗砂～細砂混じり粘質シルト
 28, 10YR3/1 黒褐 粘質シルトと10YR7/1 灰白 粘質シルトブロック混合
 29, N3/0 暗灰 粘土
 30, 2.5Y7/2 灰黄 小礫～細砂混じり砂質シルト
 31, 2.5Y7/6 明黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 32, 10YR7/6 明黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルトと2.5Y6/6 明黄褐粗砂混合
 33, 5B6/1 明青灰 粗砂～細砂混じりシルト質砂
 34, 2.5Y6/2 灰黄 中砂～細砂混じり砂質シルト
 35, 10G7/1 明緑灰 粗砂～細砂混じりシルト質砂
 36, 2.5Y7/4 浅黄 小礫～細砂混じり砂質シルト
 37, 10YR4/1 褐灰 粗砂～細砂混じり粘質シルト (灰混じる)
 38, 5GY6/1 オリーブ灰 中砂～細砂混じり砂質シルト
 39, 10G6/1 緑灰 粗砂～細砂混じり粘質シルト
 40, 10YR6/1 褐灰 粗砂混じり粘質シルト
 41, 2.5GY6/1 オリーブ灰 中砂～粗砂混じり砂質シルト (7033 溝埋土)
 42, 5B6/1 青灰 粗砂～細砂混じりシルト質砂 (7033 溝埋土)
 43, 5GY7/1 明オリーブ灰 粗砂混じり砂質シルトと2.5Y8/4 淡黄 小礫～細砂混じりシルト質砂混合
 44, 10G6/1 緑灰 粗砂混じり細砂質シルト
 45, 10G6/1 緑灰 中砂～細砂混じり砂質シルトと2.5Y8/4 淡黄 小礫～細砂混じりシルト質砂混合
 46, 10G7/1 明緑灰 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 47, 5B6/1 青灰 粗砂混じり砂質シルト
 48, 5B6/1 青灰 粗砂～細砂混じり粘質シルト
 49, 10YR6/2 灰黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 50, 2.5Y7/4 浅黄 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 51, 10YR7/1 灰白 粗砂～細砂
 52, 10YR6/6 明黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 53, 10YR5/1 明黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 54, 10YR6/6 明黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト
 55, 10YR5/1 褐灰 小礫～細砂混じり砂質シルトとN4/0 灰 粘土混合
 56, 10YR8/2 灰白 小礫～細砂

図 161 11-1:7 区 北西壁断面図

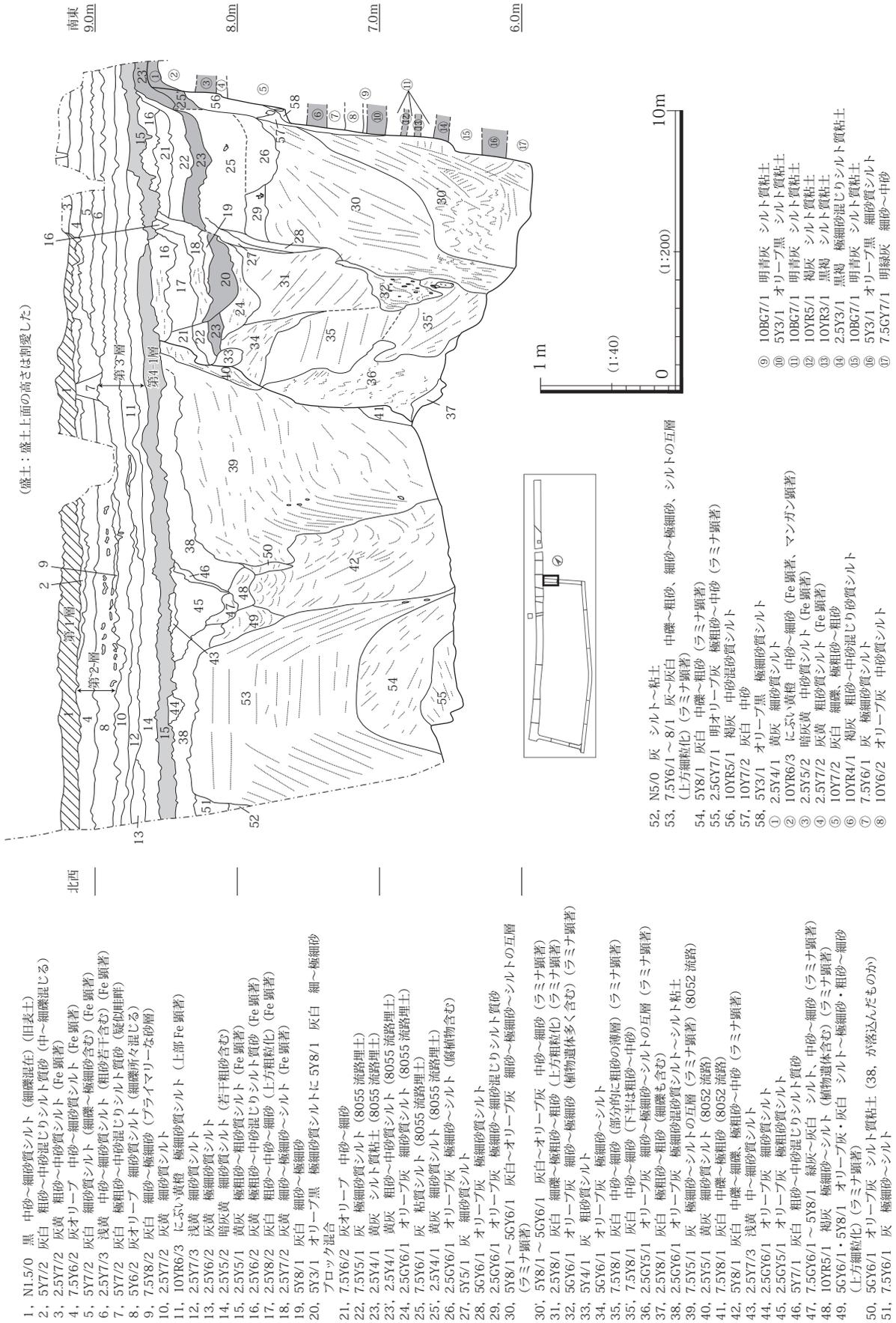
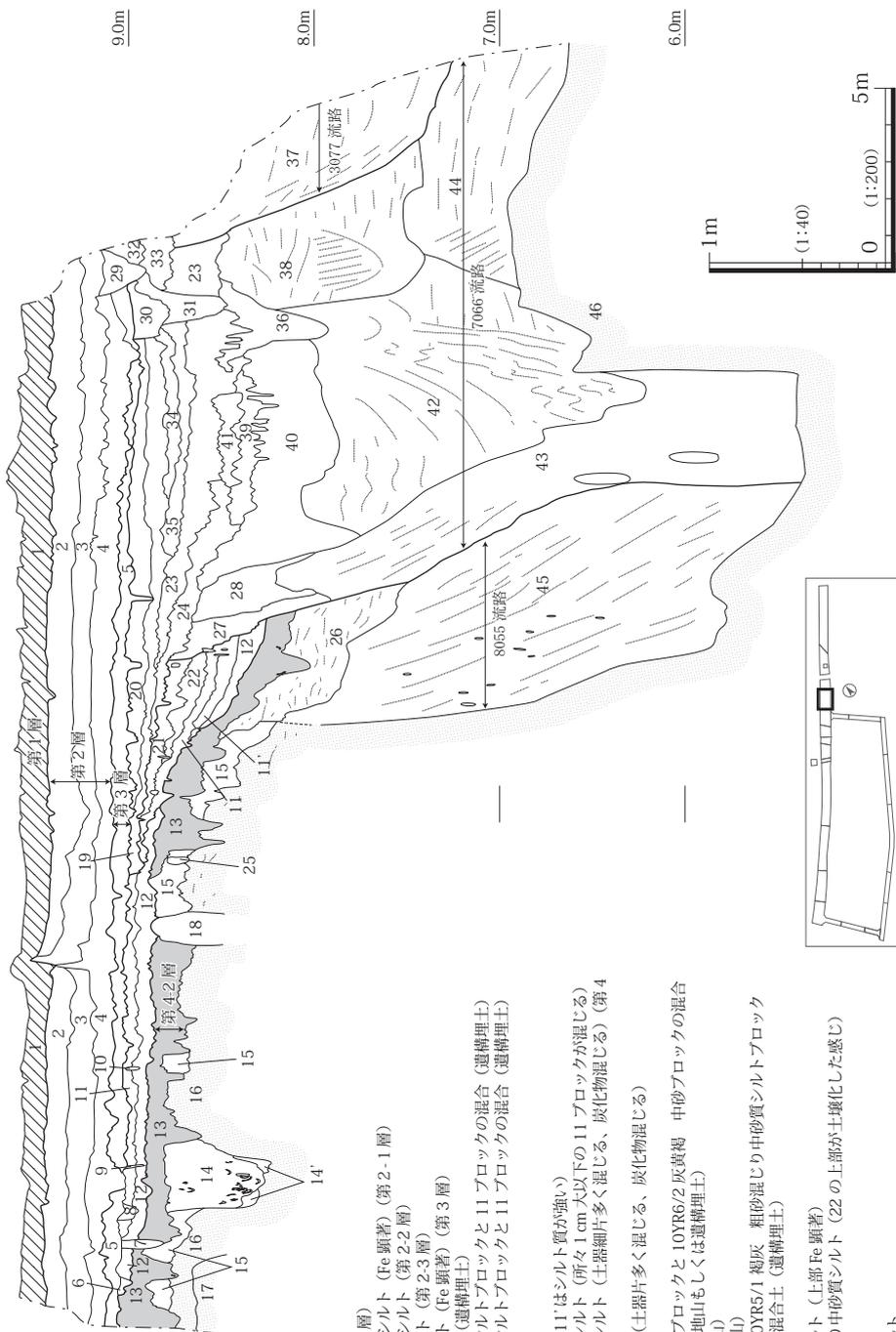


図 162 11-1:8-2 区 南西横断面図

(盛土：盛土上面の高さは割愛した)



- 1, 10YR4/1 褐灰 粗砂混り中砂質シルト (第1層)
- 2, 2.5Y7/2 灰黄 細礫～極粗砂混り中砂質シルト (Fe 顕著) (第2-1層)
- 3, 2.5Y6/1 黄灰 細礫～極粗砂混り中砂質シルト (第2-2層)
- 4, 5Y6/1 灰 細礫～極粗砂混り中砂質シルト (第2-3層)
- 5, 2.5Y6/3 にぶい黄 粗砂混り中砂質シルト (Fe 顕著) (第3層)
- 6, 2.5Y5/2 暗灰黄 中砂質シルト (遺構埋土)
- 7, 10YR4/1 褐灰 粗砂～中砂混り中砂質シルトブロックと11ブロックの混合 (遺構埋土)
- 8, 10YR5/1 褐灰 粗砂～中砂混り中砂質シルトブロックと11ブロックの混合 (遺構埋土)
- 9, 7.5YR5/1 褐灰 中砂質シルト (根痕か)
- 10, 10YR4/1 褐灰 中砂質シルト (遺構埋土)
- 11, 2.5Y6/6 明黄褐 細砂混り粘質シルト (11'はシルト質が強い)
- 12, 10YR4/1 褐灰 粗砂～中砂混り中砂質シルト (所々1cm 以下の11ブロックが混じる)
- 13, 10YR3/1 黒褐 細礫～粗砂混り中砂質シルト (土器細片多く混じる、炭化物混じる) (第4-2層)
- 14, 10YR3/1 黒褐 粗砂混り中砂質シルト (土器片多く混じる、炭化物混じる) (4164 土坑埋土)
- 14', 10YR4/1 褐灰 中砂混り中砂質シルトブロックと10YR6/2 灰黄褐 中砂ブロックの混合
- 15, 2.5Y4/1 黄灰 粗砂混り中砂質シルト (地山もしくは遺構埋土)
- 16, 10YR5/3 にぶい黄褐 中砂質シルト (地山)
- 17, 7.5YR5/3 にぶい褐 極細砂質シルト (地山)
- 18, 2.5Y4/1 黄灰 細砂質シルトブロックと10YR5/1 褐灰 粗砂混り中砂質シルトブロックと2.5Y7/4 浅黄 細砂ブロックのブロック混合土 (遺構埋土)
- 19, 2.5Y7/3 浅黄 粗砂混り中砂質シルト
- 20, 5Y6/3 オリーブ黄 中砂混り中砂質シルト (上部 Fe 顕著)
- 21, 10YR6/4 にぶい黄褐 極粗砂～粗砂混り中砂質シルト (22の上部が土壌化した感じ)
- 22, 10YR7/1 灰白 極粗砂～粗砂
- 23, 2.5Y6/3 にぶい黄 細礫～粗砂質シルト
- 24, 5Y5/2 オリーブ 粗砂混り中砂質シルト
- 25, 10YR4/1 褐灰 粗砂～中砂混り中砂質シルトに若干10YR5/3 にぶい黄褐 中砂質シルトブロックが混じる (遺構埋土)
- 26, 7.5Y7/2 灰白 極粗砂混り粘質シルト (土器片多く含む)
- 27, 2.5Y6/2 灰黄 極粗砂質シルトブロックと細砂ブロックの混合
- 28, 5Y6/1 灰 粗砂～中砂、細砂の互層 (ラミナ顕著)
- 29, 5Y7/1 灰白 細礫～極粗砂混り中砂質シルト
- 30, 7.5Y7/1 灰白 極粗砂混り中砂質シルト
- 31, 10Y7/1 灰白 細礫～極粗砂混り中砂質シルト
- 32, 2.5Y7/1 灰白 極粗砂混り中砂質シルト
- 33, 5Y6/2 灰オリーブ 粗砂混り中砂質シルト
- 34, 5Y6/2 灰オリーブ 極粗砂～中砂混り中砂質シルト
- 35, 10YR6/2 灰黄褐 細礫～極粗砂混り中砂質シルト
- 36, 7.5Y6/1 灰 粗砂～中砂ブロック、細砂質シルト～シルト
- 37, 7.5Y6/1 灰 極粗砂～粗砂混り中砂質シルト
- 38, 7.5Y8/1 灰白 極粗砂～中砂、細砂質シルト (ラミナ顕著)
- 39, 2.5Y8/1 灰白 中砂～細砂 (ラミナ顕著)
- 40, 2.5Y6/1 黄灰 細礫～極粗砂混り中砂質シルト (土器片多く含む)
- 41, 10YR4/2 灰黄褐 粗砂～中砂混り中砂質シルト
- 42, 2.5Y8/1 灰白～2.5Y6/1 黄灰 細礫～粗砂 中砂 細砂～シルトの互層 (ラミナ顕著)
- 43, 5Y8/1 灰白 粗砂～中砂、細砂～極細砂 (ラミナ顕著)
- 44, 10Y8/1 灰白 細礫～細砂 (ラミナ顕著)
- 45, 7.5Y6/1 灰 中砂～極細砂 (ラミナ顕著)
- 46, 10YR2/1 黒 細砂質シルト (地山)

図 163 12-1:4-2 区 南東壁断面図

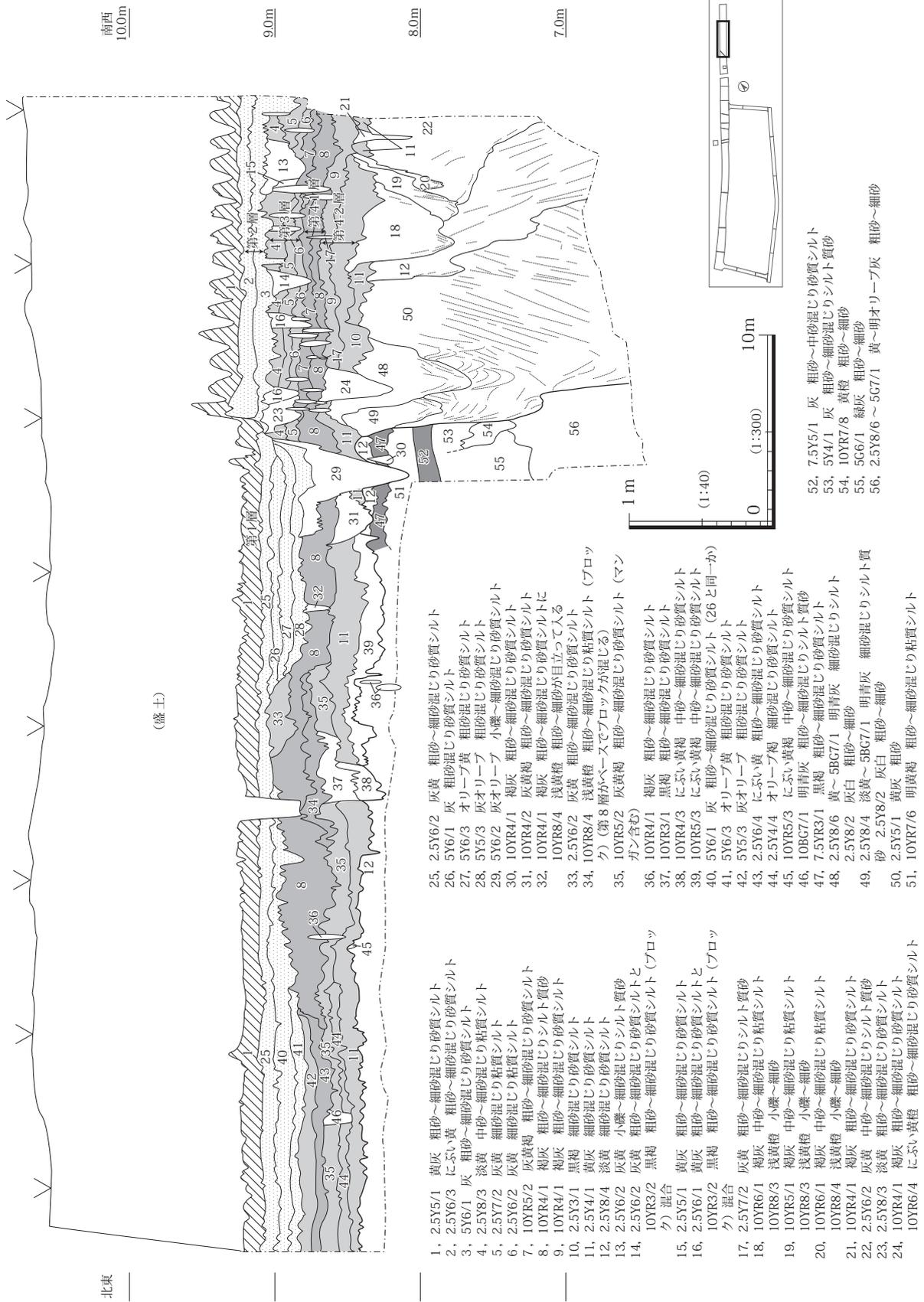


図164 11-1:5-2区 南東壁断面図

第2節 弥生時代以前の遺構・遺物

〔概要〕縄文時代に属する遺構は検出されなかったが、後世の遺構や包含層から縄文時代後期・晩期所産の土器が出土している。弥生時代に属する遺構は、竪穴建物・掘立柱建物・土坑・溝・落込み・流路が挙げられる。いずれも地山上面で検出した。

北トレンチ・南トレンチを中心として弥生時代の遺構群を検出している。主要な遺構は竪穴建物及び掘立柱建物で構成される建物群と流路である。また、これに伴って土坑や溝等を検出しており、集落域の様相を呈する遺構群と評価できる。

建物群は、北トレンチで検出した一群と南トレンチ北東半で検出した一群がある。北トレンチにおいては、竪穴建物8棟（同一場所で建替えを行ったものについてもそれぞれを1棟と数えた、以下同じ）、掘立柱建物4棟を検出している。南トレンチにおいては、竪穴建物7棟、掘立柱建物4棟を検出している。竪穴建物1棟を除きすべて北東半の流路周辺での検出となる。

竪穴建物には、その位置をややずらして建替えを2度行っているもの、ほぼ同じ場所に建替えを2度行っているものがあることから長期に亘って定住した様子が看取できる。また、竪穴建物には周溝・外周土坑を伴うものや、竪穴建物中央部に火処となる炉ではなく土坑を有するものがある。検出した竪穴建物は規模の差や内部構造に違いが見受けられるが、建替えを2度行うという共通した特徴もある。

掘立柱建物は、2間×3間の規模のものを最大とし、1間×3間、1間×2間、1間×1間の規模のものがある。竪穴建物に近接して建てられている状況が看取できることから、それぞれが関連するものとして造営された可能性が高い。

流路は、北・東・南トレンチの3箇所でも3条検出しているが、北・東トレンチにまたがって検出された流路と南トレンチで検出した流路は、同一の流路である可能性が高い。北トレンチ北東側の流路から出土した土器群は、南西側の流路から出土した土器群よりも相対的にやや新しく位置づけられるものが多く含まれる。これを積極的に評価すれば、2つの流路は同時に機能していたのではなく、南西側の流路埋積後に北東側の流路が後出的に新たに形成されたものである可能性が高いものと言える。

遺構の時期は、出土遺物から概ね弥生時代後期後半に属するものと判断される。今回の調査で検出し

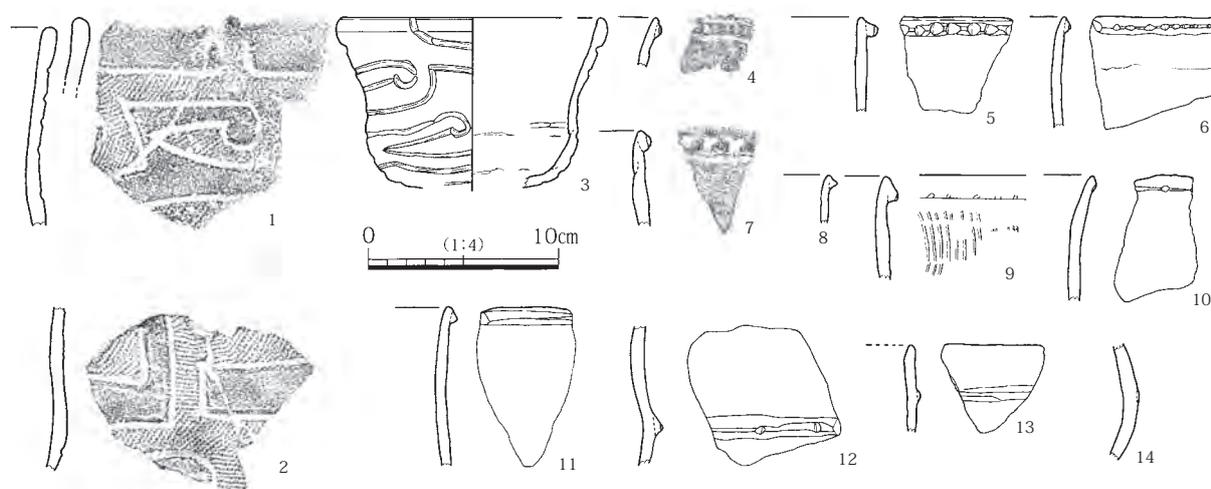


図 165 縄文土器

た当該期の主要な遺構は、調査区全体の北東半に集中している状況が看取でき、流路を中心に集落が形成されたことを窺い知ることができる(図166)。

第1項 縄文時代の遺物

今回の調査では、後述する弥生時代に属する5916流路・8055流路、古墳時代に属する7066流路(4143流路)、古代に属する3077流路(8052流路)、11-1:5-2区検出の5546溝及び包含層から縄文土器が出土した(図165、写真図版152)。縄文土器が出土した調査区はいずれも今回の調査区の北部に集中しており、2点を除きすべて流路から出土している。

1・2は深鉢の口縁部及び体部片。特徴的な文様と磨消縄文が外面に見られる。縄文時代後期初頭に比定される中津式に位置づけられよう。3は浅鉢。縄文は見られないが1・2と同様の文様を持つことから、同じく中津式に位置づけられる。

4は壺の口縁部片。5～13は深鉢の口縁部及び体部片。14は深鉢か壺の体部片。いずれも縄文時代晩期に比定される長原式に位置づけられるが、12は一段階古い船橋式になるうか。

これらの土器のうち流路出土のものについては表面があまり磨滅しておらず、付近で投棄された状況を示している蓋然性が高いことから、当該期の集落が近隣に存在する可能性もあろう。

第2項 弥生時代の遺構・遺物

1. 竪穴建物

当該期に属する竪穴建物を15棟分検出した。南トレンチの10-1:4-4区において7棟、北トレンチの11-1:3-5区、12-1:3-9区、12-1:4-2区、11-1:5-2区において8棟検出

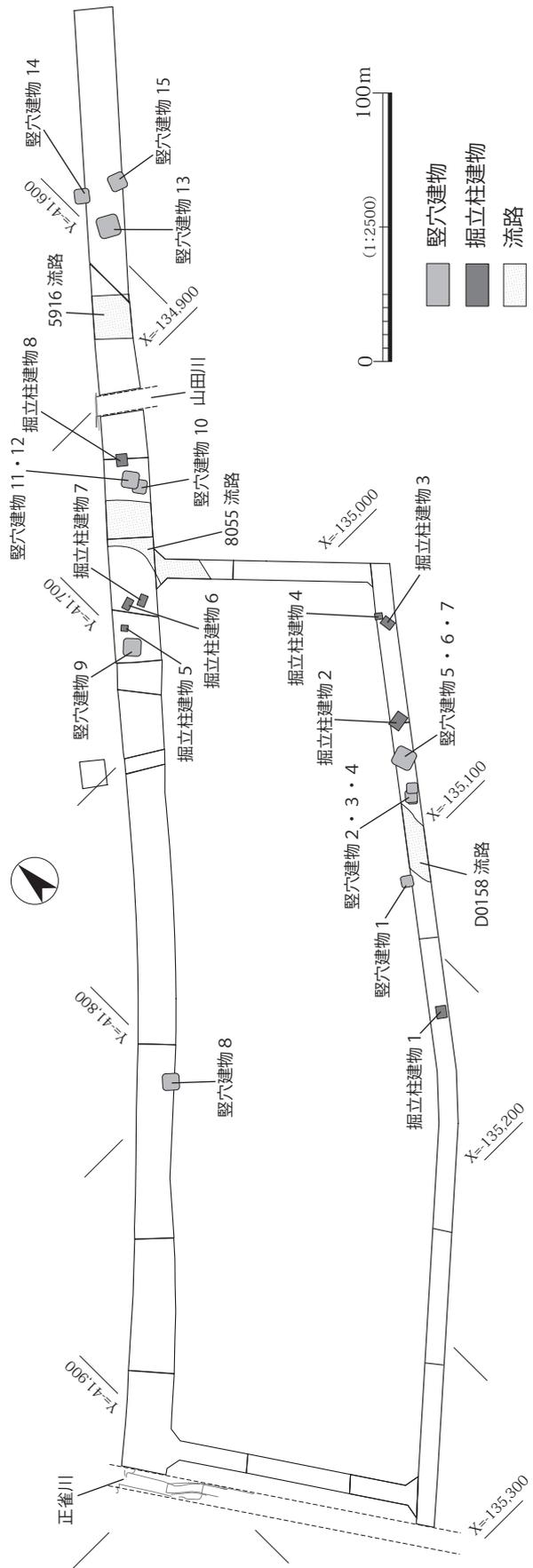


図166 弥生時代主要遺構配置図

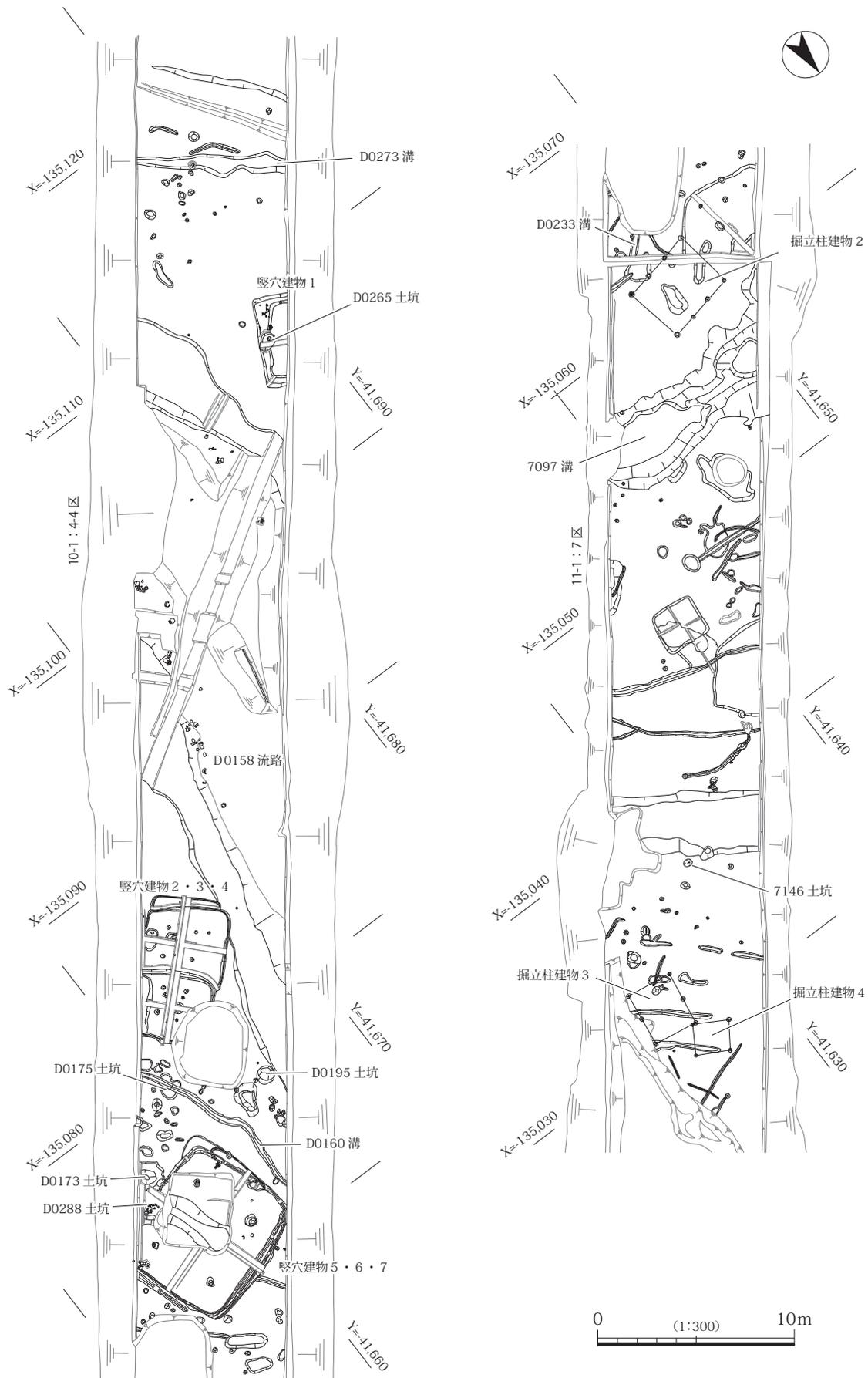


图 167 10-1:4-4区、11-1:7区 遺構平面図

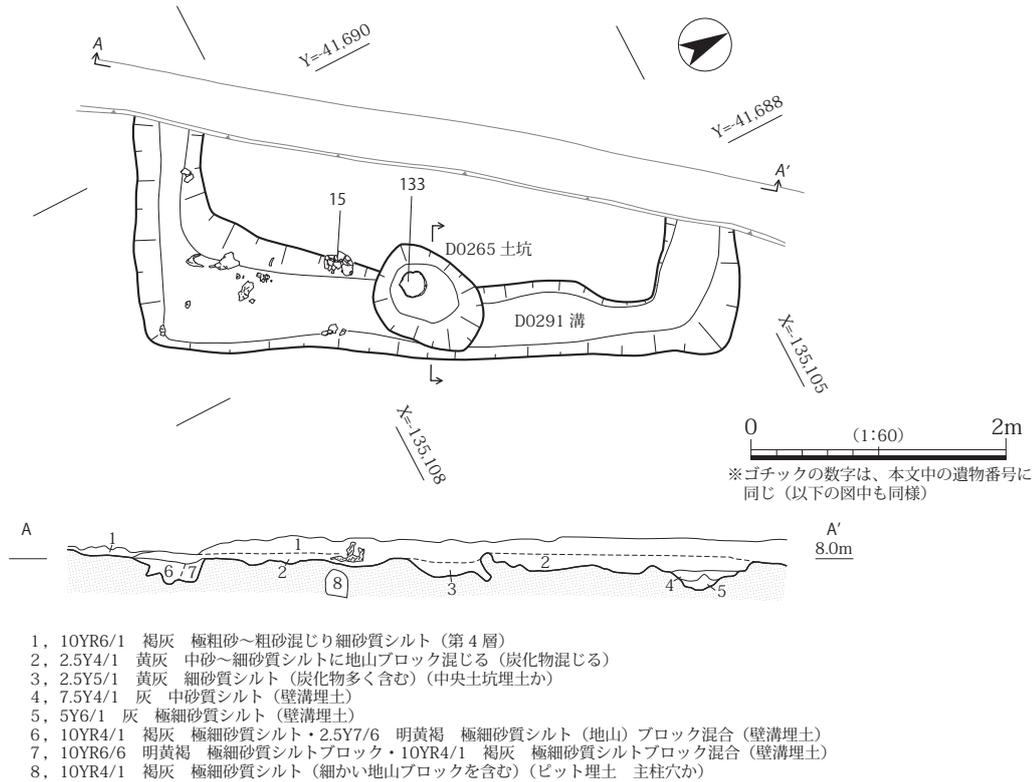


図 168 竪穴建物 1 平面図・断面図

した。床面積は判明したもので 13～45 m² になり、建物の規模に差が認められる。構造は、詳細が判明したものについては 4 本柱の主柱穴を有し、1 棟を除き壁溝を廻らす。また、建物中央部には炉または土坑を有する。さらに周溝もしくは外周土坑が認められる建物があり、周堤帯が伴う建物であったと判断される建物も検出している。

竪穴建物 1 (図 166・167・168・175、写真図版 84-1・84-2) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135, 107、Y=-41, 689 地点に位置する。後述する D0158 流路の西岸において検出した建物である。

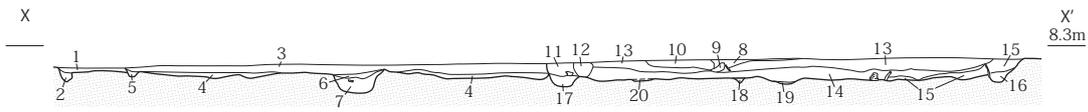
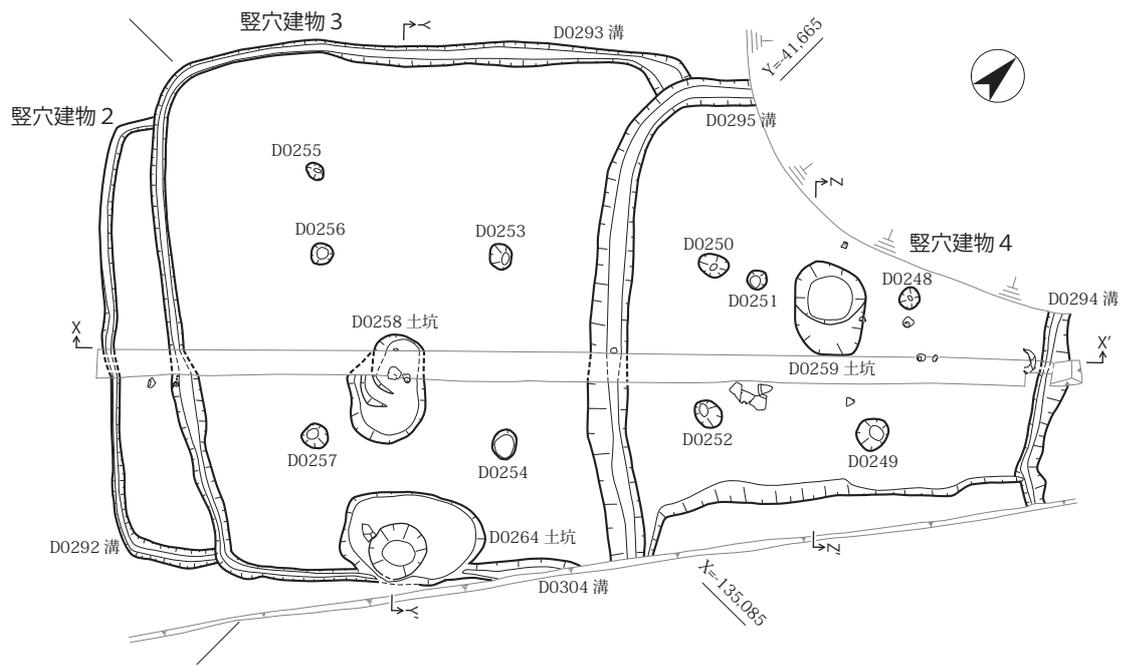
竪穴は、北西部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の平面形及び規模は、軸を N-29°-E においた平面隅丸方形を成し、一辺 4.7 m を測る。

竪穴の輪郭を検出した段階で、すでに床面が露出し壁溝のみが検出された状況であった。断面観察では辛うじて竪穴の埋土が遺存していた状況を確認し得たが、それについても第 4 層により影響を受けており、本来の床面は失われている可能性が高く状況は判然としない。

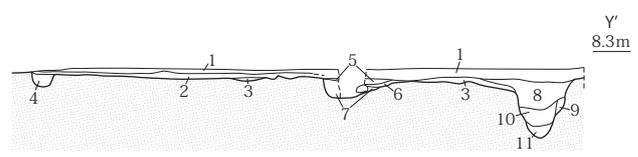
竪穴建物の床面上では壁溝を検出した。主柱穴や中央土坑といった建物に関わる施設は、調査範囲内においては検出されなかった。なお、調査区法面となる壁面にピットと考えられる断面と建物中央部で落込み状の断面が認められたことから、これらが主柱穴及び中央土坑に相当する可能性がある。

中央土坑は、想定される断面の状況から建物のほぼ中央に位置する可能性が高い。また、炭化物を多く含む埋土であることから、炉として機能していたものと考えられる。

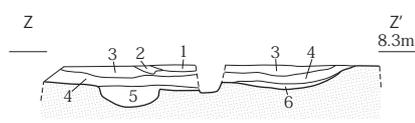
壁溝 (D0291 溝) は、今回検出した他の竪穴建物の壁溝よりも全体的に幅広く、壁溝南側の隅部で大きく広がる形状である。幅 0.4～1.1 m、検出した床面からの深さ 0.15～0.2 m を測る。溝内は、砂質シルト及び地山ブロックにより埋没していた。なお、断面観察の結果、南側の壁溝において異なる質



- | | |
|--|---|
| 1, 2.5Y5/3 黄褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 2 埋土) | 10, 10YR4/4 褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) |
| 2, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂～細砂質シルト (壁溝 (D0292 溝) 埋土) | 11, 2.5Y4/3 オリーブ褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) |
| 3, 2.5Y4/3 オリーブ褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 3 埋土) | 12, 10YR4/4 褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) |
| 4, 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルトに 2.5Y4/6 オリーブ褐シルトブロック多く混じる (貼床土) ※ 3, と 4, の間に、部分的ではあるが有機物の薄層が見られた箇所あり | 13, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) |
| 5, 2.5Y5/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (壁溝 (D0293 溝) 埋土) | 14, 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) |
| 6, 2.5Y5/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (炭化物・有機物混じる) (D0258 土坑埋土①) | 15, 2.5Y4/3 オリーブ褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) |
| 7, 2.5Y3/1 黒褐 極細砂～細砂質シルト (炭化物・有機物混じる) (D0258 土坑埋土③) | 16, 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (壁溝 (D0294 溝) 埋土) |
| 8, 2.5Y5/4 黄褐 シルト質中砂～粗砂 (竪穴建物 4 埋土) | 17, 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (壁溝 (D0295 溝) 埋土) |
| 9, 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) | 18, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土) |
| | 19, 10YR3/2 黒褐 極細砂～細砂質シルト (炭化物・有機物混じる) (D0259 土坑埋土) |
| | 20, 2.5Y5/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (D0313 溝埋土) |



- 1, 2.5Y4/3 オリーブ褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 3 埋土)
- 2, 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 3 埋土)
- 3, 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルトに 2.5Y4/6 オリーブ褐シルトブロック多く混じる (貼床土) ※ 3, と 4, の間に、部分的ではあるが有機物の薄層が見られた箇所あり
- 4, 2.5Y5/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (壁溝 (D0293 溝) 埋土)
- 5, 2.5Y5/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (炭化物・有機物混じる) (D0258 土坑埋土①)
- 6, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂～細砂質シルト (炭化物・有機物混じる) (D0258 土坑埋土②)
- 7, 2.5Y3/1 黒褐 極細砂～細砂質シルト (炭化物・有機物混じる) (D0258 土坑埋土③)
- 8, 10YR4/2 灰黄褐 極細砂～細砂質シルト (D0264 土坑埋土①)
- 9, 2.5Y4/1 黄灰 極細砂～細砂質シルト (D0264 土坑埋土②)
- 10, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂～細砂質シルト (D0264 土坑埋土③)
- 11, 2.5Y3/1 黒褐 極細砂質シルト (D0264 土坑埋土④)



- 1, 2.5Y5/4 黄褐 シルト質中砂～粗砂 (竪穴建物 4 埋土)
- 2, 10YR4/4 褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土)
- 3, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土)
- 4, 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂～細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土)
- 5, 10YR3/2 黒褐 極細砂～細砂混じり砂質シルト (炭化物・有機物混じる) (D0259 土坑埋土)
- 6, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂質シルト (竪穴建物 4 埋土)

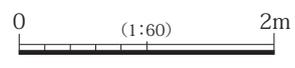


図 169 竪穴建物 2・3・4 平面図・断面図

の埋土が認められたことから、壁溝部分を拡張している可能性が考えられた。この想定が正しいものであれば、南東隅の幅広い壁溝を含め、今回検出した壁溝が全体的に幅広いものとなったことは、平面的な埋土の違いを見逃したために拡張前と拡張後の壁溝を同時に掘りあげてしまった結果であったとも考えられる。

なお、当竪穴建物は後述する D0265 土坑によって切られている。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土及び壁溝から出土した遺物について図化し得た（図 175）。弥生土器高杯（15）・底部（16）である。出土遺物及び土坑との重複関係から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

竪穴建物 2・3・4（図 166・167・169、写真図版 81-1・82-1・82-2・84-3・85）

10-1:4-4 区において地山上面で検出した。

D0158 流路の東岸において 3 棟が横並びに重複した状態で検出した。平面の精査及び断面の検討から、西側に位置する建物が最も古く、次いで中央の建物、東側の建物へと順次建替えがなされたことが判明した。そこでこれらの建物を建てられた順に西から竪穴建物 2、竪穴建物 3、竪穴建物 4 と遺構名を付した。竪穴建物は、新しく建替えられるごとに若干ではあるが竪穴を深くする傾向にあることがわかった。各建物の具体を以下に報告する。

竪穴建物 2（図 166・167・169・170・175、写真図版 81-1・82-1・82-2・84-3・85） 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,085、Y=-41,666 地点に位置する。

竪穴は、竪穴建物 3 により削平を受けているため全容は明らかでないが、南西部分に建物の一辺が残存していた。主柱穴の状況と合わせて考えると概ね軸を N-45°-W においた平面隅丸長方形となり、短辺は 3.4 m を測る。検出面からおおよそ 0.05 m 掘り下げたところで床面を検出した。

当建物に関わる遺構として、4 基の主柱穴と壁溝を検出した。主柱穴は竪穴建物 3 の床面をやや掘り下げ精査した段階で検出したものであり、壁溝は南西辺でのみの検出である。

主柱穴は D0306・D0307・D0308・D0309 柱穴で構成される 4 本柱である。平面円形で径 0.25～0.3 m、深さ 0.4～0.6 m を測り、やや台形に配置されている。柱間隔は芯々距離で 2.3 m を測るが、北西辺だけ 2.6 m と若干広くなる。

壁溝（D0292 溝）は、南西辺においてのみ確認され、他の箇所は竪穴建物 3 造営時に削平されたものと考えられる。幅 0.15～0.1 m、床面からの深さ 0.07 m を測る。

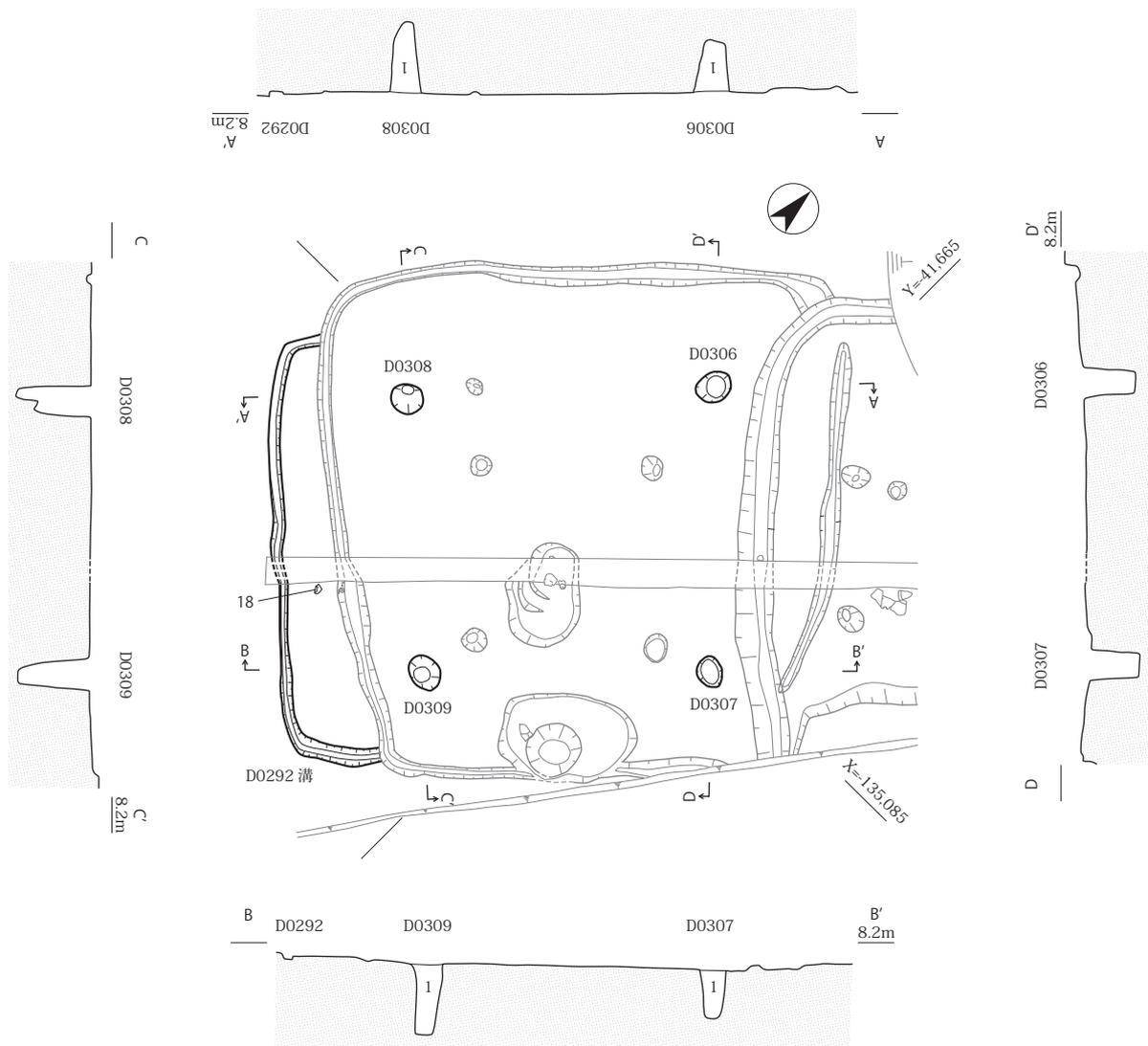
当建物に関連する遺物のうち、D0309 柱穴及び竪穴埋土から出土した遺物について図化し得た（図 175）。弥生土器底部（17）・甕底部（18）である。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

竪穴建物 3（図 166・167・169・171・175、写真図版 81-1・82-1・82-2・84-3・85） 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,085、Y=-41,665 地点に位置する。

竪穴は、軸を N-45°-W においた平面隅丸台形を成し、長辺 4.0 m、短辺約 3.3 m を測る。検出面からおおよそ 0.07 m 掘り下げたところで床面を検出した。床面積は約 13.2 m² である。

竪穴建物の床面上では、4 基の主柱穴と中央土坑、壁溝、壁際土坑、ピットを検出した。

床面は、加工面に砂質シルトとシルトブロック土を敷き均して貼り床としている。なお、部分的ではあるが、貼り床の上面で有機物の薄層が見られた箇所があることから、筵などが床面に敷かれていた可能性もあろう。



- D0306・D0307 柱穴
 1, 2.5Y3/2 黒褐 細砂質シルト（わずかに中砂混じる）に 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂～細砂質シルトブロックと 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂混じりシルト質砂ブロックが混じる
- D0308 柱穴
 1, 2.5Y3/2 黒褐 細砂質シルト（わずかに中砂混じる）に 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂～細砂質シルトブロックと 10YR2/1 黒 極細砂～細砂質シルトブロックが混じる
- D0309 柱穴
 1, 2.5Y3/2 黒褐 細砂質シルト（わずかに中砂混じる）に 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂～細砂質シルトブロックが非常に多く混じる

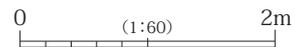


図 170 竪穴建物 2 平面図・断面図

支柱穴は D0253・D0254・D0256・D0257 柱穴で構成される 4 本柱である。平面円形で径 0.2～0.15 m、深さ 0.23～0.08 m を測り、四角形に配置されている。支柱穴は壁溝の内肩から広い所で 1.5 m、狭い所で 0.8 m の地点にあり、柱間隔は芯々距離で概ね 1.5 m を測る。

中央土坑（D0258 土坑）は、建物の中央やや南寄りに位置する。長径 0.97 m、短径 0.62 m の平面不整形円形で、炭化物や有機物が混じる黒褐色砂質シルトを埋土とする。埋土及び形状から炉と考えられる。

壁溝（D0293 溝・D0304 溝・D0313 溝）は各周壁下において確認された。なお、D0313 溝は竪穴建物 4 の床面をやや掘り下げた段階で検出したものである。また、南東辺においては D0264 土坑と接続している。幅 0.1～0.35 m、床面からの深さ約 0.05 m を測る。

壁際土坑（D0264 土坑）は、長径 1.13 m、短径 0.7 m、深さ 0.45 m を測る平面楕円形である。南東

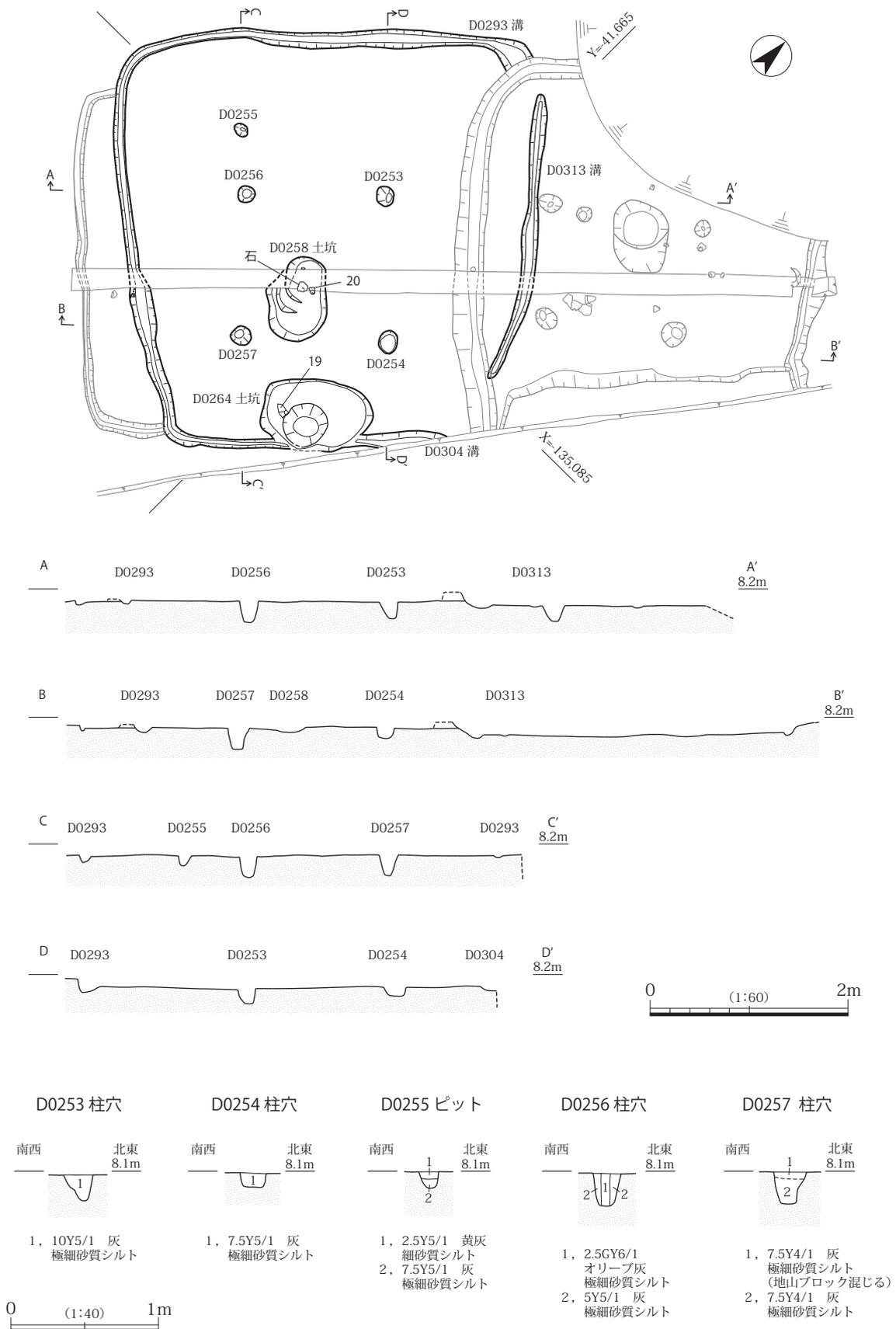
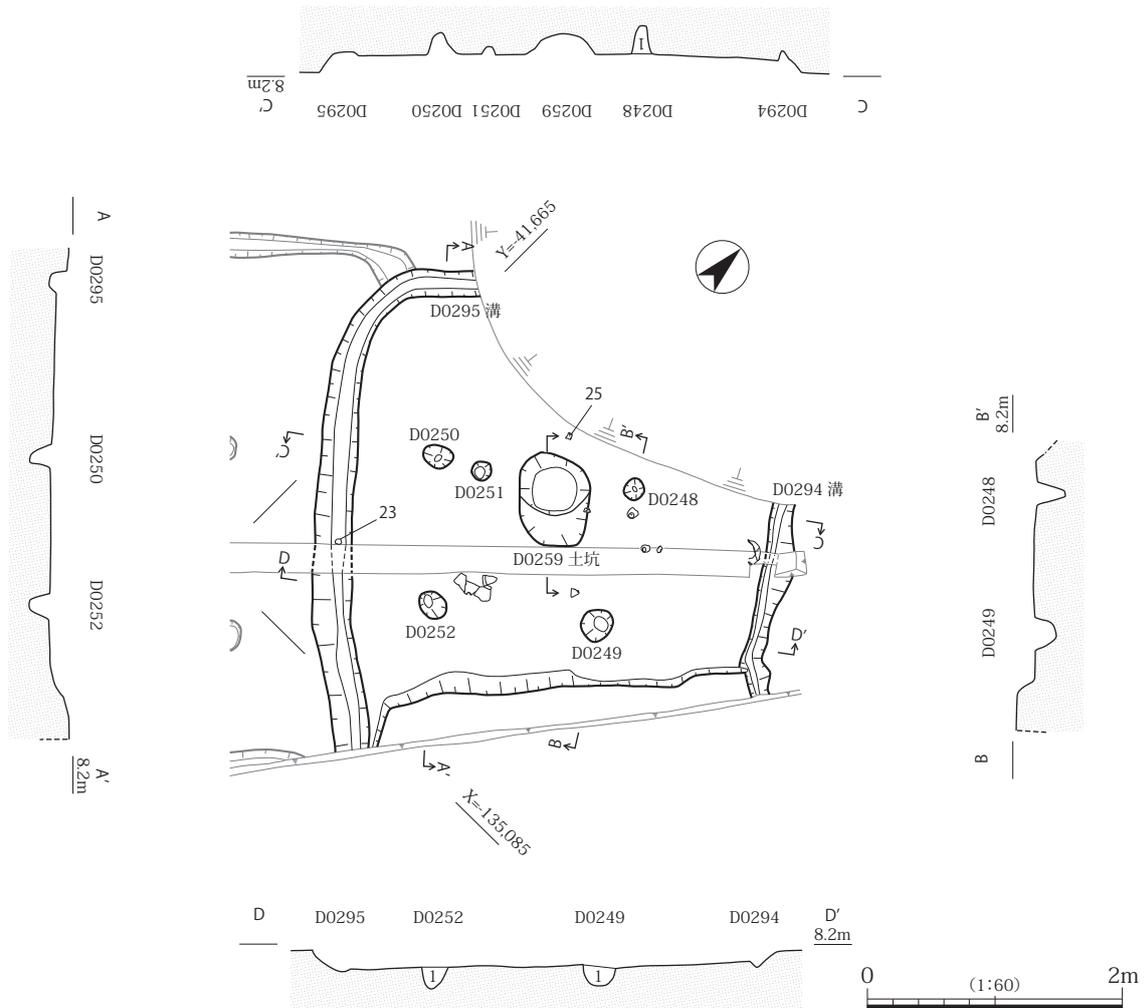


図171 竪穴建物3 平面図・断面図



- D0248 柱穴
 1, 2.5Y4/1 黄灰 中砂質シルト (炭化物含む)
 D0249 柱穴
 1, 2.5Y4/1 黄灰 極細砂混じりシルト質粘土
 D0252 柱穴
 1, 7.5Y4/1 灰 極細砂質シルト (炭化物・有機物含む)

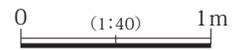
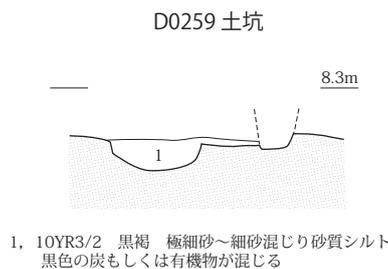
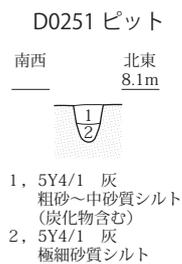


図 172 竪穴建物 4 平面図・断面図

辺の周壁下端では壁溝がこれに接続しているように検出されたことから、当建物の壁溝に排水機能があるのであれば集水施設のようなものが想定される可能性もあろう。

当建物に関連する遺物のうち、中央土坑及び壁際土坑、壁溝から出土した遺物について図化し得た（図 175）。弥生土器高杯（19）・甕底部（20・21）である。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

竪穴建物4（図166・167・169・172・175、写真図版81-1・82-1・82-2・85-1） 10-1:4-4区において、地山上面で検出した。X=-135,083、Y=-41,663地点に位置する。

竪穴は、攪乱や南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、概ねその様相を知ることができた。検出した部分の平面形及び規模は、軸をN-42°-Wにおいた隅丸方形を成し、長辺3.85m以上、短辺3.75mを測る。検出面からおよそ0.15m掘り下げたところで床面を検出した。竪穴の埋土は層厚0.15mで大きく2層に分かれ、黒褐色～暗灰黄色砂質シルト他である。

竪穴建物の床面上では、4基の支柱穴と中央土坑、壁溝、屋内高床部、ピットを検出した。

床面は、加工面がそのまま床面として機能している可能性が高い。

支柱穴はD0248・D0249・D0250・D0252柱穴で構成される4本柱である。平面円形で径0.15～0.23m、深さ0.15～0.23mを測り、やや台形に配置されている。支柱穴は壁溝の内肩から広い所で1.15m、狭い所で0.5mの地点にあり、柱間隔は広い所で1.6m、狭い所で1.1mを測る。

中央土坑（D0259土坑）は、建物中央やや北西寄りに位置する。長径0.73m、短径0.55mの平面楕円形を成し、炭化物や有機物が混じる黒褐色砂質シルトを埋土とする。北西半が一段深くなる。埋土及び形状から炉と考えられる。

壁溝（D0294溝・D0295溝）は、調査区外になる南東辺を除く各周壁下において確認された。幅0.2～0.3m、床面からの深さ約0.06mを測る。

屋内高床部は南東辺において確認された。建物の輪郭を検出した段階ですでに露出していたが調査区際であったため、不明瞭な状況での検出となった。壁溝が高床部の周囲に巡るため、壁溝の内側に収まる範囲に造成されたものと考えられる。

その他に支柱穴と中央土坑の間でD0251ピットを検出したが性格は不明である。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土から出土した遺物について図化し得た（図175）。弥生土器壺（22）・底部（23・24）・高杯（25）・甕底部（26・27）である。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

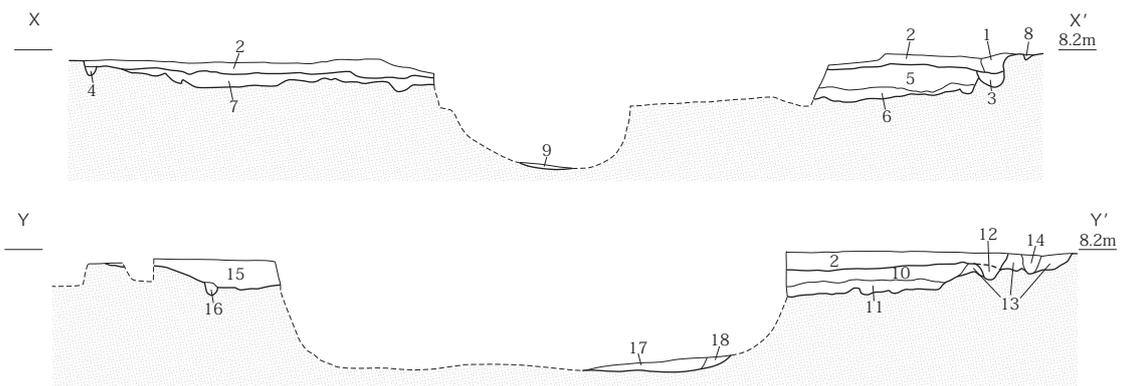
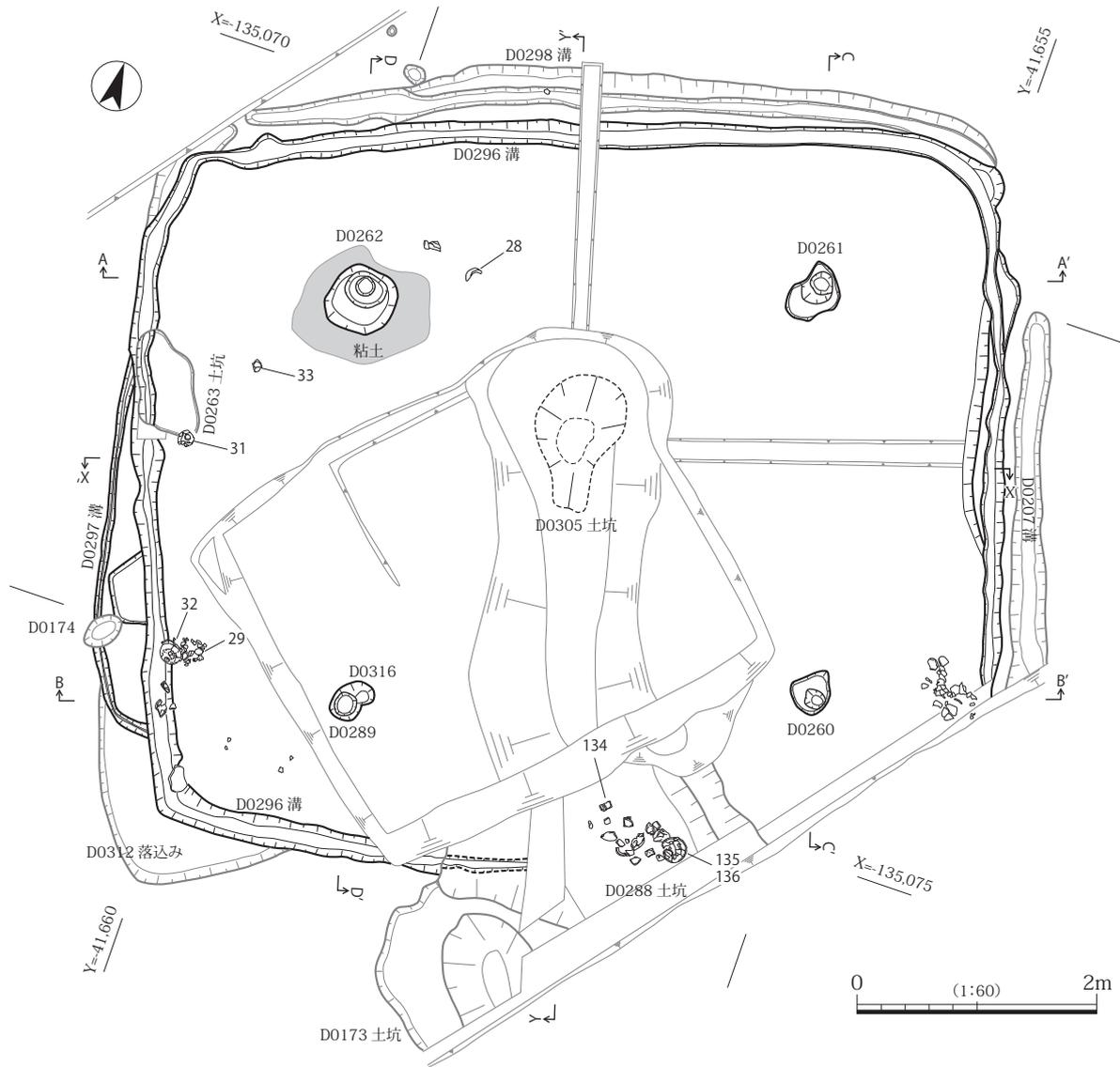
竪穴建物5・6・7（図166・167・173、写真図版82-1・82-3・86・87）

10-1:4-4区において地山上面で検出した。

D0158流路の東岸、竪穴建物4から南東へ約5mの地点に位置する。3棟がほぼ同じ箇所に重複した状態で検出した。平面の精査及び断面の検討から、西側に位置する壁溝のみが検出された建物が最も古く、次いで北辺及び東辺において壁溝が検出された建物、そして中央に位置する最新の建物へと順次建替えがなされたことが判明した。そこでこれらの建物を建てられた順に竪穴建物5、竪穴建物6、竪穴建物7と遺構名を付した。なお、これらの建物は後述するD0311流路の埋土の上に造営されている。竪穴建物は、新しく建替えられるごとに若干ではあるが竪穴を深くする傾向にあることがわかった。また、3棟の建物が重複し建替えが2度行われている状況は先述した竪穴建物2・3・4の状況と同じであり、近接した建物同士の連動した動向が窺われる。

なお、当建物の中央部分は平成19（2007）～20（2008）年度に行われた摂津市教育委員会による確認調査（独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、摂津市教育委員会2009）のトレンチ6によって大きく攪乱となっていた。各建物の具体を以下に報告する。

竪穴建物5（図166・167・173・174、写真図版82-1・82-3） 10-1:4-4区において地山上面で検出した。X=-135,072、Y=-41,658地点に位置する。



- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR5/1 褐灰 粗砂～中砂質シルト 2. 10YR3/1 黒褐 粗砂～中砂質シルト (土器片多く混じる) 3. 2.5Y4/1 黄灰 中砂～細砂質シルト (地山ブロックを含む) (D0296 溝埋土 竪穴建物7壁溝) 4. 2.5Y4/1 黄灰 粗砂～中砂質シルト (D0296 溝、竪穴建物7壁溝) 5. 7.5YR4/1 褐灰 細砂～中砂質シルトと2.5Y5/1 黄灰 極細砂混じりシルト質粘土のブロック混合 6. 7.5YR5/1 褐灰 細砂質シルト 7. 10YR6/1 褐灰 粗砂混じりシルト質細砂 (地山ブロックを含む) 8. 2.5Y5/1 黄灰 中砂質シルト (D0297 溝埋土 竪穴建物5壁溝) 9. 7.5YR3/1 黒褐 中砂～粗砂混じりシルト質砂 (D0305 土坑埋土) | <ol style="list-style-type: none"> 10. 2.5Y5/1 黄灰 中砂質シルト (粗砂が若干混じる) 11. 7.5YR5/1 褐灰 粗砂～中砂混じりシルト質細砂 12. 10YR5/1 褐灰 中砂質シルト (D0296 溝 竪穴建物7壁溝) 13. 2.5Y4/1 黄灰 粗砂～中砂質シルト (細礫が若干混じる) 14. 5Y4/1 灰 粗砂～中砂質シルト (D0298 溝埋土 竪穴建物6壁溝) 15. 2.5Y5/1 黄灰 粗砂～中砂質シルト (D0288 土坑埋土) 16. 10Y6/1 灰 中砂質シルト (D0296 溝埋土 竪穴建物7壁溝) 17. 7.5YR3/1 黒褐 中砂～粗砂混じりシルト質砂 18. 7.5YR3/1 黒褐 中砂～粗砂混じりシルト質砂に10YR4/4 褐 細砂質シルトブロックが混じる |
|---|--|

図 173 竪穴建物 5・7 平面図・断面図

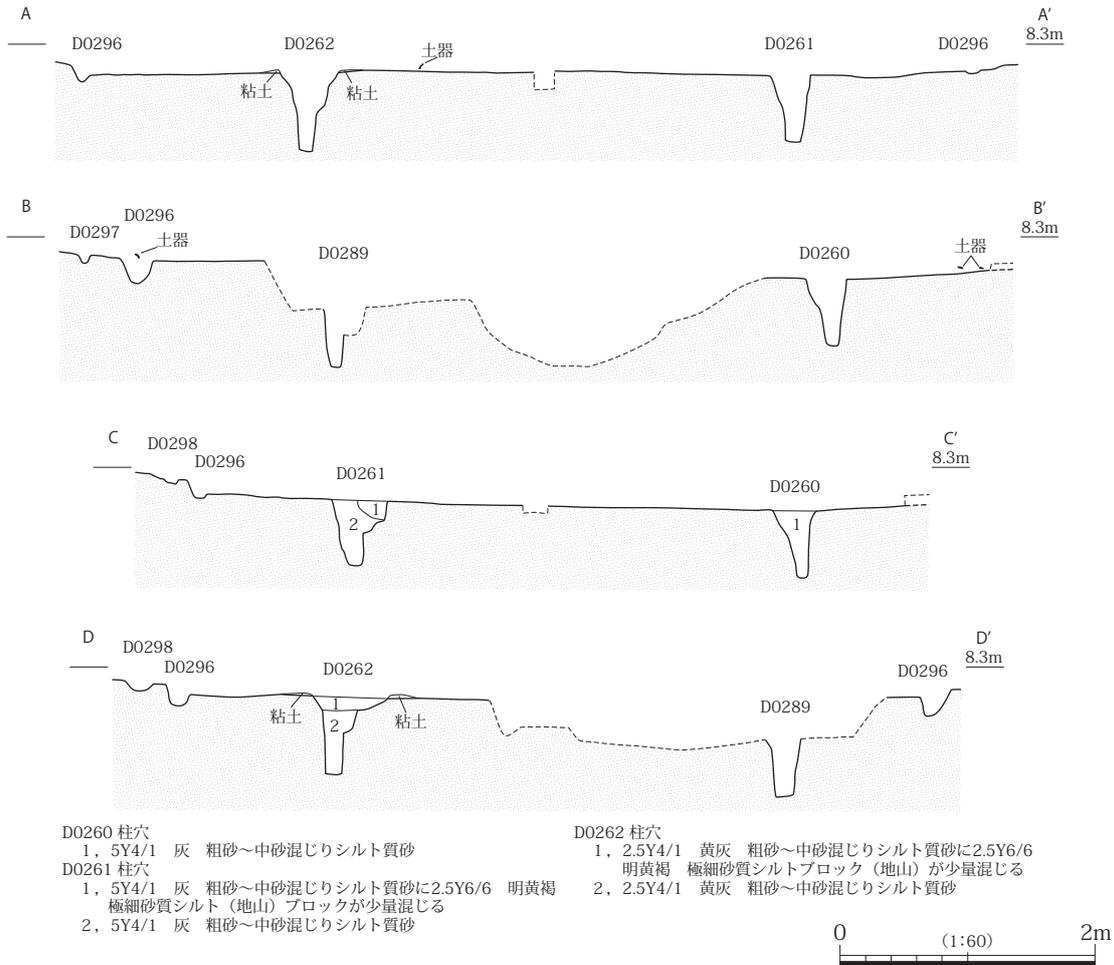


図 174 竪穴建物 5・7 断面図

竪穴は竪穴建物 6・7 の影響により遺存しておらず、壁溝のみが検出された。軸を概ね N - 12° - W においた平面隅丸方形かと思われるもので、検出長約 3.2 m を測る。支柱穴は検出されなかった。

壁溝 (D0297 溝) は、西辺・南辺において確認され南西部の隅が辛うじて検出された。幅約 0.1 m、検出面からの深さ約 0.05 m を測る。

出土遺物はなく帰属時期は不明であるが、竪穴建物 6・7 に先行する。

竪穴建物 6 (図 166・167・176、写真図版 82-1・82-3・86) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,072、Y=-41,658 地点に位置する。

竪穴は、竪穴建物 7 により大きく改変され、詳細は不明瞭であるが、軸を N - 21° - W においた平面隅丸方形を成し、一辺約 7.5 m を測る。竪穴建物 7 の加工面を検出した際、当建物に伴う支柱穴が見つかり凡その構造が明らかとなった。床面積は、壁溝の位置から概ね竪穴建物 7 と同じと考えられる。当建物に伴う遺構は 4 基の支柱穴とピット、壁溝である。

支柱穴は D0300・D0301・D0302・D0316 柱穴で構成される 4 本柱である。竪穴建物 7 の加工面において検出した。平面円形で径 0.25 ~ 0.37 m、検出面からの深さ 0.27 ~ 0.42 m を測り、四角形に配置されている。支柱穴は壁溝の内肩から約 2 m の地点にあり、柱間隔は広い所で 3.5 m、狭い所で 3.0 m を測る。

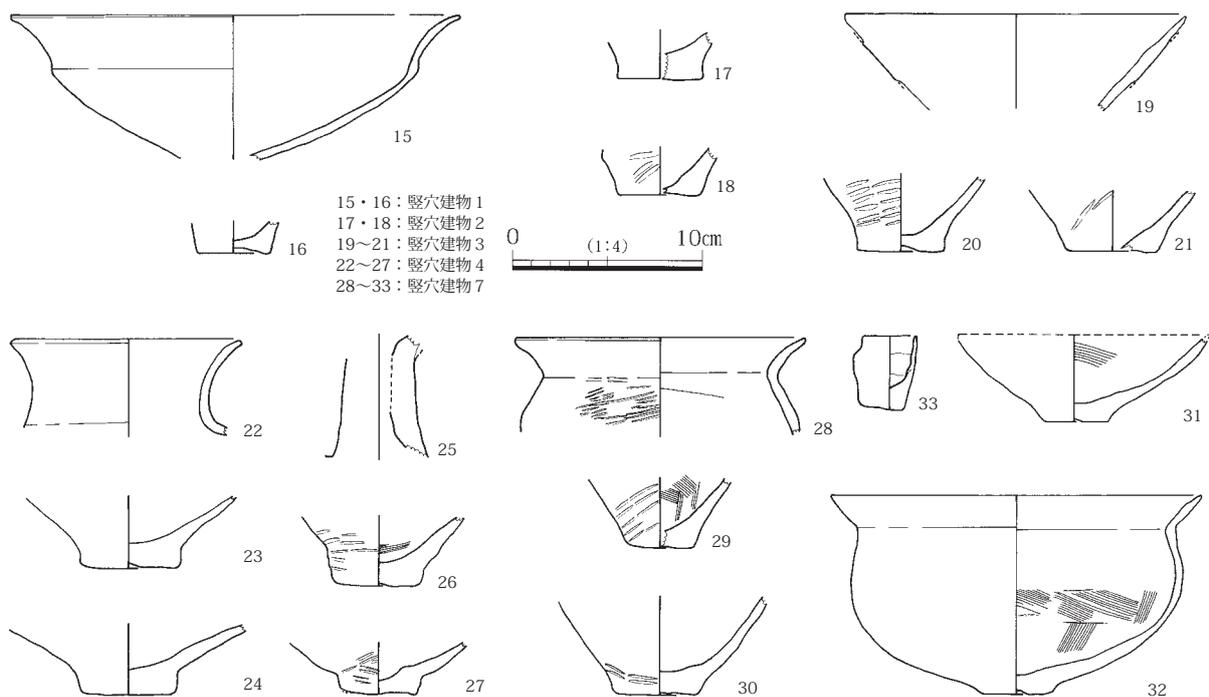


図 175 竪穴建物 1・2・3・4・7 出土遺物

壁溝 (D0207 溝・D0298 溝) は南西半分を除いて確認された。幅 0.2～0.3 m、床面からの深さ 0.05～0.1 mを測る。南西部分については、竪穴建物 7 の造営に伴って削平されたものと判断する。その他、西辺において主柱穴と壁溝の間に D0303 ピットを検出したが性格は不明である。

出土遺物はなく帰属時期は不明であるが、竪穴建物 7 に先行する。

竪穴建物 7 (図 166・167・173・174・175・176、写真図版 82-1・82-3・86・87・152) 10-1:4-4 区において、地山上面で検出した。X=-135,072、Y=-41,658 地点に位置する。

竪穴は、軸を N-21°-W においた平面隅丸方形を成し、長辺 7.2 m、短辺 6.3 mを測る。検出面からおよそ 0.12 m掘り下げて床面を検出した。床面積は約 45 m²である。

竪穴建物の床面上では 4 基の主柱穴と壁溝を検出した。また、攪乱内において土坑を検出した。

床面は、深いところでは加工面から 0.25 m程度土を入れて造成している。なお、この造成に関しては竪穴建物 6 に伴う主柱穴が、造成土を除去した段階で検出されたことから、最も新しく造営された当建物に伴うものと判断した。

主柱穴は D0260・D0261・D0262・D0289 柱穴で構成される 4 本柱である。平面円形で径 0.3～0.6 m、深さ 0.51～0.61 mを測り、四角形に配置されている。主柱穴は壁溝の内肩から 1.0～1.4 mの地点にあり、柱間隔は広い所で 3.9 m、狭い所で 3.6 mを測る。なお、D0262 柱穴の周囲には 0.2～0.3 mの範囲に亘って厚さ数cm程度の粘土～シルトが認められた。主柱を支える根固めとして施されたものの可能性がある。

中央土坑については、想定される位置が攪乱のために明らかにし得ない。先述した摂津市教育委員会による確認調査におけるトレンチ 6 の 3 次遺構面で検出された No. 34 土坑がこれに当たる可能性があるが、浅い土坑として報告されているためその当否は不明である。なお、その攪乱部分を精査したところ、埋戻土とは異なり、流路の埋土とも異なる土質を確認した。それを D0305 土坑としたが、後述する竪穴

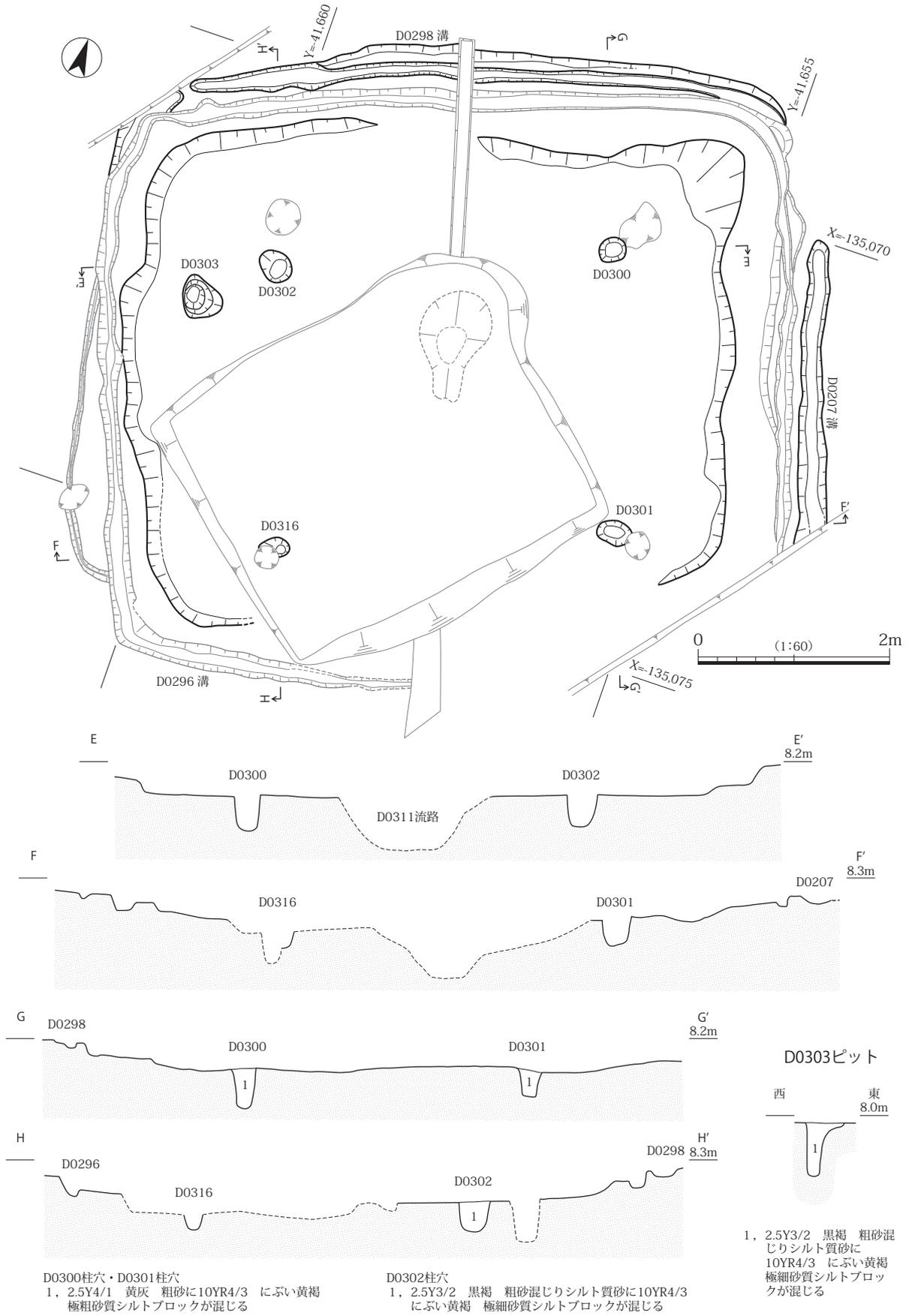


図 176 竪穴建物7加工面及び竪穴建物6 平面図

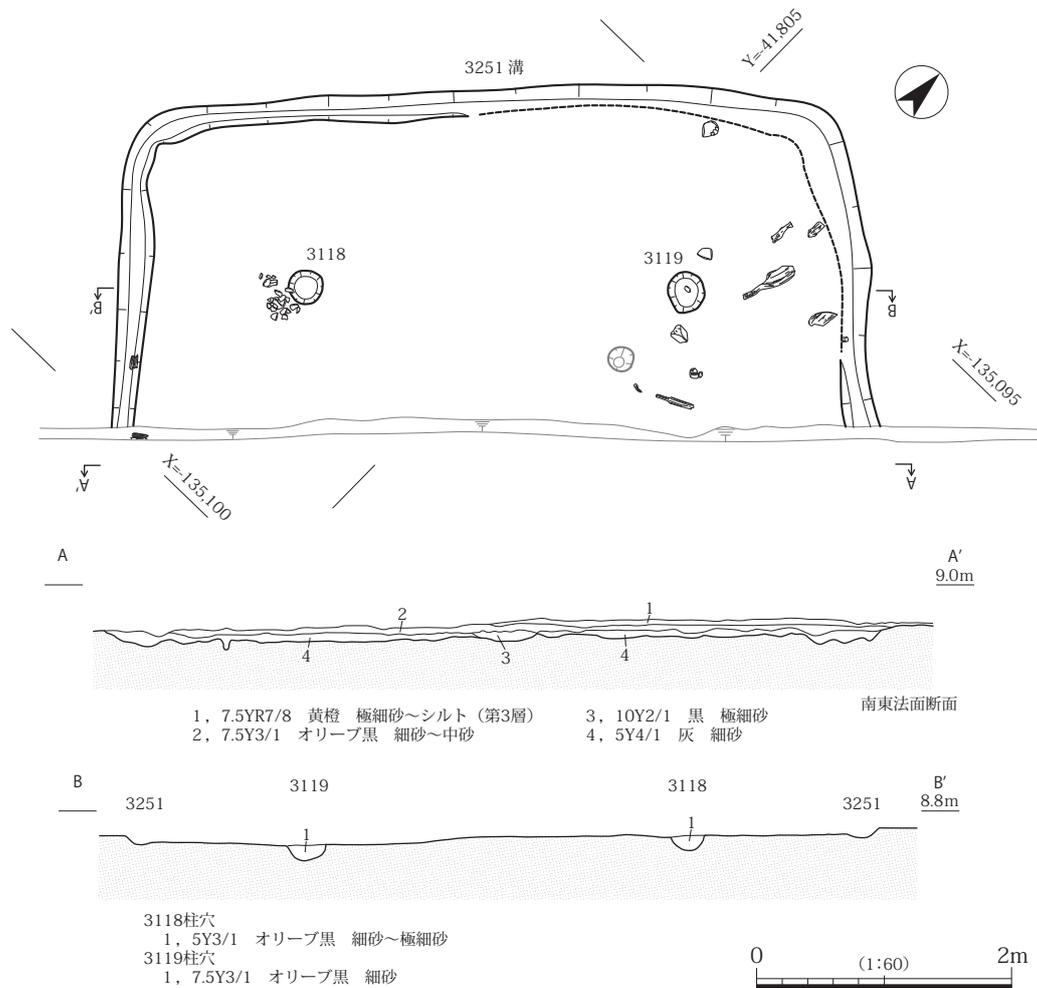


図 177 竪穴建物 8 平面図・断面図

建物 9 において検出した中央土坑と同様のものとなる可能性があるものとして報告しておく。

壁溝 (D0296 溝) は、調査区外になる南東部を除き各周壁下において確認された。幅 0.15 ～ 0.25 m、床面からの深さ約 0.1 m を測る。

なお、当建物は南辺部分を D0173 土坑・D0288 土坑に切られる。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土から出土した遺物について図化し得た (図 175)。弥生土器 甕 (28 ～ 30) ・鉢 (31 ・ 32) ・ミニチュア土器 (33) である。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

竪穴建物 8 (図 166 ・ 177、写真図版 81-3 ・ 88) 11-1:3-5 区において地山上面で検出した。X=-135,098、Y=-41,805 地点に位置する。他の竪穴建物とはやや離れた位置で検出した。

竪穴は、南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、概ねその様相を知ることができた。検出した部分の平面形及び規模は、軸を N - 45° - W においた平面隅丸方形になると考えられ、一辺 6.1 m を測る。検出面からおよそ 0.1 m で床面を検出した。

竪穴建物の床面上では、2 基の支柱穴と壁溝を検出した。

支柱穴は 3118 ・ 3119 柱穴を検出しているが、本来は 4 本柱となる可能性が高い。平面円形で、径 0.26 ～ 0.31 m、深さ 0.1 m を測る。支柱穴は壁溝の内肩から 1.1 ～ 1.2 m の地点にあり、柱間隔は芯々

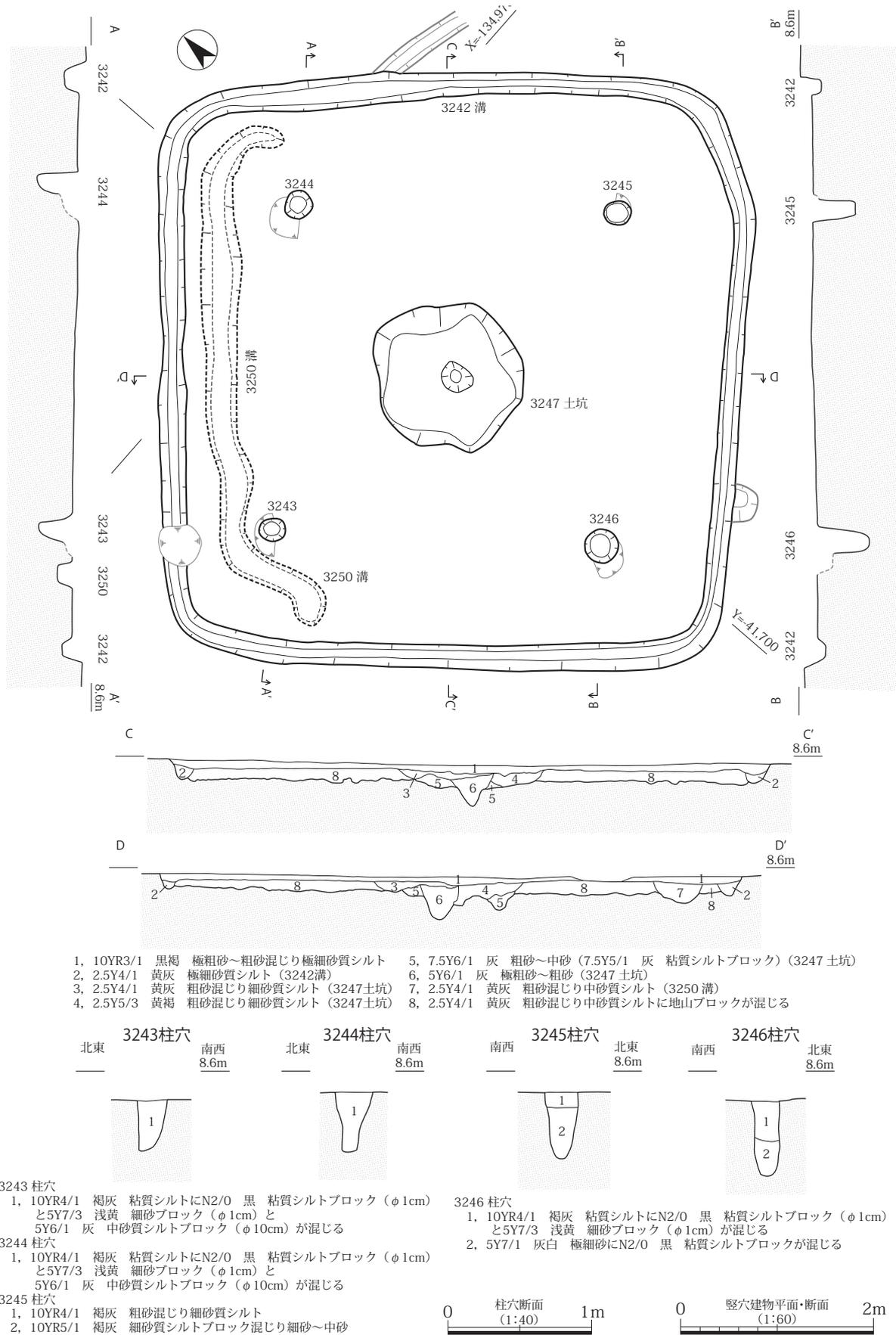


図178 竪穴建物9 平面図・断面図

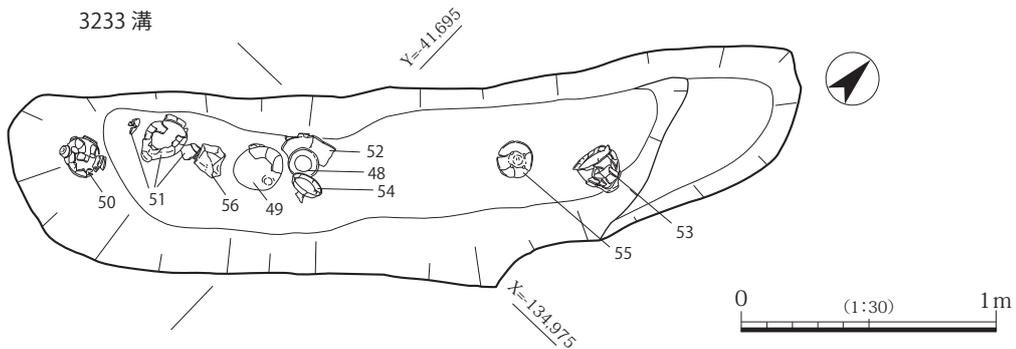
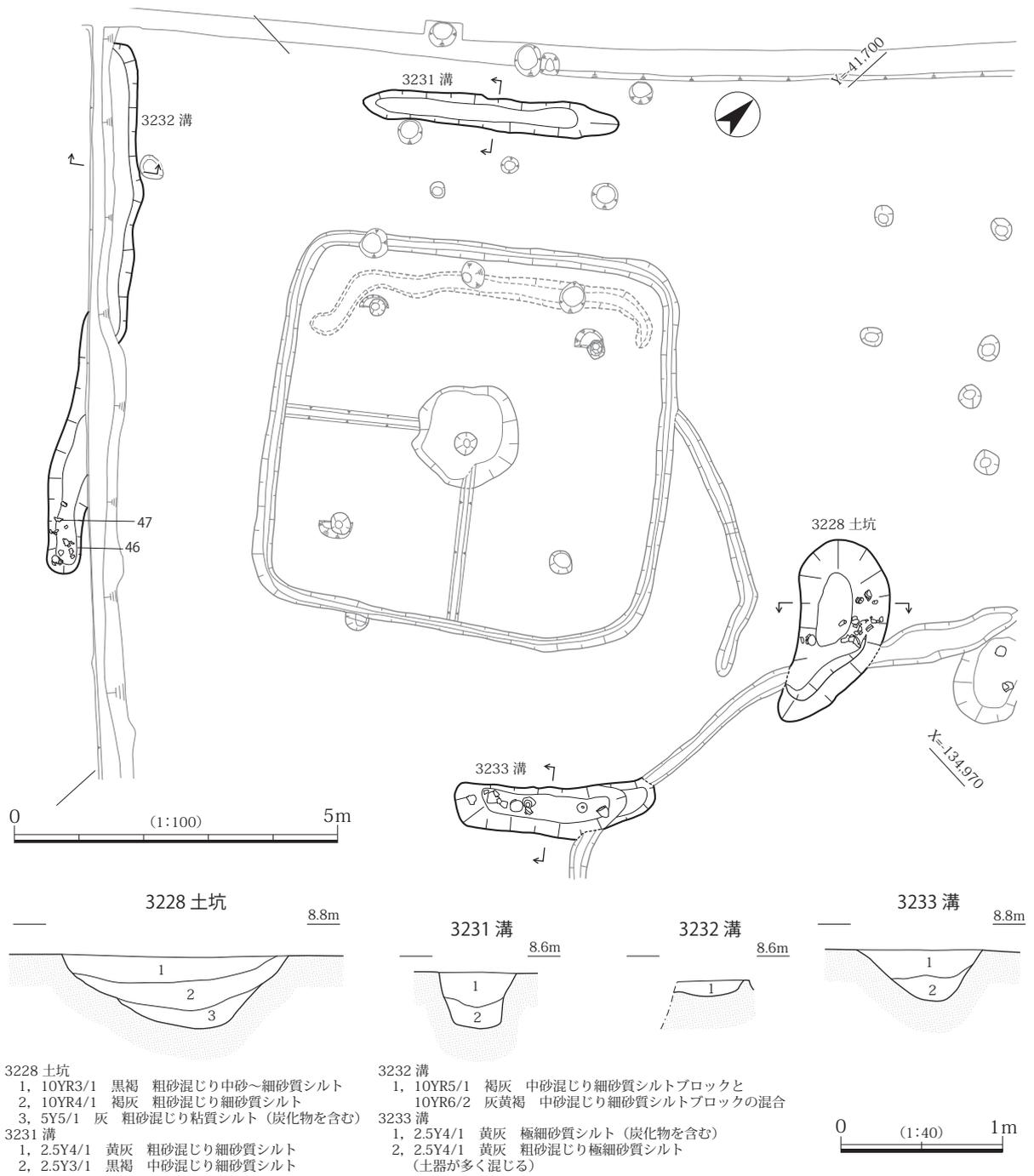


図 179 竪穴建物 9 付随遺構 平面図・断面図

距離で3 mを測る。

なお、調査区法面の断面に建物中央部で落込みが認められたことから、中央土坑に相当する可能性がある。中央土坑と想定される断面の状況から建物のほぼ中央に位置する可能性が高く、炉として機能していた蓋然性が高い。

壁溝（3251 溝）は各周壁下において確認された。幅 0.15 ～ 0.3 m、床面からの深さ約 0.07 mを測る。

なお、当建物が建てられた基盤層は砂である。周囲には粘土質な基盤層があるにも関わらず、砂の上に造営されていることから、意図的に選地された可能性がある。

竪穴建物 9（図 166・178・179・180、原色写真図版 7-2、写真図版 81-2・89・90） 12-1:3-9 区において地山上面で検出した。X=-134,972、Y=-41,700 地点に位置する。前述の竪穴建物 8 から北東へ約 160 mの地点にあり、後述する 8055 流路の西岸において検出した建物である。

竪穴は、軸を N - 41° - Wにおいた平面隅丸方形を成し、長辺 6.2 m、短辺 6.0 mを測る。検出面からおよそ 0.08 m掘り下げて床面を検出した。床面積は約 37 m²である。

竪穴建物の床面上では、4 基の主柱穴と中央土坑、壁溝、溝を検出した。

床面は、深いところでは加工面から 0.15 m程度土を入れて造成している。

主柱穴は 3243・3244・3245・3246 柱穴で構成される 4 本柱である。平面円形で径 0.2 ～ 0.35 m、深さ 0.35 ～ 0.53 mを測り、四角形に配置されている。主柱穴は壁溝の内肩から 0.8 ～ 1.1 mの地点にあり、柱間隔は広い所で 3.5 m、狭い所で 3.35 mを測り、ほぼ等間隔に配置される。

中央土坑（3247 土坑）は、建物のほぼ中央に位置する。長軸 1.5 m、短軸 1.4 mの不整円形で、中央部分に砂が堆積するやや小さめの土坑が確認された。掘り直されたものの可能性が高いと考えるが、土坑の周囲を補強するために造成した結果とも考えられ、判然としない。いずれにしても、炉とは考えにくく、その性格については不明である。埋土が砂であったことを勘案すれば、水溜めのような機能があった可能性もある。当建物は前述の竪穴建物 8 同様、砂地に立地しており、中央土坑の性格もその立地と関連があるのかもしれない。

壁溝（3242 溝）は各周壁下において確認された。幅 0.2 ～ 0.35 m、床面からの深さ約 0.1 mを測る。その他に、3250 溝を検出した。当溝は、床面を検出したときには認識できず、加工面まで掘り下げた段階で検出したものである。断面を精査、確認した結果、極めて不明瞭ではあったが、床面まで立ち上がりがあることがわかった。そのため、建物造成時の溝ではなく、建物が機能している段階で掘削された溝と判断されるが、その性格は不明である。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土から出土した遺物について図化し得た（図 180）。弥生土器甕（34・35）・底部（36）・高杯脚部（37）・手焙形土器（38）である。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

なお、竪穴建物 9 では建物に付随すると考えられる周溝及び外周土坑が検出されたので、併せて報告する。建物の四周に、竪穴端部から 1.8 ～ 2.3 m離れた位置で 3228 土坑、3231・3232・3233 溝を検出した（図 179）。これらは、建物の軸と揃い、竪穴からの距離も概ね一致するため、建物の周囲に廻らされたものと判断される。当該期の他例を参考にすれば、竪穴と周溝及び外周土坑の間には、周堤帯が存在していた可能性が高く、周溝等が途切れた位置が入り口部分であったと想定される。各遺構の具体を以下に報告する。

3228 土坑（外周土坑）（図 179・180、写真図版 90-2） 建物の北東辺側に位置する。規模は長径 3.0 m、

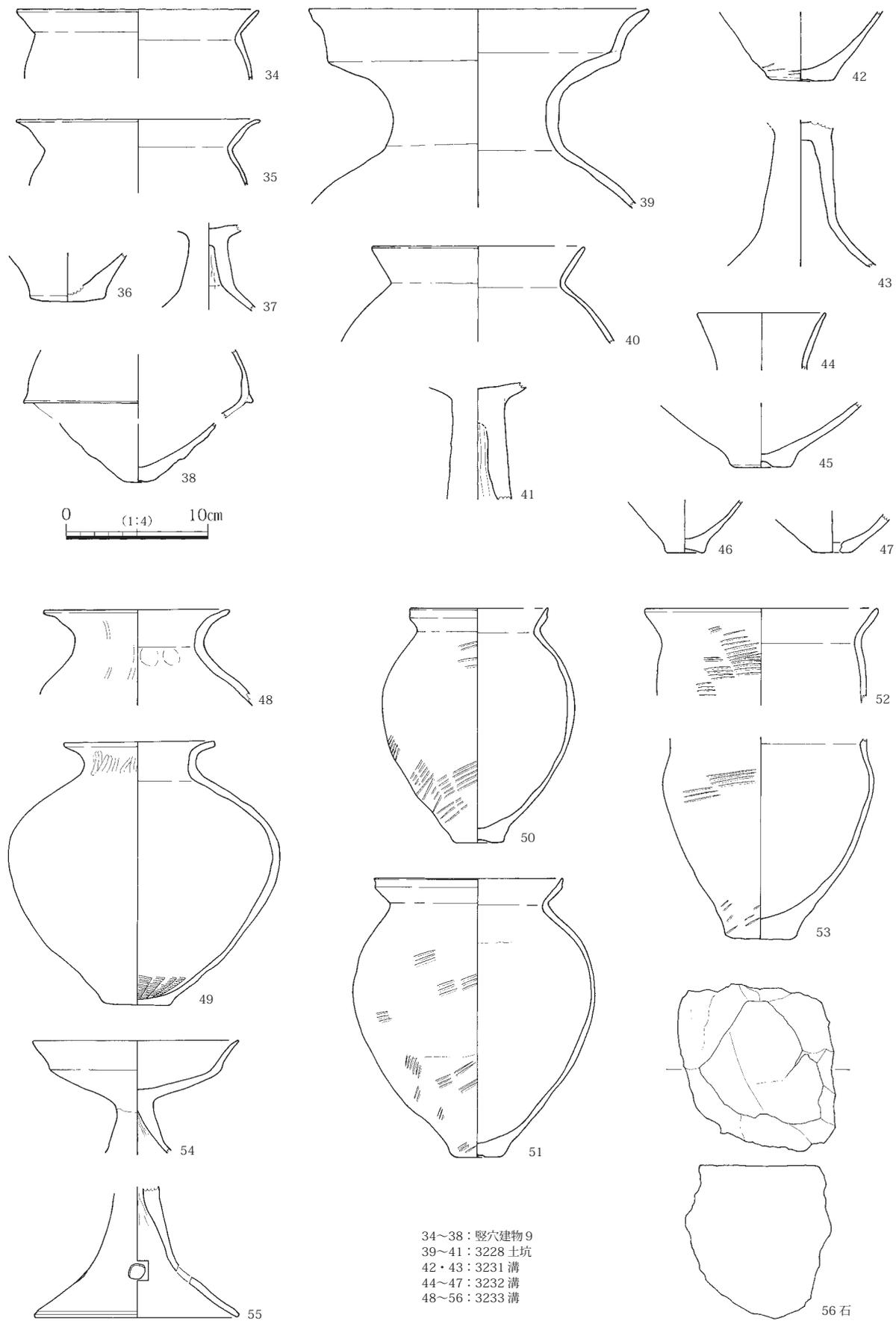


図 180 豎穴建物9及び付随遺構 出土遺物

短径 1.35 m を測り、平面不整楕円形を成す。断面形は椀形で深さ 0.45 m を測る。南西部が後述の 3233 溝へ向かうようにも見えることから、本来は一続きの溝であった可能性がある。埋土中から、弥生土器二重口縁壺 (39)・甕 (40)・高杯脚部 (41) 等が出土している。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断され、竪穴建物 9 の時期と齟齬はない。

3231 溝 (周溝) (図 179・180) 建物の北西辺側に位置する。規模は幅 0.55 m、検出長約 4 m を測る。断面形は逆台形で深さ 0.35 m。埋土中から、弥生土器底部 (42)・高杯脚部 (43) 等が出土している。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断され、竪穴建物 9 の時期と齟齬はない。

3232 溝 (周溝) (図 179・180、写真図版 90-3) 建物の南西辺側に位置する。規模は幅 0.6 m、検出長約 8.3 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.1 m。埋土中から、弥生土器細頸壺か (44)・壺底部 (45)・鉢底部 (46) 有孔鉢底部 (47) 等が出土している。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断され、竪穴建物 9 の時期と齟齬はない。

3233 溝 (周溝) (図 179・180、写真図版 90-1・152・153) 建物の南東辺側に位置する。規模は幅 0.8 m、検出長約 3.1 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.3 m。埋土中から、弥生土器壺 (48・49)・甕 (50～53)・高杯 (54・55)、石製品 (56) 等が出土している。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺

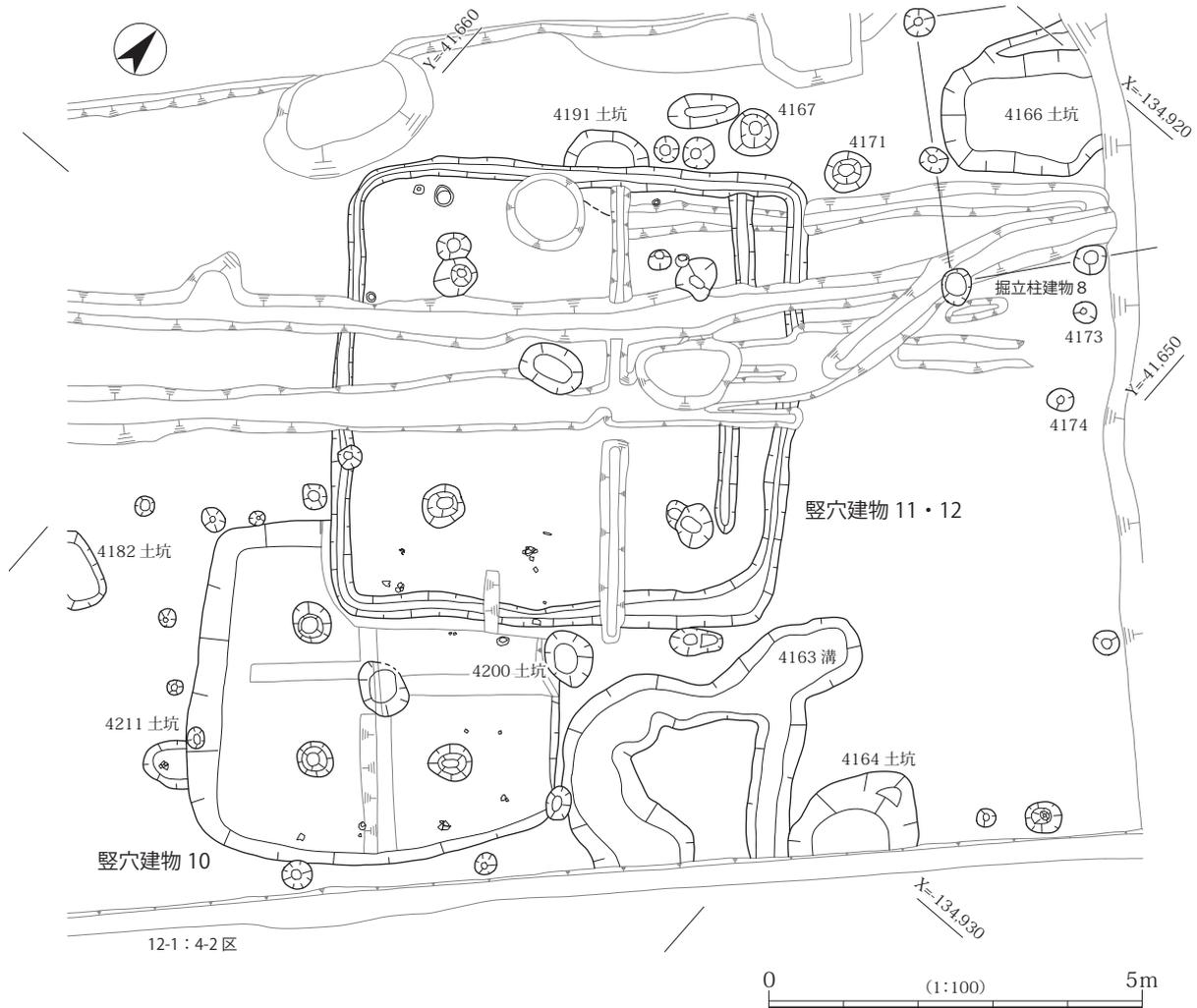
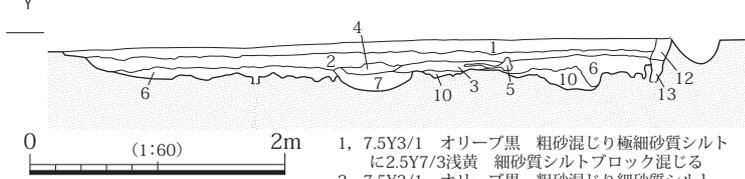
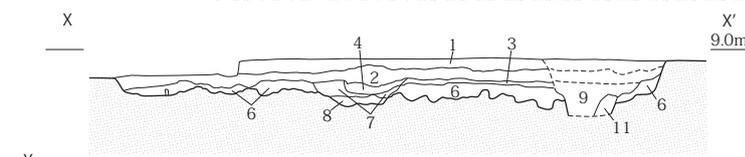
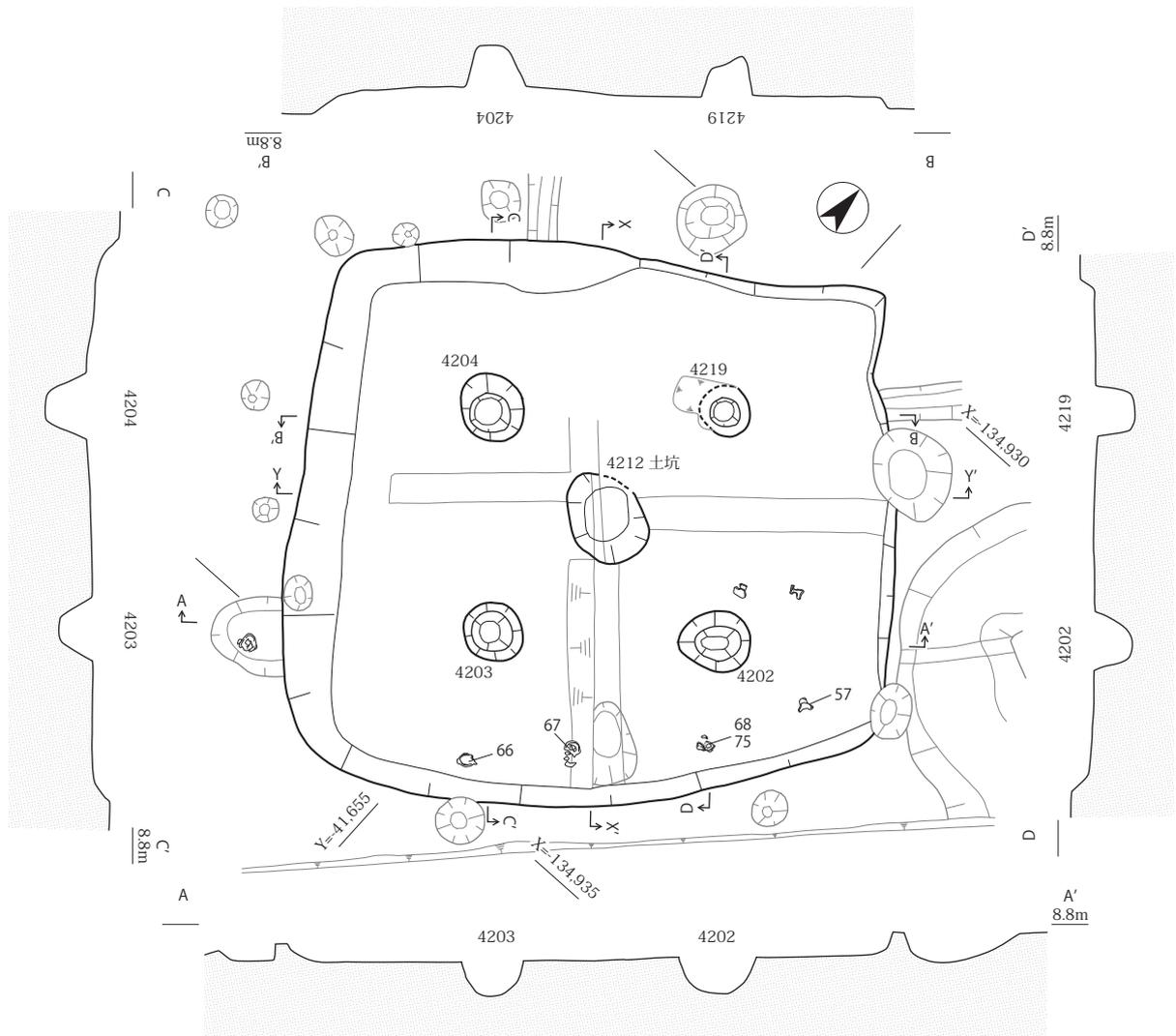


図 181 竪穴建物 10・11・12 平面図



- 4, 10YR3/1 黒褐 細砂質シルト (炭化物混じる) (4212土坑埋土)
- 5, 2.5Y6/2 灰黄 中砂~細砂 (噴砂か)
- 6, 10YR4/1 褐灰 細砂混じりシルトと7.5Y8/1 灰白 中砂~細砂のブロック混合
- 7, 10YR4/1 褐灰 中砂混じり細砂質シルト (4212土坑埋土)
- 8, 10YR4/1 褐灰 粘質シルト、10YR4/1 褐灰 細砂質シルト、2.5Y7/1 灰白 中砂のブロック混合 (4212土坑埋土)
- 9, 10YR4/1 褐灰 中砂混じり極細砂質シルトに2.5Y7/1 灰白 中砂混じる (4222土坑埋土)
- 10, 5Y7/2 灰白 中砂~細砂に10YR4/1 褐灰 中砂質シルトブロック混じる
- 11, 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルトブロックと2.5Y7/1 灰白 中砂ブロック混合 (4222土坑埋土)
- 12, 2.5Y5/1 黄灰 中砂質シルト
- 13, 2.5Y5/1 黄灰 中砂質シルトブロックと2.5Y7/2 灰黄 中砂ブロック混合

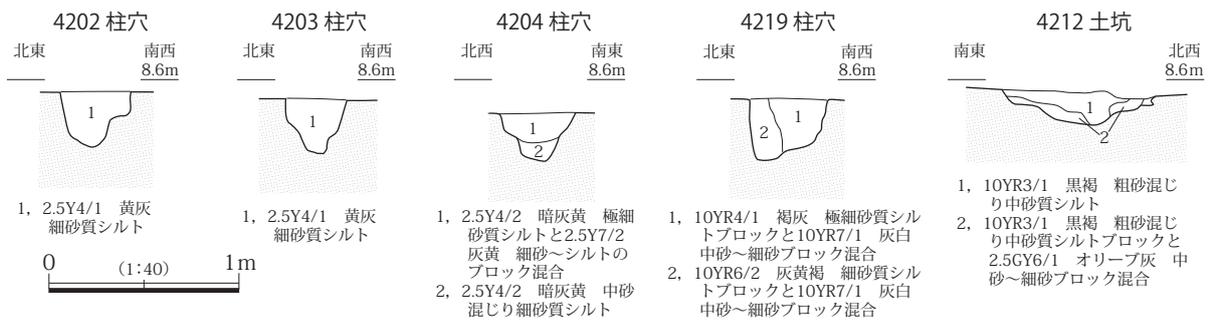


図 182 竪穴建物 10 平面図・断面図

構と判断され、竪穴建物9の時期と齟齬はない。

竪穴建物 10・11・12 (図 166・181、写真図版 83-1・91・92)

12-1:4-2 区において地山上面で検出した。

8055 流路の東岸に位置する。ほぼ同じ場所ではあるが、斜めにやや位置をずらした状態で重複して検出した。平面の精査及び断面の検討から、南側に位置する建物が最も古く、北側に位置する建物に建替えられたことが判明した。さらに北側の建物は、ほぼ同一の場所に建替えられていることが明らかとなった。そこでこれらの建物を、建てられた順に竪穴建物 10、竪穴建物 11、竪穴建物 12 と遺構名を付した。最も古い建物が深く造られており、新しく建替えられたものが浅く造られていた。3 棟の建物が重複し建替えが 2 度行われている状況は、先述した竪穴建物 2・3・4 及び竪穴建物 5・6・7 の状況と同じであり、流路に近接して建物が造られた状況も同じとする。各建物の具体を以下に報告する。

竪穴建物 10 (図 166・181・182・185、写真図版 83-1・91・153・186) 12-1:4-2 区において地山上面で検出した。X=-134,932、Y=-41,655 地点に位置する。

竪穴は、軸を N-40°-W においた平面隅丸方形を成し、長辺 5.0 m、短辺 4.6 m を測る。検出面からおよそ 0.2 m 掘り下げて床面を検出した。床面積は約 23 m² である。

竪穴建物の床面上では、4 基の主柱穴と中央土坑を検出した。

床面は、加工面から 0.1～0.15 m 程度土を入れて造成している。

主柱穴は 4202・4203・4204・4219 柱穴で構成される 4 本柱である。平面円形で径 0.4～0.6 m、深さ 0.25～0.33 m を測り、四角形に配置されている。主柱穴は竪穴の肩口から広い所で 1.5 m、狭い所で 0.9 m の地点にあり、柱間隔は芯々距離で概ね 1.8 m を測る。

中央土坑 (4212 土坑) は、建物のほぼ中央に位置する。長径 0.8 m、短径 0.6 m の平面楕円形を成し、黒褐色砂質シルトを埋土とする。埋土及び形状から炉と考えられる。

なお、当建物では壁溝が検出されなかった。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土から出土した遺物について図化し得た (図 185)。弥生土器壺 (57)・直口壺 (58)・壺頸部 (59)・鉢か (60・75)・壺底部 (61)・甕 (62～72)・高杯 (73)・鉢 (74)、サヌカイト製石鏃 (76) である。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

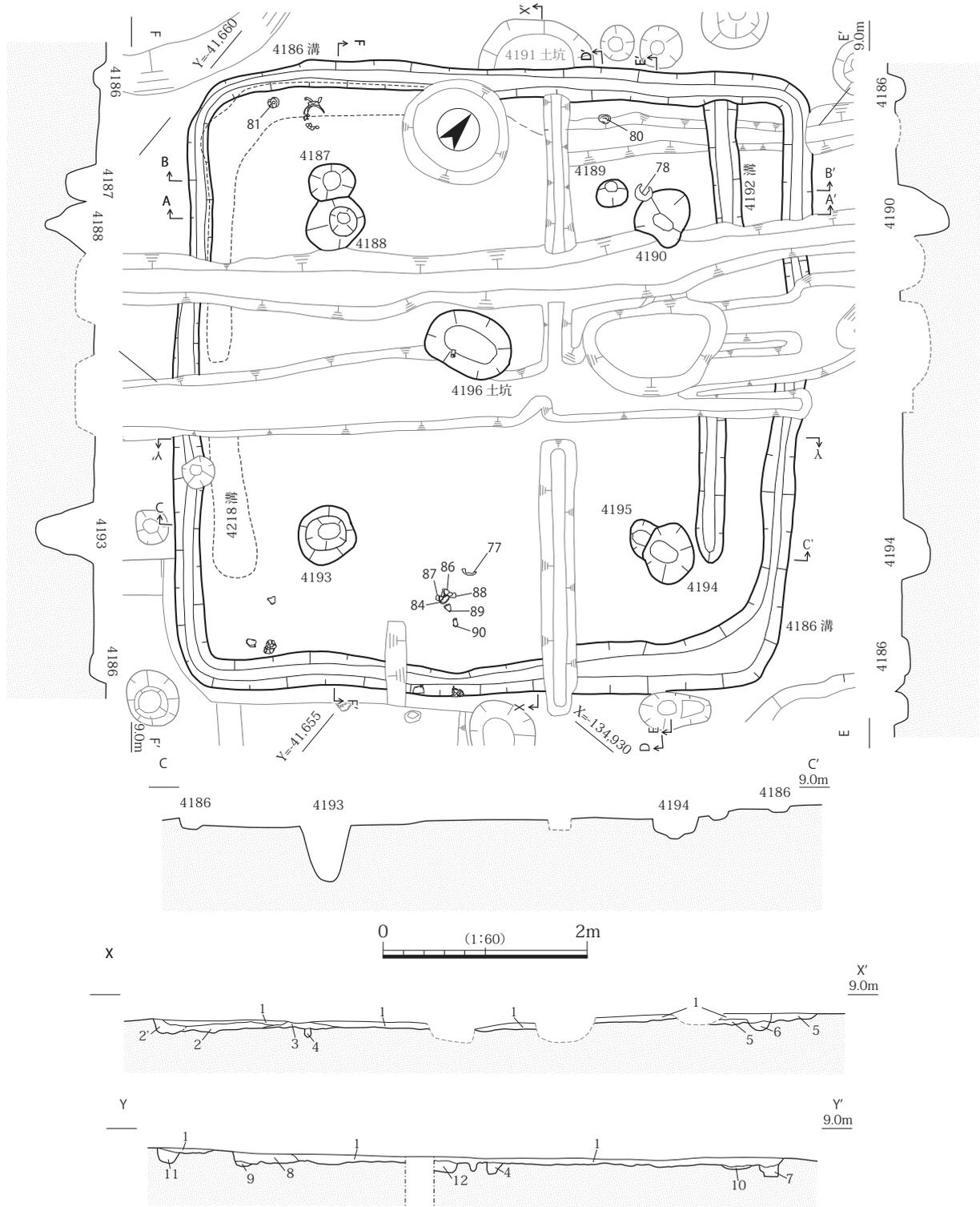
竪穴建物 11 (図 166・181・183・184、写真図版 83-1・92-1・92-3・92-4) 12-1:4-2 区において地山上面で検出した。X=-134,928、Y=-41,656 地点に位置する。

竪穴は、軸を N-38°-W においた平面隅丸方形になると考えられ、一辺 5 m 前後の規模になる可能性が高い。当建物は、後述の竪穴建物 12 に拡張する前の建物と考えられるが、その竪穴建物 12 の影響により壁溝などの遺存状況があまり良くなく、詳細は不明な点が多い。

当建物に伴うと考えられる遺構は、3 基の主柱穴と壁溝が挙げられる。

主柱穴は 4187・4189・4195 柱穴である。なお、もう 1 基は竪穴建物 12 の 4193 柱穴と重複している可能性が高く、本来は 4 本柱であったと考えられる。平面円形で径 0.25～0.45 m、深さ 0.25～0.35 m を測り、やや台形に配置されている。主柱穴の柱間隔は広い所で 3.4 m、狭い所で 2.8 m を測る。

壁溝は、竪穴建物 12 に伴う壁溝と一部重複している可能性があり判然としない。明らかなものについては、北東辺において検出した 4192 溝及び不明瞭ではあるが南西辺において検出した 4218 溝が壁溝になると判断される。また、北西辺については、竪穴建物 12 の壁溝と重複しているものと考えられる。4192 溝は幅 0.25～0.3 m、検出面からの深さ 0.05 m を測る。



- 1, 10YR5/1 褐灰 極粗砂混じり細砂質シルト (竪穴建物12の埋土)
- 2, 2.5Y3/1 黒褐 粗砂混じり細砂質シルトに2.5Y7/4 浅黄 細砂質シルトブロックが若干混じる
- 2', 2.5Y3/1 黒褐 粗砂混じり細砂質シルトに2.5Y7/4 浅黄 細砂質シルトブロックが多く混じる (ブロック5cm大) (4186壁溝埋土)
- 3, 2.5Y7/6 明黄褐 細砂質シルト
- 4, 2.5Y4/1 黄灰 粗砂混じり中砂質シルト
- 5, 10YR4/1 褐灰 粗砂混じり極細砂質シルト (4191土坑埋土)
- 6, 2.5Y4/1 黄灰 粗砂混じり細砂質シルトと2.5Y7/4 浅黄 細砂質シルトブロック混合 (ブロック5cm大) (4186壁溝埋土)
- 7, 10YR5/1 褐灰 細砂質シルトブロックと10YR6/4 にぶい黄橙 細砂質シルトブロック混合 (ブロック5cm大) (4186壁溝埋土)
- 8, 2.5Y4/1 黄灰 中砂混じり極細砂質シルトブロックと2.5Y7/6 明黄褐 極細砂~シルト (地山) ブロックの混合
- 9, 10YR5/1 褐灰 細砂質シルトブロックと2.5Y6/2 灰黄 中砂の混合 (4192溝埋土)
- 10, 10YR4/1 褐灰 粗砂混じり細砂質シルト (4218溝埋土)
- 11, 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂質シルトブロックと2.5Y6/2 灰黄 中砂の混合 (4186壁溝埋土)
- 12, 10YR5/1 褐灰 極細砂質シルトブロックと2.5Y7/3 浅黄 細砂質シルトおよび中砂ブロックの混合 (炉の埋土か?)

図 183 竪穴建物 11・12 平面図・断面図

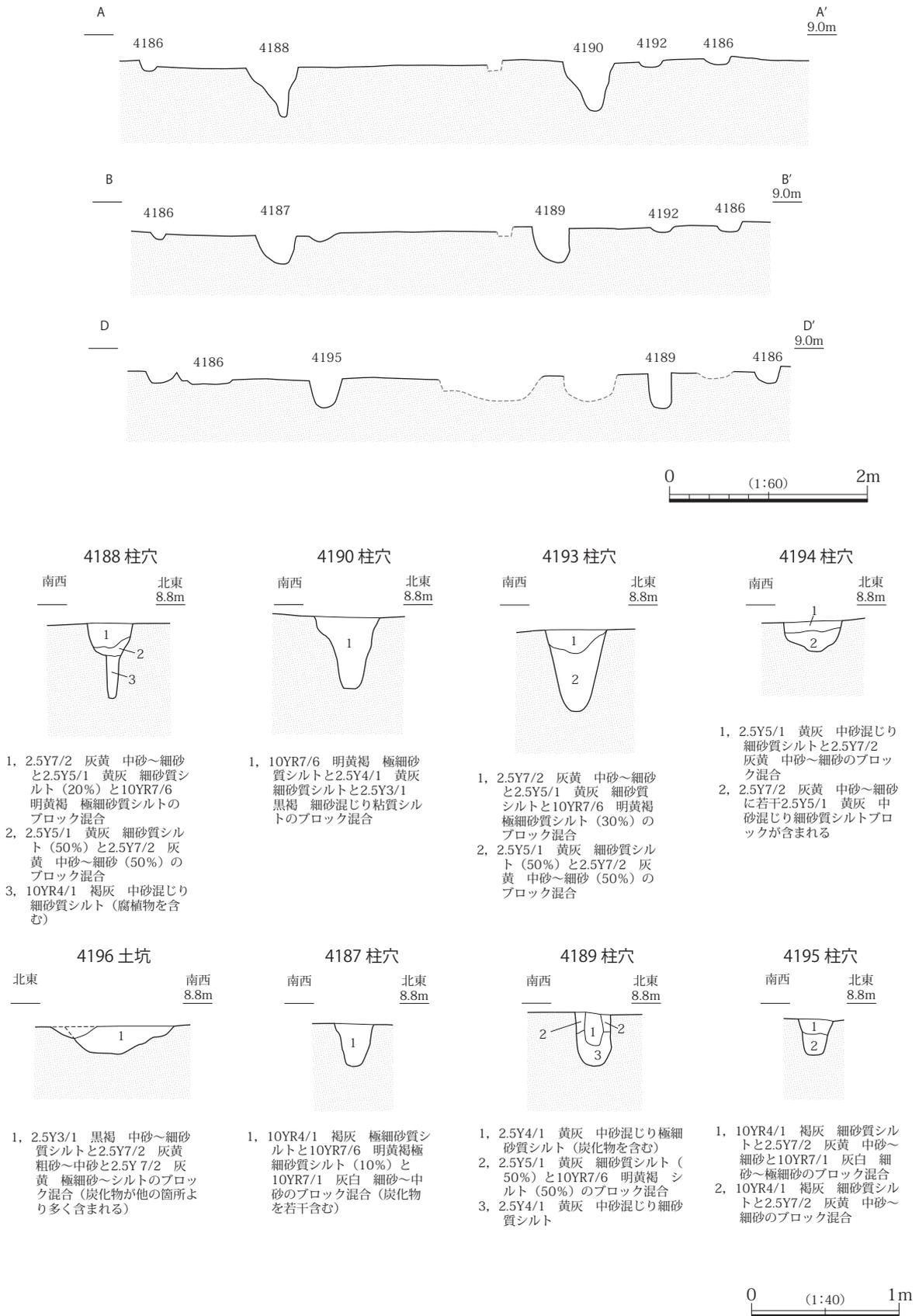


図 184 竪穴建物 11・12 断面図

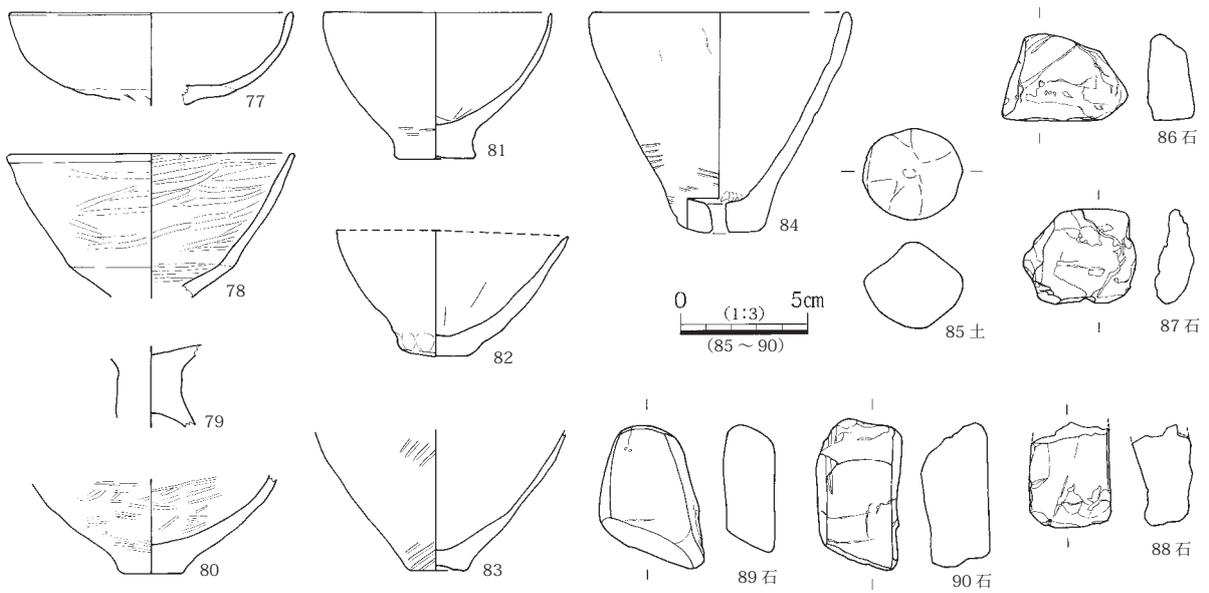
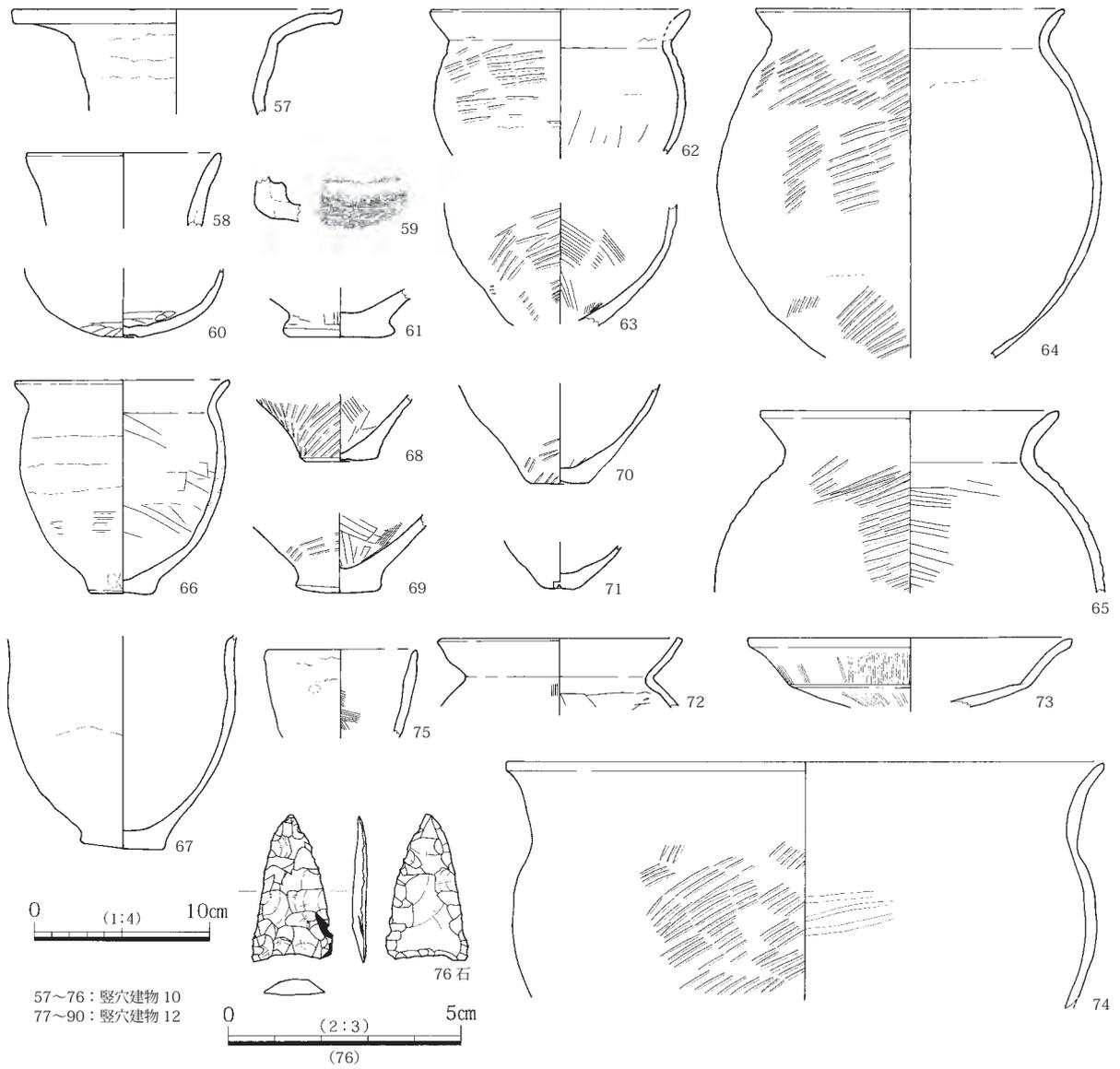


图 185 豎穴建物 10・12 出土遺物

竪穴建物 12 (図 166・181・183～185、写真図版 83-1・92-1・92-2・92-5・152) 12-1:4-2 区において地山上面で検出した。X=-134,928、Y=-41,656 地点に位置する。

竪穴は、軸を N - 38° - W においた平面隅丸方形を成し、長辺 6.2 m、短辺 6.1 m を測る。検出面からおおよそ 0.05 m 掘り下げて床面を検出した。床面積は約 38 m² である。

竪穴建物の床面上では、4 基の支柱穴と中央土坑、壁溝を検出した。

床面は、後世の整地等の影響により、また当建物が砂地の地山上に立地するという点から、判然としないが、加工面をそのまま床面としていた可能性が高い。なお、北東辺の支柱穴と壁溝の間が一段高くなっていることから、建物を建替えるにあたって、竪穴建物 11 に伴う壁溝の 4192 溝を埋めて屋内高床部を造り出していた可能性がある。

支柱穴は 4188・4190・4193・4194 柱穴である。平面円形で径 0.5～0.6 m、深さ 0.2～0.55 m を測り、四角形に配置されている。支柱穴は壁溝の内肩から広い所で 1.1 m、狭い所で 0.6 m の地点にあり、柱間隔は芯々距離で概ね 3.3 m を測る。

中央土坑 (4196 土坑) は、建物の中央やや西寄りに位置する。長径 0.85 m、短径 0.6 m の平面楕円形で、炭化物を含む黒褐色砂質シルトを埋土とする。埋土及び形状から炉と考えられる。

壁溝 (4186 溝) は、各周壁下において確認された。幅 0.2～0.6 m、床面からの深さ約 0.1 m を測り、東隅部がやや幅広くなっている。なお、北東辺の壁溝の底面は他に比べて高い位置にある。このことから、前述した屋内高床部が造り出されていた蓋然性が高くなる。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土及び床面上から出土した遺物について図化し得た (図 185)。弥生土器高杯 (77～79)・鉢 (80～83)・有孔鉢 (84)・土製品 (85)・自然石 (86～90) である。このうち、有孔鉢 (84) は一所に集められた自然石の上に載せられた状態で出土した。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

竪穴建物 13 (図 166・186・187・188・191、写真図版 83-2・83-3・93-1・153・189) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。X=-134,856、Y=-41,594 地点に位置する。5916 流路の東岸において検出した建物群のうち、南西側に位置するものである。

竪穴は、後世の遺構による削平や南東部が調査区外になるため、全容は明らかでないが、概ね軸を N - 28° - E においた平面隅丸台形を成すものと考えられる。規模は長辺 8.0 m、短辺 5.3 m 以上を測る。検出面において、壁溝埋土及び屋内高床部が露出しており、中央部分においておおよそ 0.1 m 掘り下げて床面を検出した。

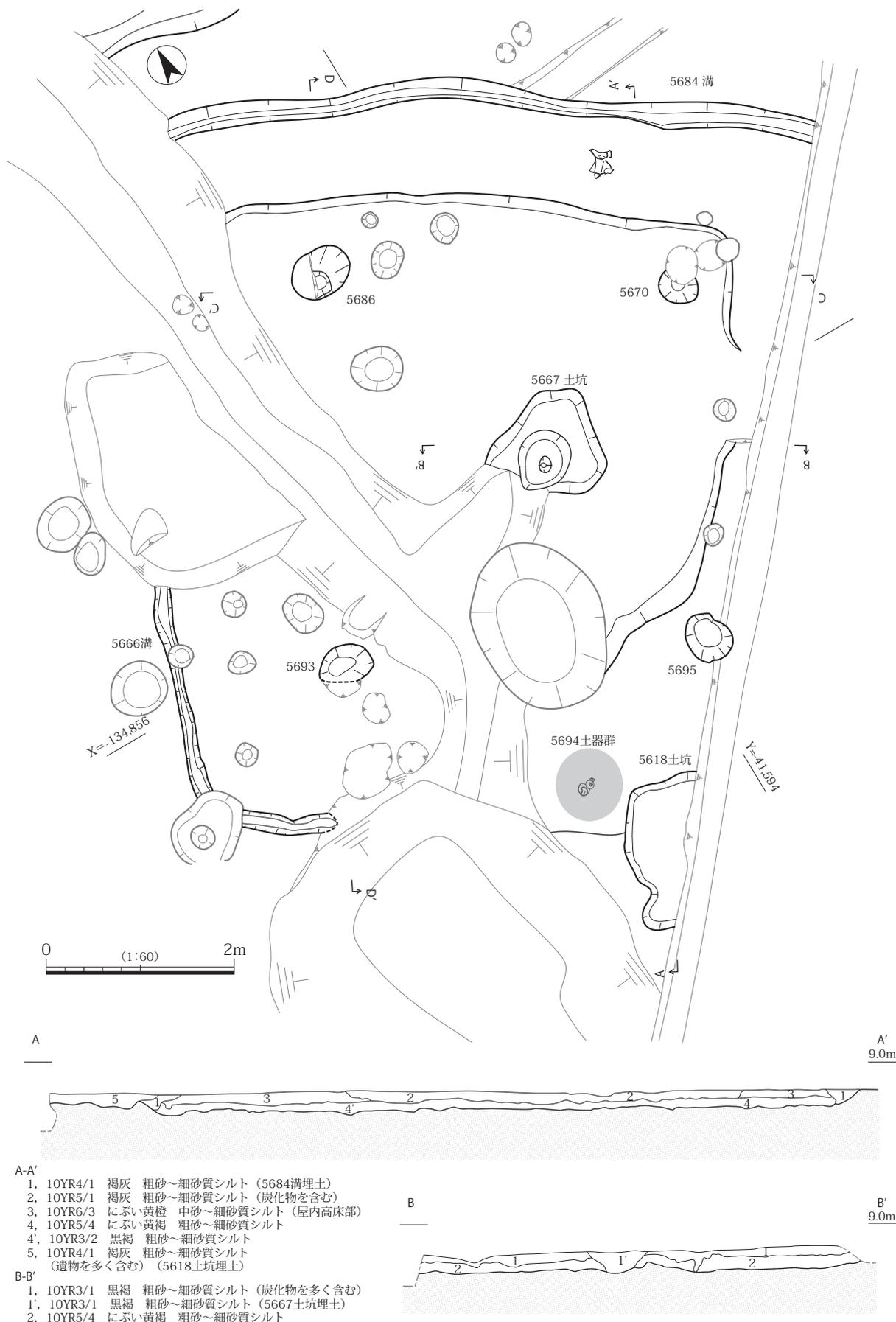
竪穴建物の床面上では、4 基の支柱穴と中央土坑、壁溝、屋内高床部、5694 土器群を検出した。

床面は、加工面から 0.1 m 程度土を入れて造成し、さらに四周に盛土をして屋内高床部を造り出しているようである。

支柱穴は 5670・5686・5693・5695 柱穴で構成される 4 本柱である。平面円形で径 0.4～0.65 m、深さ 0.45～0.5 m を測り、四角形に配置されている。支柱穴は壁溝の内肩からおおよそ 1.5 m の地点にあり、柱間隔は広い所で 4.1 m、狭い所で 3.8 m を測る。

中央土坑 (5667 土坑) は、建物のほぼ中央に位置する。長軸 1.1 m を測る平面不整形円形で、黒褐色砂質シルトを埋土とする。埋土及び形状から炉と考えられる。

壁溝 (5666 溝・5684 溝) は、調査区外となる南東辺を除く各周壁下において確認された。幅 0.1～0.3 m、床面からの深さ約 0.15 m を測る。



- A-A'
- 1, 10YR4/1 褐灰 粗砂～細砂質シルト (5684溝埋土)
 - 2, 10YR5/1 褐灰 粗砂～細砂質シルト (炭化物を含む)
 - 3, 10YR6/3 にぶい黄橙 中砂～細砂質シルト (屋内高床部)
 - 4, 10YR5/4 にぶい黄褐 粗砂～細砂質シルト
 - 4', 10YR3/2 黒褐 粗砂～細砂質シルト
 - 5, 10YR4/1 褐灰 粗砂～細砂質シルト (遺物を多く含む) (5618土坑埋土)
- B-B'
- 1, 10YR3/1 黒褐 粗砂～細砂質シルト (炭化物を多く含む)
 - 1', 10YR3/1 黒褐 粗砂～細砂質シルト (5667土坑埋土)
 - 2, 10YR5/4 にぶい黄褐 粗砂～細砂質シルト

図 186 竪穴建物 13 平面図・断面図

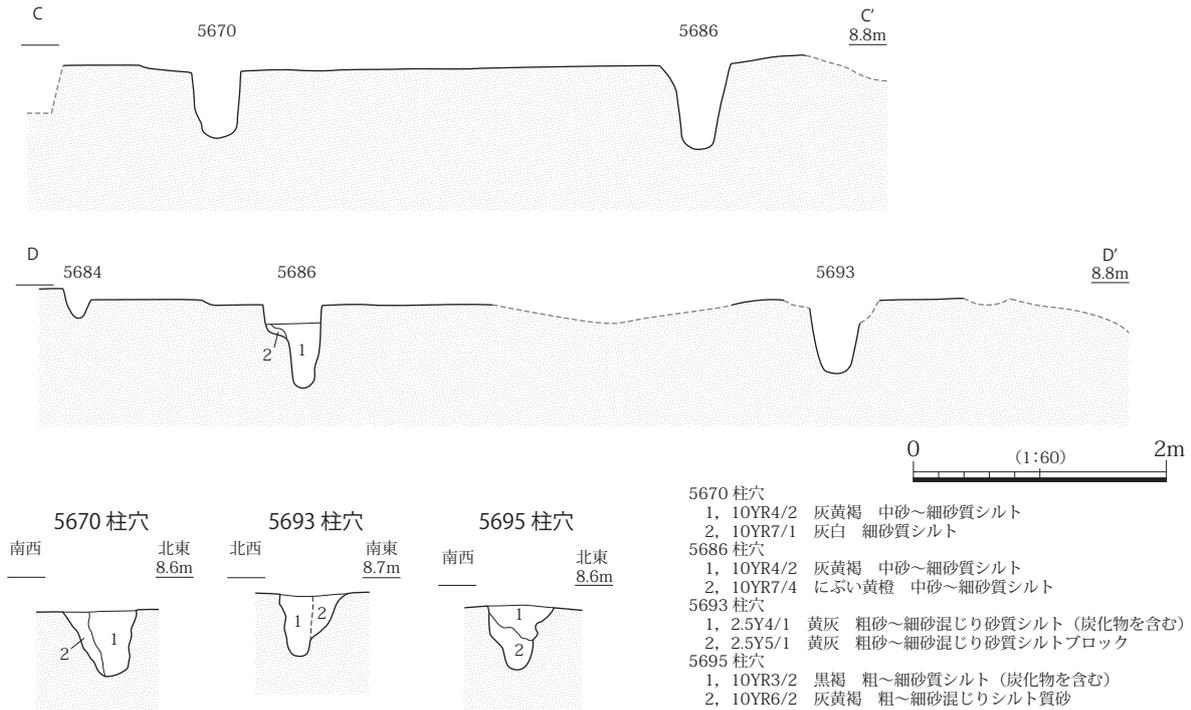


図 187 竪穴建物 13 断面図

屋内高床部は、南西隅部の状況が判然としないが、支柱穴と壁溝の間の四周に造り出されていたものと考えられる。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土及び床面上、5694 土器群から出土した遺物について図化し得た (図 188)。竪穴埋土及び床面上では、弥生土器広口壺 (91・92)・複合口縁壺 (93)・壺底部 (94)・甕 (95)・鉢 (98・101)・底部 (96・97)・高杯 (99・100)・器台 (102・103)、敲き石 (104) 等が出土している。竪穴建物の南部で見つかった 5694 土器群では、弥生土器直口壺 (105)・二重口縁壺 (106)・甕もしくは鉢 (107)・高杯か (108)・鉢 (109) 等が出土している。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

なお、竪穴建物 13 では建物に付随すると考えられる周溝が検出されたので併せて報告する。建物の北東辺において、竪穴端部から約 2.4 m 離れた位置で、5615 溝を検出した (図 191)。建物の北東辺に平行することから建物の周囲に廻らされた周溝の可能性が高いと判断したものである。当該期の他例を参考にすれば、竪穴と周溝の間には、周堤帯が存在していた可能性が高い。溝の具体を以下に報告する。

5615 溝 (周溝) (図 188・191) 建物の北東辺側に位置する。規模は幅 1.8～2.8 m、検出長約 8.2 m を測る。断面形は椀形で深さ約 2.1 m を測る。埋土中から、弥生土器広口壺 (110)・壺 (111)・甕 (112)・高杯 (113～116)・鉢 (117) 等が出土している。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断され、竪穴建物 13 の時期と齟齬はない。

竪穴建物 14 (図 166・189・191・192、写真図版 83-2・83-3・93-2・153) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。X=-134,840、Y=-41,593 地点に位置する。5916 流路の東岸において検出した建物群のうち、北西側に位置するものである。

竪穴は、西部が攪乱及び調査区外になるため全容は明らかでないが、概ねその様相を知ることができた。検出した部分の平面形及び規模は、軸を N-37°-E においた平面方形を成すものと考えられ、

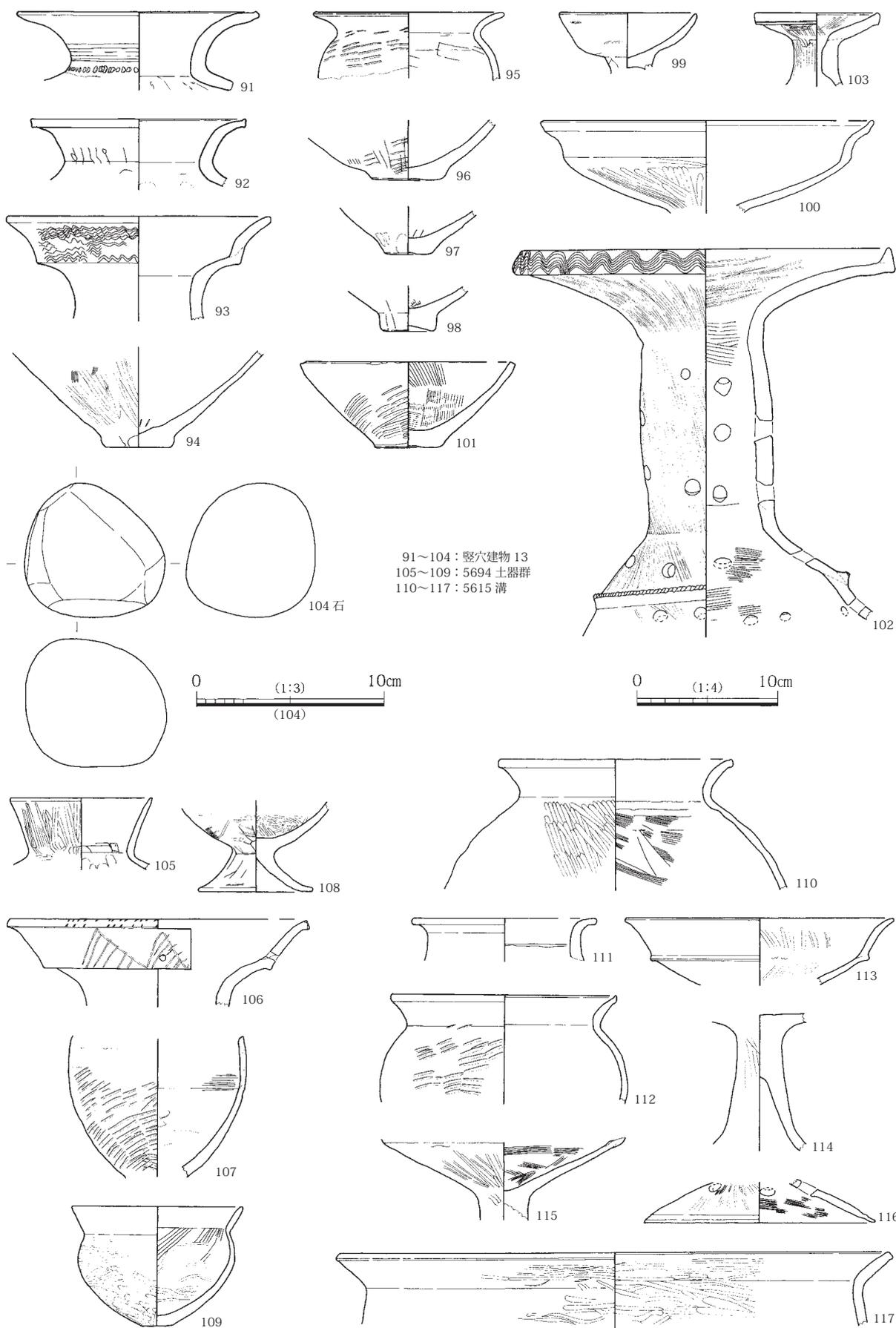


图 188 豎穴建物 13 及び付随遺構 出土遺物

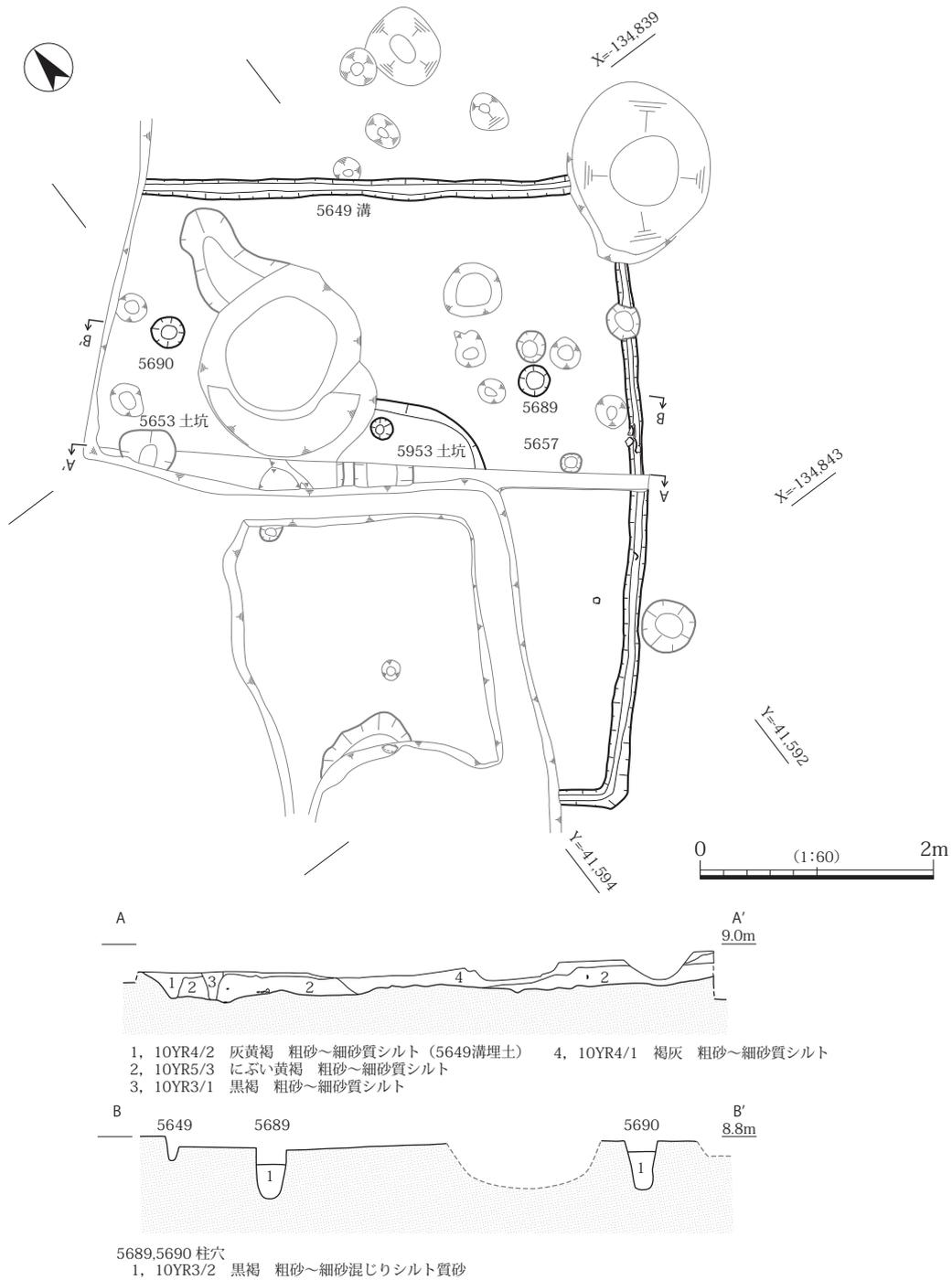


図 189 竪穴建物 14 平面図・断面図

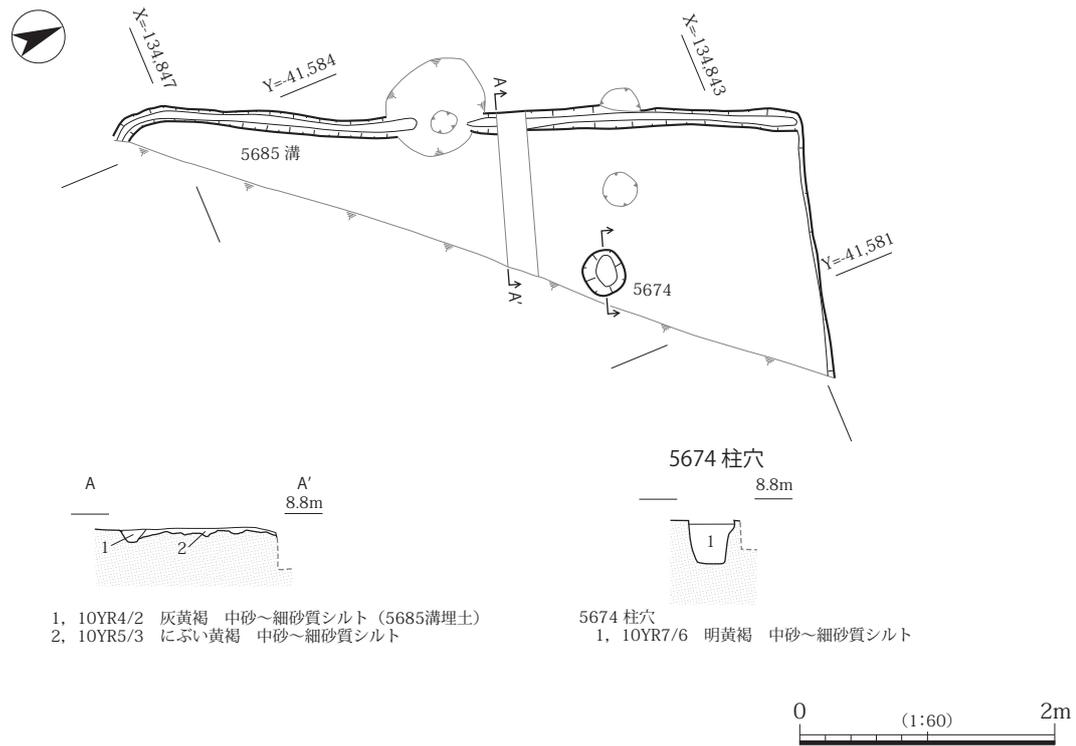
一辺 5.5 mを測る。

竪穴建物の床面上では、2基の主柱穴と中央土坑、壁溝を検出した。

床面は、加工面から 0.15 m程度土を入れて造成しているようである。

主柱穴は 5689・5690 柱穴を検出したが、本来は 4本柱になるものと考えられる。平面円形で径 0.25～0.3 m、深さ 0.4～0.45 mを測る。主柱穴は壁溝の内肩から 0.65～1.45 mの地点にあり、柱間隔は芯々距離で 3.2 mを測る。

中央土坑 (5953 土坑) は、建物のほぼ中央に位置するが、攪乱のため全容は明らかでない。



1, 10YR4/2 灰黄褐 中砂～細砂質シルト (5685溝埋土)
2, 10YR5/3 にぶい黄褐 中砂～細砂質シルト

5674 柱穴
1, 10YR7/6 明黄褐 中砂～細砂質シルト

図 190 竪穴建物 15 平面図・断面図

壁溝 (5649 溝) は、北東辺及び南東辺、北西辺の一部において確認された。幅 0.1 ～ 0.2 m、床面からの深さおよそ 0.17 m を測る。

当建物に関連する遺物のうち、竪穴埋土から出土した遺物について図化し得た (図 192)。弥生土器小型壺 (118)・甕 (119)・甕口縁部か (120)・鉢 (121) である。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

竪穴建物 15 (図 166・190・191・192、写真図版 83-2・83-3・93-3) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。X=-134,845、Y=-41,582 地点に位置する。5916 流路の東岸において検出した建物群のうち、東側に位置するものである。

竪穴は、南東部の大半が調査区外になるため全容は明らかでないが、検出した部分の平面形及び規模は軸を N-17°-E においた平面隅丸方形を成すものと考えられ、一辺約 5.5 m を測る。

竪穴建物の床面上では、1 基の支柱穴と壁溝を検出した。

床面は、地山上面を検出した段階で壁溝が検出されていることから遺存していないと考えられるが、加工面に土を入れて造成されたものであった可能性が高い。

支柱穴は 5674 柱穴である。平面円形で径 0.35 m、深さ 0.35 m を測る。支柱穴は壁溝の内肩から 0.95 ～ 1.5 m の地点にある。

壁溝 (5685 溝) は北西辺において確認された。幅 0.1 ～ 0.2 m、検出面からの深さ約 0.1 m を測る。

出土遺物はなく帰属時期は不明であるが、後述の当建物に伴う周溝から出土した遺物の時期を勘案すれば、弥生時代後期後半に属する可能性が高い。

竪穴建物 15 では建物に付随すると考えられる周溝が検出されたので併せて報告する。建物の北東辺及び北西辺において、竪穴端部から約 2.3 m 離れた位置で、5629・5651 溝を検出した (図 191)。建物

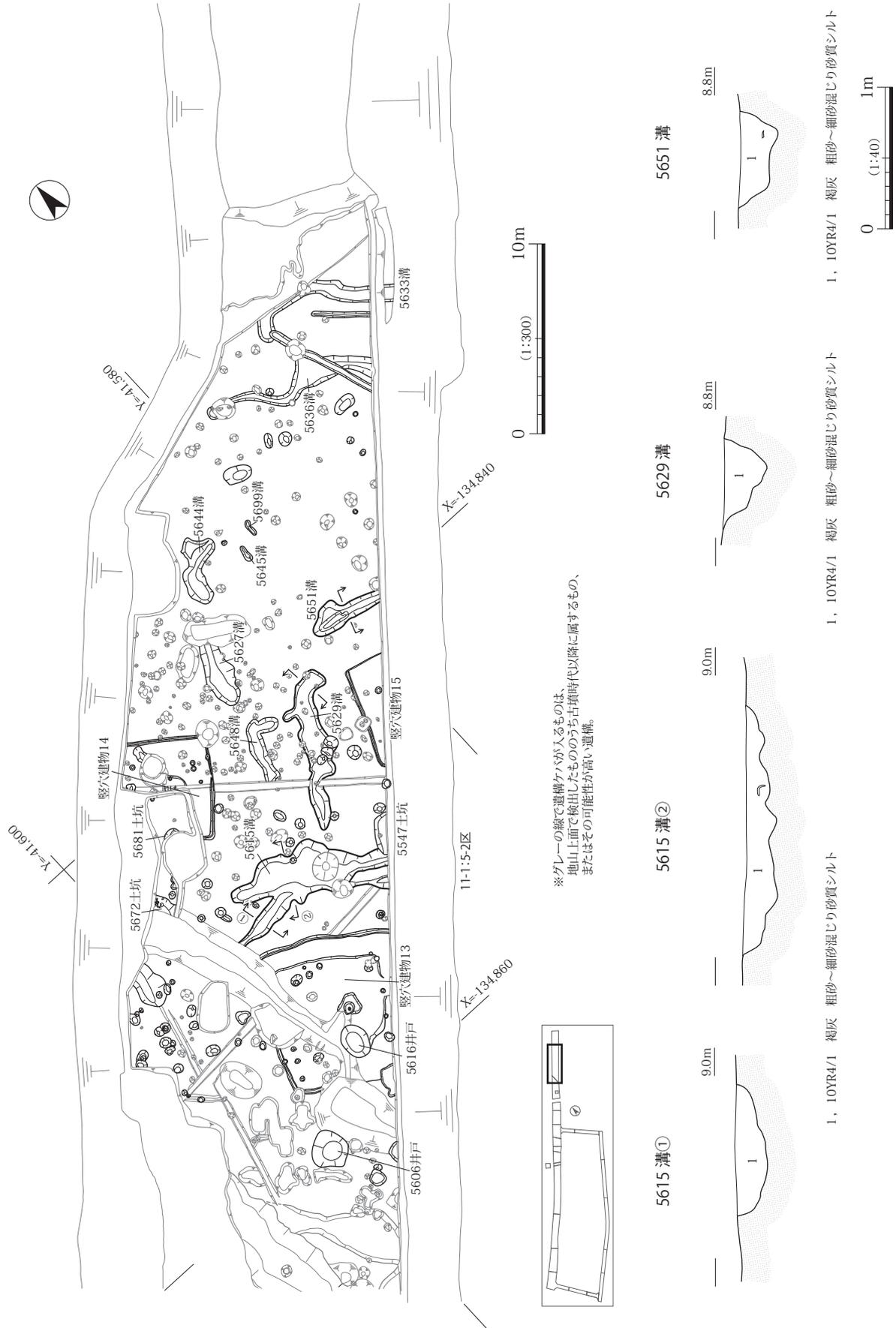


図 191 竪穴建物 13～15 付随遺構ほか 平面図・断面図

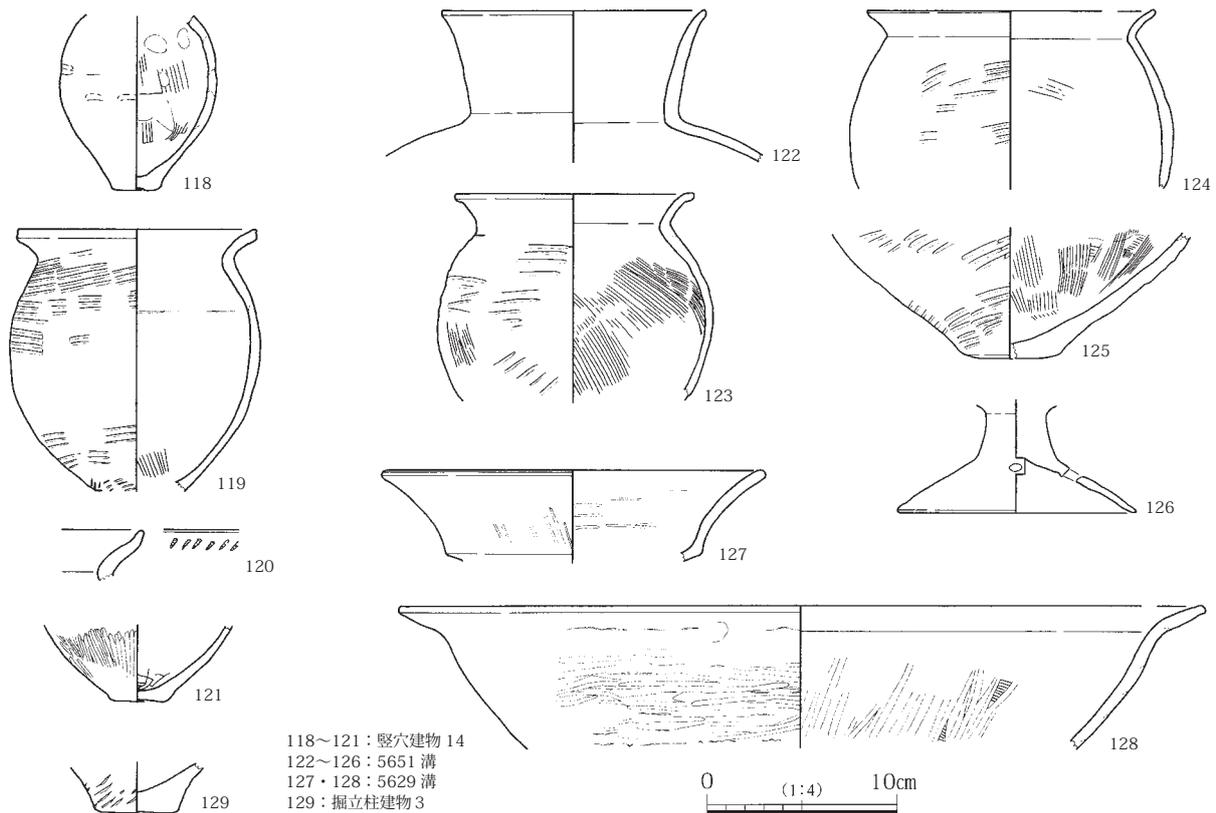


図 192 竪穴建物 14、竪穴建物 15 付随遺構、掘立柱建物 3 出土遺物

の北東・北西辺に平行し囲むように配されることから、建物の周囲に廻らされた周溝の可能性が高いと判断したものである。当該期の他例を参考にすれば、竪穴と周溝の間には、周堤帯が存在していた可能性が高い。溝の具体を以下に報告する。

5629 溝（周溝）（図 191・192） 建物の北西辺側に位置する。規模は幅 1.1～1.4 m、検出長約 8.4 m を測る。断面形は椀形で深さ約 0.3 m を測る。埋土中から、弥生土器高杯（127）・鉢（128）が出土した。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断される。

5651 溝（周溝）（図 191・192） 建物の北東辺側に位置する。規模は幅 0.8～1.6 m、検出長約 4 m を測る。断面形は逆台形で深さ約 0.2 m を測る。埋土中から、弥生土器直口壺（122）・甕（123～125）・高杯（126）が出土した。出土遺物から弥生時代後期後半に属する遺構と判断される。

2. 掘立柱建物

当該期に属する掘立柱建物を 8 棟分検出した。南トレンチの 10-1:4-3 区、10-1:4-4 区、11-1:7 区において 4 棟、北トレンチの 12-1:3-9 区、11-1:3-3 区、12-1:4-2 区、11-1:4-1 区において 4 棟検出した。床面積は 3～19 m² になり、建物の規模に差が認められる。構造は、詳細が判明したものについては 2 間×3 間の規模のものを最大とし、1 間×3 間、1 間×2 間、1 間×1 間の規模のものがある。柱穴から時期の判明する遺物が出土した建物は少なく、建物の時期を明確にはし難いが、検出面や竪穴建物に近接して建てられている状況から類推して、当該期に位置付けたものがある。

掘立柱建物 1（図 166・193、写真図版 94-1・94-2） 10-1:4-3 区において地山上面で検出した。

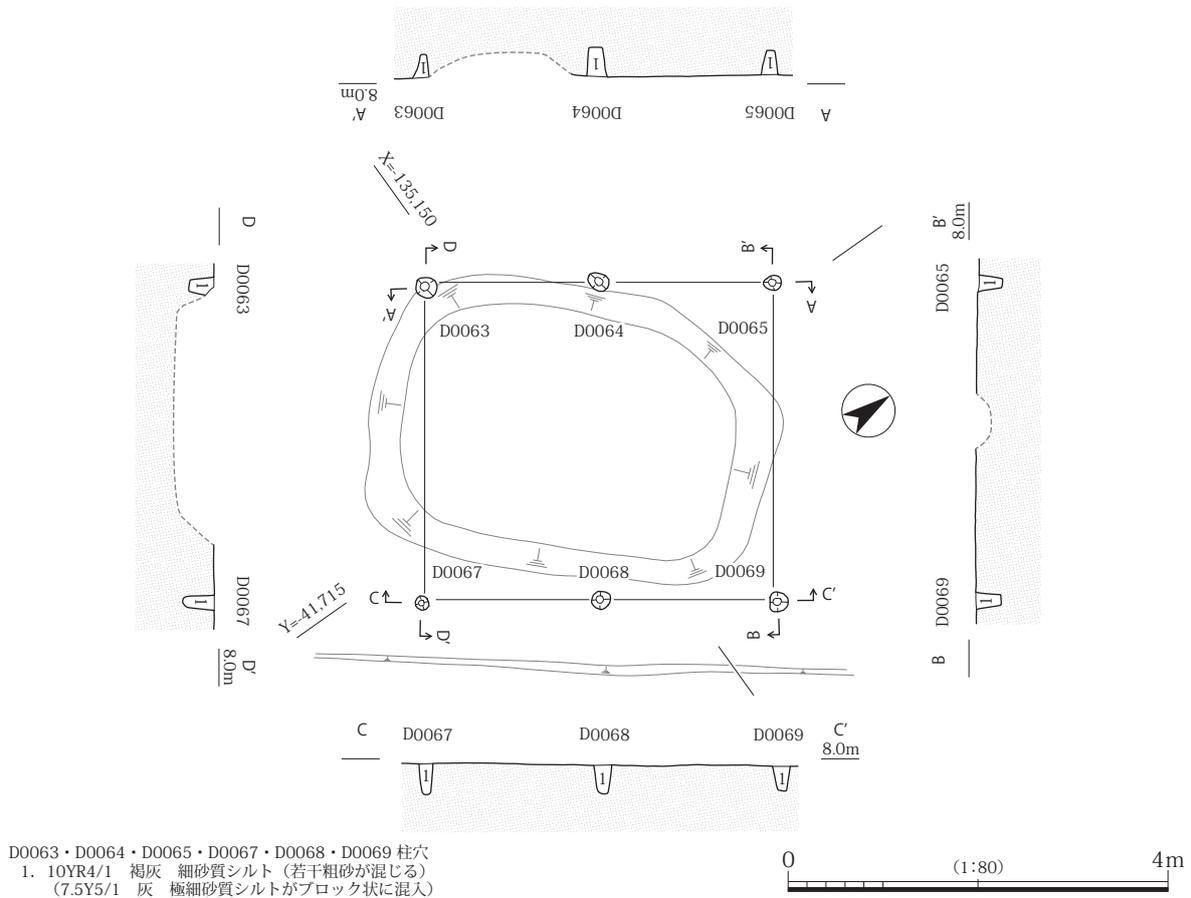


図 193 掘立柱建物 1 平面図・断面図

X=-135, 150、Y=-41, 715 地点に位置する。D0158 流路の南西約 50 m のところに当たる。

構造は D0063・D0064・D0065・D0067・D0068・D0069 柱穴で構成される桁行 2 間、梁行 1 間の柱配置をとる平面長方形の建物である。長軸を N-34°-E におく。建物規模は 3.76 m × 3.4 m を測り、面積は約 12.8 m² である。柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が 1.8 ~ 1.9 m、梁行側が 3.4 m を測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径 0.15 ~ 0.2 m、深さ 0.25 ~ 0.32 m を測る。

D0065 柱穴からわずかに土器の細片が出土しているが、帰属時期は不明である。検出面が地山上面であること及び付近の土坑・包含層から弥生土器の破片が出土していることから、弥生時代に属する可能性が高いと判断した。

掘立柱建物 2 (図 166・194、写真図版 94-3) 10-1:4-4 区・11-1:7 区において地山上面で検出した。

X=-135, 061、Y=-41, 649 地点に位置する。竪穴建物 7 の北東方約 10 m にある。

構造は、D0223・7102・7104・7107・7108・7136・7191・7203 柱穴で構成される桁行 3 間、梁行 1 間の柱配置をとる平面長方形の建物である。長軸を N-80°-E におく。建物規模は 3.76 m × 3.15 m を測り、面積は約 11.8 m² である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が 1.2 ~ 1.25 m、梁行側が 3.1 ~ 3.15 m を測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.2 ~ 0.3 m を測る。

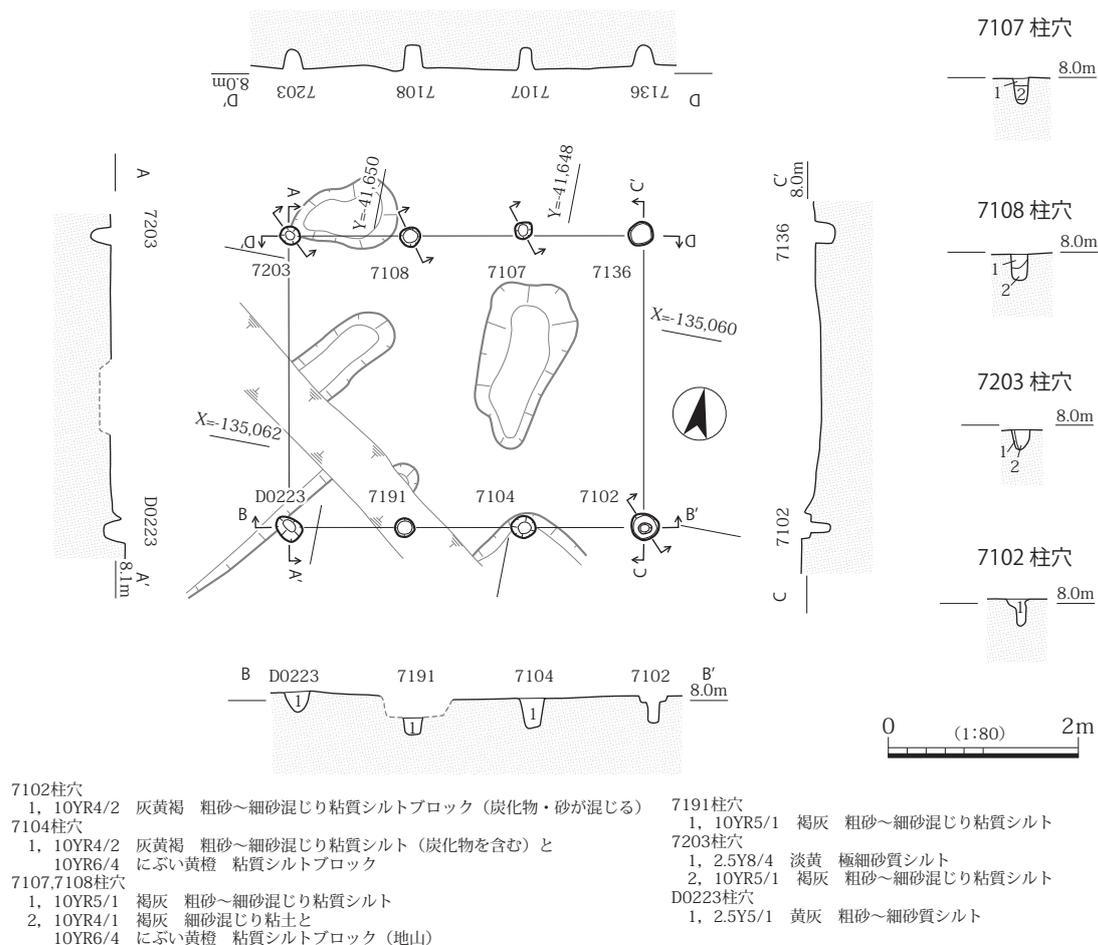


図 194 掘立柱建物 2 平面図・断面図

柱穴からの出土遺物がないため帰属時期は不明である。検出面及び竪穴建物 6・7 と近接して概ね軸を同じくしている関係から弥生時代に属す可能性が高いと判断した。

掘立柱建物 3 (図 166・192・195、写真図版 95-1) 11-1:7 区において地山上面で検出した。X=-135,032、Y=-41,625 地点に位置する。前述の掘立柱建物 2 の北東方約 35 m にある。

構造は 7165・7169・7172・7176・7195・7202 柱穴で構成される桁行 2 間、梁行 1 間の柱配置をとる平面長方形の建物である。長軸を N-8°-E におく。建物規模は 2.9 m × 2.4 m を測り、面積は約 7 m² である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が 1.4～1.5 m、梁行側が 2.3～2.4 m を測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径 0.2～0.25 m、深さ 0.1～0.35 m を測る。

7169 柱穴から弥生土器甕底部 (129) が出土した。また、7172 柱穴からも図化し得なかったが弥生土器と考えられる細片が出土している。出土遺物及び検出面の状況から弥生時代後期後半に属する遺構と判断する。

掘立柱建物 4 (図 166・195、写真図版 95-1) 11-1:7 区において地山上面で検出した。X=-135,029、Y=-41,626 地点に位置する。前述の掘立柱建物 3 と隅部が重複する。

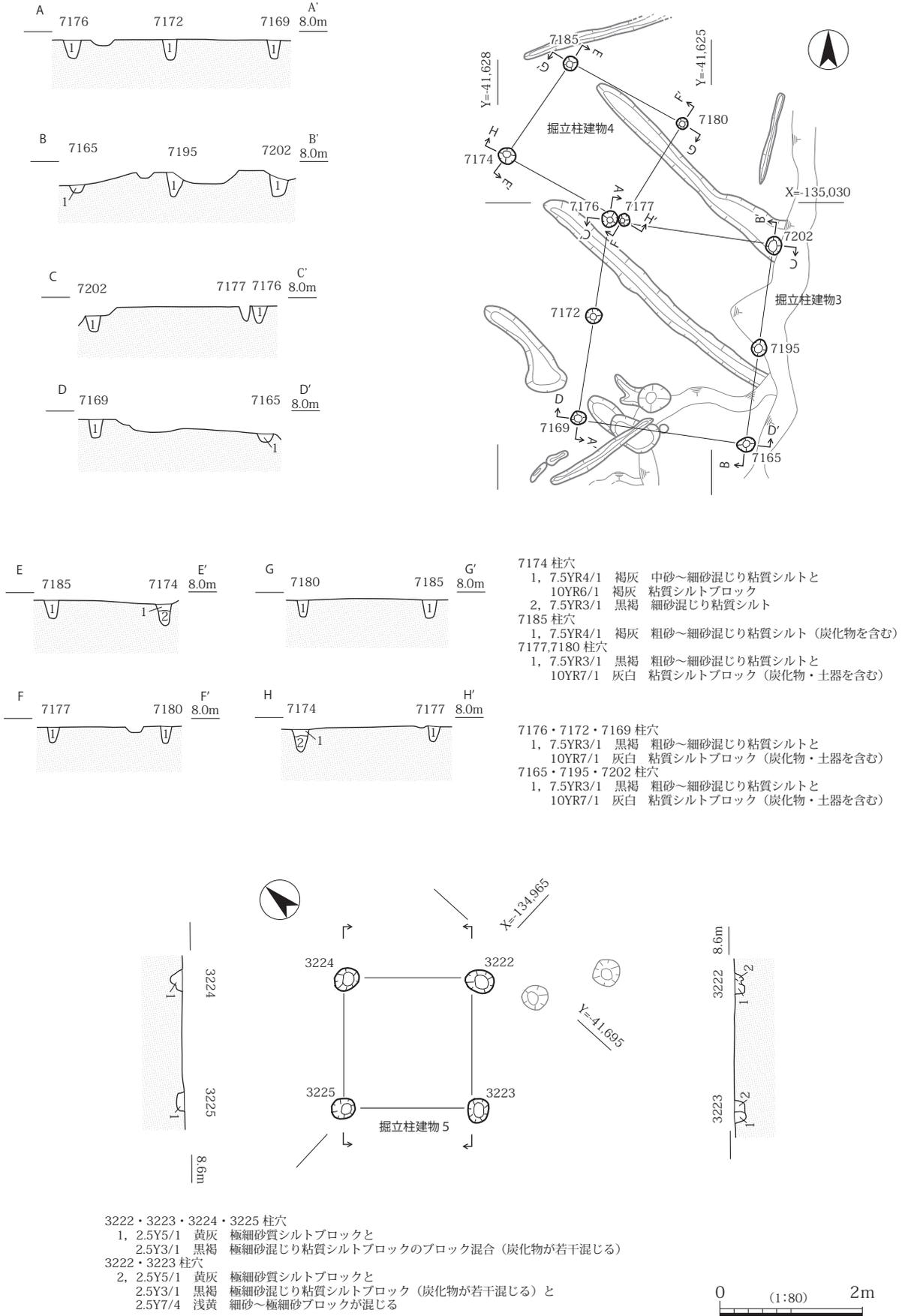
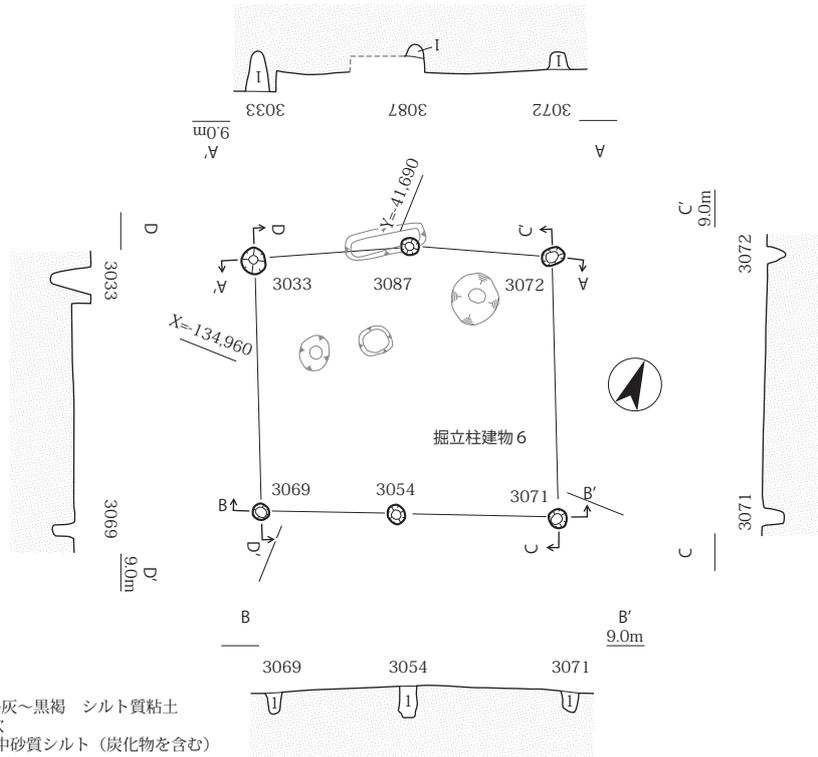
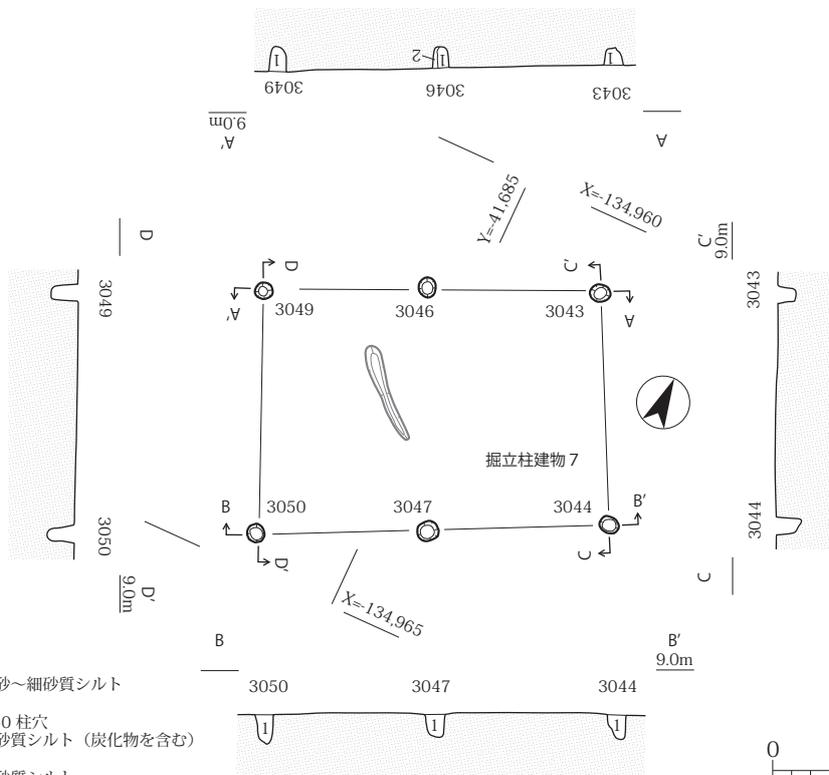


図195 掘立柱建物3・4・5 平面図・断面図



- 3033 柱穴
 1. 10YR4/1~3/1 褐灰~黒褐 シルト質粘土
 3069・3054・3071 柱穴
 1. 7.5YR4/1 褐灰 中砂質シルト (炭化物を含む)
 3072 柱穴
 1. 10YR7/1 灰白 中砂質シルト (炭化物を含む)
 3087 柱穴
 1. 10YR5/1 褐灰 中砂質シルト (炭化物を含む)



- 3043 柱穴
 1. 10YR4/1 褐灰 粗砂~細砂質シルト (炭化物を含む)
 3044・3049・3047・3050 柱穴
 1. 10YR4/1 褐灰 中砂質シルト (炭化物を含む)
 3046 柱穴
 1. 10YR4/1 褐灰 中砂質シルト
 2. 10YR7/1 灰白 砂質シルト



図 196 掘立柱建物 6・7 平面図・断面図

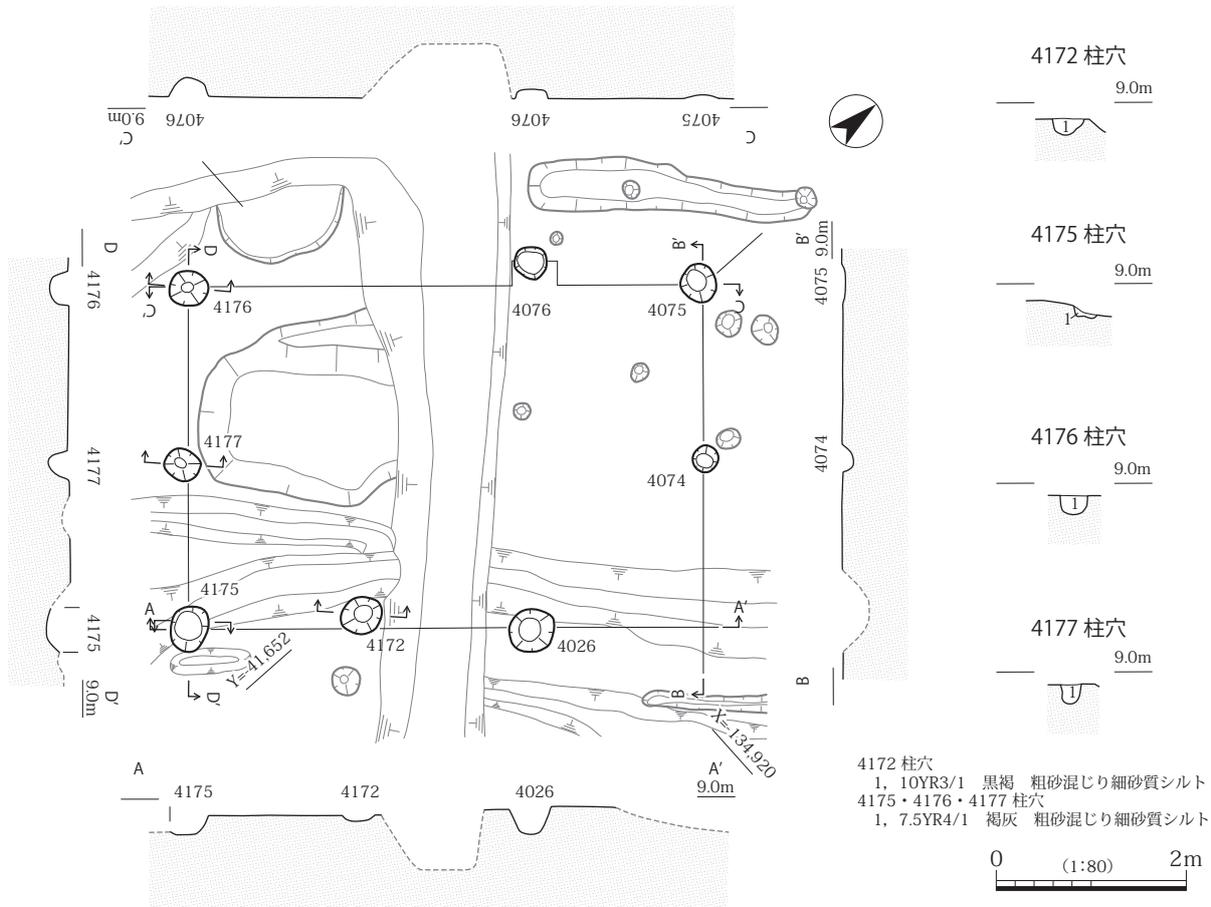


図 197 掘立柱建物 8 平面図・断面図

構造は 7174・7177・7180・7185 柱穴で構成される 1 間×1 間の柱配置をとる平面方形の建物である。長軸を N-58°-W におく。建物規模は 1.9 m×1.6 m を測り、面積は約 3 m² である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、北東-南西軸側が 1.6 m、北西-南東軸側が 1.8~1.9 m を測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径 0.15~0.25 m、深さは 0.2~0.3 m を測る。

図化し得なかったが 7177 柱穴から弥生土器かと考えられる細片が出土している。出土遺物及び検出面から弥生時代に属す可能性が高いと判断した。

なお、前述の掘立柱建物 3 と隅部を重複しているが、柱穴の切り合い関係が不明瞭で前後関係は判然としない。

掘立柱建物 5 (図 166・195、写真図版 95-2) 12-1:3-9 区において地山上面で検出した。X=-134, 965、Y=-41, 696 地点に位置する。既述の竪穴建物 9 の北東方約 3 m にある。

構造は 3222・3223・3224・3225 柱穴で構成される 1 間×1 間の柱配置をとる平面方形の建物である。長軸を N-48°-W におく。建物規模は 1.9 m×1.8 m を測り、面積は約 3.4 m² である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、北東-南西軸側が 1.8 m、北西-南東軸側が 1.9 m を測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径 0.3~0.4 m、深さは 0.1~0.17 m を測る。

図化し得なかったが 3225 柱穴から弥生土器かと考えられる細片が出土している。詳細時期は不明で

あるが、竪穴建物9と近接して概ね軸を同じくしていることから弥生時代後期に属する可能性が高いと判断する。

掘立柱建物6（図166・196、写真図版95-3） 11-1:3-3区において地山上面で検出した。X=-134,960、Y=-41,690地点に位置する。前述の掘立柱建物5の北東方約7mにある。

構造は3033・3054・3069・3071・3072・3087柱穴で構成される桁行2間、梁行1間の柱配置をとる平面長方形の建物である。長軸をN-67°-Eにおく。建物規模は3.1m×2.8mを測り、面積は約8.7㎡である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が1.4～1.7m、梁行側が2.7～2.8mを測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径0.15～0.28m、深さは0.2～0.43mを測る。

柱穴からの出土遺物がないため帰属時期は不明である。検出面から弥生時代に属す可能性が高いと判断した。

掘立柱建物7（図166・196、写真図版95-3） 11-1:3-3区において地山上面で検出した。X=-134,967、Y=-41,685地点に位置する。前述の掘立柱建物6の南東方約2mにある。

構造は3043・3044・3046・3047・3049・3050柱穴で構成される桁行2間、梁行1間の柱配置をとる平面長方形の建物である。長軸をN-64°-Eにおく。建物規模は3.7m×2.6mを測り、面積は約9.6㎡である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が1.8～1.9m、梁行側が2.5～2.6mを測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径0.15～0.2m、深さは0.2～0.3mを測る。

3043・3049柱穴から土器の細片が出土しているが帰属時期は不明である。検出面から弥生時代に属す可能性が高いと判断した。なお、掘立柱建物6・7は軸をほぼ同じくして並列する。

掘立柱建物8（図166・197） 11-1:4-1・12-1:4-2区において、地山上面で検出した。X=-134,920、Y=-41,652地点に位置する。既述の竪穴建物11・12の北東方約2mにある。

構造は4026・4074・4075・4076・4172・4175・4176・4177柱穴で構成される桁行3間、梁行2間の柱配置をとる平面長方形の建物である。隅柱が1基検出されなかったが、後世の遺構により削平された可能性が高い。長軸をN-42°-Eにおく。建物規模は5.4m×3.6mを測り、面積は約19㎡である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が1.8m、梁行側が1.75～1.9mを測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径0.3～0.45m、深さは0.15～0.2mを測る。

図化し得なかったが4026・4074柱穴から弥生土器かと考えられる細片が出土している。詳細時期は不明であるが、竪穴建物11・12と近接して概ね軸を同じくしていることから弥生時代後期に属す可能性が高いと判断する。

掘立柱建物は、竪穴建物とは重複せずに近接して造営されている状況が多く認められる。このことから、竪穴建物と時期を同じくし、併存していた可能性が高いものと類推する。

3. 土坑

遺物が出土し帰属時期が明らかな土坑は、いずれも弥生時代後期後半に属するものである。

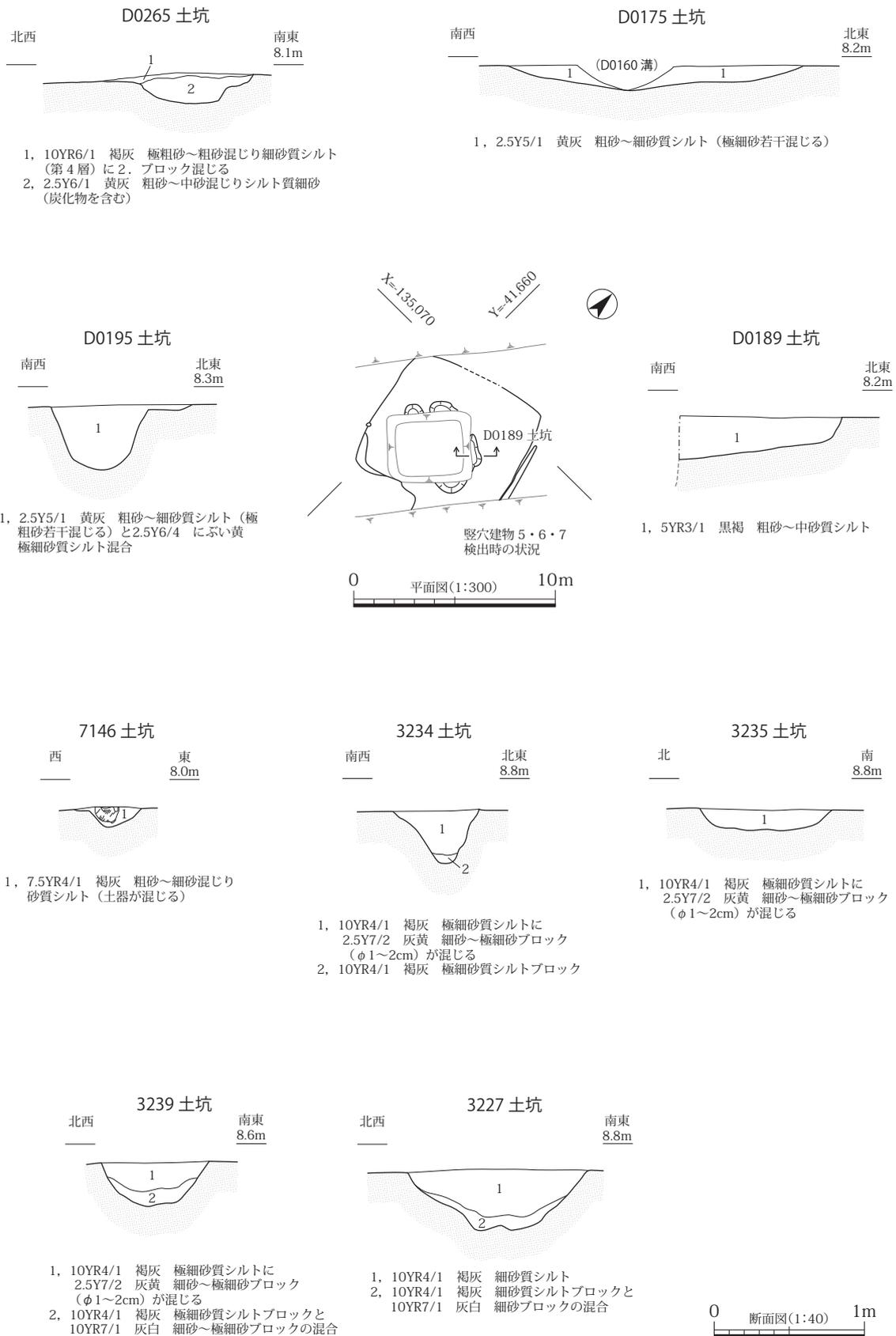


図 198 土坑 平面図・断面図

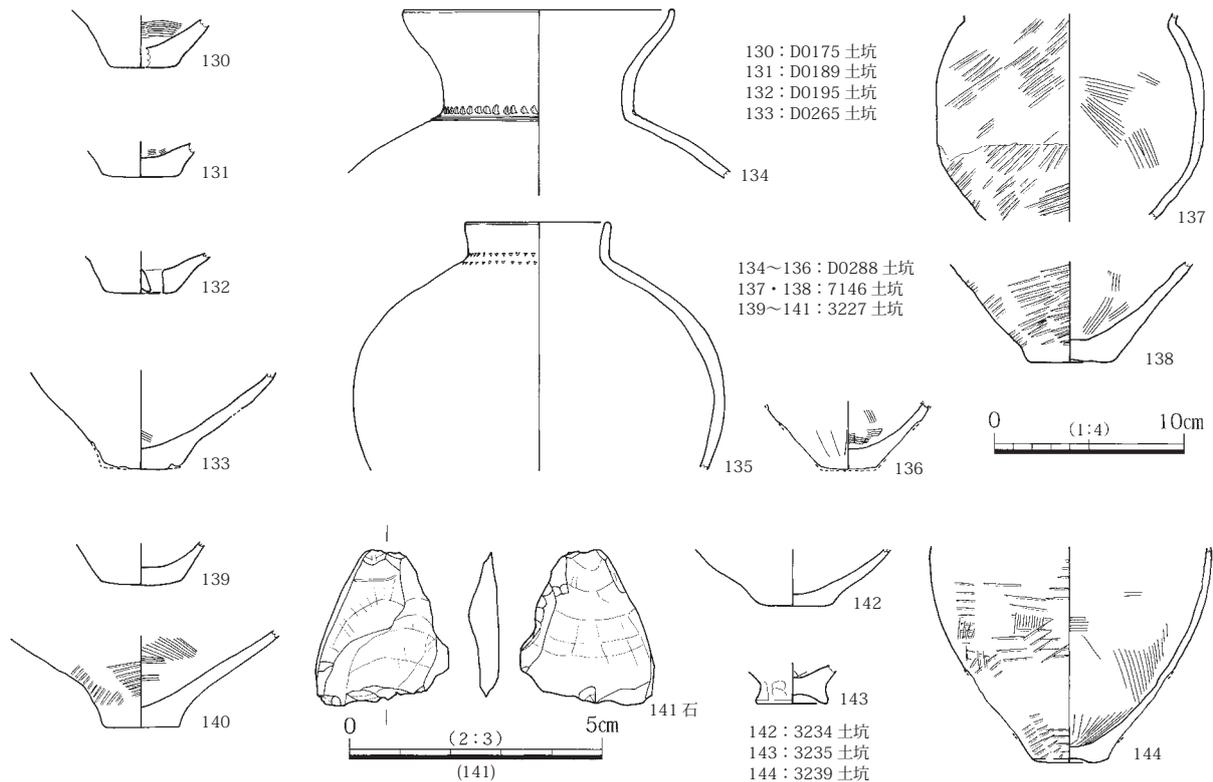


図 199 土坑 出土遺物

D0175 土坑 (図 167・198・199) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,079.5、Y=-41,660.5 地点に位置する。規模は長径 1.42 m、短径 1.1 m を測り、平面不整形を成す。断面形は皿形で深さ 0.05 m を測る。なお、当土坑は D0160 溝に切られる。

埋土中から、弥生土器底部 (130) が出土している。

D0189 土坑 (図 198・199) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,072.5、Y=-41,656 地点に位置する。竪穴建物 7 の埋土上面で検出した土坑である。南西部が攪乱になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 1.8 m、短軸 0.45 m、深さ 0.15 m を測る。

埋土中から、弥生土器底部 (131) が出土している。

D0195 土坑 (図 167・198・199) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,077、Y=-41,665 地点に位置する。規模は長径 0.85 m、短径 0.7 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は碗形で深さ 0.44 m を測る。

埋土中から弥生土器有孔鉢か (132) が出土している。

D0265 土坑 (図 167・168・198・199) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,107.5、Y=-41,688 地点に位置する。竪穴建物 1 の埋土を切る土坑である。規模は長径 0.9 m、短径 0.71 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は碗形で深さ 0.19 m を測る。

埋土中から、弥生土器底部 (133) が出土している。

D0288 土坑 (図 167・199、写真図版 96-1) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,075、Y=-41,656 地点に位置する。竪穴建物 7 と重複しその埋土を切る土坑である。攪乱及び南東部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 2.55 m、短軸 1.0 m を測る。断面形は

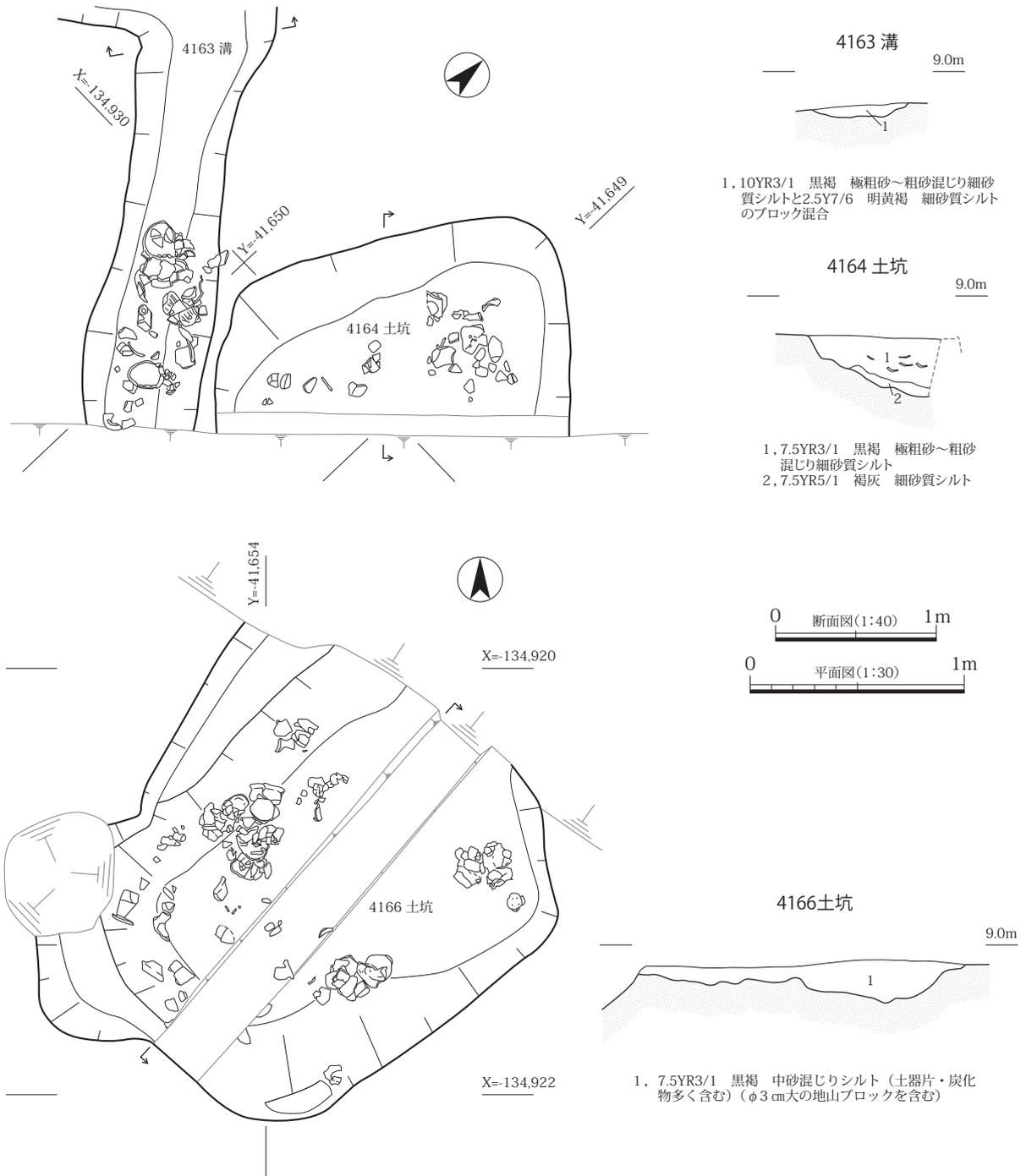


図 200 4164・4166 土坑、4163 溝 遺物出土状況平面図・断面図

椀形で深さ 0.24 m を測る。埋土は黄灰色粗砂～中砂質シルトを主体とする。

埋土中から、弥生土器壺（134）・短頸壺（135）・底部（136）等が出土している。

7146 土坑（図 167・198・199、写真図版 96-2） 11-1:7 区において地山上面で検出した。X=-135,037、Y=-41,631 地点に位置する。規模は長径 0.45 m、短径 0.2 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は椀形で深さ 0.14 m を測る。

埋土中から、弥生土器甕（137・138）が出土している。

3227 土坑（図 198・199・227、写真図版 186） 12-1:3-9 区において地山上面で検出した。X=-

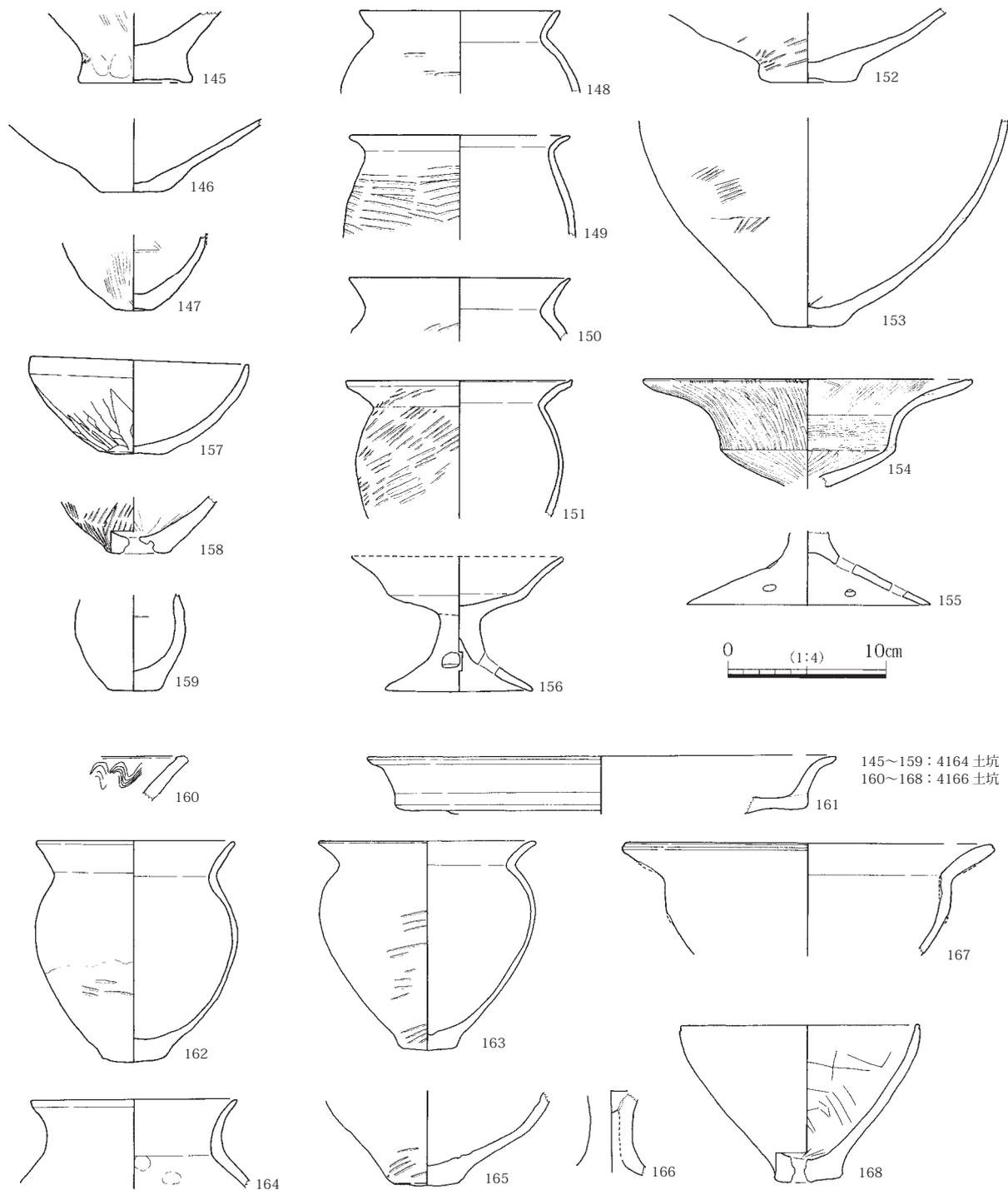


図 201 4164・4166 土坑 出土遺物

134,968.5、Y=-41,692 地点に位置する。3226 溝に切られる。規模は長径 1.75 m、短径 1.15 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は椀形で深さ 0.41 m を測る。

埋土中から、弥生土器甕 (139・140)、サヌカイト剥片 (141) 等が出土している。

3234 土坑 (図 198・199・227) 12-1:3-9 区において地山上面で検出した。X=-134,980、Y=-41,696.5 地点に位置する。規模は長径 1.34 m、短径 0.7 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は V 字形で深さ 0.35 m を測る。

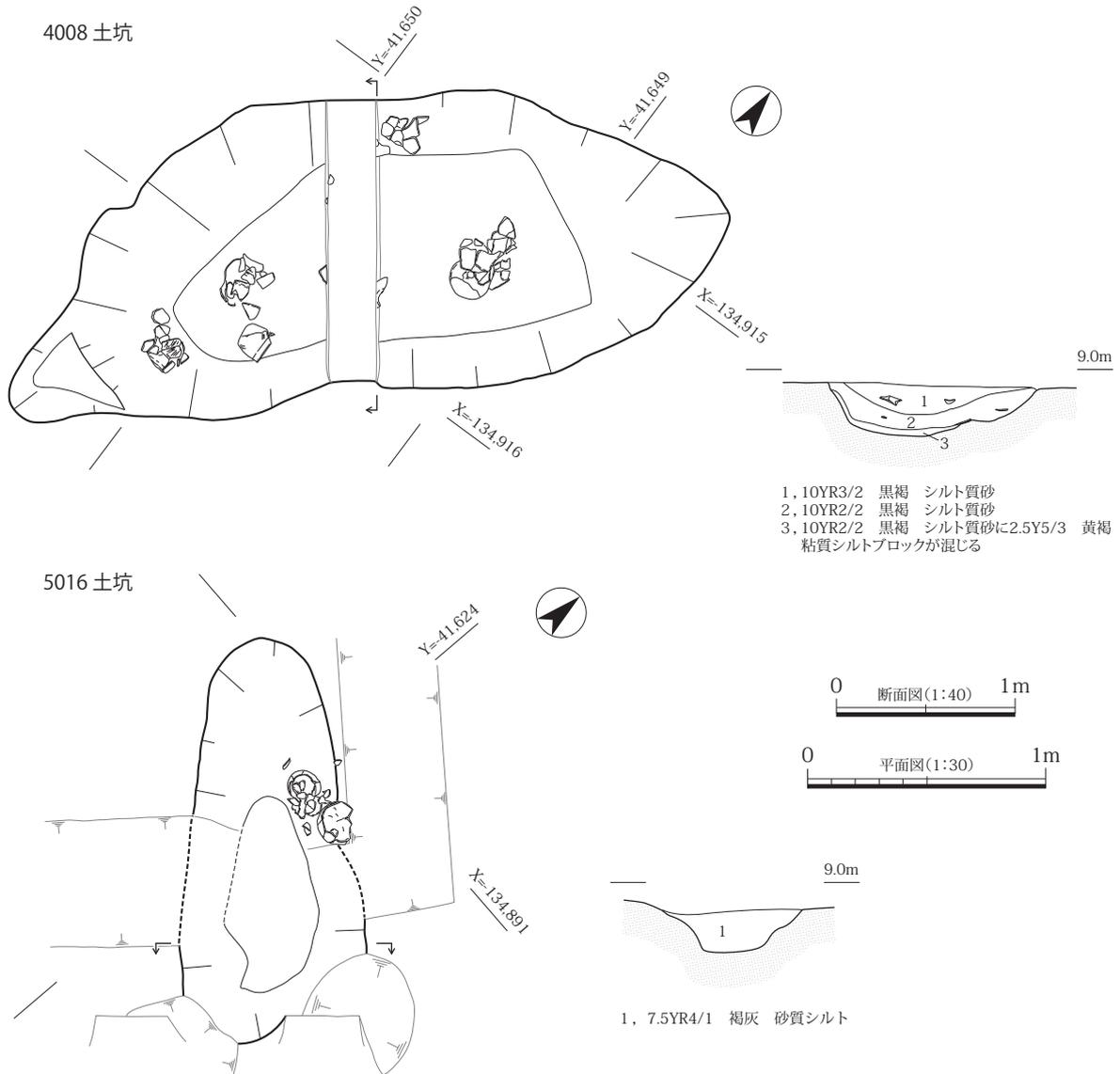


図 202 4008・5016 土坑 遺物出土状況平面図・断面図

埋土中から、弥生土器底部（142）が出土している。

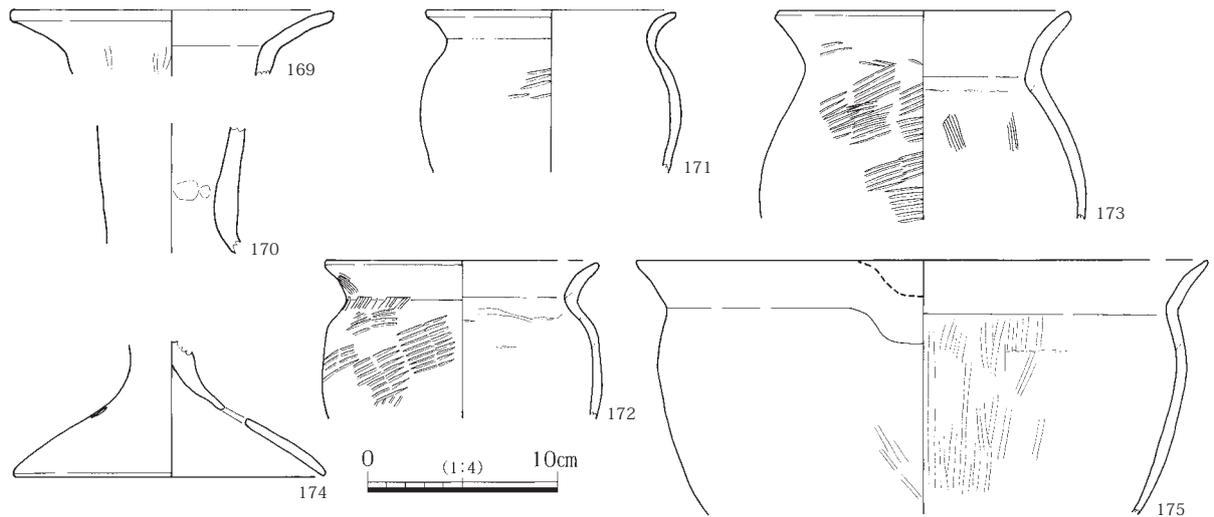
3235 土坑（図 198・199・227） 12-1:3-9 区において地山上面で検出した。X=-134,978.5、Y=-41,696 地点に位置する。規模は長径 1.45 m、短径 1.0 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は皿形で深さ 0.15 m を測る。

埋土中から、弥生土器鉢底部（143）が出土している。

3239 土坑（図 198・199・227） 12-1:3-9 区において地山上面で検出した。X=-134,961、Y=-41,695.5 地点に位置する。規模は長径 1.5 m、短径 0.75 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は椀形で深さ 0.29 m を測る。

埋土中から、弥生土器甕（144）が出土している。

4164 土坑（図 181・200・201・227、写真図版 97-1・153） 12-1:4-2 区において地山上面で検出した。X=-134,930、Y=-41,649 地点に位置する。南西部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 1.7 m を測り、平面隅丸方形を成す。断面形は椀形で深さ 0.37 m を測る。当土坑か



169~175 : 4008 土坑 176・177 : 5016 土坑 178~183 : 5672 土坑

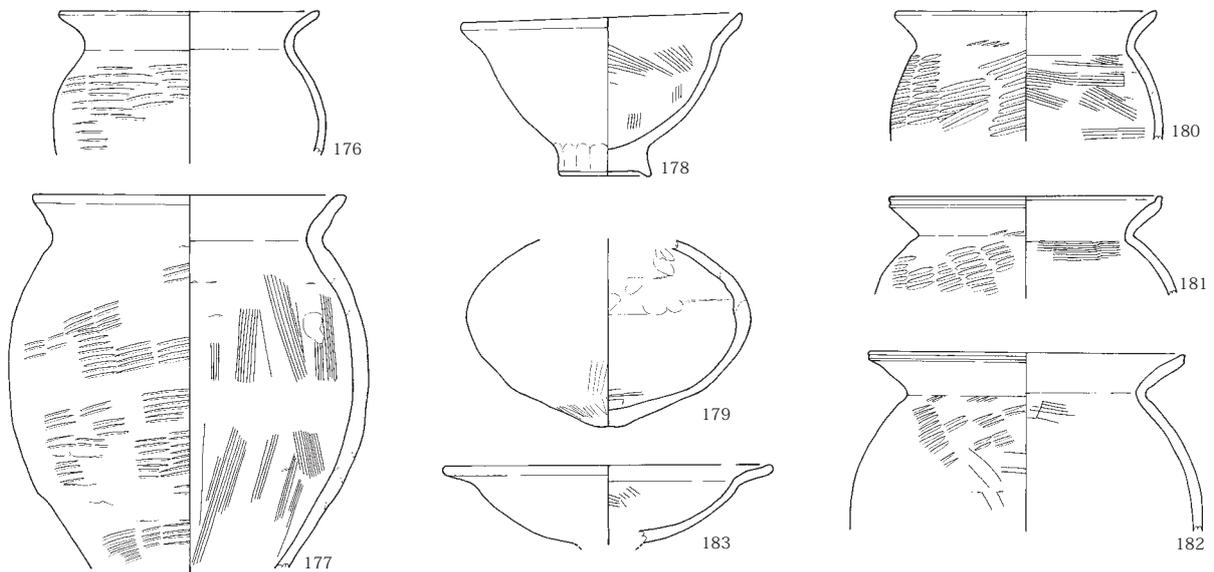


図 203 4008・5016・5672 土坑 出土遺物

らは、まとめて土器が出土した。弥生土器壺底部 (145・146)・壺もしくは鉢底部 (147)・甕 (148～153)・高杯 (154～156)・鉢 (157)・有孔鉢 (158)・ミニチュア土器 (159) 等である。

4166 土坑 (図 181・200・201・227、写真図版 96-3・154) 12-1:4-2 区において地山上面で検出した。X=-134,921.5、Y=-41,654 地点に位置する。北東部が攪乱になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模及び平面形は長軸 2.04 m、短軸 2.0 m を測り、不整形ではあるが隅丸方形を呈する。断面形は楕形で深さ 0.27 m を測る。当土坑からは、まとめて土器が出土した。弥生土器壺 (160)・二重口縁壺 (161)・甕 (162～165)・高杯 (166)・鉢 (167)・有孔鉢 (168) 等である。

4008 土坑 (図 202・203・227、写真図版 97-2) 11-1:4-1 区において地山上面で検出した。X=-134,915.5、Y=-41,649.5 地点に位置する。規模は長径 2.71 m、短径 1.2 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は楕形で深さ 0.3 m を測る。当土坑からは、まとめて土器が出土した。弥生土器壺 (169)・直口壺か (170)・甕 (171～173)・高杯 (174)・片口鉢 (175) 等である。

5016 土坑 (図 202・203・234) 11-1:5-1 区において地山上面で検出した。X=-134,891、Y=-41,624 地

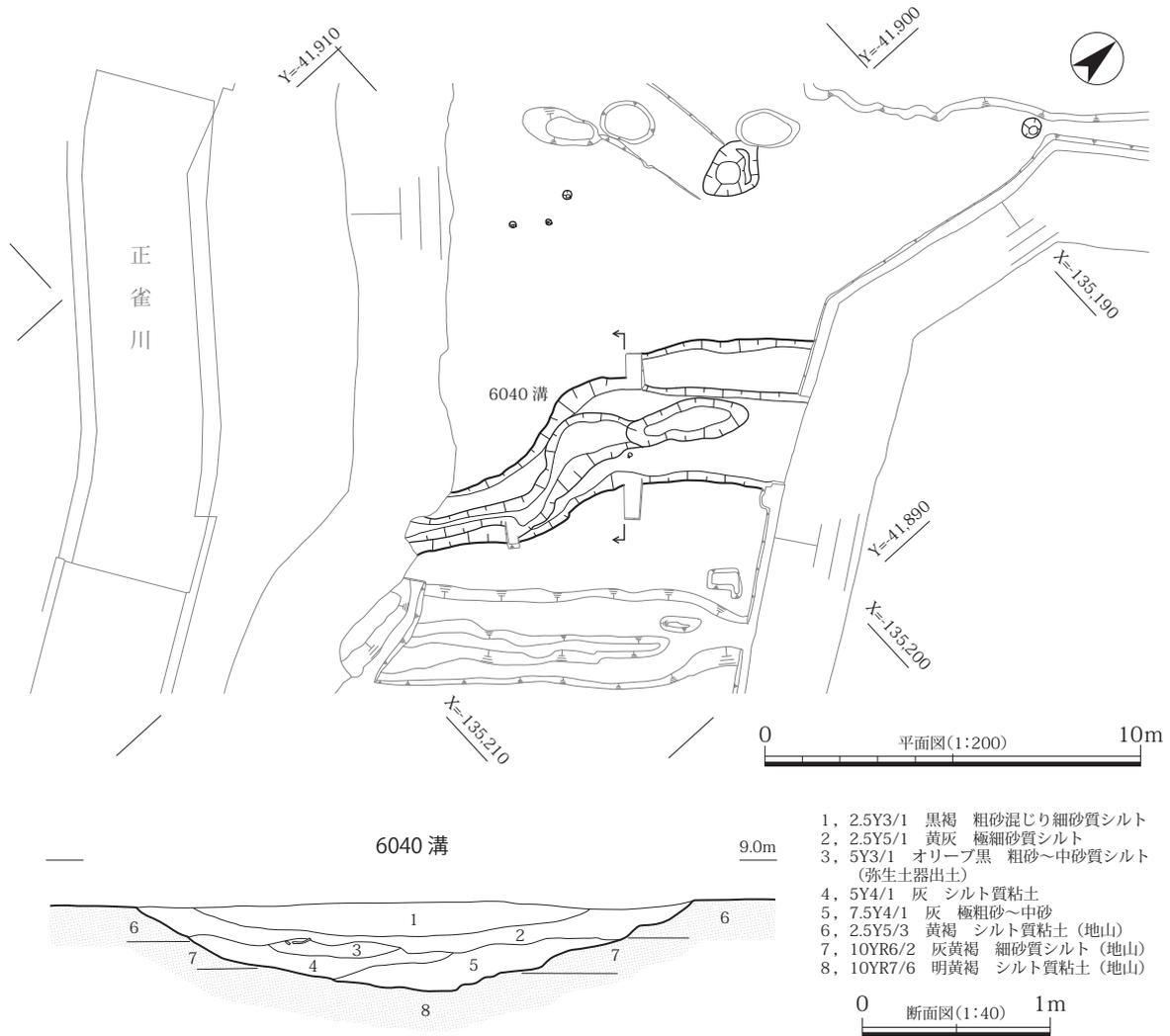


図 204 6040 溝 平面図・断面図

点に位置する。一部攪乱されるが、検出した部分の規模は長径 1.72 m、短径 0.79 mを測り、平面楕円形を成す。断面形は椀形で深さ 0.2 mを測る。

埋土中から、弥生土器甕 (176・177) が出土している。

5672 土坑 (図 191・203、写真図版 97-3・154) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。X=-134,845、Y=-41,597.5 地点に位置する。南西部が攪乱のため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 0.9 mを測る。

埋土中から、弥生土器鉢 (178)・細頸壺 (179)・甕 (180～182)・鉢 (183) が出土している。

4. 溝

遺物が出土し帰属時期が明らかな溝は、6040 溝を除きいずれも弥生時代後期に属するものである。

6040 溝 (図 204・206、写真図版 98) 11-1:6-1 区において地山上面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、概ね北東-南西方向を指向する。中央付近で屈曲しやや蛇行する。検出した部分の規模は幅 1.9～3.25 m、長さ 10.5 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.48 mを測る。

埋土中から、弥生土器甕底部 (184) が出土している。弥生時代前期の所産になる可能性が高く、当

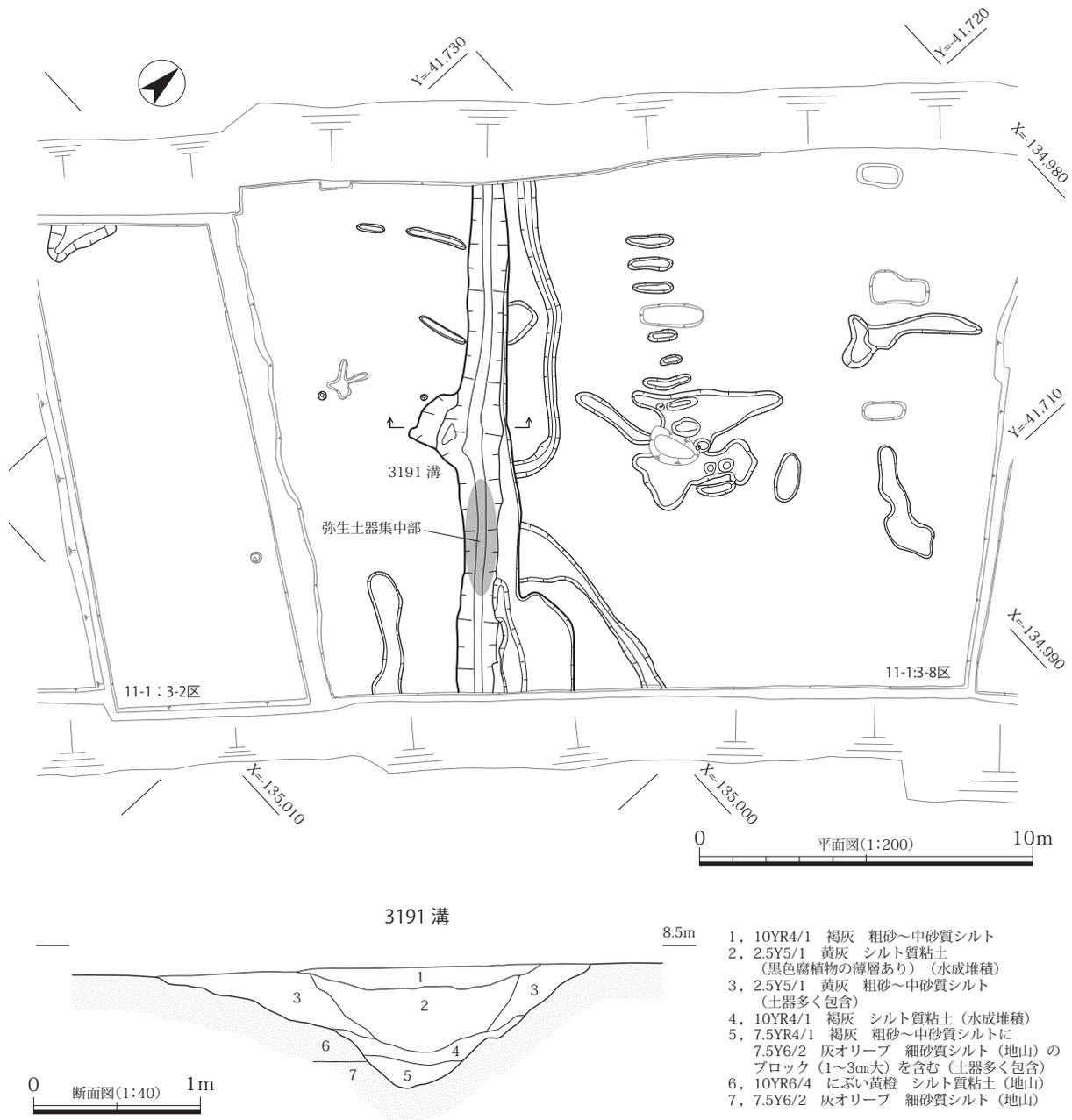


図 205 3191 溝 平面図・断面図

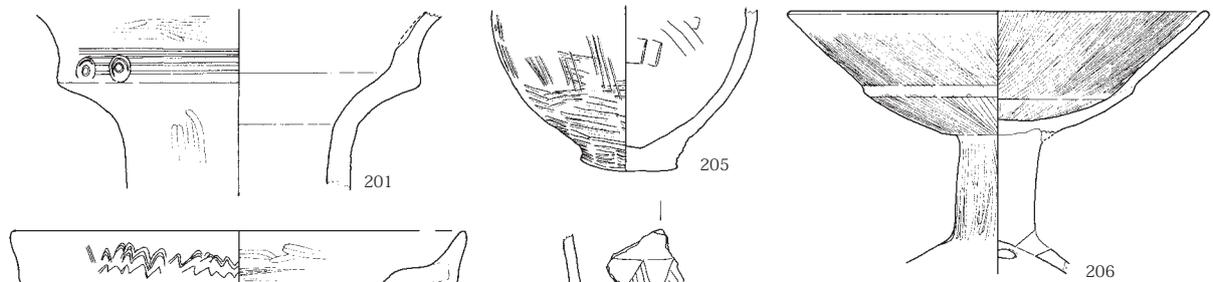
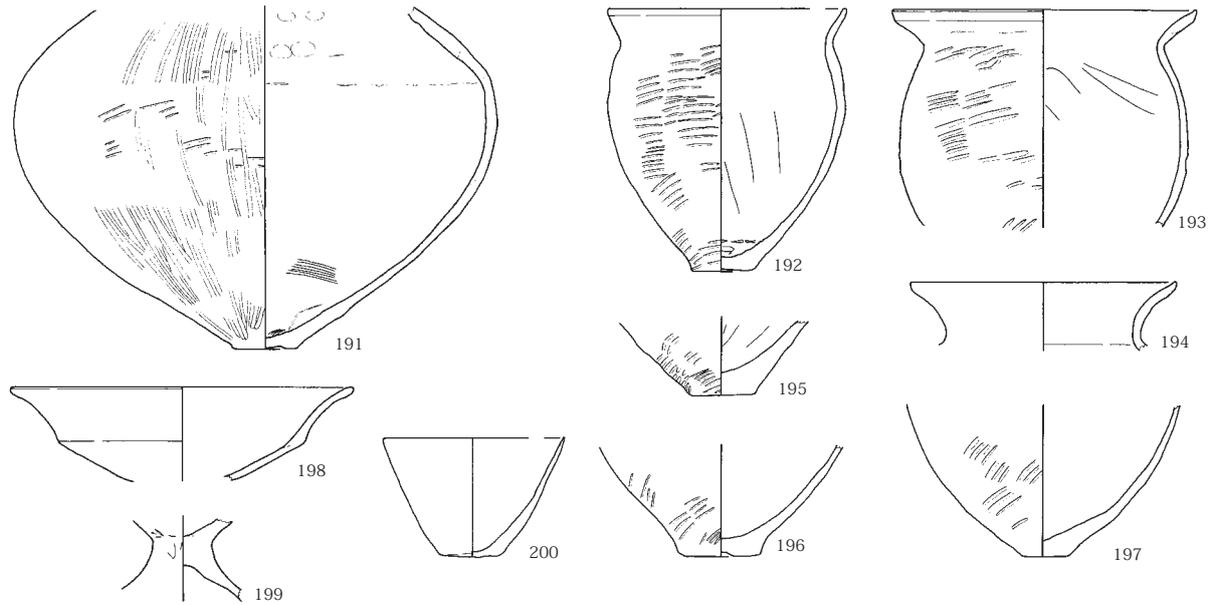
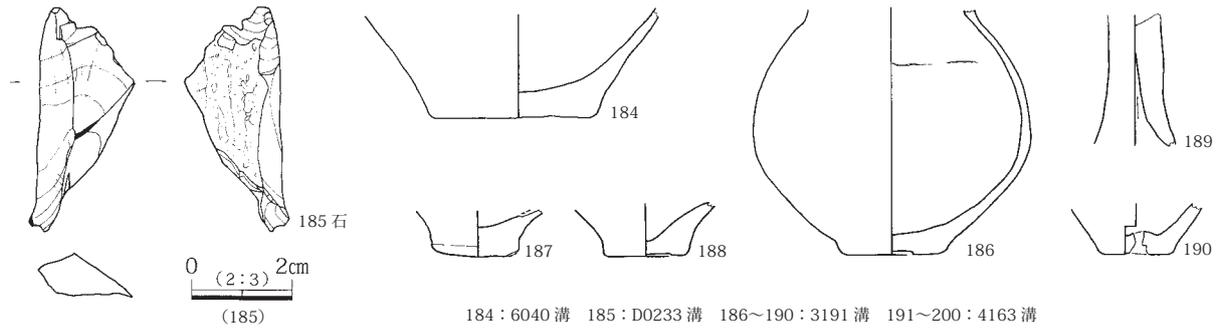
遺構は弥生時代前期に属する蓋然性が高い。

D0233 溝 (図 167・206・213、写真図版 186) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。攪乱及び北東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北東-南西方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.34～0.38 m、長さ 1.1 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.05 m を測る。

埋土中から、サヌカイト剥片 (185) が出土している。

3191 溝 (図 205・206、写真図版 99) 11-1:3-8 区において地山上面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.9～3.6 m、長さ 15.7 m を測る。断面形は V 字形で深さ 0.7 m。

溝の南東半において、底部から土器がまとまって出土した。弥生土器壺 (186)・底部 (187・188)・



201~204 : 4058 溝 205~207 : 5924 溝
 208~211 : 5928 溝 212 : 5929 溝
 213 : 5944 溝

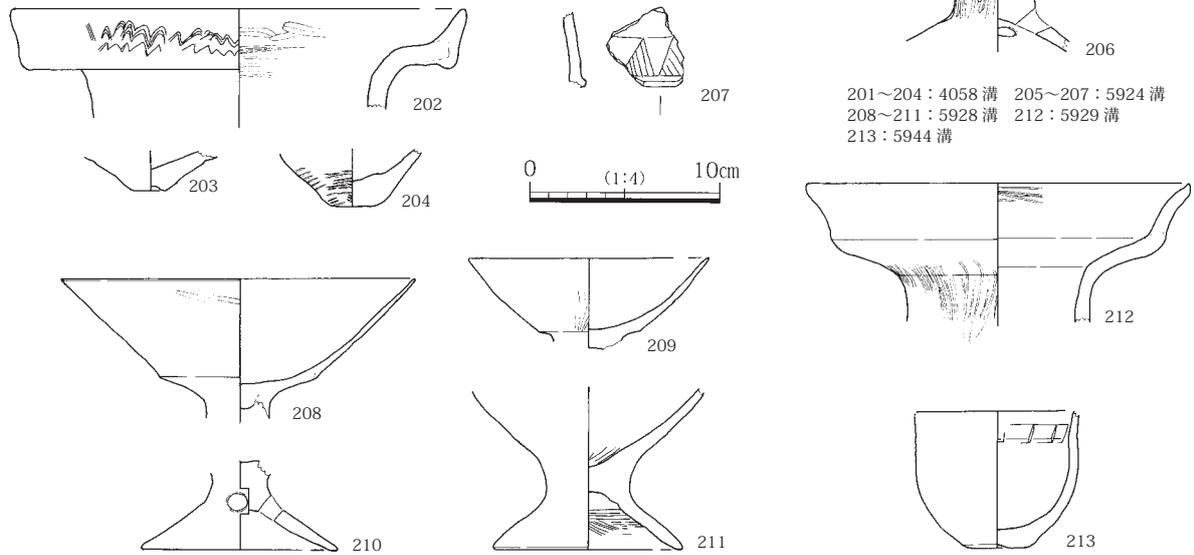


図 206 溝 出土遺物

高杯 (189)・有孔底部 (190) 等である。

4163 溝 (図 181・200・206・227、写真図版 100-1) 12-1:4-2 区において地山上面で検出した。南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、U字状を呈する。検出した部分の規模は幅 0.5～1.4 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.08 m。

北東側で土器がまとまって出土した。弥生土器壺 (191)・甕 (192～197)・高杯 (198・199)・鉢 (200) 等である。

4058 溝 (図 206・213・227) 11-1:4-1 区において地山上面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西―南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.3～1.35 m、長さ約 11.2 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.22 m。

埋土中から、弥生土器二重口縁壺 (201・202)・底部 (203)・甕 (204) が出土している。

5924 溝 (図 206・213・234、写真図版 153) 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。攪乱及び南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西―南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.5～1.4 m、長さ約 1.9 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.36 m。

埋土中から、弥生土器甕底部 (205)・高杯 (206)・手焙形土器か (207) が出土している。

5928 溝 (図 206・213・234) 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。南東部が攪乱になるため全容は明らかでないが、北西―南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 1.3～1.7 m、長さ約 1.5 m を測る。断面形は逆台形で深さ 0.2 m。

埋土中から、弥生土器高杯 (208～211) 等が出土している。

5929 溝 (図 206・213・234、写真図版 100-2・100-3) 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。南西

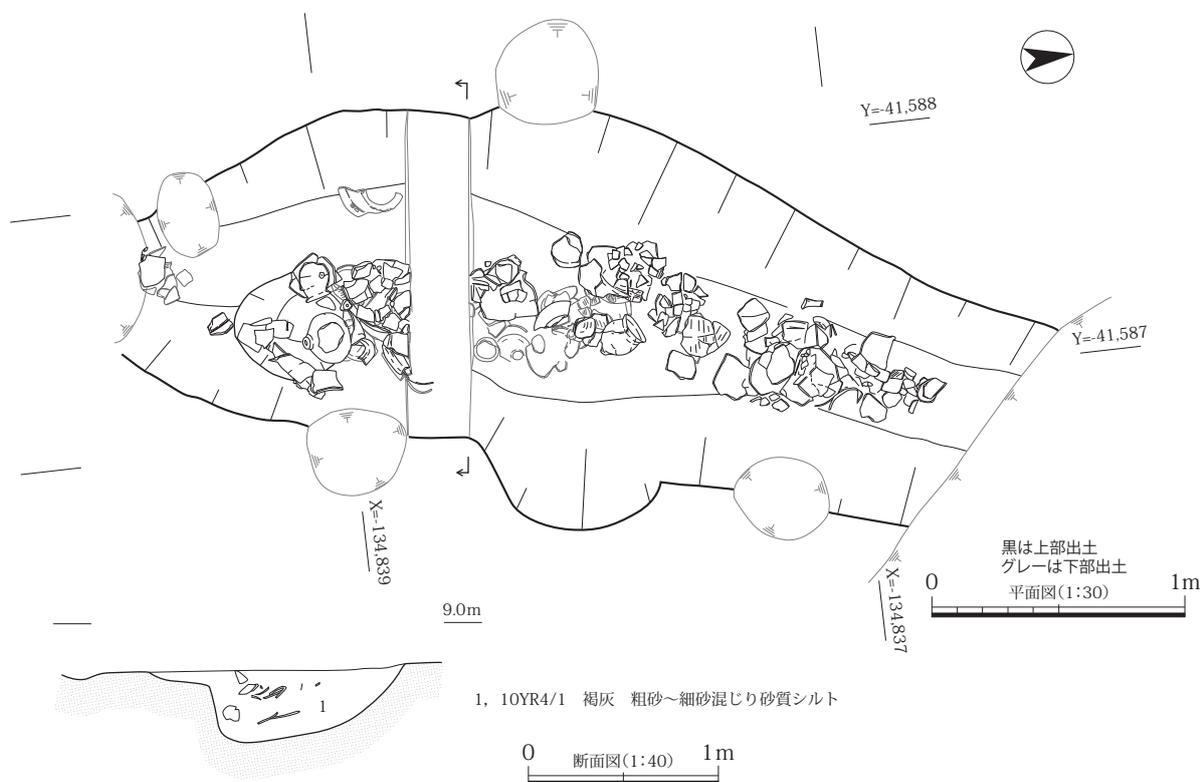


図 207 5627 溝 遺物出土状況平面図・断面図

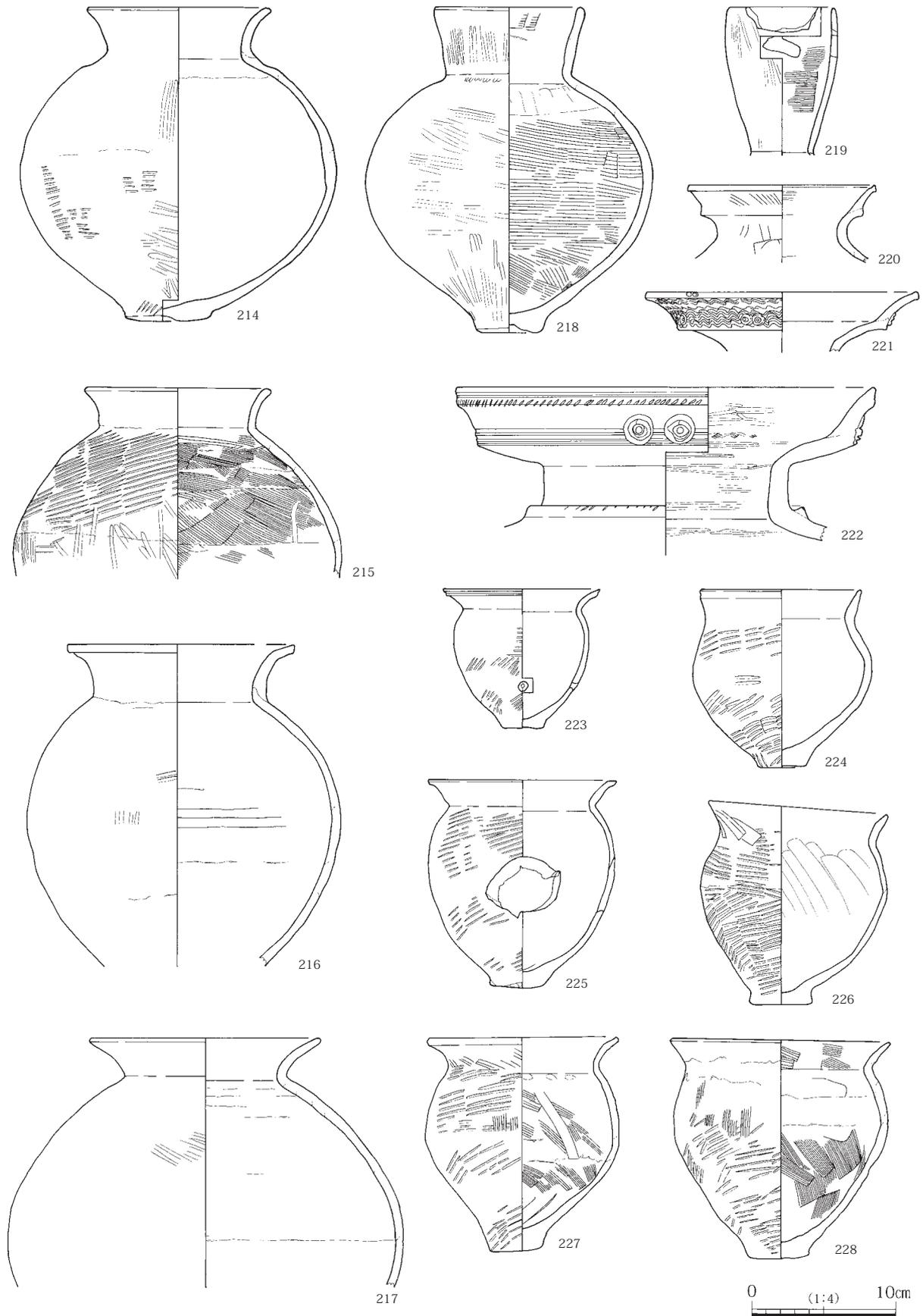


図 208 5627 溝 出土遺物 (1)

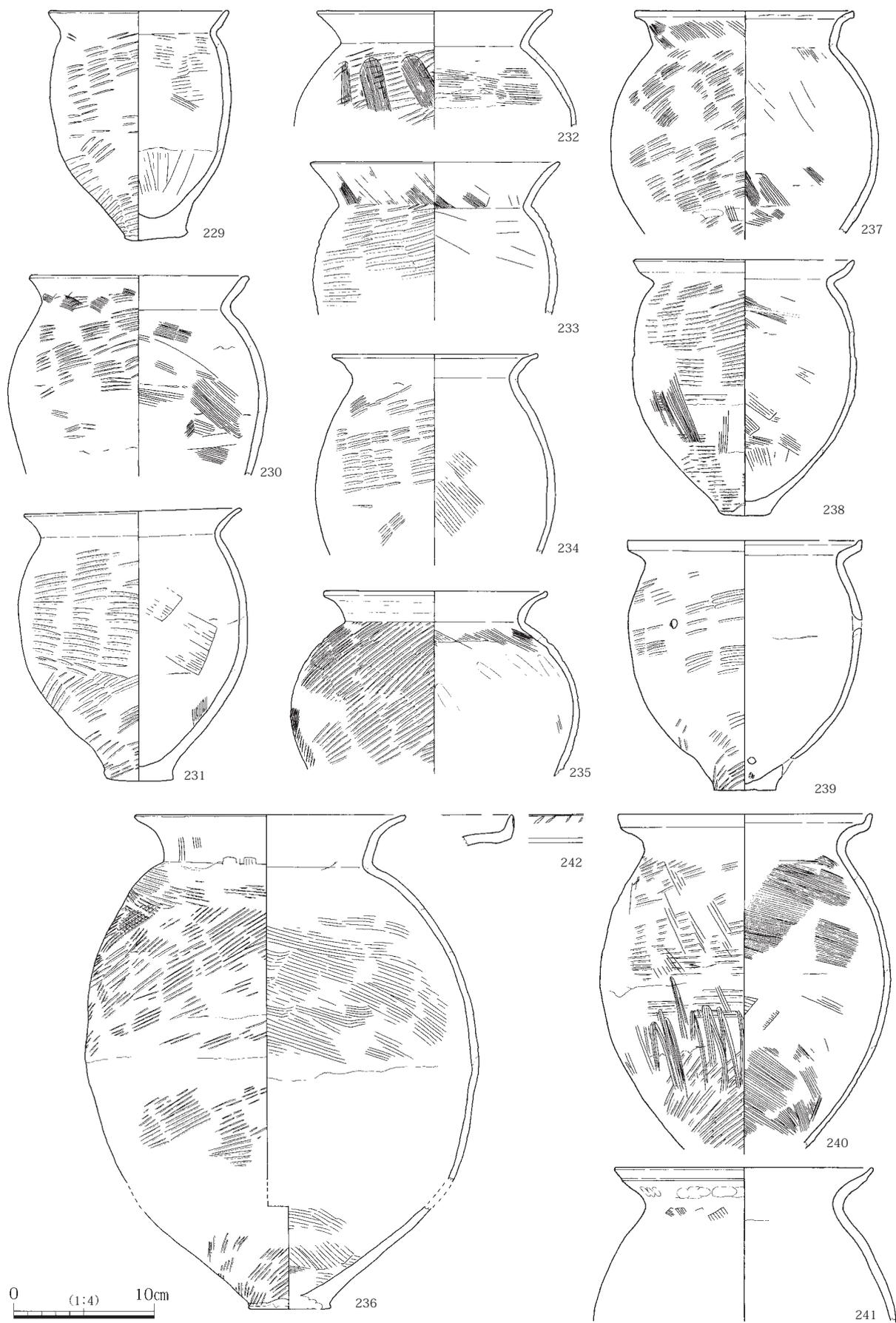


图 209 5627 溝 出土遺物 (2)

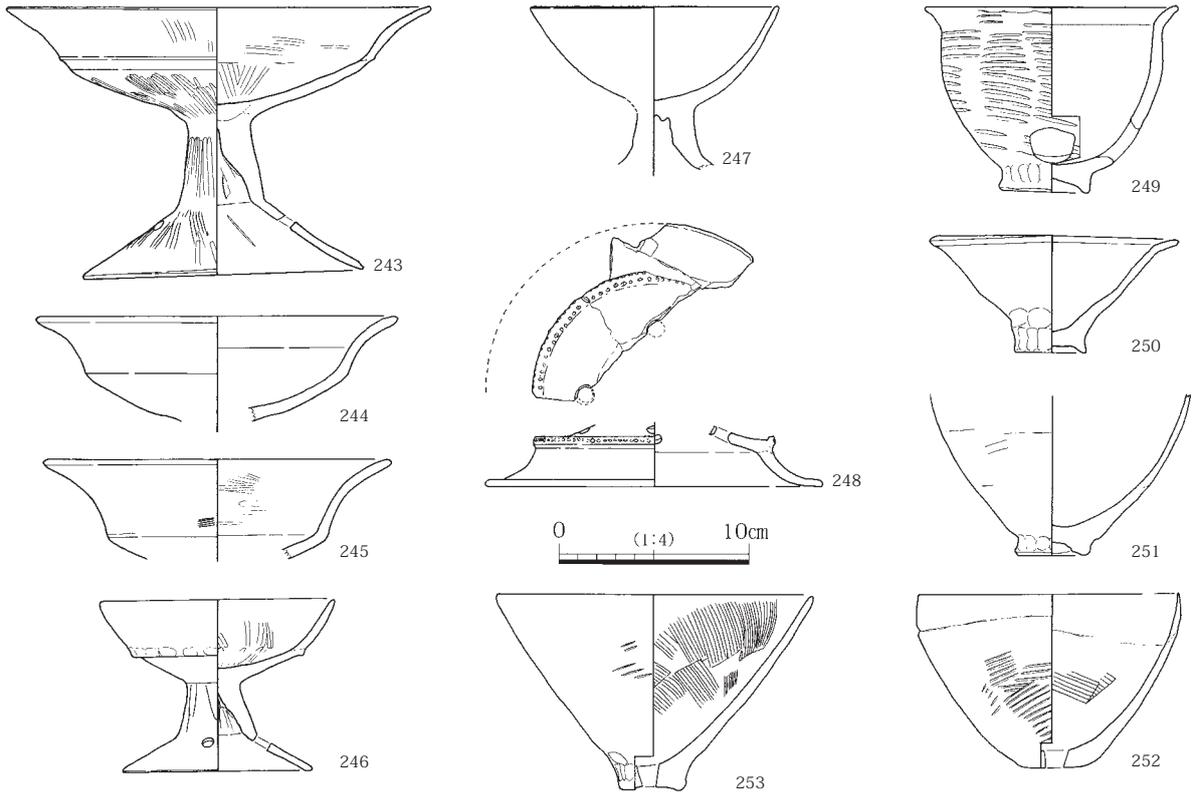


図 210 5627 溝 出土遺物 (3)

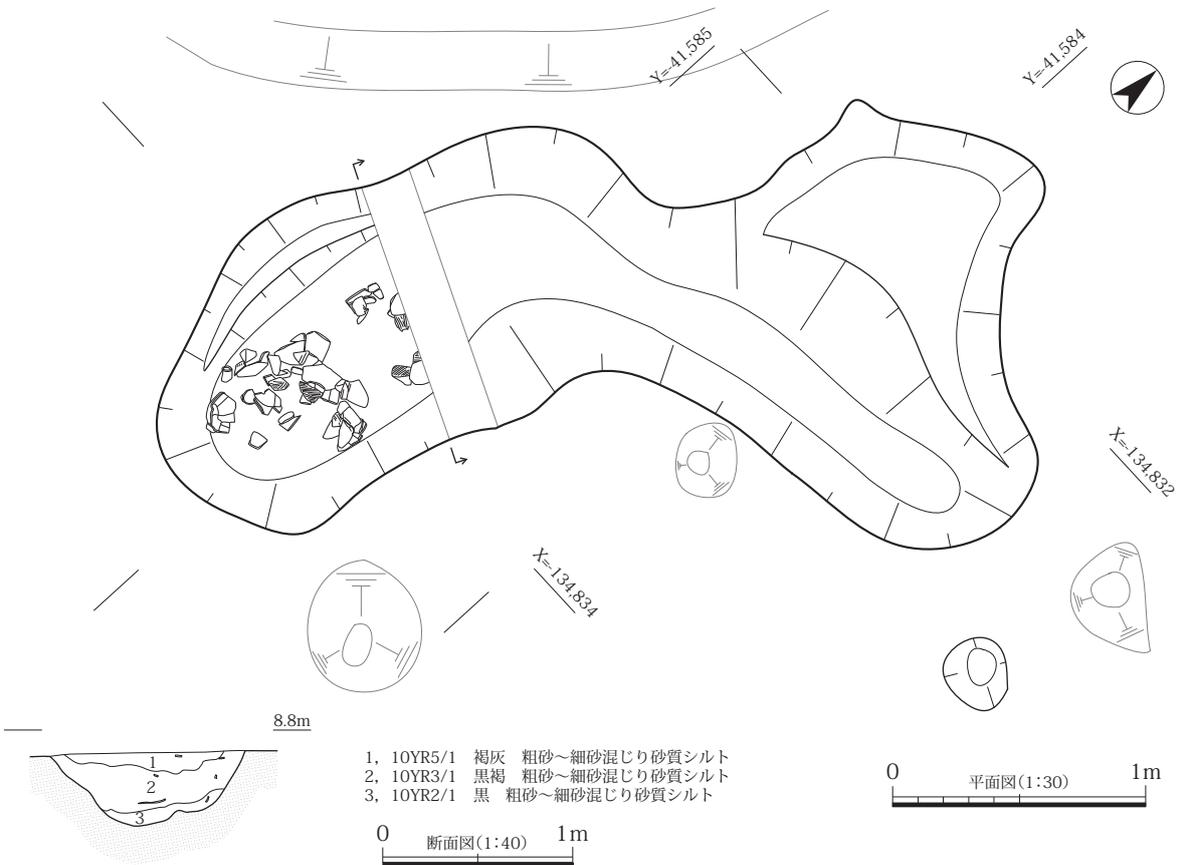


図 211 5644 溝 平面図・断面図

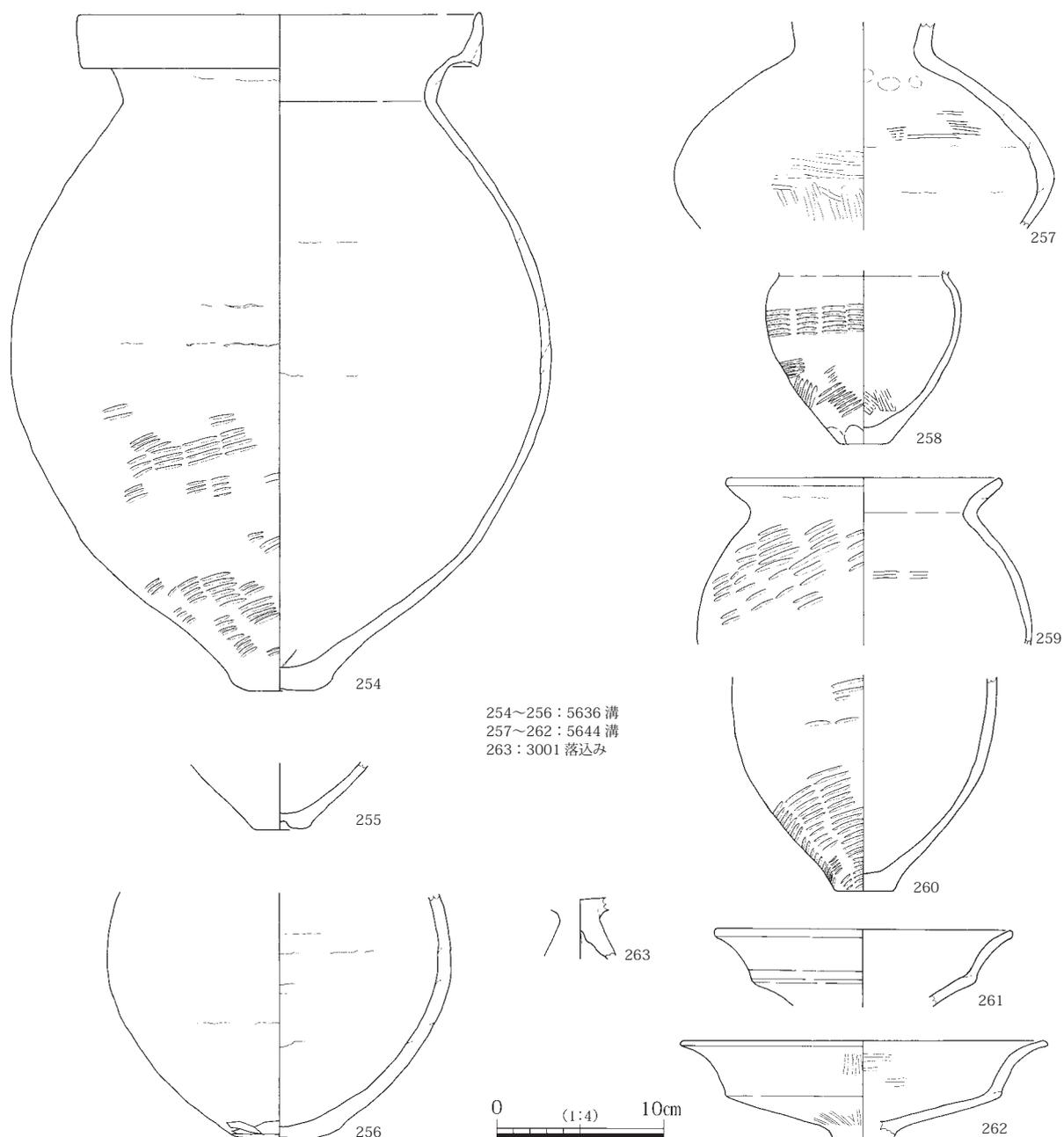


図 212 5636・5644 溝、3001 落込み 出土遺物

部が攪乱になるため全容は明らかでないが、北東—南西方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.45～0.8 m、長さ約 2.7 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.39 m。

埋土中から、弥生土器二重口縁壺（212）等が出土している。

5944 溝（図 206・213・234、写真図版 154） 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。北西部が攪乱になるため全容は明らかでないが、北西—南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.7～0.96 m、長さ約 9.9 mを測る。断面形は皿形で深さ 0.1 m。

埋土中から、弥生土器鉢（213）等が出土している。

5627 溝（図 191・207～210、写真図版 101-1・101-2・154） 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。両端部が攪乱のため全容は明らかでないが、北北東—南南西方向を指向する。検出した部分の規模は幅

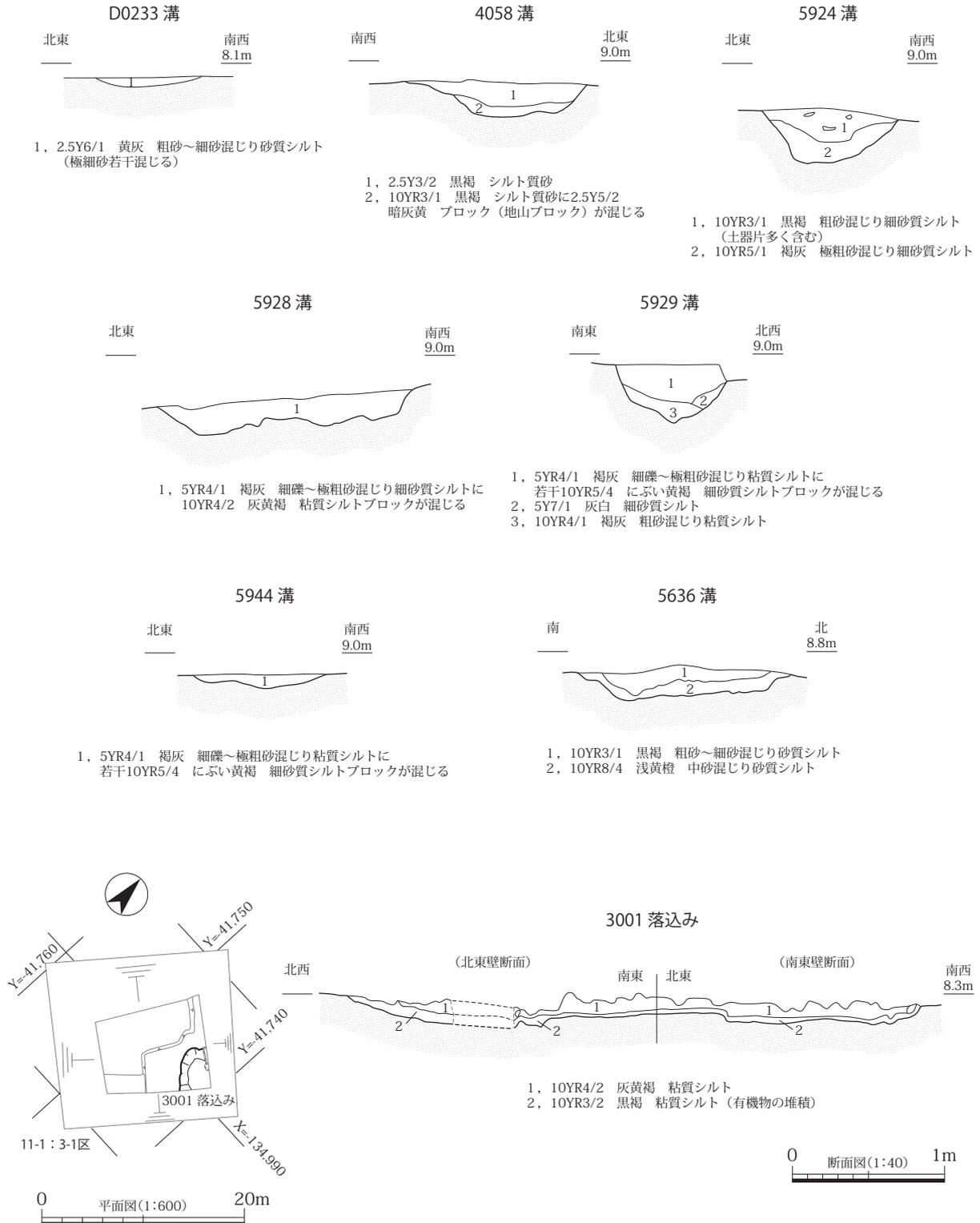


図 213 溝・落とし 平面図・断面図

1.0～1.7 m、長さ 3.5 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.39 m。

当溝からは多量の土器が出土した。弥生土器広口壺 (214～217)・直口壺 (218)・細頸壺 (219)・二重口縁壺 (220～222)・小形甕 (223)・甕 (224～241)・高杯 (243～248)・鉢又はその可能性が高いもの (242・249～251)・有孔鉢 (252・253) 等である。後述する 5644 溝と併せて竪穴建物の周溝にな

る可能性がある。

5636 溝 (図 191・212・213、写真図版 154) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西—南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.3～1.3 m、長さ約 7.5 m を測る。断面形は逆台形で深さ 0.22 m。

埋土中から、弥生土器二重口縁壺 (254)・壺か (255・256) 等が出土している。

5644 溝 (図 191・211・212、写真図版 101-3) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。南北方向を指向するが、中央部で東西方向へ屈曲する。検出した部分の規模は幅 1.06～1.75 m、長さ約 3.5 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.39 m。

南端部で土器がまとまって出土した。弥生土器長頸壺 (257)・甕 (258～260)・高杯 (261・262) 等である。これに伴う竪穴は検出されていないが、前述の 5627 溝と併せて竪穴建物の周溝になる可能性を考慮しておく必要がある。

5. 落込み

3001 落込み (図 212・213) 11-1:3-1 区において地山上面で検出した。X=-134,990、Y=-41,740 地点に位置する。東部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 2.28 m、短軸 1.72 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.17 m を測る。

埋土中から、弥生土器高杯脚部 (263) が出土している。

6. 流路

D0158 流路 (図 166・214～226、原色写真図版 9、写真図版 102・103・155～158) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、南北方向を指向する。検出した流路は中央付近で南東へ方向を変えるため、東岸は比較的幅広く検出し、西岸は調査区と同様の幅の検出に留まることとなった。検出した部分の規模は、幅約 19.2 m、深さ約 3 m を測り、検出長約 4.5 m である。断面形は隅丸逆台形で、埋土は細礫～シルトを主体とし、所々に木葉など植物遺体の溜まりが形成されていた。周辺地形を勘案すれば北から南へ流水があったと想定される。流路断面の観察から、両岸には比較的粒径の細かな砂が堆積しているが、中心部分には粒径の大きな砂が堆積している状況が看取された。ある程度埋積した後、再び流水により幅の狭い流路が形成され、埋没したようである。なお、最終堆積層の図 215 の断面 1 層から須恵器 (図 284 - 994) が出土しており、流路埋没後は低まりとしての地形を成していたことが想定される。この流路は弥生時代後期にその機能をほぼ停止して、古墳時代後期には完全に埋没していたものと考えられる。

遺物は、東岸と西岸及び流路の中心部からまとまって出土した。東岸と西岸で出土した土器群については、出土状況を図示した (図 214・216～219)。この東岸及び西岸で出土した土器群は図 215 の断面 14 層及び 18 層の比較的粒径の細かな砂層から出土したものである。東岸と西岸の検出長が異なるため単純な比較はできないが、東岸から土器が多く出土している状況が看取できる。また、東岸出土の土器群は完形品が多く出土していることも特徴として挙げられる。

当流路から出土した遺物について、図化し得たものを図 220～226 に示す。出土遺物は、弥生土器の壺・甕・高杯・鉢・手焙形土器・器台等がある。割合的には甕が多く認められる状況である。器形の判明するものとして、壺には長頸壺 (265・300)・広口壺 (278・290～295)・短頸壺 (298・299)・小形

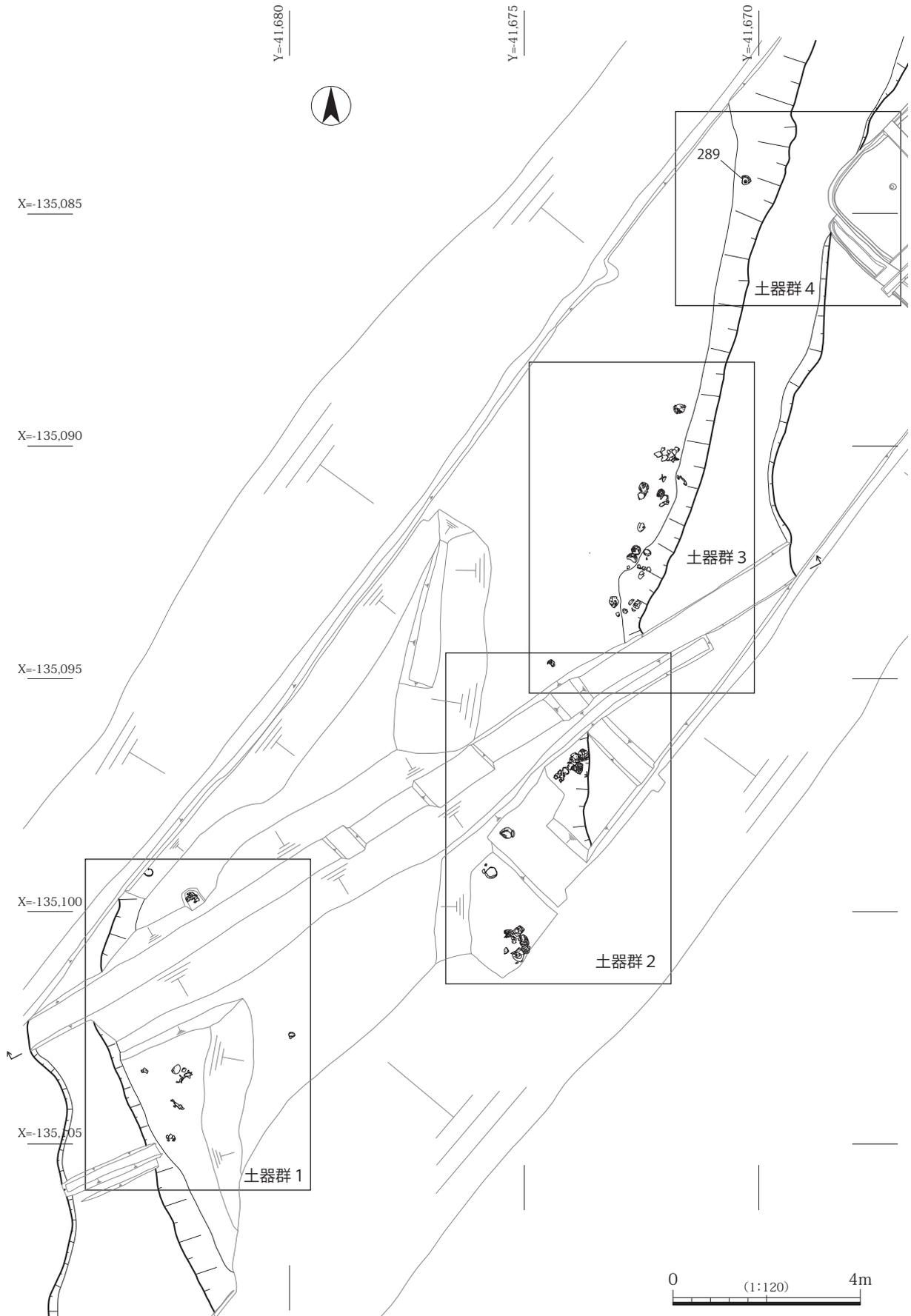
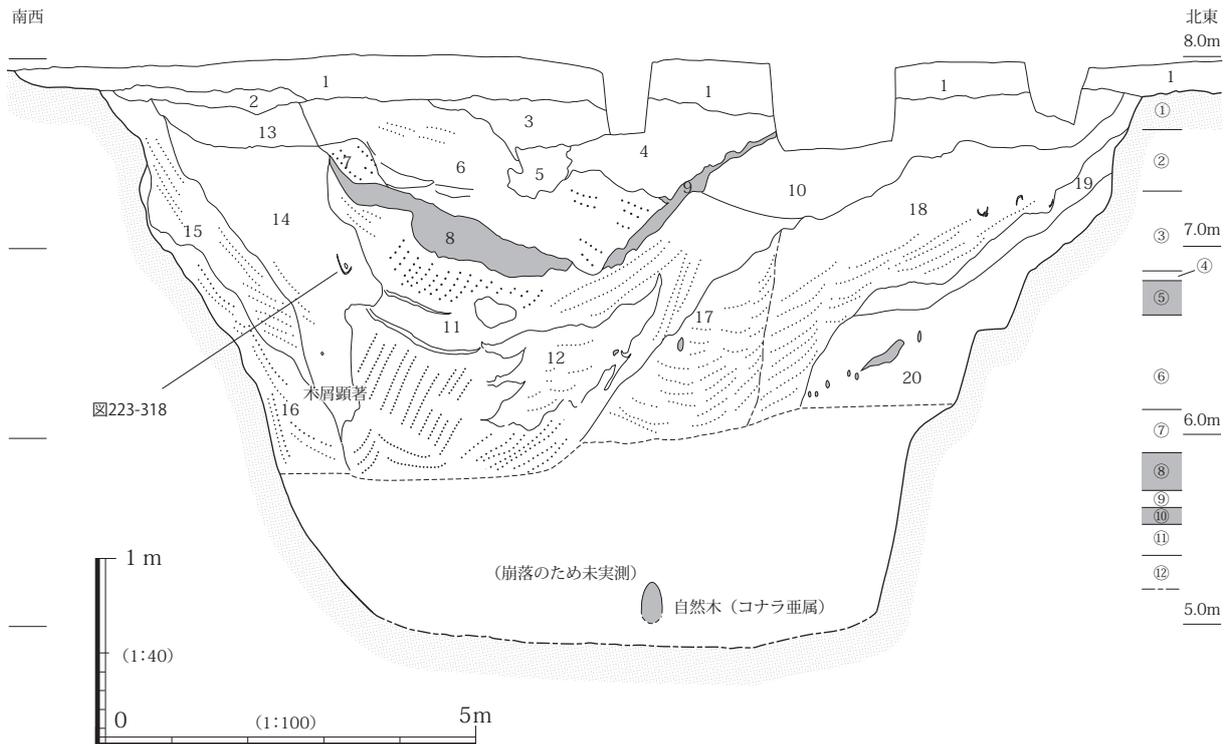


図 214 D0158 流路 平面図・遺物出土状況



- | | | |
|---------------------------------------|---|--------------------------------------|
| 1, 2.5Y4/1 黄灰 中砂質シルト (根による鉄分沈着顕著) | 12, 5Y6/1 灰 細砂～極細砂 (ラミナ顕著) | 地山の土層 |
| 2, 2.5Y4/1 黄灰 粗砂～極粗砂質シルト (根による鉄分沈着顕著) | 13, 10YR7/1 灰白 極細砂～シルト (根による鉄分沈着顕著) | ①10YR5/1 褐灰 細砂～極細砂質シルト (植物の根の鉄分沈着顕著) |
| 3, 2.5Y4/1 黄灰 粗砂～中砂質シルト | 14, 7.5Y6/1 灰 シルト～極細砂 (上方、根による鉄分沈着顕著) (土器を多く包含) | ②10YR7/1 灰白 中砂～細砂 (植物の根の鉄分沈着顕著) |
| 4, 7.5Y7/1 灰白 極細砂質シルト | 15, 5Y6/1 灰 細砂～極細砂 (ラミナ顕著) | ③2.5Y7/1 灰白 細礫～極粗砂混じり粗砂～中砂 |
| 5, 10YR7/2 にぶい黄橙 極細砂質シルト | 16, 10Y7/1 灰白 シルト～細砂、粗砂の互層 (ラミナ顕著) | ④10GY7/1 明緑灰 粘質シルト |
| 6, 5Y7/1 灰白 シルト～細砂～極粗砂 (ラミナ顕著) | 17, 10Y6/1 灰 粗砂～細砂 (上方細粒化の繰り返しの堆積) | ⑤5Y5/1 灰 極細砂混じりシルト質粘土 |
| 7, 7.5Y7/1 灰白 細礫～極粗砂 | 18, 5Y7/2 灰白 細砂～中砂 (ラミナ顕著) (土器を多く包含) | ⑥2.5Y8/1 灰白 細礫～極粗砂混じり粗砂～中砂 |
| 8, 10YR2/1 黒 シルト質粘土 | 19, 7.5Y4/1 灰 細砂～極細砂 | ⑦5B7/1 明青灰 シルト質粘土 |
| 9, 5Y3/2 オリーブ黒 極細砂質シルト | 20, 7.5Y6/1 灰 シルト～細砂、粗砂 | ⑧5Y5/1 灰 シルト質粘土 |
| 10, 5Y7/3 浅黄 細砂質シルト | | ⑨10GY7/1 明緑灰 シルト質粘土 |
| 11, 2.5Y8/1 灰白 粗砂～細砂の互層 | | ⑩10YR4/1 褐灰 シルト質粘土 |
| | | ⑪5G7/1 明緑灰 極細砂質シルト |
| | | ⑫5G7/1 明緑灰 粗砂～中砂 |

図 215 D0158 流路 断面図

壺 (296・297) がある。中にはヘラ記号を付すものがあり、特に 294 に付された S 字状の記号は、この時期に間々見られる龍を表すものの可能性がある。甕には口縁部をつまみ上げたり受口状をなすもの (270・271・285・328・335～338)、脚台がつくもの (347・348) 等が見られる。高杯は屈曲して外反する杯部のもの (274・289・349～355) が大半を占めるが、わずかに椀形の杯部のもの (275・356) もある。また口縁部外側に凹線を廻らせ屈曲部外面に刻目を施す特異な杯部のもの (353) もある。鉢は口縁部を直立ないしはやや内湾させるもの (276・369～371) と口縁部を外反させるもの (288・362～368) があり、有孔鉢 (264・277・372・373) もある。鉢は形状の違い以外にも、体部外面に叩き目を残すものやミガキ・ハケを施すものといった違いを見出すことができる。手焙形土器 (374～376) は鉢の可能性もある。

流路からは土器が大量に出土したが、弥生時代後期後半の所産になる土器で占められ、一括性の高い土器群と評価できる。当流路出土遺物は、建物群出土の遺物と時期的に齟齬はない。流路が機能していた段階に、周囲に建物群が形成されたものと判断する。翻って、流路から出土した土器群は周囲に形成された建物群に居住した人々によって投棄されたものと考えるが、完形品が多く、龍を表現したと見ら

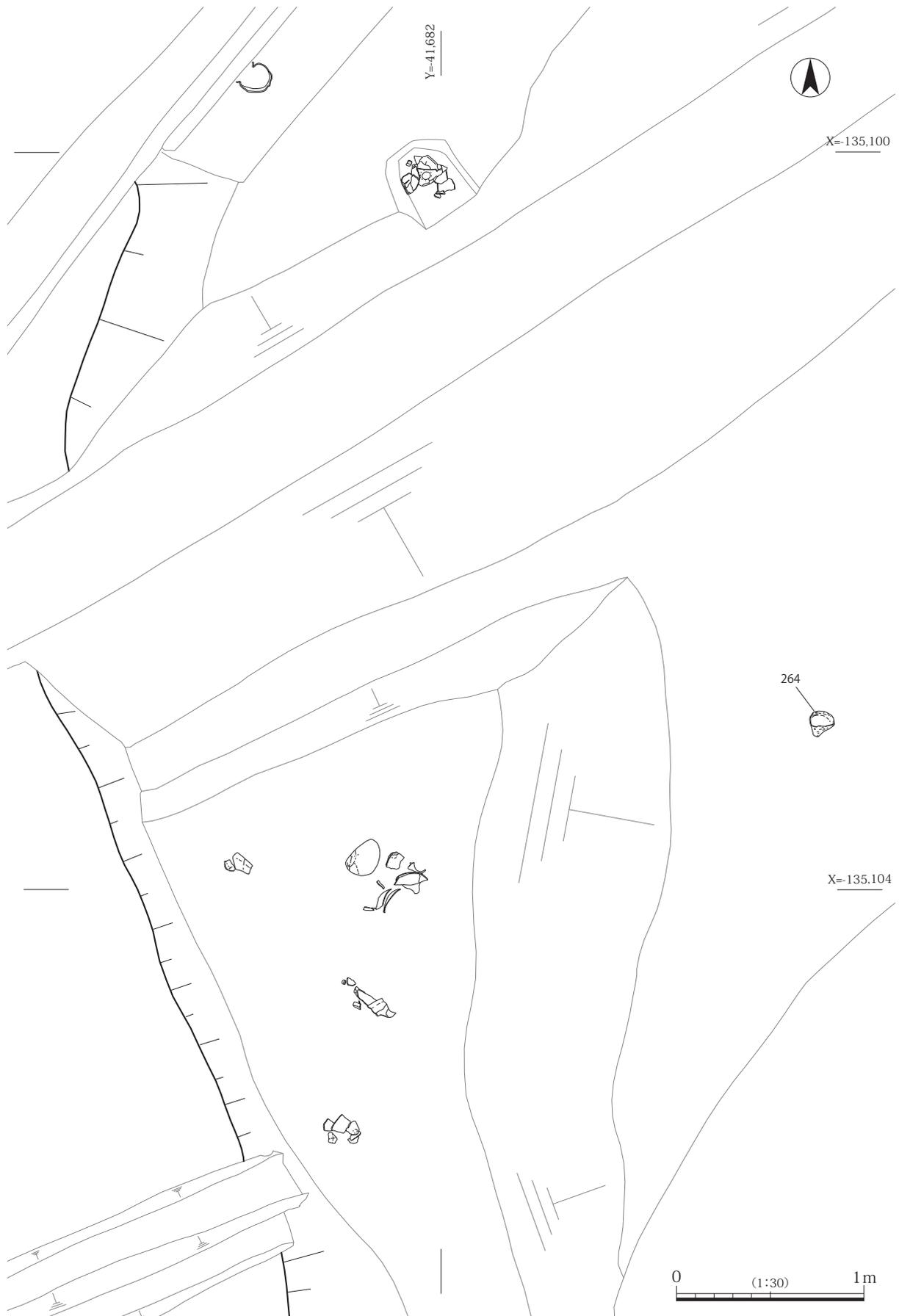


図 216 D0158 流路 土器群 1 土器出土状況

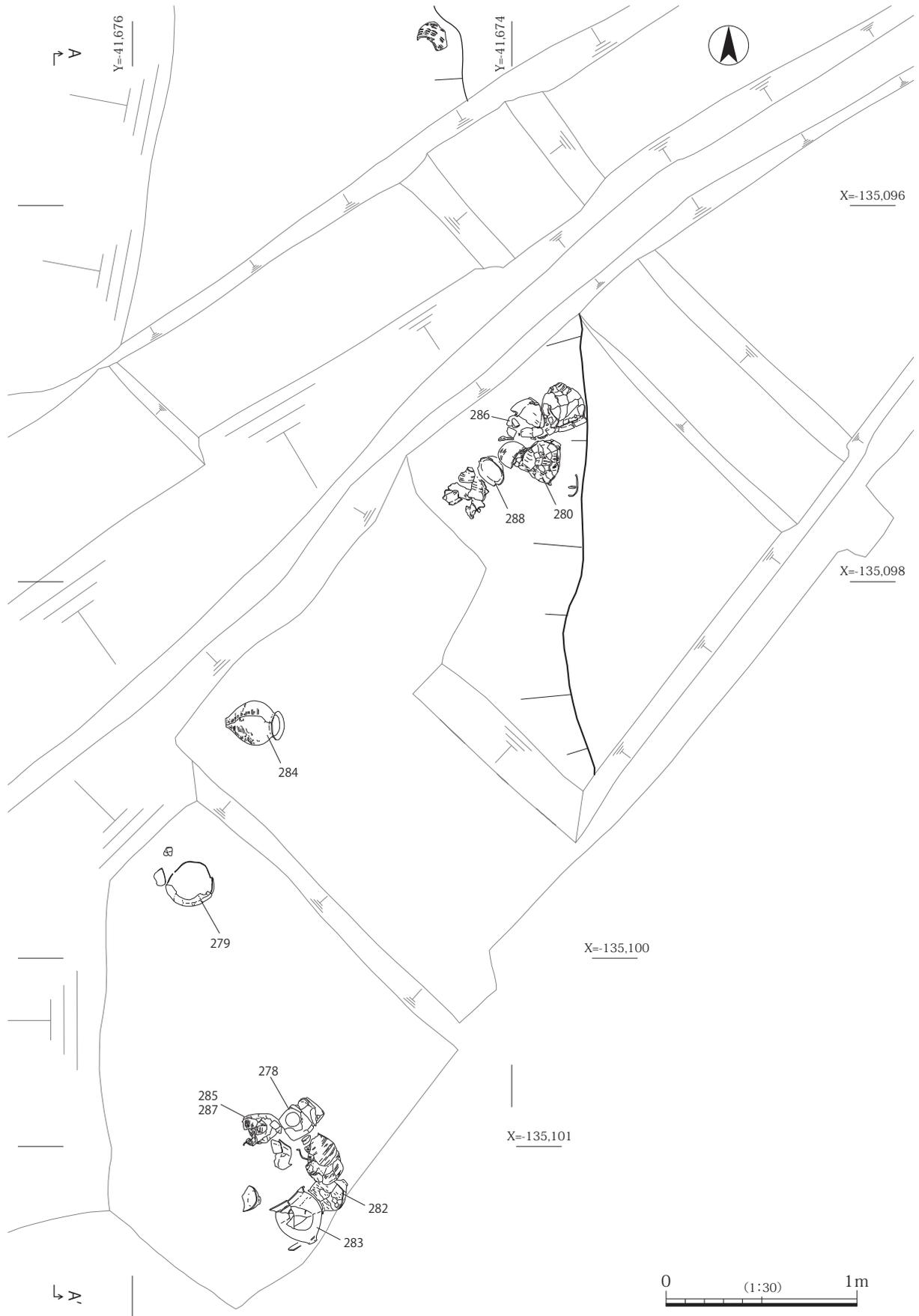


图 217 D0158 流路 土器群 2 土器出土状况



図 218 D0158 流路 土器群3 土器出土状況

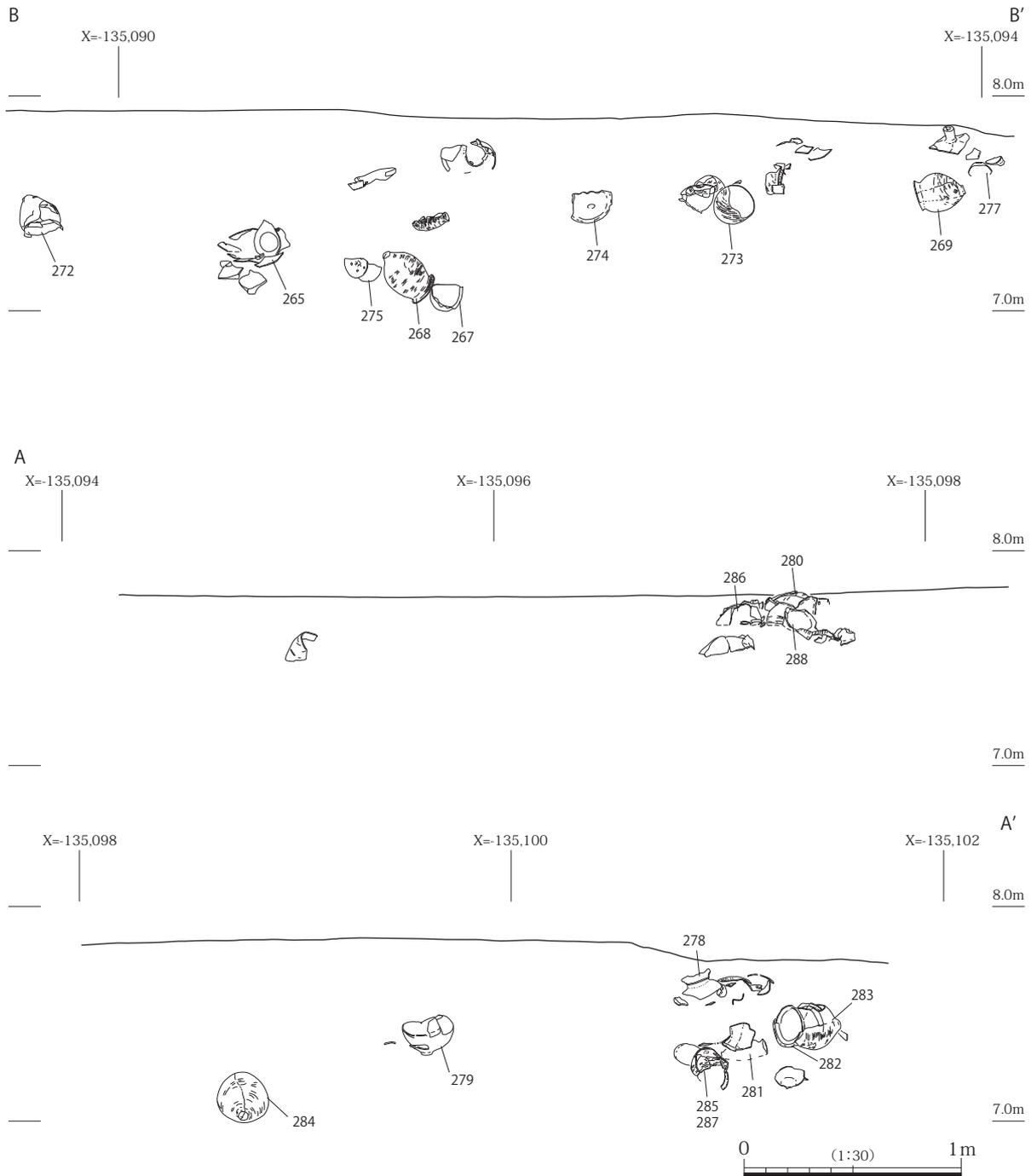


図 219 D0158 流路 土器出土状況立面図

れる記号を付した土器が出土していることから、祭祀に関わる土器群の可能性もあろう。

8055 流路（図 166・227～233・写真図版 104・105-3～8・158・159） 11-1:8-2 区・12-1:4-2 区・11-1:3-3 区で検出した流路を 8055 流路という遺構番号に統一して報告する。今回の調査では調査区ごとに遺構番号を付しているため、複数の調査区に跨って検出された遺構については異なる遺構名が付されることとなった。それは 11-1:8-2 区（8055 流路）、12-1:4-2 区（4165 流路）、11-1:3-3 区（3083 流路）として遺物ラベルに記載されている。基本的には調査時の遺構名をそのままにする方針で整理作業を行ったので、ここに付記し、付表の遺物観察表においても本来の遺構名がわかるようにした。

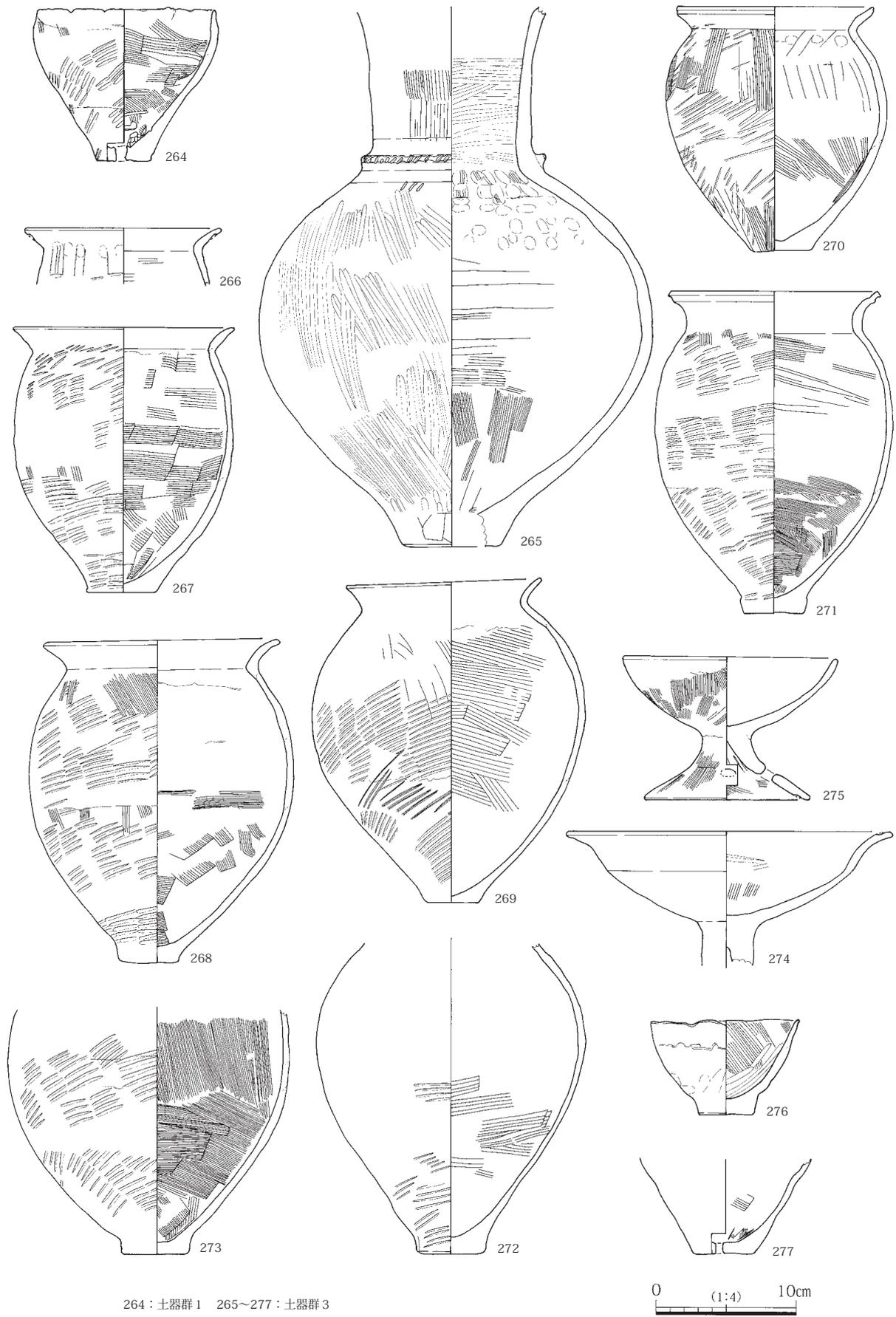


図220 D0158流路 出土遺物(1)

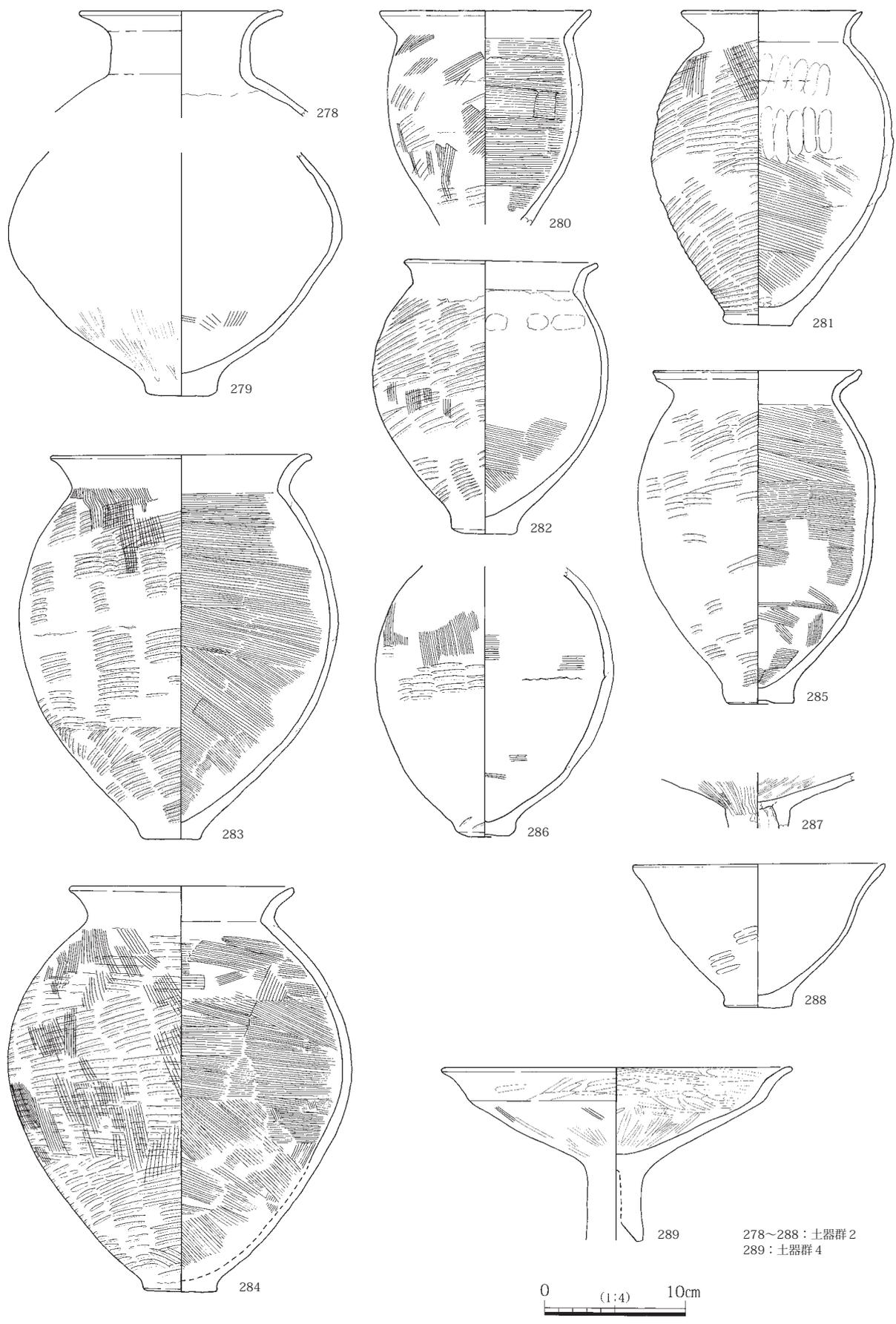


图 221 D0158 流路 出土遺物 (2)

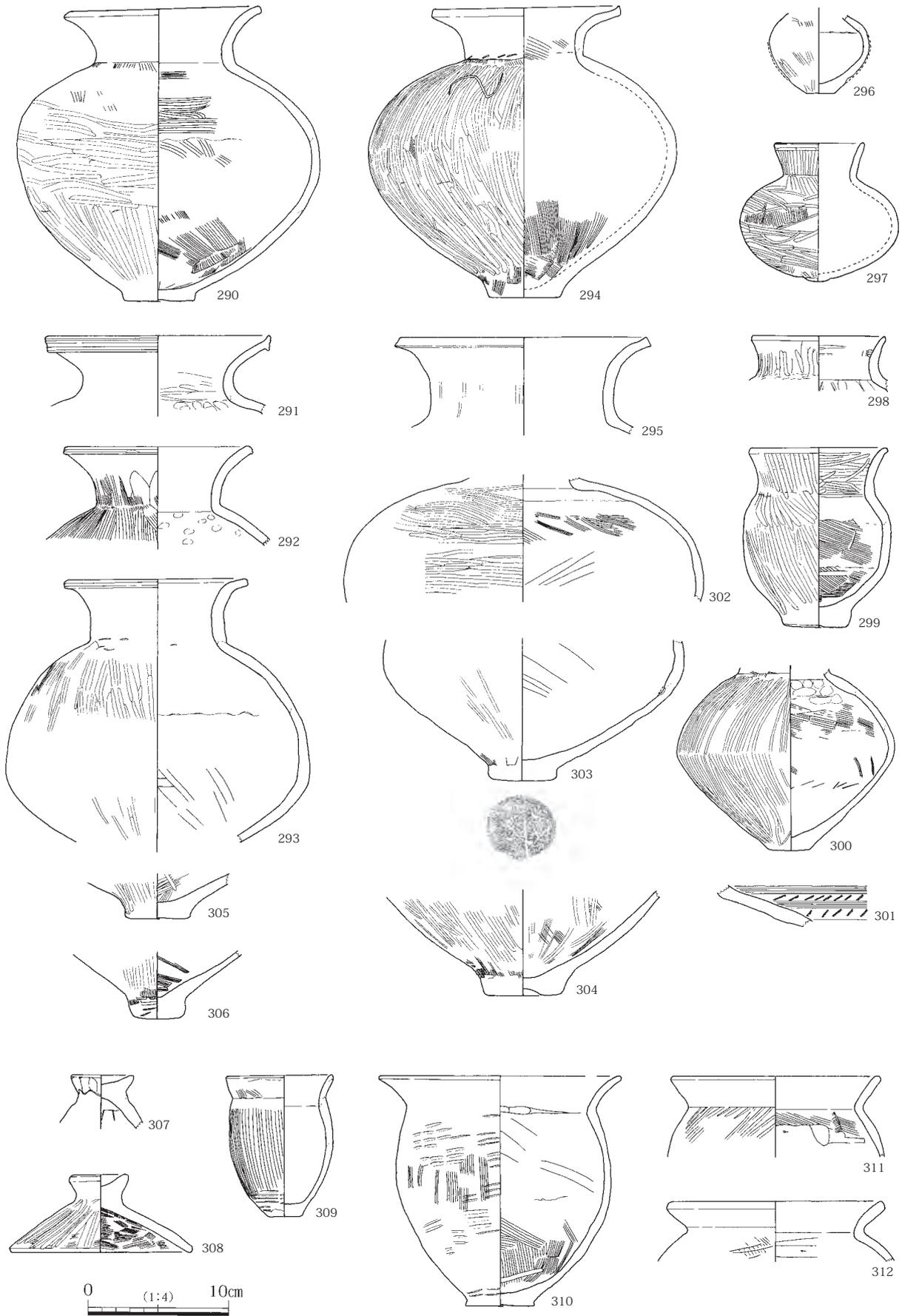


図 222 D0158 流路 出土遺物 (3)

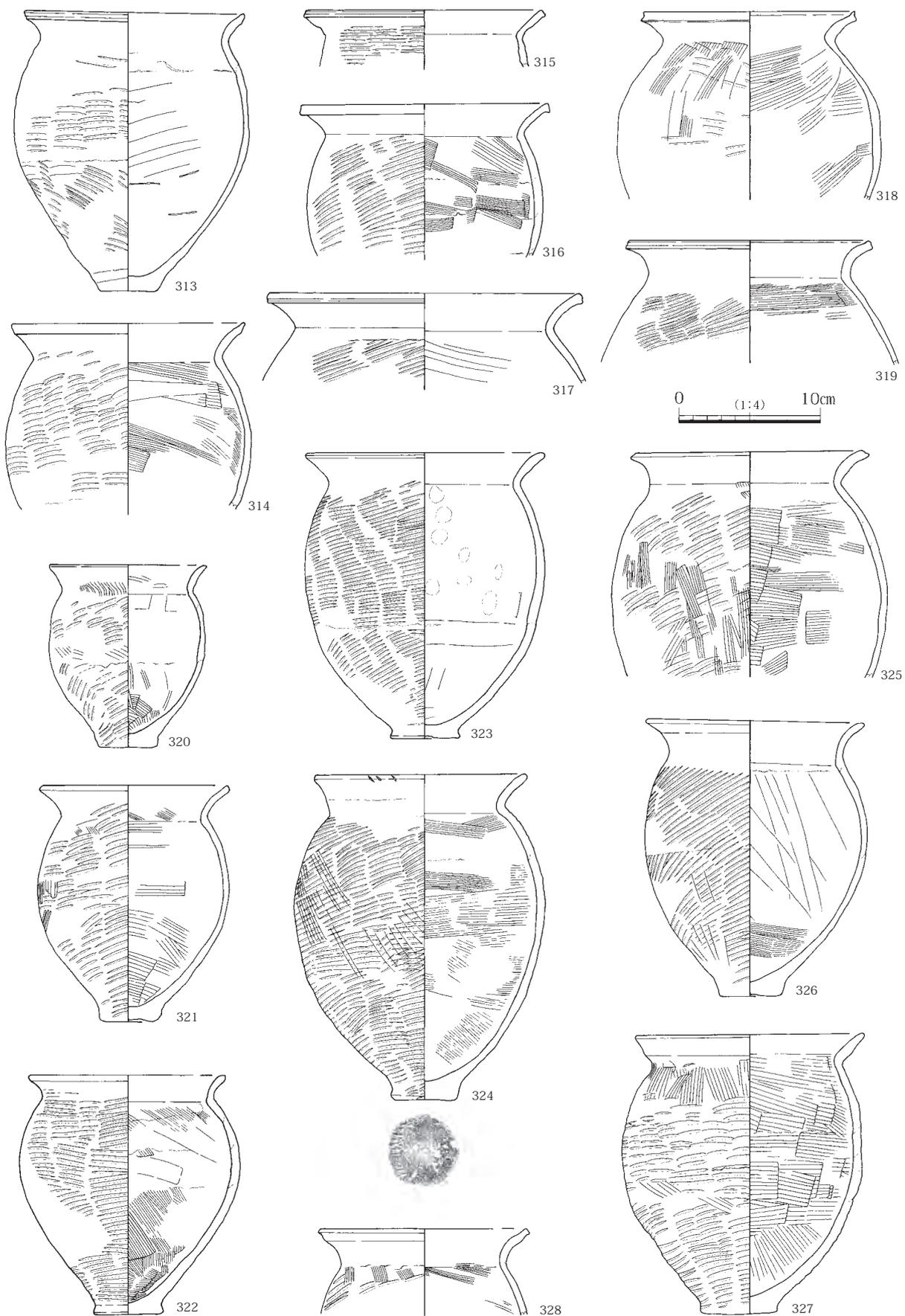


图 223 D0158 流路 出土遺物 (4)

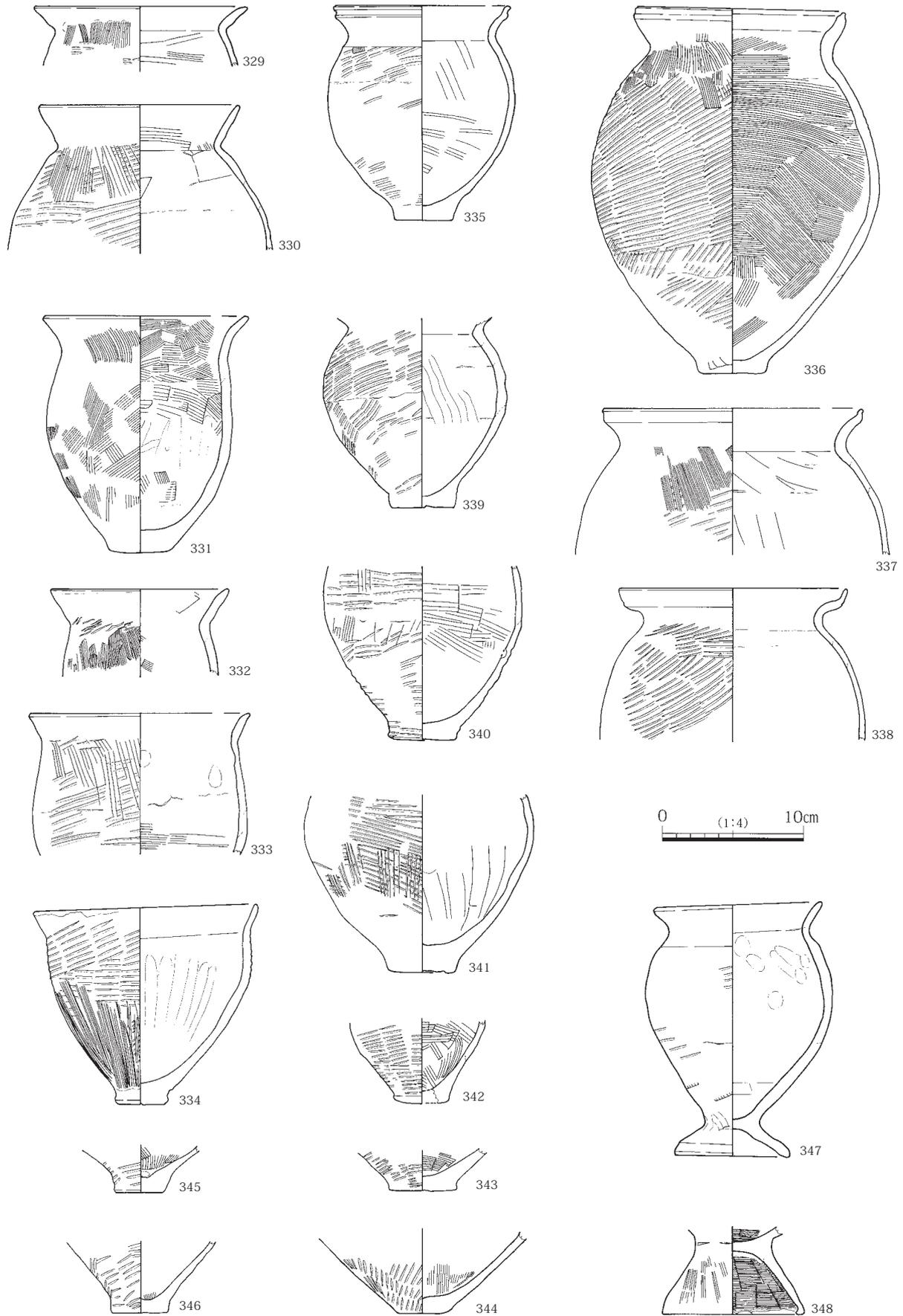


図 224 D0158 流路 出土遺物 (5)

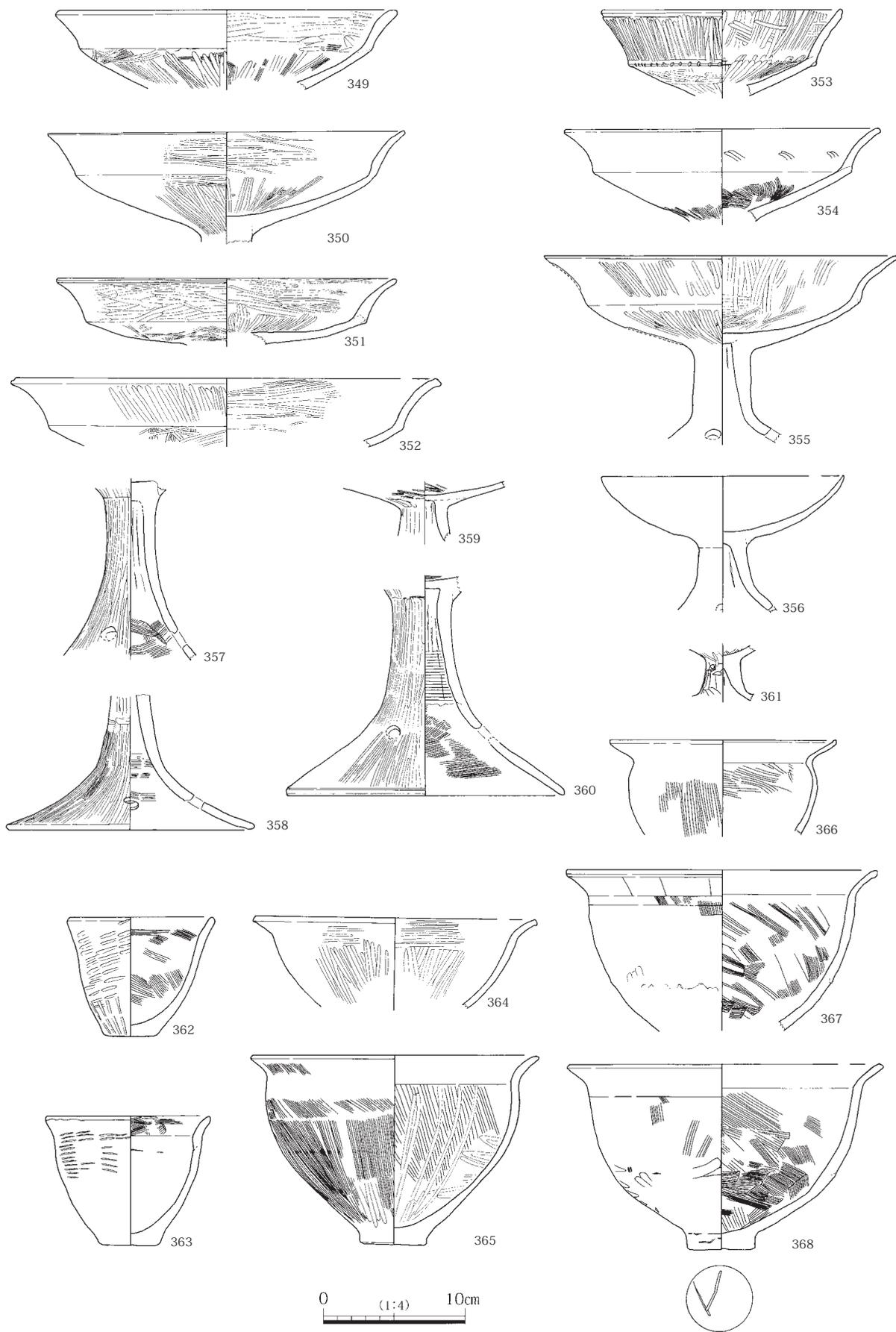


图 225 D0158 流路 出土遺物 (6)

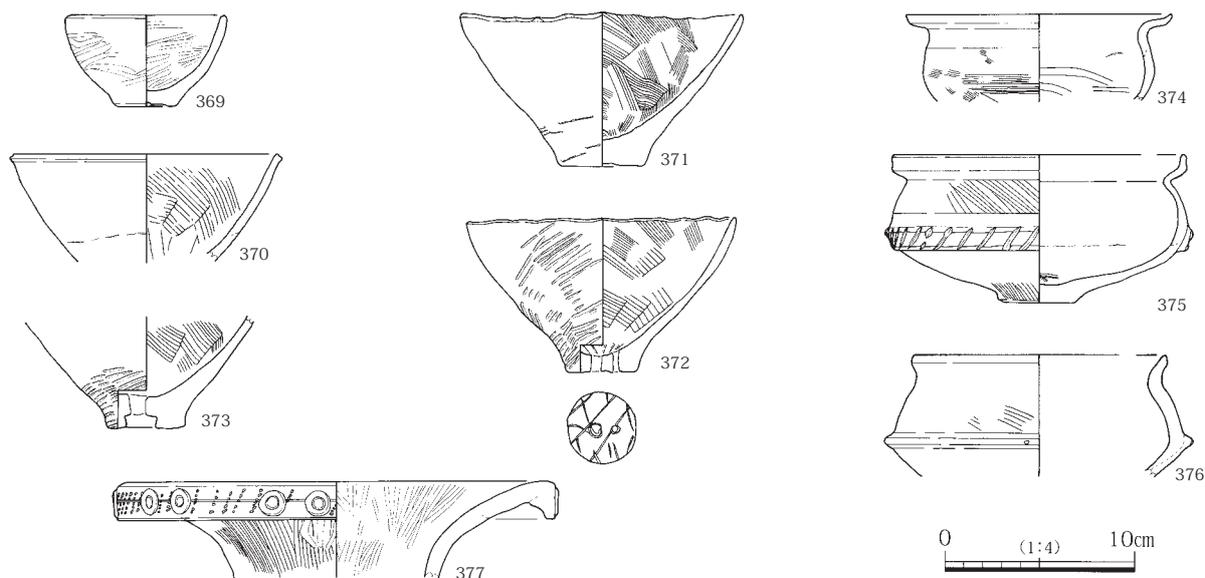


図 226 D0158 流路 出土遺物 (7)

当流路は地山上面で検出した。両端部が調査区外になり、大部分後世の流路によって削平されているため全容は明らかでないが、12-1:4-2 区では北西—南東方向を指向し、11-1:8-2 区・11-1:3-3 区では概ね南北方向を指向する。途中で方向を変えるようである。検出した部分の規模は、向い合う肩口を検出した所がないため、明らかにし得ないが、推定幅約 20～25 m、深さ約 3 m を測り、検出長約 32 m である。断面形は不明であるが、埋土は細礫～細砂を主体とし、所々に木葉など植物遺体の溜まりが形成されていた。周辺地形を勘案すれば北から南へ流水があったと想定される。流路断面の観察から、砂礫によりある程度埋没した後、図 228 断面 9・10 層（図 162 断面 23・25 層）のシルト～粘土及びその上部の図 228 断面 7・8 層（図 162 断面 21・22 層）の堆積により埋没したと考えられる。同様の層が 12-1:4-2 区の図 163 断面 13・31 層及び断面 21・22 層においても確認されたが、後世の流路により分断されているため、厳密に同一層かどうかの判断はできない。ただ、図 228 断面 10 層・図 162 断面 25 層と図 163 断面 31 層からは、同時期の土器がまとまって出土しており（図 229、写真図版 105-7・8）、その層を黒色土壌化層（図 228 断面 9 層・図 162 断面 23 層）が覆う状況は極めて似ることから、今回の調査においては西岸と東岸で検出したこれらの層を同一層と想定しておきたい。

遺物は、流路中央部分が後世の流路により削平されたため、東岸と西岸を中心に出土した。当流路から出土した遺物について、図化し得たものを図 230～233 に示す。出土遺物は、弥生土器の壺・甕・高杯・鉢・手焙形土器、砥石等がある。器形の判明するものとして、壺には広口壺（378～384）・二重口縁壺（387）がある。甕には口縁部をつまみ上げたり受口状をなすもの（395・399）が見られる。高杯は屈曲して外反する杯部のもの（400～403）が大半を占める。鉢は口縁部を直立ないしはやや内湾させるもの（410～412）と口縁部を外反させるもの（413～416）があり、有孔鉢（419）もある。鉢は形状の違い以外にも、体部外面にタタキ目を残すものやミガキ・ハケを施すといった調整の違いを見出すことができる。

なお、当流路は後世の流路と重複し削平を受けているため、古墳時代に属する 7066 流路のうち 12-1:4-2 区（4143 流路）・11-1:8-1 区（8016 流路）で検出した部分と、古代に属する 3077 流路のうち

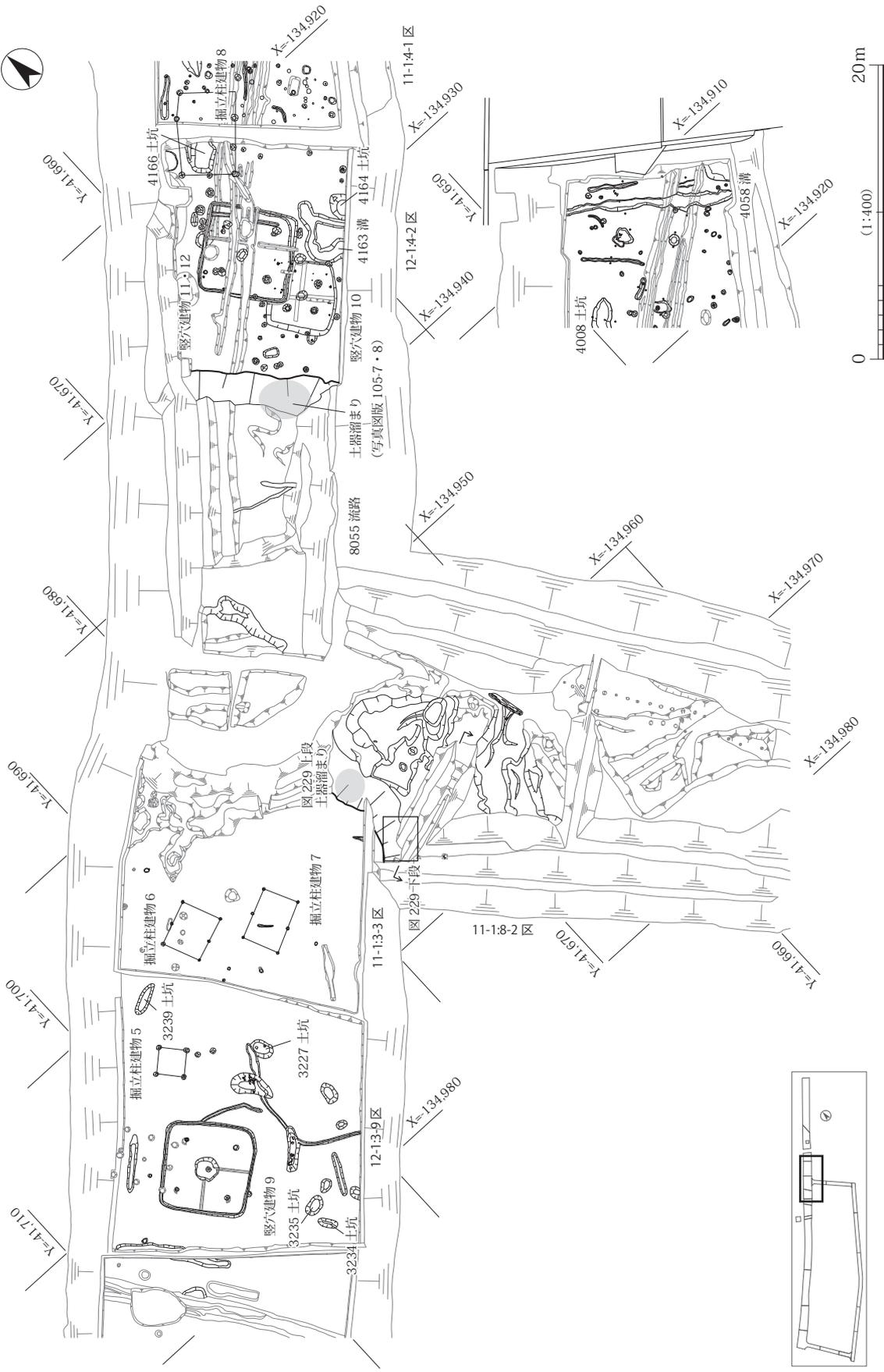
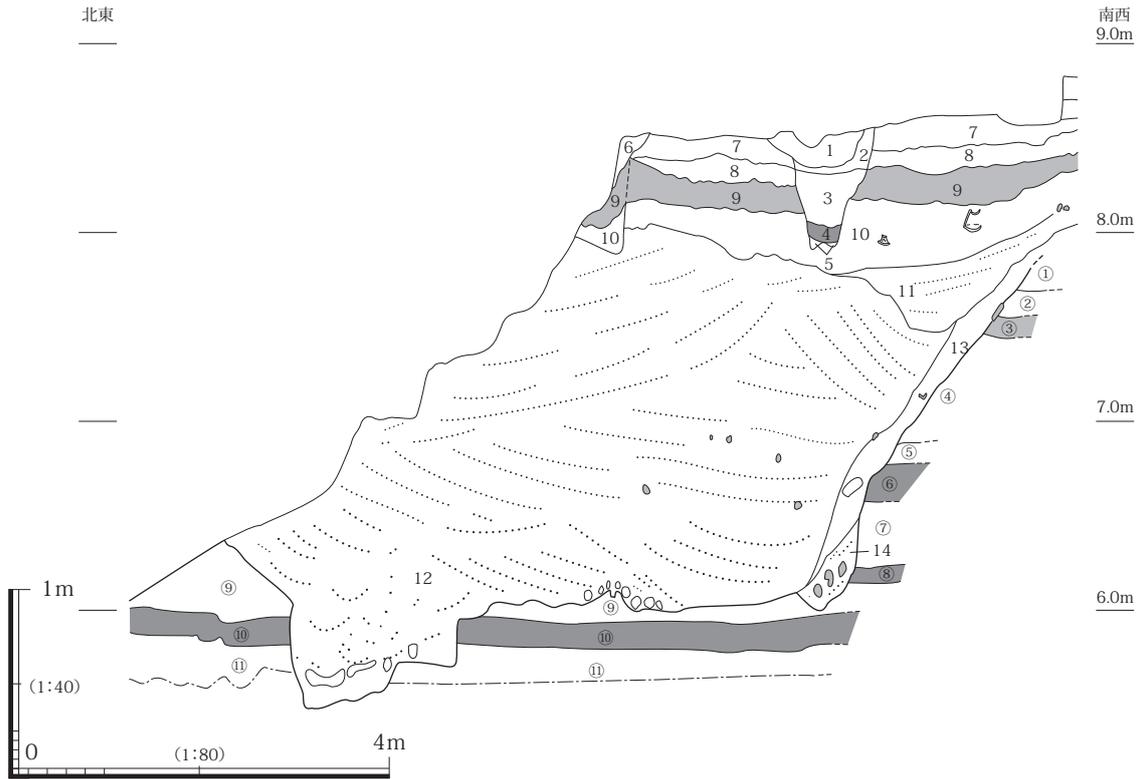


図 227 8055 流路ほか 平面図



- | | |
|---|--|
| <p>1, 2.5Y8/2 灰白 粗砂～中砂～細砂 (上方粗粒化) (Fe 顕著) (8051 溝埋土)</p> <p>2, 2.5Y7/2 灰黄 細砂～極細砂～シルト (Fe 顕著) (8051 溝埋土)</p> <p>3, 5Y3/1 オリーブ黒 極細砂質シルトに 5Y8/1 灰白 細～極細砂ブロック混合 (腐植物あり) (いずれも 1cm 以下大の細かいブロック状にみえる) (8051 溝埋土)</p> <p>4, 7.5Y2/1 黒 シルト質粘土ブロック, 7.5Y7/1 灰白 シルト質粘土ブロック, 5Y3/1 オリーブ黒 極細砂質シルトブロック混合 (いずれも 1cm 以下大) (8051 溝埋土)</p> <p>5, 7.5Y8/1 灰白 中～細砂 (8051 溝埋土)</p> <p>6, 7.5Y6/2 灰オリーブ 細礫～中砂質シルト (3077 (8052) 流路埋土)</p> <p>7, 7.5Y6/2 灰オリーブ 中砂～細砂</p> <p>8, 7.5Y5/1 灰 極細砂質シルト</p> <p>9, 2.5Y4/1 黄灰 シルト質粘土</p> <p>10, 7.5Y6/1 灰 粘質シルト</p> <p>11, 2.5GY6/1 オリーブ灰 極細砂～シルト (腐植物含む)</p> <p>12, 10Y8/1 ～ 7/1 灰白 中砂～粗砂～極粗砂の互層 (ラミナ顕著) (最下部に ⑤, ⑥, ⑦, ⑧などが 10cm 大のブロック状にあり)</p> | <p>13, 2.5Y4/1 黄灰 細砂質シルト (炭化した木片含む)</p> <p>14, 2.5Y8/1 灰白 粗砂 (⑥の 10cm 大のブロック混じる)</p> <p>①, 5GY7/1 明オリーブ灰 細砂～中砂質シルト (地山)</p> <p>②, 2.5Y8/1 灰白 極粗砂～粗砂質シルト (地山)</p> <p>③, 10YR4/1 褐灰 粗砂～中砂質シルト (地山)</p> <p>④, 10Y6/2 オリーブ灰 中砂質シルト (地山)</p> <p>⑤, 10BG7/1 明青灰 シルト質粘土 (地山)</p> <p>⑥, 5Y3/1 オリーブ黒 シルト質粘土 (地山)</p> <p>⑦, 10BG7/1 明青灰 シルト質粘土 (地山)</p> <p>⑧, 2.5Y3/1 黒褐 極細砂混じりシルト質粘土 (地山)</p> <p>⑨, 10BG7/1 明青灰 シルト質粘土 (地山)</p> <p>⑩, 5Y3/1 オリーブ黒 細砂質シルト (地山)</p> <p>⑪, 7.5GY7/1 明緑灰 細砂～中砂 (地山)</p> |
|---|--|

図 228 8055 流路 断面図

11-1:8-2 区 (8052 流路)・12-1:4-2 区 (4141 流路) で検出した部分からも当該期の所産になる土器が多数出土している。それらの遺物は元来当流路に帰属するものと判断し、図化し得たものを一括してこの項で報告することとする。それらを図 232・233 に示す。器種構成は兩岸付近から出土したものと同様の状況で、時期は弥生時代前・中期所産になる 3 点を除き、概ね弥生時代後期後半に属す。しかし、庄内式期の所産になると考えられる土器が一定量含まれる点で、兩岸付近で出土した土器群との若干の差異を認め得る。

当流路からは土器が多量に出土した。弥生時代前期・中期所産になるものが数点含まれるが、大半は弥生時代後期後半の所産になる土器で占められ、一括性の高い土器群と評価できる。なお、当流路出土遺物は、付近で検出された建物群出土の遺物と时期的に齟齬はない。流路が機能していた段階に、周囲に建物群が形成されたものと判断する。この状況は前述した D0158 流路と同様で、流路の方向を鑑みると 2 つの流路は同一である蓋然性が高い。

5916 流路 (図 166・234～238、写真図版 106・159～161・190) 11-1:5-3 区において地山上面で検出

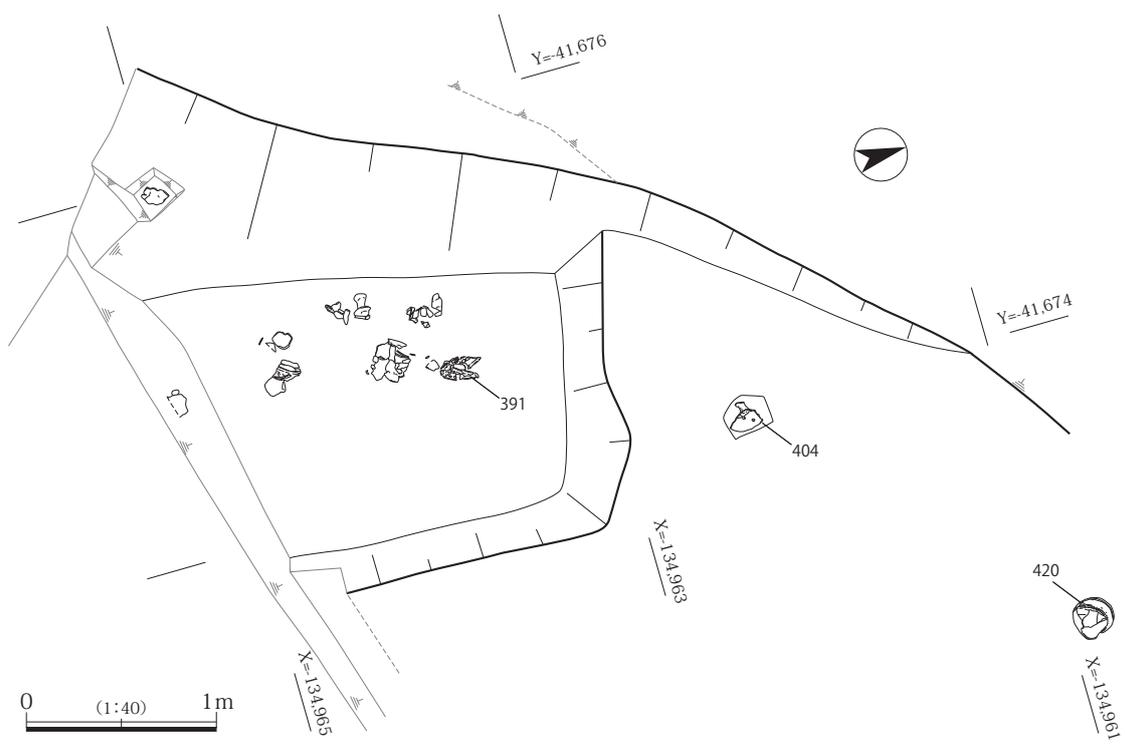
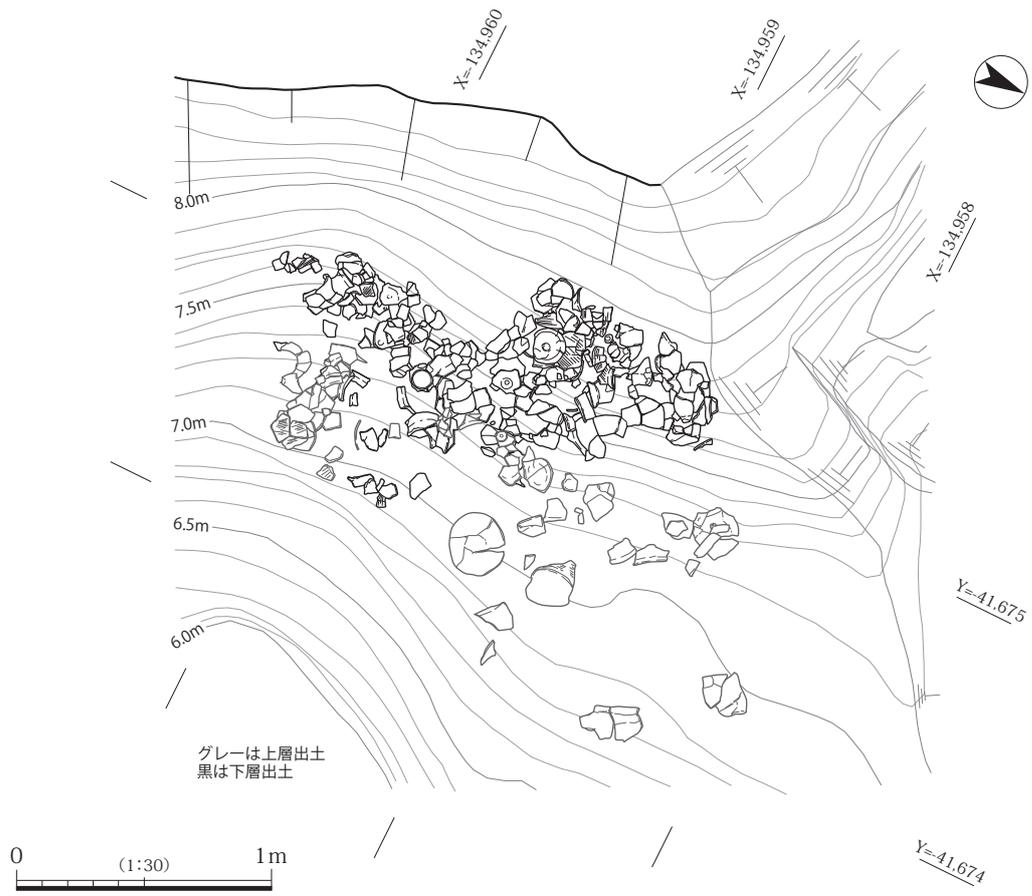


図 229 8055 流路 土器溜まりほか 遺物出土状況

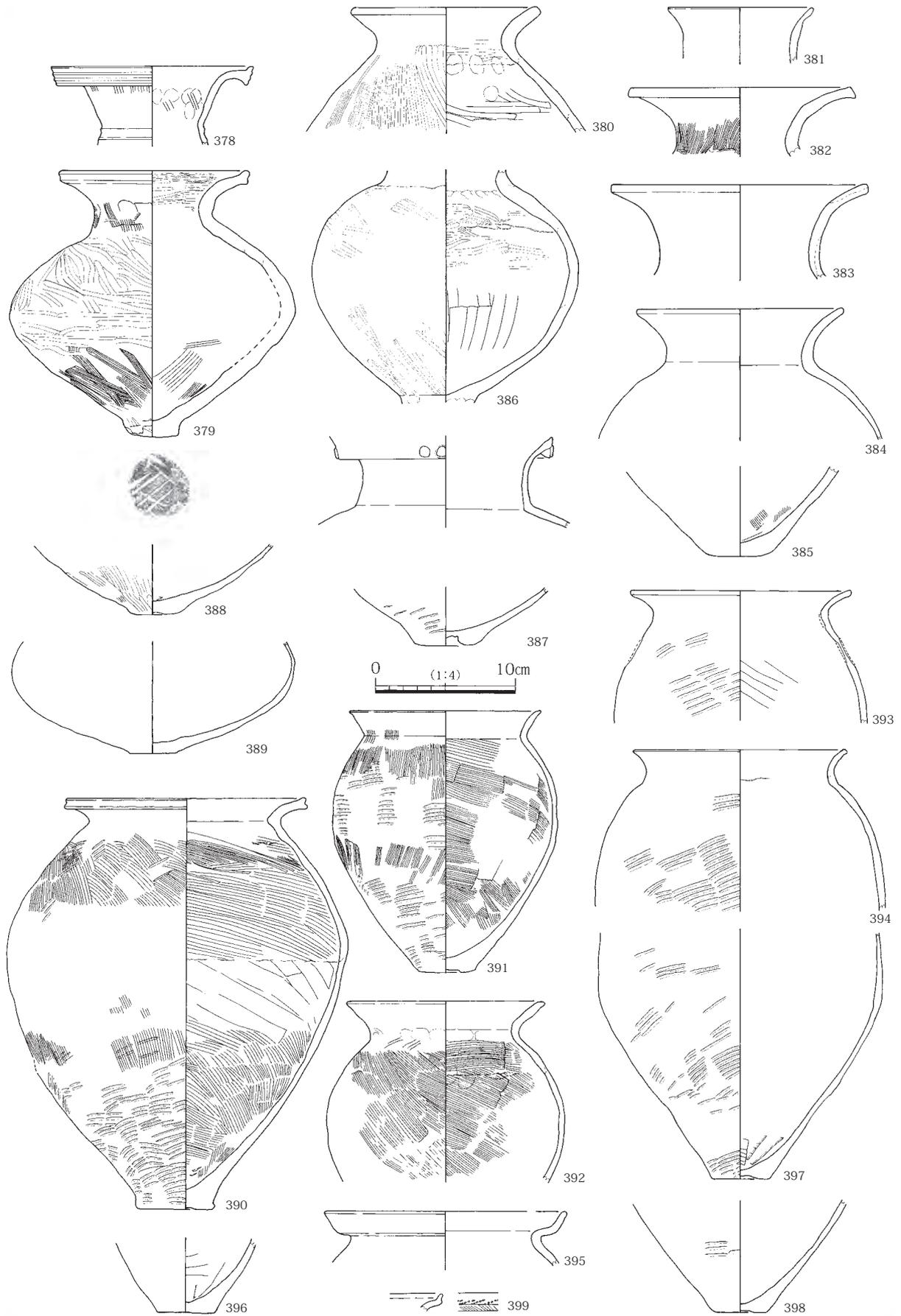


図 230 8055 流路 出土遺物 (1)

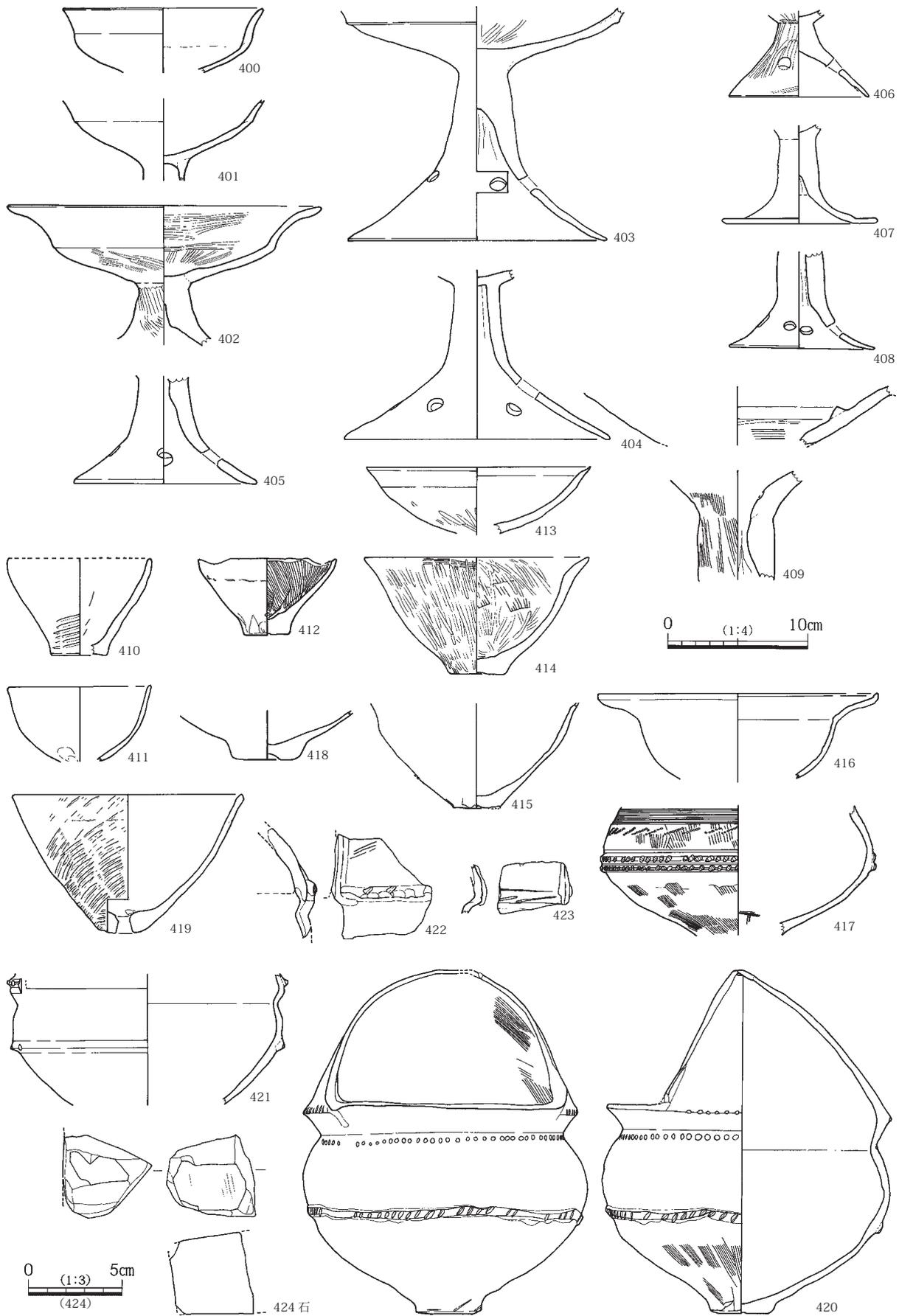


图 231 8055 流路 出土遺物 (2)

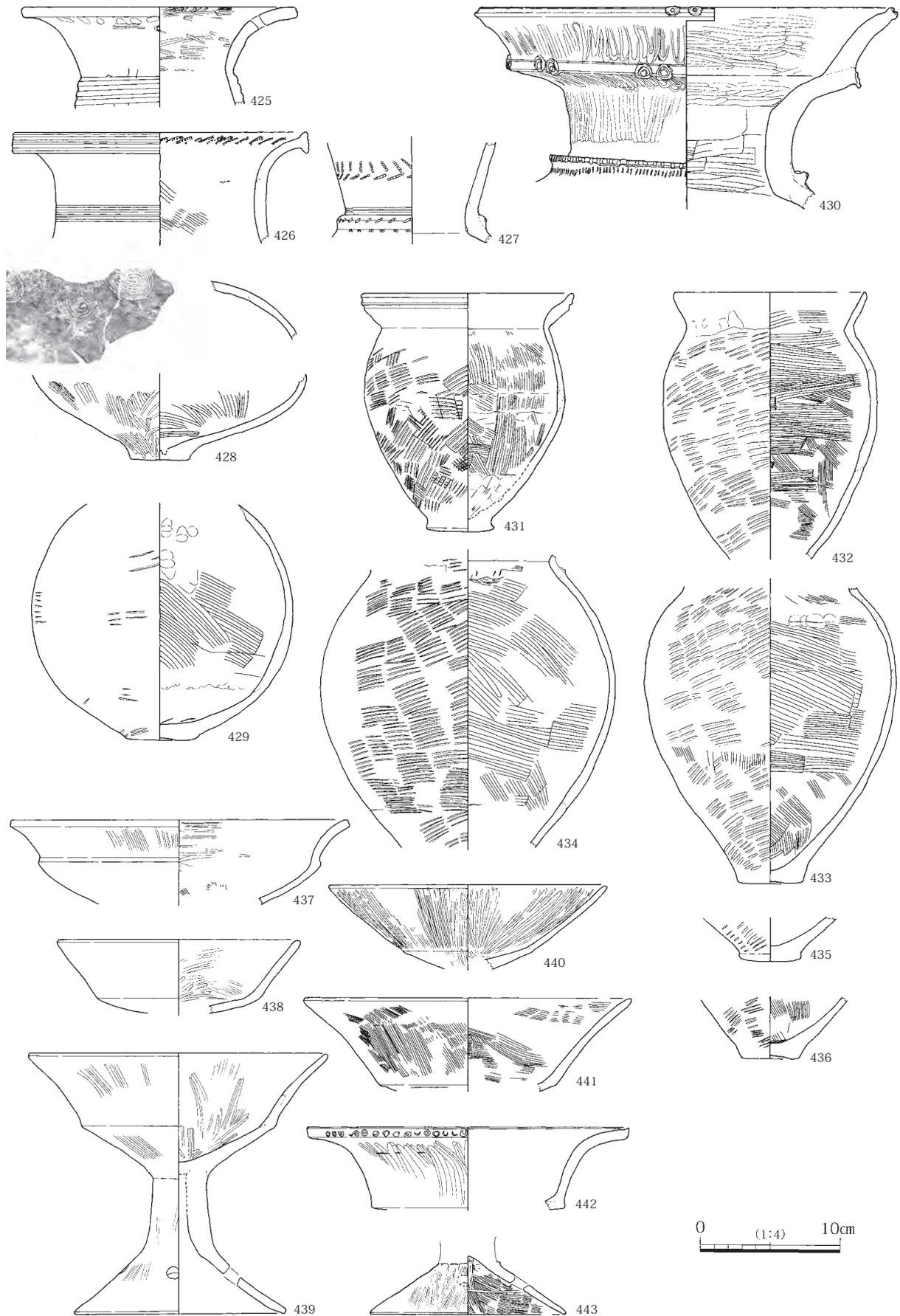


図 232 7066 流路出土弥生土器 (1)

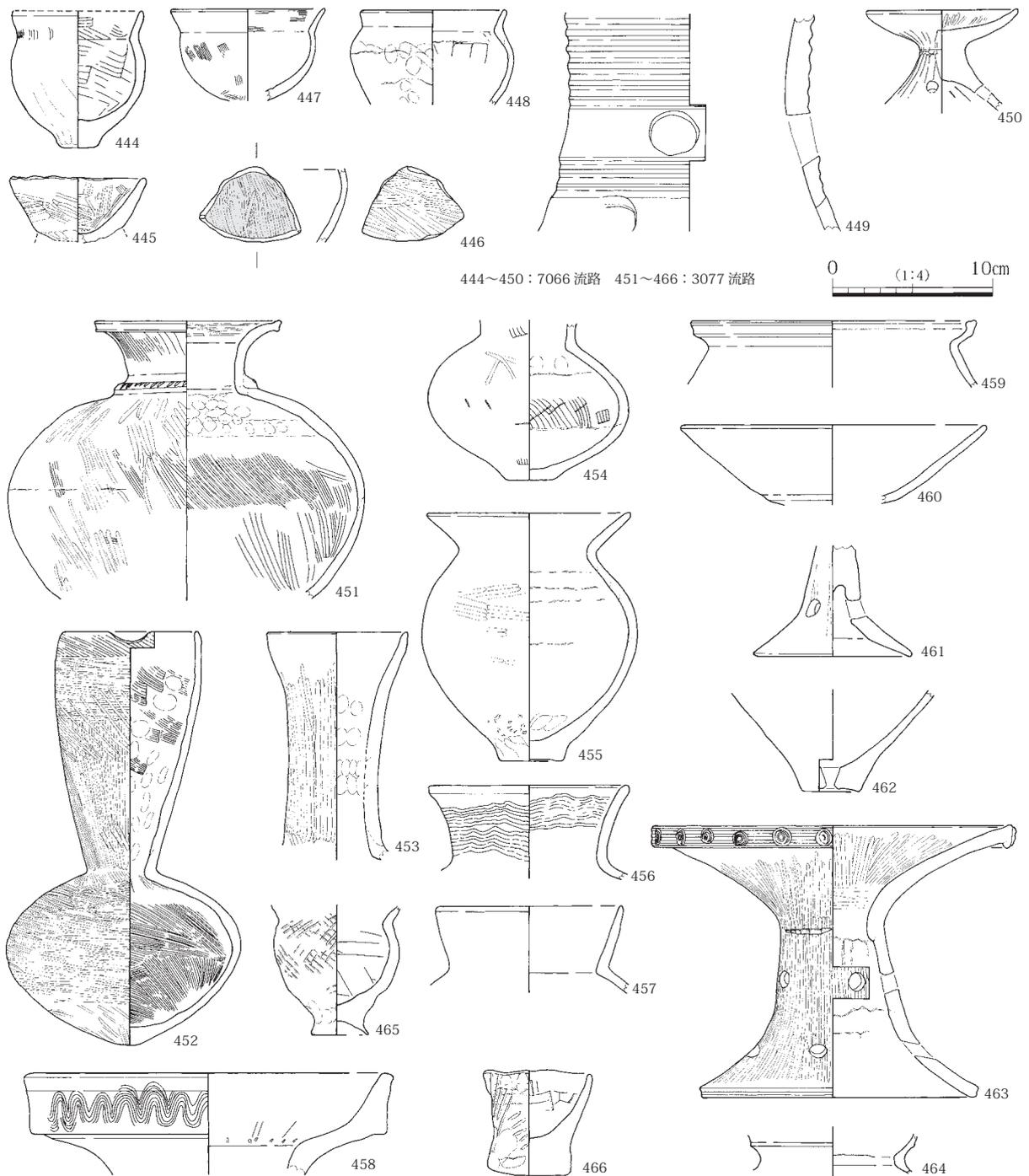


図 233 7066 流路出土弥生土器 (2)・3077 流路出土弥生土器

した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西—南東方向を指向する。当流路は2011年度に吹田信号場基盤整備工事に伴う発掘調査(大文セ第232集)によって、一定の高さまで調査が行われていた場所を、再度流路の掘削調査を行うよう大阪府教育委員会から指示を受けた部分を含む。そのため、流路の北東側の肩についてはすでに失われており、既往の発掘調査成果を参照して規模を推定しておく。

検出した部分の規模は、推定幅約20m、深さ約2mを測り、検出長約15mである。断面形は椀形で、埋土は極粗砂～細砂を主体とし、所々に木葉など植物遺体の溜まりが形成されていた。周辺地形を勘案

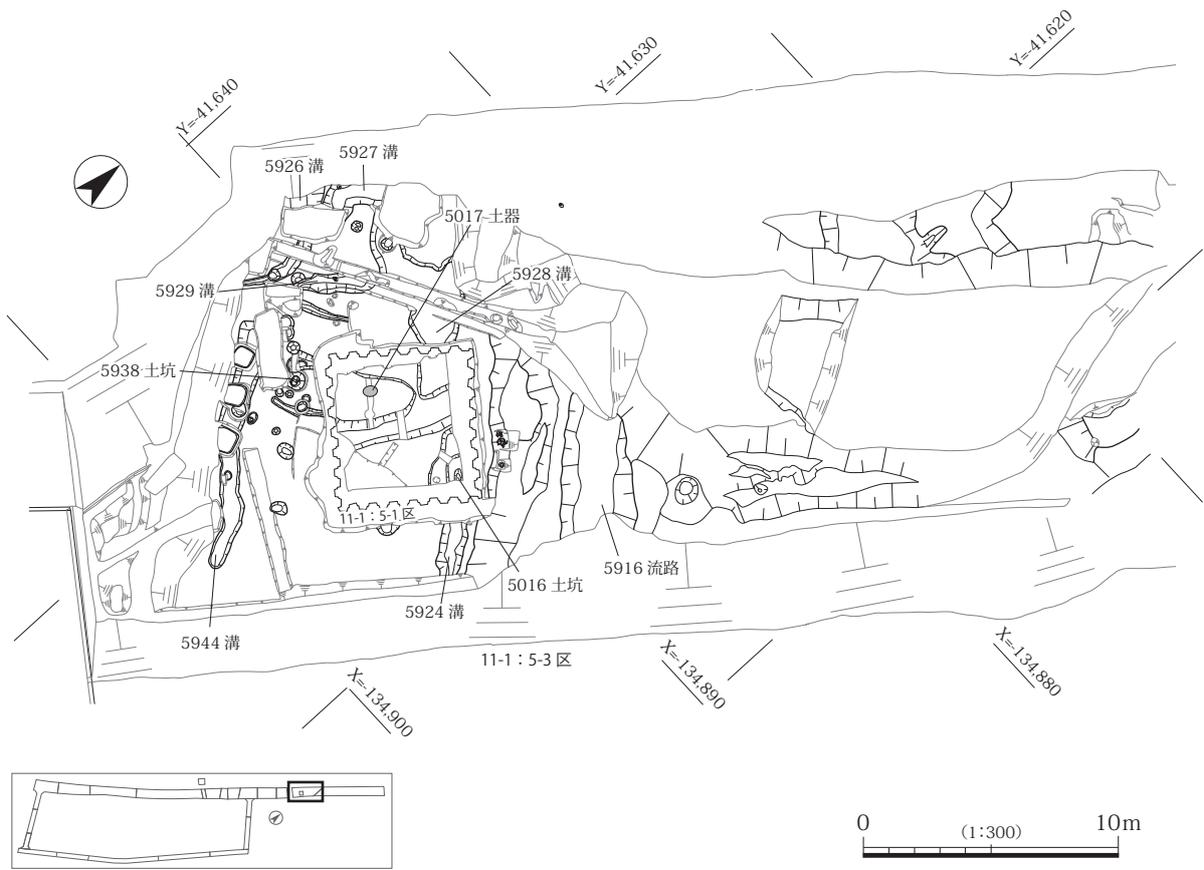


図 234 5916 流路ほか 11-1:5-1・5-3 区 地山上面 平面図

すれば、北西から南東への流水が想定される。流路断面の観察から、ある程度埋没した後、再び流水により、幅の狭い流路が形成され、埋没したようである。なお、流路埋土の最上層から古墳時代中期～後期の所産になる須恵器（図 285 - 1047・1048）が出土している。

この流路は弥生時代後期～古墳時代初頭にはその機能をほぼ停止して、古墳時代後期には完全に埋没していたものと考えられる。

北西岸の肩部において第 4-2 層が流路堆積物の間に認められることから、第 4-2 層堆積時に流路が機能しており側壁を抉ったことが想定されるが、肩部を明確にすることができなかつたため、第 4-2 層を除去した面での検出となった。

なお、当流路の下部にもう一つ別の流路があることが判明した。調査の安全上一部を検出したに止まるが、北東-南西方向を指向するようである。弥生土器かと思われる土器片が出土したが、詳細な時期は不明である。検出した部分においては遺物を多量に含む状況は確認されなかつた。

当流路から出土した遺物について、図化し得たものを図 236～238 に示す。出土遺物は、弥生土器の壺・甕・高杯・鉢・器台、製塩土器、木製品等がある。器形の判明するものとして、壺には広口壺（467・469～471）・二重口縁壺（472～477）があり、他地域産もしくは他地域系の可能性がある土器も出土している（475・477・484～486）。甕には内面にヘラケズリを施し器壁が薄いもの（501～503）が見られる。高杯は屈曲して外反する杯部のもの（504～507）が大半を占めるが、形態は様々で文様を施

北東

南西
10.0m



1. 2.5Y4/1 黄灰 極粗砂混じり細砂質シルト
2. 2.5Y7/2 灰黄 極粗砂混じり細砂質シルト
3. 2.5Y6/1 黄灰 中礫～細礫混じりシルト質細砂 (シルトブロック混在)
4. 7.5YR8/2 灰白 中礫～シルト (ラミナ顕著) (5708 流路)
5. 2.5Y7/3 浅黄 極粗砂混じり細砂質シルト
6. 2.5Y6/2 灰黄 細礫～極粗砂混じり細砂質シルト (シルト質砂か)
7. 5Y7/3 浅黄 細砂～中砂 (5708 流路) によっては ぎだされたものか)
8. 5Y6/2 灰オリーブ 細礫～粗砂混じり細砂質シルト (5746 落込み埋土)
9. 10YR6/3 にぶい黄 細礫混じり中砂～細砂ブロックとシルトブロック混合 (5746 落込み埋土)
10. 2.5Y6/3 にぶい黄 極粗砂混じり細砂とシルトブロックの混合 (5746 落込み埋土)
11. 7.5Y5/1 灰 細礫混じり中砂～細砂と細砂質シルトブロック混合 (5746 落込み埋土)
12. 5Y6/3 オリーブ黄 中～細礫混じり細砂と細砂質シルトのブロック混合 (5746 落込み埋土)
13. 10YR3/1 黒褐 細礫～極粗砂混じり中砂質シルト (5746 落込み埋土)
14. 2.5Y6/2 灰黄 細礫～極粗砂混じり砂質シルト
15. 2.5Y6/1 黄灰 粘質シルトブロックと中砂～細砂ブロックの混合
16. 2.5Y6/2 灰黄 細礫～極粗砂混じり細砂質シルト
17. 5Y6/2 灰白 細礫～極粗砂混じり細砂質シルト
18. 5Y6/1 灰 極粗砂混じり細砂質シルト
19. 2.5Y7/1 灰白 細砂 (ラミナ顕著)
20. 2.5Y6/2 灰黄 極粗砂混じり細砂ブロックとシルトブロック混合 (5746 落込み埋土)
21. 5Y6/1 灰白 細礫～極粗砂と 2.5Y3/1 黒褐 中砂混じり粘質シルトブロックと 5Y6/1 灰 細砂ブロックと 5Y8/1 灰白 極粗砂ブロックほかの混合
22. 5Y6/1 灰白 細礫～極粗砂と 5Y6/1 灰 細砂ブロックと 5Y8/1 灰白 極粗砂ブロックほかの混合
23. 2.5Y6/1 オリーブ灰 粘質シルト
24. 10Y5/1 灰 細礫～極粗砂混じり粘質シルトブロックと細砂ブロックの混合
25. 10YR6/1 褐灰 細礫～極粗砂混じり中砂～細砂
26. 2.5Y3/1 黒褐 細礫～極粗砂混じり中砂質シルト (5924 溝土か)
27. 2.5Y3/1 黒褐 細礫～極粗砂混じり細砂質シルト (第4.2層に相当か)
28. 5Y7/1 灰白 細砂～極細砂 (流路堆積物)
29. 2.5Y7/1 灰白 細砂～極細砂 (流路堆積物) (5916 流路)
30. 7.5Y4/1 灰 中砂と細砂質シルトブロックの混合 (5916 流路)
31. 2.5Y6/3 にぶい黄 細礫混じり中砂
32. 2.5Y8/4 淡黄 細礫混じり中砂
33. 2.5Y6/2 灰黄 極粗砂混じり細砂質シルト
34. 10YR4/1 ～5/1 褐灰 粗砂混じり中砂～細砂質シルト
35. 5Y6/2 灰オリーブ 粘質シルト (遺構埋土)
36. 5Y7/4 浅黄 中礫～細礫混じり粗砂～中砂 (遺構埋土)
37. 5Y6/2 灰オリーブ 中砂～細砂質シルト (遺構埋土)
38. 2.5Y4/1 黄灰 細砂質シルトブロックと 5Y6/2 灰オリーブシルトブロック混合 (灰土物含む) (遺構埋土)
39. 5Y6/2 灰オリーブ 中砂～細砂質シルト (遺構埋土)
40. 7.5Y6/2 灰オリーブ黄 細礫混じり細砂質シルト (遺構埋土)

図 235 5916 流路 断面図

58. 7.5Y5/2 灰オリーブ 粗砂混じり中砂質シルト (偽礫混じり)
59. 5Y7/1 灰白 粗砂～極粗砂 (流路堆積物)
60. 7.5YR3/1 黒褐 粗砂混じり中砂質シルト
61. 7.5Y6/2 灰オリーブ 粘質シルトブロックと中砂ブロックの混合
62. 5Y7/1 灰白 中礫～細礫 極粗砂～粗砂の互層 極粗砂～細砂の互層
63. 5Y6/1 灰白 シルト～極細砂と中砂～粗砂の互層
64. 5Y7/4 浅黄 細砂
65. 2.5Y4/1 黄灰 細砂～極細砂 (有機物、腐植物混じる)
66. 5Y6/1 灰白 中礫～細砂
67. 5Y8/1 灰白 中礫～細砂
68. 5Y7/1 灰白 中礫～細砂
- ① 2.5Y6/3 にぶい黄 細砂質シルト (地山)
- ② 10YR3/1 黒褐 細礫～極粗砂混じり極細砂質シルト (地山)
- ③ 2.5Y5/1 オリーブ灰 極細砂質シルト (地山)

41. 2.5Y7/2 灰黄 中砂混じり細砂質シルト (遺構埋土)
42. 2.5Y5/1 黄灰 細砂質シルト (遺構埋土)
43. 2.5Y6/3 にぶい黄 細砂質シルト (遺構埋土)
44. 5Y6/2 灰オリーブ 極細砂混じり極細砂質シルト 中砂ブロック含む (灰化物 or 腐植物含む) (遺構埋土)
45. 10YR5/1 褐灰 細砂質シルト (ピット埋土)
46. 10YR5/1 褐灰 細砂質シルト (ピット埋土)
47. 5Y6/4 オリーブ黄 中砂ブロック混じり細砂質シルト (遺構埋土)
48. 5Y6/2 灰オリーブ 細砂質シルト (遺構埋土)
49. 5Y7/3 浅黄 細砂 (遺構埋土)
50. 5Y5/2 灰オリーブ 細砂質シルト (遺構埋土)
51. 2.5Y7/4 浅黄 中砂～細砂 (プライマリーではない) (遺構埋土)
52. 5Y5/2 灰オリーブ 中砂混じり細砂質シルト (遺構埋土)
53. 5Y5/2 灰オリーブ 中砂混じり極細砂質シルト
54. 2.5Y4/2 暗灰黄 粗砂混じり極細砂質シルト
55. 5Y6/1 灰 細礫混じり細砂質シルト
56. 5Y7/3 浅黄 極細砂質シルト
57. 5Y6/3 オリーブ黄 極細砂質シルト (61より締りがよい)

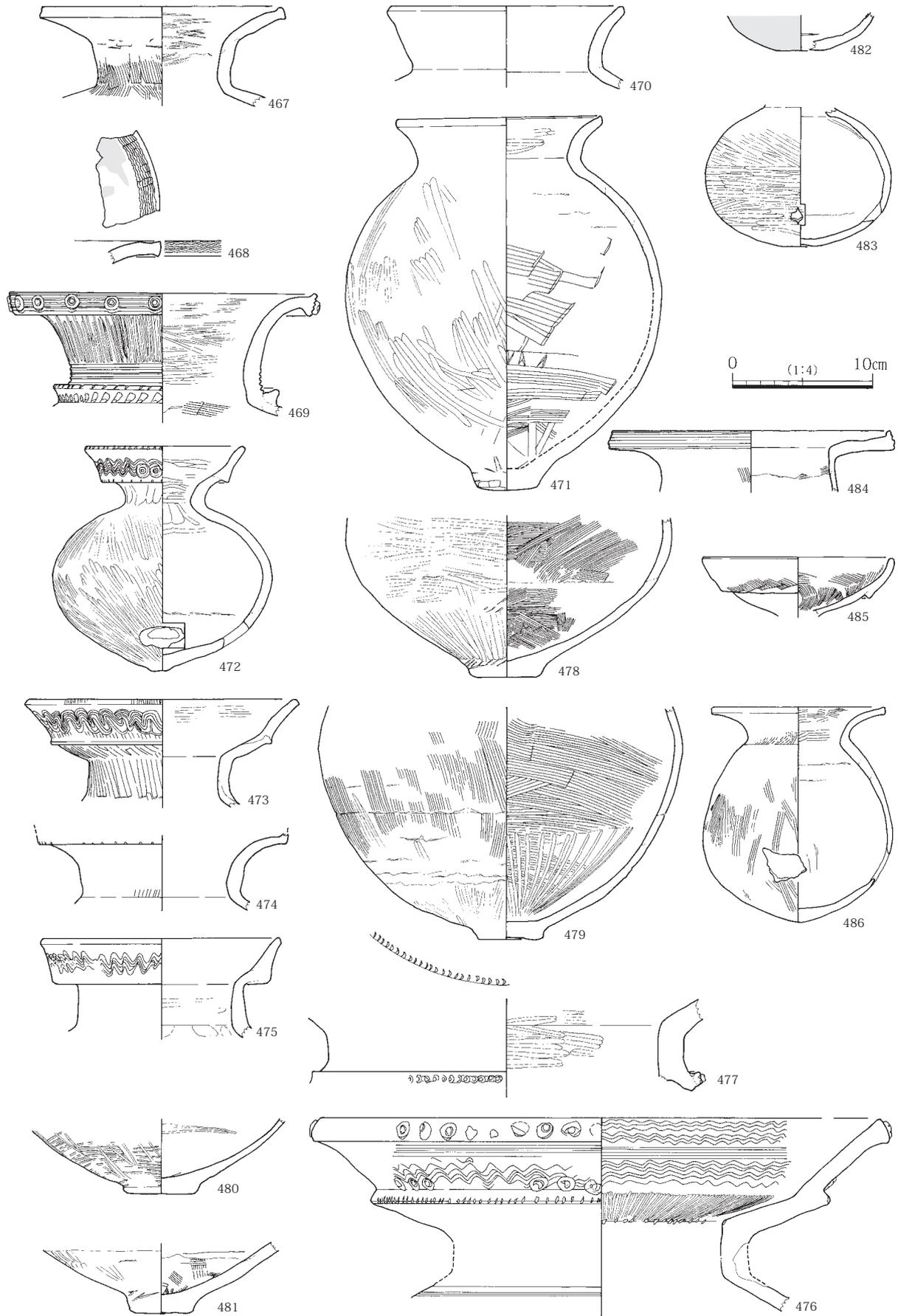


図 236 5916 流路 出土遺物 (1)

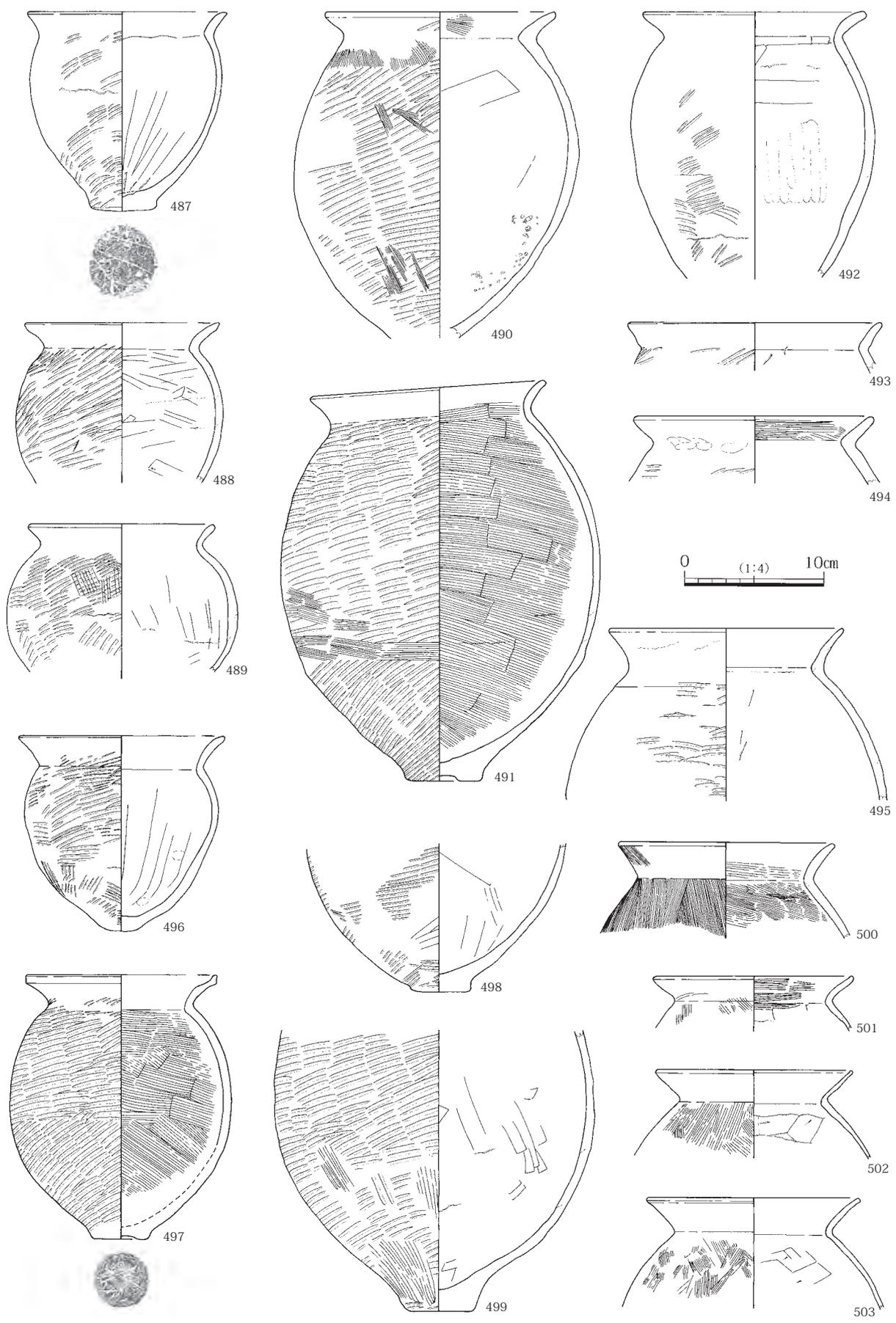


图 237 5916 流路 出土遺物 (2)

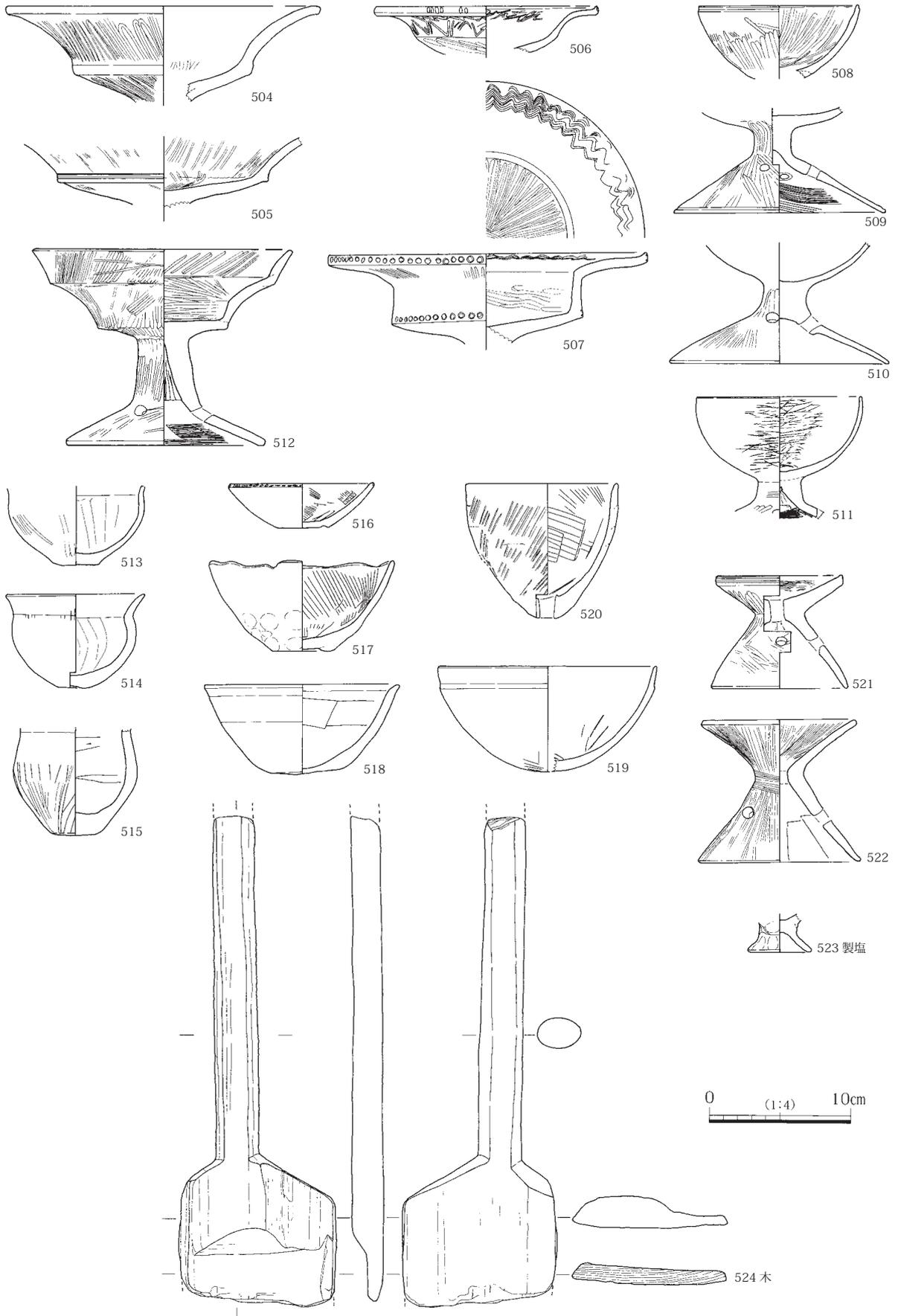


図 238 5916 流路 出土遺物 (3)

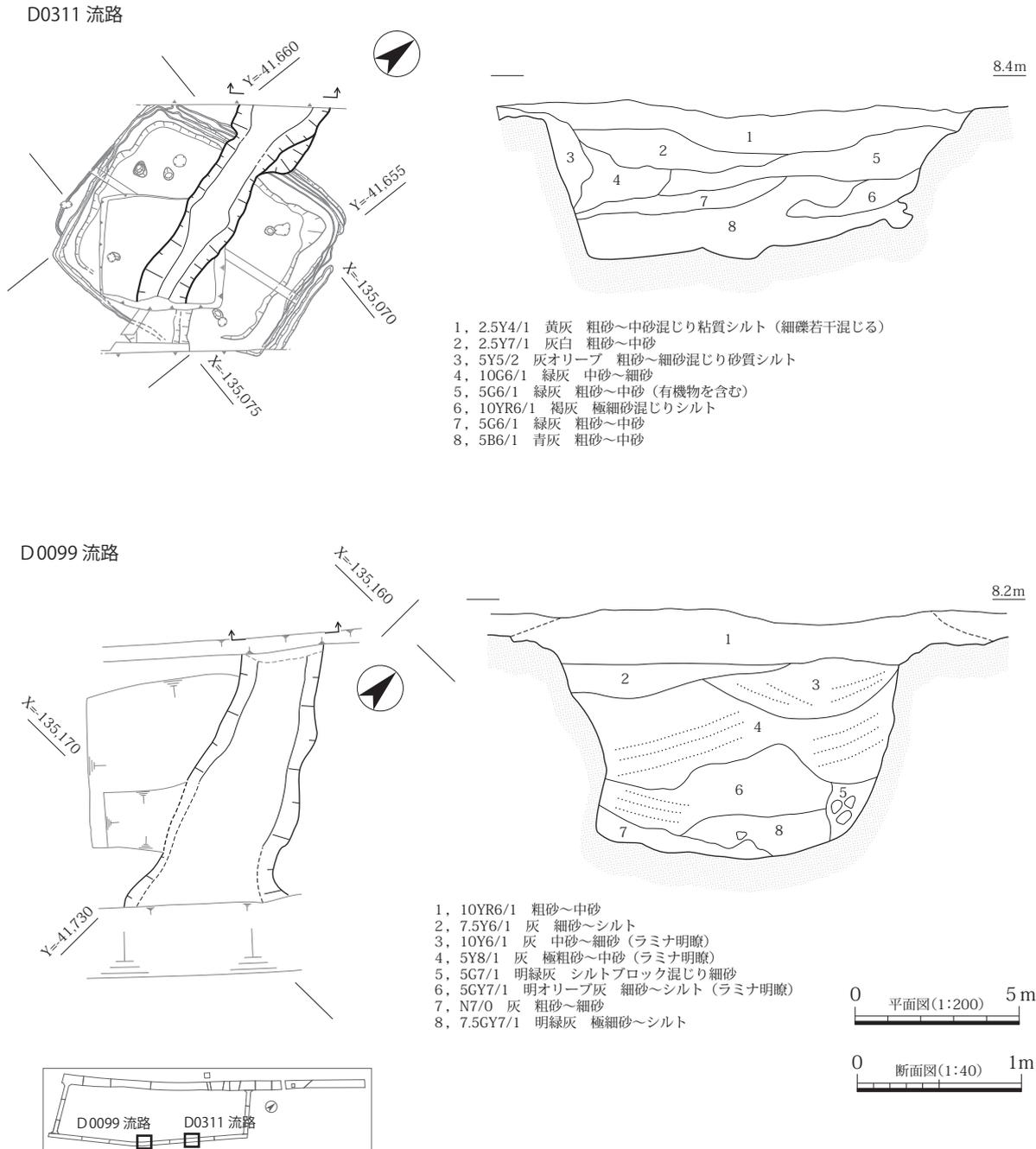


図 239 D0311・D0099 流路 平面図・断面図

すものもある。他地域系の高杯と思われるもの(512)もある。鉢は口縁部を直立たないしはやや内湾させるもの(517～519)と口縁部を外反させるもの(513～515)があり、有孔鉢(520)もある。器台は小型のものが見られる(521・522)。製塩土器は脚台式のものである(523)。土器以外に、鋤状の木製品(524)も出土している。

流路からは土器が大量に出土したが、弥生時代後期後半の所産になる土器で占められ、一定量の庄内式期所産の土器を含む。一括性の高い土器群と評価できる。当流路出土遺物は、近隣の建物群出土の遺物と時期的に齟齬はなく、流路が機能していた段階に、周囲に建物群が形成されたものと判断する。

なお、上述した3条の流路は出土遺物については若干の時期差があるようで、8055流路出土遺物に

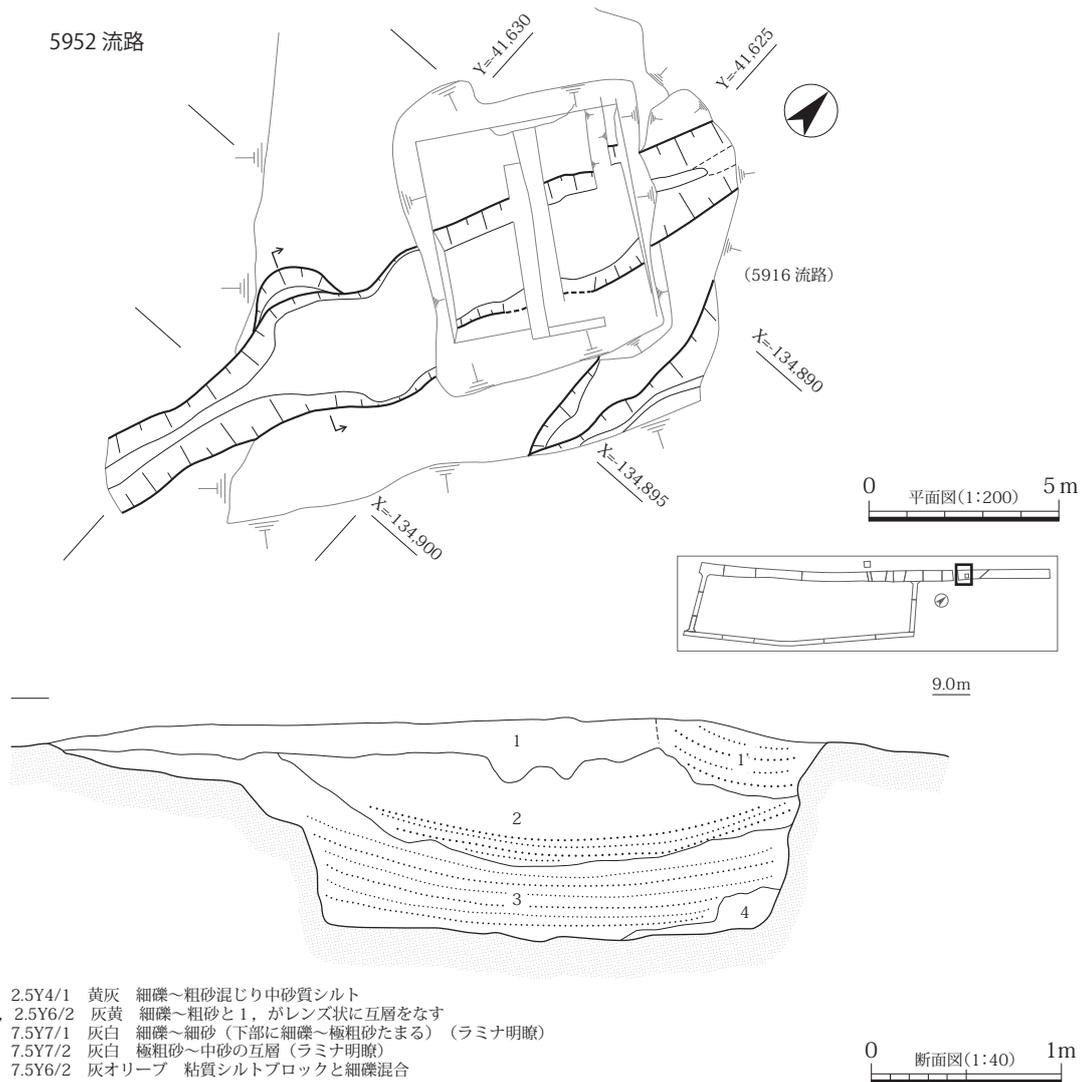


図 240 5952 流路 平面図・断面図

については、後世の流路に削平された中央付近で出土した土器群が庄内式期の所産になるものが一定量含まれることから、D0158 流路出土の土器群よりも若干新しく位置づけられる。また、5916 流路からは庄内式期の所産になる土器がさらに割合多く出土している。相対的に 8055 流路及び 5916 流路において、庄内式期の所産になる土器が多く出土している傾向が看取される。D0158 流路と 8055 流路は同一流路である蓋然性が高いことは先述したが、出土遺物の内容から D0158・8055 流路埋積後に 5916 流路が形成されたものと想定しておきたい。これらを積極的に評価すれば、集落内における中心部分が若干推移しながら継続的に集落が営まれた状況を復元し得る。

D0311 流路(図 239、写真図版 107-2) 10-1:4-4 区において地山上面で検出した。X=-135,072、Y=-41,658 地点に位置する。北北西-南南東方向を指向し、幅 1.4～2.5 m、深さ 0.9 m を測る。底部の標高は 7.3 m であった。検出長は約 8 m である。埋土は細礫～極細砂を主体としラミナが明瞭である。周辺地形を勘案すれば北西から南東への流水と想定される。

遺物の出土はないため詳細時期は不明である。

D0099 流路(図 239、写真図版 107-1) 10-1:4-3 区において地山上面で検出した。X=-135,167、Y=-41,730

地点に位置する。北西—南東方向を指向し、幅 2.5～4.5 m、深さ 1.5 mを測る。底部の標高は 6.7 mであった。検出長は約 8 mである。埋土は細礫～極細砂を主体としラミナが明瞭である。周辺地形を勘察すれば北西から南東への流水と想定される。

遺物の出土はないため詳細時期は不明である。

5952 流路 (図 240、写真図版 107-3) 11-1:5-1・5-3 区において地山上面で検出した。X=-134,895、Y=-41,627 地点に位置する。北北東—南南西方向を指向し、幅 1.5～4.0 m、深さ 1.1 mを測る。底部の標高は 7.8 mであった。検出長は約 19 mである。埋土は細礫～極細砂を主体としラミナが明瞭である。周辺地形を勘察すれば北東から南西への流水と想定される。

遺物の出土はないため詳細時期は不明である。

7. その他遺構

5017 土器 (図 234・241、写真図版 161) 11-1:5-1 区において地山上面で検出した。弥生土器壺 (525) が出土している。庄内式期に属す。

8. 包含層その他出土遺物 (図 241・242、写真図版 161・186・188)

包含層や後世の遺構から出土した当該期の遺物をまとめて報告する。なお、遺物出土状況の特徴などから当該期の遺跡の様子を抽出できるかと考え、図化し得た遺物について概ね西から順に調査区ごとに報告する。

526 は 12-1:6-2 区出土遺物。凹基式のサヌカイト製石鏃が出土している。

527～536 は 11-1:7 区出土遺物。弥生時代中期末所産になる器台かと思われる破片が出土している (536)。8055 流路からも同時期の土器片が出土していることから、当該期に属する集落が付近に存在している可能性がある。他はいずれも弥生時代後期の所産になるもので、壺 (527～531・535)、甕 (532・533)、高杯か (534) 等が出土している。

537・538 は 11-1:3-4 区出土遺物。弥生時代後期後半所産の壺の口縁部か (537)、高杯 (538) 等が出土している。

539・540 は 12-1:3-9 区出土遺物。弥生時代後期後半所産の甕 (539)、高杯 (540) 等が出土している。

541～546 は 12-1:4-2 区出土遺物。弥生時代後期後半所産の甕 (541)、高杯 (542)、器台もしくは高杯脚部 (543)、器台の端部か (544) 等が出土している。また、太型蛤刃石斧と思われる破片 (545)、泥岩製の砥石 (546) が出土している。

547～550 は 11-1:4-1 区出土遺物。弥生時代後期後半所産の複合口縁壺片 (547)、高杯 (548・549) 等が出土している。また、有茎式のサヌカイト製石鏃 (550) が出土している。

551・552 は 11-1:5-3 区出土遺物。弥生時代後期後半所産の壺 (551)、甕 (552) が出土している。

553～567 は 11-1:5-2 区出土遺物。弥生時代後期後半の所産になる壺 (553～557)、甕 (558・560)、高杯 (561・563)、鉢 (564・565)、脚部 (566) 等が出土している。また、太型蛤刃石斧と思われる破片 (567) が出土している。上記の遺物は、概ね検出した遺構の時期と合致する。

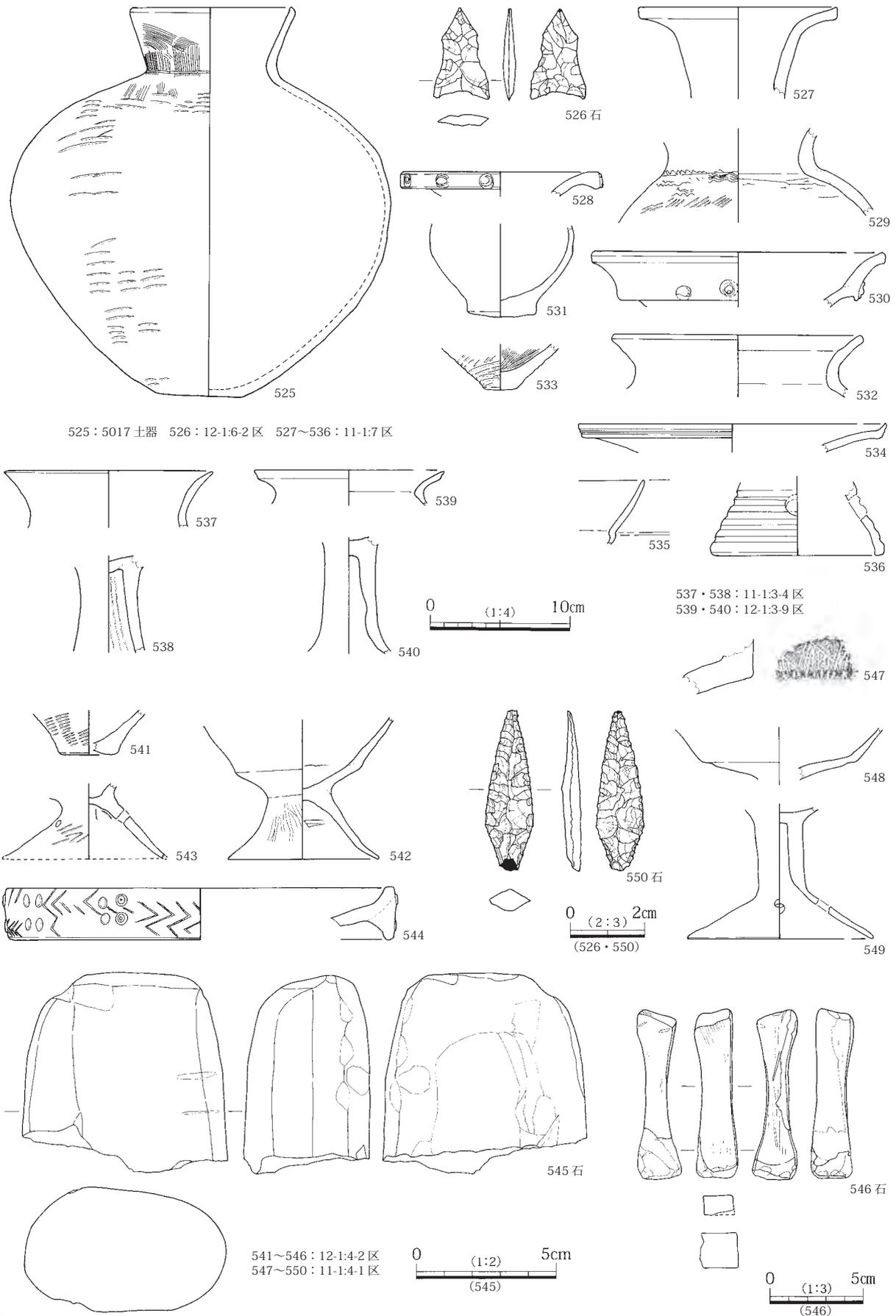


図 241 5017 土器、包含層その他出土遺物 (1)

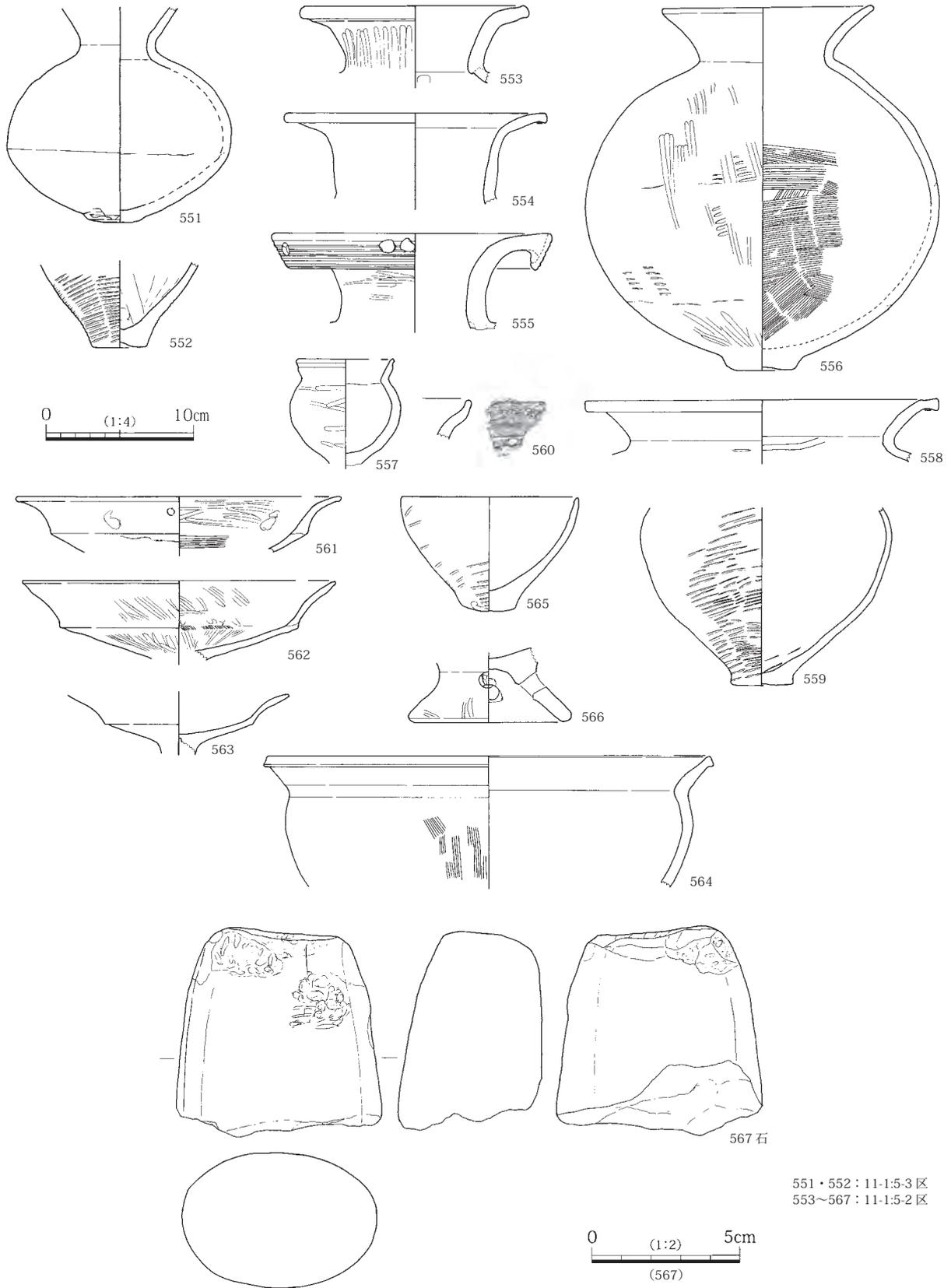


図 242 包含層その他出土遺物 (2)

第3節 古墳時代の遺構・遺物

〔概要〕古墳時代に属する遺構は、掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・溝・落込み・流路等が挙げられる。地山上面及び第4-1層・第4-2層上面で検出した。

北トレンチ・南トレンチ・東トレンチを中心として古墳時代の遺構を検出している。主要な遺構は掘立柱建物及び流路である。また、これに伴って井戸や土坑、溝等を検出しており、集落域の様相を呈する遺構群と評価できるが、出土土器量に比して、遺構数はそれほど多くない。

建物は、北トレンチの流路際で掘立柱建物1棟を検出しているが、帰属時期は不明である。

流路は、北・東・南トレンチの3箇所を検出しているが、すべて同一の流路である。この流路から多量の須恵器等が出土した。5世紀代の所産になるものを若干含むが、主体となるのは6世紀所産の遺物である。須恵器は焼成不良のもの、焼け歪んだもの、溶着したものなど、いわゆるキズ物が一定量認められたことから、通常消費されたものとは異なる須恵器の可能性が高い。周辺環境を考慮し、千里古窯址群で焼成された須恵器がこの地において、選別出荷されたものである可能性が高いものと判断する。なお、7世紀の所産になる遺物も一定量含むことから、流路は7世紀に埋没した可能性が高い。流路の形成時期を鑑みてこの項で報告することとする。

遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期に属するものと古墳時代後期に属するものが大勢を占める状況が認められる。各時期に属する建物の状況は明らかでないが、今回の調査で検出した当該期の主要な遺構は調査区全体の北東半に集中しており、流路周辺にまとまる状況が看取できる（図243）。

1. 掘立柱建物

当該期に属する掘立柱建物を1棟検出した。

掘立柱建物9（図243・245・257）12-1:4-2区において第4-1層を除去した面で検出した。X=-134,936、Y=-41,659地点に位置する。後述の7066流路の東岸に当たる。構造は4146・4148・4156・4157・4158・4159柱穴で構成される桁行2間、梁行1間の柱配置をとる平面長方形の建物である。長

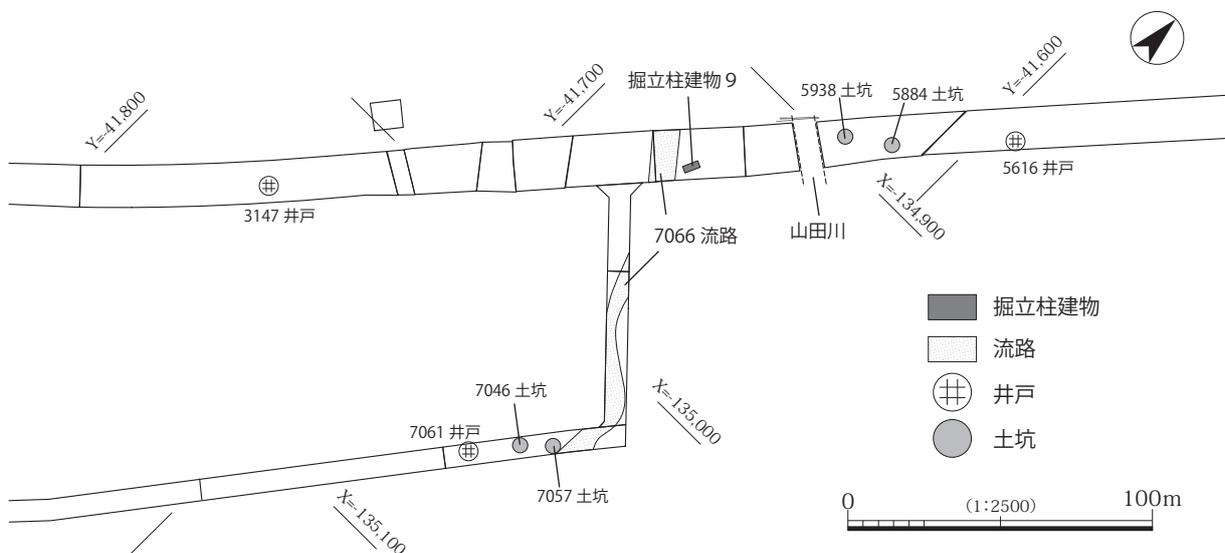


図243 古墳時代主要遺構配置図

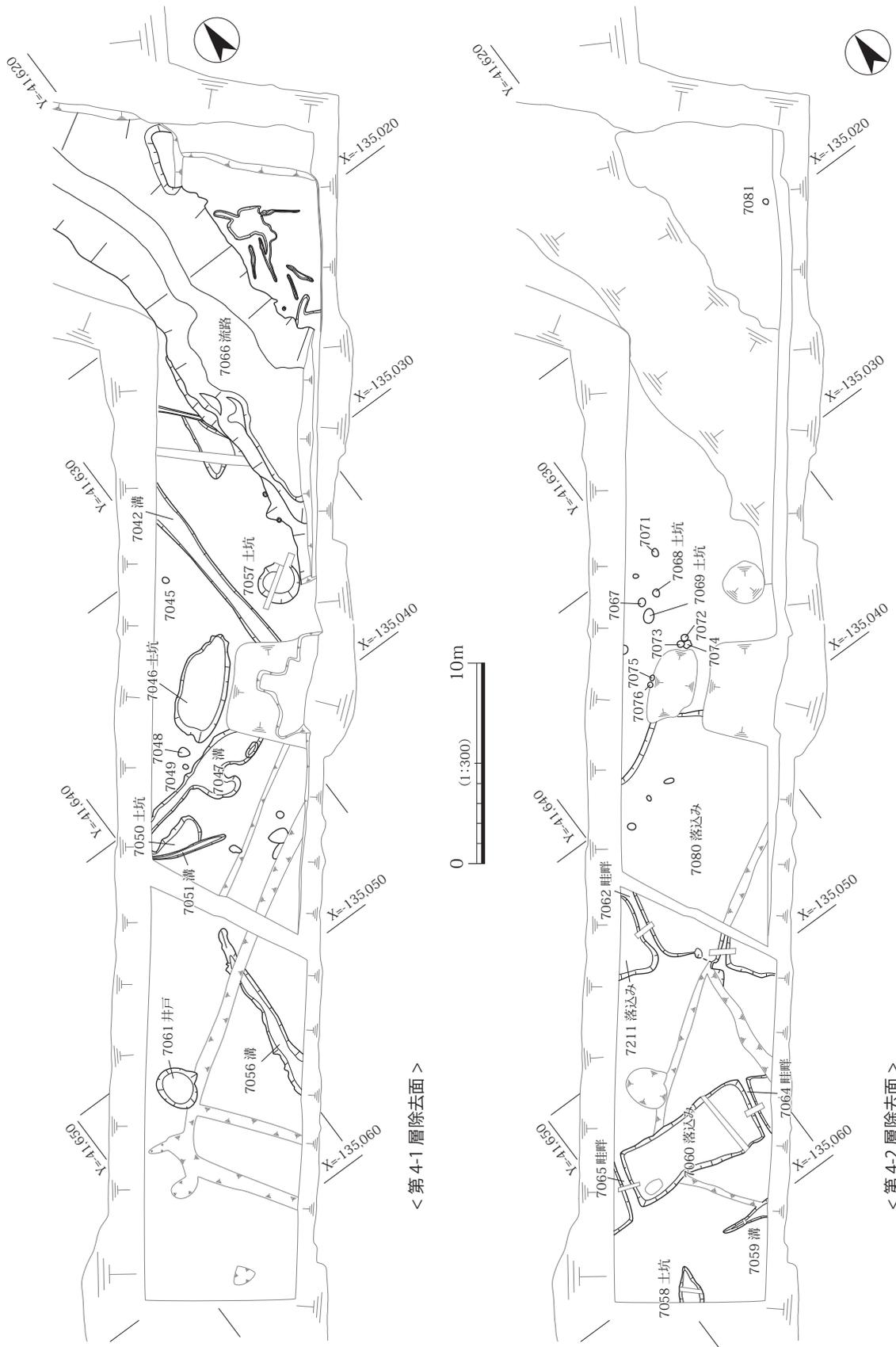


図 244 11-1:7 区 古墳時代遺構平面図

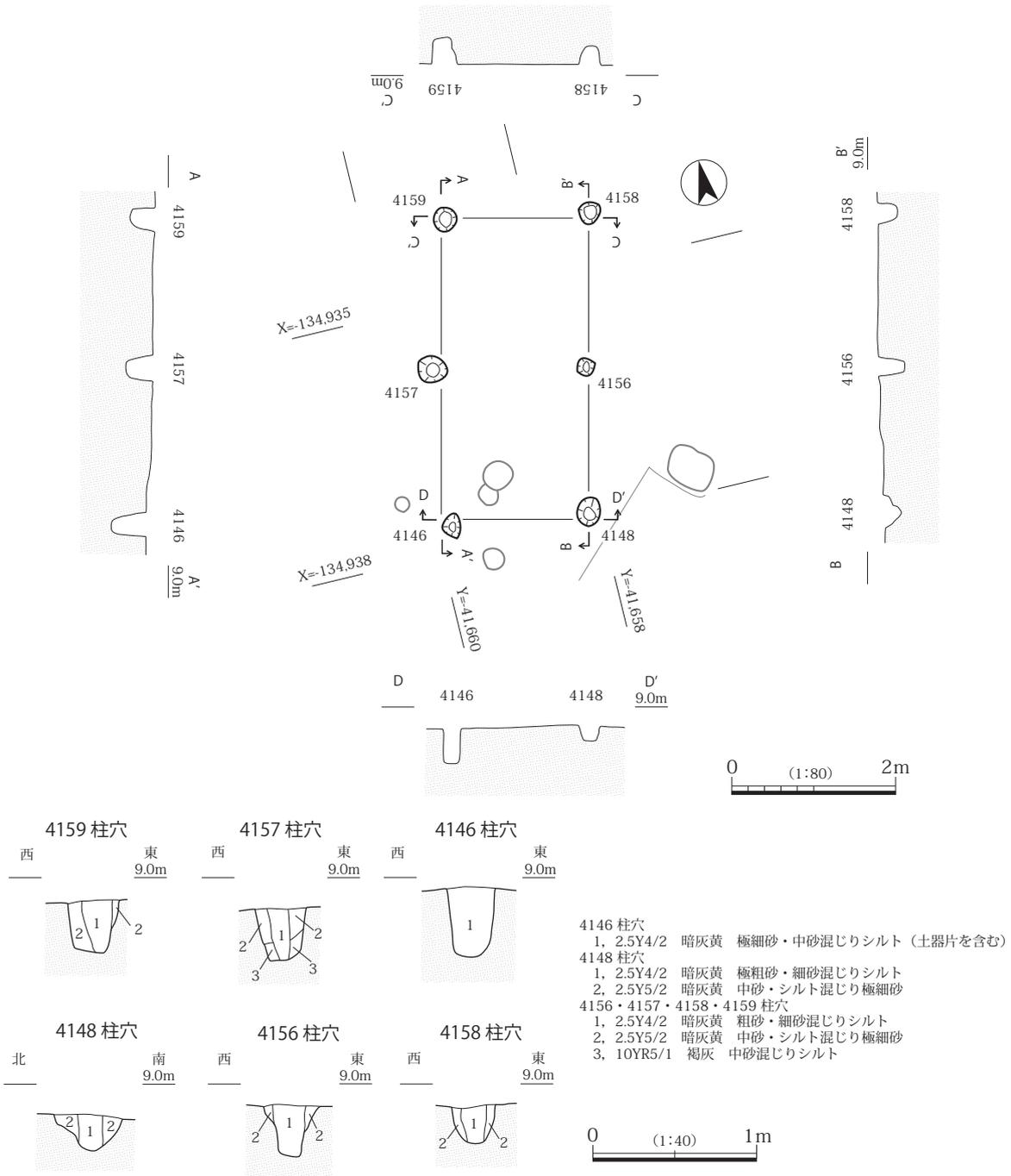


図 245 掘立柱建物 9 平面図・断面図

軸を $N-14^{\circ}-E$ におく。建物規模は $3.7\text{ m} \times 1.8\text{ m}$ を測り、面積は約 6.7 m^2 である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が $1.8 \sim 1.9\text{ m}$ 、梁行側が $1.65 \sim 1.8\text{ m}$ を測る。

柱穴の掘方の平面形は基本的に円形であり、径 $0.2 \sim 0.32\text{ m}$ 、深さ $0.25 \sim 0.43\text{ m}$ を測る。

当建物を構成する柱穴のうち、4146・4148 柱穴は第2節で報告した 8055 流路の埋土上に形成されており、古墳時代以降に属することは明らかであるが、詳細時期の判別は困難である。柱穴からは少量の弥生土器片が出土しているが、直接的な建物の時期を示すものではないと考えられる。後述の 7066 流

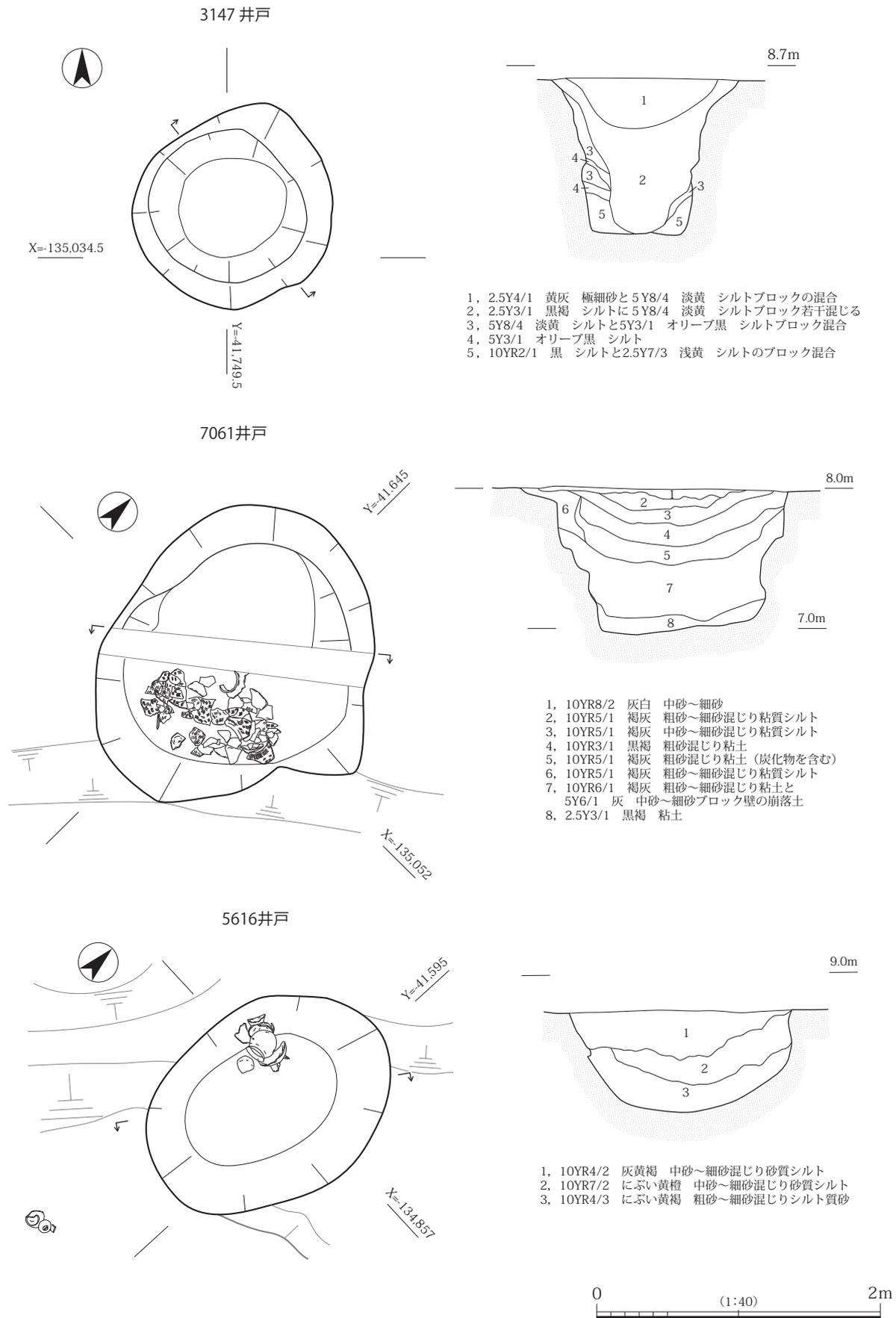


図 246 3147・7061・5616 井戸 平面図・断面図

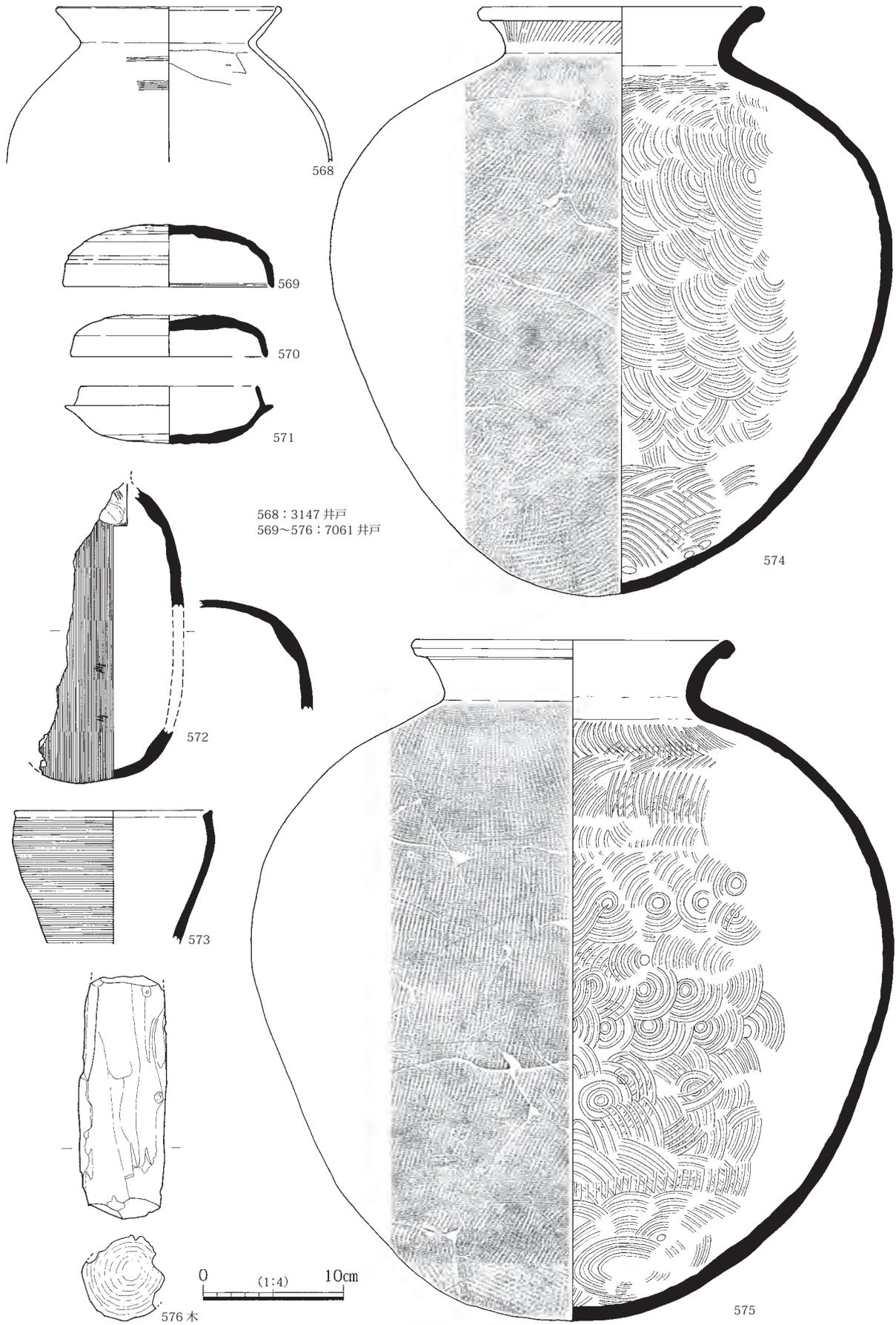


図 247 3147・7061 井戸 出土遺物

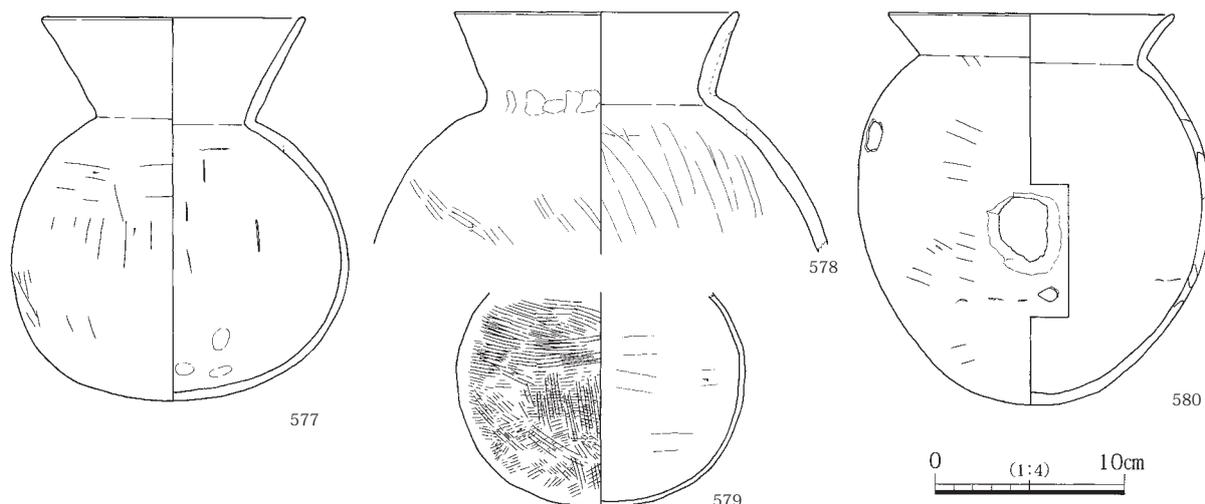


図 248 5616 井戸 出土遺物

路との関係から古墳時代に属する可能性が高いと判断した。

2. 井戸

当該期の井戸を3基検出した。古墳時代前期に属するものと古墳時代後期に属するものである。

3147 井戸 (図 243・246・247) 11-1:3-7 区において地山上面で検出した。X=-135,034.5、Y=-41,749.5 地点に位置する。規模は長径 1.4 m、短径 1.3 m を測り、平面円形を成す。断面形は逆台形で、深さ 1.1 m を測る。素掘り井戸と考えられる。なお、土層断面の観察では掘り直しが認められた。

埋土中から、土師器甕 (568) 等が出土している。出土遺物から古墳時代前期に属する遺構と判断する。

7061 井戸 (図 243・244・246・247、写真図版 108-1・108-2・162・190) 11-1:7 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-135,052、Y=-41,645 地点に位置する。規模は長径 2.1 m、短径 1.9 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は逆台形で、深さ 1.2 m を測る。素掘り井戸と考えられる。

埋土中から、須恵器杯蓋 (569・570)・杯身 (571)・提瓶 (572)・鉢 (573)・甕 (574・575)、木製品の杭 (576) 等が出土している。なお、甕 (574・575) は埋土上部から 2 個体がまとまって出土した。出土遺物から古墳時代後期に属する遺構と判断する。

5616 井戸 (図 243・246・248、写真図版 108-3・108-4・162) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。X=-134,857、Y=-41,595 地点に位置する。規模は長径 1.7 m、短径 1.4 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.7 m を測る。素掘り井戸と考えられる。なお、当井戸は第 2 節で報告した竪穴建物 13 と重複し、その埋土を切る。

埋土中から、土師器直口壺 (577・579)・壺 (578)・甕 (580) 等が出土している。出土遺物から古墳時代前期に属する遺構と判断する。

3. 土坑

遺物が出土し帰属時期が明らかな土坑は、古墳時代前期・中期・後期の各時期のものが検出された。

7046 土坑 (図 243・244・249～251、写真図版 109-1・162・163・186) 11-1:7 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-135,036、Y=-41,632 地点に位置する。規模は長径 4.5 m、短径 2.3 m を測り、

平面楕円形を成す。断面形は隅丸逆台形で、深さ 0.38 m を測る。当土坑からは多量の遺物が出土している。

埋土中から、土師器甕 (581・582)、須恵器杯蓋 (583～594)・杯身 (595～604)・高杯蓋 (605・606)・高杯 (607～611)・甕 (612・613)・提瓶か (614)・壺 (615)・すり鉢 (616)・甕 (617～619)、不明石製品 (620) 等が出土している。出土した遺物は概ね 6 世紀中葉～後葉の所産になるもので占められることから、古墳時代後期に属する遺構と判断する。

7057 土坑 (図 243・244・251・252、写真図版 163) 11-1:7 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-135,034.5、Y=-41,626 地点に位置する。規模は長径 2.0 m、短径 1.5 m を測り、平面不整形円形を成す。断面形は楕形で、深さ 0.42 m を測る。

埋土中から、土師器高杯脚部 (621～623)、須恵器杯身 (624・625)・高杯蓋 (626)・大型高杯 (627)・壺 (628) 等が出土している。出土遺物から古墳時代後期に属する遺構と判断する。

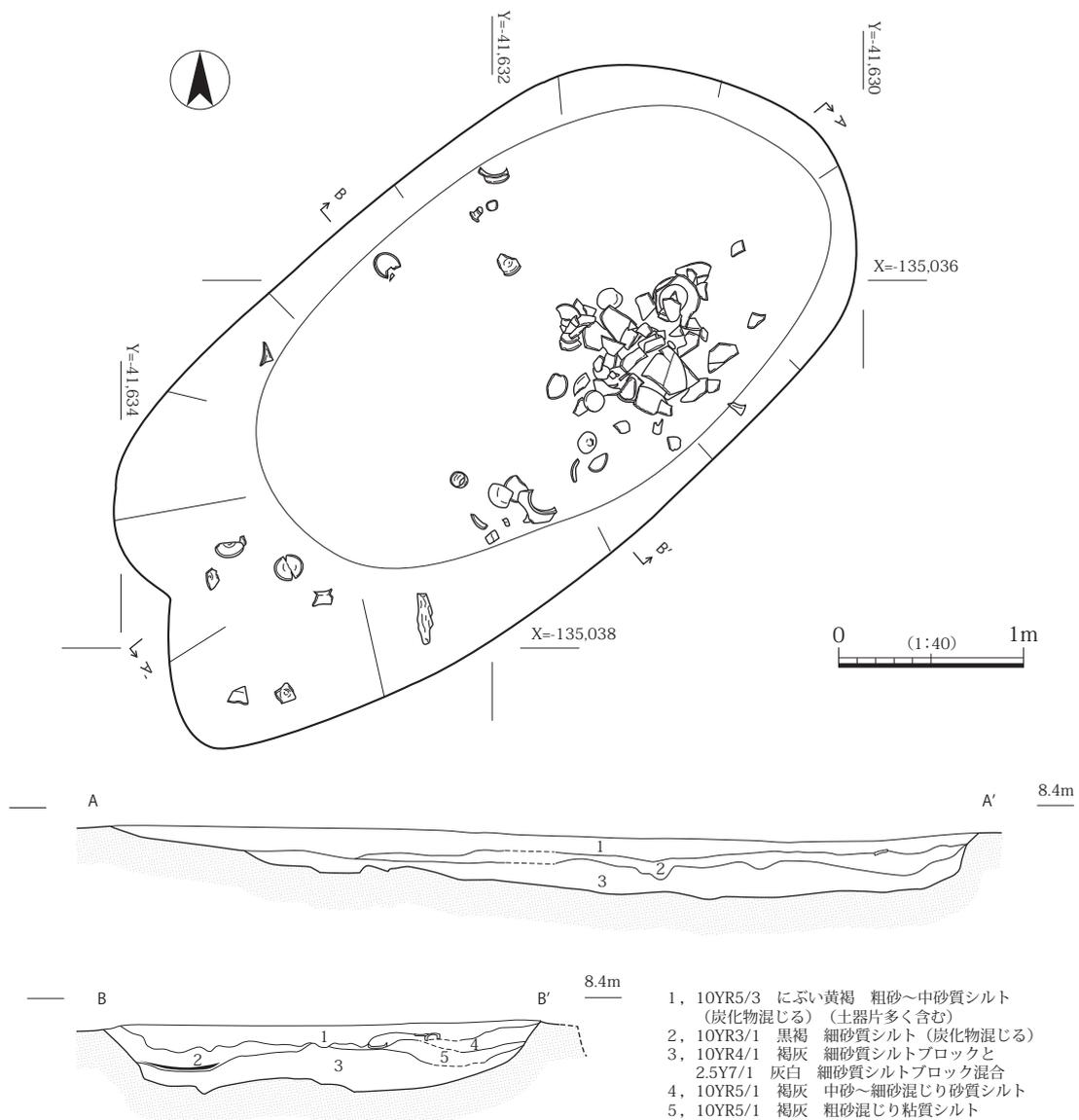


図 249 7046 土坑 平面図・断面図

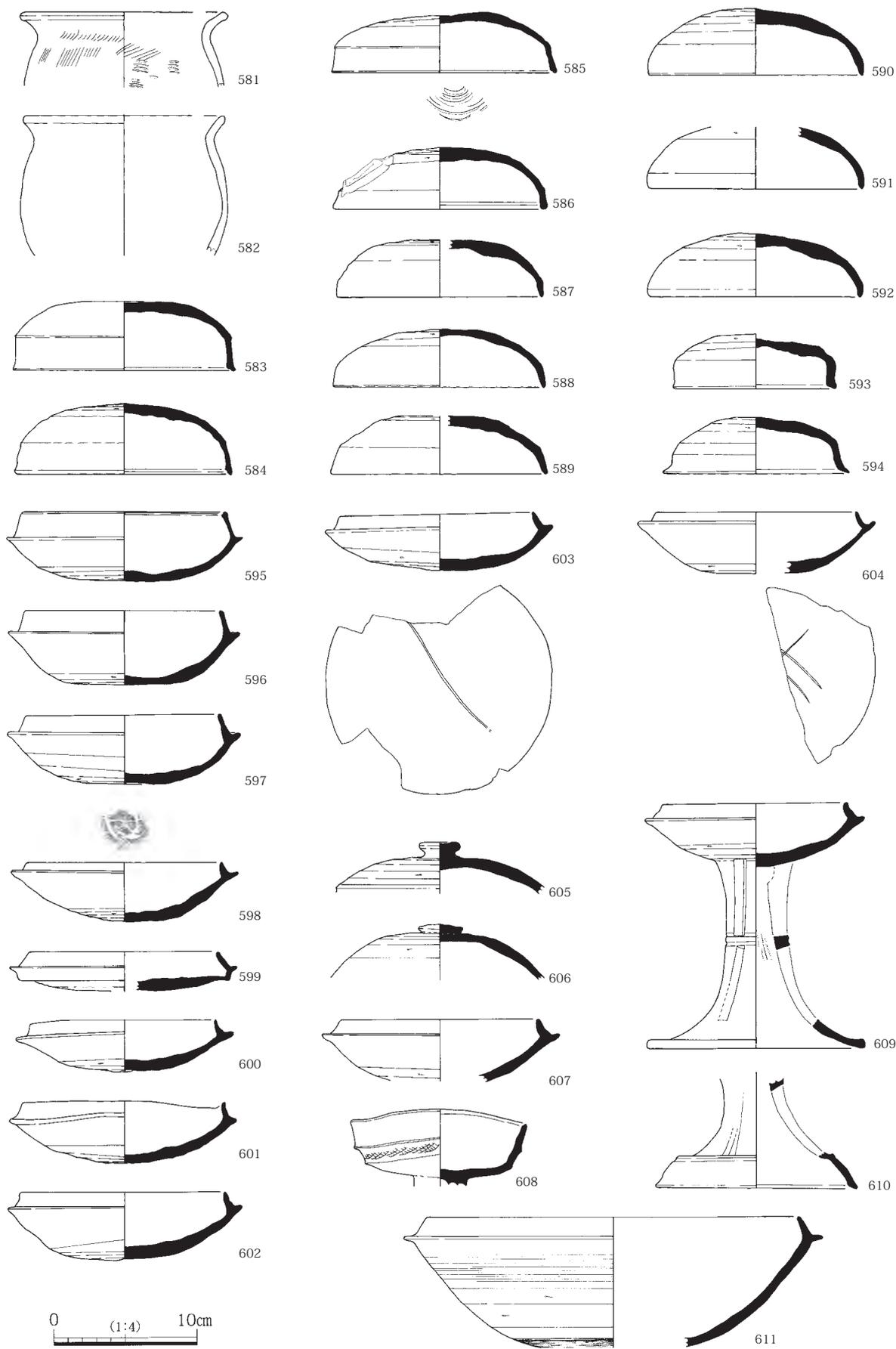


图 250 7046 土坑 出土遺物 (1)

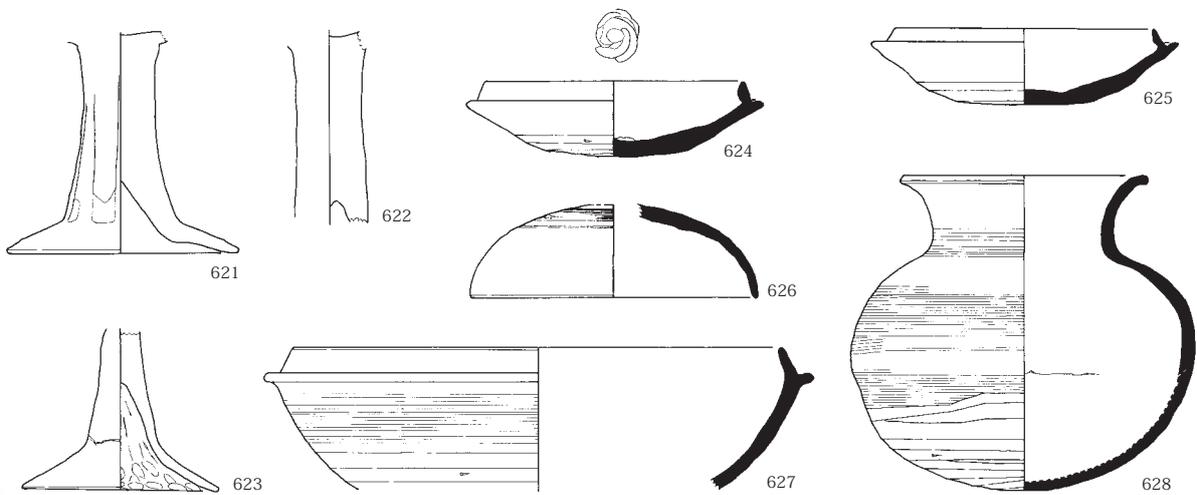
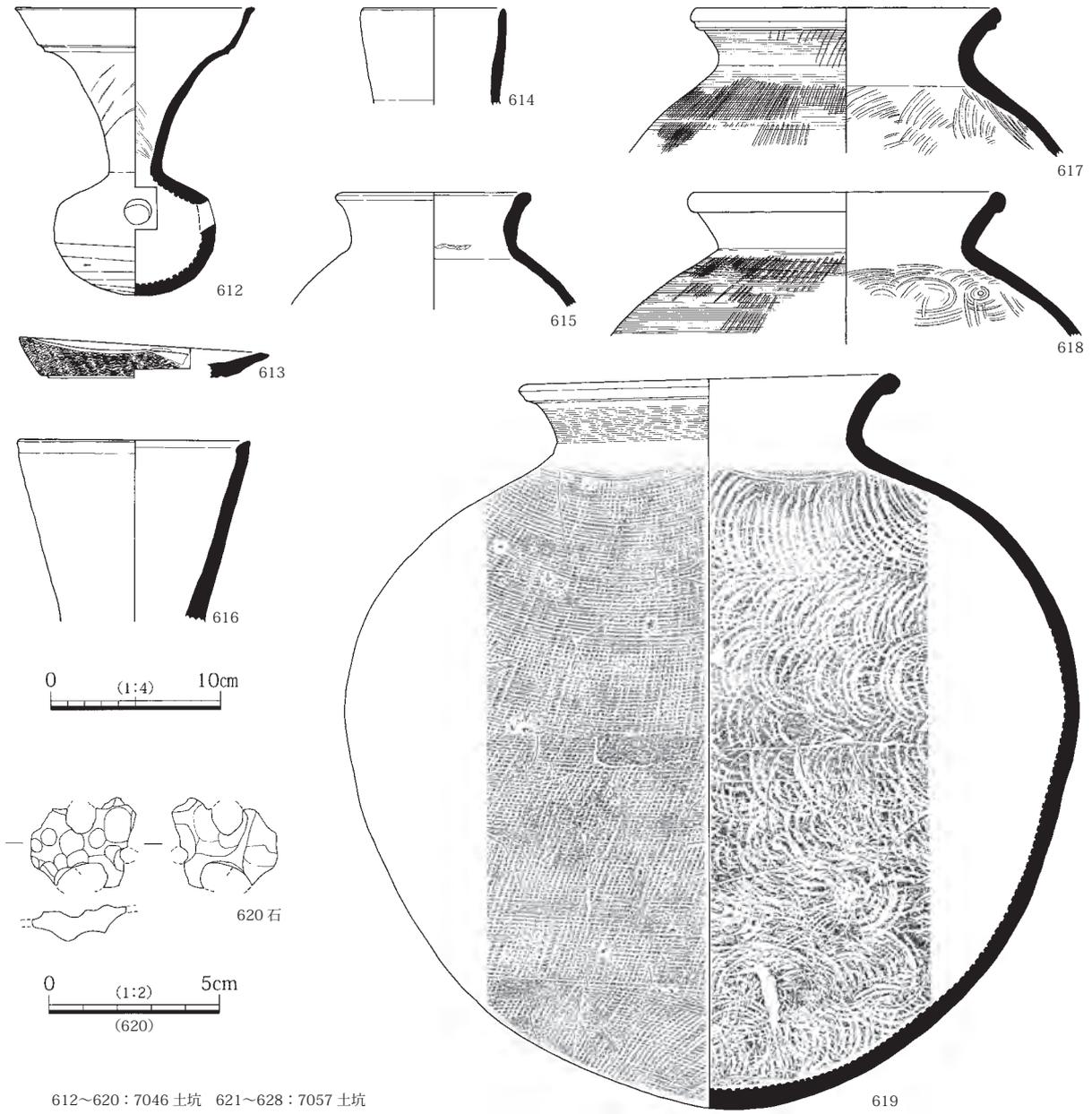


図 251 7046 土坑 出土遺物 (2)・7057 土坑 出土遺物

3158 土坑 (図 252・254・304) 11-1:3-7 区において地山上面で検出した。X=-135,035、Y=-41,748.5 地点に位置する。規模は長径 0.5 m、短径 0.4 m を測り、平面円形を成す。断面形は皿形で、深さ 0.1 m を測る。北西側の隣には既述の 3147 井戸がある。

埋土中から、土師器把手(629)が出土している。所産時期は不確定要素を残すが 5 世紀頃かと考えられ、古墳時代中期に属する遺構と判断する。

4025 土坑 (図 252・254、写真図版 108-5) 11-1:4-1 区において地山上面で検出した。X=-134,912.5、Y=-41,644.5 地点に位置する。規模は長径 1.3 m、短径 0.9 m を測り、平面不整形を成す。断面形は皿形で、深さ 0.16 m を測る。当土坑は 4063 土坑と重複しその埋土を切る。なお、4063 土坑からは庄内式期の所産になる高杯杯部片(548)が出土している。

埋土中から、土師器甕(630・631)等が出土している。出土遺物から古墳時代前期に属する遺構と判断する。

5884 土坑 (図 253・254・288、写真図版 108-7・108-8・163・189) 11-1:5-3 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,883.5、Y=-41,617 地点に位置する。規模は長径 1.45 m、短径 0.65 m を測り、平面隅丸方形を成す。断面形は椀形で深さ 0.53 m を測る。

埋土中から、須恵器杯蓋(632)・杯身(633)・高杯脚部(634)、石製品(635)等が出土している。出土遺物から古墳時代後期に属する遺構と判断する。

5938 土坑 (図 234・253・254、写真図版 108-6) 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。X=-134,893、Y=-41,631 地点に位置する。一部攪乱のため、全容は明らかでないが、規模は長径 0.9 m、短径 0.7 m を測り、平面円形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.35 m を測る。

埋土中から、土師器甕(636・637)・ミニチュア壺(638)が出土している。出土遺物から古墳時代前期に属する遺構と判断する。

5547 土坑 (図 191・252・254) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。X=-134,850、Y=-41,586.5 地点に位置する。南東部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 2.3 m、短軸 0.6 m、深さ 0.26 m を測る。

埋土中から、須恵器杯身(639・640)・高杯脚部(641)等が出土している。5 世紀代の所産になるものも含まれるが、出土遺物から古墳時代後期に属する遺構と判断する。

5681 土坑 (図 191・252・254) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。X=-134,842.5、Y=-41,595 地点に位置する。南部が攪乱のため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 0.8 m を測る。既述の竪穴建物 14 と重複する遺構である。

埋土中から、土師器高杯(642)等が出土している。出土遺物から古墳時代中期に属する遺構と判断する。

4. ピット

遺物が出土し帰属時期が明らかなピットは、古墳時代中期・後期に属するものである。

7074 ピット (図 244・253・254) 11-1:7 区において第 4-2 層を除去した面で検出した。X=-135,035、Y=-41,630 地点に位置する。規模は長径 0.4 m、短径 0.38 m を測り、平面不整形円形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.21 m を測る。

埋土中から、須恵器杯身(643)等が出土している。出土遺物から古墳時代後期に属する遺構と判断する。

4155 ピット (図 257) 12-1:4-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,936.5、

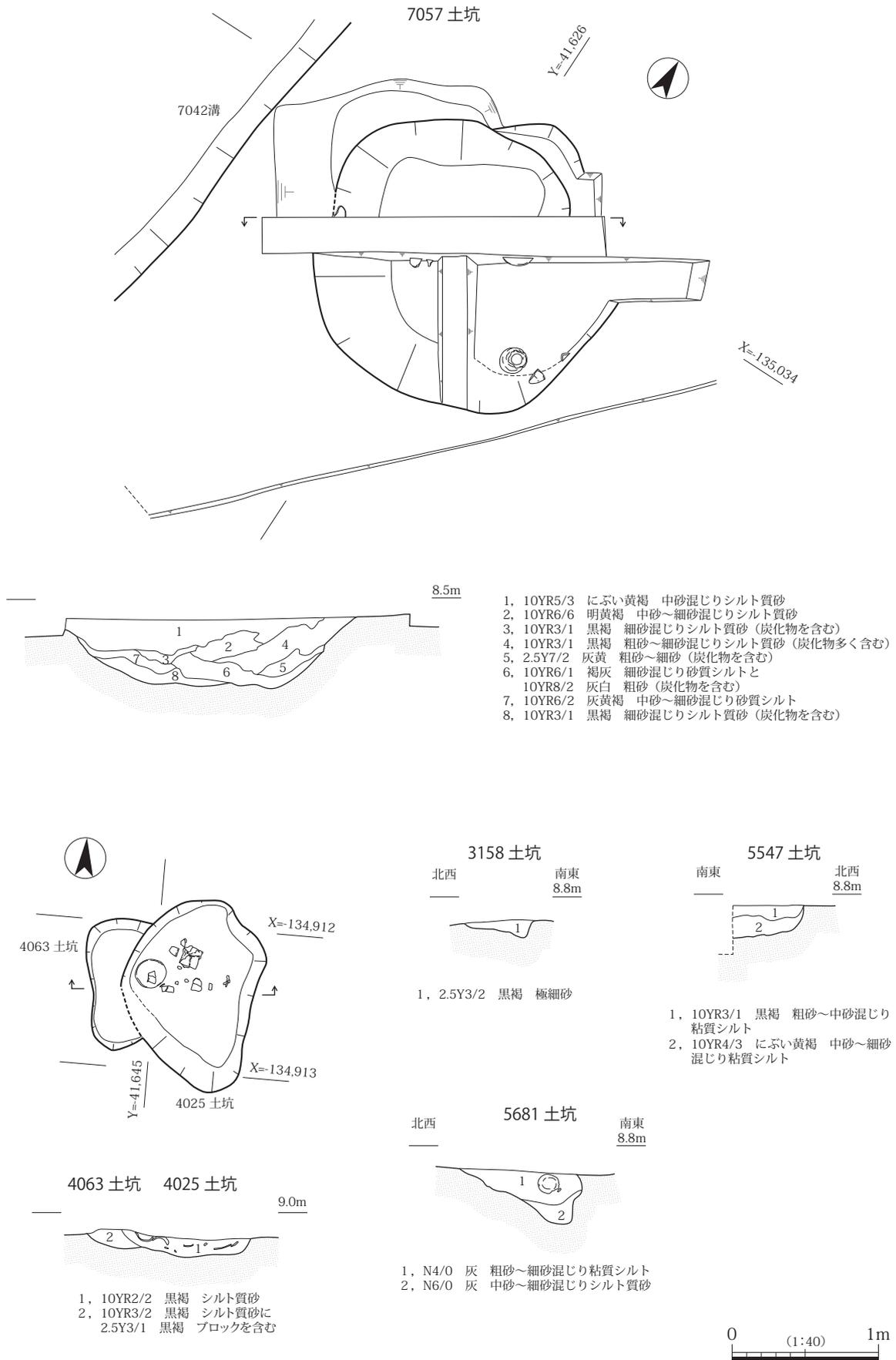
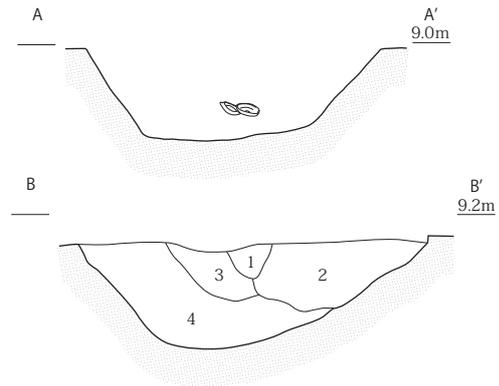
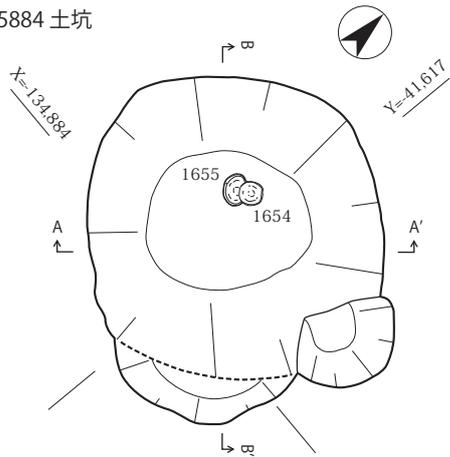


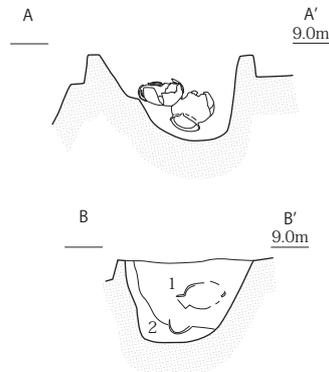
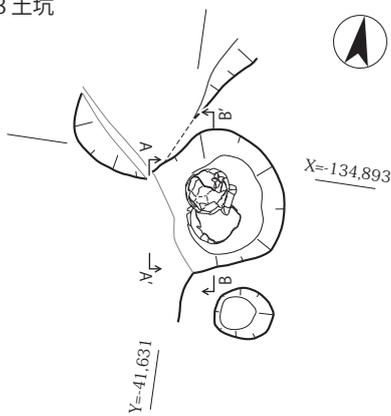
図 252 土坑 平面図・断面図

5884 土坑



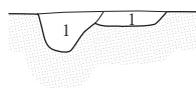
- 1, 2.5Y5/2 暗灰黄 極細砂混じり細砂
- 2, 10YR4/1 褐灰 中砂・細砂混じり極細砂 (5780土坑埋土)
- 3, 10YR5/2 灰黄褐 極粗砂・中砂混じり粗砂 (5884土坑埋土)
- 4, 10YR3/1 黒褐 粗砂・極細砂混じり細砂 (5884土坑埋土)

5938 土坑



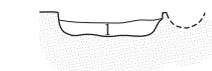
- 1, 10YR4/1 褐灰 粗砂混じり細砂質シルト (偽礫含む)
- 2, 10YR4/1 褐灰 粗砂混じり細砂質シルト

7074 ピット
北西 7073 南東 8.2m



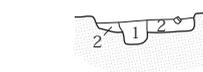
- 7073ピット
- 1, 7.5YR7/1 明褐灰 粗砂混じり砂質シルト
 - 7.5YR4/1 褐灰 粗砂～細砂混じり粘質シルトブロック
- 7074 ピット
- 1, 7.5YR7/1 明褐灰 粗砂混じり砂質シルト

5794 ピット
南西 北東 9.1m



- 1, 2.5Y5/1 黄灰 粗砂・極細砂混じり細砂

5785ピット
南西 北東 9.2m



- 1, 10YR5/1 褐灰 極細砂混じり細砂
- 2, 10YR6/1 褐灰 粗砂・極細砂混じり細砂

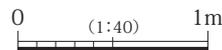


図 253 土坑・ピット 平面図・断面図

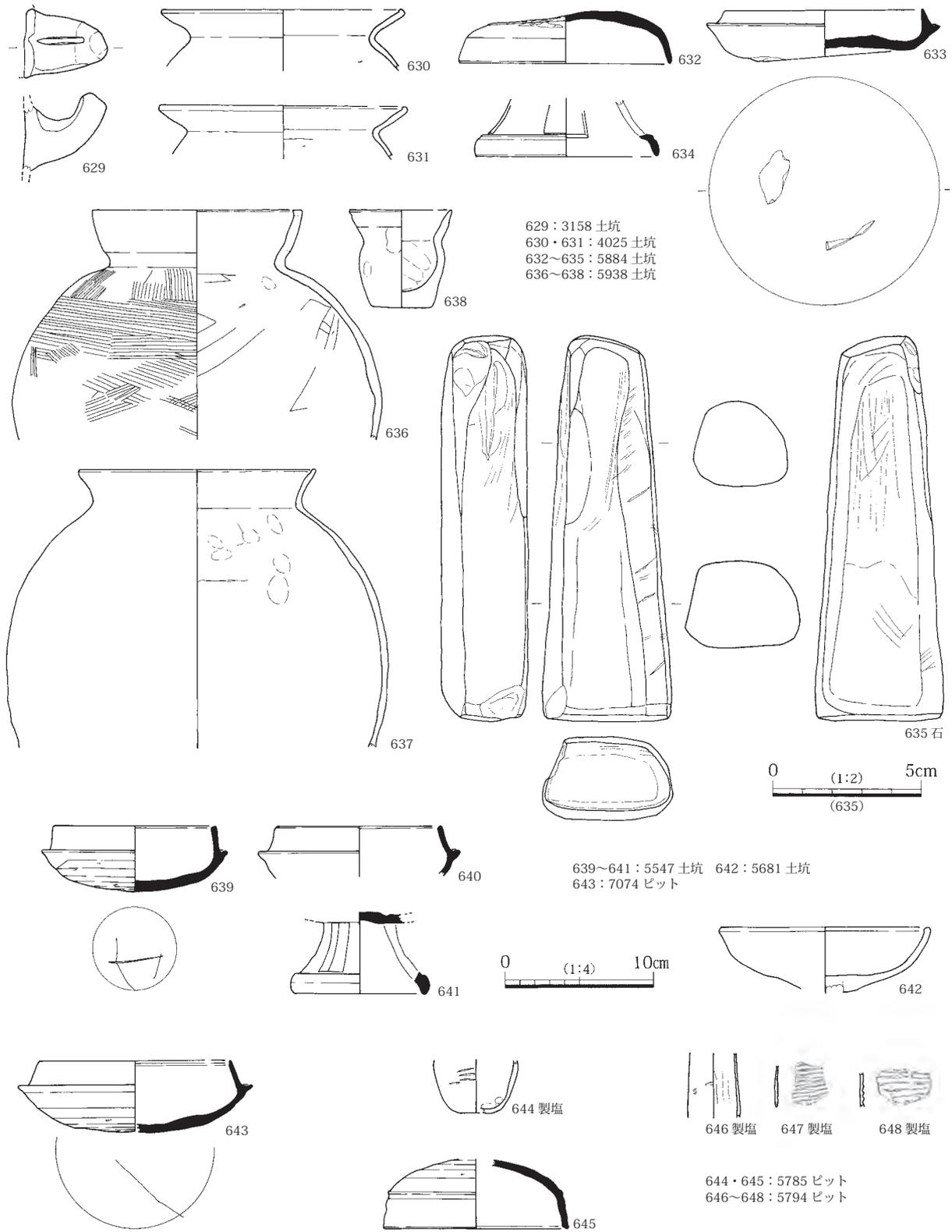


図 254 土坑・ピット 出土遺物

Y=-41, 656.2 地点に位置する。規模は径およそ 0.3 m を測り、平面円形を成す。断面形は皿形で、深さ 0.27 m を測る。埋土は暗灰黄色粗砂混じり細砂質シルトを主体とする。柱痕跡が認められた。

5785 ピット (図 253・254・288、写真図版 162) 11-1:5-3 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134, 884.5、Y=-41, 619 地点に位置する。規模は長径 0.5 m、短径 0.45 m を測り、平面円形を成す。断

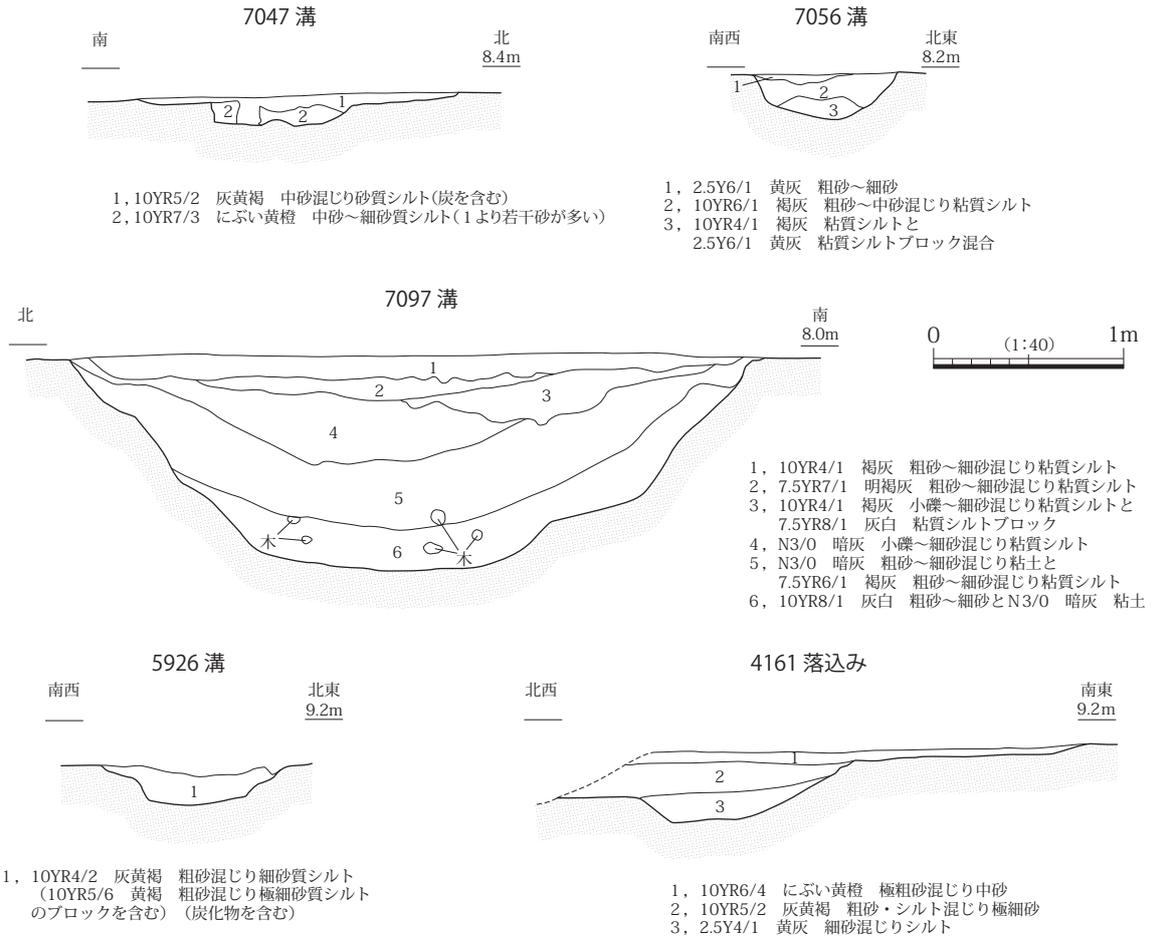


図 255 溝・落込み 断面図

面形は皿形で、深さ 0.12 m を測る。

埋土中から、製塩土器 (644)、須恵器杯蓋 (645) 等が出土している。出土遺物から古墳時代後期に属する遺構と判断する。

5794 ピット (図 253・254・288、写真図版 163) 11-1:5-3 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,889.5、Y=-41,617 地点に位置する。規模は径 0.5 m を測り、平面円形を成す。断面形は皿形で、深さ 0.13 m を測る。

埋土中から、製塩土器 (646～648) 等が出土している。出土遺物から古墳時代中期に属する遺構と判断する。

5. 溝

遺物が出土し帰属時期が明らかな溝は、古墳時代前期と後期に属するものである。

7047 溝 (図 244・255・256、写真図版 163) 11-1:7 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、東西方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.5～2.5 m、長さ約 7 m を測る。断面形は逆凸形で深さ 0.15 m を測る。

埋土中から、須恵器杯蓋 (649)・杯身 (650・651)・高杯脚部 (652) 等が出土している。出土遺物から古墳時代後期に属する遺構と判断する。

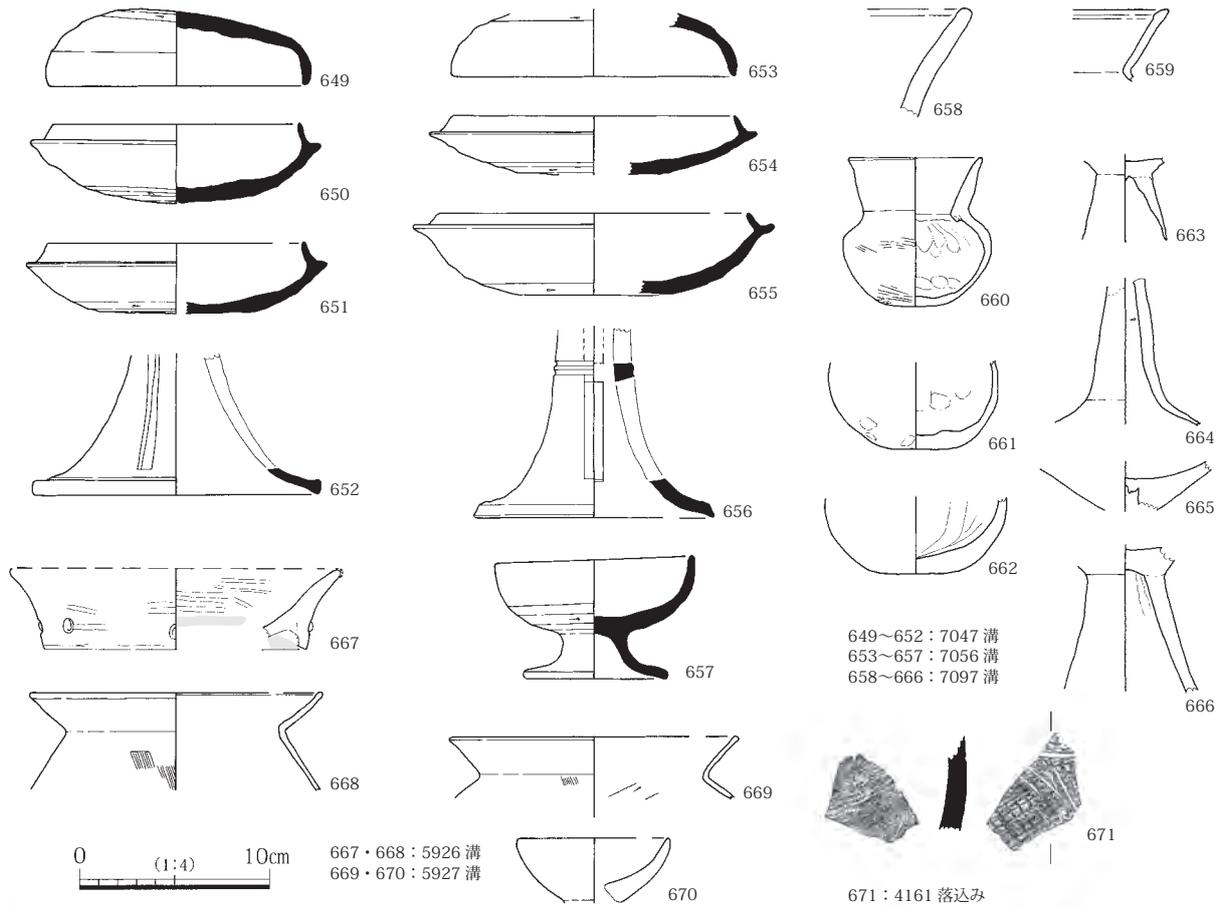


図 256 溝・落込み 出土遺物

7056 溝 (図 244・255・256、写真図版 163) 11-1:7 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。南部が調査区外になるため全容は明らかでないが、概ね南北方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.4～1.1 m、長さ約 9.2 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.2 m を測る。

埋土中から、須恵器杯蓋 (653)・杯身 (654・655)・高杯 (656・657) 等が出土している。出土遺物から古墳時代後期～飛鳥時代に属する遺構と判断する。

7097 溝 (図 167・255・256、写真図版 109-2・109-3・163) 11-1:7 区において地山上面で検出しているが、断面の検討から本来は第 4-2 層を除去した面に帰属する可能性が高い。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、概ね東西方向を指向する。検出した部分の規模は幅 2.7～5.3 m、長さ約 11.5 m を測る。断面形は椀形で深さ 1.17 m を測る。

埋土中から、土師器二重口縁壺 (658)・甕 (659)・小型丸底壺 (660)・小型丸底壺または鉢 (661・662)・高杯 (663～666) 等が出土している。出土遺物から古墳時代前期に属する遺構と判断する。

5926 溝 (図 234・255・256、写真図版 163) 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。両端部が攪乱及び調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 1.2 m 以上、長さ約 4.5 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.25 m を測る。

埋土中から、土師器二重口縁壺 (667)・甕 (668) 等が出土している。出土遺物から古墳時代前期に属する遺構と判断する。

5927 溝 (図 234・256) 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。両端部が攪乱及び調査区外になる

ため全容は明らかでないが、北西—南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 1.2 m 前後、長さ約 1 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.85 m を測る。埋土は灰黄褐色粗砂混じり細砂質シルトを主体とする。溝と考えたが土坑の可能性もあり、前述の 5926 溝と併せて様相は不明瞭である。

埋土中から、土師器甕 (669)・小型器台 (670) 等が出土している。出土遺物から古墳時代前期に属する遺構と判断する。

6. 落込み

遺物が出土し帰属時期が明らかな落込みを 1 基検出した。

4161 落込み (図 255・256・257) 12-1:4-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,924、Y=-41,657 地点に位置する。攪乱及び北西部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長軸 8.2 m、短軸 2.5 m、深さ 0.39 m を測る。

埋土中から、須恵器甕 (671) 等が出土している。出土遺物から古墳時代中期に属する遺構と判断する。

7. 流路

当該期に属する流路を 1 条検出した。

7066 流路 (図 163・257～282、写真図版 110～112・164～169・171・179・185・188～190) 11-1:7 区・11-1:8-1 区・12-1:4-2 区において検出した流路を 7066 流路という遺構番号に統一して報告する。今回の調査では調査区ごとに遺構番号を付しているため、複数の調査区に跨って検出された遺構については異なる遺構名が付されることとなった。それは 11-1:7 区 (7066 流路)、11-1:8-1 区 (8016 流路)、12-1:4-2 区 (4142・4143 流路) として遺物ラベルに記載されている。基本的には調査時の遺構名をそのままにする方針で整理作業を行ったので、ここに付記し、付表の遺物観察表においても本来の遺構名がわかるようにした。

当流路は、11-1:7 区・12-1:4-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出している。11-1:8-1 区においては、調査区の大半が流路内であったことから、帰属面は判然としない。また、11-1:7 区と 12-1:4-2 区では、距離の離れた調査区であるため、それぞれで第 4-1 層としたものが厳密に同一層であるか否かの判断はつかない。

両端部及び途中部分が調査区外になり、大部分後世の流路と重複し削平されているため全容は明らかでないが、12-1:4-2 区では北西—南東方向を指向し、11-1:8-1 区・11-1:7 区では蛇行しながらも概ね南北方向を指向する。

検出した部分の規模は、後世の流路による削平のため、機能時の流路幅や深さは明らかにし得ないが、推定幅約 5～15 m、深さ 3 m 以上を測り、検出長約 105 m である。断面形は概ね椀形を呈し、埋土は細礫～細砂を主体とし、所々に木葉など植物遺体の溜まりが形成されていた。周辺地形を勘案すれば北から南へ流水があったと想定される。

流路断面の観察から、ある程度埋没した後、再び流水により幅の狭い流路が形成され、埋没したようである (図 163・258)。その後、低まりとしての地形を成していたものと推定される。

当流路から出土した遺物について、図化し得たものを図 259～282 に示す。出土遺物は、土師器、須恵器、製塩土器、瓦質土器、埴輪、土製品、石製品、金属製品、木製品がある。器形の判明するものとして、土師器は甕 (672・695～698・704～718)・小型丸底壺 (673・674)・直口壺 (683・684)・杯か

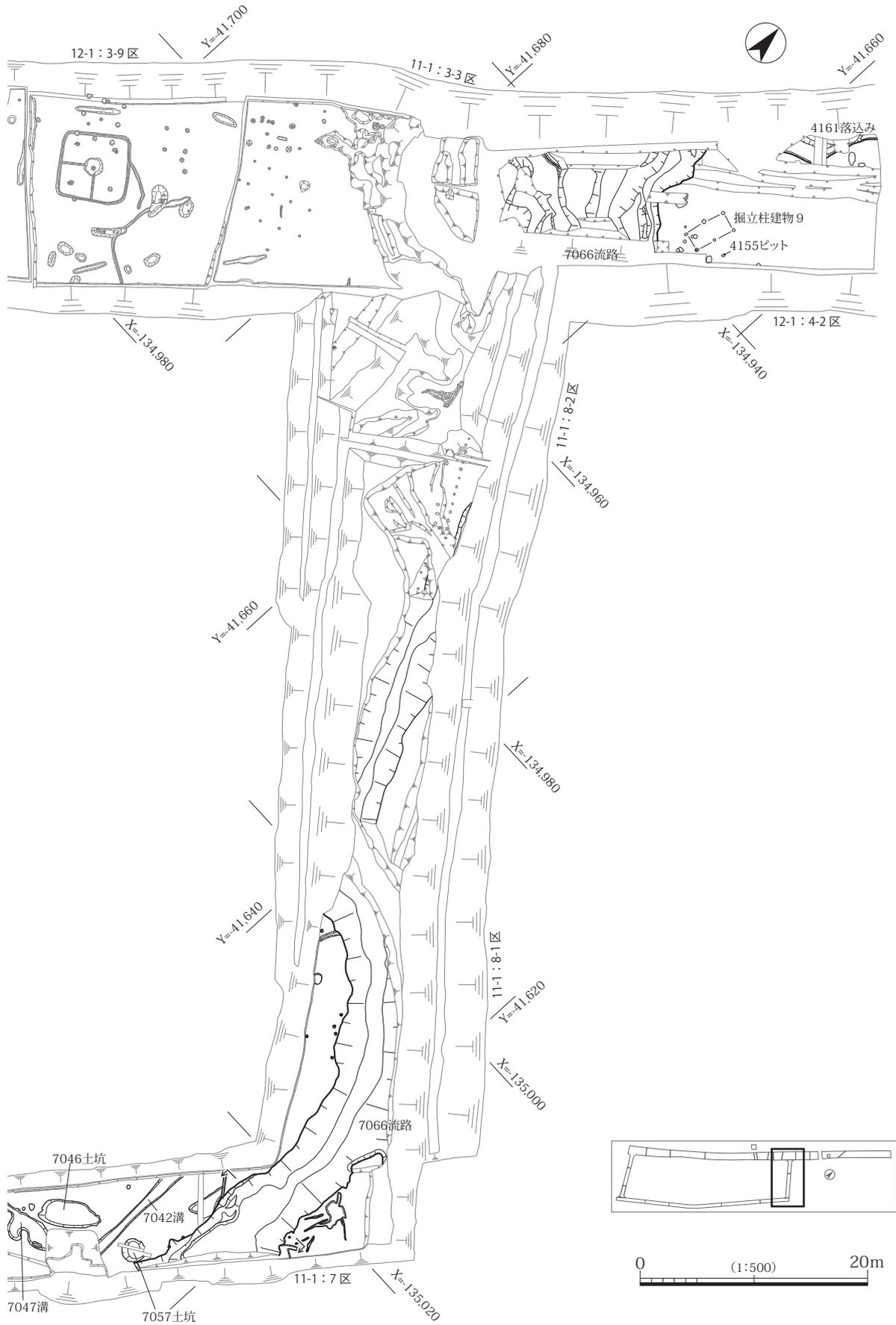


図 257 7066 流路ほか 平面図

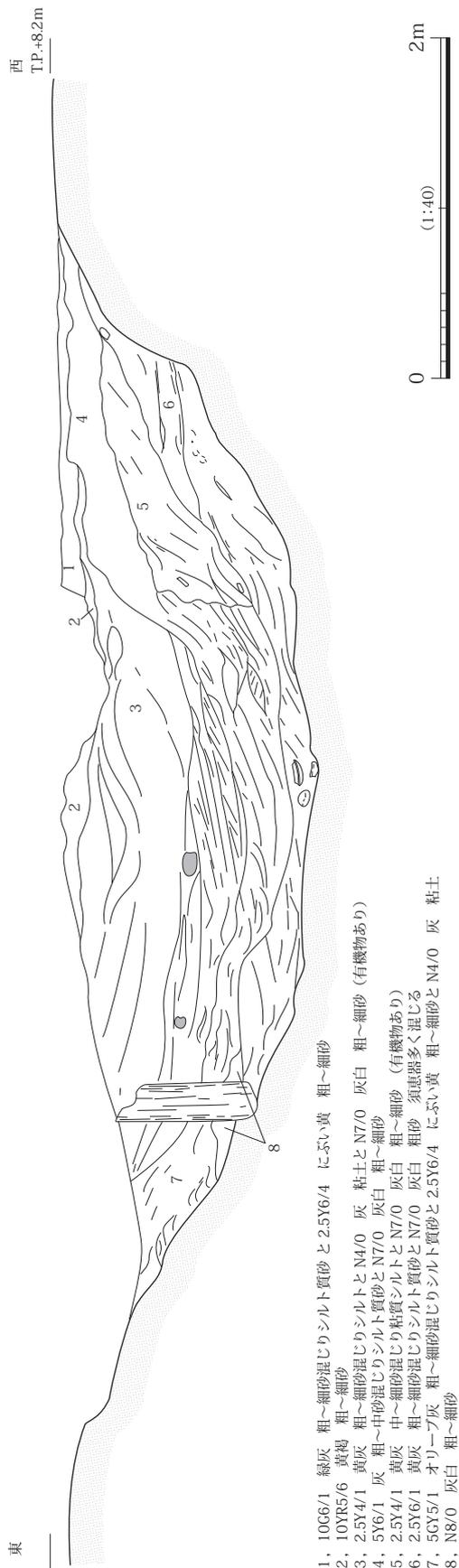


図 258 7066 流路 断面図

(675)・椀 (676)・杯 C (677～679)・杯 A (680)・高杯 (681・682)、韓式系平底鉢 (685～688)・鉢 (689・690・693)・把手付鉢 (691・692)・台付鉢 (694)・甌 (699～701)・鍋 (703)・羽釜 (719・720)・竈 (722～724)・ミニチュア土器 (725～728) 等が出土している。いずれも 5～7 世紀の所産になるものと考えられる。須恵器は、杯蓋 (734～759)・杯身 (760～792)・有蓋高杯蓋 (793～804)・大型高杯の蓋か (805)・有蓋高杯 (806・808・814～823・828・829)・無蓋高杯 (809～813)・高杯脚部 (824～827・830～836)・甌 (838～849)・壺 (850～853・855～867)・鉢 (854・886・888・897・898)・提瓶 (868～879)・横瓶 (880～882)・平瓶 (883・884)・台付鉢 (890～892)・すり鉢 (893～896)・甌 (899～907)・甕 (908～951)・器台 (952～956) 等が出土している。概ね 5～7 世紀の所産になるものと考えられる。

他に、製塩土器片 (729)、不明瓦質土器 (730)、円筒埴輪片 (731・732)、須恵質の陶馬 (957) 等が出土している。また、砥石等の石製品 (958～965)、鉄製斧かと考えられる金属製品 (966)、不明木製品等 (967・968) が出土している。

当流路から出土した遺物の 9 割近くは須恵器であった。その須恵器について、出土遺物の重量を測定し、おおまかではあるが器種によって出土量に差があるかどうかを分析した。その結果、総出土量は 592.6kg であった。最も出土量が多いのは、壺・甕類で 369kg を測りおよそ 62% を占める。次いで多いものは蓋杯・高杯類で 182.2kg を測りおよそ 31% を占める。これ以外に甌・小壺類が 15.2kg を測りおよそ 3% を占める。残りの 4% はそれ以外の器種である。この分析から、当流路出土須恵器は壺・甕類及び蓋杯・高杯類が主体となっていることが明らかである。また、出土した須恵器のうち蓋杯類には、焼け歪みのあるもの (写真図版 169 中段)、焼成不良のもの (写真図版 169 下段)、溶着のあるもの (写真図版 170 上段) が一定量見られた。それらの多くはほとんど破損しておらず完形になるものであることも特徴として挙げられる。

古代に属する 3077 流路 (11-1:3-3 区、11-1:8-1

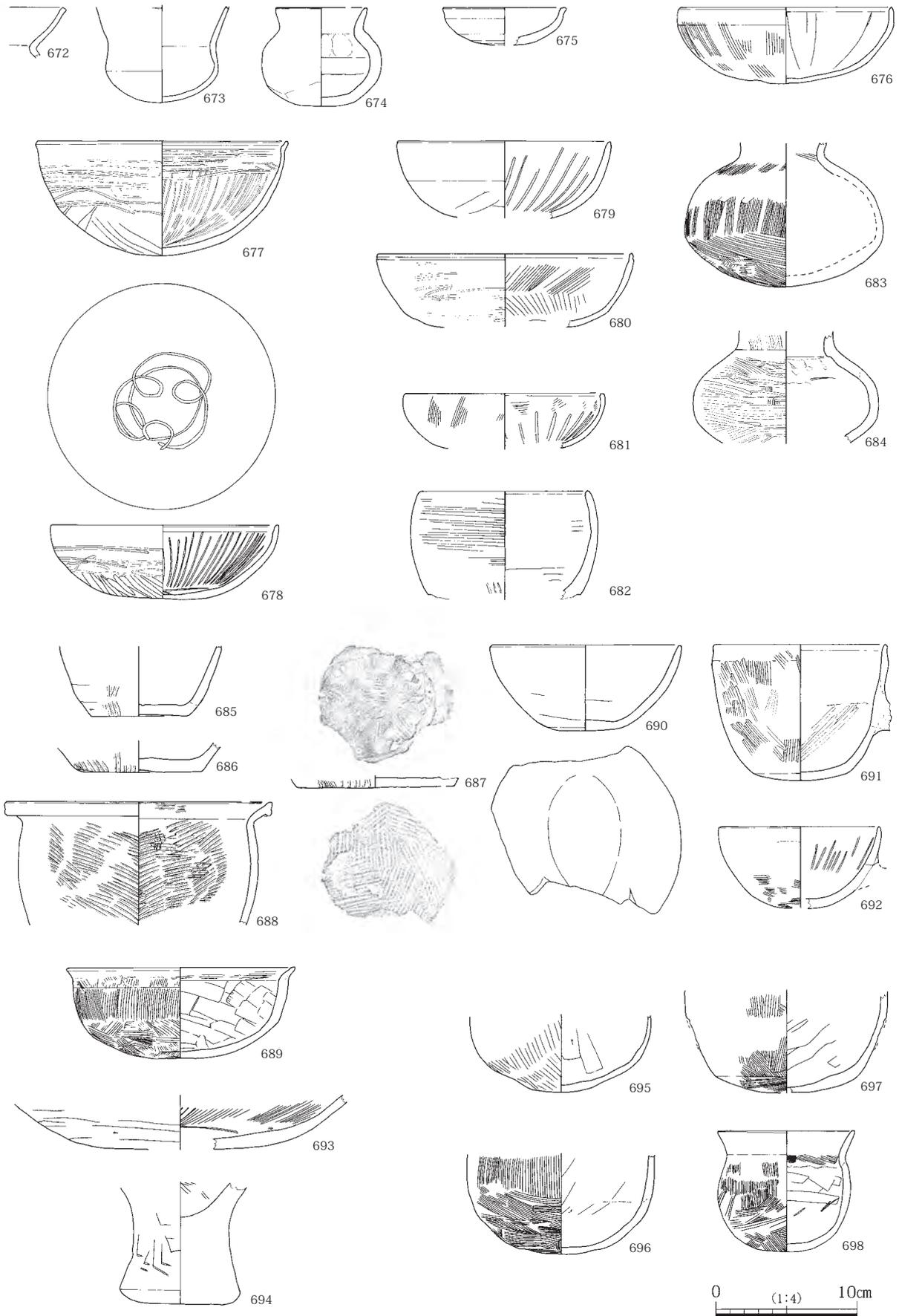


図 259 7066 流路 出土遺物 (1)

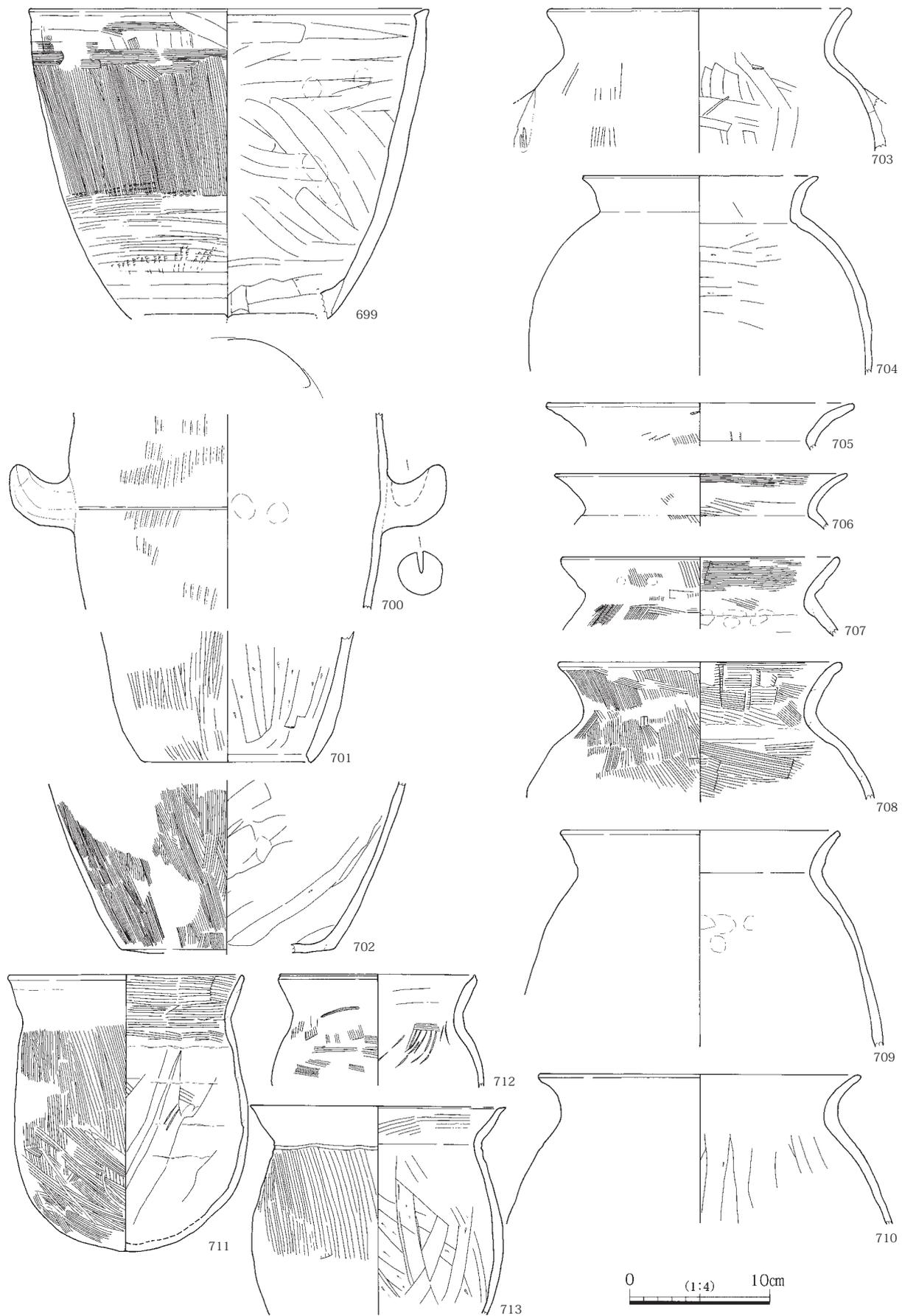


图 260 7066 流路 出土遺物 (2)

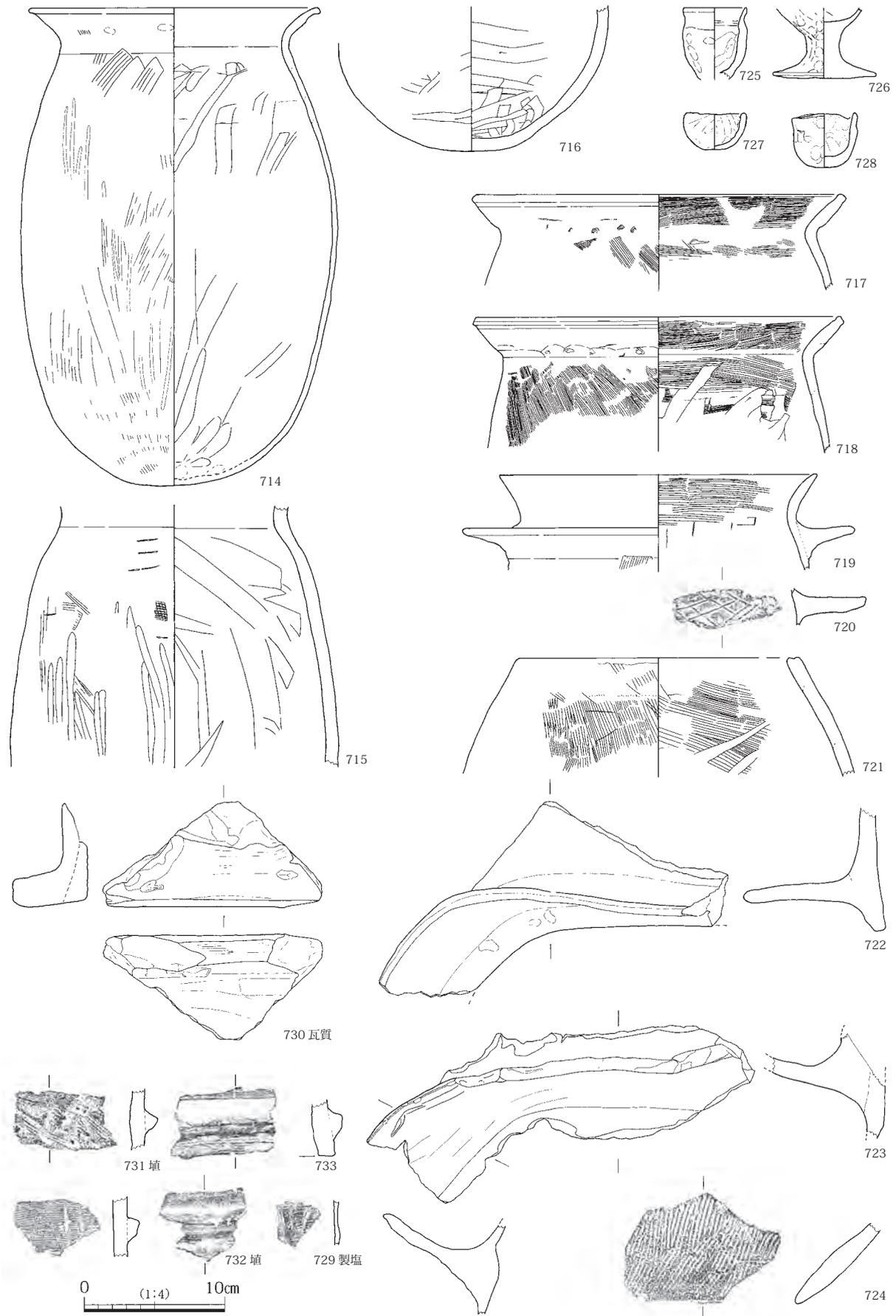


図 261 7066 流路 出土遺物 (3)

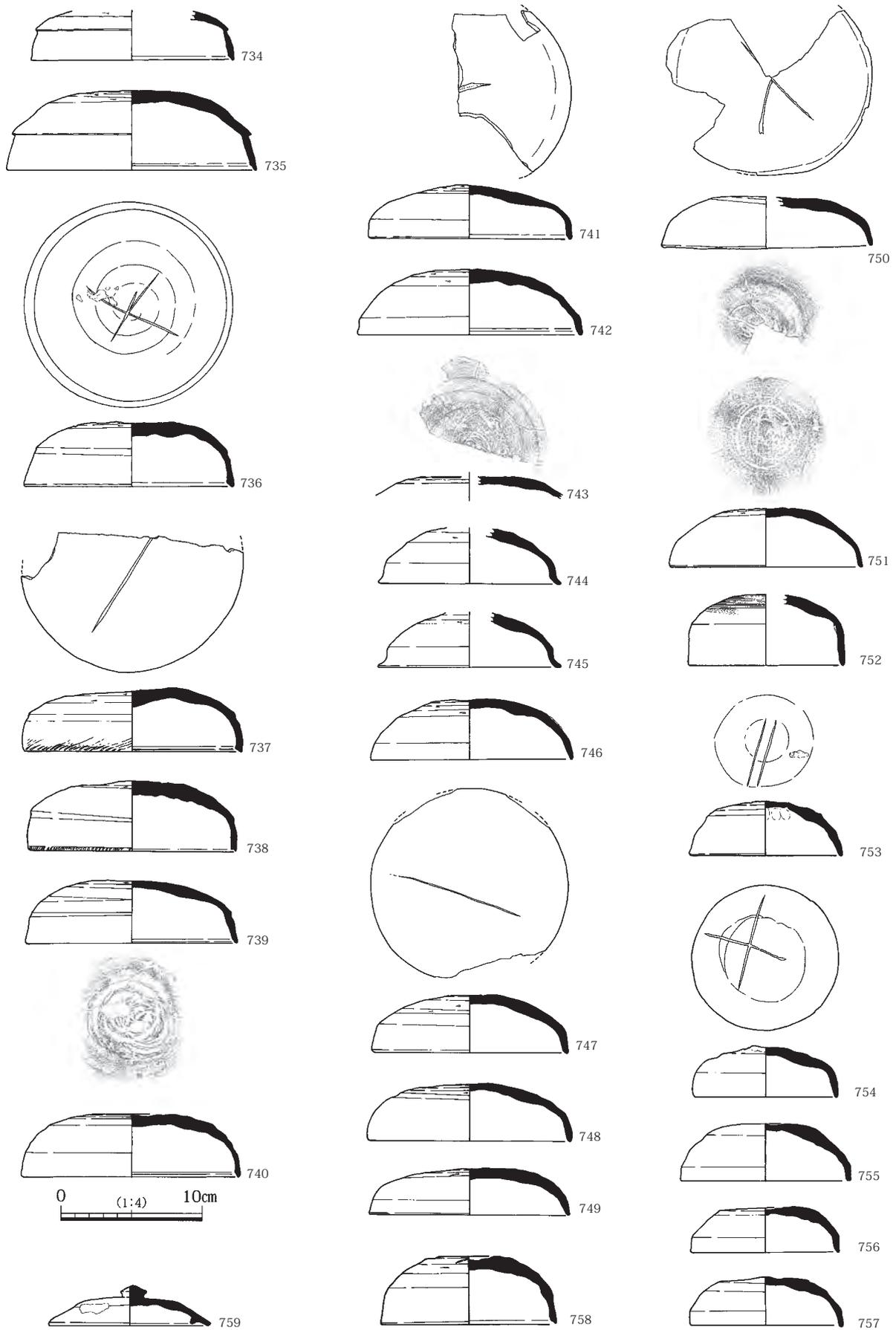


图 262 7066 流路 出土遺物 (4)

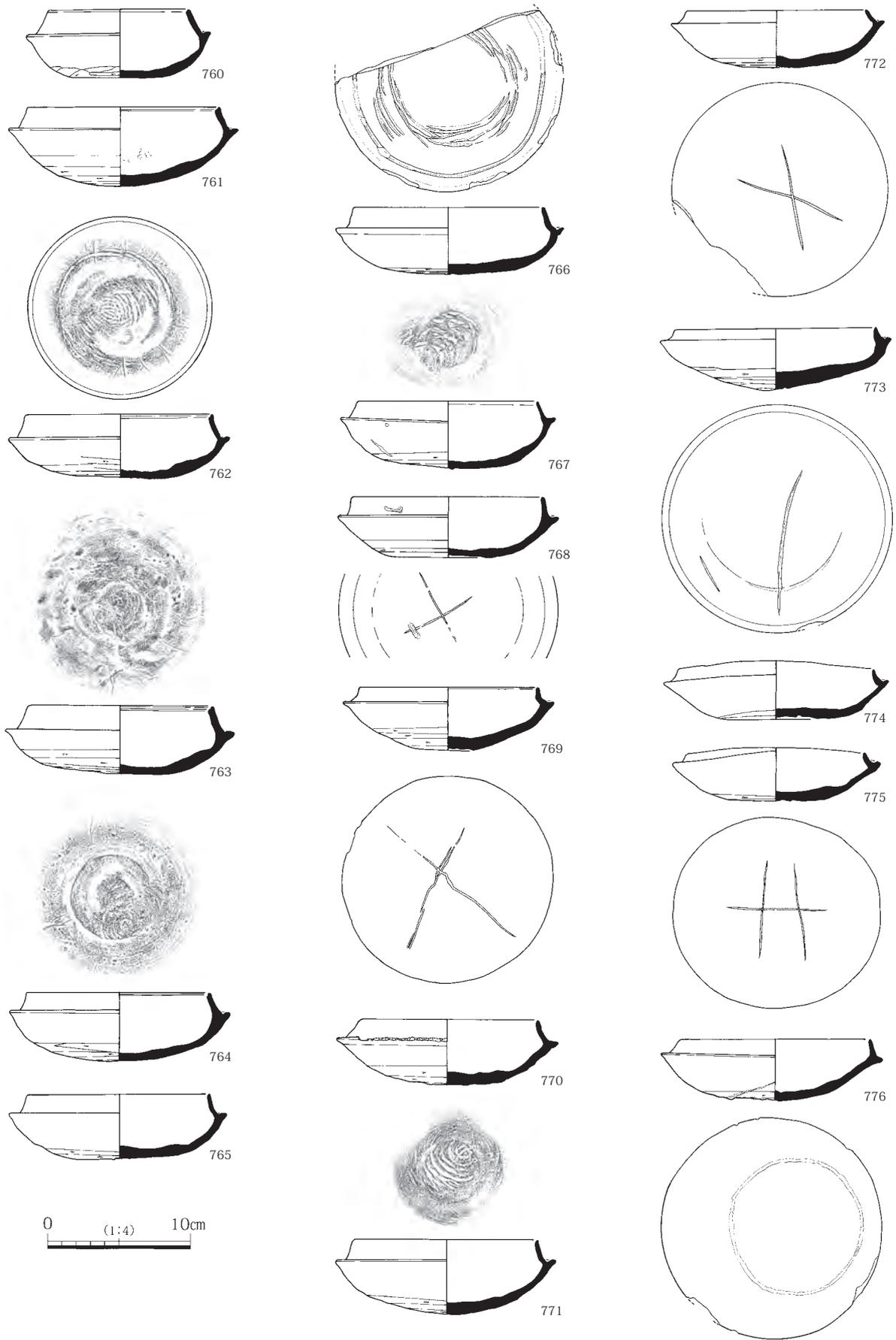


図 263 7066 流路 出土遺物 (5)

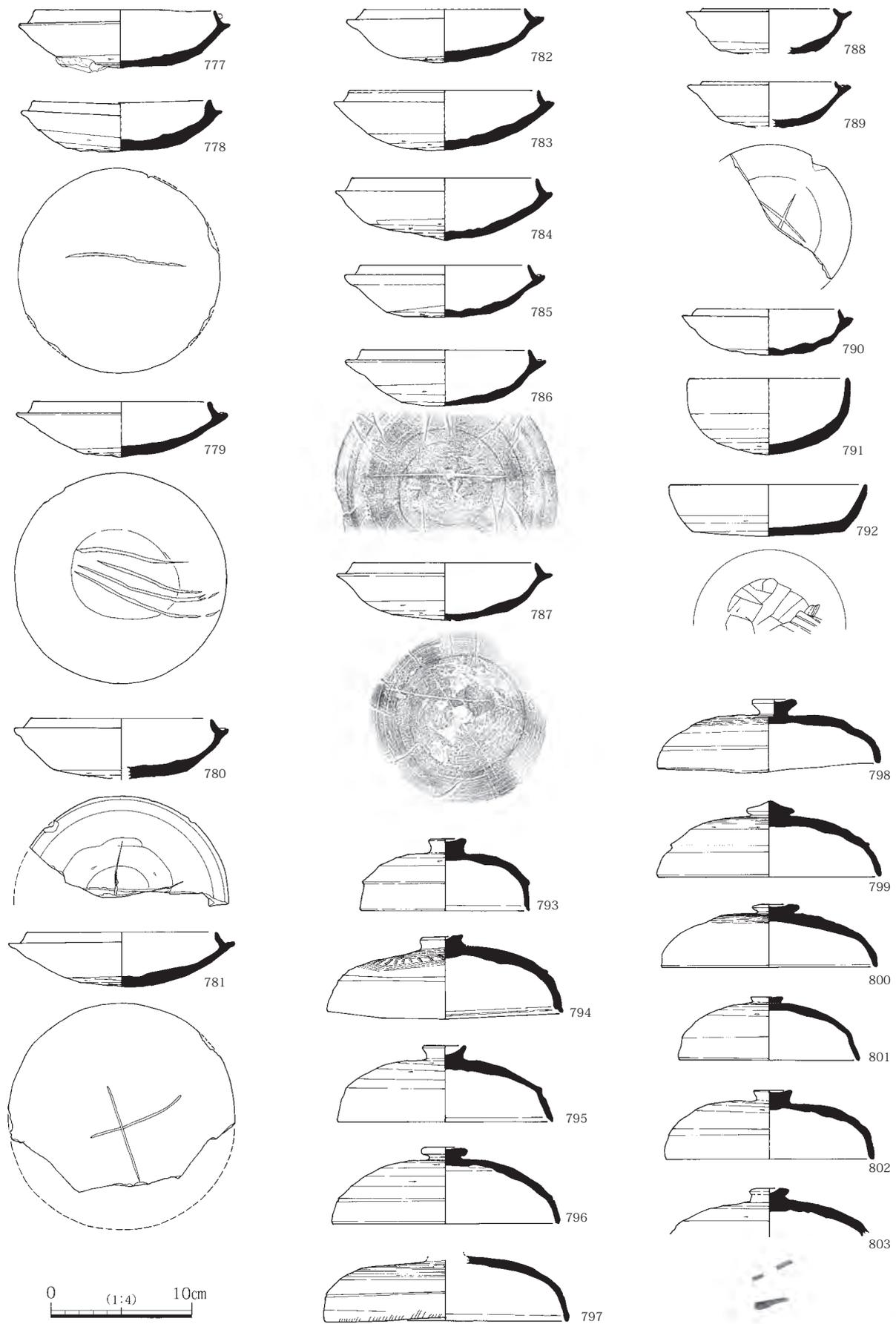


图 264 7066 流路 出土遺物 (6)

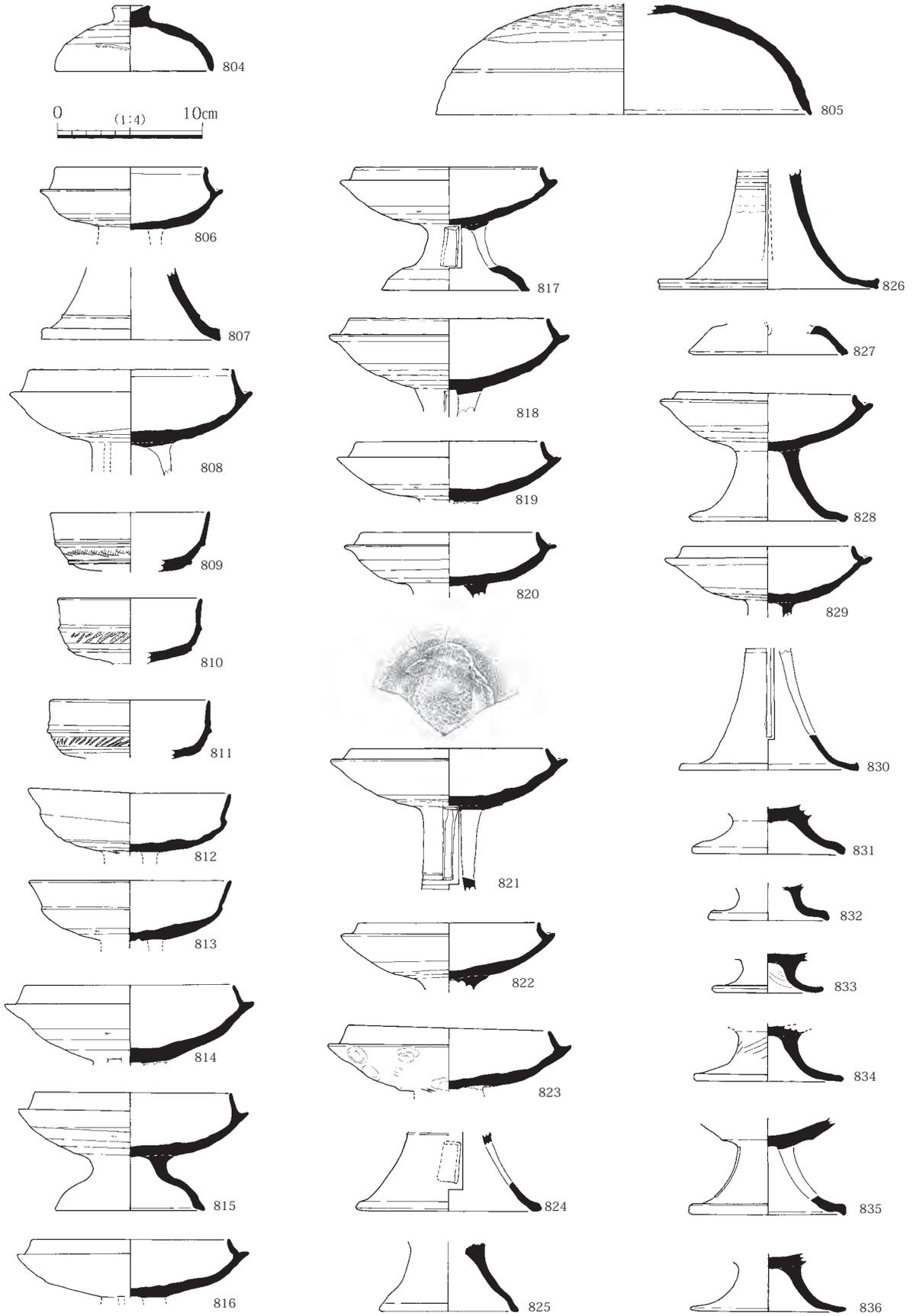


図 265 7066 流路 出土遺物 (7)

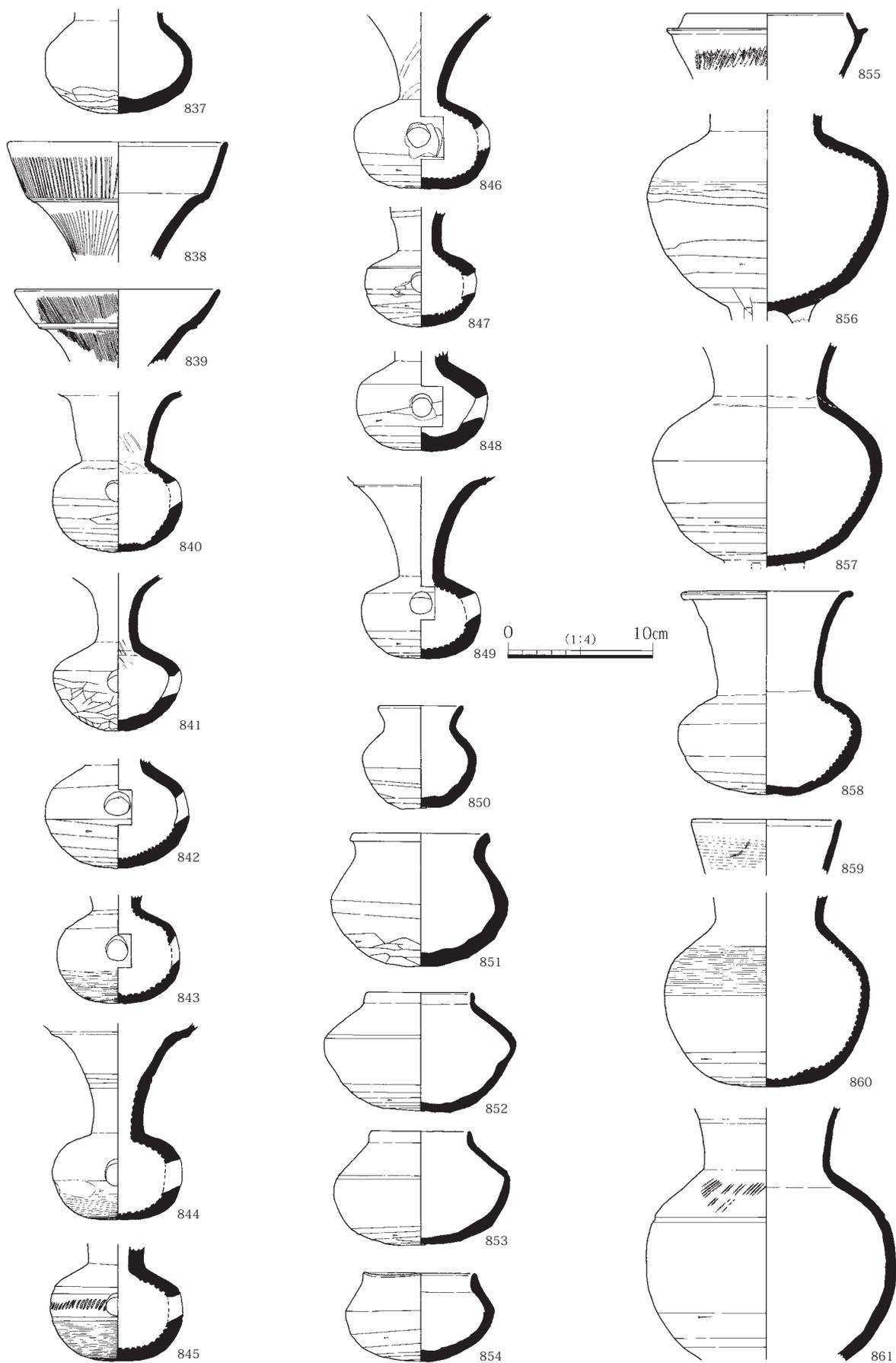


图 266 7066 流路 出土遺物 (8)

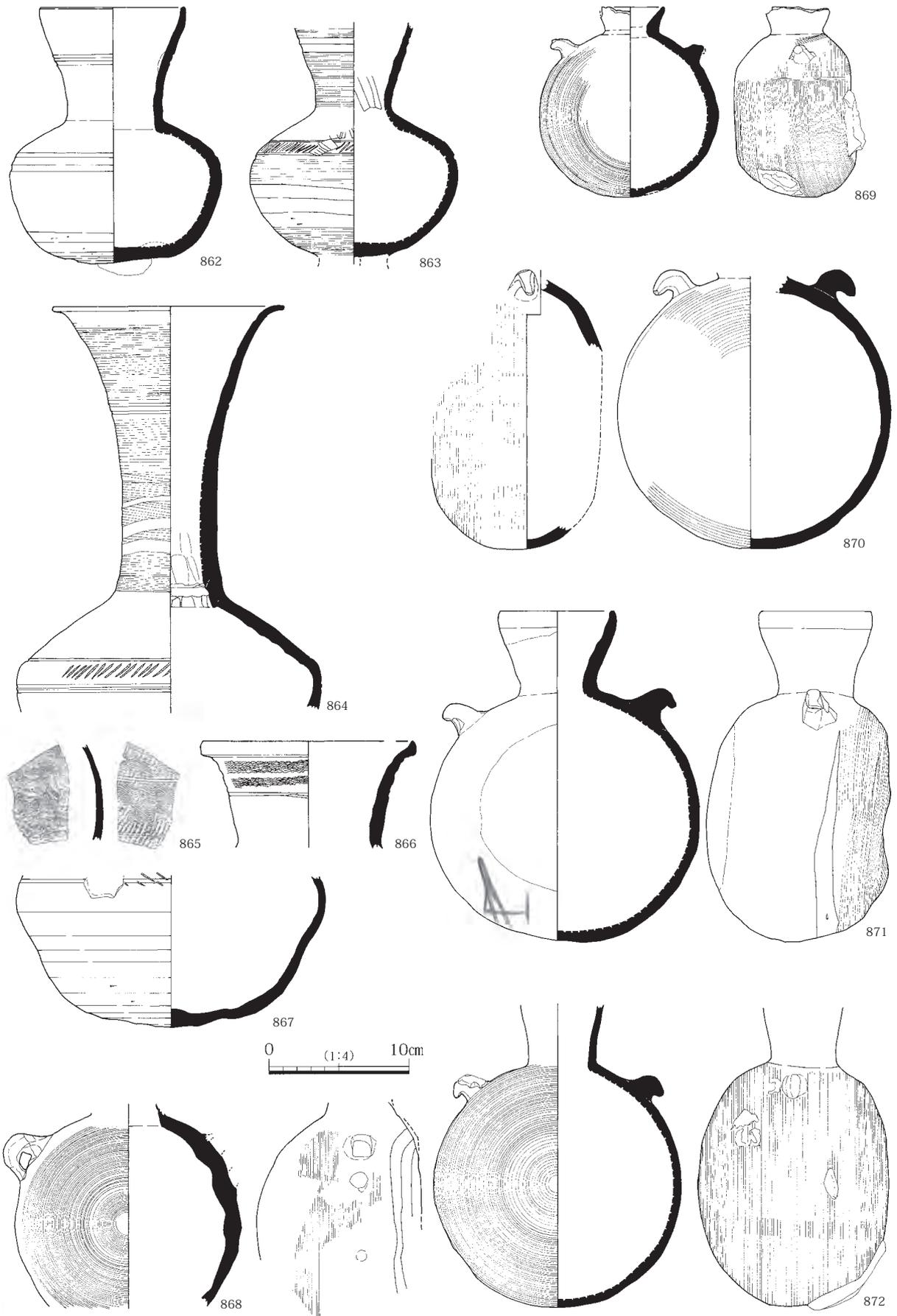


図 267 7066 流路 出土遺物 (9)

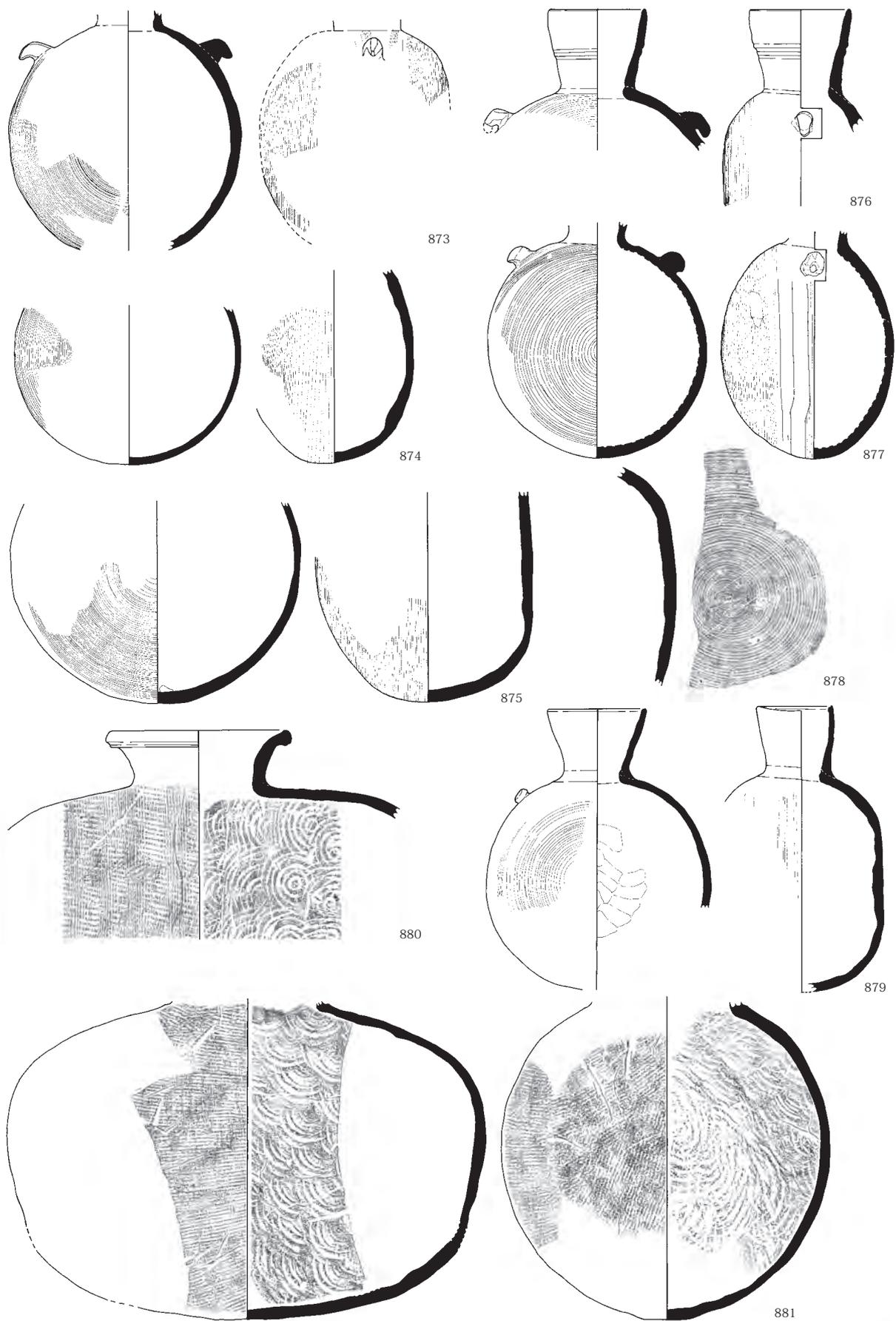


图 268 7066 流路 出土遺物 (10)

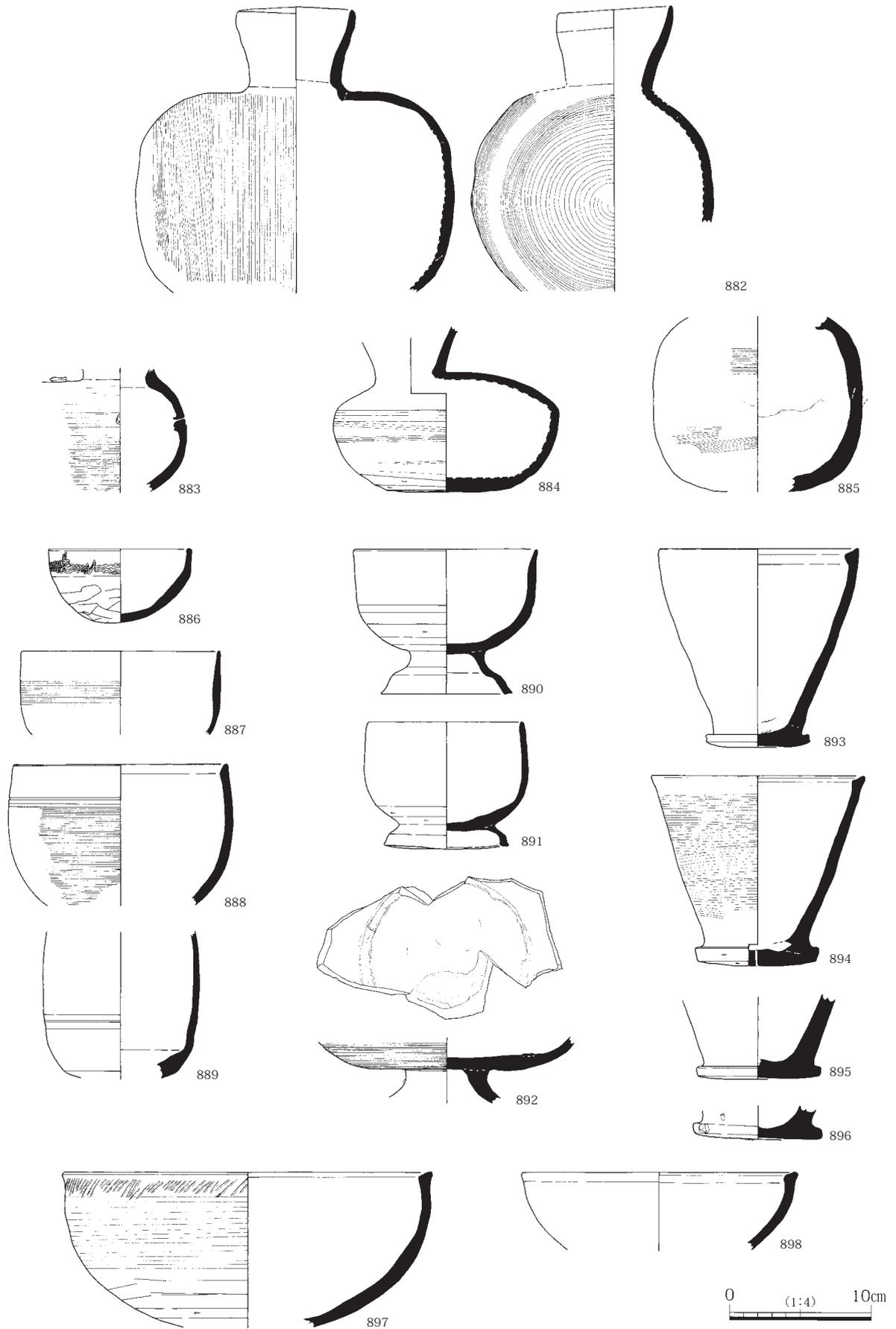
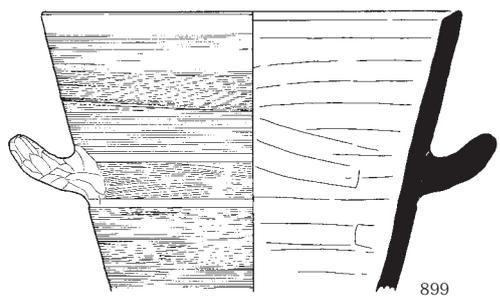
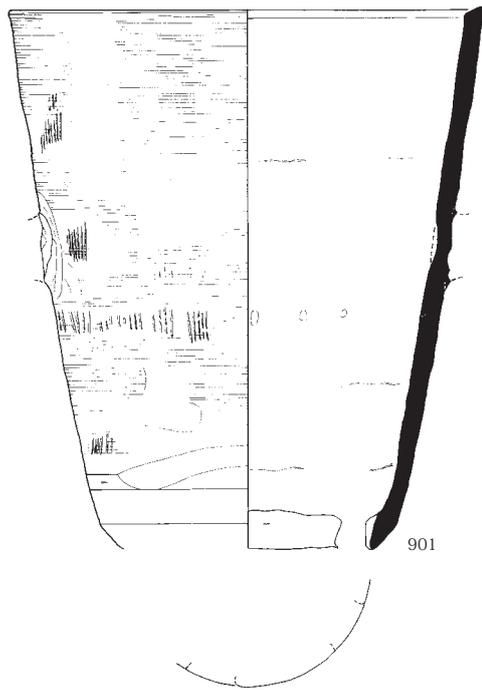


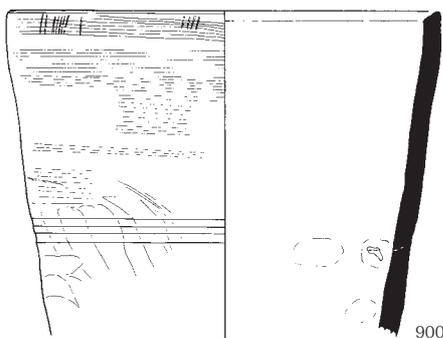
図 269 7066 流路 出土遺物 (11)



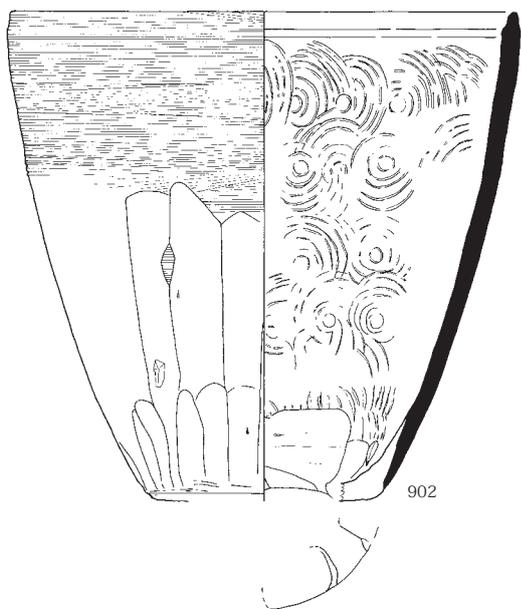
899



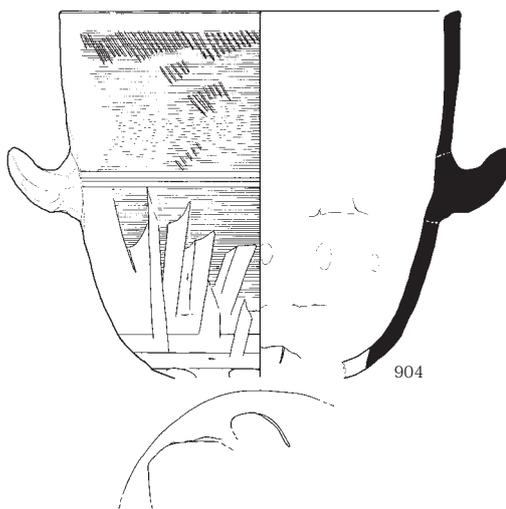
901



900



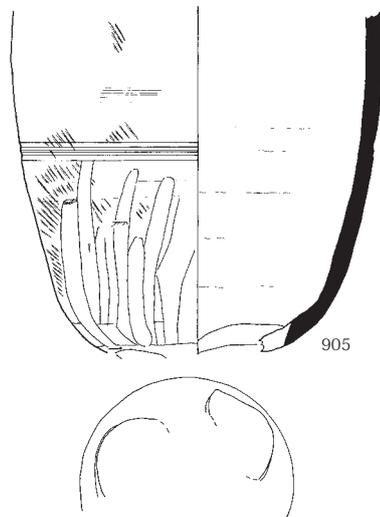
902



904



903



905

0 (1:4) 10cm

图 270 7066 流路 出土遺物 (12)

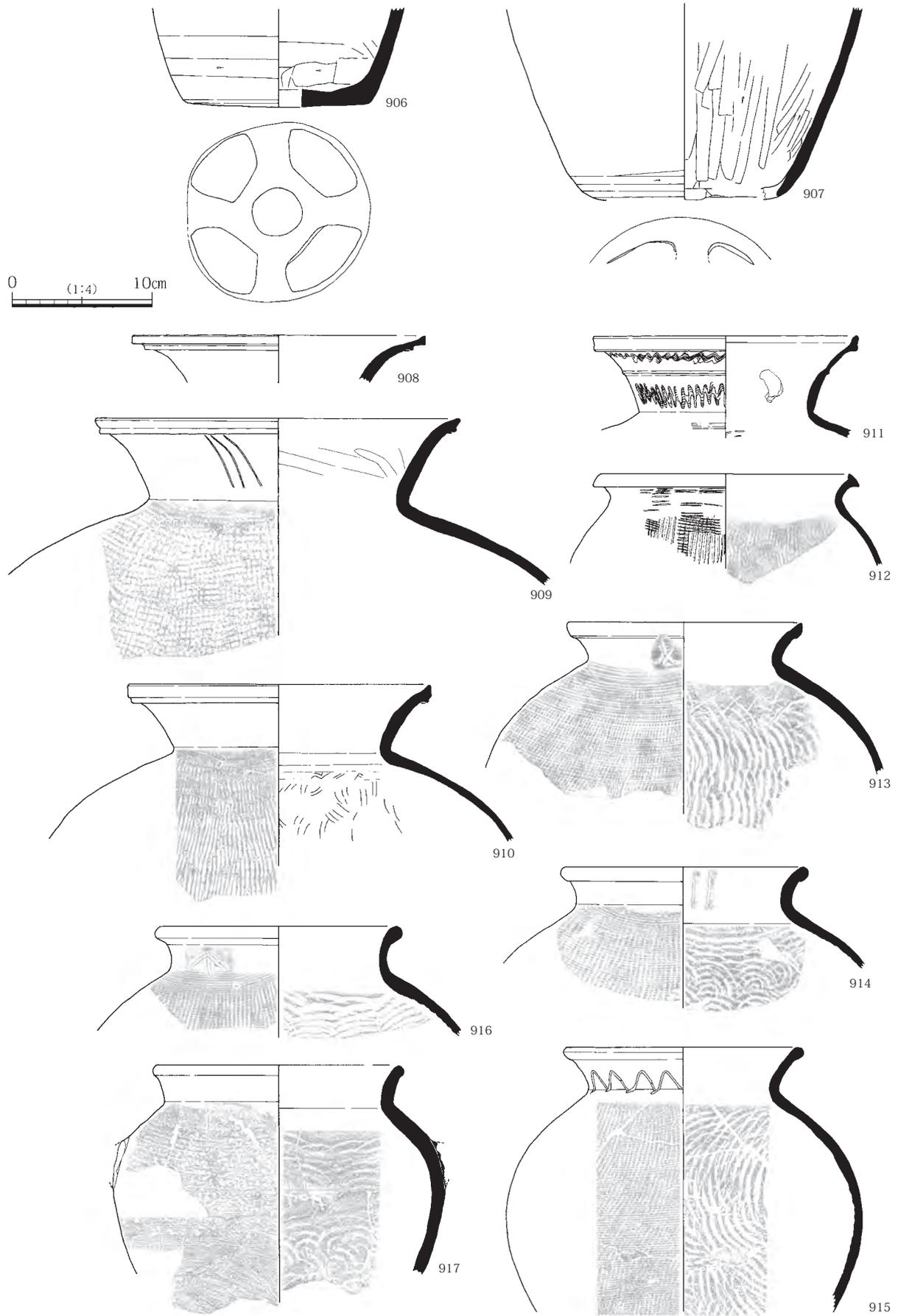
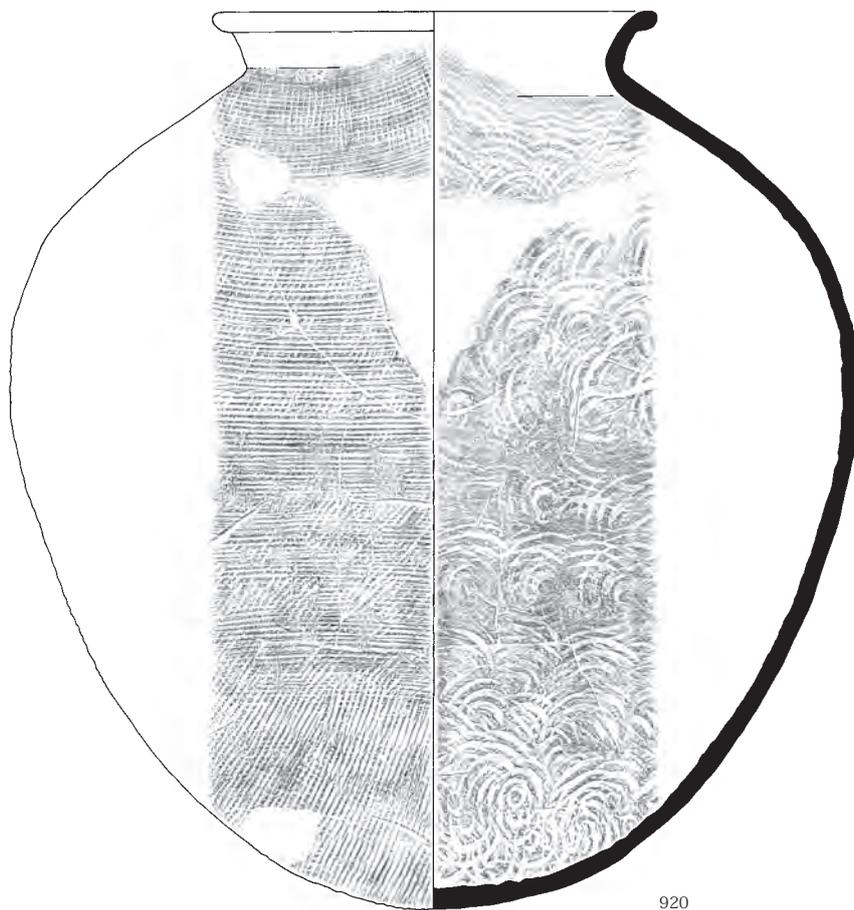
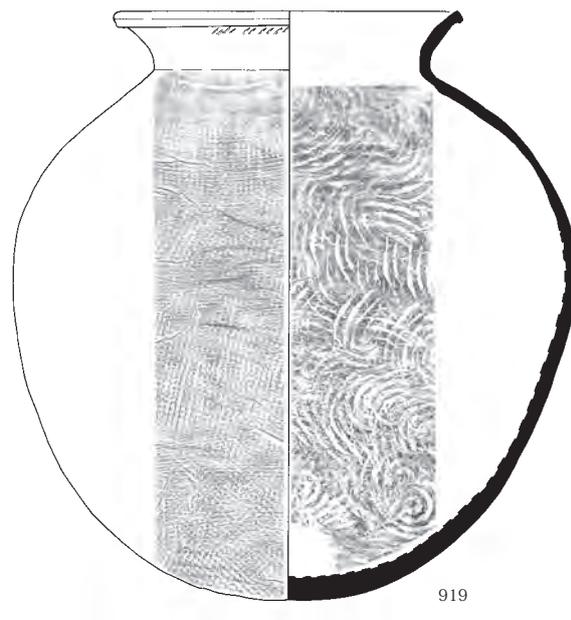
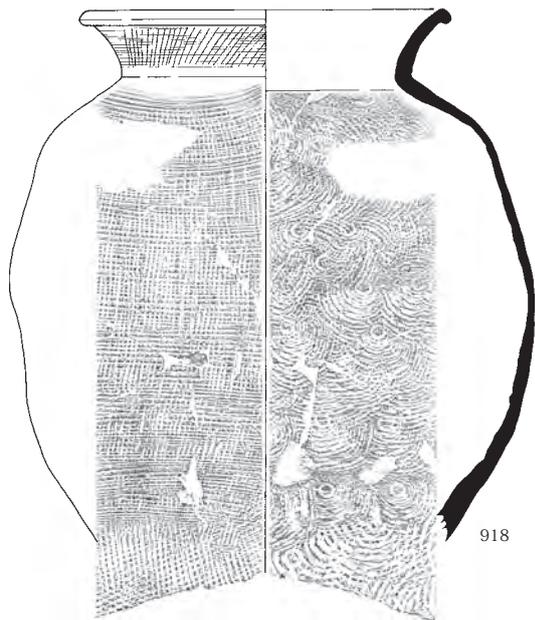


図 271 7066 流路 出土遺物 (13)



0 (1:4) 10cm

图 272 7066 流路 出土遺物 (14)

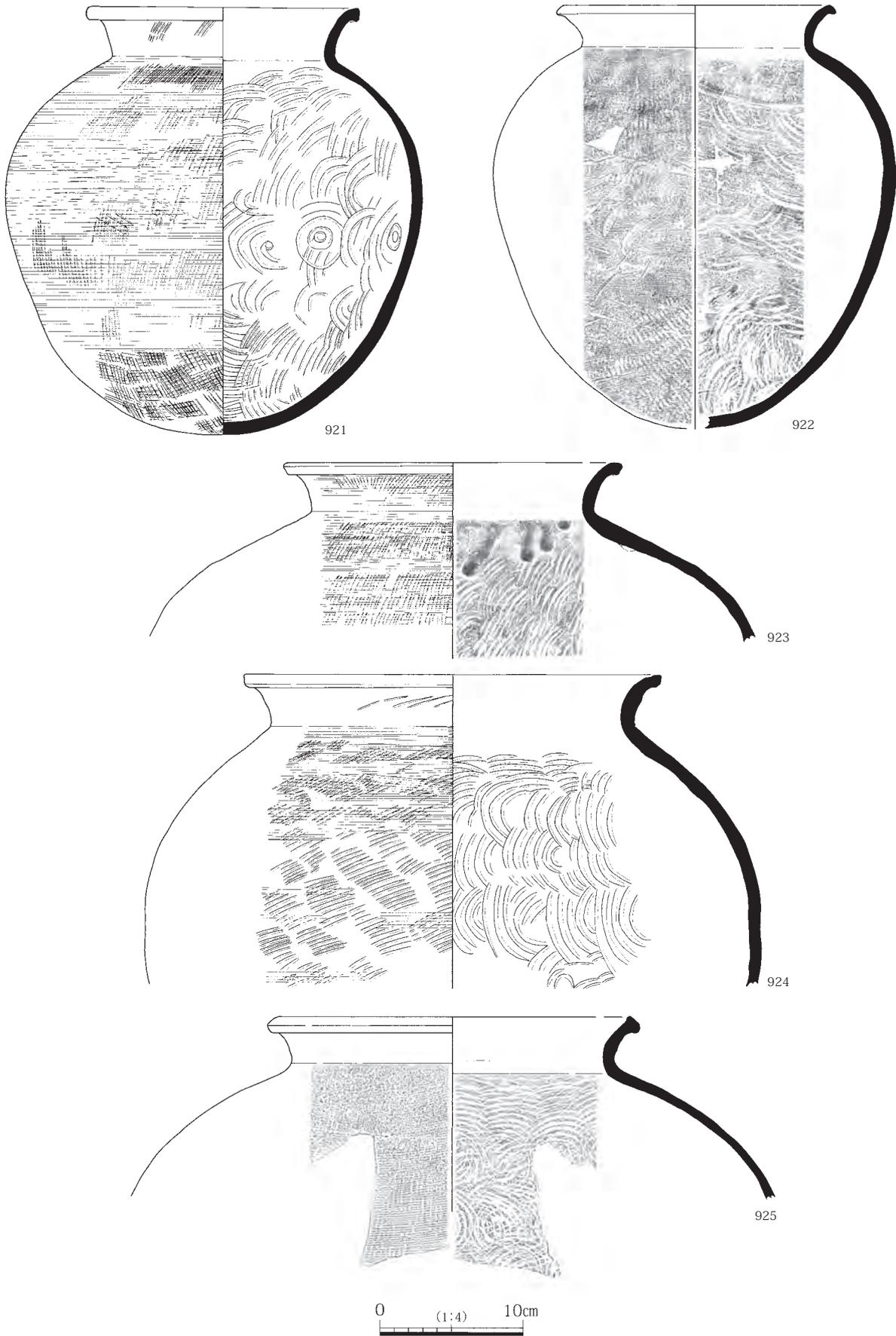


図 273 7066 流路 出土遺物 (15)

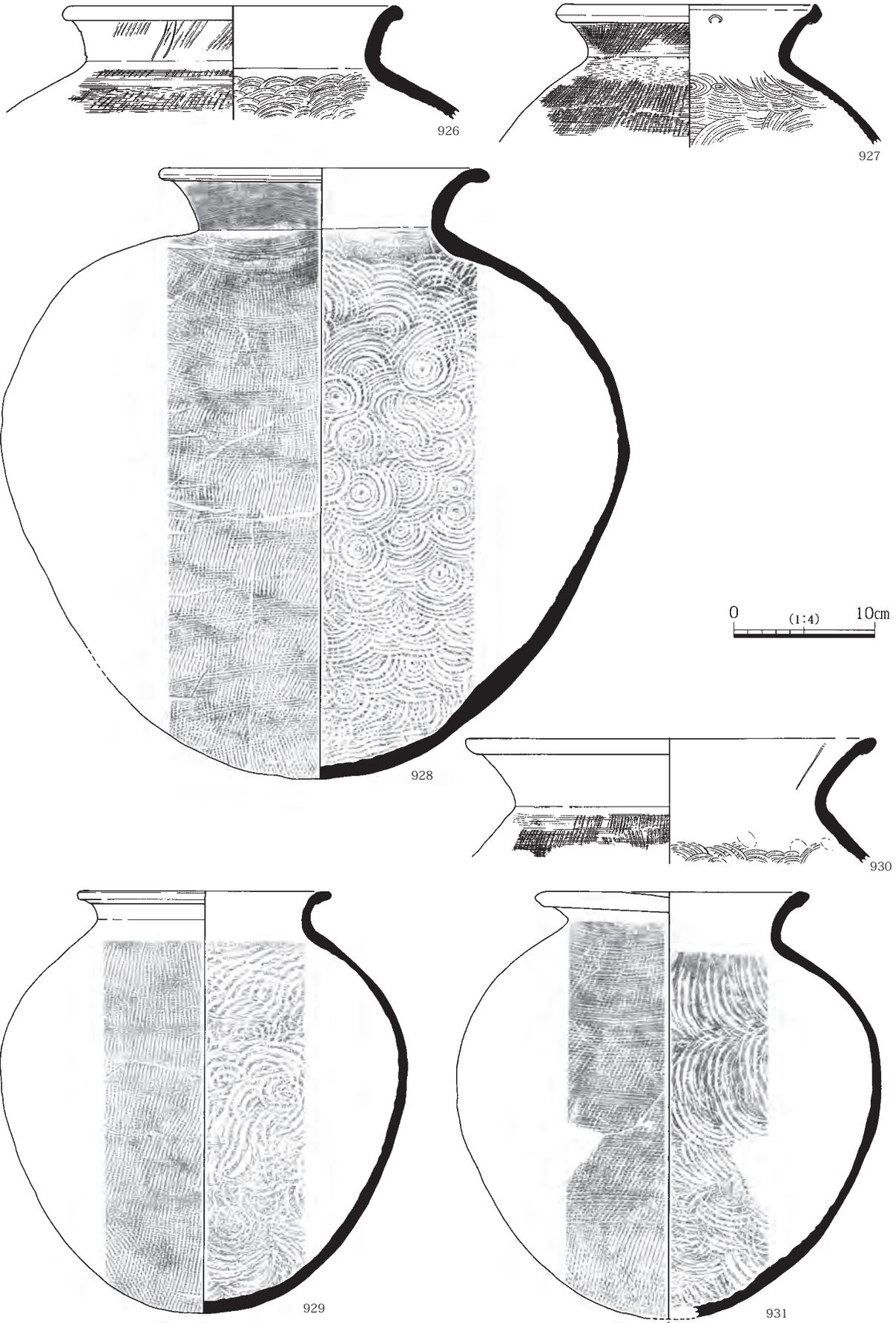


图 274 7066 流路 出土遺物 (16)

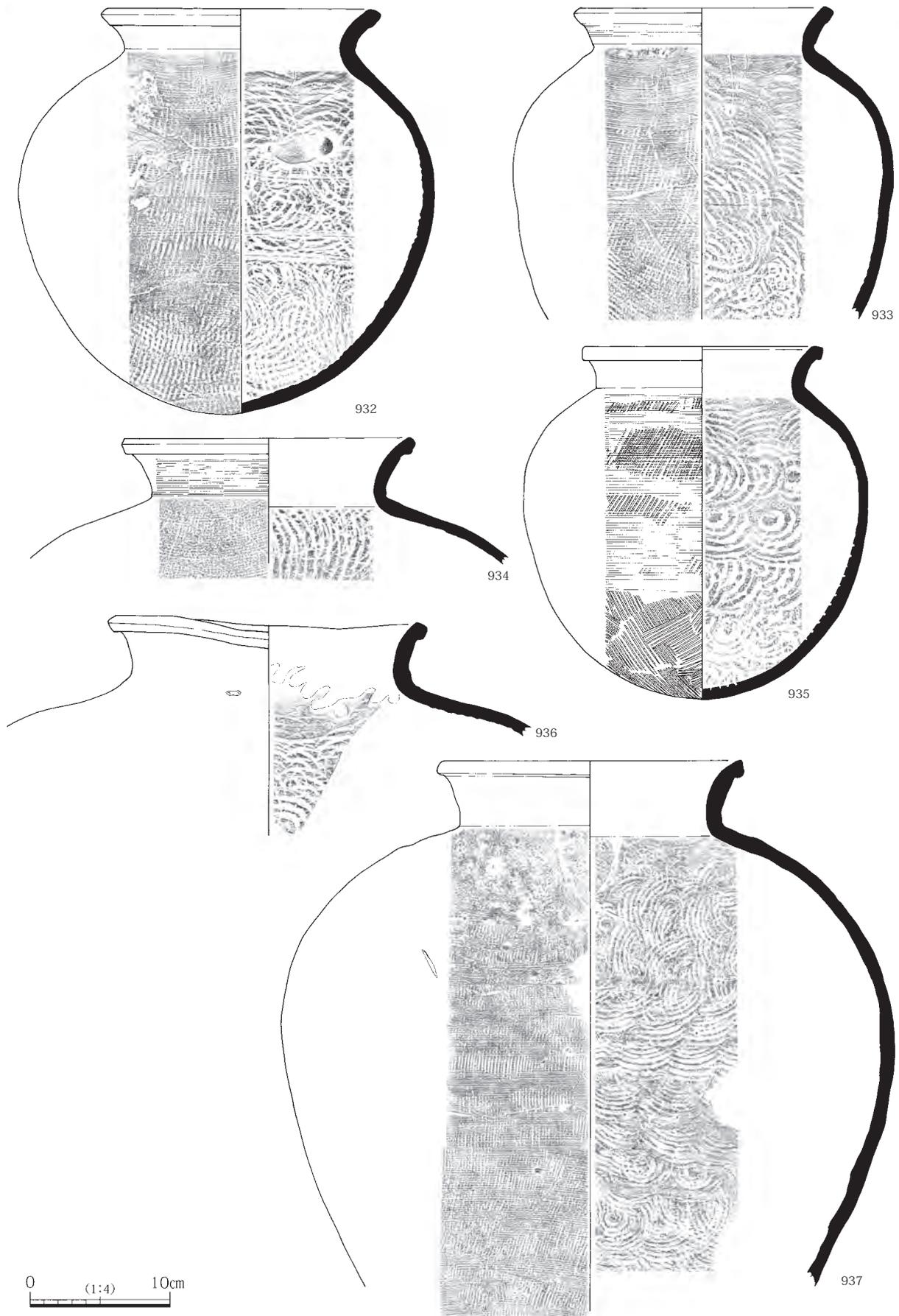


図 275 7066 流路 出土遺物 (17)

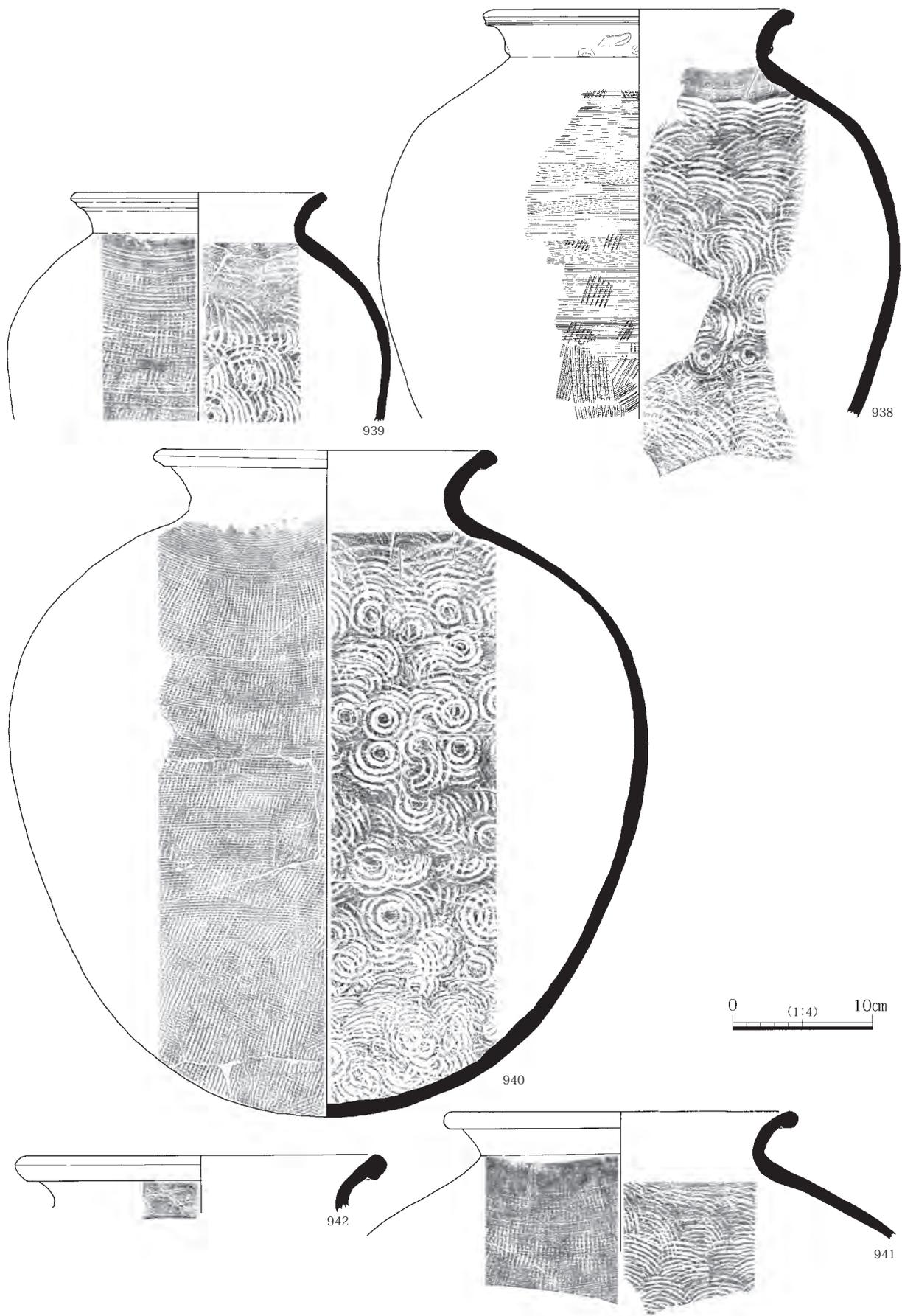


图 276 7066 流路 出土遺物 (18)

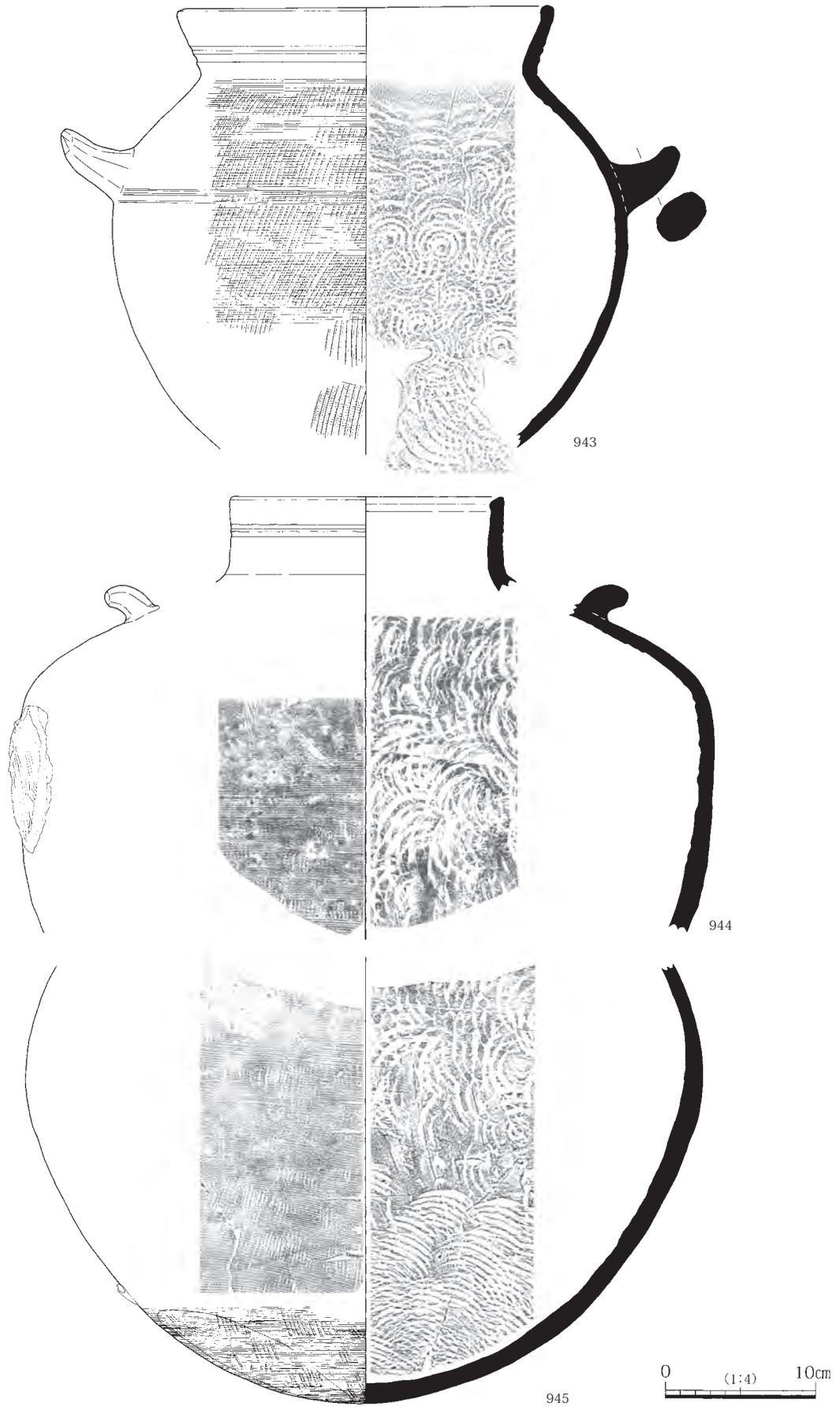


図 277 7066 流路 出土遺物 (19)

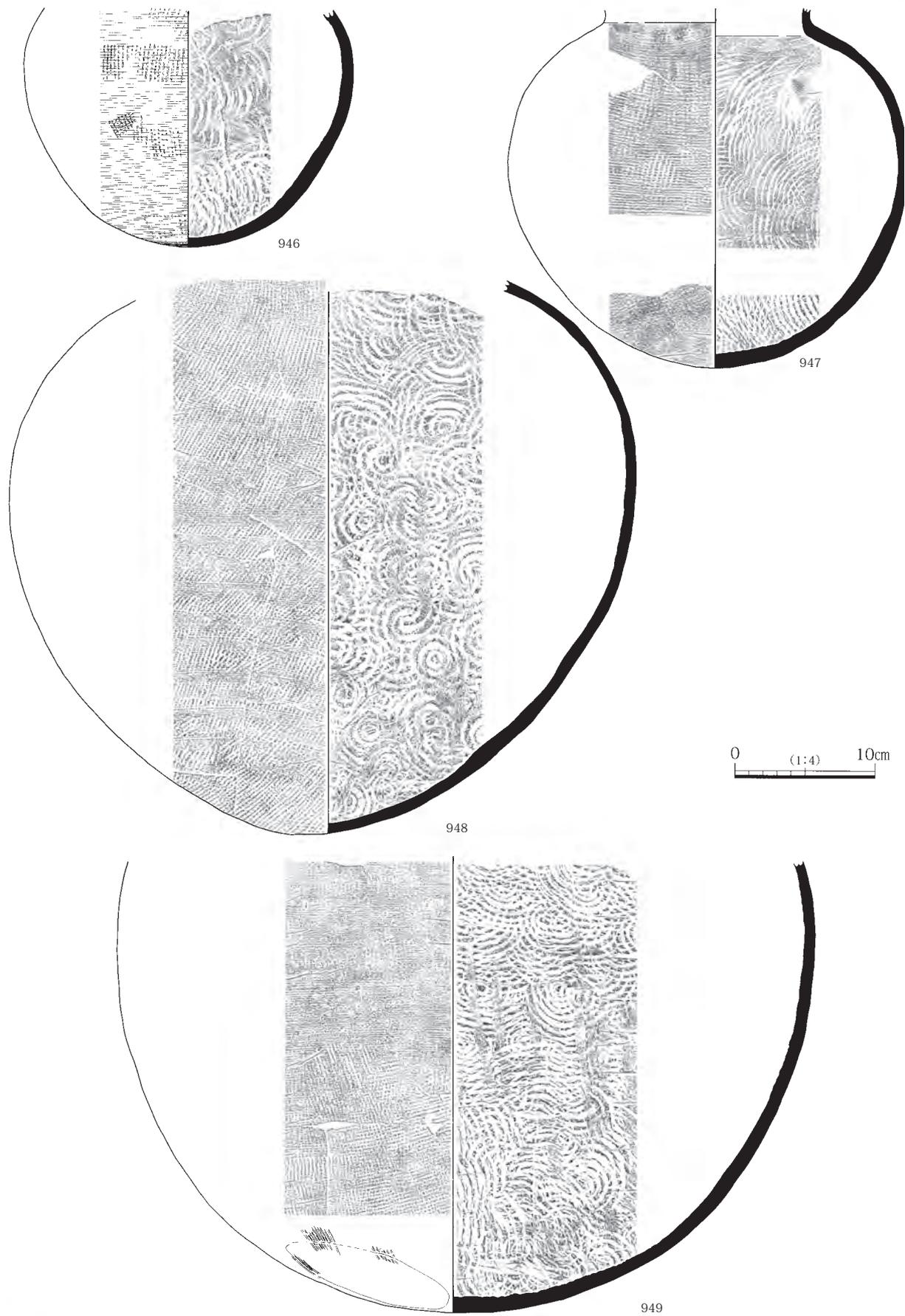


图 278 7066 流路 出土遺物 (20)

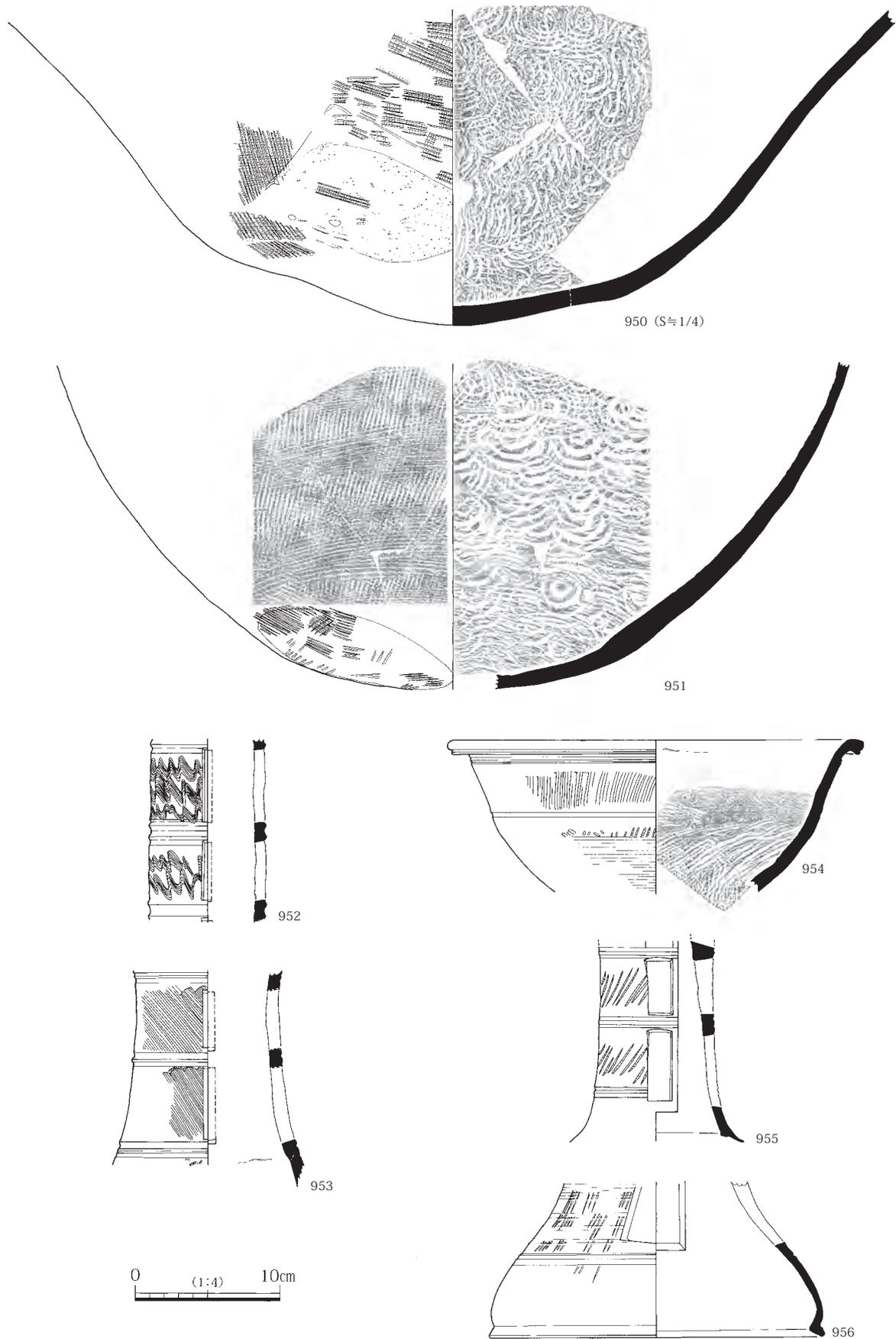


図 279 7066 流路 出土遺物 (21)

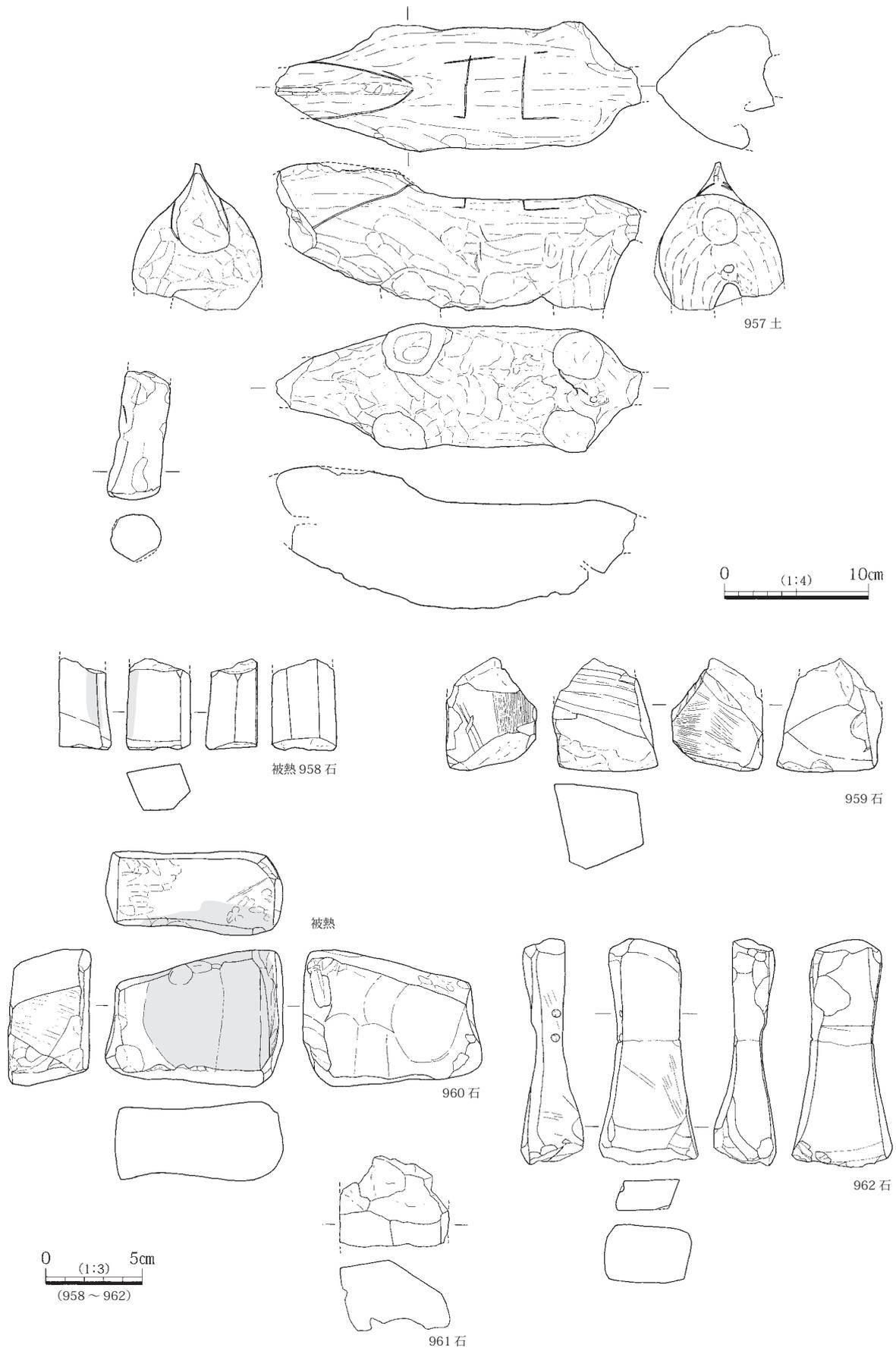


图 280 7066 流路 出土遺物 (22)

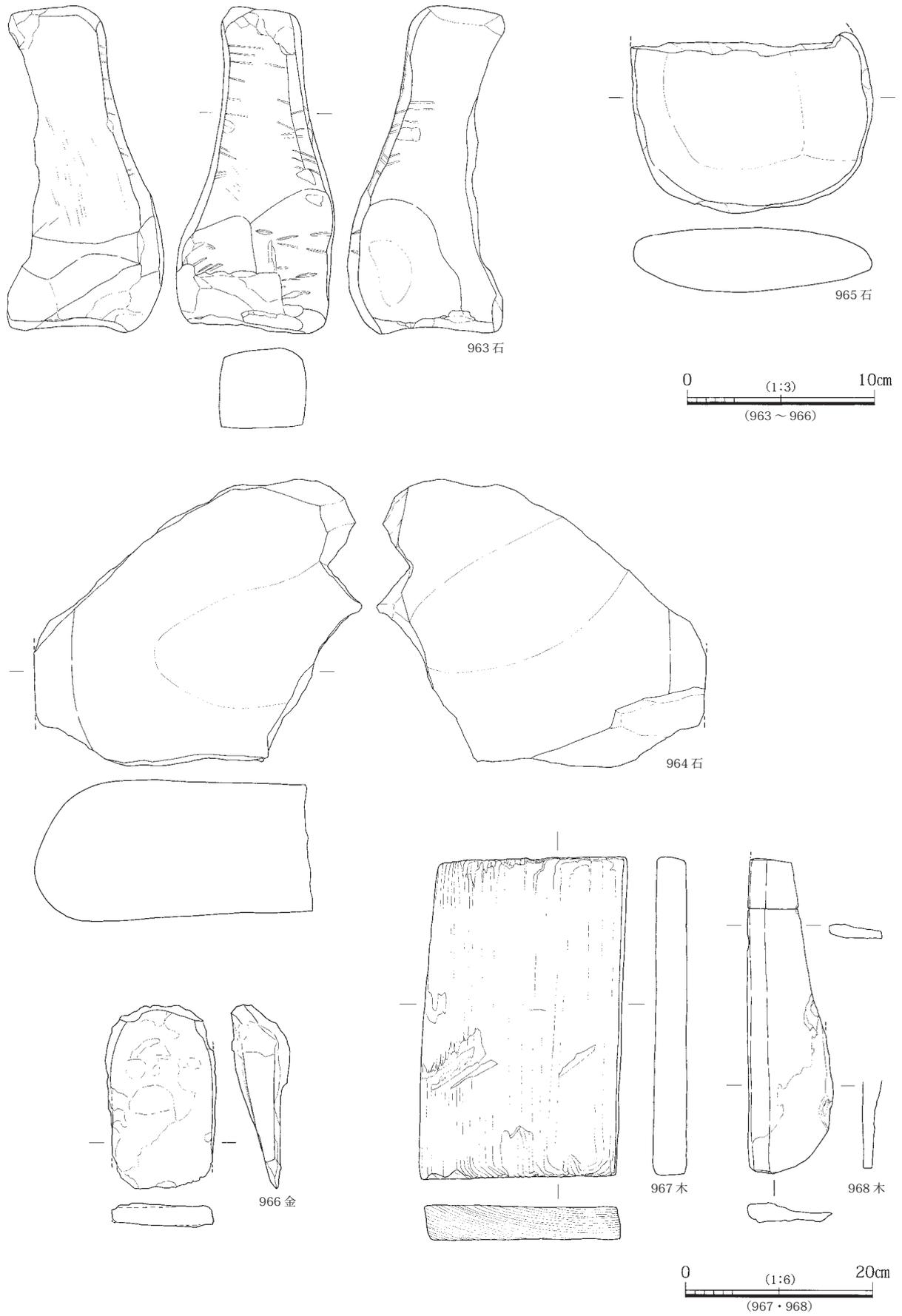


図 281 7066 流路 出土遺物 (23)

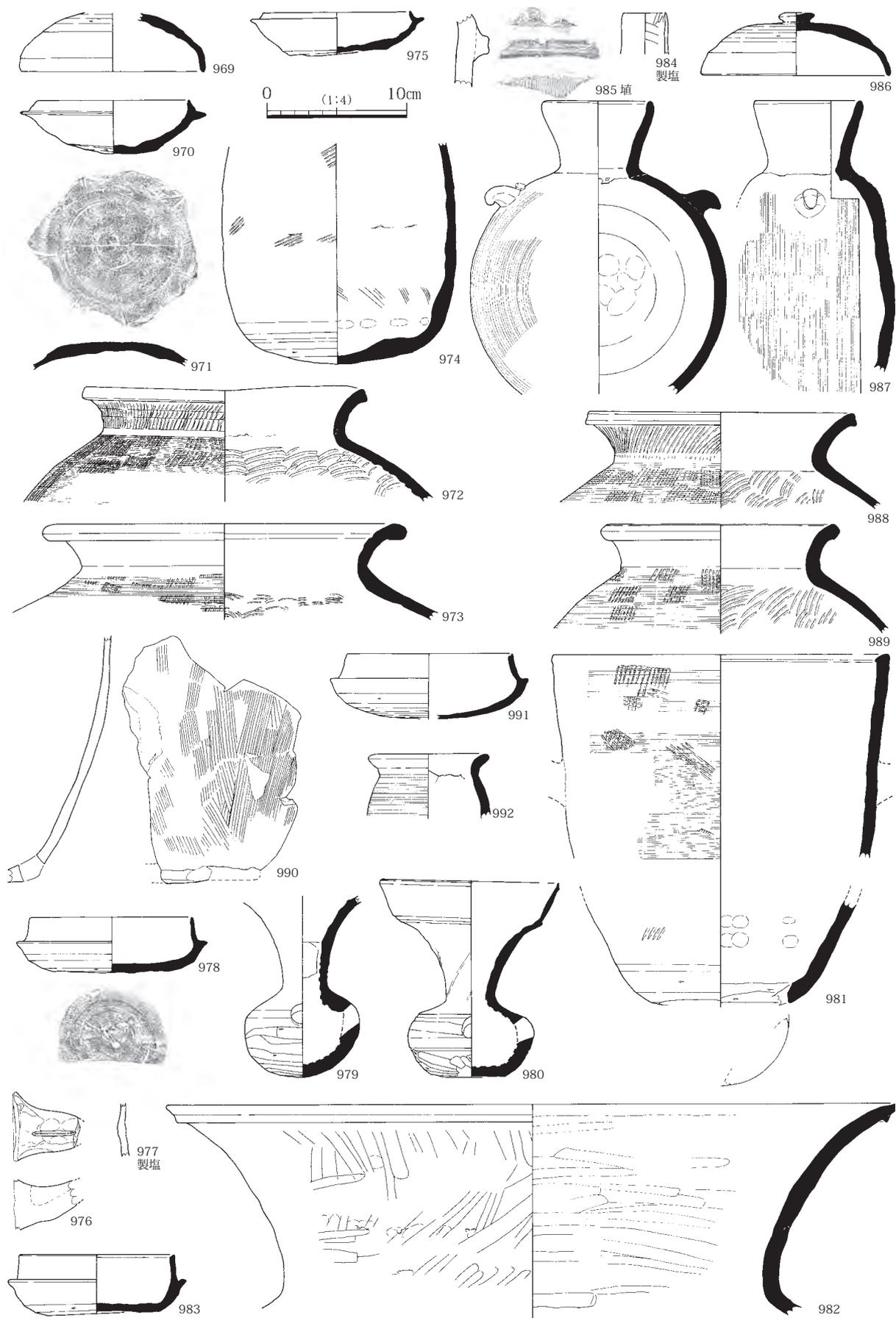


图 282 7066 流路 出土遺物 (24)

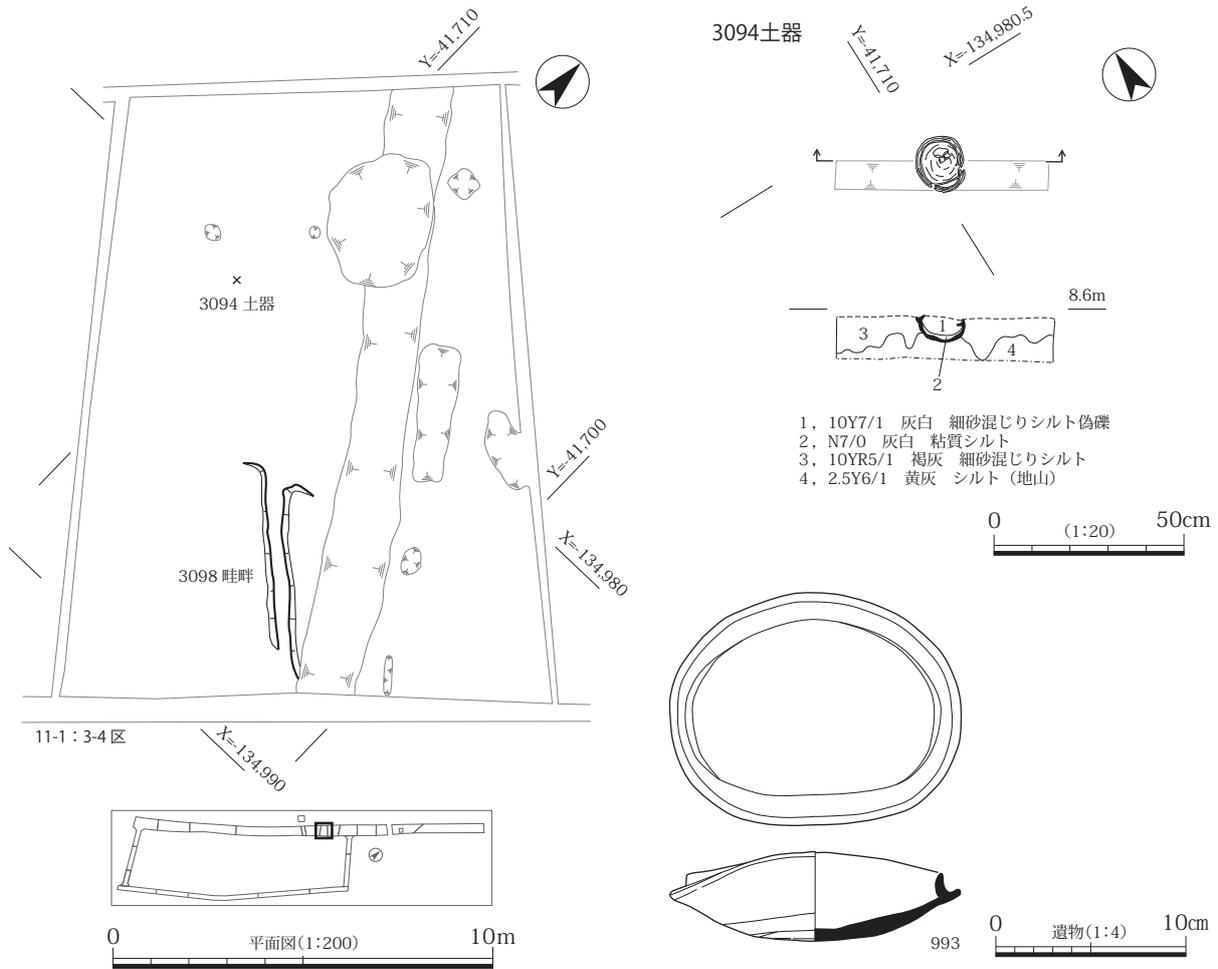


図 283 3094 土器出土状況・出土遺物

区 8015 流路、11-1:8-2 区 8052 流路、12-1:4-2 区 4141 流路)、中世に属する 8005 流路 (11-1:8-1 区、11-1:8-2 区 8035 流路) の各流路からも当該期の所産になる土器が多数出土している。それぞれ 7066 流路の埋土を切って流れていることから、それらの遺物は元来当流路に帰属するものと判断し、図化し得たものを一括してこの項で報告することとする。それらを図 282・285 に示す。土師器、須恵器、製塩土器、円筒埴輪が出土しており、7066 流路から出土した遺物と同様の状況を示す。

なお、主に当流路北西端の 11-1:3-3・11-1:8-2 区において、円筒埴輪片が出土している。また、後述の 11-1:5-2 区包含層からも円筒埴輪片が出土していることから、調査区北西部付近に古墳が存在している可能性がある。

流路埋土からは 5～7 世紀の所産になる遺物が大量に出土したが、主体となるのは須恵器で、その他の土器は量的には僅少である。流路内の埋土の掘り分けができていないため、詳細な検討はできないが、飛鳥時代の土器が一定量出土していることを勘案すれば、当流路は、主に古墳時代後期に機能し飛鳥時代に埋没した可能性が高い。

8. その他遺構

3094 土器 (図 283、写真図版 170) 11-1:3-4 区において第 4 層を除去した面で検出した。地山上面に

底部を接するように焼け歪みのある須恵器杯身(993)が出土した。

3098 畦畔(図 283) 11-1:3-4 区において第 4 層を除去した面で検出した。軸を N-48°-W におく疑似畦畔と考えられる。ここ以外の場所で畦畔は検出されていないため、詳細は不明である。3094 土器が当畦畔の概ね延長上に当たる地点で検出されていることから、その関連性を考慮し、ここでの報告を行った。

9. 包含層その他出土遺物(図 284～286、写真図版 168・170・171・177・186・188)

994～997 は 10-1:4-4 区出土遺物。須恵器杯身(994)・甕(995)・甕(996)、砥石(997)等が出土している。994 は第 2 節で報告した D0158 流路埋土の最上層から出土した須恵器杯身。前述したように、D0158 流路は弥生時代後期に属する流路であるが、埋没後も低まりとして古墳時代後期までその姿を留めていた可能性を示すものとして掲載した。

998～1021 は 11-1:7 区出土遺物。土師質竈片(998)、須恵器杯蓋(999～1003)・杯身(1004～1011)・高杯(1012)・台付長頸壺(1013)・提瓶(1014・1015)・把手付椀(1016)・台付鉢(1017・1018)・甕(1019～1021)等が出土している。1016 を除き、いずれも古墳時代後期の所産になる。

1022 は 11-1:3-7 区出土遺物。土師器把手(1022)等が出土している。

1023～1027 は 11-1:3-4 区出土遺物。須恵器杯蓋(1023)・杯身(1024～1026)、滑石製の不明石製品(1027)等が出土している。概ね古墳時代後期の所産になる。

1028 は 12-1:3-9 区出土遺物。古墳時代中期所産と考えられる製塩土器(1028)等が出土している。

1029～1035 は 11-1:3-3 区出土遺物。土師器複合口縁壺(1029)・高杯(1030)、製塩土器(1031)、埴輪(1032・1033)、須恵器杯蓋(1034)・すり鉢(1035)等が出土している。古墳時代前期～後期の所産になる。ここに掲載した遺物は、いずれも古代に属する流路から出土したものである。円筒埴輪と考えられる埴輪片が出土していることから、付近に古墳が存在する可能性も考えられる。

1036～1041 は 12-1:4-2 区出土遺物。土師器鉢(1036)・杯(1037)、製塩土器(1038)、須恵器高杯(1039・1040)、砥石(1041)等が出土している。古墳時代前期並びに後期の所産になる。

1042～1044 は 11-1:4-1 区出土遺物。土師質竈片(1042)、須恵器杯蓋(1043)・甕(1044)等が出土している。古墳時代後期の所産になる。

1045～1049 は 11-1:5-3 区出土遺物。土師器鉢(1045)・甕(1046)、須恵器杯身(1047・1048)、砥石(1049)等が出土している。古墳時代前期～後期の所産になる。ちなみに、1045・1046 は第 4-1 層除去中に土器がまとまって出土したことから 5863 土器群としたものである(図 288)。

1050～1088 は 11-1:5-2 区出土遺物。土師器杯(1050)・高杯脚部(1051)・甕(1052・1053)・把手(1054)・甕(1055・1056)、土師質竈片(1057～1063)、製塩土器(1064)、土錘(1065)、埴輪(1066～1070)、須恵器杯蓋(1071～1076)・杯身(1077～1079)・高杯蓋(1080・1081)・高杯(1082・1083)・壺(1084)・甕(1085)・すり鉢(1086)・甕(1087)・甕(1088)等が出土している。古墳時代中期～後期の所産になる。当地区は、他の調査区ではあまり見られない古墳時代中期の所産になる遺物が一定量出土している。目立った遺構は検出されていないが、古墳時代中期の集落が存在している可能性が考えられる。すでに報告された明和池遺跡 11-3 並びに 12-2 調査において、古墳時代中期に属する井戸や土坑が検出されていることから、その蓋然性は高いものと考えられる。

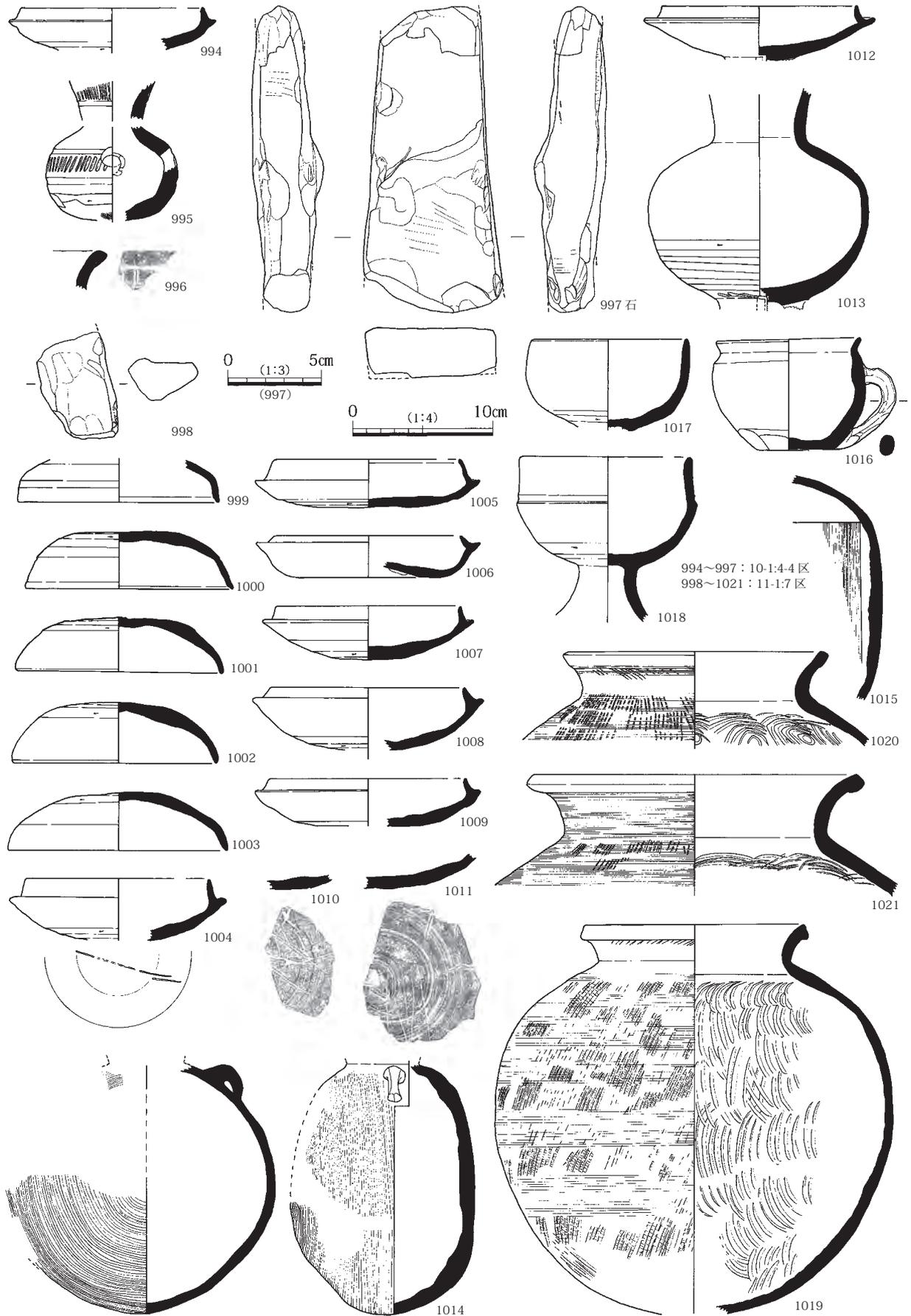


図 284 包含層その他出土遺物 (1)



図 285 包含層その他出土遺物 (2)

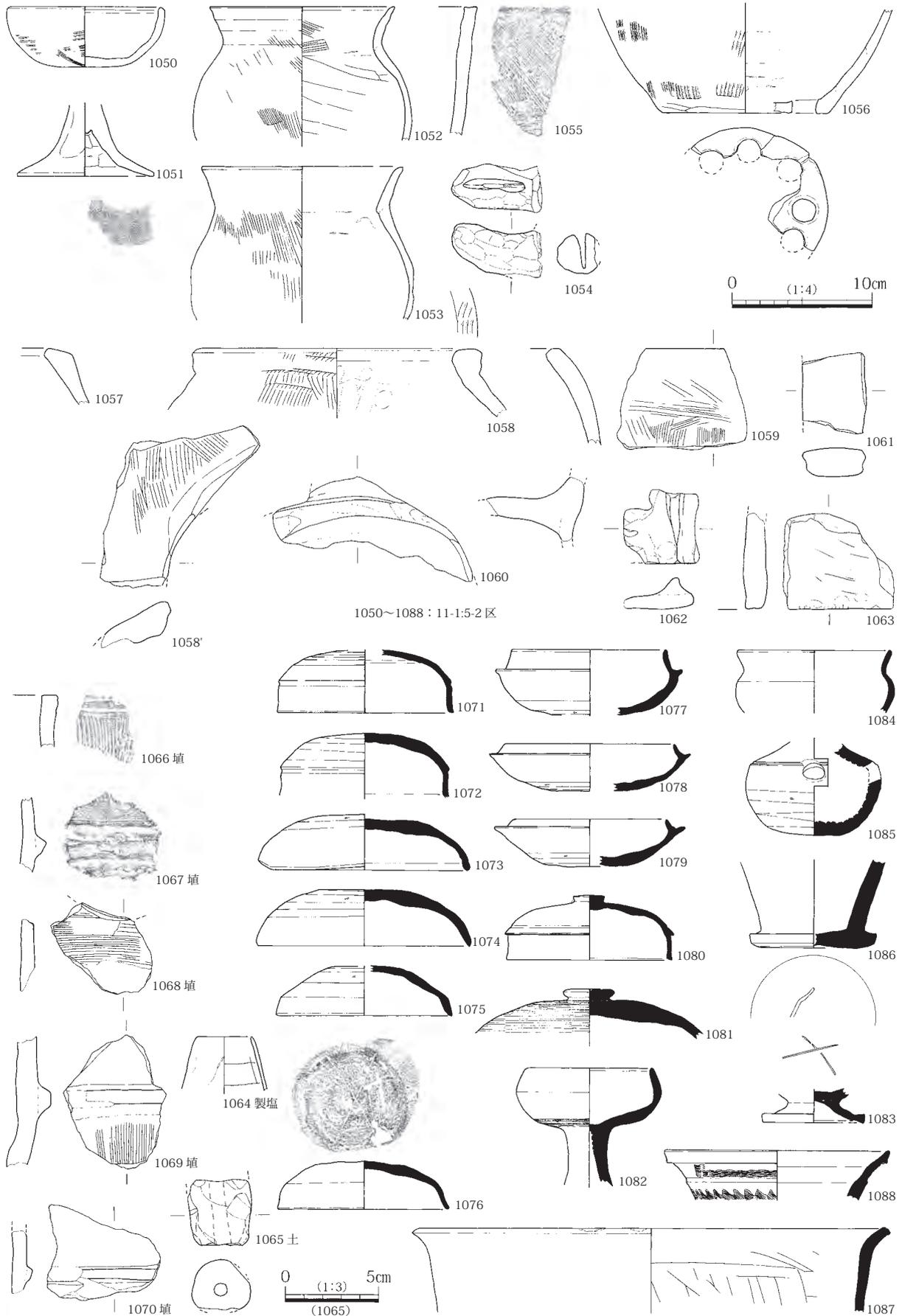


図 286 包含層その他出土遺物 (3)

第4節 古代の遺構・遺物

〔概要〕古代に属する遺構は、掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・溝・流路が挙げられる。第3層除去面及び第4-1・4-2層除去面で検出した。

北トレンチ・西トレンチ・東トレンチを中心として古代の遺構群を検出している。主要な遺構は掘立柱建物で構成される建物群と流路である。また、これに伴って井戸や土坑、溝等を検出しており、集落域の様相を呈する遺構群と評価できる。

建物群は、北トレンチで検出した一群と西トレンチで検出したものがある。北トレンチにおいては掘立柱建物6棟を検出し、西トレンチにおいては掘立柱建物1棟を検出している。西トレンチで検出した1棟を除きすべて北東半での検出となる。

掘立柱建物は、攪乱や調査区外になるため全容を確認できていないものもあるが、2間×3間の規模のものを最大とし、2間×2間、3間×3間の総柱建物になるものを検出している。建物の時期を示す遺物は僅少で明確な時期を決し難いが、各建物は重複せず、正方位を軸に取る一群とそうでない一群があることから、主軸方向で概ねまとめられる一群は同時期に造営された可能性も考えられる。

流路は、北・東トレンチの2箇所で見出しているが同一の流路である。この流路からは様々な遺物が出土しており、概ね8世紀～9世紀初頭の所産となる遺物を包含している。出土遺物の中には墨書土器や人面墨書土器、土馬など、律令祭祀で用いられるものも含まれる。なお、流路埋没後に形成された溝から9世紀の所産となる遺物が出土していることから、概ね9世紀には埋没していたことが明らかとなった。

遺構の時期は、出土遺物から飛鳥時代に属

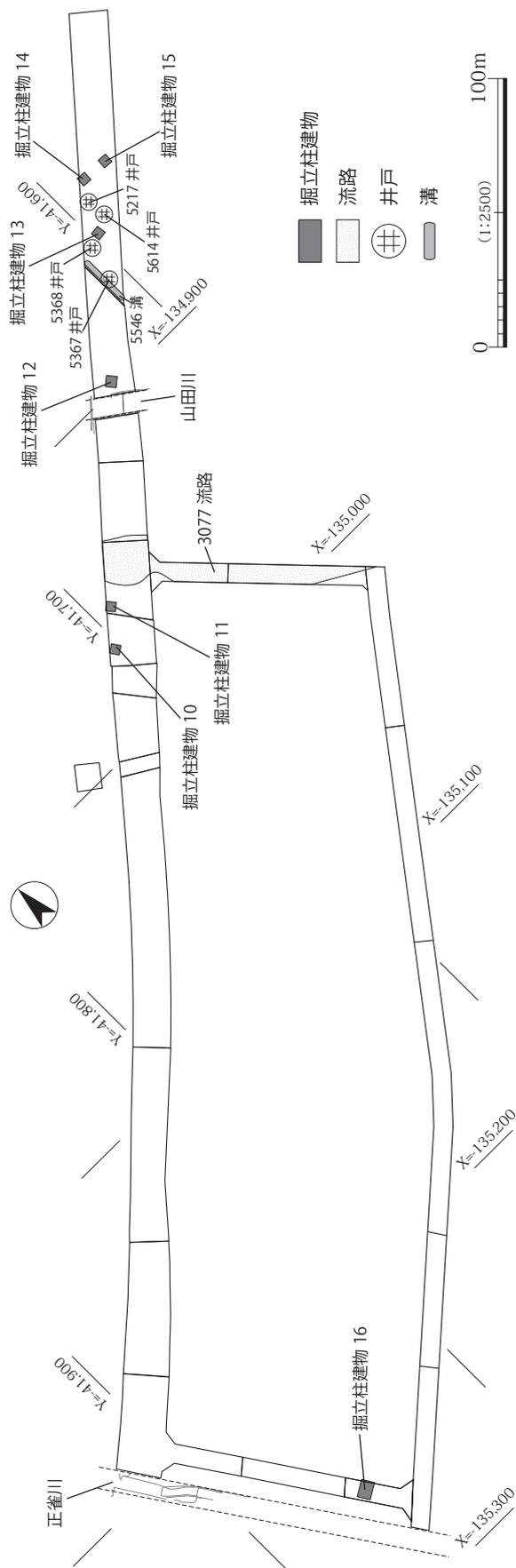


図 287 古代主要遺構配置図

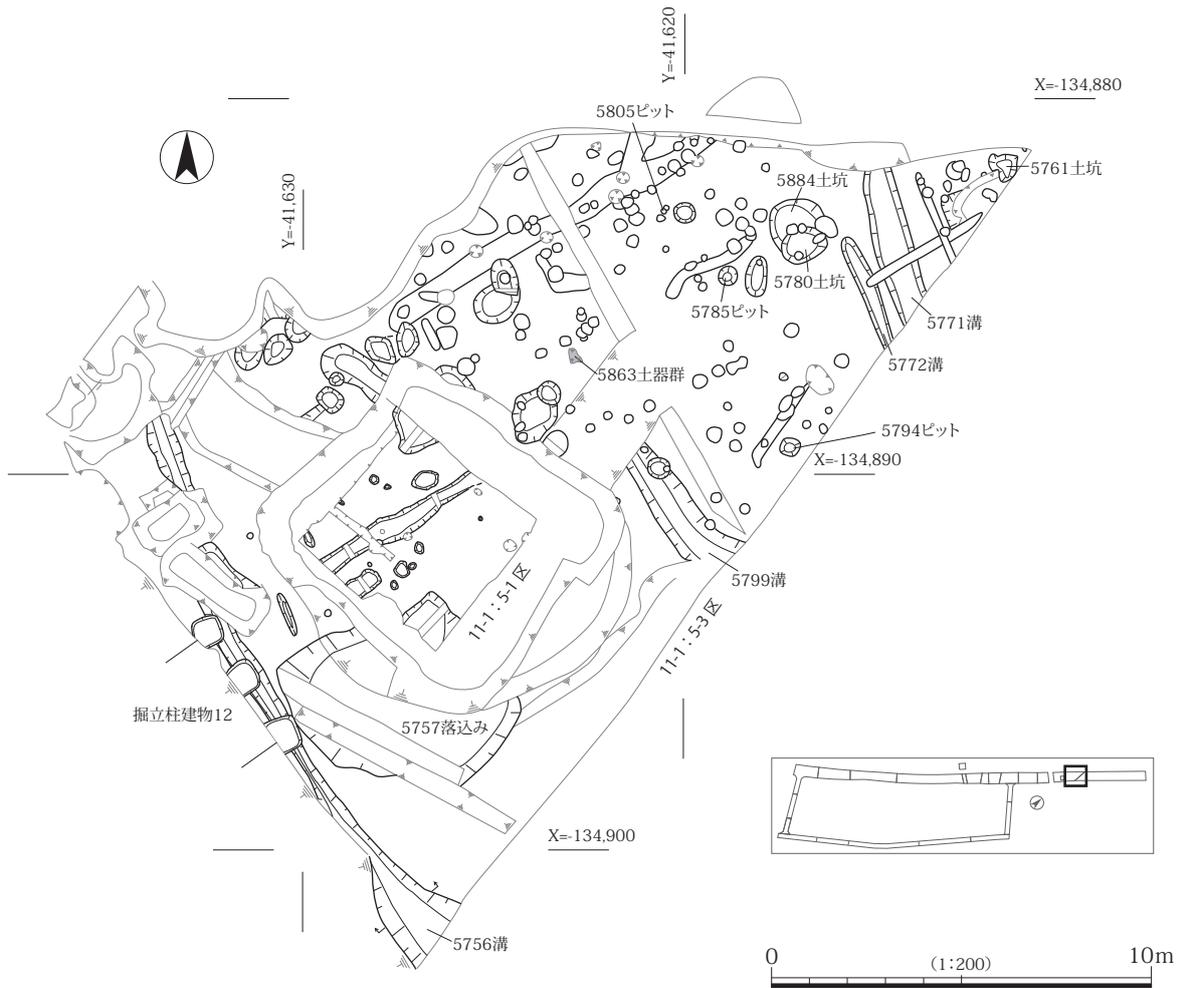


図 288 11-1:5-1・5-3 区 第 4-1 層除去面 平面図

するものと奈良～平安時代に属するものの大きく 2 時期認められる。今回の調査で検出した当該期の主要な遺構は、調査区全体の北東半に集中している状況が看取でき、流路周辺に集落が形成された様子を認めることができる（図 287）。また、遺構の検出状況からは特に流路の東岸において集落が発達していた状況を窺い知れる。

1. 掘立柱建物

掘立柱建物 10（図 287・290・305、写真図版 113） 12-1:3-9 区において第 3 層を除去した面で検出した。X=-134,969、Y=-41,703 地点に位置する。後述の掘立柱建物 11 の南西方約 15 m にある。構造は 3211・3212・3213・3214・3215・3216・3217・3218・3219 柱穴で構成される 2 間×2 間の柱配置をとる正方形の総柱建物である。軸を N-31°-W におく。建物規模は 3.4 m×3.2 m を測り、北西-南東軸が若干長い。面積は約 10.9 m² である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、北西-南東軸側が 1.65～1.8 m、北東-南西軸側が 1.4～1.8 m を測る。

柱穴の掘方は基本的に平面円形で、径 0.2～0.5 m、深さ 0.2～0.55 m を測る。柱痕跡が認められた柱穴もあるが、基本的には抜き取り後に埋め戻されたものと考えられる。また、総柱建物になると考

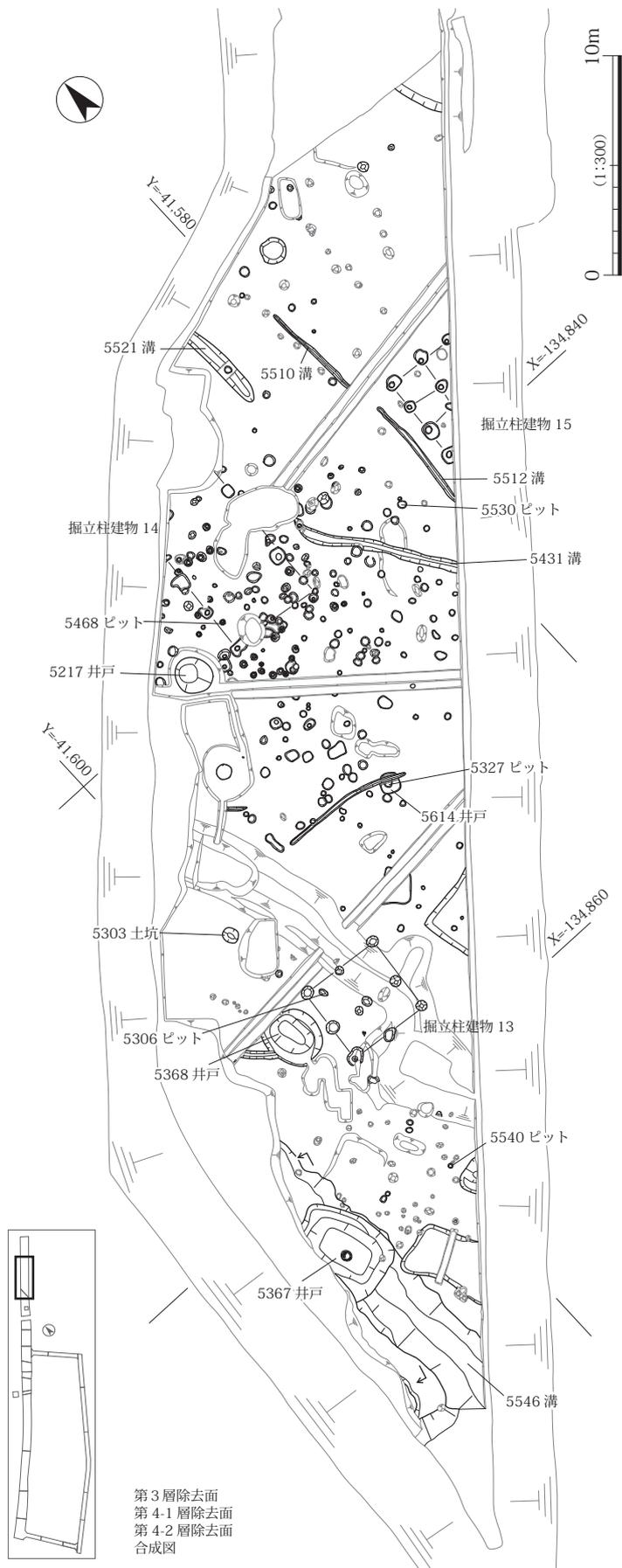


図 289 11-1:5-2 区 古代遺構平面図

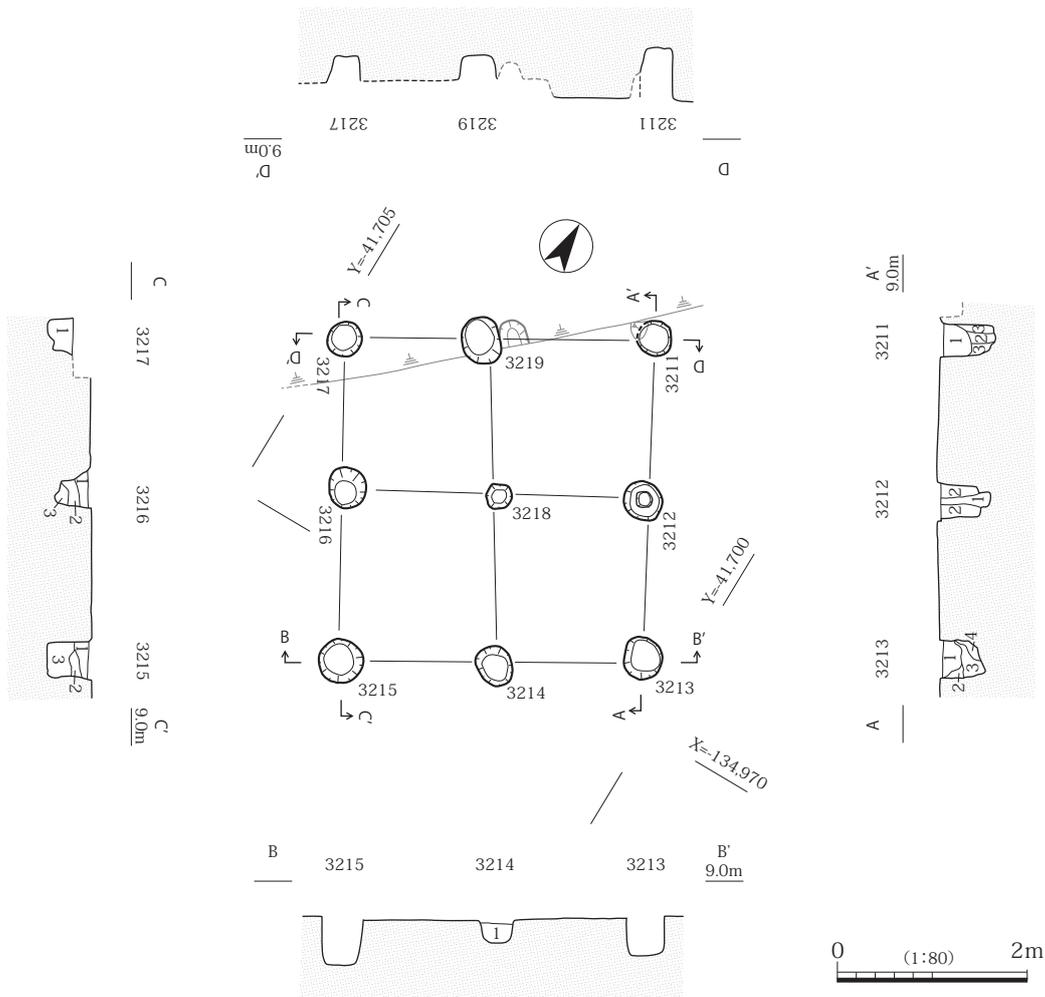
えた中央部分の柱穴は、側柱を構成する柱穴に比して径が小さく浅い。

3215・3217 柱穴から若干の遺物が出土したが、いずれも細片で弥生土器と考えられるため、直接的に当建物の時期を示すものではない。検出面から古代に属す可能性が高いと判断した。さらに付言すれば、後述の 3077 流路が埋没した後の造営になる可能性があるが定かではない。

掘立柱建物 11 (図 287・291・305、写真図版 114-1) 11-1:3-3 区において第 3 層を除去した面で検出した。X=-134,958、Y=-41,692 地点に位置する。前述の掘立柱建物 10 の北東方約 15 m にあり、後述の 3077 流路の西岸にある。一部調査区の側溝により明らかでないが、構造は 3015・3016・3017・3026・3027・3028・3029 で構成される 2 間×2 間の柱配置をとる正方形の総柱建物になると考えられる。軸を N-39°-W におく。建物規模は 3.6 m×4.0 m を測り、北西-南東軸が若干長い。面積は約 14.4 m² である。

柱間寸法は、柱痕跡及び柱当たりから北西-南東軸側が 2.0~2.1 m、北東-南西軸側が 1.7~1.8 m を測る。

柱穴の掘方は基本的に平面不整隅丸方形であり、一辺 0.3~0.5 m、深さ 0.25~0.4 m を測る。なお、柱の抜き取り痕跡はほとんどなく、柱痕跡もしくは柱当たりを確認している。柱痕跡は、明らかなもので径 0.15 m 前後である。それらのほとんどは、木質が腐朽し周囲の土質より均質な土層に置換されていること



- | | |
|---|---|
| <p>3211 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR3/1 黒褐 細砂混じり粘質シルトと 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂質シルトのブロック混合 2, 7.5Y6/1 灰 細砂質シルト 3, N3/0 暗灰 シルト質粘土に 2.5Y8/1 灰白 極細砂質シルトブロックが若干混じる <p>3212 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR3/1 黒褐 細砂混じり粘質シルトと 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂質シルトのブロック混合 2, 7.5Y6/1 灰 細砂質シルト <p>3213 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR3/1 黒褐 細砂混じり粘質シルトと 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂質シルトのブロック混合 2, 2.5Y5/1 黄灰 中砂混じり極細砂質シルト 3, 2.5Y5/1 黄灰 シルト質粘土 <p>3214 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR3/1 黒褐 細砂混じり粘質シルトと 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂質シルトのブロック混合 2, 2.5Y5/1 黄灰 中砂混じり極細砂質シルト 3, 2.5Y5/1 黄灰 シルト質粘土 <p>3215 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR3/1 黒褐 細砂混じり粘質シルトと 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂質シルトのブロック混合 2, 2.5Y5/1 黄灰 中砂混じり極細砂質シルト 3, 2.5Y5/1 黄灰 シルト質粘土 4, 2.5Y7/4 浅黄 中砂～細砂ブロック(地山由来)に 2.5Y4/1 黄灰 細砂質シルトブロックが少量混じる | <p>3214 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR5/1 褐灰 中砂混じり粘質シルト <p>3215 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR3/1 黒褐 細砂混じり粘質シルトと 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂質シルトのブロック混合 2, 2.5Y5/1 黄灰 中砂混じり極細砂質シルト 3, 2.5Y5/1 黄灰 シルト質粘土 <p>3216 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR4/2 灰黄褐 粗砂混じり細砂質シルト 2, 10YR4/2 灰黄褐 粗砂混じり細砂質シルトと 10YR6/4 にぶい黄橙 細砂質シルトブロックの混合 3, 2.5Y5/1 黄灰 シルト質粘土 <p>3217 柱穴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 10YR4/1 褐灰 細砂混じり粘質シルトブロックと 10YR6/4 にぶい黄橙 粗砂混じり細砂質シルトブロックと 10YR8/1 灰白 細砂～極細砂ブロックの混合 |
|---|---|

図 290 掘立柱建物 10 平面図・断面図

により識別された。

3017・3029 柱穴から遺物が出土したが、いずれも細片のため詳細な時期は不明である。時期比定については、検出面から古代に属する可能性が高いと判断した。さらに付言すれば、後述の 3077 流路が埋没した後の造営になる可能性があるが定かではない。

掘立柱建物 12 (図 287・288・292) 11-1:5-3 区において地山上面で検出した。本来は第3層を除去した面で検出されるべき遺構であった可能性が高い。X=-134,895、Y=-41,632 地点に位置する。前述の掘立柱建物 11 の北東方約 80 mにある。構造は、南西部が後世の遺構により攪乱されているため全容を確認できないが、5921・5922・5933 柱穴で構成される 2 間以上×1 間以上の柱配置をとる建物になると

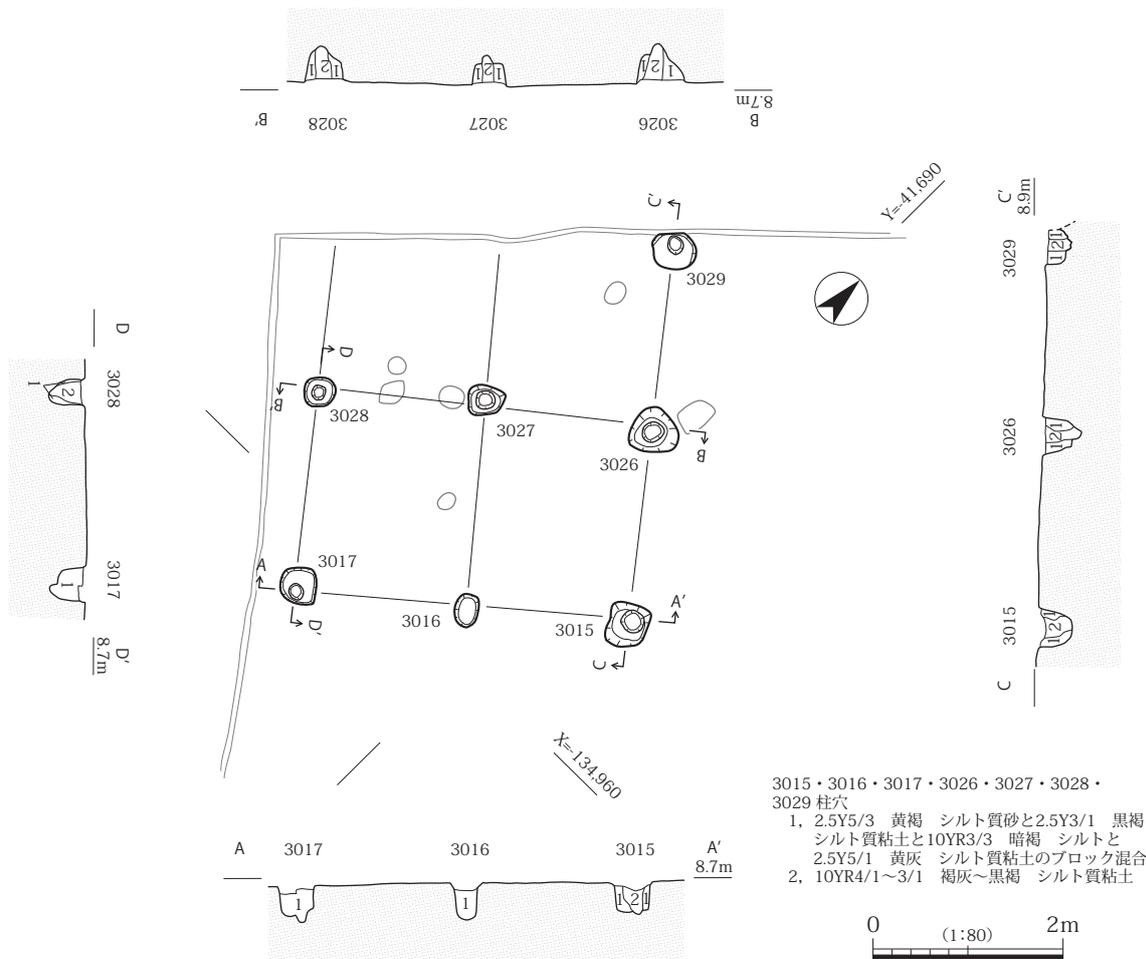


図 291 掘立柱建物 11 平面図・断面図

考えられる。主軸の方向は不明であるが、5921 柱穴と 5933 柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね $N-33^{\circ}-W$ である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては 1.6～1.8 m を測る。

柱穴の掘方は平面隅丸方形を呈し、一辺 0.75～0.95 m、深さ 0.2～0.35 m を測る。

5921・5922 柱穴から遺物が出土したが、いずれも細片のため図化することができなかった。古墳時代の土器が出土しているが、直接的な時期を示すものではないと考えられる。時期比定については、周辺の掘立柱建物の状況を鑑みて古代に属するものと判断した。

掘立柱建物 13 (図 287・289・293、写真図版 114-2) 11-1:5-2 区において地山上面で検出した。本来は第 3 層もしくは第 4-1 層を除去した面で検出されるべき遺構であった可能性が高い。X=-134,855、Y=-41,597 地点に位置する。前述の掘立柱建物 12 の北東方約 55 m にある。構造は 5580・5583・5584・5587・5588・5589・5593・5594・5597 で構成される 2 間×2 間の柱配置をとる正方形の総柱建物である。軸を $N-5^{\circ}-E$ におき、概ね正方位を指向する。建物規模は 3.9 m×3.7 m を測り、東西軸が若干長い。面積は約 14.5 m^2 である。柱間寸法は、南北軸側が 1.6～2.1 m、東西軸側が 1.8～2.0 m を測る。

柱穴の掘方は基本的に平面円形であり、径 0.4～0.8 m、深さ 0.15～0.3 m を測る。なお、柱の抜き取り痕跡はあまり認められず、ほとんどの柱穴から柱痕跡もしくは柱当たりを確認している。柱痕跡

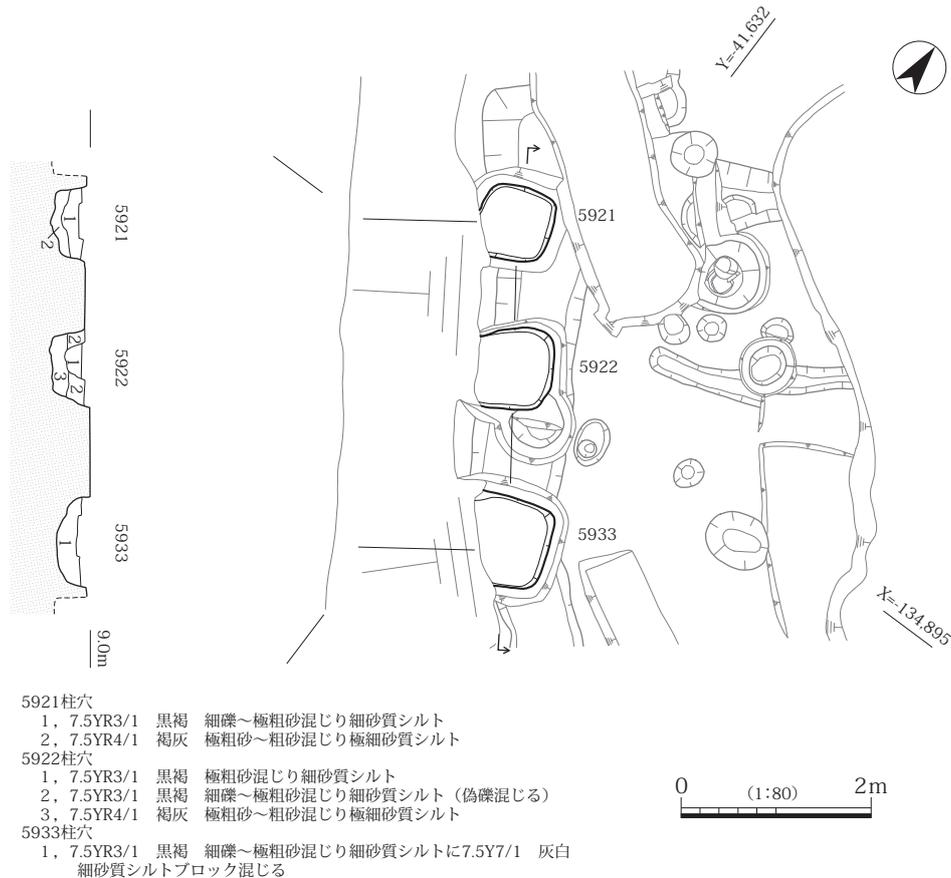


図 292 掘立柱建物 12 平面図・断面図

は、径 0.2 m 前後である。

5583・5588・5589・5593 柱穴から遺物が出土したが、いずれも細片のため図化することができなかった。出土遺物は弥生土器片・土師器片・須恵器片等である。時期比定については、周辺の掘立柱建物の状況を鑑みて古代に属するものと判断した。

掘立柱建物 14 (図 287・289・294・295) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,837、Y=-41,589 地点に位置する。前述の掘立柱建物 13 の北東方約 20 m にある。構造は、北部が攪乱や調査区外になるため全容を確認できないが、5440・5460・5465・5469・5474・5526 柱穴で構成される桁行 3 間以上、梁行 2 間の柱配置をとる長方形の建物になると考えられる。長軸を N-1°-E におき、ほぼ正方位を指向する。柱間寸法は、桁行側が 2 m 前後、梁行側が 1.7～2.2 m を測る。

柱穴の掘方は平面隅丸方形及び不整形であり、一辺 0.5～0.7 m、深さ 0.2～0.45 m を測る。

5440・5460・5465・5469・5526 柱穴から遺物が出土したが、そのうち 5465 柱穴から出土した遺物を図 295 に示した。須恵器碗 (1089)・甕 (1090) 等が出土しており、7 世紀の所産になるものと推定される。他にこれらの土器よりも時期の下る遺物は出土していないことから、当土器をもって飛鳥時代に属する遺構と判断する。

なお、当該建物の周辺からは、多くのピットが検出されており、建物を復元するには至っていないが、複数時期に亘る建替えがあったものと推定される。

掘立柱建物 15 (図 287・289・296、写真図版 115) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出

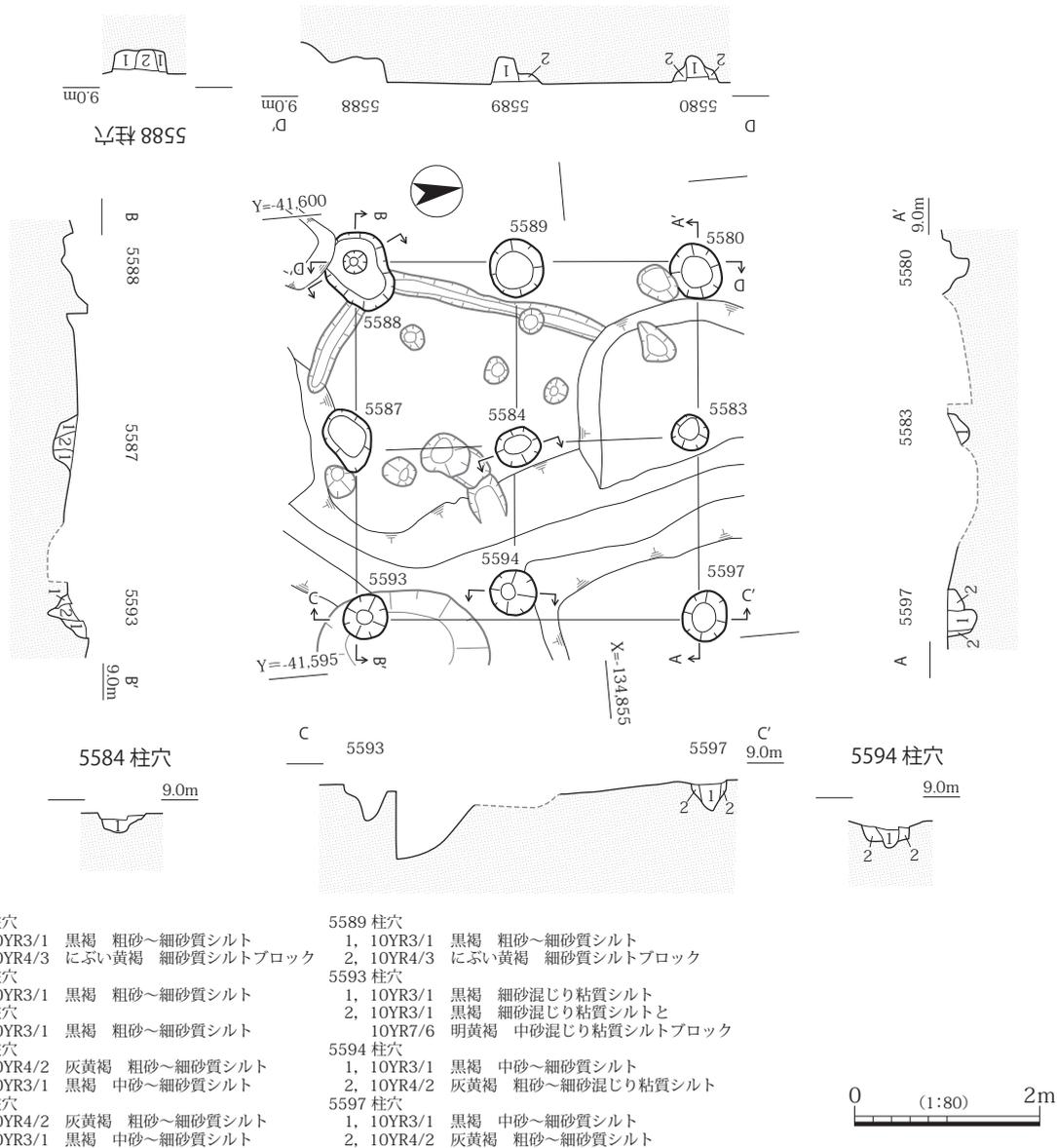


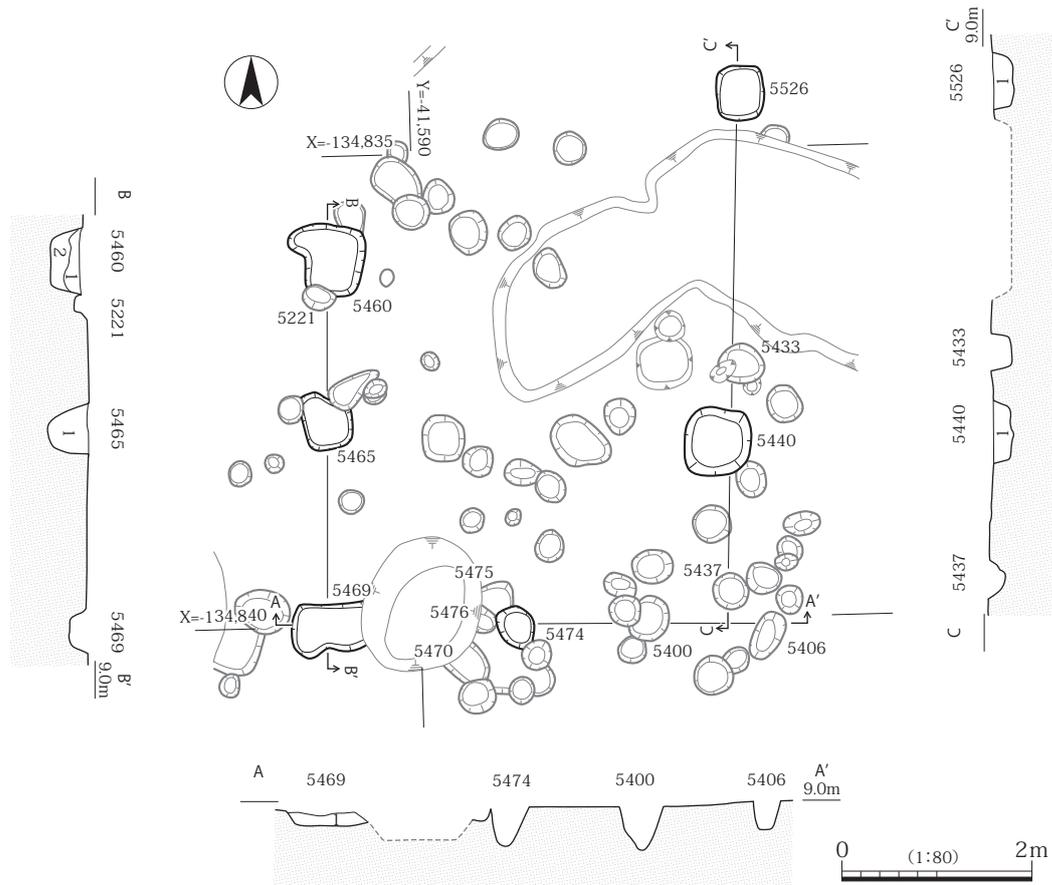
図 293 掘立柱建物 13 平面図・断面図

した。X=-134,838、Y=-41,576 地点に位置する。前述の掘立柱建物 14 の東方約 10 m にある。構造は、南東部が調査区外になるため全容を確認できないが、5513・5514・5515・5516・5517・5518・5519・5520 で構成される 2 間×3 間以上の柱配置をとる総柱建物になると考えられる。主軸の方向は不明であるが、5513 柱穴と 5516 柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね N-3°-E で、ほぼ正方位を指向する。柱間寸法は、南北軸側が 1.3～1.5 m、東西軸側が 1.5～1.7 m を測る。

柱穴の掘方は平面隅丸方形及び不定形であり、一辺 0.5～0.8 m、深さ 0.3～0.55 m を測る。なお、柱の抜き取り痕跡は認められず、ほとんどの柱穴で柱痕跡もしくは柱当たりを確認している。柱痕跡は、直径 0.2 m 前後である。それらのほとんどは、周囲の土質より均質な土層であることにより識別された。

5514 柱穴から遺物が出土したが、直接的な時期を示すものではないと判断した。時期比定については、検出面及び周辺の掘立柱建物の検出状況を鑑みて古代に属するものと判断した。

なお、掘立柱建物 13・14・15 は概ね正方位を指向し、まとまりを見せている。また、検出された場



- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 5440・5465 柱穴 | 5469 柱穴 |
| 1, 10YR7/2 にぶい黄橙 粗砂～中砂混じりシルト質砂 | 1, 10YR4/2 灰黄褐 粗砂～中砂質シルト |
| 5460 柱穴 | 5526 柱穴 |
| 1, 10YR7/2 にぶい黄橙 粗砂～中砂混じりシルト質砂 | 1, 7.5YR4/1 褐灰 粗砂～細砂質シルト |
| 2, 10YR4/1 褐灰 細砂混じり粘質シルト | |

図 294 掘立柱建物 14 平面図・断面図

所も 11-1:5-2 区に限られていることから、これらの建物は同時期の造営になる可能性が高い。このうち掘立柱建物 14 の時期を勘案すれば、これらの建物群は飛鳥時代に属する可能性が高い。

掘立柱建物 16 (図 287・295・297、写真図版 114-3) 12-1:6-2・6-3 区において地山上面で検出した。X=-135,257、Y=-41,859 地点に位置する。他の建物とは離れた場所にあり、明和池遺跡の南西端部での検出となる。構造は 6061・6062・6063・6064・6065・6081・6082・6083・6084・6085 柱穴で構成される身舎に、北西側に 6057・6058・6059・6060 柱穴で構成される廂が付く 3 間 1 面の柱配置をとる長方形の建物である。長軸を N-57°-E におく。廂を含めた建物規模は 6.5 m×4.8 m を測り、面積は 31.2 m² である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が 2.0～2.3 m、梁行側が 1.7～1.9 m を測る。



図 295 掘立柱建物 14・16 出土遺物

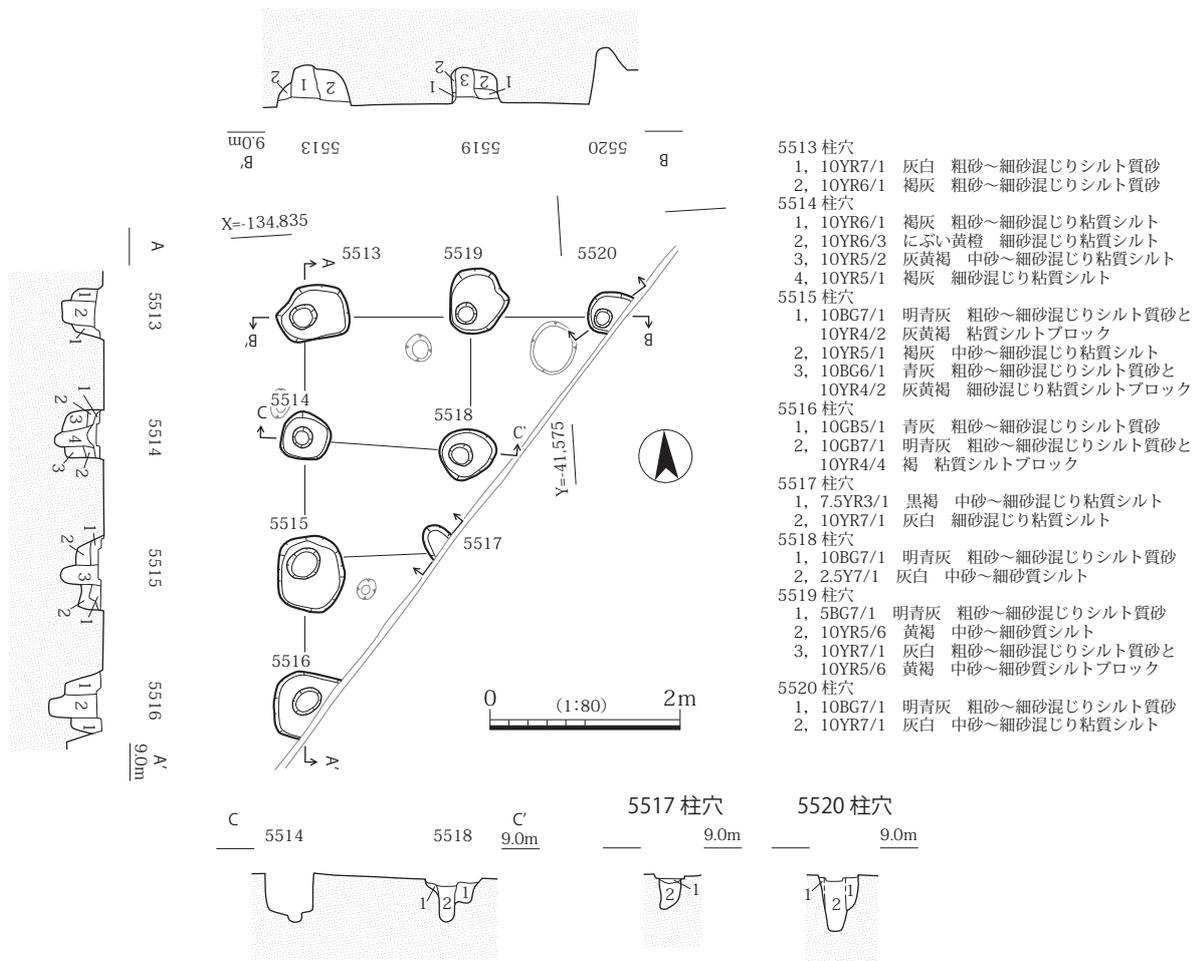


図 296 掘立柱建物 15 平面図・断面図

柱穴の掘方は基本的に平面円形であり、径 0.2～0.4 m、深さ 0.1～0.5 mを測る。いずれの柱穴にも柱根及び柱痕跡は認められず、抜き取り後に埋め戻されたものと考えられる。

6064・6081・6083 柱穴から遺物が出土した。このうち 6064 柱穴から出土した遺物を図 295 に示した。黒色土器 A 類椀（1091）が出土している。10 世紀後半の所産になるものと推定する。また、6081 柱穴からも凶化し得なかったが黒色土器 A 類の破片が出土している。これらの土器をもって平安時代中期に属する遺構と判断する。

なお、当建物は当地に施工された条里型水田の地割と軸を同じくする。今回の調査では、当地に条里型水田が施工された時期を示す直接的な遺構や手がかりは検出されていない。当建物が条里型水田の地割に則って造営されたものであるならば、時期を推定する一つの材料になり得るものとする。すなわち当建物の時期をもって 10 世紀後半段階には当地において条里型水田が施工されていたことになる。また、前述の掘立柱建物 10～12 も概ね条里型水田の地割に沿うように軸をおいており、地割との関連が示唆される建物群として捉えることも可能かと推量する。

2. 井戸

5217 井戸（図 287・289・298・300、写真図版 116-1・116-2・171） 11-1:5-2 区において第 3 層を除去した面で検出した。X=-134, 839.5、Y=-41, 593 地点に位置する。規模は長径 1.75 m、短径 1.6 mを測り、

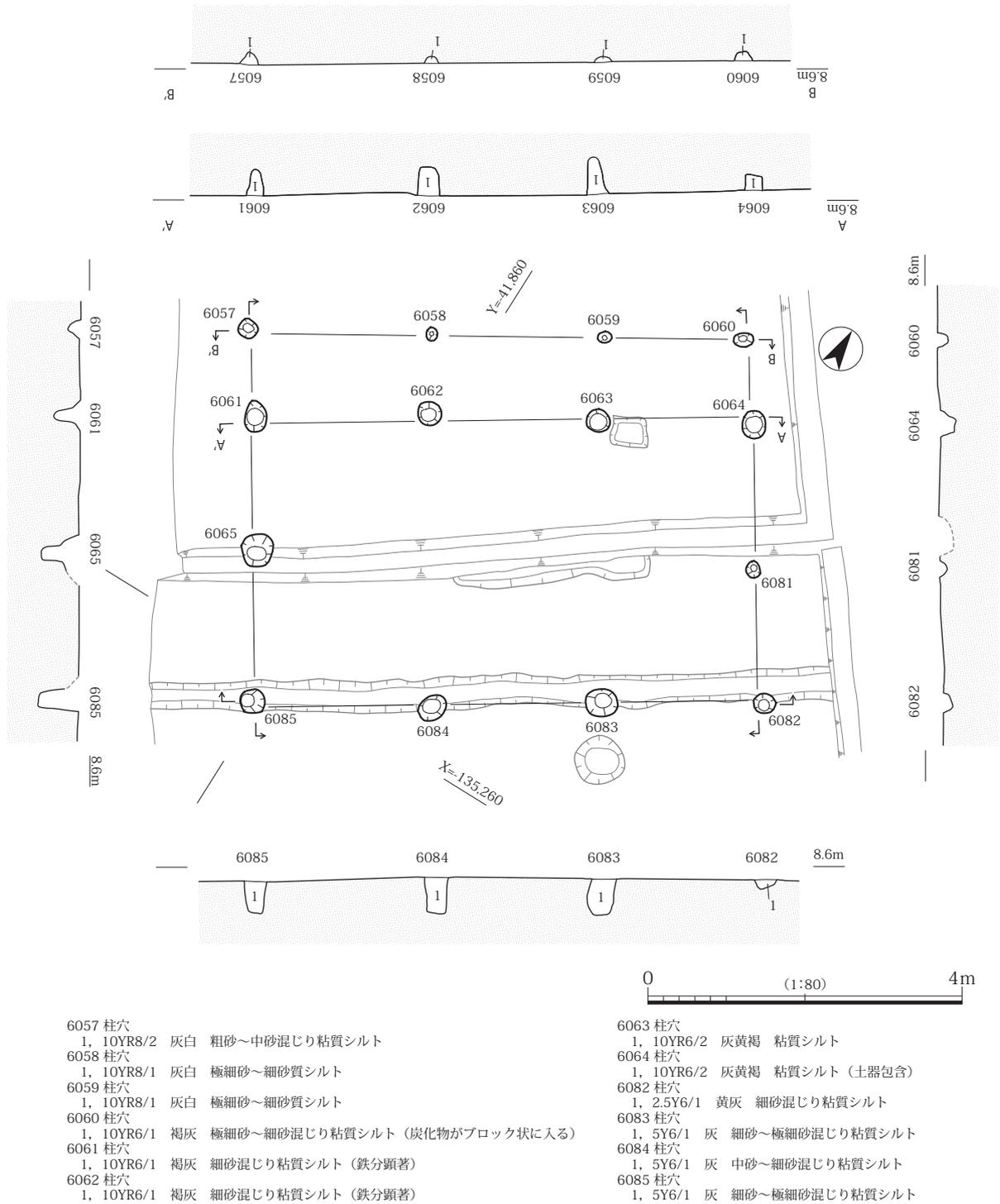


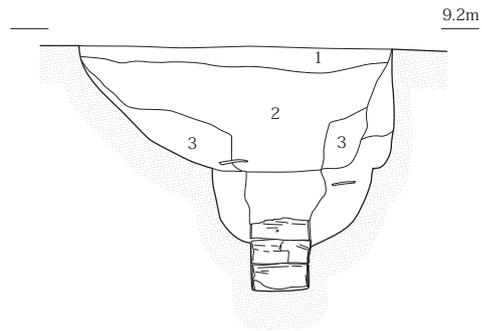
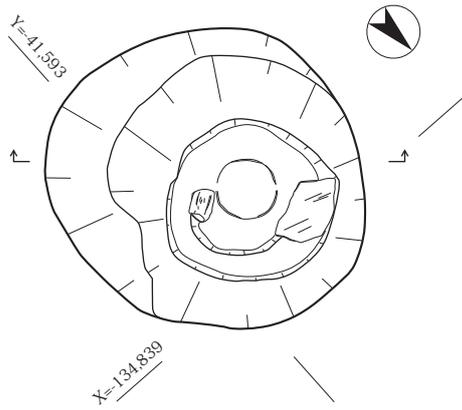
図 297 掘立柱建物 16 平面図・断面図

平面楕円形を成す。断面形は楕形で、深さ 1.28 m を測る。

掘方内で曲物を用いた井戸枠を検出した。構造は、円形の曲物を 3 段積み重ねたものである。なお、掘方の断面観察では、井戸枠と同じ幅の立ち上がりは井戸中位まで認められたことから、本来はさらに井戸枠があった可能性が考えられる。

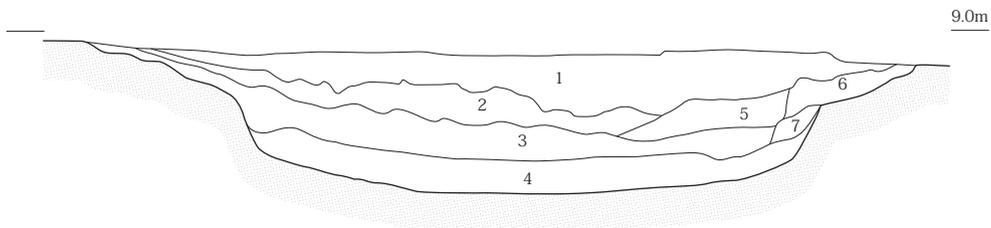
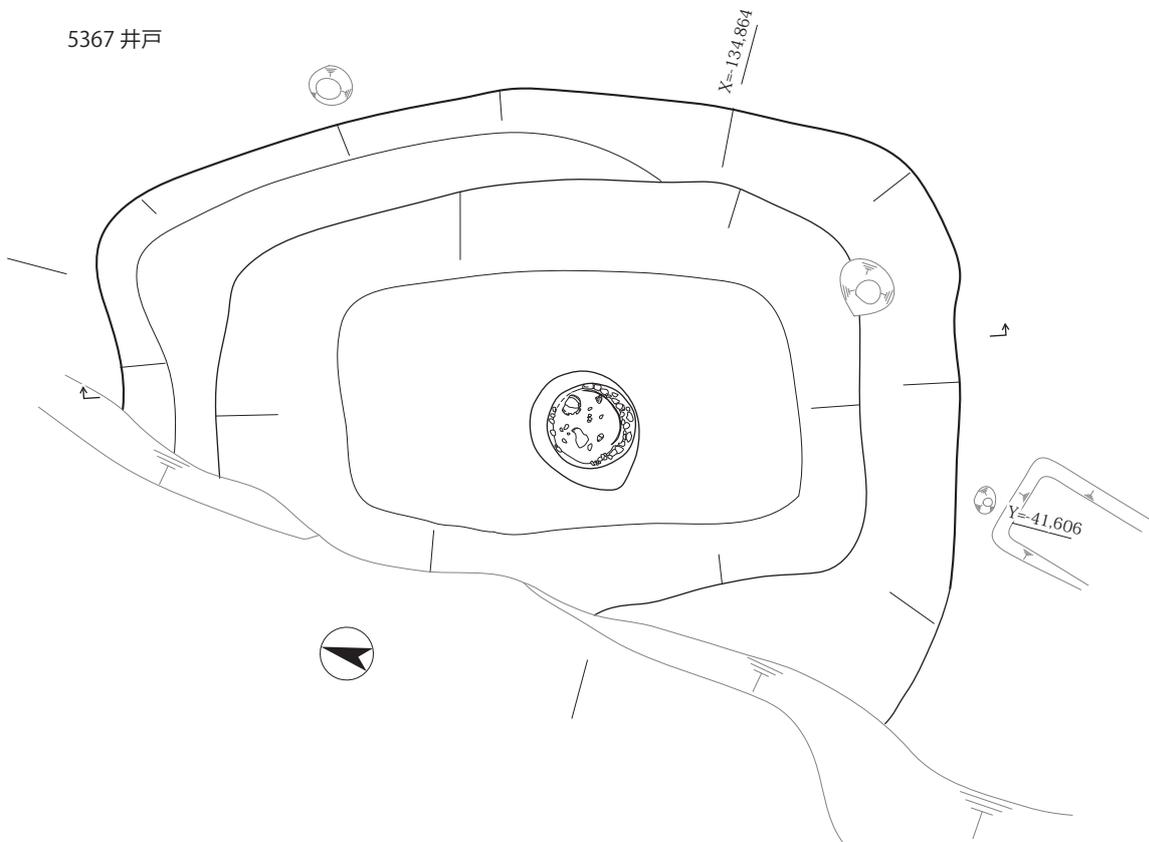
埋土中から、墨書痕のある土師器片 (1092)、土師器高杯脚部 (1093)、製塩土器 (1094)、須恵器盤

5217 井戸



- 1, 7.5Y6/1 灰 粗砂～細砂混じりシルト質砂
- 2, 10YR6/2 灰黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルトブロックと
10YR3/1 黒褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト混合
- 3, 10YR6/2 灰黄褐 粗砂～細砂混じり砂質シルトブロックと
10YR3/1 黒褐 粗砂～細砂混じり砂質シルト混合

5367 井戸



- 1, 10YR3/1 黒褐 粗砂～細砂混じり粘質シルトと
10YR7/1 灰白 粘質シルトブロック
- 2, 10YR4/1 褐灰 細砂混じり粘土
- 3, 10YR2/1 黒 粗砂～細砂混じり粘土
- 4, 5B4/1 暗青灰 粘土と5B7/1 粗砂～細砂
- 5, 10YR4/1 褐灰 細砂混じり粘土
- 6, 10YR5/2 灰黄褐 粗砂～細砂混じり粘質シルト
- 7, 10YR4/1 褐灰 粗砂～細砂混じり粘質シルト

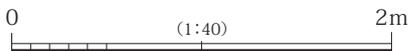


図 298 5367・5217 井戸 平面図・断面図

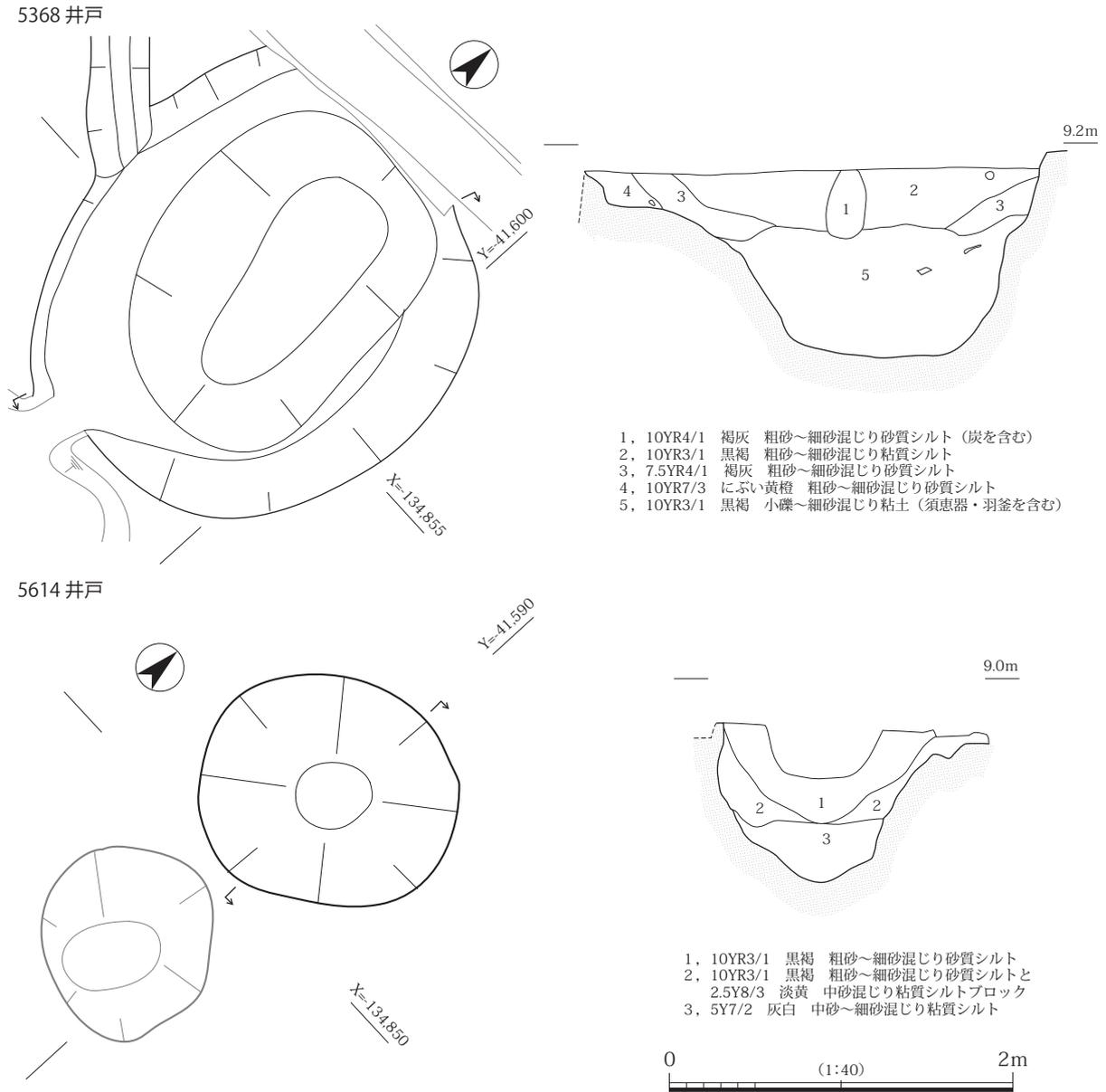


図 299 5368・5614 井戸 平面図・断面図

か(1095)等が出土している。出土遺物から平安時代前期に属する遺構と判断する。

5367 井戸 (図 287・289・298・300、写真図版 116-3・117-1・171) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,864、Y=-41,606 地点に位置する。規模は長径 4.4 m、短径 2.7 m を測り、平面隅丸方形を成す。断面形は上部が皿状に凹む逆台形を呈し、深さ 0.75 m を測る。掘方底部中央で集水装置かと考えられる円形に凹む箇所を検出した。その形状から曲物を使用されていた可能性がある。

埋土中から、土師器皿(1096～1102)・ミニチュア土器(1105)・羽釜(1106)、黒色土器 A 類椀(1103・1104)、須恵器杯 B 底部(1107)・甕口縁部(1108)等が出土している。出土遺物から平安時代中期に属する遺構と判断する。

5368 井戸 (図 287・289・299・300、写真図版 189) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,854.5、Y=-41,601 地点に位置する。規模は径 2.4 m を測り、平面円形を成す。断面形は

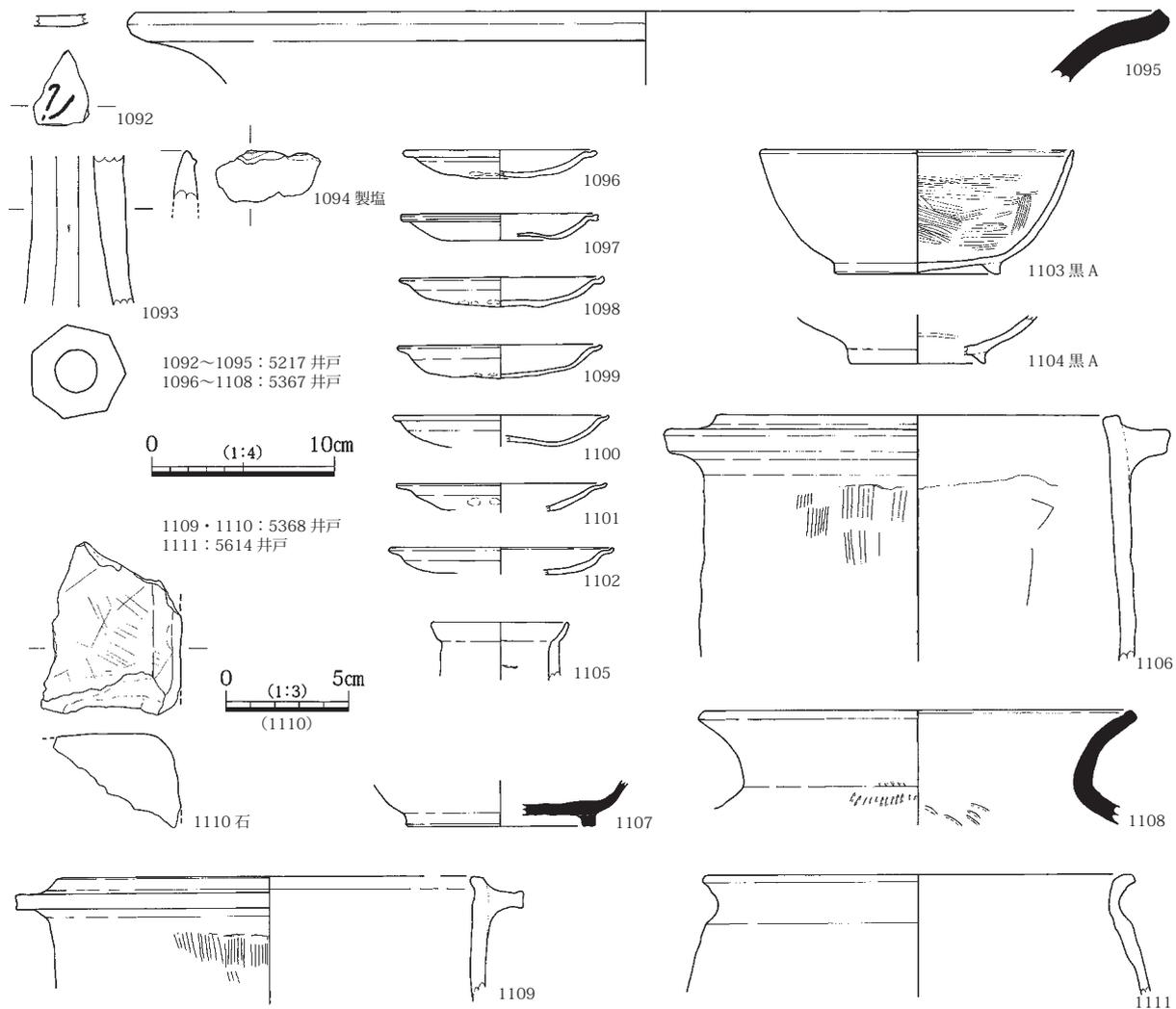


図 300 井戸 出土遺物

椀形で、深さ 1.1 m を測る。埋土中から、土師器羽釜 (1109)、砥石 (1110) 等が出土している。出土遺物から平安時代中期に属する遺構と判断する。

5614 井戸 (図 287・289・299・300) 11-1:5-2 区において第 4-2 層を除去した面で検出した。X=-134,849.5、Y=-41,590 地点に位置する。規模は長径 1.5 m、短径 1.25 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.93 m を測る。埋土中から、土師器甕 (1111) 等が出土している。出土遺物から奈良時代に属する遺構と判断する。

3. 土坑

5761 土坑 (図 288・301・302) 11-1:5-3 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,882、Y=-41,611.5 地点に位置する。検出した部分の規模は長径 0.82 m、短径 0.76 m を測り、平面隅丸三角形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.36 m を測る。埋土中から、石材 (1112・1113) が出土している。1112 は面取りのある花崗岩で転用材の可能性はある。

5303 土坑 (図 289・301・302) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,849、Y=-41,600 地点に位置する。検出した部分の規模は長径 0.75 m、短径 0.55 m を測り、平面隅丸方形を

成す。断面形は楕形で、深さ 0.37 mを測る。埋土中から、土師器杯（1114）が出土している。出土遺物から奈良時代に属する遺構と判断する。

4. ピット

D0070 ピット（図 301・303、写真図版 171） 10-1:4-3 区において第 3 層を除去した面で検出した。X=-135, 186、Y=-41, 754.5 地点に位置する。規模は径 0.15 mを測り、平面円形を成す。断面形は楕形で、深さ 0.12 mを測る。埋土中から、土師器台付皿（1115）が出土している。出土遺物から平安時代中期に属する遺構と判断する。

5805 ピット（図 288・301・303） 11-1:5-3 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134, 883、Y=-41, 620.5 地点に位置する。規模は径 0.2 mを測り、平面円形を成す。断面形は逆台形で、深さ 0.11 mを測る。当ピットは 5804 ピットに切られる。埋土中から、黒色土器 A 類椀底部（1116）が出土している。出土遺物から平安時代前期に属する遺構と判断する。

5306 ピット（図 289・301・303、写真図版 171） 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134, 854、Y=-41, 599 地点に位置する。規模は径 0.3 mを測り、平面円形を成す。断面形は楕形

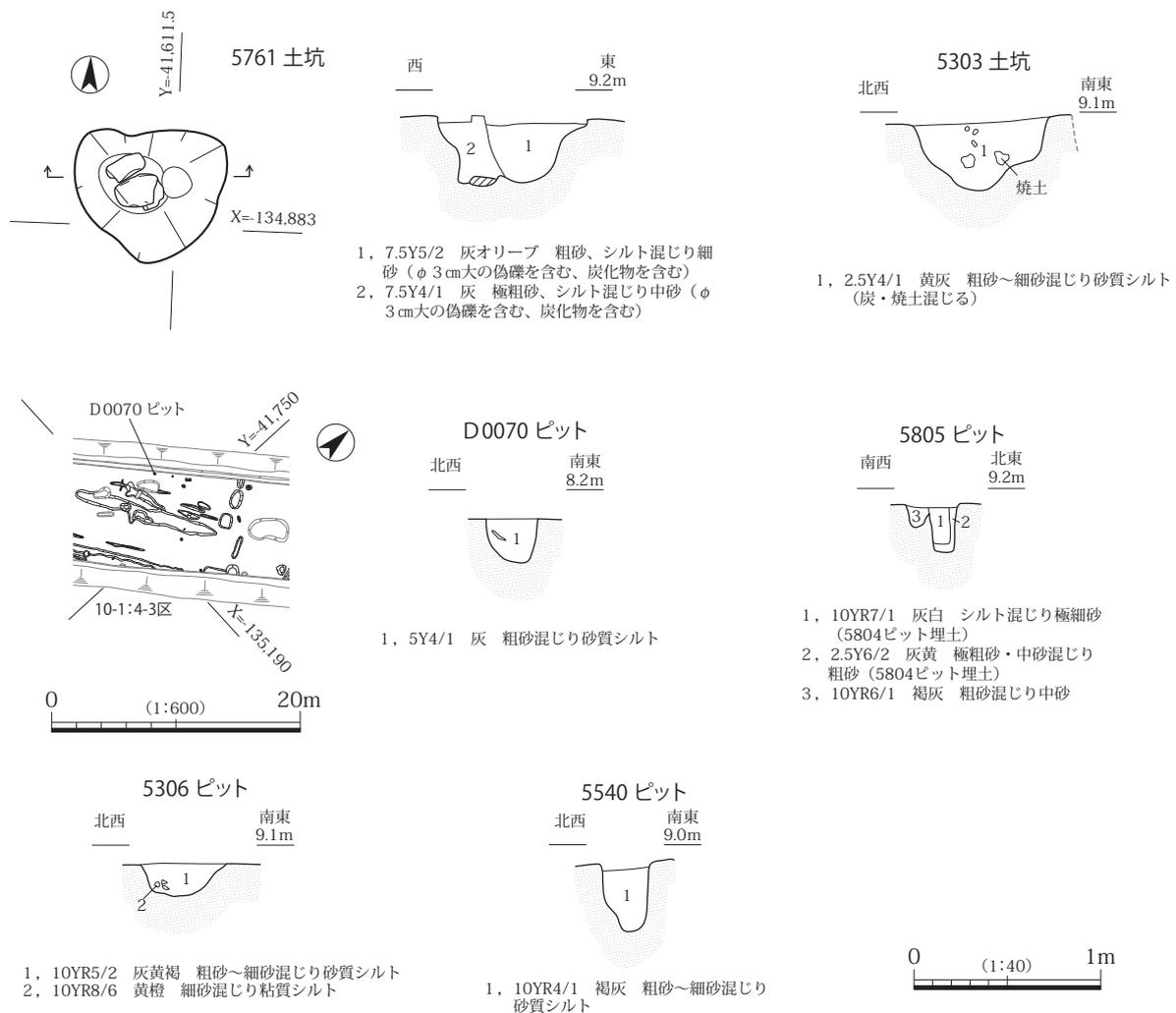


図 301 土坑・ピット 断面図

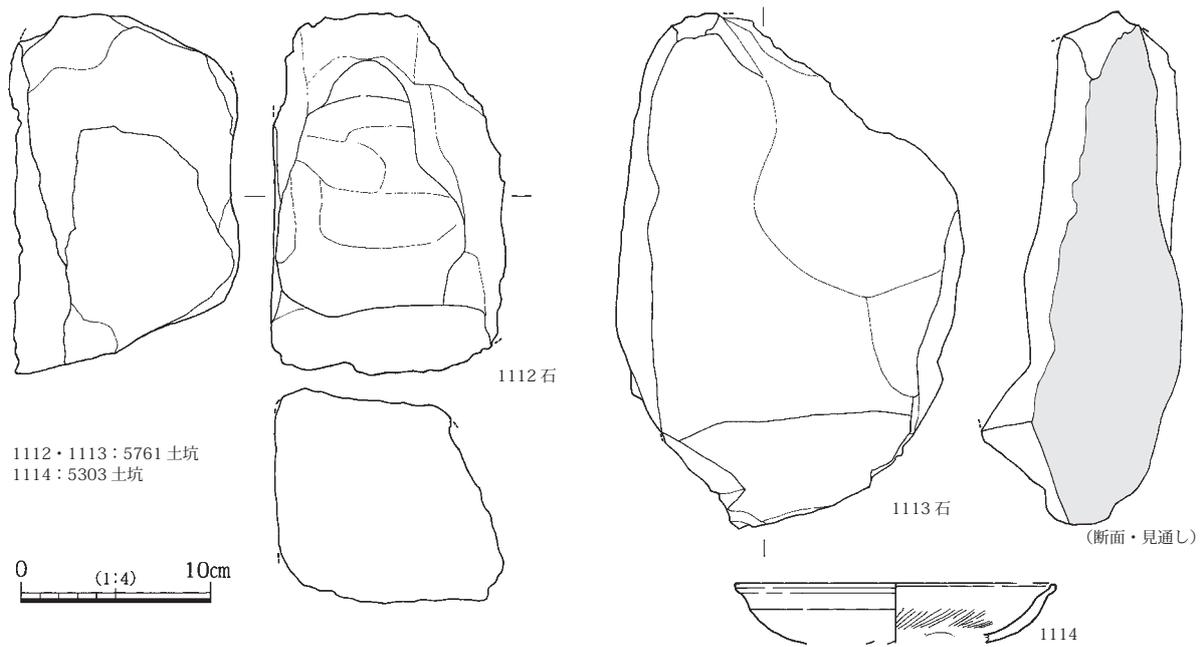


図 302 5761・5303 土坑 出土遺物



図 303 ピット 出土遺物

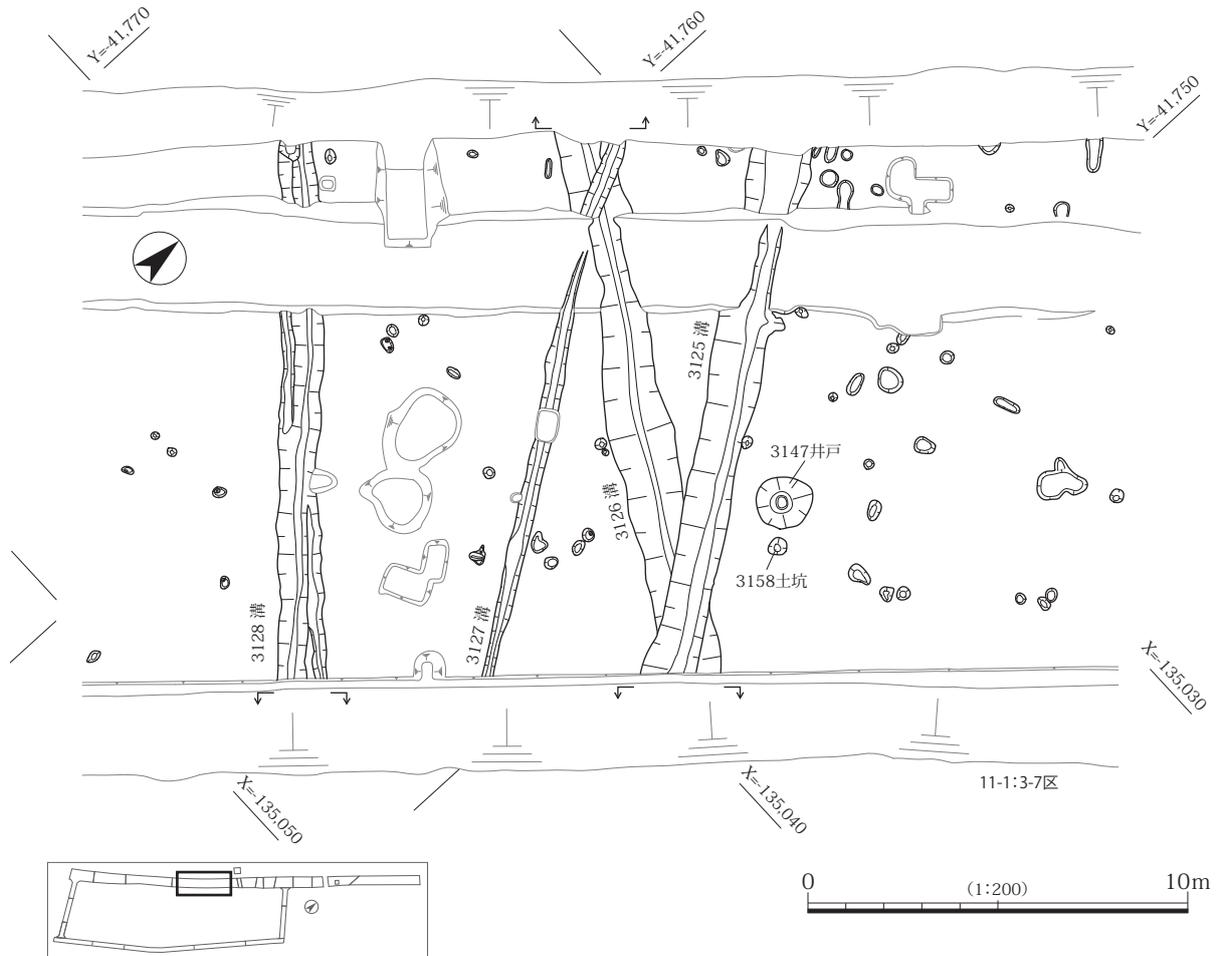
で、深さ 0.17 m を測る。埋土中から、緑釉陶器碗底部 (1117) が出土している。出土遺物から平安時代前期に属する遺構と判断する。

5327 ピット (図 289) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,849、Y=-41,590 地点に位置する。規模は長径 0.45 m、短径 0.25 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は U 字形で、深さ 0.36 m を測る。埋土は褐灰色粗～細砂混じり粘質シルトを主体とする。

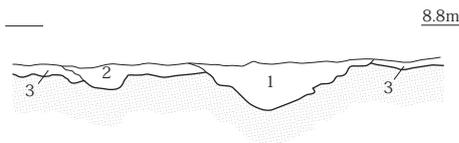
5468 ピット (図 289) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,838.8、Y=-41,590.7 地点に位置する。規模は径 0.2 m を測り、平面円形を成す。断面形は逆台形で、深さ 0.17 m を測る。埋土は灰黄褐色粗～中砂質シルトを主体とする。

5530 ピット (図 289) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,840.2、Y=-41,581 地点に位置する。規模は長径 0.35 m、短径 0.25 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は皿形で、深さ 0.15 m を測る。埋土は褐灰色粗～細砂質シルトを主体とする。

5540 ピット (図 289・301・303、写真図版 171) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。X=-134,864、Y=-41,600 地点に位置する。規模は径 0.2 m を測り平面円形を成す。断面形は U 字形で深さ 0.37 m。埋土中から、灰釉陶器壺片 (1118) が出土している。出土遺物から平安時代前期に属する遺構と判断する。

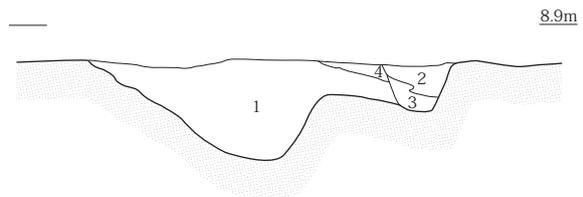


3128 溝



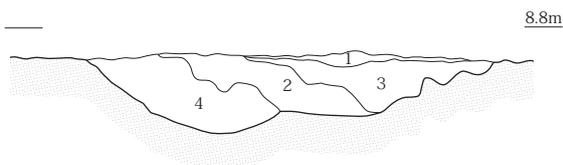
- 1, 5Y5/2 灰オリーブ 粗砂 (3128溝埋土)
- 2, 10YR5/2 灰黄褐 粗砂に2.5Y3/2 黒褐 極細砂のブロックが混じる (3128溝埋土)
- 3, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂

3126・3127 溝



- 1, 5Y6/3 オリーブ黄 粗砂 (3126溝埋土)
- 2, 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト (3127溝埋土)
- 3, 7.5YR6/1 褐灰 細砂 (3127溝埋土)
- 4, 5YR7/4 にぶい橙 シルト (3127溝埋土)

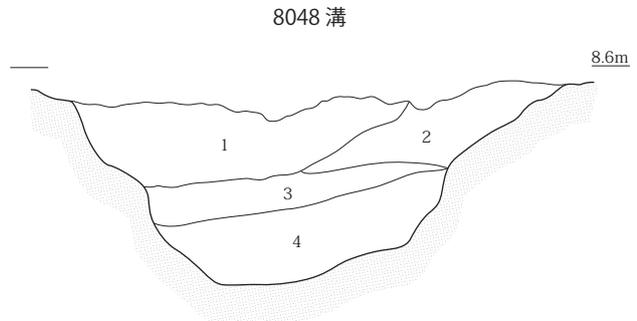
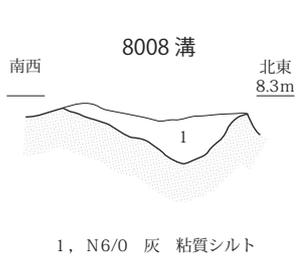
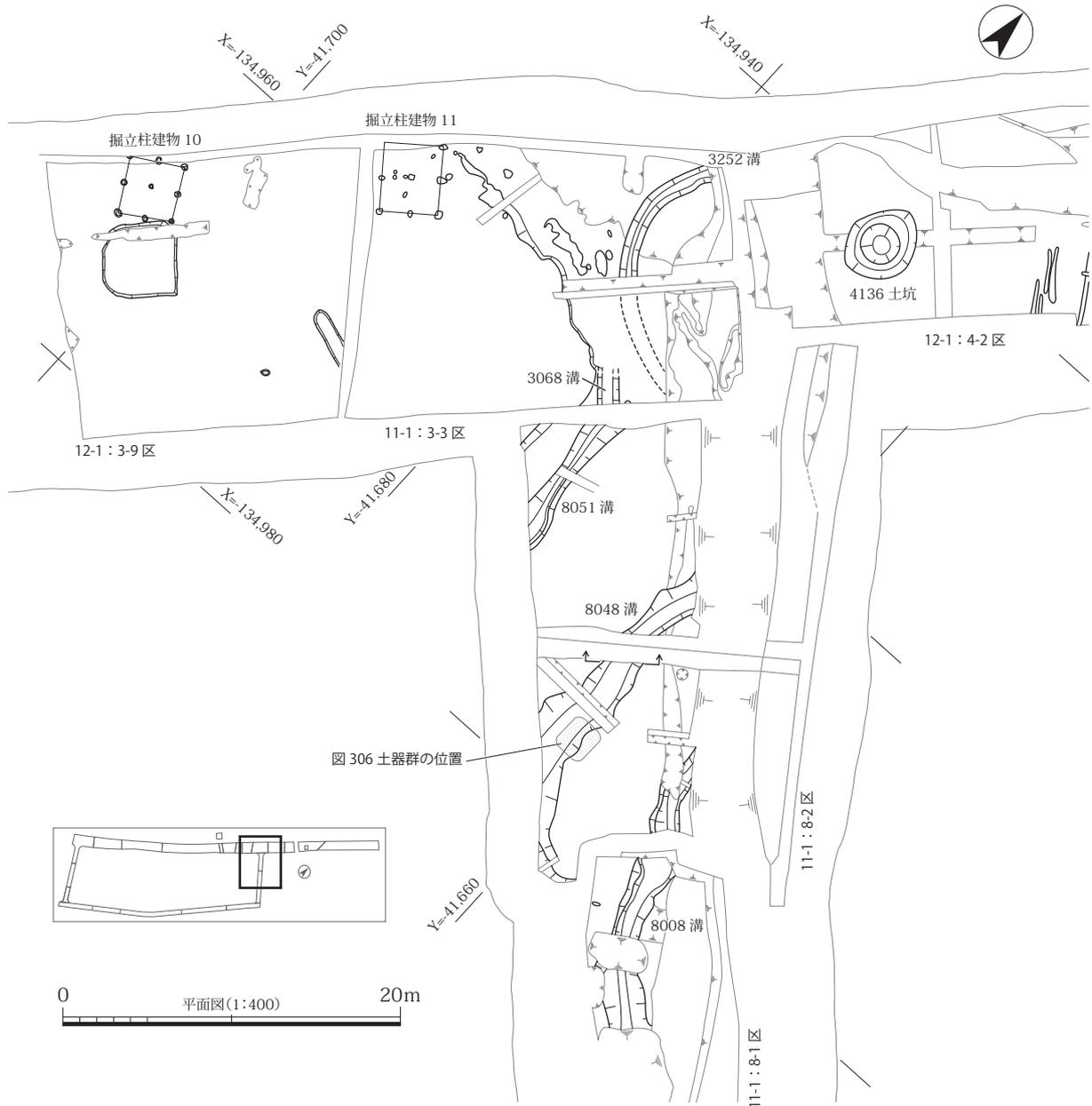
3125・3126 溝



- 1, 7.5YR7/6 橙 極細砂
- 2, 2.5Y3/2 黒褐 極細砂 (3126溝埋土)
- 3, 2.5Y5/2 暗灰黄 シルト混じり粗砂 (3125溝埋土)
- 4, 5Y6/3 オリーブ黄 粗砂 (3126溝埋土)



図 304 3125・3126・3127・3128 溝 平面図・断面図



断面図(1:40) 1m

- 1, 2.5Y5/1 黄灰 細砂混じり砂質シルト
- 2, 2.5GY6/1 オリーブ灰 粘質シルト
- 3, 10YR4/1 褐灰 極細砂混じり砂質シルトに
10YR6/1 褐灰 粘質シルトブロック (3~5cm大) 混合 (腐食物あり)
- 4, 2.5Y8/1 灰白 中礫~細礫、粗砂~中砂、細砂~極細砂の互層

図 305 8008・8048 溝ほか 平面図・断面図

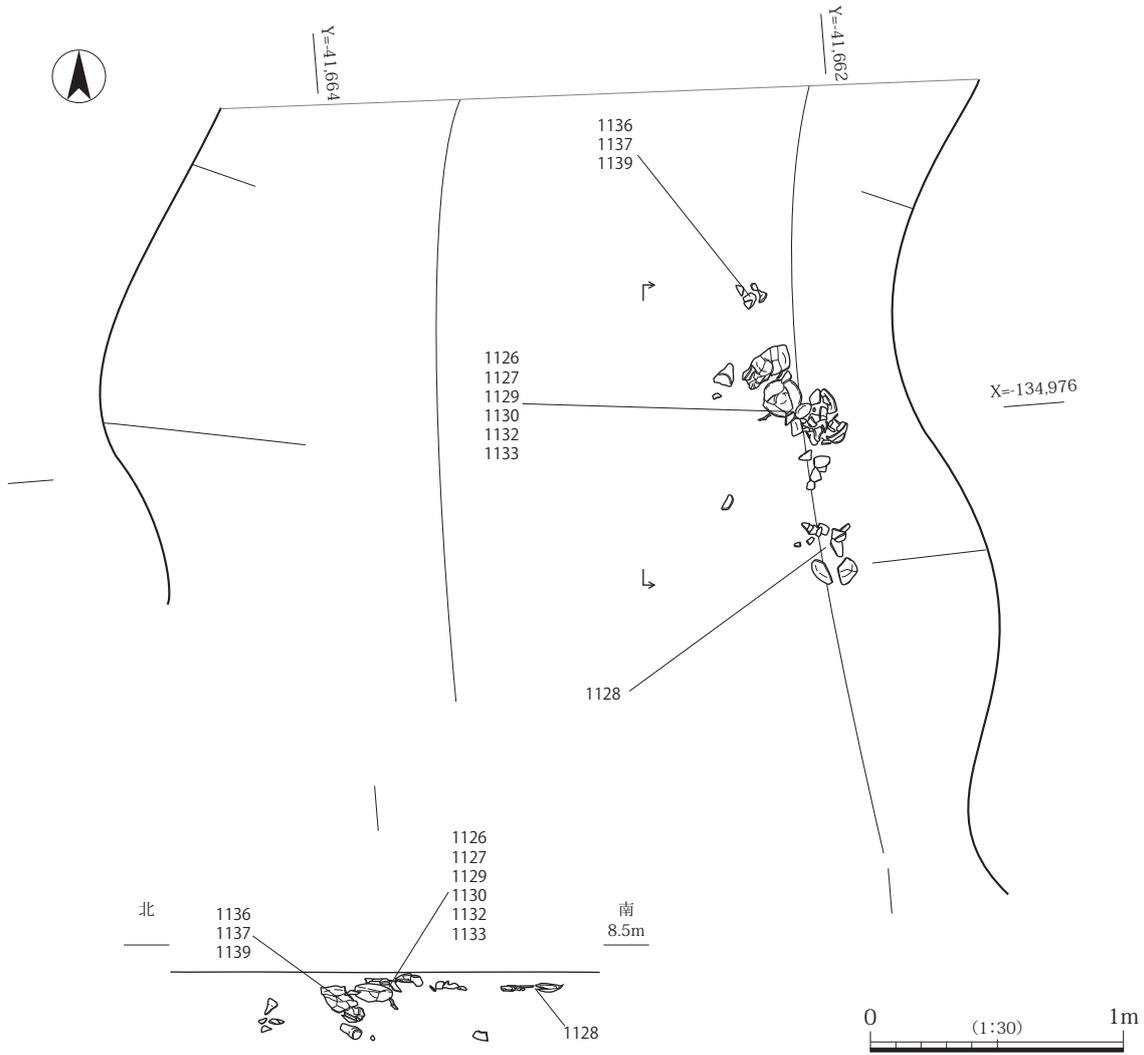


図 306 8048 溝 遺物出土状況

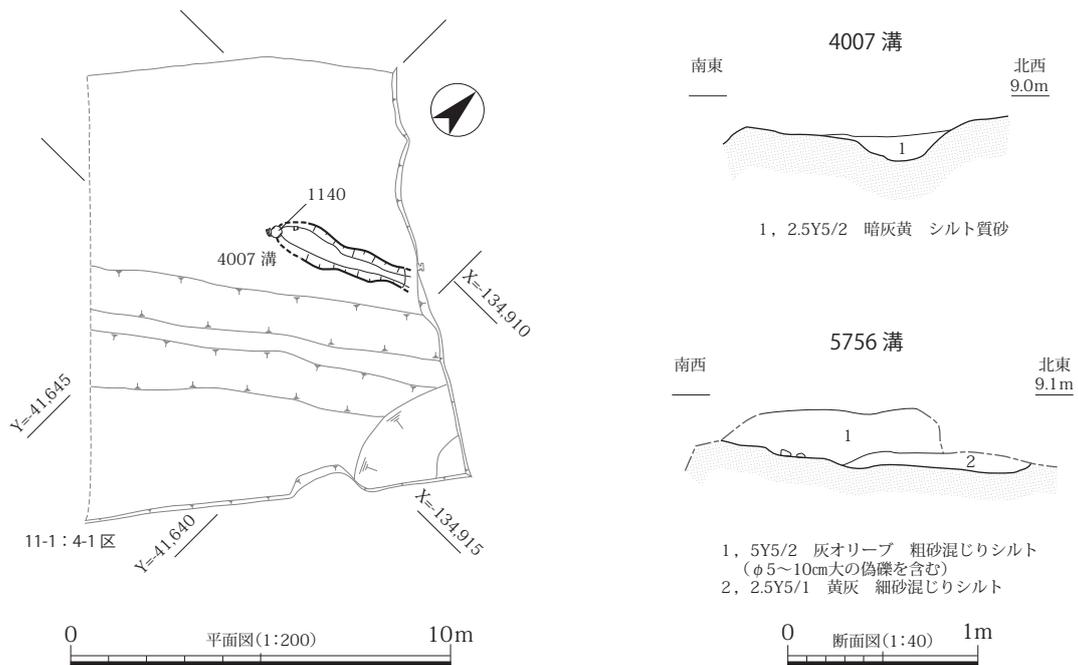


図 307 4007 溝 平面図・断面図

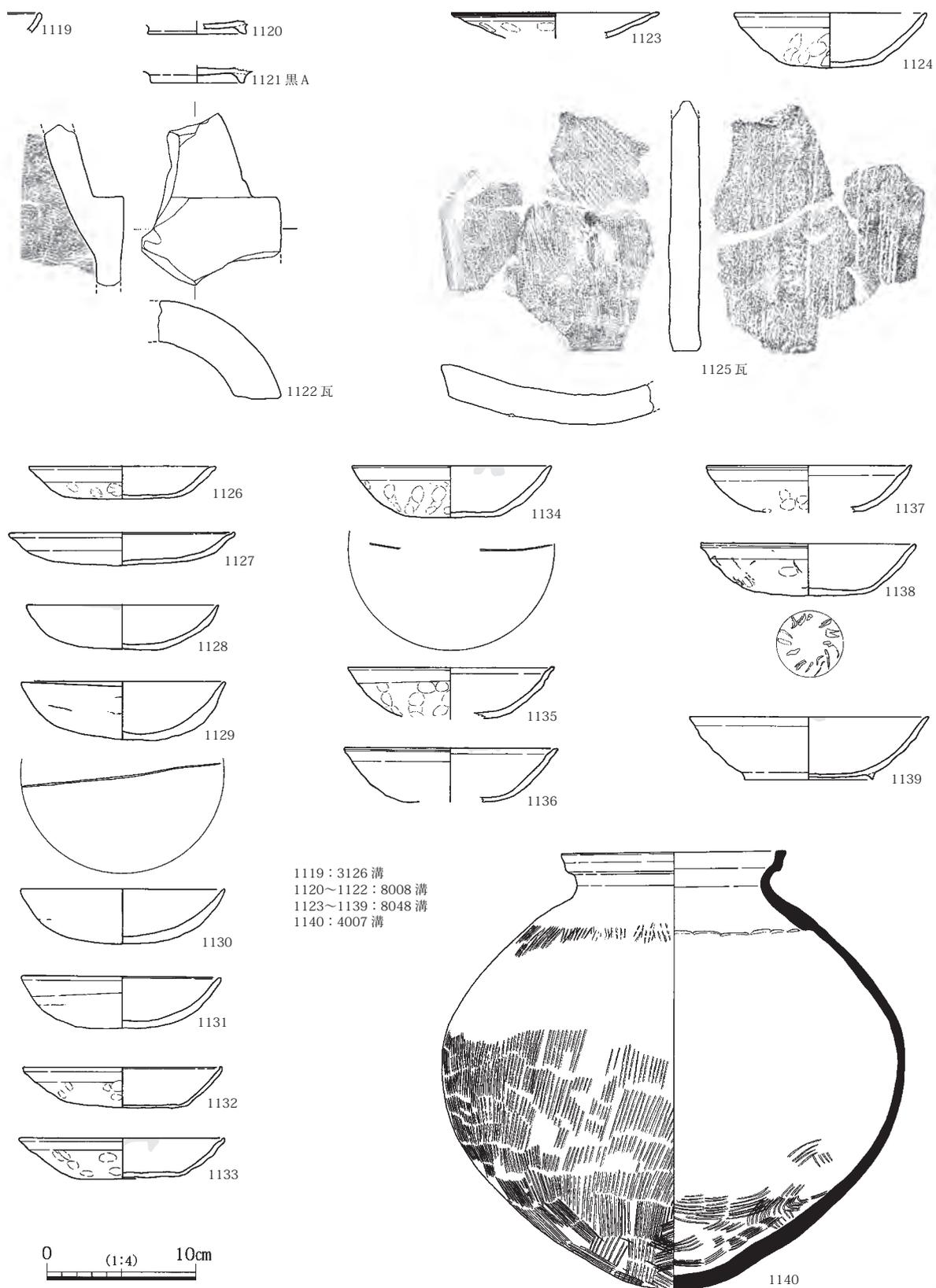


図 308 溝 出土遺物

5. 溝

3126 溝 (図 304・308、写真図版 124-2) 11-1:3-7 区において第 3 層を除去した面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅

1.4～1.7 m、検出長約 14.6 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.42 mを測る。埋土中から、土師器皿 (1119) が出土した。出土遺物は小片であるため、詳細な時期は判定できないが、当溝は 3125・3127 溝に切られ、それらの溝に先行するものである。

3128 溝 (図 304、写真図版 124-2) 11-1:3-7 区において第 3 層を除去した面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.85～1.1 m、検出長約 14.3 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.24 mを測る。埋土中から土器の細片が出土しているが、帰属時期は不明である。3128 溝は 3125～3127 溝と同一地点、同一面で検出された遺構であるが、いずれの溝とも方向が異なり、切り合い関係が認められなかった。出土遺物からも切り合い関係からも当溝の時期比定はできないが、条里型地割とは異なる方位であることから、それ以前に属する可能性が高いと考え、古代に属する遺構と判断した。

8008 溝 (図 305・308、写真図版 117-2・182) 11-1:8-1 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。両端部が攪乱になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向し、緩やかに蛇行する。検出した部分の規模は幅 1.2～2.5 m、検出長約 16.2 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.28 mを測る。なお当溝は、後述の 3077 流路埋没後に形成されたものである。

埋土中から、土師器椀底部 (1120)、黒色土器 A 類椀底部 (1121)、丸瓦 (1122) 等が出土している。出土遺物から平安時代前～中期に属する遺構と判断する。

8048 溝 (図 305・306・308、写真図版 117-3・118-1・182) 11-1:8-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。両端部が攪乱及び調査区外になるため全容は明らかでないが、南北方向を指向する。X=-134,980、Y=-41,660 地点で方向を東へ変えるようである。検出した部分の規模は幅 1.1～3.2 m、検出長約 19.5 mを測る。断面形は椀形で深さ 1.02 mを測る。検出した溝の南端部において土器がまともに出て出土している。なお当溝は、後述の 3077 流路埋没後に形成されたものである。

埋土中から、土師器皿 (1123・1126・1127)・杯 (1128～1133)・椀 C (1124・1134～1138)・椀 (1139)・平瓦 (1125) 等が出土している。出土遺物から平安時代前期に属する遺構と判断する。

前述したように、当溝の形成は 3077 流路の埋没後になる。当溝出土遺物の帰属時期から判断して、3077 流路は少なくとも 9 世紀代には埋没していた可能性が高い。それは 8008 溝出土遺物の帰属時期から見ても矛盾はない。3077 流路の時期を推定する上での、間接的な

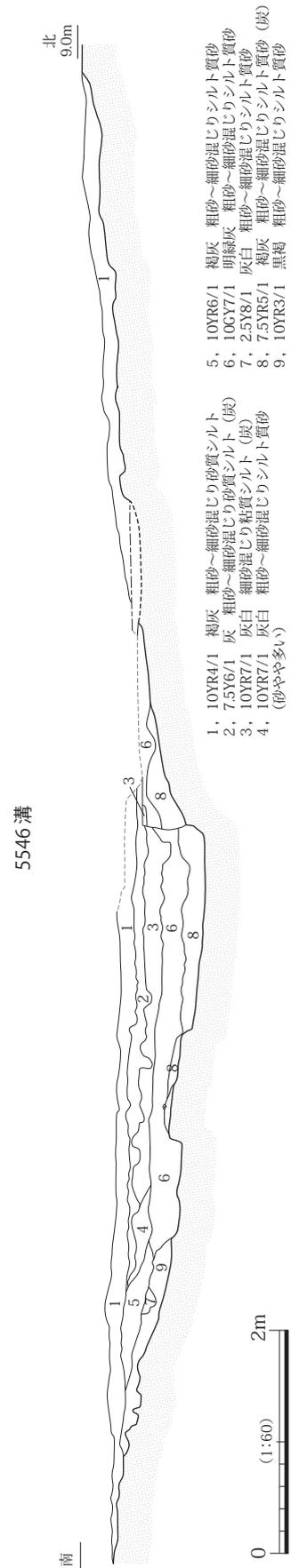


図 309 5546 溝 断面図

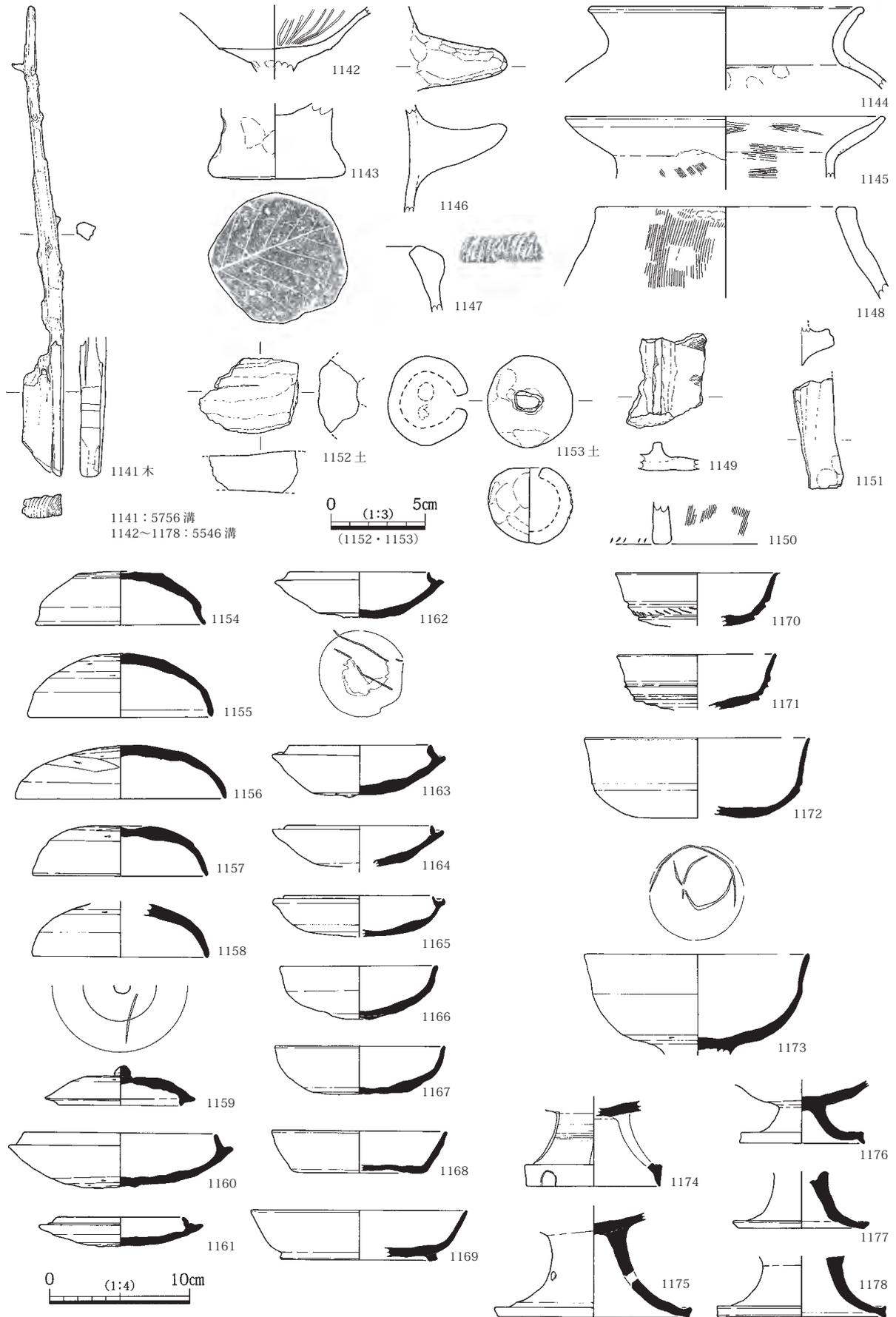


图 310 5756・5546 溝 出土遺物

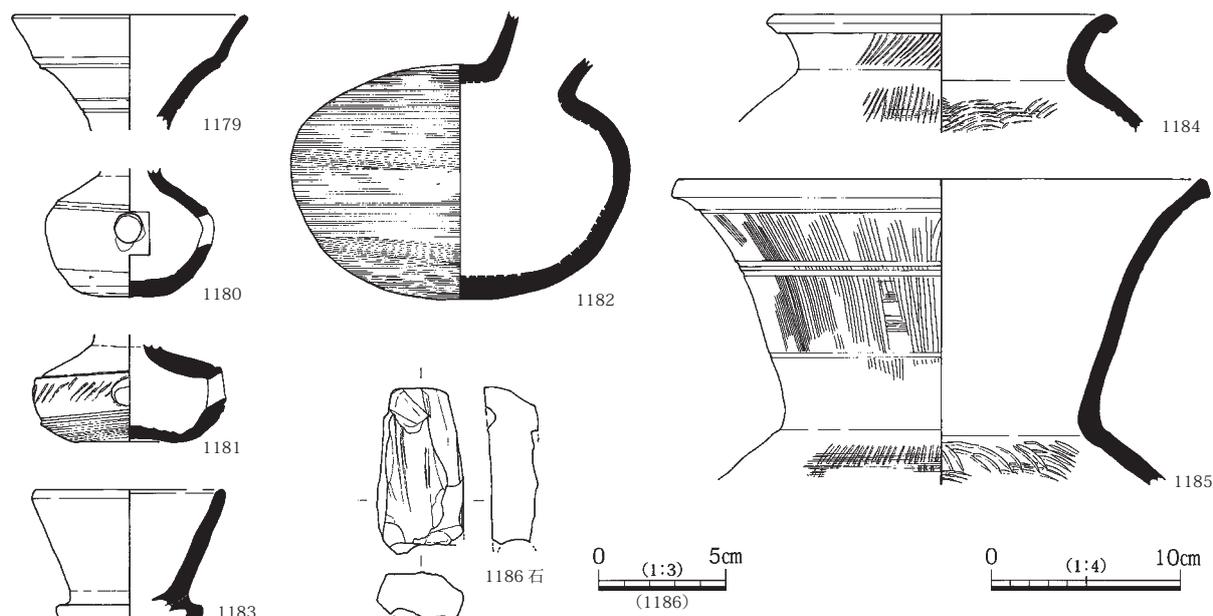


図 311 5546 溝 出土遺物

証左となり得る遺構である。

4007 溝 (図 307・308、写真図版 118-2・173) 11-1:4-1 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。北東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北東—南西方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.9～2.0 m、検出長約 8 m を測る。断面形は楕形で深さ 0.14 m を測る。埋土中から、須恵器甕(1140)が出土している。出土遺物から平安時代前期に属する遺構と判断する。

5756 溝 (図 288・307・310、写真図版 190) 11-1:5-3 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。攪乱及び南東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西—南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.55～1.8 m、検出長約 11 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.08 m を測る。埋土中から、不明木製品(1141)が出土している。

5431 溝 (図 289) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。両端部が攪乱及び調査区外になるため全容は明らかでないが、北西—南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.35～0.45 m、長さ約 7.8 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.1 m を測る。埋土は褐灰色粗～中砂質シルトを主体とする。

5521 溝 (図 289) 11-1:5-2 区において第 4-1 層を除去した面で検出した。北部が調査区外になるため全容は明らかでないが、南北方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.55～0.75 m、検出長約 4 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.12 m を測る。埋土にはふい黄橙色粗～細砂質シルトを主体とする。既述の掘立柱建物群と軸を同じくする溝であることから、建物群に伴う区画溝の可能性はある。

5546 溝 (図 289・309・310・311、写真図版 118-3・173・174) 11-1:5-2 区において第 4-2 層を除去した面で検出した。本来は第 4-1 層を除去した面で検出されるべき遺構の可能性が高い。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、南北方向を指向する。検出した部分の規模は幅 3.2～3.8 m、検出長約 7.3 m を測る。断面形は楕形で深さ 0.78 m を測る。既述の掘立柱建物群と軸を同じくする溝であることから、建物群に伴う大規模な区画溝の可能性はある。

埋土中から、土師器高杯(1142)・台付鉢(1143)・甕(1144・1145)・把手(1146)・竈片(1147～

1151)、鞆羽口 (1152)、土鈴か (1153)、須恵器杯蓋 (1154～1158)・杯G蓋 (1159)・杯 (1160)・杯H (1162～1165)・杯G (1166・1167)・杯A (1168)・杯B (1169)・無蓋高杯 (1170～1173)・高杯脚部 (1174～1178)・壺 (1179～1181)・平瓶 (1182)・鉢 (1183)・甕 (1184・1185)、砥石かと考えられる石製品 (1186) 等が出土している。出土遺物から飛鳥時代に属する遺構と判断する。

6. 流路

3077 流路 (図 312～322、原色写真図版 10、写真図版 119～122・172～178・182～184・189～191)

11-1:3-3 区・11-1:8-1 区・11-1:8-2 区・12-1:4-2 区において検出した当該期に属する流路を 3077 流路という遺構番号に統一して報告する。今回の調査では調査区ごとに遺構番号を付しているため、複数の調査区に跨って検出された遺構については異なる遺構名が付されることとなった。それは 11-1:3-3 区 (3077 流路)、11-1:8-1 区 (8015 流路)、11-1:8-2 区 (8052 流路)、12-1:4-2 区 (4141 流路) として遺物ラベルに記載されている。基本的には調査時の遺構名をそのままにする方針で整理作業を行ったので、ここに付記し、付表の遺物観察表においても本来の遺構名がわかるようにした。

当流路は、11-1:8-2 区では第 4-1 層を除去した面で検出した。11-1:3-3 区では第 3 層を除去した面で検出した。12-1:4-2 区においては第 3 層を除去した面で検出している。11-1:8-1 区においては、調査区の大半が流路内であったことから、帰属面は判然としない。調査区によって異なる堆積層の下面で検出しているが、中世以降の流路による分断や攪乱によって、また調査担当者の認識の違い等から同一層の把握が極めて困難であった。課題として残ったが今後の調査に委ねたい。

両端部及び途中部分が調査区外になり、後世の流路と重複し削平されている箇所があるため全容は明らかでないが、11-1:3-3・12-1:4-2 区では北西―南東方向を指向し、11-1:8-2 区では方向をやや変え南北方向を指向し、11-1:8-1 区では概ね東西方向を指向する。11-1:8-2 区と 11-1:8-1 区の境目付近で急激に方向を変える状況が看取される。

検出した部分の規模は、後世の流路による削平のため、機能時の流路幅や深さは明らかにし得ないが、推定幅 15 m 以上、深さ 2.6 m 以上を測り、検出長約 92 m である。断面形は概ね椀形を呈し、埋土は細礫～細砂を主体とし、所々に木葉など植物遺体の溜まりが形成されていた。周辺地形を勘案すれば北から南へ流水があったと想定される。

流路断面の観察から、ある程度埋没した後、再び流水により幅の狭い流路が形成され、埋没したようである (図 162・313)。なお、その埋没していく過程での最終堆積層中から土師器椀 C がまとまって出土した。およそ 3×4 m 四方の範囲については出土位置を明らかにし得たので図示しておく (図 314)。その南半においては、板状の木製品 (1254) の上に一部かかるように、土師器椀 C が伏せられた状態で積み重ねられ 2 点 1 組となったものが 3 組並んだ状態で出土した (1243・1249、1244・1245、1238・1240)。他にも周囲に散らばるように同形態の土師器椀 C が出土していることから、本来はそれらについても積み重ねられていたものであった可能性もあろう (1237・1239・1241・1242・1246～1248)。なお、これら土器群のすぐ東側で立木 (アカガシ亜属) が検出されている。

北半においては、底部外面に「王」字を墨書したものが出土している。墨書のある土器はいずれも底部外面を上に向けた状態で出土した (1223～1226)。墨書された「王」字には筆運びが丁寧なものやや粗雑な印象を受けるものの 2 種に大別できそうであるが、基本的には横棒が徐々に長くなり三角形状を呈する同じ字形である。北半部の土器と南半部の土器は、形状や色調が同じでありほぼ同時期の所産

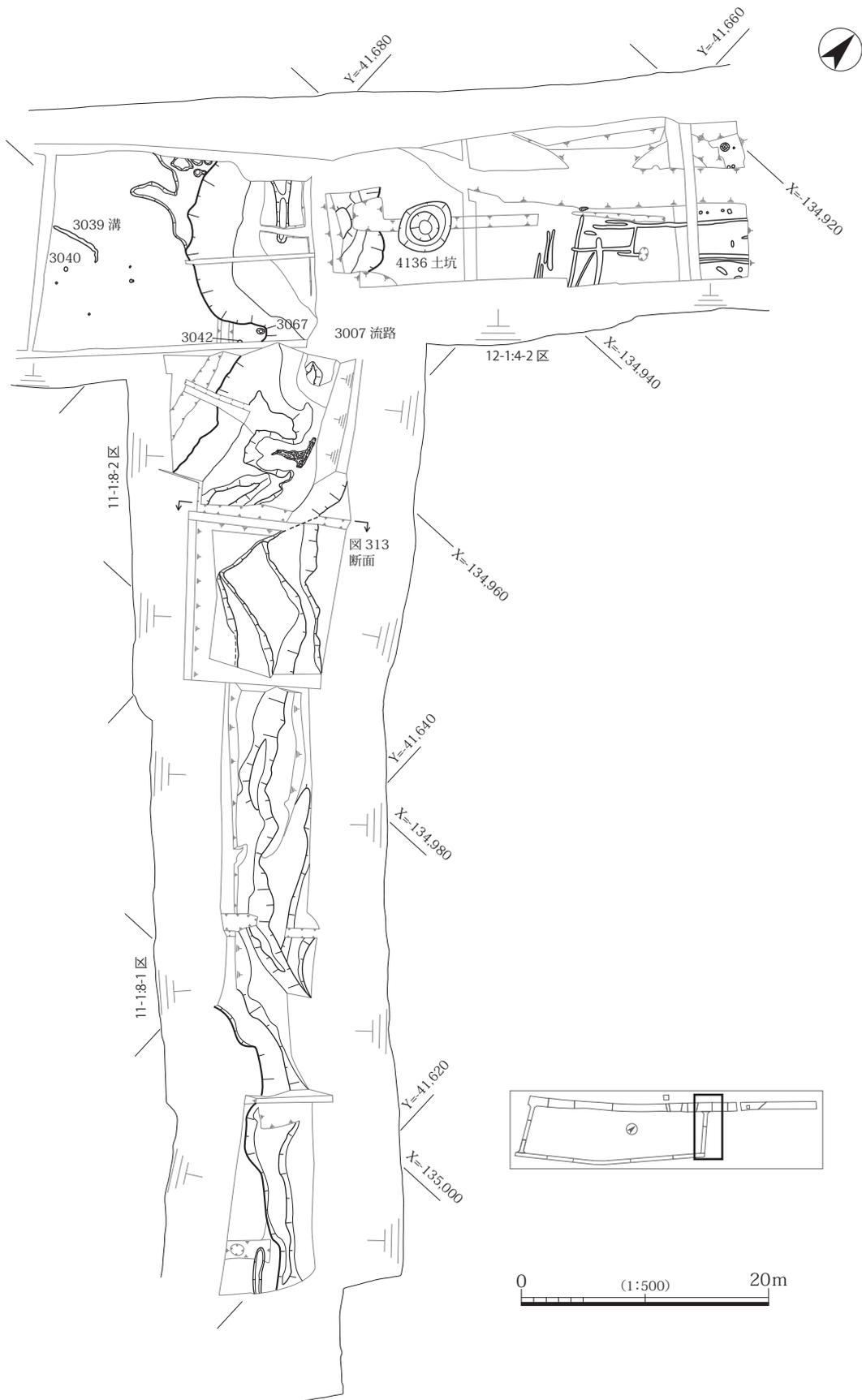


図 312 3077 流路 平面図



- | | |
|--|--|
| 1. 2.5Y6/1 黄灰 極細砂混じり砂質シルト | 22. 2.5Y4/1 黄灰 粘質シルトと5Y8/1 細砂~中礫の互層 (ラミナ明瞭) (18と同じ) (3077 (8052) 流路) |
| 2. 5Y7/3 浅黄 細砂~極細砂混じり砂質シルト | 23. 2.5Y8/1 灰白 細砂~極細砂 (ラミナ明瞭) (木片多く含む) (3077 (8052) 流路) |
| 3. 2.5Y7/2 灰黄 細砂~極細砂混じり砂質シルト | 24. 7.5Y7/1~7.5Y6/1 灰白~灰 細砂~極細砂 (ラミナ明瞭) (木片多く含む) (3077 (8052) 流路) |
| 4. 5Y7/2 灰白 細砂~極細砂 (8005 (8036) 流路) | 25. 5Y8/1 灰白 中砂~細砂 (ラミナ明瞭) (3077 (8052) 流路) |
| 5. 7.5Y6/1 灰 細砂 (部分的に粗砂~中礫ブロックあり) (8005 (8036) 流路) | 26. 5Y6/1 灰 極細砂 (ラミナ明瞭) (3077 (8052) 流路) |
| 6. 10Y8/1 灰白 粗砂~中礫 (8005 (8036) 流路) | 27. 5Y8/1 灰白 中砂~細砂 (ラミナ明瞭) (3077 (8052) 流路) |
| 7. 7.5Y8/1 灰白 中砂~細砂と2.5Y5/1 黄灰 極細砂~シルトの互層 (ラミナ明瞭) (8005 (8036) 流路) | 28. 2.5Y5/1 黄灰 細砂~シルトの互層 (ラミナ明瞭) (3077 (8052) 流路) |
| 8. 2.5Y4/1 黄灰 極細砂混じり砂質シルト (極粗砂が若干混じる) (8005 (8036) 流路) | 29. 2.5Y8/1 灰白 中砂・細砂・極細砂の互層 (ラミナ明瞭) (3077 (8052) 流路) |
| 9. 2.5Y7/4 浅黄 中砂~細砂 (8039溝) | 30. 5Y8/1~7/1 灰白 細砂・極細砂・シルトの互層 (ラミナ明瞭) (木片を含む) (3077 (8052) 流路) |
| 10. 7.5Y6/2 灰オリーブ 極細砂混じりシルト質砂 (8039溝) | 31. 10YR4/1 褐灰 極粗砂~中砂混じり砂質シルト |
| 11. 5Y8/2 灰白 細砂 (部分的に中砂のブロックあり) (8039溝) | 32. 2.5GY6/1 オリーブ灰 極粗砂~中砂混じりシルト質砂 |
| 12. 2.5Y6/2 灰黄 細砂混じり砂質シルト | 33. 2.5Y3/1 黒褐 細砂~極細砂混じり砂質シルト |
| 13. 10Y5/2 オリーブ灰 極細砂混じり砂質シルト (8039溝) | 34. 2.5GY6/1 オリーブ灰 細砂~極細砂混じりシルト質砂 |
| 14. 2.5Y7/2 灰黄 細砂混じり砂質シルト (第3.2層) | 35. 7.5Y3/1 オリーブ黒 粗砂~細砂混じり砂質シルト |
| 15. 2.5Y5/2 暗灰黄 極細砂混じり砂質シルト (若干細砂が混じる) (第3.3層) | 36. 2.5Y8/1 灰白 中礫~粗砂 (ラミナ顕著) |
| 16. 2.5Y5/1 黄灰 細砂混じり砂質シルト (若干細砂を含む) (8048溝) | 37. 2.5Y8/1 灰白 中礫~粗砂 (ラミナ顕著) |
| 17. 7.5Y5/1 灰 極細砂混じり粘質シルト (8048溝) | 38. 5Y6/1 オリーブ灰 粗砂~中砂 |
| 18. 2.5Y4/1 黄灰 粘質シルトと5Y8/1 細砂~中礫の互層 (ラミナ明瞭) (8048溝) | 39. 2.5Y3/1 黒褐 シルト質粘土 (暗色帯) |
| 19. 7.5Y6/2 灰オリーブ 細砂混じり砂質シルト | 40. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰 シルト質粘土 |
| 20. 7.5Y6/1 灰 細砂~極細砂 | 41. 10GY7/1 明緑灰 シルト質粘土 |
| 21. 2.5Y5/1 黄灰 極細砂~シルトと2.5Y8/1 細砂~中礫の互層 (ラミナ明瞭) (有機物木片多く含む) | 42. 2.5Y4/1 黄灰 極細砂混じり砂質シルト (暗色帯) |
| | 43. 2.5Y5/1 黄灰 細砂~シルトの互層 (ラミナ明瞭) |
| | 44. 5Y8/1 灰白 中砂~細砂 (ラミナ明瞭) |

図 313 3077 流路 断面図

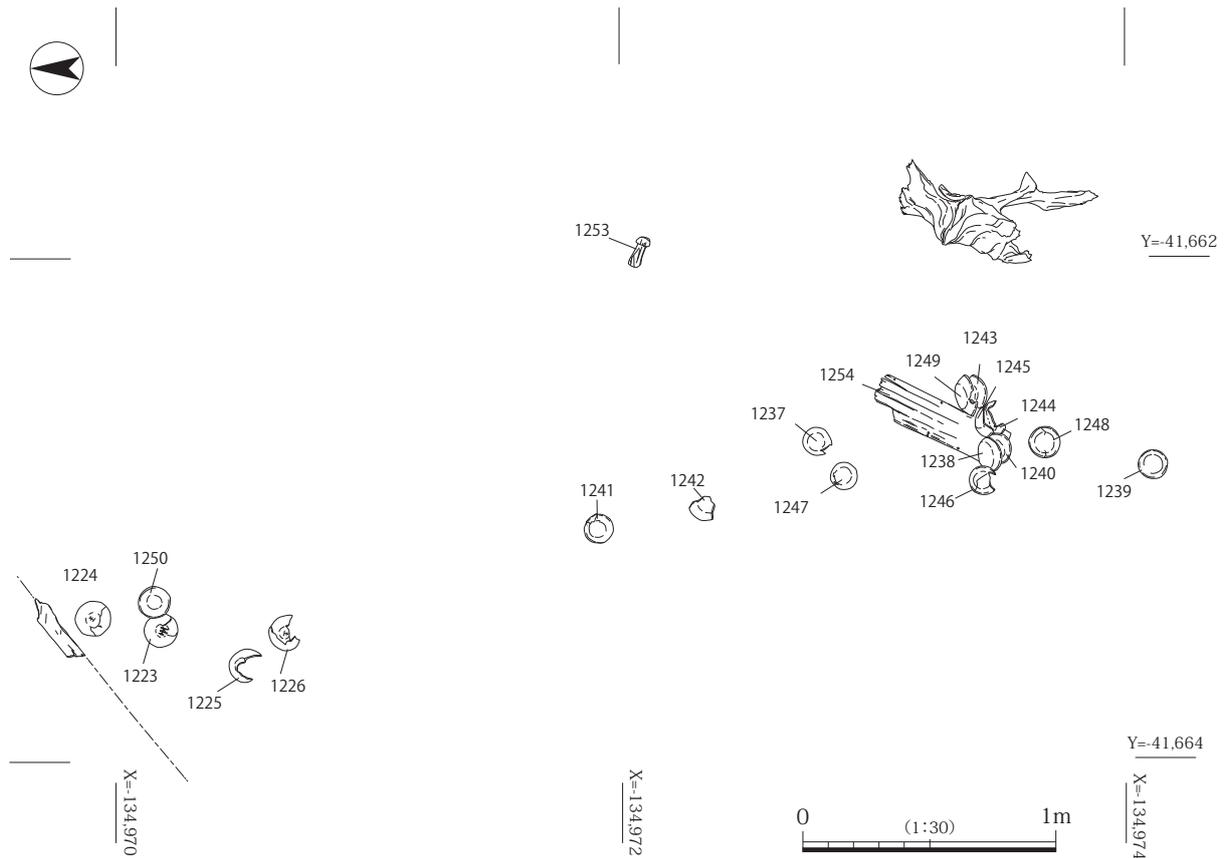


図 314 3077 流路 最終埋没層遺物出土状況

になるものと考えられる。当流路の最終埋没層で検出した土器群は一連のものと判断する。

なお、出土位置が明らかなものは図 314 に示したものであるが、それ以外にすでに掘削中に取り上げてしまったものの中にも同様の形態の土師器碗 C 及び「王」字墨書のある土師器碗 C が出土していることが判明した。それらをまとめて図 317 に示した。またこれ以外に中世に属する 8035 流路からも同様の土器が出土している（図 323 - 1387 ~ 1389）。これらの土器についても、8035 流路は 3077 流路と重複しており本来は当流路に伴うものである可能性が高いと判断される。以上の出土遺物は、上述の図 314 に示した土器群と同様に当流路の最終埋没層に伴う遺物で、一連のものであったと推定しておきたい。この想定が首肯されるものであれば、この最終埋没層から「王」字墨書のある土師器碗 C が、その可能性のあるものを含めれば 9 点出土していることになり、墨書のない土師器碗 C は 23 点出土していることになる。

これら土器群の性格について、墨書土器においては「王」字が墨書された土器がこれだけまとまって出土した例は畿内では他になく、その性格や何を表わしているかについては具体的には論じ得ないが、流路において出土している状況や墨書のない土器が 2 点 1 組で伏せてまとまって出土した状況等を勘案すれば、何らかの祭祀に関わる土器群であったものと推定しておきたい。

上述したもの以外に当流路から出土した遺物について、図化し得たものを図 315 ~ 322 に示す。出土遺物は、土師器、須恵器、黒色土器、製塩土器、瓦、埴、土製品、石製品、木製品がある。器形の判明するものとして、土師器は杯もしくは皿底部片（1187・1266・1267）・杯（1188 ~ 1190・1255 ~ 1259・1327 ~ 1329）・碗（1191・1334）・皿（1261 ~ 1265・1330 ~ 1333）・高杯脚部（1192）・壺 E（1193）・

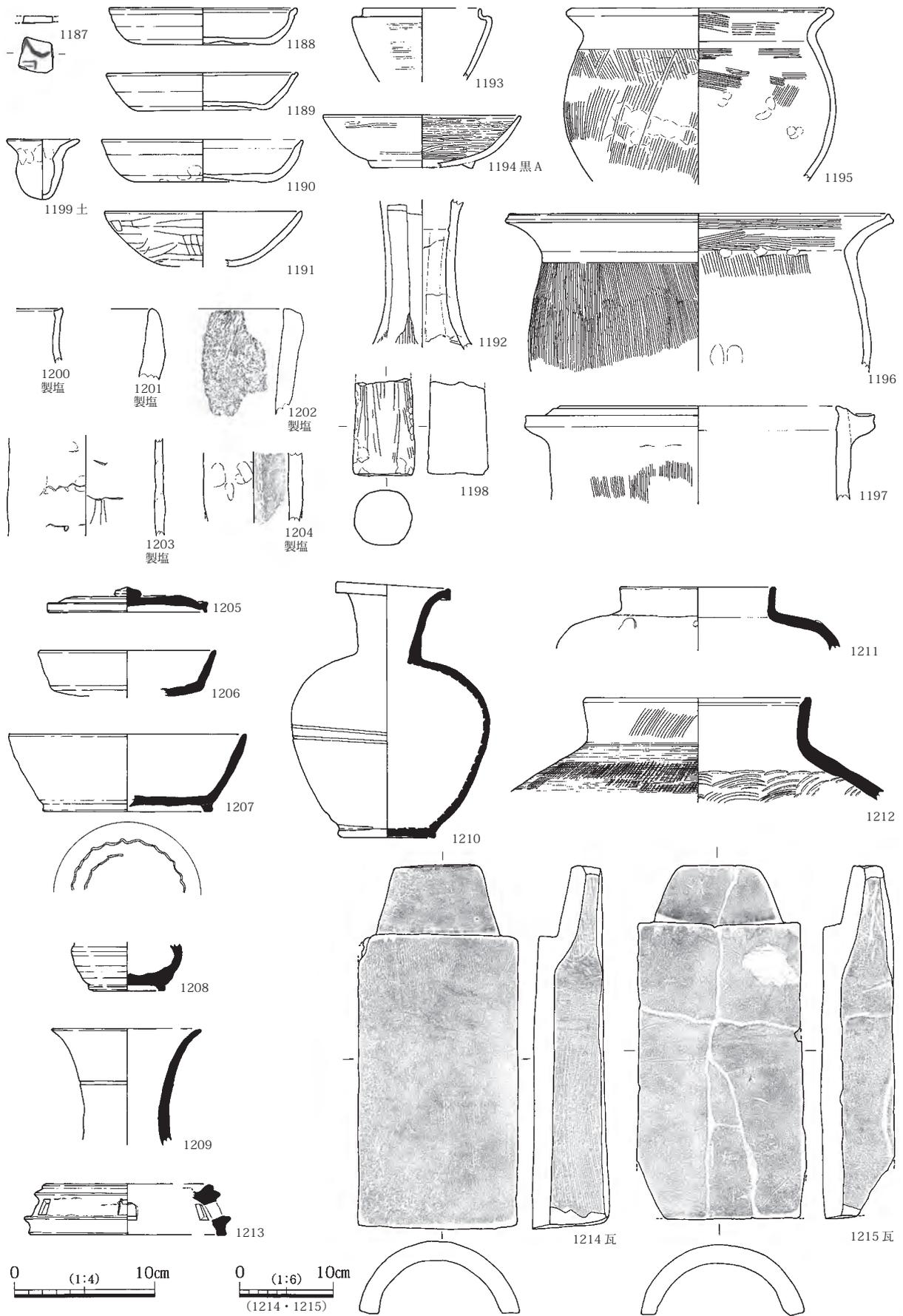


图 315 3077 流路 出土遺物 (1)

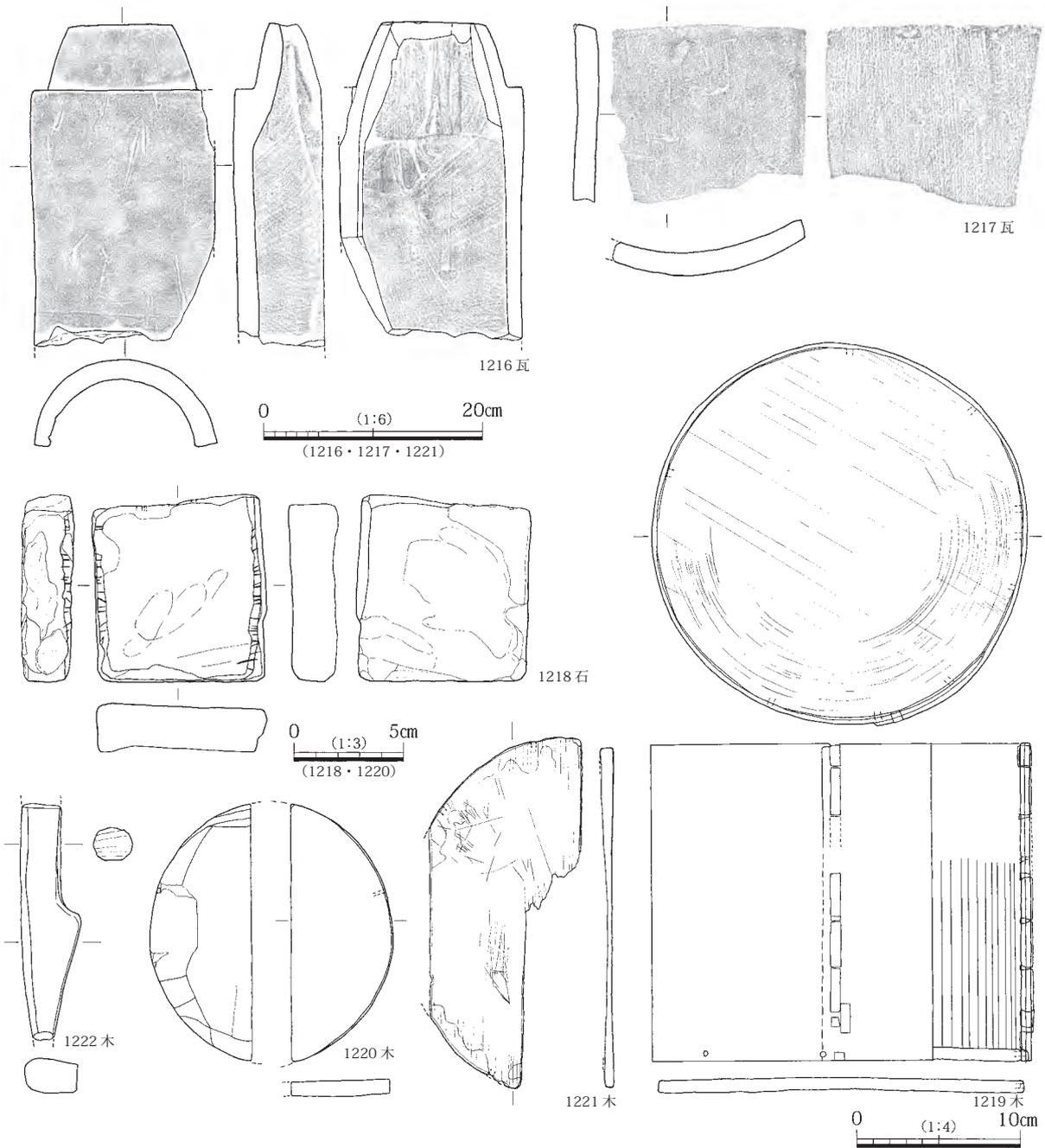


図 316 3077 流路 出土遺物 (2)

甕 (1195・1196・1268～1276・1336・1337・1353)・鍋 (1354)・羽釜 (1338)・羽釜脚部 (1198・1277)、須恵器は蓋 (1288)・杯B蓋 (1205・1283・1284・1358)・杯G蓋 (1357)・杯 (1206・1278～1282・1356)・杯B (1207・1285～1287・1344)・壺 (1208～1211・1289～1297・1345・1359・1360)・甕 (1212・1300・1361・1362)・平瓶 (1298)・すり鉢底部 (1299)・円面硯 (1213)、黒色土器A類碗 (1194・1335)、製塩土器 (1200～1204・1307～1314・1339～1342)、瓦は軒丸瓦 (1315)・丸瓦 (1214～1216・1316・1317・1346・1347)・軒平瓦か (1320)・平瓦 (1217・1318・1319・1348)、土製品はミニチュア土器 (1199)・竈 (1301・1302)・土馬 (1303・1304・1343)・坩堝 (1305)・鞆羽口 (1306)、石製品は鋳型か (1218)・砥石 (1321)・台石か (1322)、木製品は曲物 (1219～1221・1325・1326)・

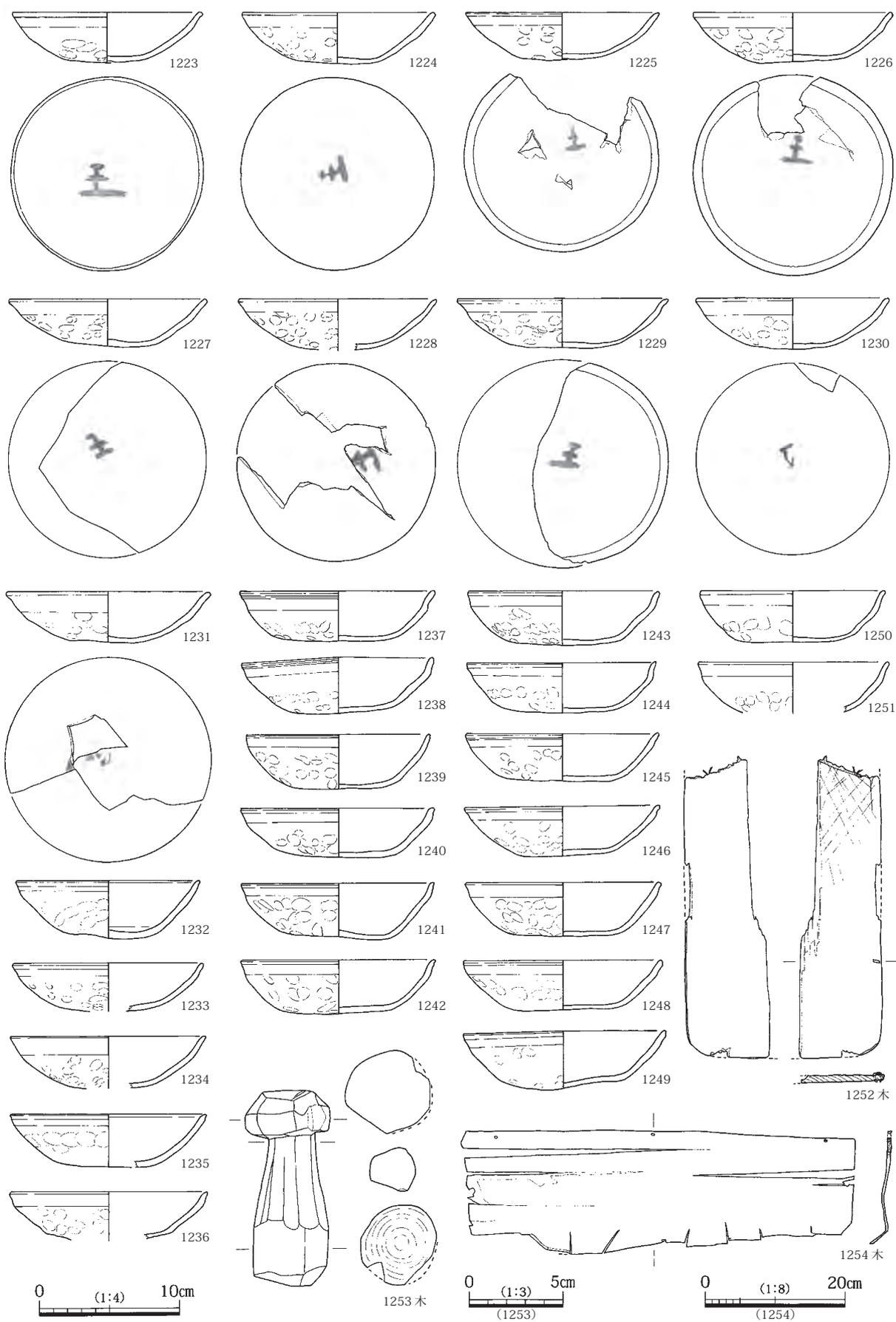


图 317 3077 流路 出土遺物 (3)

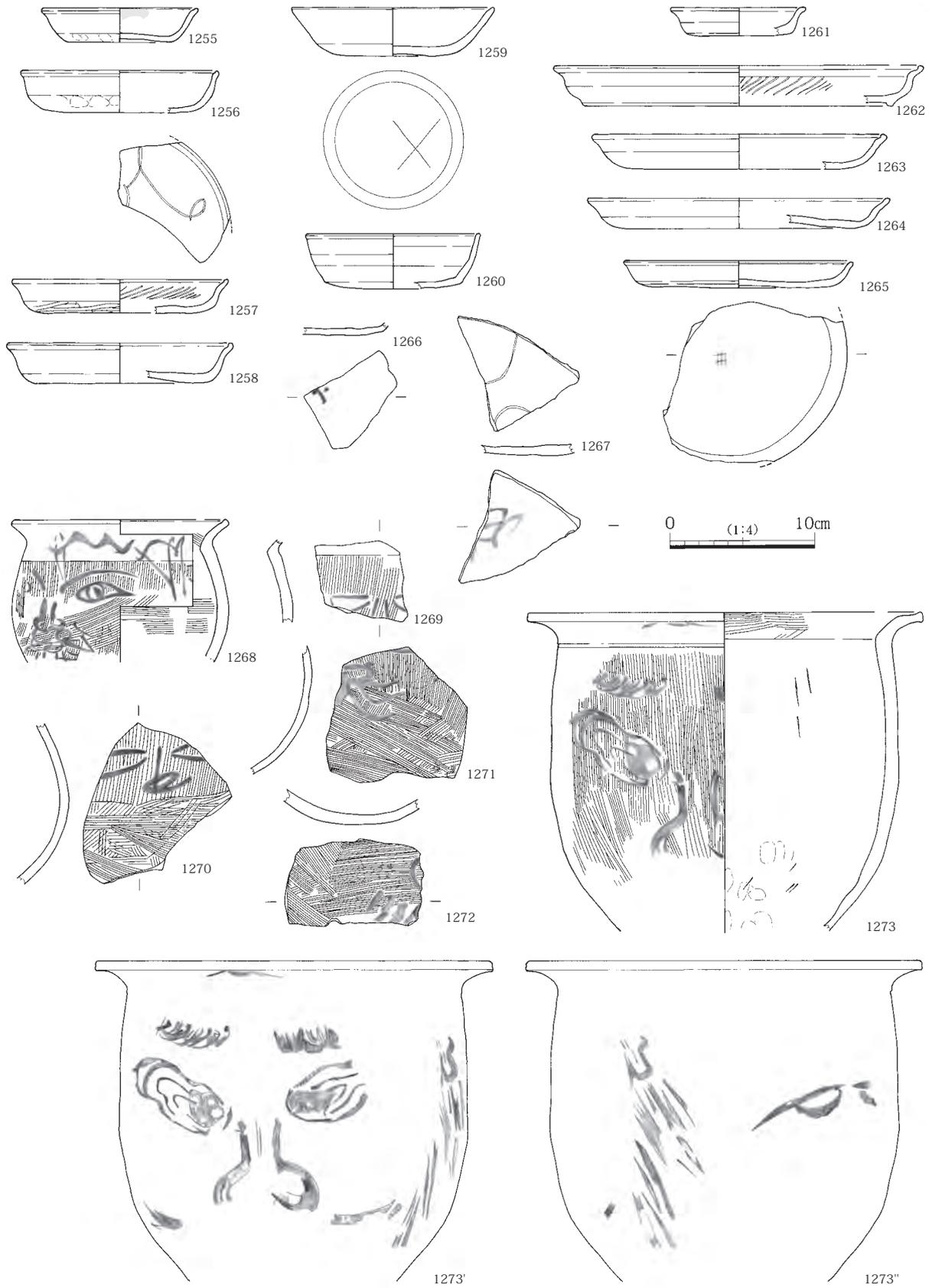


図 318 3077 流路 出土遺物 (4)

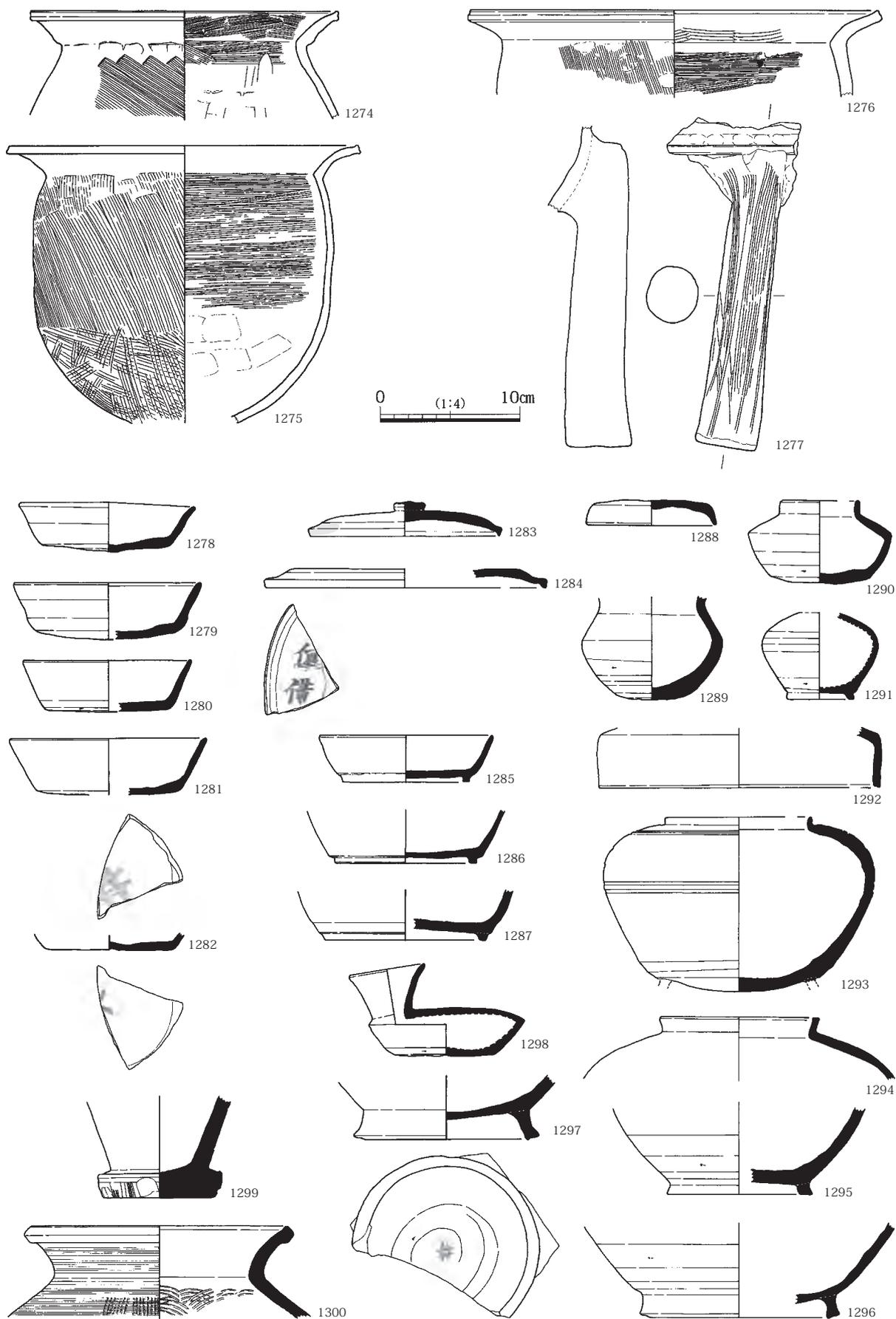


图 319 3077 流路 出土遺物 (5)

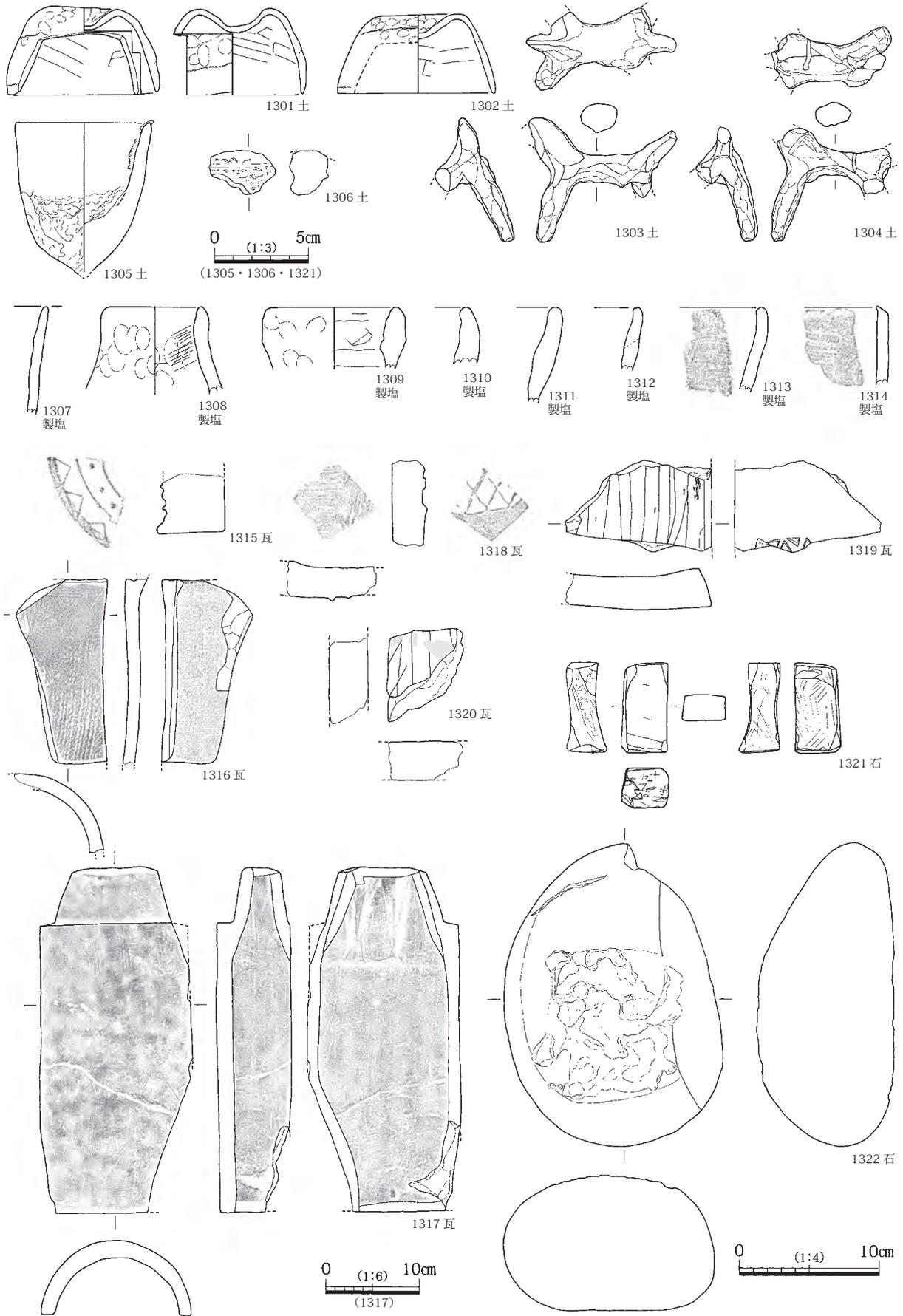


図 320 3077 流路 出土遺物 (6)

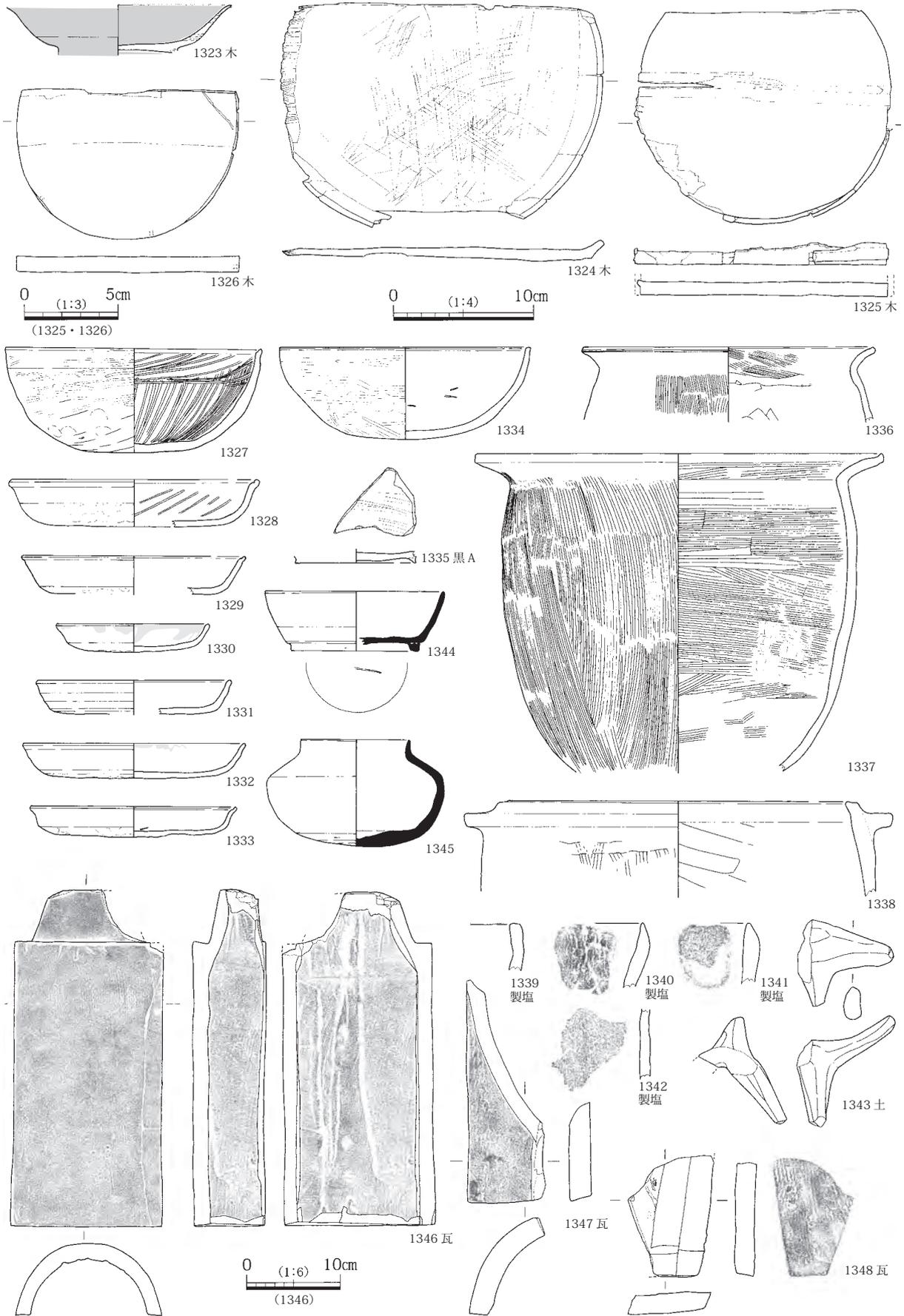


图 321 3077 流路 出土遺物 (7)

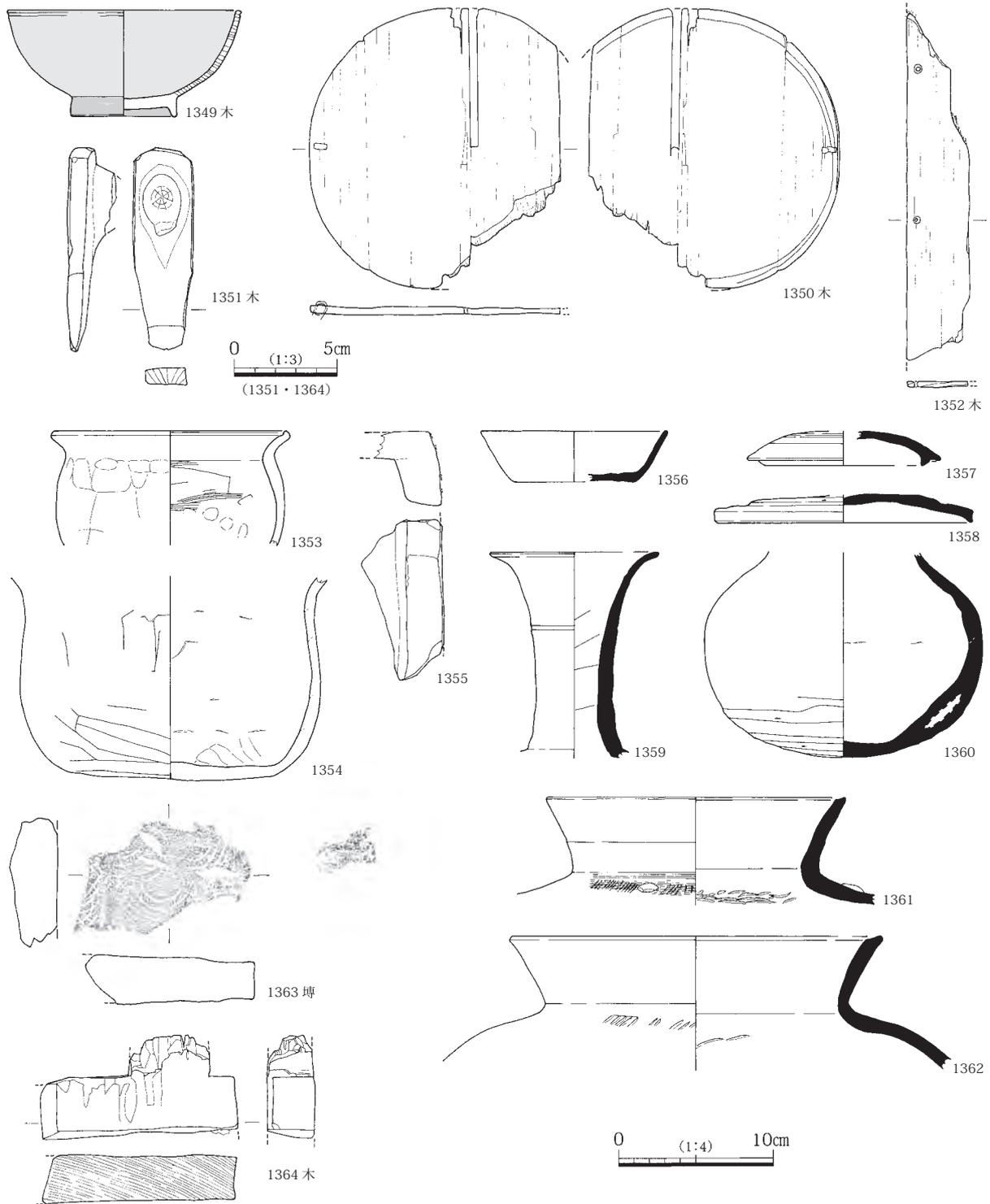


図 322 3077 流路 出土遺物 (8)

漆器碗 (1323・1349)・皿 (1324)・底板 (1350)・横斧柄 (1351) 等が出土している。これらのうち、1187・1265～1267・1282・1284・1297 には墨書が認められ、1268～1273 には人面の墨書が認められた。また 1320 の瓦には朱が認められたことから、朱塗りの建物に葺かれた瓦であった可能性がある。さらに、いわゆる大和型土馬やミニチュア竈が出土していることから当地における律令祭祀の存在を窺うことができる成果が得られた。また、埴塼 (1305) には溶融物が付着しており、銅合金の加工に使われたもの

との分析結果を得た（詳細は第8章第4節を参照のこと）。

なお当流路出土遺物のうち、土師器杯（1190）・羽釜（1197・1338）、黒色土器A類碗（1194・1335）については10世紀～11世紀の所産になるものと推定され、他の遺物とは時期がやや異なる。いずれも11-1:3-3区、11-1:8-1区から出土したものである。前述したように、当流路の埋没後に8048溝が形成されており、少なくとも9世紀代には当流路は埋没していた可能性が高い。これらの土器は、本来は当該地区において3077流路と重複する8005流路に帰属する遺物であった可能性が高く、埋土の誤認や掘り残し等の理由により混入したものである可能性が高いものと判断しておきたい。

7. 包含層その他出土遺物（図323・324、写真図版178～180・185～188）

包含層や後世の遺構等から出土した当該期の遺物をまとめて報告する。なお、遺物出土状況の特徴などから当該期の遺跡の様子を抽出できるかと考え、図化し得た遺物について掲載し、概ね西から順に調査区ごとに報告する。

1365は10-1:4-4区出土遺物。須恵器皿（1365）等が出土している。9世紀前半の所産か。

1366～1370は11-1:7区出土遺物。須恵器杯H（1366）・杯G（1367）、灰釉陶器壺の把手（1368）、平瓦（1369・1370）等が出土している。飛鳥時代及び平安時代の所産。

1371～1376は11-1:3-7区出土遺物。土師器台付鉢（1371）、須恵器把手付壺（1372）、緑釉陶器蓋か（1373）、灰釉陶器皿（1374・1375）、石硯（1376）等が出土している。飛鳥時代及び平安時代の所産。

1377～1379は11-1:3-2区出土遺物。緑釉陶器碗か皿（1377）、灰釉陶器碗（1378・1379）等が出土している。平安時代の所産。

1380～1383は11-1:3-8区出土遺物。黒色土器小壺か（1380）、須恵器台付鉢か碗（1381）、須恵器壺か（1382・1383）等が出土している。飛鳥時代及び平安時代の所産。

1384・1385は11-1:3-4区出土遺物。土師器甕（1384）、緑釉陶器碗か（1385）等が出土している。飛鳥時代及び平安時代の所産。

1386は11-1:3-9区出土遺物。土師器羽釜（1386）等が出土している。平安時代の所産。

1387～1393は11-1:8-2区出土遺物。土師器碗C（1387～1389）・小皿（1390）、黒色土器碗（1391～1393）等が出土している。平安時代の所産。1387～1389は中世に属する流路から出土したものであるが、3077流路の最終埋没層から出土した土師器群と類似し、出土地点もほぼ同じ箇所であることから、本来は同じ一群の土器であった可能性が高い。

1394～1399は11-1:8-1区出土遺物。黒色土器碗（1394）、土師器羽釜（1395）、製塩土器（1396）、須恵器杯B（1397）・壺G（1398）・壺底部（1399）等が出土している。奈良時代及び平安時代の所産。

1400・1401は12-1:4-2区出土遺物。土師器杯C（1400）、須恵器高杯（1401）等が出土している。飛鳥時代の所産。

1402・1403は11-1:4-1区出土遺物。緑釉陶器碗（1402・1403）等が出土している。平安時代の所産。1404は11-1:5-1区出土遺物。砥石（1404）が出土している。

1405・1406は11-1:5-3区出土遺物。土師器杯（1405）、須恵器甕（1406）等が出土している。飛鳥時代及び平安時代の所産。

1407～1423は11-1:5-2区出土遺物。土師器碗か（1407）、須恵器杯H蓋（1408）・杯H（1409～1411）・杯G（1412・1413）・杯B（1414）・蓋（1415）・高杯（1416・1417）・壺B（1418）・すり鉢か（1419）、

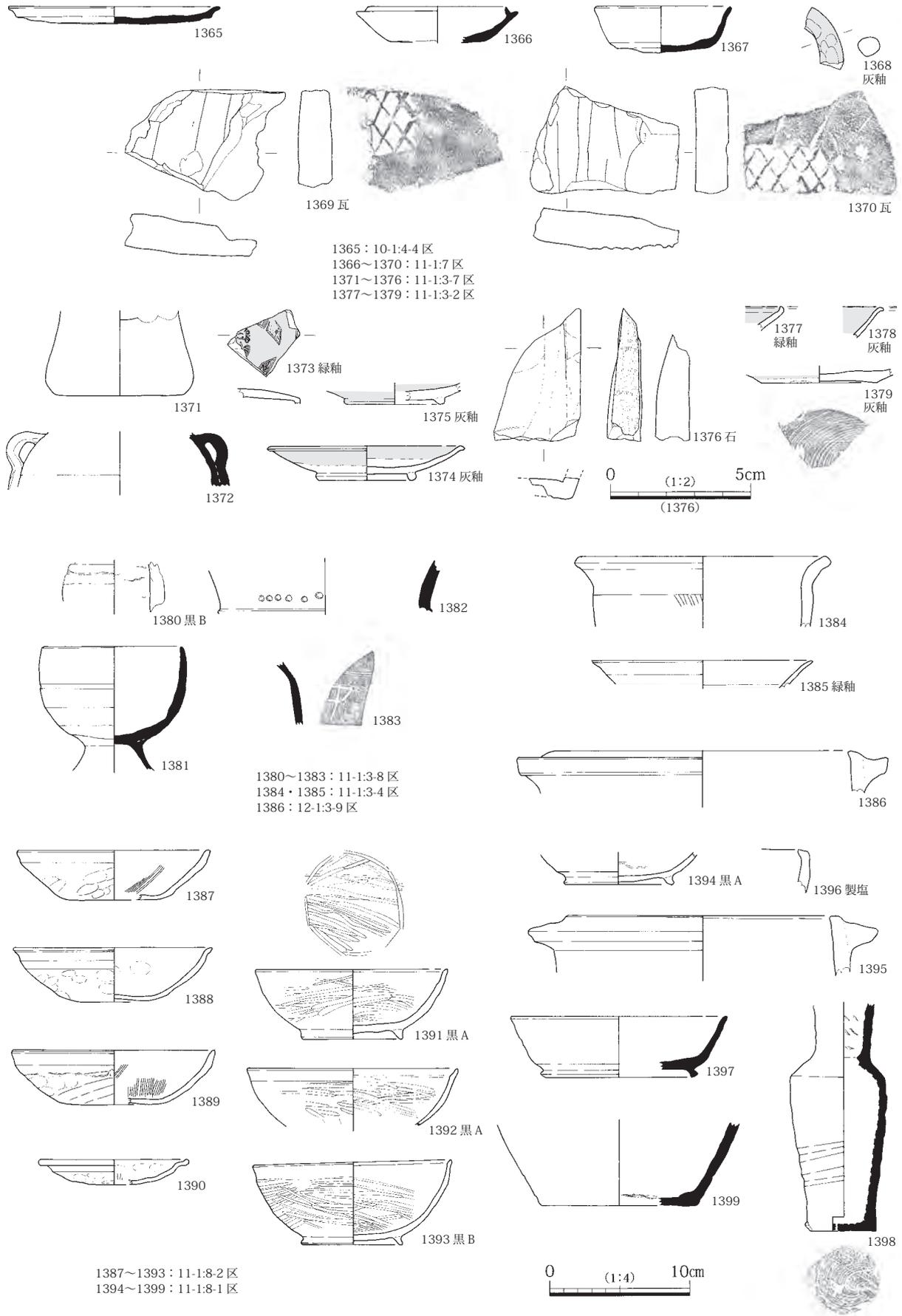


図 323 包含層その他出土遺物 (1)

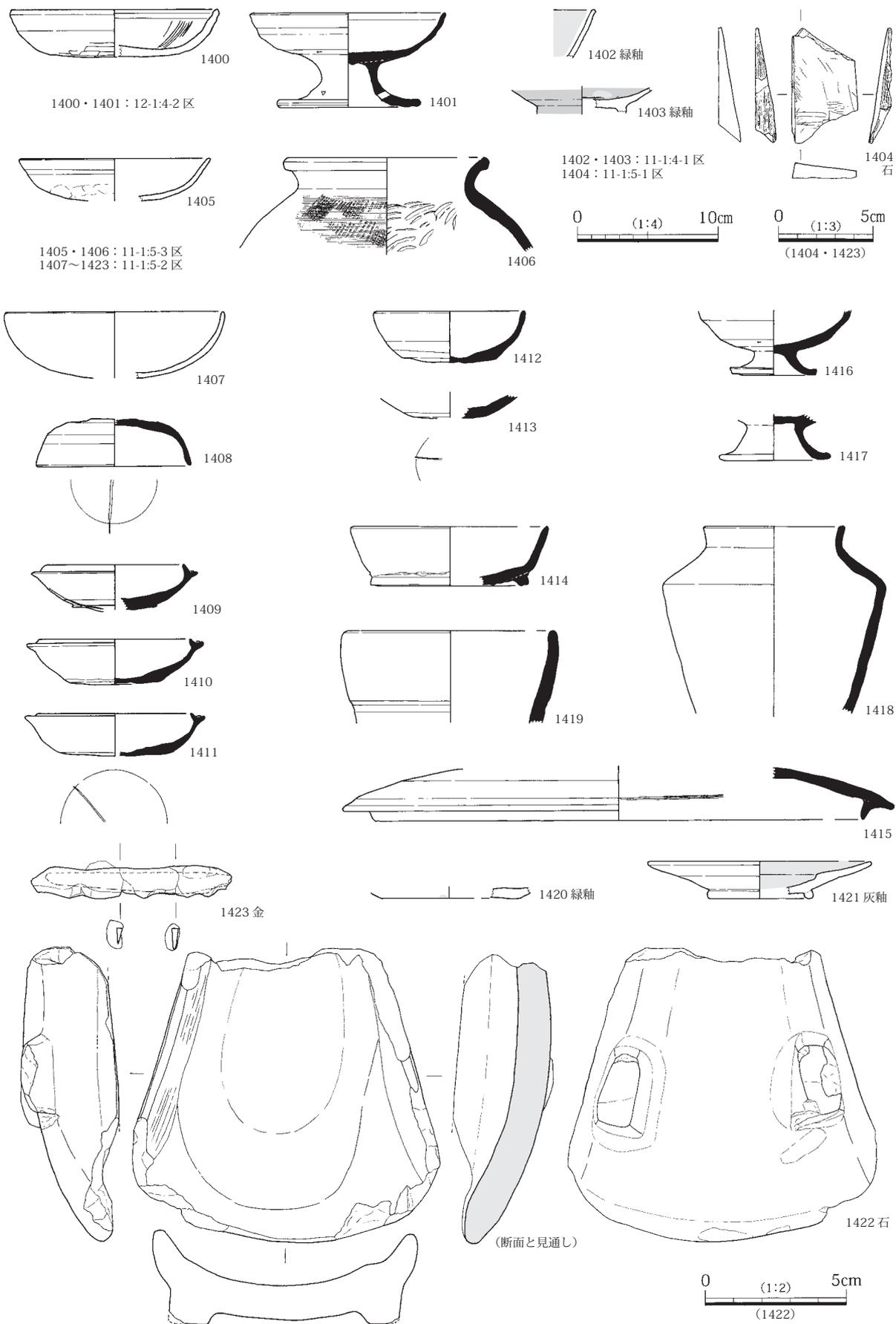


図 324 包含層その他出土遺物 (2)

緑釉陶器椀（1420）、灰釉陶器段皿（1421）、石硯（1422）、刀子か（1423）等が出土している。飛鳥時代～平安時代の所産。なお、1422は滑石かと思われる石材を使用して風字硯としたものである。大宰府出土資料に類例がある程度で、詳細は不明であるが、最初期の石硯に位置づけられる資料と考える。

包含層その他出土遺物は相対的に飛鳥時代と平安時代の所産になる遺物が多く、奈良時代所産の遺物は少ない傾向が看取でき、検出した遺構の状況とも概ね合致する。ところが、流路中からは奈良時代所産の遺物も一定量出土していることから、付近に集落が広がっている可能性が高いものとする。

第5節 中世以降の遺構と遺物

〔概要〕中世以降に属する遺構は、掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・溝・落込み・流路・鋤溝が挙げられる。第2層除去面及び第3層除去面で主に検出した。

北トレンチ・西トレンチを中心として古代の遺構群を検出している。主要な遺構は掘立柱建物で構成される建物群と坪境溝、流路である。また、これに伴って井戸や土坑、溝等を検出しており、集落域の様相を呈する遺構群と生産域の様相を呈する遺構群と評価できる。

建物群は、北トレンチで掘立柱建物3棟を検出している。掘立柱建物は、調査区外になるため全容を確認できていないものもあるが、2間×3間の規模のものを最大とし、1間×2間、1間×2間以上になる建物を検出している。建物の時期を示す遺物は僅少で明確な時期を決し難い。建物は一部重複することから、少なくとも2時期ある。なお、掘立柱建物は正方位を軸に持つ一群とそうでないものがあることから、主軸方向で概ねまとめられる一群が同時期に造営された可能性も考えられる。

流路は、北・東トレンチの2箇所でも2条検出している。出土遺物から南西側に位置する流路は概ね10～13世紀代に機能していた可能性が高く、北東側に位置する流路は概ね15～16世紀に機能していた可能性が高いことから、これら2つの流路は異なる時期に機能していたものと想定される。

遺構の時期は中世全般に亘っており、今回の調査で検出した当該期の遺構の状況から、北トレンチの北東端に集落が形成され、それ以外の場所では耕作地が広がっていた状況が復元できる（図325）。

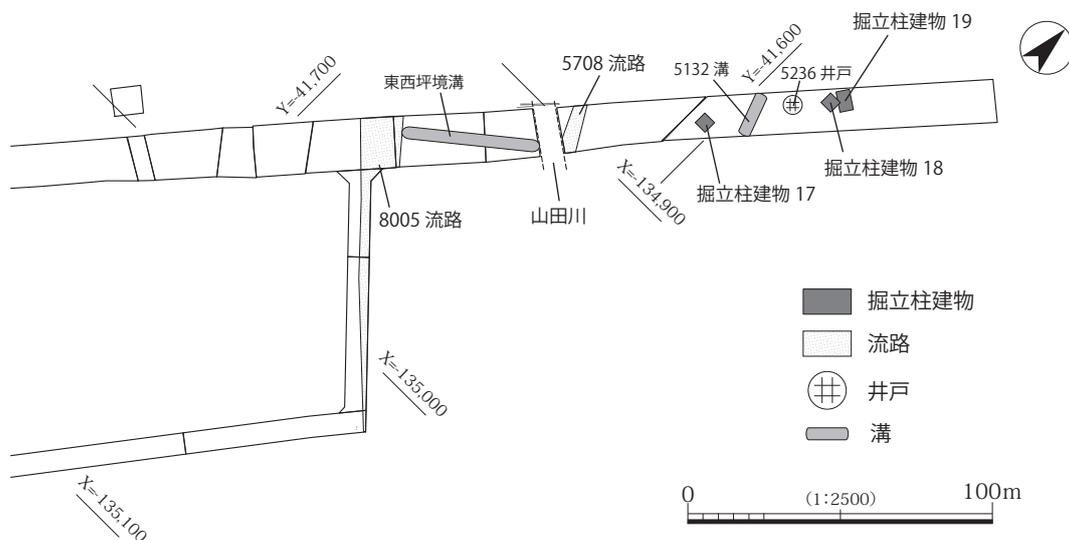


図 325 中世主要遺構配置図

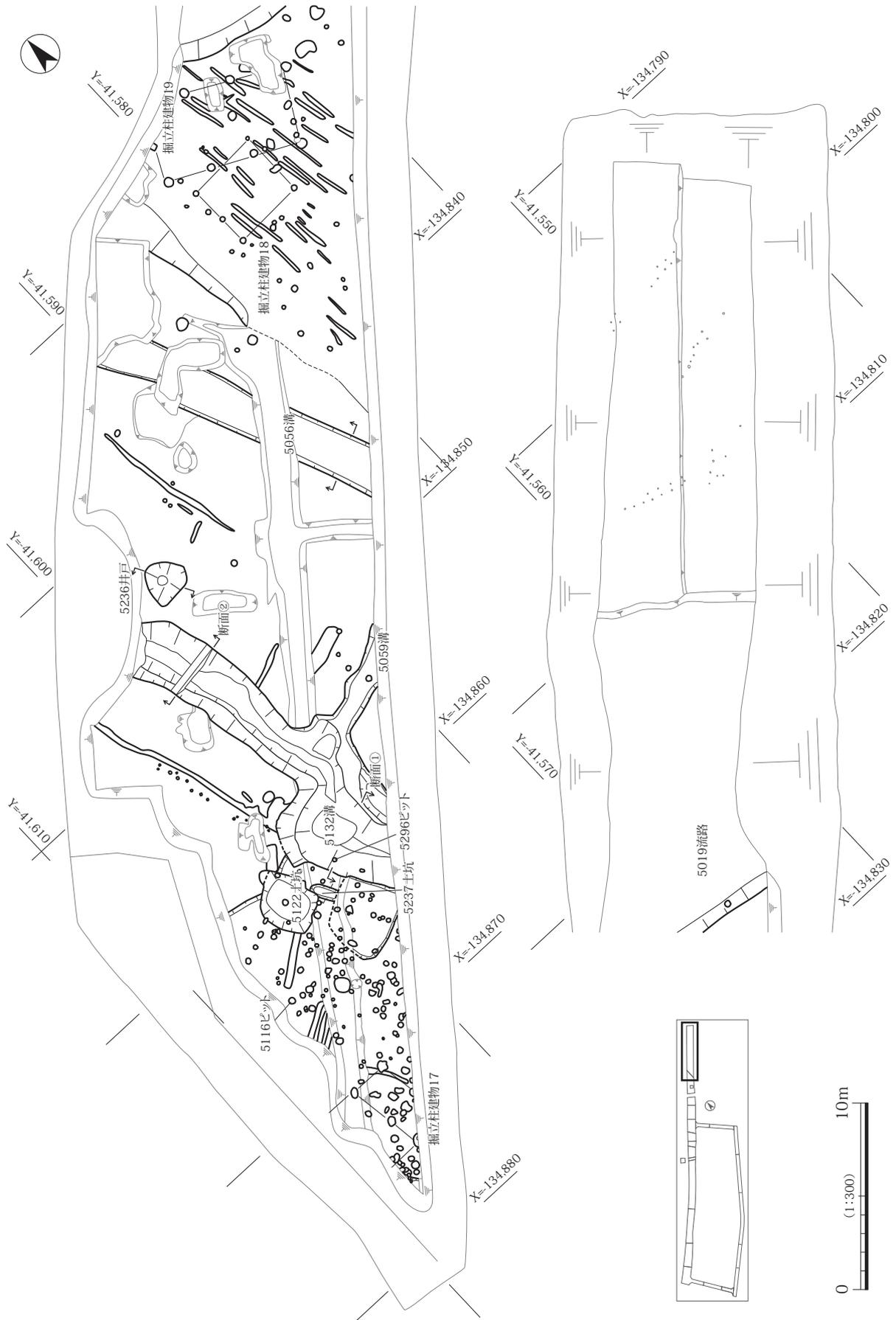


図 326 11-1:5-2 区 第 2 層除去面 平面図

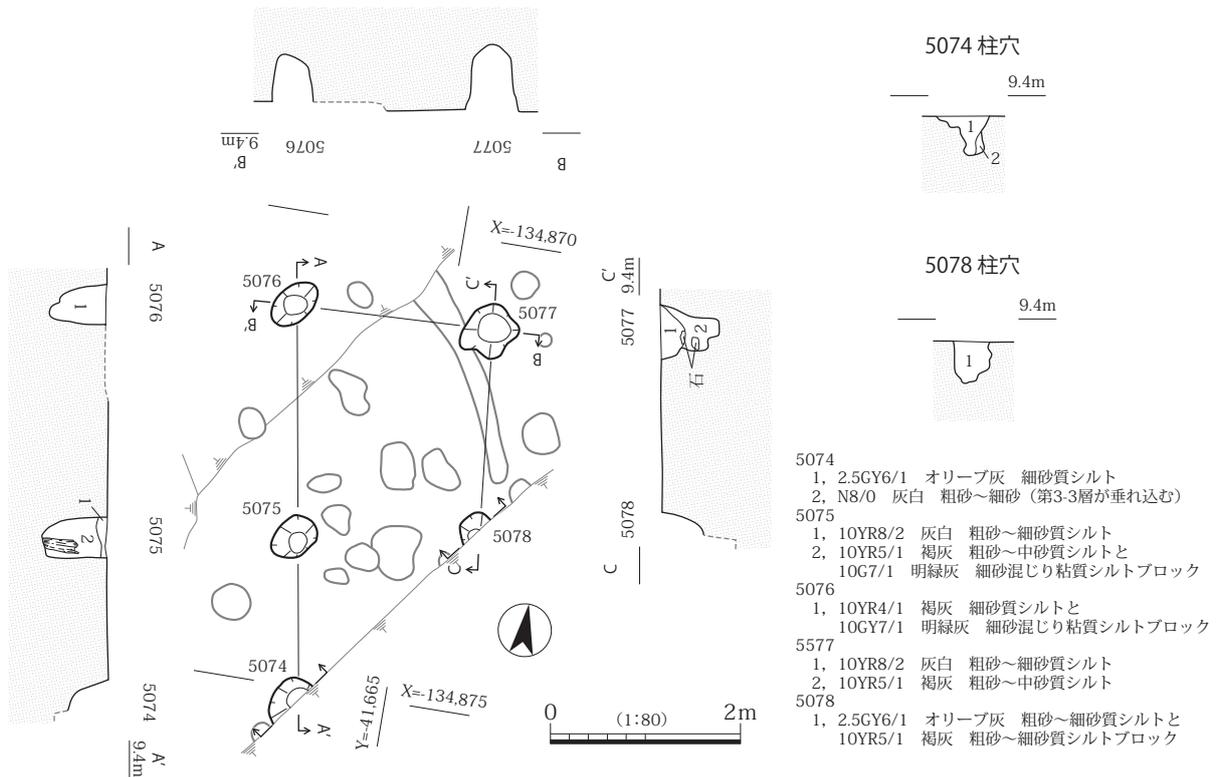


図 327 掘立柱建物 17 平面図・断面図

1. 掘立柱建物

掘立柱建物 17 (図 325・326・327・328、写真図版 123-1・191)

11-1:5-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-134,873、Y=-41,665 地点に位置する。掘立柱建物 18・19 の南西方約 50 m にある。構造は、西部が攪乱及び調査区外になるため、全容を確認できないが、5074・5075・5076・5077・5078 柱穴で構成される 1 間×2 間以上の柱配置をとる建物になると考えられる。柱配置から総柱建物の可能性がある。主軸の方向は不明であるが、5077 柱穴と 5078 柱穴の通りを軸線とすると、建物の軸は概ね N-4°-W である。

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められないものが多数を占めており明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、南北方向の 5077・5078 柱穴及び 5074・5076 柱穴間が 1.8～2.4 m、東西方向の 5076・5077 柱穴及び 5075・5078 柱穴間が 1.9～2.1 m を測る。

柱穴の掘方は平面不整円形であり、径 0.3～0.6 m、深さ 0.45～0.64 m を測る。

5074・5075・5077・5078 柱穴からは遺物が少量出土しているが図示し得なかった。そのうち、5075 柱穴からは柱根が出土している (1424)。ニレ科の材を使用したもので、底部に加工痕が明瞭に残る。掘立柱建物 17 の周辺からは、多くのピットが検出されており、建物を復元するには至っていないが、複数時期に亘る建替えがあったものと推定される。

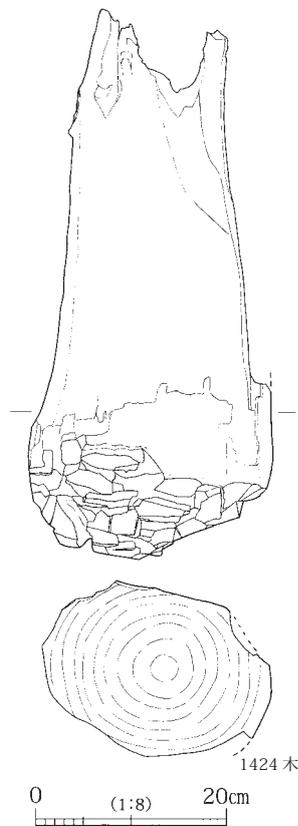


図 328 掘立柱建物 17 5075 柱穴 出土遺物

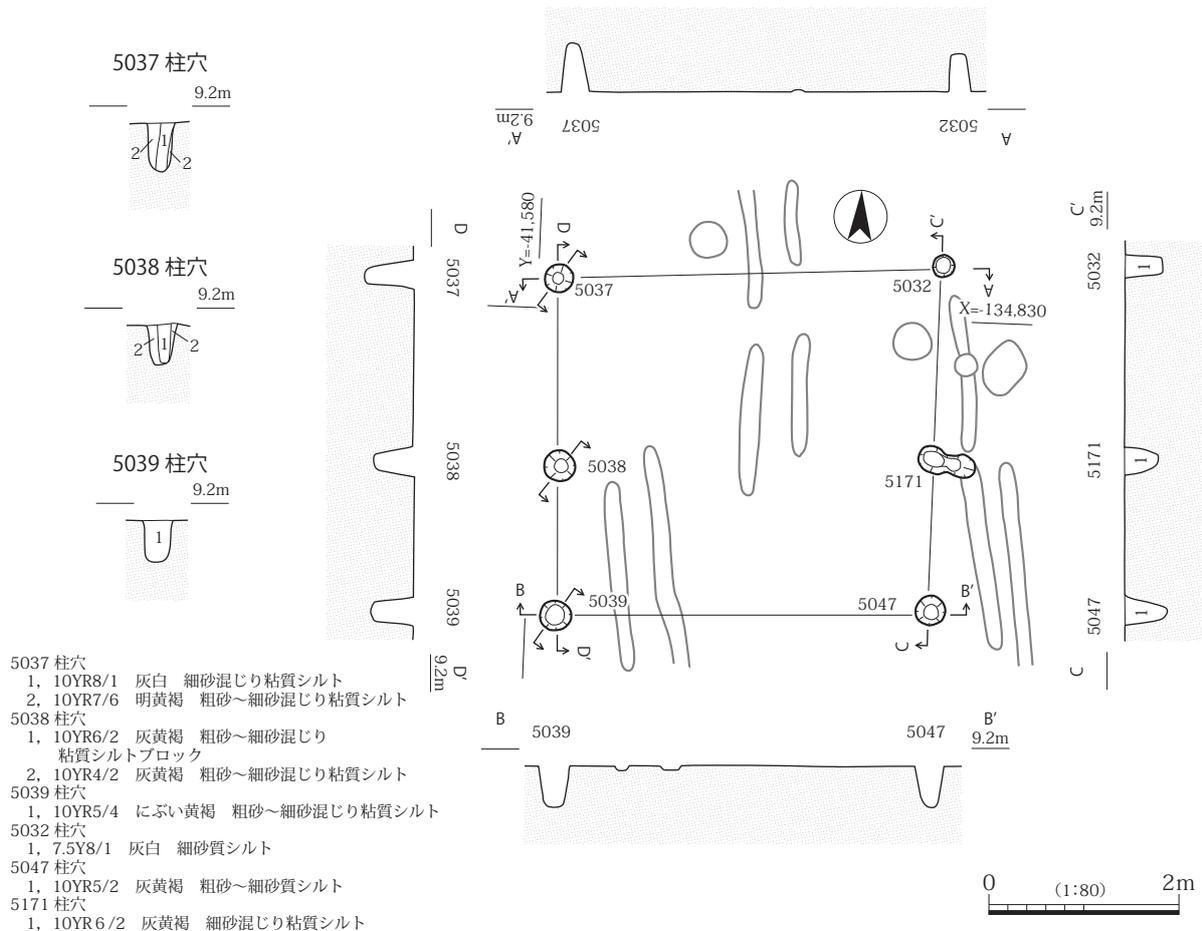


図 329 掘立柱建物 18 平面図・断面図

時期比定については、検出面から中世に属する可能性が高いと判断した。

掘立柱建物 18 (図 325・326・329、写真図版 123-2) 11-1:5-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-134,831、Y=-41,578 地点に位置する。前述の掘立柱建物 17 の北東方約 50 m にある。構造は、5032・5037・5038・5039・5047・5171 柱穴で構成される桁行 1 間、梁行 2 間の柱配置をとる長方形の建物である。短軸を N-3°-W におく。建物規模は 4.05 m×3.68 m を測り、面積は約 15 m² である。柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められないものが多数を占めており明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が 3.95～4.05 m、梁行側が 1.6～2.0 m を測る。

柱穴の掘方は基本的に平面円形であり、径 0.2～0.3 m、深さ 0.45～0.5 m を測る。

5032・5037・5039 柱穴からは遺物が少量出土しているが図示し得ず、詳細時期を特定できる遺物はない。時期比定については、検出面から中世に属する可能性が高いと判断した。当該建物は概ね正方位を指向し、掘立柱建物 17 と軸を一にすることから、同時期に造営されたものの可能性がある。

掘立柱建物 19 (図 325・326・330、写真図版 123-2・123-3) 11-1:5-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-134,828、Y=-41,576 地点に位置する。前述の掘立柱建物 18 と重複する建物である。構造は、一部調査区外になるが 5020・5021・5022・5025・5026・5027・5028・5172・5173 柱穴で構成される桁行 3 間、梁行 2 間の柱配置をとる長方形の建物である。短軸を N-25°-E におく。建物規模は 7.4 m×4.8 m を測り、面積は約 35.5 m² である。

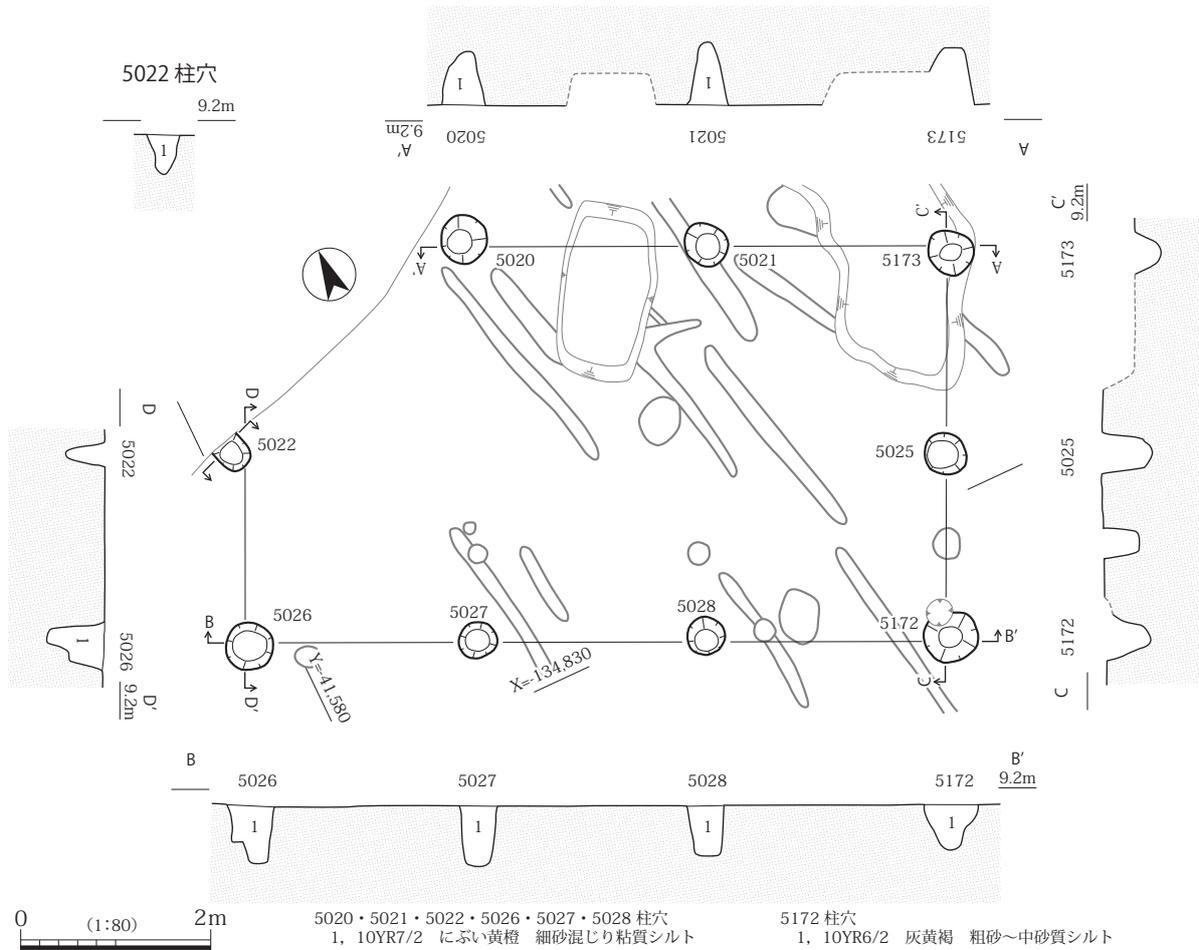


図 330 掘立柱建物 19 平面図・断面図

柱間寸法は、柱根及び柱痕跡が認められなかったため明確にはできないが、柱穴の中心間の距離においては、桁行側が 2.4～2.6 m、梁行側が 2.0～2.15 mを測る。

柱穴の掘方は基本的に平面円形であり、径 0.3～0.6 m、深さ 0.45～0.6 mを測る。いずれの柱穴にも柱根及び柱痕跡は認められず、抜き取り後に埋め戻されたものと考えられる。

5020・5027・5173 柱穴からは遺物が少量出土しているが図示し得ず、詳細時期を特定できる遺物はない。時期比定については、検出面から中世に属する可能性が高いと判断した。なお、掘立柱建物 18 とは直接的な切り合い関係がなく、前後関係を明らかにし得ない。

2. 井戸

5236 井戸 (図 325・326・331・332、写真図版 180) 11-1:5-2 区において第 3 層を除去した面で検出した。本来は第 2 層を除去した面で検出される遺構であった可能性がある。X=-134,844、Y=-41,595 地点に位置する。長径 2.4 m、短径 2.2 mを測る平面円形の掘方の中央部に、桶を使用した井戸杵をもつ。掘方の断面形は方形で、深さ 0.87 mを測る。埋土中から、瓦質の井戸杵 (1425) 等が出土している。なお、近接する明和池遺跡 11-2 調査の 1 区検出 2 井戸において、同様の瓦質の井戸杵が積み重なって検出されており、そこからもたらされた遺物の可能性も考えられる。

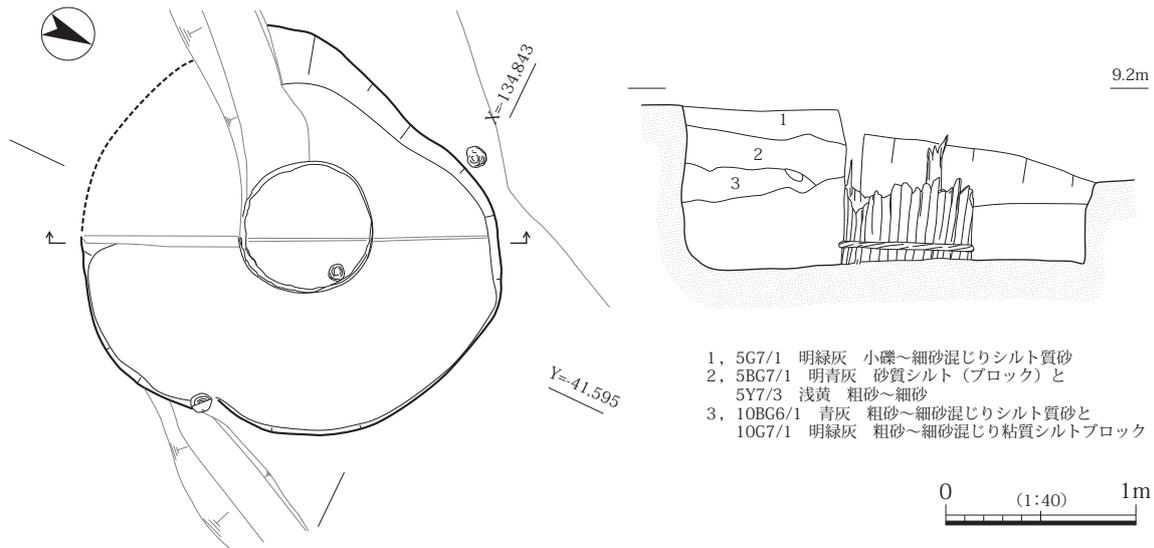


図 331 5236 井戸 平面図・断面図

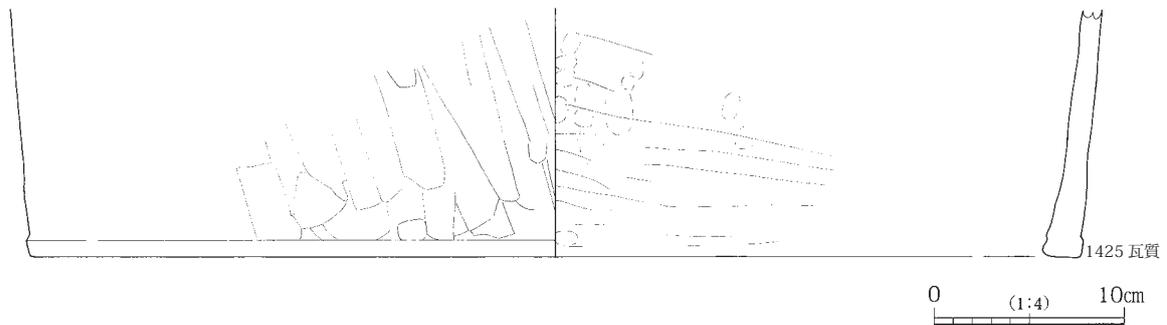


図 332 5236 井戸 出土遺物

3. 土坑

6055 土坑（図 333・334） 12-1:6-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-135, 249、Y=-41, 868 地点に位置する。規模は長辺 1.6 m、短辺 1.4 m を測り、平面隅丸方形を成す。断面形は楕形で、深さ 0.38 m を測る。埋土中から、土師器皿（1426）等が出土している。

7001 土坑（図 333・334・346、写真図版 180） 11-1:7 区において第 3-1 層を除去した面で検出した。X=-135, 054、Y=-41, 648 地点に位置する。検出した部分の規模は長径 1.75 m、短径 1.6 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は隅丸逆台形で、深さ 0.42 m を測る。埋土中から、青磁碗口縁部（1427）等が出土している。

8002 土坑（図 344） 11-1:8-1 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-134, 990、Y=-41, 645 地点に位置する。規模は長径 7.9 m、短径 5.1 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は楕形で、深さ 1.2 m を測る。埋土はブロック土を主体とする。

4127 土坑（図 333・334・337、写真図版 180） 12-1:4-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-134, 940、Y=-41, 661 地点に位置する。検出した部分の規模は長径 4.1 m、短径 3.2 m を測り、平面楕円形を成す。断面形は皿形で、深さ 0.17 m を測る。埋土中から、青磁碗（1428）が出土した。

5706 土坑（図 333・334・340、写真図版 180） 11-1:5-3 区において第 3 層を除去した面で検出した。

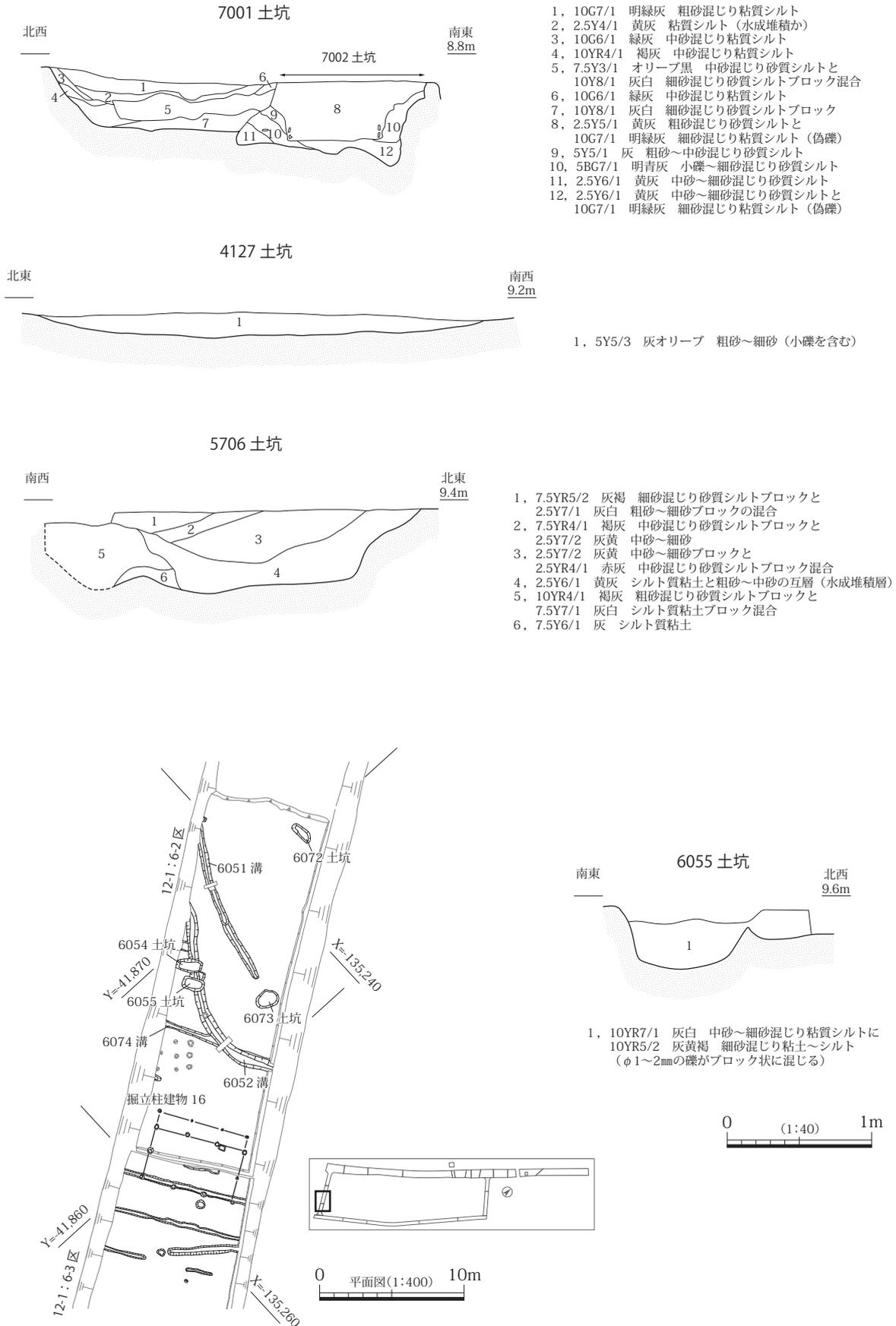


図 333 土坑 平面図・断面図



図 334 土坑 出土遺物

X=-134,891、Y=-41,635.5 地点に位置する。検出した部分の規模は長辺 2.0 m、短辺 1.8 m を測り、平面隅丸方形を成す。断面形は隅丸逆台形で、深さ 0.56 m を測る。埋土中から、青磁碗（1429）が出土した。

5237 土坑（図 326） 11-1:5-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-134,862、Y=-41600.5 地点に位置する。検出した部分の規模は長径 1.5 m、短径 0.65 m を測り、平面長方形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.45 m を測る。埋土は灰白色粗～細砂混じり粘質シルトを主体とする。

4. ピット

3183 ピット（図 335・336、写真図版 185） 11-1:3-8 区において第 3-1 層を除去した面で検出した。X=-135,000.5、Y=-41,725.5 地点に位置する。規模は長径 0.55 m、短径 0.3 m を測り、平面円形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.15 m を測る。埋土中から、皇宋通寶（1430）と元豊通寶（1431）が重なって出土した。

5719 ピット（図 335・336・340） 11-1:5-3 区において第 3 層を除去した面で検出した。X=-134,891、Y=-41,620 地点に位置する。規模は長径 0.5 m、短径 0.3 m を測り、平面円形を成す。断面形は椀形で、深さ 0.2 m を測る。埋土中の底から石材（1432）が出土した。根石に転用されたものと推定される。

5737 ピット（図 335・336・340） 11-1:5-3 区において第 3 層を除去した面で検出した。X=-134,884、Y=-41,625.5 地点に位置する。規模は径 0.25 m を測り、平面円形を成す。断面形は皿形で、深さ 0.08 m を測る。埋土中から、砥石かと思われる石材（1433）が出土した。

5116 ピット（図 326・335・336） 11-1:5-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。X=-134,865、Y=-41,606 地点に位置する。規模は径 0.3 m を測り、平面円形を成す。断面形は U 字形で、深さ 0.39 m を測る。埋土中から、土師器小皿（1434）が出土した。

5296 ピット（図 326・335・336、写真図版 191） 11-1:5-2 区において第 3 層を除去した面で検出した。本来は第 2 層を除去した面で検出される遺構であった可能性が高い。X=-134,861、Y=-41,599 地点に位置する。規模は径 0.2 m を測り、平面円形を成す。断面形は U 字形で、深さ 0.23 m を測る。埋土中から、松杭（1435）が出土した。

5. 溝

D0112 溝（図 338・346、写真図版 124-1） 10-1:4-4 区において第 3 層を除去した面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西－南東方向を指向する直線的な溝である。検出した部分の規模は幅 0.95～1.25 m、検出長約 8.1 m を測る。断面形は椀形で深さ 0.45 m を測る。北東側が一段深くなる形状を成す。軸を N-34°-W に持ち、条里型水田の地割に則った溝と考えられる。11-1:3-7 区において検出した 3125 溝と同一の溝である可能性が高い。

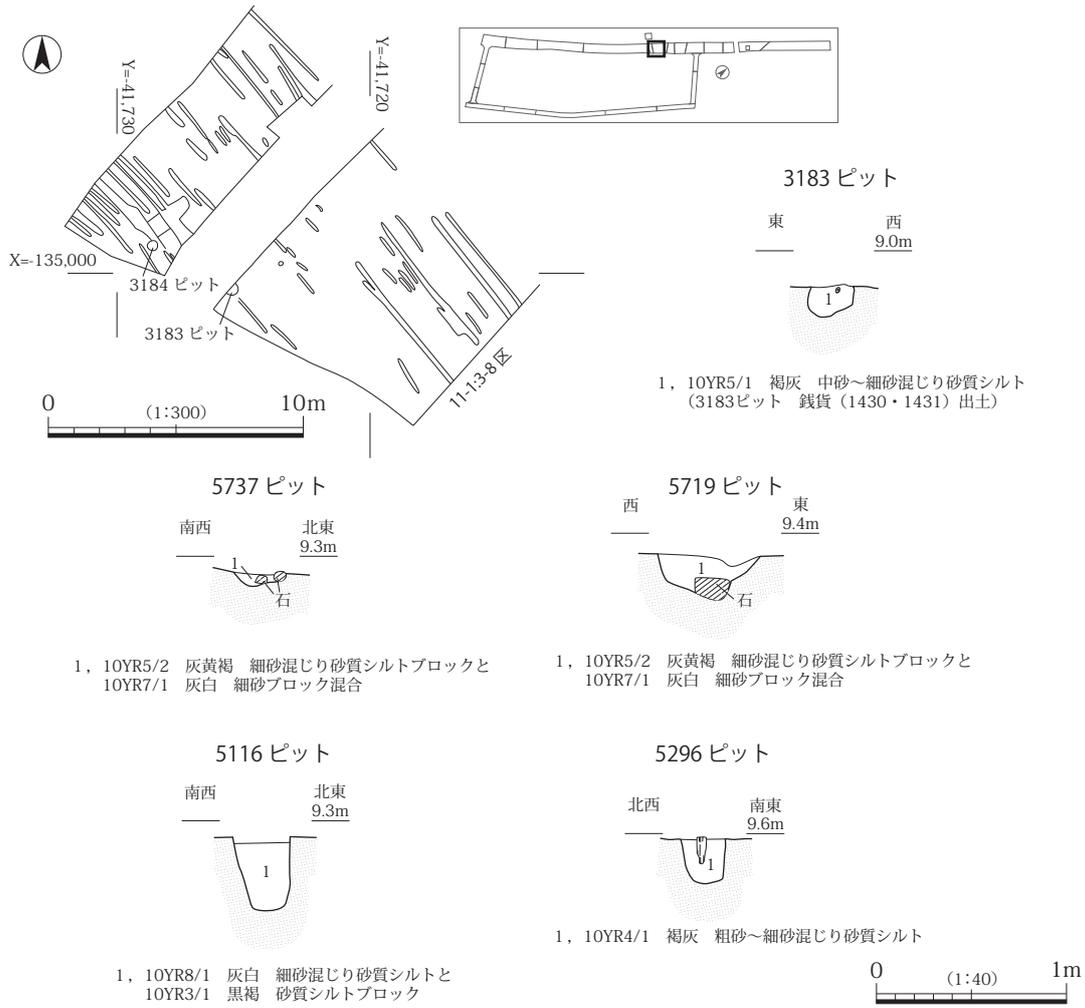


図 335 ピット 平面図・断面図

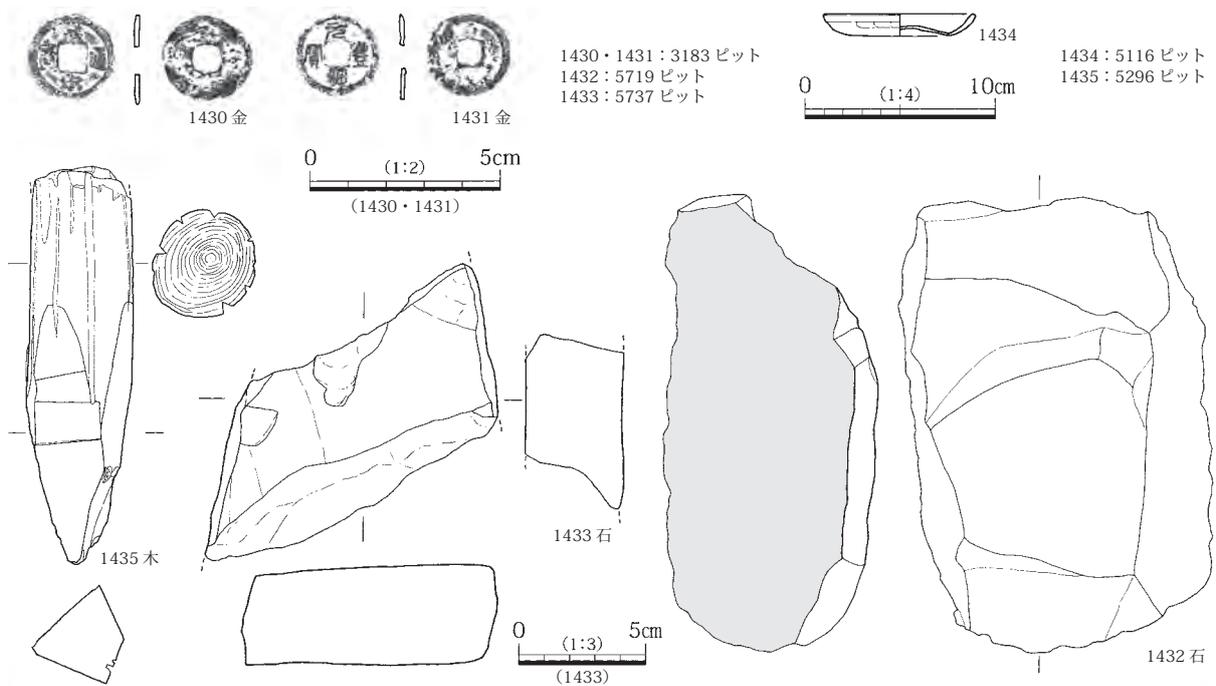


図 336 ピット 出土遺物

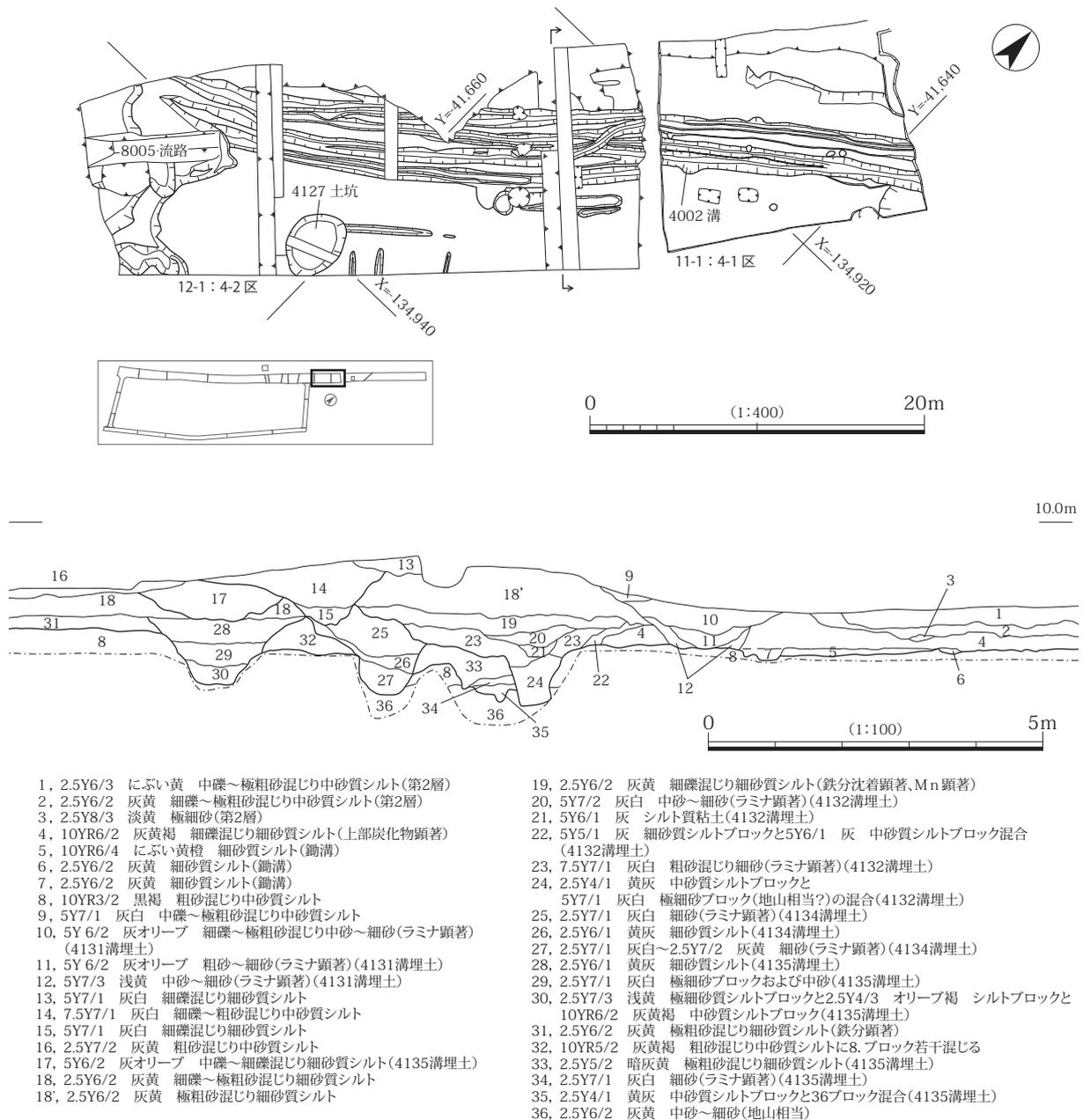


図 337 東西坪境溝群 平面図・断面図

D0113 溝 (図 338・346、写真図版 124-1) 10-1:4-4 区において第3層を除去した面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.35～0.6 m、検出長約 7.9 m を測る。断面形は皿形で深さ 0.04 m を測る。溝の幅は狭いが概ね D0112 溝と平行し、条里型水田の地割に則った溝の可能性が高い。

7014 溝 (図 346) 11-1:7 区において第3-3層を除去した面で検出した。北東部が攪乱になるため全容は明らかでないが、北東-南西方向を指向する。検出した部分の規模は幅 0.4～1.0 m、検出長約 19 m を測る。断面形は碗形で深さ 0.2 m を測る。軸を N-58°-E に持ち、条里型水田の地割に則った溝と考えられ、西端部は北西-南東方向を指向する 7028 溝と接合する。

3125 溝 (図 304、写真図版 124-2) 11-1:3-7 区において第3層を除去した面で検出した。両端部が調

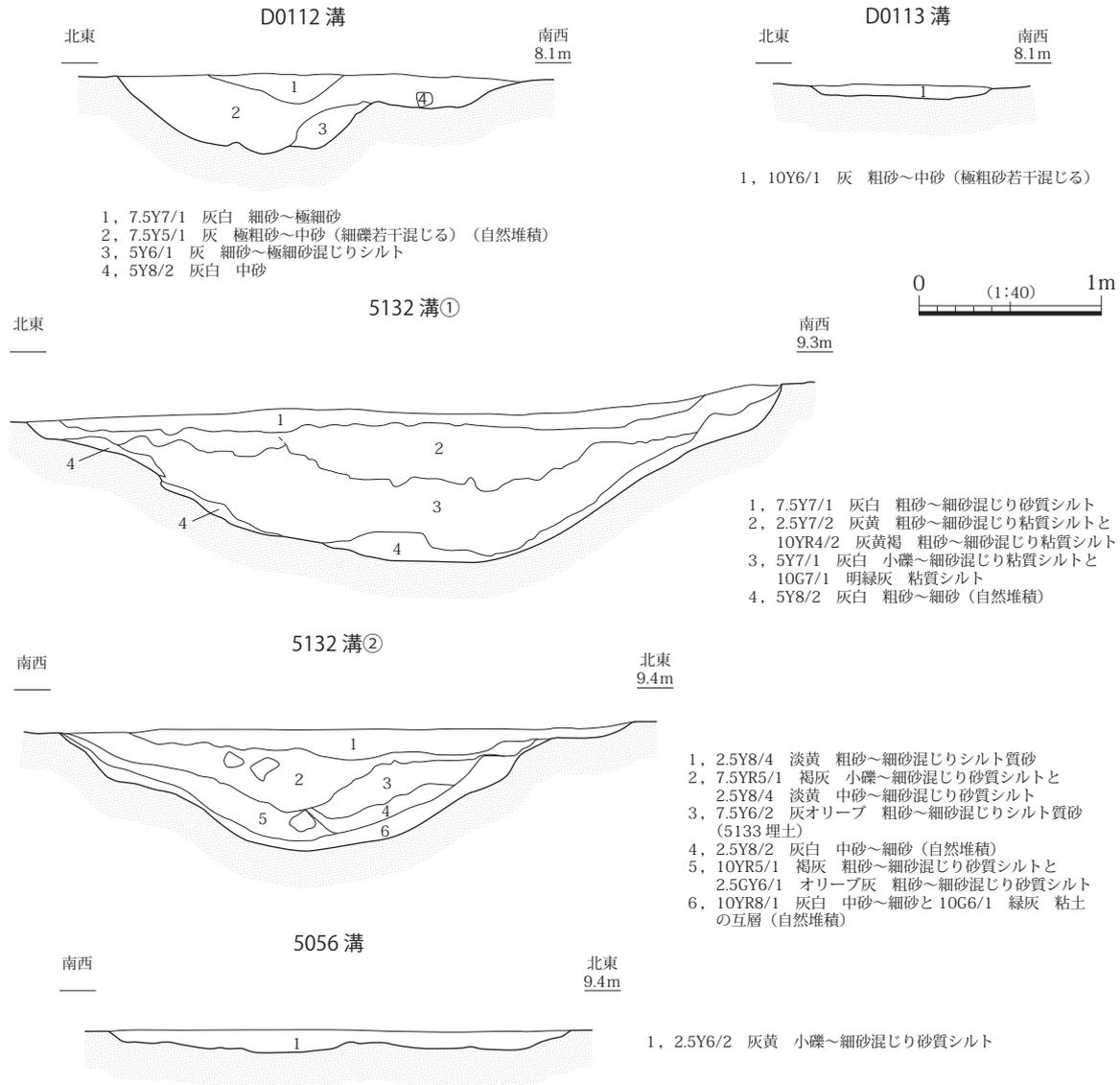


図 338 5056・5132・D0112・D0113 溝 断面図

査区外になるため全容は明らかでないが北西－南東方向を指向する直線的な溝である。検出した部分の規模は幅 1.1～1.5 m、検出長約 14.2 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.28 mを測る。軸を N－35°－Wに持ち、条里型水田の地割に則った溝と考えられる。

3127 溝 (図 304、写真図版 124-2) 11-1:3-7 区において第 3 層を除去した面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西－南東方向を指向する直線的な溝である。検出した部分の規模は幅 0.35～0.55 m、検出長約 14.8 mを測る。断面形は椀形で深さ 0.26 mを測る。幅は狭いが上述の 3125 溝と平行し、条里型水田の地割に則った溝と考えられる。平行して検出された 3125・3127 溝のあり方と D0112・D0113 溝のあり方は極めてよく似ており、それぞれが同一の溝である可能性が高い。

東西坪境溝群 (図 337、写真図版 124-3) 11-1:4-1・12-1:4-2 区において第 2 層を除去した面で検出した。北東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北東－南西方向を指向する。平面的に各溝を検出していくのは困難を極めたことから、第 2 層を除去した面において一括で検出した。断面の検討から、少しずつ場所を違えながら少なくとも 7 条の溝があったことが判明した。1 つの溝の幅は概ね 2

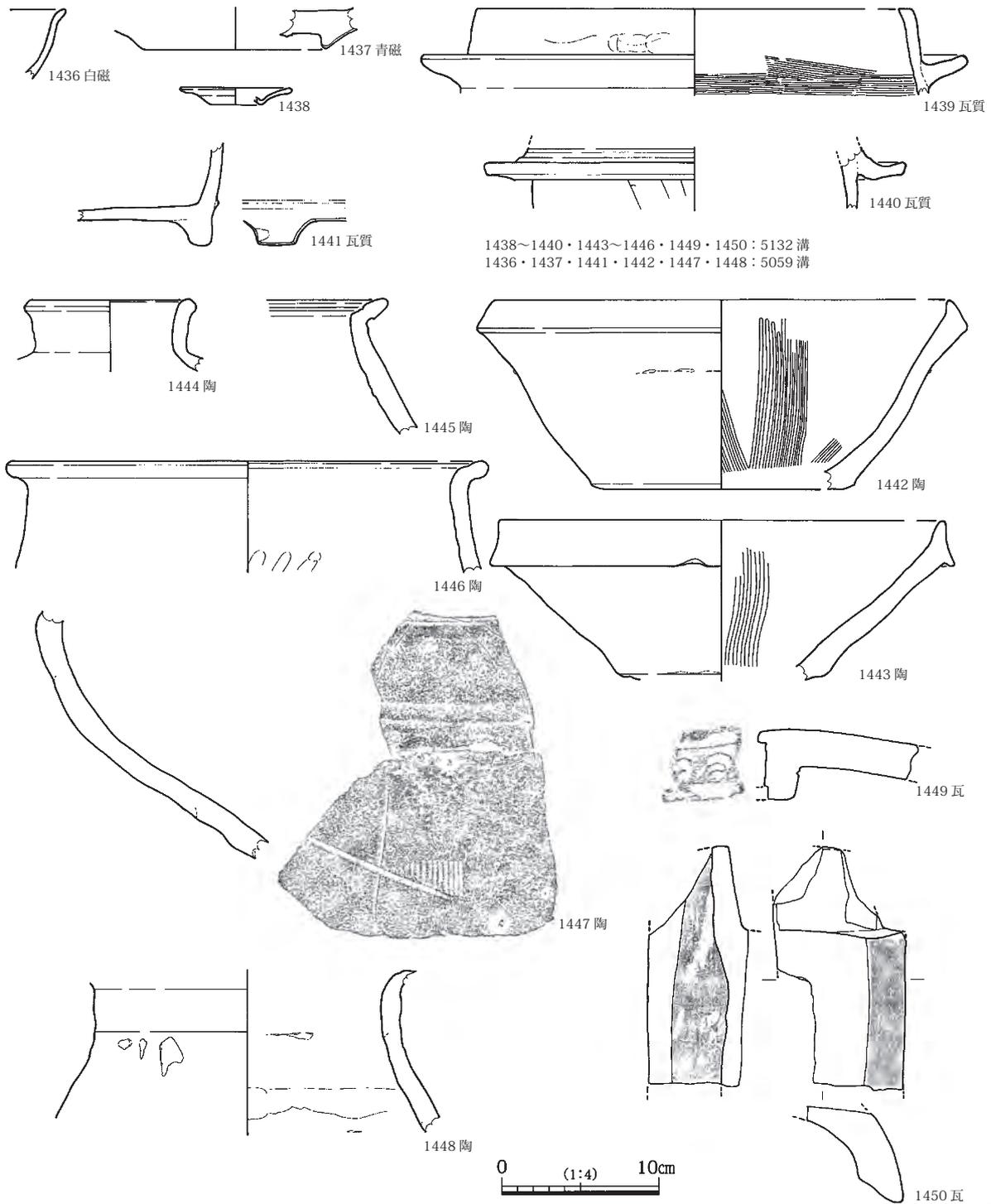


図 339 5132・5059 溝 出土遺物

m前後になるものと考えられる。検出長は約 45 mを測る。断面形は概ね椀形で深さは判明するもので 1 m前後を測る。

当溝群は 8005 流路に接続するように見えるが、その関係は切り合い等によって直接的には確認できていない。溝底の標高を見ると緩やかに南西に低くなっていることから、北東から南西への流水が想定される。当溝群の時期を示すような遺物が出土していないため帰属時期は不詳であるが、8005 流路と

の関係が想定されれば13世紀頃までの溝となろうか。

なお、当溝群は軸を概ねN-50°-Eに持ち、『吹田操車場遺跡Ⅶ』（大文セ調査報告書第220集）において検討された復元条里図を当てはめてみると、北東-南西方向の坪境に合致することから、当該溝群は坪境溝に相当すると判断する（図366）。

5132・5059 溝（図325・326・338・339、写真図版125-2・125-3・180・185） 11-1:5-2区において第2層を除去した面で検出した。5132溝は、両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北北西-南南東方向を指向する。X=-135,857、Y=-41,598地点で屈曲する。検出した部分の規模は幅2.3～6.7m、検出長約15.7mを測る。断面形は楕形で深さ0.9mを測る。埋土中から、土師器小皿（1438）、瓦質土器羽釜（1439・1440）、陶器播鉢（1443）・壺（1444）・甕（1445・1446）、軒平瓦（1449）、丸瓦（1450）等が出土している。5059溝は東部が調査区外になるため全容は明らかでないが、西部は5132溝と接合する。西北西-東南東を指向しており、5132溝に直交する溝である。検出した部分の規模は幅1.2～1.4m、検出長約5mを測る。埋土中から、白磁碗（1436）、青磁盤（1437）、瓦質土器深鉢（1441）、陶器播鉢（1442）・甕（1447・1448）等が出土している。出土遺物は14～17世紀の所産になるものと考えられ、当溝は遅くとも17世紀には埋没していたものと判断する。

なお、5132溝は軸を概ねN-10°-Wに持ち、条里型水田の地割とは異なるものであるかのように見えるが、『吹田操車場遺跡Ⅶ』（大文セ調査報告書第220集）において検討された復元条里図を当てはめてみると、見事に北西-南東方向の坪境に合致する（図366）。当該溝は坪境溝になる可能性が高いものと判断する。

5056 溝（図326・338、写真図版125-1） 11-1:5-2区において第2層を除去した面で検出した。両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。5132溝の北東方約15mで検出し、概ね平行する。検出した部分の規模は幅1.9～2.5m、検出長約15.2mを測る。断面形は皿形で深さ0.12mを測る。

6. 落込み

5746 落込み（図340・341・342、写真図版126-1・191） 11-1:5-3区において第3層を除去した面で検出した。X=-134,895、Y=-41,621地点に位置する。南東部が調査区外になるため全容は明らかでない。検出した部分の規模は長辺13.3m、短辺4.2mを測り、平面隅丸方形を成す。断面形は皿形で深さ0.7mを測る。埋土中から、白磁碗（1451）、土師器竈片（1452）、瓦質土器羽釜（1453）・風炉か（1454）、漆器椀（1455）、下駄（1456）等が出土している。

出土遺物から15～16世紀頃に属する遺構と判断する。

7. 流路

8005 流路（図344・345、写真図版126-3・180・185・189・191） 11-1:3-3区・11-1:7区・11-1:8-1区・11-1:8-2区・12-1:4-2区において検出した当該期に属する流路を8005流路という遺構番号に統一して報告する。今回の調査では調査区ごとに遺構番号を付しているため、複数の調査区に跨って検出された遺構については異なる遺構名が付されることとなった。それは11-1:3-3区（3076流路）、11-1:7区（7010流路）、11-1:8-1区（8005流路）、11-1:8-2区（8035流路）、12-1:4-2区（4128流路）として遺物ラベルに記載されている。基本的には調査時の遺構名をそのままにする方針で整理作業を行ったので、ここ

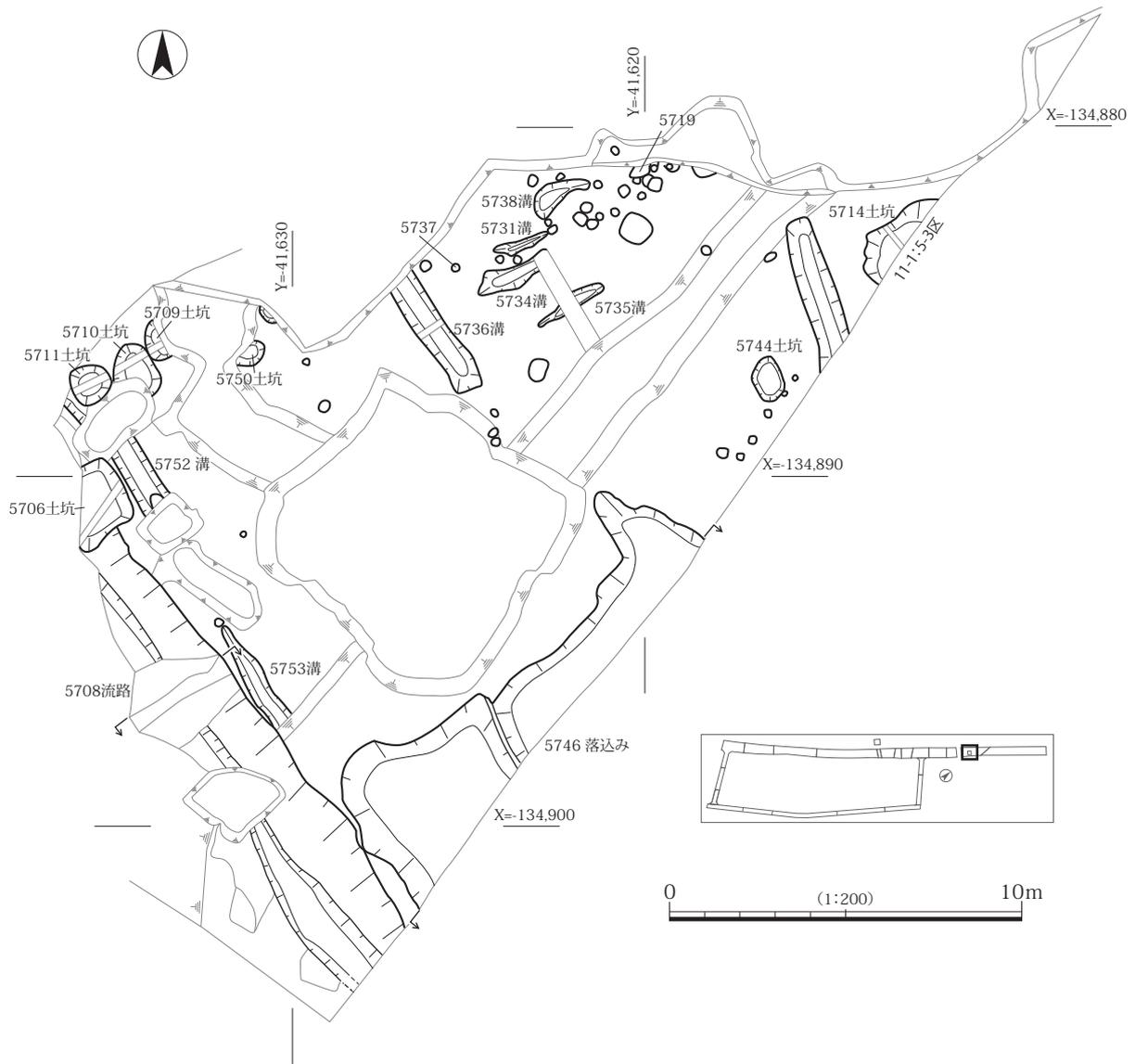


图 340 11-1:5-3 区 第3層除去面 平面図

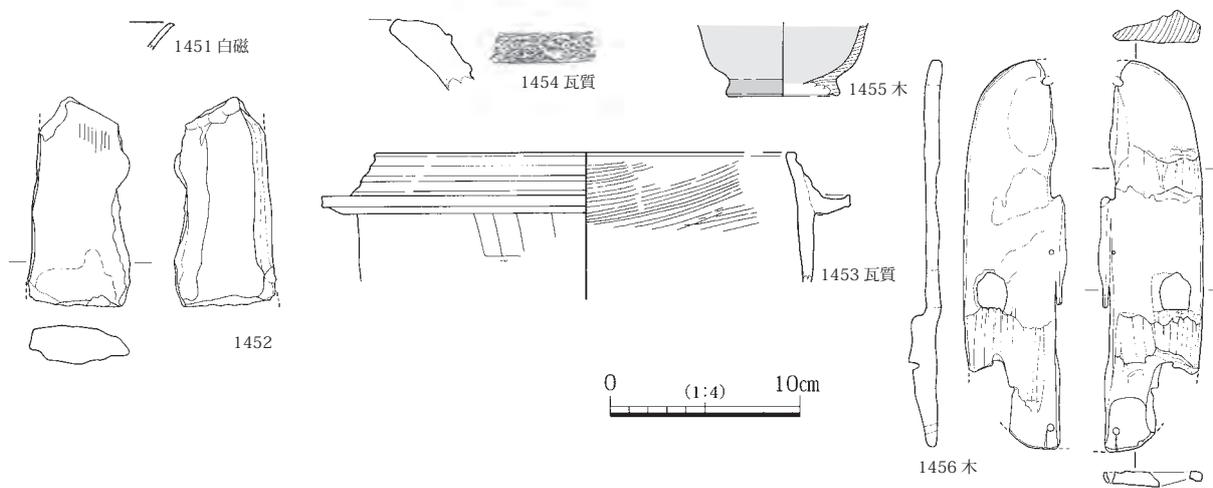


图 341 5746 落込み 出土遺物

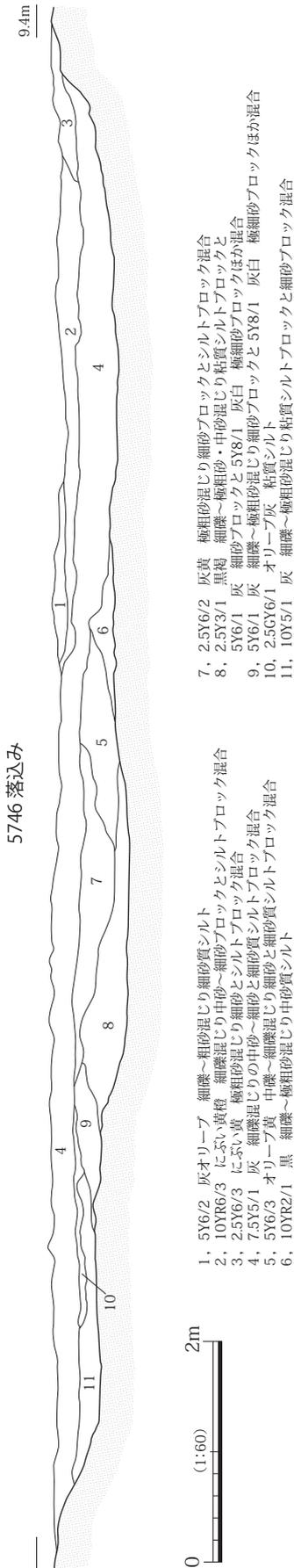


図 342 5746 落込み 断面図

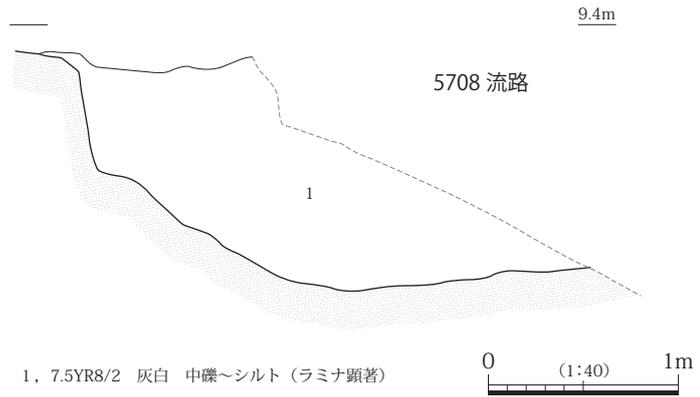


図 343 5708 流路 断面図

に付記し、付表の遺物観察表においても本来の遺構名がわかるようにした。

11-1:3-3 区では第2層を除去した面、11-1:7 区では第3-3層を除去した面、11-1:8-1 区では第2層を除去した面、11-1:8-2 区では第3-1層を除去した面、12-1:4-2 区では第2層を除去した面において検出した。大部分が調査区外になるため全容は明らかでないが、北西-南東方向を指向する。検出した部分の規模は、判明する場所で幅 10~12 m、深さ約 1.7 mを測り、検出長約 100 mである。断面形は椀形で、埋土は礫~シルトを主体とし、所々に木葉など植物遺体の溜まりが形成されていた。地形を考慮すれば、北西から南東方向へ流水があったと考えられる。なお、調査区によって異なる堆積層の下面で検出しているが、攪乱や調査担当者の認識の違い等から同一層の把握が極めて困難であった。課題として残ったが今後の調査に委ねたい。

埋土中からは、瓦器椀 (1457・1458)、砥石 (1459)、銭貨 (1460)、曲物 (1461) 等が出土している。当該流路は調査区外になる部分が多く、厳密には判断しがたいが、出土した遺物から 13 世紀頃には埋没していた可能性が高い。

5708 流路 (図 340・343・345、写真図版 126-2・181) 11-1:5-3 区において第3層を除去した面で検出した。攪乱及び両端部が調査区外になるため全容は明らかでないが、検出長約 15 mで北西-南東方向を指向する。断面椀形で、深さ約 1.2 mを測る。地形を考慮すれば、北西から南東方向へ流水があったと考えられる。

埋土中からは、青磁碗 (1462・1463)、白磁四耳壺底部 (1464)、土師器小皿 (1465)・羽釜 (1466・1467)、陶器播鉢 (1468) 等が出土している。出土遺物から遅くとも 16 世紀頃には埋没していた可能性が高い。当該流路は、前述の 8005 流路とは異なる時期の

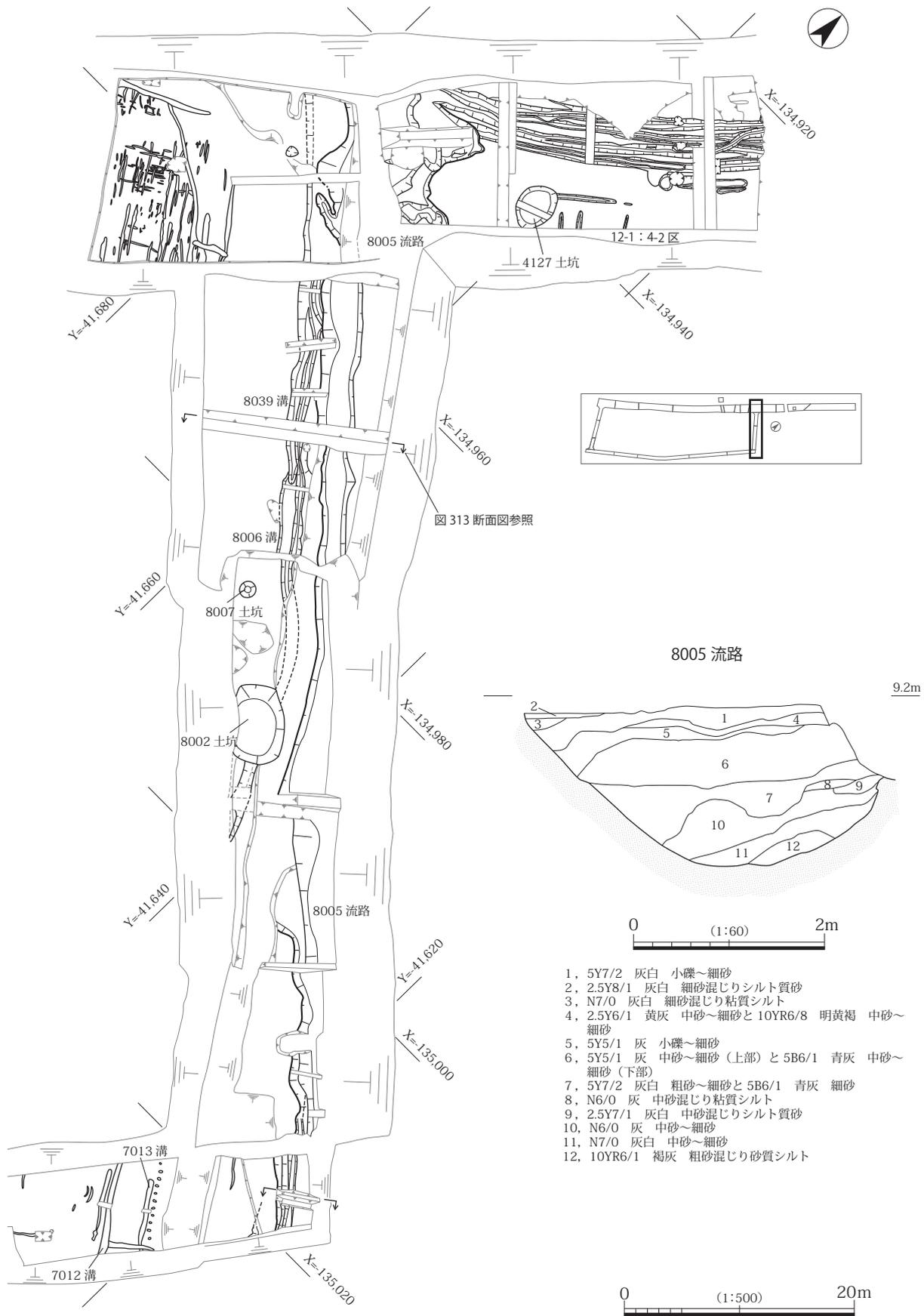


図 344 8005 流路 平面図・断面図

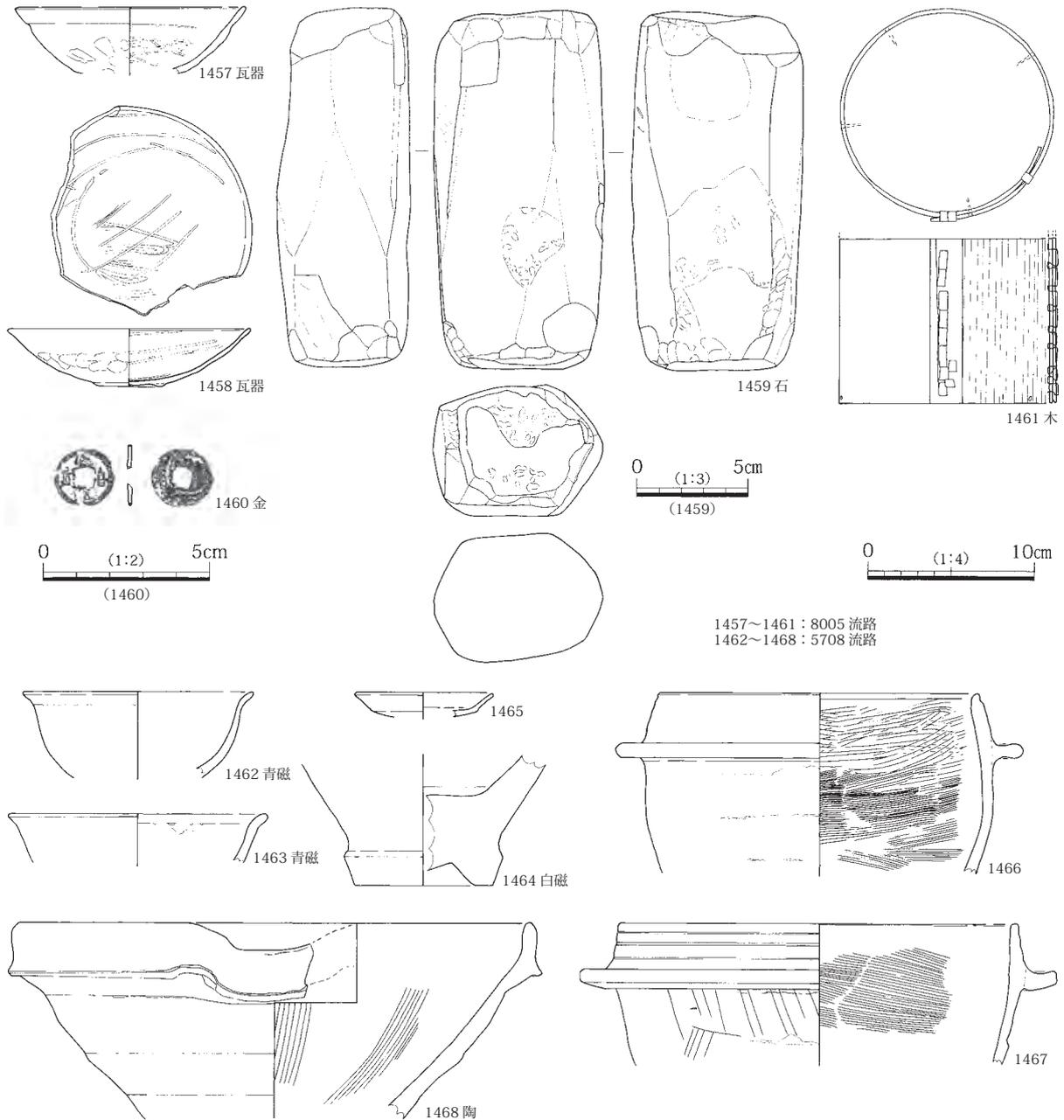


図 345 8005・5708 流路 出土遺物

流路であり、周辺状況を勘案すれば、8005 流路埋没後に形成された流路である可能性が高い。

8. 鋤溝

各調査区において、第2層及び第3層を除去した面で鋤溝を検出した（図 346）。いずれも概ねN-33°-W及びそれに直交する方向に軸を持ち、条里型水田の地割に則ったものと判断する。

9. 包含層その他出土遺物（図 347、写真図版 176・181・185）

包含層や後世の遺構等から出土した当該期の遺物をまとめて報告する。なお、遺物出土状況の特徴などから当該期の遺跡の様子を抽出できるかと考え、図化し得た遺物について掲載し、概ね西から順に調

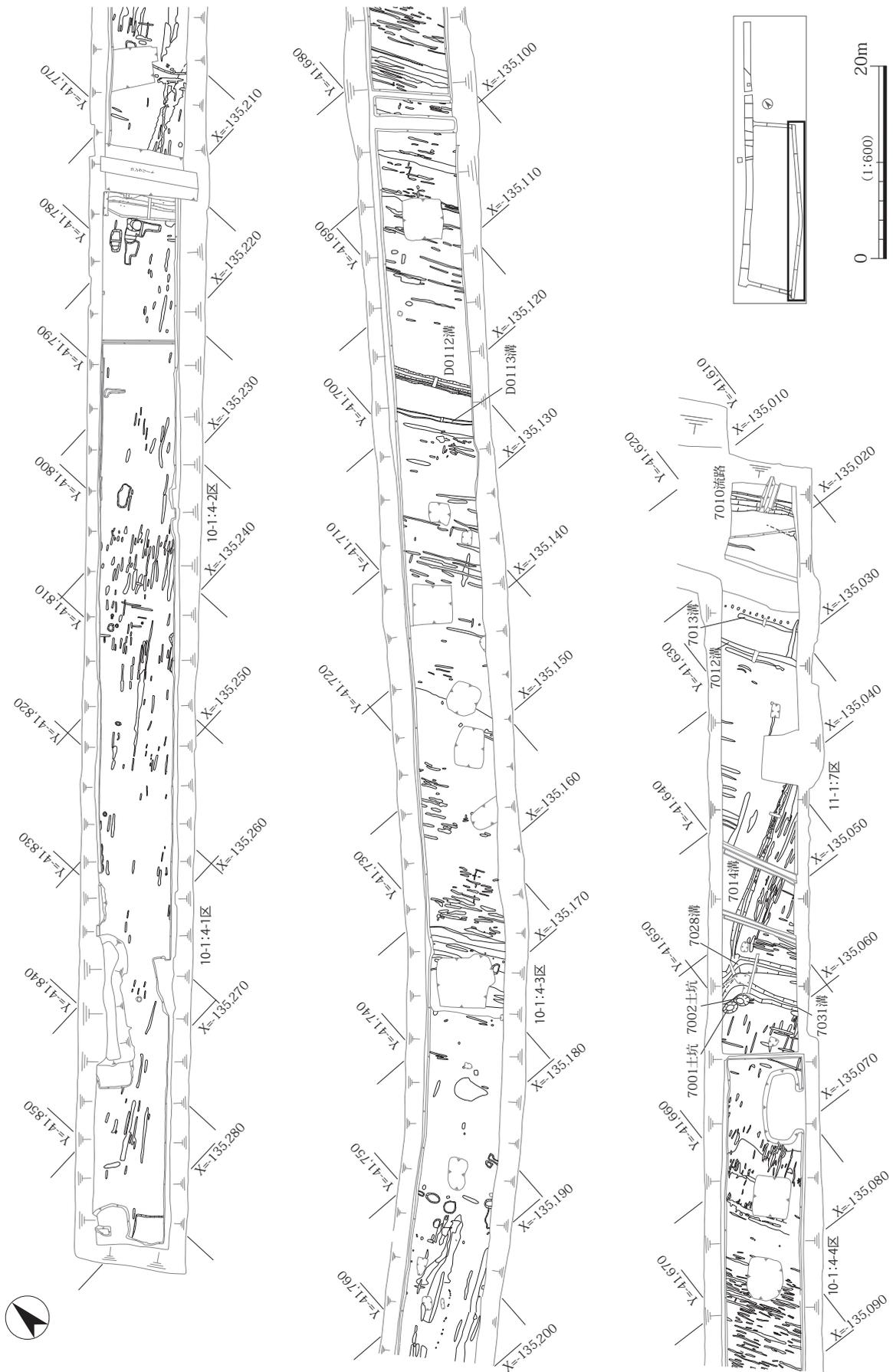


图 346 鋤溝 平面图

査区ごとに報告する。

1469 は 11-1:6-1 区出土遺物。白磁碗（1469）等が出土している。

1470 は 11-1:7 区出土遺物。青磁皿（1470）等が出土している。

1471・1472 は 11-1:3-5 区出土遺物。白磁皿（1471）、瓦質土器火鉢片（1472）等が出土している。

1473～1477 は 11-1:3-7 区出土遺物。白磁碗片（1473）、青磁鉢片（1474）・碗片（1475）・盤片（1476）、陶器卸皿片（1477）等が出土している。

1478 は 11-1:3-2 区出土遺物。瓦器碗（1478）等が出土している。

1479～1486 は 11-1:3-8 区出土遺物。白磁皿底部（1479・1480）・碗片（1481・1482）、青磁皿片（1483）・碗片（1484・1485）、不明金属製品（1486）等が出土している。

1487～1489 は 11-1:3-4 区出土遺物。白磁碗底部（1487・1488）、陶器鉢（1489）等が出土している。

1490 は 12-1:3-9 区出土遺物。青磁碗片（1490）等が出土している。

1491 は 11-1:8-1 区出土遺物。土師器小皿（1491）等が出土している。

1492 は 11-1:8-2 区出土遺物。青磁碗（1492）等が出土している。

1493～1496 は 12-1:4-2 区出土遺物。白磁碗（1493）、瓦器碗（1494）、瓦質土器浅鉢（1495）・土管（1496）等が出土している。

1497 は 11-1:4-1 区出土遺物。白磁皿底部（1497）等が出土している。

1498 は 11-1:5-1 区出土遺物。土師器皿（1498）等が出土している。

1499～1505 は 11-1:5-3 区出土遺物。白磁碗片（1499・1500）、青磁碗（1501～1504）、不明金属製品（1505）等が出土している。

1506～1513 は 11-1:5-2 区出土遺物。青磁碗（1506・1507）、土師器皿（1508）、瓦器碗（1509・1510）、瓦質土器羽釜（1511）、鞆羽口（1512）、鉢滓（1513）等が出土している。

第6節 小結

明和池遺跡の調査では、弥生時代以降中世に至るまで、ほぼ同じ場所で連綿と集落が営まれている状況が確認された。

〔弥生時代以前〕 弥生時代後期に、現山田川周辺の調査区北東部分に集落が営まれている状況が明らかとなった。それまで知られなかった弥生時代の集落を確認したことは大きな成果である。また、遺構は伴わないが縄文土器や弥生時代前期・中期所産の土器が出土していることから、付近にそれらの時期の集落が存在する可能性も考えられた。

〔古墳時代〕 主に古墳時代後期に属する遺構が検出された。なかでも古墳時代後期～飛鳥時代の遺物を大量に包含する流路は、出土した遺物の9割強が須恵器であった。その中には、焼成不良品や焼け歪み、溶着品などが含まれており、千里丘陵に近いという地理的条件を考慮すれば、千里古窯址群の須恵器窯で焼成された須恵器が何らかの理由でここまで運ばれ廃棄されたことが想定される。

〔古代〕 調査区北東部分に集落が営まれている状況が明らかとなった。古代に属する掘立柱建物は7棟検出されているが、そのうち3棟が正方位を指向している。飛鳥時代に帰属する溝が正方位を指向するため、軸を同じくする建物は当該期に属する可能性が高いものと判断する。別の4棟は奈良・平安時代に属する可能性が高く、当地において集落が営まれていたものと考えられる。また、当該期に属する流

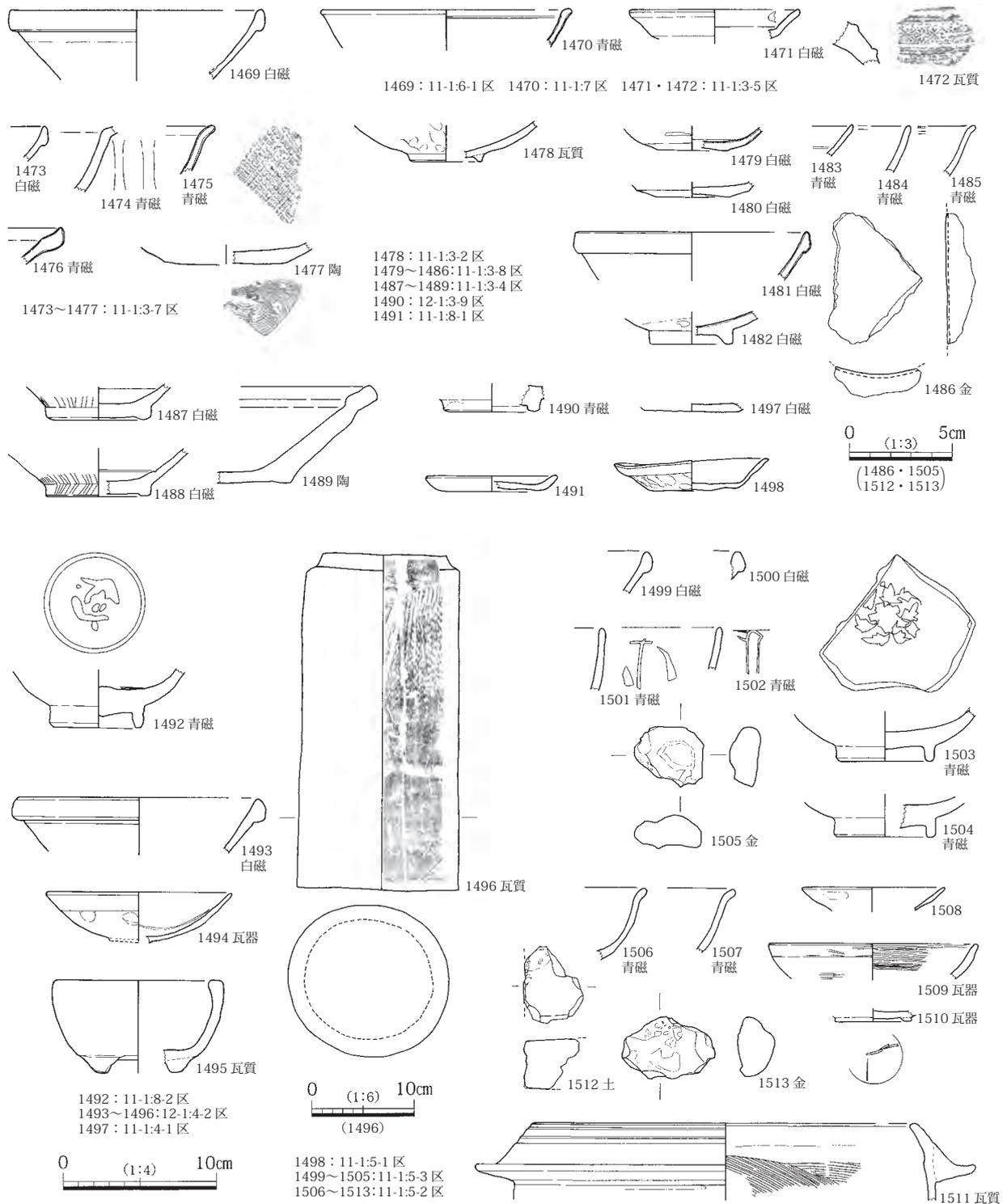


図 347 包含層その他出土遺物

路からは底部に「王」と墨書された土器がまとまって出土しており稀有な例である。遺物の中には律令祭祀に用いられるものが含まれることから、流路において何らかの祭祀行為が行われた可能性を示すものとして重要である。

〔中世〕調査区北東部分に集落が営まれている状況が明らかとなった。中世に属する遺構として、掘立柱建物・井戸・溝等が検出された。調査区北東部において掘立柱建物3棟が検出され、建物の時期は明確でないものの、集落が営まれていたことが明らかとなった。

第8章 自然科学分析報告

第1節 分析の目的と概要

今回の調査及び整理事業において、植物珪酸体、花粉、珪藻分析、坩堝付着物の成分分析、胎土分析を行った。それぞれの目的と概要を説明したい。

吹田操車場遺跡 10-2:2-1-2 区における植物珪酸体・花粉・珪藻分析（第2節）

当調査区では、地山上面において古墳時代後期に属すると考えられる群集土坑を検出した。また、第4層を除去した面において検出範囲は狭いが良好な畦畔を検出した。そこでその前後層となる第3層～第6層について、発掘調査では明らかにし得なかった農耕、土地利用、周辺植生、堆積環境を理解するため実施した。

吹田操車場遺跡 11-1 調査における花粉・珪藻分析（第3節）

当調査においては、11-1:10-1・10-2 区において縄文時代に遡る可能性がある谷を検出している。その谷が埋積していく過程において形成された堆積層や溝の埋土を分析することで、発掘調査では明らかにし得ない谷の埋積時の環境及び周辺環境を理解するため実施した。また、11-1:11-1 区において検出された古墳時代後期に属すると考えられる群集土坑の埋土について、埋土内の黒色ブロック土の由来及び給源を理解するため実施した。

明和池遺跡 11-1:8-2 区出土坩堝付着物の成分分析（第4節）

当調査区では、古代に属する 3077 流路を検出している。当流路からは、墨書土器や墨書人面土器、土馬やミニチュア竈等祭祀に関連すると考えられる遺物を含む多種多様な遺物が出土している。それらの遺物とともに坩堝が出土し、溶出した金属が付着していた。そこで坩堝で溶かされた金属を明らかにし、周辺域の集落における手工業生産について理解するために分析を実施した。

吹田操車場遺跡検出群集土坑周辺粘土と明和池遺跡出土須恵器の胎土分析（第5節）

今回報告する調査では、吹田市域の吹田操車場遺跡において、多数の群集土坑を検出している。それらはいずれも古墳時代後期に属すると考えられる遺構であり、粘土採掘を行った痕跡の可能性が高いものである。この想定が首肯されるものであれば、地理的条件から当調査区の北西に位置する千里古窯址群において焼成される須恵器の原料となる粘土である可能性が高い。また、明和池遺跡において検出した古墳時代に属する 7066 流路からは 6 世紀代の所産になる須恵器が多量に出土している。それらの中には、焼け歪んだものや焼成不良のもの、溶着したもの等、窯業生産地で認められるものが一定量含まれていた。総合的に判断すれば、7066 流路から出土した須恵器は、当調査区の北西に位置する千里古窯址群からもたらされたものである可能性が高い。

そこで、群集土坑周辺の粘土及び明和池遺跡で出土した須恵器を分析することで、それぞれの胎土の特性を明らかにし、それぞれの関係及び土器生産や移動に関して理解するため実施した。

第2節 吹田操車場遺跡 10-2:2-1-2 区における植物珪酸体・花粉・珪藻分析

1. 原理

(1) 植物珪酸体分析

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO₂) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。

(2) 花粉分析

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

(3) 珪藻分析

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復元の指標として利用されている。

2. 試料

分析試料は、吹田操車場遺跡 10-2:2-1-2 区において、上位より第3層 (試料⑤)、第4層 (試料⑦)、第5層 (試料⑧)、第6層 (試料⑩) より採取された4点である。試料採取地点と試料採取箇所を図 57 に示す。

3. 分析方法

(1) 植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1 g に直径約 40μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による 20μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞 (葉身にのみ形成される) に由来する植物珪酸体を同定の

対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料 1 g 中の植物珪酸体個数（試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、主な分類群については、この値に試料の仮比重（ここでは 1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重，単位：10 - 5 g）を乗じて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は 2.94（種実重は 1.03）、ヨシ属（ヨシ）は 6.31、ススキ属（ススキ）は 1.24、メダケ節は 1.16、ネザサ節は 0.48、チマキザサ節は 0.75、ミヤコザサ節型は 0.3 である。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。

（2）花粉分析

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から 1 cm³を採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ~ 1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本とを対比して行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示す。イネ属については、中村（1974，1977）を参考に、表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。なお、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

（3）珪藻分析

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

- 1) 試料から 1 cm³を採量
- 2) 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら 1 晩放置
- 3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗（5 ~ 6 回）
- 4) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥
- 5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作成
- 6) 検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 600 ~ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 200 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

表6 植物珪酸体分析結果

| 検出密度 (単位: × 100 個 /g) | | 吹田操車場遺跡 10-2:2-1-2 区 | | | | |
|--|-----------------------------------|----------------------|-----------------|-----------|------|------|
| 分類群 | 学名 | 地点・試料 | 第3層 第4層 第5層 第6層 | | | |
| | | | イネ科 | Gramineae | | |
| イネ | Oryza sativa | | 7 | 7 | 22 | 7 |
| ヨシ属 | Phragmites | | 7 | 7 | 7 | 7 |
| ススキ属型 | Miscanthus type | | | | | 7 |
| ウシクサ族 A | Andropogoneae A type | | 21 | 34 | 7 | 41 |
| タケ亜科 | Bambusoideae | | | | | |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | | 34 | 34 | 43 | 68 |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | | 281 | 326 | 358 | 382 |
| チマキザサ節型 | Sasa sect. Sasa etc. | | 14 | 7 | 29 | |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | | 14 | 47 | 29 | 20 |
| 未分類等 | Others | | 117 | 136 | 115 | 130 |
| その他のイネ科 | Others | | | | | |
| 表皮毛起源 | Husk hair origin | | | | | 20 |
| 棒状珪酸体 | Rod shaped | | 34 | 14 | 36 | 34 |
| 未分類等 | Others | | 48 | 54 | 14 | 34 |
| 樹木起源 | Arboreal | | | | | |
| ブナ科 (シイ属) | Castanopsis | | | | 7 | 20 |
| クスノキ科 | Lauraceae | | | | | 7 |
| その他 | Others | | 7 | 20 | 22 | 27 |
| (海綿骨針) | Sponge spicules | | | | | 7 |
| 植物珪酸体総数 | Total | | 583 | 685 | 688 | 804 |
| おもな分類群の推定生産量 (単位: kg / m ² ・cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出 | | | | | | |
| イネ | Oryza sativa | | 0.20 | 0.20 | 0.63 | 0.20 |
| ヨシ属 | Phragmites | | 0.43 | 0.43 | 0.43 | 0.43 |
| ススキ属型 | Miscanthus type | | | | | 0.08 |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | | 0.40 | 0.39 | 0.50 | 0.79 |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | | 1.35 | 1.56 | 1.72 | 1.83 |
| チマキザサ節型 | Sasa sect. Sasa etc. | | 0.10 | 0.05 | 0.22 | |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | | 0.04 | 0.14 | 0.09 | 0.06 |
| タケ亜科の比率 (%) | | | | | | |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | | 21 | 18 | 20 | 29 |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | | 71 | 73 | 68 | 68 |
| チマキザサ節型 | Sasa sect. Sasa etc. | | 5 | 2 | 9 | |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | | 2 | 7 | 3 | 2 |
| メダケ率 | Medake ratio | | 92 | 91 | 88 | 98 |

4. 結果

(1) 植物珪酸体分析

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表6 および図 348 に示した。

[イネ科]

イネ、ヨシ属、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族 A (チガヤ属など)

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

ブナ科 (シイ属)、クスノキ科、その他

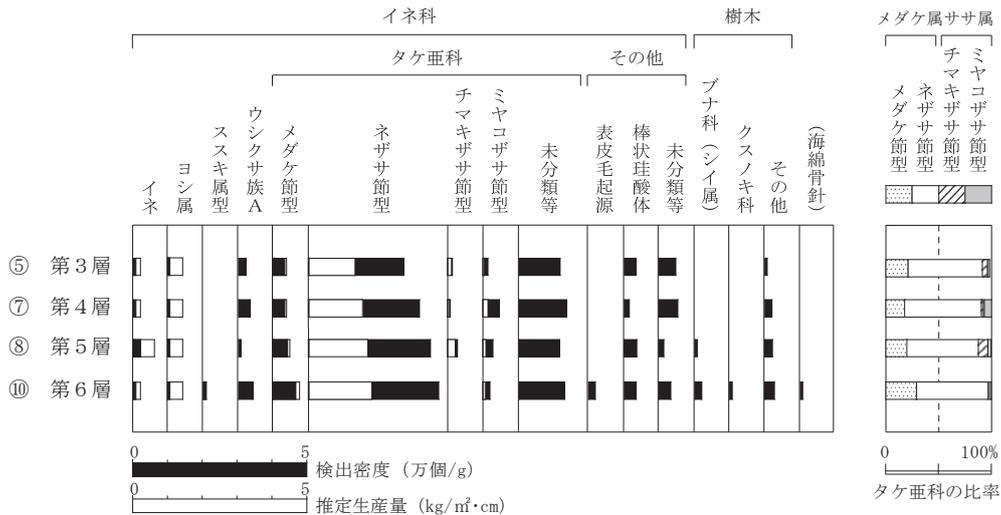


図 348 植物珪酸体分析結果

(2) 花粉分析

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 20、樹木花粉と草本花粉を含むもの 4、草本花粉 21、シダ植物胞子 2 形態の計 47 である。これらの学名と和名および粒数を表 7 に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図 349 に示す。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属ーアサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、ブドウ属、カキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、カラマツソウ属、ササゲ属、キカシグサ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

下位より花粉構成と花粉組成の特徴を記載する (図 349)。

・第 6 層 (試料⑩)

草本花粉の占める割合が高く、約 55% を占める。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優占し、

表7 花粉分析結果

| 分類群 | | 吹田操車場遺跡 10-2-2-1-2 区 | | | |
|---|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | | 第3層 | 第4層 | 第5層 | 第6層 |
| 学名 | 和名 | ⑤ | ⑦ | ⑧ | ⑩ |
| Arboreal pollen | 樹木花粉 | | | | |
| Podocarpus | マキ属 | | | 2 | 1 |
| Abies | モミ属 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| Tsuga | ツガ属 | 4 | 4 | | 1 |
| Pinus subgen. Diploxylon | マツ属複雑管束亜属 | 15 | 3 | 7 | 8 |
| Cryptomeria japonica | スギ | 33 | 28 | 19 | 60 |
| Taxaceae-Cephalotaxaceae -Cupressaceae | イチイ科-イヌガヤ科 -ヒノキ科 | 9 | 22 | 5 | 29 |
| Pterocarya rhoifolia | サワグルミ | | | 1 | |
| Alnus | ハンノキ属 | | 1 | 1 | |
| Betula | カバノキ属 | 8 | 1 | 7 | 3 |
| Corylus | ハシバミ属 | 3 | | 7 | |
| Carpinus-Ostrya japonica | クマシデ属-アサダ | 6 | 7 | 7 | 8 |
| Castanea crenata | クリ | | | | 1 |
| Castanopsis | シイ属 | 6 | 12 | 5 | 30 |
| Fagus | ブナ属 | 2 | | 1 | 2 |
| Quercus subgen. Lepidobalanus | コナラ属コナラ亜属 | 39 | 30 | 54 | 44 |
| Quercus subgen. Cyclobalanopsis | コナラ属アカガシ亜属 | 33 | 27 | 23 | 65 |
| Ulmus-Zelkova serrata | ニレ属-ケヤキ | 3 | 1 | 2 | 1 |
| Celtis-Aphananthe aspera | エノキ属-ムクノキ | | 2 | | 1 |
| Vitis | ブドウ属 | | | 1 | 1 |
| Diospyros | カキ属 | 1 | | | |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | 樹木・草本花粉 | | | | |
| Moraceae-Urticaceae | クワ科-イラクサ科 | 2 | 3 | | 1 |
| Rosaceae | バラ科 | 2 | | | |
| Leguminosae | マメ科 | | | 1 | |
| Araliaceae | ウコギ科 | 1 | | | |
| Nonarboreal pollen | 草本花粉 | | | | |
| Alisma | サジオモダカ属 | | | | 2 |
| Sagittaria | オモダカ属 | | 6 | 5 | 19 |
| Gramineae | イネ科 | 527 | * | 236 | 153 |
| Oryza type | イネ属型 | 10 | 38 | 34 | 31 |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 5 | 16 | 27 | 73 |
| Aneilema keisak | イボクサ | 2 | | | |
| Monochoria | ミズアオイ属 | | | | 1 |
| Polygonum sect. Persicaria | タデ属サナエタデ節 | | 1 | | 1 |
| Rumex | ギンギン属 | | 1 | | 1 |
| Fagopyrum | ソバ属 | 1 | | | |
| Chenopodiaceae-Amaranthaceae | アカザ科-ヒユ科 | | 5 | | |
| Caryophyllaceae | ナデシコ科 | 1 | | | |
| Thalictrum | カラマツソウ属 | | | 1 | |
| Vigna | ササゲ属 | 1 | | | |
| Rotala | キカシグサ属 | 1 | | | |
| Hydrocotyloideae | チドメグサ亜科 | 2 | 3 | 1 | 1 |
| Apioidae | セリ亜科 | 2 | 1 | 1 | 5 |
| Lactuoidae | タンポポ亜科 | 1 | 1 | | 2 |
| Asteroidae | キク亜科 | 1 | | 2 | 2 |
| Xanthium | オナモミ属 | 1 | | 1 | |
| Artemisia | ヨモギ属 | 20 | 26 | 30 | 37 |
| Fern spore | シダ植物胞子 | | | | |
| Monolate type spore | 単条溝胞子 | 1 | 1 | 5 | 5 |
| Trilate type spore | 三条溝胞子 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| Arboreal pollen | 樹木花粉 | 164 | 139 | 143 | 256 |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | 樹木・草本花粉 | 5 | 3 | 1 | 1 |
| Nonarboreal pollen | 草本花粉 | 575 | 334 | 305 | 328 |
| Total pollen | 花粉総数 | 744 | 476 | 449 | 585 |
| Pollen frequencies of 1cm ³ | 試料 1cm ³ 中の花粉密度 | 5.2 5 × 10 ⁴ | 1.0 5 × 10 ⁴ | 1.1 5 × 10 ⁴ | 2.6 5 × 10 ⁴ |
| Unknown pollen | 未同定花粉 | 12 | 7 | 7 | 12 |
| Fern spore | シダ植物胞子 | 2 | 2 | 6 | 9 |
| Helminth eggs | 寄生虫卵 | (-) | (-) | (-) | (-) |
| Digestion rimeins | 明らかな消化残渣 | (-) | (-) | (-) | (-) |
| Charcoal fragments | 微細炭化物 | | | (+) | (+) |

*: 集塊

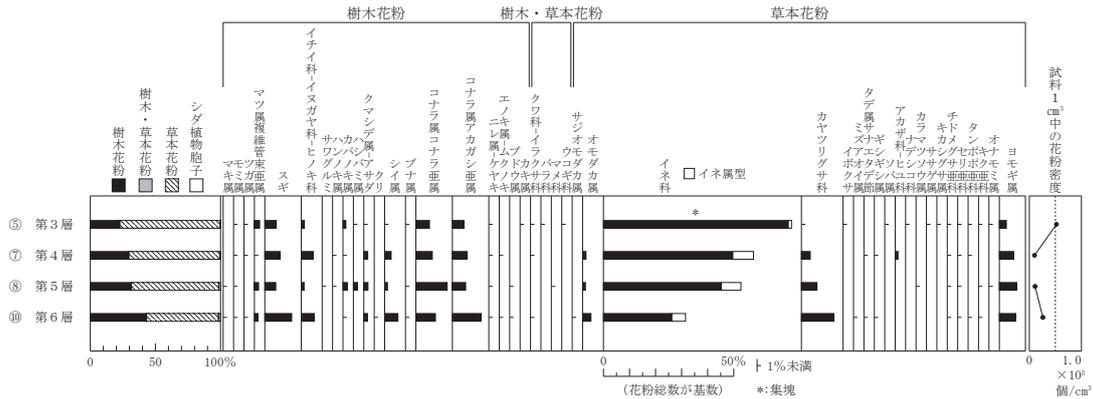


図 349 花粉ダイアグラム

カヤツリグサ科、ヨモギ属、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉はスギ、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、シイ属、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科の順に多い。

・第5層（試料⑧）

草本花粉の占める割合が高くなり、約70%を占める。イネ属型を含むイネ科が増加し優占するが、カヤツリグサ科、オモダカ属はやや減少する。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が多く、スギ、コナラ属アカガシ亜属が伴われる。

・第4層（試料⑦）

第5層と類似するが、イネ属型を含むイネ科がより増加し、カヤツリグサ科は減少する。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、スギ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科が出現する。

・第3層（試料⑤）

草本花粉がより増加し、約75%を占め、イネ科が極めて優占する。イネ科では集塊が認められる。イネ属型は減少し、ソバ属、ササゲ属が出現する。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、スギが出現し、カキ属がわずかに出現する。

(3) 珪藻分析

1) 分類群

出現した珪藻は、貧塩性種（淡水生種）5分類群である。破片の計数は、基本的に中心域を有するものを1個とし、中心域がない種については両端2個につき1個と数えた。表8に分析結果を示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定した珪藻ダイアグラムを図350に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性はLowe(1974)や渡辺(2005)等の記載により、陸生珪藻は小杉(1986)による。環境指標種群は海水生種から汽水生種は小杉(1988)により、淡水生種は安藤(1990)による。以下にダイアグラムで表記した分類群を記載する。

〔貧塩性種〕

Aulacoseira canadensis, *Aulacoseira granulata*, *Cyclotella bodanica-radiosa*, *Gomphonema gracile*, *Navicula cuspidata*

2) 珪藻群集の特徴

いずれの層も珪藻密度が極めて低く、貧塩性種（淡水生種）で占められる（図350）。

表8 珪藻分析結果

| 分類群 | 吹田操車場遺跡 10-2:2-1-2 区 | | | |
|------------------------------------|----------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 第3層 | 第4層 | 第5層 | 第6層 |
| | ⑤ | ⑦ | ⑧ | ⑩ |
| 貧塩性種 (淡水生種) | | | | |
| <i>Aulacoseira canadensis</i> | | 4 | 17 | 31 |
| <i>Aulacoseira granulata</i> | | | 2 | 2 |
| <i>Cyclotella bodanica-radiosa</i> | | 5 | 5 | 17 |
| <i>Gomphonema gracile</i> | | | | 1 |
| <i>Navicula cuspidata</i> | | | | 1 |
| 合計 | 0 | 9 | 24 | 52 |
| 未同定 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 破片 | 1 | 13 | 30 | 95 |
| 試料 1 cm ³ 中の殻数密度 | 0.0 | 1.8 | 4.8 | 1.1 |
| | | × 10 ³ | × 10 ³ | × 10 ⁴ |
| 完形殻保存率 (%) | - | - | - | - |

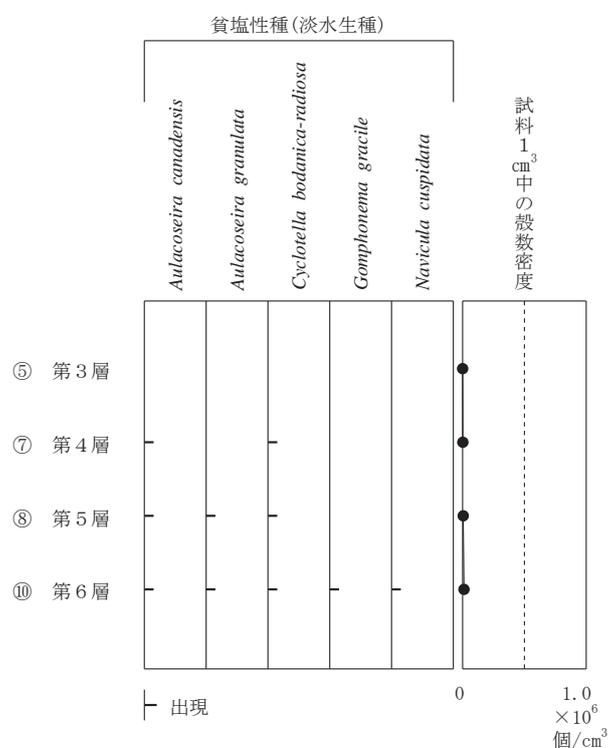


図 350 珪藻ダイアグラム

・第6層

好止水性種で沼沢湿地付着生環境指標種群の *Aulacoseira canadensis*、*Gomphonema gracile*、好止水性種の *Cyclotella bodanica-radiosa*、真止水性種で湖沼浮遊性環境指標種群の *Aulacoseira agriculata*、流水不定性種の *Navicula cuspidata* がわずかに出現する。

・第5層

好止水性種で沼沢湿地付着生環境指標種群の *Aulacoseira canadensis*、好止水性種の *Cyclotella bodanica-radiosa*、真止水性種で湖沼浮遊性環境指標種群の *Aulacoseira granulata* がわずかに出現する。

- ・第4層

好止水性種の *Cyclotella bodanica-radiosa*、好止水性種で沼沢湿地附着生環境指標种群の *Aulaco seira canadensis* がわずかに出現する。

- ・第3層

珪藻は検出されない。

5. 植物珪酸体分析から推定される稲作、農耕、植生および環境

(1) 稲作跡の検討

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山, 2000）。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

第3層（試料⑤）、第4層（試料⑦）、第5層（試料⑧）、第6層（試料⑩）について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、第5層（試料⑧）ではイネの密度が 2,200 個 /g と比較的低い値であり、その他の試料でも 700 個 /g と低い値である。これらの層で稲作が行われていたならば、イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったことなどが考えられるが、ここでの原因は不明である。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

以上のことから、稲作以外の農耕の可能性については、植物珪酸体分析からは言及できない。

(3) 植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。

第6層（試料⑩）では、ネザサ節型が多量に検出され、ヨシ属、ウシクサ族A、メダケ節型、ミヤコザサ節型、および樹木（照葉樹）のブナ科（シイ属）、クスノキ科なども認められた。第5層（試料⑧）から第3層（試料⑤）にかけても、おおむね同様の結果であるが、ブナ科（シイ属）やクスノキ科は見られなくなっている。おもな分類群の推定生産量によると、各層準ともネザサ節型が優勢である。

以上の結果から、各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であり、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（ネザサ節）をはじめウシクサ族なども生育していたと考えられる。また、遺跡周辺には何らかの樹木が分布し、第6層の時期にはブナ科（シイ属）、クスノキ科などの照葉樹も生育していたと推定される。

6. 花粉分析から推定される植生と環境

(1) 第6層

草本が多く、特にイネ科や水生植物の多いカヤツリグサ科が優勢に分布していた。イネ属型とともに水田雑草であるミズアオイ属、サジオモダカ属が出現することから、湿潤な水田の分布が示唆される。樹木花粉がやや低率であるため、周辺山地や丘陵地などにコナラ属アカガシ亜属、シイ属の照葉樹、二次林要素のコナラ属コナラ亜属、スギやイチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科の針葉樹が分布していたと推定される。

(2) 第5層

草本がより多くなり、イネ科が増加する。カヤツリグサ科やオモダカ属の水湿地要素がやや減少するが、湿潤な水田の分布に変わりはない。樹木ではコナラ属コナラ亜属がやや増加し、二次林がやや増加する。

(3) 第4層

第5層と同様に、水田の分布が示唆されるが、水湿地要素のカヤツリグサ科が減少し、水田の乾田化が促進する。周辺山地や丘陵地などにコナラ属アカガシ亜属、シイ属の照葉樹、二次林要素のコナラ属コナラ亜属、スギやイチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科の針葉樹が分布していた。

(4) 第3層

草本花粉がより多くなり、イネ科が増加し分布する。イネ属型が減少し、畑作物のソバ属、ササゲ属が出現し、水田雑草で水湿地要素のカヤツリグサ科やオモダカ属は減少するか検出されなくなる。このことから周辺是水田より畑の占める割合や期間が大きくなり、ソバ属やササゲ属（アズキ、リョクトウ、ササゲなど）が分布していたと推定される。また、産出量の多いイネ科にはオオムギ、アワ、ヒエ、キビなどの栽培植物が含まれることから、これらを作物とする畑作が行われていた可能性も考えられる。カキ属がわずかに出現し、畦畔などに植えられたか、樹園地が形成されていた可能性もある。

7. 珪藻分析から推定される堆積環境

いずれの層も珪藻密度が極めて低いか検出されないことから、乾燥していたか、珪藻が分解される環境であったと推定される。下位の第6層と第5層では、わずかであるが真止水性種で湖沼浮遊性環境指標種群の *Aulacoseira granulata*、好止水性種で沼沢湿地付着生環境指標種群の *Aulacoseira canadensis* や好止水性種の *Cyclotella bodanica-radiosa* が検出されることから、水域の環境が示唆される。なお、集約性の高い水田では、珪藻殻が形成されにくいことがある。第6層と第5層では真止水性種が、第4層では好止水性種が検出されていることから、安定した水域をもつ集約性の高い水田であった可能性も考えられる。第3層では珪藻が検出されず、珪藻の生育できない滞水しない環境が推定され、畑や集落域のような陸域の堆積が考えられる。

8. まとめ

下部より、第6層では、調査地ないし周辺は湿潤な環境であり、水田が分布していたと推定された。周辺山地や丘陵地などにはコナラ属アカガシ亜属、シイ属、クスノキ科などの照葉樹、二次林要素のコナラ属コナラ亜属、スギやイチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科の針葉樹の分布が示唆された。第5層から第4層にかけては、湿潤を好む水田雑草の減少から、乾田化したと推定された。第3層では、畑や集落

域のような陸域の環境が想定され、水田より畑作要素が大きくなり、ソバ属やササゲ属（アズキ、リョクトウ、ササゲなど）などの畑の分布とカキなどの果樹栽培が行われていたと推定された。なお、各層準とも周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（ネザサ節）の笹類をはじめウシクサ族なども生育していたと考えられた。

参考文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, p. 35-47.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—．考古学と自然科学，9，p. 15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—．考古学と自然科学，17，p. 73-85.
- Hustedt, F. (1937 — 1938) Systematische und ologische Untersuchungen über die Diatomeen Flora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. *Arch. Hydrobiol. Suppl.* 15, p. 131 — 506.
- 伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，p. 23-45.
- 金正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p. 248-262.
- 小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—．植生史研究，第1号，植生史研究会，p. 29-44.
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p. 1-20.
- K. Krammer・H. Lange-Bertalot (1986-1991) *Bacillariophyceae*・1-4.
- Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh — water diatoms. 333p., National Environmental Reserch. Center.
- 中村純（1967）花粉分析．古今書院，p. 82-102.
- 中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として．第四紀研究，13，p. 187-193.
- 中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p. 21-30.
- 中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.
- 島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.
- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—．考古学と自然科学，19，p. 69-84.
- 杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究．38(2)，p. 109-123.
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p. 189-213.
- 渡辺仁治（2005）淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数 DAI_{po}, pH 耐性能．内田老鶴圃，666p.

第3節 吹田操車場遺跡 11-1 調査における花粉・珪藻分析

1. 試料

分析試料は、吹田操車場遺跡 11-1:10-2 区において、アゼ②地点とした第 9-1 層(①)、10011 溝埋土(②～⑤)、10022 谷埋土(⑥～⑧)より採取された 8 点と吹田操車場遺跡 11-1:11-1 区において、11013 土坑・11017 土坑埋土から採取された 2 点である。試料採取地点と試料採取箇所を図 61 に示す。

2. 分析方法

(1) 珪藻分析

特記仕様書にしたがって分析処理・検鏡(同定・計数)を行った。また、珪藻化石の含有量を算出するために必要な計量を、随時行った。

(2) 花粉分析

特記仕様書にしたがって分析処理・検鏡(同定・計数)を行った。同定に際し、中村(1974)に基づきイネ科を、イネを含む可能性が高いイネ科(40ミクロン以上)と、可能性が低いイネ科(40ミクロン未満)に細分している。また、花粉化石の含有量を算出するために必要な計量を、随時行った。

3. 微化石概査結果

花粉分析用プレパラート及び珪藻分析用プレパラートを用いた微化石の概査結果は、表 9 のとおりである(植物片、炭は花粉分析用プレパラートを観察した。火山ガラス、植物珪酸体は珪藻分析用プレパラートを観察した)。

4. 花粉分析結果

(1) 花粉分析結果(図 351・352、表 10)

試料の花粉分析を行った結果、表 10 に示す 56 種類の花粉・孢子化石が検出できた。

花粉分析の結果を、下記の花粉ダイアグラムと花粉化石組成表に示す。

花粉ダイアグラムでは、計数した花粉、孢子の総数を基数にし、各々の花粉と孢子について百分率を算出してスペクトルで表し、左に総合ダイアグラム(針葉樹、広葉樹、草本・藤本花粉、孢子の割合を示すグラフ)、右に含有量グラムを配した。

(2) 花粉化石群集の特徴

地点ごとに花粉化石群集の特徴を、花粉化石群集の変遷が明確になるように、下位から上位に向かい示した。

1) 11-1:10-2 区アゼ②(図 61 の断面)

①で花粉・孢子含有量が 10000 粒/g を超えるものの、多くの試料は 1000-9000 試料と含有量が少なかった。更に多くの試料で花粉化石の最外層が薄く、劣化している様子が窺えた。

⑧では木本の割合が 78% と高く、コナラ亜属が 46% を、アカガシ亜属が 23% を示す。このほか、コウヤマキ属、マツ属(複雑管束亜属)が 10% 程度の出現率を示す。草本・藤本、孢子では特に高率を示す種類はない。

⑦、⑥では木本の割合が 55% 程度を占め、コウヤマキ属が 40-70% 程度、ツガ属、コナラ亜属、

表9 微化石概査結果

| 地点 | 試料No. | 花粉 | 炭 | 植物片 | 珪藻 | 火山ガラス | 植物珪酸体 |
|-------------------|-----------|----|---|-----|----|-------|-------|
| 11-1:10-2区 アゼ② | ① | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | ② | ○ | △ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | ③ | △ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ④ | ○ | △ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | ⑤ | △ | △ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| | ⑥ | △ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ⑦ | △ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ⑧ | ○ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 11-1:11-1区 | 11013 土坑① | ○ | ○ | ○ | △× | ◎ | ◎ |
| | 11017 土坑⑤ | ○ | ○ | ○ | △× | ◎ | ◎ |

凡例 ◎：十分な数量が検出できる ○：少ないが検出できる △：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる ×：検出できない

アカガシ亜属が数-20%程度を示す。草本・藤本、胞子ではシノブ属が15-25%を示す。

⑤、④では木本の割合が54-70%程度を占め、コナラ亜属が25-40%、アカガシ亜属が30%程度を示す。草本・藤本、胞子ではイネ科（40ミクロン未満）が15-35%程度、イネ科（40ミクロン以上）、ヨモギ属が10-15%程度を示す。

③、②では木本の割合が55-60%程度を占め、コウヤマキ属が35%程度、コナラ亜属、アカガシ亜属が10-20%程度を示す。草本・藤本、胞子ではオシダ科-チャセンシダ科が10-25%を示す。

①では木本の割合が72%を占め、コナラ亜属が28%、アカガシ亜属が22%、スギ属が17%を示す。草本・藤本、胞子では特に高率を示す種類はない。

2) 11-1:11-1区 11013 土坑①、11017 土坑⑤

両試料とも花粉・胞子含有量が3000-4000粒/g未満とやや少ない。木本の割合は66%と高く、アカガシ属が30%程度、ツガ属が20%程度、コナラ亜属が10-20%、マツ属（複雑管束亜属）、コウヤマキ属が5-10%程度を示す。草本ではイネ科（40ミクロン未満）、イネ科（40ミクロン以上）が10-15%の出現率を示す。

5. 珪藻分析結果

(1) 分析結果

試料の珪藻分析を行った結果、表11に示す47種類が検出された。

珪藻分析の結果を、下記の珪藻ダイアグラム、珪藻総合ダイアグラムと珪藻化石組成表に示す。

珪藻ダイアグラムでは、分類群ごとに検出総数を基数とした百分率を算出し、スペクトルで表した。また、環境指標種群（小杉；1988、安藤；1990）を基にスペクトルのハッチを変えている。さらに、環境指標種群ごとの累積グラフ、含有量グラフ、完形率グラフを右側に付けた。

珪藻総合ダイアグラムのうち、左端の「生息域別グラフ」は同定したすべての種類を対象にそれぞれの要因（生息域）ごとに累積百分率として示した。そのほかの4つのグラフは、淡水種について要因ごとに累積百分率として示した。

(2) 珪藻化石群集の特徴

地点ごとに珪藻化石群集の特徴を、珪藻化石群集の変遷が明確になるように、下位から上位に向かい示した。

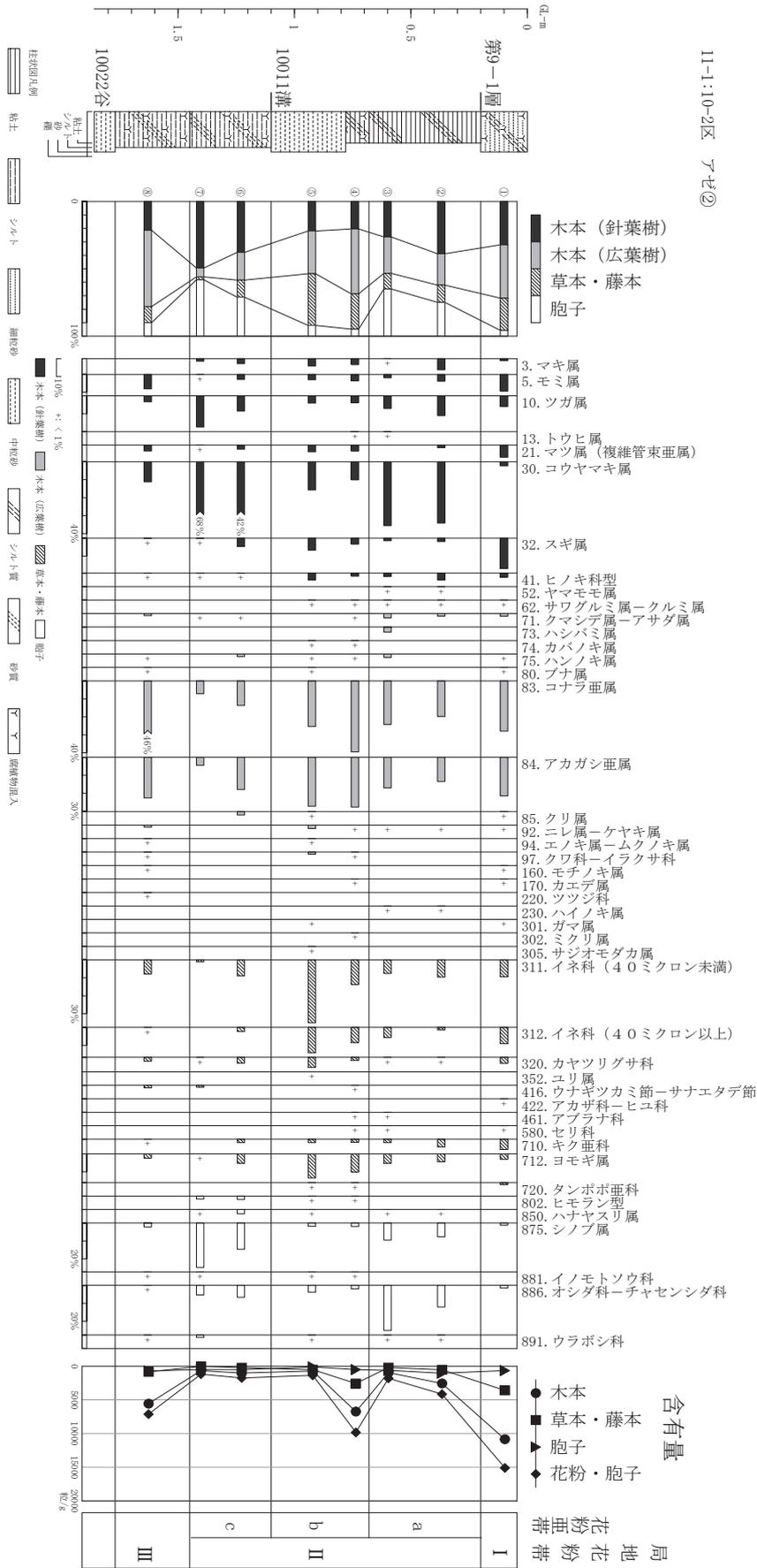


図 351 11-1:10-2 区アゼ②の花粉ダイアグラム

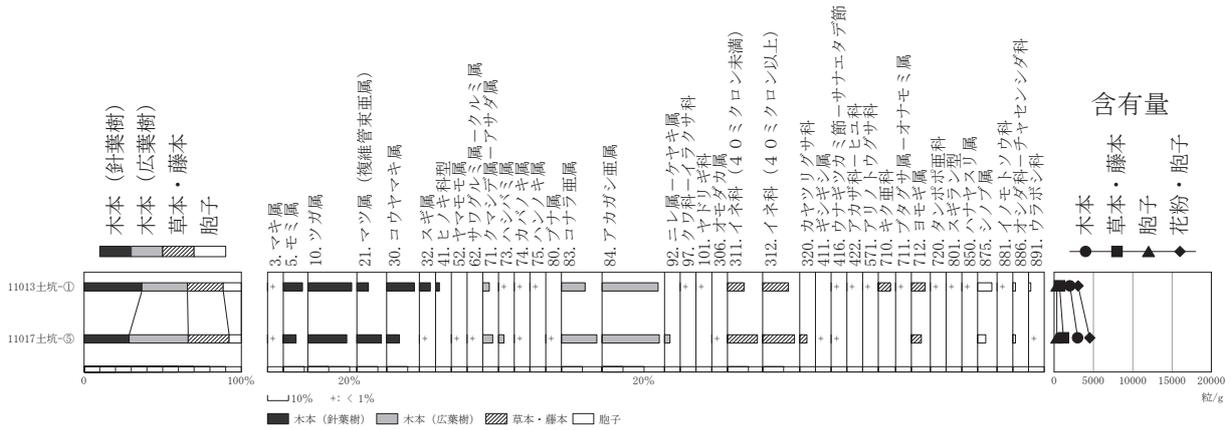


図 352 11-1:11-1 区 11013 土坑①・11017 土坑⑤の花粉ダイアグラム

1) 11-1:10-2 区アゼ② (図 61 の断面)

①～⑥では淡水・底生種が卓越傾向にある。これらのうち①、②、④、⑥では淡水・酸性・止水・底生種の *Eunotia biarefofera* が高率を示すほか、淡水・アルカリ・止水・浮遊種の *Aulacoseira granulata* も高率を示す。一方③、⑤では *Aulacoseira granulata* が高率を示すが、*Eunotia biarefofera* はほとんど検出されない。

⑦、⑧では淡水・底生種が卓越傾向にあるが、特に高率を示す分類群はない。

2) 11-1:11-1 区 11013 土坑①、11017 土坑⑤

全体に珪藻化石含有量が少なく、完形率も 10% 未満と低かった。底生種が卓越し、特に淡水・底生種の *Pinnularia cardinalicus* が高率を示す。

6. 11-1:10-2 区で検出した溝の埋積環境について

(1) 珪藻化石群集の設定

①～⑧の 8 試料は、検出された珪藻化石の特徴から、I～III の珪藻化石群集に大別することができた。以下に、各珪藻化石群集の特徴と推定堆積環境を示す。

1) 珪藻化石群集 I (①～④、⑥)

淡水・底生種が卓越傾向にあり、淡水・酸性・止水・底生種の *Eunotia biarefofera* が高率を示すほか、淡水・アルカリ・止水・浮遊種の *Aulacoseira granulata* も高率を示す。ただし、④では海～汽水種が特徴的に検出されることから、珪藻化石群集 I' とした。

止水種が卓越することから、流れに乏しかったものと考えられる。浮遊種の多い試料は比較的水深が深く、浮遊種の少ない(底生種の多い)試料では同時に酸性種も多いことから、水深が浅くより湿原的であったものと考えられる。また海～汽水種は、背後の千里丘陵に分布する大阪層群などの海成層からの、二次化石の可能性が高い。

2) 珪藻化石群集 II (⑤)

淡水・底生種が卓越傾向にあるが、淡水・止水・浮遊種の *Aulacoseira granulata* が高率を示す。止水種が卓越することから、流れに乏しかったものと考えられる。浮遊種が多いことから比較的水深が深かったものと考えられる。

表 10 花粉化石組成表

| 試料番号 | | 11-1:10-2 区アゼ② | | | | | | | | 11-1:11-1 区土坑 | | |
|------------|-------------------------------|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------------|--------------|---------|
| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 11013 土坑 - ① | 11017 土坑 - ⑤ | |
| 3 | Podocarpus | マキ属 | 3 1% | 13 6% | 2 1% | 12 3% | 11 4% | 6 3% | 5 1% | | 1 0% | 1 0% |
| 5 | Abies | モミ属 | 25 9% | 8 4% | 4 2% | 13 4% | 8 3% | 6 3% | 2 1% | 34 8% | 35 9% | 14 6% |
| 10 | Tsuga | ツガ属 | 16 6% | 23 11% | 15 7% | 14 4% | 11 4% | 18 8% | 62 17% | 14 3% | 80 21% | 43 19% |
| 13 | Picea | トウヒ属 | | | 1 0% | 1 0% | | | | | | |
| 21 | Pinus(Diploxyton) | マツ属：複雑管束亜属 | 18 7% | 3 1% | | 12 3% | 10 4% | 5 2% | 1 0% | 14 3% | 21 5% | 27 12% |
| 30 | Sciadopitys | コヤマキ属 | 6 2% | 71 34% | 75 36% | 36 10% | 42 16% | 90 42% | 241 68% | 47 11% | 50 13% | 14 6% |
| 32 | Cryptomeria | スギ属 | 45 17% | 4 2% | 3 1% | 12 3% | 18 7% | 10 5% | 2 1% | 4 1% | 20 5% | 1 0% |
| 41 | Cupressaceae type | ヒノキ科型 | 6 2% | 8 4% | 4 2% | 6 2% | 10 4% | 2 1% | 1 0% | 2 0% | 7 2% | |
| 52 | Myrica | ヤマモモ属 | 2 1% | 2 1% | 1 0% | | | | | | | 1 0% |
| 62 | Pterocarya-Juglans | サウグルミ属-クルミ属 | 2 1% | 1 0% | 2 1% | 2 1% | 1 0% | | | | | 1 0% |
| 71 | Carpinus-Ostrya | クマシデ属-アサダ属 | 4 2% | 3 1% | 5 2% | 3 1% | | 1 0% | 1 0% | 5 1% | 12 3% | 11 5% |
| 73 | Corylus | ハシバミ属 | | | 6 3% | | | | | | 3 1% | 6 3% |
| 74 | Betula | カバノキ属 | | | | 1 0% | 2 1% | | | | 2 1% | 2 1% |
| 75 | Alnus | ハンノキ属 | 2 1% | | 4 2% | 1 0% | 1 0% | 3 1% | | 1 0% | 3 1% | |
| 80 | Fagus | ブナ属 | 1 0% | | | | 1 0% | | | 1 0% | | 2 1% |
| 83 | Quercus | コナラ亜属 | 74 28% | 41 20% | 51 24% | 141 39% | 68 25% | 29 14% | 25 7% | 193 46% | 43 11% | 39 17% |
| 84 | Cyclobalanopsis | アカガシ亜属 | 57 22% | 28 13% | 36 17% | 99 28% | 73 27% | 38 18% | 16 4% | 95 23% | 102 27% | 63 27% |
| 85 | Castanea | クリ属 | 2 1% | | | | 2 1% | 4 2% | | | | |
| 88 | Castanopsis-Pasania | シノキ属-マデバシ属 | | | | | | | | | | |
| 92 | Ulmus-Zelkova | ニレ属-ケヤキ属 | 2 1% | 2 1% | 1 0% | 2 1% | 5 2% | | | 5 1% | | 6 3% |
| 94 | Aphananthe-Celtis | ムクノキ属-エノキ属 | | | | | 2 1% | | | 1 0% | | |
| 97 | Moraceae-Urticaceae | クワ科-イラクサ科 | | | | 1 0% | 3 1% | | | 2 0% | 2 1% | |
| 101 | Viscaceae | ヤドリギ科 | | | | | | | | | 1 0% | |
| 160 | Ilex | モチノキ属 | 1 0% | | | | | | | 1 0% | | |
| 170 | Acer | カエデ属 | 1 0% | | | 1 0% | | | | | | |
| 220 | Ericaceae | ツツジ科 | | | | | | | | 1 0% | | |
| 230 | Symplocos | ハイノキ属 | | 1 0% | 1 0% | | | | | | | |
| 301 | Typha | ガマ属 | 1 0% | | | | 1 0% | | | | | |
| 302 | Sparganium | ミクリ属 | | | | 3 1% | | | | | | |
| 305 | Alisma | サジオモダカ属 | | | | | 1 0% | | | | | |
| 306 | Sagittaria | オモダカ属 | | | | | | | | | | 1 0% |
| 311 | Gramineae(<40) | イネ科 (40ミクロン未満) | 25 9% | 20 10% | 16 8% | 49 14% | 94 35% | 19 9% | 4 1% | 33 8% | 30 8% | 33 14% |
| 312 | Gramineae(>40) | イネ科 (40ミクロン以上) | 24 9% | 3 1% | 12 6% | 30 8% | 38 14% | 5 2% | | 3 1% | 47 12% | 35 15% |
| 320 | Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 9 3% | 2 1% | 1 0% | 6 2% | 15 6% | 7 3% | 3 1% | 9 2% | | 8 3% |
| 352 | Lilium | ユリ属 | | | | | 1 0% | | | | | |
| 411 | Rumex | ギンギン属 | | | | | | | | | | 1 0% |
| 416 | Echinocaulon-Persicaria | ウナギツカミ節-サナエタデ節 | | | | 2 1% | | | 4 1% | 6 1% | 2 1% | 2 1% |
| 422 | Chenopodiaceae-Amaranthaceae | アカザ科-ヒユ科 | 1 0% | | | | | | | | 2 1% | |
| 461 | Cruciferae | アブラナ科 | | | 1 0% | 1 0% | | | | | | |
| 501 | Leguminosae | マメ科 | | | | | | | | | | |
| 571 | Haloragaceae | アリノトウグサ科 | | | | | | | | | 1 0% | |
| 580 | Umbelliferae | セリ科 | 2 1% | | 1 0% | 2 1% | | | | | | |
| 651 | Patrinia | オミナエシ属 | | | | | | | | | | |
| 710 | Carduoidae | キク亜科 | 15 6% | 9 4% | 4 2% | 6 2% | 5 2% | 4 2% | | 3 1% | 22 6% | |
| 711 | Ambrosia-Xanthium | ブタグサ属-オナモミ属 | | | | | | | | | 1 0% | |
| 712 | Artemisia | ヨモギ属 | 8 3% | 9 4% | 11 5% | 36 10% | 36 13% | 11 5% | 3 1% | 10 2% | 25 7% | 11 5% |
| 720 | Cichorioideae | タンポポ亜科 | 3 1% | | | 1 0% | 1 0% | | | | 2 1% | |
| 801 | Urostachys cryptomerinum type | スギラン型 | | | | | | | | | 3 1% | |
| 802 | Urostachys sieboldii type | ヒモラン型 | | | | 1 0% | 2 1% | 4 2% | 6 2% | | | |
| 850 | Ophioglossum | ハナヤスリ属 | | 1 0% | 1 0% | | 1 0% | 5 2% | 3 1% | | 1 0% | |
| 875 | Davallia | シノブ属 | 3 1% | 16 8% | 20 9% | 7 2% | 5 2% | 31 15% | 88 25% | 9 2% | 26 7% | 9 4% |
| 881 | Pteridaceae | イノモトソウ科 | | | | 1 0% | 1 0% | | 1 0% | 1 0% | 1 0% | |
| 886 | Aspid.-Asple. | オシダ科-チャセンシダ科 | 4 2% | 25 12% | 53 25% | 7 2% | 10 4% | 14 7% | 19 5% | 4 1% | 5 1% | 3 1% |
| 891 | Polypodiaceae | ウラボシ科 | | 1 0% | 1 0% | | 1 0% | | 5 1% | 2 0% | 4 1% | 1 0% |
| 898 | MONOLATE-TYPE-SPORE | 単条溝孢子 | 5 2% | 22 11% | 38 18% | 4 1% | 3 1% | 17 8% | 21 6% | 5 1% | 10 3% | 4 2% |
| 899 | TRILATE-TYPE-SPORE | 三条溝孢子 | 4 2% | 19 9% | 25 12% | 7 2% | 17 6% | 34 16% | 123 35% | 33 8% | 17 4% | 10 4% |
| 木本花粉総数 | | | 265 72% | 208 62% | 211 53% | 357 69% | 268 54% | 212 58% | 356 56% | 420 78% | 382 66% | 231 66% |
| 草本花粉総数 | | | 88 24% | 43 13% | 46 12% | 136 26% | 192 38% | 46 13% | 14 2% | 64 12% | 132 23% | 91 26% |
| 孢子総数 | | | 16 4% | 84 25% | 138 35% | 27 5% | 40 8% | 105 29% | 266 42% | 54 10% | 67 12% | 27 8% |
| 総数 | | | 369 | 335 | 395 | 520 | 500 | 363 | 636 | 538 | 581 | 349 |
| 含有量 (粒数/g) | | | 15,097 | 4,143 | 1,803 | 9,829 | 1,358 | 1,749 | 1,178 | 7,124 | 3,041 | 4,527 |

左よりカウント粒数、百分率

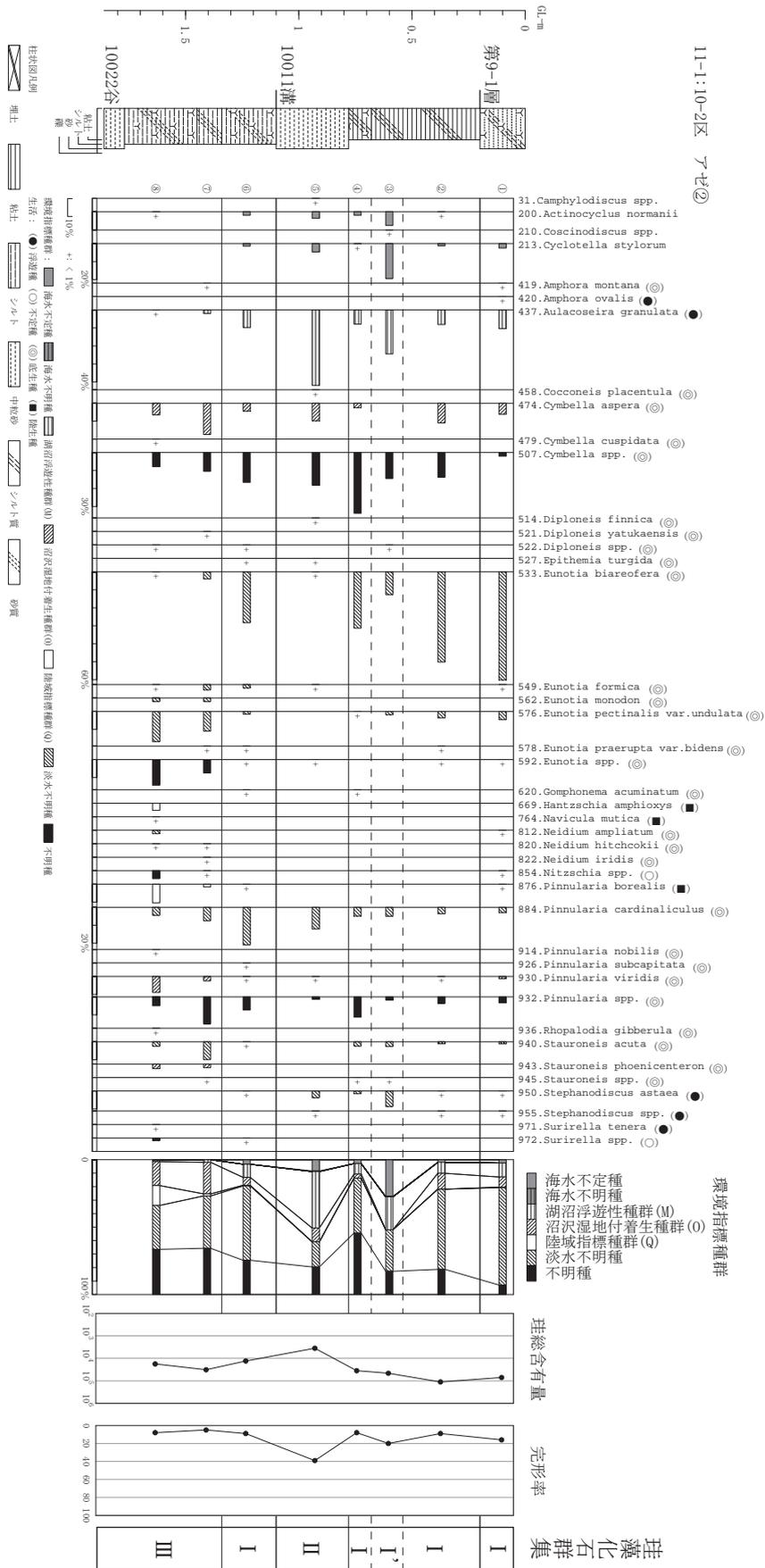


図 353 11-1:10-2 区アゼ②の珪藻ダイアグラム

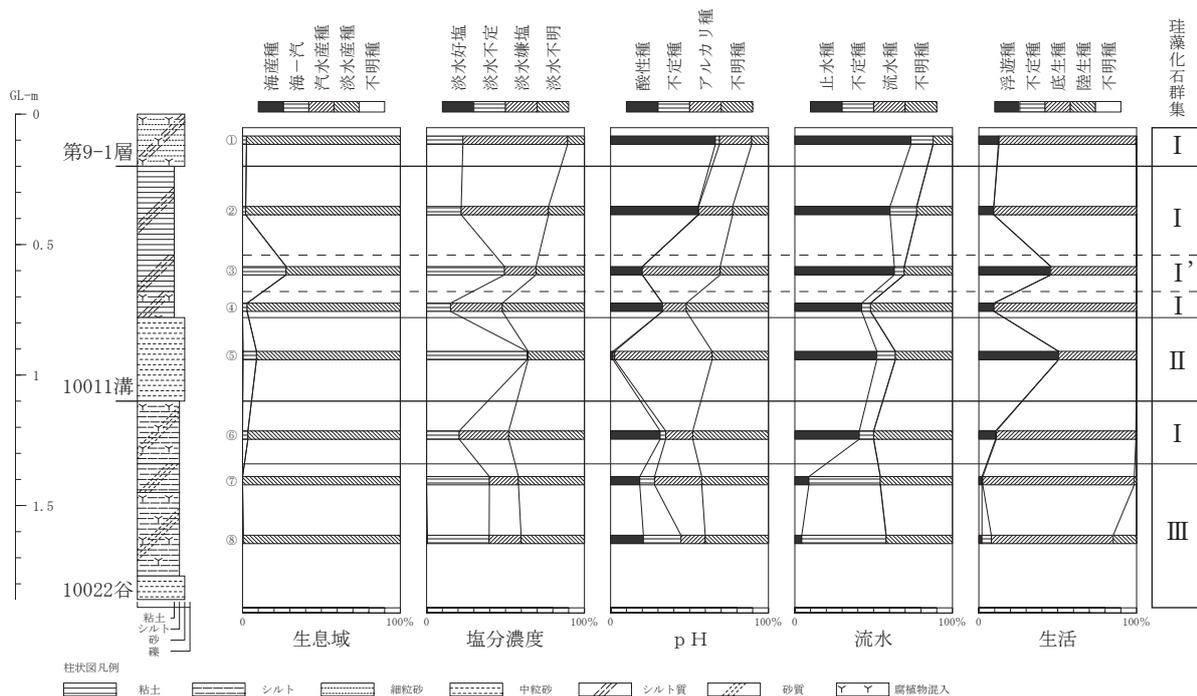


図 354 11-1:10-2 区アゼ②の珪藻総合ダイアグラム

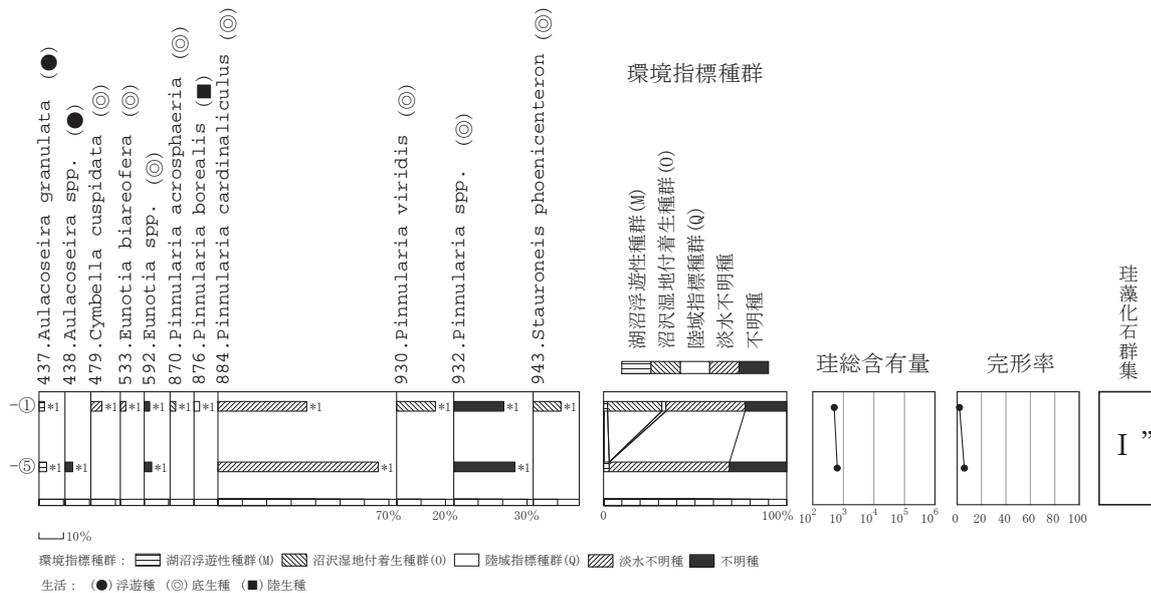


図 355 11-1:11-1 区 11013 土坑①・11017 土坑⑤の珪藻ダイアグラム

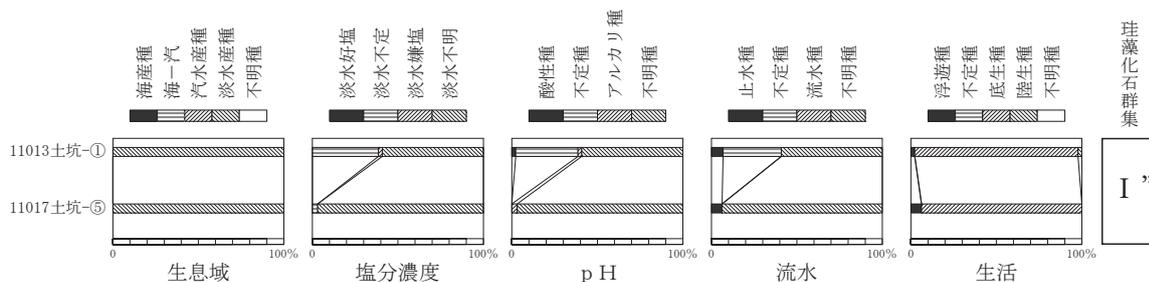


図 356 11-1:11-1 区 11013 土坑①・11017 土坑⑤の珪藻総合ダイアグラム

表 11 珪藻化石組成表

| コード | 学名 | 生息域 | | | | | | | | | | 11-1区土坑 | | | | | | | |
|-----|---|------------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|------|-----|---------|---------|------|-----|------|
| | | 水質 | 塩分濃度 | PH | 流水 | 生活 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 11013-① | 11017-⑤ | | | |
| 31 | <i>Campylodiscus</i> spp. | 海水 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 200 | <i>Actinocyclus normanii</i> | 海～汽水 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 210 | <i>Coccinodiscus</i> spp. | 海～汽水 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 213 | <i>Cyclotella stylum</i> | 海～汽水 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 419 | <i>Amphora montana</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 不明 | 底生 | 2 | 1% | 17 | 8% | 4 | 2% | 8 | 4% | 4 | 2% | 0% | | |
| 420 | <i>Amphora ovalis</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 浮遊 | 浮遊 | 1 | 0% | 1 | 0% | 4 | 2% | 8 | 4% | 4 | 2% | 0% | | |
| 437 | <i>Aulacoseira granulata</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 浮遊 | 浮遊 | 25 | 10% | 1 | 0% | 16 | 8% | 90 | 42% | 20 | 10% | 0% | | |
| 438 | <i>Aulacoseira</i> spp. | 淡水 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 448 | <i>Galoneis sillicula</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 不定 | 底生 | 15 | 6% | 54 | 24% | 16 | 8% | 1 | 0% | 20 | 10% | 1% | 3% | 3% |
| 458 | <i>Coconeis placentula</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 不定 | 底生 | 15 | 6% | 1 | 0% | 5 | 2% | 21 | 10% | 9 | 4% | 13 | 6% | |
| 474 | <i>Cymbella aspera</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 不定 | 底生 | 5 | 2% | 27 | 11% | 5 | 2% | 39 | 18% | 34 | 17% | 2 | 1% | 5% |
| 479 | <i>Cymbella cuspidata</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | 34 | 14% | 69 | 34% | 2 | 1% | 16 | 8% | | | |
| 507 | <i>Cymbella spp.</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 514 | <i>Diplooneis finnica</i> | 淡水 | 不定 | 酸性 | 止水 | 底生 | | | 1 | 0% | | | 1 | 0% | | | | | |
| 521 | <i>Diplooneis yatuksaensis</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | 1 | 0% | | | 1 | 0% | | | | | |
| 522 | <i>Diplooneis spp.</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | 28 | 13% | 64 | 31% | 1 | 0% | 58 | 28% | 1 | 0% | 2% |
| 527 | <i>Epi themia turgida</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 止水 | 底生 | 145 | 60% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 2% |
| 533 | <i>Eunotia biareofera</i> | 淡水 | 不定 | 酸性 | 止水 | 底生 | 2 | 1% | 124 | 50% | 64 | 31% | 1 | 0% | 4 | 2% | 1 | 0% | 1% |
| 549 | <i>Eunotia formica</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | 4 | 2% | 1 | 0% | 1 | 0% | 4 | 2% | 4 | 2% | 4 |
| 562 | <i>Eunotia monodon</i> | 淡水 | 不定 | 酸性 | 止水 | 底生 | 11 | 5% | 9 | 4% | 1 | 0% | 3 | 1% | 3 | 1% | 22 | 11% | 34 |
| 576 | <i>Eunotia pectinialis</i> var. <i>undulata</i> | 淡水 | 不定 | 酸性 | 不明 | 不明 | | | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 2 | 1% | 17% |
| 578 | <i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | 2 | 1% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 15 | 7% | 29 |
| 592 | <i>Eunotia spp.</i> | 淡水 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% | 1 |
| 620 | <i>Gomphonema acuminatum</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 止水 | 底生 | | | | | 1 | 0% | | | | | | | |
| 669 | <i>Hantzschia amphioxys</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 764 | <i>Navicula mutica</i> | 淡水 | 不定 | 不定 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 812 | <i>Neidium ampliatum</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 820 | <i>Neidium hitchcockii</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 822 | <i>Neidium iridis</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 854 | <i>Nitzschia spp.</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 870 | <i>Pinnularia acrosphaeria</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 876 | <i>Pinnularia borealis</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 884 | <i>Pinnularia cardinalis</i> var. <i>undulata</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 886 | <i>Pinnularia divergens</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 892 | <i>Pinnularia gibba</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 914 | <i>Pinnularia nobilis</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 926 | <i>Pinnularia subcapitata</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 930 | <i>Pinnularia viridis</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 932 | <i>Pinnularia spp.</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 936 | <i>Rhopalodia gibberula</i> | 淡水 | 不明 | アルカリ | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 940 | <i>Stauroneis acuta</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 943 | <i>Stauroneis phenicenteron</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 945 | <i>Stauroneis spp.</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 950 | <i>Stephanodiscus astaea</i> | 淡水 | 不定 | アルカリ | 止水 | 浮遊 | 2 | 1% | 1 | 0% | 1 | 0% | 8 | 4% | 1 | 0% | | | |
| 955 | <i>Stephanodiscus spp.</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 971 | <i>Surirella tenera</i> | 淡水 | 不定 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 972 | <i>Surirella spp.</i> | 淡水 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 海水生種合計 | 0 | | 不明 | 不明 | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 1 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 |
| | | 海～汽水生種合計 | 6 | 2% | 28% | 6 | 3% | 18 | 8% | 7 | 3% | 0 | 0% | 1 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| | | 汽水生種合計 | 0 | 0% | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| | | 淡水生種合計 | 255 | 98% | 72% | 198 | 97% | 196 | 91% | 198 | 97% | 201 | 100% | 203 | 100% | 44 | 100% | 32 | 100% |
| | | 合計 | 241 | 241 | 204 | 204 | 215 | 215 | 204 | 204 | 201 | 201 | 203 | 203 | 44 | 44 | 32 | 32 | 32 |
| | | 含有量 (粒数/9) | 71,243 | 112,339 | 45,849 | 35,375 | 3,561 | 13,131 | 32,116 | 17,710 | 17,710 | 17,710 | 503 | 503 | 16 | 16 | 8 | 8 | 8 |
| | | 完形率 % | 39 | 23 | 45 | 17 | 84 | 18 | 10 | 16 | 16 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| | | 完形率 | 16% | 9% | 20% | 8% | 39% | 9% | 5% | 8% | 8% | 2% | 2% | 2% | 2% | 2% | 6% | 6% | 6% |

3) 珪藻化石群集Ⅲ (⑦、⑧)

淡水・底生種が卓越傾向にあるが、特に高率を示す分類群はない。

底生種が卓越し、水深が浅かったものと考えられる。

(2) 埋積過程について

1) 10022 谷

珪藻化石群集ⅢからⅠへと推移する。いずれの時期も水深は浅かったと考えられるが、上位では腐植の堆積などによって、より湿原的になったと考えられる。

2) 10011 溝

珪藻化石群集ⅡからⅠへと推移する。いずれの時期も水深は浅かったと考えられるが、上位では腐植の堆積などによって、より湿原的になったと考えられる。

3) 第9-1層

珪藻化石群集Ⅰが対応し、水深が浅く腐植の堆積などによって湿原的であったと考えられる。

7. 花粉分帯及び既知の結果との比較（堆積時期の推定）

(1) 花粉分帯

11-1:10-2 区の8試料を対象に、局地花粉帯（Ⅰ～Ⅲ帯）を設定した。以下に、花粉化石群集の変遷が明確になるように、下位から上位に向かい記載する。

1) Ⅲ帯：⑧

コナラ亜属が卓越し、アカガシ亜属を伴う。このほか、コウヤマキ属、マツ属（複維管束亜属）が特徴的に出現する。草本・藤本、孢子では特に高率を示す種類はない。

2) Ⅱ帯：⑦～②

花粉・孢子含有量が少なく、花粉化石最外層の劣化が激しい個体が多く含まれる試料が認められた。これらの試料（⑦、⑥、③、②）では、劣化に強い孢子化石や一部の花粉の出現率が誇張されている可能性が指摘できる。

最外層が厚く劣化に強いコウヤマキ属が、高率で検出される。コウヤマキ属は、コナラ亜属、アカガシ亜属と負の相関を示し、⑤、④でやや低率になることから、c 亜帯（⑦、⑥）、b 亜帯（⑤、④）、a 亜帯（③、②）に細分した。また、b 亜帯では草本・藤本が孢子の割合を上回り、a、c 亜帯では孢子の割合が草本・藤本の割合を上回る。

3) Ⅰ帯：①

コナラ亜属、アカガシ亜属、スギ属が他の種類に比べ高い出現率を示す。草本・藤本、孢子では特に高率を示す種類はない。

(2) 既知の結果との比較（堆積時期の推定）

大阪府北部（淀川以北）の茨木市内玉櫛遺跡（川崎地質（株），1994）や東奈良遺跡（川崎地質（株），1995）では、弥生時代から中世にかけての花粉化石群集が得られている。ここでの特徴は、平安時代ごろまではアカガシ亜属が卓越し、鎌倉時代ごろ以降マツ属（複維管束亜属）に卓越種が変わる。一方、スギ属は弥生時代中期後半以降に増加を始め、室町時代頃までに低率になる。この際に、スギ属の出現率はアカガシ亜属と同程度まで増加する場所もある。また、弥生時代中期後半以前マツ属（複維管束亜属）が増加を始めるのは、スギ属が減少に転じるころからである。

上記のような既知の結果と、今回の分析結果（局地花粉帯）を比較すると、スギ属が高率を示しマツ属（複維管束亜属）が低率であることから、Ⅰ帯が玉櫛遺跡のⅠ帯、東奈良遺跡のⅡ帯 b 亜帯に対比できる。さらに、Ⅲ帯はスギ属が低率で、コナラ亜属、アカガシ亜属が卓越傾向にあることから、東奈良遺跡のⅢ帯 b 亜帯に対比できる。また東奈良遺跡のⅣ帯ではコウヤマキ属、ツガ属がやや高率を示す試料があり、今回のⅡ帯に対比される可能性がある。ただし前述のように、Ⅱ帯の花粉化石群集には孢子

化石や一部の花粉の出現率が誇張されている可能性があり、断定することはできない。以上のことから、今回のⅠ帯は弥生時代中期後半以降室町時代頃までの「一時期」の植生を示し、Ⅲ帯は弥生時代中期後半以前の「一時期」の植生を示している可能性がある。

一方出土遺物から、11-1:10-2区の谷・溝は弥生時代に埋まったと考えられている。前述の対比結果を踏まえると、下部のⅢ帯が弥生時代中期後半以前、上部のⅠ帯が弥生時代中期後半以降弥生時代未までの植生を示していると考えられる。

8. 11-1:11-1区 11013土坑、11017土坑埋土について

11013土坑①、11017土坑⑤とも埋土内のブロックから採取されており、堆積環境を示すものではない。ここでは、ブロック本来の堆積環境及びブロックの由来について考察する。

(1) 花粉分析から

①、③共に木本の割合が66%を示した。堆積地点周辺に湿地（草地）が広がり、林分からやや離れていたと考えられる。湿地内にはイネ科やカヤツリグサ科の草本が茂り、オモダカ類やフサモ（アリノトウグサ科）などの水草も生育していた。また、イネ科（40ミクロ以上）が少なからず検出されることから、稲作が水系内（上流）で行われていた可能性がある。湿地周囲のやや乾燥した場所には、ヨモギ類やその他のキク類が生育していたと考えられる。周辺の林分はカシ類を要素とする照葉樹林からなり、モミ、ツガ、コウヤマキ、などの温帯針葉樹林やナラ類が混生、あるいはこれらの樹木が独立した林分を構成した可能性もある。

ブロックの由来を11-1:10-2区アゼ②に求めると、最も近い花粉化石群集はスギ属が低率でモミ属、コウヤマキ属が高率を示す②、③（10011溝）、⑥、⑦（10022谷）が候補としてあげられる。

(2) 珪藻分析から

両試料とも珪藻化石の含有量が1000粒/g未満と少なかったが、底生種の *Pinnularia cardinaliculus* が卓越傾向にあるなど、同様の珪藻化石群集が得られた。

珪藻化石の含有量が少なく、完形率も低いことから、本来含まれていた珪藻化石の多くが消滅した可能性がある。底生種がほとんどを占めることから、水深の浅い場所で堆積したものと考えられる。

ブロックの由来を11-1:10-2区アゼに求めると、最も近い珪藻化石群集は構成比率が異なるものの構成種に一致するものが多いⅠであり、それぞれの上部が候補としてあげられ、特定ができなかった。

(3) ブロックの由来について

花粉分析からは②、③（10011溝）、⑥、⑦（10022谷）が、珪藻分析からは各溝上部の珪藻化石群集Ⅰ層準がブロックの由来候補として挙げられた。②、③、⑥、⑦のうち、②、⑥からは珪藻化石群集Ⅰが検出されており、ブロックの由来と考えることができる。ただし両試料とも、微化石概査では炭片や火山ガラスなど、土壌化の影響を示唆する物質の含有量がやや多く、花粉化石、珪藻化石が劣化・消滅しているものと考えられる。このように、11-1:10-2区の谷・溝、11013土坑、11017土坑内において花粉化石、珪藻化石ともに劣化・消滅している可能性が有り、断定するには至らない。

9. 11-1:10-2区周辺における弥生時代の古環境

11-1:10-2区において検出された10022谷、10011溝、第9-1層の埋積に伴う、谷・溝内及び周辺地域の古環境について考察する。ただし溝内の埋積過程については前述の通り（6-（2）参照）、ここ

では結果のみ述べる。また古植生の復元に際して、得られた花粉化石群集が古植生をそのまま反映しているとは仮定した。

(1) 10022 谷

1) 埋積過程

水深は浅く、上位では腐植の堆積などによって、より湿原的になったと考えられる。

2) 溝内及び溝周囲の植生

⑧堆積時期（Ⅲ帯）：弥生時代中期後半以前

溝内（あるいは近辺）にはイネ科やカヤツリグサ科の草本が、溝周辺の荒地にはキク科やタデ属の草本やシダ類が繁茂する。また、水系内で稲作が行われた可能性も指摘できる。一方、千里丘陵から調査地の比較的近くまで、カシ類を要素としモミ、ツガ、コウヤマキなどの温帯針葉樹種を混濁する照葉樹林やナラ類を要素とする遷移林（あるいは里山？）が迫っていたものと考えられる。

⑥、⑦堆積時期（Ⅱ帯 c 亜帯）：

溝内（あるいは近辺）ではイネ科やカヤツリグサ科の草本が、前時期に比べ茂るようになる。更に溝周辺の荒地でもキク科やタデ属の草本やシダ類が一層繁茂する。また、水系内で稲作が行われた可能性も指摘できる。一方、林縁はやや遠のく。前時期に周辺に分布したナラ林やカシ林（照葉樹林）が縮小し、モミ、ツガ、コウヤマキなどの温帯針葉樹林が目立つようになる。現在北摂地方高槻市本山寺に残存（上記3樹種の内、コウヤマキを欠く）するような温帯針葉樹林が、千里丘陵にも分布した可能性もある。また、調査地点は扇状地（あるいは氾濫原？）上に位置し、このような環境に温帯針葉樹林が適応し、分布した可能性もある。

(2) 10011 溝

1) 埋積過程

水深は浅く、上位では腐植の堆積などによって、より湿原的になったと考えられる。

2) 溝内及び溝周囲の植生

⑤、④堆積時期（Ⅱ帯 b 亜帯）：

溝内（あるいは近辺）ではイネ科やカヤツリグサ科が引き続き繁茂するが、溝内ではガマ属やミクリ属、サジオモダカ属の水生物も認められる。溝周辺の荒地にはキク科の草本やシダ類が繁茂する。また、水系内で稲作が行われた可能性も指摘できる。10021 溝の最後の時期に縮小していたナラ林（遷移林あるいは里山）やカシ林（照葉樹林）が千里丘陵に向かい拡大し、モミ、ツガ、コウヤマキなどの温帯針葉樹林が縮小する。一方、谷斜面や湧水地にはスギが目立つようになる。

③、②堆積時期（Ⅱ帯 a 亜帯）：

溝内（あるいは近辺）では引き続きイネ科やカヤツリグサ科の草本が茂り、溝周辺の荒地でもキク科やタデ属の草本やシダ類が繁茂する。林分の広がりに変化は乏しいが、再びモミ、ツガ、コウヤマキなどの温帯針葉樹林が目立つようになる。

(3) 第9-1層

1) 埋積過程

珪藻化石群集Ⅰが対応し、水深が浅く腐植の堆積などによって湿原的であったと考えられる。

2) 溝内及び溝周囲の植生

①堆積時期（Ⅰ帯）：弥生時代中期後半以降、弥生時代末まで

溝内（あるいは近辺）ではイネ科やカヤツリグサ科が引き続き繁茂するが、溝内ではガマ属の水生植物も認められる。溝周辺の荒れ地にはキク科の草本やシダ類が繁茂する。また、水系内で稲作が行われた可能性も指摘できる。ナラ林（遷移林あるいは里山）やカシ林（照葉樹林）は、調査地点からやや離れた場所から千里丘陵に分布し、コウヤマキを著しく減らした温帯針葉樹もこれらに混淆、あるいは温帯針葉樹林を構成していた。一方、谷斜面や湧水地ではスギが林分を成すようになる。

10. まとめ

吹田操車場遺跡・明和池遺跡の発掘調査に伴い、花粉分析及び珪藻分析を行った。考察の結果、特筆すべき事柄を以下にまとめる。

(1) 11-1:10-2 区：

埋土の分析から、谷・溝の埋積過程及び周辺地域での古植生について考察した。

- 1) いずれの溝も水深が浅く、埋積について湿原的な環境へと推移した。
- 2) いずれの時期にも、溝内（あるいは近辺）はイネ科やカヤツリグサ科を中心とする湿地植生に、溝周辺の荒れ地はキク科やシダ類を中心とする草地植生に覆われた。
- 3) 調査地周辺から千里丘陵に掛けての森林植生は、カシ類を要素としモミ、ツガ、コウヤマキなどの温帯針葉樹種を混淆する照葉樹林やナラ類を要素とする遷移林（あるいは里山？）、温帯針葉樹林から成っていたと考えられる。また、一次的（Ⅱ帯の時期）にコウヤマキが卓越し、調査地が立地する扇状地（あるいは氾濫原？）上に分布した可能性も指摘できる。また弥生時代中期後半以降、スギの分布が顕著になる。

(2) 11-1:11-1 区：

土坑内埋土（ブロック土）の分析から、埋土（ブロック土）の給源について考察した。また、給源地での古環境を考察した。

- 1) 11-1:11-1 区の 11013 土坑、11017 土坑、10011 溝上部、10022 谷上部との共通点が多く確認できたが、給源と断定するには至らなかった。
- 2) いずれの給源も水深が浅かった。
- 3) いずれの給源もイネ科やカヤツリグサ科を中心とする湿地植生に覆われ、周辺の荒れ地はキク科やシダ類を中心とする草地植生に覆われた。また、水系内（上流）で稲作が行われていた可能性がある。森林植生は、カシ類を要素としモミ、ツガ、コウヤマキなどの温帯針葉樹種を混淆する照葉樹林やナラ類を要素とする遷移林（あるいは里山？）、温帯針葉樹林から成っていたと考えられる。

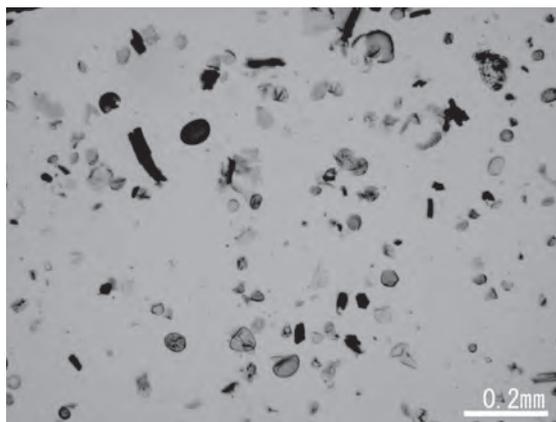
参考文献

- 安藤一男（1990）淡水珪藻による環境指標種群の設定と古環境への応用．東北地理，42，73-88.
- 川崎地質株式会社（1994）玉櫛遺跡の花粉、プラント・オパール分析．池田西遺跡発掘調査概要・Ⅰ－寝屋川池田西町一理化学分析，1-30，大阪府教育委員会.
- 川崎地質株式会社（1995）東奈良遺跡における花粉・珪藻分析．東奈良遺跡－大阪府茨木東奈良第2期第1次住宅建替事業に伴う発掘調査報告書一，53-62，（財）大阪府埋蔵文化財協会.
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，10-20.
- 中村 純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究，13，187-197.

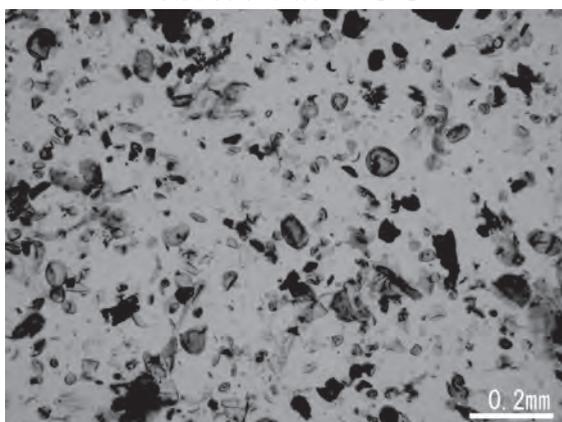
写真4 花粉の顕微鏡写真



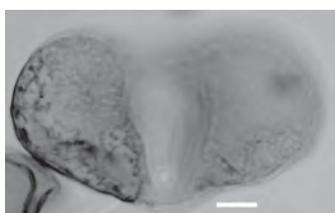
状況写真：試料アゼ②-①



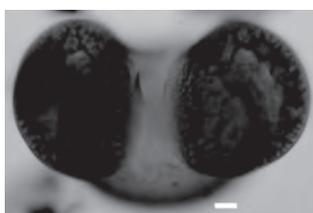
状況写真：試料アゼ②-⑤



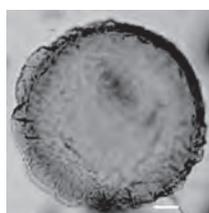
状況写真：試料アゼ②-⑧



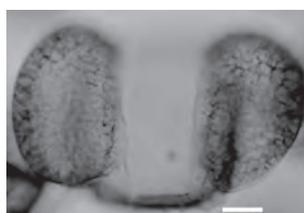
マキ属



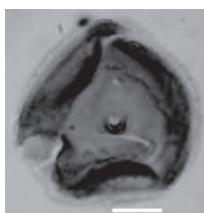
モミ属



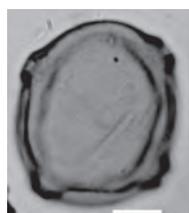
ツガ属



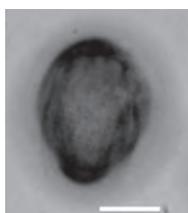
マツ属(複維管束亜属)



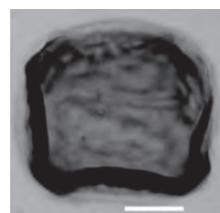
スギ属



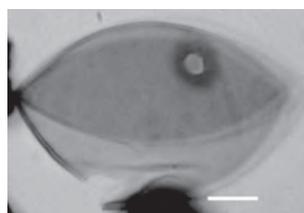
クマシデ属-アサダ属



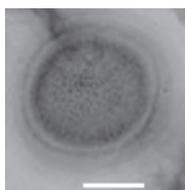
アカガシ亜属



ニレ属-ケヤキ属



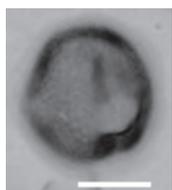
イネ科 (40ミクロン以上)



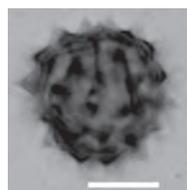
ガマ属



カヤツリグサ科



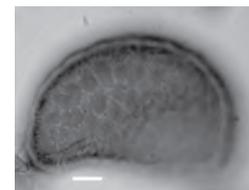
マメ科



キク科



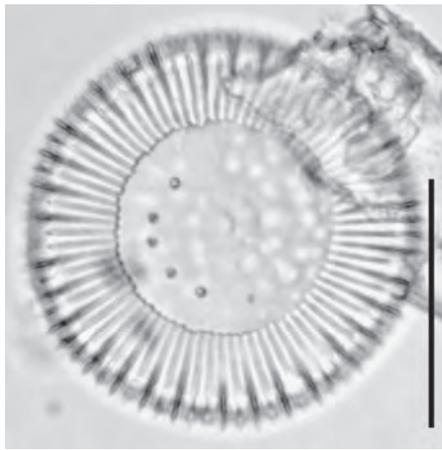
ヨモギ属



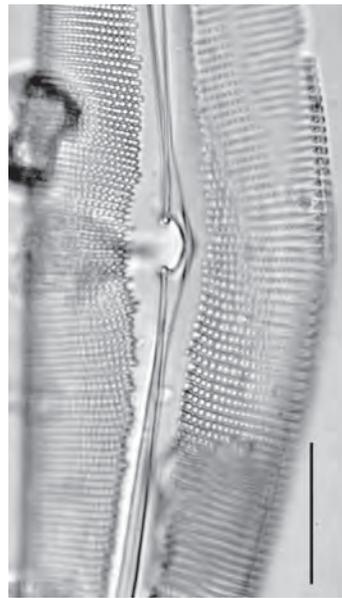
シノブ属

スケールバーは0.01mm

写真5 珪藻の顕微鏡写真



Cyclotella stylorum



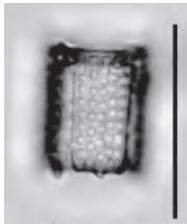
Cymbella aspera



Eunotia biareofera



Eunotia pectinalis
var. *undulata*



Aulacosira granulata



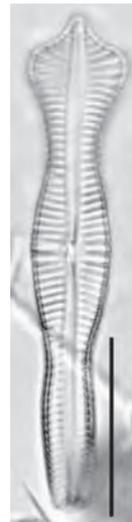
Eunotia praerupta
var. *bidens*



Eunotia monodon



Eunotia pectinalis
var. *undulata*



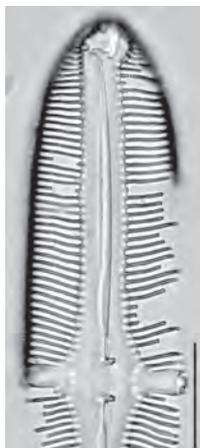
Gomphonema acuminatum



Hantzschia amphioxys



Pinnularia borealis



Pinnularia cardinaliculus



Pinnularia viridis



Pinnularia viridis

スケールバーは 0.02mm

第4節 明和池遺跡 11-1:8-2 区出土埴塼附着物の成分分析

1. 試料と方法

分析対象は、7066 流路より出土した復元口径 8.0cm、器高 7.8cm の埴塼である（表 12、写真 6）。7066 流路は、奈良時代～平安時代初頭頃に機能していたと考えられている。埴塼は、実体顕微鏡下で観察して、茶色の粒状物（a）、赤色のガラス質滓（b）、黒色のガラス質滓（c）を選定し、非破壊での蛍光 X 線分析を実施した。写真 6-1 に分析位置（a～c）を、写真 6-2～4 に a～c の実体顕微鏡写真を示す。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1000 μ A のロジウム（Rh）ターゲット、X 線照射径が 8mm または 1mm、X 線検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であるが、ナトリウム、マグネシウム（Mg）、アルミニウム（Al）といった軽元素は蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感が悪く、精度が低い。

測定条件は、管電圧と一次フィルタの組み合わせが 15kV（一次フィルタ無し）・50kV（一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用）の計 3 条件で、測定時間は各条件 500～1500 s、管電流自動設定、照射径 1mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。定量値の解釈については、大まかな参考値程度にとどめておくべきである。

2. 分析結果

蛍光 X 線分析により得られた半定量値の一覧を表 12 に示す。マグネシウム（MgO）、アルミニウム（Al₂O₃）、ケイ素（SiO₂）、リン（P₂O₅）、硫黄（S₂O₃）、カリウム（K₂O）、カルシウム（CaO）、チタン（TiO₂）、マンガン（MnO）、鉄（Fe₂O₃）といった土器胎土にも多く含まれると考えられる元素のほかに、銅（Cu）、ヒ素（As）、銀（Ag）、スズ（Sn）、アンチモン（Sb）、鉛（Pb）、ビスマス（Bi）が検出された。

3. 考察

埴塼に附着するガラス質滓等からは、銅（Cu）、ヒ素（As）、スズ（Sn）、鉛（Pb）等が検出された。半定量分析であり、かつ非破壊分析での測定であるため、今回の分析結果から厳密な組成比について検討すべきではないが、銅合金に由来すると考えられる。銀（Ag）、アンチモン（Sb）、ビスマス（Bi）といった元素については、鉱石から分離しきれなかった不純物と捉えるのが妥当であろう。位置 a の茶色粒状物は、銅（Cu）の含有量が多く、実体顕微鏡下で観察される色調、質感と併せ、金属粒が亜酸化銅化した物質と考えられる。また、位置 b の赤色ガラス質滓は、ガラス中の金属銅あるいは亜酸化銅によるコロイド着色による外観と推定される。

奈良～平安時代の青銅製品にはヒ素が含まれている例がみられ、国産銅とヒ素との関わりが指摘されている（成瀬，1999）。今回のような銅、ヒ素、スズ、鉛を中心とした組成は、皇朝十二銭（齋藤他，2002）や淳和院跡遺跡出土未製品、金属粒（長谷川他，2002）の分析例において、似たような組成が報告されている。

4. おわりに

奈良時代～平安時代の流路より出土した坩堝に付着するガラス質滓等について蛍光X線分析を行った結果、銅、鉛、スズ、ヒ素を中心とした化学組成と定性的に判断された。坩堝は、銅合金の加工に利用されていたと考えられる。

引用・参考文献

長谷川雅啓・河野益近・西山文隆・内田俊秀（2002）9世紀前半の平安京で使用されたヒ素を含む銅材料について—淳和院跡出土遺物を中心として—。日本文化財科学会第19回大会研究発表要旨集，244-245。

村上 隆（2003）金工技術。日本の美術，443，98p，至文堂。

中井 泉編（2005）蛍光X線分析の実際。242p，朝倉書店。

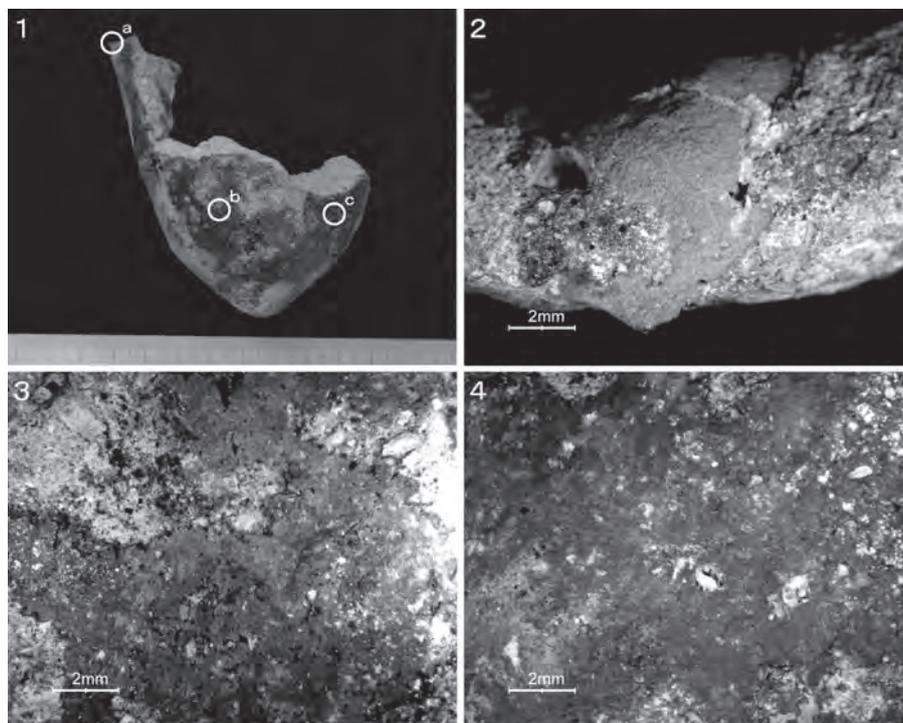
成瀬正和（1999）正倉院鏡を中心とした唐式鏡の化学的調査。杉山 洋編「古代の鏡，日本の美術 393号」：87-98，志文堂。

齋藤 努・高橋照彦・西川裕一（2002）古代銭貨に関する理化学的研究—「皇朝十二銭」の鉛同位体比分析および金属組成分析—。IMES Discussion Paper J-Series 2002-J-30，日本銀行金融研究所。

表12 半定量分析結果

| 位置 | 色調 | MgO | Al ₂ O ₃ | SiO ₂ | P ₂ O ₅ | SO ₃ | K ₂ O | CaO | TiO ₂ | MnO | Fe ₂ O ₃ | Cu | As | Ag | Sn | Sb | Pb | Bi |
|----|----|------|--------------------------------|------------------|-------------------------------|-----------------|------------------|------|------------------|------|--------------------------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| a | 茶 | 0.95 | — | 4.71 | 1.38 | 1.98 | 0.60 | 0.38 | 0.09 | — | 0.05 | 88.37 | 0.52 | 0.40 | 0.14 | 0.01 | 0.24 | 0.18 |
| b | 赤 | 0.94 | 12.59 | 43.85 | 0.80 | 12.93 | 6.84 | 6.90 | 0.56 | 0.26 | 7.53 | 6.42 | 0.10 | 0.01 | 0.05 | — | 0.23 | — |
| c | 黒 | — | 8.16 | 15.14 | 0.69 | 38.14 | 0.84 | 0.67 | 0.39 | 0.04 | 7.80 | 25.38 | 0.37 | 0.09 | 0.85 | 0.01 | 1.38 | 0.04 |

写真6 坩堝付着物の成分分析



1. 対象試料写真と観察・測定部位 (a～c)
2. 位置 a 実体顕微鏡写真
3. 位置 b 実体顕微鏡写真
4. 位置 c 実体顕微鏡写真

第5節 吹田操車場遺跡検出群集土坑周辺粘土と明和池遺跡出土須恵器の胎土分析

1. 試料

試料は、吹田操車場遺跡で検出された群集土坑周辺から採取された粘土4点と、明和池遺跡7066流路より出土した須恵器片10点の合計14点である。粘土試料4点には原土1～原土4までの試料番号が付され、須恵器片には、試料番号5～14までの試料番号が付されている。須恵器の内訳は、6世紀(TK43型式)に比定されている坏身が8点、6世紀とされている甕が2点である。

各試料の採取地区、器種、年代および肉眼観察結果などを一覧にして表13に示す。

2. 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法とがある。前者は切片による薄片作製観察などが主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている方法である。薄片作製観察は、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点があり、胎土中における砂粒の量はもちろんのこと、その粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報は多い。

この情報をより客観的な方法で表現したものとして、松田ほか(1999)の方法がある。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩

表13 試料一覧

| 試料番号 | 遺跡名 | 採取地区 | 種類 | 年代 | 色調(上段は外面、下段は内面) | 肉眼観察所見(上段は外面、下段は内面) |
|------|-------------|--------------------|-------|-----------|-----------------------------|--|
| 原土1 | 吹田操車場遺跡09-3 | 1-2区 | 粘土 | | 10YR5/4にぶい黄褐 | 砂粒は見られない。長さ5～10mmの管状酸化鉄散在。 |
| 原土2 | 吹田操車場遺跡10-2 | 2-1-2区 | 粘土 | | 2.5Y6/2灰黄 | 砂粒は見られない。管状酸化鉄多く含まれる。 |
| 原土3 | 吹田操車場遺跡11-1 | 9-2区 | 粘土 | | 2.5Y7/2灰黄 | 砂粒は見られない。うん管状酸化鉄散在。 |
| 原土4 | 吹田操車場遺跡12-1 | 2-3区 | 粘土 | | 2.5Y6/2灰黄 | 砂粒は見られない。長さ1～2mmの管状酸化鉄中量散在。 |
| 5 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | 2.5Y8/2灰白 7.5YR6/3にぶい褐 | 径1mm以下の白色粒微量、径2mm前後の灰白色岩片極めて微量。同上。 |
| 6 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | 2.5Y7/2灰 2.5Y8/1灰白 | 径1mm以下の白色粒微量、径1mm前後の石英粒極めて微量。径1mm以下の白色粒微量、径1mm以下の灰色岩片極めて微量。 |
| 7 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | N6/0灰 N6/0灰 | 径1mm以下の白色粒中量。 径1mm以下の白色粒少量。 |
| 8 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | N3/0暗灰 N5/0灰 | 径1mm以下の白色粒多量、径1.5～4mmの白色岩片微量。 径1mm以下の白色粒少量、径1.5～3mmの白色岩片微量。 |
| 9 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | 10Y7/2にぶい黄橙 7.5YR6/3にぶい褐 | 径0.5mm以下の白色粒・石英微量。 径0.5mm以下の白色粒極めて微量、径2～3mmの白色岩片極めて微量。 |
| 10 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | N4/0灰 N7/0灰白 | 径1mm以下の白色粒中量、径2mm前後の白色岩片極めて微量。同上。 |
| 11 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | N6/0灰 N6/0灰 | 径1mm以下の白色粒微量。 径1mm以下の白色粒中量、径1～2mmの白色岩片極めて微量。 |
| 12 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器杯身 | 6世紀(TK43) | N6/0灰 N6/0灰 | 径0.5mm以下の白色粒少量。 径1mm以下の白色粒少量。 |
| 13 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器甕 | 6世紀 | N4/0灰 2.5Y8/1灰白 | 砂粒目立たず。 径1～1.5mmの黒色粒少量、径1mm前後の白色粒極めて微量。 |
| 14 | 明和池遺跡11-1 | 8-1区7066流路(8016流路) | 須恵器甕 | 6世紀 | N5/0灰 N5/0灰 | 径1mm以下の白色粒少量、径0.5mm以下の石英粒極めて微量。 径1mm以下の白色粒少量。 |

石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

3. 結果

薄片観察結果を表14～16、図357～361に示す。以下に、鉱物片および岩石片の種類構成、砂分全体の粒径組成、碎屑物・基質・孔隙における碎屑物の割合の順に述べる。

(1) 鉱物片・岩石片の種類構成および推定焼成温度（表14～16、図357、358）

1) 粘土試料

いずれの試料も、石英の鉱物片を多く含み、少量のカリ長石と斜長石の鉱物片、微量のチャート、少量または微量の火山ガラスを含む。火山ガラスはいずれも薄手平板状のバブル・ウォール型である。また4点の試料のうち、3点には微量の白雲母の鉱物片が含まれ、2点には不透明鉱物の鉱物片と頁岩、多結晶石英、花崗岩類の各岩石片が含まれる。さらに原土3には凝灰岩の岩石片も微量認められる。凝灰岩はガラス質である。

2) 須恵器片

全試料を通じて、石英の鉱物片を多く含み、少量の斜長石の鉱物片とチャートおよび多結晶石英の各岩石片を含む。これら以外の鉱物片および岩石片の産状については、試料ごとにやや異なる傾向が見出せる。試料番号5、6、9、13には、カリ長石の鉱物片とバブル・ウォール型火山ガラスが微量～少量含まれるが、試料番号7、8、10、11、12、14の各試料には、カリ長石も火山ガラスもほとんど含まれない。また、試料番号5、6、11の3点には花崗岩類の岩石片が微量含まれ、試料番号7、12、13の3点には凝灰岩の岩石片が微量含まれる。凝灰岩はガラス質である。さらに、試料番号14には流紋岩・デイサイトの岩片が微量含まれる。流紋岩・デイサイトは結晶質である。

3) 推定焼成温度

五十嵐（2007）は、粘土の焼成に関して、その温度条件と化学組成に対応した鉱物の晶出・溶融・非晶質化などの現象は、焼成温度の推定指針として適用できるとしている。ここでは、その指針となる現象に従って、各試料の焼成温度を以下のように推定した。

900℃±：基質を構成する粘土鉱物はほとんど非晶質化しておらず、長石類の溶融もほとんど認められない。これに相当する試料は、試料番号5、6、9、13の4点である。

1120～1150℃：基質を構成する粘土鉱物の非晶質化はほとんど見られないが、長石類には微弱的な溶融が認められ、斜長石には微細なムライトの生成も認められる。これに相当する試料は、試

表 14 薄片観察結果（1）

| 試料番号 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | | |
|------|---|---------|------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|------|------|-------|------|----|----|-----|-----------|-------|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|----|------|-------|
| | | 鉱物片 | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 緑簾石 | 白雲母 | 黒雲母 | ジルコン | チタン石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | | 花崗岩類 | 脈石英 | 変質岩 | 珪化岩 | 火山ガラス | 植物片 | 粘土塊 | 珪藻 | 海綿骨針 | 植物珪酸体 |
| 原土1 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 粗粒砂 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 3 |
| | 中粒砂 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 7 |
| | 細粒砂 | 8 | | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | 13 |
| | 極細粒砂 | 7 | 2 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 13 |
| | 粗粒シルト | 13 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 17 |
| | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1384 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 185 |
| 備考 | 基質は淡褐色粘土鉱物、セリサイト、水酸化鉄などで埋められる。火山ガラスはバブルウォール型が主体。孔隙のほとんどは試料乾燥時のひび割れ。酸化角閃石あり。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 原土2 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 4 |
| | 中粒砂 | 7 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | 11 |
| | 細粒砂 | 14 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | 4 | 1 | | | | | 23 |
| | 極細粒砂 | 20 | 2 | 3 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 27 |
| | 粗粒シルト | 25 | 3 | 5 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 37 |
| | 中粒シルト | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1951 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 90 |
| 備考 | 基質は淡褐色粘土鉱物、セリサイト、水酸化鉄などで埋められる。火山ガラスはバブルウォール型が主体。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 原土3 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 中粒砂 | 8 | 6 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | 19 |
| | 細粒砂 | 38 | 9 | 9 | | | | 1 | | | 1 | 2 | | | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | | 64 |
| | 極細粒砂 | 43 | 7 | 12 | 1 | | | | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 66 |
| | 粗粒シルト | 30 | 1 | 5 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 43 |
| | 中粒シルト | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1830 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 90 |
| 備考 | 基質は淡褐色粘土鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブルウォール型が主体。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 原土4 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 粗粒砂 | 8 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| | 中粒砂 | 12 | 2 | 3 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 19 |
| | 細粒砂 | 14 | 6 | 3 | | | | 1 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | 27 |
| | 極細粒砂 | 43 | 5 | 8 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 57 |
| | 粗粒シルト | 24 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28 |
| | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1845 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 142 |
| 備考 | 基質は淡褐色粘土鉱物、セリサイト、水酸化鉄などで埋められる。火山ガラスはバブルウォール型が主体。孔隙のほとんどは試料乾燥時のひび割れ。角閃石あり。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 粗粒砂 | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 中粒砂 | 14 | 1 | | | | | | | | | 3 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 19 |
| | 細粒砂 | 11 | 2 | 3 | | | | | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | 1 | | | | | | 22 |
| | 極細粒砂 | 17 | 1 | 2 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 22 |
| | 粗粒シルト | 21 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 23 |
| | 中粒シルト | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 502 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| 備考 | 基質は淡褐色粘土鉱物、雲母粘土鉱物などによって埋められる。長石類の溶融は認められない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表15 薄片観察結果(2)

| 試料番号 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | | |
|------|---|---------|------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|------|------|-------|------|-----|----|-----|-----------|-------|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|----|------|-------|
| | | 鉱物片 | | | | | | | 岩石片 | | | | | その他 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 緑簾石 | 白雲母 | 黒雲母 | ジルコン | チタン石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | | 花崗岩類 | 脈石英 | 変質岩 | 珪化岩 | 火山ガラス | 植物片 | 粘土塊 | 珪藻 | 海綿骨針 | 植物珪酸体 |
| 6 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 中粒砂 | 18 | 7 | 1 | | | 1 | | | | | 5 | 1 | | | | 5 | 1 | | | | | 1 | | | | | | 40 |
| | 細粒砂 | 30 | 3 | 11 | | | | | | | | 5 | | | | | | 2 | | | | | 3 | | | | | | 54 |
| | 極細粒砂 | 15 | 2 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 24 |
| | 粗粒シルト | 18 | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | 4 | 30 |
| | 中粒シルト | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 617 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| 備考 | 基質はややシルト質で、淡褐色粘土鉱物、石英、長石類などによって埋められる。長石類の溶融は認められない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 中粒砂 | 18 | 3 | 6 | | | | | | | | 6 | 1 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | 36 |
| | 細粒砂 | 41 | 2 | 14 | | | | | | | | 4 | | | | | 6 | | | | | | | | | | | | 67 |
| | 極細粒砂 | 31 | | 16 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 49 |
| | 粗粒シルト | 18 | | 5 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 24 |
| | 中粒シルト | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 535 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| 備考 | 基質はシルト質であり、石英、長石類、不透明鉱物、淡褐色粘土鉱物などによって埋められる。長石類のリムは、微弱に溶融している。ごく一部の斜長石には、きわめて微細なムライトが生成している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | 5 | | | | | | | | | | 4 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 10 |
| | 中粒砂 | 13 | | 1 | | | | | | | | 4 | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 22 |
| | 細粒砂 | 20 | | 1 | | | | | | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 24 |
| | 極細粒砂 | 13 | | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 16 |
| | 粗粒シルト | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 379 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 |
| 備考 | 基質の淡褐色粘土は少量残存しているが、非晶質化が進んでいる。長石類は著しく溶融しており、針状ムライトが生成している。基質、岩片の溶融も認められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 粗粒砂 | 2 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 中粒砂 | 8 | 3 | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | 3 | | | | | | 1 | | | | | | 18 |
| | 細粒砂 | 30 | 2 | 8 | | | | | | | | 3 | | | | | 6 | | | | | | 2 | | | | | | 51 |
| | 極細粒砂 | 28 | | 9 | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 42 |
| | 粗粒シルト | 14 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 17 |
| | 中粒シルト | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 605 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| 備考 | 基質はややシルト質で、黒雲母を主とする雲母鉱物、酸化鉄、石英、長石類などで構成される。酸化角閃石あり。長石類には溶融組織は認められない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 極粗粒砂 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 粗粒砂 | 4 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 中粒砂 | 19 | | 3 | | | | | | | | 3 | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | 30 |
| | 細粒砂 | 31 | | 1 | | | | | | | | 4 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 37 |
| | 極細粒砂 | 14 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 |
| | 粗粒シルト | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 436 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| 備考 | 基質の淡褐色粘土は少量残存しているが、非晶質化が進んでいる。長石類は著しく溶融しており、針状ムライトが生成している。基質、岩片の溶融も認められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 16 薄片観察結果 (3)

| 試料番号 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | | | |
|------|---|---------|------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|------|------|-------|------|----|----|-----|-----------|-------|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|----|------|-------|----|
| | | 鉱物片 | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 緑簾石 | 白雲母 | 黒雲母 | ジルコン | チタン石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | | 花崗岩類 | 脈石英 | 変質岩 | 珪化岩 | 火山ガラス | 植物片 | 粘土塊 | 珪藻 | 海綿骨針 | 植物珪酸体 | |
| 11 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | 2 | |
| | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 中粒砂 | 7 | | 1 | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | |
| | 細粒砂 | 9 | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 14 | |
| | 極細粒砂 | 10 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | |
| | 粗粒シルト | 8 | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | |
| | 中粒シルト | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 538 | | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 19 | | |
| 備考 | 基質はほとんど非晶質化している。長石類は著しく熔融しており、針状ムライトが生成している。基質、岩片の熔融も認められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 粗粒砂 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 中粒砂 | 25 | 1 | 3 | | | | | | | | 9 | | 1 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 43 |
| | 細粒砂 | 31 | | 12 | | | | | | | | 7 | | 1 | 1 | | | | | | | | 2 | | | | | | | 54 |
| | 極細粒砂 | 28 | | 4 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 33 |
| | 粗粒シルト | 21 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 22 |
| | 中粒シルト | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 585 | | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | | |
| 備考 | 基質はシルト質であり、石英、長石類、不透明鉱物、淡褐色粘土鉱物などによって埋められる。長石類のリムは、微弱に熔融している。ごく一部の斜長石には、きわめて微細なムライトが生成している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 粗粒砂 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 中粒砂 | 6 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | 12 |
| | 細粒砂 | 24 | | 4 | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 11 | | | | | | | 41 |
| | 極細粒砂 | 37 | 2 | 3 | | | | | | | 1 | 2 | | | | 2 | | | | | | | 5 | | | | | | | 52 |
| | 粗粒シルト | 57 | | 8 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 68 |
| | 中粒シルト | 19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 21 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 958 | | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 26 | | |
| 備考 | 基質はシルト質で、淡褐色粘土鉱物、石英、長石類などによって埋められる。長石類の熔融は認められない。角閃石あり。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 極粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 |
| | 粗粒砂 | 9 | | 1 | | | | | | | | 2 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 15 |
| | 中粒砂 | 33 | | 9 | | | | | | | 4 | | | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 50 |
| | 細粒砂 | 35 | | 11 | | | | | | | 11 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | 61 |
| | 極細粒砂 | 27 | | 7 | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 39 |
| | 粗粒シルト | 24 | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 29 |
| | 中粒シルト | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 637 | | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 14 | | |
| 備考 | 基質はシルト質であり、石英、長石類、不透明鉱物、淡褐色粘土鉱物などによって埋められる。長石類のリムは、微弱に熔融している。斜長石には、微細なムライトが生成している。流紋岩は結晶質。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

料番号 7、12、14 の 3 点である。

1200℃±：基質を構成する粘土鉱物の非晶質化が進んでおり、長石類はほとんどが熔融し、針状ムライトが生成している。これに相当する試料は、試料番号 8、10、11 の 3 点である。

(2) 砂分全体の粒径組成 (図 359・360)

各試料のモードを示す粒径をみると、粘土試料では極細粒砂または粗粒シルトであり、須恵器片試料では、細粒砂が多い (図 359)。詳細に見れば、試料によってモードとなる粒径だけではなく、粒径分

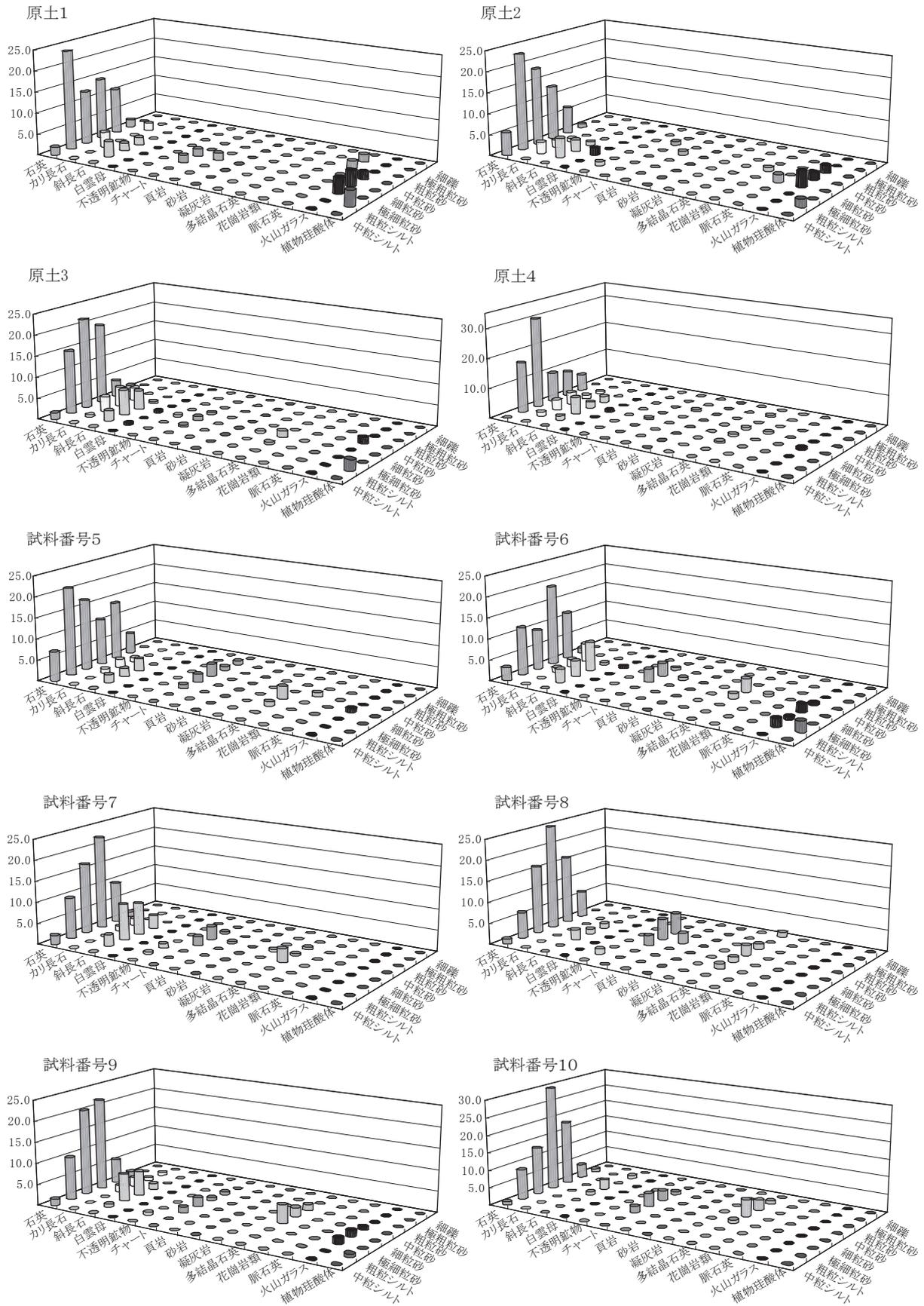


図 357 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (1)

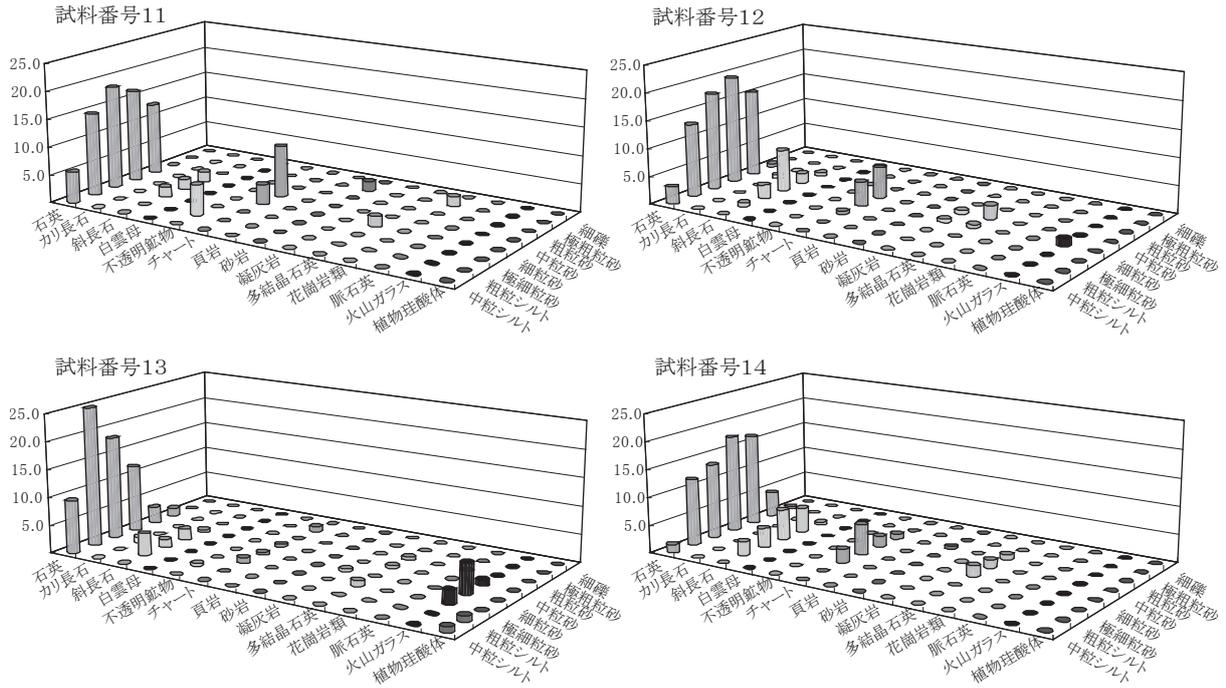


図 358 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (2)

布が細粒側に偏った組成や粗粒側に偏った組成なども認められる。このような傾向をより明確に捉える目的で、細粒砂より粗粒側の粒径（細礫、極粗粒砂、粗粒砂、中粒砂）と細粒砂より細粒側の粒径（極細粒砂、粗粒シルト、中粒シルト）に分けて、それぞれの割合を軸として散布図に示した（図 360）。

散布図では、右下の領域ほど細粒傾向が強く、左上の領域ほど粗粒傾向が強いことを示している。最も粗粒傾向が強い試料は、試料番号 8 と 10 の 2 点であり、粒径組成では細粒砂をモードとするが、中粒砂も同程度に多い。試料番号 14、12、6 の 3 点も、試料番号 8 と 10 に近い粗粒傾向と粒径組成を示す。試料番号 11 と 5 は上述した 5 点の試料に比べれば細粒傾向であると言える。それぞれモードとなる粒径は異なるが、両試料ともに中粒砂から粗粒シルトまでの各粒径の割合の差が小さく、ヒストグラムの形状はよく似ている。さらに細粒傾向を示す試料は、試料番号 7 と 9 であるが、これらの粒径組成は、細粒砂をモードとし、次いで極細粒砂の割合が高いことが特徴である。

粘土試料 4 点の粒径組成は、上述した 9 点の須恵器試料よりも細粒傾向を示す。ヒストグラムの形状からは、原土 1 と原土 2 が類似し、原土 3 と原土 4 はそれぞれ異なるが、散布図上では、原土 1 と原土 4 が近い位置にあり、原土 2 と原土 3 はそれぞれ離れた位置にある。

須恵器試料の粒径組成では、試料番号 13 が特異である。散布図上では、上述したいずれの粘土試料よりも細粒傾向の強い位置にあり、粒径組成をみても粗粒シルトをモードとし、次いで極細粒砂が多いという他の須恵器試料には認められない組成を示している。

(3) 碎屑物・基質・孔隙における碎屑物の割合 (図 361)

碎屑物の割合に注目すると、粘土試料は、いずれも 10% 未満の比較的低い値を示し、これに対して須恵器試料は、15～25% の比較的高い値を示す。ただし、試料番号 11 のみは、粘土試料並の 10% 未満である。なお、須恵器試料の中では、碎屑物の割合で区分することはできない。

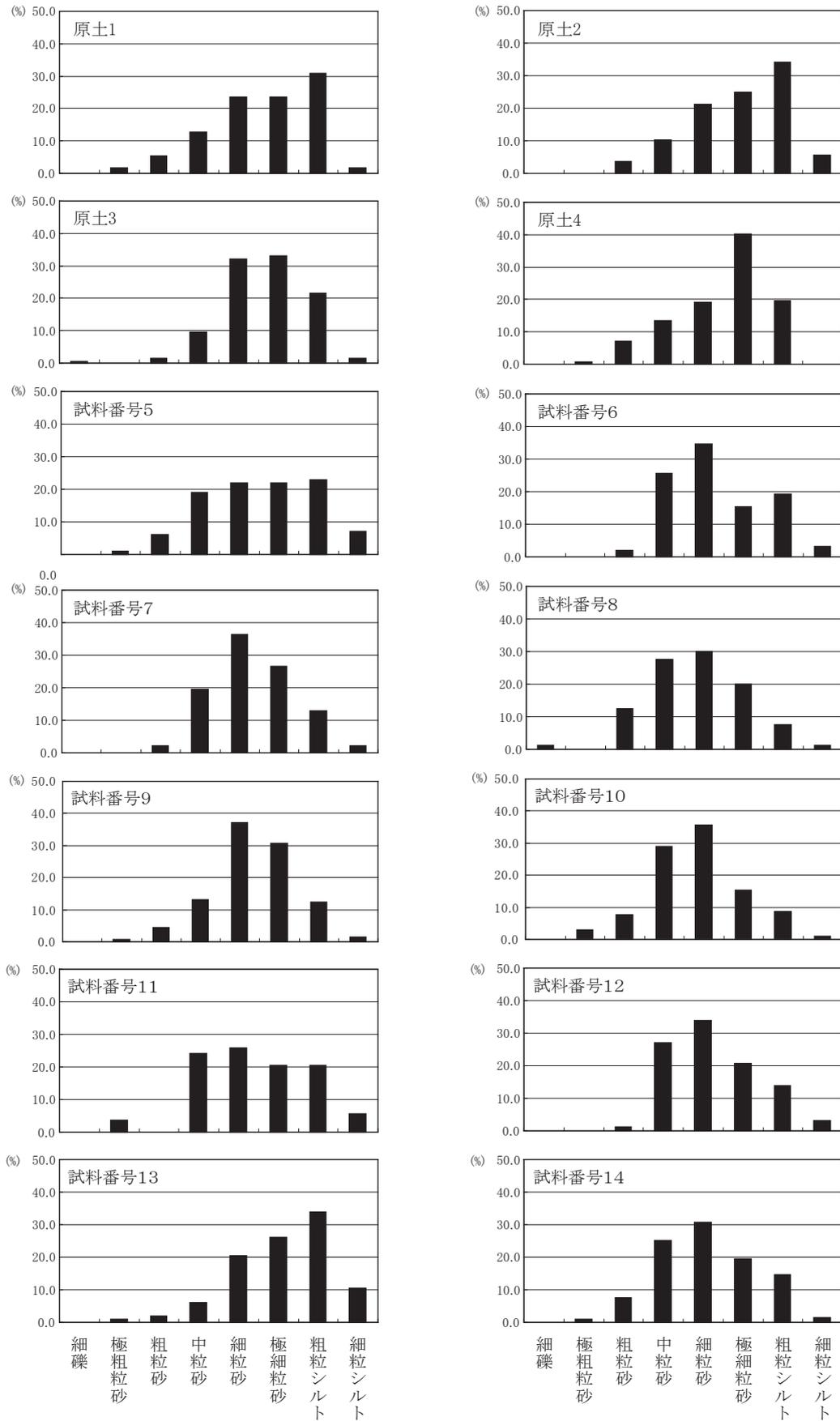
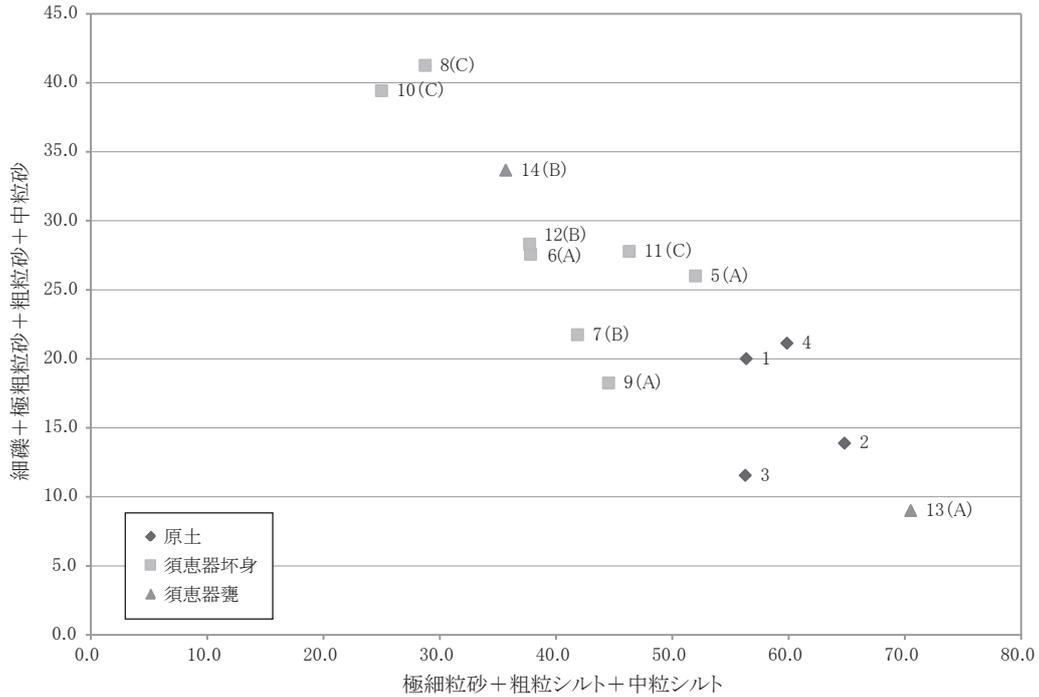


図 359 砂の粒径組成



図中の数字は試料番号、アルファベットは焼成温度 (A:900°C±、B:1120 ~ 1150°C、C:1200°C±)

図 360 砂の粒径組成散布図

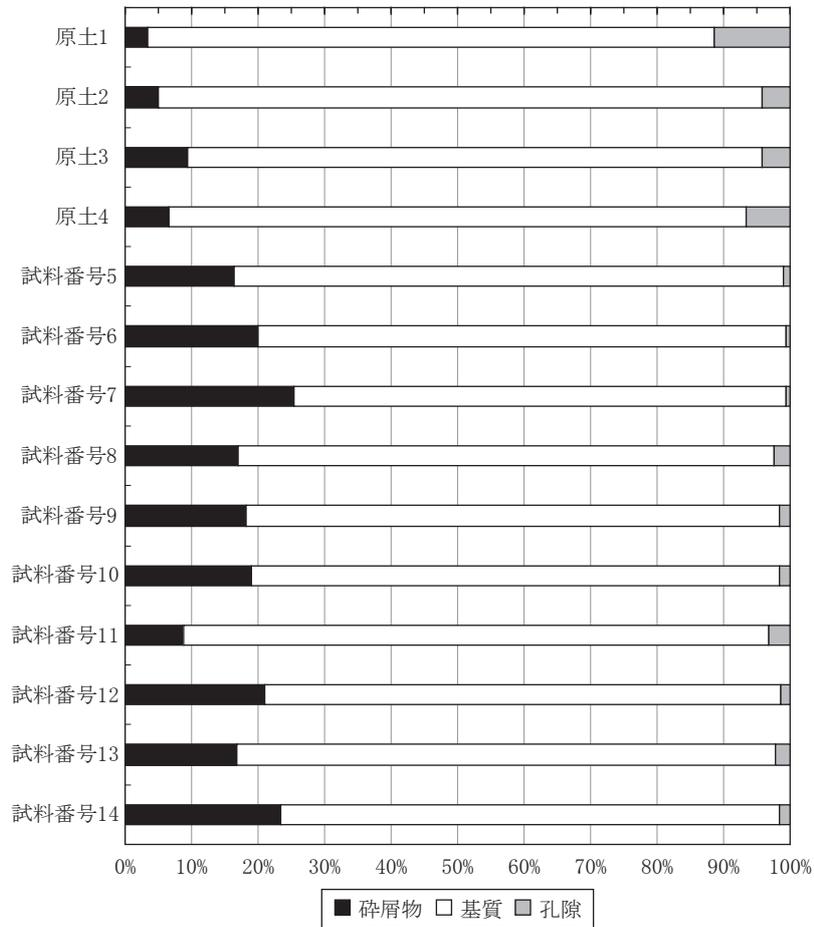


図 361 碎屑物・気質・孔隙の割合

4. 考察

(1) 粘土試料と須恵器試料の胎土との関係について

粘土試料の採取された粘土層中に含まれる碎屑物は、吹田操車場遺跡の地理的位置から、西側の千里丘陵や淀川水系の河川によって運ばれた大阪平野北東部周辺の丘陵・山地を構成する堆積物に由来する。千里丘陵を構成する堆積物である大阪層群は、第四紀更新世前期～中期に堆積した主に河成（一部に湖沼成や海成もある）の砂礫層や泥層からなり、複数の火山灰層が狭在している（宮地ほか, 2001）。また、大阪層群中の礫層の礫種は、どの地域においても大抵はチャートを主体としている（宮地ほか, 2001）。大阪平野北東部周辺の丘陵・山地の地質は、河田ほか（1986）や日本地質学会編（2009）などにより概観される。丘陵については上述した千里丘陵と同様の大阪層群からなり、山地については、北摂山地は主に古生代から中生代にかけて形成されたチャートや砂岩、頁岩などの堆積岩類からなる丹波帯と呼ばれる地質により構成され、一部に茨木複合花崗岩体と呼ばれる花崗岩類からなる地質が分布する。一方の生駒山地北部には、白亜紀に形成された領家帯の花崗岩類が分布している。

粘土試料に含まれる碎屑物のほとんどは、石英の鋳物片であり、このことは物理的にも化学的にも壊れにくい碎屑物が残った結果すなわち河川下流域の堆積物における鋳物組成の特徴を示していると考えられる。背景となる地質を示す岩石片の種類構成をみると、チャートや頁岩の堆積岩類と花崗岩類が混在する試料が認められることは、上述した地質学的背景とよく一致している。さらに火山ガラスについては、おそらく背後の千里丘陵中の火山灰に由来する碎屑物が混在していると考えられる。なお、原土3に微量ではあるが確認された凝灰岩は、ガラス質であり結晶質ではないことから、有馬層群などのいわゆる古期火山岩類に由来するものではなく、新第三紀や第四紀更新世の火山噴出物に由来すると考えられる。大阪平野北東部周辺には、それに相当する凝灰岩が広域に分布するという地質は認められないが、おそらく大阪層群中の火山灰層の破砕片などに由来する可能性がある。

一方、須恵器胎土中に含まれる碎屑物の種類およびその構成比は、土器の材料として使用された砂や粘土が採取された場所の地質学的背景を反映している。ただし、須恵器の胎土の場合は、土師器以前の土器とは異なる事情が存在する。それは1000℃前後の比較的高い焼成温度である。結果の項で述べたように、焼成温度によっては、溶融消失してしまう鋳物や岩石片などがあるために、出現する鋳物片や岩石片の量比の評価には焼成温度を考慮する必要がある。今回の須恵器試料では、900℃±、1120～1150℃、1200℃±の3段階の焼成温度が推定されたが、これらのうち、900℃±の試料については、焼成によって消失した鋳物片や岩石片などはほとんどないので、その組成は焼成前の素地土における組成をほぼ保っていると考えられる。そこでまずは900℃±に分類された4点の須恵器試料（試料番号5、6、9、13）について、粘土試料との比較を行って見たい。

鋳物片と岩石片の種類構成を比べてみると、石英の鋳物片を主体とすること、カリ長石と斜長石の量比がほぼ同様であること、チャートの岩石片とバブル・ウォール型火山ガラスを比較的多く含むことが共通し、試料によっては微量ながらも凝灰岩（いずれもガラス質である）または花崗岩類の岩石片を含むことまで共通する。次に、粒径組成と碎屑物の量を比べてみると、試料番号5、6、9の3点は、粘土試料に比べて明らかに粗粒傾向を示し、碎屑物の量も多い。試料番号13は、粘土試料に近い粒径組成であるが、碎屑物の量は粘土試料よりも多く、他の須恵器試料と同等である。以上の結果から、4点の須恵器試料の材料として原土1～原土4までのいずれかの粘土が使用された可能性はあると考えられる。ただし、多くの場合、採取された粘土をそのまま素地土にしているのではなく、周辺で採取された砂を

加えることによって須恵器の素地土としていた可能性がある。

焼成温度が 1120～1150℃および 1200℃±の試料 6 点（試料番号 7、8、10、11、12、14）については、鉍物片と岩石片の種類構成において、カリ長石と火山ガラスがほとんど含まれないという特徴がある。焼成温度を考慮すると、これらの試料では、カリ長石と火山ガラスが焼成によって熔融消失している可能性が高いと考えられる。また、試料によっては凝灰岩または花崗岩類を微量含むものもあることから、焼成前の素地土における鉍物片・岩石片の種類構成は、焼成温度 900℃±の須恵器試料および原土 1～4 と同様であった可能性が高い。粒径組成や碎屑物の量比に関する関係も焼成温度 900℃±の試料と同様であることから、後述するように試料番号 14 を除いた試料 5 点は、原土 1～原土 4 のいずれかを使用し、砂を加えて素地土とした可能性があると考えられる。

試料番号 14 については、粘土試料にも他の須恵器試料にも認められなかった結晶質の流紋岩・デイサイトの岩石片が含まれている。前述したようにそのような岩石片の由来する地質は大阪平野北東部周辺の山地にも認められない。したがって、試料番号 14 の素地土は他の試料とは異なり、原土 1～4 は使用されていない可能性がある。なお、結晶質の流紋岩・デイサイトからなる地質は、周辺では猪名川や武庫川の上流域である北摂山地西部に有馬層群と呼ばれる地質が分布している。このことから、試料番号 14 の材料採取地として、伊丹台地やその周辺域を考えることもできる。

（2）須恵器試料の胎土の違いについて

今回の須恵器試料では、胎土中の鉍物片・岩石片の種類構成において共通性は高かったものの、焼成温度と粒径組成においては有意とされる差異を認めることができた。図 360 には焼成温度と粒径組成という 2 つの指標を組み合わせた各試料の特性も示してみた。この図からは、須恵器坏身の試料番号 8 と 10 は、ともに焼成温度が高く、粒径組成も粗粒傾向が最も高いことで他の坏身試料とは区別される可能性があることや、須恵器甕の試料番号 13 と 14 では焼成温度も粒径組成も互いに異なり、坏身とも異なっている状況などが示唆される。一方で試料番号 8 と 10 以外の須恵器坏身試料については、焼成温度の違いと粒径組成の違いとが必ずしも整合していない状況が読み取れる。

現時点では、今回認められた須恵器試料間の胎土における焼成温度と粒径組成の違いが、器種や窯、窯の年代など製作に関わる何らかの事情の違いを反映しているかどうかは判断できない。あるいは意図しない単なる製品の品質のばらつきである可能性もある。今後も様々な出土状況、年代、器種など明瞭な考古情報に基づいた試料の分析事例を蓄積することによって、須恵器の胎土における焼成温度と粒径組成の違いが示すものを見極められることが期待される。

引用文献

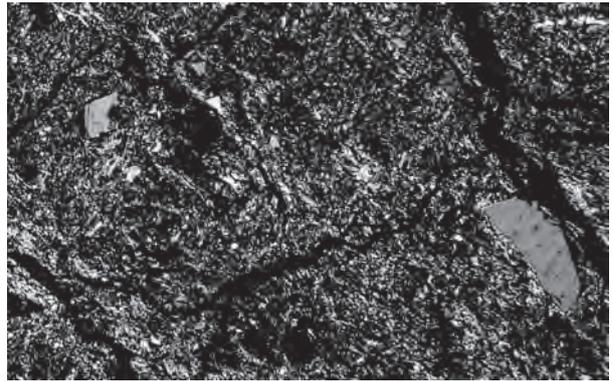
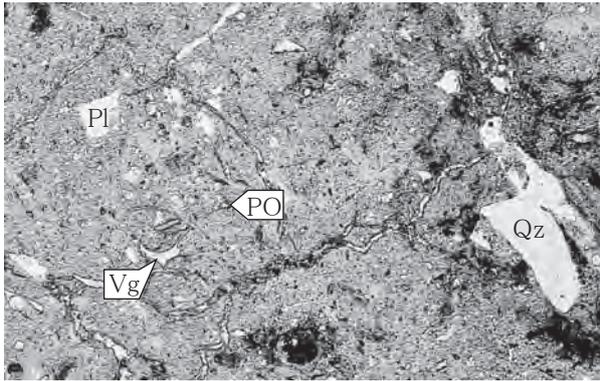
河田清雄・宮村 学・吉田史郎, 1986, 20 万分の 1 地質図幅 京都及大阪. 地質調査所.

松田順一郎・三輪若葉・別所秀高, 1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察—岩石学的・堆積学的による—. 日本文化財科学会第 16 回大会発表要旨集, 120-121.

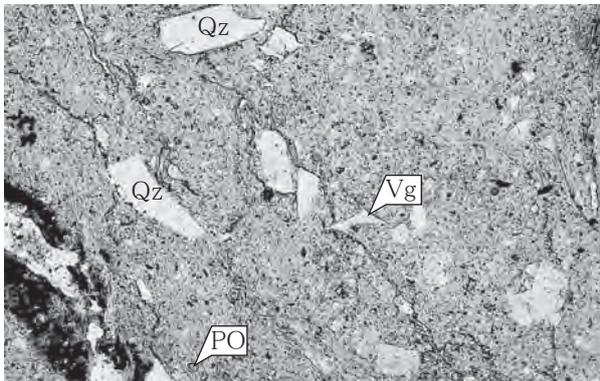
宮地良典・田結庄良昭・寒川 旭, 2001, 大阪東北部地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 図幅), 地質調査所, 130p.

日本地質学会編, 2009, 日本地方地質誌 5 近畿地方. 朝倉書店, 453p.

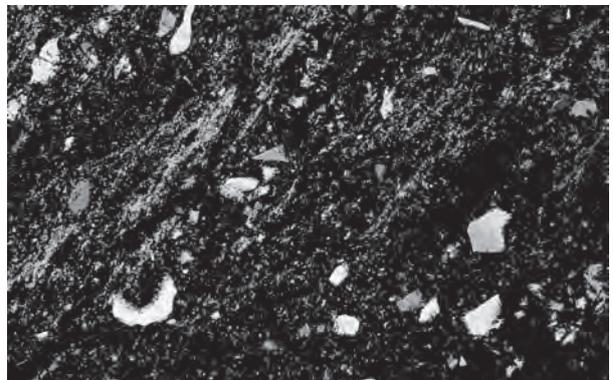
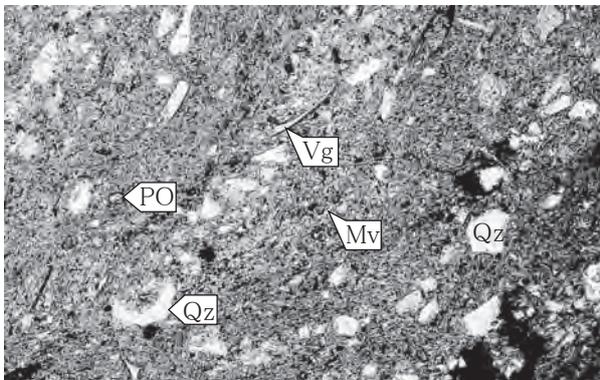
写真7 胎土薄片 (1)



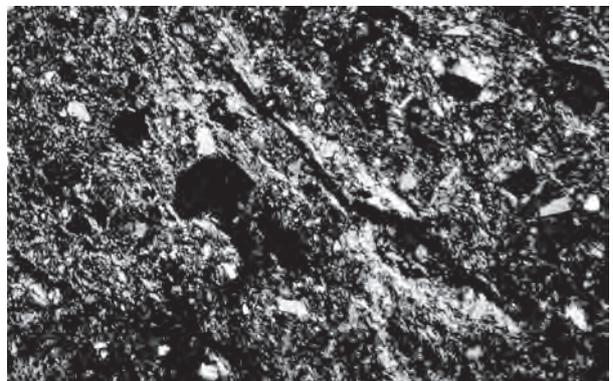
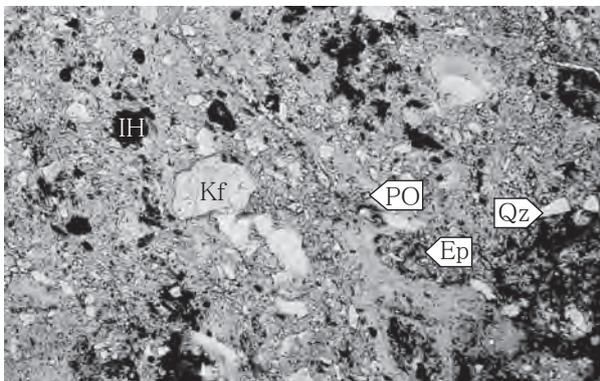
1. 原土1 吹田操車場遺跡09-3:1-2区 2010.03.18採取



2. 原土2 吹田操車場遺跡10-2:2-1-2区 2011.01.20採取



3. 原土3 吹田操車場遺跡11-1:9-2区 2011.11.18採取

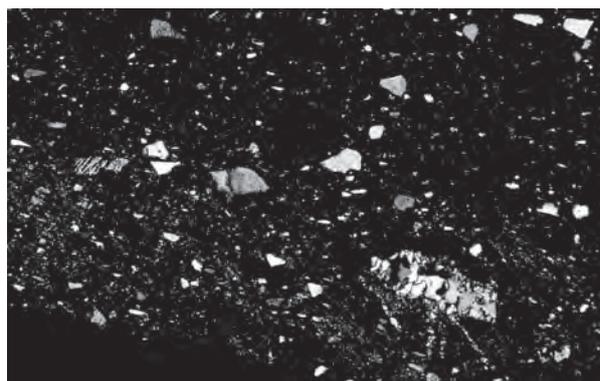
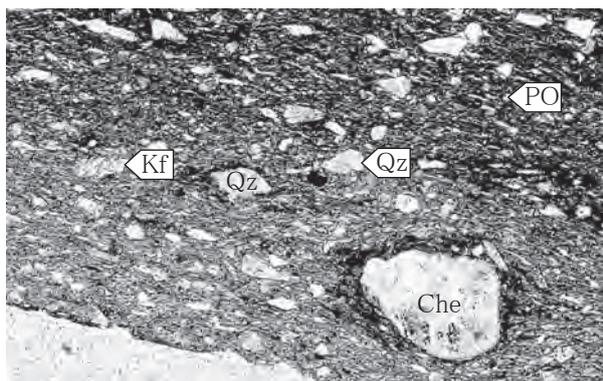


4. 原土4 吹田操車場遺跡12-1:2-3区 2012.12.03採取

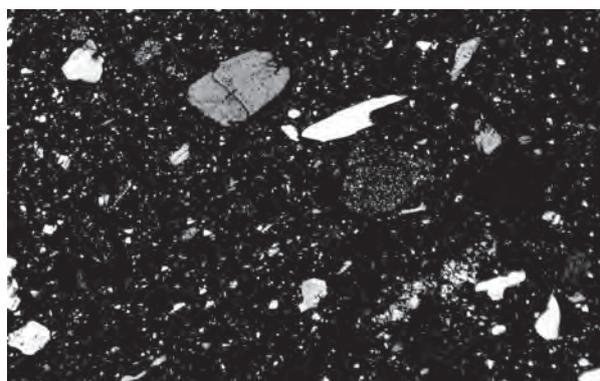
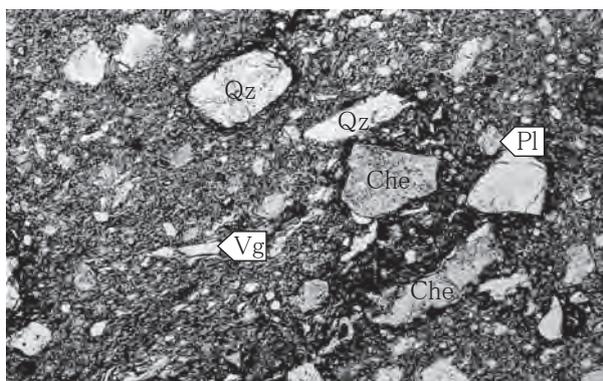
Qz:石英, Kf:カリ長石, Pl:斜長石, Ep:緑レン石, Mv:白雲母, Vg:火山ガラス.
IH:水酸化鉄, PO:植物珪酸体. 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

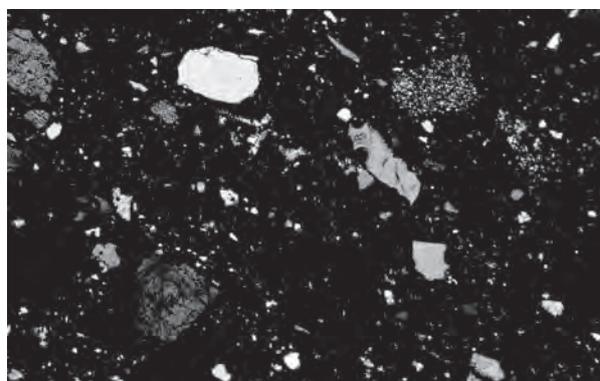
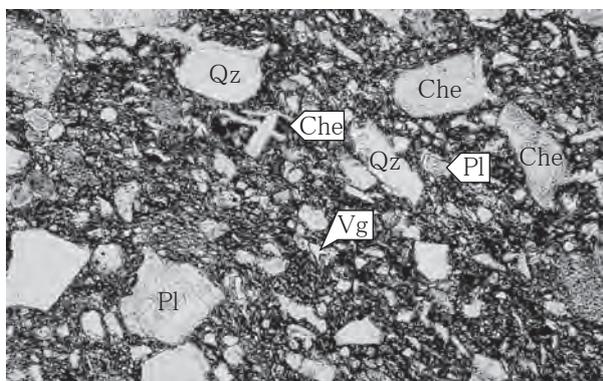
写真8 胎土薄片 (2)



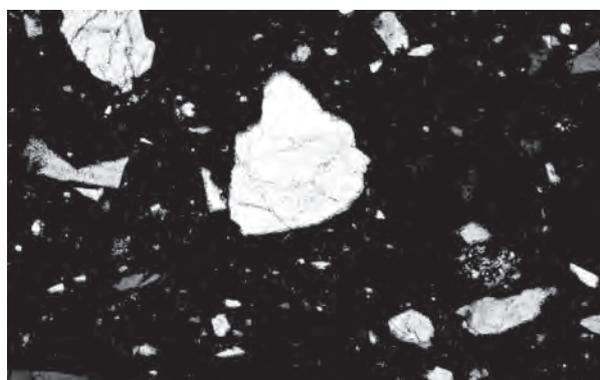
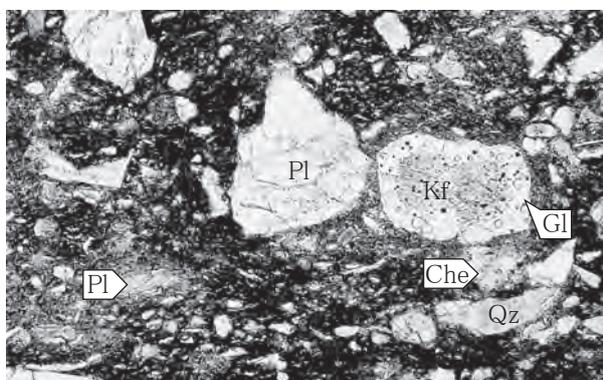
5. 試料番号5 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



6. 試料番号6 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



7. 試料番号7 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)

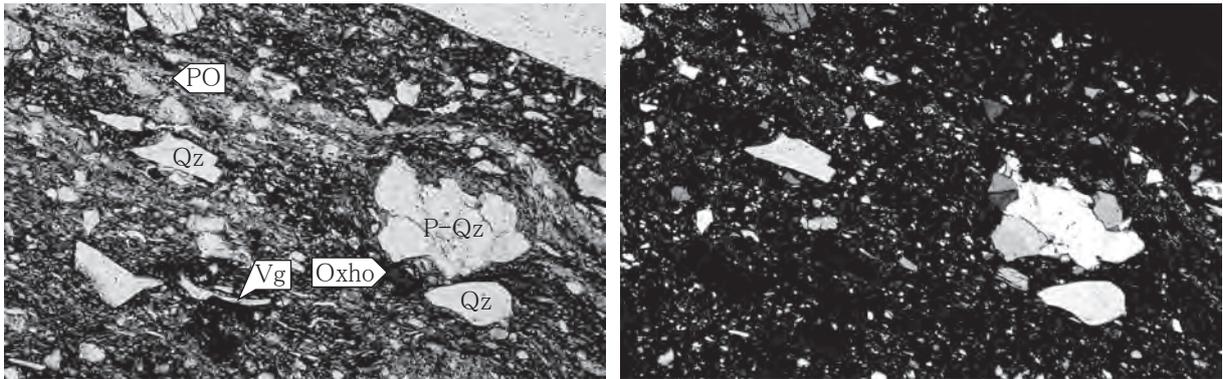


8. 試料番号8 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)

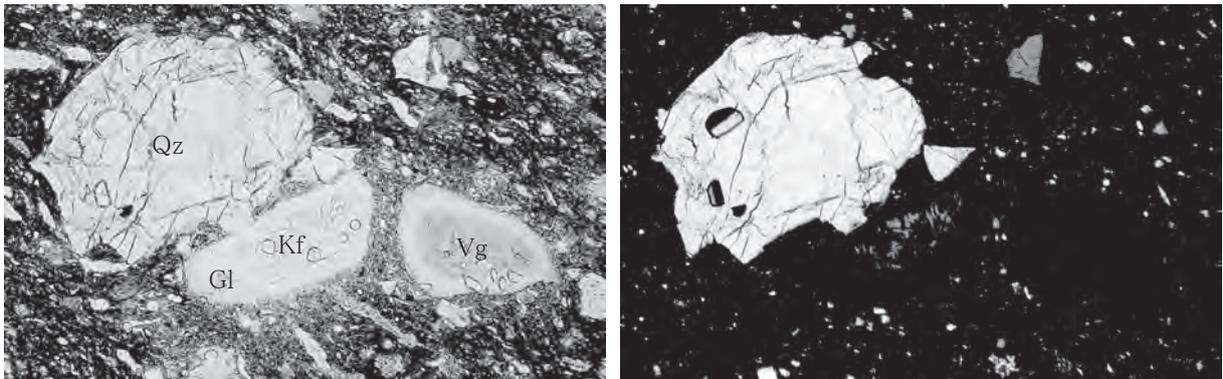
Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Che:チャート. Vg:火山ガラス. Gl:熔融ガラス.
PO:植物珪酸体. 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

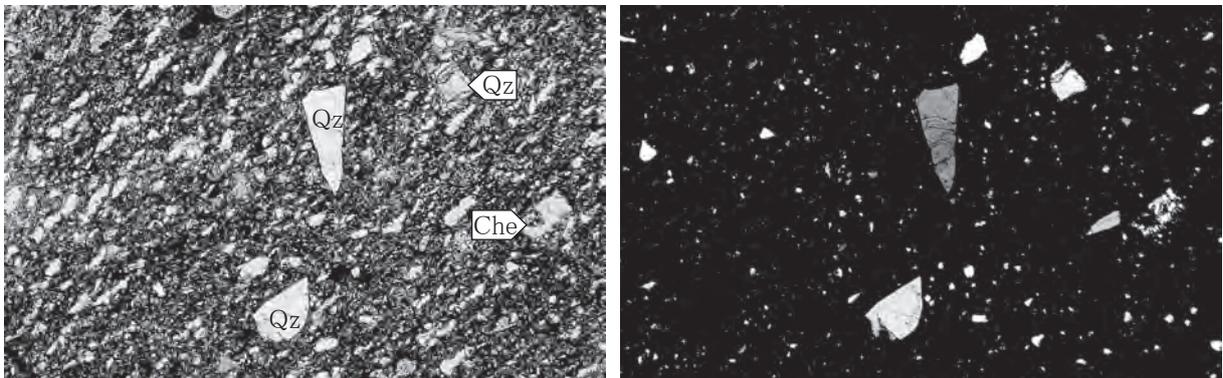
写真9 胎土薄片 (3)



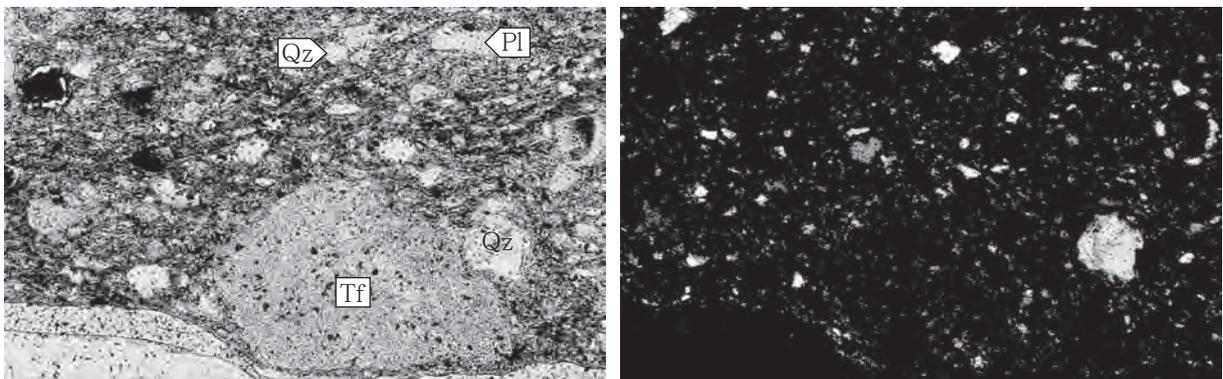
9. 試料番号9 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



10. 試料番号10 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



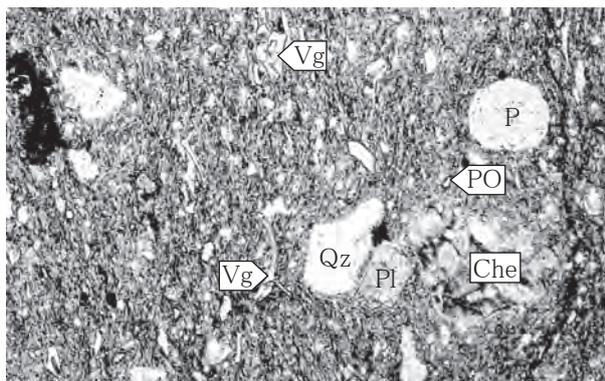
11. 試料番号11 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



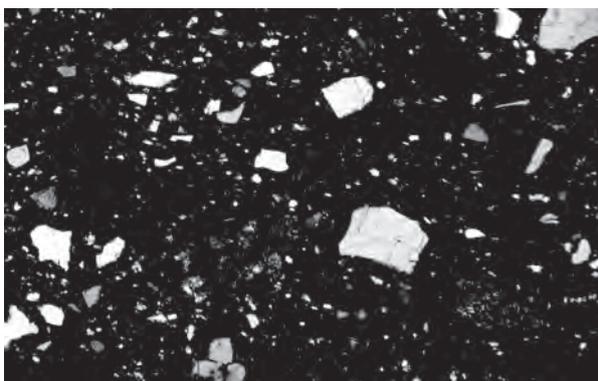
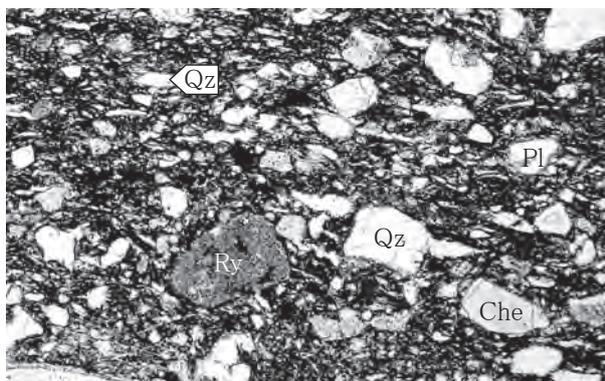
12. 試料番号12 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)

Qz:石英, Kf:カリ長石, Pl:斜長石, Oxho:酸化角閃石, Che:チャート, Tf:凝灰岩, P-Qz:多結晶石英, Vg:火山ガラス, Gl:熔融ガラス, PO:植物珪酸体, 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。 0.5mm

写真 10 胎土薄片 (4)



13. 試料番号13 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器甕 6世紀



14. 試料番号14 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器甕 6世紀

Qz:石英, Pl:斜長石, Che:チャート, Ry:流紋岩, Vg:火山ガラス, PO:植物珪酸体, P:孔隙.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

写真 11 胎土分析試料 (1)



1. 原土1 吹田操車場遺跡09-3:1-2区 2010.03.18採取 2. 原土2 吹田操車場遺跡10-2:2-1-2区 2011.01.20採取



3. 原土3 吹田操車場遺跡11-1:9-2区 2011.11.18採取 4. 原土4 吹田操車場遺跡12-1:2-3区 2012.12.03採取



5. 試料番号5 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



6. 試料番号6 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)

1cm 1cm
(1-5) (6)

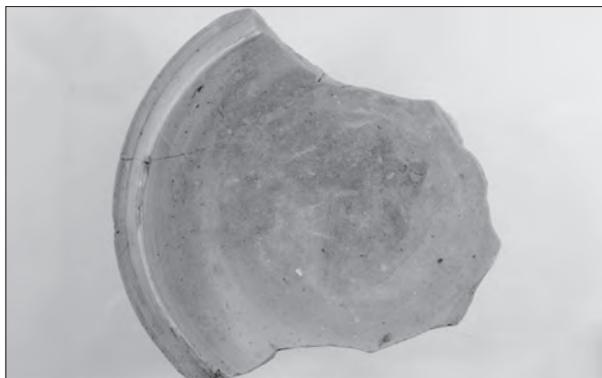
写真 12 胎土分析試料 (2)



7. 試料番号7 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



8. 試料番号8 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



9. 試料番号9 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



10. 試料番号10 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)

1cm 1cm
(7・8・10) (9)

写真 13 胎土分析試料 (3)



11. 試料番号11 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



12. 試料番号12 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器杯身 6世紀 (TK43)



13. 試料番号13 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器甕 6世紀



14. 試料番号14 明和池遺跡11-1:8-1区 7066流路 須恵器甕 6世紀



第9章 総括

今回の調査は、吹田操車場跡地を北東—南西方向におよそ2km×200mに亘る範囲が対象となった。調査範囲内においては、地山上面の比高がおよそ4mあった。地山上面において地形的に最も高い場所は12-1:16-3区の北東端になり、千里丘陵から張り出してくる段丘層に相当する可能性が考えられる。翻って12-1:16-2区で検出された谷と11-1:10-1・10-2区で検出された谷が地形的に最も低くなる。巨視的に見れば、明和池遺跡から吹田操車場遺跡で検出された谷に向かって緩やかに低くなる状況が看取される(図362)。

吹田操車場遺跡 (図363～365)

吹田操車場遺跡における調査は、北東—南西方向におよそ1.5kmに亘る狭長な調査区であったため、北東側と南西側では調査成果の様相が大きく異なるものであった。そこで、成果をわかりやすく伝えるために西地区と東地区とに分けて報告を行った。ここでは、それらをまとめて総括する。

〔弥生時代以前〕西地区における様相は不詳であるが、12-1:16-3区において掘立柱建物を構成する柱穴埋土から弥生時代中期後葉の所産になる土器片が出土している。弥生時代に帰属する建物の可能性が高いが、他に確実に弥生時代の遺構と呼べるものはなく、評価については今後の周辺調査の蓄積を待たなければならない。

東地区ではサヌカイト製の旧石器が出土しており、早くも旧石器時代に人々がこの地において活動し

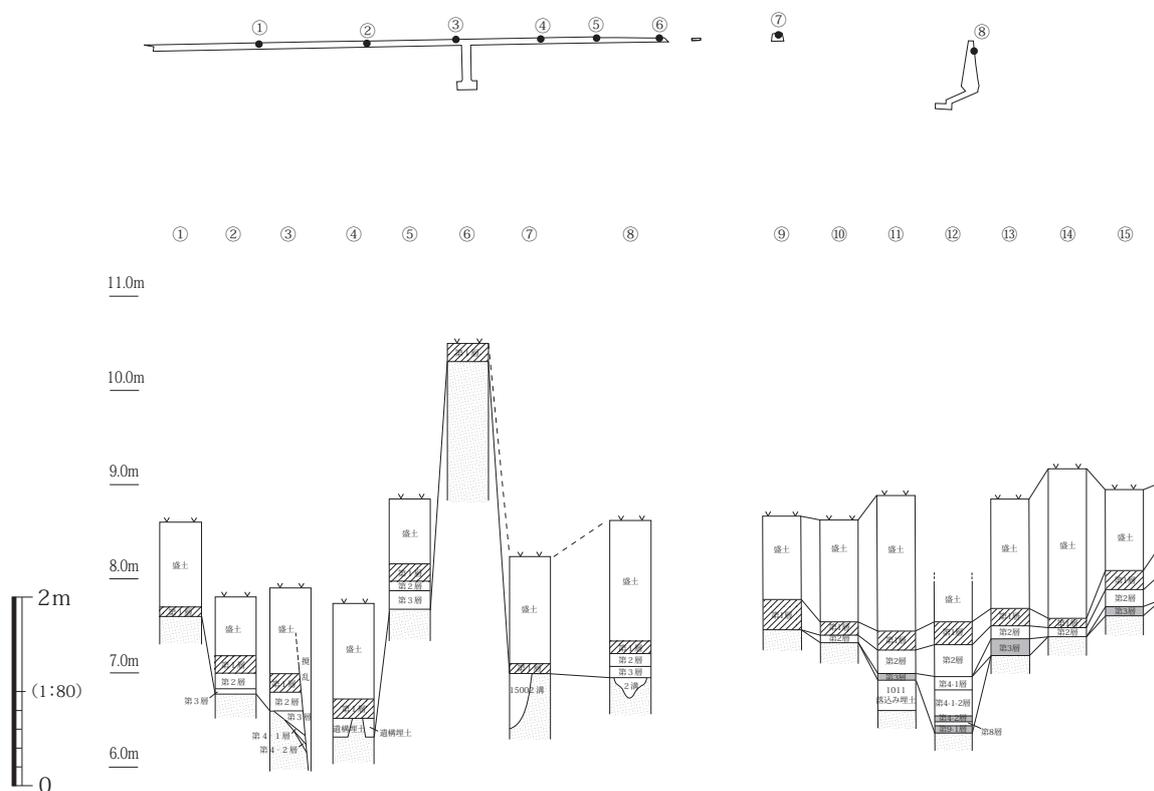


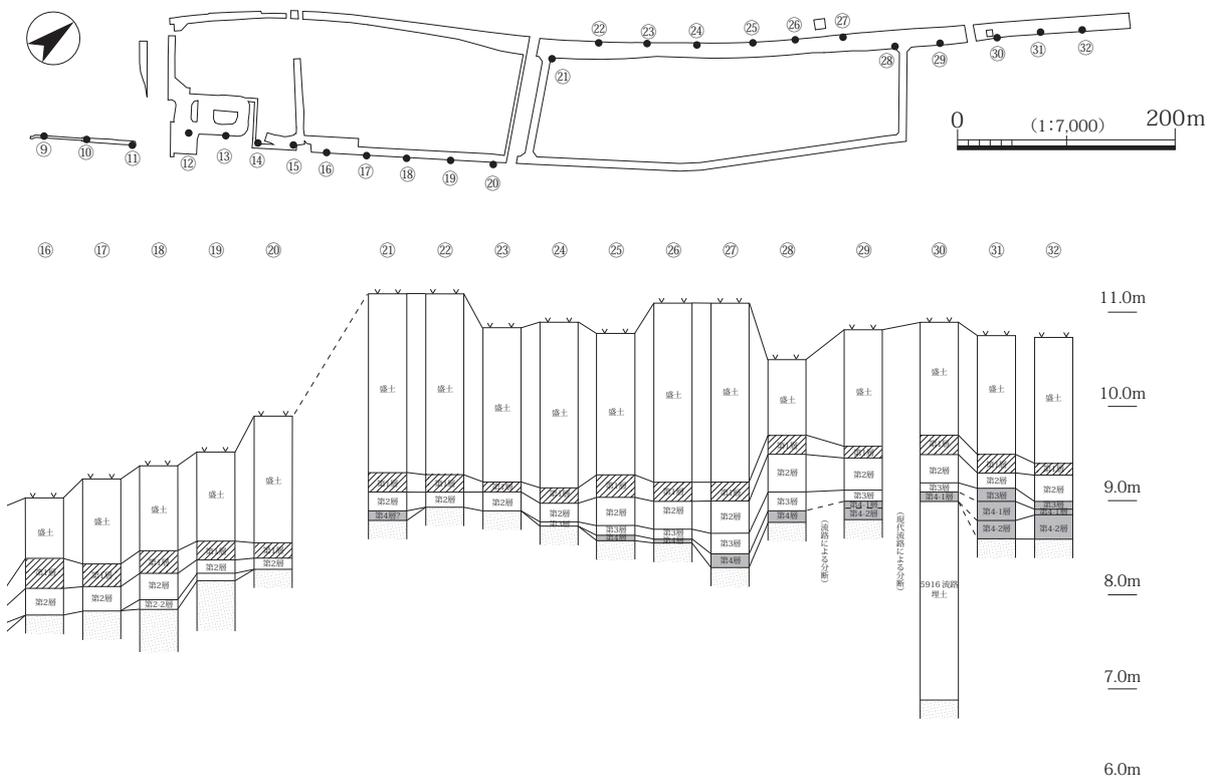
図 362 吹田操車場遺跡・明和池遺跡 柱状断面模式図

ていたことが明らかとなった。また、現在の地形からは想像もつかないが、岸部地下道に沿うように延びる谷地形があり、谷に繋がる溝や谷の最下部で検出した溝から、縄文時代晩期の土器・石鏃や弥生時代前期～後期の土器が出土している。当該時期の人類の活動の一端を示す成果があった。

〔古墳時代〕西地区における様相は不詳であるが、東地区では前述の谷地形の両側において群集土坑が多数検出された。今回の調査では、およそ 470 基の群集土坑を検出している。付近の過去の検出例を併せると概ね 800 基を数えるものである。これらの土坑は密集して掘削されており、その拡がりや帯状をなす。その分布状況を詳細に検討すると、いずれの土坑も、平坦な場所に掘削されているものはあまりなく、緩やかに傾斜する場所に多く認められる。これらの土坑は粘土採掘坑である可能性が高く、いずれも古墳時代後期以降に属するものと判断されることから、千里古窯址群における活発な生産活動と密接に関連するものと考えられる。前期・中期の様相は判然としないが、後期には粘土採掘場として利用されていたものと推測する。なお、土坑周辺の粘土を鉍物組成及び岩片組成によって胎土分析したところ、明和池遺跡でまとめて出土した須恵器の鉍物片や岩石片の種類構成と類似するという結果を得た。当地で採取された粘土を使用して須恵器を作っていた可能性があろう。

〔飛鳥時代〕西地区では、12-1:16-2 区において総柱の掘立柱建物 1 棟が検出されている。建物周辺にある 16078 落込みや包含層、また 16051 谷を挟んだ 12-1:16-3 区の 16393 土坑からも飛鳥時代の遺物が出土していることから、谷を挟んで両縁辺部に集落が営まれていたものと考えられる。

東地区においても西地区同様、谷地形の縁辺部で掘立柱建物 3 棟、井戸、土坑、溝等が検出されている。飛鳥時代の様相としては、弥生時代以前以来の谷の縁辺部において集落が営まれていたことが明らかとなった。



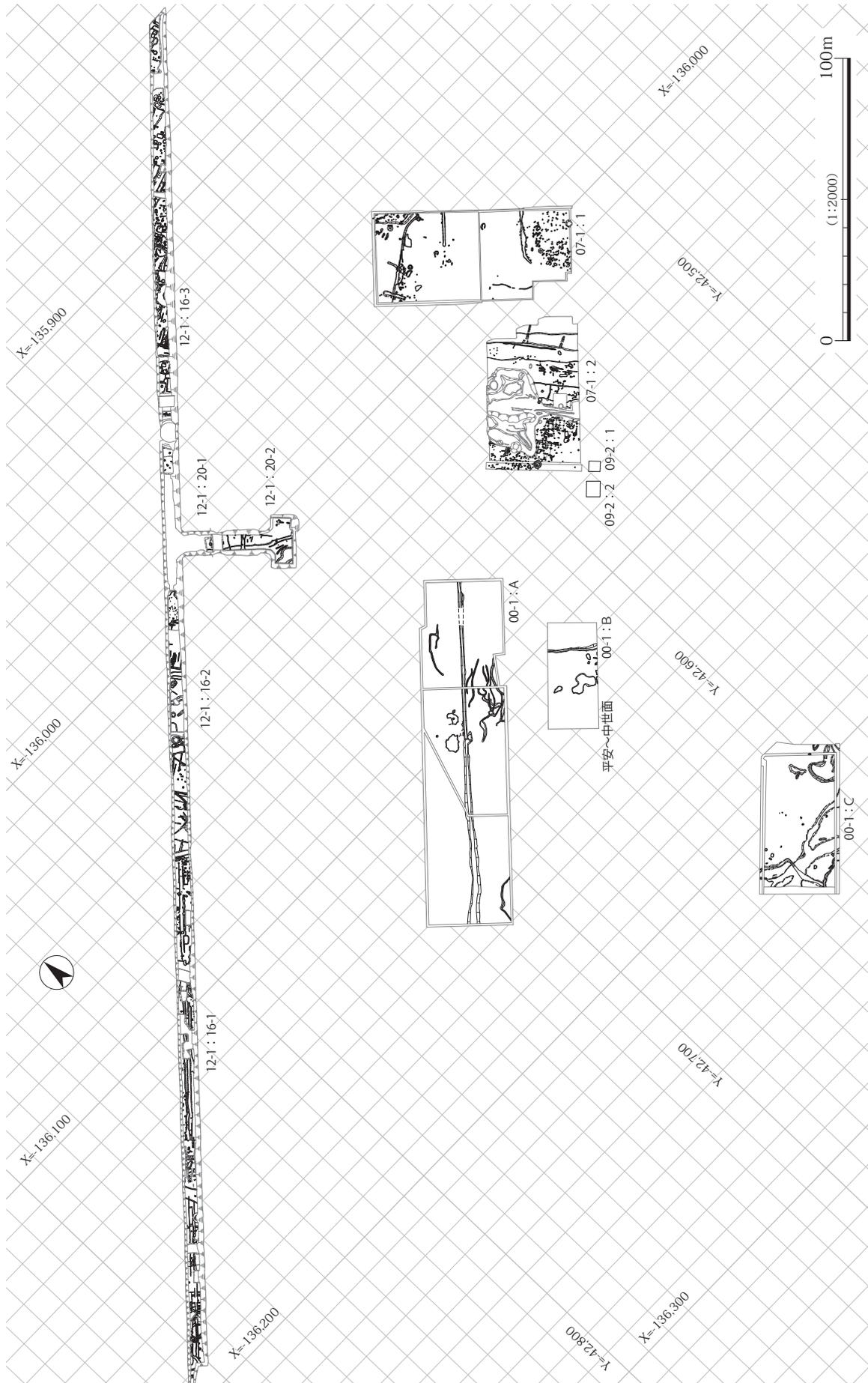


図 363 吹田操車場遺跡 西地区周辺 既往調査区合成図 (1)

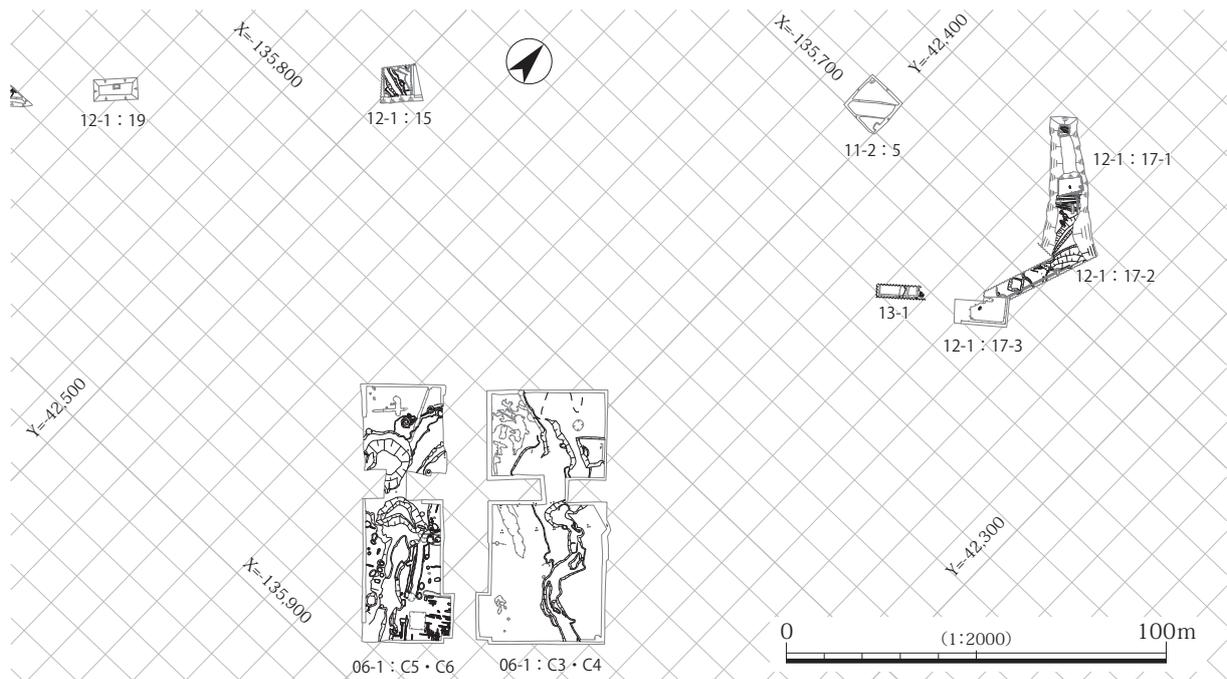


図 364 吹田操車場遺跡 西地区周辺 既往調査区合成図（2）

なお、西地区と東地区で検出した集落は、直線距離にしておよそ 1 km 離れており、間に谷を挟むことから、それぞれ別の集落と判断する。吹田操車場遺跡においては、当該期に少なくとも 2 つの地点で集落が営まれていたことが明らかとなった。

〔奈良時代〕西地区では 12-1:16-3 区及び東端部に当たる 12-1:17-1 区において当該期に属する土坑や溝が検出されてはいるが様相は不詳である。

東地区では、前述の谷地形の周辺で土坑、ピット、落込み等を検出している。確実に当該期に属する建物は検出されなかったが、11-1:1-1 区においてはピットや落込みから当該期所産の土器が一定量出土しており、付近に集落が存在する可能性がある。また、09-3:2-2 区においても、飛鳥時代の土器を多量に含む溝から当該期の土器が出土し、包含層中にも他に比べて当該期の土器が多く認められることから、飛鳥時代から継続した集落があった可能性も考えられる。

〔平安時代〕西地区では 12-1:16-2 区・12-1:16-3 区・12-1:20 区において、井戸、土坑、ピット、落込み等が検出されている。12-1:16-2 区の南東約 100 m に位置する 2000・2007 年度の調査では平安時代の掘立柱建物群が検出されており、その集落域の北辺部に当たる可能性がある。

東地区では谷地形の西縁辺部に当たる 11-1:1-1 区・12-1:1-2 区、東縁辺部に当たる 09-3:2-2 区・12-1:14-1 区において、併せて 8 棟の掘立柱建物が検出された。いずれも平安時代前期に属すると考えられ、谷の両縁辺部において集落が営まれている状況が明らかとなった。

これ以後、東地区は耕作地として利用されていたと考えられる。西地区では鎌倉期に集落が営まれているが、東地区では認められず、異なる様相であった。

〔鎌倉時代〕西地区ではほぼ全域で当該期の遺構を検出している。12-1:16-1 区では多量の土器が廃棄された 16023 井戸や、16030 土坑をはじめ、ピットや溝などを検出した。また、12-1:16-3 区においても土坑、ピット、落込み、溝等の遺構が検出された。確実に建物を形成するものは確認されなかったが、16251 溝と 16377 溝に挟まれた幅約 10 m の間にピットが集中して検出されたことは示唆的である。そ

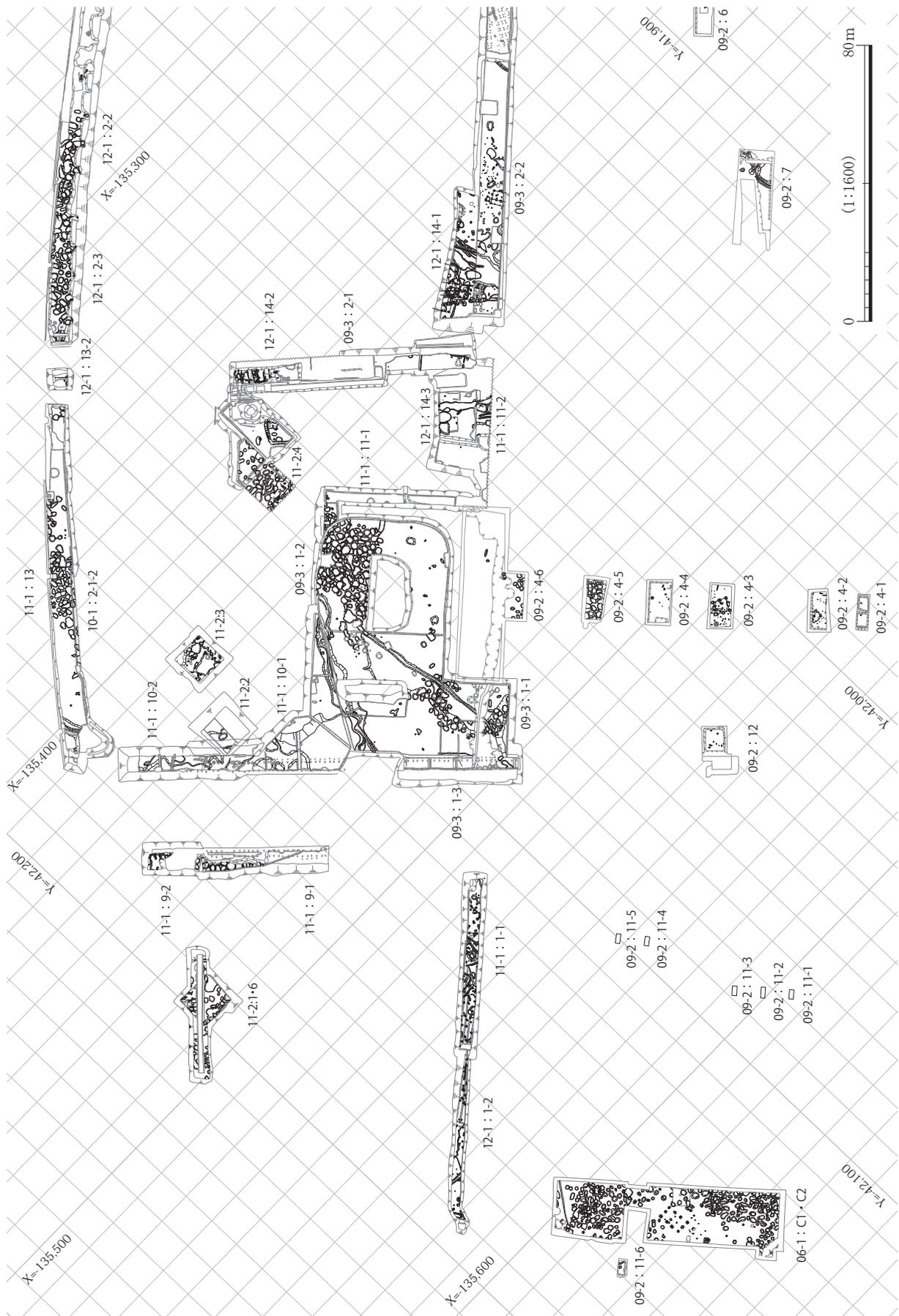


图 365 吹田操車場遺跡 東地区周辺 既往調査区合成图

れ以外にも、15区では条里型地割に則って掘られた15002溝と15003溝を、12-1:17区では17003池を検出している。

吹田操車場遺跡においては、飛鳥時代及び平安時代・鎌倉時代に人々が集落を営んでいた状況が明らかとなった。また、それ以前においても当地における人々の活動があり、鎌倉時代以降は広く耕作地として周辺域が利用されていたことが明らかとなった。

明和池遺跡

明和池遺跡における調査では、弥生時代以降中世に至るまで、ほぼ同じ場所で連綿と集落が営まれている状況が明らかとなった。

〔弥生時代以前〕 弥生時代後期に、現山田川周辺の調査区北東部分に集落が営まれている状況が明らかとなった。当該期に属する遺構として、竪穴建物・掘立柱建物・土坑・溝・流路等が検出された。それまで知られなかった弥生時代の集落を確認したことは大きな成果である。また、遺構は伴わないが縄文土器や弥生時代前期・中期所産の土器が出土していることから、付近にそれらの時期の集落が存在する可能性も考えられた。

今回の調査で竪穴建物15棟、掘立柱建物8棟が検出された。調査区の北西側と南東側の2つの場所において建物群が検出されたことから、概ね弥生時代後期後半に属する集落が、それなりの規模をもって広がっていることが確認された。また、ほぼ同時期と見られる流路跡も検出しており、流路の周囲に集落が形成されている状況が看取された。なお、当該期に属する流路は2条検出されており、遺物の詳細な検討の結果、併存していた可能性も若干残すが、一方が埋没後、他方が新たに形成されている可能性が高いことが明らかとなった。出土した弥生土器には瀬戸内地方や近江地方との交流を物語るような土器も散見され、現山田川の前身となる河川を通じて他地域と交流を行っていた様子が窺われる。

〔古墳時代〕 主に古墳時代後期に属する遺構が検出された。なかでも古墳時代後期～飛鳥時代の遺物を大量に包含する流路は、出土した遺物の9割強が須恵器であった。その中には、焼成不良品や焼け歪み、溶着品などが含まれており、千里丘陵に近いという地理的条件を考慮すれば、千里古窯址群の須恵器窯で焼成された須恵器が何らかの理由でここまで運ばれ廃棄されたものと考えられる。当該時期の建物は掘立柱建物が1棟検出されてはいるが、委細は不詳である。付近において集落が営まれていた可能性は高いと思われる。また、様相は不詳であるが、古墳時代前期に属する井戸が検出されていることから、付近に集落が存在している可能性がある。あるいは弥生時代後期に営まれた集落が、その時期まで継続していた可能性も考えられよう。

〔飛鳥時代〕 調査区北東部分に集落が営まれている状況が明らかとなった。飛鳥時代に属する遺構として、掘立柱建物・溝等が検出された。古代に属する掘立柱建物は7棟検出されているが、そのうち、3棟が正方位を指向している。他のものは正方位に対して斜めに軸を置くことから、これらは別の時期に造営されたものと考えられる。確実に当該期に帰属する溝が正方位を指向するため、これと軸を同じくする建物は当該期に属する可能性が高いものと判断し、少なくとも3棟の建物が造営され、集落が営まれていたものと考えられる。なお、古墳時代の流路は、当該期の遺物を一定量含むことから、この時期まで存続していたものと判断する。なお、飛鳥時代の遺物がまとめて出土した溝等から、土師器の台付鉢と呼称される高さ約10cmの土器が出土した。口縁部付近が破損しているため、全容は知れないが、台付部に厚みがある特徴的な土器である。この類似土器は、これまで難波宮跡周辺でしか出土していな

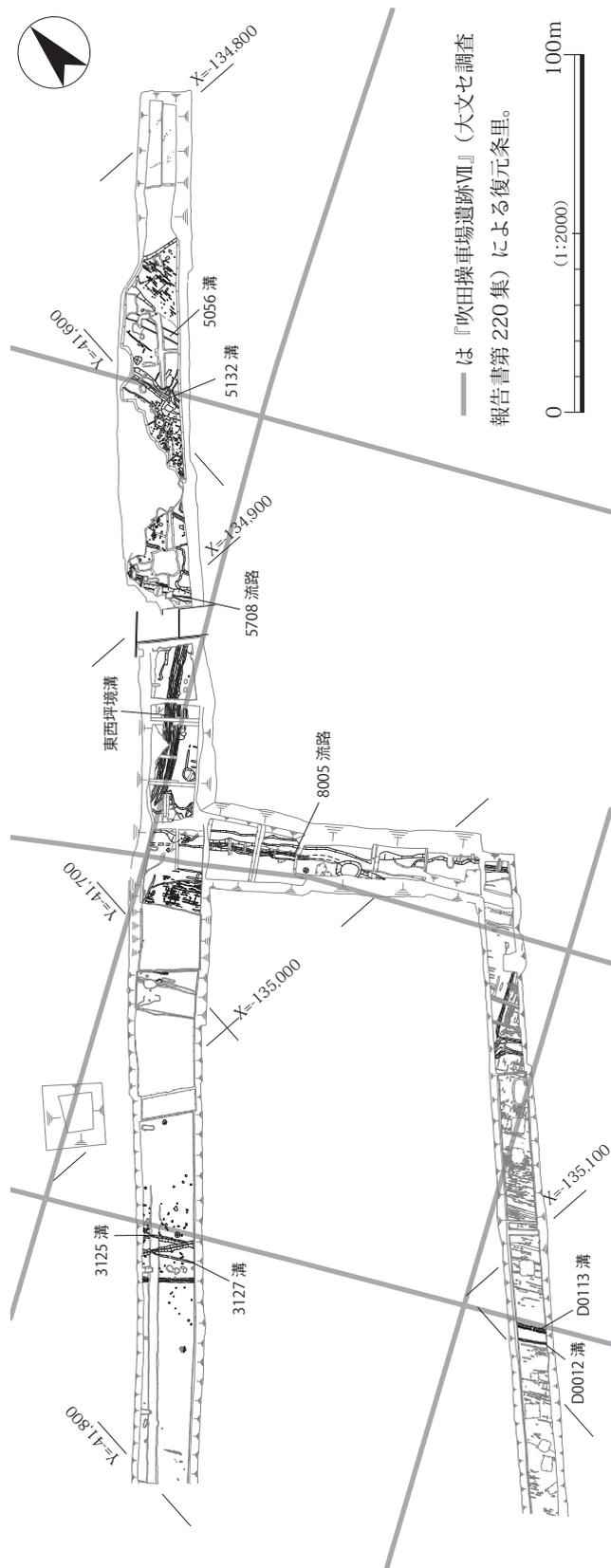


図 366 明和池遺跡 復元条里型地割合成図

いようで、空間的にも時間的にも限定された特殊な土器の可能性はある。

〔奈良・平安時代〕 調査区北東部分で集落が営まれている状況が明らかとなった。奈良・平安時代に属する遺構として掘立柱建物・井戸・土坑・溝等が検出された。古代に属する掘立柱建物のうち、4棟が当該期に属する可能性が高く、当地において集落が営まれていたものと考えられる。また、当該期に属する流路も検出しており、埋土から墨書土器や墨書人面土器、ミニチュア竈や土馬ほか、様々な遺物が出土した。中でも、底部に「王」と墨書された土器がまとまって出土した事例は、稀有な例である。出土遺物の中には律令祭祀に用いられる墨書人面土器や土馬等が含まれることから、流路において何らかの祭祀行為が行われていた可能性を示すものとして重要である。また、銅加工に使用された坩堝が出土していることから周辺における手工業生産の可能性も言及できよう。

〔中世〕 調査区北東部分に集落が営まれている状況が明らかとなった。中世に属する遺構として、掘立柱建物・井戸・溝等が検出された。調査区北東部において掘立柱建物3棟が検出され、集落が営まれていたことが明らかとなった。建物の時期は明確でないものの、条里型水田に伴う坪境溝が同じ場所で検出されている。その他の場所では耕作地が広がっており、坪境溝に相当すると考えられる溝が北西-南東方向、北東-南西方向のどちらも検出された(図366)。

明和池遺跡においては、これまで知らなかった集落が流路周辺で営まれていた状況を、その一端ではあるが明らかにすることができた。

付 表

吹田操車場遺跡 掲載遺物一覧（1）～（19）

明和池遺跡 掲載遺物一覧（1）～（46）

観察表 凡例

- 1) 挿図番号とは、本文中の図番号のことである。
- 2) 遺物番号とは、挿図に記載された各遺物固有の番号のことである。なお、吹田操車場遺跡で1～712、明和池遺跡で1～1513の番号を付している。
- 3) 図版番号とは、写真図版の番号のことである。なお、原○としたものは原色写真図版の番号を示す。
- 4) 法量の単位はcmで、口径・底径については復元値を含み、器高については判明するもの以外は記載していない。残存率はおよその目安として○/○で示した。
- 5) 調整等は口縁部に施されたヨコナデ、須恵器の回転ナデについては記載を省略した。また、砂粒の動きの方向を矢印で表現した。その他特徴的な事柄について記載した。
- 6) 焼成について、須恵器については不良のものはその旨を記載した。
- 7) 生駒西麓産とは生駒山西麓産胎土のことである。また、他地域系と考えられるものについてはその旨を記した。

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表(1)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------------|------------|--------------|---------------------------------|---|------------------|----------|------|---------------------|
| 22 | 1 | 127 | 須恵器 | 壺か甕 | 7世紀 | 体部最大径 10.4(1/2) | 外:ヘラケズリ(砂←)、列 点文、沈線2 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-2 | 掘立柱建物2 (16122柱穴) |
| 22 | 2 | 127 | 須恵器 | 杯G | 7世紀中頃 | 口径 9.4(5/6) 器高 3.8 | 外:ヘラケズリ(砂←) | 7.5Y6/1 灰 | 12-1 | 16-2 | 掘立柱建物2 (16093溝) |
| 24 | 3 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀後半 | 口径 16.0(1/10以下) | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ後ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-2 | 16111ピット |
| 24 | 4 | | 土師器 | 皿 | 11世紀前半 | 口径 10.9(5/6) 器高 1.7 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-2 | 16086ピット |
| 24 | 5 | | 須恵器 | 壺 | 古代 | 底径 4.3(1/3強) | 外:ヘラケズリ(砂←) | 5B7/1 明青灰 | 12-1 | 16-2 | 16037土坑 |
| 24 | 6 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀 第4四半期 | 口径 10.4(1/10) 器高 3.0 | 外:底部静止ヘラケズリ | 10BG5/1 青灰 | 12-1 | 16-2 | 16071溝 |
| 24 | 7 | 128 | 土師器 | 摂津C型 羽釜 | 10~11世紀 | 口径 21.8(1/10以下) | 外:ハケ、スス付着 内:板ナデ、コケ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-2 | 16117ピット |
| 24 | 8 | 127 | 土師器 | 皿 | 11世紀 | 口径 9.6~10.1(完) 器高 1.7 | ゆがみ 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 9 | | 土師器 | 皿 | 11世紀 | 口径 9.8(1/4) 器高 1.9 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 10 | 127 | 土師器 | 皿 | 11世紀 | 口径 10.5~10.7(5/6) 器高 1.9 | ゆがみ 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 11 | | 土師器 | 皿 | 11世紀 | 口径 9.8(1/3) 器高 1.8 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 12 | 127 | 土師器 | 皿 | 11世紀 | 口径 9.9(一部欠) 器高 1.9 | ゆがみ 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 13 | 127 | 土師器 | 皿 | 11世紀 | 口径 9.5~9.8(完) 器高 1.8 | ゆがみ 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 14 | | 土師器 | 杯 | 11世紀 | 口径 14.0(1/5) 器高 3.7 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 15 | 127 | 土師器 | 杯 | 11世紀 | 口径 15.0(5/6) 器高 3.7 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 24 | 16 | 127 | 土師器 | 杯 | 11世紀 | 口径 14.4(1/2) 器高 3.2 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-2 | 16078落込み |
| 27 | 17 | 127 | 土師器 | 杯C | 7世紀中頃 | 口径 17.2(5/6) 器高 4.9 | 内:ナデ後正放射状暗文 | 5YR6/6 橙 | 12-1 | 16-3 | 16393土坑 |
| 27 | 18 | | 土師器 | 甕 | 10~11世紀 | 口径 24.1(1/10以下) | 外:ハケ、スス付着 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-3 | 16392土坑 |
| 27 | 19 | 128 | 土師器 | 摂津C型 羽釜 | 10~11世紀 | 口径 20.2(1/10以下) | 外:ハケ 内:板ナデ | 10YR5/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-3 | 16392土坑 |
| 27 | 20 | 127 | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀中頃 | 口径 10.6(4/5) 器高 3.5 | 外:ヘラケズリ(砂→)、ヘ ラ記号 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 12-1 | 16-3 | 16307ピット |
| 27 | 21 | | 土師器 | すり鉢 | 7~8世紀 | 口径 8.0(1/7) 底径 7.5 | | 7.5YR7/6 橙 | 12-1 | 16-3 | 16307ピット |
| 27 | 22 | | 須恵器 | 杯蓋 | 7~8世紀 | つまみ径 2.6(完) | 外:ヘラケズリ(砂→) | N6/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 16391溝 |
| 27 | 23 | | 須恵器 | 壺 | 8世紀 | 胴部径 17.0(1/3) | 外:肩部自然釉付着 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-3 | 16391溝 |
| 27 | 24 | | 須恵器 | 甕 | 8世紀 | 口径 20.4(1/10) | 外:タタキ 内:同心円文状当て具痕 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 16393土坑 |
| 29 | 25 | 128 | 須恵器 | 甕B | 8世紀中頃 | 口径 13.4(1/4) | 外:肩部に自然釉付着 | N7/0 灰白 | 12-1 | 17 | 17001土坑 |
| 32 | 26 | | 瓦器 | 皿 | 12世紀後半 | 口径 8.5(1/3) 器高 1.8 | 内:ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 27 | | 瓦器 | 皿 | 12世紀後半 | 口径 9.8(1/4) | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ後ヘラミガキ | N8/0 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 28 | 129 | 瓦器 | 皿 | 12世紀後半 | 口径 6.6~6.8(一部欠) 器高 2.2 | ゆがみ 外:底部ナデ後暗文 状ヘラミガキ 内:ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 29 | 129 | 瓦器 | 皿 | 12世紀後半 | 口径 8.8~9.1(完) 器高 2.0 | ゆがみ 外:指押さえ後暗文 状ヘラミガキ 内:ナデ後ヘ ラミガキ、平行線状暗文 | N5/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 30 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 14.2(1/7) | 外:指押さえ、ナデ後ヘラミ ガキ 内:ナデ後ヘラミガキ | N5/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 31 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 14.4(1/12) 高台径 2.8 器高 3.7 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ 後ヘラミガキ、連結輪状暗文 | N5/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 32 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 16.8(1/7) | 外:指押さえ 内:ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 33 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 14.0(1/5) | 外:指押さえ 内:ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 34 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 13.8(1/5) | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ後ヘラミガキ | N5/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 35 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 14.0(1/5) | 外:指押さえ 内:ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 36 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 14.0(1/4) | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ後ヘラミガキ | N5/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |
| 32 | 37 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.0(1/5) | 外:指押さえ、ナデ後まばら なヘラミガキ 内:ナデ後ヘ ラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023井戸 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (2)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|-----|----|--------|--|---|----------------|----------|------|----------------|
| 32 | 38 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.2(1/12) 高台径 4.1~4.3 器高 4.6~4.9 | ゆがみ 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ後ヘラミガキ、平行 線状暗文 | N5/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 39 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.7(1/5) | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ 後ヘラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 40 | 128 | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.6(1/7) 高台径 5.0 器高 4.3 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ 後ヘラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 41 | 128 | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.6(1/4) 高台径 5.1 器高 4.5 | 外:指押さえ 内:ナデ後ヘ ラミガキ、平行線状暗文 | 7.5Y5/1 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 42 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.8(1/3) | 外:指押さえ、ナデ後まばら なヘラミガキ 内:ナデ後ヘ ラミガキ、平行線状暗文 | N8/0 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 43 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.8(1/6弱) | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ 後ヘラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 44 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 13.6(1/7) 高台径 3.8 器高 4.8 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 45 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 13.4(1/10) | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ 後ヘラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 46 | 128 | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.8(1/5) 高台径 4.2 器高 5.2 | 外:ナデ後まばらなヘラミガ キ、指押さえ 内:ナデ後ヘ ラミガキ、格子状暗文 | N5/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 47 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.2(1/5) 高台径 5.0 器高 4.6 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ 後ヘラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 48 | 128 | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.0(1/6) 高台径 4.0 器高 5.4 | 外:ナデ後まばらなヘラミガ キ、指押さえ 内:ナデ後ヘ ラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 32 | 49 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.2(1/10) | 外:ナデ後ヘラミガキ 内:口縁端部沈線1、ナデ後 ヘラミキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 50 | | 土師器 | 小皿 | 12世紀後半 | 口径 8.8(1/2) 器高 1.7 | 外:ナデ 内:ナデ、指押さえ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 51 | | 土師器 | 小皿 | 12世紀後半 | 口径 8.8(1/4) 器高 1.9 | 外:指押さえ後ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 52 | | 土師器 | 小皿 | 12世紀後半 | 口径 8.8(1/4) 器高 1.8 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 53 | | 土師器 | 小皿 | 12世紀後半 | 口径 9.0(1/4) 器高 1.4 | 外:ナデ 内:ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 54 | | 土師器 | 小皿 | 12世紀後半 | 口径 8.1(1/4) 器高 1.1 | 外:ナデ 内:ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 55 | | 土師器 | 小皿 | 12世紀後半 | 口径 8.8(1/3) 器高 1.5 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 56 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.6(1/4) 器高 1.3 | 外:底部指押さえ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 57 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.2(1/4) 器高 1.3 | 外:底部指押さえ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 58 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(1/3) 器高 1.6 | 外:底部ナデ 内:ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 59 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.2(1/4) 器高 1.5 | 外:ナデ 内:ナデ後ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 60 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.2(1/5) 器高 1.5 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 61 | 129 | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(3/4) 器高 1.6 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 62 | 129 | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(完) 器高 1.7 | 外:底部ナデ 内:ナデ | 10YR8/1 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 63 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(1/7) 器高 1.3 | 切り込み円板技法 外:指押 さえ後ナデ 内:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 64 | 129 | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(4/5) 器高 1.5 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 65 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(1/3) 器高 1.1 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 66 | 129 | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.8(5/6) 器高 1.1~1.5 | ゆがみ 外:ナデ 内:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 67 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.3(1/5) 器高 1.4 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 68 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.8(1/4) 器高 1.5 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 69 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.2(1/3) 器高 1.4 | 外:指押さえ後ナデ 内:指押さえ後ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 70 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.6(1/4) 器高 1.6 | 外:ナデ 内:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 71 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.4(1/5) 器高 1.3 | 外:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 72 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.7(1/2) 器高 1.5 | 外:指押さえ後ナデ 内:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 73 | 129 | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.8~9.0(5/6) 器高 1.1~1.4 | ゆがみ 内:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (3)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------------|-----|---------------|-----------------------------------|---|------------------|----------|------|----------------|
| 33 | 74 | 129 | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 8.4(4/5) 器高 1.6 | 外: 指押さえ後ナデ 内: ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 75 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 6.4(1/5) 器高 1.2 | 外: ナデ 内: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 76 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(1/7) 器高 1.2 | 外: ナデ 内: ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 77 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 7.9(1/5) 器高 1.4 | 外: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 78 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.5(1/4) 器高 1.1 | 外: 指押さえ後ナデ 内: ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 79 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀前半 | 口径 9.0(1/3) 器高 1.5 | 外: ナデ、板状工具痕 内: ナデ | 2.5Y8/3 淡黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 80 | | 土師器 | 小皿 | 11世紀末 | 口径 6.9(1/4) 器高 0.8 | て字状 外: ナデ 内: ナデ | 2.5Y8/3 淡黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 81 | | 土師器 | 小皿 | 11世紀末 | 口径 10.0(1/7) 器高 1.1 | て字状、外: 指押さえ 内: ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 82 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 13.0(1/20) 器高 1.8 | 内: 指押さえ後ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 83 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 14.6(1/5) 器高 3.8 | 外: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 84 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 14.6(1/10) 器高 2.9 | 外: ナデ 内: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 85 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 14.2(1/3) 器高 2.3 | 外: 指押さえ後ナデ 内: ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 86 | | 土師器 | 皿 | 12世紀中頃 | 口径 12.9(1/5) 器高 3.7 | 外: ナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 87 | 128 | 土師器 | 鍋 | 12世紀か | 口径 30.8(1/10 以下) | 外: ハケ、スス付着 内: ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 88 | 128 | 土師器 | 鍋 | 12世紀か | 口径 34.8(1/10 以下) | 外: 指押さえ、ナデ後板ナデ 内: ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 89 | 128 | 土師器 | 羽釜 | 13世紀前半 | 口径 27.8(1/10 以下) | 外: 板ナデ 内: 板ナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 90 | 128 | 土師器 | 羽釜 | 13世紀前半 | 口径 27.8(1/10 以下) | 外: 板ナデ 内: 指押さえ後ナデ | 10YR4/1 灰褐 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 91 | | 須恵器 | すり鉢 | 13世紀前半 | 口径 19.7(1/7) | | 7.5Y6/1 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 92 | 129 | 東播系 須恵器 | すり鉢 | 13世紀前半 | 口径 30.1(1/2) 底径 10.8 器高 11.5 | 外: 口縁部自然釉付着、底部 ヘラ起こし後静止ヘラケズリ | N6/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 93 | | 東播系 須恵器 | 杯 | | 底径 9.2(1/6) | 外: 底部糸切り痕 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 94 | 129 | 木製品 | 横櫛 | | 長 2.7 幅 6.35 厚 0.7 | 歯部欠損 棟部研磨 歯部鋸挽き ツゲ材 | | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 33 | 95 | 129 | 石製品 | 砥石 | | 長 6.9 幅 5.2 厚 4.0 重さ 191.1g | 凝灰岩質泥岩 砥面 4 | | 12-1 | 16-1 | 16023 井戸 |
| 34 | 96 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀 | 残存高 2.3(1/10) | 外: ナデ後まばらなヘラミガ キ 内: ヘラミガキ、スス付着 | N7/0 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16010 ビット |
| 34 | 97 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀 | 口径 14.8(1/5) | 楠葉型 外: ナデ後まばらな ヘラミガキ 内: 口縁部沈 線 1、ナデ後ヘラミガキ | N7/0 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16028 ビット |
| 34 | 98 | | 瓦器 | 椀底部 | 13世紀 | 高台径 4.8(1/2 弱) | 内: ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16030 土坑 |
| 34 | 99 | | 瓦器 | 椀底部 | 13世紀 | 高台径 5.4(1/7) | | N3/0 暗灰 | 12-1 | 16-1 | 16030 土坑 |
| 34 | 100 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀 | 口径 8.4(1/6 弱) | | 7.5YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16009 ビット |
| 34 | 101 | | 瓦器 | 椀底部 | 13世紀 | 高台径 5.6(1/4) | 外: 指押さえ 内: ナデ後ヘラミガキ | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-1 | 16012 ビット |
| 34 | 102 | 130 | 東播系 須恵器 | すり鉢 | 13世紀前半 | 小片 | 外: 口縁部に自然釉付着 | N6/0 灰 | 12-1 | 16-1 | 16030 土坑 |
| 41 | 103 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.5(1/10) | 外: 指押さえ 内: ナデ後ヘラミガキ | N5/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 16303 ビット |
| 41 | 104 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.4(1/3) | 外: 指押さえ後ナデ、まばら なヘラミガキ 内: ナデ後 ヘラミガキ、平行線状暗文 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 16215 落込み |
| 41 | 105 | 129 | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.0(4/5) 高台径 5.0 器高 5.0 | 外: 指押さえ、ナデ後まばら なヘラミガキ 内: ナデ後ヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 16268 ビット |
| 41 | 106 | 130 | 白磁 | 碗 | 13世紀 第1四半期 | 口径 17.6(1/10) | 外: 施釉 内: 施釉 | 5Y7/2 灰白 | 12-1 | 16-3 | 16286 ビット |
| 41 | 107 | 130 | 白磁 | 碗底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 6.6(完) | 外: ヘラケズリ(砂←)、高 台削出し、施釉、下半部露胎 内: 片切彫状の段 1、施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-3 | 16215 落込み |
| 41 | 108 | | 土師器 | 皿 | 13世紀 | 口径 9.6(1/5) | 外: 底部指押さえ | 7.5YR8/6 浅黄橙 | 12-1 | 16-3 | 16285 土坑 |
| 41 | 109 | | 土師器 | 杯 | 9世紀 | 口径 15.0(1/10) | | 7.5YR7/6 橙 | 12-1 | 16-3 | 16285 土坑 |
| 41 | 110 | 128 | 土師器 | 羽釜 | 14世紀 | 口径 27.2(1/10) | 内: ハケ、スス付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-3 | 16310 ビット |
| 41 | 111 | 130 | 土師器 | 羽釜 | 14世紀 | 口径 33.8(1/10) | | 2.5YR8/3 淡黄 | 12-1 | 16-3 | 16331 ビット |
| 42 | 112 | | 陶器 | 皿 | 16世紀 | 小片 | 唐津焼 外: 施釉 内: 施釉 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-2 | 第2層 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (4)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番号・名 |
|------|------|------|------|--------|---------------|-----------------------------------|---|------------------|------|------|------------|
| 42 | 113 | | 土師器 | 小皿 | 11世紀 | 口径 7.2(1/10) | テ字状 外：指押さえ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 16-2 | 第2層 |
| 42 | 114 | | 土師器 | 皿 | 12世紀後半 | 口径 8.6(1/2) 器高 1.4 | 外：指押さえ後ナデ 内：指押さえ後ナデ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-3 | 第2層 |
| 42 | 115 | | 土師器 | 皿 | 12世紀後半 | 口径 9.6(1/4) 器高 2.1 | 外：指押さえ 内：指押さえ後ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-3 | 第2層 |
| 42 | 116 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.2(1/10 以下) | 外：指押さえ 内：ナデ後ヘラミガキ | 5Y7/2 灰白 | 12-1 | 16-3 | 第2層 |
| 42 | 117 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.1(1/4) 高台径 4.2 器高 4.8 | 外：指押さえ 内：ナデ後ヘラミガキ、平行線状暗文 | 2.5Y6/1 黄灰 | 12-1 | 16-3 | 第2層 |
| 42 | 118 | 130 | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 16.0(1/5) 高台径 4.6 器高 4.5 | 外：指押さえ 内：ナデ後まばらなヘラミガキ、平行線状暗文 | 2.5Y6/1 黄灰 | 12-1 | 16-3 | 第2層 |
| 42 | 119 | | 瓦器 | 椀底部 | 12世紀 | 高台径 5.2(1/3) | 外：焼成後線刻 内：焼成後線刻 | N4/0 灰 | 12-1 | 16-2 | 第2層 |
| 42 | 120 | 131 | 白磁 | 碗 | 13世紀 第1四半期 | 口径 16.2(1/7) | 外：施釉 内：施釉 | 5GY7/1 明オリーブ灰 | 12-1 | 16-2 | 第2層 |
| 42 | 121 | 131 | 白磁 | 碗 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 6.4(2/5) | 外：沈線 2、ヘラケズリ(砂←)、高台削出し、施釉、下半部露胎 内：施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-3 | 第2層 |
| 42 | 122 | 130 | 白磁 | 碗 | 12世紀 | 高台径 7.0(1/3) | 外：ヘラケズリ(砂←)、高台削出し、下半部露胎 内：施釉、圏線 1 | 7.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 16-3 | 第2層 |
| 42 | 123 | 131 | 白磁 | 碗 | 12世紀前半 | 口径 14.4(1/10) | 外：ヘラケズリ、下半部露胎 内：施釉 | 5Y8/2 灰白 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 124 | 131 | 白磁 | 碗 | 12世紀 | 高台径 6.0(1/2) | 外：ヘラケズリ(砂←)、高台削出し、下半部露胎 内：片切彫状の段 1、施釉 | 5Y8/1 灰白 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 125 | 131 | 灰釉陶器 | 椀底部 | 9世紀か | 高台径 6.7(1/4) | 湖西産か 外：底部ヘラケズリ(砂←) 内：墨付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 126 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.6(1/7) | 外：指押さえ後ナデ 内：ナデ後ヘラミガキ | N6/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 127 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 14.3(1/4) | 外：指押さえ、ナデ後まばらなヘラミガキ 内：ナデ後まばらなヘラミガキ | N6/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 128 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 14.6(1/4) | 外：指押さえ 内：ナデ後ヘラミガキ | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 129 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.2(1/4) 高台径 4.7 器高 4.6 | 外：指押さえ 内：ナデ後まばらなヘラミガキ | N5/0 灰 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 130 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 8.2(1/4) 器高 1.0 | 外：底部未調整 内：ナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 131 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 8.7(3/5) 器高 1.5 | | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 132 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 13.2(1/5) 底径 7.6 器高 1.7 | 外：底部指押さえ 内：ナデ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 133 | | 土師器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 14.0(1/5) 底径 12.0 器高 2.2 | | 7.5YR7/6 橙 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 134 | | 土師器 | 甕 | 13世紀 | 口径 15.2(1/10 以下) | 内：板ナデ | 2.5YR6/3 にぶい橙 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 135 | | 土師器 | 甕 | 13世紀 | 口径 29.4(1/8) | 外：ハケ 内：ハケ | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 136 | | 土師器 | 撰津C型羽釜 | 10～11世紀 | 口径 24.8(2/5) | 外：ハケ 内：指押さえ、口縁部スス付着 | 10YR5/3 にぶい黄褐 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 137 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀 第3四半期 | 口径 8.2(1/2) つまみ径 1.2 | 外：自然釉付着、粘土付着あり | N7/0 灰白 | 12-1 | 16-2 | 第3層 |
| 42 | 138 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中頃 | 口径 8.8(1/3) つまみ径 1.3 器高 3.6 | 外：ヘラケズリ(砂→)後ナデ、ヘラ記号あり | N6/0 灰 | 12-1 | 16-2 | 第3層 |
| 42 | 139 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半 | 口径 9.8(1/4) | 外：ヘラケズリ(砂←) | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 140 | | 須恵器 | 杯 | 8世紀前半 | 口径 10.6(1/7) 器高 6.8 | 外：ヘラケズリ(砂→) | 5B5/1 青灰 | 12-1 | 16-3 | 第3層 |
| 42 | 141 | | 須恵器 | 壺 | 8世紀前半 | 口径 7.6(1/7) | | N6/0 灰 | 12-1 | 16-2 | 第3層 |
| 44 | 142 | | 瓦器 | 椀 | 11世紀中頃 | 口径 15.5(1/10) | 楠葉型 外：指押さえ後ヘラミガキ 内：ヘラミガキ、沈線 1 | 2.5Y5/1 黄灰 | 12-1 | 20 | 20001 土坑 |
| 44 | 143 | | 瓦質土器 | 甕 | 13世紀か | 口径 19.2(1/10) | | 5Y8/2 灰白 | 12-1 | 20 | 20027 落込み |
| 44 | 144 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中頃 | 口径 8.6(1/4) 器高 2.7 | 外：ヘラケズリ(砂→) | N6/0 灰 | 12-1 | 20 | 20027 落込み |
| 46 | 145 | 130 | 白磁 | 碗底部 | 12世紀 | 高台径 5.7(1/7) | 外：ヘラケズリ 内：圏線 1 | 5Y8/2 灰白 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 146 | 130 | 瓦器 | 皿 | 12世紀後半 | 口径 8.8(1/2) | 外：底部指押さえ 内：ナデ後まばらなヘラミガキ | 5GY2/1 オリーブ黒 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 147 | | 瓦器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 10.0(1/10) | 外：指押さえ | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 148 | | 瓦器 | 皿 | 13世紀前半 | 口径 12.0(1/3) | 外：指押さえ 内：ナデ後まばらなヘラミガキ | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 149 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀後半 | 口径 15.0(1/10 以下) | 外：指押さえ 内：ナデ後まばらなヘラミガキ | N8/0 灰白 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (5)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------|------|-------|--------------------------------|---|------------------|----------|---------|----------------|
| 46 | 150 | | 土師器 | 皿 | 13世紀 | 口径 7.0(1/5) | 外：底部指押さえ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 151 | | 土師器 | 皿 | 13世紀 | 口径 8.0(1/4) | 外：底部指押さえ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 152 | | 土師器 | 皿 | 13世紀 | 口径 9.2(1/7) | 外：底部指押さえ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 153 | 130 | 土師器 | 羽釜 | 13世紀 | 口径 25.6(1/10) | 外：板ナデ 内：ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 154 | 130 | 土師器 | 羽釜 | 13世紀 | 口径 30.0(1/10) | 外：ハケか板ナデ 内：ハケ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 46 | 155 | 130 | 土師器 | 羽釜 | 13世紀 | 口径 30.0(1/10) | 外：ハケ 内：ハケ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 15 | 15002 溝 |
| 50 | 156 | | 土師器 | 皿 | 11世紀 | 口径 8.6(1/7) | テ字状 外：指押さえ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 17 | 17004 井戸 |
| 50 | 157 | 129 | 土製品 | 土馬 | 8世紀か | 長 10.7 幅 4.2 高さ 5.3 | ヘラ状工具によるケズリ成形 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 12-1 | 17 | 17005 土坑 |
| 50 | 158 | 131 | 白磁 | 碗 | 12世紀 | 小片 | 外：施釉 内：施釉 | 7.5Y6/2 灰オリーブ | 12-1 | 17 | 第3層 |
| 50 | 159 | | 土師器 | 甕 | 13世紀 | 口径 15.2(1/8) | | 5YR7/6 橙 | 12-1 | 17 | 第3層 |
| 50 | 160 | | 石製品 | 砥石 | | 長 7.0 幅 3.3 厚 2.1 重さ 53.28g | 流紋岩質泥岩 | | 12-1 | 17 | 第3層 |
| 63 | 161 | 132 | 縄文土器 | 深鉢 | 晩期後半 | 小片 | 外：刻目？凸帯 内：指押さ えナデ 生駒西麓産 | 10YR4/3 にぶい黄褐 | 09-3 | 1-2 | 10012 溝 |
| 63 | 162 | 132 | 弥生土器 | 底部 | 中期か | 底径 6.6(3/4) | 生駒西麓産 | 10YR4/2 灰黄褐 | 11-1 | 10-1 | 10012 溝 |
| 63 | 163 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 2.1 幅 1.5 厚 0.3 重さ 0.9g | 凹基式 サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | 10012 溝 |
| 63 | 164 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 1.9 幅 1.1 厚 0.3 重さ 0.5g | 凹基式 サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | 10012 溝 |
| 63 | 165 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 2.6 幅 2.0 厚 0.4 重さ 1.0g | 凹基式 サヌカイト 全体に風化 | | 09-3 | 1-2 | 10012 溝 |
| 63 | 166 | | 弥生土器 | 壺 | 前期？ | 口径 16.6(1/5弱) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 13 | 13008 溝 |
| 63 | 167 | | 弥生土器 | 壺 | 前期？ | 胴部内径 20.0(1/4) | 内：ヘラミガキ | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 13 | 13008 溝 |
| 63 | 168 | 132 | 弥生土器 | 壺 | 前期？ | 胴部径 25.0(1/7) | 外：沈線文1条、突起物1、 二焼成を受け赤色化 内：ナデかヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 13 | 13008 溝 |
| 63 | 169 | | 弥生土器 | 底部 | 後期前半 | 底径 4.7(完) | 輪高台 外：ハケ？ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 09-3 | 1-1 | A0013 落込み |
| 63 | 170 | 141 | 石製品 | 剥片 | | 長 3.0 幅 2.0 厚 0.6 | サヌカイト | | 11-1 | 10-1 | 10022 谷 |
| 63 | 171 | 141 | 石製品 | 剥片 | | 長 3.0 幅 3.0 厚 0.7 | サヌカイト A面：自然面残る | | 11-1 | 10-1 | 10022 谷 |
| 66 | 172 | | 弥生土器 | 底部 | 後期か | 底径 4.3(1/4) | 凹み底 | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 1-2 | 1213 土坑 |
| 66 | 173 | | 弥生土器 | 底部 | 後期前半か | 底径 5.2～5.5(一部欠) | | 5Y3/1 オリーブ黒 | 09-3 | 1-1 | A0005 池 |
| 66 | 174 | | 弥生土器 | 底部 | 後期前半 | 底径 4.8(1/2) | 外：ハケ | 2.5Y6/1 黄灰 | 09-3 | 1-1・1-2 | A0005 池 |
| 66 | 175 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 5.6(1/4) | 外：タタキ(4条/cm)後ナ デ内：ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 09-3 | 1-1・1-2 | A0005 池 |
| 66 | 176 | | 弥生土器 | 底部 | 後期 | 底径 3.9(1/3) | 輪高台 | 2.5Y8/2 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 66 | 177 | | 弥生土器 | 底部 | 後期 | 底径 3.5(1/2) | 輪高台 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 66 | 178 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.6(2/5) | 外：底面にタタキ？ | 5YR6/4 にぶい橙 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 66 | 179 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 5.0(1/5) | 外：タタキ | 2.5Y6/2 灰黄 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 66 | 180 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 2.2 幅 1.6 厚 0.4 重さ 1.0g | 凹基式 サヌカイト | | 09-3 | 2-2 | 側溝掘削中 |
| 66 | 181 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 1.8 幅 1.7 厚 0.3 重さ 0.9g | 凹基式 サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | A0076 土坑 |
| 66 | 182 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 2.1 幅 1.3 厚 0.3 重さ 0.6g | 凹基式 サヌカイト B面：大剥離面残る | | 09-3 | 1-2 | 第2層 |
| 66 | 183 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 2.3 幅 1.9 厚 0.4 重さ 0.9g | 凹基式 サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | A0200 土坑 |
| 66 | 184 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 2.4 幅 1.6 厚 0.3 重さ 1.0g | 凹基式 サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | 第9-1層 |
| 66 | 185 | 141 | 石製品 | 石鏃 | 縄文～弥生 | 長 3.0 幅 1.6 厚 0.8 重さ 4.4g | 凸基Ⅱ式 サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | 第9-1層 |
| 66 | 186 | | 石製品 | ナイフ形 | 旧石器？ | 長 2.4 幅 1.3 厚 0.6 | サヌカイト 風化著しい | | 10-2 | 2-1-2 | 第3層 |
| 66 | 187 | | 石製品 | 剥片 | 旧石器？ | 長 1.9 幅 1.8 厚 0.3 | サヌカイト 風化著しい | | 11-1 | 9-1 | 第3層 |
| 66 | 188 | | 石製品 | 剥片 | 旧石器？ | 長 3.0 幅 1.4 厚 0.5 | サヌカイト 風化著しい | | 11-1 | 10-1 | 第6層 |
| 66 | 189 | | 石製品 | 剥片 | 縄文～弥生 | 長 2.9 幅 1.3 厚 0.5 | サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | 第2層 |
| 66 | 190 | 141 | 石製品 | 剥片 | 縄文～弥生 | 長 2.6 幅 1.2 厚 0.3 | サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | 第9-1層 |
| 66 | 191 | | 石製品 | 剥片 | 縄文～弥生 | 長 3.2 幅 2.0 厚 0.6 | サヌカイト A面：自然面残る | | 10-2 | 2-1-2 | C0019 土坑 |
| 66 | 192 | | 石製品 | 剥片 | 縄文～弥生 | 長 3.1 幅 3.1 厚 1.0 | サヌカイト 上面に自然面残 る やや風化 | | 09-3 | 2-2 | B2013 落込み |
| 66 | 193 | | 石製品 | 剥片 | 旧石器？ | 長 2.6 幅 4.3 厚 1.2 | サヌカイト 風化著しい | | 11-1 | 2-1 | 2002 土坑 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (6)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|-----|-----|------------|---------------------------------|--|------------|----------|-------|--|
| 66 | 194 | | 石製品 | 剥片 | 旧石器? | 長 2.6 幅 4.9 厚 0.6 | サヌカイト 風化著しい | | 09-3 | 2-2 | 第3層 |
| 66 | 195 | | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 4.0 幅 3.6 厚 0.9 | サヌカイト | | 12-1 | 1-2 | 第1層 |
| 66 | 196 | | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 3.4 幅 4.5 厚 0.6 | サヌカイト 下部自然面残る 全体に風化 | | 09-3 | 1-2 | A0225 土坑 |
| 66 | 197 | | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 3.8 幅 4.3 厚 1.2 | サヌカイト A面: 自然面残る | | 09-3 | 1-1 | 第4-1-2層 |
| 67 | 198 | | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 4.3 幅 3.5 厚 1.6 | サヌカイト | | 10-2 | 2-1-2 | 第3層 |
| 67 | 199 | 141 | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 4.0 幅 3.5 厚 0.6 | サヌカイト | | 09-3 | 1-1 | 第9-1層 |
| 67 | 200 | | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 4.9 幅 2.1 厚 0.8 | サヌカイト 全体に風化 | | 09-3 | 1-1 | A0011 落込み |
| 67 | 201 | 141 | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 5.9 幅 2.3 厚 1.3 | サヌカイト | | 09-3 | 1-2 | 第9-1層 |
| 67 | 202 | | 石製品 | 剥片 | 縄文~弥生 | 長 8.0 幅 6.5 厚 3.2 | サヌカイト 右側面に自然面残る | | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 67 | 203 | 141 | 石製品 | 石包丁 | 弥生時代 | 長 5.1 幅 6.4 厚 0.6 孔径 0.8 | 粘板岩 Ⅲ類 表面凹みに磨き残りあり | | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 93 | 204 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀か | 頂部径 8.5(2/3) | 外: 回転ヘラケズリ(砂→)、ヘラ記号「一」 | 7.5Y4/1 灰 | 11-1 | 9-1 | 9001 土坑 |
| 93 | 205 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~7世紀初め | 口径 16.4(1/7) | | N7/0 灰白 | 11-1 | 9-1 | 9002 土坑 |
| 93 | 206 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀末~7世紀初め | 口径 14.8(1/6) | 外: 回転ヘラケズリ(砂→)、溶着 | N8/0 灰白 | 11-1 | 9-1 | 9007 土坑 |
| 93 | 207 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀後半か | 胴部径 18.2(2/3) | 外: カキメ、回転ヘラケズリ(砂←)、自然釉付着 内: 指押さえナデ、自然釉付着 | 10YR6/1 褐灰 | 11-1 | 9-1 | 9005 土坑 |
| 93 | 208 | | 須恵器 | 甕 | 6~8世紀か | 胴部径 30.0(1/2 弱) | 外: タタキ後カキメ、底部近くはタタキのみ 内: 同心円文状当て具痕 | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 9-2 | 9022 土坑 |
| 93 | 209 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀 | 口径 13.0(1/2) 器高 3.5 | 外: 回転ヘラケズリ(砂→) 内: ナデ | N4/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0037 土坑 |
| 93 | 210 | 132 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 11.6~14.0(3/4) 器高 5.1 | ひずみ 外: 回転ヘラケズリ(砂←) 内: ナデ | 7.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0161 土坑 |
| 93 | 211 | 132 | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半 | 口径 7.3(3/4) 器高 20.7 | 口縁ゆがみ 外: タタキ後カキメ、ヘラ記号「×」 内: タタキ?、口縁部下端にヘラで孔をあけた痕跡 焼成不良 | N6/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0138 土坑 |
| 93 | 212 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀後半か | 口径 12.4(2/3) | 外: タタキ後ハケ内: 同心円文状当て具痕 | N7/0 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0169 土坑 |
| 93 | 213 | 132 | 須恵器 | 壺 | 6世紀後半か | 口径 14.5(一部欠) 器高 21.0 | 外: タタキ後カキメ 内: 同心円文状当て具痕、ナデ? | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0214 土坑 |
| 93 | 214 | 132 | 須恵器 | 壺 | 6世紀中~後半か | 頸部径 11.7(若干のみ) 胴部径 18.7(1/2) | 外: タタキ後カキメ、回転ヘラケズリ(砂←)、ヘラ記号「×」 内: ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 1-1 | A0014 土坑 |
| 93 | 215 | | 須恵器 | 壺? | 6世紀後半か | 胴部径 17.5(1/3) | 外: タタキ後カキメ、回転ヘラケズリ(砂←)、自然釉付着 内: ナデ、自然釉付着 | N6/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0063 土坑 |
| 94 | 216 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 16.5(1/4) | | N5/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0065 土坑 A0067 土坑 |
| 94 | 217 | | 須恵器 | 甕 | 7世紀か | 胴部径 19.0(1/2) | 外: カキメ、タタキ 内: ナデ、同心円文状当て具痕 | N3/0 暗灰 | 09-3 | 1-2 | A0064 土坑 |
| 94 | 218 | 133 | 須恵器 | 甕 | 6世紀 | 胴部径 25.3(3/4) | 外: カキメ、タタキ、溶着3(杯を台にした)、自然釉付着 内: 同心円文状当て具痕、自然釉付着 | 7.5Y5/1 灰 | 09-3 | 1-2 | A0242 土坑 |
| 94 | 219 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 胴部径 28.0(1/3) | 外: タタキ後カキメ 内: 同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0184 土坑 |
| 94 | 220 | | 須恵器 | 甕 | 6~7世紀 | 胴部径 30.0(1/4) | 外: タタキ後カキメ、タタキ 内: 同心円文状当て具痕 焼成不良 | 2.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0224 土坑 |
| 94 | 221 | | 須恵器 | 甕 | 6~7世紀 | 胴部径 27.0(1/3) | 外: タタキ後カキメ、タタキ 内: 同心円文状当て具痕後一部ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0222 土坑 |
| 94 | 222 | | 須恵器 | 甕 | 7世紀か | 胴部径 42.0(1/4) | 外: タタキ後カキメ、溶着 内: 同心円文状当て具痕 | 7.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0041 土坑 |
| 95 | 223 | | 須恵器 | 甕 | 6~7世紀 | 頸部径 14.6(1/6) | 外: タタキ(4条/cm)後カキメ、タタキ 内: 同心円文状当て具痕後一部ナデ | N8/0 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0180 土坑 A0199 土坑 A0220 土坑 A0234 土坑 |
| 95 | 224 | | 須恵器 | 横瓶 | 6~7世紀か | | 外: タタキ後カキメ 内: 指押さえナデ | N5/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0077 土坑 |
| 95 | 225 | | 須恵器 | 横瓶 | 6~7世紀か | | 外: タタキ後カキメ、タタキ、自然釉付着 内: 同心円文状当て具痕 | N7/0 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0220 土坑 |
| 95 | 226 | | 須恵器 | 横瓶 | 6~7世紀か | | 外: タタキ後カキメ、タタキ 内: 同心円文状当て具痕後一部ナデ | 5PB5/1 青灰 | 09-3 | 1-2 | A0180 土坑 A0200 土坑 A0206 土坑 A0220 土坑 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (7)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 分量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|-----|----------|-----------------|--------------------------------|--|------------------|----------|-------|--|
| 96 | 227 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 16.0(1/6) | | N5/0 灰 | 11-1 | 13 | 13018 土坑 13021 土坑 |
| 96 | 228 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.6(1/5 弱) 器高 4.1 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←) | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 13 | 13039 土坑 |
| 96 | 229 | | 須恵器 | 壺 | 5世紀 | 頸部径 8.0(1/7) | 外: 凹線 1・2・1 間列点文、 自然釉付着 内: 自然釉付着 | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 13 | 13039 土坑 |
| 96 | 230 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃 | 口径 14.3 ~ 15.6(1/2) 器高 5.4 | ゆがみ 外: 回転ヘラケズリ (砂→) 内: 口縁端部段、 ナデ、自然釉付着 | N7/0 灰白 | 12-1 | 2-3 | 2079 土坑 |
| 96 | 231 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀 | 口径 10.0(1/3) | 図上復元 外: 頸部に竹管に よる記号文、カキメ、自然釉 付着 内: 自然釉付着 | N3/0 暗灰 | 12-1 | 2-3 | 2069 土坑 |
| 96 | 232 | | 須恵器 | 壺底部 | 6世紀か | 胴部径 21.8(1/3) | 236 と同一片か 外: タタキ 後カキメ、回転ヘラケズリ (砂←) 内: ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 2-3 | 2090 土坑 |
| 96 | 233 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀 | 口径 8.6(3/4) | 外: タタキ後カキメ、回転ヘ ラケズリ(砂←) | N5/0 灰 | 12-1 | 2-3 | 2093 土坑 2100 土坑 2103 土坑 2115 土坑 |
| 96 | 234 | | 須恵器 | 横瓶 | 6世紀 | | 外: タタキ後カキメ 内: 同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 2-3 | 2074 土坑 |
| 96 | 235 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 17.6(1/4 強) | 外: タタキ 焼成不良 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 2-3 | 2098 土坑 |
| 96 | 236 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 18.6 ~ 19.2(1/3) | 232 と同一片か | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 2-3 | 2090 土坑 |
| 96 | 237 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 18.4(1/2 強) | 外: タタキ後カキメ 内: 同心円文状当て具痕 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 2-3 | 2085 土坑 |
| 96 | 238 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 18.4(完) | 外: タタキ後カキメ 内: 同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 2-3 | 2100 土坑 |
| 96 | 239 | | 須恵器 | 甕? | 6世紀か | 胴部径 19.2(1/4) | 外: カキメ、タタキ 内: 同心円文状当て具痕 | N5/0 灰 | 12-1 | 2-3 | 2121 土坑 |
| 96 | 240 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 口径 12.0(2/5) | 外: タタキ後カキメ 内: 同心円文状当て具痕 | N7/0 灰白 | 12-1 | 2-3 | 2072 土坑 2073 土坑 2083 土坑 |
| 97 | 241 | 133 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 17.0(3/4) | 外: 工具痕?、格子状タタキ、 自然釉付着 内: 同心円文状 当て具痕、自然釉付着 | N5/0 灰 | 12-1 | 2-2 | 2040 土坑 2043 土坑 |
| 97 | 242 | | 須恵器 | 甕 | 6~7世紀か | 胴部径 29.7(1/3) | 外: タタキ後カキメ、タタキ (3条/cm) 内: 同心円文状 当て具痕 焼成不良 | N7/0 灰白 | 12-1 | 2-3 | 2087 土坑 |
| 97 | 243 | | 須恵器 | 甕 | 7世紀か | 胴部径 47.2(1/2 弱) | 図上復元 外: タタキ(4条/cm) 後カ キメ、底部タタキのみ 内: 同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 2-3 | 2084 土坑 |
| 100 | 244 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~ 7世紀初め | 口径 13.2(1/5 弱) | | N7/0 灰白 | 11-1 | 10-1 | 10006 落込み |
| 102 | 245 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半 | 口径 13.8(1/4) 器高 5.2 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←)、 溶着 内: 口縁端部段、ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 1-2 | A0012 溝 |
| 102 | 246 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 14.0(1/4) 器高 4.7 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←) 内: ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 1-2 | A0012 溝 |
| 102 | 247 | 133 | 須恵器 | 壺 | 6世紀中~ 後半 | 口径 14.0(1/2) 器高 19.3 | 外: カキメ、回転ヘラケズリ (砂←) 内: ナデ 焼成不良 | N6/0 灰 | 09-3 | 1-1 | A0012 溝 |
| 104 | 248 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半 | 口径 12.0(1/14) | 外: 回転ヘラケズリ | 5PB5/1 青灰 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 104 | 249 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半 | 受部径 15.0(1/5) 器高 3.5 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←) 内: ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 104 | 250 | | 須恵器 | すり鉢 | 6~7世紀か | 底径 9.8(1/8) | 穿孔 2(焼成前に内から穿孔) | N4/0 灰 | 11-1 | 10-1 | 第2層 |
| 104 | 251 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀末~ 7世紀初め | 口径 13.8(1/7) | 外: 回転ヘラケズリ(砂←)、 溶着、自然釉付着 内: ナデ | N6/0 灰 | 10-2 | 2-1-2 | 第3層 |
| 104 | 252 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀 | 受部径 12.6(1/6) | 外: 波状文、自然釉付着 内: 自然釉付着 | 5P7/1 明紫灰 | 10-2 | 2-1-2 | 第3層 |
| 104 | 253 | | 土師器 | 把手 | 6世紀か | 小片 | 外: 指ナデ | 5YR8/4 淡橙 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 104 | 254 | 133 | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 16.0(1/4) | 外: 頸部にヘラ記号「V」、タ タキ、タタキ後カキメ 内: 同心円文状当て具痕 | 10YR7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 104 | 255 | | 土師器 | 把手 | 6世紀か | 小片 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 5YR6/6 橙 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 104 | 256 | | 土製品 | 埴輪? | 5世紀か | 小片 | | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 104 | 257 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀か | 口径 9.4(1/12) 頸部径 8.0(1/4 弱) | 外: タタキ 内: 同心円文状当て具痕 | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 109 | 258 | | 須恵器 | 杯B 底部 | 7世紀末~ 8世紀初めか | 高台基部径 9.2(1/6 弱) | 内: ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 1-2 | 掘立柱建物 4 (1188 柱穴) |
| 110 | 259 | | 須恵器 | 杯A | 9世紀か | 小片 | 外: ヘラ切り、ヘラ記号「=」 | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 掘立柱建物 7 (1038 柱穴) |
| 111 | 260 | | 土師器 | 甕C | 8世紀後半か | 口径 25.4(1/10) | 外: 指押さえ、ハケ 内: ハケ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 掘立柱建物 8 (1051 柱穴) |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (8)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番号・名 |
|------|------|------|-------------|-----------|---------------|---|---|------------------|------|------|------------------------|
| 111 | 261 | | 須恵器 | 杯 A | 9世紀か | 口径 12.8(若干のみ) 底径 9.2(1/7) | 外:ヘラ切り、ヘラ記号? | N7/0 灰白 | 11-1 | 1-1 | 掘立柱建物 8 (1100 柱穴) |
| 111 | 262 | 142 | 石製品 | 砥石 | | 長 6.4 幅 7.6 厚 5.3 | 砂岩 砥面 2 | | 11-1 | 1-1 | 掘立柱建物 8 (1051 柱穴) |
| 111 | 263 | | 須恵器 | 杯 B 底部 | 8世紀前半か | 高台径 9.2(1/8) | | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 掘立柱建物 9 (1120 柱穴) |
| 111 | 264 | | 須恵器 | 杯 A | 9世紀か | 口径 14.4(1/11) | 外:回転ナデにより段になる | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 1-1 | 掘立柱建物 9 (1120 柱穴) |
| 112 | 265 | | 土師器 | 高杯脚 | 7世紀か | 脚基部径 2.6(1/2 弱) | 外:ナデ、ハケ 内:しぼり目 | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 10-2 | 2-2 | 掘立柱建物 10 (C0078 柱穴) |
| 112 | 266 | | 須恵器 | 杯 H 蓋 | 7世紀前半 | 口径 10.5(1/14) 器高 4.2 | 外:ナデ 内:ナデ | N7/0 灰白 | 10-2 | 2-2 | 掘立柱建物 10 (C0078 柱穴) |
| 112 | 267 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半 | 口径 9.8(1/4 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) | 5Y6/1 灰 | 10-2 | 2-2 | 掘立柱建物 10 (C0078 柱穴) |
| 112 | 268 | 133 | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半 | 口径 8.1(完) 器高 2.8 | 外:底部未調整 | N6/0 灰 | 10-2 | 2-2 | 掘立柱建物 10 (C0078 柱穴) |
| 113 | 269 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半～ 中頃 | 受部径 11.0(1/6) | 外:ヘラ切り?、ヘラ記号「=」 | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 11 (14062 柱穴) |
| 113 | 270 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半～ 中頃 | 口径 10.0(1/7) | 外:ヘラ切り? | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 11 (14107 柱穴) |
| 113 | 271 | 133 | 須恵器 | 杯 H | 7世紀中頃か | 口径 9.2(1/9) 器高 2.6 | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「×」 、受部に溶着 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 11 (14106 柱穴) |
| 113 | 272 | | 須恵器 | 杯 H | 7世紀中頃か | 口径 10.0(1/8) | 外:ヘラ切り | 5P85/1 青灰 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 11 (14106 柱穴) |
| 114 | 273 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半～ 中頃 | つまみ基部径 1.4(2/3) | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 12 (14095 柱穴) |
| 114 | 274 | | 須恵器? | 把手 | 6世紀か | 小片 | 外:指押さえナデ | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 12 (14095 柱穴) |
| 114 | 275 | | 土師器 | 甕 | 7世紀か | 小片 | 内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 12 (14110 柱穴) |
| 114 | 276 | 133 | 土製品 | 鞆の羽口? | | 小片 | 外:二次焼成による発泡や砂粒が 付着、炭化 | 10YR6/2 灰黄褐 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 12 (14110 柱穴) |
| 114 | 277 | 133 | 土師器 | 竈 | | 小片 | 脚部 外:指押さえ、ナデ 内:ナデ | 5YR6/6 橙 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 12 (14110 柱穴) |
| 115 | 278 | 133 | 緑釉? 陶器 | 皿底部か | 9世紀 | 底径 5.5(1/7) | 内外面釉残存せず 外:糸切り | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 13 (14060 柱穴) |
| 115 | 279 | | 須恵器 | 杯 | 9世紀か | 小片 | 外:ヘラ切り?、自然釉付着 | 5Y6/2 灰オリーブ | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 13 (14117 柱穴) |
| 115 | 280 | 143 | 木製品 | 柱根 | | 長 41.6 幅 15.7 厚 11.8 | スギ | | 12-1 | 14-1 | 掘立柱建物 13 (14057 柱穴) |
| 116 | 281 | 142 | 石製品 | 砥石 | | 長 17.2 幅 15.0 厚 5.9 | 砂岩 砥面 3 | | 09-3 | 2-2 | 掘立柱建物 14 (B2031 石) |
| 118 | 282 | 134 | 黒色土器 A 類 | 椀底部 | 9世紀後半 | 口径 16.6(1/5) 高台径 8.7(1/8) 器高 4.9 | 外:ヘラミガキ、スス付着 内:口縁端部段、ヘラミガキ 後連結輪状暗文 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 283 | 134 | 黒色土器 A 類 | 椀 | 10世紀前半か | 口径 15.3～15.5(完) 高台径 8.5(完) 器高 5.0～5.3 | 外:指押さえナデ後一部ヘラ ミガキ、スス付着 内:口縁 端部段、ハケ後ヘラミガキ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 284 | 134 | 土師器 | 杯 | 9世紀前半か | 口径 13.1(7/8) 器高 3.5 | 外:指押さえナデ、スス付着 内:ナデ、スス付着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 285 | | 土師器 | 椀 | 9世紀 | 口径 15.0(1/6 強) | 外:指押さえナデ 内:口縁端部少し凹む、ナデ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 286 | | 土師器 | 皿 | 9世紀か | 口径 14.0(1/2) 器高 2.2 | 外:指押さえナデ 内:ナデ | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 287 | | 須恵器? | 壺 Q | 8～9世紀 | 口径 20.0(1/6) | 内外面自然釉付着? | 10Y5/2 オリーブ灰 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 288 | 134 | 須恵器 | 甕胴底部 | 8世紀末～ 9世紀か | 底径 14.4(完) | 外:タタキ(2条/cm)、指 押さえ後ヘラケズリ、底面凹 ませる 内:当て具痕?、板ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 289 | 143 | 金属製品 | 刀子 | | 長 8.9 幅 1.2 厚 0.2 | 鉄製品 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 290 | 151 | 木製品 | 櫛 | | 長 3.9 幅 14.5 厚 1.0 | ツゲ 櫛歯 138 本確認 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 291 | 151 | 木製品 | 櫛 | | 長 4.5 幅 11.9 厚 0.9 | ツゲ 櫛歯 102 本確認 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 292 | 151 | 木製品 | 櫛 | | 長 4.4 幅 2.8 厚 0.7 | ツゲ 櫛歯 23 本確認 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 293 | 151 | 木製品 | 櫛 | | 長 1.8 幅 7.0 厚 1.0 | ツゲ 櫛歯 53 本確認 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 294 | 151 | 木製品 | 板状 | | 長 25.1 幅 10.3 厚 1.2 | スギ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 295 | 151 | 木製品 | 板状 | | 長 28.4 幅 8.8 厚 1.0 | スギ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 296 | 151 | 木製品 | 板状 | | 長 38.0 幅 3.9 厚 0.5 | スギ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (9)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|-------------|-----------|---------------------|----------------------|---|------------------|----------|------|-----------------------|
| 118 | 297 | 151 | 木製品 | 曲げ物 底板 | | 径 21.0 厚 1.1 | ヒノキ 釘孔 6 内:円弧の痕跡、線刻? | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 298 | 151 | 木製品 | 底板? | | 長 14.3 幅 2.0 厚 0.6 | スギ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 299 | 151 | 木製品 | 火付け棒 | | 長 7.0 幅 1.4 厚 0.7 | マツ科 先端部炭化 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 300 | 151 | 木製品 | 火付け棒 | | 長 9.1 幅 2.6 厚 0.9 | マツ科 部分的に炭化 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 301 | 151 | 木製品 | 杭 | | 長 47.2 幅 4.7 厚 4.7 | ツツジ科 先端部 2 面加工 表皮残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠内) |
| 118 | 302 | | 黒色土器 A 類 | 椀底部 | 9 世紀後半~ 10 世紀前半か | 高台径 7.6(1/4) | 内:ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠裏込土) |
| 118 | 303 | 134 | 緑釉陶器 | | 9 世紀後半~ 10 世紀前半か | 小片 | 内外面施釉 | 7.5Y6/3 オリーフ黄 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠裏込土) |
| 118 | 304 | 134 | 土師器 | 製塩土器 | 8~9 世紀 | 小片 | 外:指押さえナデ 内:細かい布目痕 | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠裏込土) |
| 118 | 305 | 139 | 瓦 | 軒丸瓦 | 奈良時代 | 外縁高 0.8 瓦当厚 3.6 | 鋸歯文 珠文 吉志部瓦窯か | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠裏込土) |
| 118 | 306 | 139 | 瓦 | 軒平瓦 | 平安時代前期 | 顎凸面幅 2.7 | 唐草文 珠文 スス付着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠裏込土) |
| 118 | 307 | 150 | 木製品 | 板状 | | 長 20.8 幅 8.5 厚 3.1 | ヒノキ 内外面切り痕あり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠裏込土) |
| 119 | 308 | | 土師器 | 杯 | 9 世紀か | 口径 13.0(1/8) | 外:指押さえナデ | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 309 | | 土師器 | 杯 | 9 世紀か | 口径 14.2(1/5) | 外:指押さえナデ 内:口縁 端部沈線 1、ヘラ記号? | 5Y8/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 310 | | 土師器 | 椀? | 8 世紀末~ 9 世紀初め | 口径 13.0(1/3) | 外:指押さえナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 311 | | 土師器 | 甕 | 8 世紀か | 口径 16.4(1/6 弱) | 外:ハケ 内:ヘラケズリ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 312 | | 土師器 | 鉢 | 9 世紀か | 口径 18.1(1/6 弱) | 外:ナデ・ヘラケズリ? 後へ ラナデ? 内:口縁端部突出 | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 313 | | 須恵器 | 杯 | 8 世紀後半か | 口径 12.9(1/4 弱) | 焼成不良 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 314 | | 須恵器 | 壺か 鉢底部 | 9 世紀か | 底径 8.6(1/4) | 外:底面ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 315 | 134 | 緑釉陶器 | 椀 | 9 世紀前半か | 小片 | 内外面施釉 | 10Y5/2 オリーフ灰 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 316 | 134 | 土師器 | 製塩土器 | 8 世紀前半か | 小片 | 外:指押さえナデ 内:ハケ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 317 | 134 | 土師器 | 製塩土器 | 8 世紀~ 9 世紀初め | 小片 | 外:指押さえナデ 内:布目痕 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 318 | 139 | 瓦 | 丸瓦 | | 玉縁端面幅 0.9 | 凸:ナデ 凹:布目痕 七尾瓦窯か | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 319 | 139 | 瓦 | 平瓦 | | 広端面幅 2.2 | 凹:布目痕後板ナデ 凸:縄目タタキ、砂粒付着 七尾瓦窯か | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 119 | 320 | 139 | 瓦 | 平瓦 | | 狭端面幅 2.4~2.6 | 凹:布目痕後一部ナデ 凸:縄目タタキ、砂粒付着 七尾瓦窯か | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (埋戻土) |
| 120 | 321 | 151 | 木製品 | 井戸枠 縦板 | | 長 66.0 幅 29.0 厚 8.0 | スギ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠関連) |
| 120 | 322 | 150 | 木製品 | 井戸枠 縦板 | | 長 63.4 幅 29.4 厚 4.8 | コウヤマキ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠関連) |
| 120 | 323 | 151 | 木製品 | 建築部材 | | 長 43.5 幅 10.3 厚 5.3 | ヒノキ 方形未貫通孔 1 | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠関連) |
| 120 | 324 | 150 | 木製品 | 井戸枠 縦板 | | 長 77.6 幅 34.3 厚 5.5 | ヒノキ 片面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠関連) |
| 120 | 325 | 148 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.8 幅 80.0 厚 1.8 | ヒノキ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠関連) |
| 120 | 326 | 148 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 5.5 幅 99.5 厚 3.0 | ヒノキ 1 面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠関連) |
| 120 | 327 | 148 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 11.5 幅 87.3 厚 2.8 | ヒノキ 1 面の両端の突出部 にホソ孔 2・3 個あり 両面 に切り痕あり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠関連) |
| 121 | 328 | 145 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.0 幅 141.5 厚 4.5 | スギ 両端部に上下の挟りあり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 1 段目) |
| 121 | 329 | 144 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 11.0 幅 85.0 厚 4.5 | スギ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 1 段目) |
| 121 | 330 | 149 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.5 幅 145.0 厚 4.5 | スギ 両端部に上下の挟りあり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 1 段目) |
| 121 | 331 | 147 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 9.0 幅 54.8 厚 3.5 | シノキ | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 1 段目) |
| 122 | 332 | 145 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 12.5 幅 151.5 厚 3.8 | スギ 両端部に上下の挟りあり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 2 段目) |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (10)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------------|------------|---------|--------------------------------------|---|------------------|----------|------|-----------------------|
| 122 | 333 | 144 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 15.0 幅 118.0 厚 5.0 | スギ 両端部に上下の挟り? | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 2 段目) |
| 122 | 334 | 149 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 15.5 幅 147.5 厚 5.0 | スギ 両端部に上下の挟りあり 1面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 2 段目) |
| 122 | 335 | 147 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 16.0 幅 123.0 厚 5.5 | スギ 両端部に上下の挟りあり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 2 段目) |
| 123 | 336 | 146 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 15.3 幅 149.8 厚 5.0 | スギ 両端部に上下の挟りあり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 3 段目) |
| 123 | 337 | 144 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 15.5 幅 126.7 厚 14.3 | スギ 両端部に上下の挟りあり | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 3 段目) |
| 123 | 338 | 149 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 15.5 幅 148.0 厚 5.0 | スギ 両端部に上下の挟りあり 1面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 3 段目) |
| 123 | 339 | 147 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 15.5 幅 124.0 厚 4.5 | スギ 両端部に上下の挟りあり 1面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 3 段目) |
| 124 | 340 | 146 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.0 幅 149.0 厚 5.8 | スギ 両端部に上下の挟りあり ホゾ孔 2 に木片残る 1面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 4 段目) |
| 124 | 341 | 144 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.5 幅 124.0 厚 5.0 | スギ 両端部に上下の挟りあり ホゾ孔 1 に木片残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 4 段目) |
| 124 | 342 | 149 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.0 幅 148.5 厚 5.5 | スギ 両端部に上下の挟りあり ホゾ孔 2 に木片残る 1面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 4 段目) |
| 124 | 343 | 147 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.0 幅 124.5 厚 5.5 | スギ 両端部に上下の挟りあり ホゾ孔 1 に木片残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 4 段目) |
| 125 | 344 | 146 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.8 幅 148.0 厚 5.5 | スギ 両端部に片側の挟りあり ホゾ孔 1 に木片残る 1面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 5 段目) |
| 125 | 345 | 145 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.0 幅 123.0 厚 5.8 | スギ 両端部に上下の挟りあり ホゾ孔 1 に木片残る 3面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 5 段目) |
| 125 | 346 | 150 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.5 幅 148.2 厚 6.0 | スギ 両端部の片側に挟りあり ホゾ孔 1 に木片残る 1面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 5 段目) |
| 125 | 347 | 148 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.0 幅 124.0 厚 5.9 | スギ 両端部に上下の挟りあり ホゾ孔 1 に木片残る 2面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 5 段目) |
| 126 | 348 | 146 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.5 幅 165.0 厚 12.5 | マツ科 丸太を側面加工(樹皮が残る) 両端に片面の挟り | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 6 段目) |
| 126 | 349 | 145 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 12.5 幅 135.5 厚 11.3 | マツ科 丸太を加工(樹皮が残る) 両端部に上下の挟り 3面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 6 段目) |
| 126 | 350 | 150 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 13.0 幅 163.0 厚 12.0 | マツ科 丸太を加工(樹皮が残る) 両端部の片面に挟り 3面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 6 段目) |
| 126 | 351 | 148 | 木製品 | 井戸枠 | | 長 12.5 幅 125.5 厚 10.0 | マツ科 丸太を加工 両端部に 上下の挟りあり 2面に加工痕残る | | 11-1 | 1-1 | 1012 井戸 (井戸枠 6 段目) |
| 127 | 352 | 134 | 土師器 | 皿 | 8世紀後半か | 口径 21.8(3/5) 器高 3.6 | 外:指押さえナデ?、ヘラケズリ? | 10YR8/4 浅黄橙 | 09-3 | 2-2 | B2024 井戸 |
| 127 | 353 | | 土師器 | 甕 | 7世紀後半か | 口径 27.2(1/7) | 外:ハケ 内:板ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2024 井戸 |
| 127 | 354 | 135 | 土師器 | 壺? | ? | 口径 4.7~4.9(一部欠) 器高 8.0 | 外:沈線?9条、ナデ、ヘラケズリ、スス付着 内:ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 09-3 | 2-2 | B2024 井戸 |
| 127 | 355 | | 土師器 | 把手 | | 小片 | 外:指ナデ、スス付着 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 09-3 | 2-2 | B2024 井戸 |
| 127 | 356 | | 須恵器 | 蓋 | 7世紀か | つまみ径 2.2(一部欠) | 外:自然釉付着 内:ナデ | 5B6/1 青灰 | 09-3 | 2-2 | B2024 井戸 |
| 127 | 357 | 143 | 木製品 | 不明 | | 長 11.3 幅 4.6 厚 1.7 | アカガシ垂属 長方形の上部を細く加工 | | 09-3 | 2-2 | B2024 井戸 |
| 129 | 358 | | 土師器 | 小皿 | 11世紀か | 口径 7.6(1/7) | て字状 | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 1-2 | 1200 土坑 |
| 129 | 359 | | 土師器 | 皿 | 10世紀前半か | 口径 12.6(1/7) | 外:指押さえ | 2.5Y4/1 黄灰 | 12-1 | 1-2 | 1200 土坑 |
| 129 | 360 | 134 | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀中頃か | 口径 14.7(一部欠) 高台径 6.8(完) 器高 4.9 | 外:ヘラミガキ 内:口縁端部段、ヘラミガキ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 1-2 | 1200 土坑 |
| 129 | 361 | | 須恵器 | 杯 A 底部 | 9世紀か | 底径 9.6(1/3) | 外:ヘラ切り 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1039 土坑 |
| 129 | 362 | | 須恵器 | 杯 G | 7世紀中頃 | 口径 10.2(2/5) 器高 3.6 | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2012 土坑 |
| 129 | 363 | | 須恵器 | 長頸壺 頸部 | 8世紀か | 頸部径 5.0(完) | 外:灰かぶり 内:しぼり目、灰かぶり | N4/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 14035 土坑 |
| 131 | 364 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀か | 小片 | 外:口縁端部に沈線?1条 | 7.5Y4/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1062 ビット |
| 131 | 365 | | 土師器 | 椀 | 9世紀前半か | 口径 14.6(1/10) | 外:指押さえナデ | 2.5Y8/3 淡黄 | 11-1 | 1-1 | 1027 ビット |
| 131 | 366 | | 須恵器 | 杯 B 蓋 | 8世紀前半 | 口径 18.8(1/12) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1155 ビット |
| 131 | 367 | | 須恵器 | 杯 B | 8世紀後半か | 高台径 10.6(1/9) | 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1045 ビット |
| 131 | 368 | | 須恵器 | 杯 G 底部か | 7世紀か | 底径 6.0(1/4 強) | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1153 ビット |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (11)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------------|-------|----------------|---------------------------|---|--------------------|----------|------|----------------|
| 131 | 369 | | 須恵器 | 鉢 | 8世紀後半か | 小片 | 内:口縁端面 | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1131 ビット |
| 131 | 370 | | 須恵器 | 壺 C | 8世紀前半か | 高台径 6.0(1/4 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1021 ビット |
| 131 | 371 | | 須恵器 | 壺頸部 | 8世紀 | 凹線下径 6.0(1/2 弱) | 外:凹線 2 内:自然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1081 ビット |
| 131 | 372 | | 須恵器 | 鉢か盤 | 8世紀 | 底径 19.2(1/7) | 外:底面ヘラケズリ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1118 ビット |
| 131 | 373 | 135 | 土製品 | 土錘 | | 径 0.8 孔径 0.3 | | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 1-1 | 1065 ビット |
| 131 | 374 | | 土師器 | 小皿 | 11世紀 | 口径 10.0(1/10) | | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 14053 ビット |
| 131 | 375 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀 | 小片 | 外:まばらなヘラミガキ 内:口縁端面、ヘラミガキ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 14-1 | 14061 ビット |
| 131 | 376 | 134 | 須恵器 | 杯蓋 | 7世紀前半 | 口径 11.8(2/3) | ゆがみ 外:ヘラ切り、ヘラ 記号「○」 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 14138 ビット |
| 131 | 377 | 142 | 石材 | | | 長 18.8 幅 6.7 厚 3.9 | 砂岩 左側面自然面 | | 09-3 | 2-2 | B2036 ビット |
| 133 | 378 | 135 | 緑釉陶器 | 段皿 | 9世紀前半 | 口径 19.0(1/9) | 内外面施釉 | 2.5GY7/1 暗オリーブ灰 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 379 | | 緑釉陶器 | 椀底部 | 9世紀前半か | 底径 5.0(1/6) | 内外面施釉(底面除く) | 10Y8/2 灰白 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 380 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀前半か | 口径 14.0(1/10) | 内:ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 381 | | 土師器 | 羽釜 | 10世紀か | 口径 17.4(1/12) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 382 | | 土師器 | 甕 | 10世紀か | 頸部径 17.4(1/6 強) | | 7.5YR7/6 橙 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 383 | | 須恵器 | 壺 | 9世紀か | 高台径 9.0(1/4) | 内:底面に粘土板を押しした時 に出来た爪痕 | 10BG5/1 青灰 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 384 | 139 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 側面幅 1.3 狭端縁連結面幅 1.3 | 凸:縄目タタキ 凹:布目痕? | N8/0 灰白 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 385 | 139 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | | 凹:布目痕 凸:縄目タタキ | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 1-2 | 1199 溝 |
| 133 | 386 | | 土師器 | 皿 | 8世紀後半 | 口径 21.4(1/18) | 外:ヘラケズリ 内:放射状 暗文、連結輪状暗文 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 1014 溝 |
| 133 | 387 | | 須恵器 | 横瓶? | ? | | 外:ハケ 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1015 溝 |
| 133 | 388 | | 須恵器 | 脚付壺 | 6世紀末~ 7世紀か | 底部近く 8.6(1/5) | 外:凹線 1、カキメ、工具痕? | 7.5Y6/2 灰オリーブ | 11-1 | 1-1 | 1041 溝 |
| 133 | 389 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀中頃 | 口径 9.8(1/7) | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 灰かぶり 内:ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 14037 溝 |
| 133 | 390 | | 須恵器 | 杯 G | 7世紀後半 | 口径 11.0(1/8) 器高 3.7 | 外:ヘラ切り | N6/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 14037 溝 |
| 133 | 391 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 口径 11.2(1/4) | 外:タタキ 内:同心円文状当て具痕 | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 14037 溝 |
| 133 | 392 | 136 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 12-1 | 14-3 | 14037 溝 |
| 133 | 393 | | 黒色土器 A類 | 椀高台 | 10世紀末か | 高台径 6.2(1/4 強) | 内:ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 14-1 | 14072 溝 |
| 133 | 394 | | 土師器 | 小皿 | 11世紀初めか | 口径 9.8(1/4 強) | て字状 | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 14072 溝 |
| 133 | 395 | 140 | 瓦 | 鴟尾 | 奈良~平安時 代 | | 珠文の痕跡 七尾瓦窯か ヘラによる沈線(印) | N4/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 14072 溝 |
| 135 | 396 | 135 | 土師器 | 鉢 | 7世紀 第3四半期 | 口径 29.8(1/2 弱) 器高 10.1 | 外:ヘラケズリ後一部ヘラミ ガキ 内:放射状・連結輪状暗文 | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 397 | | 土師器 | 高杯脚 | 7世紀か | 脚部径 2.2(完) | 内:しほり目 | 7.5YR8/1 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 398 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半 | 天井部径 9.8(1/6 強) | 焼成不良 | 10YR6/1 褐灰 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 399 | 135 | 須恵器 | 杯蓋 | 7世紀前半 | 口径 10.4(3/4) 器高 3.3 | 外:指押さえナデ 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 400 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半~ 中頃 | 口径 9.2(1/3) | 外:ヘラ切り? | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 401 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀中頃 | 口径 10.4(1/2 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 402 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀中頃 | 口径 11.0(1/8) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 403 | | 須恵器 | 杯 G | 7世紀前半~ 中頃 | 口径 10.3(1/2 弱) 器高 3.9 | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 404 | | 須恵器 | 杯底部 | 7世紀前半~ 中頃 | 底径 6.7(1/2) | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「一」 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 405 | | 須恵器 | 杯 | 7世紀か | 小片 | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「一」 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 406 | | 須恵器 | 杯 | 7世紀か | 小片 | 外:ヘラ切り 内:ナデ、ヘラ記号「三」 | N3/0 暗灰 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 407 | | 須恵器 | 高杯 | 7世紀前半か | 脚部径 5.5(2/5) | 外:ヘラ切り 焼成不良 | N8/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 135 | 408 | 135 | 須恵器 | 壺 | 6世紀後半 | 胴部径 18.2(完) | 外:凹線 2・1、回転ヘラケ ズリ(砂←)、自然釉付着 内:自然釉付着、灰の塊付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 11-2 | 11019 溝 |
| 137 | 409 | | 土師器 | 鉢 B | 7世紀末~ 8世紀初め | 口径 22.0(1/4) | 外:ヘラミガキ?、ヘラケズ リ?内:ナデ? | 5YR4/6 赤褐 | 12-1 | 14-2 | 14001 溝 |
| 137 | 410 | | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半 | 口径 11.0(1/8) | | N5/0 灰 | 12-1 | 14-2 | 14001 溝 |
| 137 | 411 | 135 | 須恵器 | 杯 G | 7世紀前半~ 中頃 | 口径 10.2(1/4) 器高 3.8 | 外:ヘラ記号「////」、ヘラ切 り 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-2 | 14001 溝 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (12)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|-----|------|-----------------|-------------------------------------|--|-------------------|----------|------|----------------|
| 137 | 412 | | 須恵器 | 横瓶 | 6～8世紀 | | 外：タタキ後一部ナデ、タタキ 内：同心円文状当て具痕 後一部ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 14-2 | 14001 溝 |
| 137 | 413 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 25.0(1/13) | 外：自然釉付着 内：工具痕、同心円文状当て 具痕、自然釉付着 | N5/0 灰 | 12-1 | 14-2 | 14001 溝 |
| 137 | 414 | 135 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半～ 7世紀初め | 頸部径 14.5(1/2) 器高 43.7 | ゆがみ 外：ヘラ?描波状文 4条、タタキ後力キメ、自然 釉付着、粘土塊付着 内：同心円文状当て具痕、自 然釉付着 | 5Y6/1 灰 | 12-1 | 14-2 | 14001 溝 |
| 137 | 415 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 胴部径 37.0(1/4) | 外：タタキ(2条/cm)後力 キメ・ハケ状 内：同心円文 状当て具痕後一部ナデ | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-2 | 14001 溝 |
| 138 | 416 | | 土師器 | 羽釜 | 7世紀～ | 鏝径 28.0(若干のみ) | 生駒西麓産 | 10YR4/2 灰黄褐 | 12-1 | 14-2 | 14005 溝 |
| 138 | 417 | 135 | 土師器 | 竈 | 6世紀～ | 底径 50.0 くらいか (若干のみ) | 竈焚口・側面部 下部部炭化 内：板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 14-2 | 14005 溝 |
| 138 | 418 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 22.0(1/3 弱) | | N4/0 灰 | 12-1 | 14-2 | 14005 溝 |
| 138 | 419 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 22.0(1/12) | 外：タタキ(3条/cm)後力 キメ、自然釉付着 内：同心 円文状当て具痕、自然釉付着 | N6/0 灰 | 12-1 | 14-2 | 14005 溝 |
| 138 | 420 | 136 | 須恵器 | 甕 | 6世紀前半か | 口径 23.8(1/2) | 外：凸線1、タタキ(3条/cm) 後力キメ、タタキのみ、自然 釉付着 内：同心円文状当て 具痕、自然釉付着 | 5Y4/1 灰 | 12-1 | 14-2 | 14005 溝 |
| 139 | 421 | | 土師器 | 杯 | 7世紀末～ 8世紀初めか | 口径 12.3(1/4 強) 器高 3.8 | 外：指押さえナデ 内：口縁端部段、放射状・連 結輪状暗文 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 422 | | 土師器 | 杯 | 6世紀末～ 7世紀か | 口径 11.8(1/5) 器高 4.2 | 外：指押さえナデ | 7.5YR6/6 橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 423 | | 土師器 | 高杯 | 7世紀前半か | 口径 15.9(1/10) | 外：口縁端部に面を持つ | 2.5YR6/6 橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 424 | | 土師器 | 高杯脚 | 7世紀か | 脚基部径 2.4(完) | 内：しぼり目 | 2.5Y8/3 淡黄 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 139 | 425 | | 土師器 | 甕 | 7世紀後半か | 口径 18.0(1/3) | 外：ハケ? | 2.5YR6/6 橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 426 | | 土師器 | 皿脚 | 7世紀か | 脚裾径 13.2(1/3 強) | 内：放射状暗文、指押さえナ デ | 5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 427 | | 土師器 | 皿脚 | 7世紀か | 脚裾径 12.0(1/8) | | 10YR8/4 浅黄褐 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 428 | | 土師器 | 鍋底部か | 5～6世紀か | 底径 9.7(一部欠) | 外：ヘラ記号「一」 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 429 | | 土師器 | 把手 | 5～6世紀か | 小片 | 外：指押さえナデ 内：指押さえナデ | 10YR6/6 明黄褐 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 139 | 430 | | 土師器 | 把手 | 6世紀か | 小片 | 外：指押さえナデ 内：ハケ? | 7.5YR7/6 橙 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 139 | 431 | | 土師器 | 把手 | 6～7世紀 | 小片 | 外：指押さえナデ | 10YR7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 432 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半 | 口径 10.7(1/4) | 外：ヘラ切り 焼成不良 | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 433 | 136 | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半 | 口径 9.5～10.0(2/3) 器高 3.0 | ゆがみ 外：ヘラ切り 内：ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 434 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀中頃 | 口径 10.6(3/5) | 外：ヘラ切り? 内：ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 435 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀中頃 | 口径 9.0(1/2 弱) | 外：ヘラ切り? 内：ナデ | 10BG6/1 青灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 436 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀中頃 | 口径 8.8(1/3) 器高 2.9 | 外：ヘラ切り? 内：ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 437 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀中頃 | 口径 11.2(1/5) | 外：ヘラ切り? 焼成不良 | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 438 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀中頃 | 口径 10.6(1/4) | 外：ヘラ切り? | 2.5GY6/1 オリーブ灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 439 | 136 | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半 | 口径 9.1(1/2) 器高 2.9 | 外：ヘラ切り、ヘラ記号「× 」内：ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 440 | 136 | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半 | 口径 9.7～10.0(9/10) 器高 3.2 | ゆがみ 外：ヘラ切り | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 441 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中頃か | 口径 13.6(若干のみ) | 外：回転ヘラケズリ(砂←)、 自然釉付着 | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 442 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀後半 | 口径 8.4(1/4 弱) | 外：回転ヘラケズリ(砂←) | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 443 | 136 | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀前半～ 中頃 | 口径 11.8(5/6) つま み径 1.7(完) 器高 3.1 | 外：ヘラ切り 内：ナデ | 7.5R5/1 赤灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 444 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中頃 | 口径 10.2(1/3) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 445 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀後半 | 口径 10.2(1/5) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 446 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中 | 口径 10.8(3/5) | 外：回転ヘラケズリ 内：ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 447 | | 須恵器 | 杯G底部 | 7世紀中か | 底径 5.8～6.2(完) | 外：ヘラ切り、ヘラ記号「ソ 」内：ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 448 | 136 | 須恵器 | 杯G | 7世紀中か | 口径 9.0(1/5) | 外：ヘラ切り、ヘラ記号「× 」内：ナデ | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 449 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀前半～ 中頃 | 口径 8.8(1/4 弱) 器高 3.3 | 外：ヘラ切り 内：ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 450 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀前半～ 中頃 | 口径 9.2(2/5) | 外：ヘラ切り 内：ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (13)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|-----|---------------|-------------------|-------------------------------------|--|-------------------|----------|------|----------------|
| 140 | 451 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀中頃か | 口径 8.8(1/7) 器高 3.1 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 5B5/1 青灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 452 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀中頃 | 口径 9.0(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N5/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 453 | 136 | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀前半～ 中頃 | 口径 9.4～9.8(3/4) 器高 3.4 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 454 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀中頃か | 口径 9.6(1/4 強) | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 455 | 136 | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀中 | 口径 9.4(5/12) 器高 4.2 | 外:回転ヘラケズリ 内:ナデ | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 456 | 137 | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀中頃 | 口径 9.8～10.2(3/5) 器高 3.8 | 外:ヘラ切り? | 5B5/1 青灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 457 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀前半～ 中頃 | 口径 10.8(2/5) 器高 3.4 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 458 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀後半か | 口径 10.6(若干のみ) 底径 7.3(1/4) 器高 3.2 | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 459 | | 須恵器 | 杯 B 又は 杯 G | 7 世紀か | 口径 10.8(若干のみ) 下部径 7.6(1/4) | | 2.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 460 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀か | 小片 | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「×」 ? 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 461 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀か | 小片 | 外:ヘラ切り?、ヘラ記号「 -」 | 2.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 462 | | 須恵器 | 杯 A? | 7 世紀 | 口径 15.0(1/4) | 焼成不良 | 10Y8/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 463 | | 須恵器 | 杯 A | 8 世紀前半 | 口径 13.6(1/3 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 464 | | 須恵器 | 杯 B 底部 | 7 世紀後半か | 高台径 7.9(1/2 弱) | 外:回転ヘラケズリ? 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 465 | | 須恵器 | 杯 B 底部 | 7 世紀 第 3 四半期か | 高台径 8.3(若干のみ) 高台基部径 7.7(2/3) | 内:ナデ | 10YR6/1 褐灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 466 | | 須恵器 | 杯 B 底部 | 7 世紀末か | 高台径 11.0(1/4) | 外:ナデ? 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 467 | | 須恵器 | 杯 B 底部 | 8 世紀前半か | 高台径 11.6(1/4) | 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 468 | | 須恵器 | 鉢 | 7 世紀前半～ 中頃 | 口径 31.8(1/14) 底部近く 19.0(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 469 | | 須恵器 | 鉢 | 7 世紀か | 小片 | 焼成不良 | 10Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 470 | | 須恵器 | 壺か 鉢底部 | 6～7 世紀か | 小片 | 外:回転ヘラケズリ、ヘラ記 号「-」 | 2.5Y8/2 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 471 | | 須恵器 | 皿 C | 8 世紀 第 2 四半期か | 口径 24.8(1/4) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 焼成不良 | N8/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 472 | | 須恵器 | 横瓶 | 6 世紀後半～ 7 世紀か | 口径 11.2(1/3) | 外:タタキ後カキメ 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 473 | | 須恵器 | 甕 | 7 世紀か | 小片 | | N5/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 474 | | 須恵器 | 甕 | 6～7 世紀 | 口径 13.8(1/5) | 外:自然釉付着 | 5Y3/1 オリーフ黒 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 475 | | 須恵器 | 壺 | 7 世紀後半か | 口径 11.0(1/4 弱) | 外:沈線 2、カキメ、静止ヘ ラケズリ、自然釉付着 | 7.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 476 | 136 | 須恵器 | 高杯 | 7 世紀前半か | 口径 9.0(1/5) 脚裾径 6.8(完) 器高 5.9 | 外:ヘラ切り 内:口縁端部凹線 1、ナデ | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 477 | | 須恵器 | すり鉢 底部 | 7 世紀か | 底径 11.2(1/2) | 小孔 1(貫通) 外:指押さえナデ 内:指押さえ 焼成不良 | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 140 | 478 | | 須恵器 | すり鉢 底部 | 6 世紀か | 底径 8.9～9.1(完) | 穿孔 1 外:カキメ?、底面 ハケ 焼成不良 | N8/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 140 | 479 | | 須恵器 | すり鉢 底部 | 7 世紀か | 底径 8.7(完) | 内:亀裂あり | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 480 | 137 | 須恵器 | 平瓶 | 7 世紀中頃 | 胴部径 14.5(完) 器高 12.2 | 外:口縁部凹線 2、カキメ、 回転ヘラケズリ(砂←) | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 481 | 136 | 須恵器 | 平瓶 | 6 世紀末～ 7 世紀初めか | 頸部径 3.8(完) 胴部径 12.9(完) | 外:浮文?1、カキメ、ヘラ 記号「井」、回転ヘラケズリ、 自然釉付着 | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 482 | | 須恵器 | 平瓶 | 7 世紀か | 頸部径 4.2(1/2 強) | 外:カキメ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 483 | | 須恵器 | 平瓶 | 7 世紀 | 口径 8.2(1/2 弱) | 外:自然釉付着 | N8/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 484 | | 須恵器 | 平瓶 | 7 世紀中頃か | 口径 7.6(一部欠) | | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 485 | | 須恵器 | 平瓶 | 7 世紀中頃か | 口径 6.6(2/3) | | 2.5GY5/1 オリーフ灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 486 | | 須恵器 | 平瓶? | 7 世紀か | 口径 7.7(1/10) | | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 487 | | 須恵器 | 長頸壺 頸部 | 7 世紀か | 凹線上径 5.2(完) | 外:凹線 2 内:しぼり目 | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 488 | | 須恵器 | 長頸壺 頸部 | 7～8 世紀初 め | 頸部径 6.7(ほぼ完) | 外:凹線 3、頸部をねじった ような痕跡 内:しぼり目 | N4/0 灰 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 489 | | 須恵器 | 長頸壺 | 7 世紀 | 胴部径 16.8(1/3) 脚基部径 7.2(完) | 外:沈線 1・2 間列点文 (7 条)、 回転ヘラケズリ(砂←) 内:指押さえ、しぼり目、同 心円文状当て具痕 | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 490 | | 土製品 | ? | ? | 小片 | 外:板ナデ?、ナデ、ハケ | 10Y6/1 灰 | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 141 | 491 | 136 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 脚部 外:底部二次焼成によ る黒色化 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (14)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------|--------------|----------------|---|---|------------------|----------|------|----------------|
| 141 | 492 | 136 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 焚口部 外:ナデ | 5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 493 | 136 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 焚口部? 内:指押さえナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 494 | 136 | 土師器 | 竈? | ? | 小片 | 内:指押さえ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 495 | | 土製品 | 不明 | 5~6世紀か | 小片 | 外:ハケ 内:ナデ 生駒西麓産? | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 496 | 142 | 石製品 | 敲き石 | ? | 長 6.9 幅 4.9 厚 4.5 | 砂岩 下面に敲き痕 | | 12-1 | 14-1 | B2003 溝 |
| 141 | 497 | 143 | 金属製品 | ? | | 長 4.7 幅 6.8 厚 2.8 | 鉄 | | 09-3 | 2-2 | B2003 溝 |
| 142 | 498 | 135 | 須恵器 | 短頸壺 | 6世紀末~ 7世紀初め | 口径 6.7(1/2) 器高 8.1 | 外:沈線1、底部粘土の継ぎ 足し、自然釉付着(蓋をして 焼成されたのか口縁部は無 し) 内:ナデ、底部粘土の 継ぎ足し | N7/0 灰白 | 11-1 | 2-1 | 2001 溝 |
| 142 | 499 | | 土師器 | 杯 | 8世紀後半か | 口径 19.0(1/4弱) | 外:ヘラミガキ? | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 2-1 | 2024 溝 |
| 144 | 500 | | 土師器 | 杯 | 9世紀前半か | 口径 13.4(1/2) 器高 3.1 | 外:指押さえナデ 内:口縁部端少し凹む、ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 501 | | 土師器 | 杯 | 8世紀後半 | 口径 14.6(1/4強) | 外:ヘラケズリ 内:ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 502 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径 16.8(1/8) | 外:ナデ 内:ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 503 | | 土師器 | 杯 | 8世紀後半 | 口径 18.6(1/4) | 外:ヘラケズリ 内:放射状暗文 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 504 | | 土師器 | 杯 | 8世紀後半 | 口径 19.0(1/6弱) | 外:ナデ、ヘラケズリ 内:ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 505 | | 土師器 | 鉢B | 8世紀 | 口径 18.2(1/8) | ゆがみ 内:口縁端部面 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 506 | | 土師器 | 高杯 | 8世紀後半か | 口径 28.0(1/8弱) | 外:ヘラミガキ 内:放射状・連結弧状暗文 | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 507 | | 土師器 | 皿 | 8世紀後半 | 口径 18.4(1/4) | 外:指押さえナデ 内:口縁 端部沈線1、ナデ、暗文 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 508 | 137 | 土師器 | 皿? 底部 | 8世紀後半か | | 脚付 外:ナデ、ヘラケズリ、 ヘラ記号「×」 内:連結輪状暗文 | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 509 | | 土師器 | 甕 | 8世紀か | 口径 16.0(1/7) | 外:ハケ 内:ヘラケズリ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 510 | | 土師器 | 甕 | 9世紀前半か | 口径 16.2(1/4) | 外:ハケ 内:ナデ?、工具痕 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 511 | 137 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀前半か | 口径 10.4(1/5) | 内外面指押さえナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 512 | | 須恵器 | 杯A | 8世紀後半か | 口径 13.2(1/4弱) | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 513 | | 須恵器 | 杯A | 8世紀末~ 9世紀初め | 口径 14.3(1/2) 器高 3.7 | 外:ヘラ切り 内:ナデ 焼成不良 | 5Y8/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 514 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀前半 | 口径 15.4(1/10) 高台径 11.2(1/2) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 515 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀後半 | 口径 14.7~14.9(3/4) 高台径 9.2(ほぼ完) 器高 3.5~3.8 | 外:ヘラ切り、底面火ダスキ? 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 516 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀後半 | 口径 14.6(1/8) 高台 径 11.0(3/8) 器高 3.6 | 外:ヘラ切り、高台底面に溶 着 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 517 | 137 | 須恵器 | 円面硯 | 8~9世紀 | 脚基部径 19.0(1/8) | 外:凸線2、スカシ2残(両 面から穿孔)、脚破断面磨る 陸部使用のため? 磨耗 | N5/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 518 | 137 | 須恵器 | ? | ? | 小片 | 外:タタキ後ハケ 内:同心円文状当て具痕 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 144 | 519 | 142 | 石製品 | 砥石 | | 長 5.4 幅 2.3 厚 2.5 | 凝灰岩 砥面3 | | 11-1 | 1-1 | 1013 落込み |
| 145 | 520 | | 土師器 | 杯 | 8世紀後半 | 口径 20.4(1/6弱) | 外:ヘラケズリ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 145 | 521 | | 土師器 | 皿 | 8世紀末か | 口径 24.0(1/8) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 145 | 522 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀 第2四半期か | 口径 15.8(1/8) 高台径 10.6(1/2弱) 器高 4.1 | 外:ナデ | 7.5Y5/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 145 | 523 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀後半か | 高台径 12.6(1/4強) | 外:ナデ、ヘラ記号「一」? | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 145 | 524 | | 須恵器 | 壺 | 7~8世紀か | 口径 11.8(若干のみ) 頸部径 10.4(1/2弱) | 外:カキメ? | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 145 | 525 | 137 | 須恵器 | 不明底部 (竈?) | ? | 底径 26.2(1/8) | 外:ハケ 内:ナデ、工具痕、 ヘラケズリ、スス付着 | 10Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 145 | 526 | 140 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 狭端幅 1.5 側面幅 1.2 | 凹:布目痕、ヘラケズリ 凸:縄目タタキ後一部ナデ 七尾瓦窯か | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 145 | 527 | 140 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 狭端縁連結面幅 1.0 玉縁端幅 1.2 | 凸:ナデ(一部縄目タタキ残) 凹:布目痕後ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (15)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------------|-----|-----------------|---|---|------------------|----------|------|----------------|
| 145 | 528 | 142 | 石製品 | 砥石? | | 長6.4 幅10.6 厚3.4 | 砂岩 | | 11-1 | 1-1 | 1011 落込み |
| 146 | 529 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃～ 後半 | 口径15.9(1/5) 器高4.6 | ゆがみ 外：わずかな稜、回 転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ 火ぶくれ | N6/0 灰 | 09-3 | 1-1 | A0011 落込み |
| 146 | 530 | | 須恵器 | 杯B蓋 | 8世紀 第2四半期か | つまみ径3.3(一部欠) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 1-1 | A0011 落込み |
| 146 | 531 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀 第2四半期か | 口径15.0(1/6) 高台径8.9(若干のみ) | | 2.5Y6/1 黄灰 | 09-3 | 1-1 | A0011 落込み |
| 147 | 532 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半 | 口径10.6(1/2) 器高3.0 | 外：ヘラ切り 内：ナデ | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | 14084 落込み |
| 147 | 533 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半か | 口径10.0(若干のみ) ヘラ切り下端径6.5 (1/3) 器高3.1 | 外：ヘラ切り、ヘラ記号「× 」 | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | 14084 落込み |
| 147 | 534 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀後半 | 口径9.6(1/4弱) 器高3.3 | 外：ヘラ切り? | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2006 落込み |
| 147 | 535 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中頃 | 口径9.6(1/8) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2007 落込み |
| 147 | 536 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中～ 後半 | 口径9.6(1/7) | | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2007 落込み |
| 147 | 537 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中頃 | 口径11.8(1/12) | | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2007 落込み |
| 147 | 538 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀中 | 受部端部径11.4(1/10) | 外：ヘラ切り? | 5B5/1 青灰 | 09-3 | 2-2 | B2009 落込み |
| 147 | 539 | | 須恵器 | 溶着片 | | 小片 | 霰片に杯片と壁土?が付着 | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2009 落込み |
| 149 | 540 | 138 | 灰釉陶器 | 皿 | 9世紀後半か | 口径14.2(1/6) 高台 径7.2(1/2) 器高2.9 | 外：下半部施釉 内：底部施釉、重ね焼き痕 | 5G7/1 明緑灰 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 541 | 138 | 灰釉陶器 | 皿 | 9世紀後半か | 小片 | | N8/0 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 542 | 138 | 緑釉陶器 | 段皿 | 9世紀前半か | 小片 | 内外面施釉 | 7.5Y5/2 灰オリーブ | 11-1 | 1-1 | 1002 溝 |
| 149 | 543 | | 黒色土器 A類 | 椀底部 | 10世紀前半か | 高台径8.8(4/5) | 内：ヘラミガキ | N3/0 暗灰 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 544 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀後半か | 口径17.0(1/7) | 外：ヘラケズリ 内：ヘラミガキ | 10YR8/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 545 | | 黒色土器 A類 | 椀底部 | 10世紀後半か | 高台径5.2(完) | 外：ナデ 内：ヘラミガキ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 546 | | 土師器 | 小皿 | 11世紀前半か | 口径10.0(1/4) | て字状 外：指押さえナデ 内：ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 547 | | 土師器 | 皿 | 9世紀前半か | 口径11.4(1/2弱) 器高1.7 | 外：ナデ 内：ナデ | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 1-1 | 1002 溝 |
| 149 | 548 | | 土師器 | 皿 | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径13.6(1/4弱) | 外：指押さえナデ 内：ナデ | 5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 549 | | 土師器 | 皿 | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径16.4(1/4) | 外：ナデ 内：口縁端部沈線1、ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 第1層 |
| 149 | 550 | | 土師器 | 皿 | 9世紀か | 口径22.2(1/10) | 外：指押さえナデ 内：指押さえナデ | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 551 | | 土師器 | 椀C | 8世紀 第2四半期か | 口径13.0(1/3弱) | 外：指押さえナデ 内：スス付着 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 552 | | 土師器 | 椀 | 8世紀後半 | 口径11.5(2/3) 器高 3.5 | 外：ヘラケズリ? | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 553 | | 土師器 | 椀? | 8世紀後半 | 口径12.7(1/4) | 外：指押さえ後ヘラケズリ? 内：放射状暗文 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 554 | | 土師器 | 椀C | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径13.0(1/7) | 外：指押さえナデ 内：ナデ | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 555 | | 土師器 | 椀 | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径13.4(1/6強) | 外：指押さえナデ 内：ナデ | 5YR5/6 明赤褐 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 556 | | 土師器 | 椀 | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径14.8(1/4) | 外：指押さえナデ 内：ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 557 | | 土師器 | 杯B蓋 | 8世紀後半か | つまみ径2.4(完) | 外：分割ヘラミガキ 内：ナデ | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 558 | | 土師器 | 杯 | 8世紀 第2四半期か | 口径17.6(1/6弱) 器高4.5 | 外：ヘラミガキ 内：放射状暗文 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 559 | 137 | 土師器 | 杯 | 8世紀後半 | 口径12.2(1/2) 器高3.4 | 外：指押さえ後ヘラケズリ 内：ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 560 | | 土師器 | 杯 | 8世紀後半か | 口径18.6(1/4) | 外：ナデ後一部ヘラミガキ 内：放射状暗文 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 561 | | 土師器 | 高杯 | 8世紀 第2四半期か | 口径24.0(1/8) | 外：ヘラミガキ、分割ヘラミ ガキ | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 第2層 |
| 149 | 562 | | 土師器 | 鉢 | 11世紀初めか | 口径23.0(1/8) | 外：ヘラケズリ 内：ヘラミガキ? | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 563 | | 須恵器 | 杯B蓋 | 8世紀後半か | 口径16.0(1/5) | 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 564 | | 須恵器 | 杯A | 7世紀後半か | 口径12.8(1/4) 器高3.6 | 外：ナデ、粘土のたるみ、ヘ ラ記号「シ」 内：ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 565 | | 須恵器 | 杯A | 7世紀後半か | 口径12.3(若干のみ) 器高3.5 | 外：回転ヘラケズリ(砂←)、 ヘラ記号「V」(×か) | N7/0 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 566 | | 須恵器 | 杯A | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径12.9(1/4) | 外：ヘラ切り? | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (16)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------|-------|-----------------|--|---|-------------------|----------|------|----------------|
| 149 | 567 | | 須恵器 | 杯 A | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径 12.0(1/4弱) | 外：ヘラ切り? | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 568 | | 須恵器 | 甕 | 8世紀か | 口径 23.4(1/10) | | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1003 土坑 |
| 149 | 569 | | 須恵器 | 壺底部 | 8世紀 | 底径 8.8(完) | 外：回転ヘラケズリ(砂←) 内：ナデ 焼成不良 | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 570 | | 須恵器 | 壺底部 | 9世紀 | 高台径 8.4(完) | 外：糸切り、ヘラ記号「×」 | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 1003 土坑 |
| 149 | 571 | 138 | 須恵質 | 土管 | ? | 口径 14.0(3/8) | 外：凸帯1、ハケ、ヘラケズリ 内：指ナデ、ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 1-1 | 1003 土坑 |
| 149 | 572 | 139 | 瓦 | 軒平瓦 | 奈良時代 | 小片 | 唐草文 珠文 凹：布目痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 573 | 142 | 石製品 | 砥石 | | 長 6.8 幅 5.5 厚 1.4 | 凝灰岩 砥面 4 側面被熱 | | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 574 | 142 | 石製品 | 砥石 | | 長 4.7 幅 5.2 厚 3.0 | 凝灰岩 砥面 4 | | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 149 | 575 | 142 | 石製品 | 砥石? | | 長 10.4 幅 7.6 厚 3.8 | 砂質頁岩 | | 11-1 | 1-1 | 第3層 |
| 150 | 576 | 138 | 灰釉陶器 | 椀 | 9世紀 | 小片 | 内外面施釉 | 10YR7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 150 | 577 | 138 | 灰釉陶器 | 椀底部 | 9世紀後半か | 小片 | 内：一部施釉 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 150 | 578 | 138 | 灰釉陶器 | 椀底部 | 9～10世紀 | 小片 | 内：施釉 | 10YR7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 150 | 579 | 138 | 灰釉陶器 | 椀底部 | 9世紀後半か | 高台径 4.0(1/6) | 内：施釉 | 5RP7/1 明紫灰 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 580 | 138 | 灰釉陶器 | 段皿 | 9世紀前半 | 小片 | 内外面施釉 | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 150 | 581 | 138 | 灰釉陶器 | 皿底部 | 9世紀 | 高台径 9.4(1/4強) | 外：回転ヘラケズリ(砂←)、 高台施釉 内：施釉 | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 150 | 582 | 138 | 灰釉陶器 | 皿底部 | 9世紀末か | 高台基部径 5.6(1/6) | | 10YR8/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 583 | | 土師器 | 甕 | 7世紀か | 口径 28.1(1/13) | 外：口縁端部凹線 22、ハケ 内：ハケ、ヘラケズリ? | 7.5YR6/6 橙 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 584 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀中頃か | 口径 10.2(若干のみ) つまみ径 1.4(完) 器高 2.8 | 外：回転ヘラケズリ(砂←) 内：ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 585 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀 第3四半期か | 口径 10.7(1/6) | 内：ナデ | 5R5/1 赤灰 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 586 | | 須恵器 | 杯 G | 7世紀中か | 口径 9.2(1/12) | 外：ヘラ切り、溶着 内：ナデ | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 587 | | 須恵器 | 杯 | 7世紀中か | 口径 11.0(1/8) | 外：ヘラ切り | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 588 | | 須恵器 | 杯底部 | 7世紀前半～ 中頃 | 底径 5.6(完) | 外：ヘラ切り、ヘラ記号「一」 | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 589 | | 須恵器 | 壺 | 7世紀か | 口径 10.5(1/4) | 外：タタキ? 内：同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 590 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀前半 | 脚基部径 3.6(完) | 外：凹線(1/2周)、脚部ひねつ たような痕跡 内：ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 591 | | 須恵器 | 長頸壺 | 8世紀 第1四半期か | 口径 7.5(1/2強) | 外：自然釉付着 内：工具ナデ、しぼり目 | 5RP6/1 紫灰 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 592 | | 須恵質 | ? | ? | 小片 | 外：ハケ 内：ナデ | N8/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 593 | 137 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 焚口(側面) | 5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 14-1 | 第3層 |
| 150 | 594 | 143 | 金属製品 | ? | ? | 長 8.6 幅 1.6 厚 0.9 | 鉄製品 断面先端三角形以外四角形 | | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 150 | 595 | 138 | 緑釉陶器 | 皿 | 9世紀 | 小片 | 内外面施釉 | 2.5GY5/1 オリーブ灰 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 596 | 138 | 灰釉陶器 | 椀 | 9世紀か | 小片 | 内外面施釉 | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 597 | 138 | 灰釉陶器 | 椀 | 9世紀末か | 口径 17.8(1/13) | 外：口縁端部のみ施釉 内：施釉 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 598 | 138 | 灰釉陶器 | 皿 | 9世紀末か | 高台径 6.7(1/2弱) | 外：糸切り 内：施釉 | 10YR7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 599 | | 須恵器 | 杯 H 蓋 | 7世紀中頃か | 口径 11.0(1/3) | 外：ヘラ切り? | 10YR7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 600 | | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半か | 口径 9.9(1/6) 器高 3.0 | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 601 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀中頃か | 口径 10.3(1/12) つま み径 1.3(完) 器高 3.6 | 外：回転ヘラケズリ 内：ナデ | 2.5YR5/1 赤灰 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 602 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀 | 口径 9.8(1/7) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) | N6/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 603 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半か | 口径 10.0(1/4) | 外：ヘラ記号「一?」 | N6/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 604 | | 須恵器 | 盤 | 7世紀前半～ 中頃 | 口径 33.0(1/6) | 外：回転ヘラケズリ(砂←) | N6/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 605 | | 須恵器? | 甗 | 7～8世紀 | 口径 25.0(1/12) | 内：口縁端部 焼成不良 | 2.5Y5/1 黄灰 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 606 | 138 | 須恵器 | 硯 | 9世紀か | 小片 | 外：ナデ 内：仕切り線、陸 部使用痕か磨耗、自然釉付着 | N6/0 灰 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 607 | 140 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 端面幅 2.3 | 凹：ナデ 凸：格子タタキ | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 608 | 140 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 小片 | 凹：布目痕後ナデ 凸：格子タタキ | N7/0 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 609 | 140 | 瓦 | ? | 奈良～平安か | 小片 | 凹：ヘラケズリ 凸：縄目タ タキ 七尾瓦窯か | 5PB6/1 青灰 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 150 | 610 | | 瓦 | 平瓦 | 平安後期 | 小片 | 凸：縄目タタキ、砂粒付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 611 | 137 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 焚口 内：指押さえ、スス付着 | 5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (17)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|-----|------|--------------|------------------------------------|---|------------------|----------|------|----------------|
| 150 | 612 | | 土師器 | 竈? | ? | 小片 | 開口部 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 613 | 133 | 土製品 | 轆の羽口 | ? | 小片 | 外:二次焼成による灰・赤色化 | 10YR6/1 褐灰化 | 12-1 | 14-3 | 第3層 |
| 150 | 614 | 142 | 石製品 | 砥石 | ? | 長3.1 幅4.2 厚3.4 | 砂岩 砥面2 | | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 151 | 615 | | 土師器 | 杯Gか | 7世紀 | 口径12.2(1/10) | | 5YR6/4 にぶい橙 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 616 | | 土師器 | 鍋把手 | 8世紀か | 小片 | | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 617 | | 土師器 | 鍋把手 | 8世紀か | 小片 | 外:指押さえナデ 内:ナデ? | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 618 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀中頃 | 口径10.2(1/4) 器高3.4 | 外:ヘラ切り? | 10G6/1 緑灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 619 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀中か | 口径10.6(1/2) 器高3.1 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 620 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中頃か | 口径10.2(1/4) つま み径1.2(完) 器高3.2 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | 5PB7/1 明青灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 621 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中か | 口径10.5(1/5) つま み径1.4(4/5) 器高3.1 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 622 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀 | つまみ径1.3(完) | 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 623 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀 | つまみ径1.4(4/5) | 内:ナデ | 5B7/1 明青灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 624 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中～ 後半 | 口径8.0(1/4) | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号 | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 側溝掘削中 |
| 151 | 625 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀 | 口径9.2(1/9) | 外:回転ヘラケズリ? | N5/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 626 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀前半か | 口径8.8(若干のみ) 受部径11.1(1/12) | 外:回転ヘラケズリ?、自然 釉附着 | 7.5Y8/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 627 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中～ 後半 | 口径7.2(1/6) | 外:回転ヘラケズリ? | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 628 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中 | 口径9.4(1/10) | | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 629 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中か | 口径8.0(1/8) | 外:回転ヘラケズリ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 630 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀後半か | 口径9.6(1/8) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | 5B7/1 明青灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 631 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中 | 口径10.0(1/16) 天井部径3.6(1/2) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 632 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀後半か | 口径10.0(1/6) | 外:回転ヘラケズリ? | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 633 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中～ 後半 | 口径10.2(1/10) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 634 | | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀中～ 後半 | 口径10.5(2/5) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ やや不良 | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 635 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀 | 底径6.8(1/2) | 外:ヘラ切り?、ヘラ記号「 ム」内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 636 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀後半 | 口径11.0(1/3) | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | 5B5/1 青灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 637 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀中頃か | 口径9.8(1/10) 器高4.1 | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N5/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 638 | | 須恵器 | 杯G底部 | 7世紀前半～ 中頃 | 底径6.7(一部欠) | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 639 | | 須恵器 | 杯G底部 | 7世紀前半か | 底径7.2(1/2弱) | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 5PB5/1 青灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 640 | | 須恵器 | 杯G底部 | 7世紀 | 底径6.4(1/2弱) | 外:ヘラ切り 内:ナデ | N8/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 641 | | 須恵器 | 杯 | 7世紀か | 小片 | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「 ー」内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 642 | | 須恵器 | 杯B蓋 | 8世紀 第2四半期 | 口径18.0(1/14) | | 2.5Y8/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 643 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀前半か | 高台径8.8(1/4) | 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 644 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀前半か | 高台径8.8(1/2弱) | 外:回転ヘラケズリ、ヘラ記 号「1」内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 645 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀前半か | 高台径9.4(2/5) | 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 646 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀中頃か | 高台径7.8(1/4) | 高台いい加減な貼り付け 内:ナデ | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 647 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀中頃か | 高台基部径10.7(1/6) | 外:回転ヘラケズリ 焼成不良 | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 648 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀中頃か | 高台径9.2(1/3) | 外:底面未調整 | N5/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 649 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀前半か | 高台径14.0(1/11) | 外:回転ヘラケズリ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 650 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀前半 | 高台径13.0(1/6) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 651 | | 須恵器 | 盤B底部 | 8世紀前半 | 高台径12.8(1/3) | 外:回転ヘラケズリ後ナデ 内:ナデ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 652 | | 須恵器 | 杯A | 7世紀か | 口径11.4(若干のみ) 底径7.0(1/6) | 外:未調整? | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | B2002 土坑 |
| 151 | 653 | | 須恵器 | 高杯 | 7世紀前半か | 口径10.8(1/2弱) | 外:回転ヘラケズリ 内:ナデ、脚内自然釉附着 | N7/0 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 654 | | 須恵器 | 壺底部 | 8世紀前半か | 高台径7.9(1/10) | 外:回転ヘラケズリ?、ナデ | 7.5Y5/1 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 655 | 138 | 須恵器 | 円面硯脚 | 7世紀か | 小片 | 外:ヘラケズリ、指押さえ 内:ナデ、ヘラケズリ | N5/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (18)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番号・名 |
|------|------|------|------|-------|-------------|----------------------------------|---|----------------|------|-------|-----------------|
| 151 | 656 | | 須恵器 | 壺? | | 小片 | 外:竹管文4個の記号文 | 2.5Y5/1 黄灰 | 09-3 | 2-2 | 鋤溝 |
| 151 | 657 | | 須恵器 | ? | ? | 小片 | 外:凸帯、紐状の粘土、タタキ | N6/0 灰 | 09-3 | 2-2 | 側溝掘削中 |
| 151 | 658 | 135 | 土製品 | 土錘 | | 長 5.2 幅 1.7 厚 1.4 重 14.8g | 穿孔1 二次焼成を受けたのか黒色化 | 2.5Y4/1 黄灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 659 | | 瓦 | 丸瓦 | | 側端面幅 1.6 | 凸:ナデ 凹:ヘラケズリ、布目痕 | 5Y6/1 灰 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 660 | 143 | 金属製品 | 鉢滓 | | 長 6.9 幅 7.4 厚 4.2 | 鉄 外:発泡 | | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 661 | 142 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 3.7 幅 6.2 厚 1.7 | 結晶片岩 砥面1 | | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 151 | 662 | 143 | 金属製品 | 銭貨 | 初鑄 1004 年か | 径 2.2 郭径 0.6 厚 0.1 重さ 1.7g | 景德元寶か 北宋 | | 09-3 | 2-2 | 攪乱 |
| 152 | 663 | 138 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 9世紀後半か | 高台径 6.4(1/2) | 蛇の目高台 釉残存せず | 10YR8/3 浅黄橙 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 152 | 664 | 138 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 9世紀 | 高台径 6.2(1/4) | 内外面施釉 | 10Y7/2 灰白 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 152 | 665 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半 | 口径 11.7(1/12) | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 09-3 | 1-2 | 第4-1-2層 |
| 152 | 666 | | 須恵器 | 壺蓋 | 7世紀後半か | 口径 8.0(1/4) つまみ径 2.4(3/4) 器高 2.4 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | 5RP5/1 紫灰 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 152 | 667 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀前半~中 | 底径 7.4(5/6) | 外:ヘラ切り 内:ナデ | N5/0 灰 | 09-3 | 1-1 | 第4-1-2層 |
| 152 | 668 | | 須恵器 | 甕 | 8世紀か | 口径 22.6(1/9) | | 2.5Y5/1 黄灰 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 152 | 669 | | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 狭端面幅 2.0 | 凹:ナデ 凸:縄目タタキ | 5PB4/1 暗青灰 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 152 | 670 | 138 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 9世紀か | 高台径 8.6(1/6) | 外:ナデ、ヘラケズリ、施釉 内:ナデ、施釉 | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-1 | 第2層 |
| 152 | 671 | 138 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 11世紀か | 高台径 8.0(1/4強) | 内外面施釉 | 2.5Y8/3 淡黄 | 11-1 | 11-1 | 第3層 |
| 152 | 672 | 139 | 瓦 | 軒平瓦 | 奈良時代 | 瓦当表面幅 5.9 | 唐草文 珠文 吉志部瓦窯か | N4/0 灰 | 11-1 | 11-1 | 第3層 |
| 152 | 673 | 138 | 緑釉陶器 | 椀 | 9~10世紀 | 小片 | 内外面施釉 | 5Y8/1 灰白 | 11-1 | 11-2 | 第3層 |
| 152 | 674 | 138 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 9世紀中頃か | 高台径 9.0(1/4強) | 外:回転ヘラケズリ、施釉 内:施釉 | 7.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 11-2 | 第3層 |
| 152 | 675 | | 須恵器 | 壺蓋 | 8世紀末~9世紀初めか | 口径 6.0(1/6) | 外:自然釉付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 11-2 | 第3層 |
| 152 | 676 | | 須恵器 | 甕 | 8世紀末~9世紀か | 底径 19.2(1/6弱) | 外:タタキ(3条/cm) 内:同心円文状当て具痕後ナデ、自然釉付着 火ぶくれあり | 5Y4/1 灰 | 12-1 | 14-2 | 第3層 |
| 152 | 677 | 139 | 瓦 | 軒平瓦 | 古代 | 小片 | 唐草文 | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 14-2 | 第3層 |
| 152 | 678 | | 土師器 | 高杯脚 | 8世紀中頃 | 脚部径 3.9(完) | 外:面取り10面、ヘラケズリ 内:暗文、しぼり目 | 5YR7/4 にぶい橙 | 09-3 | 2-1 | 第2層 |
| 152 | 679 | 138 | 灰釉陶器 | 耳皿 | 9世紀前半 | 口径(短)3.6(1/3) | 外:口縁部施釉、糸切り底 | 7.5Y7/1 灰白 | 10-2 | 2-1-2 | 第3層 |
| 152 | 680 | 138 | 緑釉陶器 | 椀 | 9世紀後半か | 高台径 7.6(1/10) | 外:釉に濃淡あり 内:圏線、施釉(濃) | 7.5GY5/1 緑灰 | 10-2 | 2-1-2 | 第4-1層 |
| 152 | 681 | 143 | 金属製品 | 銭貨 | 初鑄 1023 年 | 径 2.5 郭径 0.7 厚 0.1 重さ 2.7g | 天聖元寶 北宋 | | 10-2 | 2-1-2 | 第2層 |
| 152 | 682 | 138 | 灰釉陶器 | 皿底部 | 9世紀前半か | 高台径 8.4(1/8) | 内:施釉 | 5Y8/1 灰白 | 12-1 | 2-3 | 第2層 |
| 153 | 683 | 138 | 磁器 | 白磁皿 | 12世紀後半 | 口径 12.8(1/8) | 景德鎮窯系 稜花 | 10Y7/1 灰白 | 11-1 | 1-1 | 掘立柱建物16(1007柱穴) |
| 154 | 684 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 13.4(1/5) 高台径 3.8(1/3) | 和泉型III-3~IV-1 外:指押さえナデ 内:まばらなヘラミガキ、見込み平行線状暗文 | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 1-1 | 1003土坑 |
| 157 | 685 | 138 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀第1四半期 | 口径 16.0(1/13) | IV 2類 華南沿海窯系 | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 1-2 | 第2層 |
| 157 | 686 | 138 | 磁器 | 白磁碗底部 | 13世紀第1四半期 | 高台径 5.8(1/6) | IV 2類 華南沿海窯系 内外面施釉(貫入あり) | 7.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 1-1 | 第2層 |
| 157 | 687 | 138 | 磁器 | 白磁皿底部 | 15世紀 | 高台径 4.4(1/4) | 華南沿海窯系 外:施釉(貫入あり) 内:圏線1、見込み文様?、施釉(貫入あり) | 2.5Y8/2 灰白 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 157 | 688 | 138 | 磁器 | 青磁碗 | 13世紀第4四半期 | 口径 13.6(1/8) | 龍泉窯系 外:蓮弁文、施釉 内:施釉 | 2.5GY6/1 オリーブ灰 | 09-3 | 1-2 | 第2層 |
| 157 | 689 | | 陶器 | 卸皿 | 15世紀 | 底径 7.0(1/4) | 瀬戸 灰釉 外:口縁部施釉(貫入あり)、糸切り底 内:底面格子の卸目、施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 09-3 | 1-2 | 第2層 |
| 157 | 690 | | 瓦器 | 椀底部 | 13世紀前半 | 高台径 5.1(1/5) | 内:見込み平行線状暗文 | 5Y8/1 灰白 | 09-3 | 1-1 | 第2層 |
| 157 | 691 | | 瓦器 | 椀 | 14世紀初めか | 口径 9.7(1/10) | | N3/0 暗灰 | 09-3 | 1-2 | 第3層 |
| 157 | 692 | 143 | 金属製品 | ? | ? | 長 10.3 幅 11.2(さびなし) 厚 1.0 | 鉄製品 | | 09-3 | 1-1 | 第2層 |
| 157 | 693 | 143 | 金属製品 | 銭貨 | 18世紀 | 径 2.3 郭径 0.7 厚 0.1 重さ 2.3g | 寛永通寶 | | 09-3 | 1-1 | A0009土坑 |
| 157 | 694 | 138 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀第1四半期 | 小片 | IV 2類 華南沿海窯系 内外面施釉(貫入あり) | 5Y8/2 灰白 | 11-1 | 10-1 | 第2層 |
| 157 | 695 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀か | 小片 | 外:指押さえ | 5Y3/1 オリーブ黒 | 09-3 | 2-1 | 第2層 |
| 157 | 696 | | 瓦器 | 椀底部 | 13世紀中頃 | 高台径 3.7(1/4) | 粘土紐を貼り付けただけの高台 | N8/0 灰白 | 09-3 | 2-1 | 第2層 |

吹田操車場遺跡 掲載遺物観察表 (19)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番 号・名 |
|----------|----------|----------|------|-----------|------------------|---------------------|---|-------------------|----------|-------|----------------|
| 157 | 697 | 138 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 5.6(1/4弱) | IV類 華南沿海窯系 外：施釉 内：圏線1、施釉 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 157 | 698 | 138 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 6.0(2/3) | IV類 華南沿海窯系 外：豊付け摩滅、施釉 内：圏線1、施釉(貫入あり) | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 157 | 699 | 138 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 5.3(1/5) | IV2類 華南沿海窯系 外：施釉 内：見込み文様?、施釉 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-3 | 第2層 |
| 157 | 700 | 138 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 口径 15.8(1/9) | IV2類 華南沿海窯系 内外面施釉(貫入あり) | 7.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 攪乱 |
| 157 | 701 | 138 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 6.1(1/6) | IV2類 華南沿海窯系 内外面施釉(貫入あり) 曇み付け磨耗 | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 157 | 702 | 138 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 小片 | 龍泉窯系 端反 内外面施釉(貫入あり) | 2.5GY6/1 オリーブ灰 | 12-1 | 14-1 | 第2層 |
| 157 | 703 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 小片 | 外：指押さえナデ | N8/0 灰白 | 12-1 | 14-1 | |
| 157 | 704 | 138 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 小片 | IV2類 華南沿海窯系 内外面施釉 | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 157 | 705 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 13.6(1/7) | 図上復元 楠葉型 内：口縁 端部沈線1 | 5Y7/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 157 | 706 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀末～ 14世紀初め | 口径 10.6(1/7) | | 10Y8/1 灰白 | 09-3 | 2-2 | 第2層 |
| 157 | 707 | 138 | 磁器 | 青磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 小片 | 龍泉窯系 櫛描文 内外面施釉 | 7.5Y6/2 灰オリーブ | 10-2 | 2-1-2 | 第4-1層 |
| 157 | 708 | | 土師器 | 小皿 | 12世紀後半～ 13世紀か | 口径 9.0(1/4) | 外：指押さえナデ? | 5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 2-3 | 第2層 |
| 157 | 709 | 138 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 5.0(1/7) | IV2類 華南沿海窯系 内：施釉(一部釉削り) | 5Y8/1 灰白 | 12-1 | 2-3 | 第2層 |
| 157 | 710 | 143 | 金属製品 | 釘 | | 長 6.9 幅 0.9 厚 0.7 | 鉄製品 | | 12-1 | 12-1 | 12002 井戸 |
| 157 | 711 | 143 | 金属製品 | 刀子? | | 長 6.0 幅 1.3 厚 0.4 | 鉄製品 | | 12-1 | 12-1 | 12001 溝 |
| 157 | 712 | 143 | 金属製品 | 銭貨 | 初铸 960? 年 | | 開元通寶 | | 12-1 | 2-3 | 第2層 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表(1)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-------|-------------|-------|--|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 165 | 1 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 中津式 | 小片 | 波状口縁 外：磨消縄文 内：ナデ | 10YR5/3 にぶい黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 165 | 2 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 中津式 | 小片 | 外：磨消縄文 内：ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 165 | 3 | 152 | 縄文土器 | 浅鉢 | 中津式 | 口径 13.5(1/11) | 外：沈線文 内：ヘラナデ | 10YR1.7/1 黒 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 165 | 4 | 152 | 縄文土器 | 壺 | 長原式 | 小片 | 外：刻目凸帯(小D字) 生駒西麓産 | 5YR3/1 黒褐 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 165 | 5 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 長原式か | 小片 | 外：刻目凸帯(D字) 内：板ナデ 生駒西麓産 | 2.5Y4/1 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 165 | 6 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 長原式 | 小片 | 外：刻目凸帯(小D字) 生駒西麓産 | 10YR3/1 黒褐 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 165 | 7 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 長原式 | 小片 | 外：刻目凸帯(D字) 生駒西麓産 | 10YR3/1 黒褐 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 165 | 8 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 長原式 | 小片 | 外：凸帯 | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 側溝掘削中 |
| 165 | 9 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 長原式 | 小片 | 外：刻目凸帯(D字)、条痕生 駒西麓産 | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 165 | 10 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 長原式 | 小片 | 外：刻目?凸帯 生駒西麓産 | 2.5Y2/1 黒 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 165 | 11 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 長原式か | 小片 | 外：凸帯 内：ヘラミガキ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 165 | 12 | 152 | 縄文土器 | 深鉢 | 船橋式か | 小片 | 外：刻目凸帯(D字) | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 165 | 13 | 152 | 縄文土器? | 深鉢 | 長原式? | 小片 | 外：凸帯 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 165 | 14 | | 縄文土器? | 深鉢か壺 | 長原式? | 小片 | 外：凸帯 生駒西麓産 | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 175 | 15 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 13.5(1/8) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 1 |
| 175 | 16 | | 弥生土器 | 底部 | 後期 | 底径 3.7 ~ 3.9(完) | | 5YR6/4 にぶい橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 1 (D0291 溝) |
| 175 | 17 | | 弥生土器 | 底部 | 後期か | 底径 4.4(1/3 強) | | 10R6/6 赤橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 2 (D0309 柱穴) |
| 175 | 18 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 4.4(1/2 弱) | 外：タタキ? | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 2 |
| 175 | 19 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 18.0(1/3 弱) | 外：ヘラミガキ? | 10YR6/6 明黄褐 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 3 (D0264 土坑) |
| 175 | 20 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.6(完) | 輪高台 外：タタキ(2/cm) | 5YR6/4 にぶい橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 3 (D0258 土坑) |
| 175 | 21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 4.8(1/3) | 外：タタキ? | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 3 (D0293 溝) |
| 175 | 22 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 11.9(1/6 強) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 4 |
| 175 | 23 | | 弥生土器 | 底部 | 後期 | 底径 5.1(完) | 輪高台? | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 4 |
| 175 | 24 | | 弥生土器 | 底部 | 庄内式期か | 底径 4.8(完) | | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 4 |
| 175 | 25 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚基部径 3.6(完) | | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 4 |
| 175 | 26 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.0 ~ 4.3(完) | 輪高台 外：タタキ(2.5条/cm) 内：ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 4 |
| 175 | 27 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 3.9 ~ 4.1(1/2) | 外：タタキ | 5Y3/1 オリーブ黒 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 4 |
| 175 | 28 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.2(1/5 弱) | 外：タタキ(4条/cm) 内：板ナデ? | 2.5Y8/2 灰白 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 7 |
| 175 | 29 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 3.4 ~ 3.7(ほぼ完) | 外：タタキ(3条/cm) 内：ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 7 |
| 175 | 30 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期 | 底径 4.2(ほぼ完) | 外：タタキ 内：ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 7 |
| 175 | 31 | | 弥生土器 | 鉢底部 | 後期後半 | 底径 3.3(完) | 輪高台? 内：ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 7 |
| 175 | 32 | 152 | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 口径 19.5(1/3 弱) 底 径 3.9(完) 器高 10.5 | 内：ハケ | 2.5Y8/1 灰白 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 7 |
| 175 | 33 | 152 | 弥生土器 | ミニチュア 土器 | ? | 口径 2.6(1/3 強) 底径 2.3 ~ 2.5(2/3) 器高 3.7 | | 2.5Y8/1 灰白 | 10-1 | 4-4 | 竪穴建物 7 |
| 180 | 34 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 17.0(1/4) | | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 |
| 180 | 35 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 17.6(1/4) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 |
| 180 | 36 | | 弥生土器 | 底部 | 後期後半か | 底径 5.2(1/2) | | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 |
| 180 | 37 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚基部径 2.8(完) | 脚内：しぼり目? | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 |
| 180 | 38 | | 弥生土器 | 手焙形 土器 | 庄内式期 | 底径 2.5(完) | | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (2)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|-----------|--------|--------------------------------------|---|------------------|----------|------|-----------------------------|
| 180 | 39 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半か | 口径 24.0(3/4) | | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (外周土坑 3228 土坑) |
| 180 | 40 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 14.8(1/7) | | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (外周土坑 3228 土坑) |
| 180 | 41 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚基部径 3.8(3/4) | 脚内：しぼり目 | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (外周土坑 3228 土坑) |
| 180 | 42 | | 弥生土器 | 底部 | 後期後半か | 底径 4.7(完) | 輪高台 外：タタキ、スス付着 | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3231 溝) |
| 180 | 43 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚基部径 4.0(完) | | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3231 溝) |
| 180 | 44 | | 弥生土器 | 細頸壺? | 後期後半か | 口径 8.9(1/5) | | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 3-4 | 竪穴建物 9 (周溝 3232 溝) |
| 180 | 45 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期後半か | 底径 4.1(完) | 凹み底 外：ヘラミガキ? | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3232 溝) |
| 180 | 46 | | 弥生土器 | 鉢底部 | 庄内式期か | 底径 2.6(完) | 凹み底 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-4 | 竪穴建物 9 (周溝 3232 溝) |
| 180 | 47 | | 弥生土器 | 有孔鉢 底部 | 庄内式期か | 底径 3.0(完) | 焼成前穿孔(外から内へ) | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-4 | 竪穴建物 9 (周溝 3232 溝) |
| 180 | 48 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 12.9(ほぼ完) | 外：ヘラミガキ 内：指押さえナデ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 49 | 152 | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 10.5(ほぼ完) 底径 4.8(完) 器高 18.6 | 外：ヘラミガキ 内：ハケ | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 50 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 9.6(若干のみ) 底径 3.6(完) 器高 16.5 | 凹み底 外：タタキ(3条 /cm)、スス付着、二次焼成に よる赤色化 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 51 | 153 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.1(1/4) 底径 3.5(完) 器高 19.6 | 凹み底 外：タタキ(3条 /cm)、スス付着、二次焼成に よる赤色化 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 52 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 16.2(1/8) | 口縁叩き出し 外：タタキ (3~4条/cm)、スス付着 | 10YR3/1 黒褐 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 53 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 4.5~4.8(一部欠) | 外：タタキ(3条/cm)、スス 付着 | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 54 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期前半か | 口径 14.3(3/4) | 脚内：しぼり目 | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 55 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚裾径：14.0~14.4 (完) | スカシ 4 方向 脚内：しぼり目 | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 180 | 56 | | 石製品 | ? | | 長 10.8 幅 11.1 厚 10.8 | 花崗岩 1面が平滑 | | 12-1 | 3-9 | 竪穴建物 9 (周溝 3233 溝) |
| 185 | 57 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 18.6(若干のみ) 頸部径 10.0(1/3) | | 7.5YR7/6 橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 58 | | 弥生土器 | 直口壺 | 庄内式期か | 口径 11.0(1/8) | | 10YR8/4 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 59 | | 弥生土器 | 壺頸部 | 後期後半か | 小片 | 外：凸帯、列点文 内：指押さえ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 60 | | 弥生土器 | 鉢?底部 | 庄内式期か | 底径 1.6~1.9(完) | 凹み底 外：ヘラケズリ 内：ヘラケズリ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 61 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期後半か | 底径 6.0~6.2(完) | 外：ハケ?、工具痕 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 62 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 14.8(1/4 弱) | 外：タタキ(2条/cm)、スス 付着 内：ナデ(工具痕) | 10YR5/3 にぶい黄褐 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 63 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 底部近く 5.0(ほぼ完) | 外：タタキ(2.5条/cm) 内：ハケ | 7.5Y2/1 黒 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 64 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 17.6(1/8) | 図上復元 外：タタキ(2条/cm) | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 65 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 17.0(1/5) | 外：タタキ(2条/cm)、スス 付着 | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 66 | 153 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径約 12(若干のみ) 底径 3.6(完) 器高 7.2 | 外：タタキ、スス付着、底部 に製作時の設置痕跡あり、二 次焼成による赤色化 内：板ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 67 | | 弥生土器 | 甕 | 後期か | 底径 4.6~4.8(完) | | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 68 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.2~4.5(完) | 輪高台 外：タタキ(2~3 条/cm) 内：ハケ?、工具痕 | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 69 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.5~4.7(完) | 外：タタキ(2条/cm) 内：ハケ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 70 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 3.5~3.8(完) | 輪高台 外：タタキ、スス付 着 内：工具痕 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 71 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 1.9(一部欠) | | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 72 | | 土師器 | 甕 | 布留式期初め | 口径 13.4(1/4 弱) | 外：縦ハケ後ナデ、スス付着 内：ヘラケズリ | 10YR5/2 灰黄褐 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (3)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|-----------|---------------|---|---|------------------|----------|------|-----------------------|
| 185 | 73 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 口径 18.4(1/4) | 外:縦ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 74 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 34.0(1/5) | 外:タタキ(3条/cm) 内:ヘラミガキ? | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 75 | | 弥生土器 | 鉢? | 庄内式期か | 口径 8.6(1/8) | 外:指押さえナデ、工具痕 内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 76 | 186 | 石製品 | 石鏃 | | 長 3.1 幅 1.7 厚 0.3 重さ 1.4g | 凹基式 サヌカイト B面:大剥離面残 | | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 10 |
| 185 | 77 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 口径 14.8(2/3) | 外:ヘラケズリ? 内:ナデ? | 5YR6/6 橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 78 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 15.2~16.0(3/4) | 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 79 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚基部径 3.2(3/4) | | 7.5YR8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 80 | | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 底径 3.4(完) | 外:タタキ?後ヘラミガキ 内:ヘラミガキ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 81 | 152 | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 12.0(2/3) 底径 4.0~4.2(3/4) 器高 7.7 | 輪高台 外:タタキ 内:工具痕 | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 82 | 152 | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 底径 3.6(完) | 外:指押さえ 内:板ナデ? | 5Y8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 83 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 底径 3.3(完) | 凹み底 外:タタキ(3条/cm) | 10YR7/6 明黄褐 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 84 | | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半 | 口径 13.2(1/8) 底径 4.3~4.6(完) 器高 11.6 | 焼成前外から穿孔か 外:タタキ 内:ナデ? | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 85 | 152 | 土製品 | ? | ? | 直径 4.0(完) 器高 3.4 | 手ずくね | 2.5YR7/3 淡赤橙 | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 86 | | 自然石 | | | 長 4.6 幅 6.6 厚 2.4 重さ 103.4g | チャート | | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 87 | | 自然石 | | | 長 5.1 幅 5.9 厚 2.1 重さ 82.1g | チャート | | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 88 | | 自然石 | | | 長 5.5 幅 4.2 厚 3.0 重さ 98.3g | 砂岩 | | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 89 | | 自然石 | | | 長 7.6 幅 5.4 厚 2.7 重さ 167.8g | チャート | | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 185 | 90 | | 自然石 | | | 長 8.0 幅 4.3 厚 3.4 重さ 209.2g | チャート | | 12-1 | 4-2 | 竪穴建物 12 |
| 188 | 91 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 16.7(1/3) | 外:直線文?(5条?)、刺突文 内:しぼり目 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 92 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半~ 庄内式期 | 口径 15.1(1/3) | 外:指ナデかヘラナデ 内:ナデ、指押さえ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 93 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 庄内式期か | 口径 18.5(1/3) | 外:波状文 2 帯 (5・6 条) | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 94 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期後半か | 底径 4.8(1/2) | 外:ハケ後ヘラミガキ、スス 附着 内:ナデ、工具痕 | 10YR4/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 95 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 13.0(1/4 強) | 口縁叩き出し 外:タタキ(2 ~3条/cm) 内:板ナデ | 2.5YR6/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 96 | | 弥生土器 | 壺か 甕底部 | 後期後半か | 底径 5.0(完) | 輪高台 外:タタキ(2条/cm) 後ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 97 | | 弥生土器 | 鉢?底部 | 後期後半か | 底径 3.1~3.4(完) | 凹み底 外:指押さえナデ 内:工具痕 | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 98 | | 弥生土器 | 鉢底部 | 庄内式期か | 底径 3.4(1/3) | 凹み底 外:ナデ、底面ヘラ ケズリ 内:ハケ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 99 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 9.3~9.6(2/3) | 脚外:指押さえナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 100 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 23.4(5/12) | 外:縦ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 101 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 14.5(1/11) 底径 4.6(完) 器高 4.3 | 凹み底 外:タタキ(2条/cm) 内:ハケ | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 102 | 153 | 弥生土器 | 器台 | 後期後半か | 口径 26.2~27.0(5/6) | 西部瀬戸内系か 外:口縁端部波状文(6条)、 筒部スカシ 3 段 14 個、6~7 方向スカシ、刻目凸帯、2 個 1 対スカシ 6 方向か 縦ヘラ ミガキ 内:ヘラミガキ、ハケ、指押 さえナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 103 | | 弥生土器 | 小型器台 | 庄内式期 | 口径 8.6(3/4) | 外:縦ヘラミガキ一部横ヘラ ミガキ 内:ヘラミガキ、ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 104 | 189 | 石製品 | 敲き石? | ? | 長 7.3 幅 7.6 厚 7.0 | 砂岩 一部面を持つ | | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 |
| 188 | 105 | | 弥生土器 | 直口壺 | 庄内式期か | 口径 9.8(一部欠) | 外:ヘラミガキ、ハケ後ヘラ ミガキ 内:ヘラナデ、指押さえ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (5694 土器群) |
| 188 | 106 | 153 | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半か | 口径 11.0(1/8) | 外:口縁端部刻目、ヘラ描鋸 歯文、穿孔 1 個残 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (5694 土器群) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (4)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|------|---------------|--|---|------------------|----------|------|------------------------|
| 188 | 107 | | 弥生土器 | 甕か鉢 | 後期後半か | 胴部径 12.4 ~ 13.2 (完) | 外: ナデ、タタキ(2~3条/cm)、スス付着 内: ハケ、板ナデ?、工具痕、コゲ付着 | 5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (5694 土器群) |
| 188 | 108 | | 弥生土器 | 高杯? | 後期後半か | 脚裾径 8.0(1/3) | 外: ハケ後一部ヘラミガキ、ヘラケズリ? 後一部ヘラミガキ 内: ヘラミガキ | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (5694 土器群) |
| 188 | 109 | 153 | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期 | 口径 11.7 ~ 12.1(5/6) 底径 2.0(完) 器高 8.5 | 外: ヘラミガキ、ヘラケズリ 後ヘラミガキ 内: ハケ後ヘラミガキ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (5694 土器群) |
| 188 | 110 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 16.6(1/8) | 外: ヘラミガキ 内: ハケ後ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 188 | 111 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 13.1(若干のみ) 頸部径 11.0(1/3) | 内: ハケ? | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 188 | 112 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 16.0(1/6) | 口縁叩き出し 外: タタキ(2条/cm) | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 188 | 113 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 19.0(1/4) | 内: ヘラミガキ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 188 | 114 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚基部径 3.5(完) | 外: 縦ヘラミガキ 内: 工具痕 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 188 | 115 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 稜径 17.1(1/6) | 外: 縦ヘラミガキ 内: ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 188 | 116 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚端部径 16.2 ~ 16.7 (完) | 外: スカシ 5 方向(焼成前表から穿孔)、ハケ後ヘラミガキ 内: ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 188 | 117 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期 | 口径 38.9(1/6) | 外: ヘラミガキ 内: ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 13 (周溝 5615 溝) |
| 192 | 118 | | 弥生土器 | 小型壺 | 後期後半 | 底径 2.6(完) | 輪高台 外: ナデ 内: 指押さえ後ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 14 |
| 192 | 119 | 153 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 12.4(1/6) | 口縁叩き出し 外: タタキ(3条/cm)、スス付着、二次焼成による赤色化 内: ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 14 |
| 192 | 120 | | 弥生土器 | 甕? | 後期後半か | 小片 | 近江系? 外: 口縁端部列点文 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 14 |
| 192 | 121 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 底径 3.1(完) | 外: ヘラミガキ 内: 板ナデ | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 14 |
| 192 | 122 | | 弥生土器 | 直口壺 | 庄内式期か | 口径 13.8(1/4 強) | 図上復元 | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 15 (周溝 5651 溝) |
| 192 | 123 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 12.4(ほぼ完) | 外: タタキ(2条/cm) 後一部ハケ 内: ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 15 (周溝 5651 溝) |
| 192 | 124 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.0(1/7) | 外: タタキ(3条/cm)、スス付着 内: 板ナデ? | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 15 (周溝 5651 溝) |
| 192 | 125 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 5.0(1/2) | 外: タタキ(2条/cm) 内: ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 15 (周溝 5651 溝) |
| 192 | 126 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚裾径: 12.5(1/2) | スカシ 推定 4 方向(焼成前表から穿孔) | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 15 (周溝 5651 溝) |
| 192 | 127 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 19.8(1/6) | 外: ヘラミガキ? 内: ヘラミガキ? | 7.5YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 15 (周溝 5629 溝) |
| 192 | 128 | | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 口径 42.0(1/12) | 外: ヘラミガキ 内: ハケ後縦ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 竪穴建物 15 (周溝 5629 溝) |
| 192 | 129 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 3.7(1/2) | 外: タタキ(3条/cm) 内: ナデ? | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 7 | 掘立柱建物 3 (7169 柱穴) |
| 199 | 130 | | 弥生土器 | 底部 | 後期 | 底径 3.5(2/3 弱) | 内: ハケ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0175 土坑 |
| 199 | 131 | | 弥生土器 | 底部 | 後期~ 庄内式期 | 底径 4.0(完) | 内: ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 10-1 | 4-4 | D0189 土坑 |
| 199 | 132 | | 弥生土器 | 有孔底部 | 後期後半~ 庄内式期 | 底径 3.8(完) | 焼成前内から穿孔 | 10YR8/3 浅黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0195 土坑 |
| 199 | 133 | | 弥生土器 | 底部 | 後期 | 底径 4.2(端部ほぼ欠) | 内: ハケ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0265 土坑 |
| 199 | 134 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 14.0(1/3 強) | 図上復元 外: 刺突文、直線文(2条) | 7.5YR7/6 橙 | 10-1 | 4-4 | D0288 土坑 |
| 199 | 135 | | 弥生土器 | 短頸壺 | 後期後半~ 庄内式期 | 口径 7.4(1/5) | 図上復元 外: 刺突文(2段) | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0288 土坑 |
| 199 | 136 | | 弥生土器 | 底部 | 後期後半~ 庄内式期 | 底径(表面剥離) 3.0 (1/2) | 外: ヘラナデ? 内: ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0288 土坑 |
| 199 | 137 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 胴部径 14.0(1/4 強) | 外: タタキ(3条/cm)、スス付着 内: ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7146 土坑 |
| 199 | 138 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 4.7(完) | 凹み底 外: タタキ(3条/cm) 内: ハケ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7146 土坑 |
| 199 | 139 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.2(完) | 外: 二次焼成による赤色化 | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 3-9 | 3227 土坑 |
| 199 | 140 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 4.0(完) | 外: タタキ(3条/cm) 内: ハケ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 3-9 | 3227 土坑 |
| 199 | 141 | 186 | 石製品 | 剥片 | | 長 3.1 幅 2.7 厚 0.9 | サヌカイト | | 12-1 | 3-9 | 3227 土坑 |
| 199 | 142 | | 弥生土器 | 底部 | 後期後半か | 底径 3.9(完) | | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 3-9 | 3234 土坑 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (5)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|------|------|------|------|-------------|---------------|---|---|------------------|------|------|----------------|
| 199 | 143 | | 弥生土器 | 鉢底部 | 庄内式期か | 底径 3.6(1/2) | 外：指押さえナデ 内：工具痕 | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 3-9 | 3235 土坑 |
| 199 | 144 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 底径 4.0(完) | 輪高台 外：タタキ(2条/cm) 後一部ハケ、スス附着 内：ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 3-9 | 3239 土坑 |
| 201 | 145 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期か | 底径 7.0(1/7) | 凹み底 外：ヘラミガキ？、 タタキ？、指押さえナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 146 | | 弥生土器 | 壺底部 | 庄内式期か | 底径 4.0(3/4) | 外：底面ヘラミガキ？ | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 147 | | 弥生土器 | 壺底部か 鉢底部 | 後期後半か 庄内式期 | 底径 2.4(完) | 凹み底 外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 148 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 12.6(1/4) | 外：タタキ、スス附着 内：スス附着 | 7.5YR7/2 明褐灰 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 149 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 11.6(若干のみ) 頸部径 12.0(1/4) | 外：タタキ(2~3条/cm) | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 150 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.8(1/4弱) | 外：タタキ | 7.5YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 151 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 14.3(1/4) | 口縁叩き出し 外：タタキ (2~3条/cm)、スス附着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 152 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 5.8~6.0(完) | 輪高台 外：タタキ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 153 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 底径 4.3(完) | 外：タタキ(3~4条/cm)、 スス附着 内：工具痕 | 5YR5/6 明赤褐 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 154 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 20.7(1/7) | 外：口縁端部刻目、縦ヘラミ ガキ 内：縦・横ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 155 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期 | 脚裾径 15.4(3/4) | スカシ2段(上2方向・下4 方向) | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 156 | 153 | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 多分生きている口径 13.0(1/3) 脚裾径 9.4(1/2) | スカシ3方向 | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 157 | 153 | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期 | 口径 13.7(1/2) 底径 4.0~4.3(一部欠) 器高 5.6~6.2 | 外：ヘラケズリ(底面も) | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 158 | | 弥生土器 | 有孔鉢 底部 | 後期後半か | 底径 3.9(完) | 輪高台 焼成前穿孔(内から) 外：タタキ(3条/cm) 内：工具痕 | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 159 | | 弥生土器 | ミニチュア 土器 | 後期後半 | 底径 3.2(1/3) | 外：ヘラミガキ？ | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 4164 土坑 |
| 201 | 160 | | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 小片 | 内：波状文(5条?) | 10YR8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 161 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 庄内式期 | 口径 29.6(若干のみ) (稜径 26.0(1/6)) | | 5YR7/6 橙 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 162 | 154 | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 12.5(1/4強) 底 径 4.0(完) 器高 14.1 | 外：タタキ、二次焼成による 赤色化 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 163 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.5(1/4) 底径 3.5~3.7(完) | 図上復元 外：タタキ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 164 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 13.0(1/5) | 内：指押さえ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 165 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.6(完) | 外：タタキ 内：コゲ附着 | 7.5YR5/1 褐灰 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 166 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚基部径 2.8(完) | 内：ヘラケズリ？ | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 167 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 22.6(1/8) | 内：ヘラミガキ？ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 201 | 168 | 154 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半か | 口径 14.7~椀円形 (1/6) 底径 4.1(3/4) 器高 10.0 | 焼成前に内外両面から穿孔か 外：指押さえナデ 内：板ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4166 土坑 |
| 203 | 169 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 17.0(1/5強) | 外：ヘラミガキ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 4-1 | 4008 土坑 |
| 203 | 170 | | 弥生土器 | 直口壺？ | 庄内式期か | 頸部径 7.0(完) | 内：指押さえ | 5YR8/3 淡橙 | 11-1 | 4-1 | 4008 土坑 |
| 203 | 171 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 13.0(1/5) | 外：タタキ(3条/cm)、スス 附着 | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 11-1 | 4-1 | 4008 土坑 |
| 203 | 172 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 14.3(若干のみ) 頸部径 12.2(1/4) | 外：ハケ、タタキ(4条/cm) 内：ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 4-1 | 4008 土坑 |
| 203 | 173 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.2(1/4弱) | 口縁叩き出し 外：タタキ(3条/cm) 内：指押さえナデ一部ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 4-1 | 4008 土坑 |
| 203 | 174 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚裾径 16.2(完) | スカシ推定4方向 | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 4-1 | 4008 土坑 |
| 203 | 175 | | 弥生土器 | 片口鉢 | 庄内式期か | 口径 30.0(1/12) | 外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 4-1 | 4008 土坑 |
| 203 | 176 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.5(3/5) | 外：タタキ(3条/cm)、スス 附着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-1 | 5016 土坑 |
| 203 | 177 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 16.2(1/2強) | 外：タタキ(4条/cm)、スス 附着 内：ハケ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-1 | 5016 土坑 |
| 203 | 178 | 154 | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 14.6(1/4強) 底径 4.5(一部欠) 器高 8.0~8.6 | 凹み底 外：指押さえナデ 内：ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 5672 土坑 |
| 203 | 179 | | 弥生土器 | 細頸壺 | 庄内式期 | 底径 1.3(完) 胴部径 15.0(1/3) | 外：縦ヘラミガキ 内：指押さえナデ、板ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 5672 土坑 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (6)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|------------|---------------|--|---|------------------|----------|------|----------------|
| 203 | 180 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.8(1/5) | 外:タタキ(3条/cm)、スス 付着 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5672 土坑 |
| 203 | 181 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 14.2(1/2 弱) | 外:口縁端部凹線文、タタキ(3 条/cm) 内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 5672 土坑 |
| 203 | 182 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 16.6(一部欠) | 外:タタキ(3条/cm) 後板ナ デ 内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 5672 土坑 |
| 203 | 183 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 17.1(1/7) | 外:ナデ 内:ハケ? | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5672 土坑 |
| 206 | 184 | | 弥生土器 | 甕底部 | 前期か | 底径 8.2~8.5(4/5) | | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 6-1 | 6040 溝 |
| 206 | 185 | 186 | 石製品 | 剥片 | | 長 4.6 幅 1.9 厚 1.3 | サヌカイト B面:自然面残る | | 10-1 | 4-4 | D0233 溝 |
| 206 | 186 | | 弥生土器 | 壺 | 後期 | 底径 5.3(完) | 輪高台 外:スス付着 内:コゲ付着 | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 3-8 | 3191 溝 |
| 206 | 187 | | 弥生土器 | 底部 | 後期後半か | 底径 4.4(完) | | 2.5Y6/4 にぶい黄 | 11-1 | 3-8 | 3191 溝 |
| 206 | 188 | | 弥生土器 | 底部 | 後期後半か | 底径 4.1(完) | | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 3-8 | 3191 溝 |
| 206 | 189 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚基部径 3.0(完) | 内:しぼり目 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-8 | 3191 溝 |
| 206 | 190 | | 弥生土器 | 有孔底部 | 後期後半 | 底径 3.4(1/2) | 焼成前に外から穿孔 | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 3-8 | 3191 溝 |
| 206 | 191 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 底径 3.0~3.6(完) | 図上復元 外:タタキ後ヘラ ミガキ、一部ヘラケズリ 内: 指押さえナデ、ハケ後ナデ? | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 192 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 12.5(若干のみ) 底径 3.1(完) 器高 13.8 | 輪高台 外:タタキ(2条/cm) 内:板ナデ、ヘラ痕 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 193 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.8(1/4) | 外:タタキ(3条/cm)、スス 付着 内:板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 194 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.7(1/5) | | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 195 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 3.3(完) | 外:タタキ(4条/cm) 内:板ナデ?、工具痕 | 7.5YR7/2 明褐灰 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 196 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.3(完) | 輪高台 外:タタキ(3条 /cm)、二次焼成による赤色化 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 197 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 2.4(完) | 外:タタキ(2条/cm)、二次 焼成による赤色化 | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 198 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 17.8(1/4 弱) | | 5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 199 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚基部径 3.1(完) | 外:ヘラ痕、ヘラミガキ? 脚内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 200 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 9.5(若干のみ) 底径 3.1(完) 器高 6.3 | | 5YR7/6 橙 | 12-1 | 4-2 | 4163 溝 |
| 206 | 201 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 庄内式期か | 頸部径 12.6(1/11) | 外:凹線文(5条)上円形竹 管浮文(2個1対)、横・縦ヘ ラミガキ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 4-1 | 4058 溝 |
| 206 | 202 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半か | 口径 23.7(1/8) | 外:口縁部波状文(5条)、縦 ヘラミガキ? 内:ヘラミガキ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 4-1 | 4058 溝 |
| 206 | 203 | | 弥生土器 | 底部 | 庄内式期か | 底径 2.4 (端部ほとんど欠) | 輪高台 外:ナデ? 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 4-1 | 4058 溝 |
| 206 | 204 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 2.4(完) | 外:タタキ(4条/cm)、底面 もタタキ 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 4-1 | 4058 溝 |
| 206 | 205 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半 | 底径 5.0(完) | 外:タタキ(3条/cm)、スス 付着 内:ヘラナデ、コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5924 溝 |
| 206 | 206 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 21.7(1/3) | 外:縦ヘラミガキ、スカシ3 方向、スス付着 内:縦ヘラ ミガキ、ハケ後ヘラミガキ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5924 溝 |
| 206 | 207 | 153 | 弥生土器 | 手焙形 土器か | 後期後半 | 小片 | 外:鋸歯文、凸帯 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5924 溝 |
| 206 | 208 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 18.7(1/4) | 外:ヘラミガキ? | 7.5YR6/6 橙 | 11-1 | 5-3 | 5928 溝 |
| 206 | 209 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 11.6(若干のみ) 脚基部径 3.6(ほぼ完) | 外:縦ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5928 溝 |
| 206 | 210 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚裾径 10.4(若干のみ) 脚基部径 3.0(完) | 外:ヘラミガキ?、スカシ4 方向 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5928 溝 |
| 206 | 211 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚裾径 9.8(1/7) | 内:ナデ、ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5928 溝 |
| 206 | 212 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半~ 庄内式期 | 口径 20.1(1/3) | 外:ハケ後縦ヘラミガキ、ヘ ラ記号? 内:ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5929 溝 |
| 206 | 213 | 154 | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 口径 8.4(1/4 弱) | 輪高台 外:ナデ 内:板ナデ、ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5944 溝 |
| 208 | 214 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 12.4(ほぼ完) 底径 5.2~6.0(完) 器高 21.9 | 輪高台 外:縦ヘラミガキ、 タタキ(3条/cm)後ヘラミガ キ、スス付着 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 215 | | 弥生土器 | 壺? | 後期後半か | 口径 12.7(1/2) | 外:タタキ(2~3条/cm)後 下半部ヘラミガキ 内:ハケ後一部ヘラミガキ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (7)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|-----------|-------|---|---|------------------|----------|------|----------------|
| 208 | 216 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 15.6(1/12) | 外:タタキ?後ヘラミガキ?内: 工具ナデ? | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 217 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 15.8(1/3) | 赤色砂粒多い 外:ヘラミガキ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 218 | 154 | 弥生土器 | 直口壺 | 後期後半か | 口径 10.0(完) 底径 4.2~4.5(完) 器高 22.7 | 輪高台 外:縦・横ヘラミガ キ 内:ハケ、しぼり目 | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 219 | | 弥生土器 | 細頸壺 | 庄内式期か | 口径 7.2(3/4) | 口縁部の欠損は故意かどうか 不明 外:縦ヘラミガキ 内:ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 220 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半 | 口径 13.0(1/2 弱) | 外:ハケ後ヨコナデ、ヘラナ デ 内:ヘラミガキ、ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 221 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半か | 口径 18.8(1/9) | 外:口縁端部竹管文、波状文 2段(7条)、円形竹管浮文(2 個1対6対) | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 222 | 154 | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 庄内式期か | 口径 29.0(1/8) | 外:口縁端部凹線文2条・刻 目、凹線文3条、円形竹管浮 文2個1対、刻目凸帯 内:ヘラミガキ一部/ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 223 | 154 | 弥生土器 | 小型甕 | 後期後半 | 口径 10.5(3/4) 底径 2.7(完) 器高 9.7 | 外:口縁端部凹線文1条、タ タキ(3条/cm)、焼成後内か ら穿孔1 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 224 | 154 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 11.0(一部欠) 底径 3.2~3.4(完) 器高 12.3 | 外:タタキ(2条/cm)、スス 附着 内:コゲ?附着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 225 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.0(1/4) 底径 3.7(完) 器高 14.4 | 胴部焼成後内から穿孔(故意 かどうか不明) 外:タタキ(3 条/cm)、スス附着 内:ナデ、工具痕 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 226 | 154 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 12.3(3/4) 底径 4.4(2/3) 器高 13.1~14.1 | 外:板ナデ、タタキ(3条/cm)、 スス附着 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 227 | 154 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 12.8~13.1(ほぼ 完) 底径 3.6(完) 器高 14.9 | 外:ハケ、タタキ(2~3条)、 スス附着、二次焼成による赤 色化 内:指押さえ、ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 208 | 228 | 154 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 14.9~15.3(完) 底径 4.1(1/2 強) 器高 15.3 | 外:ハケ?、タタキ(2~3条 /cm)、スス附着 内:ハケ、板ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 229 | 154 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 11.9~12.5(完) 底径 4.5(2/3) 器高 16.4 | ゆがみ 口縁叩き出し 外:タタキ(2条/cm) 内:ハケ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 230 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 15.4(1/4 強) | 口縁叩き出し 外:タタキ(4 条/cm)後一部ナデ、スス付 着 内:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 231 | 154 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.3(1/2) 底径 4.5~4.7(完) 器高 19.0~19.5 | 外:タタキ(2条/cm)、スス 附着、二次焼成による赤色化 内:ハケ、指押さえ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 232 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 16.7(1/3) | 外:タタキ(2条/cm)後一部 ナデ 内:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 233 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 17.6(1/4) | 外:ハケ、タタキ(2条/cm) 内:ハケ、ハケナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 234 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 14.4(1/4 強) | 外:タタキ(2~3条/cm)、 スス附着 内:ハケ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 235 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.8(1/2 強) | 外:タタキ(2~3条/cm)、 スス附着 内:ハケ、指押さ えナデ後ハケ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 236 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 19.1(2/3) 底径 5.6(1/2) | 図上復元 外:ハケ?、タタ キ(3条/cm)後一部ナデ 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 237 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.4(1/6) | 外:ハケ、タタキ(3~4条/cm) 内:ハケ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 238 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 15.6(1/6) 底径 3.8(ほぼ完) 器高 8.4 | 外:タタキ(3~4条/cm)後 一部ハケ、スス附着 内:ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 239 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 16.6(若干のみ) 底径 4.2(完) 器高 17.9 | 輪高台 胴部と底部に焼成後 外からと内からの穿孔 外:タタキ(3条/cm)、スス 附着 内:板ナデ、工具痕 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 240 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径 18.0(1/3) | 図上復元 外:タタキ(2条/cm)後ハケ (粗・細あり)、スス附着 内:ハケ、コゲ附着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 241 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 18.4(1/2 弱) | 外:指押さえ、ハケ | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 209 | 242 | | 弥生土器 | 鉢? | 後期後半か | 小片 | 近江系 外:口縁端部刺突文 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 243 | 154 | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 20.7~22.1(3/4) 脚径 14.5(3/4) 器高 13.8~14.6 | 外:縦ヘラミガキ、ハケ後一 部ヘラミガキ、スカシ4方向 内:横・放射状ヘラミガキ、 しぼり目、ナデ(工具痕) | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (8)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|------------|------|-----------|-------|---|--|------------------|----------|------|--------------------|
| 210 | 244 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 口径 18.6(1/6) | | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 245 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 口径 18.2(3/8) | 外:モミ痕、ハケ 内:ヘラミガキ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 246 | 154 | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 12.2(3/4弱) 脚裾径 9.6(1/2弱) 器高 9.2 | 外:ヘラミガキ?、指押さえ、 ヘラナデ? 内:ヘラミガキ、 しぼり目、スカシ推定4方向 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 247 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 13.0(1/2弱) | | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 248 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期 | 脚裾径 17.6(1/12) | 外:刺突文2段凸帯、スカシ 4方向 生駒西麓産 | 7.5YR6/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 249 | 154 | 弥生土器 | 甕か鉢 | 後期後半か | 口径 13.0(1/2) 底径 4.6(2/3) 器高 9.8 | 口縁叩き出し 外:焼成後外 から穿孔1、タタキ(2条/cm) | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 250 | 154 | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 12.7 ~ 13.2(一 部欠) 底径 3.8 ~ 4.1(完) 器高 6.1 | ゆがみ 外:指押さえ 内:板ナデ? | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 251 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 底径 3.7 ~ 4.1(3/4) | 外:工具痕、指押さえナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 252 | 154 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半か | 口径 12.7(若干のみ) 底径 3.7 ~ 4.0(完) 器高 9.1 | 焼成前に外から穿孔 外:タタキ(3条/cm) 内:ハケ | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 210 | 253 | | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半か | 口径 16.5(1/4) 底径 3.3(完) 器高 10.3 | 焼成前に内から穿孔? 外:タタキ後ナデ? 内:ハケ、ヘラ痕 | 5YR5/6 明赤褐 | 11-1 | 5-2 | 5627 溝 |
| 212 | 254 | 154 | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半か | 口径 24.0(1/7) 底径 5.2(完) | 図上復元 外:ナデ?、タタキ(3条/cm)、 スス付着 内:ナデ? | 7.5YR7/2 明褐灰 | 11-1 | 5-2 | 5636 溝 |
| 212 | 255 | | 弥生土器 | 壺? 底部 | 後期後半 | 底径 3.5 (端部欠け多い) | 輪高台 外:ナデ? | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5636 溝 |
| 212 | 256 | | 弥生土器 | 壺? | 後期後半か | 底径 3.7(完) | 外:指押さえナデ、ヘラケズ リ 内:指押さえナデ? | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5636 溝 |
| 212 | 257 | | 弥生土器 | 長頸壺 | 後期後半か | 胴部径 22.8(1/5弱) | 外:横・縦ヘラミガキ、スス 付着 内:指押さえナデ、ハ ケ、スス付着(欠損後か) | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5644 溝 |
| 212 | 258 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 2.6 ~ 2.9(完) | 焼成後に外からの穿孔?2 外:タタキ(3条/cm)、ヘラ ケズリ、スス付着 内:ハケ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5644 溝 |
| 212 | 259 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 16.0(1/3) | 外:タタキ(2条/cm)、スス 付着 内:ハケ? | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5644 溝 |
| 212 | 260 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 3.4 ~ 3.8(完) | 外:タタキ(3条/cm)、スス 付着 | 10YR3/1 黒褐 | 11-1 | 5-2 | 5644 溝 |
| 212 | 261 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 口径 17.6(1/3強) | 内:ヘラミガキ? | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5644 溝 |
| 212 | 262 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 口径 21.8(1/4強) | 外:縦ヘラミガキ 内:ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5644 溝 |
| 212 | 263 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚基部径 2.4(完) | 脚内:しぼり目 | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 3-1 | 3001 落込み |
| 220 | 264 | 原9・ 158 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半 | 口径 12.6(1/2強) 底径 3.8 ~ 4.0(完) 器高 10.9 | 焼成前外から穿孔 外:ハケ、 タタキ(2条/cm) 内:ハケ 一部ヘラナデ、ヘラ痕 | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群1) |
| 220 | 265 | | 弥生土器 | 長頸壺 | 後期前半か | 底径 7.0(1/4) 頸部径 11.5(完) | 図上復元 外:ヘラ記号「ッ」、 ハケ、刻目凸帯、ヘラミガキ、 スス付着 内:ハケ、ハケ後 指押さえ、ハケ、スス付着 | 10YR4/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 266 | | 弥生土器 | 甕 | 後期 | 口径 14.0(若干のみ) 頸部径 11.4(1/4) | 外:タタキ後ハケ、スス付着 内:ハケナデ、ハケ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 267 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 15.7(1/4弱) 底径 4.8(完) 器高 19.0 | 口縁叩き出し 外:タタキ(3 条/cm)後一部ハケ、スス付 着 内:ハケ、コゲ付着 | 10YR2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 268 | 原9・ 156 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 16.4(完) 底径 4.3(一部欠) 器高 23.0 ~ 23.2 | 外:タタキ(3条/cm)後一部 ハケ、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 269 | 原9 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 13.9 ~ 14.1(完) 底径 3.7(完) 器高 22.8 ~ 23.3 | 外:タタキ(3条/cm)一部ハ ケ、ハケナデ、スス付着 内:ハケ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 270 | 原9 | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径 13.9(3/4) 底径 3.8(完) 器高 17.4 ~ 17.7 | 口縁叩き出し タタキ(3条 /cm)後ハケ、スス付着 内:指押さえ板ナデ、ハケ、 コゲ付着 | 2.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 271 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 15.0(1/5) 底径 4.3(完) 器高 23.0 ~ 23.3 | 外:タタキ(3条/cm)後一部 ハケ、スス付着 内:ハケ(粗)後ナデ、ハケ (細)、コゲ付着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 272 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 4.9(完) | 外:タタキ(2条/cm)後一部 ナデ? 内:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 273 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 底径 4.8(完) | 外:タタキ(2条/cm)、スス 付着 内:ハケ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |
| 220 | 274 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 22.9(1/4強) | 内:ヘラミガキ、ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 (土器群3) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (9)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番号・名 |
|------|------|--------|------|------|-------|--|---|---------------|------|------|----------------|
| 220 | 275 | 原9・156 | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 15.1(1/2) 脚裾径 11.7(5/8) 器高 10.3 | 外:ハケ、スカシ4方向(焼成前に外から穿孔) 脚内:ハケ、工具痕 | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群3) |
| 220 | 276 | 原9・158 | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 10.5~10.8(完) 底径 3.8(完) 器高 6.4~6.8 | 外:指押さえナデ 内:ハケ後ナデ | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群3) |
| 220 | 277 | | 弥生土器 | 有孔底部 | 後期後半か | 底径 4.1~4.3(3/4) | 焼成前穿孔(どちらからか不明) 内:ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群3) |
| 221 | 278 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 14.2(1/4強) | | 10YR8/2 灰白 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 279 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 底径 5.0(完) | 外:ヘラミガキ、スス付着 内:一部粗いハケ | 10YR8/2 灰白 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 280 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半 | 口径 14.0~16.0(1/2) | ゆがみ 外:タタキ(2条/cm) 後ハケ、スス付着 内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 281 | 原9 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 12.7~13.6(1/4) 底径 4.7~5.1(完) 器高 22.5 | 外:タタキ(2条/cm)後一部ハケ、スス付着 内:指押さえナデ、ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 282 | 原9 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 13.3(1/2弱) 底径 4.5(完) 器高 19.3~19.7 | 外:タタキ(3条/cm)後一部ハケ、スス付着 内:指押さえナデ、ハケ、コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 283 | 原9・156 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 18.3~18.8(完) 底径 4.1~4.4(完) 器高 27.3~27.6 | 輪高台 外:タタキ(2~3条/cm)後一部ハケ、スス付着 内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 284 | 原9・156 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 15.0~15.7(3/4) 底径 5.0(完) 器高 29.0 | 外:タタキ(2~3条/cm)後一部ハケ、スス付着 内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 285 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 14.4(1/2弱) 底径 4.6(一部欠) 器高 23.7 | 外:タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ハケ | 10YR 7/1 灰白 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 286 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 4.2(完) | 輪高台 外:ハケ(細)、タタキ(2条/cm)後一部ナデ、スス付着 内:ハケ(細)、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 287 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 脚基部径 4.6(1/2弱) | 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ハケ後ヘラミガキ、しぼり目 | 10YR3/1 黒褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 288 | 原9・157 | 弥生土器 | 鉢 | 後期 | 口径 17.8(1/2弱) 底径 4.9(完) 器高 9.9~10.5 | 外:タタキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群2) |
| 221 | 289 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 口径 24.2(1/5) | 外:ヘラミガキ、ハケ後ヘラミガキ 内:横・縦ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路(土器群4) |
| 222 | 290 | 原9・155 | 弥生土器 | 壺 | 後期前半か | 口径 13.5~14.0(3/4) 底径 4.9(完) 器高 20.0~21.1 | 輪高台 外:ハケ、横・縦ヘラミガキ、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 291 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 15.8(1/4強) | 外:口縁端部凹線文3条、ナデ? 内:ヘラミガキ、指押さえ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 292 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 13.2(1/5) | 外:ハケ後ナデ 内:指押さえナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 293 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 12.8(1/2) | 外:口縁部凹線文1条、工具痕、ハケ後ヘラミガキ、スス付着 内:板ナデ、コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 294 | 原9・155 | 弥生土器 | 壺 | 後期前半か | 口径 13.1(1/2強) 底径 4.8~5.0(完) 器高 20.6~20.8 | ヘラ記号「~」 外:ヘラ痕、ハケ後ヘラミガキ 内:ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 295 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 16.5(1/2) | 外:ヘラミガキ | 10YR8/2 灰白 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 296 | 原9 | 弥生土器 | 小型壺 | 後期後半 | 底径 1.8~2.0(完) | 外:ハケ、ヘラミガキ 内:指押さえナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 297 | 原9・155 | 弥生土器 | 小型壺 | 庄内式期か | 口径 6.2(4/5) 器高 9.9 | 外:縦ヘラミガキ、ハケ後ヘラミガキ、ヘラケズリ後ヘラミガキ 内:ナデ? | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 298 | | 弥生土器 | 短頸壺 | 後期後半か | 口径 9.4(2/5) | 外:ヘラミガキ、工具痕 内:一部ヘラミガキ、ナデ、しぼり目、指押さえ | 10YR5/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 299 | 原9・155 | 弥生土器 | 短頸壺 | 後期後半か | 口径 9.5(3/4) 底径 4.2~4.4(完) 器高 12.8 | 外:縦ヘラミガキ、ヘラ痕 内:ヘラミガキ、ハケ | 5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 300 | | 弥生土器 | 長頸壺 | 後期後半か | 底径 2.6~2.9(完) | 外:ハケ後縦ヘラミガキ 内:指押さえナデ、ハケ、ヘラ痕 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 301 | | 弥生土器 | 壺肩部 | 後期後半か | 小片 | 外:直線文(6条)2段+α間列点文(6条) 内:ハケ、ハケナデ | 10YR5/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 302 | | 弥生土器 | 壺肩部 | 後期後半か | 胴部径 24.0(1/4) | 外:ヘラミガキ、黒色顔料塗布? 内:指押さえナデ、ナデ後ハケ・ハケナデ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (10)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|------------|------|------|---------------|---|---|------------------|----------|------|----------------|
| 222 | 303 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 底径4.5~4.7(一部欠) | 輪高台 外:ハケ後ヘラミガキ?、底部木の葉痕 内:粗いハケ? | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 304 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 底径5.5(一部欠) | 外:ハケ後ヘラミガキ、スス付着 内:ハケ後ヘラミガキ、コゲ付着 | 7.5YR5/2 灰褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 305 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期前半か | 底径4.5(完) | 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 306 | | 弥生土器 | 壺?底部 | 後期後半~ 庄内式期 | 底径3.5~3.9(完) | 外:ハケ後ヘラミガキ、タタキ?、スス付着 内:ハケ | 2.5Y4/1 黄灰 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 307 | | 弥生土器 | 蓋? | 後期 | 頂部径4.2(完) | 外:ナデ、スス付着 内:板ナデ | 5Y3/1 オリーブ黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 308 | 原9・ 155 | 弥生土器 | 甕蓋 | 後期前半か | 口径12.7(3/4弱) 頂部径3.8~4.1(完) 器高5.6 | 外:ハケ後ヘラミガキ、赤色顔料塗布? 内:ハケ、スス付着 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 309 | 原9・ 155 | 弥生土器 | 小型甕 | 後期前半 | 口径7.6(3/4) 底径 2.2(完) 器高10.1 | 外:ハケ、タタキ後ハケ、スス付着 内:ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 310 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径17.0(若干のみ) 頸部径14.0(1/3) 底部径4.5~4.7(完) 器高16.4 | 外:タタキ(2条/cm)後一部 ハケ・ナデ、スス付着 内:ヘラケズリ、板ナデ、ハケ、 コゲ付着 | 7.5YR5/1 褐灰 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 311 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半 | 口径14.7(1/4) | ゆがみ 外:タタキ(2条/cm)、スス付着 内:ハケ、ヘラケズリ | 2.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 222 | 312 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半 | 口径15.2(1/6) | ヘラ記号「≡」 外:ハケ 内:ヘラケズリ | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 313 | 原9・ 155 | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径15.4(1/2弱) 底径3.4~3.7(完) 器高20.0 | 外:口縁端部凹線文?、タタキ(3条/cm)、ふきごぼれ?痕、 ヘラナデ、スス付着 内:板ナデ、工具痕、ハケ、 コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 314 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径16.2(若干のみ) 胴部径17.4(1/4) | 口縁叩き出し 外:タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ハケ、 コゲ付着 | 10Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 315 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径16.6(1/4) | 口縁叩き出し 外:タタキ(3条/cm) | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 316 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径17.5(1/5) | 外:タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 2.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 317 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径21.8(1/5強) | 外:タタキ(3条/cm) 内:ナデ、板ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 318 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径14.8(1/4) | 外:タタキ後ハケ、スス付着 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 319 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径17.0(1/2弱) | 外:タタキ(4条/cm)、スス付着 内:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 320 | | 弥生土器 | 小型甕 | 後期後半か | 口径11.0(1/7) 底径3.9(完) 器高13.0 | 外:ハケ、タタキ(3条/cm) 後一部ハケ、スス付着 内:ハケ、板ナデ、コゲ付着 | 10YR4/1 褐灰 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 321 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径13.1(1/5弱) 底径4.0(ほぼ完) 器高11.8~12.1 | 口縁叩き出し 外:タタキ(3条/cm)後一部 ヘラナデ?、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 322 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径13.7(1/8) 底径4.4(完) 器高17.1 | 口縁叩き出し 外:タタキ(3条/cm)、スス付着 内:板ナデ、ハケ | 2.5Y3/2 黒褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 323 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径16.4(1/9) 底径4.8(1/2) 器高20.3 | 輪高台 外:タタキ(3.5条/cm)、スス付着 内:指押さえナデ、板ナデ、コゲ付着 | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 324 | 157 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径14.7(1/2) 底径4.2(完) 器高23.5 | 口縁叩き出し 外:口縁端部 一部ヘラ痕、タタキ(3条/cm) 後一部粗いハケ、底部にもタ タキ、スス付着 内:ハケ、 コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 325 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径15.5~16.0(ほぼ 完) | 外:タタキ(2条/cm)後一部 ハケ、スス付着 内:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 326 | 原9 | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径14.7~15.2(1 /2) 底径4.2(完) 器高19.4~20.0 | 外:タタキ(3条/cm)後一部 ナデ、スス付着 内:板ナデ、ハケ、コゲ付着 | 5Y7/2 灰白 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 327 | 原9 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径16.0(1/2) 底径5.1~5.3(完) 器高19.7~20.0 | 外:タタキ(2条/cm)後一部 ハケ、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 223 | 328 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径14.6(1/11弱) | 外:タタキ後一部ハケ、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 2.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 329 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径15.0(1/6) | 外:指押さえ後ハケ、タタキ (2条/cm)後ハケ、スス付着 内:ハケナデかハケ | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 330 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径14.0(3/8) | ゆがみ 外:タタキ(2条/cm) 後一部ハケ、スス付着 内:ハケ、板ナデ | 5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (11)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|------|------|------------|------|-----|---------------|--|---|------------------|------|------|----------------|
| 224 | 331 | 原9 | 弥生土器 | 甕 | 後期 | 口径 14.1(若干のみ) 底径 4.1~4.3(完) 器高 16.8 | 外:ハケ、ナデ、スス附着 内: ハケ、ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 332 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 12.4(1/4) | 外:タタキ?後ハケ、スス付 着 内:ハケ後ナデ、コゲ附着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 333 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径 15.4(1/6弱) | 口縁叩き出し 外:タタキ後ハケ、スス附着 内:指押さえ、ハケ | 7.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 334 | 原9・ 155 | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径 13.8~15.5(1/2) 底径 3.2(完) 器高 13.8~15.0 | 外:タタキ(3条/cm)後ハケ、 スス附着 内:指ナデ、ナデ、コゲ附着 | 2.5Y6/4 にぶい黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 335 | | 弥生土器 | 甕 | 後期前半か | 口径 13.0(1/8) 底径 4.0(完) 器高 15.3 | 外:口縁端部凹線文1条、タ タキ(3条/cm)後一部ハケ・ ナデ、スス附着 内:板ナデ、粗いハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 336 | 原9・ 156 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 14.7(1/2強) 底径 4.3(完) 器高 25.7~26.3 | 外:タタキ(3条/cm)後一部 ハケ、ヘラケズリ、スス附着 内:ハケ、コゲ附着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 337 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 18.2(1/8) | 外:タタキ(2条/cm)後ハケ、 スス附着 内:板ナデ | 5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 338 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 16.0(1/4) | 外:タタキ(2条/cm)、スス 附着、二次焼成による赤色化 内:ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 339 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 底径 4.3(1/2) | 外:タタキ(3条/cm)後一部 ナデ、スス附着 内:ナデ | 7.5YR6/2 灰褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 340 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 4.8(完) | 輪高台 外:タタキ(2条/cm) 後一部ハケ、スス附着 内:ハケ、ナデ | 2.5Y4/1 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 341 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 4.2~4.7(完) | 外:タタキ(3条/cm)後深い ハケ?、スス附着、底面に製 作時の痕跡あり 内:ナデ、板ナデ | 2.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 342 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 3.9(3/4) | 外:タタキ(3条/cm)、スス 附着 内:ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 343 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.8(3/4強) | 外:タタキ(4条/cm)、スス 附着 内:ハケ | 2.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 344 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半~ 庄内式期 | 底径 3.3~3.8(完) | 外:タタキ(2条/cm)、スス 附着 内:ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 345 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半~ 庄内式期 | 底径 3.4~3.6(完) | 外:タタキ 内:ハケ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 346 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 4.0(ほぼ完) | 外:タタキ(3条/cm)、スス 附着 内:ハケ、コゲ附着 | 2.5Y2/1 黒 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 347 | 原9・ 157 | 弥生土器 | 台付甕 | 後期か | 口径 11.5(1/2) 脚裾径 8.0(完) 器高 17.8~18.4 | 外:タタキ後ナデ 内:指ナデ、ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 224 | 348 | 157 | 弥生土器 | 甕脚台 | 後期前半か | 脚裾径 10.0~10.3 (7/8) | 近江・東海系か 外:工具痕、 ハケ、スス附着 内:ハケ、 粘土のたまり、スス附着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 349 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 23.7(1/3) | 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ヘラミガキ、ハケ後ヘラ ミガキ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 350 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 25.0(1/3) | 外:横・縦ヘラミガキ 内:ヘラミガキ、ハケ後縦ヘ ラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 351 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 22.7(1/4強) | 外:ヘラミガキ、ヘラケズリ 後ヘラミガキ 内:ヘラミガ キ、放射状ヘラミガキ | 10YR5/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 352 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 29.6(1/9) | 外:縦ヘラミガキ、ハケ後ヘ ラミガキ 内:ヘラミガキ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 353 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 16.8(1/2弱) | 外:口縁端部凹線文1条、稜 端部刻目、縦ヘラミガキ、ヘ ラミガキ 内:ヘラミガキ、ヘラ痕 | 10YR5/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 354 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 22.2(1/4) | 外:ハケ 内:工具痕、ハケ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 355 | 原9・ 156 | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 24.7(1/4強) | 外:縦ヘラミガキ、ハケ(細) 後縦ヘラミガキ、スカシ推定 3方向 内:縦・横ヘラミガキ、 しぼり目 | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 356 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 17.0(1/8) | 外:スカシ推定4方向 脚内:しぼり目 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 357 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期前半か | 脚基部径 4.1(完) | 脚挿入付加法 外:ヘラミガ キ、スカシ3方向(焼成前外 から穿孔) 内:ヘラミガキ、 しぼり目、ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (12)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|---------|-------|---|--|------------------|----------|------|----------------------|
| 225 | 358 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚裾径 17.2(3/8) | 外:縦ヘラミガキ一部横ヘラミガキ、スカシ4方向(焼成前外から穿孔)、スス付着内:ハケ、ナデ、スス付着 | 2.5Y5/3 黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 359 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 脚基部径 3.4(完) | 外:ハケ後横・縦ヘラミガキ内:ヘラミガキ、しぼり目 | 7.5Y5/1 灰 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 360 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚裾径 19.8(1/4) | 外:縦ヘラミガキ、工具痕、ハケ後縦ヘラミガキ、スカシ推定3方向(焼成前外から穿孔)内:ヘラミガキ、しぼり目、ハケ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 361 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚基部径 2.5(完) | 外:ヘラミガキ、ヘラナデ?内:ヘラミガキ、しぼり目、ナデ | 7.5YR5/2 灰褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 362 | 原9・157 | 弥生土器 | 小型鉢 | 後期後半か | 口径 10.3(1/2) 底径 3.5(完) 器高 8.2~8.5 | 外:タタキ(2条/cm)内:ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 363 | 原9・157 | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 11.3(1/2) 底径 4.2(完) 器高 9.2 | 口縁叩き出し 外:タタキ(3条/cm)後一部ナデ内:ハケ、ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 364 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 19.6(若干のみ) 胴部径 16.2(1/8) | 外:横・縦ヘラミガキ内:横・縦ヘラミガキ | 5Y5/2 灰オリーブ | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 365 | 原9・157 | 弥生土器 | 鉢 | 後期前半か | 口径 20.0(1/2弱) 底径 4.3(完) 器高 13.5 | 外:ハケ、ハケ後一部ヘラミガキ内:ハケ後一部ヘラミガキ、コゲ付着 | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 366 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 17.9(2/5) | 外:ナデ、ハケ、スス付着内:ハケ、ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 367 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 22.0(1/4弱) | 外:ハケ後ハケナデ、指押さえナデ内:ハケ、ハケナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 225 | 368 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 21.8(若干のみ) 底径 4.4~4.6(一部欠) 器高 13.1 | 外:指押さえナデ一部ハケ、ヘラナデ、工具痕、底部ヘラ記号?内:ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 369 | 157 | 弥生土器 | 小型鉢 | 後期 | 口径 8.0(1/4) 底径 3.1(完) 器高 4.8 | 外:ヘラミガキ内:ヘラミガキ | 2.5Y5/3 黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 370 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 13.6(1/4弱) | 外:指押さえナデ内:ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 371 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 14.8(1/4) 底径 4.0(完) 器高 7.7~8.1 | 外:指押さえナデ、工具痕内:ハケ、ハケナデ | 2.5Y5/3 黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 372 | 158 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半 | 口径 14.1(1/6) 底径 3.7(完) 器高 8.1 | 穿孔2(焼成前に両側から穿孔)外:タタキ(3条/cm)、底面格子状の線刻?内:ハケ | 10YR6/2 灰黄褐 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 373 | | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半か | 底径 3.8(1/2) | 穿孔(焼成前外から内へ穿孔)外:タタキ(4条/cm)内:ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 374 | | 弥生土器 | 鉢か手焙形土器 | 後期後半 | 口径 13.9(1/4) | 外:ハケ、スス付着内:板ナデ、コゲ付着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 375 | | 弥生土器 | 鉢か手焙形土器 | 後期後半 | 口径 15.2(1/8) 底径 4.2(完) 器高 8.1 | 外:ハケ、刻目凸帯、ナデ、スス付着内:ナデ、ハケ、コゲ付着 | 2.5Y7/3 浅黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 376 | | 弥生土器 | 手焙形土器か | 後期後半 | 口径 13.2(1/11) | 外:ハケ、刻目凸帯内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 226 | 377 | | 弥生土器 | 器台 | 後期前半 | 口径 22.0(1/2) | 外:口縁端部沈線1条後列点文・円形竹管浮文(2個1対で推定8対)、ハケ後一部ヘラミガキ、スス付着内:ヘラミガキ、スス付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 230 | 378 | | 弥生土器 | 壺 | 中期末か | 口縁下端部 14.0(1/5) | 外:口縁端部凹線文3条、頸部凸帯文2条+α、ハケ、ナデ内:列点文(8条)、ナデ、指押さえ後一部ハケ、 | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 230 | 379 | 158 | 弥生土器 | 壺 | 後期前半 | 口径 13.5(一部欠) 底径 3.8~4.1(完) 器高 19.1 | 外:ハケ、ハケ後斜め・横ヘラミガキ、ナデ後ハケ、底面に4条のヘラ描き沈線内:ヘラミガキ、指押さえナデ、ヘラナデ、ハケ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 230 | 380 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 12.8(端部一部欠) | 外:縦ヘラミガキ内:指押さえ後ヘラミガキ・ヘラナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 230 | 381 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 10.3(3/8) | 外:ヘラミガキ? | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 382 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 15.2~15.5(完) | 外:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 230 | 383 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 18.2(5/8) | 外:縦ヘラミガキ?内:縦ヘラミガキ? | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 384 | | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 14.4(1/4) | | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 230 | 385 | | 弥生土器 | 壺底部 | 庄内式期か | 底径 4.0~4.6(ほぼ完) | 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (13)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番号・名 |
|------|------|------|------|------------|-------|---|---|------------------|------|------|----------------------|
| 230 | 386 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 頸部径 9.4(完) | 図上復元 外:斜め・縦ヘラミガキ、スス付着 内:しぼり目、ヘラミガキ、ハケナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 230 | 387 | | 弥生土器 | 二重口縁壺 | 後期後半 | 頸部径 12.6(完) 底径 4.5(完) | 輪高台 外:口縁下部円形浮文 2 個 1 対、タタキ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 230 | 388 | | 弥生土器 | 細頸壺? 底部 | 後期後半 | 底径 3.4(完) | 外:縦ヘラミガキ、スス付着 内:ハケナデ | 5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 389 | | 弥生土器 | 細頸壺? | 後期後半 | 底径 3.3(完) | | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 390 | 158 | 弥生土器 | 甕 | 後期前半 | 口径 16.0~17.0(1/2) 底径 5.3(完) 器高 29.4 | 外:タタキ後ハケ、タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ヘラ痕、ハケ(粗・細)、コゲ付着 | 10YR4/1 褐灰 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 230 | 391 | | 弥生土器 | 甕 | 後期中頃か | 口径 13.2(1/5) 底径 4.1(一部欠) 器高 18.8 | 輪高台 外:タタキ(3条/cm) 後一部ハケ、スス付着 内:ハケ、ナデ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 230 | 392 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期 | 口径 13.7(1/2) | 外:タタキ後ハケ、スス付着 内:ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 230 | 393 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 15.8(1/4 弱) | 外:タタキ(2条/cm)、スス付着 内:板ナデ | 2.5Y5/3 黄褐 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 394 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 15.0(1/3) | 外:タタキ(3条/cm)、スス付着 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 395 | | 弥生土器 | 受口状口縁甕 | 後期後半か | 口径 17.0(1/8 弱) | 外:ナデ、スス付着 内:板ナデ? | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 230 | 396 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半 | 底径 4.1(完) | 外:スス付着 内:板ナデ、コゲ付着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 397 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 底径 3.9~4.1(完) | 輪高台 外:タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 398 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半 | 底径 4.0~4.2(完) | 凹み底 外:タタキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 230 | 399 | | 弥生土器 | 甕? | 後期後半か | 小片 | 近江系か 外:口縁端部列点文、ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 231 | 400 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 14.2(1/3) | 内外面:二次焼成を受ける | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 231 | 401 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 稜径 12.6(1/4) | | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 402 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 22.4(若干のみ) 脚基部径 3.6(完) | 外:ヘラミガキ 内:横・放射状ヘラミガキ、ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 403 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 稜径 20.0(1/4) 脚裾径 18.4(1/4) | 図上復元 外:スカシ 4 方向(焼成前に外から穿孔) 内:ヘラミガキ、しぼり目 | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 404 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚裾径 18.6(1/3) | 外:スカシ推定 6 方向 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 231 | 405 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期中頃か | 脚裾径 12.3(1/3) | 外:スカシ推定 4 方向、ヘラミガキ? 内:しぼり目 | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 231 | 406 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚裾径 9.8(1/3) | 外:スカシ 3 方向(焼成前外から穿孔)、縦ヘラミガキ 脚内:ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 407 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚裾径 11.0(1/4 強) | 内:しぼり目 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 231 | 408 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚裾径 10.2(1/4) | 外:スカシ 4 方向 内:しぼり目 | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 409 | | 弥生土器 | 高杯か器台 | 庄内式期か | 内面凸帯下部径 13.0(2/3) 脚基部径 5.2(完) | 外:ナデ、ハケ 内:凸帯、ナデ、ヘラミガキ?、ハケ、しぼり目 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 410 | | 弥生土器 | 甕底部か鉢 | 後期後半 | 底径 4.0(1/4) | 外:タタキ(3条/cm) 内:ナデ、工具痕 | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 411 | | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 口径 10.2(1/8) | 外:二次焼成による赤色化 | 2.5YR7/3 淡赤橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 412 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 9.9(若干のみ) 底径 3.0(完) 器高 5.5 | 外:指押さえナデ、板ナデ? 内:ハケ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 231 | 413 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 16.0(1/4 弱) | 外:ヘラミガキ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 231 | 414 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 15.8(1/12) 底径 3.8(完) 器高 8.4 | 輪高台 外:ハケ後縦ヘラミガキ 内:ハケ後ヘラミガキ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 231 | 415 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 底径 3.2~3.4(一部欠) | 外:面的叩き? | 2.5YR7/4 淡赤橙 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 231 | 416 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 口径 19.8(1/6 弱) | 418 と同一片? | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 231 | 417 | 158 | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 胴部径 19.4(1/4) | 近江系か 外:直線文(6条+a)、列点文、刻目凸帯 2 条、ハケ 内:ハケ? | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 231 | 418 | | 弥生土器 | 鉢底部 | 後期後半 | 底径 4.5(端部一部欠) | 凹み底 416 と同一片? | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 (3083 流路) |
| 231 | 419 | | 弥生土器 | 有孔鉢 | 庄内式期か | 口径 16.4(1/2) 底径 3.4(完) 器高 10.0 | 焼成後?穿孔 外:タタキ(2条/cm) 内:ナデ? | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (14)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 分量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|-----------|-------|---|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 231 | 420 | 158 | 弥生土器 | 手焙形 土器 | 後期後半 | 稜径 19.6 ~ 20.2(完) 底径 4.5(完) 器高 24.7 | 凹み底 外:稜部刻目、頸部 刺突文、刻目凸帯、ハケ 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 231 | 421 | | 弥生土器 | 手焙形 土器 | 後期後半 | 胴部径 19.0(1/5) | 外:稜部刻目凸帯、刻目凸帯 422 と同一片か | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 231 | 422 | | 弥生土器 | 手焙形 土器 | 後期後半 | 小片 | 外:稜部刻目凸帯 421 と同一片か | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8055 流路 |
| 231 | 423 | | 弥生土器 | 手焙形 土器 | 後期後半 | 小片 | 外:凹線文? | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 3-3 | 8055 流路 |
| 231 | 424 | | 石製品 | 砥石? | | 長 4.4 幅 4.9 厚 4.7 | 流紋岩質凝灰岩 砥面 72、被熱 | | 12-1 | 4-2 | 8055 流路 (4165 流路) |
| 232 | 425 | | 弥生土器 | 壺 | 前期前半か | 口径 19.2(完) | 外:穿孔 1(焼成後内から穿 孔)、削り凸帯上沈線文 2 条、 指押さえ、ヘラミガキ?、板 ナデ 内:ヘラミガキ 内外 面黒色物質塗布 | 10YR6/2 灰黄褐 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 426 | | 弥生土器 | 壺 | 中期末 | 口径 20.8(1/4 強) | 外:口縁部凹線文 3 条、直 線文(8 条) 内:列点文、ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 427 | | 弥生土器 | 壺頸部 | 後期後半か | 頸部径 9.2(1/4) | 外:羽状列点文(5 条)、直線 文?(3 条)、刻目凸帯、刺突 文 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 232 | 428 | | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 底径 4.1(完) | 外:波状文、円形状文、ヘラ ミガキ 内:ハケ、ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 429 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 底径 5.1(完) | ゆがみ 凹み底 外:タタキ 後ナデ、スス付着 内:指押 さえ、ハケ、ヘラナデ、工具痕、 コゲ付着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 430 | 159 | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 庄内式期か | 口径 29.3(5/12) | 外:口縁部・稜部円形竹管 浮文 2 個 1 対(後者推定 8 対)、 刻目凸帯(下に貼り付け目安 の沈線あり)の上下に刺突文、 縦ヘラミガキ 内:ヘラミガキ、ハケ、ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 431 | 159 | 弥生土器 | 甗 | 後期前半か | 口径 14.8 ~ 15.0(3/4) 底径 4.6 ~ 4.8(完) 器高 17.1 | 外:口縁部凹線文 2 条、タ タキ(4 条/cm) 後一部ハケ、 スス付着 内:ハケ、指押さ えナデ、コゲ付着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 432 | | 弥生土器 | 甗 | 後期後半か | 口径 13.6(若干のみ) 頸部径 12.0(1/4 強) | 外:タタキ(2.5 条/cm)、ス ス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 7.5YR7/2 明褐灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 433 | | 弥生土器 | 甗 | 後期後半 | 底径 4.5 ~ 4.7(完) | 凹み底 外:タタキ(2.5 条/ cm) 後一部ハケ、スス付着 内:ハケ、コゲ付着 | 7.5YR6/2 灰褐 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 434 | | 弥生土器 | 甗 | 後期後半か | 頸部径 14.0(1/4 弱) | 外:タタキ(3 条/cm)、スス 付着 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 435 | | 弥生土器 | 甗底部 | 後期後半か | 底径 4.2 ~ 4.4(2/3) | 外:タタキ(3 条/cm)、スス 付着 内:ナデ | 10YR4/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 232 | 436 | | 弥生土器 | 甗底部 | 庄内式期か | 底径 4.0 ~ 4.2(完) | 凹み底 外:タタキ(4 条/cm) 内:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 232 | 437 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 24.0(3/8) | 外:縦ヘラミガキ、二次焼成 を受け赤色化 内:ヘラミガ キ、ハケ後ヘラミガキ?、ス ス付着 | 2.5YR5/6 明赤褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 232 | 438 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 17.2(1/4) | 外:二次焼成を受ける 内:ヘラミガキ | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 439 | 159 | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 21.3(1/2 強) 脚 裾径 14.8 ~ 15.3(3/4) 器高 18.2 ~ 18.7 | 外:スカシ 4 方向(焼成前に 外から穿孔)、縦ヘラミガキ 内:縦ヘラミガキ、ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 440 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 19.8(1/3) | 外:縦ヘラミガキ 内:縦ヘラミガキ | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 441 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 23.2(1/10) | 外:ハケ 内:ハケ | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 232 | 442 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 22.9(1/5) | 外:口縁部竹管文、縦ヘラ ミガキ 内:口縁部突出 | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 232 | 443 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 庄内式期か | 脚裾径 13.9(1/7) | 外:スカシ 3 方向(焼成前に 内外両方から穿孔)、工具痕、 ハケ後一部ヘラミガキ 内:ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 233 | 444 | | 弥生土器 | 小型鉢 | 後期後半か | 底径 2.6(1/2) | 外:ハケ?、ナデ 内:ハケ | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 233 | 445 | | 弥生土器 | 台付鉢? | 庄内式期か | 口径 8.3(一部欠) | 外:指押さえナデ後ヘラミガ キ 内:ヘラミガキ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 233 | 446 | | 弥生土器 | 鉢? | 庄内式期か | 小片 | 外:ヘラミガキ 内:ヘラミ ガキ、赤色顔料塗布 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 233 | 447 | | 弥生土器 | 小型丸底 鉢 | 庄内式期か | 口径 9.6(1/4 強) | 外:ハケ 内:ハケ、ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 233 | 448 | | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期 | 口径 8.9(完) | 外:指押さえナデ 内:板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (15)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|---------|-----------|--|---|-------------------|----------|------|----------------------|
| 233 | 449 | | 弥生土器 | 器台 | 中期末 | 脚径 16.2(1/5) | 外：凹線文(6条+a・3条)、スカシ推定4方向2段(焼成前に外から穿孔) | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 233 | 450 | | 弥生土器 | 小型器台 | 庄内式期 | 口径 9.5(3/4) | 外：スカシ3方向、ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ 内：ヘラミガキ、ナデ、工具痕 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 233 | 451 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 11.6(3/4) | 外：刻目凸帯、ハケ、ハケ後縦ヘラミガキ 内：ヘラミガキ、指押さえ、ナデ、ハケ(粗・細) | 2.5Y7/4 浅黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 233 | 452 | 159 | 弥生土器 | 細頸壺 | 庄内式期 | 口径 8.3(一部欠) 底径 1.3(完) 器高 26.0 | 外：口縁欠け故意か不明、ハケ後ヘラミガキ、ヘラミガキ 内：指押さえ後一部ハケ、ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 233 | 453 | | 弥生土器 | 細頸壺 | 後期後半 | 口径 8.6(一部欠) | 外：縦ヘラミガキ 内：指押さえ、ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 233 | 454 | | 弥生土器 | 長頸壺? | 後期後半 | 底径 3.0(完) | 外：ハケ後ヘラミガキ? 内：指押さえ、ハケ、ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 233 | 455 | 159 | 弥生土器 | 壺? | 後期後半か | 口径 12.7(1/12) 底径 3.8(3/4) 器高 15.5 | 外：ヘラミガキ、ナデ、点状の凹み、指ナデ、スス付着 内：指押さえナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 233 | 456 | | 弥生土器 | 直口壺 | 庄内式期か | 口径 12.4(完) | 外：波状文(5条)2帯 内：波状文 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 233 | 457 | | 土師器 | 短頸壺 | 庄内式期～布留式期 | 口径 10.1(1/9 弱) | 内：ヘラケズリ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 233 | 458 | | 弥生土器 | 二重口縁壺 | 庄内式期か | 口径 22.0(1/8 弱) | 外：波状文(7条) 内：ハケ?、工具痕、スス付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 233 | 459 | | 弥生土器 | 受口状口縁壺 | 後期後半 | 口径 17.6(1/8) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 233 | 460 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期前半 | 口径 19.0(1/6 弱) | | 7.5YR7/4 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 233 | 461 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚裾径 9.5(1/4) | 中実 外：スカシ推定3方向(焼成前に外から穿孔)、ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 233 | 462 | | 弥生土器 | 有孔鉢 | 後期後半 | 底径 3.5～3.7(完) | 凹み底 焼成前に内から穿孔 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 233 | 463 | 159 | 弥生土器 | 器台 | 後期後半 | 口径 22.4(5/6) 脚裾径 17.0(1/7) 器高 17.0 | 外：口縁端部凹線文(3条) 上円形竹管(二重)浮文、スカシ5方向2段(焼成前に外から穿孔)、縦ヘラミガキ、脚端部凹線文1条 内：ヘラミガキ、しぼり目、ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 233 | 464 | | 弥生土器 | 鼓形器台? | 庄内式期後半 | 頸部径 9.0(1/5) | 内：ナデ、ヘラケズリ? | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 233 | 465 | | 弥生土器 | ミニチュア土器 | 後期後半 | 頸部径：7.1(完) | 外：タタキ、指押さえ 内：ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 233 | 466 | 159 | 弥生土器 | ミニチュア土器 | 後期後半か | 口径 6.5(5/12) 底径 5.2(完) 器高 6.5 | 外：指押さえ後タタキ? 内：工具ナデ? | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 236 | 467 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 17.0(ほぼ完) | 外：ハケ 内：ハケ、指押さえナデ、スス付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 468 | | 弥生土器 | 壺か器台 | 後期後半か | 小片 | 外：口縁端部波状文(6条) 内：波状文(8条)、赤色顔料塗布 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 469 | 160 | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 口径 21.6～21.9(4/5) | 外：口縁端部直線文(5条) 上円形竹管浮文、頸部直線文(5条)、刻目凸帯上下刺突文、ハケ後ヘラミガキ 内：ヘラミガキ、ハケ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 470 | | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 16.4(1/2) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 471 | 159・160 | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期 | 口径 14.5(3/4) 底径 3.8～4.2(完) 器高 26.8 | 外：ヘラミガキ、板ナデ?、工具痕、ヘラケズリ?、スス付着 内：ヘラミガキ、指押さえナデ、ハケ、板ナデ、工具痕 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 472 | 159・160 | 弥生土器 | 二重口縁壺 | 庄内式期か | 口径 10.8(1/3) 底径 1.3(完) 器高 15.9 | 外：口縁端部刻目、波状文(6条) 上円形竹管浮文2個1対、稜部刻目、ヘラミガキ、焼成後外から穿孔1 内：ヘラミガキ、指押さえ、ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 473 | | 弥生土器 | 二重口縁壺 | 庄内式期 | 口径 19.0(1/4) | 外：口縁端部推定12箇所刻目、波状文(4条)、ハケ 内：ヘラミガキ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 474 | | 弥生土器 | 二重口縁壺 | 後期後半 | 稜径 17.2(1/3) | 外：稜部刻目、ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 475 | 160 | 弥生土器 | 二重口縁壺 | 庄内式期 | 口径 16.7(1/5) | 他地域か 外：口縁部波状文(5条)、指押さえ 内：ヘラミガキ?、指押さえ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (16)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|-------------|------|-----------|-------------|---|--|------------------|----------|------|----------------|
| 236 | 476 | 160 | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半か | 口径 39.8(1/7) | 図上復元 外：口縁端部円形 竹管浮文、直線文(6条)、波 状文(5~6条)、円形竹管浮 文3個1対、稜部刻目、直線 文(4条+α) 内：波状文(3 条)2帯、直線文(5条)、波 状文(6条)、屈折部刻目、ヘ ラミガキ、ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 477 | | 弥生土器 | 複合口縁 壺 | 庄内式期 | 頸部径 25.4(1/7) | 四国系か 外：凸帯上下刺突 文、ナデ 内：ヘラミガキ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 478 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期後半 | 底径 4.0(完) | 外：タタキ後横・縦ヘラミガ キ 内：ハケ、コゲ付着 | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 479 | | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 底径 4.7(完) | 外：ハケ、ヘラミガキ、スス 付着 内：ハケ、ハケ後ヘラ ミガキ、コゲ付着 | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 480 | | 弥生土器 | 壺底部 | 庄内式期か | 底径 4.9(完) | 外：タタキ(2条/cm)後ヘラ ミガキ 内：ヘラ痕、工具ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 481 | | 弥生土器 | 壺底部 | 庄内式期か | 底径 4.4(1/3) | 外：ナデ後ヘラミガキ、タタ キ?、スス付着 内：ヘラナデ、ハケ | 2.5Y4/2 暗灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 482 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期後半か | 底径 3.4(1/4強) | 外：ヘラミガキ?、赤色顔料 塗布 内：ナデ? | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 483 | 159・ 160 | 弥生土器 | 細頸壺 | 庄内式期 | 頸部径 5.0(完) 底径 2.0(完) | 凹み底 外：ヘラミガキ、穿 孔? 1 内：指押さえナデ、 ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 484 | 160 | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 19.6~19.8 (端部 2/3) | 東阿波型か(片岩含む) 外：口縁端部凹線文3条、ハ ケ 内：ハケ? | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 485 | 160 | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 13.6(1/2) | 搬入土器か 外：ハケ、ナデ 内：ハケ(粗・細) | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 236 | 486 | 159・ 160 | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期 | 口径 12.2(1/5) 器高 15.4 | 他地域か 尖底 外：ハケ、 焼成後外から穿孔1(故意か 不明)、スス付着 内：ハケ、指押さえ、工具ナデ、 コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 487 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 14.1(1/7) 底径 4.4(完) 器高 14.4 | 外：タタキ(3条/cm)、スス 付着、底面木の葉痕 内：板ナデ、工具痕 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 488 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 13.9(1/12) | 外：口縁叩き出し、タタキ(2 条/cm)、スス付着 内：板 ナデ、コゲ付着 | N1.5/0 黒 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 489 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 13.0(1/6強) | 外：タタキ(3条/cm)後一部 ハケ、スス付着 内：板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 490 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 16.4(若干のみ) 胴部径 20.2(完) | 外：口縁叩き出し、タタキ(2 条/cm)後一部ハケ、スス付 着 内：ハケ、板ナデ、コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 491 | 159・ 161 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 16.3(2/3) 底径 5.1~5.5(完) 器高 27.8~28.9 | 輪高台 外：タタキ(2条/cm) 後一部ハケ、スス付着 内：ハケ後一部ナデ、コゲ付 着 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 492 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 15.6(3/4) | 外：タタキ(3条/cm)、スス 付着 内：板ナデ、指ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 493 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 18.0(1/4) | 外：口縁叩き出し、タタキ、 スス付着 内：ナデ、工具痕 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 494 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 口径 17.0(1/4強) | 外：タタキ(3条/cm)、スス 付着 内：ハケ、ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 495 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 16.6(1/3) | 外：タタキ(3条/cm)、スス 付着 内：板ナデ、工具痕 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 496 | 159・ 160 | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期 | 口径 14.7(1/10) 底径 1.6(完) 器高 14.0 | 外：口縁叩き出し、タタキ(3 条/cm)、スス付着 内：指 押さえ、板ナデ、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 497 | 159・ 161 | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 口径 13・6(1/7) 底径 3.8(完) 器高 19.0 | 凹み底 外：タタキ(3条 /cm)、底面工具痕? 内：ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 498 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半か | 底径 4.2(完) | 外：タタキ(3条/cm)後一部 ナデ、スス付着 内：ハケ後ナデ、コゲ付着 | 2.5Y5/3 黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 499 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 底径 4.0~4.4(完) | 外：タタキ(2~3条/cm)後 一部ハケ、スス付着 内：板ナデ、コゲ付着 | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 500 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 15.3(5/12) | 外：ハケ、スス付着 内：ハケ、ナデ | 7.5YR6/6 橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 501 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期後半 | 口径 14.1(1/4) | 外：口縁叩き出し、ハケ 内：ハケ、ヘラケズリ | 7.5YR7/2 明褐灰 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 237 | 502 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期後半 か | 口径 14.0(1/4) | 摂津産? 外：ハケ、スス付 着 内：ヘラケズリ、ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (17)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|------|------|-------------|------|-----------|--------------|---|--|------------------|------|------|----------------|
| 237 | 503 | | 土師器 | 甕 | 布留式期? | 口径 15.2(1/2 弱) | 外:ハケ(下にタタキ?) 内:ヘラケズリ、コゲ付着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 504 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 22.0(1/8) | 外:縦ヘラミガキ 内:ヘラミガキ | 2.5YR7/3 淡赤橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 505 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 稜径 15.2(3/8) | 外:稜部沈線 2条、縦ヘラミ ガキ、ヘラミガキ? 内:ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 506 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 15.8(1/9 弱) | 外:口縁端部刻目、波状文(2 条)2帯、ヘラミガキ 内:波状文(2条)2帯、ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 507 | 160 | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 22.4(1/2 強) | 外:口縁端部竹管文、稜部竹 管文、ヘラミガキ 内:波状 文(11条)、ヘラミガキ、放 射状ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 508 | | 弥生土器 | 高杯か鉢 | 後期後半 | 口径 11.1(1/3) | 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ヘラミガキ、ヘラ痕 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 509 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚裾径 15.0(2/3 弱) | 外:スカシ 4方向(焼成前に 外から穿孔)、縦ヘラミガキ、 脚裾端部凹線文 1条 脚内:ハケ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 510 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚裾径 15.4(2/3) | 外:スカシ 3方向(焼成前外 から穿孔)、縦ヘラミガキ 脚内:ナデ? | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 511 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 11.6(若干のみ) 脚基部径 3.0(完) | 外:スカシ、ヘラミガキ(細)、 ヘラミガキ? 内:ヘラミガキ(細)、ハケ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 512 | 159・ 160 | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期か | 口径 18.0(1/6 弱) 脚裾径 13.9(1/5) 器高 13.9 | 他地域系(吉備系?) 外:縦 ヘラミガキ、スカシ 3方向(焼 成前に外から穿孔)、未穿孔 1(外から粘土でふさぐ) 内: ヘラミガキ、ヘラケズリ、指 押さえナデ、ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 513 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半 | 底径 3.1(完) | 外:指押さえナデ後ヘラミガ キ 内:指ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 514 | 159・ 161 | 弥生土器 | 小型鉢 | 庄内式期 | 口径 9.8(1/4) 底径 1.8(完) 器高 6.7 | 凹み底 外:ハケ、二次的焼 成による赤色化? 内:指ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 515 | | 弥生土器 | 小型鉢 | 庄内式期か | 底径 3.3(3/4) | 外:ヘラケズリ後一部ヘラミ ガキ 内:ヘラケズリ後ナデ、 指押さえ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 516 | 159 | 弥生土器 | 鉢か 甕底部 | 庄内式期か | 口径 10.0(3/4) 底径 3.5(完) 器高 3.2 | 外:口縁端部刻目(上方に接 合するためのものか)、ナデ 内:ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 517 | 159 | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 輪高台 口径 12.4(1/2) 底径 4.5(2/3) 器高 6.4 | 外:指押さえナデ 内:ハケ、コゲ付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 518 | 159・ 161 | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 口径 13.7(5/12) 底径 4.8(完) 器高 6.4 | 外:ナデ 内:板ナデ、ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 519 | | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 口径 15.4(1/3) | 吉備系か 外:ヘラケズリ?、 スス付着 内:工具ナデ | 10YR6/1 褐灰 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 520 | 159・ 161 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 庄内式期 | 口径 10.6(2/3) 器高 9.6 | 焼成前に外から穿孔 外:タ タキ(3条/cm) 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 521 | | 弥生土器 | 小型器台 | 庄内式期 | 口径 8.9(若干のみ) 脚裾径 9.5(1/12) 器高 8.0 | 外:口縁端部凹線文 2条、ス カシ 1残、縦・斜めヘラミガ キ 内:ヘラミガキ、ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 522 | 159・ 161 | 土師器 | 小型器台 | 庄内式~布留 式期 | 口径 11.0(1/2 強) 脚裾径 11.2~11.7 (2/3 弱) 器高 10.1 | 外:スカシ 3方向(焼成前外 から穿孔)、縦・横ヘラミガキ、 スス付着 内:縦ヘラミガキ、 ナデ、板ナデ、スス付着 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 523 | | 弥生土器 | 製塩土器 脚 | 庄内式期か | 底径 4.2~4.5(1/2) | 内外面:指押さえナデ、二次 焼成で赤色化 | 5YR6/3 にぶい橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 238 | 524 | 190 | 木製品 | 鋤状 | | 長 34.9 幅 11.0 厚 2.3 | アカガシ垂属 身部に段をもつ | | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 241 | 525 | 161 | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期 | 口径 11.4(完) 底径 6.0(完) 器高 28.1 | 外:ハケ、タタキ(2条/cm) 後一部ハケ・ナデ 内底:指押さえ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 5-1 | 5017 土器 |
| 241 | 526 | 186 | 石製品 | 石鏃 | | 長 2.5 幅 1.5 厚 0.3 重さ 0.8g | サヌカイト 凹基式 | | 12-1 | 6-2 | 第3層 |
| 241 | 527 | | 弥生土器 | 壺 | 後期前半か | 口径 14.0(1/5) | | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 241 | 528 | | 弥生土器 | 壺 | 後期前半か | 口径 14.0(1/4) | 外:口縁端部円形竹管浮文 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 241 | 529 | | 弥生土器 | 壺肩部 | 庄内式期か | 頸部径 11.0(完) | 外:波状文(5条?)2帯?、タ タキ 内:ナデ?、ヘラケズリ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 241 | 530 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺 | 後期後半 | 口径 20.7(1/9) | 外:稜部円形竹管浮文 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (18)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|--------------|-------------|---|---|------------------|----------|------|----------------|
| 241 | 531 | | 弥生土器 | 壺底部 | 後期 | 底径 4.9(完) | | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 241 | 532 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 17.5(1/3) | | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 241 | 533 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 2.5(完) | 外:タタキ(2条/cm) 内:ハケ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 241 | 534 | | 弥生土器 | 高杯? | 庄内式期か | 口径 22.0(1/10) | 外:口縁端部凹線文2条 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 7 | 7056 溝 |
| 241 | 535 | | 弥生土器 | 小型丸底 壺 | 庄内式期 | 小片 | 内:ハケ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 241 | 536 | | 弥生土器 | 器台? | 中期末 | 脚裾径 11.4(1/4弱) | 外:スカシ推定4方向、凹線 文5条 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 241 | 537 | | 弥生土器 | 壺? | 庄内式期か | 口径 14.6(1/2強) | | 2.5Y7/4 浅黄 | 11-1 | 3-4 | 第4層 |
| 241 | 538 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半 | 脚基部径 4.4(完) | 内:しぼり目 | 2.5Y8/3 淡黄 | 11-1 | 3-4 | 第4層 |
| 241 | 539 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 13.4(1/6弱) | | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 3-9 | 第4層 |
| 241 | 540 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚基部径 3.8(完) | | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 3-9 | 第4層 |
| 241 | 541 | | 弥生土器 | 甕底部 | 庄内式期か | 底径 4.0(1/2弱) | 凹み底 外:タタキ(3条/cm)、 二次焼成による赤色化 | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 4155 ビット |
| 241 | 542 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半か | 脚裾径 10.7(1/2) | 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ?、工具ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 第4-2層 |
| 241 | 543 | | 弥生土器 | 小型器台 か高杯脚 | 庄内式期か | 脚基部径 3.9(完) | 外:スカシ5方向?、タタキ 後ナデ 内:ナデ、工具痕 | 10YR5/2 灰黄褐 | 12-1 | 4-2 | 第4-2層 |
| 241 | 544 | | 弥生土器 | 器台 | 後期後半か | 口径 27.6(1/4) | 外:口縁端部羽状文上円形竹 管浮文4個1対推定10対 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 第4-2層 |
| 241 | 545 | 186 | 石製品 | 大型蛤刃 石斧? | | 長 7.4 幅 7.4 厚 4.6 | 砂岩 | | 12-1 | 4-2 | 第4-2層 |
| 241 | 546 | 188 | 石製品 | 砥石 | | 長 9.1 幅 2.2 厚 2.4 | 泥岩 砥面4 | | 12-1 | 4-2 | 第4-2層 |
| 241 | 547 | | 弥生土器 | 二重口縁 壺? | 庄内式期 | 小片 | 外:口縁部ヘラ描鋸歯文、稜 部刻目、ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 4-1 | 第3層 |
| 241 | 548 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 稜径 11.0(1/4) | | 2.5YR6/6 橙 | 11-1 | 4-1 | 4063 土坑 |
| 241 | 549 | | 弥生土器 | 高杯脚 | 後期後半か | 脚裾径 13.1(1/6弱) | 外:スカシ1残 | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 4-1 | 4025 土坑 |
| 241 | 550 | 186 | 石製品 | 石鏃 | 弥生 | 長 4.3 幅 1.3 厚 0.6 重さ 2.5g | 有茎式 サヌカイト | | 11-1 | 4-1 | 第3層 |
| 242 | 551 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半か | 頸部径 5.5(完) 底径 3.6(端部欠) | 外:ヘラミガキ?、ヘラケズリ? 内:指押さえ、しぼり目 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5927 溝 |
| 242 | 552 | | 弥生土器 | 甕底部 | 後期後半か | 底径 3.7(完) | 外:タタキ(4条/cm) 内:指ナデ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5926 溝 |
| 242 | 553 | | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 14.8(1/3) | 外:ヘラミガキ 内:指押さえ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 554 | | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 17.6(1/4) | | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 555 | | 弥生土器 | 壺 | 後期後半 | 口径 18.6(1/2弱) | 外:口縁端部凹線文6条上円 形浮文2個1対(推定5~6 対)、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 側溝掘削中 |
| 242 | 556 | 161 | 弥生土器 | 壺 | 庄内式期か | 口径 14.7(7/12) 底径 4.0~4.3(完) 器高 24.8 | 凹み底 外:タタキ後ヘラミガキ 内:ハケ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 557 | | 弥生土器 | 小型台付 壺 | 後期後半 | 口径 6.5(1/12) | 外:口縁部凹線文?1条、ナ デ後一部ヘラミガキ 内:ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 558 | | 弥生土器 | 甕 | 庄内式期か | 口径 23.6(1/4) | 外:タタキ? 内:ヘラナデ? | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 559 | | 弥生土器 | 甕 | 後期後半 | 底径 4.1(完) | 外:タタキ(3条/cm) 内:板ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5614 井戸 |
| 242 | 560 | | 弥生土器 | 受口状 口縁甕 | 後期後半 | 小片 | 近江系か 外:口縁端部列点文 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 561 | | 弥生土器 | 高杯 | 後期後半 | 口径 21.8(1/9) | 外:粘土付着、ハケかナデ 内:粘土付着、ヘラミガキ、 ハケ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5614 井戸 |
| 242 | 562 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 口径 21.2(1/9) | 外:ヘラミガキ 内:ヘラミ ガキ、ハケ後ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 563 | | 弥生土器 | 高杯 | 庄内式期 | 稜径 10.0(1/4) | | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 564 | | 弥生土器 | 鉢 | 後期後半か | 口径 30.0(1/9) | 外:ハケ 内:ナデ?、一部炭化 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5368 井戸 |
| 242 | 565 | | 弥生土器 | 鉢 | 庄内式期か | 口径 11.8(3/8) 底径 3.4(完) 器高 7.8 | 外:タタキ(2~3条/cm) | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 242 | 566 | | 弥生土器 | 脚 | 後期か | 脚裾径 10.0(完) | 外:スカシ4方向(焼成前に 外から穿孔)、ヘラミガキ? 内:一部指押さえナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5468 ビット |
| 242 | 567 | 186 | 石製品 | 大型蛤刃 石斧 | 弥生 | 長 7.1 幅 7.0 厚 4.9 | 砂岩 磨ききれず敲打痕が残る | | 11-1 | 5-2 | 5614 井戸 |
| 247 | 568 | | 土師器 | 甕 | 布留式期前半 か | 口径 15.6(1/6) | 外:横ハケ 内:ヘラケズリ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 3-7 | 3147 井戸 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (19)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|-----|-----------------|-----------------------------------|--|-----------------|----------|------|----------------|
| 247 | 569 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃 | 口径 14.8(5/12) 器高 4.4 | 外：下を凹ませることによる わずかな稜、回転ヘラケズリ (砂←) 内：口縁端部段、ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 247 | 570 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 13.8(若干のみ) 器高 3.0 | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | 10Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 247 | 571 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 12.5(若干のみ) 器高 4.1 | 外：回転ヘラケズリ(砂←) 内：ナデ | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 247 | 572 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀か | 現高 21.5 | 外：カキメ(一部下にタタキ) 内：一部指押さえナデ | N3/0 暗灰 | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 247 | 573 | | 須恵器 | すり鉢 | 6世紀末～ 7世紀初めか | 口径 13.8(1/4) | 外：カキメ 内：口縁端部面 | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 247 | 574 | 162 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 口径 19.7(完) 器高 42.3 | 外：タタキ後ハケ(底部近く はタタキのまま) 内：同心円文状当て具痕 | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 247 | 575 | 162 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 口径 22.3(完) 器高 48.7 | 外：タタキ後ハケ(底部近く はタタキのまま) 内：同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 247 | 576 | 190 | 木製品 | 杭 | | 長 17.3 幅 6.0 厚 6.0 | コナラ垂属 先端 3面カット | | 11-1 | 7 | 7061 井戸 |
| 248 | 577 | 162 | 土師器 | 直口壺 | 布留式期か | 口径 13.6(1/3) 器高 20.3 | 外：ヘラケズリ後ナデ 内： ナデ、工具痕、指押さえナデ | 2.5Y4/1 黄灰 | 11-1 | 5-2 | 5616 井戸 |
| 248 | 578 | | 土師器 | 壺 | 布留式期後半 | 口径 14.8(1/5) | 外：指押さえ、ヘラミガキ、 スス付着 内：指押さえナデ、 ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5616 井戸 |
| 248 | 579 | | 土師器 | 直口壺 | 布留式期 | 胴部径 15.0(1/2 弱) | 外：ハケ 内：ヘラケズリ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5616 井戸 |
| 248 | 580 | 162 | 土師器 | 甕 | 布留式期後半 | 口径 14.9(完) 器高 20.7 | 外：焼成後外からの穿孔 3、 ヘラケズリ後ナデ、スス付着 内：ナデ、コゲ付着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-2 | 5616 井戸 |
| 250 | 581 | | 土師器 | 甕 | 6世紀か | 口径 13.9(若干のみ) 頸部径 12.0(1/4) | 外：ハケ、スス付着 内：ハケ、タタキ? | 5YR5/3 にぶい赤褐 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 582 | | 土師器 | 甕 | 6世紀か | 口径 13.8(1/10) | | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 583 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃 | 口径 15.3(1/4) 器高 4.8 | 外：稜、回転ヘラケズリ(砂→) 内：口縁端部段 | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 584 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 15.0(1/5) 器高 4.9 | 外：わずかな稜、回転ヘラケ ズリ(砂→)、へこみあり 内：口縁端部段 | 5B5/1 青灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 585 | 162 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃 | 口径 15.0～16.0 (1/2 強) 器高 4.4 | ゆがみ 外：わずかな稜、回 転ヘラケズリ(砂→) 内： 口縁端部段、ナデ、当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 586 | 162 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 14.4～14.7(3/4) 器高 4.3 | ゆがみ 外：回転ヘラケズリ (砂→)、杯身が溶着、自然 釉付着 内：口縁端部わずか な段、ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 587 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.2(1/2 弱) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 588 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.6(1/2 弱) 器高 4.1 | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 589 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 15.0～(1/3) | ゆがみ 外：回転ヘラケズリ (砂→) 内：ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 590 | 162 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.8(3/4) 器高 4.6 | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 591 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.8～(1/3) | ゆがみ 外：回転ヘラケズリ (砂→) 内：ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 592 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.5(1/2 弱) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 593 | 162 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 11.3～11.8(4/5) 器高 3.9 | ゆがみ 外：回転ヘラケズリ (砂→) 内：口縁端部面を持つ、ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 594 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 12.9(1/3) 器高 4.0 | 外：回転ヘラケズリ(砂←) 内：口縁端部面を持つ、ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 595 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 13.0～14.0(1/3) 器高 4.9 | ゆがみ 外：回転ヘラケズリ (砂←) 内：口縁端部段、ナ デ、火ぶくれ | 5P7/1 明紫灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 596 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 13.8(3/8) 器高 5.2 | 外：回転ヘラケズリ(砂←) 内：ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 597 | 162 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 12.5～14.3 (一部欠) 器高 4.9 | ゆがみ 外：回転ヘラケズリ (砂←) 内：ナデ、火ぶくれ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 598 | 162 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 13.5(一部欠) 器高 4.1 | 外：回転ヘラケズリ(砂←) 内：ナデ、当て具痕 | N3/0 暗灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 599 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.1(1/4 弱) | ゆがみ 外：受部に蓋が一部 溶着、自然釉厚く付着 | 10YR6/1 褐灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 600 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.4～12.8(1/2) 器高 3.6 | ゆがみ 外：回転ヘラケズリ (砂←) 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (20)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|-------|-------------|----------------------------------|---|---------------|----------|------|----------------|
| 250 | 601 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径12.0~13.9(1/2弱) 器高4.3 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 602 | 162 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径13.3~13.8(2/3) 器高4.7 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 603 | 163 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径13.6(1/2強) 器高4.0 | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、ヘラ記号「-」 内:ナデ | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 604 | 163 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径14.0(1/4) | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、ヘラ記号「j」 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 605 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀前半か | 稜径14.5(1/11) つまみ径2.8(完) | 外:稜、回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | 10YR7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 606 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀か | つまみ径3.1(完) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 607 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径13.8(ほぼ完) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 608 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀中頃か | 口径8.7~12.5 (一部欠) | ゆがみ 外:凸線2条間別点文(6条?)、スカシ推定2方向、自然釉付着 内:ナデ、自然釉付着 | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 609 | 162 | 須恵器 | 高杯 | 6世紀末~7世紀初めか | 口径12.8(2/3) 脚裾径15.0(若干のみ) 器高17.1 | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、スカシ2段2方向、凹線2条 内:ナデ、しぼり目、杯と脚が接合しやすいように線刻あり | 5YR6/3 にぶい橙 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 610 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀中頃か | 脚裾径13.8(1/2強) | ゆがみ 外:スカシ3方向、凸線1、自然釉付着 内:脚端部面を持つ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 250 | 611 | 162 | 須恵器 | 大型高杯 | 6世紀 | 口径25.0~26.0(3/8) | ゆがみ 外:カキメ、回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 612 | 162 | 須恵器 | 甕 | 6世紀末~7世紀初めか | 口径14.0(1/4弱) 器高16.9 | 外:口縁部稜段、頸部ねじったような痕跡、穿孔1、回転ヘラケズリ(砂←) 内:頸部ねじったような痕跡 | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 613 | | 須恵器 | 甕か | 5世紀後半か | 口径15くらい(1/4強) | ゆがみ 外:口縁部波状文(29条?)、凹線1、口縁部が割れ反り返る 内:自然釉付着、付着物 | 5Y5/1 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 614 | | 須恵器 | 提瓶? | 6世紀後半か | 口径8.3(完) | 内外面自然釉付着 | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 615 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀中頃か | 口径10.8(1/3) | | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 616 | | 須恵器 | すり鉢 | 6世紀末~7世紀初めか | 口径13.6(1/3) | 内外面自然釉付着 内:口縁部面を持つ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 617 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀 | 口径17.6(1/4) | 外:口縁部凹線1、タタキ後カキメ 内:同心円文状当て具痕 焼成不良 | 7.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 618 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径17.6(3/8) | 外:タタキ後カキメ 内:同心円文状当て具痕 | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 619 | 163 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径21.7(完) 器高43.5 | 外:タタキ(3条/cm)後カキメ、タタキ後ナデ 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 620 | 186 | 石製品 | 砥石? | ? | 長2.7 幅3.1 厚1.3 | 砂岩? 貫通した孔と凹んだ穴多数 | | 11-1 | 7 | 7046 土坑 |
| 251 | 621 | | 土師器 | 高杯脚 | 6世紀 | 脚裾径11.9(1/4) | ゆがみ 外:ヘラナデ、指押さえナデ 内:ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 251 | 622 | | 土師器 | 高杯?脚 | 6世紀か | 脚基部径3.7(完) | | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 251 | 623 | | 土師器 | 高杯脚 | 6世紀末~7世紀初め | 脚裾径10.0~10.5(完) | 内:しぼり目、指押さえ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 251 | 624 | 163 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半 | 口径13.4(1/2) 器高4.0 | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ、当て具痕 | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 251 | 625 | 163 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径13.6(1/2弱) 器高4.0 | 外:回転ヘラケズリ(砂←) | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 251 | 626 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀後半か | 口径14.9(1/5) | 外:カキメ 内:ナデ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 251 | 627 | 163 | 須恵器 | 大型高杯 | 6世紀 | 口径25.4(1/4) | 外:カキメ、回転ヘラケズリ(砂←) | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 251 | 628 | 163 | 須恵器 | 壺 | 6世紀か | 口径12.7(1/3) 器高16.6 | 外:カキメ、回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 10YR7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7057 土坑 |
| 254 | 629 | | 土師器 | 甕(把手) | 5世紀か | 小片 | 切り込み未貫通 | 10YR7/6 明黄褐 | 11-1 | 3-7 | 3158 土坑 |
| 254 | 630 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期前半か | 口径16.0(1/8弱) | 外:ハケ? 内:ヘラケズリ631と同一片か | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 11-1 | 4-1 | 4025 土坑 |
| 254 | 631 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期前半か | 口径16.5(1/8) | 外:ハケ? 内:ヘラケズリ630と同一片か | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 4-1 | 4025 土坑 |
| 254 | 632 | 163 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径14.3(3/4) 器高3.5 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ(砂→)、溶着、自然釉付着 内:ナデ | 7.5Y5/1 灰 | 11-1 | 5-3 | 5884 土坑 |
| 254 | 633 | 163 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径13.4(完) 器高3.5 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ、溶着、自然釉付着 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-3 | 5884 土坑 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (21)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|---------|-------------|--|---|------------------|----------|------|----------------|
| 254 | 634 | | 須恵器 | 高杯脚 | 5世紀中頃か | 脚裾径 12.4(1/8) | 外:スカシ3方向、凸線1 | N6/0 灰 | 11-1 | 5-3 | 5884 土坑 |
| 254 | 635 | 189 | 石製品 | 石杵? | ? | 長 13.1 幅 4.4 厚 3.0 | 砂岩 全体に磨耗しているが自然の段や凹みが残る 下端面が一番磨耗 | | 11-1 | 5-3 | 5884 土坑 |
| 254 | 636 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期前半か | 口径 14.0(一部欠) | 外:縦ハケ後横ハケ、スス付着 内:ヘラケズリ、コゲ付着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5938 土坑 |
| 254 | 637 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期前半 | 口径 15.6(1/3) | | 5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-3 | 5938 土坑 |
| 254 | 638 | | 土師器 | ミニチュア土器 | | 口径 6.8(1/7) 底径 4.0(完) 器高 6.6 | 外:指押さえナデ 内:指押さえナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-3 | 5938 土坑 |
| 254 | 639 | | 須恵器 | 杯 | 5世紀後半 | 口径 10.8(1/3) 器高 4.4 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、ヘラ記「ヤ」 | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5547 土坑 |
| 254 | 640 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀前半 | 口径 11.0(1/4 弱) | | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5547 土坑 |
| 254 | 641 | | 須恵器 | 高杯脚 | 5世紀後半か | 脚裾径 8.8(1/2 強) | 外:スカシ3方向 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5547 土坑 |
| 254 | 642 | | 土師器 | 高杯 | 5世紀か | 口径 14.0~14.4(1/2) | | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 5681 土坑 |
| 254 | 643 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃 | 口径 12.8(1/7) | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、ヘラ記号「一」 内:口縁端部段、ナデ | 7.5YR5/1 褐灰 | 11-1 | 7 | 7074 ピット |
| 254 | 644 | 162 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀後半か | 底部内径 3.0(1/4 強) | 積山分類 F2b 式 外:タタキ 内:指押さえナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5785 ピット |
| 254 | 645 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀前半か | 口径 12.4(1/4 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-3 | 5785 ピット |
| 254 | 646 | 163 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀後半か | 胴部径 3.4(1/5 弱) | 積山分類 F2b 式 外:タタキ 内:しぼり目 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5794 ピット |
| 254 | 647 | 163 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀後半か | 小片 | 積山分類 F2b 式 外:タタキ 内:ナデ 生駒西麓産 | 7.5YR5/3 にぶい褐 | 11-1 | 5-3 | 5794 ピット |
| 254 | 648 | 163 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀後半か | 小片 | 積山分類 F2b 式 外:タタキ 内:ナデ 生駒西麓産 | 7.5YR4/3 褐 | 11-1 | 5-3 | 5794 ピット |
| 256 | 649 | 163 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 13.5(1/2 弱) 器高 4.0 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7047 溝 |
| 256 | 650 | 163 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 13.0(1/2) 器高 4.2 | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 7 | 7047 溝 |
| 256 | 651 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.6(若干のみ) 受部径 15.8(1/10) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7047 溝 |
| 256 | 652 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀後半か | 脚裾径 15.0(1/2 強) | 外:スカシ3方向 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7047 溝 |
| 256 | 653 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.8(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7056 溝 |
| 256 | 654 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 14.8(1/5) | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7056 溝 |
| 256 | 655 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 16.2(1/13) 受部径 19.0(1/5 弱) | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ(砂←) | 5P6/1 紫灰 | 11-1 | 7 | 7056 溝 |
| 256 | 656 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀後半か | 脚裾径 12.5(1/8) | ゆがみ 外:沈線2、スカシ2段2方向(推) | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7056 溝 |
| 256 | 657 | 163 | 須恵器 | 高杯 | 7世紀か | 口径 9.8~10.3(完) 脚裾径 7.4(3/4) 器高 6.6 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7056 溝 |
| 256 | 658 | | 土師器 | 二重口縁壺? | 布留式期? | 小片 | 内:スス付着 | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 659 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期中頃か | 小片 | | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 660 | 163 | 土師器 | 小型丸底壺 | 布留式期後半 | 口径 7.0(11/12) 器高 7.9 | 外:ハケ、スス付着 内:指押さえナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 661 | | 土師器 | 小型丸底壺か鉢 | 布留式期後半か | 底径 3.5(完) | 外:指押さえナデ、スス付着 内:指押さえナデ、コゲ付着 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 662 | | 土師器 | 小型丸底壺か鉢 | 布留式期後半か | 底径 2.7(一部欠) | 外:指押さえナデ 内:指ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 663 | | 土師器 | 高杯脚 | 布留式期後半か | 脚基部径 3.0(完) | 脚内:ヘラケズリ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 664 | | 土師器 | 高杯脚 | 布留式期後半か | 脚基部径 2.0(完) | 外:ナデ 内:ヘラケズリ | 2.5Y6/1 灰黄 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 665 | | 土師器 | 高杯 | 布留式期後半~5世紀か | 脚基部径 2.4(完) | 内:棒状刺突痕 | 2.5Y5/1 灰黄 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 666 | | 土師器 | 高杯脚 | 布留式期後半~5世紀か | 脚基部径 4.2(完) | 内:しぼり目 | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 7 | 7097 溝 |
| 256 | 667 | 163 | 土師器 | 二重口縁壺 | 布留式期? | 口縁下端部径 14.0(1/6) | 内外面赤色顔料塗布 外:竹管文2個1対、ヘラミガキ 内:ヘラミガキ | 2.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-3 | 5926 溝 |
| 256 | 668 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期前半 | 口径 15.2(1/6 弱) | 外:ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5926 溝 |
| 256 | 669 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期前半 | 頸部径 12.0(1/7) | 外:ハケ 内:ヘラケズリ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5927 溝 |
| 256 | 670 | | 土師器 | 小型器台 | 布留式期か | 口径 7.9(1/12) | 外:ヘラミガキ? | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 5-3 | 5927 溝 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (22)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|--------------|-----------------|--|--|------------------|----------|------|----------------------|
| 256 | 671 | 169 | 須恵器 | 甕 | 5世紀前半 | 小片 | 外:格子タタキの上ヘラ記号? 内:同心円文状当て具痕をナ デ消す | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 4161 落込み |
| 259 | 672 | | 土師器 | 布留式甕 | 布留式期前半 | 小片 | 内:ヘラケズリ | 10YR5/3 にぶい黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 259 | 673 | | 土師器 | 小型丸底 壺 | 布留式期 | 頸部径 7.7(1/8) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 674 | 164 | 土師器 | 小型丸底 壺 | 5世紀初めか | 口径 6.4(若干のみ) 胴部径 8.5(一部欠) 器高 7.1 | 内:指押さえナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 259 | 675 | | 土師器 | 杯? | 6世紀か | 口径 8.8(1/2 弱) | 須恵器調整の真似? 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 676 | 164 | 土師器 | 椀 | 6世紀 | 口径 15.0(2/3) 器高 5.4 | 外:ハケ、指押さえ 内:ヘラ痕(暗文の名残か) | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 259 | 677 | 164 | 土師器 | 杯C | 7世紀前半か | 口径 17.5~17.8(5/6) 器高 8.1 | 外:ヘラミガキ、ヘラケズリ、 スス付着 内:横ヘラミガキ、 放射状暗文、スス付着 | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 259 | 678 | 164 | 土師器 | 杯C | 7世紀 第3四半期 | 口径 16.0(2/3 強) 器高 5.4 | 外:ヘラミガキ、ヘラケズリ 内:連結輪状暗文、放射状暗 文 | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 259 | 679 | | 土師器 | 杯C | 7世紀後半か | 口径 15.0(1/4) | 外:指押さえ後ヘラケズリ? 内:ナデ後放射状暗文 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 680 | | 土師器 | 杯A | 7世紀末~ 8世紀初め | 口径 18.0(1/5 弱) | 外:ヘラミガキ 内:連結輪 状暗文?、2段の暗文 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 259 | 681 | | 土師器 | 高杯 | 5世紀前半か | 口径 14.2(1/4 弱) | 外:ハケ、ナデ 内:ハケ、放射状暗文 | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 682 | | 土師器 | 高杯 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 11.9(1/4) | 外:ハケ、ナデ、ヘラ痕 内:板ナデ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 683 | 164 | 土師器 | 直口壺 | 6~7世紀か | 頸部径 6.0(完) | 外:ハケ(粗・細) 内:ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 684 | | 土師器 | 直口壺 | 7世紀前半か | 頸部径 7.0(1/4 強) | 外:ヘラミガキ、ハケ後ヘラ ミガキ 内:しぼり目、指押 さえ、ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 685 | 164 | 土師器 | 韓式系平 底鉢底部 | 5世紀前半か | 底径 6.9(完) | 外:タタキ後一部ヘラケズリ、 底面に製作時の痕跡、スス付 着 内:ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 259 | 686 | 164 | 土師器 | 韓式系平 底鉢底部 | 5世紀か | 底径 8.5~8.9(完) | 外:タタキ、底面指押さえナ デ一部タタキ、スス付着 内:ナデ | 7.5YR5/2 灰褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 259 | 687 | 164 | 土師器 | 韓式系平 底鉢底部 | 5世紀か | 底径 11.2(1/7) | 外:タタキ、底面タタキ 内: 当て具? 痕後ナデ、コゲ付着 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 688 | | 土師器 | 韓式系 平底鉢 | 5世紀前半か | 口径 18.6(若干のみ) 胴部径 17.0(1/6) | 外:タタキ(4条/cm)、スス 付着 内:当て具痕、コゲ付着 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 689 | 164 | 土師器 | 鉢 | 5世紀か | 口径 16.2(1/3) 器高 6.5 | 外:ハケ 内:ハケ、板ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 259 | 690 | 164 | 土師器 | 鉢 | 5世紀か | 口径 13.4~(1/6) 器高 6.1 | 船底状 外:ナデ、板ナデ、 スス付着 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 691 | 164 | 土師器 | 把手付鉢 | 6世紀か | 口径 12.2(1/3) 器高 9.7 | 外:ハケ後ヘラミガキ、底面 ヘラミガキ、スス付着、差込 式把手 内:板ナデ、ヘラミ ガキ、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 259 | 692 | | 土師器 | 把手付鉢 | 7世紀か | 口径 11.2(3/8) | 外:ハケ、スス付着、差込式 把手 内:放射状暗文、スス 付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 693 | | 土師器 | 鉢底部 | 7世紀 第4四半期か | 底径 16.0(1/4 弱) | 外:ヘラケズリ 内:連結輪 状暗文?、放射状暗文 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 259 | 694 | 179 | 土師器 | 台付鉢台 部 | 6世紀後半~ 7世紀前半 | 底径 7.8 (端部欠損多い) | 外:ヘラナデ 内:ハケ? | 2.5Y7/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 259 | 695 | | 土師器 | 小型甕 底部 | 5~6世紀か | 胴部径 12.8(1/12) | 外:ハケ、スス付着 内:指押さえ後ヘラケズリ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 696 | | 土師器 | 小型甕 | 5~6世紀 | 胴部径 13.4(1/4) | 外:ハケ、スス付着 内:指押さえナデ一部ヘラケ ズリ、コゲ付着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 259 | 697 | | 土師器 | 甕 | 6世紀か | 底部近く 10.0(1/4) | 外:ハケ(下に一部タタキ?)、 スス付着 内:ヘラナデ、コゲ付着 | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 259 | 698 | 164 | 土師器 | 小型甕 | 7世紀か | 口径 9.2~9.6(3/4 強) 器高 8.6 | 外:ハケ(粗・細) 内:ハケ、ヘラナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 260 | 699 | 164 | 土師器 | 甕 | 5~6世紀か | 口径 27 くらい(1/4) 器高 22.2 | 外:縦ハケ後横ハケ、タタキ 後粗いハケ、蒸気孔推定 3 内:工具ナデ、ヘラケズリ(蒸 気孔を作るため) | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 700 | | 土師器 | 甕 | 5世紀前半か | 胴部内径 21.0(1/5) | 外:タタキ後ナデ、沈線 1、 把手の切り込み未貫通 内:指押さえナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (23)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|--------------|-----------------|-------------------------------|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 260 | 701 | | 土師器 | 甑 | 6世紀か | 底径 12.0(1/6) | 外:ハケ 内:ヘラケズリ、脚端部ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 260 | 702 | | 土師器 | 甗? | 6世紀か | 底径 15.3(1/2強) | 甗にするには蒸気孔がない 外:ハケ 内:ヘラケズリ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 703 | | 土師器 | 鍋 | 6世紀か | 口径 21.3(若干のみ) | 外:ハケ、ナデ、ヘラナデ、 把手差込式 内:ヘラケズリ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 260 | 704 | | 土師器 | 甗 | 5世紀か | 口径 16.6(1/7) | 外:ナデ?(下にハケかタタキ) 内:ヘラケズリ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 705 | | 土師器 | 甗 | 5世紀か | 口径 22.0(1/6弱) | 外:ハケ 内:工具痕 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 706 | | 土師器 | 甗 | 5~6世紀か | 口径 21.0(1/4) | 外:ハケ 内:ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 707 | | 土師器 | 甗 | 5~6世紀か | 口径 19.8(1/7) | 外:指押さえ後ハケ 内:ハケ、指押さえナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 708 | | 土師器 | 甗 | 5世紀か | 口径 20.0(1/4) | 外:ハケ 内:ハケ | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 260 | 709 | | 土師器 | 甗 | 6世紀か | 口径 19.7(1/4強) | 外:スス付着 内:コゲ付着 | 5YR5/4 にぶい赤褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 260 | 710 | | 土師器 | 甗 | 6世紀か | 口径 22.8(1/6) | 外:ナデ 内:ヘラケズリ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 260 | 711 | 164 | 土師器 | 甗 | 6世紀後半か | 口径 16.6(5/12) 器高 20.0 | 外:ハケ、一部ヘラミガキ? 内:ハケ、ヘラケズリ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 712 | | 土師器 | 甗 | 7世紀か | 口径 13.8(1/4強) | 外:ヘラ痕、ハケ、スス付着 内:ハケ、ヘラ痕?、コゲ付着 | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 260 | 713 | | 土師器 | 甗 | 7世紀前半か | 口径 18.2(1/10) | 外:沈線1、ハケ、ナデ 内:ハケ、ヘラケズリ | 10YR8/3 浅黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 261 | 714 | 164 | 土師器 | 甗 | 6世紀後半か | 口径 20.6~20.8(7/12) 器高 34.5 | 外:指押さえ後ハケ、ハケ後 ヘラミガキ、スス付着 内:ヘラケズリ、コゲ付着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 261 | 715 | | 土師器 | 甗 | 6世紀か | 頸部径 16.0(1/8) | 外:ハケ後ヘラナデ、一部布 目痕?、スス付着 内:板ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 261 | 716 | | 土師器 | 甗 | 5~6世紀 | 底?径 6.5(完) | 外:板ナデ 内:ヘラケズリ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 261 | 717 | | 土師器 | 甗 | 7世紀前半か | 口径 25.9(1/6) | 外:指押さえナデ、ハケ 内:ハケ、718と同一個体か | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 261 | 718 | | 土師器 | 甗 | 7世紀前半か | 口径 25.9(1/4弱) | 外:指押さえナデ、ハケ 内:ハケ、ハケ後ヘラケズリ、 717と同一個体か | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 261 | 719 | | 土師器 | 羽釜 | 6世紀末~ 7世紀前半か | 口径 22.6(1/6) | 外:ハケ、スス付着 内:ハケ、指押さえ後板ナデ、 スス付着 生駒西麓産 | 2.5Y6/1 黄灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 261 | 720 | | 土師器 | 羽釜鏝 | 6~7世紀か | 小片 | 外:スス付着 内:接合面斜格子タタキ | 10Y7/2 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 261 | 721 | | 土師器 | 竈? | ? | 口径 19.6(1/9) | 外:ハケ 内:ハケ後一部ナ デ、スス付着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 261 | 722 | 164 | 土師器 | 竈 | ? | | 焚口 外:ナデ、指押さえ、 スス付着 内:指押さえナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 261 | 723 | 164 | 土師器 | 竈 | ? | | 焚口 外:ナデ、スス付着 内:ナデ、スス付着 | 10YR5/1 褐灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 261 | 724 | | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 覆部? 外:ハケ 内:ナデ、スス付着 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 261 | 725 | | 土師器 | ミニチュア 土器 | 6~7世紀か | 口径: 4.5(1/4) | 外:指押さえナデ 内:ハケ?、ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 261 | 726 | | 土師器 | ミニチュア 土器? | ? | 脚裾径 7.4(1/2) | 外:指押さえナデ、工具痕 内:工具痕? | 2.5Y7/3 浅黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 261 | 727 | 164 | 土師器 | ミニチュア 土器 | 6世紀か | 口径 4.0~4.3(3/4) 器高 2.7 | ゆがみ 外:指押さえナデ 内:指ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 261 | 728 | 164 | 土師器 | ミニチュア 土器 | ? | 口径 4.4(1/2強) 器高 3.9 | 外:指押さえナデ 内:指押さえナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 261 | 729 | 169 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀か | 小片 | 外:指押さえナデ、二次焼成 による発泡? 内:ハケ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 261 | 730 | 179 | 瓦質土器 | ? | ? | 小片 | 外:ヘラケズリ?、ナデ、端 部ヘラケズリ、突出物あり 内:ヘラケズリ、ナデ | N4/0 灰 | 12-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 261 | 731 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 5世紀 | 小片 | 川西編年IV期か 外:B種横ハケ 内:ハケ | 5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 261 | 732 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 5世紀か | 小片 | 川西編年III~IV期か 外:横ハケ 内:ハケ | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 261 | 733 | 171 | 土師器 | ? | ? | 小片 | 凸帯1 外:端部?ヘラケズ リ 内:ナデ、工具痕? | 2.5Y8/2 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 262 | 734 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀前半か | 口径 14.4(1/3) | 外:稜、回転ヘラケズリ(砂→) 内:口縁端部段 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (24)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|-------------|-----|------|-----------------|---------------------------------|---|------------|----------|------|----------------------|
| 262 | 735 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀前半か | 口径17.7(1/5強) 器高5.7 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:口縁端部段、ナデ | 5Y5/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 262 | 736 | 164 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径14.6~14.9(1/2) 器高4.7 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号「×」、溶着 内:ナデ、火ぶくれあり | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 262 | 737 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径15.3(1/2弱) 器高4.7 | 外:口縁部刻目、ヘラ記号「 -」、回転ヘラケズリ(砂→) 内:口縁端部段、ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 262 | 738 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径14.6(1/3弱) 器高4.9 | 外:口縁部刻目、回転ヘラ ケズリ(砂→) | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 262 | 739 | 164 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃 | 口径15.0~15.3(完) 器高4.5 | 外:凹線1、回転ヘラケズリ(砂 →) 内:口縁端部段、ナデ、 当て具痕 | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 262 | 740 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径15.3(1/4) 器高4.4 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:口縁端部段 | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 262 | 741 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径14.2(1/4強) 器高3.9 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号? 内:口縁端部段、ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 262 | 742 | 164 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径15.8(完) 器高4.7 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:口縁端部段、ナデ | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 262 | 743 | 168 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 天井部径5.6(1/2弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号「△」 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 262 | 744 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半 | 口径12.7(1/6) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 262 | 745 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半 | 口径12.8(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 262 | 746 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径14.3~15.0(1/4) 器高4.3 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ (砂→)、溶着、自然軸付着 内:ナデ、自然軸付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 262 | 747 | 164 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径13.7(1/2) 器高4.2 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号「-」 内:ナデ | 10Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 262 | 748 | 164・ 167 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径14.3~14.6(完) 器高4.2 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 262 | 749 | 164 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径14.0~14.2 (11/12) 器高3.4 | 外:ひび割れ、回転ヘラケズ リ(砂→)、灰かぶり 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 262 | 750 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半~ 7世紀初め | 口径14.8(1/2) | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号「×」 内:ナデ、当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 262 | 751 | 164 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~ 7世紀初め | 口径13.5(3/4) 器高4.2 | 外:ヘラ切り(砂→)、ヘラ 記号「×」、灰かぶり 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 262 | 752 | | 須恵器 | 杯H蓋? | 7世紀か | 口径11.0(1/3) | 外:カキメ 内:粘土塊付着、ナデ | 5YR4/1 褐灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 262 | 753 | 164 | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半 | 口径10.6(完) 器高3.9 | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「= 」 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 262 | 754 | 164 | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半 | 口径10.1(11/12) 器高3.7 | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「×」 焼成不良 | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 262 | 755 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径11.9(1/2弱) 器高4.2 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 262 | 756 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径10.5(1/3) 器高3.3 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 262 | 757 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半か | 口径10.8(1/2) 器高5.4 | 外:ヘラ切り、粘土のたるみ 内:ナデ | N8/0 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 262 | 758 | | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半 | 口径10.2(1/4強) 器高4.0 | 外:ヘラ切り(砂←) 内:口縁端部段、ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 262 | 759 | 164 | 須恵器 | 杯G蓋 | 7世紀 第3四半期か | 口径11.2(2/3) 器高2.8 | 外:カキメ?、溶着、自然軸 付着 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 263 | 760 | 165 | 須恵器 | 杯 | 5世紀前半か | 口径9.7(完) 器高4.8 | 外:静止ヘラケズリ | N7/0 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 263 | 761 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀前半 | 口径14.0(1/4強) 器高5.6 | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 自然軸付着 内:口縁端部段、ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 263 | 762 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀前半 | 口径13.0(5/12) 器高4.6 | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:口縁端部段、当て具痕 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 263 | 763 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀前半か | 口径12.7~13.0(完) 器高5.0 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ (砂←) 内:口縁端部段、ナ デ、当て具痕、ひび割れ | 10Y6/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 263 | 764 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀前半か | 口径13.0~13.2(完) 器高4.9 | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:口縁端部段、ナデ、当て 具痕 | 7.5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 263 | 765 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径12.5~12.9(完) 器高4.7 | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 5G5/1 緑灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 263 | 766 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径13.2(1/2) 器高4.7 | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ、当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (25)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラズリにより砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番号・名 |
|------|------|---------|-----|-----|-------------|---|--|------------|------|------|----------------------|
| 263 | 767 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 12.6~13.1(完) 器高 4.7 | ゆがみ 外:回転ヘラズリ(砂←)、自然釉付着 内:当て具痕 | 7.5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 263 | 768 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 13.4(1/4) 器高 4.3 | 外:回転ヘラズリ(砂→)、ヘラ記号「×」、溶着、自然釉付着、火ぶくれ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 263 | 769 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 12.5(完) 器高 4.4 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「×」 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 263 | 770 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 12.5~12.9(ほぼ完) 器高 4.6 | ゆがみ 外:受部部分的に縁をつぶす、回転ヘラズリ(砂←) 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 263 | 771 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 12.8(3/4) 器高 5.3 | 外:回転ヘラズリ(砂→) 内:ナデ、当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 263 | 772 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.6(1/2弱) 器高 4.0 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「×」 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 263 | 773 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.9(11/12) 器高 4.4 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「ー」 内:ナデ 焼成不良 | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 263 | 774 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀末~7世紀初めか | 口径 11.7~13.6(ほぼ完) 器高 4.2 | ゆがみ 外:ヘラ切り 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 263 | 775 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 10.9~12.5(完) 器高 3.7 | ゆがみ 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「+」 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 263 | 776 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.3(5/6) 器高 4.4 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、溶着、自然釉付着 内:ナデ、火ぶくれ割れ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 777 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.4~12.9(3/4) 器高 3.8 | ゆがみ 外:回転ヘラズリ(砂←)、溶着、自然釉付着 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 778 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.6(ほぼ完) 器高 3.7 | ゆがみ 厚みがあり重い 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「ー」 内:ナデ | 10Y5/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 779 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半~7世紀初め | 口径 12.5(完) 器高 3.9 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「#」 | 10Y5/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 780 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀末~7世紀初めか | 口径 12.8(5/12) 器高 4.2 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「×」、灰かぶり 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 781 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半~7世紀初め | 口径 13.4(1/2) 器高 3.9 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「×」 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 782 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 11.4~11.6(一部欠) 器高 3.8 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ひび割れ | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 264 | 783 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.4(完) 器高 4.3 | 外:回転ヘラズリ(砂←) 内:ナデ 焼成不良 | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 264 | 784 | 165・167 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.0(一部欠) 器高 4.4 | 外:回転ヘラズリ(砂←) 内:粘土のひび | 10YR5/1 褐灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 264 | 785 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.1(ほぼ完) 器高 3.7 | 外:回転ヘラズリ(砂←) 内:ナデ | 5Y6/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 264 | 786 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.0(ほぼ完) 器高 4.0 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「ー」、灰かぶり 内:ナデ | 5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 264 | 787 | 165 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.7~13.1(ほぼ完) 器高 4.1 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、ヘラ記号「×」 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 264 | 788 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半 | 口径 9.4(1/4弱) | 外:ヘラ切り | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 264 | 789 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半 | 口径 9.6(5/12) | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「×」、自然釉付着 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 264 | 790 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半か | 口径 10.0(1/2) 器高 3.3 | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 264 | 791 | | 須恵器 | 杯? | 7世紀前半か | 口径 11.6(1/6) 器高 5.4 | 外:回転ヘラズリ(砂←) 内:ナデ | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 792 | | 須恵器 | 杯 | 7世紀後半か | 口径 14.0(1/2弱) 器高 3.7 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、静止ヘラズリ | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 264 | 793 | 165 | 須恵器 | 高杯蓋 | 5世紀第3四半期か | 口径 11.8~12.0(3/4) つまみ径 2.6(一部欠) 器高 5.1 | 外:回転ヘラズリ(砂←) 内:口縁端部段 | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 794 | 165 | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀前半か | 口径 15.2~16.4(5/6弱) つまみ径 2.8(4/5) 器高 6.1 | ゆがみ 外:凹線による稜、カキメ、列点文 内:口縁端部段、ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 264 | 795 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 15.2(1/3) つまみ径 3.1(2/3) 器高 5.4 | 外:回転ヘラズリ(砂→)、自然釉付着 内:口縁端部段 | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 264 | 796 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 16.0(5/12) つまみ径 3.4(完) 器高 5.5 | 外:沈線1、回転ヘラズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 797 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 16.6~17.2(11/12) | ゆがみ 外:口縁端部刻目、沈線1、カキメ、溶着 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (26)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 分量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|------------|-----------------|---|---|------------|----------|------|----------------------|
| 264 | 798 | 165・167 | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 15.3 ~ 15.7 (11/12) つまみ径 3.0 (一部欠) 器高 5.2 | ゆがみ 外: 沈線 1、カキメ、灰かぶり 内: ナデ、灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 799 | 165 | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 15.8(1/2) つまみ径 3.3(一部欠) 器高 5.4 | 外: ゆるい稜、回転ヘラケズリ (砂→)、カキメ 内: ナデ、当て具痕? | 5Y8/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 800 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 15.2(1/4) つま み径 3.3(4/5) 器高 4.5 | 外: カキメ 内: ナデ | 10Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 264 | 801 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 12.7(11/12) つまみ径 2.3(4/5) 器高 4.5 | 外: 回転ヘラケズリ(砂→) 内: ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 802 | 165 | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.5(完) つまみ径 2.6(端部 1/2) 器高 4.9 | 外: 回転ヘラケズリ(砂→) 内: ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 264 | 803 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀 | つまみ径 2.8(完) | 外: 回転ヘラケズリ(砂→) 内: ナデ、墨書? | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 804 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 7世紀か | 口径 10.7 ~ 10.9(1/2) つまみ径 2.4 ~ 2.6 (1/5) 器高 4.7 | ゆがみ 外: 回転ヘラケズリ、溶着 内: ナデ | 5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 265 | 805 | 165 | 須恵器 | 大型高杯 蓋か | 6世紀前半か | 口径 26.0(1/4 強) | 外: ゆるい稜、カキメ、回転 ヘラケズリ(砂→) 内: 口縁端部段、ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 806 | | 須恵器 | 高杯 | 5世紀後半か | 口径 10.4(一部欠) | 外: 回転ヘラケズリ 内: 口縁端部段、ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 807 | | 須恵器 | 高杯脚 | 5世紀中頃か | 脚裾径 12.2(1/5) | 外: 凸線 1、スカシ 内: 灰かぶり | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 808 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀前半か | 口径 14.0(1/7) | 外: 回転ヘラケズリ(砂←)、 スカシ 3 方向 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 809 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀前半か | 口径 10.9(1/4) | 外: 凸線 2 間列点文 | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 810 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀前半か | 口径 9.9(1/4 弱) | 外: 凸線 2 間列点文 内: 灰かぶり | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 811 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀前半か | 口径 11.0(1/4) | 外: 凸線 1、列点文、凹線 1、 灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 812 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀前半か | 口径 14.0(1/6) | ゆがみ 外: 回転ヘラケズリ、 スカシ 3 方向 内: ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 813 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀前半か | 口径 13.8 ~ 14.1(6/7) | 外: 回転ヘラケズリ(砂←)、 スカシ 3 方向? | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 814 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀中頃か | 口径 14.5(1/2 弱) | 外: 回転ヘラケズリ(砂←)、 スカシ 3 方向 内: ナデ 焼成不良 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 815 | 165・167 | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半 | 口径 13.5(1/3) 脚裾 径 10.1(完) 器高 8.2 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←) 内: ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 816 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 13.5(一部欠) | 外: スカシ 3 方向 内: ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 817 | 165 | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径 12.8(3/4) 脚裾 径 10.3(1/4) 器高 8.6 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←)、 スカシ 3 方向 内: ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 818 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径 13.7(1/4 弱) | 外: 回転ヘラケズリ、スカシ 推定 4 方向 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 819 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径 12.8 ~ 13.1 (11/12) | 外: 回転ヘラケズリ(砂→)、 スカシ 3 方向、灰かぶり 内: ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 820 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径 12.0 ~ 12.2 (一部欠) | 外: 回転ヘラケズリ(砂→)、 灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 821 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径 13.6 ~ 14.0(3/8) | 外: 回転ヘラケズリ、スカシ 2 方向、凹線 2 内: 当て具痕 | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 822 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径 12.5(1/2) | 外: 回転ヘラケズリ(砂←) 内: ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 265 | 823 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半か | 口径 13.0 ~ 13.8(完) | ゆがみ 外: 火ぶくれ、スカシ 3 方向、自然釉付着 内: ナデ | 10YR4/1 褐灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 265 | 824 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀後半か | 脚裾径 11.7(2/5) | 外: スカシ 4 方向 内: 灰かぶり | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 825 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀後半か | 脚裾径 9.5(完) | 内: 自然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 826 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 脚裾径 17.0(1/6) | 外: 凹線 2、スカシ 2 方向、 灰かぶり 内: 灰かぶり | N4/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 827 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀後半か | 脚裾径 10.2(1/4) | 外: 焼成前穿孔 1 残 内: 灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 828 | 165 | 須恵器 | 高杯 | 7世紀前半か | 口径 12.3(完) 脚裾 径 10.2(2/5) 器高 9.0 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←) 内: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 265 | 829 | | 須恵器 | 高杯 | 7世紀前半か | 口径 11.7(5/12) | 外: 回転ヘラケズリ(砂←) 内: ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 830 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀初めか | 脚裾径 12.4(1/4) | 外: 凹線 1+、スカシ 2 方向 | N7/0 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (27)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|-------------|-----|-----|--------|---------------------------|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 265 | 831 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀前半か | 脚裾径 10.4(1/2 強) | 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 832 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀前半か | 脚裾径 8.2(1/4) | | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 833 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀 | 脚裾径 7.6(11/12) | 内:ナデ、脚部をねじったよ うな痕跡 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 265 | 834 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀後半か | 脚裾径 10.0(完) | 外:ハケ? | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 265 | 835 | | 須恵器 | 高杯 | 7世紀前半か | 脚裾径 10.8 (端部欠多い) | 外:スカシ2方向、自然釉付 着 内:自然釉付着 | 5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 265 | 836 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀前半か | 脚裾径 10.8(5/8) | 内:ナデ | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 266 | 837 | | 須恵器 | 甕? | 5世紀後半か | 頸部径 6.2(1/4) | 外:静止ヘラズリ、自然釉 付着 内:ナデ、自然釉付着 | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 838 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃 | 口径 15.1(5/12) | 外:縦線文、口縁下端部段 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 839 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 14.2(1/6 強) | 外:凸線 1、ハケ(縦線文?)、 自然釉付着 内:自然釉付着 | 7.5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 266 | 840 | 166 | 須恵器 | 甕 | 6世紀前半か | 頸部径 4.7(完) | 外:口縁下端部段、穿孔 1、 回転ヘラズリ(砂←) 内:しぼり目?、指ナデ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 841 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 頸部径 3.2(1/2) | 外:静止ヘラズリ、穿孔 1、 自然釉付着 内:しぼり目、 指押さえナデ、自然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 842 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 頸部径 4.4(1/3) | 外:回転ヘラズリ(砂←)、 穿孔 1、灰かぶり | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 843 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 頸部径 3.4(一部欠) | 外:カキメ、穿孔 1、灰かぶ り 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 844 | 166 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 頸部径 3.7(完) | 外:口縁下端部段、沈線 2、 回転ヘラズリ(砂←)、カ キメ、穿孔 1(穿孔時の粘土 が内部に残る?) 焼成不良 | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 845 | 166 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 頸部径 3.9(完) | 外:沈線 2 間点文、カキメ、 自然釉付着 内:灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 846 | 166 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 頸部径 3.7(完) | 外:頸をひねったような痕跡、 回転ヘラズリ(砂←)、穿 孔 1(反対側に未穿孔?あり) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 847 | 166 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 頸部径 3.1(完) | 外:沈線 2+?、沈線 2、回転 ヘラズリ(砂←)、溶着、 灰かぶり 内:しぼり目、灰かぶり | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 848 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 頸部径 3.6(1/2) | 外:回転ヘラズリ(砂←)、 穿孔 1 | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 266 | 849 | 166・ 167 | 須恵器 | 甕 | 7世紀か | 頸部径 3.3(完) | 外:口縁下端部凸線 1、回転 ヘラズリ(砂←)、穿孔 1 内:頸部をねじったような痕 跡 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 850 | 166 | 須恵器 | 小型壺 | 6世紀か | 口径 5.8(完) 器高 7.2 | 外:回転ヘラズリ、灰かぶ り 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 851 | 166 | 須恵器 | 壺 | 6世紀か | 口径 8.7~9.3(完) 器高 9.3 | 外:回転ヘラズリ、静止ヘ ラズリ 内:ナデ | 10BG5/1 青灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 852 | 166 | 須恵器 | 短頸壺 | 6世紀後半か | 口径 7.4(1/2) 器高 8.4 | 外:沈線 1、回転ヘラズリ(砂 ←)、自然釉付着(蓋付きで 焼成か口縁部に自然釉なし) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 853 | 166・ 167 | 須恵器 | 短頸壺 | 6世紀後半か | 口径 6.3~6.8(一部欠) 器高 7.9 | 外:沈線 1、回転ヘラズリ(砂 ←)、灰かぶり(口縁部はな し) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 854 | 166 | 須恵器 | 鉢 | 6世紀中頃か | 口径 7.3~7.7(完) 器高 6.2 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、 灰かぶり、自然釉付着 内:灰かぶり、自然釉付着 | N3/0 暗灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 855 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀前半か | 口径 11.1(1/6) | 外:波状文 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 856 | 166 | 須恵器 | 台付壺 | 6世紀後半か | 頸部径 7.8(完) | 外:カキメ、ヘラナデ、回転 ヘラズリ(砂←)、スカシ 3方向、自然釉付着 内:自然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 857 | 166 | 須恵器 | 台付壺 | 6世紀後半か | 頸部径 7.8(完) | 外:回転ヘラズリ(砂←)、 スカシ 3方向、灰かぶり 内:灰かぶり | N3/0 暗灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 266 | 858 | 166・ 167 | 須恵器 | 壺 | 6世紀 | 口径 11.6(2/3) 器高 14.4 | 外:回転ヘラズリ(砂←)、 自然釉付着、灰かぶり 内:灰かぶり | N8/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 859 | | 須恵器 | 壺? | 6世紀か | 口径 10.2(1/4 弱) | 外:カキメ、ヘラ記号? | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 266 | 860 | 166 | 須恵器 | 壺 | 6世紀後半か | 胴部径 14.2(完) | 外:カキメ、回転ヘラズリ (砂←) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (28)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|-------------|-----|-----------|-----------------|--|--|-----------------|----------|------|----------------------|
| 266 | 861 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀 | 頸部径 8.6(一部欠) | 外:沈線1、タタキ残、沈線1、 回転ヘラケズリ(砂←)、ス ス附着 | 5Y6/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 267 | 862 | 166・ 167 | 須恵器 | 長頸壺 | 6世紀後半か | 口径 10.2~10.8(完) 器高 18.4 | 外:沈線2、沈線2、回転ヘ ラケズリ(砂←)、溶着、自 然釉附着 内:火ぶくれ、自 然釉附着、灰の塊附着 | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 267 | 863 | 166 | 須恵器 | 台付長頸 壺 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 頸部径 5.5(完) | 外:凹線2、カキメ、凹線2 間列点文、工具痕、回転ヘ ラケズリ(砂←) 内:ヘラナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 267 | 864 | 166 | 須恵器 | 長頸壺 | 7世紀後半か | 口径 16.4(2/3) | 外:凹線2、カキメ後一部ナデ、 凹線1・2間列点文 内:指押さえナデ、ひび割れ、 ヘラナデ | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 267 | 865 | 169 | 須恵器 | 壺 | 5世紀前半か | 小片 | 外:タタキ後波状文(8条)、 沈線2、波状文(9~10条)2 帯、沈線2? 内:同心円文状 当て具痕をナデ消す | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 267 | 866 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀中頃か | 口径 15.0(1/7) | 外:波状文(7条)2帯、沈線 1 | 5PB5/1 青灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 267 | 867 | | 須恵器 | 壺胴底部 | 7世紀か | 胴部径 22.0(2/5) | 外:凹線?、列点文、回転ヘ ラケズリ(砂←)、溶着、自 然釉附着 内:ナデ、火ぶく れ、自然釉附着 | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 267 | 868 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀前半 | 頸部内径 4.0(1/5) | 外:カキメ、回転ヘラケズリ、 火ぶくれ、自然釉附着 内:指押さえナデ、火ぶくれ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 267 | 869 | 166 | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半か | 口径 4.5(1/4) 器高 13.8 | 外:カキメ、溶着(杯類)、 自然釉附着 内:自然釉附着 | 5Y6/2 灰オリーブ | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 267 | 870 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半か | 胴部径 19.6(1/2) | 外:カキメ、灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 267 | 871 | 166・ 167 | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半 | 口径 8.0(完) 器高 23.9 | 外:カキメ、回転ヘラケズリ、 亀裂、自然釉附着、火ダスキ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 267 | 872 | 166 | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半 | 胴部径 17.8(完) | 外:カキメ、溶着、自然釉附着、 灰かぶり 内:自然釉附着 | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 268 | 873 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半か | 頸部径 4.8(1/6) | 外:カキメ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 268 | 874 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀か | 胴部径 16.7(1/4) | 外:カキメ後一部ナデ、一部 回転ヘラケズリ | N4/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 268 | 875 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀か | 胴部径 20.5(1/2) | 外:カキメ後一部ナデ 内:指押さえナデ、附着物 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 268 | 876 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半 | 口径 6.8(完) | 外:凹線2、カキメ、自然釉 附着 内:自然釉附着 | 10Y6/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 268 | 877 | 166 | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半 | 頸部径 4.4(完) | 外:カキメ、一部ナデ、一部 回転ヘラケズリ、自然釉附着 | 10Y6/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 268 | 878 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀か | 小片 | 外:カキメ、ヘラ記号「=」 内:指押さえ | 5YR6/2 灰褐 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 268 | 879 | 166 | 須恵器 | 提瓶 | 7世紀前半か | 口径 5.2~6.9(11/12) | ゆがみ 外:把手が円形浮文 に退化、カキメ、自然釉附着 内:指押さえ | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 268 | 880 | | 須恵器 | 横瓶 | 6世紀中頃か | 口径 12.3(3/4) | 外:タタキ(3条/cm)後カキ メ 内:同心円文状当て具痕 後ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 268 | 881 | | 須恵器 | 横瓶 | 6世紀後半か | 頸部径 10.6(1/4) | 外:タタキ後カキメ、灰かぶ り 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 882 | 166 | 須恵器 | 横瓶 | 6世紀後半か | 口径 7.7(1/2) | 外:カキメ、一部回転ヘラケ ズリ 内:ナデ | 10R6/3 にぶい赤橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 883 | 169 | 須恵器 | 平瓶 | 7世紀前半か | 頸部径 5.4(完) | 外:円形浮文1(把手の退化?)、 焼成前未穿孔1、カキメ、自 然釉附着、灰かぶり 内:灰かぶり | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 884 | 166 | 須恵器 | 平瓶 | 7世紀 | 頸部径 5.0(完) | 外:カキメ、回転ヘラケズリ (砂←) | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 269 | 885 | | 須恵器 | ? | ? | 胴下部径 13.0(1/4強) | 外:ナデ後カキメ | 5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 269 | 886 | 166 | 須恵器 | 鉢 | 5世紀 第3四半期か | 口径 10.0(一部欠) 器高 5.3 | 外:波状文(5条)、静止ヘラ ケズリ、ヘラナデ 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 269 | 887 | | 須恵器 | 椀 | 6世紀か | 口径 13.9(1/6) | 外:カキメ | 5Y5/1 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 269 | 888 | | 須恵器 | 鉢 | 6世紀後半か | 口径 15.0(1/6) | 外:凹線2、カキメ 内:口縁端部面 | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 269 | 889 | | 須恵器 | 鉢か椀 | 7世紀か | 胴部径 11.0(1/5) | 外:凹線2 | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 269 | 890 | 166 | 須恵器 | 台付鉢 | 6世紀後半か | 口径 13.0(1/2) 脚裾 径 9.1(1/4) 器高 10.3 | 外:凹線1、回転ヘラケズリ(砂 ←) 内:ナデ | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 269 | 891 | | 須恵器 | 台付鉢 | 6世紀後半か | 口径 10.8~13.6(1/4) 脚裾径 8.3~8.8(一部 欠) 器高 9.0 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ(砂←) | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (29)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|------|------|---------|-----|-----------|-------------------|---|---|------------------|------|------|----------------------|
| 269 | 892 | 168 | 須恵器 | 台付鉢 | 7世紀前半か | 脚基部径 5.7(完) | 外:カキメ、自然釉付着、粘土付着 内:溶着、自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 893 | 166 | 須恵器 | すり鉢 | 6世紀 | 口径 14.0(1/4) 底径 7.3(完) 器高 14.2 | 外:底面静止ヘラケズリ、灰かぶり 内:口縁端部面、粘土の亀裂 | 5P6/1 紫灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 894 | 166・167 | 須恵器 | すり鉢 | 6世紀後半か | 口径 15.0(7/12) 底径 8.2(2/3) 器高 13.5 | 外:底部穿孔1、カキメ、底部回転ヘラケズリ(砂←) 内:口縁端部面 | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 269 | 895 | | 須恵器 | すり鉢 底部 | 7世紀か | 底径 8.6(1/3) | 外:底面ヘラ切り? | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 896 | | 須恵器 | すり鉢 底部 | 7世紀か | 底径 8.5 ~ 9.0(完) | 外:溶着、灰の塊付着、自然釉付着 | 7.5Y5/2 灰オリーブ | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 897 | | 須恵器 | 鉢 | 6世紀か | 口径 25.8(1/4) | 外:タタキ、粗いカキメ、回転ヘラケズリ(砂←) 内:口縁端部面、ナデ 焼成不良 | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 269 | 898 | | 須恵器 | 鉢 | 7世紀か | 口径 19.2(1/4) | 内:口縁端部面 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 270 | 899 | 167 | 須恵器 | 甌 | 5 ~ 6世紀か | 口径 22.0(1/4) | 外:凹線2、カキメ 内:口縁端部面、板ナデ 焼成不良 | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 270 | 900 | | 須恵器 | 甌 | 5 ~ 6世紀か | 口径 22.7(1/2 弱) | 外:凹線2、タタキ後カキメ、ナデ、スス付着 内:指押さえ、スス付着 | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 270 | 901 | 167 | 須恵器 | 甌 | 5 ~ 6世紀 | 口径 24.8(5/12) | 外:沈線1、タタキ後カキメ、回転ヘラケズリ(砂←)、蒸気孔推定5 内:蒸気孔加工ヘラケズリ903と同一片の可能性あり | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 270 | 902 | 167 | 須恵器 | 甌 | 5 ~ 6世紀 | 口径 26.2(1/4) | 外:沈線1、カキメ、ヘラケズリ、蒸気孔推定6 内:口縁端部面、同心円文状当て具痕、蒸気孔加工ヘラケズリ | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 270 | 903 | | 須恵器 | 甌 | 5 ~ 6世紀か | 口径 15.0(1/12) | 外:凹線2、タタキ後カキメ 内:口縁端部面、指押さえ901と同一片の可能性あり | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 270 | 904 | 167 | 須恵器 | 甌 | 5世紀後半 ~ 6世紀前半か | 口径 21.0(1/3 弱) | 外:挿入式把手、凹線2、タタキ後カキメ、ヘラケズリ、蒸気孔現存2 内:口縁端部面、蒸気孔加工ヘラケズリ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 270 | 905 | | 須恵器 | 甌胴底部 | 5 ~ 6世紀か | 胴部径 18.4(1/2) | 外:凹線2、タタキ後カキメ、ヘラケズリ、蒸気孔推定3 内:蒸気孔加工ヘラケズリ | 10YR8/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 271 | 906 | 167 | 須恵器 | 甌底部 | 5 ~ 6世紀 | 底径 13.0(完) | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、蒸気孔5 内:ナデ、蒸気孔加工ヘラケズリ | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 271 | 907 | | 須恵器 | 甌胴底部 | 5世紀後半 ~ 6世紀前半か | 底部近く 16.4(1/4 強) | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、蒸気孔2残 内:ヘラケズリ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 271 | 908 | | 須恵器 | 甕 | 5世紀前半か | 口径 20.9(1/8 弱) | 外:凸線1 内:灰かぶり | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 271 | 909 | 168 | 須恵器 | 甕 | 5世紀前半 | 口径 26.0(1/2 強) | 外:凸線1、ヘラ記号「ㄥ」格子状タタキ 内:指ナデ、ナデ、ヘラナデ、同心円文状当て具痕をナデ消す、亀裂を粘土で上塗り | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 271 | 910 | | 須恵器 | 甕 | 5世紀 第3四半期か | 口径 21.3 ~ 21.5 (一部欠) | 外:口縁端部凸線1、タタキ後カキメ、灰かぶり 内:同心円文状当て具痕をナデ消す | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 271 | 911 | | 須恵器 | 甕 | 5世紀後半 | 口径 18.8(1/2 弱) | 外:凸線1、波状文(8条?)2帯、タタキ後カキメ、灰かぶり 内:同心円文状当て具痕後ナデ、溶着、灰かぶり | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 271 | 912 | | 須恵器 | 甕 | 5世紀後半か | 口径 17.7(1/6) | 外:タタキ、縦方向タタキ(3条/cm)後横方向タタキ 内:平行・同心円文状当て具痕後ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 271 | 913 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀前半か | 口径 16.8(1/3) | 外:カキメ後ヘラ記号「×」、タタキ後カキメ、スス付着 内:同心円文状当て具痕、コゲ付着 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 271 | 914 | 169 | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 17.0(1/6) | 外:タタキ後カキメ、スス付着 内:ヘラ記号「=」、同心円文状当て具痕、スス付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 271 | 915 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 16.6(1/5) | 外:ヘラ記号?、タタキ後カキメ、スス付着 内:同心円文状当て具痕 | 2.5Y4/1 黄灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 271 | 916 | 168 | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 17.0(1/2) | 外:ヘラ記号「へ」、タタキ後カキメ、スス付着 内:同心円文状当て具痕 | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (30)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|----|--------|--------------------------------|--|----------------|----------|------|----------------------|
| 271 | 917 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 17.4(1/8弱) | 外:把手付、タタキ後力キメ、ヘラケズリ、スス付着 内:同心円文状当て具痕 | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 272 | 918 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 18.4(3/8) | ゆがみ 外:タタキ後力キメ、 底部タタキのみ 内:同心円 文状当て具痕(粗・細) | N4/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 272 | 919 | 167 | 須恵器 | 甕 | 6世紀 | 口径 17.6 ~ 18.0(完) 器高 31.2 | ゆがみ 外:タタキ?, タタ キ後力キメ、底部近くはタタ キのみ、スス付着 内:同心円文状当て具痕 | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 272 | 920 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 22.7(1/6) 器高 47.8 | 外:タタキ後力キメ、底部近 くタタキのみ 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 273 | 921 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 18.8(1/2) 器高 30.0 | 外:タタキ、タタキ後力キメ、 底部近くタタキのみ 内:同心円文状当て具痕 | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 273 | 922 | 167 | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 口径 18.7(1/2弱) 器高 29.7 | 外:タタキ後力キメ 内:同心円文状当て具痕後ナ デ 焼成不良 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 273 | 923 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 口径 23.8(1/4) | 外:タタキ後力キメ、自然釉 付着 内:同心円文状当て具 痕、自然釉付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 273 | 924 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 口径 29.2(1/5) | 外:タタキ、タタキ(3条/cm) 後力キメ、自然釉付着 内:同心円文状当て具痕 | N7/0 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 273 | 925 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 24.6(1/12) | 外:タタキ後力キメ、灰かぶり 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 274 | 926 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 23.0(1/5) | 外:タタキ、ヘラ記号「=」、 タタキ後力キメ 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 274 | 927 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 18.0 ~ 18.2(完) | 外:タタキ後力キメ、スス付 着 内:刻印?(竹管文)、同 心円文状当て具痕 | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 274 | 928 | 167 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 22.2(9/10) 器高 43.9 | 外:力キメ、タタキ後力キメ、 底部近くタタキのみ 内:同心円文状当て具痕 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 274 | 929 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 17.5(一部欠) 器高 30.1 | 外:タタキ後力キメ 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 274 | 930 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 口径 29.0(若干のみ) 頸部径 22.0(1/6) | 外:タタキ後力キメ 内:ヘラ記号?, 同心円文状 当て具痕 | 5YR6/3 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 274 | 931 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 18.2(5/12) | ゆがみ 外:タタキ後力キメ、 底部近くタタキのみ、スス付 着 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 275 | 932 | 167 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 18.7(11/12) 器高 29.4 | 外:タタキ後力キメ、底部近 くタタキのみ、スス付着 内:同心円文状当て具痕 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 275 | 933 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 口径 17.4(1/3) | 外:タタキ後力キメ、底部近 くタタキのみ、スス付着 内:同心円文状当て具痕、コ ゲ付着 焼成不良 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 275 | 934 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 20.6(1/3) | 外:力キメ、タタキ後力キメ、 灰かぶり 内:同心円文状当 て具痕、灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 275 | 935 | 167 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 16.6(3/8) 器高 25.4 | 外:タタキ後力キメ、底部近 くタタキのみ 内:同心円文 状当て具痕 焼成不良 | 5Y8/2 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 275 | 936 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 21.0 ~ 21.7(完) | ゆがみ 外:灰かぶり厚い 内:同心円文状当て具痕、自 然釉付着 | 5Y8/2 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 275 | 937 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 21.2(1/2) | 外:タタキ後力キメ、溶着、 自然釉付着、火ぶくれ 内:同心円文状当て具痕、自 然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 276 | 938 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 20.6(2/5) | 外:口縁端部凹線 1、火ぶくれ、 タタキ(4条/cm)後力キメ、 自然釉付着 内:同心円文状 当て具痕、自然釉付着 | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 276 | 939 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 口径 17.6(1/4) | 外:タタキ後力キメ、スス付 着 内:同心円文状当て具痕 後一部ナデ 焼成不良 | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 276 | 940 | 167 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 23.1(完) 器高 48.4 | 外:タタキ後力キメ、底部近 くタタキのみ 内:同心円文 状当て具痕後一部ナデ | 5Y5/1 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 276 | 941 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 24.3(1/2) | 外:タタキ後力キメ 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 276 | 942 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 25.0(1/6) | 外:ヘラ記号「ㄨ」 内:自然釉付着 | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (31)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|------|------------------|------------------------|---|------------|----------|------|-------------------------------|
| 277 | 943 | 167 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半～ 7世紀初めか | 口径 25.1(2/3) | 外:把手付、凹線2、凹線3、 タタキ後力キメ 内:同心円 文状当て具痕、コゲ付着 | 7.5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 277 | 944 | 168 | 須恵器 | 直口甕 | 7世紀 | 口径 17.9(1/6) | 外:把手付、凹線2、タタキ 後力キメ、溶着、自然釉付着 内:同心円文状当て具痕後一 部ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 277 | 945 | 168 | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 内底近く 20.2(完) | 外:タタキ後底中心から力キ メ、溶着、自然釉付着 内:同心円文状当て具痕後一 部ナデ、灰かぶり | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 278 | 946 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 胴部径 23.4(3/8) | 外:タタキ後底中心から力キ メ、スス付着 内:同心円文状当て具痕後一 部ナデ 焼成不良 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 278 | 947 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 頸部径 13.8(1/3) | 外:タタキ後力キメ、タタキ 後ナデ、スス付着 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 278 | 948 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 胴部径 44.8(一部欠) | 外:タタキ後力キメ、底部近 くタタキのみ 内:同心円文状当て具痕後一 部縦方向にナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 278 | 949 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 胴部径 31.6(1/4) | 外:タタキ後力キメ、底部近 くタタキのみ、溶着 内:同心円文状当て具痕後一 部縦方向ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 279 | 950 | 168 | 須恵器 | 甕底部 | 6世紀か | 底近く 41.4(2/3) | 外:タタキ、溶着(焼き台の 痕跡4箇所-砂粒とわら?痕) 内:同心円文状当て具痕 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 279 | 951 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 底近く 43.8(1/3) | 外:タタキ後力キメ、タタキ 後ナデ、溶着(杯の痕跡)、 灰かぶり 内:同心円文状当て具痕 | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 279 | 952 | 168 | 須恵器 | 器台脚 | 6世紀か | 脚部径 7.8(1/4弱) | 外:凹線2+?、波状文(10条?)3 帯、凹線3、波状文(10条)2帯、 凹線1+?、スカシ4方向3段+? | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 279 | 953 | 168 | 須恵器 | 器台脚 | 6世紀後半か | 脚部径 10.0(1/4) | 外:凹線(2、2、2)、ハケ、 スカシ3～4方向2段+? | N8/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 279 | 954 | 168 | 須恵器 | 鉢形器台 | 6世紀後半か | 口径 28.7(1/10) | 外:口縁端部凹線1、凹線(2、 1)、ハケ、タタキ後力キメ 内:当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 279 | 955 | 168 | 須恵器 | 器台脚 | 6世紀前半か | 脚部径 8.0(1/4) | 外:凹線(1+?、2、2)間列点 文、スカシ3方向3段+? | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 279 | 956 | 168 | 須恵器 | 器台脚 | 6世紀後半か | 脚部径 22.8(1/3) | 外:凹線2、タタキ?後力キメ?、 スカシ4方向 内:脚端部面 | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 280 | 957 | 179 | 土製品 | 陶馬 | 7世紀? | 長 25.3 幅 9.0 高 10.4 | 須恵質 頭、尾、脚(一部あり) が欠、1本の線刻で手綱と鞍 を表現、全体をナデ、中は空 洞 | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4142 流路) |
| 280 | 958 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 4.8 幅 3.4 厚 2.7 | 砂岩 砥面 5 一部被熱 | | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 280 | 959 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 6.0 幅 5.6 厚 4.8 | 凝灰岩 砥面 4 | | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 280 | 960 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 7.3 幅 9.4 厚 4.3 | 砂岩 砥面 4 一面被熱 | | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 280 | 961 | | 石製品 | 砥石 | ? | 長 4.8 幅 5.8 厚 3.8 | 流紋岩質凝灰岩 砥面 3 現存 | | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 280 | 962 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 12.1 幅 5.2 厚 3.2 | 流紋岩質泥岩 砥面 4 | | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 281 | 963 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 17.8 幅 8.5 厚 8.4 | 砂岩 砥面 3 一部スス付着 | | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 281 | 964 | 189 | 石製品 | 凹み石 | ? | 長 15.5 幅 17.6 厚 7.8 | 礫岩 両面に浅い凹み | | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 281 | 965 | | 石製品 | ? | ? | 長 9.8 幅 13.0 厚 3.5 | 花崗岩 | | 11-1 | 8-1 | 7066 流路 (8016 流路) |
| 281 | 966 | 185 | 金属製品 | 斧? | ? | 長 9.9 幅 5.5 厚 2.3 | 鉄 | | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 281 | 967 | 190 | 木製品 | 板状 | ? | 長 34.7 幅 21.2 厚 3.9 | ヒノキ | | 11-1 | 7 | 7066 流路 |
| 281 | 968 | 190 | 木製品 | 不明 | ? | 長 34.3 幅 9.0 厚 2.2 | アカガシ垂属 | | 12-1 | 4-2 | 7066 流路 (4143 流路) |
| 282 | 969 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 13.2(2/5) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8005 流路) |
| 282 | 970 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀末～ 7世紀初めか | 口径 10.8(一部欠) 器高 3.8 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N8/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8005 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (32)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|------|-----------------|---|--|------------------|----------|------|-------------------------------|
| 282 | 971 | | 須恵器 | 杯蓋? | 6世紀 | 小片 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号「-」 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8005 流路) |
| 282 | 972 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 口径 18.5 ~ 19.5(4/5) | 口縁ゆがみ 外:タタキ、タ タキ後力キメ、スス付着 内:同心円文状当て具痕 | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8005 流路) |
| 282 | 973 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 25.0(2/5) | 外:タタキ後力キメ 内:同心円文状当て具痕 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8005 流路) |
| 282 | 974 | | 須恵器 | 甕 | 6 ~ 7世紀か | 胴部径 16.2(1/3) | 外:タタキ後ナデ、回転ヘラ ケズリ(砂←) 内:ハケ、指押さえ、ナデ | 10YR6/1 褐灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8005 流路) |
| 282 | 975 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 10.2 ~ 10.5(完) 器高 2.5 ~ 3.5 | ゆがみ 外:ヘラ切り 内:ナデ | N8/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8008 流路) |
| 282 | 976 | | 土師器 | 把手 | 6世紀か | 小片 | 外:切り込み未貫通 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8015 流路) |
| 282 | 977 | | 土師器 | 製塩土器 | 6世紀か | 小片 | | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8015 流路) |
| 282 | 978 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀前半か | 口径 11.5(1/3 強) 器高 4.1 | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 ヘラ記号「×」、自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8015 流路) |
| 282 | 979 | 171 | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 頸部径 3.4(完) | 外:穿孔1、回転ヘラケズリ(砂 ←) 内:ヘラナデ? | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8015 流路) |
| 282 | 980 | 171 | 須恵器 | 甕 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 12.7(1/9) 器高 14.2 | 外:口縁部下端凹線1、頸部 ねじったような痕跡、凹線1、 沈線1、ヘラナデ、静止ヘラ ケズリ、自然釉付着 内:自然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8015 流路) |
| 282 | 981 | | 須恵器 | 甕 | 5世紀前半か | 口径 24.0(1/7) | 外:格子タタキ後力キメ、把 手付、一部タタキ残、回転ヘ ラケズリ(砂←)、蒸気孔推 定3、スス付着 内:指押さえ、 蒸気孔加工ヘラケズリ、スス 付着 焼成不良 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8015 流路) |
| 282 | 982 | 171 | 須恵器 | 甕 | 5世紀前半か | 口径 51.8(1/6) | 外:凸線1、指押さえナデ、 自然釉付着 内:指ナデ、自然釉付着 | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 8-1 | 7066 流路遺物 とする (8015 流路) |
| 282 | 983 | | 須恵器 | 杯 | 5世紀後半か | 口径 11.0(一部欠) 器高 4.3 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 溶着 内:口縁端面、ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 7066 流路遺物 とする (8035 流路) |
| 282 | 984 | 171 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀後半か | 口径 3.0(1/4) | 外:指押さえ、二次焼成によ る赤色化 内:板ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 7066 流路遺物 とする (8052 流路) |
| 282 | 985 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 6世紀か | 小片 | 川西編年V期か 外:縦ハケ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 7066 流路遺物 とする (8052 流路) |
| 282 | 986 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 13.4(1/4 弱) つまみ径 2.4(完) 器高 4.5 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 7066 流路遺物 とする (8052 流路) |
| 282 | 987 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半 | 口径 7.5(2/3) | 外:カキメ、自然釉付着、灰 かぶり 内:指押さえ、自然釉付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 7066 流路遺物 とする (8052 流路) |
| 282 | 988 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀か | 口径 18.8(5/12) | 外:タタキ、タタキ後力キメ 内:同心円文状当て具痕 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 7066 流路遺物 とする (8052 流路) |
| 282 | 989 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 16.1(5/12) | 外:タタキ後力キメ 内:同心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 7066 流路遺物 とする (8052 流路) |
| 282 | 990 | | 土師器 | 甕 | 5世紀か | 小片 | 外:ハケ、把手付、蒸気孔推 定5~6 内:ヘラケズリ、 板ナデ、ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路遺物 とする (4141 流路) |
| 282 | 991 | | 須恵器 | 杯 | 5世紀後半か | 口径 11.8(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路遺物 とする (4141 流路) |
| 282 | 992 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀か | 口径 7.9(1/4) | 外:カキメ 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 7066 流路遺物 とする (4141 流路) |
| 283 | 993 | 170 | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 9.2 ~ 13.3(完) 器高 3.6 ~ 4.8 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ (砂←) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 3-4 | 3094 土器 |
| 284 | 994 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 13.0(1/8) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N7/0 灰白 | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 284 | 995 | | 須恵器 | 甕 | 5世紀後半か | 胴部径 9.4(1/4) | 外:列点文?、凹線1、穿孔1、 凹線2 間刺突文、ヘラケズリ (砂←)、布目痕?、自然釉付 着 内:自然釉付着 | N5/0 灰 | 10-1 | 4-4 | 第4層 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (33)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|-----------|-----------------|----------------------------------|--|------------------|----------|------|----------------|
| 284 | 996 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 小片 | 外：ヘラ記号「リ」 内：ヘラ記号? | N6/0 灰 | 10-1 | 4-4 | 第4層 |
| 284 | 997 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 16.3 幅 7.4 厚 3.3 | 流紋岩質泥岩 砥面 3 右側 面下端に背つぶれ痕? | | 10-1 | 4-4 | D0158 流路 |
| 284 | 998 | 170 | 土師器 | 甕 | ? | 小片 | 外：指押さえナデ、脚端部二 次焼成で黒色化 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 284 | 999 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 14.2(1/5) | 外：回転ヘラズリ? 内：口縁端部段 | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7014 溝 |
| 284 | 1000 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃 | 口径 14.8(1/3) 器高 4.1 | 少しゆがみ 外：回転ヘラズリ (砂→) 内：口縁端部段 | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 第3層 |
| 284 | 1001 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.3 ~ 14.7(2/3) 器高 4.0 | ゆがみ 外：回転ヘラズリ (砂→) 内：ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1002 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.4(1/5) 器高 4.4 | 外：回転ヘラズリ(砂←) 内：ナデ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1003 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 15.4(完) 器高 4.2 | 外：回転ヘラズリ(砂→) 内：ナデ、粘土塊付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1004 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 13.0(若干のみ) 受部径 15.4(1/3) | ゆがみ 外：回転ヘラズリ (砂←)、ヘラ記号「=」 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 284 | 1005 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀中頃か | 口径 13.2(若干のみ) 受部径 16.0(2/5) | ゆがみ 外：回転ヘラズリ (砂←) 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 7014 溝 |
| 284 | 1006 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.0(1/4) | ゆがみ 外：回転ヘラズリ (砂→) 内：ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1007 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.1(1/3) 器高 3.8 | 外：回転ヘラズリ(砂←) 内：ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 284 | 1008 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.8(1/3) | 外：回転ヘラズリ(砂←) 内：ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第3層 |
| 284 | 1009 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 14.0(1/7) | 外：回転ヘラズリ 内：ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 7 | 7014 溝 |
| 284 | 1010 | | 須恵器 | 杯? | 6世紀か | 小片 | 外：回転ヘラズリ(砂←)、 ヘラ記号「=」 | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 7014 溝 |
| 284 | 1011 | 168 | 須恵器 | 杯 | 6世紀 | 小片 | 外：回転ヘラズリ(砂←)、 ヘラ記号「≡」 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1012 | | 須恵器 | 高杯 | 6世紀後半 | 口径 13.8(1/4) | 外：スカシ2方向 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 第3層 |
| 284 | 1013 | | 須恵器 | 台付長頸 壺 | 6世紀後半か | 頸部径 6.7(1/2弱) 胴部径 15.7(1/2弱) | 外：回転ヘラズリ(砂←)、 ヘラナデ、スカシ3方向 内：指押さえナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1014 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀中頃 | 頸部径 5.5(2/3) | 外：カキメ 内：指押さえナデ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 284 | 1015 | | 須恵器 | 提瓶 | 6世紀後半か | 小片 | 外：カキメ、自然釉付着 内：指押さえ | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1016 | 171 | 須恵器 | 把手付椀 | 5世紀後半か | 口径 10.1(1/3) 底径 5.4(完) 器高 8.0 | 外：静止ヘラズリ、自然釉 付着 内：ナデ、自然釉付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1017 | | 須恵器 | 台付鉢 | 6世紀 | 口径 10.9(3/4) | 外：回転ヘラズリ(砂←)、 脚部欠損後加工 内：ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1018 | | 須恵器 | 台付鉢 | 6世紀か | 口径 11.8(若干のみ) 脚基部径 4.4(完) | 外：凹線1、回転ヘラズリ(砂 →) 内：ナデ | 5Y8/1 灰白 | 11-1 | 7 | 側溝掘削中 |
| 284 | 1019 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀中頃か | 口径 15.6(1/4) | 外：タタキ、タタキ(3条/cm) 後カキメ 内：同心円文状当て具痕 | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1020 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 17.8(1/3) | 外：タタキ後カキメ 内：同心円文状当て具痕 | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 284 | 1021 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半 | 口径 22.8(1/3) | 外：カキメ、タタキ後カキメ、 自然釉付着 内：同心円文状 当て具痕、自然釉付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 285 | 1022 | | 土師器 | 甕(把手) | 5世紀か | 小片 | 外：切り込み貫通 | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 3-7 | 3126 溝 |
| 285 | 1023 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀中頃か | 口径 12.5(1/7) 器高 4.7 | ゆがみ 外：回転ヘラズリ (砂→) 内：当て具痕? | 10YR7/1 灰白 | 11-1 | 3-4 | 第4-1層 |
| 285 | 1024 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 11.2(1/9) | 外：回転ヘラズリ(砂←) 内：ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 3-4 | 第4-2層 |
| 285 | 1025 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.8(1/7) | 外：回転ヘラズリ(砂←)、 受部に溶着 内：ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 3-4 | 第4-2層 |
| 285 | 1026 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.1(5/12) | | N5/0 灰 | 11-1 | 3-4 | 第4-1層 |
| 285 | 1027 | 186 | 石製品 | ? | ? | 長 2.3 幅 4.3 厚 1.1 | 滑石 穿孔?1 両面磨く | | 11-1 | 3-4 | 第4-1層 |
| 285 | 1028 | 171 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀 | 胴部径 5.0(1/4) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 3-9 | 第4層 |
| 285 | 1029 | 170 | 土師器 | 複合口縁 壺 | 布留式期か | 口径 25.6(1/4) | 外：ハケ 内：ハケ、黒色物質塗布? | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 285 | 1030 | | 土師器 | 高杯 | 5世紀末~ 6世紀初めか | 口径 16.0(1/9弱) | 外：指押さえ、ナデ 内：ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 285 | 1031 | 171 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀か | 胴部内径 3.0(1/5弱) | | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 285 | 1032 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 6世紀か | 小片 | 外：横ハケ 内：斜めハケ | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (34)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|------------|-----------------|----------------------------------|---|------------------|----------|------|----------------|
| 285 | 1033 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 6世紀か | 小片 | 外:横ハケ 内:ヘラナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 285 | 1034 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.9(2/3) 器高 4.3 | 外:凹線 1(2/3 周めぐり)、 回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 5PB5/1 青灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 285 | 1035 | 177 | 須恵器 | すり鉢 底部 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 底径 9.4(2/3 弱) | 外:底面刺突痕、自然軸付着 内:ナデ、使用痕?(磨耗) | N6/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 285 | 1036 | | 土師器 | 鉢 | 布留式期か | 口径 14.0(1/5) | 外:ヘラミガキ? 内:工具痕 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 第4-2層 |
| 285 | 1037 | | 土師器 | 杯 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 14.8(1/4) 器高 5.2 | 外:指押さえ後ヘラミガキ、 ヘラケズリ 内:放射状暗文、 見込み連結輪状暗文? | 7.5YR6/2 灰褐 | 12-1 | 4-2 | 第4層 |
| 285 | 1038 | | 土師器 | 製塩土器 脚? | 布留式期か | 底径 4.7~5.2(完) | 外:タタキ?、指押さえナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 12-1 | 4-2 | 第4-2層 |
| 285 | 1039 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀 | 脚基部径 4.5(1/2) | 外:スカシ(四角)推定4方向、 カキメ 内:ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 第4-1層 |
| 285 | 1040 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀後半か | 脚基部径 3.0(完) | 外:3方向スカシ切込み(孔 として存在せず) | N7/0 灰白 | 12-1 | 4-2 | 第3層 |
| 285 | 1041 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 4.7 幅 4.3 厚 1.2 | 泥岩 砥面 3 | | 12-1 | 4-2 | 第4-1層 |
| 285 | 1042 | | 土師器 | 竈? | ? | 小片 | 外:ハケ 内:指押さえナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 4-1 | 側溝掘削中 |
| 285 | 1043 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 15.1(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 粘土のたまり 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 4-1 | 4002 溝 |
| 285 | 1044 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 16.0(1/3) | 外:タタキ、タタキ(4条/cm) 後カキメ 内:同心円文状当て具痕 | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 4-1 | 4002 溝 |
| 285 | 1045 | 170 | 土師器 | 鉢 | 布留式期後半 | 口径 10.4(1/2 弱) 器高 6.4 | 外:ハケ 内:ナデ | 7.5YR4/4 褐 | 11-1 | 5-3 | 5863 土器群 |
| 285 | 1046 | | 土師器 | 甕 | 布留式期後半 | 口径 16.4(2/3) | 図上復元 外:ハケ 内:指 押さえナデ、ヘラケズリ | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 11-1 | 5-3 | 5863 土器群 |
| 285 | 1047 | | 須恵器 | 杯 | 5世紀後半か | 受部径 13.2(1/4) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:口縁端部段あり | N5/0 灰 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 285 | 1048 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半 | 口径 13.2(1/6 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 285 | 1049 | | 石製品 | 砥石? | ? | 長 9.6 幅 9.0 厚 9.6 | 砂岩 砥石とすれば砥面 2 | | 11-1 | 5-3 | 第4-1層 |
| 286 | 1050 | | 土師器 | 杯 | 5世紀か | 口径 10.8(1/4 弱) 器高 4.3 | 外:ハケ 内:ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1051 | | 土師器 | 高杯脚 | 5世紀 | 脚裾径 9.8(1/10) | 外:ヘラナデ後ナデ 内:ヘラケズリ、布目痕 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 286 | 1052 | | 土師器 | 甕 | 6世紀か | 口径 13.1(1/4) | 外:ハケ、二次焼成による? 赤色化 内:ハケ、ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 286 | 1053 | | 土師器 | 甕 | 6世紀末~ 7世紀前半か | 口径 14.4(若干のみ) 頸部径 12.4(1/4 強) | 外:ハケ、スス付着 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1054 | | 土師器 | 把手 | 6世紀か | 小片 | 外:切り込み貫通(断面図は 貫通していない箇所) | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5327 ビット |
| 286 | 1055 | | 土師器 | 甌 | 5世紀か | 小片 | 外:横ハケ後斜めハケ 内:縦ハケ | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1056 | | 土師器 | 甌 | 5世紀前半か | 底径 11.6(1/2 弱) | 外:タタキ(4条/cm)後一部 ナデ、ヘラケズリ?、二次焼 成による赤色化、蒸気孔 5 現 存 内:指押さえナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 286 | 1057 | 170 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 外:口縁端部格子タタキ? 生駒西麓産 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1058 | 170 | 土師器 | 竈 | ? | 口径 20.0(1/12) | 外:口縁端部同心円文状当て 具痕、ハケ 内:指押さえナ デ、スス付着 生駒西麓産 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1059 | 170 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 外:ハケ 内:指押さえナデ 生駒西麓産? | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1060 | 170 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 焚口 外:指押さえナデ 生駒西麓産? | 7.5YR5/6 明褐 | 11-1 | 5-2 | 第3層 |
| 286 | 1061 | 170 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 生駒西麓産 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1062 | 170 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 脚外:底部二次焼成による黒 色化 | 2.5Y7/4 浅黄 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1063 | 170 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 外:工具痕、底部二次焼成に よる黒色化 | 10YR6/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1064 | 171 | 土師器 | 製塩土器 | 5世紀 | 口径 3.8(1/2) | ゆがみ 丸底 1 b 式 外:指押さえナデ 内:ナデ、工具痕 内外面二 次焼成による白色化 | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 側溝掘削中 |
| 286 | 1065 | 170 | 土製品 | 土錘 | ? | 径 3.4 孔径 0.6 | | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 側溝掘削中 |
| 286 | 1066 | | 埴輪? | | 5~6世紀か | 小片 | 外:ハケ | 5YR8/3 淡橙 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 286 | 1067 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 5世紀後半か | 小片 | 川西編年Ⅳ期か 外:縦ハケ後横ハケ | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1068 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 5世紀 | 小片 | 外:横ハケ 内:指押さえナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (35)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------------|-------------|-----------------|--|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 286 | 1069 | 171 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 6世紀か | 小片 | 外:縦ハケ 内:指押さえナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 286 | 1070 | 171 | 埴輪? | | 5~6世紀か | 小片 | | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1071 | | 須恵器 | 杯蓋 | 5世紀 第3四半期 | 口径 12.4(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5614 井戸 |
| 286 | 1072 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀前半か | 稜径 11.9(1/3 弱) | 外:稜、回転ヘラケズリ(砂→) 内:口縁端部段 | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5327 ピット |
| 286 | 1073 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.3~14.7(完) 器高 4.1 | ゆがみ 外:回転ヘラケズリ (砂←) 内:ナデ | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1074 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 15.0~15.2(完) 器高 4.0 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1075 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~ 7世紀初め | 口径 12.3(1/2 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1076 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 12.2(1/4 強) 器高 3.5 | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「×」 内:ナデ | 5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1077 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀前半か | 口径 11.0(1/4) | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 粘土たまり 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5431 溝 |
| 286 | 1078 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 12.0(1/6) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5514 ピット |
| 286 | 1079 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 口径 11.0(1/4) | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1080 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 5世紀後半か | 口径 11.8(1/4) つま み径 2.2(完) 器高 4.6 | 外:稜、自然釉付着 内:ナデ | 10Y5/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1081 | | 須恵器 | 高杯蓋 | 6世紀 | つまみ径 3.7(1/2) | 外:カキメ 内:ナデ | 5YR5/4 にぶい赤褐 | 11-1 | 5-2 | 5521 溝 |
| 286 | 1082 | 171 | 須恵器 | 高杯 | 6世紀末~ 7世紀か | 口径 9.0(ほぼ完) | 外:カキメ 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1083 | 168 | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀末~ 7世紀前半か | 脚裾径 7.1(若干のみ) 脚基部径 3.6(完) | 内:ナデ、ヘラ記号「×」 | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 286 | 1084 | | 須恵器 | 壺 | 6世紀中頃か | 口径 11.0(1/4 弱) | | 5PB6/1 青灰 | 11-1 | 5-2 | 5530 ピット |
| 286 | 1085 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 胴部径 9.6(完) | 外:穿孔 1、凹線 1、回転ヘ ラケズリ(砂←)、底部敲打? | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1086 | | 須恵器 | すり鉢 底部 | 6世紀か | 底径 8.8(1/2 弱) | 外:底面回転ヘラケズリ(砂 ←)、ヘラ記号「ー」 | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 286 | 1087 | | 須恵器 | 甌か | 5世紀? | 口径 33.0(1/5) | 外:口縁端部粘土の付着 内:板ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 286 | 1088 | | 須恵器 | 甕 | 5世紀 第3四半期か | 口径 16.0(1/6 強) | 外:波状文(9条?)、凸線 1、 波状文(12条+?) 内:自然釉付着 | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 295 | 1089 | | 須恵器 | 椀 | 7世紀か | 口径 11.2(若干のみ) 胴部径 12.1(1/4 弱) | 外:凹線 1、回転ヘラケズリ(砂 ←) | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 掘立柱建物 14(5465 柱穴) |
| 295 | 1090 | | 須恵器 | 甕 | 7世紀か | 口径 16.5(1/4) | 外:カキメ? | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 5-2 | 掘立柱建物 14(5465 柱穴) |
| 295 | 1091 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀後半か | 小片 | 内:口縁端部段、ヘラミガキ | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 12-1 | 6-2 | 掘立柱建物 16(6064 柱穴) |
| 300 | 1092 | 171 | 土師器 | | | 小片 | 外:墨書、ナデ 内:ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5217 井戸 |
| 300 | 1093 | | 土師器 | 高杯脚 | 8世紀末~ 9世紀初めか | 脚部径 5.0(完) | 外:面取り 7面、ヘラケズリ 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5217 井戸 |
| 300 | 1094 | 171 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀か | 小片 | | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5217 井戸 |
| 300 | 1095 | | 須恵器 | 盤か | 8世紀末~ 9世紀か | 口径 56.0(1/12) | | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5217 井戸 |
| 300 | 1096 | | 土師器 | 皿 | 10世紀後半か | 口径 10.2(1/5) 器高 1.5 | テ字状 外:指押さえナデ 内:ナデ? | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1097 | | 土師器 | 皿 | 10世紀後半か | 口径 10.7(1/6) | テ字状 外:指押さえナデ 内:ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1098 | 171 | 土師器 | 皿 | 10世紀後半か | 口径 11.1(3/4) 器高 1.6 | テ字状 外:指押さえナデ 内:ナデ | 10YR8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1099 | | 土師器 | 皿 | 10世紀後半 | 口径 11.2(1/2 弱) 器高 1.8 | テ字状 外:指押さえナデ 内:ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1100 | | 土師器 | 皿 | 10世紀後半か | 口径 11.6(1/3) | テ字状 外:指押さえナデ 内:ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1101 | | 土師器 | 皿 | 10世紀後半か | 口径 11.4(1/4) | テ字状 外:指押さえナデ 内:ナデ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1102 | | 土師器 | 皿 | 10世紀後半か | 口径 12.2(1/4) | テ字状 外:指押さえナデ 内:ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1103 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀後半 | 口径 17.0(1/7 強) 高台径 9.0(3/4) 器高 6.8 | 外:ヘラケズリ後ヘラミガキ? 内:口縁端部沈線 1、ヘラミ ガキ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1104 | | 黒色土器 A類 | 椀底部 | 10世紀後半か | 高台径 7.3~7.5 (ほぼ完) | 内:ヘラミガキ | N3/0 暗灰 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1105 | | 土師器 | ミニチュア 土器 | ? | 口径 7.4(1/5) | 外:ナデ 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (36)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------------|------|-------------------|---|---|------------------|----------|------|----------------|
| 300 | 1106 | 171 | 土師器 | 羽釜 | 10世紀か | 口径 21.8(1/2弱) | 外:ハケ、スス附着 内:板ナデ?、コゲ附着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1107 | | 須恵器 | 杯B底部 | 8世紀後半か | 高台径 10.2(1/3弱) | 外:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1108 | | 須恵器 | 甕 | 8世紀末~ 9世紀初めか | 口径 23.4(1/6) | 外:タタキ後ナデ 内:同心円文状当て具痕 | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5367 井戸 |
| 300 | 1109 | | 土師器 | 羽釜 | 10世紀か | 口径 22.2(1/8弱) | 外:ハケ 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5368 井戸 |
| 300 | 1110 | 189 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 7.2 幅 5.4 厚 3.9 | 泥岩 砥面 1 側面二次焼成 を受ける | | 11-1 | 5-2 | 5368 井戸 |
| 300 | 1111 | | 土師器 | 甕 | 8世紀か | 口径 23.1(1/10) | 外:ナデ? 内:ナデ | 5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5614 井戸 |
| 302 | 1112 | | 石製品 | 根石 | | 長 19.2 幅 12.2 厚 12.1 | 花崗岩 礎石転用 側面一部 スス附着 | | 11-1 | 5-3 | 5761 土坑 |
| 302 | 1113 | | 石製品 | ? | | 長 27.2 幅 18.3 厚 11.5 | 結晶片岩 | | 11-1 | 5-3 | 5761 土坑 |
| 302 | 1114 | | 土師器 | 杯 | 8世紀前半か | 口径 16.8(1/12) | 外:ヘラケズリ 内:放射状 暗文、連結輪状暗文 | 5YR5/4 にぶい赤褐 | 11-1 | 5-2 | 5303 土坑 |
| 303 | 1115 | 171 | 土師器 | 台付皿 | 10世紀後半 | 口径 11.8(1/2弱) 高台径 5.6(1/3) 器高 2.9 | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 4-4 | D0070 ビット |
| 303 | 1116 | | 黒色土器 A類 | 椀底部 | 9世紀後半~ 10世紀前半か | 高台径 7.6(1/4強) | 外:ヘラケズリ? 内:ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5805 ビット |
| 303 | 1117 | 171 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 9世紀 | 底部基部径 5.0(1/6弱) | 内外面施釉 | 7.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5306 ビット |
| 303 | 1118 | 171 | 灰釉陶器 | 壺 | 9世紀か | 小片 | 外:把手、回転ヘラケズリ? 施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5540 ビット |
| 308 | 1119 | | 土師器 | 皿 | 古代~中世 | 小片 | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-7 | 3126 溝 |
| 308 | 1120 | | 土師器 | 椀底部 | 9~10世紀 か | 高台径 6.6(1/4強) | 外:ナデ? | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-1 | 8008 溝 |
| 308 | 1121 | | 黒色土器 A類 | 椀底部 | 10世紀か | 高台径 6.0(1/5) | | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 8-1 | 8008 溝 |
| 308 | 1122 | 182 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 側面幅 1.9 狭端縁連結面幅 1.9 | 凸:縄目タタキ後ナデ 凹:布目痕 | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 8-1 | 8008 溝 |
| 308 | 1123 | | 土師器 | 皿 | 9世紀か | 口径 14.0(1/4) | 外:指押さえナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1124 | | 土師器 | 椀C | 8世紀末~ 9世紀初めか | 口径 12.8(1/7) 器高 3.7 | 外:指押さえナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1125 | 182 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 狭端面幅 1.7 側面幅 2.1 | 凹:板ナデ、布目痕 凸:縄目タタキ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1126 | | 土師器 | 皿 | 9世紀か | 口径 12.4(1/5) 器高 2.2 | 外:指押さえナデ | 5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1127 | | 土師器 | 皿 | 9世紀か | 口径 15.0(1/3) 器高 2.2 | テ字状 外:指押さえナデ? | 7.5YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1128 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径 12.8(1/2) 器高 3.1 | 外:口縁端部一部スス附着 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1129 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径 13.6(3/4) 器高 4.0 | 外:指押さえナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1130 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径 13.6(4/5) 器高 3.7 | 内:ナデ、ヘラ記号「ー」 | 10YR8/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1131 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径 13.2(1/2) 器高 3.5 | 外:指押さえナデ 内:ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1132 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径 13.3(一部欠) 器高 2.7 | 外:指押さえナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1133 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径 13.6(3/4) 器高 2.8 | 外:指押さえナデ 内:口縁端部一部スス附着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1134 | | 土師器 | 椀C | 8世紀末~ 9世紀初めか | 口径 13.2(一部欠) 器高 3.5 | 外:指押さえナデ 内:口縁端部一部にスス附着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1135 | | 土師器 | 椀C | 8世紀末~ 9世紀初めか | 口径 13.8(1/2) | 外:指押さえナデ 内:ナデ、ヘラ記号「ー」 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1136 | | 土師器 | 椀C | 8世紀末~ 9世紀初めか | 口径 14.2(1/2) | 外:指押さえナデ 内:ナデ、 口縁端部一部スス附着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1137 | | 土師器 | 椀C | 8世紀末~ 9世紀初めか | 口径 13.7(1/3) | 外:指押さえナデ 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1138 | | 土師器 | 椀C | 8世紀末~ 9世紀初めか | 口径 14.3(1/2) 器高 3.5 | 外:指押さえ、ひび割れ、底 面型の痕跡? 内:ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1139 | | 土師器 | 椀 | 9世紀か | 口径 16.0(1/4) 高台 径 8.5(1/4) 器高 4.2 | 外:指押さえナデ? 内:口縁端部一部スス附着 | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 8048 溝 |
| 308 | 1140 | 173 | 須恵器 | 甕 | 8~9世紀か | 口径 14.9(完) 器高 29.5 | 外:タタキ(4条/cm)、自然 釉附着 内:同心円文状当て 具痕(上半ナデ消し) | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 4-1 | 4007 溝 |
| 310 | 1141 | 190 | 木製品 | 不明 | | 長 50.7 幅 4.2 厚 2.7 | スギ 上部は自然の枝を利用し、 下部は端部・側面に加工 痕 | | 11-1 | 5-3 | 5756 溝 |
| 310 | 1142 | | 土師器 | 高杯 | 6世紀末~ 7世紀初め | 稜径 8.0(2/3) | 外:指押さえナデ 内:放射状暗文 | 7.5YR8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (37)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|-----------|-----------------|---------------------------------------|---|------------------|----------|------|----------------|
| 310 | 1143 | 173 | 土師器 | 台付鉢 台部 | 6~7世紀 | 底径 9.2(ほぼ完) | 外:指押さえナデ、底面木の 葉痕 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1144 | | 土師器 | 甕 | 7世紀? | 口径 19.3(1/8) | 内:指押さえナデ | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1145 | | 土師器 | 甕 | 7世紀か | 口径 22.2(1/5) | 外:ハケ、スス付着 内:ハケ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1146 | | 土師器 | 把手 | 6世紀か | 小片 | 外:指押さえナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1147 | 174 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 外:口縁端部同心円文状当て 具痕、ハケ 内:指押さえナ デ、スス付着 生駒西麓産 | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1148 | 174 | 土師器 | 竈 | ? | 口径 18.2(1/8) | 外:ハケ 内:ナデ、スス付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1149 | 174 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 外:ハケ 内:指押さえ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1150 | 174 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 外:ハケ 内:端部ヘラ痕 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1151 | 174 | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 脚外:二次焼成による黒色化 | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1152 | 174 | 土製品 | 輪の羽口 | ? | 小片 | 外:ナデ、二次焼成による黒 色化 内:ナデ? | 10YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1153 | 174 | 土製品 | 土鈴? | ? | 径 4.5 × 5.0 孔径 1.5 × 1.1 高 4.2 | 外:指押さえナデ 中に粘土 の塊あり | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1154 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 12.0(1/4) 器高 3.8 | 外:ヘラ切り? 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1155 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 12.9(1/6) 器高 4.5 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1156 | 174 | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀後半か | 口径 14.8(1/2) 器高 3.9 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1157 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~7 世紀初頭 | 口径 12.3(1/2) 器高 3.5 | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1158 | | 須恵器 | 杯蓋 | 6世紀末~7 世紀初頭 | 口径 12.3(1/4 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂→) 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1159 | 174 | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半~ 中頃 | 口径 8.7(1/2) つまみ 径 1.1(完) 器高 2.8 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 ヘラ記号「一」 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1160 | | 須恵器 | 杯 | 6世紀後半か | 口径 13.6(1/3) 器高 3.9 | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 溶着、自然釉付着 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1161 | | 須恵器 | 杯 | 7世紀前半 | 口径 9.1(1/6) 器高 2.1 | つまみが無いので杯にした 外:ヘラ切り 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1162 | 174 | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半 | 口径 10.0(完) 器高 3.2 | 外:ヘラ切り、底面ヘラ記号 「×」、粘土のたまり 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1163 | 174 | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半 | 口径 10.0(3/4) 器高 3.7 | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 溶着、灰かぶり? | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1164 | | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半~ 中頃か | 口径 10.4(5/12) | 外:ヘラ切り、自然釉付着 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1165 | | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半か | 口径 10.5(5/12) | 外:ヘラ切り、自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1166 | 174 | 須恵器 | 杯 G | 7世紀前半~ 中頃 | 口径 11.0(1/2) 器高 3.9 | 外:ヘラ切り、粘土のたまり 内:ナデ 焼成不良 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1167 | | 須恵器 | 杯 G | 7世紀前半~ 中頃か | 口径 11.8(1/4) 器高 3.4 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1168 | | 須恵器 | 杯 A | 7世紀中か | 口径 11.3(1/4) 器高 3.0 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1169 | | 須恵器 | 杯 B | 8世紀か | 口径 15.3(1/4) 高台 径 11.0(1/3) 器高 3.6 | 外:ナデ? 内:ナデ | 10Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1170 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀中頃か | 口径 11.5(1/6) | 外:凹線 2 間列点文 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1171 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀中頃か | 口径 11.1(1/12) | 外:凸線 2 | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1172 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀後半か | 口径 15.9(1/12) | 外:凹線 1、回転ヘラケズリ(砂 ←) 内:自然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1173 | | 須恵器 | 無蓋高杯 | 6世紀か | 口径 15.7(1/8) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ、ヘラ記号? | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1174 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀初めか | 脚裾径 9.4(1/4) | 外:スカシ 推定 4 方向、カキメ、 脚端部竹管文? | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1175 | | 須恵器 | 高杯脚 | 6世紀末~ 7世紀前半か | 脚裾径 13.6(1/3) | 外:スカシ 3 方向 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1176 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀前半 | 脚裾径 8.8(5/12) | 外:回転ヘラケズリ 焼成不良 | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1177 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀前半か | 脚裾径 8.8(1/3) | | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 310 | 1178 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀前半 | 脚裾径 11.8(1/3) | 焼成不良 | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 311 | 1179 | | 須恵器 | 臚 | 7世紀前半か | 口径 12.2(1/4 強) | 外:凸線 1、沈線 2 内:自然釉付着 | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 311 | 1180 | | 須恵器 | 臚 | 6世紀末~ 7世紀初めか | 胴部径 8.9(完) | 外:穿孔 1、凹線 1、回転ヘ ラケズリ(砂←) | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 311 | 1181 | | 須恵器 | 臚 | 7世紀前半か | 胴部径 9.7(1/2) | 外:凹線 2 間列点文、カキメ、 自然釉付着 内:自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (38)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-------------|-------------|---------------|--|---|------------------|----------|------|----------------|
| 311 | 1182 | 174 | 須恵器 | 平瓶 | 6世紀末～7世紀初めか | 胴部径 17.8(完) | 外:カキメ、灰かぶり 内:灰かぶり | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 311 | 1183 | | 須恵器 | すり鉢 | 7世紀か | 口径(若干のみ) 底径 7.4(1/5) 器高 6.8 | 外:底面ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 311 | 1184 | | 須恵器 | 甕 | 6世紀後半か | 口径 17.2(1/5) | 外:タタキ(4条/cm) 内:同心円文状当て具痕 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 311 | 1185 | 174 | 須恵器 | 甕 | 7世紀か | 口径 27.0(1/3) | ゆがみ 外:凹線 1・2・1、縦線文、 タタキ(3条/cm)後カキメ 内:同心円文状当て具痕 | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 311 | 1186 | | 石製品 | 砥石? | ? | 長 6.7 幅 3.5 厚 2.1 | 泥岩 | | 11-1 | 5-2 | 5546 溝 |
| 315 | 1187 | 176 | 土師器 | 杯か皿 | ? | 小片 | 外:指押さえナデ、墨書「倉」 か 内:同心円状ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1188 | | 土師器 | 杯 | 8世紀後半 | 口径 13.2(1/3) 器高 2.5 | 外:指押さえナデ 内:口縁部沈線 1 | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1189 | 174 | 土師器 | 杯 | 8世紀後半 | 口径 12.7～13.5(3/4強) 器高 2.7～3.2 | ゆがみ 外:指押さえ、ナデ 内:ナデ | 10YR4/2 灰黄褐 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1190 | | 土師器 | 杯 | 10世紀か | 口径 14.2(1/12) 器高 3.0 | 外:指押さえナデ | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1191 | | 土師器 | 椀 A | 8世紀末～9世紀初め | 口径 14.0(3/7) | 外:ヘラケズリ 内:ハケ? | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1192 | | 土師器 | 高杯脚 | 8世紀前半 | 脚基部径 5.7(完) | 外:面取り 11 面、ハケ後ヘ ラケズリ 内:しぼり目、ハケ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1193 | | 土師器 | 壺 E | 8世紀末～9世紀初め | 口径 8.3(1/7) | 外:ヘラミガキ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1194 | 174 | 黒色土器 A 類 | 椀 | 10世紀前半 | 口径 14.2(1/2弱) 高台径 7.2(1/3) | 外:指押さえナデ後一部ヘラ ミガキ、ヘラケズリ後一部ヘ ラミガキ 内:ヘラミガキ | 5Y2/1 黒 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1195 | | 土師器 | 甕 | 8世紀後半か | 口径 18.5(1/4) | 外:指押さえ後ハケ 内:ハケ、指押さえ後ハケ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1196 | | 土師器 | 甕 | 8世紀末～9世紀初めか | 口径 27.0(1/4) | 外:ハケ、スス付着 内:ハケ、 指押さえナデ、コゲ付着 | 2.5Y4/1 黄灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1197 | 175 | 土師器 | 羽釜 | 10世紀末～11世紀初めか | 口径 19.6(1/8) | 外:ハケ、スス付着 内:ナデ、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1198 | 175 | 土師器 | 羽釜脚 | ? | 脚下端部径 4.0(完) | 外:指押さえ後ハケ、スス付 着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1199 | 177 | 土製品 | ミニチュア 土器 | 8～9世紀か | 口径 4.9～5.1(5/6) 器高 4.3 | 外:指押さえ、ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1200 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀か | 小片 | 内:指押さえナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1201 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀か | 小片 | 外:二次焼成による赤色化 | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1202 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半～9世紀初め | 小片 | 外:指押さえナデ 内:布目痕 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1203 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀か | 胴部径 11.0(1/4弱) | 内:板ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1204 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀 | 胴部径 7.0(1/4弱) | 外:指押さえナデ 内:布目痕(縦じ目あり) | 10YR4/1 褐灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1205 | 176 | 須恵器 | 杯 B 蓋 | 8世紀後半か | 口径 11.3(一部欠) つまみ径 1.9(完) 器高 1.8 | 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1206 | | 須恵器 | 杯 A | 8世紀末か | 口径 12.5(1/3) | 外:ヘラ切り? | N7/0 灰白 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1207 | 176 | 須恵器 | 杯 B | 8世紀後半か | 口径 17.0(1/4強) 高台径 12.0(1/2) 器高 5.5～5.7 | 外:ヘラ切り?、底面にヘラ 描波状文 | N5/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1208 | | 須恵器 | 壺 M か | 8世紀末～9世紀初めか | 高台径 4.6(2/3) | 外:ヘラナデ?、ヘラ切り? 内:自然釉付着 | N5/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1209 | | 須恵器 | 壺 L か K | 8世紀前半か | 口径 10.4(1/9) | 外:凹線 1、自然釉付着 内:自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1210 | 176 | 須恵器 | 壺 L | 9世紀初めか | 口径 8.2(1/4) 底径 6.7(完) 器高 17.9 | 外:凹線 22、ヘラナデ、糸切 り底、自然釉付着 内:自然釉付着 | N4/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1211 | | 須恵器 | 壺 A | 8世紀 | 口径 10.9(1/4) | 外:溶着、自然釉付着、蓋付 き焼成の痕跡あり | N6/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1212 | | 須恵器 | 甕 B | 8世紀 | 口径 16.0(1/4強) | 外:タタキ、タタキ(4条/cm) 後カキメ 内:同心円文状当 て具痕、自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1213 | 176 | 須恵器 | 円面硯 | 8世紀か | 口径 11.6(1/7) 脚 裾径 13.7(1/7) 器 高 73.6 | 外:凸線(1・1)、スカシ推定 6方向 | N5/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1214 | 183 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 端面幅 1.6～1.9 狭端縁連結面幅 1.8 玉縁端面幅 1.1 | 凸:縄目タタキ後ナデ 凹:布目痕、ヘラケズリ 吉志部瓦窯か | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 315 | 1215 | 183 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 広端面幅 1.7 側面幅 1.3～1.7 | 凸:縄目タタキ後ナデ 凹:布目痕後一部板ナデ 吉志部瓦窯か | N5/0 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (39)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構番号・名 |
|------|------|--------------|-----|------------|-------------------|----------------------------------|---|------------------|------|------|----------------------|
| 316 | 1216 | 183 | 瓦 | 丸瓦 | | 側面幅 1.3 ~ 1.7 玉縁端面幅 0.9 | 凸: 縄目タタキ後ナデ 凹: 布目痕後一部板ナデ 吉志部瓦窯か | N2/O 黒 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 316 | 1217 | 182 | 瓦 | 平瓦 | 平安 | 側面幅 1.6 広端面幅 1.8 ~ 2.0 | 凹: 布目痕 凸: 縄目タタキ、砂粒付着 | N5/O 灰 | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 316 | 1218 | 189 | 石製品 | 鋳型? | ? | 長 8.7 幅 8.1 厚 2.4 | 砂岩 3面被熱 端部に刻目 | | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 316 | 1219 | 190 | 木製品 | 曲げ物 | | 径 22.8 高 19.6 | ヒノキ 図上復元 釘孔 9 個残 内: 切り込み、黒色物質塗布 | | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 316 | 1220 | 190 | 木製品 | 曲げ物 底板 | | 長 11.9 幅 4.7 厚 0.7 | ヒノキ 外: 釘穴 1 残、加工痕 | | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 316 | 1221 | 190 | 木製品 | 曲げ物 底板 | | 長 32.6 幅 14.0 厚 0.7 | ヒノキ 内: 釘孔 2 残、細かい線刻、黒色物質塗布 | | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 316 | 1222 | 191 | 木製品 | 不明 | | 長 14.5 幅 3.7 厚 2.1 | アカガシ垂属 | | 11-1 | 3-3 | 3077 流路 |
| 317 | 1223 | 原 10・ 172 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.6 (完) 器高 3.6 | 外: 指押さえナデ、墨書「王」 内: ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1224 | 原 10・ 172 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.5 (完) 器高 3.7 | 外: 指押さえナデ、墨書「王」 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1225 | 原 10・ 172 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.6 (3/4) 器高 3.5 | 外: 指押さえナデ、墨書「王」 内: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1226 | 原 10・ 172 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.9 ~ 14.1 (8/9) 器高 3.6 | 外: 指押さえナデ、墨書「王」 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1227 | 原 10・ 172 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 14.0 (1/2 弱) 器高 3.4 | 外: 指押さえナデ、墨書「王」 内: ナデ 黒斑あり | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1228 | 原 10・ 173 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.9 (6/7) | 外: 指押さえナデ、墨書「王」 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1229 | 原 10・ 173 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 14.8 (1/2 弱) 器高 3.5 | 外: 指押さえナデ、墨書「王」 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1230 | 原 10・ 173 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.8 (11/12) 器高 3.6 | 外: 指押さえナデ、墨書 内: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1231 | 原 10・ 173 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 14.4 (1/2 強) 器高 3.7 | 外: 指押さえナデ、墨書? 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1232 | | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.0 (7/12) 器高 4.1 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 2.5Y7/8 黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1233 | | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.4 (1/2 弱) | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1234 | | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.8 ~ 14.1 (3/4) | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1235 | | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.8 (11/12) | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 2.5Y7/4 浅黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1236 | | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 14.0 (1/6 強) | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 2.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1237 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.6 ~ 13.8 (6/7) 器高 3.6 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR6/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1238 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.0 ~ 13.6 (完) 器高 4.0 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1239 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 12.8 ~ 13.4 (完) 器高 3.9 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ、スス付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1240 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.7 (完) 器高 3.6 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1241 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.4 ~ 13.7 (完) 器高 4.1 | ゆがみ 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1242 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.7 (1/3 強) 器高 3.9 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1243 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.5 (完) 器高 3.9 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1244 | | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.5 (2/3 弱) 器高 3.7 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1245 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.7 (7/8) 器高 3.4 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1246 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.8 (5/6) 器高 3.7 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1247 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.8 (完) 器高 3.8 | 外: 指押さえナデ、スス付着 内: ナデ、スス付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1248 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.7 ~ 14.1 (完) 器高 3.6 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1249 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.9 ~ 14.3 (6/7 強) 器高 4.2 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1250 | 原 10 | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.1 ~ 13.4 (完) 器高 3.7 | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1251 | | 土師器 | 椀 C | 8 世紀末 ~ 9 世紀初め | 口径 13.5 (1/2 弱) | 外: 指押さえナデ 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1252 | 191 | 木製品 | 容器の 底板か | | 長 21.3 幅 5.9 厚 0.5 | ヒノキ 内: 樹皮紐 1、切り込み | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (40)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|---------|-------------------|--|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 317 | 1253 | 191 | 木製品 | 有頭棒状 | | 長 10.5 幅 4.6 厚 4.5 | アカガシ亜属 頭部その下方を加工 | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 317 | 1254 | 191 | 木製品 | 板状 | | 長 16.9 幅 56.0 厚 0.5 孔径 0.4 | ヒノキ 孔 4 残 | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1255 | | 土師器 | 杯 | 8 世紀後半 | 口径 10.6(1/3) 器高 2.3 | 外:指押さえ 内:口縁部スス付着 | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1256 | | 土師器 | 杯 | 8 世紀後半 | 口径 13.3(1/3) | 外:指押さえナデ 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1257 | | 土師器 | 杯 C | 8 世紀後半 | 口径 14.8(1/6) 器高 2.3 | 外:指押さえ後ヘラケズリ 内:放射状暗文、連結輪状暗文 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1258 | | 土師器 | 杯 | 8 世紀後半 | 口径 15.4(1/5) | 外:指押さえ後板ナデ 内:ナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1259 | 175 | 土師器 | 杯 | 8 世紀後半 | 口径 13.9(1/4) 器高 3.4 | 外:指押さえ、ヘラ記号「×」 内:口縁部 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1260 | | 土師器 | 椀か | 8 世紀末～ 9 世紀初め | 口径 11.9(1/3) | 外:指押さえ | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1261 | | 土師器 | 皿 C | 8 世紀後半 | 口径 9.2(1/4 弱) | 外:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1262 | | 土師器 | 皿 B | 8 世紀後半 | 口径 25.0(1/12) 高台 径 21.2(1/8) 器高 2.8 | 外:底面ヘラケズリ 内:放射状暗文 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1263 | | 土師器 | 皿 | 8 世紀後半 | 口径 19.9(1/3) | 外:指押さえナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1264 | | 土師器 | 皿 | 8 世紀末～ 9 世紀初め | 口径 20.7(1/6 強) | 外:指押さえナデ、底面に置 き台の痕跡 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1265 | 176 | 土師器 | 皿 | 8 世紀末か | 口径 15.5(1/4) 器高 1.8 | 外:指押さえナデ、墨書「井」 内:口縁部沈線 1、スス付 着 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1266 | 176 | 土師器 | 皿か杯 | | 小片 | 外:指押さえ、ナデ、墨書 内: ナデ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1267 | 176 | 土師器 | 皿か杯 | 8 世紀後半か | 小片 | 外:指押さえナデ、墨書 内:連結輪状暗文 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1268 | 175 | 土師器 | 甕 | 8 世紀末～ 9 世紀初め | 口径 14.5(1/13) | 外:人面墨画、ハケ 内:ハケ、 工具ナデ、ハケ後ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1269 | 175 | 土師器 | 甕 | 8～9 世紀か | 小片 | 外:人面墨画、ハケ 内:板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1270 | 175 | 土師器 | 甕 | 8～9 世紀か | 小片 | 外:人面墨画、ハケ 内:板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1271 | 175 | 土師器 | 甕 | 8～9 世紀か | 小片 | 外:人面墨画、ハケ 内:ハケ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1272 | 175 | 土師器 | 甕 | 8～9 世紀か | 小片 | 外:人面墨画、ハケ 内:ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 318 | 1273 | 175 | 土師器 | 甕 | 8 世紀末～ 9 世紀初め | 口径 23.0(1/8) | 外:全面人面墨画、凹線?1、 ハケ 内:ハケ、ナデ、工具痕、 指押さえ | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1274 | | 土師器 | 甕 | 8 世紀後半か | 口径 21.8(1/4) | 外:板状工具痕、ハケ 内: ハケ、ヘラケズリ、コゲ付着 | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1275 | 174 | 土師器 | 甕 | 8 世紀後半 | 口径 24.8(ほぼ完) | 外:ハケ、スス付着 内:ハケ、指押さえナデ | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1276 | | 土師器 | 甕 | 8 世紀後半 | 口径 29.0(1/4 弱) | 外:ハケ、スス付着 内:ハケ、スス付着 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1277 | 175 | 土師器 | 羽釜 | ? | 脚端部径 4.3 | 外:ハケ、型で作ったような 痕跡あり、スス付着 内:指押さえナデ | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1278 | 176 | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀末～ 8 世紀初め | 口径 12.4(7/12) 器高 3.6 | ゆがみ 外:ヘラケズリ後ナ デ? 内:ナデ | 5P86/1 青灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1279 | | 須恵器 | 杯 G | 7 世紀末～ 8 世紀初め | 口径 13.3(1/4) | 外:ヘラ切り? | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1280 | | 須恵器 | 杯 G か A | 7 世紀後半～ 8 世紀前半 | 口径 12.0(1/6) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) | N8/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1281 | | 須恵器 | 杯 A | 8 世紀後半か | 口径 13.8(1/4) | 外:糸切り? | 5RP7/1 明紫灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1282 | 176 | 須恵器 | 杯 A 底部 | 8 世紀末か | 底径 9.0(1/5 強) | 外:ヘラ切り、墨書 内:墨書「井?」 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1283 | 176 | 須恵器 | 杯 B 蓋 | 8 世紀 第 2 四半期 | 口径 13.5(7/8) つま み径 2.2(完) 器高 2.5 | 外:スス付着 内:ナデ、スス付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1284 | 176 | 須恵器 | 杯 B 蓋 | 8 世紀末か | 口径 20.0(1/8 強) | 外:回転ヘラケズリ? 内:ヘラナデ?、墨書「?借」 | 5YR6/2 灰褐 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1285 | | 須恵器 | 杯 B | 8 世紀後半か | 口径 12.3(1/4) 高台 径 9.0(1/3) 器高 3.4 | 外:底部ヘラ切り?後ナデ | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1286 | | 須恵器 | 杯 B | 8 世紀末～ 9 世紀初め | 高台径 10.1(1/2 弱) | 外:底面未調整 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1287 | | 須恵器 | 杯 B | 8 世紀後半か | 高台径 11.4(5/12) | 外:底面ナデ 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1288 | | 須恵器 | 蓋か | 8 世紀か | 口径 9.1(1/4) 器高 1.7 | 外:ナデ? | N5/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (41)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量 (単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-----|-------------|------------------|-------------------------------------|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 319 | 1289 | | 須恵器 | 壺 C か | 8世紀前半か | 胴部径 10.0(1/2 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1290 | 176 | 須恵器 | 壺 C | 8世紀前半 | 口径 5.3(1/7) 器高 6.0 | 外:回転ヘラケズリ(砂→)、 自然釉付着 内:自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1291 | 176 | 須恵器 | 壺 M | 8世紀末か | 高台径 4.7(完) | 外:ヘラナデ、回転ヘラケズ リ(砂→)、自然釉付着 内:自然釉付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1292 | | 須恵器 | 壺 A 蓋 | 8世紀前半 | 口径 20.0(1/7) | 外:自然釉付着 内:口縁端部 | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1293 | | 須恵器 | 壺 A | 7世紀後半～ 8世紀初めか | 口径 10.4(1/10) | 外:沈線 2・2、回転ヘラケズ リ?、灰かぶり 内:ナデ | N4/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1294 | | 須恵器 | 壺 A | 8世紀 | 口径 11.3(1/4) | 外:自然釉付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1295 | | 須恵器 | 壺底部 | 8世紀 | 高台径 10.4(1/2 弱) | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 ナデ | 5PB5/1 青灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1296 | | 須恵器 | 壺底部 | 8世紀前半 | 高台径 14.2(1/3) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | 5PB6/1 青灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1297 | 176 | 須恵器 | 壺底部 | 8世紀前半か | 高台径 11.5(2/3) | 外:回転ヘラケズリ、墨書「 井」 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1298 | 176 | 須恵器 | 平瓶 | 8世紀前半か | 口径 5.2(7/12) 器高 6.6 | 外:ヘラ切り後ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1299 | | 須恵器 | すり鉢 底部 | 8世紀か | 底径 8.0(完) | 外:指押さえ後板ナデ、ヘラ 切り?後ナデ | 10Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 319 | 1300 | | 須恵器 | 甕 | 7世紀前半か | 口径 18.2(1/4 強) | 外:カキメ、タタキ後カキメ 内:同心円文状当て具痕 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1301 | 177 | 土製品 | ミニチュア 土器 | 8～9世紀か | 底径 10.7～10.9(完) 器高 6.3 | 外:指押さえナデ、竈焚口は ヘラ切り 内:板ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1302 | 177 | 土製品 | ミニチュア 土器 | 8～9世紀か | 底径 11.0(1/4) 器高 5.7～6.0 | 外:指押さえナデ 内:ナデ、板ナデ | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1303 | 177 | 土製品 | 土馬 | 8世紀末か | 長 10.4 幅 5.8 高 8.9 | 小笠原編年Ⅱ段階 F 形式か 指ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1304 | 177 | 土製品 | 土馬 | 8世紀末か | 長 8.6 幅 4.4 高 8.1 | 小笠原編年Ⅱ段階 F 形式か 指ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1305 | 178 | 土製品 | 埴塙 | ? | 口径 7.2(1/6) | 外:鉢物の吹きこぼれ 内:鉢物付着 | N6/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1306 | 176 | 土製品 | 籬の羽口 | ? | 小片 | 外:鉢物付着? | 2.5YR6/3 にぶい橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1307 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀か | 小片 | 外:指押さえ 内:指押さえ ナデ、二次焼成による赤色化 | 2.5YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1308 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半か | 口径 6.5(1/4) | 外:指押さえ 内:指押さえ後ハケ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1309 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半か | 口径 9.0(1/5) | 外:指押さえ 内:工具ナデ | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1310 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半～ 9世紀前半 | 小片 | 外:指押さえナデ 内:指ナデ | 5YR3/1 黒褐 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1311 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半～ 9世紀初めか | 小片 | 外:指押さえ 内:ナデ | 5YR5/6 明赤褐 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1312 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半～ 9世紀前半 | 小片 | 外:指押さえナデ 内:ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1313 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半～ 9世紀前半 | 小片 | 外:指押さえ 内:布目痕 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1314 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀後半～ 9世紀前半 | 小片 | 外:指押さえナデ 内:布目痕 | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1315 | 182 | 瓦 | 軒丸瓦 | 奈良時代 | 小片 | 凸線鋸歯文、珠文、ヘラケズ リ 七尾瓦窯か | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1316 | 184 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 狭縁端連結面幅 0.9 | 凸:縄目タタキ後ナデ 凹:布目痕 | N5/0 灰 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1317 | 184 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 広端面幅 1.4 側端面幅 1.2 狭縁端連結面幅 1.7 | 凸:縄目タタキ後ナデ 凹:布目痕 | N2/0 黒 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1318 | 184 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 小片 | 凹:布目痕、ヘラケズリ 凸:格子タタキ | N8/0 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1319 | 184 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 小片 | 凹:布目痕後ヘラケズリ、ス ス付着 凸:格子タタキ、スス付着 | 7.5YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1320 | 184 | 瓦 | 軒平瓦か | 奈良時代 | 小片 | 凹:板ナデ 凸:ヘラケズリ、 一部赤色顔料塗布 | 10YR8/1 灰白 | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1321 | 189 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 4.9 幅 2.5 厚 2.2 | 泥岩 砥面 4 | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 320 | 1322 | 189 | 石製品 | 台石? | ? | 長さ 21.7 幅 15.6 厚 9.7 | 砂岩 表・裏面敲打痕 被熱 | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 321 | 1323 | 190 | 木製品 | 漆器椀 | | 高台基部径 8.4(1/2) | ヤマグワ 内外面:黒漆 | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 321 | 1324 | 190 | 木製品 | 皿 | | 口径 23.0(1/4 強) 器高 1.5 | ヒノキ 内外面切り込み | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (42)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|-------------|------------|-------------------|--|---|-------------------|----------|------|----------------------------|
| 321 | 1325 | 191 | 木製品 | 曲げ物 | | 内径 13.6(2/3) | ヒノキ 木釘 2 残 内面漆塗り(生漆に炭を混ぜる) 乾燥が足りなかったのかみみずばれのようなしわが多い | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 321 | 1326 | 191 | 木製品 | 曲げ物 底板 | | 径 12.0(1/2 強) 厚 0.9 | ヒノキ 木釘 2 残 | | 11-1 | 8-2 | 3077 流路 (8052 流路) |
| 321 | 1327 | 174 | 土師器 | 杯 | 7 世紀前半 | 口径 18.2(1/3) 器高 7.5 | 外: 指押さえ後ヘラミガキ、指押さえ後ヘラケズリ 内: 口縁端部段、ヘラミガキ、放射状暗文 | 5YR5/4 にぶい赤褐 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1328 | | 土師器 | 杯 C | 8 世紀後半 | 口径 17.5(1/10) | 外: 指押さえナデ 内: 放射状暗文、連結輪状暗文?、スス付着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1329 | | 土師器 | 杯 C | 8 世紀後半か | 口径 15.8(1/9) | 外: 指押さえナデ、スス付着 内: 口縁端部段 | 7.5YR5/3 にぶい褐 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1330 | 174 | 土師器 | 皿 C | 8 世紀末~ 9 世紀初め | 口径 10.7(完) 器高 2.1 | 灯明皿 外: 指押さえナデ、口縁端部スス付着 内: 口縁部スス付着 | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1331 | | 土師器 | 皿 | 8 世紀末~ 9 世紀初めか | 口径 13.7(1/4 弱) | 外: 指押さえナデ | 5YR6/6 橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1332 | | 土師器 | 皿 A | 8 世紀末~ 9 世紀初め | 口径 15.8(1/4) 器高 2.5 | 灯明皿 外: 指押さえナデ 内: 口縁端部スス付着 | 5YR6/4 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1333 | | 土師器 | 皿 | 9 世紀か | 口径 14.6(1/6) 器高 2.2 | て字状 外: 指押さえナデ、ヘラケズリ? 内: 指押さえナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1334 | 174 | 土師器 | 椀 | 8 世紀後半か | 口径 17.7(1/2 弱) 器高 6.5 | 外: 指押さえ後ヘラミガキ 内: ナデ、工具痕 | 2.5Y6/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1335 | | 黒色土器 A 類 | 椀底部 | 10 世紀か | 高台径 8.6(若干のみ) | 内: ヘラミガキ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1336 | | 土師器 | 甕 | 7 世紀か | 口径 20.7(1/8) | 外: ハケ、スス付着 内: ハケ、ヘラナデ | N2/0 黒 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1337 | 174 | 土師器 | 甕 | 8 世紀後半か | 口径 28.9(1/2) | 外: ハケ、スス付着 内: ハケ、指押さえ後ハケ、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015・ 8005 流路) |
| 321 | 1338 | 175 | 土師器 | 羽釜 | 10 世紀前半 | 口径 24.0(1/8) | 外: ハケ、スス付着 内: ナデ、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1339 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8 世紀か | 小片 | | 10YR8/2 灰白 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1340 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8~9 世紀 | 小片 | 内: 布目痕(細かい) | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1341 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8~9 世紀 | 小片 | 内: 布目痕 | 2.5YR5/4 にぶい赤褐 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1342 | 178 | 土師器 | 製塩土器 | 8~9 世紀 | 小片 | 外: 指押さえナデ 内: 布目痕 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1343 | 177 | 土製品 | 土馬 | 8 世紀末か | 長 7.0 幅 6.2 高 8.0 | 小笠原編年 II 段階 F 形式か 指ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1344 | | 須恵器 | 杯 B | 8 世紀後半 | 口径 12.7(1/4 強) 高台径 9.1(1/2 弱) 器高 4.2 | 外底面ナデ、ヘラ記号? 「-」 内: ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1345 | 176 | 須恵器 | 壺 C | 8 世紀後半か | 口径 7.7(7/12) 器高 7.6 | 外: 回転ヘラケズリ(砂←)、 蓋付で焼かれたのか口縁部だけ色調違う | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1346 | 182 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 広端面幅 1.9 側端面幅 1.5 狭端縁連結面幅 1.6 | 凸: 縄目タタキ後ナデ 凹: 布目痕、ナデ 吉志部瓦窯か | N3/0 暗灰 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1347 | 182 | 瓦 | 丸瓦 | 古代 | 側端面幅 1.2 | 凸: 縄目タタキ後ナデ 凹: 布目痕 | N2/0 黒 | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 321 | 1348 | 182 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 狭端面幅 1.2 側面幅 1.2 | 凹: 布目痕後ナデ、ヘラケズリ 凸: 縄目タタキ後ナデ | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 81 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 322 | 1349 | 190 | 木製品 | 漆器椀 | | 口径 15.8(1/3) 高台 径 6.9(完) 器高 6.9 | サクラ属 高台部黒漆以外朱漆塗布 | | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 322 | 1350 | 191 | 木製品 | 曲げ物 底板? | | 径 18.3(1/2) 厚 0.5 | ヒノキ 樹皮の紐 1 残 内面に弧状線刻 | | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 322 | 1351 | 191 | 木製品 | 横斧の柄 | | 長 10.0 幅 3.0 厚(台部) 1.3 | コナラ亜属 側面に加工痕 | | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 322 | 1352 | 191 | 木製品 | 板状 | | 長 22.7 幅 4.0 厚 0.4 | ヒノキ 穿孔 2 残 | | 11-1 | 8-1 | 3077 流路 (8015 流路) |
| 322 | 1353 | | 土師器 | 甕 | 8 世紀か | 口径 15.0(1/6) | 外: 指押さえ、ナデ、スス付着 内: 指押さナデ、板ナデ、スス付着 | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1354 | | 土師器 | 鍋 | 8 世紀か | 底径 13.2(5/6 強) | 外: 板ナデ、ヘラケズリ、底 面製作時の痕跡、二次焼成による 赤色化? 内: ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1355 | 175 | 土師器 | ? | ? | 小片 | 外: 板ナデ、ナデ、炭化 | 5Y2/1 黒 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1356 | | 須恵器 | 杯 A | 8 世紀後半か | 口径 12.0(1/6) | 外: ヘラ切り、ナデ | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (43)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 図版番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|------|------|------|-------------|-----------|--------------------|---|---|------------------|------|------|----------------------|
| 322 | 1357 | | 須恵器 | 杯 G 蓋 | 7世紀前半～ 中頃か | 口径 10.2(1/13) | 外：回転ヘラケズリ? 内：ナデ | N5/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1358 | | 須恵器 | 杯 B 蓋 | 8世紀 第1四半期 | 口径 16.4～16.6(1/2 強) | 外：回転ヘラケズリ(砂→) 内：ナデ | 5Y5/1 灰 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4143 流路) |
| 322 | 1359 | | 須恵器 | 長頸壺 | 8世紀前半か | 口径 9.8(1/8) | ゆがみ 外：凹線 1 内：板ナデ | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1360 | | 須恵器 | 短頸壺 | 8世紀か | 胴部径 18.0(1/8) | 外：回転ヘラケズリ(砂←)、 自然釉付着 内：自然釉付着 | 2.5Y6/2 灰黄 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1361 | | 須恵器 | 甕 | 8世紀 | 口径 19.2(1/6) | 外：円形浮文 1 残、タタキ後 力キメ 内：口縁端部面、同 心円文状当て具痕 | N6/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1362 | | 須恵器 | 甕 | 8世紀か | 口径 23.8(1/6 弱) | 外：タタキ後ナデ 内：口縁端部面、同心円文状 当て具痕?後ナデ | 7.5YR5/3 にぶい褐 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1363 | 184 | 埴 | | ? | 小片 | 凹：布目痕後同心円文状当て 具痕 凸：タタキ? | 2.5Y8/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 322 | 1364 | 191 | 木製品 | 建築部材 | | 長 6.8 幅 12.8 厚 3.1 | ヒノキ 加工でホソを作る ホソが炭化 | | 12-1 | 4-2 | 3077 流路 (4141 流路) |
| 323 | 1365 | | 須恵器 | 皿 | 9世紀前半か | 口径 15.0(1/6) 器高 1.3 | 外：底面回転ヘラケズリ 内：ナデ | N6/0 灰 | 10-1 | 4-4 | 第4層 |
| 323 | 1366 | | 須恵器 | 杯 H | 7世紀前半 | 口径 9.8(1/4 強) | 外：ヘラ切り? | N8/0 灰白 | 11-1 | 7 | 表採 |
| 323 | 1367 | | 須恵器 | 杯 G | 7世紀中頃か | 口径 9.6(若干のみ) 底径 6.5(2/3) 器高 3.3 | 外：ヘラ切り、粘土のたまり 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 7 | 第3層 |
| 323 | 1368 | 180 | 灰釉陶器 | 壺把手 | 9～10世紀 | 小片 | 外：指押さえナデ、施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第3層 |
| 323 | 1369 | 185 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 小片 | 凹：ヘラケズリ 凸：格子タタキ 七尾瓦窯か | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-1層 |
| 323 | 1370 | 185 | 瓦 | 平瓦 | 古代 | 小片 | 凹：布目痕?後ヘラケズリ 凸：格子タタキ 七尾瓦窯か | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 7 | 第4-2層 |
| 323 | 1371 | 179 | 土師器 | 台付鉢 台部 | 6～7世紀か | 底径 9.2(1/2) | | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 3-7 | 第4層 |
| 323 | 1372 | | 須恵器 | 把手付壺 | 9世紀末か | 胴部径 14.9(1/11) | | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 3-7 | 第2層 |
| 323 | 1373 | 180 | 緑釉陶器 | 蓋? | 9～10世紀 | 小片 | 外：印刻模様、施釉(貫入あり) 内：施釉(貫入あり) | 7.5Y6/2 灰オリーブ | 11-1 | 3-7 | 第3層 |
| 323 | 1374 | 180 | 灰釉陶器 | 皿 | 9世紀後半 | 口径 13.2(1/7) 高台 径 6.4(完) 器高 2.5 | 内外面上半施釉 | 10YR8/1 灰白 | 11-1 | 3-7 | 第3層 |
| 323 | 1375 | 180 | 灰釉陶器 | 皿?底部 | 9世紀後半か | 高台内基部径 6.0(1/7) | 内：施釉 | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 3-7 | 第3層 |
| 323 | 1376 | 186 | 石製品 | 硯 | ? | 長 4.9 幅 3.1 厚 1.2 | 流紋岩 | | 11-1 | 3-7 | 第2層 |
| 323 | 1377 | 180 | 緑釉陶器 | 椀か皿 | 9世紀 | 小片 | 内外面施釉 | 5Y4/1 灰 | 11-1 | 3-2 | 第2層 |
| 323 | 1378 | 180 | 灰釉陶器 | 椀 | 9世紀後半 | 小片 | 内：施釉 | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 3-2 | 第3層 |
| 323 | 1379 | 180 | 灰釉陶器 | 椀? | 9世紀前半か | 底径 8.3(1/4) | 外：施釉、糸切り底 内：施釉 | 7.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 3-2 | 第2層 |
| 323 | 1380 | | 黒色土器 B類 | 小形壺? | 10世紀後半か | 胴部上半径 6.3(1/5) | | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 11-1 | 3-8 | 第4-1層 |
| 323 | 1381 | | 須恵器 | 台付鉢か 椀 | 7世紀か | 口径 10.2(1/6 強) | 外：沈線 1、回転ヘラケズリ 内：ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 3-8 | 第4-1層 |
| 323 | 1382 | | 須恵器 | 壺? | ? | 頸部径 15.0(1/8) | 外：竹管文、凸線? | 2.5Y6/1 黄灰 | 11-1 | 3-8 | 第4-1層 |
| 323 | 1383 | 179 | 須恵器 | 壺? | ? | 小片 | 外：刻字「中」か | N6/0 灰 | 11-1 | 3-8 | 第4-1層 |
| 323 | 1384 | | 土師器 | 甕 | 7世紀か | 口径 17.5(1/6) | 外：ハケ | 7.5YR6/6 橙 | 11-1 | 3-4 | 第4-2層 |
| 323 | 1385 | 180 | 緑釉陶器 | 椀? | 9世紀後半か | 内径 11.0(1/13) | 内外面施釉 | 7.5Y7/2 灰白 | 11-1 | 3-4 | 第3層 |
| 323 | 1386 | | 土師器 | 羽釜 | 10～11世紀 | 口径 21.0(1/11) | 外：スス付着 内：板ナデ、スス付着 | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 12-1 | 3-9 | 第3層 |
| 323 | 1387 | | 土師器 | 椀 C | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径 13.6(1/4) | 外：指押さえナデ 内：板ナデ? | 10YR6/4 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8035 流路及び その下層流路 |
| 323 | 1388 | | 土師器 | 椀 C | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径 14.0(1/4) 器高 3.9 | 外：指押さえナデ 内：ハケ | 10YR6/6 明黄褐 | 11-1 | 8-2 | 8035 流路及び その下層流路 |
| 323 | 1389 | | 土師器 | 椀 C | 8世紀末～ 9世紀初めか | 口径 14.4(2/3) | 外：指押さえナデ 内：板ナデ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 8035 流路及び その下層流路 |
| 323 | 1390 | | 土師器 | 小皿 | 10世紀後半～ 11世紀初めか | 口径 10.6(1/5) | テ字状 外：指押さえナデ 内：指押さえ後ハケ | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8035 流路及び その下層流路 |
| 323 | 1391 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀後半か | 口径 13.6(1/8) 高台 径 6.9(2/3) 器高 4.9 | 外：ヘラミガキ、ナデ 内：口縁端部面、ヘラミガキ | 5YR5/4 にぶい赤褐 | 11-1 | 8-2 | 第3層 |
| 323 | 1392 | | 黒色土器 A類 | 椀 | 10世紀後半か | 口径 15.0(1/4) | 外：ヘラケズリ後ヘラミガキ 内：口縁端部面、ヘラミガキ | 2.5Y7/2 灰黄 | 11-1 | 8-2 | 8035 流路及び その下層流路 |
| 323 | 1393 | 178 | 黒色土器 B類? | 椀 | 10世紀後半か | 口径 14.2～14.6(4/5) 高台径 7.1(完) 器高 5.6～6.1 | ゆがみ 外：ヘラミガキ、ナデ 内：口縁端部面、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 8-2 | 8035 流路 |
| 323 | 1394 | | 黒色土器 A類 | 椀底部 | 10世紀か | 高台径 7.6(1/2) | 外：ナデ?、ナデ 内：ヘラミガキ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 8002 土坑 |
| 323 | 1395 | | 土師器 | 羽釜 | 10世紀後半～ 11世紀初めか | 口径 27.4(1/8) | 外：スス付着 内：ナデ | 10YR5/2 灰黄褐 | 11-1 | 8-1 | 第4-1層 |
| 323 | 1396 | | 土師器 | 製塩土器 | 8世紀か | 小片 | | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 8-1 | 8005 流路 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (44)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|-----------|----------------|-------------------------------------|---|--------------------|----------|------|----------------------|
| 323 | 1397 | | 須恵器 | 杯 B | 8世紀 第2四半期か | 口径15.3(1/11) 高台 径10.3(1/5) 器高4.4 | 内:自然釉付着 | N7/0 灰白 | 11-1 | 8-1 | 8005 流路 |
| 323 | 1398 | 179 | 須恵器 | 壺 G | 8世紀末~ 9世紀初め | 底径4.6(完) | 外:底部貫通孔(割れによ る?)、糸切り底 内:しぼり目? | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 8005 流路 |
| 323 | 1399 | | 須恵器 | 壺底部 | 7~8世紀か | 底径11.2(1/4強) | 外:底部板ナデ? 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 8-1 | 8005 流路 |
| 324 | 1400 | | 土師器 | 杯 C | 7世紀後半か | 口径14.4(1/6) | 外:ヘラケズリ 内:放射状暗文 | 5YR7/4 にぶい橙 | 12-1 | 4-2 | 第4層 |
| 324 | 1401 | | 須恵器 | 高杯 | 7世紀か | 口径13.7(1/3) 脚裾径9.7(1/2) 器高6.7 | 外:回転ヘラケズリ(砂←)、 三角形スカシ3方向 内:ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 第4層 |
| 324 | 1402 | 180 | 緑釉陶器 | 椀 | 9世紀後半か | 小片 | 内外面施釉 | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 4-1 | 側溝掘削中 |
| 324 | 1403 | 180 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 10世紀初めか | 高台基部径6.4(1/4弱) | 外:施釉 内:施釉(濃淡あ り)、重ね焼き痕 | 2.5GY5/1 オリーブ灰 | 11-1 | 4-1 | 第2層 |
| 324 | 1404 | 188 | 石製品 | 砥石 | ? | 長6.2 幅3.5 厚0.8 | 流紋岩質泥岩 砥面3 | | 11-1 | 5-1 | 第3層 |
| 324 | 1405 | | 土師器 | 杯 | 9世紀か | 口径13.4(1/4) | 外:指押さえナデ | 5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 324 | 1406 | | 須恵器 | 甕 | 7世紀前半か | 口径14.0(1/8) | 外:タタキ後カキメ 内:同心円文状当て具痕 | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-3 | 5916 流路 |
| 324 | 1407 | | 土師器 | 椀? | 8世紀後半か | 口径15.4(5/8) | | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1408 | 179 | 須恵器 | 杯H蓋 | 7世紀前半か | 口径11.0(1/4強) 器高3.3 | 外:ヘラ切り 内:ナデ、ヘラ記号「ー」 | N8/0 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1409 | | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半 | 口径9.7(1/3弱) | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「ー」 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1410 | 178 | 須恵器 | 杯H | 7世紀前半か | 口径10.6~10.9(完) 器高3.2 | 外:ヘラ切り 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1411 | 179 | 須恵器 | 杯H | 7世紀中頃か | 口径10.9(1/2弱) | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「ー」 | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1412 | | 須恵器 | 杯G | 7世紀前半~ 中頃 | 口径10.6(1/2) 器高3.7 | ゆがみ ヘラ切り 内:ナデ | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1413 | 179 | 須恵器 | 杯底部 | 7世紀前半か | 底近く5.0(1/4弱) | 外:ヘラ切り、ヘラ記号「ー」 | N6/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5237 土坑 |
| 324 | 1414 | | 須恵器 | 杯B | 8世紀末か | 口径13.8(1/9) 高台径10.0(1/6) | 外:底面ヘラ切り 内:ナデ | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1415 | 178 | 須恵器 | 大型蓋 | 7世紀 | 稜径39.0(1/12) | 内:ヘラナデ、砂粒付着 | 7.5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1416 | | 須恵器 | 高杯 | 7世紀前半~ 中頃か | 脚裾径5.7(ほぼ完) | 外:回転ヘラケズリ(砂←) 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1417 | | 須恵器 | 高杯脚 | 7世紀後半か | 脚裾径7.7(完) | 内:ナデ | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1418 | | 須恵器 | 壺B | 8世紀前半か | 口径9.8(1/4弱) | 外:自然釉付着 | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1419 | | 須恵器 | すり鉢? | 8世紀か | 口径14.6(1/8弱) | 外:凹線2? 内:ナデ | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 324 | 1420 | 180 | 緑釉陶器 | 椀底部 | 9世紀 | 底径9.0(1/7) | 内外面施釉 | 2.5Y8/3 淡黄 | 11-1 | 5-2 | 第3層 |
| 324 | 1421 | 180 | 灰釉陶器 | 段皿 | 9世紀前半 | 内段径8.0(1/9) | 内:施釉 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 第3層 |
| 324 | 1422 | 187 | 石製品 | 硯 | 10~11世紀 | 長10.5 幅10.9 高3.4 | 滑石か 風字硯を真似る | | 11-1 | 5-2 | 第4-2層 |
| 324 | 1423 | 185 | 金属製品 | 刀子? | ? | 長10.8 幅2.1 厚1.5 | 鉄製 | | 11-1 | 5-2 | 第4-1層 |
| 328 | 1424 | 191 | 木製品 | 柱根 | | 長58.0 幅25.4 厚18.5 | ニレ科 底部に加工痕多数 | | 11-1 | 5-2 | 掘立柱建物 17(5075 柱穴) |
| 332 | 1425 | 180 | 瓦質土器 | 井戸枠 | 14~15世紀 か | 底径55.0(1/9) | 外:指押さえ、ナデ、底面砂 粒付着 内:指押さえナデ | N3/0 暗灰 | 11-1 | 5-2 | 5236 井戸 |
| 334 | 1426 | | 土師器 | 皿 | 13~14世紀 か | 口径11.2~11.5(ほぼ 完) 器高1.9 | 外:指押さえナデ、口縁端部 スス付着 内:ナデ、口縁端部スス付着 | 10YR8/2 灰白 | 12-1 | 6-2 | 6055 土坑 |
| 334 | 1427 | 180 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 口径14.4(1/5) | 龍泉窯系 端反口縁 内外面施釉(貫入あり) | 2.5GY7/1 明オリーブ灰 | 11-1 | 7 | 7001 土坑 |
| 334 | 1428 | 180 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀前半 | 高台径7.8(1/4弱) | 龍泉窯系 牡丹唐草文 内外面施釉(高台内面を除く) | 10Y6/2 オリーブ灰 | 12-1 | 4-2 | 4127 土坑 |
| 334 | 1429 | 180 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 小片 | 龍泉窯系 線描蓮弁文 内外面施釉(貫入あり) | 5GY6/1 オリーブ灰 | 11-1 | 5-3 | 5706 土坑 |
| 336 | 1430 | 185 | 金属製品 | 銭貨 | 1039年初鑄 | 径2.4 郭径0.7 厚0.1 重さ2.5g | 皇宋通寶(北宋) | | 11-1 | 3-8 | 3183 ビット |
| 336 | 1431 | 185 | 金属製品 | 銭貨 | 1078年初鑄 | 径2.3 郭径0.6 厚0.1 重さ2.2g | 元豐通寶(北宋) | | 11-1 | 3-8 | 3183 ビット |
| 336 | 1432 | | 石製品 | 根石 | ? | 長24.2 幅16.6 厚11.3 | 花崗岩 礎石転用? | | 11-1 | 5-3 | 5719 ビット |
| 336 | 1433 | | 石製品 | 砥石? | ? | 長11.9 幅11.7 厚4.1 | 流紋岩質凝灰岩 | | 11-1 | 5-3 | 5737 ビット |
| 336 | 1434 | | 土師器 | 小皿 | 14世紀後半か | 口径7.8(5/12) 器高1.2 | 外:指押さえナデ | 10YR8/4 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 5116 ビット |
| 336 | 1435 | 191 | 木製品 | 杭 | | 長21.0 幅5.5 厚5.8 | マツ科 先端部4面加工 | | 11-1 | 5-2 | 5296 ビット |
| 339 | 1436 | 180 | 磁器 | 白磁碗 | 16~17世紀 | 小片 | 朝鮮王朝陶磁 | 7.5GY7/1 明緑灰 | 11-1 | 5-2 | 5059 溝 |
| 339 | 1437 | 180 | 磁器 | 青磁盤 底部 | 15世紀後半 | 高台径11.5(1/12) | 龍泉窯系 内外面施釉(貫入 あり) 高台内露胎 | 5Y4/2 灰オリーブ | 11-1 | 5-2 | 5059 溝 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (45)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|--------------|--------------------------|---|---|------------------|----------|------|----------------------|
| 339 | 1438 | | 土師器 | 小皿 | 15世紀か | 口径 6.9(1/3) | | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1439 | | 瓦質土器 | 羽釜 | 14～15世紀 か | 口径 27.6(1/15) 口径 31.8(1/9) | 外:指押さえナデ、スス付着 内:ハケ | N3/0 暗灰 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1440 | | 瓦質土器 | 羽釜 | 15世紀か | 上端口径 21.2(1/10) | 外:口縁2段残、ヘラケズリ、 スス付着 内:板ナデ? | 2.5Y6/3 にぶい黄 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1441 | | 瓦質土器 | 深鉢 底部 | 16世紀 第3四半期～ 17世紀初め | 小片 | 脚付 外:凸帯1 | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 5-2 | 5059 溝 |
| 339 | 1442 | 180 | 陶器 | 擂鉢 | 14世紀 | 口径 29.0(若干のみ) 底径 15.5(1/9) 器高 11.9 | 備前 外:指押さえナデ、重 ね焼き痕 内:櫛目(10条)、 底面使用による磨耗 | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 5-2 | 5059 溝 |
| 339 | 1443 | 180 | 陶器 | 擂鉢 | 15世紀前半 | 口径 28.2(1/12) | 備前 内:櫛目(9条) | 2.5Y5/1 黄灰 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1444 | 180 | 陶器 | 壺 | 16世紀 | 口径 10.0(1/4) | 備前 外:自然釉付着 | 10YR4/1 褐灰 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1445 | 180 | 陶器 | 甕 | 14世紀 | 小片 | 常滑 外:自然釉付着 | 2.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1446 | 180 | 陶器 | 甕 | 14世紀 | 口径 30.0(1/14) | 常滑 内:指押さえ | 7.5YR7/6 橙 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1447 | 180 | 陶器 | 甕 | 14世紀か | 小片 | 常滑 外:スタンプ、ヘラ記 号「×」、自然釉付着 内:指押さえナデ | 7.5Y5/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 5059 溝 |
| 339 | 1448 | 180 | 陶器 | 甕 | 15世紀 | 頸部内径 19.0(1/4強) | 丹波 外:ナデ残し 内:ナデ、スス付着 | 10YR5/1 褐灰 | 11-1 | 5-2 | 5059 溝 |
| 339 | 1449 | 185 | 瓦 | 軒平瓦 | 15世紀か | 外縁幅 0.6 顎裏面幅 1.8 | 唐草文? 凹:ナデ、スス付 着 凸:ナデ | 2.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 339 | 1450 | 185 | 瓦 | 丸瓦 | 中世 | 側面幅 1.0 凸面狭端縁連結面幅 1.4 玉縁端面幅 1.0 | 凸:縄目タタキ後ナデ 凹:布目痕 | N5/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 5132 溝 |
| 341 | 1451 | | 磁器 | 白磁碗 | 12世紀 | 小片 | V類、華南沿海窯系 内外面施釉(貫入あり) | 5Y7/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5746 落込み |
| 341 | 1452 | | 土師器 | 竈 | ? | 小片 | 脚部 外:ハケ | 10YR5/4 にぶい黄褐 | 11-1 | 5-3 | 5746 落込み |
| 341 | 1453 | | 瓦質土器 | 羽釜 | 16世紀か | 口径 21.6(1/7) | 外:口縁3段、ヘラケズリ、 スス付着 内:ハケ、ナデ | 5Y4/1 灰 | 11-1 | 5-3 | 5746 落込み |
| 341 | 1454 | | 瓦質土器 | 風炉か | 15世紀か | 小片 | 外:凸帯2間花菱文 | 5Y5/1 灰 | 11-1 | 5-3 | 5746 落込み |
| 341 | 1455 | | 木製品 | 漆器椀 | | 高台径 5.8(1/10) | ミズキ 高台部黒漆以外朱漆塗り | | 11-1 | 5-3 | 5746 落込み |
| 341 | 1456 | 191 | 木製品 | 下駄 | | 長 20.6 幅 5.4 高 1.8 | スギ 連歯 前壺1・後壺1 残、中央と後ろに小孔1残、 後ろ裏面に加工痕 | | 11-1 | 5-3 | 5746 落込み |
| 345 | 1457 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 13.6(1/9) | 和泉型Ⅲ-3か 外:指押さえナデ 内:まばらなヘラミガキ | N3/0 暗灰 | 11-1 | 8-1 | 8005 流路 |
| 345 | 1458 | 180 | 瓦器 | 椀 | 13世紀前半 | 口径 14.5(1/3) 高台径 3.7(完) 器高 3.6 | 和泉型Ⅲ-3か 外:指押さ え、ナデ 内:まばらなヘラ ミガキ、見込み平行状暗文 | N3/0 暗灰 | 11-1 | 7 | 8005 流路 (7010 流路) |
| 345 | 1459 | 189 | 石製品 | 砥石 | ? | 長 16.4 幅 7.8 厚 6.1 | 砂岩 砥面7 | | 11-1 | 8-1 | 8005 流路 |
| 345 | 1460 | 185 | 金属製品 | 銭貨 | 907年初鑄 | 径 1.8 × 1.9 郭径 0.5 × 0.6 厚み 0.2 重さ 2.1g | 延喜通寶(平安) | | 11-1 | 8-1 | 8005 流路 |
| 345 | 1461 | 191 | 木製品 | 曲げ物 | | 径 12.8 器高(推定)10.0以上 | ヒノキ 底板なし 釘孔 4 内:切り込み | | 11-1 | 8-2 | 8005 流(8035 流路) |
| 345 | 1462 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 口径 13.7(1/8) | 龍泉窯系 端反 内外面施釉 | 10Y6/2 オリーブ灰 | 11-1 | 5-3 | 5708 流路 |
| 345 | 1463 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 口径 15.4(1/8) | 龍泉窯系 端反 内外面施釉 | 5GY6/1 オリーブ灰 | 11-1 | 5-3 | 5708 流路 |
| 345 | 1464 | 181 | 磁器 | 白磁四耳 壺 底部 | 13世紀 | 高台径 8.2(1/2弱) | 華南沿海窯系 内外面施釉 (内底面のみ貫入あり) | 10Y6/2 オリーブ灰 | 11-1 | 5-3 | 5708 流路 |
| 345 | 1465 | | 土師器 | 小皿 | 14世紀か | 口径 8.2(1/3) | | 2.5Y8/2 灰白 | 11-1 | 5-3 | 5708 流路 |
| 345 | 1466 | 181 | 土師器 | 羽釜 | 15世紀か | 口径 19.0(1/4弱) | 外:ナデ、スス付着 内:ハケ(粗細)、コゲ付着 | 10YR7/3 にぶい黄橙 | 11-1 | 5-3 | 5708 流路 |
| 345 | 1467 | | 土師器 | 羽釜 | 15世紀か | 口径 23.8(1/7) | 外:口縁部3段、ヘラケズリ、 二次焼成による赤色化 内:ハケ | 7.5YR6/2 灰褐 | 11-1 | 5-3 | 5708 流路 |
| 345 | 1468 | 181 | 陶器 | 擂鉢 | 16世紀 第1四半期 | 口径 30.8(1/4) | 備前 外:重ね焼き痕 内:櫛目(9条) | 10R5/2 灰赤 | 11-1 | 5-3 | 5708 流路 |
| 347 | 1469 | 181 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 口径 16.2(1/12) | IV 2類 華南沿海窯系 外面上半・内面施釉 | 7.5Y7/2 灰白 | 11-1 | 6-1 | 第2層 |
| 347 | 1470 | 181 | 磁器 | 青磁皿か | 14世紀か | 口径 16.0(1/8) | 龍泉窯系 内外面施釉(貫入 あり) 内:沈線1 | 5Y6/2 灰オリーブ | 11-1 | 7 | 第2層 |
| 347 | 1471 | 181 | 磁器 | 白磁皿 | 12世紀 | 口径 10.8(1/7) | VI 1a類 景德鎮窯系 内外面施釉(貫入あり) | 7.5Y7/3 浅黄 | 11-1 | 3-5 | 第2層 |
| 347 | 1472 | | 瓦質土器 | 火鉢 | 14～15世紀 | 小片 | 外:凸帯2間花菱文 | 5Y4/1 灰 | 11-1 | 3-5 | 第2層 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (46)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|-----------|------------------|--------------------------------|--|--------------------|----------|------|----------------|
| 347 | 1473 | 181 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 小片 | IV 2類 華南沿海窯系 内外面施釉 | 7.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 3-7 | 第2層 |
| 347 | 1474 | 181 | 磁器 | 青磁鉢 | 13世紀 | 小片 | 龍泉窯系 折縁 蓮弁文 内外面施釉(貫入あり) | 2.5GY6/1 オリーブ灰 | 11-1 | 3-7 | 第2層 |
| 347 | 1475 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀前半 | 小片 | 龍泉窯系 端反 内外面施釉 | 2.5GY7/1 明オリーブ灰 | 11-1 | 3-7 | 第2層 |
| 347 | 1476 | 181 | 磁器 | 青磁盤 | 15世紀後半 | 小片 | 龍泉窯系 内外面施釉(粗い貫入あり) | 10Y5/2 オリーブ灰 | 11-1 | 3-7 | 第2層 |
| 347 | 1477 | 181 | 陶器 | 卸皿底部 | 15世紀 | 底径 8.0(1/4弱) | 瀬戸焼 灰釉 糸切り底 内:底面格子の卸目 | 7.5Y7/2 灰白 | 11-1 | 3-7 | 第2層 |
| 347 | 1478 | | 瓦器 | 椀底部 | 13世紀前半か | 高台径 4.6(1/7) | 外:指押さえナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 11-1 | 3-2 | 第2層 |
| 347 | 1479 | 181 | 磁器 | 白磁皿 底部 | 12世紀 | 底径 4.6(1/3) | V 2類 景德鎮窯系 外:底部近く以外施釉(貫入 あり)、溶着 内:圏線1、施釉(貫入あり) | 7.5Y8/1 灰白 | 11-1 | 3-8 | 第3層 |
| 347 | 1480 | 181 | 磁器 | 白磁皿 底部 | 13世紀前半 | 底径 4.8(1/3強) | VIII 2b類 景德鎮窯系 内:施釉 | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 3-8 | 第3層 |
| 347 | 1481 | 181 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 口径 14.8(1/9) | IV 2類 華南沿海窯系 内外面施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 11-1 | 3-8 | 第2層 |
| 347 | 1482 | 181 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 5.3(1/4弱) | IV類 華南沿海窯系 外面上 方・内面施釉(貫入あり) | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 3-8 | 第3層 |
| 347 | 1483 | 181 | 磁器 | 青磁皿 | 14世紀 | 小片 | 龍泉窯系 内外面施釉(一部貫入あり) | 5Y7/1 灰白 | 11-1 | 3-8 | 第3層 |
| 347 | 1484 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀前半 | 小片 | 龍泉窯系 丸 内外面施釉 | 2.5GY7/2 明オリーブ灰 | 11-1 | 3-8 | 第2層 |
| 347 | 1485 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 小片 | 龍泉窯系 端反 内外面施釉 | 2.5GY8/1 灰白 | 11-1 | 3-8 | 第2層 |
| 347 | 1486 | 185 | 金属製品 | ? | ? | 長 6.4 幅 4.7 | 鉄製? | | 11-1 | 3-8 | 第2層 |
| 347 | 1487 | 181 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 5.8(2/5) | IV 2類 華南沿海窯系 外: ヘラケズリ痕 内:圏線1 | 5Y8/1 灰白 | 11-1 | 3-4 | 第2層 |
| 347 | 1488 | 181 | 磁器 | 白磁碗 底部 | 13世紀 第1四半期 | 高台径 6.8(1/2弱) | IV 2類 華南沿海窯系 外: ヘラケズリ痕、上方施釉 (貫入あり) 内:圏線1、施釉(貫入あり) | 5Y8/2 灰白 | 11-1 | 3-4 | 第2層 |
| 347 | 1489 | 181 | 陶器 | 鉢 | 16世紀 | 小片 | 丹波 外:自然釉付着 | 10YR5/3 にぶい黄褐 | 11-1 | 3-4 | 第2層 |
| 347 | 1490 | 181 | 磁器 | 青磁碗 底部 | 13世紀 第2 ~3四半期 | 高台径 6.2(1/4) | 龍泉窯系 内外面施釉 | 7.5Y6/2 灰オリーブ | 12-1 | 3-9 | 第3層 |
| 347 | 1491 | | 土師器 | 小皿 | 13世紀か | 口径 8.5(1/2) | | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 8-1 | 第3層 |
| 347 | 1492 | 181 | 磁器 | 青磁碗 底部 | 15世紀後半 | 高台径 5.6(完) | 龍泉窯系 無文 内外面施釉(貫入あり) 内:圏線、見込み文様? | 7.5GY6/1 緑灰 | 11-1 | 8-2 | 第2層 |
| 347 | 1493 | 181 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 口径 15.6(1/7) | IV 2類 華南沿海窯系 内外面施釉 | 7.5Y7/1 灰白 | 12-1 | 4-2 | 第3層 |
| 347 | 1494 | | 瓦器 | 椀 | 13世紀後半~ 末 | 口径 11.9(1/4強) | 和泉型IV-2~IV-3 ゆがみ 外:指押さえナデ 内:口縁部以外炭素つかず、 一本のヘラミガキ | N4/0 灰 | 12-1 | 4-2 | 第3層 |
| 347 | 1495 | | 瓦質土器 | 浅鉢 | 16~17世紀 | 口径 10.6(1/4弱) | 外:ヘラナデ?、脚部の接合 部に刻目、脚推定4、スス付 着 内:スス付着 | 10YR4/1 褐灰 | 12-1 | 4-2 | 第1層 |
| 347 | 1496 | | 瓦質土器 | 土管 | ? | 径 15.1~16.0(完) 長 33.0~33.5 | 外:ナデ 内:ナデ、布目痕 | 10YR7/2 にぶい黄橙 | 12-1 | 4-2 | 第1層 |
| 347 | 1497 | 181 | 磁器 | 白磁皿 底部 | 13世紀後半 | 底径 6.2(1/3) | IX 1c類 華南沿海窯系 内外面施釉 内:圏線 | 7.5YR7/1 灰白 | 11-1 | 4-1 | 第2層 |
| 347 | 1498 | 181 | 土師器 | 皿 | 15世紀前半か | 口径 9.8~10.2(5/6) 器高 1.8~2.1 | ゆがみ 外:指押さえ | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 11-1 | 5-1 | 第2層 |
| 347 | 1499 | 181 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 小片 | IV 2類 華南沿海窯系 内外面施釉(外面体部一部に 貫入あり) | 5Y6/2 灰オリーブ | 11-1 | 5-3 | 第2層 |
| 347 | 1500 | 181 | 磁器 | 白磁碗 | 13世紀 第1四半期 | 小片 | IV 2類 華南沿海窯系 内外面施釉 | 2.5GY8/1 灰白 | 11-1 | 5-3 | 第4-1層 |
| 347 | 1501 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 13世紀 第4四半期 | 小片 | 龍泉窯系 蓮弁文 内外面施釉(貫入あり) | 2.5GY7/1 明オリーブ灰 | 11-1 | 5-3 | 第2層 |
| 347 | 1502 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 16世紀 第1四半期 | 小片 | 龍泉窯系 線描蓮弁文 内外面施釉(貫入あり) | 2.5Y5/4 黄褐 | 11-1 | 5-3 | 第2層 |
| 347 | 1503 | 181 | 磁器 | 青磁碗 底部 | 15世紀前半 | 高台径 6.0(3/4) | 龍泉窯系 丸 牡丹文 内外面施釉 | 2.5GY5/1 オリーブ灰 | 11-1 | 5-3 | 第2層 |
| 347 | 1504 | 181 | 磁器 | 青磁碗 底部 | 15世紀後半 | 高台径 6.2(1/4強) | 龍泉窯系 内外面施釉(粗い貫入あり) | 2.5GY7/1 明オリーブ灰 | 11-1 | 5-3 | 第2層 |
| 347 | 1505 | 185 | 金属製品 | ? | ? | 長 2.9 幅 3.4 厚 1.5 | 鉄製 | | 11-1 | 5-3 | 第4-1層 |
| 347 | 1506 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 小片 | 龍泉窯系 端反 キズ? 内外面施釉 | 2.5GY5/1 オリーブ灰 | 11-1 | 5-2 | 第2層 |
| 347 | 1507 | 181 | 磁器 | 青磁碗 | 15世紀後半 | 小片 | 龍泉窯系 端反 内外面施釉 | 7.5Y5/2 灰オリーブ | 11-1 | 5-2 | 第2層 |

明和池遺跡 掲載遺物観察表 (47)

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 図版 番号 | 種別 | 器形 | 時期 | 法量(単位cm) ○/○は残存率 | 調整等 (ヨコナデ、回転ナデは省略) (砂→は、ヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す) | 外面色調 | 調査 年度 | 調査区名 | 報告書の遺構 番号・名 |
|----------|----------|----------|------|------|-------------------|---------------------|---|----------------|----------|------|----------------|
| 347 | 1508 | | 土師器 | 皿 | 15世紀か | 口径 9.0(1/4弱) | | 10YR8/3 浅黄橙 | 11-1 | 5-2 | 第2層 |
| 347 | 1509 | | 瓦器 | 椀 | 12世紀末～ 13世紀初めか | 口径 13.6(1/8) | 大和型 外：ナデ後一部ヘラ ミガキ 内：口縁端部沈線1、 ヘラミガキ | N4/0 灰 | 11-1 | 5-2 | 第2層 |
| 347 | 1510 | | 瓦器 | 椀底部 | 12世紀後半か | 高台内径 3.4(1/2) | 外：底面ヘラ記号？ | N3/0 暗灰 | 11-1 | 5-2 | 第3層 |
| 347 | 1511 | | 瓦質土器 | 羽釜 | 15世紀か | 口径 25.0(1/8) | 外：口縁部3段 内：ハケ(粗細) | 7.5Y5/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第3層 |
| 347 | 1512 | 176 | 土製品 | 鞆の羽口 | ? | 長 2.9 幅 3.8 厚 2.5 | 外：二次焼成による発泡 | 5Y6/1 灰 | 11-1 | 5-2 | 第3層 |
| 347 | 1513 | 185 | 金属製品 | 鋳滓 | ? | 長 3.1 幅 4.6 厚 1.7 | 鉄製 外面気泡あり | | 11-1 | 5-2 | 第3層 |

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------------------|-----------------------------|-------------------|---|-----------------------------|--|---------------------------|
| ふりがな | すいたそうしゃじょういせき じゅう・めいわいけいせき さん | | | | | | | |
| 書名 | 吹田操車場遺跡10・明和池遺跡3 | | | | | | | |
| 副書名 | 北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業 埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第248集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 陣内暢子・後藤信義・鹿野 塁 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 大阪府文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号 TEL 072(299)8791 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2014年7月31日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| すいたそうしゃじょう 吹田操車場 遺跡 | すいたししげたちょう 吹田市芝田町 地内 | 27205 | 65 | 34° 46′ 41″ | 135° 32′ 22″ | 2009.10.1 ～ 2012.3.29 | 11,506 m ² | 北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業 |
| めいわいけ 明和池遺跡 | せつつしせんりおか 摂津市千里丘 7丁目地内 | 27224 | 2 | 34° 46′ 55″ | 135° 32′ 38″ | 2010.6.1 ～ 2012.3.29 | 11,611 m ² | 北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 吹田操車場遺跡 | 生産 | 旧石器 縄文 弥生 古墳 古代 中世 | 掘立柱建物、土坑、ピット、溝、落ち込み、谷、畦畔 | | サヌカイト製石器、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器類、瓦、石製品、木製品 | | 弥生時代以前からの谷 多数の群集土坑 古代の集落 中世の井戸 | |
| 明和池遺跡 | 生産 | 縄文 弥生 古墳 古代 中世 | 竪穴建物、掘立柱建物、土坑、ピット、溝、落ち込み、流路 | | サヌカイト製石器、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、埴輪、墨書土器、墨書人面土器、土馬、陶馬、埴塙、黒色土器、瓦器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器類、国産陶磁器、瓦、石製品、木製品 | | 弥生時代後期の竪穴建物 古墳時代の流路 古代の建物群と流路 中世坪境溝 | |
| 要約 | <p>吹田操車場遺跡では、弥生時代以前からの谷地形を検出し、現在ではわかりえない地形の起伏が明らかとなった。また、谷の周囲において古墳時代の群集土坑を多数検出した。近隣の千里古窯址群に関連した粘土採掘坑の可能性がある。同じ谷の周囲には古代の集落が形成されていたことも明らかとなった。</p> <p>明和池遺跡では、弥生時代～中世の各時期において、山田川の前身となる流路を検出した。その流路の周囲において、弥生時代、古墳時代、古代、中世の各時期の建物を検出し、流路の周囲に営まれた集落の一端を検出した。</p> | | | | | | | |

公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第248集

吹田操車場遺跡 10・明和池遺跡 3

北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業
埋蔵文化財発掘調査報告書

[本文編]

発行年月日 / 2014年7月31日

編集・発行 / 公益財団法人 大阪府文化財センター
大阪府堺市南区竹城台3丁目21番4号

印刷・製本 / 株式会社 中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南2丁目6番8号